独立行政法人国立文化財機構年報

令和４年度

独立行政法人
国立文化財機構

令和４年度

新収品図版　〔東京国立博物館〕

購　　入

重要文化財
小袖染分綸子地小手毬松楓模様

寄　　贈

中国真景図巻

装飾法華経巻第一

重要美術品
紙胎漆塗彩絵華籠

訪問着
「緑の中のくれない」

衣裳人形　泣く子

中細形銅戈

文字絵屏風

行書遊天池詩巻

菩薩立像

袍紺綾地龍文様刺繍

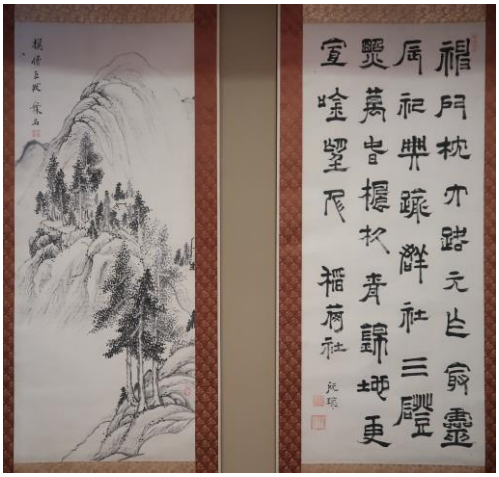
ガラス三連瓶

石貨

令和４年度

新収品図版　〔京都国立博物館〕

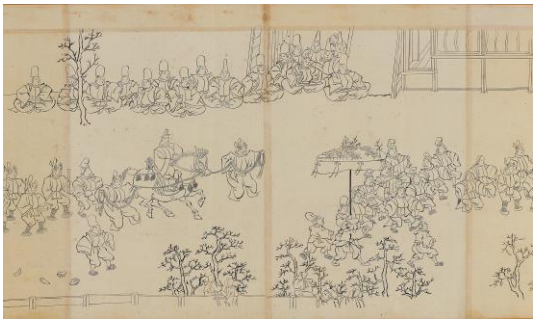
購　　入



京都名所六景図　池大雅筆　１幅

蓬莱花見図蒔絵手箱　１合

黒漆太刀　１揃



年中行事絵巻模本　３巻

寄　　贈

猿声渡水図　１幅

褐釉有蓋壺　１口

木戸孝允書状（四月廿五日付）
１幅

令和４年度

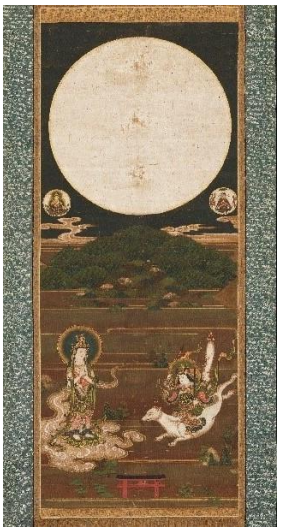
新収品図版　〔奈良国立博物館〕

購　　入

重美　木造普賢菩薩坐像

重美　木造不動明王および二童子立像

木造天部立像



春日吨枳尼天曼荼羅

三品弟子経（中聖武）

白地唐花文氈断片

経帙

綾張竹華籠

六器

金銅火焔宝珠形舎利容器

刺繍阿弥陀三尊来迎図

蓮華文方形軒瓦（伝南滋賀廃寺出土）

寄　　贈

木造菩薩立像

木造阿弥陀如来立像

花氈　模造（文様再現見本）

百万塔（付属　陀羅尼経）

施釉均整唐草文軒平瓦（東大寺出土）

令和４年度

新収品図版　〔九州国立博物館〕

購　　入

宝冠阿弥陀如来像

竹図屏風

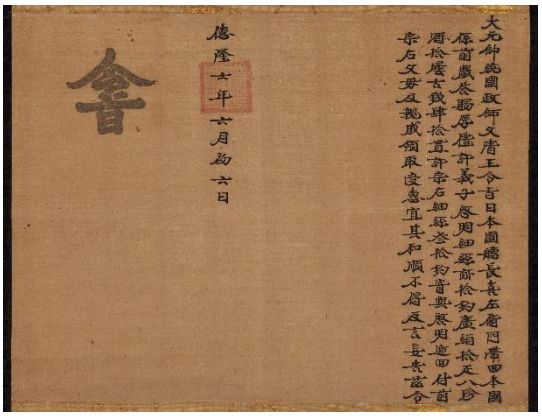
土偶

深鉢形土器

重要文化財
山口県竹島古墳出土品

重要文化財　埴輪　鹿

青磁博山炉

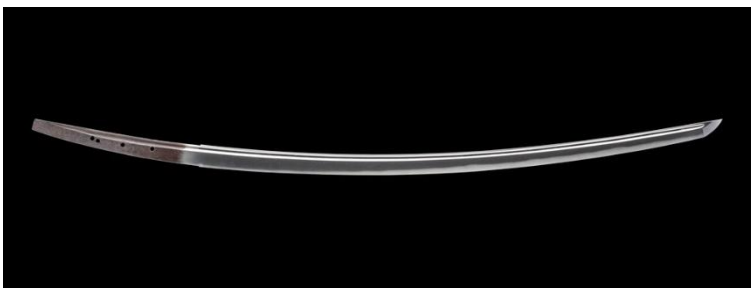


安南国清王鄭楸令旨

寄　　贈

平瓶

雲版



太刀　銘貞綱

令和４年度　年報　目次

令和４年度新収品図版

Ⅰ　令和４年度自己点検評価報告書　評定状況・・・ 1
　令和４年度中止した事業一覧・・・ 11
Ⅱ　令和４年度自己点検評価報告書　個別表・・・ 13
　ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置
　　１．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
　　（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承
　　　①有形文化財の収集等
　　　　1)有形文化財の収集2)寄贈・寄託品の受入れ等・・・ 18
　　　②有形文化財の管理・保存・修理等
　　　　1)有形文化財の管理・・・ 22
　　　　2)有形文化財の保存・・・ 26
　　　　3)有形文化財の修理・・・ 30
　　　　4)文化財修理施設等の運営・・・ 34
　　（２）展覧事業
　　　①平常展
　　　　1)平常展(満足度調査)・・・ 37
　　　　2)平常展(来館者数等)・・・ 38
　　　②特別展等
　　　　1)特別展・・・ 42
　　　③観覧環境の向上等
　　　　1)快適な観覧環境の提供・・・ 63
　　　　2)来館者の満足度調査等の実施､サービスの改善等・・・ 67
　　（３）教育・普及活動
　　　①教育活動の充実等
　　　　1)学習機会の提供・・・ 71
　　　　2)ボランティア活動の支援・・・ 77
　　　　3)大学との連携事業等の実施・・・ 81
　　　　4)国内外の有形文化財の保存･修理に関する人材育成への寄与・・・ 85
　　　　5)博物館支援者増加への取組・・・ 89
　　　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実
　　　　1)有形文化財に関する情報の発信2)資料の収集と公開・・・ 93
　　　　3)広報活動の充実・・・ 97
　　（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究
　　　外部資金を活用した調査研究・・・ 106
　　　①有形文化財の展覧事業･教育普及活動等に関連する調査研究・・・ 107
　　　②その他有形文化財に関連する調査研究・・・ 166
　　　③国内外の博物館等との学術交流等・・・ 180
　　　④調査研究成果の公表・・・ 184
　　（５）国内外の博物館活動への寄与
　　　①国内外の博物館等への有形文化財の貸与・・・ 188
　　　②国内外の博物館等への援助･助言等・・・ 192
　　（６）文化財の積極的な活用による文化財の継承につなげる新たな取組
　　　①文化財に親しむためのコンテンツの開発とモデル事業の推進・・・ 196
　　　②国立博物館の収蔵品の貸与の促進・・・ 197
　　　③文化財情報のデジタル資源化の推進と国内外への情報発信・・・ 198
　　　④文化財保存の質的向上に資するための協力、支援、人材育成・・・ 199
　　２．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施

調査研究の評価軸及び評価指標等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 200
（1） 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
①有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究
1)我が国の美術を中心とする有形文化財等に関する調査研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 206
2)建造物及び伝統的建造物群に関する調査研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 210
3)歴史資料・書跡資料に関する調査研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 211
②無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査及び研究
1)重要無形文化財の保存・活用に関する調査研究等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 212
2)重要無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 213
3)無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 214
③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究
1)史跡・名勝の保存・活用に関する調査研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 215
2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 217
3)重要文化的景観等の保存・活用に関する調査研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 225
4)全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 226
5)水中文化遺産に関する調査研究・・ 229
（2） 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
①文化財の調査手法に関する研究開発の推進
1)デジタル画像の形成方法等の研究開発・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 230
2)埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 231
3)年輪年代学を応用した文化財の科学的分析方法の研究開発・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 232
4)動植物遺存体の分析方法の研究開発・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 233
5)文化財の調査・研究成果を社会・教育実装するためのICTを用いた普及・啓発手法の開発・・・・・・・・ 234
6)物質文化・地質情報等を基とした防災・減災・復興・復旧の歴史的研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 235
②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究
1)文化財の生物劣化の機構解明と環境調和型対策に関する研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 236
2)文化財の保存環境と維持管理に関する調査研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 237
3)文化財の材質・構造・保存状態に関する調査研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 238
4)屋外文化財の保存修復計画に関する調査研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 239
5)文化財の修復技法及び修復材料に関する調査研究
6)伝統材料・製作技法について科学的調査と情報集積・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 240
7)文化財の修復技術に関する調査研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 241
8)考古遺物の保存処理法に関する調査研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 242
9)遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究・・・・・・・・・・・・・・・・・ 243
10)考古遺物を中心とした文化財の材質調査に関する調査研究・・・・・・・・・・・・・・・・・ 244
11)高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 245
（3） 文化遺産保護に関する国際協働
①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進
1)文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 249
2)文化遺産保護に関する研究及び協力事業の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 252
3)文化遺産保護に関する人材育成等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 255
4)海外に所在する日本古美術等の保存に関する協力・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 257
②アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 258
（4） 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用
①文化財情報基盤の整備・充実・・・ 259
②調査研究成果の発信・・・ 265
③展示公開施設の充実・・・ 268
（5） 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
①文化財に関する研修の実施・・・ 270
②文化財に関する協力・助言等・・ 272
③平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 284
④連携大学院教育の推進・・ 289
（6） 文化財防災に関する取組
①地域防災体制の構築・・・ 291
②災害時ガイドライン等の整備・・・ 292
③レスキュー及び収蔵・展示における技術開発・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 293
④文化財防災を促進するための普及啓発・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 294
⑤文化財防災に関係する情報の収集と活用・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 295

【受託研究】・・・ 296

ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置
１．業務改善の取組
（１）組織体制の見直し（２）人件費管理等の適正化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 338
（３）契約・調達方法の適正化（４）共同調達等の取組の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 339
（５）一般管理費等の削減
①　機構内の共通的な事務の一元化による業務の効率化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 340
②　計画的なアウトソーシング③使用資源の減少・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 341
２．業務の電子化・・・ 342
３．予算執行の効率化・・・ 343

ⅲ　財務内容に関する目標を達成するためにとるべき措置
１．自己収入拡大への取組
（１）「新しい生活様式」を踏まえた展覧環境の構築及び新たな自己収入の確保・・・・・・・・・・・・・・ 344
（２）自己収入拡大への取組・・・ 345
（３）外部資金の獲得・・ 346
（４）保有資産の有効利用の推進・・・ 347
２．固定的経費の節減　・・　（p.340～341と同じ）
３．決算情報・セグメント情報の充実等・・・ 353

ⅳ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画
１．予算（中期計画の予算）　２．収支計画　３．資金計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 354

ⅴ　その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置
１．内部統制・・・ 355
２．その他
（１）自己評価・・・ 356
（２）情報セキュリティ対策・・・ 357
３．施設設備に関する計画・・・ 358
４．人事に関する計画
（１）中長期的な人事計画の策定・・・ 359
（２）評価制度の導入・・ 359
（３）能力や適性に応じた採用・人事の実施・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 360
（４）女性の活躍の推進・・ 360
（５）職員のキャリアパス形成のための研修・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 360
（６）働き方改革関連法に応じた取組の実施・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 360

Ⅲ　施設概要・・・ 361

Ⅳ　財務諸表
１．令和４年度財務諸表・・・ 365
２．令和４年度決算報告書・・・ 391
３．令和４年度事業報告書・・・ 393

Ⅴ　評価
１．独立行政法人国立文化財機構の令和４年度における業務の実績に関する評価・・・・・・・・・・・・・・・・・ 429
２．独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会評価
外部評価委員会報告書・・ 484

Ⅵ　日誌
１．法人全体及び７施設共通事項・・・ 507
２．文化財活用センター・・・ 508
３．文化財防災センター・・・ 511
４．東京国立博物館・・・ 512
５．京都国立博物館・・・ 514

６.奈良国立博物館…………………………………………………………………… 516
７.九州国立博物館…………………………………………………………………… 519
８.東京文化財研究所………………………………………………………………… 523
９.奈良文化財研究所………………………………………………………………… 524
10.アジア太平洋無形文化遺産研究センター……………………………………… 526

Ⅶ　運営委員・評議員・外部評価委員名簿及び組織図・役職員名簿
運営委員･評議員･外部評価委員名簿…………………………………………………… 527
独立行政法人国立文化財機構組織図…………………………………………………… 534
独立行政法人国立文化財機構役職員名簿……………………………………………… 541

附属資料　：４年度自己点検評価報告書 統計表

Ⅰ　令和４年度　自己点検評価報告書　評定状況

自己点検評価報告書　評定状況　補足説明

○年度計画の評定及び中期計画の評定について、定性的観点、定量的観点に留意しつつ以下の基準で総合的に評価している。

Ｓ：所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られている
Ａ：所期の目標を上回る成果が得られている
Ｂ：所期の目標を達成している
Ｃ：所期の目標を下回っており、改善を要する
Ｄ：所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた抜本的な改善を要する
※Ｂ評定が標準となる

令和4年度自己点検評価報告書　評定状況

	4年度	4年中期	3年度	3年中期
S評定	1	0	2	0
A評定	50	18	47	34
B評定	238	246	247	233
C評定	0	0	0	0
D評定	0	0	0	0

全事業件数　289

（自己点検評価報告書）事業名	処理番号	施設名	自己評価 年度	自己評価 中期	頁	備考
Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置						
1.有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信						
（1）有形文化財の収集・保管、次代への継承　年度:A評定　中期:B評定 S評定 0 0 / A評定 3 1 / B評定 16 18 / C評定 0 0 事業件数　19						
①有形文化財の収集等			A	B		
1)有形文化財の収集 2)寄贈・寄託品の受入れ等	1111A	東博	A	B	18	
	1111B	京博	A	B	19	
	1111C	奈良博	B	B	20	
	1111D	九博	B	B	21	
②有形文化財の管理・保存・修理等			B	B		
1)有形文化財の管理	1121A	東博	B	B	22	
	1121B	京博	B	B	23	
	1121C	奈良博	B	B	24	
	1121D	九博	B	B	25	
2)有形文化財の保存	1122A	東博	B	B	26	
	1122B	京博	B	B	27	
	1122C	奈良博	B	B	28	
	1122D	九博	B	B	29	
3)有形文化財の修理	1123A	東博	B	B	30	
	1123B	京博	A	A	31	
	1123C	奈良博	B	B	32	
	1123D	九博	B	B	33	
4)文化財修理施設等の運営	1124B	京博	B	B	34	
	1124C	奈良博	B	B	35	
	1124D	九博	B	B	36	
(2)展覧事業　年度:B評定　中期:B評定 S評定 1 0 / A評定 9 0 / B評定 24 17 / C評定 0 0 事業件数　34						
① 平常展			B	B		
1)平常展（満足度調査）	1211ABCD	4館	B	B	37	
2)平常展（来館者数等）	1212A	東博	B	B	38	
	1212B	京博	A	B	39	
	1212C	奈良博	B	B	40	
	1212D	九博	A	B	41	
② 特別展等			B	B		
1)特別展（満足度調査）	1220A	東博	B	B	42	
	1220B	京博	B	B	43	
	1220C	奈良博	B	B	44	
	1220D	九博	B	B	45	
ア　特別展「空也上人と六波羅蜜寺」	1221Aア	東博	A	ー	46	
イ　沖縄復帰50年記念特別展「琉球」	1221Aイ	東博	A	ー	47	
ウ　東京国立博物館創立150年記念特別展「国宝　東京国立博物館のすべて」	1221Aウ	東博	A	ー	48	
エ　日中国交正常化50周年記念特別デジタル展「故宮の世界」	1221Aエ-1	東博	B	ー	49	
エ　特別企画「大安寺の仏像」	1221Aエ-2	東博	B	ー	50	
エ　「150年後の国宝展―ワタシの宝物、ミライの宝物」	1221Aエ-3	東博	S	ー	51	

（自己点検評価報告書） 事業名	処理番号	施設名	自己評価 年度	自己評価 中期	頁	備考
ア 伝教大師1200年大遠忌記念 特別展「最澄と天台宗のすべて」	1221Bｱ	京博	B	ー	52	
イ 特別展「河内長野の霊地 観心寺と金剛寺−真言密教と南朝の遺産−」	1221Bｲ	京博	A	ー	53	
ウ 特別展「京に生きる文化―茶の湯―」	1221Bｳ	京博	B	ー	54	
ア 「大安寺のすべて―天平のみほとけと祈り―」	1221Cｱ	奈良博	B	ー	55	
イ 貞享本當麻曼荼羅修理完成記念　特別展「中将姫と當麻曼荼羅　―祈りが紡ぐ物語―」	1221Cｲ	奈良博	B	ー	56	
ウ 特別展「第74回 正倉院展」	1221Cｳ	奈良博	B	ー	57	
エ 式年造替記念 特別展「春日大社 若宮国宝展―祈りの王朝文化―」	1221Cｴ	奈良博	B	ー	58	
ア 特別展「北斎」	1221Dｱ	九博	A	ー	59	
イ 沖縄復帰50年記念特別展「琉球」	1221Dｲ	九博	B	ー	60	
ウ 特別展「ポンペイ」	1221Dｳ	九博	A	ー	61	
エ 特別展「加耶」	1221Dｴ	九博	B	ー	62	
③観覧環境の向上等			B	B		
1)快適な観覧環境の提供	1231A	東博	B	B	63	
	1231B	京博	B	B	64	
	1231C	奈良博	A	B	65	
	1231D	九博	B	B	66	
2)来館者の満足度調査等の実施、サービスの改善等	1232A	東博	B	B	67	
	1232B	京博	B	B	68	
	1232C	奈良博	B	B	69	
	1232D	九博	B	B	70	
(3) 教育・普及活動　年度:B評定　中期:B評定		S評定	0	0		
		A評定	3	1		
事業件数　30		B評定	27	29		
①教育活動の充実等			B	B		
1)学習機会の提供	1311A1	東博	B	B	71	
	1311A2	東博	A	B	72	
	1311B	京博	A	A	73	
	1311C	奈良博	B	B	74	
	1311D1	九博	B	B	75	
	1311D2	九博	B	B	76	
2)ボランティア活動の支援	1312A	東博	B	B	77	
	1312B	京博	B	B	78	
	1312C	奈良博	B	B	79	
	1312D	九博	B	B	80	
3)大学との連携事業等の実施	1313A	東博	B	B	81	
	1313B	京博	B	B	82	
	1313C	奈良博	B	B	83	
	1313D	九博	B	B	84	
4)国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与	1314A	東博	B	B	85	
	1314B	京博	B	B	86	
	1314C	奈良博	B	B	87	
	1314D	九博	B	B	88	
5)博物館支援者増加への取組	1315A	東博	B	B	89	
	1315B	京博	B	B	90	
	1315C	奈良博	B	B	91	
	1315D	九博	B	B	92	
②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実			B	B		
1)有形文化財に関する情報の発信 2)資料の収集と公開	1321A	東博	B	B	93	
	1321B	京博	B	B	94	
	1321C	奈良博	B	B	95	
	1321D	九博	B	B	96	
3)広報活動の充実	1323H	本部	A	B	97	
	1323A	東博	B	B	98	
	1323B	京博	B	B	100	
	1323C	奈良博	B	B	102	
	1323D	九博	B	B	104	

（自己点検評価報告書） 事業名	処理番号	施設名	自己評価 年度	自己評価 中期	頁	備考
(4) 有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究　年度：B評定　中期：B評定		S評定	0	0		
		A評定	6	7		
		B評定	76	75		
事業件数	82	C評定	0	0		
外部資金を活用した調査研究	1400ABCD	4館	B	B	106	
①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究			B	B		
1)収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究						
ア a.特別調査（「法隆寺献納宝物」（第42次））	1411Aア-1	東博	B	B	107	
ア b.特別調査（「書跡」（第18回））	1411Aア-2	東博	B	B	108	
ア d.特別調査（「絵画」第7回）	1411Aア-5	東博	B	B	109	
ウ 収蔵品等の有形文化財に関する調査研究	1411Aウ	東博	B	B	110	
オ 美術工芸品に用いられた画絹及び染織品の組成にかかる共同研究	1411Aオ	東博	B	B	111	
カ 東洋民族に関する調査研究	1411Aカ	東博	B	B	112	
キ 特集「東京国立博物館の近世仏画―伝統と変奏―」に関連する調査研究	1411Aキ-1	東博	B	B	113	
キ 創立150年記念特集「収蔵品でたどる日本仏像史」に関連する調査研究	1411Aキ-2	東博	B	B	114	
キ 創立150年記念特集「チベット仏教の美術―皇帝も愛した神秘の美―」に関連する調査研究	1411Aキ-3	東博	B	B	115	
キ 創立150年記念特集「東京国立博物館の模写・模造―草創期の展示と研究―」に関連する調査研究	1411Aキ-4	東博	B	B	116	
キ 創立150年記念特集「再発見！大谷探検隊とたどる古代裂の旅」に関連する調査研究	1411Aキ-5	東博	B	B	117	
キ 創立150年記念特集「東京国立博物館のイスラーム陶器」に関連する調査研究	1411Aキ-6	東博	B	B	118	
キ 創立150年記念特集「王羲之と蘭亭序」に関連する調査研究	1411Aキ-7	東博	B	B	119	
キ 創立150年記念特集「コレクションの探求　はにわ展から50年」に関連する調査研究	1411Aキ-8	東博	B	B	120	
ク 館蔵の埴輪等資料に関する調査研究	1411Aク	東博	B	B	121	
ア 近畿地区を中心とする社寺文化財の調査研究	1411Bア	京博	B	A	122	
イ 訓点資料としての典籍に関する調査研究	1411Bイ	京博	B	B	123	
ウ 旧家伝来の工芸品に関する調査研究	1411Bウ	京博	B	B	124	
エ 京都周辺の考古遺物に関する調査研究	1411Bエ	京博	B	B	125	
オ 特集展示・特別企画に関する調査研究	1411Bオ	京博	B	B	126	
カ 日本近代における中国書画の受容に関する調査研究	1411Bカ	京博	B	B	127	
キ 書跡及び絵画の伝来と散逸に関する調査研究	1411Bキ	京博	B	B	128	
ア 復元模写制作に伴う仏教絵画の調査研究	1411Cア	奈良博	B	B	129	
イ 古代・中世の写経と聖教に関する基礎的研究	1411Cイ	奈良博	B	B	130	
ウ 仏教工芸・上代工芸の総合的調査	1411Cウ	奈良博	B	B	131	
エ 寺院出土品の調査研究	1411Cエ	奈良博	B	B	132	
オ 南都の古代・中世の彫刻に関する調査研究	1411Cオ	奈良博	A	A	133	
カ 東京文化財研究所との共同による仏教美術の光学的調査研究	1411Cカ	奈良博	B	B	134	
ア X線CTスキャナ等による文化財の構造や製作技法に関する調査研究	1411Dア	九博	B	B	135	
イ 特集展示「御所の器－公家山科家伝来の古伊万里」に関する調査研究	1411Dイ	九博	A	A	136	
ウ 水中遺跡の保存活用に関する調査研究	1411Dウ	九博	B	B	137	
2)特別展等の開催に伴う調査研究						
ア 特別展「空也上人と六波羅蜜寺」に関連する調査研究	1412Aア-1	東博	B	B	138	
ア 沖縄復帰50年記念特別展「琉球」に関連する調査研究	1412Aア-2	東博	B	B	139	
ア 日中国交正常化50周年記念　特別デジタル展「故宮の世界」に関連する調査研究	1412Aア-3	東博	B	B	140	
ア 東京国立博物館創立150年記念 特別展「国宝　東京国立博物館のすべて」に関連する調査研究	1412Aア-4	東博	B	B	141	
ア 特別企画「大安寺の仏像」に関する調査研究	1412Aア-5	東博	B	B	142	
ア 特別展「東福寺」に関連する調査研究	1412Aア-6	東博	B	B	143	
ア 浄瑠璃寺九体阿弥陀修理完成記念　特別展「京都・南山城の仏像」に関する調査研究	1412Aア-7	東博	B	B	144	
ア 特別展「やまと絵―受け継がれる王朝の美―」に関する調査研究	1412Aア-8	東博	B	B	145	
ア 特別展「河内長野の霊地　観心寺と金剛寺－真言密教と南朝の遺産－」に関する調査研究	1412Bア	京博	A	A	146	
イ 特別展「京に生きる文化－茶の湯－」に関する調査研究	1412Bイ	京博	B	B	147	
ウ 特別展「親鸞　生涯と名宝」に関する調査研究	1412Bウ	京博	B	B	148	
エ 特別展「東福寺」に関する調査研究	1412Bエ	京博	B	B	149	
ア 特別展「中将姫と當麻曼荼羅」に関する調査研究	1412Cア	奈良博	B	B	150	
イ 「第74回正倉院展」に関する調査研究	1412Cイ	奈良博	B	B	151	
ウ 特別展「春日大社 若宮国宝展」に関する調査研究	1412Cウ	奈良博	B	B	152	
ア 特別展「加耶」に関連する調査研究	1412Dア	九博	B	B	153	
3)文化財を活用した効果的な展示や、教育活動等に関する調査研究						
ア レプリカやVR等先端技術を使った、文化財の活用についての調査・研究	1413Hア	活用センター	B	B	154	
ア 博物館環境デザインに関する調査研究	1413Aア	東博	B	B	155	

（自己点検評価報告書）事業名	処理番号	施設名	自己評価 年度	自己評価 中期	頁	備考
イ 博物館教育に関する調査研究	1413Aイ	東博	B	B	156	
ウ 凸版印刷及び文化財活用センターと共同で実施するミュージアムシアターにおけるコンテンツの開発に関する調査研究	1413Aウ	東博	B	B	157	
エ ICTを利用した博物館見学ガイドの開発に関する調査研究	1413Aエ	東博	B	B	158	
オ レプリカやVR等先端技術を使った、文化財の活用についての調査・研究	1413Aオ	東博	B	B	159	
カ 博物館広報・国際交流活動に関する調査研究	1413Aカ	東博	B	B	160	
ア 博物館教育及びボランティアに関する調査研究	1413Bア	京博	A	B	161	
ア 歴史、伝統文化の教育普及に資するための調査研究	1413Cア	奈良博	B	B	162	
イ わくわくびじゅつギャラリー「はっけん！ほとけさまのかたち」における教育普及プログラムの実践	1413Cイ	奈良博	A	A	163	
ア 特別展のテーマに則した解説パネル・冊子・ワークショップ等、観覧者の理解促進のための教育普及プログラムに関する調査研究	1413Dア	九博	B	B	164	
イ 文化交流展示室における障がい者向け展示解説プログラムに関する調査研究	1413Dイ	九博	B	B	165	
②その他有形文化財に関連する調査研究			B	B		
1)有形文化財の保存環境・保存修復並びに科学技術を活用した分析等に関する調査研究						
ア 博物館の環境保存に関する調査研究	1421Aア	東博	A	A	166	
ア 修復文化財に関する資料収集及び調査研究	1421Bア	京博	B	B	167	
イ 文化財の製作・技法等に関わる材質構造調査・研究	1421Bイ	京博	B	B	168	
ウ 社寺等における保存環境に関する調査研究	1421Bウ	京博	B	B	169	
ア 収蔵庫・展示室・ケース内部等における環境が文化財に与える影響等に関する調査研究	1421Cア	奈良博	B	B	170	
イ 文化財修理の観点からの収蔵品・寄託品等の調査研究	1421Cイ	奈良博	B	B	171	
ウ 保存科学の観点からの収蔵品・寄託品等の調査研究	1421Cウ	奈良博	B	B	172	
ア 文化財の材質・構造等に関する共同研究	1421Dア	九博	B	B	173	
イ 博物館における国内・アジア地域の文化財保存修復に関する研究	1421Dイ	九博	B	B	174	
ウ 博物館危機管理としての持続的IPMシステムの研究	1421Dウ	九博	B	B	175	
エ 展示収蔵環境の空気質に関する調査研究	1421Dエ	九博	B	B	176	
2)博物館情報、文化財情報に関する調査研究						
ア 博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	1422Aア	東博	B	B	177	
イ 創立150年へ向けた館史編纂のための基礎的な資料整理と調査研究	1422Aイ	東博	B	B	178	
ア データベースやアーカイブズ等、収蔵品等情報の整理・活用に関する調査研究	1422Bア	京博	B	B	179	
③国内外の博物館等との学術交流等			B	B		
	1430A	東博	B	B	180	
	1430B	京博	B	B	181	
	1430C	奈良博	B	B	182	
	1430D	九博	B	B	183	
④調査研究成果の公表			B	B		
	1440A	東博	B	B	184	
	1440B	京博	B	A	185	
	1440C	奈良博	B	B	186	
	1440D	九博	B	B	187	
(5) 国内外の博物館活動への寄与　年度：B評定　中期：B評定		S評定	0	0		
		A評定	1	1		
事業件数	**8**	B評定	7	7		
①国内外の博物館等への有形文化財の貸与			B	B		
	1510A	東博	B	B	188	
	1510B	京博	B	B	189	
	1510C	奈良博	B	B	190	
	1510D	九博	A	A	191	
②国内外の博物館等への援助・助言等			B	B		
	1520A	東博	B	B	192	
	1520B	京博	B	B	193	
	1520C	奈良博	B	B	194	
	1520D	九博	B	B	195	
(6) 文化財の積極的な活用による文化財の継承につなげる新たな取組　年度：B評定　中期：B評定		S評定	0	0		
		A評定	1	0		
事業件数	**4**	B評定	3	4		
①文化財に親しむためのコンテンツの開発とモデル事業の推進	1610H	活用センター	A	B	196	
②国立博物館の収蔵品の貸与の促進	1620H	活用センター	B	B	197	
③文化財情報のデジタル資源化の推進と国内外への情報発信	1630H	活用センター	B	B	198	

（自己点検評価報告書）事業名	処理番号	施設名	自己評価 年度	自己評価 中期	頁	備考
④文化財保存の質的向上に資するための協力、支援、人材育成	1640H	活用ｾﾝﾀｰ	B	B	199	
2. 文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施						
(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　年度:B評定　中期:B評定		A評定	7	3		
事業件数　24		B評定	17	21		
① 有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究			B	B		
1)我が国の美術を中心とする有形文化財等に関する調査研究						
文化財に関する調査研究成果及び研究情報の共有に関する総合的研究	2111Eｱ	東文研	B	B	206	
日本東洋美術史の資料学的研究	2111Eｲ	東文研	B	B	207	
近・現代美術に関する調査研究と資料集成	2111Eｳ	東文研	A	B	208	
美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開	2111Eｴ	東文研	A	B	209	
2)建造物及び伝統的建造物群に関する調査研究						
歴史的建造物及び伝統的建造物群の保存・修復・活用の実践的研究	2112F	奈文研	B	B	210	
3)歴史資料・書跡資料に関する調査研究						
近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究	2113F	奈文研	B	B	211	
② 無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査研究			A	B		
1)重要無形文化財等の保存・活用に資する調査研究等						
重要無形文化財の保存・活用に資する調査研究等及び無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化	2121E	東文研	A	B	212	
2)重要無形民俗文化財等の保存・活用に資する調査研究等						
無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究等	2122E	東文研	A	B	213	
3)無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集等						
無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集等	2123E	東文研	B	B	214	
③ 記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究			B	B		
1)史跡・名勝の保存・活用に資する調査研究						
我が国の記念物に関する調査・研究(遺跡等整備)	2131Fｱ	奈文研	B	B	215	
我が国の記念物に関する調査・研究(庭園)	2131Fｲ	奈文研	B	B	216	
2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究						
特別史跡平城宮跡の発掘調査(第648・652次)	2132Fｱ-1	奈文研	B	B	217	
西大寺弥勒金堂の発掘調査(第655次)	2132Fｱ-2	奈文研	A	A	218	
藤原宮大極殿院地区の発掘調査	2132Fｱ-3	奈文研	A	A	219	
飛鳥地域等の発掘調査	2132Fｱ-4	奈文研	B	B	220	
平城宮・京跡出土遺物・遺構の調査・研究	2132Fｲ-1	奈文研	A	A	221	
飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	2132Fｲ-2	奈文研	B	B	222	
東アジアにおける工芸技術及び飛鳥時代の建築遺物等の研究	2132Fｳ	奈文研	B	B	223	
中国・韓国との共同研究	2132Fｴ	奈文研	B	B	224	
3)重要文化的景観等の保存・活用に資する調査研究						
文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	2133F	奈文研	B	B	225	
4)全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究						
全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究	2134Fｱ	奈文研	B	B	226	
古代官衙・集落遺跡に関する研究集会の開催及び報告書刊行	2134Fｲ-1	奈文研	B	B	227	
古代瓦に関する研究集会の開催及び報告書刊行	2134Fｲ-2	奈文研	B	B	228	
5)水中文化遺産に関する調査研究						
水中文化遺産に関する調査研究	2135F	奈文研	B	B	229	
(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　年度:B評定　中期:B評定		A評定	7	1		
事業件数　19		B評定	12	18		
①文化財の調査手法に関する研究開発の推進			B	B		
1)デジタル画像の形成方法等の研究開発						
文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究	2211E	東文研	A	B	230	
2)埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発						
埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発	2212F	奈文研	B	B	231	
3)年輪年代学を応用した文化財の科学的分析方法の研究開発						
年輪年代学研究	2213F	奈文研	B	B	232	
4)動植物遺存体の分析方法の研究開発						
動植物遺存体の分析方法の研究開発	2214F	奈文研	B	B	233	
5)文化財の調査・研究成果を社会・教育実装するためのICTを用いた普及・啓発手法の開発						
文化財の調査・研究成果を社会・教育実装するためのICTを用いた普及・啓発手法の開発	2215F	奈文研	B	B	234	
6)物質文化・地質情報等を基とした防災・減災・復興・復旧の歴史的研究						
物質文化・地質情報等を基とした防災・減災・復興・復旧の歴史的研究	2216F	奈文研	B	B	235	

（自己点検評価報告書） 事業名	処理番号	施設名	自己評価 年度	自己評価 中期	頁	備考
②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究			B	B		
1）文化財の生物劣化の機構解明と環境調和型対策に関する研究						
文化財生物劣化の分子生物学的手法による機構解明と環境調和型対策	2221E	東文研	A	B	236	
2）文化財の保存環境と維持管理に関する調査研究						
文化財の保存環境にかかる調査研究	2222E	東文研	B	B	237	
3）文化財の材質・構造・保存状態に関する研究						
文化財の材質・構造・状態調査に関する研究	2223E	東文研	A	B	238	
4）屋外文化財の保存修復計画に関する調査研究						
屋外文化財の保存修復計画に関する調査研究	2224E	東文研	B	B	239	
5）文化財の修復のための技法と材料に関する調査研究、6）伝統材料・製作技法について科学的調査と情報集積						
文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究	2225E	東文研	A	B	240	
7）文化財の修復技術に関する調査研究						
多様な文化財の修復技術に関する研究	2227E	東文研	B	B	241	
8）考古遺物の保存処理法に関する調査研究						
考古遺物の保存処理法に関する調査研究	2228F	奈文研	B	B	242	
9）遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究						
遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究	2229F	奈文研	A	A	243	
10)考古遺物を中心とした文化財の材質調査に関する調査研究						
考古遺物を中心とした文化財の材質調査に関する調査研究	2230F	奈文研	A	B	244	
11）高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究						
高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究	2231E	東文研	B	B	245	
高松塚古墳の壁画等の調査及び保存・活用に関する技術的な協力	2231Fア-1	奈文研	B	B	246	
キトラ古墳の壁画等の調査及び保存・活用に関する技術的な協力	2231Fア-2	奈文研	B	B	247	
遺跡現地における壁画の安定した保存と公開活用を行うための劣化状態調査、適切な石室内の熱水分環境に関する検討	2231Fイウ	奈文研	A	B	248	
(3) 文化遺産保護に関する国際協働　　年度:A評定　中期:B評定		**A評定**	2	0		
事業件数　10		**B評定**	8	10		
①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進			B	B		
1)文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信						
文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	2311Eア	東文研	B	B	249	
文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信（ユネスコ等）	2311Fア	奈文研	B	B	250	
文化遺産に関する研究交流（イギリス等）	2311Fイ	奈文研	B	B	251	
2)文化遺産保護に関する研究及び協力事業の推進						
アジア諸国等文化遺産保存修復協力	2312Eアイ	東文研	A	B	252	
文化遺産の保存修復技術に係る国際的研究	2312Eウ	東文研	B	B	253	
アジア地域等の文化遺産に関する調査研究及び保護協力事業	2312Fア-ア	奈文研	B	B	254	
3)文化遺産保護に関する人材育成等						
国際研修	2313Eア	東文研	B	B	255	
ユネスコアジア文化センター(ACCU)等が行う研修への協力	2313Fイ	奈文研	B	B	256	
4)海外に所在する日本古美術品等の保存に関する協力						
在外日本古美術品保存修復協力事業	2314E	東文研	B	B	257	
②アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究			A	B		
アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究	2320G	IRCI	A	B	258	
(4)　文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　　年度:B評定　中期:B評定		**A評定**	3	1		
事業件数　10		**B評定**	7	9		
①　文化財情報基盤の整備・充実 **1）国内外の文化財情報の文化財保護への活用、研究成果の効果的な発信及び研究の実施に資するデータベースの構築運用** **2）文化財情報のデジタルアーカイブに関する実践研究** **3)調査研究及び文化財防災に役立つデータベースの充実並びにアーカイブ機能の更新及び拡張** **4）文化財に関係する図書、雑誌等の収集、整理、公開、提供の充実**			A	B		
文化財情報基盤の整備・充実	2411E	東文研	B	B	259	
文化財に関するデータベースの充実	2411F	奈文研	A	A	260	
文化財情報のデジタルアーカイブに関する実践研究	2412F	奈文研	A	A	262	
専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充	2413E	東文研	A	B	263	
図書の収集・整理・公開・提供	2414F	奈文研	B	B	264	
②　調査研究成果の発信 **1）定期刊行物の刊行** **2）公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等** **3）ウェブサイトの充実**			B	B		
定期刊行物の刊行	2421E	東文研	B	B	265	
定期刊行物の刊行、公開講演会・現地説明会等の開催、ウェブサイトの充実	2421F	奈文研	B	B	266	

（自己点検評価報告書）事業名	処理番号	施設名	自己評価 年度	自己評価 中期	頁	備考
オープンレクチャー(調査･研究成果の公開)	2422E	東文研	B	B	267	
③ 展示公開施設の充実			B	B		
1)特別展･企画展						
平城宮跡資料館･飛鳥資料館･藤原宮跡資料室における展示公開	2431F	奈文研	B	B	268	
2)平城宮跡解説ボランティア研修						
平城宮跡解説ボランティアの研修内容の充実及び運用改善	2432F	奈文研	B	B	269	
(5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等　年度:B評定　中期:B評定		A評定	3	2		
事業件数 21		B評定	18	19		
①文化財に関する研修の実施 1)文化財の担当者研修、博物館･美術館等の保存担当学芸員研修の実施 2)研修体系の整理及び研修受講生及び派遣元自治体へのアンケート調査			B	B		
博物館･美術館等保存担当学芸員研修	2511E	東文研	B	B	270	
文化財担当者研修	2512F	奈文研	B	B	271	
②文化財に関する協力･助言等			B	B		
1)地方公共団体等への文化財及びその保存･活用に関する協力･助言･専門的知識の提供等						
文化財の収集、保管に関する指導助言	2521E-1	東文研	B	B	272	
無形文化遺産に関する助言	2521E-2	東文研	B	B	273	
文化財の虫菌害に関する調査･助言	2521E-3	東文研	A	B	274	
文化財の修復及び整備に関する調査･助言	2521E-4	東文研	B	B	275	
文化財の材質･構造に関する調査･助言	2521E-5	東文研	B	B	276	
美術館･博物館等の環境調査と援助･助言	2521E-6	東文研	B	B	277	
地方公共団体等が行う平城地区の発掘調査等への援助･助言	2521F-1	奈文研	B	B	278	
地方公共団体が行う飛鳥･藤原地区の発掘調査への指導･助言	2521F-2	奈文研	B	B	279	
地方公共団体等が行う文化財及びその保存･活用に関する技術的助言	2521F-3	奈文研	B	B	280	
2)他機関等との共同研究及び受託研究						
他機関等との共同研究及び受託研究	2522E	東文研	B	B	281	
他機関等との共同研究及び受託研究	2522F	奈文研	B	B	282	
3)地震･水害等により被災した地域の復旧･復興事業に伴う、地方公共団体等が行う文化財保護事業への支援･協力						
地震･水害等により被災した文化財の復旧に関する地方公共団体等が行う文化財保護事業への支援･協力	2523F	奈文研	B	B	283	
③平城宮跡、飛鳥･藤原宮跡等の公開･活用事業への協力			B	B		
1)文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥･藤原宮跡等の公開･活用事業への協力						
文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥･藤原宮跡の整備･管理等への協力	2531F-1	奈文研	B	B	284	
国土交通省が行う平城宮跡第一次大極殿院を中心とする復原･整備･活用等への協力	2531F-2	奈文研	B	B	285	
国土交通省が行う平城宮いざない館での公開･活用事業への協力	2531F-3	奈文研	A	A	286	
文化庁が行うキトラ古墳壁画保存管理施設の管理･運営と古墳壁画の公開事業への協力	2531F-4	奈文研	A	A	287	
2)NPO法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動への協力						
NPO法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動への協力	2532F	奈文研	B	B	288	
④連携大学院教育の推進			B	B		
1)東京藝術大学、京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育等の推進						
東京藝術大学との間での連携大学院教育の推進	2541E	東文研	B	B	289	
京都大学･奈良女子大学との間での連携大学院教育の推進及び奈良大学への教育協力	2541F	奈文研	B	B	290	
(6) 文化財防災に関する取組　年度:B評定　中期:B評定		S評定	0	0		
		A評定	2	1		
事業件数 5		B評定	3	4		
①地域防災体制の構築						
文化財保存活用大綱の分析	2610	防災	A	B	291	
②災害時ガイドライン等の整備						
ガイドライン策定のための課題の整理	2620	防災	B	B	292	
③レスキュー及び収蔵･展示における技術開発						
リスク研究会の運営と文化財リスク研究	2630	防災	B	B	293	
④文化財防災を促進するための普及啓発						
講演会等開催事業	2640	防災	A	A	294	
⑤文化財防災に関係する情報の収集と活用						
文化財防災に関係する情報の収集と活用	2650	防災	B	B	295	

（自己点検評価報告書） 事業名	処理番号	施設名	自己評価 年度	自己評価 中期	頁	備考
Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置		A評定	0	0		
事業件数　6		B評定	6	6		
1.業務改善の取組　年度:B評定　中期:B評定						
(1) 組織体制の見直し	6110	本部	B	B	338	
(2) 人件費管理の適正化						
(3) 契約・調達方法の適正化	6120	法人全体	B	B	339	
(4) 共同調達等の取組の推進						
(5) 一般管理費等の削減						
①機構内の共通的な事務の一元化による業務の効率化	6151	本部	B	B	340	
②計画的なアウトソーシング	6152	法人全体	B	B	341	
③使用資源の減少						
2.業務の電子化　年度:B評定　中期:B評定						
業務の電子化	6200	本部	B	B	342	
3.予算執行の効率化　年度:B評定　中期:B評定						
予算執行の効率化	6300	本部	B	B	343	
Ⅲ　財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置		A評定	3	0		
事業件数　17		B評定	14	17		
1.自己収入拡大への取組　年度:A評定　中期:B評定						
(1)「新しい生活様式」を踏まえた展覧環境の構築及び新たな自己収入の確保	7110	法人全体	A	B	344	
(2)自己収入拡大への取組	7120	法人全体	A	B	345	
(3)外部資金の獲得	7130	法人全体	A	B	346	
(4) 保有資産の有効利用の促進	7140A	東博	B	B	347	
	7140B	京博	B	B	348	
	7140C	奈良博	B	B	349	
	7140D	九博	B	B	350	
	7140E	東文研	B	B	351	
	7140F	奈文研	B	B	352	
2.固定的経費の節減　年度:B評定　中期:B評定						
(Ⅱ　1.（5）　と同じ)						
3.決算情報・セグメント情報の充実等　年度:B評定　中期:B評定						
決算情報・セグメント情報の充実等	7300	本部	B	B	353	
Ⅳ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画						
1.予算、2.収支計画及、3.資金計画　年度:B評定　中期:B評定						
予算、収支計画、資金計画	8000	本部	B	B	354	
Ⅴ　その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置						
1.内部統制　年度:B評定　中期:B評定						
内部統制	9100	本部	B	B	355	
2.その他　年度:B評定　中期:B評定						
(1) 自己評価	9210	本部	B	B	356	
(2) 情報セキュリティ対策	9220	本部	B	B	357	
3.施設設備に関する計画　年度:B評定　中期:B評定						
施設設備に関する計画	9300	本部	B	B	358	
4.人事に関する計画　年度:B評定　中期:B評定						
(1) 中長期的な人事計画の策定	9410	本部	B	B	359	
(2) 評価制度の導入						
(3) 能力や適性に応じた採用・人事の実施						
(4) 女性の活躍の推進	9420	本部	B	B	360	
(5) 職員のキャリアパス形成のための研修						
(6) 働き方改革関連法に応じた取組の実施						

自己点検評価報告書における評定の補足説明

〇各事業（丸囲み数字）の評価を以下のとおり点数化し、小項目（両かっこ数字）ごとに平均値をとり（小数点第一位を四捨五入）、その数値を小項目の評価とする。

以降、同様の手順で、中項目（1.、2.）、大項目（Ⅰ～Ⅴ）の評価を算出し、法人全体の自己評価とする。

〇評価と数値の対応は次のとおり。（小数点第一位を四捨五入）

S＝5点、A＝4点、B＝3点（標準）、C＝2点、D＝1点

（例1）Aが3つ、Bが2つの場合

（4点×3＋3点×2）÷5＝　3.6　≒　4　→評価　A

（例2）Aが2つ、Bが3つの場合

（様式１）令和4年度　中止した事業一覧

処理番号	施設名	年度計画の記号	事業の名称	今後の予定
1411Aｱ-3	東京国立博物館	Ⅰ-(4)-①-1)-ア	特別調査「工芸」（第13回）	実施予定時期未定
1411Aｱ-4	東京国立博物館	Ⅰ-(4)-①-1)-ア	特別調査「彫刻」（第11回）	実施予定時期未定
1411Aｱ-6	東京国立博物館	Ⅰ-(4)-①-1)-ア	特別調査「考古」（第1回）	5年度に延期
1411Aｲ	東京国立博物館	Ⅰ-(4)-①-1)-イ	関東地域の社寺所蔵文化財に関する調査研究	実施予定時期未定
1411Aｴ	東京国立博物館	Ⅰ-(4)-①-1)-エ	仏教美術等の光学的手法による共同研究	実施予定時期未定

Ⅱ　令和４年度　自己点検評価報告書　個別表

自己点検評価報告書「書式Ａ（事業系)」　様式補足説明

○【定量的評価】

目標値は、中期計画・年度計画で目標値を定めた項目のみ記載している。

○【定量的評価】

評価は、以下の評定区分を使用している。

Ｓ：達成率 120%以上かつ質的に顕著な成果
Ａ：達成率 120%以上
Ｂ：達成率 100%以上 120%未満
Ｃ：達成率 80%以上 100%未満
Ｄ：達成率 80%未満
※Ｂ評価が標準となる

○【年度計画に対する総合評価】及び【中期計画に対する総合評価】

評価は、以下の評定区分を使用している。

Ｓ：所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られている
Ａ：所期の目標を上回る成果が得られている
Ｂ：所期の目標を達成している
Ｃ：所期の目標を下回っており、改善を要する
Ｄ：所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた抜本的な改善を要する
※Ｂ評定が標準となる

○【判定根拠、課題と対応】

「判定根拠」は記載を必須とし、「課題と対応」は必要に応じて適宜記載している。

自己点検評価報告書「書式Ａ（特別展）」　様式補足説明

○【定量的評価】、【年度計画に対する総合評価】、【判定根拠、課題と対応】
「書式Ａ（事業系）」と同様

○【成果】
各項目については次のような観点・論点を踏まえて記載している。

企画構成・展示作品
・企画構成（コンセプト、展示配列・組合せ等）の意図について
・展示品の概要（質、分野、初出品、規模等）について
・企画構成や展示方法の独創性や新規性、工夫について
・地域連携（巡回・地方の文化財や文化の紹介）や国際交流等の側面について
・時機、社会的関心、話題性等の観点について

学術的意義
・学問的重要度の高さについて
・新知見や新たな観点の提供、新発見の紹介等について
・図録での論文・解説等について（内容が充実している、本数が多い等）
・今後の研究への発展性や新規寄託の獲得等について
※研究の詳しい内容は「書式Ｂ（博物館研究系プロジェクト）」で記載

教育普及
・来館者の興味を喚起する取組や理解を助ける取組（解説の工夫・パネル設置・リーフレット作成・ハンズオン等）の実施について
・講演会、シンポジウム、ギャラリートーク等の開催について
・教育的イベント（子供向け等）の実施について

その他（運営・広報・サービス等）
・動線の工夫や待ち列対応等の混雑対策について
・関連する平常展示の実施について
・音声ガイドについて
・広報活動の展開（交通広告・ネット・SNS）について
・特別内覧会等の関連事業の実施について
・関連映像上映について

自己点検評価報告書「書式Ｂ（博物館研究系プロジェクト）」　様式補足説明

○【年度計画に対する総合的評価】の評定及び【中期計画の実施状況の確認】の評定について、定性的観点、定量的観点に留意しつつ以下の基準で総合的に評価している。

Ｓ：所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られている
Ａ：所期の目標を上回る成果が得られている
Ｂ：所期の目標を達成している
Ｃ：所期の目標を下回っており、改善を要する
Ｄ：所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた抜本的な改善を要する
※Ｂ評定が標準となる

自己点検評価報告書「書式Ｃ」　様式補足説明

１　「年度計画評価」＞「定性評価」について

下記の５つの観点から、当該研究プロジェクト等に応じた観点を４つ以上選択の上記載し、それぞれ評定（Ｓ～Ｄ）を付している。

【観点の考え方】

・適時性：需要・必要性、公共性、国際性、緊急性、公開性
・独創性：オリジナリティ、発想・着想、新規性、卓越性
・発展性：応用性・汎用性、影響性、多様性
・効率性：時間、人員、設備等
・継続性：期間、質・内容、量、基礎性

【観点の判定基準】

Ｓ：所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られている
Ａ：所期の目標を上回る成果が得られている
Ｂ：所期の目標を達成している（標準）
Ｃ：所期の目標を下回っており、改善を要する
Ｄ：所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた抜本的な改善を要する

２　「年度計画評価」＞「定量評価」について

当該事業の実績データのうち、中期目標・計画上の評価指標となっているものは、「実績値」として以下の基準で定量評価を行っている。なお、その他の実績データについては、「参考値」として掲載している（定量評価対象とはしていない）。

（評価指標の対象となるもの：文化財に関するデータベースの公開件数、定期刊行物等の刊行件数、公開施設における特別展・企画展の開催件数　等）

Ｓ：達成率 120％以上かつ質的に顕著な成果
Ａ：達成率 120％以上
Ｂ：達成率 100％以上 120％未満（標準）
Ｃ：達成率 80％以上 100％未満
Ｄ：達成率 80％未満

３　「年度計画評価」＞「評定理由」について

定性評価の判定理由を記述している。また、定量評価がある場合は、その判定状況を併せて記述している。

４　「年度計画評価」について

２の定性評価及び３の定量評価の各観点の評定（Ｓ～Ｄ）を下記にて数値化（５～１点）し、平均値を四捨五入して評定を算出している。

Ｓ＝５点、Ａ＝４点、Ｂ＝３点（標準）、Ｃ＝２点、Ｄ＝１点
（例１）Ａが３つ、Ｂが２つの場合
（４点×３＋３点×２）÷５＝　３．６　≒　４　→評価　Ａ
（例２）Ａが２つ、Ｂが３つの場合
（４点×２＋３点×３）÷５＝　３．４≒　３　→評価　Ｂ

５　「中期計画評価」について

１の【観点の判定基準】と同様の基準で評価している。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1111A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　①有形文化財の収集等 1)有形文化財の収集 2)寄贈・寄託品の受入れ等

【年度計画】
・Ⅰ-1-(1)-①-1)（東京国立博物館）ア
・Ⅰ-1-(1)-①-2)（４館共通）ア

担当部課	学芸研究部列品管理課	事業責任者	課長　沖松健次郎

【実績・成果】
（東京国立博物館）ア
・購入件数1件、内訳：染織1件、決算額：80,000千円
・4年度は「重要文化財　小袖染分綸子地小手毬松楓模様」を購入した。当館には本品と同時期のいわゆる「慶長小袖」と称される江戸時代前期の地無小袖の完品が2例所蔵されるが、いずれも「慶長小袖」の典型例とされる紅・黒紅・白の複雑な抽象模様の染分ではなく、紅色の入っていない作例である。典型例は、本品以外には日本国内に2例（松坂屋コレクション、文化庁、いずれも重要文化財）しかなく、完全な小袖形として伝存する3例のうちの1例を加えられた意義は大きい。

【購入】小袖染分綸子地小手毬松楓模様

（４館共通）ア
新規寄贈品件数136件
内訳　絵画1件、書跡3件、漆工2件、染織111件、考古1件、東洋絵画1件、東洋書跡7件、東洋彫刻2件、東洋陶磁2件、東洋染織2件、東洋考古1件、東洋民族3件
・寄贈品のうち、染織分野において、重要無形文化財保持者（人間国宝）の平田郷陽氏作の人形を計58件、東京における友禅染の資料を計47件当館の所蔵品として受け入れた。

【寄贈】木彫人形 宴の花

新規寄託品件数42件
・寄託品は新規に42件受け入れた。
・返却25件のうち、9件（内訳　絵画1件、書跡2件、漆工1件、考古1件、東洋書跡3件、東洋染織1件）は寄贈品として受理した。

【補足事項】
・4年度に購入、新規寄贈、新規寄託した作品については、5年度に新収品展にて公開する予定である。

【評価指標】項目	4年度実績	目標値	評定		30	元	2	3
所蔵品件数	120,812件	－	－	経年変化	119,064	119,871	119,942	120,073
うち国宝	89件	－	－		89	89	89	89
うち重要文化財	649件	－	－		644	646	648	648
収集件数	741件	－	－		1,606	807	71	131
うち購入件数	1件	－	－		31	11	1	8
うち寄贈件数	136件	－	－		72	28	52	81
うち編入件数	604件	－	－		1,503	768	18	42
寄託品数	2,668件	－	－		3,130	2,591	2,651	2,651
うち新規寄託品件数	42件	－	－		45	29	69	30
文化財購入費	88,000千円	－	－		146,840	279,200	200,000	570,000

【年度計画に対する総合評価】
評定：A

【判定根拠、課題と対応】
4年度において購入は1点のみではあったが、国内に3例しかない、小袖としての形態を完全にとどめるいわゆる「慶長小袖」の典型例のうちの1件を当館所蔵品とすることができた。
寄贈については、3年度に比べて多くの件数の寄贈を受け入れることができた。特に染織分野においては、今まで1件も所蔵が無かった重要無形文化財保持者（人間国宝）の平田郷陽氏の作品を計58件、東京における友禅染の歴史をたどる上で貴重な作例47件の寄贈を受け入れることができ、4年度において当館のコレクションの充実が大きく図られたとともに、今後の展示活用においても非常に大きな成果であったと考えられる。
よって、当初の計画を大きく上回る成果を上げることができたといえ、A評価が妥当であると考えられる。

【中期計画記載事項】
1)体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各博物館の収集方針に沿って、調査研究及び情報収集の成果、並びに外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。
（東京国立博物館）
日本を中心として広くアジア諸地域等にわたる美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。
2)収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、積極的に活用する。
また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかけ、積極的に活用する。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
中期計画の2年目として、着実に各分野で情報を広く収集し、展示活用が大いに見込まれる作品を受け入れることができた。
特に寄贈については、各分野の収集方針に基づいて3年度よりも多くの作品を受け入れることができた。
以上の実績から、中期計画を順調に遂行できているといえる。5年度以降も文化財の更なる収集に努めていきたい。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1111B

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（1）有形文化財の収集・保管、次代への継承　①有形文化財の収集等 1)有形文化財の収集　2)寄贈・寄託品の受入れ等

【年度計画】
・Ⅰ-(1)-①-1)（京都国立博物館）ア
・Ⅰ-(1)-①-2)（4館共通）ア

担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長　羽田聡

【実績・成果】
Ⅰ-(1)-①-1)（京都国立博物館）ア
・購入件数 8件　内訳：絵画2件、金工1件、漆工5件　　決算額　74,000,000円
・4年度は、「年中行事絵巻模本」、「京都名所六景図（稲荷山図）　池大雅筆」、「黒漆太刀」、「野馬丸紋散箔絵螺鈿書箪笥」、「蓬莱花見図蒔絵手箱」、「田植蒔絵香盆」、「桜花卍文蒔絵螺鈿平棗」を購入した。
Ⅰ-(1)-①-2)（4館共通）ア
・寄贈　新規寄贈品件数 239件　内訳：絵画121件、書跡108件、金工3件、陶磁1件、漆工3件、染織1件、歴史資料2件
・寄託　新規寄託品件数　74件　内訳：絵画35件、書跡1件、彫刻2件、金工7件、陶磁12件、漆工16件、考古1件

【補足事項】
Ⅰ-(1)-①-1)（京都国立博物館）ア
（購入）

黒漆太刀

京都名所六景図（稲荷山図）　池大雅筆

【評価指標】項目	4年度実績	目標値	評定		30	元	2	3
所蔵品件数	8,526件	－	－	経年変化	8,075	8,130	8,150	8,279
うち国宝	29件	－	－		29	29	29	29
うち重要文化財	200件	－	－		196	200	200	200
収集件数	247件	－	－		98	55	20	129
うち購入件数	8件	－	－		12	24	9	12
うち寄贈件数	239件	－	－		86	31	11	117
うち編入件数	0件	－	－		0	0	0	0
寄託品件数	6,587件	－	－		6,434	6,520	6,547	6,562
うち新規寄託品件数	74件	－	－		232	149	43	95
文化財購入費	74,000千円	－	－		106,340	383,800	41,716	299,953

【年度計画に対する総合評価】
評定：A

【判定根拠、課題と対応】
入館者数がコロナ禍以前の水準に戻っていないことに加え、光熱水費の高騰などの影響も受け厳しい財政的状況の下、日本を代表する文人画家である池大雅の筆による京都の景観図や、南蛮漆器など日本と海外との交流を示す作品など、館にとって大変意義のある作品を収集方針に沿って効率的に購入、収集することができたため、Aと評価する。

【中期計画記載事項】
1)体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各博物館の収集方針に沿って、調査研究及び情報収集の成果、並びに外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。
（京都国立博物館）
京都文化を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。
2)収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、積極的に活用する。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかけ、積極的に活用する。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
コロナ禍の影響により、文化財購入に多額の予算を配分しづらい状況が続いているが、多数の寄贈品、少ない予算の有効的活用を通して、良質な収蔵品を順調に収蔵できているため、Bと評価する。
今後も、様々な手段を講じて、研究ならびに展示に寄与するところの大きい文化財の収集に努める。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1111C

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（1）有形文化財の収集・保管、次代への継承　①有形文化財の収集等 1)有形文化財の収集　2)寄贈・寄託品の受入れ等

【年度計画】
・Ⅰ-1-(1)-①-1)（奈良国立博物館）ア
・Ⅰ-1-(1)-①-2)（4館共通）ア

担当部課	学芸部	事業責任者	学芸部長　吉澤　悟

【実績・成果】
（奈良国立博物館）
ア　以下12件の文化財を購入した。
・彫刻　3件 木造普賢菩薩坐像　1軀、木造不動明王および二童子立像　3軀、木造天部立像　1軀
・絵画　1件 春日吒枳尼天曼荼羅　1幅
・書跡　1件 三品弟子経（中聖武）　1巻
・工芸　6件 六器　1口、金銅火焔宝珠形舎利容器　1基、綾張竹華籠　1枚、白地唐花文氈断片　1枚、経帙　1枚、刺繍阿弥陀三尊来迎図　1幅
・考古　1件 蓮華文方形軒瓦（伝南滋賀廃寺出土）　1点
（4館共通）
ア　寄贈を受けた文化財は以下の5件である。
・彫刻　2件：木造菩薩立像　1軀、木造阿弥陀如来立像　1軀
・工芸　2件：百万塔（付属　陀羅尼経）　1基（付属1巻）、花氈　模造（文様再現見本）　4枚
・考古　1件：施釉均整唐草文軒平瓦　1点
寄託を受け入れたのは以下の4件である。
・彫刻　4件：重要美術品　木心乾漆造釈迦如来坐像　1軀（東慶寺）、木造如来立像　1軀（個人）、重要文化財　木造十一面観音立像　1軀（霊山寺）、重要文化財　木造毘沙門天立像　1軀（東光院）

【補足事項】
・中期計画に則り、国民の共有財産に相応しい仏教美術作品及び奈良にゆかりのある作品を収集した。特に4年度は彫刻・絵画・書跡・工芸・考古の全部門に渡りバランス良く作品を収集することができた。中でも、かつて奈良県吉野櫻本坊に安置されていたことが古写真から判明した木造普賢菩薩坐像、木造不動明王及び二童子立像、木造天部立像の購入は、当館の研究を大きく前進させ、展示での活用が期待されるものである。この他、南都絵所の作と推測され、春日信仰と吒枳尼天が融合した珍しい図様をもつ春日吒枳尼天曼荼羅、遺存状態の良好な神護寺伝来とされる経帙、完存する三品弟子経などは稀少性が高く、館蔵品を一層充実させることができた。
・彫刻部門で寄贈を受けた木造菩薩立像は、明治時代の興福寺廃寺・再興の後に北円堂から寺外に出たもので、「興福寺千体仏」と呼ばれる仏像群の1軀である。平安時代作という作品の評価に加え、伝来の経緯も考えた時、文化財の保存や継承の役割を伝える上でも大きな意義がある。当館では寄託品の千体仏や写真資料のデータが蓄積されており、本品も含んだ体系的な研究が期待される。工芸部門で寄贈を受けた花氈模造は、正倉院宝物の部分的模造であり、例年正倉院展を開催している当館において、様々な形で展示・研究への活用が期待される。

木造菩薩立像
（寄贈）

【定量的評価】項目	4年度実績	目標値	評定	経年変化	30	元	2	3
収蔵品件数	1,947件	－	－		1,908	1,911	1,929	1,930
うち国宝	13件	－	－		13	13	13	13
うち重要文化財	114件	－	－		113	114	114	114
収集件数	17件	－	－		15	3	18	1
うち購入件数	12件	－	－		6	3	10	0
うち寄贈件数	5件	－	－		9	0	8	0
うち編入件数	0件	－	－		0	0	0	1
寄託品件数	1,937件	－	－		1,974	1,974	1,988	1,956
うち新規寄託品件数	4件	－	－		18	8	26	7
文化財購入費（千円）	190,500千円	－	－		101,564	100,440	284,500	0

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
仏教美術作品や、奈良にゆかりのある重要な作品を、各分野にわたってバランス良く、数多く収集することができた。寄贈・寄託においては、いずれの部門も当館での展示への活用が期待される文化財を受け入れることが出来たため、計画を着実に遂行できた。

【中期計画記載事項】
体系的・通史的にバランスのとれた所蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各博物館の収集方針に沿って、調査研究及び情報収集の成果、並びに外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。
（奈良国立博物館）
仏教美術及び奈良を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
4年度は、仏教美術及び奈良に関わりのある美術品、考古資料、歴史資料を多数購入し、寄贈、寄託についても重要な作品を受け入れることができた。研究の積み重ねを経て購入に至った作品もあり、当館の研究や展示と有機的に結びついた作品収集が実施できている。寄贈・寄託においては、当館の柱である仏教美術作品、考古資料、さらに正倉院に関連する作品の受け入れを行い、管理する収蔵品を充実させることができ、計画を着実に実行できている。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1111D

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（1）有形文化財の収集・保管、次代への継承　①有形文化財の収集等 1)有形文化財の収集　2)寄贈・寄託品の受入れ等

【年度計画】
・Ⅰ-1-(1)-①-1)（九州国立博物館）　ア
・Ⅰ-1-(1)-①-2)（４館共通）ア

担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	課長　白井克也

【実績・成果】
（九州国立博物館）
ア　35件を購入した。(内訳：絵画2件、陶磁2件、考古28件、歴史資料3件)
　絵画分野では、南宋時代の正統的な作風を持つ稀少な「宝冠阿弥陀如来像」を購入したほか、歴史資料分野では、近年注目を集める安南国（ベトナム）に関わる新出の文書「安南国清王鄭枻令旨」を収集した。いずれも学術的な価値が高く、後者については今後、重要文化財指定の可能性も考えられるなど、当館がテーマとして掲げる文化交流を語るうえで重要な作例である。陶磁分野では、九州を代表する窯の一つである高取焼の茶入及び茶碗を購入し、地元福岡ゆかりの陶磁の優品を収集した。
（4館共通）
ア　56件の新規寄贈、77件の新規寄託、1件の編入があった。
（寄贈の内訳：金工1件、刀剣31件、考古10件、染織14件）
　金工分野で寄贈を受けた南北朝時代・正平24年（1369）の銘をもつ雲版は、在銘作品の中では2番目に古く、中世にさかのぼる貴重な優品である。刀剣分野では、平安時代・12世紀の太刀4口を含む刀剣31件の大型寄贈を受けた。古伯耆・古備前など、当館が収蔵していなかった制作地のものも含まれ、刀剣コレクションの一層の充実を図ることができた。
・寄託の内訳：書跡2件、刀剣1件、陶磁51件、考古23件
　書跡分野では、3年度開催の特別展「最澄と天台宗のすべて」に出陳した広島・西福院の「宝篋印陀羅尼経」(重要文化財）を受託した。平安後期から鎌倉初期に書写された最古級の重要な作例である。陶磁分野では、肥前有田で生産された最上質の染付磁器を中心とするコレクション49件を受託した。陶磁史上の観点から、当館が収蔵する古伊万里作品を補完する作品群として貴重である。
・編入の内訳：歴史資料1件

（購入）宝冠阿弥陀如来像

【補足事項】
　4年度に収蔵、受託した作品については、その一部を5年度内に当館での特別展のほか、文化交流展における寄贈者顕彰室及び新収品展において公開する予定である。

【定量的評価】項目	4年度実績	目標値	評定		30	元	2	3
収蔵品件数	1,581件	－	－	経年変化	1,164	1,279	1,412	1,489
うち国宝	4件	－	－		4	4	4	4
うち重要文化財	46件	－	－		41	42	44	44
収集件数	92件	－	－		286	115	133	77
うち購入件数	35件	－	－		105	49	49	21
うち寄贈件数	56件	－	－		181	66	84	56
うち編入件数	1件	－	－		0	0	0	0
寄託品件数	1,400件	－	－		931	1,300	1,309	1,344
うち新規寄託品件数	77件	－	－		7	432	50	40
文化財購入費	487,406千円	－	－		907,943	461,396	584,156	231,117

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
　文化交流を基軸とした収蔵品、寄贈品、寄託品を分野のバランスよく受け入れた。質量ともに優れた作品を収蔵することができ、当館のコレクションの充実に寄与した。以上の成果に基づき、左記の評定とした。

【中期計画記載事項】
1)体系的・通史的にバランスのとれた所蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各博物館の収集方針に沿って、調査研究及び情報収集の成果並びに外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。
（九州国立博物館）
　日本とアジア諸地域等との文化交流を中心とした、美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。
2)収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、積極的に活用する。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかけ、積極的に活用する。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
　中期計画に基づき、日本とアジア諸地域等との文化交流を視覚的に示す作品を収集の基軸とし、収集活動を継続的に行った。寄贈・寄託については、収蔵品の不足を補うものを中心に、慎重かつ丁寧な事前調査・検討を行った上で受贈した。4年度に収蔵・受託した作品は当館で積極的に活用できるものばかりで、「安南国清王鄭枻令旨」や「宝冠阿弥陀如来像」はコレクションの核となるものである。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1121A

中項目	１．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　②有形文化財の管理・保存・修理等 1)有形文化財の管理

【年度計画】
・Ⅰ-1-(1)-②-1)（4館共通）ア、イ、ウ（東京国立博物館）ア～キ

担当部課	学芸企画部博物館情報課 学芸研究部列品管理課	事業責任者	課長　村田良二 課長　沖松健次郎

【実績・成果】
（4館共通）
ア　新規収蔵庫の棚、セキュリティ等の詳細を確認し、収蔵庫運用ルールを定めたうえで運用を開始した。また、新規収蔵庫の空調及び扉の初期不良と、本館収蔵庫の収納棚、資料館収蔵庫並びに法隆寺宝物館の扉の劣化に伴い、改善、補修を行った。
イ　4年度は491件の寄託品について所在確認作業を行い、収蔵場所の確認・更新を行った。
ウ　収蔵品等に関し、新規にデジタル撮影した画像は、画像管理システムに随時登録し、データ整備を推進した。あわせて、既存基本情報の修正更新をも進め、一層のデータ整備を図った。
（東京国立博物館）
ア　未整理・未登録であった建築8件を収蔵庫の移転作業等により、列品として編入を行った。
「嚢形玉」(K-25973) について調査し、附属品の特定を行った。
九州国立博物館に長期管理換されていた作品の返却に伴い、10件の収蔵品について情報調査を行った。
浮世絵画帖に貼り込まれた36点と、松方浮世絵コレクションのうち820点の作品情報を更新し、文化財情報システムに登録した。
イ　古写真・ガラス乾板・館史資料等の旧資料部関係品を整理し、列品として編入活用・公開するための作業を継続して行った。4年度は編入したものはなかったが、収蔵庫の移転作業により館史資料に相当するものもいくつか見つかり、今後の編入に向けた準備を進めた。
ウ　「protoDB：列品管理プロトタイプデータベース」（学芸業務支援システム）における展示案機能を拡張し、2ヶ月以内に展示が予定されている作品の抽出を可能とした。これにより、「ColBase」や「トーハクなび」において、展示中の作品画像をできる限り提供できるようになった。
エ　2年度から3年度にかけての収蔵品等の移転作業にともない、継続して行っている列品および伝来未詳品調査のさらなる効率化をはかるため、美術品台帳検索システムに画像のページ送り機能を追加した。
オ　収蔵する和古書・漢籍について、11,055カットのデジタル撮影を行った。
カ　4×5フィルム55件のデジタル化（うち44件は新規フィルム）を実施し、画像管理システムに登録した。
キ　本館から文化財管理棟への移動にともない変更となった収蔵品等の所在情報について、「列品管理プロトタイプデータベース」及び「収蔵品データ管理システム」の情報を更新した。また、継続して行っている列品等調査によって、伝来未詳品のうち8件を列品の一部と確認した。

嚢形玉

本館屋根瓦

【補足事項】

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 4年度は伝来未詳品として登録されてきたものの、調査の結果本館屋根瓦と特定した瓦8件について、列品に編入することができた。そのほか収蔵庫の設備の充実のための作業、収蔵品の確認作業を実施し、順調に成果をあげることもできた。 データ整備については、新型コロナウイルスの影響により、撮影予算の削減と撮影単価の高騰となり、業務縮小を余儀なくされた。そのため、収蔵資料等のデジタル化件数は目標を下回ったが、protoDBの機能拡張を図るなど、利便性の向上に努めることができた。 以上によりＢ評価が妥当であると判断した。

【中期計画記載事項】
国民共有の貴重な財産である文化財を永く次代へ伝えるため、収蔵品等の管理を徹底し、特に収蔵品等の増加に伴い収蔵に必要な施設設備の充実、改善を図る。また、収蔵品等の現状を確認の上、（中略）展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画の2年目として、文化財に適した環境とするため各収蔵庫の改善や、寄贈品・収蔵品・未登録品の確認・整理を引き続き行うことができた。 また、protoDBの機能拡張により、画像データの登録から公開までの作業が円滑となり、収蔵品に関する情報整備が進んだ。和古書等のデジタル撮影については、前中期目標期間の実績に届かなかったものの、外部からの利用申請には全て応えることができている。 以上により、中期計画を順調に遂行できていると判断した。5年度以降も中期計画に沿って施設設備の充実・改善を行うことや、収蔵品の確認作業、情報整備を継続して行っていく。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1121B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　②有形文化財の管理・保存・修理等 1)有形文化財の管理

【年度計画】
・Ⅰ-1-(1)-②-1)（４館共通）ア、イ、ウ、(京都国立博物館）ア、イ

担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長　羽田聡

【実績・成果】
（４館共通）
ア　収蔵庫前室にピクチャーレールを敷設し、収蔵庫環境を改善した。
イ　６月と 12 月に実施する寄託品の継続手続きに伴い、寄託品の所在確認を行った。
ウ　6,645 件（カット）収蔵品及び展覧会展示作品等の新規デジタル撮影を行った。撮影したデータのうち、４年度は 10.836 件収蔵品管理システムへ登録し、画像資料の充実を図った。
（京都国立博物館）
ア　収蔵品写真等、既存フィルムを 3,326 件、デジタル化した。
イ・旧収蔵品管理システムの課題と改善点をふまえ、当該システムをリニューアルした。
　・CMS（ウェブサイト更新に利用するシステム）へ活用可能な、HTML の自動作成機能を収蔵品管理システムに実装した。

【補足事項】
（４館共通）
ウ・展覧会出品作品の撮影は、特別展「特別展　河内長野の霊地 観心寺と金剛寺―真言密教と南朝の遺産―」(7月30日～9月11日)、特別展「特別展　京（みやこ）に生きる文化　茶の湯」(10月8日～12月4日)、特別展「親鸞聖人生誕850年　特別展　親鸞　生涯と名宝」(3月25日～5月21日)、特別展「東福寺」(令和5年10月7日～12月3日）を対象として進めた。
　・特集展示「新発見！蕪村の「奥の細道図巻」」などのため、作品の撮影を行った。
　・収蔵品の撮影を行い、写真資料の充実を図った。
　・大徳寺龍光院の所蔵品調査を通して写真撮影を行い、画像データの蓄積に努めた。(処理番号1411Bア)

婚礼衣裳　金通地日本名所文様友禅染繍振袖打掛

（京都国立博物館）
ア・当館職員によるフィルムのスキャニング、外部委託によるデジタル化を積極的に進め、館蔵品データベースの充実を図った。
イ・旧システムは、画像や展示計画の登録、管理に関する機能を改修によって加えており、細かな不具合が頻発していた。新システムは、旧システムで追加した機能だけではなく、題箋登録、管理の機能を導入時から実装することで、現状の業務に寄り添ったシステムにリニューアルした。

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 作品の保管環境を整備するとともに、寄託者との信頼関係継続に資するため、寄託品の所在確認を実施した。 また、収蔵品情報蓄積の基盤となる管理システムについて、旧システムの運用を通して明らかになった課題を踏まえ、改善・リニューアルができたためＢと評定する。具体的には、これまで、展示ごとに作品の解説が変わる運用に対して、システムには解説を複数登録できない課題があったが、題箋情報を登録、管理する機能を実装することで解決した。これによって、展示計画の作成業務の効率向上が見込まれるだけでなく、作品に対してより多くの情報を蓄積可能になった。

【中期計画記載事項】
国民共有の貴重な財産である文化財を永く次代へ伝えるため、収蔵品の管理を徹底し、特に収蔵品の増加に伴い収蔵に必要な施設設備の充実、改善を図る。また、収蔵品の 現状を確認の上、管理に必要なデータ（画像データ、テキストデータ等）を整備して、展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画の2年目として、収蔵品情報の蓄積や更新等、業務の基盤となるシステムを改善・リニューアルでき、中期計画通り業務を順調に遂行できている。5年度以降は、当該システムをさらに充実・改良するべく取り組む予定である。

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　1121C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　②有形文化財の管理・保存・修理等 1)有形文化財の管理

【年度計画】
・Ⅰ-1-(1)-②-1)（４館共通）ア、イ、ウ
（奈良国立博物館）ア、イ、ウ

担当部課	学芸部	事業責任者	学芸部長　吉澤　悟

【実績・成果】
（４館共通）
ア　収蔵庫の適切な温湿度維持のため空調設備メンテナンス計画に基づき機器の更新に着手した。
イ　寄託者情報の更新や預証書の更新に伴い、寄託品の所在確認を行った。
ウ　収蔵品等の新規デジタル撮影を実施した（画像件数：2,067件）。収蔵庫の適切な温湿度維持のため空調設備メンテナンス計画に基づき機器の更新を行った。
（奈良国立博物館）
ア　収蔵品データベースについて、新規追加や既存情報の修正などを行い、情報の充実を図った。
イ　画像データベースの個別データを2,305件、追加登録した。
ウ　収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を3,012件、実施した。

【補足事項】
・写真情報システムの利便性を向上するため、文字種・文字数の制限解除など一部機能を改善した。
・写真情報システム画像利用タブ内の書式を、館内組織の実態に沿うように修正し、使いやすさ向上と効率化を図った。

「部門番号」欄に入力できる文字種の制限を解除

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 収蔵品情報の整備を継続して実施し、特に館蔵品情報の大幅な追加・修正を行うことができた。 画像データの蓄積（新規撮影＋フィルムデジタル化）と登録は、例年並みの件数であり、着実に実施できた。データの登録先である写真情報システムは、補足事項に記したほかにも若干の改修を実施し、使いやすさが向上した。

【中期計画記載事項】
国民共有の貴重な財産である文化財を永く次代へ伝えるため、収蔵品の管理を徹底し、特に収蔵品の増加に伴い収蔵に必要な施設設備の充実、改善を図る。また、収蔵品の現状を確認の上、管理に必要なデータ（画像データ、テキストデータ等）を整備して、展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 収蔵品データベースで公開されている情報を改めて見直し、適切なものに適宜、修正を行い、また公開情報を多数追加した。 新規撮影やフィルムデジタル化を通じて、収蔵品の管理に必要な画像データ整備は着実に実行できている。画像データは、展示や調査研究の業務にも活用できており、中期計画に向けて順調に推移している。一方、データの登録先である情報システムが、当初の構築から年数を経ており、現在のデジタル環境からすると物足りない部分もあるため、将来像を見据えつつ改修を計画していく必要がある。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　1121D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　②有形文化財の管理・保存・修理等 1)有形文化財の管理

【年度計画】
・Ⅰ-1-(1)-②-1)（４館共通）ア、イ、ウ、(九州国立博物館）ア、イ

担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	課長　白井克也

【実績・成果】
（４館共通）
ア　収蔵施設設備の充実、改善に向けた検討
・収蔵施設設備に関して、収蔵庫内の扉の点検を実施した。閉扉が困難な扉及び開閉時に電気鍵のエラーが出る頻度の高い扉は、施工業者に依頼し、調整作業を行った。また、収蔵庫内空調機器の点検を実施した。
・蛍光管の将来の生産終了を見越し、一部の収蔵庫の照明をLED照明に変更した。
・収蔵庫のセキュリティの向上を図るため、監視カメラの機器点検及び防犯設備点検を実施した。
・収蔵庫内の火災を防ぐため、防火設備及び消防設備点検を行った。
・収蔵庫内の保管スペース確保及び作品の適切な管理を行うため、収蔵棚を増設し庫内の作品の整理・移動作業を行った。
イ　寄託品の所在確認作業
・寄託品566件の所在確認作業を行い、収蔵場所の情報を更新した。
ウ　専任撮影技師による4,361件（カット）の収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データを整備した。
（九州国立博物館）
ア　文化財情報システムの運用を継続し、488件の文化財データを新規登録し、8,301件を更新した。
イ　文化財情報を管理する業務システムを点検し、入力規則のチェック機能の強化、画面表示や出力帳票の最適化等の改善を実施した。修理履歴データベースにおいては、修理文化財の一覧表を年度単位で出力する機能を実装し、修理報告書の作成作業を効率化した。

【補足事項】

LED 照明に変更した収蔵庫の様子

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 年度計画どおり、収蔵庫の点検を実施し、収蔵庫内の扉や照明などに対し、必要に応じた整備や修理及び調整を行った。また、寄託品の所在確認を継続して実施した。 収蔵品等のデータの登録・更新を継続し、正しい情報を参照できる状態を維持した。また、業務システムを改善し、登録データの精度向上及び利活用を推進し、各業務の負担軽減と効率化に寄与した。

【中期計画記載事項】
国民共有の貴重な財産である文化財を永く次代へ伝えるため、収蔵品の管理を徹底し、特に収蔵品の増加に伴い収蔵に必要な施設設備の充実、改善を図る。また、収蔵品の 現状を確認の上、管理に必要なデータ（画像データ、テキストデータ等）を整備して、展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 収蔵庫内の点検及び環境改善を引き続き実施した。また、作品の整理・移動作業により、作品の適切な管理並びに保管スペースの確保に努めた。3年度に引き続き、資料登録情報の更新を行い、展示や修理情報の蓄積・活用を継続し、中期計画を順調に遂行した。

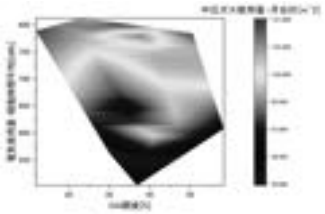
【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1122A

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（1）有形文化財の収集・保管、次代への継承　②有形文化財の管理・保存・修理等 2)有形文化財の保存

【年度計画】
・Ⅰ-1-(1)-②-2)（4館共通）ア、イ、ウ（東京国立博物館）ア、イ、ウ

担当部課	学芸研究部保存修復課	事業責任者	課長　和田浩

【実績・成果】
（4館共通）
ア　収蔵庫等11ヵ所を対象に生物生息調査の実施及び、全館的に害虫防除のための防虫薬剤設置を実施した。また、生物生息調査結果等から改善を要すると判断した修理室5か所に対して除塵防黴清掃を実施、収蔵庫6か所に対して昆虫類侵入遮断対策を実施した。
イ　収蔵品を中心とした貸与に伴い、保存カルテを457件作成した。
ウ　収蔵庫及び展示室295ヵ所の温湿度を計測し、それらの解析から、収蔵環境の特性評価を行った。収蔵庫及び展示室の温湿度、空気汚染物質に関する年次報告を整備した。展示室における換気対策が与えるエネルギー消費への影響を検証した。


電気使用量に関する解析

トラップに捕獲された害虫

（東京国立博物館）
ア　文化財の収納に用いられる綿の落下衝撃吸収特性について実験を行い、使用方法について検証した。
イ　6か所の収蔵庫、修理室に対して各3種の空気汚染物質濃度を計測し、データの解析・蓄積を行った。
ウ　ハンドリフトを用いた博物館施設内輸送で生じる振動を計測した結果を解析し、施設内輸送工程の最適化について検証した。

【補足事項】

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 予算の不足から地震対策に関する検証実験等を実施できず、関連する実績がやや不足したものの、館内保存環境の現状把握のために実施した生物生息調査によって発見された問題を除塵防黴清掃によって改善した等、調査と対処を一体化した活動を展開できた。

【中期計画記載事項】
適切な展示・保存環境の保持のため、収蔵・展示施設の温湿度、生物生息、空気汚染及び地震等への対策、並びに保存等に関する調査研究とそのデータの解析・蓄積を引き続き実施する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 文化財輸送環境の保全については、博物館の日常業務として高い頻度で発生する施設内輸送に際して、走行経路の選定、輸送機関上の振動計測から輸送作業工程の評価に至るまで一貫した調査研究を実施することができた。 温湿度計測および生物生息調査の結果から館内各所の環境的評価に基づいた対策を講じることができた。5年度からは、博物館施設全体の環境的評価をリアルタイムで可視化し、実施すべき対応と直結できるようなシステムを構築し、業務効率化を目指したい。 また、博物館として対策を要する災害は地震だけではないため、5年度からは、可能性の高い災害全般を視野に入れた調査研究へと発展させる必要がある。 以上の観点から、中期計画2年目として、順調に事業を進めるとともに、5年度以降をも見据えた課題を設定することができた。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1122B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　②有形文化財の管理・保存・修理等　2)有形文化財の保存

【年度計画】
・Ⅰ-1-(1)-②-2)（４館共通）ア、イ、ウ（京都国立博物館）ア、イ、ウ

担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長　羽田聡 保存科学室長　降幡順子

【実績・成果】
（４館共通）
ア　館内外の保存科学担当者をはじめとする関係者との連携を強化し、IPMの徹底を図った。
イ　収蔵品の保存カルテを123件作成した。
ウ　平成知新館及び明治古都館、収蔵庫等の保存環境に関わる情報収集及びデータ解析を行った。
（京都国立博物館）
ア　平成知新館の地震対策、空気質調査、温湿度調査及び歩行性昆虫類生息調査を継続的に実施した。複数年にわたる計画的事業として、展示室のIPM清掃・展示ケースガラス清掃を一部の展示室で実施した。毎月実施している空調装置に関する打ち合わせで、設定値と得られたデータを解析し、温湿度が一定になるよう微調整を行い、より詳細な解析に向けてデータ収集を継続した。
イ　明治古都館（本館）については、改修を見据えて、展示室内環境を良好に維持するために必要となる温湿度調査及び歩行性昆虫類生息調査を通年で実施し、データの蓄積を行った。
ウ　東収蔵庫は、3年度から運用を開始したモニタリングシステムが順調に稼働しており、温湿度データの蓄積が図れた。一方専用LANが使用できない北倉・資料棟・文化財保存修理所エリアでは、定期的に温湿度に関するデータ収集を行い、速やかに修理者協議会等との打ち合わせ時に周知し、保管環境等の意識向上と連携強化を図った。また、通年で展示室及び各収蔵庫の歩行性昆虫類の生息調査、定期的な空気質調査を実施し、データの蓄積を図った。

【補足事項】

展示室内の清掃（IPM）

収蔵庫の空気質調査

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 収蔵品の保存状態の確認と情報共有を目的として、館外への貸与に伴い保存カルテの作成・蓄積を継続的に図っており、4年度は123件作成できた。 文化財にとって適切な展示・保存環境を保持するべく、継続的にモニタリングを実施し、データを蓄積した。温湿度については、通年モニタリングにより得られたデータの解析結果を踏まえて、より適切な展示・保存環境の構築に向けて、建物毎の対応策を検討した。また、歩行性昆虫類に関するモニタリング調査で問題が判明した箇所については、担当者間で連絡を密に取り合い、IPMの徹底を図った。明治古都館についても、各種イベントの会場としての利用後に、徹底したIPMを実施し、活用を図りつつも文化財の保存に努めた。以上の成果から、Ｂと評価する。

【中期計画記載事項】
適切な展示・保存環境の保持のため、収蔵・展示施設の温湿度、生物生息、空気汚染及び地震等への対策、並びに保存等に関する調査研究とそのデータの解析・蓄積を引き続き実施する。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 包括的な文化財保存環境の管理体制を構築するべく、展示室や各収蔵施設で一体的な温湿度環境モニタリング、歩行性昆虫類生息調査、二酸化炭素濃度測定、空気質調査等を通年で実施しており、各施設の施設整備関連部署とも緊密に連携できているため、Ｂと評価する。今後も継続的にモニタリング活動を進めるとともに、他館との情報交換などを通して、より適切な環境保持に向けての調査研究を進めたい。

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1122C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　②有形文化財の管理・保存・修理等　2)有形文化財の保存

【年度計画】
・Ⅰ-1-(1)-②-2)（４館共通）ア、イ、ウ　（奈良国立博物館）ア

担当部課	学芸部	事業責任者	保存修理指導室長　荒木臣紀

【実績・成果】
（４館共通）
ア　調湿装置や調湿剤を用いて展示ケース内湿度の安定化処置を行い、無線式温湿度データロガーなどでそれらの効果について24時間のモニタリングを実施した。展覧会終了後にデータをまとめて学芸部で回覧した。
イ　国内の博物館や寺社から貸出の依頼があった場合は作品が展示される展示室や展示ケース、運用体制などの情報を共有して作品の展示環境を適切に整えることに努めた。
ウ　館内の文化財害虫の生息状況を把握するために、展示室、収蔵庫、調査室やその他バックヤードに昆虫調査用トラップを設置し、2ヶ月に1回の頻度で学芸研究員が輪番で作業を行った。トラップを専門業者に送って得た情報を蓄積し分析を行い、館内のIPM活動における指針して清掃を行うなど、生物被害の低減に努めた。
（奈良国立博物館）
ア　宮内庁正倉院事務所と協力して正倉院展における温湿度データの取得方法を検討し、期間中は 3 日に 1 度の間隔でデータを回収、グラフ化を行なって両者で確認しながら展覧会を進めた。また、展覧会終了後には塵埃調査を含めた環境情報を整えて展示環境の総括を行った。

【補足事項】
（４館共通）
・学芸部研究員と総務課環境整備係員が集まり「環境整備ワーキング・グループ」を月 1 回開催し、測定データ、専門業者からの調査報告書を共有して展示室、収蔵庫に潜んでいた諸問題についての改善案を協議し、一部については改善を行った。
(1) 展示室内温湿度測定箇所：104 箇所
(2) 展示ケース、展示室内塵埃調査箇所：25 箇所
(3) 文化財害虫生息状況調査：100 箇所

各種温湿度データロガー校正の様子

調湿剤、無線式温湿度データロガーの設置作業

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 4年度は、継続した調査の実施に加え、3年度より温湿度の測定箇所を増やし、より詳細なデータ蓄積を行った。また、得られたデータを幅広い職員層で共有し、保存修理指導室だけでなく、館全体で環境の整備、改善を行うなど、データを環境整備におけるインフラクチャーとして活用しており、年度計画を着実に実行することができた。

【中期計画記載事項】
適切な展示・保存環境の保持のため、収蔵・展示施設の温湿度、生物生息、空気汚染及び地震等への対策、並びに保存等に関する調査研究とそのデータの解析・蓄積を引き続き実施する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 4年度も温湿度データ、生物生息データなど年間を通じて取得、蓄積を行うことができ、順調に中期計画を遂行できている。今後は温湿度データの所得地域を広げ、新たに得られたデータを元に更に安定した展示環境を整えると共に、カーボン・ニュートラルに向けた展示収蔵環境の改善に努める。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1122D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　②有形文化財の管理・保存・修理等　2)有形文化財の保存		
【年度計画】 ・Ⅰ-1-(1)-②-2)（４館共通）ア、イ、ウ、(九州国立博物館）ア			
担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	課長　木川りか

【実績・成果】
（４館共通）
ア　IPMの考え方に基づき、館内各エリアの温湿度管理、粘着トラップによるモニタリング及び清掃を徹底し、必要に応じて有害生物処理17件を実施した。
イ　所蔵品の保存カルテ86件を作成した。
ウ　文化財の展示・保存環境における温湿度や揮発性有機化合物濃度に関するデータを蓄積し、より良い展示・保存環境を作り出すための各種手法を検討した。
（九州国立博物館）
ア　展示室、収蔵庫等の温湿度データを連続計測し、蓄積したデータを活用し展示・収蔵環境の保全に努めた。また、粘着トラップを館内全域に設置し毎月交換・観察することで、昆虫の侵入、棲息状況を把握し文化財害虫に対して早期に対処することができた。また、館内に搬入される文化財及び資材の生物処理を行うことで、収蔵品等への生物被害を未然に防ぐことができた。

【補足事項】
（九州国立博物館）
ア
・展示・収蔵空間等にデータロガーを設置し、測定結果をモニタリングすることで、作品の材質に合わせた適切な温湿度環境を維持した。
・館内全域に設置した粘着トラップの定期的な観察・交換による捕獲虫モニタリングと、各エリアにつき年2回程度の徹底清掃を実施し、害虫の発生要因を低減した。また、館内職員・事業者向けにIPM研修を開催し、対策の重要性を周知した。
・文化財害虫を館内に持ち込まないために、搬入される文化財及び資材に対し、低酸素濃度処理、二酸化炭素処理、低温処理等の、化学薬剤を使用しない生物処理を実施した。
・文化財の移動導線周辺のメンテナンスや粘着トラップの観察及び展示室やエントランスなどの一般来館者エリアの粘着トラップ交換等は、地元NPO法人や環境ボランティアの協力を得て館内の環境保全に努めた。

低温による生物処理の様子

地元 NPO 法人による
館内徹底メンテナンスの様子

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 館内の温湿度、捕獲虫、空気質等の保存環境に課するデータを連続的・継続的に蓄積し、得られたデータに基づき適切な環境管理を行った。また、地元NPO法人やボランティアと連携したIPM活動の体制を維持し、適切な館内環境を維持した。以上、所期の目標を遂行し、Ｂ評価とした。

【中期計画記載事項】
適切な展示・保存環境の保持のため、収蔵・展示施設の温湿度、生物生息、空気汚染及び地震等への対策、並びに保存等に関する調査研究とそのデータの解析・蓄積を引き続き実施する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 展示・保存環境に関わるデータ収集を継続し、文化財の適切な環境を維持することができた。また、得られたデータを館内で共有し、より適切な環境維持に向けた対策を実施し、空気質や生物による文化財被害を未然に防止した。中期計画の実現に向けて円滑に遂行し、Ｂ評価とした。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1123A

中項目	1．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（1）有形文化財の収集・保管、次代への継承　②有形文化財の管理・保存・修理等 3)有形文化財の修理　3)-1計画的な修理及びデータの蓄積　3)-2科学的な技術を取り入れた修理

【年度計画】
・Ⅰ-1-(1)-②-3)-1（4館共通）ア、イ、（東京国立博物館）ア
・Ⅰ-1-(1)-②-3)-2（4館共通）ア、（東京国立博物館）ア

担当部課	学芸研究部保存修復課	事業責任者	課長　和田浩

【実績・成果】
Ⅰ-1-(1)-②-3)-1
（4館共通）
ア　保存修復課の修理技術者を中心に、館内で館蔵品、寄託品の本格修理の応急修理を行った。必要に応じたX線CTの活用により作品の状態や処置が必要な箇所を把握しつつ、作品の劣化予防のために392件の応急修理に着手し、94件の本格修理を実施した。
イ　データベース構築のために、3年度に修理が完了した24件の修理内容についてデジタル化を実施し、その成果をもとに『東京国立博物館文化財修理報告書23』を刊行した。当該修理報告書は4年度から紙媒体から電子書籍へと移行し、より多くの国内外に発信した。
（東京国立博物館）
ア　中長期的計画策定のため、国宝・重要文化財43件を含む70件の作品を新たに鑑査会議を経た本格修理候補作品としてリスト化し、重要文化財41件を含む65件の本格修理を実施した。
Ⅰ-1-(1)-②-3)-2
（4館共通）
ア　館蔵品修理の際に、X線CTスキャナやハンドヘルド蛍光X線分析装置などで科学分析調査を行うことで、彩色材料や材質、劣化状況についての情報が得られ、修理方針策定に役立てた。
（東京国立博物館）
ア　X線CTスキャナやハンドヘルド蛍光X線分析装置を用いて、「泰西騎士像」（江戸時代・17世紀）の彩色材料や「沃懸地鳳凰蒔絵小脇指」（江戸時代・19世紀）の劣化状態を調査し、適切な修理に役立てた。

蛍光X線分析の様子

【補足事項】
・重要文化財「小袖 白綾地秋草模様（冬木小袖）」（絹製、尾形光琳筆、江戸時代・18世紀）は文化財活用センター文化財修理ファンドレイジング事業からの寄付金により修理を実施した（3年1月着工、工期27か月）。重要文化財「臨時全国宝物調査関係資料」のうち宝物目録類（QA-3623,QA-3624）の一部について文化財保存活用基金による本格修理に着手した。

【評価指標】項目	4年度実績	目標値	評定	経年変化	30	元	2	3
修理件数（本格修理）	94件	-	-		26	24	44	53
修理のデータベース化件数	24件	-	-		98	19	13	16

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	緊急性の高い応急修理、長期計画立案のための事前調査と中期計画達成のための調査、会議上程を行い、具体的な修理候補リストを策定し、修理を実施した。新型コロナウイルスの感染拡大により自己収入による修理費が低迷する一方で、寄附金や基金、文化財活用センター貸与促進事業費による修理が増えており、修理件数は安定している。以上の実績から、所期の計画を遂行できたと評価した。

【中期計画記載事項】
修理を要する収蔵品は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	中期計画の2年目として、事前調査、応急修理、本格修理の各段階で保存科学と修理技術が連携して保存修理事業にあたり、博物館活動に対して最適な作品修理を行うことができた。引き続き常駐する修理技術者を増員し、文化財の安全な活用を担保できる環境を整えたい。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1123B

中項目	１．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　②有形文化財の管理・保存・修理等 3)有形文化財の修理　3)-1計画的な修理及びデータの蓄積　3)-2科学的な技術を取り入れた修理

【年度計画】

（京都国立博物館）

・Ⅰ-1-(1)-②-3)-1（4館共通）ア、イ、（京都国立博物館）ア

・Ⅰ-1-(1)-②-3)-2（4館共通）ア、（京都国立博物館）ア、イ

担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長　羽田聡 保存修理指導室長　大原嘉豊 保存科学室長　降幡順子

【実績・成果】

Ⅰ-1-(1)-②-3)-1

（4館共通）

ア　・館蔵品中、緊急性の高い、絵画3件、彫刻1件、金工3件の本格修理及び応急修理を行った。特に懸案であった「紙本墨画布袋図（善阿印）　A甲673、附　紙本墨画布袋図　探幽筆」の本格修理をすることができた。

・「重要文化財　芦雁図　伝宗湛・宗継筆」をはじめとする旧大徳寺塔頭養徳院方丈襖絵の4か年計画の3年目の修理を継続して行った。

イ　4年度は160件の新規修理文化財搬入があり、修理情報のデータベース化を進めるとともに、過去のデータに関して1179回追加、更新を行った。

（京都国立博物館）

ア　中長期修理計画に基づき、館蔵品の修理を予定通り実施する事ができた。

Ⅰ-1-(1)-②-3)-2

（4館共通）

ア・保存修理所創設以来の非電子化修理報告の PDF 化を進め、4 年度は 265 件の修理記録の PDF 化を行った。

・4 年度、所蔵者の協力を得て文化財修理所内工房で実施した科学分析調査は、作品の材質調査としては蛍光 X 線分析調査 12 件、X 線回折調査 4 件、分光分析調査 2 件、オルソ撮影 1 件である。作品の構造調査としては、I.P を用いた X 線透過撮影 4 件、X 線 CT 撮像 1 件、ファイバースコープ調査 1 件、SfM/MVS による 3 次元形状調査 1 件を実施した。

（京都国立博物館）

ア　構造調査では、一例として、彫刻作品に対してX線CTを使用し、表面の金箔・真鍮箔の塗膜構造、使用範囲の解明、修理の先後関係の確認など、解体時の適切な作業に関する情報を取得し、それを提供することができた。

イ　非破壊的な材料調査では、主として各工房からの依頼により、絵画資料の染料・顔料調査を実施し、彩色材料データの蓄積を図った。X 線を使用した顔料調査では、絹本の作品について、表・裏彩色ともに調査を依頼される事例が増えてきており、可視光・赤外線を使用した染料調査も実施した。また、4 年度より新たに導入した X 線回折装置で彩色材料調査を実施し、修理方法決定の指針策定に貢献できた。

【補足事項】

所蔵者・修理技術者と分析結果の情報共有を行う

絵画資料の顔料調査

【定量的評価】項目	4年度実績	目標値	評定	経年変化	30	元	2	3
修理件数（本格修理）	7件	-	-		17	12	12	9
修理のデータベース化件数	160件	-	-		149	171	137	124

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ａ	例年同様、文化財修理所各工房からの修理前・後の科学的調査の依頼を受け入れ、内部構造調査や使用材料等の調査を行った。特に、彩色材料の調査では、中期計画策定時には予定していなかったＸ線回折分析装置を導入し、分析事例の蓄積を効果的に進め、その成果を学会でいち早く発表もできているため、Ａと評価する。

【中期計画記載事項】

修理を要する収蔵品は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ａ	従来実施してきたＸ線ＣＴ撮影、Ｘ線透過撮影、蛍光Ｘ線分析、分光分析に加え、Ｘ線回折分析装置を新たに導入し、分析手法の多様化を図った。この装置は、中期計画策定時には導入を予定していなかったが、その重要性に鑑み特に導入したもので、早速修理方針の策定に貢献できたため、Ａと評価する。今後も継続的に調査を進め、修理技術者とのデータ・知識の共有を図るとともに、成果の発信に努める。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1123C

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（1）有形文化財の収集・保管、次代への継承　②有形文化財の管理・保存・修理等 3)有形文化財の修理　3)-1 計画的な修理及びデータの蓄積　3)-2 科学的な技術を取り入れた修理

【年度計画】
・Ⅰ-1-(1)-②-3)-1（4館共通）ア、イ、（奈良国立博物館）ア、イ、ウ
・Ⅰ-1-(1)-②-3)-2（4館共通）ア、（奈良国立博物館）ア、イ

担当部課	学芸部	事業責任者	保存修理指導室長　荒木臣紀

【実績・成果】
Ⅰ-1-(1)-②-3)-1
（4館共通）
ア　2年度からの継続事業である『絹本著色十二天像』の修理を予定通り実施した。
イ　『奈良国立博物館 文化財保存修理所 修理報告書』第5号を刊行した。また、修理報告資料を整理しデータベース化に努めた。
（奈良国立博物館）
ア　館蔵品本格修6件のうち、新規5件の修理を行った。内訳　絵画3件、彫刻1件、考古1件、書跡1件。
イ　4年度に策定した館蔵品の長期修理計画に基づき、館蔵品修理を計画通りに実施した。
ウ　寄託所蔵者と協議を行い、寄託品1件について当館の推薦による財団助成と寄付金を受けて修理を実施した。

Ⅰ-1-(1)-②-3)-2
（4館共通）
ア　『絹本著色十二天像』の修理中における裏彩色の蛍光X線分析を行い、用いられている顔料から修理方針の検討を行った。
（奈良国立博物館）
ア　サンプリングした木片を京都大学生存圏研究所材鑑調査室に依頼して修理作品の樹種の同定を行った。
イ　文化財修理所で修理を行っている大型木造彫刻のX線撮影を行い体幹部分の構造の調査を行った。また、修理前の作品頭部のX線CT撮影調査を行って、眼の部分に用いられている技法と現状を調査して修理方針の決定に寄与した。

【補足事項】
Ⅰ-1-(1)-②-3)-1
（4館共通）
ア　収蔵品の修理を目的とした募金箱を、従来の設置場所だけでなく特集展示「新たに修理された文化財」の期間中展示会場にも設置し、周知を図った。
イ　彫刻の材質調査や銘文集成のほか、修理概要13件を掲載して、修理実績や内容を修理報告書で広く伝えることができた。
（奈良国立博物館）
ウ　寄託品修理として、新規に海住山寺蔵『木造彩色宝珠台』を住友財団の助成のもと着工した。募金により金剛山寺の『和州矢田山地蔵菩薩毎月日記』の修理を行った。また、文化財保存活用基金により、館蔵品の重要文化財『絹本着色十二天像』の修理を進めた。

【定量的評価】項目	4年度実績	目標値	評定	経年変化	30	元	2	3
修理件数（本格修理）	6件	－	－		6	8	7	7
修理のデータベース化件数	53件	－	－		63	74	70	51

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
新たに修理を行った作品の特集展示を開催し、社会に向けた修理事業の周知を図った。また、所蔵品をはじめとした修理案件について、科学的調査を用いて修理を進めたほか、新規事業による修理にも着工することができ、将来の展覧会等を考慮して作成した修理計画に沿って事業を実施することができた。さらに、本格修理及びデータベース化の件数も例年通りに進められており、年度計画を着実に実行できたと考えB評価とした。

【中期計画記載事項】
修理を要する収蔵品は、機構の保存科学研究員と機構内外の修理技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備を更新し充実を図る。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
4年度も財団助成や寄附金、募金等を活用し、緊急性の高いものから順次修理を実施することができた。また、当館保存修理指導室員と文化財保存修理所の修理技術者が連携してX線CTやX線透過撮影、蛍光X線分析調査を行い、さらにその結果を修理に適切な基礎資料として蓄積できたことから、中期計画を順調に遂行できていると判断する。

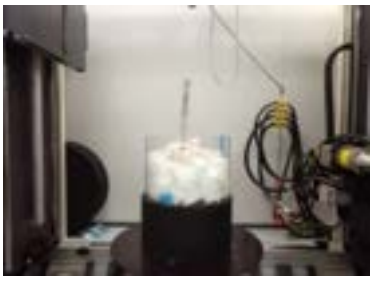
【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1123D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　②有形文化財の管理・保存・修理等 3)有形文化財の修理　3)-1計画的な修理及びデータの蓄積　3)-2科学的な技術を取り入れた修理

【年度計画】
・Ⅰ-1-(1)-②-3)-1（4館共通）ア、イ、(九州国立博物館)ア
・Ⅰ-1-(1)-②-3)-2（4館共通）ア、（九州国立博物館）ア

担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	課長　木川りか

【実績・成果】
・Ⅰ-1-(1)-②-3)-1（4館共通）
ア　館蔵品を中心に損傷状況や展示計画等を勘案し、優先順位の高い文化財20件について本格修理を実施した。また、損傷が軽微な文化財6件について応急修理を実施した。
イ　将来のデータベース化を視野に入れ、未整理であった25～27年度分の修理報告書を刊行した。
（九州国立博物館）
ア　毎年度継続的に修理を行っている重要文化財「対馬宗家関係資料」については、5件の本格修理を実施した。
・Ⅰ-1-(1)-②-3)-2（4館共通）
ア　重要文化財「対馬宗家関係資料」等の紙を素材とする文化財9件の本格修理に伴い、本紙剥落片を利用して紙質調査を行い、補修紙作成に役立て、作品の新たな学術情報として記録した。
（九州国立博物館）
ア　革包黒漆塗打刀拵（刀（銘藤原鎮清）の付属品）のX線CTによる構造調査など7件の科学調査を行い、修理方針の策定等に役立てた。



革包黒漆塗打刀拵の X 線 CT 調査

【補足事項】
・Ⅰ-1-(1)-②-3)-1（4館共通）
ア・館費による修理件数は26件（本格20件、応急6件）
　内訳：絵画6件（本格3件、応急3件）、書跡1件（本格1件）、彫刻1件（応急1件）、刀剣1件（本格1件）、陶磁1件（本格1件）、漆工2件（応急2件）、染織1件（本格1件）、考古6件（本格6件）、民族資料2件（本格2件）、歴史資料5件（本格5件）。

【定量的評価】項目	4年度実績	目標値	評定	経年変化	30	元	2	3
修理件数（本格修理）	20件	－	－		40	31	20	17
修理のデータベース化件数	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 本格修理は、1件あたりの構成点数が多く、総事業費にこれまでと大きな変化はない。作品の状態に合わせた本格修理や応急修理を適切に行い、年度計画を遂行したため、B評価とした。

【中期計画記載事項】
修理を要する収蔵品は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 伝統的な修理技術に新たな科学調査の成果を取り入れながら、緊急性の高い作品から順次計画的かつ正確に修理を実施した。中期計画を円滑に遂行し、着実に課題解決に取り組んでおりB評価とした。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1124B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　②有形文化財の管理・保存・修理等 4)文化財修理施設等の運営		
【年度計画】 ・Ⅰ-1-(1)-②-4)(京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館)ア、イ			
担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　阿部勝 保存修理指導室長　大原嘉豊

【実績・成果】
（京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館）
ア　文化財保存修理所の整備・充実のため、定期的に工房との修理者協議会を開催（年７回）し、意見交換を行った。

イ
・文化財保存修理所運営委員会を開催し、修理所の運営について審議した。
・各所老朽化した設備の整備（自動ドアの電気錠の修繕、旧管理棟３階バルコニーの防水改修工事、消防ポンプ配管、燻蒸庫排気ファン）を行った。
・電気設備の法定点検により確認された修理所 3Ｆの微小な漏電について、既存の床下埋込配線から新たな天井裏配線へ更新することにより解消した。
・防災体制の充実を図るため、文化財保存修理所での防災訓練を実施の予定であったが、雨天のため中止となった。

旧管理棟防水改修（前）

旧管理棟防水改修（後）

【補足事項】
ア　文化財保存修理所運営委員会は、2年振りに対面形式で行った。

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 ４年度は新型コロナウイルス対策を実施のうえで、文化財保存修理所運営委員会を 2 年振りに対面形式にて開催した。委員から未指定文化財の受入手続きについて意見を頂戴し、運営委員会後の受入については、年２回、運営委員会会長による書面審議を経て判断することとなった。修理者協議会は予定通り開催し、環境整備等について意見交換を行った。老朽設備の改善等、適切な運用を行うことができた。

【中期計画記載事項】
文化財保存修理所等については、国と協力して整備充実を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 豪雨時の雨漏り、電気設備等の老朽化は課題として依然あるものの、迅速かつ適切な対策を取ることで、指定品を中心とした修理事業を安全に行う施設としての役割を果たすことができた。また、老朽化した各所設備の整備を行うなど、設備環境の改善を実施した。中期計画の2年目として、減災に向けた方策を講じ、工房と協力しながら文化財保存修理所の円滑な運営を進めることができた。

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1124C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　②有形文化財の管理・保存・修理等 4)文化財修理施設等の運営

【年度計画】
・Ⅰ-1-(1)-②-4)（京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館）ア、イ

担当部課	学芸部	事業責任者	保存修理指導室長　荒木臣紀

【実績・成果】
（京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館）
ア　文化財保存修理所の窓ガラス面に紫外線カットフィルムを貼り付けた。大型ブラインドについては改修を 5 年度に予算化した。
イ
・文化財保存修理所運営委員会を 5 年 3 月 10 日に実施した。また、各工房における修理事業の実施状況、修理所施設の維持・管理、工房内の温湿度をはじめとする保存環境の改善に関する課題などについて、修理に従事する公益財団法人美術院、株式会社文化財保存、北村工房の 3 工房代表者と当館学芸部で討議する文化財保存修理所協議会を 2 回開催した（9 月 12 日、5 年 2 月 16 日）。
・館長以下博物館職員が定期的に文化財保存修理所各工房の修理実施状況を視察する修理所巡回を 4 回実施した。

【補足事項】
・5年2月21日から3月20日まで、当館西新館第1室において特集展示「新たに修理された文化財」を開催した。3年度に文化財保存修理所各工房で修理が完了した8件の当館収蔵品・寄託品を修理解説パネルとともに展示することで、文化財修理技術を広く一般に理解してもらう機会とした。
・文化財保存修理所の施設や事業の概要を紹介する案内パンフレットを、修理所一般公開、寄付者へ修理に関する解説を行った際などに配布した。
・5年1月12日に文化財保存修理所特別公開を開催し、修理の取り組みや修理所各工房の活動を広く知ってもらう機会とした。新型コロナウイルス感染防止のため、参加者を20名にして同日に3回実施し、報道機関を含む69名の参加があった。

令和４年度 文化財保存修理所特別公開

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 運営委員会を5年3月10日に対面で行い、所内3工房代表者とは9月12日、5年2月16日に協議会を開催し、修理の実施状況の確認及び作業環境、保存環境の改善について協議するなど、情報の共有に努め、文化財保存修理所を円滑に運営することができた。また、文化財防災センターと連携して、文化財被災時への助言について修理技術者と意見交換を行った。ついては年度計画を着実に実行できている。

【中期計画記載事項】
文化財保存修理所等については、国と協力して整備充実を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 文化財保存修理所を円滑に運用するとともに、X線撮影、蛍光X線分析、ファイバースコープやX線CTなどの科学技術を積極的に活用した保存修理を実施することができた。新型コロナウイルスのため、引き続き人数制限をした上での一般公開が続いたが、修理所への理解を深める機会の提供は3年度より継続してできており、中期計画は順調に遂行している。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　1124D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承　②有形文化財の管理・保存・修理等 4)文化財修理施設等の運営

【年度計画】
・Ⅰ-1-(1)-②-4)（京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館）ア、イ

担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	課長　木川りか

【実績・成果】
（京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館）
ア
・文化財保存修復施設1（装潢）について、紙等のフラットニングに用いるプレス機の油圧ジャッキ及び紙料撹拌用の機器の部品に経年の歪みや破損が生じたため、新調及び部品の修理を行った。
・文化財保存修復施設4（彫刻等大型文化財）について、漆工分野の修理を安全に行えるよう、新たに完全遮光カーテンを取り付けた。
・文化財保存修復施設等の排水槽の経年劣化に対応するため、防水塗装の改修工事を行った。
イ
・当館文化財保存修復施設にて当館経費による修理23件及び所有者等負担による修理40件、合計63件の修理事業を実施した。その他、館外で当館経費による3件の修理事業を実施した。

カーテンの取り付け工事（修復施設 4）

排水槽の改修（修復施設等）

【補足事項】
ア
　文化財保存修復施設4は、本来彫刻等の大型文化財のために整備したが当館では事業が少なく、彫刻修理技術者の常駐が困難な状態が続いた。このため、4年度は漆工分野の大型文化財の修理に活用すべく、紫外線による作品の劣化を防止するための完全遮光カーテンを取り付けた。これにより太陽光を遮断し、作品の保管や修理作業をより安全に進めることができた。
イ
・感染防止を図るため、時差を設けた出勤及び休憩、分散勤務など、新型コロナウイルス対策の指針を遵守しながら効率的、計画的に修理を実施した。
・文化財保存修復施設で修理した文化財63件中52件、8割以上が九州山口地区所在の文化財であり、九州山口地区における文化財修理の拠点として確実に実績を蓄積した。修理文化財の中には、熊本県の球磨川水害による被災文化財を含む。

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 　新型コロナウイルス対策の指針を遵守しながら文化財保存修復施設を積極的に活用し、文化財の保存修理を適切に進めた。九州山口地区における拠点として、確実に成果を上げている。この評価に基づき、Ｂ評定とした。

【中期計画記載事項】
　文化財保存修理所等については、国と協力して整備充実を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 　中期計画を円滑に推進しているが、開館より17年がたち、修理に用いる道具類の部品の生産終了や経年劣化のため、抜本的な修理やメンテナンスが課題となっている。今後も館内で道具や設備類の必要性を共有しつつ内外の関係者と古い道具類の修理活用方法を探るなど、必要な環境整備を継続的かつ計画的に行い、文化財を安全、適切に修理できる設備を維持しつつ中期計画の実現に向けて推進する。

【博物館】　施設名 ４館　処理番号 1211ABCD

中項目	１．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　①平常展

【年度計画】
・Ⅰ-(2)-①（４館共通）1)、2)

担当部課	東京国立博物館学芸研究部列品管理課 京都国立博物館学芸部 奈良国立博物館総務課 九州国立博物館学芸部総務課	事業責任者	課長　沖松健次郎 企画室長　山川曉 課長　大西真一 課長　執行正一

【実績・成果】
（４館共通）
・平常展来館者数は1,049,083人と、3年度（409,419人）を大きく上回った。
（東京国立博物館）
・3年度に引き続き、アンケートは来館者に記入依頼を行う形で実施した。また、アンケートの集計結果と自由意見を館内で共有し、改善に努めた。なお、ウェブサイト、館内スタッフに寄せられた意見について、関係部署に共有し、必要に応じて回答や改善を図った。
・新型コロナウイルス感染状況を考慮した上で、3年度まで実施していた事前予約制を休止した。
（京都国立博物館）
・平常展開催期間中にアンケートの記入場所を設置しただけでなく、来館者への記入依頼も行った。また、ウェブサイトや口頭にて寄せられたご意見・お問合せを担当部署・担当者間で共有し、必要に応じて回答や改善などの対応を実施した。
（奈良国立博物館）
・館内に記述式アンケートの記入場所を設け、通年でアンケートを実施した。アンケート結果及びウェブサイトを通じて寄せられた当館への意見・要望については、速やかに関係部署と情報を共有し、改善に努めた。
（九州国立博物館）
・館内に1か所記述場所を設け、通年でアンケートを実施した。また、特別展「最澄と天台宗のすべて」（2月8日～3月21日）会期中から、より幅広い層からアンケートを回収することを目的に、紙媒体とあわせて、オンラインでのアンケートも実施し、若年層からの意見を取り込むことに加え、回収率の向上に努めた。

【補足事項】
（東京国立博物館）
・アンケートについては、原則2か月に1回第1土曜日に実施した。規則性をもって行うことでアンケート結果の比較、検証に寄与することに努めている。
（京都国立博物館）
・来館者の意見や要望を踏まえて、展示室内の案内サインの追加や位置調整を行い、観覧環境の改善に取り組んだ。
（奈良国立博物館）
・来館者や館内職員から寄せられた意見や要望を踏まえて、館内の掲示物を追加・修正するなど、観覧環境の改善に取り組んだ。
（九州国立博物館）
・アンケートの回答内容を館内で共有し、質問票やホームページから寄せられたお客様からの要望や問い合わせ等にも迅速に対応し、観覧環境の向上に努めた。

【評価指標】項目	4年度実績	目標値	評定		30	元	2	3
平常展の来館者アンケート満足度				経年変化				
東京国立博物館	88.4%	85%	B		89.2	90.2	85.8	87.9
京都国立博物館	85.9%	81%	B		89.7	79.1	78.5	82.1
奈良国立博物館	92.6%	92%	B		92.5	93.2	94.2	92.1
九州国立博物館	77.0%	76%	B		73.6	77.1	－	81.0

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
アンケート満足度については4館ともに目標値を達成している。アンケートでのご意見・ご要望を踏まえ、館内の掲示物の追加・修正を行うなど、観覧環境の改善に取り組み、来館者満足度の向上に貢献できた。
また、3年度まで一部の館で実施していた事前予約制を廃止し、感染症拡大予防の措置をとりつつ、積極的な来館者の呼び込みを図った。平常展来館者数は3年度比大幅増となり、感染状況に応じ柔軟な運営を行ったことを評価した。

【中期計画記載事項】
平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・総合的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図る。
なお、平常展の来館者アンケートの満足度については、前中期目標の期間と同程度の水準の維持を目指す。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
アンケート満足度については3年度と同水準の結果となり、引き続き各博物館の特色を生かした質の高い展示や、観覧環境の向上に努めることができた。来館者よりいただいたご意見については、中期計画期間を通して改善を図っていきたい。平常展来館者数については、3年度比大幅増となり、コロナ以前の6割程度まで戻りつつある。3年度まで臨時休館や事前予約制等の措置をとらざるを得なかったのに対し、4年度は活動制限の緩和に伴い、柔軟な運営・積極的な広報を実施できたことが評価できる。5年度以降はインバウンドの回復も視野に入れつつ、引き続き適切な感染拡大予防措置をとりながら、来館者を増やしていきたい。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1212A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	（２）展覧事業　①平常展		
【年度計画】 ・Ⅰ-1-(2)-①（東京国立博物館）1)、2)、3)、4)			
担当部課	学芸研究部列品管理課	事業責任者	課長　沖松健次郎

【実績・成果】

3年度策定の計画通りに平常展を開催した。また4月1日から総合文化展入館のための事前予約を一時休止したが、特段の混雑や混乱もなく、快適な鑑賞空間を維持・提供できた。

1)展示計画に基づき、412回（展示総件数10,032件）の展示替を実施しながら充実した展示を行えた。

2)26件（3年度からの継続特集1件を含む）のテーマ性をもった特集展示をすべて実施することができた。また東京国立博物館創立150年記念と銘打った特集展示を、年間を通して開催した。展示にあたっては記念ロゴを積極的に活用するなど、創立150年の節目にふさわしい祝祭性の高い空間構成がなされ、来館者からもおおむね好評を博した。

3)平成館企画展示室において「令和4年新指定 国宝・重要文化財」を開催し、文化財指定制度ならびに日本文化に対するさらなる理解を深める場を設けることができた。

4)日本文化や歴史への理解促進を図るため、本館4室「茶の美術」と9室「能と歌舞伎」および14室の特集「未来の国宝―東京国立博物館　彫刻、工芸、考古の逸品―」においてデジタルサイネージを設置し、映像・静止画像・解説等により展示作品の使用例や文化的背景を紹介した。

【補足事項】

・本館総合文化展における英語解説の書式については、これまで両端揃えであったものを、ネイティブにとってより自然な見え方である左端揃えへと順次改善した。
・展示環境を改善すべく本館特別1室・特別2室の全面改修を実施した。
・本館3室単体ケースの開閉機工について電動化のための工事を実施し、展示作業の利便性が向上した。
・老朽化していた本館14室の中央行灯ケースを、新たなケースに交換した。

	4年度実績	目標値	評定	経年変化	30	元	2	3
平常展の来館者数	625,235人	－	－		989,508	1,030,652	166,639	211,052

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 来館者数は徐々に回復傾向にあるが、なお新型コロナウィルス感染拡大前の水準と比べると 6 割程度にとどまる状況であった。そうした中で、計画したすべての特集展示を実施し、所蔵品の新たな魅力と価値を発信することができた。特に 150 周年の節目にふさわしく、館の歴史を振り返る取り組みやその過程で明らかとなった知見を展示で示すことができたことは大きな成果として位置づけられる。 また、トーハク新時代プランに基づき、多言語解説の見直しを弾力的にすすめることができ、来館者の日本文化に対する理解促進に努めることができた。

【中期計画記載事項】

平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・総合的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 4 月 1 日から総合文化展入館のための事前予約は一時休止措置をとり、来館者の利便性を向上させることができた。社会的にはなお外出自粛等の要請や各自が自発的に外出を控えるなどの状況が続いたが、3 年度よりも多くの来館者を迎えることができたことは高く評価したい。5 年度以降も、新題箋の導入拡大やデザインの改定などを進めながら、より魅力ある展示の実現に向けて努力していく。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1212B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　①平常展

【年度計画】
・Ⅰ-1-(2)-①（4館共通）2）（京都国立博物館）1)、2)

担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長　山川曉

【実績・成果】
2）平常展来館者数は、56,369人であった。ただし、特別展と同時開催した平常展の来館者数は、左記には含まない。また、展示替件数は680件であった。
（京都国立博物館）
1）特別展前後の準備・撤収期間を考慮し、名品ギャラリー（平常展示）期間を設定した。展示替作業にあわせて、平成知新館内の一部の展示室のみを開室する部分開館も実施し、柔軟に対応した。
2）3件の特集展示、1件の特別公開を開催し、当初年度計画よりも特集展示を1件多く開催できた（「新発見！蕪村の「奥の細道図巻」」）。

【補足事項】
・特集展示「新発見！蕪村の「奥の細道図巻」」は、与謝蕪村による『おくのほそ道』の全文を書写し関連する絵を添えた作品の中で、もっとも早期に制作された作品が新発見されたため、当初年度計画には記載していなかったが、急遽開催した。初公開となった新発見作品と併せて、関連する所蔵品も展示した。期間中の来館者数は14,212人であった。
・新春特集展示「卯づくし―干支を愛でる―」は、新春恒例の干支にちなんだ展示として、日本や中国の様々な兎をモチーフとした作品を展示予定。ファミリー向け展示として、小学校高学年以上向けを想定したやさしい解説文や、小学校低学年以上を想定したワークシート（多言語）を作成し、幅広い世代に向けた展示とした。期間中の来館者数は19,983人であった。
・特集展示「雛まつりと人形」は、華やかな御殿飾り雛へと至る雛人形の変遷や、衣裳人形を通してみる人々の交流や旅の様相を中心に示しつつ、さまざまな京人形を展示した。期間中の来館者数は19,217人であった。
・特別公開「熊本・宮崎の古墳文化―石人と貝輪―」は、石の埴輪（石人）やレリーフ（石障）、貝輪など、九州中南部（熊本・宮崎）地方で発達した独特の古墳文化を示す考古資料を展示した。期間中の来館者数は、夏期（特別展との同時開催期間を除く）と冬期をあわせて46,469人であった。

「新発見！蕪村の「奥の細道図巻」」展　記者発表風景

「卯づくし」展　展示風景

【定量的評価】項目	4年度実績	目標値	評定	経年変化	30	元	2	3
平常展の来館者数	56,369人	－	－		146,314	158,664	18,941	35,440

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：A	夏期自主企画展を特別展として開催したことにより、平常展のみ開催した期間は短くなったが、急遽開催した特集展示は多くのメディアに取り上げられ、短期間にもかかわらず多数の来館があり、年度計画以上の展示を企画できたと考えるため、Aと評価する。

【中期計画記載事項】
平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・総合的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図る。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	4年度は、当初予定していた特集展示・特別公開に加え、作品の新発見に伴う特集展示を1件多く開催できた。また、収蔵文化財の名品の展示に際して、多言語での題箋提出、ジュニア版を含む音声ガイドの貸出、ワークシートの配布などを実施し、幅広く来館者の増加を図ることができたことから、中期計画を順調に遂行できていると判断した。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1212C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　①平常展

【年度計画】
・Ⅰ-1-(2)-①（奈良国立博物館）1)、2)

担当部課	学芸部	事業責任者	部長　吉澤悟

【実績・成果】
1) 下記のとおり名品展を実施し、特集展示を 1 件開催した。（展示総件数：393 件、展示替件数：188 件）
・名品展「珠玉の仏たち」　なら仏像館　4 月 1 日～5 年 3 月 31 日
・名品展「中国古代青銅器」　青銅器館　4 月 1 日～5 年 3 月 31 日
・名品展「珠玉の仏教美術」　西新館　12 月 10 日～5 年 1 月 22 日、5 年 2 月 4 日～5 年 3 月 19 日
・特集展示「新たに修理された文化財」　西新館　5 年 2 月 21 日～5 年 3 月 19 日

2) 下記のとおり特別陳列を開催した。
・わくわくびじゅつギャラリー「はっけん！ほとけさまのかたち」　東新館　7 月 16 日～8 月 28 日
入館者数 36,653 人
・特別陳列「お水取り」　東新館　5 年 2 月 4 日～5 年 3 月 19 日　入館者数 24,399 人

【補足事項】
・なら仏像館における名品展「珠玉の仏たち」では、常時90件以上の仏像を公開した。5年3月21日からは、特別公開として、修理が完了した奈良・不退寺本尊の重要文化財 聖観音菩薩立像を公開するとともに、かつて本像と対をなし、江戸時代には不退寺に安置されていた文化庁所蔵の観音菩薩像とあわせて展示した。
・名品展「珠玉の仏教美術」では、129件を公開した。
・わくわくびじゅつギャラリー「はっけん！ほとけさまのかたち」では、仏像等の作品を31件公開し、仏像の主な4つのグループ「如来」「菩薩」「明王」「天」のそれぞれの形の特徴と、その見分け方を子ども向けにわかりやすく紹介した。子どもが仏像等の文化財に親しめることを目的に、以下の様々な教育普及事業を実践した。
・子どもが理解できるような平易な解説文やイラストを多用した題箋や展示パネル等の設置
・クイズ形式のワークシートを来場者に配布（25,000部）
・仏像のレプリカを活用したワークショップを会期中の毎日2回ずつ実施
・仏像のレプリカのハンズオン展示
・仏像を目の前にスケッチができる体験
・来場者が描いた絵を掲示できるおえかきギャラリー「みんなが描くほとけさまのかたち」の設置

わくわくびじゅつギャラリー「はっけん！ほとけさまのかたち」の展示風景

おえかきギャラリーとワークショップスペース

【定量的評価】項目	4年度実績	目標値	評定	経年変化	30	元	2	3
平常展の来館者数	116,116人	－	－		140,829	160,869	43,262	52,178

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	様々な来館者層が仏教美術について理解を深め、楽しめるように、毎年恒例の名品展やお水取り展、新たに修理された文化財展に加え、親子向けの特別陳列を3年ぶりに開催するなど硬軟織り交ぜた多彩な展覧会を実施した。来館者数は、3年度に比べ63,938名増加したため着実に計画を実施している。

【中期計画記載事項】
平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・総合的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図る。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	4年度も仏教美術の専門館として数々の特色のある展覧会を開催した。名品展や特集展示では最新の研究成果を盛り込んだ展示を実施した。親子向けの仏像展の開催は若年層の理解促進のため新たな試みを存分に盛り込み、説明もイラストを多用した充実したものであったため、来場者から非常に高い評価を得ることができた。以上のことより中期計画を順調に遂行している。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1212D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　①平常展

【年度計画】
・Ⅰ-1-(2)-①（九州国立博物館）1)、2)

担当部課	学芸部企画課	事業責任者	課長　伊藤信二

【実績・成果】
（九州国立博物館）
1）前中期目標の実績の年度平均以上を目指して、平常展は展示替えを 1,961 件行い、来館者数は 239,282 人であった。
2）実物展示に加えてレプリカ、再現文化財、ロケットの模型などを有効に活用したり、「かわいい」という視点から考古資料を自由に鑑賞する展示企画を市民と協働で作り上げるなど、今まで取り組んだことがない切り口から文化財への関心を高め、鑑賞の幅を広げ新規顧客層を拡大する取り組みを行った。

【補足事項】
・特集展示「きゅーはく女子考古部プレゼンツ　かわいい考古学のススメ」では、きゅーはく女子考古部の部員たちが主体的に考古分野の作品を選び、かわいいポイントに着目して解説を執筆した。研究員の学術的な解説と一緒に掲出し、アンケートやメディア報道でも高い評価を得た。
・特集展示「御所の器 ―公家山科家伝来の古伊万里」では、江戸時代に御所で用いられた古伊万里の染付磁器を紹介した。江戸時代から明治時代にかけて公家・山科家に下賜され、伝えられた禁裏御用品を大学等と共同の調査研究の成果として初公開し、図録も刊行した。
・特集展示「種子島－風と波が育んだ歴史－」は、鉄砲伝来の地としての評価だけでなく、先史以来の出土品や島内外に伝来した文化財を通じて、多角的に文化交流史上に種子島を位置付けた。ロケット打ち上げ基地と関連して、はやぶさ2やHⅡAロケットの精巧な模型を展示し、主たる来館者層以外への訴求を図った。図録も刊行した。
・新春特別公開「徳川美術館所蔵 国宝 初音の調度」では、徳川三代将軍家光の長女の婚礼調度である「初音の調度」から、国宝3件（「初音蒔絵机」、「初音蒔絵色紙箱」、「胡蝶蒔絵長文箱」）を展示し、南部家ゆかりの大揃いの婚礼調度も紹介した。
・「ならべてわかる本物のひみつ～実物とレプリカ2022～」は3年度に引き続き、実物とともに露出でレプリカや再現文化財を展示し、視角からだけでは分からない作品の魅力を発信した。
・文化交流展示室で33言語に対応し、視覚や聴覚に障がいのあるお客様も楽しめる新ガイドサービス「ナビレンス de きゅーはく」と「ナビレンスGo! de きゅーはく」を開始した。また、展示室内5か所のデジタルサイネージで、現在陳列中の展示品に加えて、今後の展示企画の情報も公開しお客様へのサービス向上に努めた。

特集展示「かわいい考古学のススメ」の展示会場

特集展示「種子島－風と波が育んだ歴史－」の展示会場

	4年度実績	目標値	評定	経年変化	30	元	2	3
平常展の来館者数	239,282人	－	－		349,114	348,563	81,230	104,898

【年度計画に対する総合評価】
評定：A

【判定根拠、課題と対応】
新型コロナウイルスの影響が予想されたが、きゅーはく女子考古部の活動展開や、種子島ロケット打ち上げ基地と関連したはやぶさ2やHⅡAロケットの精巧な模型展示など、自由な発想に基づく斬新な展示企画を打ち出し、平常展に関心の低かった若年層を含む新規顧客層の取り込みに成功した。実物とともに露出でレプリカや再現文化財を展示したり、視覚や聴覚に障がいのある来館者にも楽しんでもらえるよう新ガイドサービス「ナビレンス de きゅーはく」と「ナビレンスGo! de きゅーはく」の運用を開始するなど、社会的包摂等現代的な課題にも積極的に取り組んだ結果、3年度より来館者数が倍増した。以上の成果からA評価とした。

【中期計画記載事項】
平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・総合的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図る。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
新型コロナウイルスの影響がいまだ残るなか、独創的で斬新な特集展示や社会包摂に対応した企画を開催した。これを一過的なものとせず、当館のコンセプトである文化交流の理解促進に一層資するべく中期計画を円滑に遂行し、来館者数、満足度の向上に寄与するよう取り組む。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1220A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
・Ⅰ-1-(2)-②-1)（４館共通）ア、イ

担当部課	総務部総務課 学芸企画部企画課	事業責任者	課長　竹之内勝典 課長　原田あゆみ

【実績・成果】
ア　来館者への満足度調査を実施し、集計結果を速やかに関係部署で共有し、改善に努めた。
イ　新型コロナウイルス感染状況を考慮した上で、昨年度から引き続いていた事前予約を不要とした。ただし、想定来館者数に応じ、特定の特別展ではオンライン等による日時指定制を導入した。

【補足事項】
一部の特別展では、日時指定制により、快適な観覧環境とすることができた一方、オンラインでの予約が困難な方が一定数出たこと、人気のある展覧会では予約受付開始から早い段階で日時指定枠が埋まり、観覧できない方が多く出る状況となった。
そのため特別展「空也上人と六波羅蜜寺」では開館時間の延長を行った。特別展「東京国立博物館のすべて」では、開館時間の延長に加え、休館日の臨時開館や、文化財保護の観点から展示作品の状態等を考慮した上で会期の延長も行うなど、展覧会の来館者層やニーズに柔軟に対応することに努めた。引き続き新型コロナウイルス感染状況を注視しつつ、想定来館者数に合わせた柔軟な入館方法を検討していきたい。

【評価指数】項目	4年度実績	目標値	評定		30	元	2	3
特別展の来館者アンケート満足度	83.9%	86%	C		84.2	86.6	85.5	91.0
空也上人と六波羅蜜寺	86.4%	－	－		－	－	－	－
琉球	85.3%	－	－		－	－	－	－
日中国交正常化50周年記念 特別デジタル展「故宮の世界」	63.7%	－	－		－	－	－	－
国宝　東京国立博物館のすべて	91.9%	－	－		－	－	－	－
150年後の国宝展	92.1%	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	今までの展示方法とは異なりVRや高精細3D（3次元）データを用いたデジタル展示を中心に行った、「故宮の世界」展の満足度が伸び悩んだが、そのほかの展覧会では、目標値と同程度の結果（88.9%）が得られた。その中でも東京国立博物館創立150年の大きな節目を記念して開催した「国宝　東京国立博物館のすべて」及び当館初の公募型展覧会となった「150年後の国宝展」では、目標値を大幅に超える満足度となった。特に「国宝　東京国立博物館のすべて」では柔軟な運営を行い来館者サービス向上に努めたため、目標を達成したと言える。

【中期計画記載事項】
特別展等については、積年の研究成果を活かしつつ、国民の関心の高い時宜に適った企画を立案し、国内外の博物館と連携しながら我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。
特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を年度計画において設定する。また、特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとし、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、その達成に努める。
（東京国立博物館）年３～４回程度
なお、特別展来館者アンケートを実施し、その満足度については、前中期目標の期間と同程度の水準の維持を目指し、常に展示内容等の改善を図る。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	今後はさらに質の高く、かつ来館者のニーズに合った企画や運営を検討してくことに加え、感染対策を行いながらより多くの方が来館しやすい柔軟な入館方法の検討や、来館者サービスの一環として休憩スペースを十分確保した展示・会場構成を検討していく。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1220B

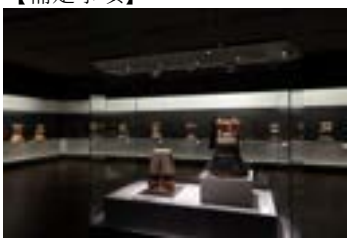
中項目	1． 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（2）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
・Ⅰ-1-(2)-②-1)（４館共通）ア、イ

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　阿部勝 企画室長　山川曉

【実績・成果】
ア　来館者へのアンケート調査を実施した。
イ　新型コロナウイルス感染予防のため、3年度に引き続き、来館時の注意事項を多言語（日・英・中・韓）やピクトグラムを活用して周知し、安心して観覧できる環境を設定した。
○伝教大師1200年大遠忌記念 特別展「最澄と天台宗のすべて」
・延暦寺根本中堂の一部を展示室内で再現し、寺院の空間を体験できるような工夫を施した。
○特別展「河内長野の霊地 観心寺と金剛寺―真言密教と南朝の遺産―」
・観心寺と金剛寺に伝わる重要文化財指定の甲冑全件を一挙に展示し、印象に残る展示を行うことができた。また、会場内パネル等で社寺調査について紹介し、来館者に調査研究の取組を示すことができた。
○特別展「京に生きる文化　茶の湯」
・展示室内に豊臣秀吉による黄金の茶室と、千利休によるわびの茶室を復元し、両者の個性をひとめで比較できる展示空間を作成することができた。
○親鸞聖人生誕850年特別展「親鸞―生涯と名宝」
・親鸞が夢告を受けたとされる六角堂を模した展示台での親鸞聖人坐像の展示や、一展示室内で名号と影像のみを象徴的に見せる展示など、親鸞の生涯を印象づけやすいように展示空間を工夫した。

【補足事項】



左：「河内長野の霊地」での甲冑一挙展示

右：「京に生きる文化　茶の湯」での茶室復元展示

【定量的評価】項目	4年度実績	目標値	評定	経年変化	30	元	2	3
特別展の来館者アンケート満足度	77.3%	82%	C		94.6	80.6	73.9	80.5
最澄と天台宗のすべて	75.8%	－	－		－	－	－	－
河内長野の霊地 観心寺と金剛寺	83.9%	－	－		－	－	－	－
京に生きる文化　茶の湯	72.1%	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
3年度からの早朝開館に加え、4年度は特別展で夜間開館も実施し、観覧機会の拡大に努めた結果、来館者数は昨年度を大きく上回った。アンケート調査による来館者満足度調査では、残念ながら目標値を達成できていないが、年度計画では2本であった特別展を3本開催したことは特筆すべき成果であり、全体ではＢと評価する。

【中期計画記載事項】
特別展等については、積年の研究成果を活かしつつ、国民の関心の高い時宜に適った企画を立案し、国内外の博物館と連携しながら我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。
特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を年度計画において設定する。また、特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとし、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、その達成に努める。
（京都国立博物館）年１～２回程度
なお、特別展来館者アンケートを実施し、その満足度については、前中期目標の期間と同程度の水準の維持を目指し、常に展示内容等の改善を図る。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
各展覧会において、良好な観覧環境を保ちつつ、より見やすく分かりやすく、没入感をもって作品を鑑賞できる環境を提供することができた。アンケート調査による来館者満足度調査では、残念ながら目標値を達成できていないが、夏に自主企画特別展を開催したことにより、中期計画で「年1～2回程度」としている特別展を、3年度に引き続き3回開催したことは特筆すべき成果であり、全体ではＢと評価する。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1220C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
・Ⅰ-1-(2)-②-1)（４館共通）ア、イ

担当部課	総務課	事業責任者	課長　大西真一

【実績・成果】
（４館共通）
・館内に設置した記述式アンケートの集計結果及びウェブサイトを通じて寄せられた意見・要望を速やかに関係部署で共有し、改善に努めた。
・定期的に接遇スタッフとの打ち合わせを実施し（７件）、情報共有や意見交換を図りながら、よりよい展覧会運営を目指した。

【補足事項】
（４館共通）
・特別展の記述式アンケートの回答者に、かつて作成して在庫となっていたノベルティを贈呈するという方策を立てることで、3年度の回収率が0.6%であったところ、1.6%まで向上させることができた。また、特別展ごとにノベルティの種類を変えることで、高い回収率を維持することができた。

特別展「中将姫と當麻曼荼羅」
アンケート案内の様子

特別展「大安寺のすべて」
アンケート用ノベルティしおり５枚組セット

【定量的評価】項目	4年度実績	目標値	評定		30	元	2	3
特別展の来館者アンケート満足度	92.6%	89%	B	経	89.8	91.4	91.1	93.3
大安寺のすべて	96.4%	－	－	年	－	－	－	－
中将姫と當麻曼荼羅	96.1%	－	－	変	－	－	－	－
第74回正倉院展	83.9%	－	－	化	－	－	－	－
春日大社若宮国宝展	94.1%	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
特別展の記述式アンケートでは、回答者にノベルティを贈呈するという新たな方策を立て、回答率の向上に努めた。また、寄せられた意見・要望については、関係部署で内容を共有した上で適宜改善に努めていることから、着実に計画を実行することができておりB評価とした。5年度以降もアンケート回収率向上を図り、来館者の声を館の運営により反映できるように努める。

【中期計画記載事項】
特別展等については、積年の研究成果を活かしつつ、国民の関心の高い時宜に適った企画を立案し、国内外の博物館と連携しながら我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。
特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を年度計画において設定する。また、特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとし、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、その達成に努める。
（奈良国立博物館）年２～３回程度
なお、特別展来館者アンケートを実施し、その満足度については、前中期目標の期間と同程度の水準の維持を目指し、常に展示内容等の改善を図る。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
4年度に開催した特別展における来館者満足度は、3年度に引き続き、目標値及び前期中期目標の期間の実績を上回っており中期計画を順調に遂行した。5年度以降も引き続き来館者の意見・要望を参考に、特別展における満足度の向上に努めていく。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　1220D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
・Ⅰ-1-(2)-②-1)（４館共通）ア、イ

担当部課	学芸部企画課	事業責任者	課長　伊藤信二

【実績・成果】
（４館共通）
ア　特別展の開催にあたって、来館者アンケートを実施した。
・特別展「北斎」では88.4%の満足度を得た。北斎の多面的な画業を文化交流の観点も加えて紹介し、国内で初めて一般公開した「日新除魔図」（宮本家本）や同図の写真撮影を許可して満足度を高め、来館者が飛躍的に伸びた。
・特別展「琉球」では90.8%の満足度を得た。本展は沖縄本土復帰50年記念という時宜を得た企画で、東京国立博物館との巡回展であった。文化交流拠点であった琉球は、開館以来、当館が調査研究や展示、作品収集に一貫して取り組んできた。沖縄県関係機関とも協力した本展は、研究の到達点を存分に反映し高く評価された。
・特別展「ポンペイ」では、90.8%の満足度を得た。本展は東京国立博物館、京都市京セラ美術館、宮城県美術館、当館の順に巡回したが、古代ポンペイの遺品という稀少性だけでなく、特別展示室の特性を十分に活かした展示ディスプレイを工夫して魅力的な展示空間を演出し、高い満足度となった。
・特別展「加耶」においては、86.0%の満足度を得た。本展は国立民俗学博物館との巡回であったが、当館では巡回作品による第一部「加耶の興亡」に加えて、国内所蔵作品による第二部「渡来人」を追加することで、視覚的・学術的に厚みを増した展示となり、当館としては記録的な図録販売率となるなど高い満足度を得た。

【補足事項】

【定量的評価】項目	4年度実績	目標値	評定		30	元	2	3
特別展の来館者アンケート満足度	89.0%	86%	B	経	86.7	84.0	89.2	89.2
北斎	88.4%	－	－	年	－	－	－	－
琉球	90.8%	－	－	変	－	－	－	－
ポンペイ	90.8%	－	－	化	－	－	－	－
加耶	86.0%	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
全ての特別展で目標値を超える満足度を得た。いずれも、当館の独自性を反映したテーマ設定やディスプレイ、分かり易いグラフィックパネル、各種イベントの開催などに取り組み、高い満足度を得た。この実績から年度計画は達成できたとし、B評定とした。

【中期計画記載事項】
特別展等については、積年の研究成果を活かしつつ、国民の関心の高い時宜に適った企画を立案し、国内外の博物館と連携しながら我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。
特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を年度計画において設定する。また、特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとし、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、その達成に努める。
（九州国立博物館）年２～３回程度
なお、特別展来館者アンケートを実施し、その満足度については、前中期目標の期間と同程度の水準の維持を目指し、常に展示内容等の改善を図る。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
年度通算では目標値を越える満足度を得ており、中期計画に基づいて着実に事業推進が出来ているため、左記の評定とした。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1221Aア

中項目	１．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展		
【年度計画】 ア　特別展「空也上人と六波羅蜜寺」（4年3月1日～5月8日） （目標来館者数3万人）			
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸企画部長　浅見龍介

【実績】

展覧会名	特別展「空也上人と六波羅蜜寺」
会　　期	3月1日(火)～5月8日(日)(62日間)
会　　場	東京国立博物館　本館特別5室
主　　催	東京国立博物館、六波羅蜜寺、朝日新聞社、テレビ朝日、BS朝日
作品件数	17件(うち重要文化財10件)
来館者数	146,085人(目標値5万人、達成率292.2%) ※本項の数値は全て3年度と4年度の値を合わせた通期の数値としている。
入場料金	一般 1,600円、大学生 900円、高校生 600円、中学生以下無料
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度86.4%

告知ポスター

【成果】

企画構成 展示作品	空也上人は、平安前期に阿弥陀信仰をいち早くひろめた僧侶であり、市井の人々に救いの道を示したので、市の聖、阿弥陀聖と呼ばれた。空也上人が、京都東山に創建した六波羅蜜寺には、上人の像が伝わる。本年は空也上人没後1050年にあたり、空也上人立像を公開するほか、空也上人のもとで造られた四天王立像、定朝作とされる地蔵菩薩立像、運慶作の地蔵菩薩坐像など、平安から鎌倉時代の彫刻の名品を展示し、六波羅蜜寺の歴史と美術を通して、信仰の厚みにも思いをはせる機会とした。
学術的意義	本展の終了後、六波羅蜜寺では新しい宝物館が開館し、当館研究員は返却と同時に展示指導を行った。 空也上人像、伝定朝作地蔵菩薩立像、伝平清盛坐像等のX線CT調査を実施した。その報告は『MUSEUM』に発表する予定である。
教育普及	4月2日に特別展「空也上人と六波羅蜜寺」記念講演会（於平成館大講堂）を開催した。講師：六波羅蜜寺山主川崎純性
その他 (運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等)	報道内覧会：2 月 28 日（月）185 名出席。ポスター、チラシ、DM を制作。交通広告：JR 山手線 8 駅 9 面ほか、SNS・WEB 広告：Facebook/Instagram フィード、Twitter プロモツイート、LINE 広告、YouTube トゥルービューインストリーム広告出稿。新聞：朝日新聞イベントガイド、特集紙面ほか、雑誌：生活の友社「美術の窓 2021 年 12 月号」、新潮社「芸術新潮 2021 年 12 月号」、生活の友社「美術の窓 3 月号」、日経 BP マーケティング「日経おとなの OFF 別冊 2022 年絶対見逃せない美術展」、JR 東日本「大人の休日倶楽部」、時空旅人「大人が観たい美術展 2022」、メディカルクオール「月刊メディカルクオール 4 月号」ほか、テレビ：NHK「日曜美術館アートシーン」、BS 日テレ「ぶらぶら美術・博物館」、テレビ朝日「じゅん散歩」、テレビ朝日「中居正広のニュースな会」、テレビ東京「出没！アド街ック天国」、TBS「東大王」などで放映。その他、TVCM、当館公式ウェブサイト、博物館ニュース、展覧会公式ウェブサイト、展覧会公式 Twitter 等で情報発信を実施した。
補　足	 会場内画像　 会場内画像

【定量的評価】項目	4年度実績	目標値
来館者アンケート満足度	86.4%	86%

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ａ	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルス感染症の拡大防止策として日時指定制を行わざるを得ない状況であったが、開館時間の延長も行い、目標値を大きく上回る来館者を迎えることができた。また空也上人立像をはじめとする平安から鎌倉時代の彫刻の名品を展示することで、空也上人と六波羅蜜寺に関する高品質な展示を行うことができ、学術的にも意義の深いものとなった実績を踏まえ、Ａ評価とした。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1221Aｲ

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展		
【年度計画】 イ　沖縄復帰50年記念特別展「琉球」（5月3日～6月26日） （目標来館者数5万人）			
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸企画部企画課出版企画室主任研究員 三笠景子

【実績】

展覧会名	沖縄復帰50年記念特別展「琉球」
会　　期	5月3日(火・祝)～6月26日(日)(48日間)
会　　場	東京国立博物館　平成館
主　　催	東京国立博物館、NHK、NHKプロモーション、読売新聞社、文化庁
作品件数	289件(うち国宝60件、重要文化財17件)
来館者数	90,395人(目標値5万人、達成率180.8%)
入場料金	一般2,100円、大学生1,300円、高校生900円、中学生以下無料
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度85.3%

告知ポスター

【成果】

企画構成 展示作品	令和4年(2022)は沖縄県の復帰50年という節目の年に当たるため、これを記念して、強く輝き続ける琉球の歴史と文化を過去最大規模の展覧会を通じて紹介した。本展は、アジアにおける琉球王国の成立、及び文化の形成と継承の意義について、第1章「万国津梁　アジアの架け橋」、第2章「王権の誇り　外交と文化」、第3章「琉球列島の先史文化」、第4章「しまの人びとと祈り」、第5章「未来へ」という構成で文化財を通じて紹介した。
学術的意義	本展は、書画、工芸、考古、民族、歴史資料の多岐にわたる分野から、琉球の歴史と文化を取り上げたかつてない規模の展覧会である。最新の琉球・沖縄研究を反映した内容に加え、失われた琉球の美術工芸を復興させ、未来へ継続するべく活動を行っている様々な技術者の現在の取り組みに触れた点においても、文化財の公開、及び保護の観点から学術的意義は大きい。
教育普及	ジュニアガイド『沖縄復帰50年記念特別展 琉球』を編集するとともに、Webサイトに掲載した。会場配布2,500部、学校等配布65,766部。 6月10～11日までの2日間、連続講座「未来へつなぐ琉球・沖縄文化」(於平成館大講堂)を開催した。参加者数317名。
その他 (運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等)	報道内覧会（124 媒体 162 名出席）東京／九州会場先行チラシ（A4）本チラシ（A3 折）ポスター（B1・B2・B3）制作、マスコミ、博物館等に DM 発送、読売新聞紙上での紹介及び朝日新聞広告出稿、読売本社 1 階マルチビジョン、有楽町 Bic Vision 及びテレビスポット広告、JR 及び各私鉄交通広告を実施したほか、公式 WEB サイト、SNS アカウントで情報発信を行った。また、NHK「日曜美術館」ほか民放ニュースで放映され、ニコニコ生放送の配信も行った。また「芸術新潮」「和楽」「サライ」「時空旅人」などに紹介記事が掲載された。
補　足	 会場風景　第2章「王権の誇り　外交と文化」 会場風景　第5章「未来へ」

【定量的評価】項目	4年度実績	目標値
来館者アンケート満足度	85.3%	86%

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ａ	【判定根拠、課題と対応】 展覧会の準備期間は、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い国内の移動制限もあったが、巡回館である九州国立博物館や沖縄県内の研究者とリモート会議などによる協議を重ねて、沖縄復帰 50 年にふさわしく、琉球の歴史を辿り、総合的に琉球の文化や芸術を紹介する作品を集めた画期的な展覧会を開催することができた。アンケート満足度は目標値に達しなかったものの、沖縄県が長年にわたって取り組んできた文化財保護の取り組みを紹介できた意義は大きいと判断し、Ａ評価とした。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1221Aウ

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展		
【年度計画】 ウ　東京国立博物館創立150年記念特別展「国宝 東京国立博物館のすべて」（10月18日～12月11日） （目標来館者数8万人）			
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸研究部列品管理課登録室長　佐藤寛介

【実績】

展覧会名	東京国立博物館創立150年記念特別展「国宝 東京国立博物館のすべて」
会　　期	10月18日(火)～12月18日(日)(54日間)　※予定会期を1週間延長した。
会　　場	東京国立博物館　平成館
主　　催	東京国立博物館、毎日新聞社、NHK、NHKプロモーション、独立行政法人日本芸術振興会、文化庁
作品件数	150件(うち国宝89件、重要文化財27件)
来館者数	351,153人(目標値8万人、達成率438.9%)
入場料金	一般：2,000円、大学生：1,200円、高校生：900円
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度91.9%

告知ポスター

【成果】

企画構成 展示作品	当館は日本で最も長い歴史をもつ博物館である。令和4年（2022）は当館の創立150年の節目に当たる年であり、これを記念して、約12万件という膨大な所蔵品の中から国宝89件すべてを含む名品と、当館の歴史を物語る関連資料を紹介する展覧会を開催した。展覧会は2部から構成され、第1部「東京国立博物館の国宝」では当館が所蔵するすべての国宝を公開し、第2部「東京国立博物館の150年」では明治から令和に至る博物館150年の歩みを3期に分けて紹介した。
学術的意義	国宝に代表される名品と150年の歴史を組み合わせて、当館の全体像を多角的に紹介したことの学術的意義は計り知れない。作品解説では各分野における最新の調査研究成果を反映させるとともに、伝来や収蔵時期、修理記録などを併記することで当館の文化財コレクションの成り立ちと博物館の社会的役割を紹介した。本展は当館のみならず、日本の博物館の来し方行く末の大きな道標になるものといえる。
教育普及	ジュニアガイド『トーハクものがたり』を編集、刊行するとともに、Webサイトに掲載した。会場配布10,000部、学校等配布21,530部。また下敷きも編集した。会場配布数10,000部。11月24日に記念講演会「特別展『国宝　東京国立博物館のすべて』見どころ解説」（於平成館大講堂）を開催した。講師：副館長 富田淳、登録室長 佐藤寛介、列品管理課長 沖松健次郎、百五十年編纂室長 恵美千鶴子、平常展調整室研究員 増田政史。参加者数300名。
その他 （運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等）	報道内覧会：5月20日（金）75名出席。ポスター・チラシ制作、DM発送実施。交通広告：東京メトロ電飾ボード3駅、JR駅NTボード24駅25面など出稿。新聞：毎日新聞特集紙面・作品紹介連載（全10回）ほか。雑誌：「芸術新潮」「美術の窓」「文藝春秋」「和樂」「サライ」「ノジュール」などに掲載。テレビ：NHK「生中継！8K特別内覧会」「東京国立博物館150年 “推し”の国宝 大公開！」「日曜美術館」「チコちゃんに叱られる！」「有吉のお金発見　突撃！カネオくん」、BS日テレ「ぶらぶら美術館・博物館」、日本テレビ「1億3000万人のSHOWチャンネル」などで放映。その他、TV・ラジオCM、新聞広告、WEB広告等を展開。当館公式ウェブサイト、展覧会公式ウェブサイト、SNSでも情報発信を実施。展覧会公式Twitterでは開幕まで1日1件、本展で公開される全国宝を紹介するなどの企画を実施した。
補　足	 第１部　展示風景（国宝刀剣） 第２部　展示風景（皇室ゆかりの作品）

【定量的評価】項目	4年度実績	目標値
来館者アンケート満足度	91.9%	86%

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ａ	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナ感染拡大予防のため、日時指定を導入したが、来館者数・アンケート満足度ともに目標値を大幅に超えた。予約が取れなかった観覧希望者の多大な要望を受けて、館員一同が作品の保存や運営にかかる検討を行い、1週間の会期延長という対応ができた。東京国立博物館創立 150 年を記念するとともに、未来に期待を感じさせる企画となった。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1221Aエ1

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展		
【年度計画】 エ　日中国交正常化50周年記念特別デジタル展「故宮の世界」（7月26日～9月19日） （目標来館者数3万人）			
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸企画部企画課特別展室長　猪熊兼樹

【実績】

展覧会名	日中国交正常化50周年記念特別デジタル展「故宮の世界」
会　　期	7月26日(火)～9月19日(月・祝)(50日間)
会　　場	東京国立博物館　平成館
主　　催	東京国立博物館、故宮博物院、凸版印刷株式会社
作品件数	23件（うち重要文化財1件）
来館者数	27,839人(目標値3万人、達成率92.8%)
入場料金	一般 1,500円、大学生 900円、TNM&TOPPANミュージアムシアターセット券　1,800円
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度63.7%

告知ポスター

【成果】

企画構成 展示作品	本年（2022年）が日中国交正常化50周年の節目に当たるのを記念して、故宮博物院と当館、そして両者と長年にわたり共同研究を行ってきた凸版印刷が共同で、紫禁城をテーマにした特別デジタル展を開催した。第1章は「デジタル故宮博物院」として、清時代の紫禁城の一部をデジタル空間で再現し、故宮が収蔵する名品をデジタルデータで紹介した。第2章は「紫禁城の書画工芸」として、当館が管理する清朝皇帝の愛蔵品や紫禁城で鑑賞され用いられていた書画工芸を紹介した。
学術的意義	故宮博物院と凸版印刷は20年にわたって紫禁城の宮殿や文物のデジタルアーカイブデータを構築しており、その成果を活用して宮殿の再現VRや高精細な文物のデジタル展示を行った。特に本展のための新開発として、名画「千里江山図」を高さ約3m、幅約22mの大画面に映すことで、通常であれば脳内で想像する雄大な景色を、実際に眼前に展開するという実験的な展示を行った。またデジタル展示を補完するため、当館が管理する書画工芸を清時代の紫禁城というテーマのもとに選りすぐって展示した。これらの展示内容は故宮博物院と凸版印刷と意見交換を行いながら作り上げたもので、デジタル展示の将来や課題について検討する好機となった。
教育普及	会期中にTNM & TOPPAN ミュージアムシアターにおいて「故宮VR 紫禁城・天子の宮殿」を上演した。
その他 (運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等)	報道内覧会：7月25日(月)47人参加。ポスター、チラシ制作、DM実施。新聞：朝日新聞、日本経済新聞。テレビ：テレビ朝日「ゴーちゃん。Lab.」8/28放映。展覧会公式ウェブサイト、SNS(Twitterのみ)にて情報発信。当館ウェブサイト「1089ブログ」ページにて、本展の紹介を5回実施。本展については想定来館者数を検討した結果、予約不要で入場可能とした。また、来館者数増加のために総合文化展料金で入場した来館者について、本展との差額料金で観覧可能とする措置をとった。
補　足	 第1章「デジタル故宮博物院」の展示 第2章「紫禁城の書画工芸」の展示

【定量的評価】項目	4年度実績	目標値
来館者アンケート満足度	63.7%	86%

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 当初は日中国交正常化 50 周年を記念して、故宮博物院の名品を紹介する展覧会を企画していたが、新型コロナウイルス感染拡大予防のために作品の輸送が困難な状況が続いたため、故宮博物院と協議した結果、急遽方針転換をしてデジタル展示を開催することとした。アンケート満足度・来館者数ともに目標値には届かなかったものの、限られた条件のなかで展示方法について工夫を凝らし、最新の技術を用いた画期的な展覧会が実現できたといえる。今後もデジタル展示の長所を見極めながら、いかに展示空間を構成する要素とするか検討していきたい。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1221Aエ2

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展		
【年度計画】 エ　特別企画「大安寺の仏像」（5年1月2日～3月19日）			
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸研究部列品管理課平常展調整室研究員 増田政史

【実績】

展覧会名	特別企画「大安寺の仏像」
会　　期	5年1月2日(月・休)～3月19日(月)(66日間)
会　　場	東京国立博物館　本館11室
主　　催	東京国立博物館、独立行政法人日本芸術文化振興会、文化庁
作品件数	15件(うち重要文化財7件)
来館者数	177,515 人 ※本企画のみの入館者数は計測していないため、本企画期間の本館の入館者数を採用した。
入場料金	一般 1,000円、大学生 500円　※総合文化展料金
ｱﾝｹｰﾄ結果	アンケートなし

告知ポスター

【成果】

企画構成 展示作品	奈良市にある大安寺は日本最初の国立寺院であり、国際色豊かな環境で多くの優秀な僧侶たちを育てた仏教研究の中心拠点として栄えた。大安寺に伝わる木彫の仏像群は、いずれも一木造で優れた身体表現や細やかな彫りに奈良時代の木彫像の特色が表れている。本展では、大安寺に伝わる仏像のほか、大安寺出土の瓦などもあわせて展示し、日本仏教の源流ともいうべき大安寺の歴史を紹介した。
学術的意義	本展では、奈良・大安寺に伝わる貴重な奈良時代の木彫像7躯を中心に展示した。平安時代以降に主流となる木彫像の先駆的な作例として木の性質を生かした表現や特徴などを解説し、日本最初の国立寺院である大安寺の歴史をパネルや動画などで紹介することができた。また会期前に出品作品のX線CT調査を実施し、今後の研究資料の作成を行うこともできた。
教育普及	特別企画「大安寺の仏像」講演会の一環として、YouTube動画「大安寺仏像の魅力」（講師：平常展調整室研究員 増田政史）の配信を行った。再生回数約1500回（5年3月19日時点）。 また2月16日に記念講演会「大安寺の歴史と仏像」（於平成館大講堂）を開催した。講師：大安寺貫主 河野良文、平常展調整室研究員 増田政史。参加者数約350名。
その他 (運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等)	JR東京駅サイネージ広告（1/2～2/5）、上野駅サイネージ広告（1/2～31）、@プレスにてプレスリリース発信、各種ニュースサイトおよび『月刊うえの』、『大人のおしゃれ手帖』などに掲載。
補　足	 会場風景（ケース内展示） 会場風景（露出展示）

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 日本仏教の源流ともいうべき奈良・大安寺に伝わる貴重な奈良時代の木彫像について最新の研究成果に基づいて紹介することができた。また仏像に留まらず、大安寺出土の瓦（当館所蔵）やパネル・動画などを利用して、大安寺の歴史についても紹介することができた。学術的にも意義のある調査が実施できたほか、解説にも工夫を凝らし、教育普及についても一定の成果をあげることができたため、Ｂ評定とした。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1221Aｴ3

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展		
【年度計画】 Ⅰ-1-(2)-②-1)（東京国立博物館）			
担当部課	総務部総務課 学芸研究部調査研究課	事業責任者	課長　竹之内勝典 課長　松嶋雅人

【実績】

展覧会名	「150年後の国宝展―ワタシの宝物、ミライの宝物」
会　　期	11月2日(水)～5年1月29日(日)(72日間)
会　　場	表慶館
主　　催	東京国立博物館
作品件数	一般公募67件、出展協力企業展示31件
来館者数	178,525人
入場料金	一般 1,000円、大学生 500円　※総合文化展料金
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度92.1%

キービジュアル

【成果】

企画構成 展示作品	今から150年後の西暦2172年に伝え残していきたい国宝候補を、その背景のストーリーと共に展示するものである。一般部門及び企業部門から構成される。一般部門は「ワタシの宝物、ミライの宝物」というテーマで一般公募を行い、その中から当館が選んだものを展示。企業部門については、展覧会に出展協力いただいた企業と、当館にてどのような国宝候補が適当かを協議の上、展示を行った。
学術的意義	長い歴史の中で生まれた文化・芸術をアーカイブする装置である博物館は、過去を今の人たちに伝えることが大きな使命である。本展は、そのような使命とは若干異なり、過去を保存する装置である博物館が未来をみつめることを意図したプロジェクトとして計画した。 文化財ではないものを展示すること、そして、わたしたち一人ひとりが大切に思うものとして未来に託すこと、これらは、時代や文化が変わっていく中で、文化財のあり方も変わっていくのではないかという提言であり、歴史が点ではなく線であることを意識し、今の身の回りのものが未来の国宝になるかもしれないという日常と非日常の交差を体験することを意図している。
教育普及	11月20日、吉本興業(株)と大講堂にて漫才に関するワークショップを実施。5年1月13日、大講堂にてキッコーマン(株)と醤油に関する講演会を実施。(株) BANDAI SPIRITSと5年1月21、22、28、29日、平成館ラウンジ等にて廃材を利用した環境に配慮したプラモデル製品に関するワークショップを実施した。
その他 (運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等)	5年1月1日には、NHKの元旦番組「2023年新春！　ニッポン”ふるさと”リレー」にて生中継を行うほか、日本テレビ「news zero」、TBSテレビ「ひるおび」など、多くの番組で取り上げられた。また、正門プラザでは本展のオリジナルグッズや企業の関連商品の販売を行った。11月20日、吉本興業(株)と大講堂にて漫才イベントを実施。11月23日、JRAの協力によりポニーふれあい体験イベントを実施。5年1月12日、応挙館にてKDDIとトークイベントを実施。
補　足	 会場写真　 会場写真

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｓ	【判定根拠、課題と対応】 本展により従来の展覧会事業とは異なる視点から、文化財の未来を考える機会を提供できたことに加え、広報及び物販、イベントは当初の想定以上に実施することができた。また、本展は企業の出展協力を募ることで資金調達を行う特異な事業スキームにより実施に至った。以上のことから、質的にも量的にも大きく目標を超えたことと評価する。本展で醸成された企業と連携する風土については、今後も生かしていきたい。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1221Bア

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
ア　伝教大師1200年大遠忌記念 特別展「最澄と天台宗のすべて」（4月12日～5月22日）
（目標来館者数5万人）

担当部課	学芸部	事業責任者	保存修理指導室長　大原　嘉豊

【実績】

展覧会名	伝教大師1200年大遠忌記念 特別展「最澄と天台宗のすべて」
会　　期	4月12日(火)～5月22日(日)(36日間)
会　　場	京都国立博物館　平成知新館
主　　催	京都国立博物館、天台宗、比叡山延暦寺、読売新聞社、読売テレビ、文化庁
作品件数	130件（うち国宝23件、重要文化財72件、重要美術品0件）
来館者数	43,235人（達成率：86.5%）
入場料金	一般 1,800円、大学生 1,200円、高校生 700円
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度75.8%

告知チラシ

【成果】

企画構成 展示作品	最澄の遠忌にちなみ、日本における天台宗の歴史を通時代的に俯瞰する展覧会として企画した。東京・九州国立博物館を巡回する展覧会であることを踏まえ、展示では各館の立地に即して、全国に展開した天台宗の地域的独自性をも示すべく、京都会場は畿内・北陸に焦点を当てることとした。 章構成 Ⅰ　最澄と天台宗のはじまり、Ⅱ　教えのつらなり―最澄の弟子たち、Ⅲ　全国への広まり―各地に伝わる天台の至宝、Ⅳ　信仰の高まり―天台美術の精華　Ⅴ　教学の深まり―天台宗思想が生んだ多様な文化、Ⅵ　現代へのつながり―江戸時代の天台宗 展示作品 重文・薬師如来立像（京都・法界寺）、重文・日吉山王金銅装神輿（滋賀・日吉大社）等、三会場での総件数は232件、そのうち当館展示件数は130件
学術的意義	宗祖である最澄の遠忌を記念するという展覧会の性格から、主催者として天台宗の参加があり、延暦寺国宝殿をはじめとする宗門側の全面的な支援を受けることができたため、これまで公開されていなかった多数の秘仏等の出展が実現した。またとないこの機会を活かすべく、東京・九州・京都の3国立博物館で緊密に連携し、写真撮影やＸ線ＣＴ撮影を手分けして行い、その成果を写真パネルや3Dプリンターで作成した模型として展示するなど、最新の調査・研究成果を展示に盛り込むことが出来た。
教育普及	・記念講演会（4回） 下記の通り実施し、各回100名ほどが参加した。 4月16日【対談】「伝教大師最澄を語る」阿部 昌宏 氏（天台宗 宗務総長）、露（つゆ）の団姫（まるこ） 氏（落語家、天台宗道心寺 住職）、【落語】「仏教落語」露の団姫 氏 4月23日【対談】「日吉大社山王祭と神輿」須原 紀彦 氏（日吉大社 禰宜）、末兼 俊彦（当館 主任研究員） 5月7日「天台宗の信仰と仏画」大原 嘉豊（当館 保存修理指導室長） 5月14日「天台のみほとけたち」淺湫 毅（当館 上席研究員） ・鑑賞ガイドを多言語（日・英・中・韓）で作成し配布した。 ・キャンパスメンバーズ会員校の学生及び教職員を対象に、本展覧会の見どころなどを解説する講演会を開催した。
その他 (運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等)	新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、展覧会会期中も運営・広報などについて、共催者間で緊密に協議を重ねた。広報面では、各種新聞・雑誌で展覧会紹介記事の掲載があり、虎ブログには3回の記事掲載を行った。
補　足	

【定量的評価】項目	4年度実績	目標値
来館者アンケート満足度	75.8%	82%

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
アンケート調査による来館者満足度調査では形の上で目標値を達成できていないが、空調に対する評価の低さが満足度を下げており、展示に関する主要項目（展示品・展示方法・解説文）の満足度平均は81.7%であることや、最新の調査・研究を反映した展覧会とできたことからも、Ｂと評価する。アンケートについては、展示全体に対する評価を正しく引き出せる形式への変更が、5年度以降の課題である。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1221Bｲ

中項目	１．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
イ　特別展「河内長野の霊地 観心寺と金剛寺―真言密教と南朝の遺産―」（7月30日～9月11日）
（目標来館者数3万人）

担当部課	学芸部	事業責任者	企画室研究員　井並林太郎

【実績】

展覧会名	特別展「河内長野の霊地 観心寺と金剛寺―真言密教と南朝の遺産―」
会　　期	7月30日(土)～9月11日(日)(38日間)
会　　場	京都国立博物館　平成知新館
主　　催	京都国立博物館
作品件数	130件（うち国宝4件、重要文化財31件、重要美術品3件）
来館者数	28,211人（達成率：94.0%）
入場料金	一般1,200円、大学生600円、高校生300円
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度83.9%

告知チラシ

【成果】

企画構成 展示作品	大阪・河内長野市の真言宗寺院である観心寺と金剛寺の文化財を特集した。両寺は高野山へつづく複数の街道が合流する地域に位置し、南北朝時代には後村上天皇の行宮となった。そのため、古代から近世にかけての密教美術のほか、武将・楠木正成をはじめとする南朝ゆかりの遺品が数多く伝えられている。当館が平成28年度（2016）から令和元年度（2019）にかけて実施した文化財悉皆調査（科研）の成果公開を兼ね、すでに知られた名品に新出作品を加えて構成することによって歴史を通覧し、文化財や寺、ひいては地域の歴史的・文化的な意義を発信した。 構成：第1章　真言密教の道場　　第2章　南朝勢力の拠点　　第3章　河内長野の霊地 展示作品：国宝　観心寺勘録縁起資財帳（観心寺蔵）、国宝　日月四季山水図屏風（天野山金剛寺蔵）、重要文化財　伝宝生如来坐像（観心寺蔵）、重要文化財　腹巻及膝鎧（天野山金剛寺蔵）、重要文化財　観心寺縁起（観心寺蔵）、重要文化財　遊仙窟（一部新発見、天野山金剛寺蔵）、厨子入愛染明王坐像（新発見、天野山金剛寺蔵）など全130件
学術的意義	本展の前提となった4年間の悉皆調査（科研）は、日本史・仏教史・美術史いずれにおいても重要な2つの寺の伝来文化財を整理し、また歴史的に位置づけて報告書を刊行するというもので、新発見作品をはじめとして多くの学術的な知見が得られた事業であった。本展は、一般の人々が入手しづらく、また実物から直接情報が得られないという報告書の欠点を補うかたちで、幅広い分野に関わる豊富な調査成果を世間に発信できる機会となった。とくに金剛寺に伝わる重文の甲冑20件を全て1部屋に並べ、大量の中世武具を比較検討することが可能となったのは実物の展示ならではの機会であった。観心寺の大壇具など近世の作品も多く取り上げ、京都と歴史的に繋がりのある地域寺院の営みを通史的に明らかにしようとした本展は、10年ぶりの自主予算による特別展として独自性も高く、学術的意義のきわめて大きい展覧会であったといえる。
教育普及	・記念講演会（5回） 下記の通り実施を行い、各回100名ほどが参加した。 7月30日「観心寺・金剛寺と南北朝動乱」尾谷 雅彦 氏（元河内長野市教育委員会） 8月20日「観心寺・金剛寺の歴史と文化財調査」井並 林太郎（当館 研究員） 8月27日「観心寺・金剛寺の金属工芸」末兼 俊彦（当館 主任研究員） 9月3日「観心寺・金剛寺の聖教」上杉 智英（当館 研究員） 9月10日「真言密教のみほとけたち―観心寺・金剛寺を中心に―」淺湫 毅（当館 上席研究員） ・鑑賞ガイドを多言語（日・英・中・韓）で作成し配布した。 ・キャンパスメンバーズ会員校の学生及び教職員を対象に、本展覧会の見どころなどを解説する講演会を開催した。
その他 (運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等)	展覧会会期中は、新型コロナウイルス感染拡大防止に努めるべく観覧者の時間的分散を図るとともに、観覧機会の拡大に努めるべく夜間開館を行った。広報等については、各種新聞、雑誌で展覧会紹介記事が掲載され、虎ブログについては3回の記事掲載を行った。また、河内長野市と連携し、双方の媒体で展覧会情報を発信した。
補　足	

【定量的評価】項目	4年度実績	目標値
来館者アンケート満足度	83.9%	82%

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ａ

【判定根拠、課題と対応】
研究員が主体的・長期的に寺院の文化財悉皆調査を行い、その成果を一般に還元するという順序で実施した本展は、文化財保護・研究・情報発信を使命とする当館にとってひとつの理想的な形であったといえる。10 年ぶりの自主予算による特別展であったが、各部署の連携によって円滑に準備を進め、運営面では新型コロナウイルスによる影響のなか、夜間開館を実施し、感染症対策に努めることで来館者に安全を配慮した形での展覧会を開催することができた。来館者数は目標値にわずかに及ばなかったが、図録が売り切れとなるなど、来場者の多くが観覧によって関心を深めたことが窺えるため、特にＡと評価した。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1221Bｳ

中項目	１．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展		
【年度計画】 ウ　特別展「京に生きる文化　茶の湯」（10月8日～12月4日） （目標来館者数5万人）			
担当部課	学芸部	事業責任者	調査・国際連携室長　降矢　哲男

【実績】

展覧会名	特別展「京に生きる文化　茶の湯」
会　　期	10月8日(土)～12月4日(日)(50日間)
会　　場	京都国立博物館　平成知新館
主　　催	京都国立博物館、読売新聞社、文化庁
作品件数	245件（うち国宝27件、重要文化財74件、重要美術品2件）
来館者数	91,675人（達成率：183.4%）
入場料金	一般1,800円（1,600円）、大学生1,200円（1,000円）、高校生700円（500円）
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度72.1%

告知チラシ

【成果】

企画構成 展示作品	国内外を問わず多くの人々が訪れる国際観光都市・京都は、社寺建築や美術工芸などの歴史遺産や茶道、華道、能、狂言、舞踊などの伝統文化が今も生きている。中でも茶の湯は、平安時代末頃に中国からもたらされたものであるが、鎌倉・南北朝・室町時代と時代が進むなかで徐々に和様化し、現在では日本文化を象徴するものとして世界で認知されるまでになっている。本展では、現在でも多くの茶道の家元が本拠とし、また茶の湯の歴史のなかで中心的な役割をもった京都の地で、喫茶文化として育まれ、時代の要請に応じて変化した、茶の湯という独自の文化の形成過程を、国宝 27 件、重要文化財 74 件をはじめ計 245 件の作品によって展示した。
学術的意義	「茶の湯」という日本独自の文化は、京都を中心として形づくられたものである。これまでも、茶の湯に関する展覧会は数多く行われてきてはいるが、その形成の中心地といえる京都に視点を当て、各時代における変化や画期などを大規模に、そして通史的に構成した展示はこれまでにはなかった。また、展示室内において、古い喫茶風習を色濃く残す四頭茶礼や唐物を賞玩した会所などの設えを復元的に展示し、精巧につくられた黄金の茶室と侘びの茶室(国宝・待庵の復元)とを対比できるようにするなど、来館者が当時の空間を体感しつつ、展示作品について理解を深められるよう工夫した。
教育普及	・記念講演会（7回） 下記の通り実施を行い、各回200名ほどが参加した。 10月15日「利休の懐石」筒井 紘一 氏（京都府立大学 客員教授、茶道資料館 顧問 10月22日「京に生きる文化 茶の湯―歴史とその背景―」降矢 哲男（当館 調査・国際連携室長） 10月29日「日本の茶文化における中国絵画受容」森橋 なつみ（当館 研究員） 11月5日「京都における数寄者と茶の湯」谷 晃 氏（野村美術館 館長） 11月12日「天下人と茶の湯」竹本 千鶴 氏（國學院大學 兼任講師） 11月19日「京都における公家と茶の湯―そのはじまりと展開―」谷端 昭夫 氏（湯木美術館 理事） 12月3日「中世の文書と典籍にみる「茶」」羽田 聡（当館 列品管理室長兼美術室長） ・鑑賞ガイドを多言語（日・英・中・韓）で作成し配布した。
その他 (運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等)	展覧会会期中は、新型コロナウイルス感染拡大防止に努める必要もあり、展覧会共催者ともその運営や広報などについて協議を重ね、夜間開館を実施して展示室混雑緩和を図ることとした。広報等については、各種新聞、雑誌で展覧会紹介記事が掲載され、虎ブログについては3回の記事掲載を行った。
補　足	

【定量的評価】項目	4年度実績	目標値
来館者アンケート満足度	72.1%	82%

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
展示室が一時混雑することもあったが、夜間開館の実施を含め感染症対策に努めることで、来館者の安全に配慮して展覧会を開催することができた。アンケート調査による来館者満足度調査では、形の上で目標値を大きく下回ってしまったが、空調に対する評価の低さが満足度を下げており、展示に関する主要項目（展示品・展示方法・解説文）の満足度平均は 80.3%と 8 割を達成していることに加え、新型コロナウイルス感染症の影響が未だ残る中で、目標値の 1.8 倍以上の来館者があったことから、Ｂと評価する。アンケートについて、展示全体に対する評価を正しく引きだせる形式への変更が、5 年度以降の課題である。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1221Cア

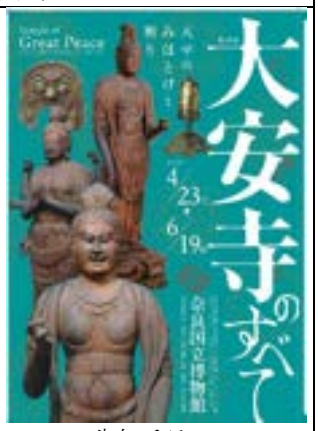
中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
ア　特別展「大安寺のすべて―天平のみほとけと祈り―」（4月23日～6月19日）
（目標来館者数5万人）

担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長　中川あや

【実績】

展覧会名	特別展「大安寺のすべて―天平のみほとけと祈り―」
会　　期	4月23日(土)～6月19日(日)(51日間)
会　　場	奈良国立博物館　東新館・西新館
主　　催	奈良国立博物館、日本経済新聞社、NHK奈良放送局、NHKエンタープライズ近畿
作品件数	124件（うち国宝10件、重要文化財50件）
来館者数	32,971人（達成率：65.9%）
入場料金	一般1,800円(1,600円)、高校・大学生1,500円(1,300円)、 小・中学生800円(500円)　※( )は前売料金
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度 96.4%



告知チラシ

【成果】

企画構成 展示作品	わが国最初の天皇発願の寺を原点とし、平城京に壮大な寺地と伽藍を構えた大安寺の歴史を、寺宝、関連作品、発掘調査成果など様々な角度から紹介した展覧会。全5章からなり、大安寺の前史、奈良時代の大安寺の威容、失われた大安寺釈迦如来の実像、大安寺を行き交う僧侶と信仰、中世以降の大安寺という様々な観点から、種々の文化財を織り交ぜて、大安寺の歴史上の存在感を感じさせる内容とした。また、大安寺制作の最新の天平伽藍CG映像を公開し、往時の伽藍の姿とゆかりの文化財とを関連付けて理解を促進する空間作りを行った。
学術的意義	本展は、南都七大寺の一つである大安寺を取り上げた、初めての大規模な展覧会である。現在大安寺が所蔵する彫刻や絵画に加え、かつての寺宝を各所から集めたことは今までにない試みであった。また、平安時代には日本随一の釈迦の理想像として賛嘆されたものの、中世末に失われた大安寺釈迦如来像の姿について、史料や図像集などを手がかりに迫ろうとする章は、研究上のトピックを市民に還元するという点で意義深いものであった。中世以降の大安寺については、興福寺と西大寺の影響下での活動や近代に至る災害と復興の歴史など、従来あまり知られていない側面に光を当てることができた。
教育普及	・公開講座（3回） 4月29日（金・祝）「大安寺伽藍縁起幷流記資財帳の考古学」講師：上原 眞人（京都大学名誉教授） 5月21日（土）「大安寺の祈りと営みー出土品を中心にー」講師：中川 あや（奈良国立博物館企画室長） 6月11日（土）「大安寺の仏像」　講師：稲本 泰生（京都大学教授） ・関連イベント（4回） 4月30日(土)、5月28日(土)「重文で朝ヨガ・呼吸法体験！～ならはくでととのいませんか？～」 4月28日（木）キャンパスメンバーズ向け特別鑑賞会 5月5日(木・祝)　親子向けワークショップ「小花もようのかざりタイルをつくろう」 ・鑑賞ガイド　「大安寺のひみつ-オニやんの展覧会レポート-」（発行部数14,000部） ・音声ガイド
その他 (運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等)	ポスター・チラシ、交通広告、新聞、TV、雑誌、ウェブサイト、Twitterなど幅広い媒体で展覧会情報を発信した。特に展覧会公式Twitterでは、大安寺の鬼瓦をモチーフにした公式キャラクターを活用して、若年層にも興味を引いてもらえるような工夫を凝らした。外部団体主催による関連イベント3件（「奈良仏像けんきゅー部大安寺展編」、「らくご男子落語会恋バナ編」、「ニコニコ美術館 特別展大安寺のすべて―天平のみほとけと祈り―を巡ろう」）に、研究員が出演した。
補　足	

【定量的評価】項目	年度実績	目標値
来館者アンケート満足度	96.4%	89%

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
奈良時代の南都の大寺院でありながら、これまで単独の大規模展が開催されてこなかった大安寺について正面から取り上げたこと、数々の関連作品で大安寺の歴史上の存在感を示せたこと、近年の発掘調査成果の蓄積を一堂に紹介できたことなどから、仏教美術を軸とした当館ならではの、時宜を得た内容を示すことができた。入館者数は目標値に届かなかったものの、来館者の満足度は非常に高かった。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1221C イ

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
イ　特別展「中将姫と當麻曼荼羅」(7月16日～8月28日)
（目標来館者数3.8万人）

担当部課	学芸部	事業責任者	主任研究員　北澤菜月

【実績】

展覧会名	貞享本當麻曼荼羅修理完成記念　特別展「中将姫と當麻曼荼羅　―祈りが紡ぐ物語―」
会　　期	7月16日（土）～8月28日（日）(39日間)
会　　場	奈良国立博物館　西新館
主　　催	奈良国立博物館、當麻寺、読売新聞社、NHK奈良放送局
作品件数	77件
来館者数	19,966人（達成率：52.5%）
入場料金	一般 1,600円、高大生 1,000円、小中生 500円、キャンパスメンバーズ学生400円、グッズ付き前売券1, 800円、研究員レクチャー付き前売券2,500円
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度 96.1%

告知チラシ

【成果】

企画構成 展示作品	本展は、綴織當麻曼荼羅（国宝、當麻寺蔵）の江戸時代に作られた模本である貞享本當麻曼荼羅（重文、當麻寺蔵）の修理完成を記念して開催された。貞享本當麻曼荼羅を修理後初めて展示するとともに、軸内納入品の紹介など、修理の成果を展示として示した。また當麻曼荼羅への信仰とそれに連動した中将姫信仰の歴史を、中世から近代にいたる展示品によって示した。展示構成は次のとおり。第1章　霊宝・當麻曼荼羅と中将姫の物語　展示作品：當麻曼荼羅厨子扉（国宝、當麻寺蔵）、當麻曼荼羅縁起（国宝、光明寺蔵）ほか、第2章　二大當麻曼荼羅の修理と貞享本の製作―江戸時代の大プロジェクト―　展示作品：貞享本當麻曼荼羅および軸内納入品（重文、當麻寺蔵）ほか、第3章　中将姫の宝物と信仰の広がり　展示作品：刺繍阿弥陀三尊来迎図（中宮寺蔵）、藕糸織阿弥陀三尊来迎図（福聚寺蔵）ほか、第4章　中将姫イメージの変遷―芸能のなかの中将姫―　展示作品：金春禅鳳自筆本　當麻（法政大学能楽研究所般若窟文庫蔵）、鵺山姫舎松　浄瑠璃正本（早稲田大学演劇博物館蔵）ほか。
学術的意義	貞享本當麻曼荼羅（重文、當麻寺蔵）については、修理中のみ可能な裏彩色の調査や蛍光エックス線による顔料分析などを修理中に行ったほか、修理後には詳細な分割写真を撮影した。展示に際してこれら調査成果及びこれらをもとにした研究成果の発表をした。修理に際しては、軸内納入品も多数発見され、その全貌についても翻刻を行い、展示と図録で紹介した。また展示構成として當麻曼荼羅と連動する中将姫への信仰の歴史を中世から近代まで視野に捉え、仏教説話の主人公が芸能に取り入れられ貴族から庶民にいたるまで広く受容されていくさまを、女性の信仰という視点を含めて提示することができた。
教育普及	・当館講堂における公開講座を次の２回行った。 ①「貞享本當麻曼荼羅とその周辺」（講師：北澤 菜月　奈良国立博物館学芸部主任研究員） ②「中将姫説話の展開」（講師：日沖 敦子 氏　文教大学文学部日本語日本文学科准教授） ・キャンパスメンバーへの解説付特別鑑賞会を１回実施した。 ・蓮糸織り体験ワークショップを開催し、文化財の素材と技法について紹介した。 ・中将姫と當麻曼荼羅に関する説話を分かりやすく漫画化したチラシを作成し無料配布した。 ・展示会場内に當麻曼荼羅の細部を見ることができるビュアーを設置し、観覧者の理解に供した。
その他 (運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等)	ポスター、チラシ、交通広告、新聞広告、テレビ番組、雑誌記事、ウェブサイト運営、SNSなど多数の媒体により展覧会情報を発信した。 當麻寺と連携してスタンプラリーを行った。
補　足	

【定量的評価】項目	4年度実績	目標値
来館者アンケート満足度	96.1%	89%

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 當麻寺を中心に當麻曼荼羅と中将姫信仰に関わる作品や資料の調査を実施し、その成果を展覧会に生かすことができた。また當麻曼荼羅と中将姫への信仰について、女性の信仰を軸に文化史的事象として新たな視点で一般に示すことができた。なお、会期期間は新型コロナウイルスの感染が全国で拡大しており、その影響で入場者数は目標値に達しなかったが、来館者アンケート満足度は非常に高い数値を得ることができており、評価はＢとした。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1221Cウ

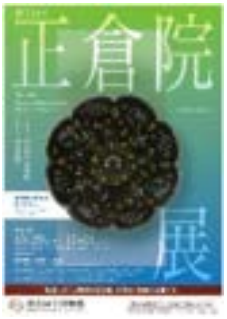
中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
ウ　特別展「第74回 正倉院展」（予定）（10月～11月）
（目標来館者数6万人）

担当部課	学芸部	事業責任者	工芸考古室　研究員　三本　周作

【実績】

展覧会名	特別展「第74回 正倉院展」
会　　期	10月29日(土)～11月14日(月)(17日間)
会　　場	奈良国立博物館　東新館・西新館
主　　催	奈良国立博物館
作品件数	59件
来館者数	87,672人（達成率：146.1%）
入場料金	一般2,000円、高校・大学生1,500円、小・中学生500円、キャンパスメンバーズ学生400円、研究員レクチャー付き鑑賞券3,000円
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度　83.9%



告知チラシ

【成果】

企画構成 展示作品	正倉院宝物約9,000件の中から59件が出陳された。4年度も、楽器・調度品・仏具・染織品・文書など、正倉院宝物の全体像がうかがえる構成となった。中でも、日本を代表する名香の一つ・全浅香や、聖武天皇の娘・称徳天皇が東大寺に奉納した銀壺など、正倉院宝物中でも認知度の高い品が展示の目玉となった。奈良時代の仏具や、貴族が身につけた装身具がまとまった点数出陳されたのも特筆される。構成上は、正倉院宝物の内容をわかりやすくたどれるようテーマ別に宝物を展示し、作品解説のみならず、研究成果を紹介するパネルも充実させて、より宝物に親しんでいただけるような展示とした。
学術的意義	宮内庁正倉院事務所が継続して実施している宝物調査の成果（主として科学的手法によって素材や技法が明らかにされたもの）を、会場題箋やパネル、図録の解説に盛り込み、普段はなかなか知り得ない宝物についての詳しい情報に触れていただける場となった。また、今回の出陳宝物について、当館研究員による新たな研究成果も会場パネルや図録コラムにて紹介することができた。
教育普及	新型コロナウイルス感染症の影響下で来館者数の制限を行ったため、来館が叶わなかった方にも宝物の魅力に触れていただけるよう、動画配信による展示紹介が行われた。動画は宝物の魅力を雅楽師や研究員のコメントとともに紹介する読売テレビ製作のものや、特別協力の読売新聞社主催で行われた講演会（うち１回の講師を当館研究員が担当）を収録したものなどであった。 また、講座は予約制とし、会期中に2回実施した。 例年実施しているボランティアによる講堂での解説は実施できなかったが、音声ガイドでは研究員自身による解説を導入し、宝物のより詳しい解説に触れていただくことができた。音声ガイドの貸出率は24.8%であった。
その他 (運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等)	正倉院展は、平常時であれば会期17日間で20万人以上が来館するため、新型コロナウイルス感染症の蔓延防止の観点から入場制限を実施した。前売日時指定制とし、1時間あたりの人数を700人と定めた。予約はインターネットと電話で受け付けた。当日券の販売は実施しなかったが、ポスター、チラシ、主要駅でのデジタルサイネージなどで入念な広報を行ったため、トラブルは少なかった。 入場時には来館者の行列ができたものの、入場を開始するとスムーズに流れ、大きな混乱は起きなかった。入場者数を増やしたため、会場は3年度に比して若干混み合った印象はあるものの、作品を鑑賞しやすい環境は維持できた。 また、特別協力の読売新聞社が立ち上げた正倉院展特設ホームページにおいて、出陳宝物の紹介、宝物に関連するコラムなどが掲載され、大きな宣伝効果を発揮するとともに、図録やグッズを購入できるようにするなど、広範なサービスの充実が図られた。さらに、日中国交正常化50周年記念として、中華人民共和国駐大阪総領事館との共催にて、10月28日の特別内覧会、ならびに11月14日において、正倉院宝物の復元楽器等による演奏集団「天平楽府(てんぴょうがふ)」の演奏会を行い、展覧会への集客に寄与するとともに、関連行事においても積極的に国際交流を進めた。
補　足	

【定量的評価】項目	4年度実績	目標値
来館者アンケート満足度	83.9%	89%

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
例年、正倉院展では、正倉院宝物の魅力を感じていただけるよう、展示方法や解説などに工夫を凝らしているが、本年は特にパネルを使った補足説明も充実させ、より詳しい情報を伝えることを意識した。また、展示台の高さを昨年よりも低くすることで、車椅子の方にも見やすい展示を心掛けた。会場運営や広報面でも様々な取り組みが行われたことで、大きな混乱を招くことなく集客を図ることができ、入館者数は目標の 146%に達した。来館者アンケートの満足度は目標値に達しなかったものの、新型コロナウイルス感染症対策の対応が強いられる中で、最善の取り組みが実施できたものと考えられ、中期計画を順調に遂行していると評価した。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1221Cｪ

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展		
【年度計画】 Ⅰ-1-(2)-②-1)（奈良国立博物館）			
担当部課	学芸部	事業責任者	学芸部長　吉澤悟

【実績】

展覧会名	式年造替記念 特別展「春日大社 若宮国宝展―祈りの王朝文化―」
会　　期	12月10日(土)～5年1月22日(日)(34日間)
会　　場	奈良国立博物館　東新館・西新館
主　　催	奈良国立博物館、春日大社、朝日新聞社、NHK奈良放送局、NHKエンタープライズ近畿
作品件数	89件（うち国宝25件、重文10件）
来館者数	22,888人
入場料金	一般1,600円、高校・大学生1,400円、小・中学生700円、キャンパスメンバーズ学生400円、研究員レクチャー付き鑑賞券2,500円
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度　94.1%

告知チラシ

【成果】

企画構成 展示作品	春日大社若宮の式年造替の完成を記念して企画した特別展。国宝・若宮御料古神宝類の全点公開を中心に、現代の名工がその復元模造に取り組んだ成果作品もあわせて公開した。展示構成は、第１章「春日若宮神の誕生」、第２章「若宮御料古神宝の世界」、第３章「御造替の伝統」、第４章「若宮信仰の発展とおん祭」の４章で構成。平安時代の高度な工芸技術や、式年造替の歴史及び文化継承の営みなどについて広く紹介を行った。全89件の出陳作品のうち、国宝25件、重要文化財10件、初公開5件を含む。
学術的意義	春日大社若宮に捧げられた神宝や獅子・狛犬像などに対して、ＣＴや蛍光Ｘ線分析などの科学調査及び金工・彫刻史的調査を行い、その成果を図録や会場パネル等で紹介した。さらに調査で得られたデータを春日大社が行う神宝復元事業に供し、その完成品を本展で初公開した。また、約900年の伝統をもつ造替事業について再検討し、旧規古制を守りながらこれを未来に伝える文化継承事業と捉えて、その意義や重要性を展示や図録に反映させた。
教育普及	公開講座「王朝文化が蘇る 春日若宮古神宝とその復元」(講師：松村和歌子 春日大社国宝殿主任学芸員）を開催し、キャンパスメンバーへの解説付特別鑑賞会も実施した。春日大社周辺の散策イラストマップ（文化財情報を含む）を作成し、無料配布した。展示会場には作品の拡大写真パネルや、復元模造の製作、古社殿の移築史などの解説パネルを多数配置して観覧者の理解に供した。
その他 (運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等)	ポスター、チラシ、交通広告、新聞広告、テレビ中継・番組、ラジオ出演、雑誌記事、WEBサイト運営、SNSなど多数の媒体により展覧会情報を発信した。また、展覧会会場入口の展示を撮影可とした。
補　足	

会場入口展示風景

【定量的評価】項目	4年度実績	目標値
来館者アンケート満足度	94.1%	89%

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 日本屈指の国宝・優品を保有する春日大社における作品のＣＴ調査や年代考証等を実施し、その成果を展覧会に生かすことができた。また、「造替」という歴史的な文化継承の営みを、神宝の原品展示や復元模造の製作過程パネル等によって広く紹介し、その意義を一般に示すことができた。さらに、イラストマップの配布、会場入り口の撮影コーナー設置など、春日大社と共同で来館者へのサービス向上に努め、高い満足度を得られていることも実績として特筆されることよりＢ評定とした。一方、未だコロナ禍の影響にあり、来館者数に伸びがみられなかったことが惜しまれ、新年の初詣客へのアピール等に課題を残した。

【書式A（特別展）】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1221D ア

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展		
【年度計画】 ア　特別展「北斎」（4月16日～6月12日）（51日間）（目標来館者数4万人）			
担当部課	学芸部企画課	事業責任者	文化財課主任研究員　畑靖紀

【実績】

展覧会名	特別展「北斎」
会　　期	4月16日(土)～6月12日(日)（51日間）
会　　場	九州国立博物館　特別展示室
主　　催	九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、TNCテレビ西日本、TVQ九州放送
作品件数	130件（うち重要文化財2件）
来館者数	135,955人（達成率：339.9%）
入場料金	一般1,800円(1,600円)、高校・大学生1,000円(800円)、 小・中学生600円(400円)※()は前売料金
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度88.4%

告知ポスター

【成果】

企画構成 展示作品	監修に大久保純一氏（国立歴史民俗博物館教授）を迎え、当館蔵の重要文化財「日新除魔図」と関わりの深い晩年作と肉筆画を積極的に紹介した。展覧会は3章構成で、第一章「これぞ、北斎！―『真正の画工』への道のり―」では長寿を願った北斎晩年の版画と肉筆画の名品を紹介し、第二章「素顔の北斎―日新除魔図の世界―」では画家の豊かな創造力を伝える連作の全貌を公開した。第三章「名作誕生の秘密―北斎とゆかりの画家たち―」では絵師の試行錯誤を歴史的に捉え、先人からの、そして後世への影響関係を具体的に紹介し、重要文化財「二美人図」」（静岡・MOA美術館蔵）などを展示した。また、「日新除魔図」と同時期の肉筆画の大作「東町祭屋台天井絵」（長野・小布施町東町自治会）を九州で初公開した。
学術的意義	平成29年（2017）の坂本五郎氏による当館への寄贈以前は、研究者でも実見が困難であった重要文化財「日新除魔図」（宮本家本）の全219枚を、日本で初めて一般公開し、今後の北斎研究に大きく資する展覧会となった。 さらに本展では晩年作と肉筆画を数多く取り上げ、第三章に「美人画の競演」「中国画に学ぶ」「ジャポニスム」などのテーマを設けて、文化交流の観点も交え、北斎の作品を近世絵画史に位置付ける研究成果を提示した。
教育普及	（公財）アダチ伝統木版画技術保存財団より資料提供をうけ、「浮世絵版画（錦絵）の制作工程」のコーナーで版木や彫り・摺りの道具を展示した。モニターで動画「凱風快晴　摺りの工程」を上映し、浮世絵版画が出来るまでの製作工程を具体的に紹介した。
その他 （運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等）	本展の公式図録『北斎HOKUSAI　日新除魔図の世界』（講談社）は、重要文化財「日新除魔図」（宮本家本）の全図を収録する初めての図書として、当該分野の基本文献として高い評価を得た。会場で五千冊を販売し、会期終了後も一般図書として市販されている。会場では所蔵品の「日新除魔図」について個人利用に限る撮影を許可して好評を得た。 タイアップイベントとして、1階エントランスホールにてNTT東日本「「Digital×北斎」サテライトミュージアム in 九博」を同時開催し、本展でその下絵を展示した、葛飾北斎最大の作品である岩松院（長野・小布施町）の本堂天井絵「鳳凰図」などをデジタルデータを用いて紹介した。
補　足	 展示風景（第二章「日新除魔図」） 展示風景（第三章「美人画の競演」）

【定量的評価】項目	4年度実績	目標値
来館者アンケート満足度	88.4%	87%

【年度計画に対する総合評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 長年、多くの成果が積み重ねられてきた浮世絵研究において、文化交流の観点も交えて北斎の作品研究の成果を提示した。とくに日本初公開の「日新除魔図」の展示及び本図の写真撮影が可能であることが評価され、当初の想定を大幅に超える来場者を迎えることができ、高い満足度を得た。混雑時の観覧動線や版画作品の特に厳しい照度条件に対しては改善を求める声があった。脆弱な作品の展示の対策が今後の課題である。本展は、学術的にも非常に意義が高く、来館者目標を３倍強上回り、新型コロナウイルスの影響を大きく払拭したことから、A評価とした。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1221Dｲ

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
イ　沖縄復帰50年記念特別展「琉球」（7月16日～9月4日）（45日間）
（目標来館者数3万人）

担当部課	学芸部企画課	事業責任者	展示課主任研究員　一瀬智

【実績】

展覧会名	沖縄復帰50年記念特別展「琉球」
会　　期	7月16日(土)～9月4日(日)（45日間）
会　　場	九州国立博物館　特別展示室
主　　催	九州国立博物館・福岡県、NHK福岡放送局、NHKエンタープライズ九州、読売新聞社、文化庁
作品件数	242件（うち国宝46件、重要文化財13件）
来館者数	41,054人（達成率：136.8%）
入場料金	一般1,900円(1,700円)、高校・大学生1,200円(1,000円)、 小・中学生800円(600円)※()は前売料金
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度　90.8%

告知チラシ

【成果】

企画構成 展示作品	・国宝「琉球国王尚家関係資料」（尚家宝物）をはじめ、沖縄が誇る独自の歴史と文化を象徴する多様な文化財を、先史時代、琉球王国時代から近現代に及ぶ5章構成で展観した。 ・アジアにおける琉球王国の成立と、特色豊かな文化の形成及び明治以降の近代化や戦後の困難を乗り越えて現在も続く復興と継承の意義を紹介した。 ・沖縄復帰50年や首里城再建など社会的関心の高い内容となった。
学術的意義	・復帰以降の50年間に歴史、考古、美術工芸など各分野において目覚ましく進展した琉球史・琉球文化の研究成果を大いに反映した。 ・東京国立博物館と当館が、沖縄県立博物館・美術館など沖縄県内関係機関の多大な協力を得て研究の到達点を示す展観を実現した。相互の意見交換や共同調査も含め、今後の琉球の歴史・文化研究の進展に大いに寄与した。
教育普及	・チラシやプレスリリース資料の内容を中学生向けに改変した「ジュニアガイド」を作成し、会場内で配布したほか、近隣中学校にも送付し展覧会の普及に努めた。 ・館内ホールにおいて外部講師による講演会を2回（7月16日 講師：田名真之氏（沖縄県立博物館・美術館館長）、8月7日 講師：上江洲安亨氏（沖縄美ら島財団）・原田あゆみ氏（東京国立博物館））、担当研究員によるリレー講座を2回（8月13日、8月20日）実施した。 ・親しみやすい内容の解説動画を撮影し、当館ウェブサイトのYouTubeで公開した。
その他 (運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等)	・展示レイアウトは可能な限り来館者の混雑回避に配慮した。 ・ポスター・チラシ、交通広告、新聞、テレビ、ラジオ、雑誌、ウェブサイト、SNSなど各種媒体で情報発信した。 ・会場の一部(尚家宝物の工芸品エリア)で、個人利用に限り来館者による作品の写真撮影を可能とした。 ・会期中に、沖縄出身の著名人によるトークイベントやコンサートを実施し、広報や沖縄文化の普及に努めた。
補　足	 展示会場

【定量的評価】項目	4年度実績	目標値
来館者アンケート満足度	90.8%	87%

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 沖縄復帰 50 年や首里城再建という時宜を得て、学術的のみならず社会的関心も高い内容となった。各種広報の効果もあり来館者数は目標値を大きく上回った。作品の質の高さ、分かりやすいグラフィックパネル及び動線、沖縄の雰囲気を醸成したディスプレイや撮影可能エリアも高く評価され、目標値を超える 90.8%の満足度につながった。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1221Dｳ

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展
【年度計画】 ウ　特別展「ポンペイ」（10月12日～12月4日）（47日間）（目標来館者数4万人）	
担当部課	学芸部企画課　事業責任者　展示課長　齋部麻矢

【実績】

展覧会名	特別展「ポンペイ」
会　　期	10月12日(水)～12月4日(日)（48日間）※11月28日は臨時開館
会　　場	九州国立博物館　特別展示室
主　　催	九州国立博物館・福岡県、ナポリ国立考古学博物館、朝日新聞社、NHK福岡放送局、NHKエンタープライズ九州、西日本新聞社、西日本新聞イベントサービス
作品件数	125件（うち国宝0件、重要文化財0件）
来館者数	79,919人（達成率：199.8%）
入場料金	一般1,900円(1,700円)、高校・大学生1,200円(1,000円)、 小・中学生800円(600円)※()は前売料金
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度90.8%

告知チラシ

【成果】

企画構成 展示作品	・紀元79年にヴェスヴィオ山の大噴火で一昼夜にして埋没した、ローマの古代都市ポンペイを紹介する展覧会である。 ・数多くの出土品を所有するナポリ国立考古学博物館の全面協力のもと125件の優品を展示した。 ・当時の都市生活を生き生きと蘇らせると同時に、社会構造やインフラ、進んだ科学技術など、古代ローマ繁栄期の高度な文明を紹介した。 ・当時の邸宅を飾ったフレスコ画やモザイク画、神々の彫像、高度な技術で制作された工芸品、様々な職種の道具類、パンなどの食料など多彩な作品を、「古代へのタイムトリップ」を感じる空間構成で展示し、臨場感を高めた。
学術的意義	・ポンペイ遺跡は教科書にも取り上げられる有名な遺跡で、現在も発掘調査が進行中である。新たに判明した調査成果も展示に盛り込んだ。 ・災害の悲劇だけではなく、学術的成果に裏付けられた当時の都市のくらしを多角的な視点から紹介し、古代文明への関心を高めた。 ・邸宅の復元など、臨場感あふれる展示構成とし、併せて邸宅装飾の歴史的な変化も展示した。 ・現地で進行中の保存修復を紹介し、歴史を後世に伝える重要性を広く発信した。
教育普及	・小中学生向けとして「ジュニアガイド」を作成して福岡市内の小学校全生徒に配布、展示室にも配架した。 ・ナポリで修行した講師を迎えて子ども対象のモザイクワークショップを実施した。 ・本展総監修者青柳正規氏（東京大学名誉教授）の記念講演会「ポンペイに魅せられた50年」（10月15日）と、当館研究員4名によるリレー講座を2回開催した（10月29日・11月6日）。 ・視覚障がい者に展示を楽しんでいただく企画「視覚障がい者とつくる対話型鑑賞」を実施し、さらに当館実施の講座では初めての試みとして、リレー講座の一部に手話通訳付き解説を導入した。
その他 (運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等)	・ポスター・チラシ、交通広告、駅構内広告、テレビ・ラジオの出演などの広報を行った。 ・近隣の市町村において展示紹介講座を行い、公式Twitter及びYouTubeで研究員が展示作品を解説した。 ・アニメ「ジョジョの奇妙な冒険」とのコラボレーションでキャラクターの等身大パネルなどをエントランスに設置、館内でNHK関連番組を一部放映、来館者による「モザイクどーもくん」を制作し、来館者増に努めた。
補　足	 展示会場 YouTube での作品解説

【定量的評価】項目	4年度実績	目標値
来館者アンケート満足度	90.8%	87%

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ａ	【判定根拠、課題と対応】 当館展示室の特性を生かした空間構成と、作品がよりよく見える照明や、ゆったり観覧できる動線計画を策定し、再現性の高い造作で古代ローマ都市生活への没入感を与え、目標値を超える高い満足度を得た。また Twitter 等の SNS における広報を通して新規顧客層を開拓に努めたことで、来館者数は目標値の約 2 倍と目標を大幅に上回った。以上の実績から、所期の目標を大きく越える成果を上げたと判断し、A評定とした。

【書式Ａ（特別展）】　施設名　九州国立博物館　処理番号　1221Dｴ

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
エ　特別展「加耶」（5年1月24日～3月19日）（48日間）
（目標来館者数2万人）

担当部課	学芸部企画課	事業責任者	文化財課長　白井克也

【実績】

展覧会名	特別展「加耶」
会　　期	5年1月24日(火)～3月19日(日)（48日間）
会　　場	九州国立博物館　特別展示室
主　　催	九州国立博物館・福岡県、韓国国立中央博物館、国立歴史民俗博物館、西日本新聞社、西日本新聞イベントサービス、TVQ九州放送
作品件数	273件（重要文化財　11件）
来館者数	26,990人（達成率：135%）
入場料金	一般1,700円(1,500円)、高校・大学生1,000円(800円)、 小・中学生600円(400円)※()は前売料金
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度86.0%

告知チラシ

【成果】

企画構成 展示作品	朝鮮半島南部で3～6世紀に栄えた国家群「加耶」と、加耶などの渡来人の日本国内での足跡をたどった。2019年～2020年に国立中央博物館ほかの韓国内の博物館を巡回した「加耶本性」展の内容を基本とする第一部「加耶の興亡」と、国内作品による第二部「渡来人」で構成した。第一部では韓国で宝物（日本の重要文化財に相当）に指定されている金銅冠（韓国国立大邱博物館蔵）などを、第二部では重要文化財新沢千塚126号墳出土品（東京国立博物館蔵）などを展示した。
学術的意義	加耶をテーマとする大規模な展覧会は日本国内では約30年ぶりであり、この間の考古学・歴史学の目覚ましい発展の成果を紹介した。特に、文化圏を超えて移動した人びとと在地社会の共存に焦点を当て、移住した人びとが在地の社会の運営に参加する中で、文化や技術が交流していく様を、実物資料によって示した。
教育普及	特別展に関連して、記念講演会とリレー講座を開催した。 記念講演会　西谷正氏（九州大学名誉教授）「五世紀・倭の技術革新と加耶」5年1月29日 リレー講座第1回　5年2月4日 白井克也「王陵でめぐる加耶の旅」 齋部麻矢「地中海からきたガラス」 大澤信「古代朝鮮半島における仏教の伝来と受容―その時、加耶は...―」 リレー講座第2回　5年2月11日 大高広和「加耶からの「渡来人」の行方」 小嶋篤氏（九州歴史資料館）「倭人と渡来人」 岡寺良「はじめての牧場―河内潟のほとりに営まれた古墳時代の牧―」 また、展示作品の理解を深めるショートムービー「仔馬の大冒険」を製作、公開した。
その他 （運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等）	韓国国立中央博物館・国立歴史民俗博物館及び当館の3館共催で実施し、展示の構成のほか、図録・展示室のグラフィックなどで協力しつつ進め、最新の研究成果を反映した。当初は2年度に開催の予定であったが、新型コロナウイルスの世界的な流行により延期され、4年度の開催となった。 会場前の物販では、障がい者が展示品をモチーフとしたグッズを「まごころ製品」として販売を行った。
補　足	

【定量的評価】項目	4年度実績	目標値
来館者アンケート満足度	86.0%	87%

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
コロナ禍によって 2 年以上の延期を余儀なくされた展覧会であったが、展示手法の工夫などによって認知が広がったことが動員につながるとともに、図録の購買率も 9%程度と高く、関心の高まりが示された。一般へのなじみの薄かった加耶や渡来人について、最新の研究成果を普及するとともに、渡来人と倭人が生活を共にする中で文化や技術が共有されていったという知見を広めることができた。

【書式Ａ】　施設名　東京国立博物館　処理番号　1231A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　③観覧環境の向上等　1)快適な観覧環境の提供

【年度計画】
・Ⅰ-1-(2)-③-1)(4館共通)ア、イ(東京国立博物館)ア、イ、ウ、エ、オ、カ、キ、ク

担当部課	総務部総務課 総務部環境整備課 学芸企画部企画課 学芸企画部企画課 学芸企画部企画課 学芸企画部博物館教育課 学芸企画部博物館教育課 学芸企画部博物館教育課 学芸企画部広報室 学芸研究部列品管理課	事業責任者	課長　竹之内勝典 課長　城山美香 特別展室長　猪熊兼樹 デザイン室長　矢野賀一 国際交流室長　楊鋭 課長　鈴木みどり 教育普及室長　品川欣也 教育講座室長　勝木言一郎 室長　鬼頭智美 平常展調整室長　市元塁

【実績・成果】
(4館共通)
ア　平常展の題箋及び解説等について、4言語（日、英、中、韓）による掲示を行った。また、多言語表記の見直しを行い、視認性の向上を図った。
イ　バリアフリー対策として、平成館2階トイレブース改修工事（5年3月6日完了）を行った。
(東京国立博物館)
ア　日本文化や歴史への理解促進を図るため、本館4室「茶の美術」と9室「能と歌舞伎」にデジタルサイネージを引き続き設置し、展示作品の使用例や文化的背景を補足する映像を上映した。本館1室、本館特別1室のコーナー解説・グラフィックパネルについてデジタルサイネージを導入し、鑑賞環境の向上を図った。なお、誘導サインとデジタルサイネージでは、4言語にて展示の見どころなどの情報を発信した。
イ　より快適な観覧環境を構築するため、本館特別1室・2室の改修、14室中央行灯ケースの更新を実施した。本館特別1室展示室改修工事の展示ケース製作の製作監理、本館特別1室、14室の独立ケースの設計及び製作管理を行った。
ウ、キ　日英中韓の4言語に対応した鑑賞ガイドアプリ「トーハクなび」では、公式ウェブサイトと国立博物館所蔵品統合検索システムColBaseとの連携を図りながら、展示情報や作品解説を常に更新し、新たに撮影された作品画像を逐次追加した。インタラクティブコンテンツの充実を図るとともに、より快適な利用のために随時修正を行い、コンテンツのリニューアルを行った。また、特別展「国宝　東京国立博物館のすべて」の会場内でも試行し、利用者の好評を得た。Google Analyticsのデータ、展示室内のビーコンのログデータにより、ユーザーログの集積も継続した。
エ　講座・講演会では、引き続き聴覚補助を目的として、ヒアリングループの設置・管理と、音声認識システム「UDトーク」アプリを使用し、さらに一般来館者の理解補助にもつながるよう「UDトーク」利用を推進した。また、zoom配信のワークショップにおいても「UDトーク」を使用し、参加者の理解補助につなげた。視覚障がい者のために引き続き点字パンフレットを引き続き作成、配布をした。触知図に加え、150周年事業の一環として、新たに漆の素材や技法のわかる触察ボードの作成を行った。また、感覚過敏の来館者のために感覚刺激の強い場所などを表す「センサリーマップ」を作成してウェブサイトで公開し、「トーハクなび」においても新たに「休息スポット」を設定し、公開した。
オ　4年度「案内と地図」(総合案内パンフレット）の配布を行った。8・11月に、日9万5千部、英3万部、中(簡体字)2千部を増刷した。また、5年度の総合案内パンフレットは全面的な改訂を行い、7言語8種（日5万部、英2万部、中(簡体字)6千部、韓4千部、中(繁体字)4千部、仏2千部、西2千部、独2千部）を制作した（中（繁体字）・仏・西・独の印刷物は5年4月末納品予定)。また、年度に関係なく長期にわたって使用できるよう、掲載事項についても恒常的な情報のみとするよう調整した。
カ　本館2階「日本美術の流れ」の3言語（英、中、韓）のパンフレットのPDF版をウェブサイトで公開した。紙媒体での配布から、来館者自身の端末でのダウンロード、閲覧にシフトしたことで、より多くのニーズにこたえられるようになった。
キ　引き続き、展示の要点と基礎的な解説を盛り込んだ4言語のグループ解説パネルを設置したほか、新題箋の改善をすすめ、分かりやすい展示解説の工夫に取り組んだ。
ク　レプリカやデジタルコンテンツを活用した体験型展示「日本文化のひろば」を恒常的に日本文化体験が行える場として継続運営した。

【補足事項】
(4館共通)
イ　一般便所でのバリアフリー対策として、トイレブース内に手すりを設置した。
(東京国立博物館)
イ　快適な観覧環境を整備するため、本館特別1・2室の展示ケース、照明設備、内装改修工事等を行った。
ウ　アプリの4年度のダウンロード数は以下の通りである。
・Android版「トーハクなび」5,770件(累計9,163件、2年3月31日公開)(旧「トーハクなび」累計23,483件　平成24年4月18日～2年4月7日公開)
・iOS版「トーハクなび」12,915件（累計93,463件、2年3月31日公開)(旧「トーハクなび」累計56,980件　平成24年4月18日～2年4月7日公開)

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 高齢者や障がい者等にも利用しやすい施設を実現するため、年度計画に揚げているバリアフリー化の推進に向け事業を実施し、計画どおり進展している。 より快適な観覧環境を形成するため、トーハク新時代プランに基づき、展示室内の展示ケース・照明設備・内装などの整備を実施した。4年度は本館特別1室展示室改修工事の展示ケース製作の製作監理、本館特別1室、14室の独立ケースの設計及び製作管理、本館1室、本館特別1室のコーナー解説・グラフィックパネルについてデジタルサイネージを導入したことで鑑賞環境が向上した。

【中期計画記載事項】
博物館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化並びに各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人、乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 館内施設・設備のバリアフリー化を推進し、トーハク新時代プランに掲げる展示室リニューアル工事を推進できている。今後は高齢者・障がい者だけでなく、文化・言語・国籍・年齢・性別などの違いにかかわらずできるだけ多くの人が利用できることを目指した設備整備を実現していく。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1231B

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（2）展覧事業　③観覧環境の向上等　1)快適な観覧環境の提供

【年度計画】
・Ⅰ-1-(2)-③-1)（4館共通）ア、イ、(京都国立博物館）ア、イ、ウ、エ、オ

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　阿部勝 企画室長　山川暁

【実績・成果】
（4館共通）
ア　平常展及び特別展において、題箋及び解説文、並びに音声ガイドを用いて情報提供を行った。題箋や解説文、平常展・特別展「河内長野の霊地」音声ガイドは4言語（日・英・中・韓）対応、その他特別展音声ガイドは新型コロナウイルスの影響により、3年度に引き続き2言語（日・英）対応を行った。
イ・3年度に引き続き、特別展の題箋にユニバーサルデザインのフォントを使用し、より多くの来館者にとって読みやすい表示ができた。
・障がい者鑑賞会の実施に際して行っているアンケートに、3年度より「バリアフリー施設・設備」に関する項目を新たに設け、意見を取り入れやすい環境の整備を行った。
・バリアフリー施設・設備がき損していないか巡回点検を行う体制を整え、点検を実施した。
（京都国立博物館）
ア　館内案内リーフレット（7言語（8種）：日・英・中（簡体字・繁体字）・韓・仏・独・西）を継続して配布した。
イ　デジタルサイネージを活用して、カフェを含めた館内各施設を紹介できた。
ウ　スマートフォンアプリを活用した体現学習型コンテンツ開発を4年度に予定していたが、導入後のランニングコスト検討が長引き、4年度中の開発ができず、5年度以降の開発を目指すこととした。なお、コンテンツ開発の一環として、来館者用Wi-Fiへの利用方法について、ウェブサイトに掲載した。来館者用Wi-Fiは、コンテンツを利用する際に発生するデータ通信を補う役割を担っており、利用方法をウェブサイトに掲載することで、快適にコンテンツを利用可能な環境を整備することができた。
エ　3年度に引き続き、名品ギャラリーのジュニア版音声ガイドを使用し、若年層の音声ガイド利用増加を促すことができた。
オ・4年度から、展示ケース内面ガラスの定期的な清掃を実施し、従来以上に快適な観覧環境の提供を整備することができた。
・3年度に引き続き、新型コロナウイルス対策としてCO2濃度を監視しつつ外気取入量を調整することにより、安全で快適な観覧環境の提供を図った。

【補足事項】
（4館共通）
イ・展示ケースへの貼り題箋を用いた特別展「最澄と天台宗のすべて」・特別展「京に生きる文化　茶の湯」・特別展「親鸞―生涯と名宝」にて、題箋にユニバーサルデザインフォントを使用した。

音声ガイド利用台数
・伝教大師1200年大遠忌記念　特別展「最澄と天台宗のすべて」（2言語　日・英）7,069台
・特別展「河内長野の霊地 観心寺と金剛寺―真言密教と南朝の遺産―」（4言語　日・英・中・韓）2,477台
・特別展「京に生きる文化　茶の湯」（2言語　日・英）15,217台
・名品ギャラリー（4言語　日・英・中・韓）3,188台
うちジュニア版音声ガイド（4言語　日・英・中・韓）107台

「河内長野の霊地」展音声ガイド看板（4 言語対応）

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 3年度に引き続き、4年度も特別展の題箋フォントにユニバーサルデザインを使用したことで、より多くの来館者が観覧しやすい環境を整えることができた。年度計画に掲げる館内施設のバリアフリー化について維持管理を行い引き続き快適な観覧環境の提供を実施できた。

【中期計画記載事項】
博物館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化並びに各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人、乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 特別展時の題箋フォントのユニバーサルデザイン使用や、多言語化についての機構内他館との意見交換会実施により観覧環境の向上を図るなど中期計画を順調に遂行できた。今後も継続して実施することで、良好な観覧環境の提供を行いたい。バリアフリー施設・設備についてもアンケートの実施や巡回点検による維持管理を行い、良好な観覧環境を提供できていることから、Bと評価する。

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　1231C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　③観覧環境の向上等　1)快適な観覧環境の提供

【年度計画】
・Ⅰ-1-(2)-③-1)（４館共通）ア、イ　（奈良国立博物館）ア、イ、ウ、エ、オ

担当部課	総務課	事業責任者	課長　大西真一

【実績・成果】
（４館共通）
ア　館内案内リーフレットは4言語（日、英、中、韓）を準備し、幅広い層が展示を楽しめるように努めた。
イ　特別展「大安寺のすべて」、特別展「中将姫と當麻曼荼羅」、「第74回正倉院展」では有料の音声ガイドにスクリプトを準備し、聴覚に障がいのある来館者等にも音声ガイドと同じ内容が楽しめるよう工夫した。また、特別展「中将姫と當麻曼荼羅」、「第74回正倉院展」では、補聴器使用者や左右の耳の聴覚が異なる来館者に向けて片耳イヤホンの貸出、車椅子や杖の利用によりガイド器操作が難しい来館者へ延長コードの貸出も行った。
（奈良国立博物館）
ア　3年度実施したクラウドファンディングによる寄附金を基に庭園と茶室の整備を行った。
イ　3年度に制作した多言語の案内看板やピクトグラムを使用することで、幅広い来館者層に快適な閲覧環境を提供した。
ウ　4年度の特別展のうち、特に混雑が予想された「第74回正倉院展」では、入館方法についての案内看板やコインロッカーの利用案内看板を作成し、快適な観覧環境の実現に努めた。
エ　新型コロナウイルス感染症の影響により、往時と比較して訪日外国人の来館者が減少したため、館内案内リーフレットは日本語のみ制作した。他の言語のリーフレットは必要に応じて適宜提供している。
オ　総合案内カウンターに外国語（英語、中国語）対応ができるスタッフを常駐させ、外国人来館者への対応を充実させられるよう努めた。

【補足事項】
（４館共通）
・新型コロナウイルス感染症拡大予防対策として、手指用アルコールの設置や入館時の検温、館内の手すり、ソファ、コインロッカーの定期的な消毒などの対策を行い、来館者が少しでも安全な環境で観覧できるよう努めた。
（奈良国立博物館）
・昨年度実施したクラウドファンディングによる寄附を基に、老朽化対策及びバリアフリー対策工事を行った。具体的には、庭園内を安心安全に周遊できるルートの整備、老朽化した茶室（八窓庵）の屋根及び外壁の整備、その他にくずれかけていた池の護岸の整備を行った。整備後には寄附者を招待しお披露目式を行った。
　また、特に来館者の多い正倉院展の会期に合わせて一般公開も行った。
・展示室の適正な温湿度管理のため、空調設備メンテナンス計画に基づき、機器の更新を行った。
・なら仏像館では、外国人の来館者に向けて3言語（英語、中国語、韓国語）の案内リーフレットを作成し、受付での案内に使用した。

更新後の空調設備機器
（冷温水熱源装置）

整備後の庭園

なら仏像館　韓国語案内

【年度計画に対する総合評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 3年度に引き続き、来館者が快適に観覧できるよう、音声ガイドや案内看板、リーフレットなどを中心に、環境の整備や創意工夫を行った。さらに、3年度に実施したクラウドファンディングの寄付を基に、庭園整備及びバリアフリー化を実現した。老朽化していた庭園の整備によって、多様な来館者へ配慮した観覧環境の提供ができたことは高く評価できるため、A評価とした。

【中期計画記載事項】
博物館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化並びに各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人、乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 障がい者向けの音声ガイドサービスの充実化や多言語での看板類の作成など、あらゆる立場の来館者が展示を楽しめるよう努力し、中期目標を遂行できている。引き続き、快適な観覧環境の提供を努めていく。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1231D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　③観覧環境の向上等　1)快適な観覧環境の提供

【年度計画】
・Ⅰ-1-(2)-③-1)（４館共通）ア、イ、（九州国立博物館）ア、イ、ウ、エ

担当部課	学芸部企画課 展示課 総務課	事業責任者	課長　伊藤信二 課長　齋部麻矢 課長　執行正一

【実績・成果】
（４館共通）
ア
・文化交流展（平常展）、特別展（「北斎」「琉球」「ポンペイ」「加耶」）において、題箋及び作品解説の一部について4言語（日、英、中、韓）の情報提供を行った。
イ
・「ならべてわかる本物のひみつ～実物とレプリカ 2022～」では展示台や机の高さと構造を調整し車いす利用者に対応した。題箋にUDフォントを用い、点字や手話解説動画を加えて、視覚及び聴覚障がい者への情報を提供した。視覚障がい者のために、点字付きチラシや展示室内立体マップを作製・配布した。
・新型コロナウイルスの感染防止に配慮し、以下のような対応を行った。
　・非接触サーモグラフィーでの検温の実施。
　・来館者へマスク着用を依頼。
　・来館者同士の適切な距離の確保の呼びかけを実施。
　・足踏式消毒液を設置。
　・密を避けるため展示室毎の滞在可能者数を制限（文化交流展示室：600人、特別展示室：650人）。
（九州国立博物館）
ア　特集展示「きゅーはく女子考古部プレゼンツ　かわいい考古学のススメ」「種子島-風と波が育んだ歴史-」におけるパネル類及び題箋は、視認性が高いユニバーサルデザイン（以下UD）フォントを使用した。
イ　展示室の年間カレンダーを見やすいものに更新した。
ウ　館内案内リーフレット（7言語（8種）：日、英、中（簡体字・繁体字）、韓、仏、独、西）を継続して制作し、配布した。
エ　既存の音声ガイドを廃止し、視覚及び聴覚障がい者や外国人を含め誰でも利用できるスマートフォンアプリ「ナビレンス」を利用した音声・テキストによる情報提供を開始した。このアプリは作品解説や経路案内も可能にも活用でき、展示室をはじめ館内外各所に専用タグを設置した。手話通訳による解説動画約30件を制作した。

【補足事項】
ナビレンスについては以下のメディアで取り上げられた。
・テレビ報道（KBC九州朝日放送・TVQ九州放送）
・新聞記事掲載（西日本新聞社・毎日新聞社）
・視覚障がい者への援助を目的ラジオ番組（KBCラジオ）
　その中で「誰もが楽しめる博物館に」といった、社会包摂の新たな実現手段のひとつであることや、視覚や聴覚に障がいのある来館者、また外国語ユーザーなどにも博物館を楽しめる手助けとなるツールとして高く評価できるとして紹介された。

ナビレンス設置状況

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 題箋にUDフォントを用いたり、点字題箋及びチラシを配布する等の社会包摂に則った取り組みを推進した。新ガイドシステムを提供し、障がい者への情報保障だけでなくお客様からは幅広く好評を得ており、左記の評定とした。

【中期計画記載事項】
　博物館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化並びに各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人、乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画に基づき、すべての来館者に快適な観覧環境を提供すると共に、お客様からのフィードバックを踏まえた改善を継続している。一層の満足度を向上するための努力と魅力ある博物館を実現すべく新たな取り組みも行い、中期計画の達成にむけた事業を円滑に推進できたことから、B評定とした。

【書式A】　施設名：東京国立博物館　処理番号：1232A

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（2）展覧事業　③観覧環境の向上等　2)来館者の満足度調査等の実施、サービスの改善等
【年度計画】	Ⅰ-1-(2)-③-2)（4館共通）ア、イ、ウ（東京国立博物館）ア
担当部課	総務部総務課
事業責任者	課長　竹之内勝典

【実績・成果】

（4館共通）

ア　4年度もミュージアムショップ、レストラン、館内スタッフの対応についての満足度調査を行った。

イ　ミュージアムショップで販売する創立150年記念グッズの開発協力を行った。また、特別展「国宝　東京国立博物館のすべて」においては、展示作品がほぼ館蔵品で構成されることを踏まえ、商品開発に全面的な協力を行い、数多くの魅力的な展覧会オリジナルグッズを開発した。

ウ　特別展「空也上人と六波羅蜜寺」では、4月9日（土）～30日（土）の土曜、日曜、祝日の開館時間を18時まで、5月1日（日）から8日（日）までは19時までとする開館時間の延長を行った。また、特別展「国宝　東京国立博物館のすべて」では、開館時間の延長、休館日の臨時開館（12月5日（月））、1週間の会期延長（12月13日（火）～18日（日））を行った。

（東京国立博物館）

ア　4年度もキッチンカー2台体制で飲食物の販売を行い、飲食提供の選択肢を増やした。また、キッチンカー、レストランともに「月イチ！トーハクキッズデー」に合わせて、子供向けメニューを準備し提供するなど、館内実施イベントの盛り上げを図った。

【補足事項】

（4館共通）

イ　表慶館にて開催した「150年後の国宝展」では、企業との連携により、館蔵品と企業の商品等がコラボレーションを行った展覧会オリジナルグッズを開発し、販売を行った。

ウ　特別展「国宝　東京国立博物館のすべて」では、日時指定制による入館者数を制限した運営を行っていた。しかし、日時指定枠については連日完売となり、多くの来館者から観覧機会を求める意見を頂戴した。そこで文化財保護の観点から展示作品の状態等を考慮した上で、開館時間の延長、休館日の臨時開館、1週間の会期延長を行った。特に1週間の会期延長については、来館者サービスの向上につながる対応を行ったと言える。なお、開館時間の延長について補足すると、当初は金曜、土曜日は20時まで開館としていたが、会期途中よりこれを拡大し、11月17日（木）から12月11日（日）までは木曜・日曜・祝日も20時まで開館とした。ただし11月24日（木）を除く。また、会期延長期間の12月13日（火）から18日（日）は20時まで開館した。

（東京国立博物館）

ア　特別展「国宝　東京国立博物館のすべて」において多くの来館者が想定されるため、来館者サービスの一環として10月18日(火)～23日(日)の期間限定で、平成館ラウンジに虎屋が出店し軽食販売を行った。

【評価指標】項目	4年度実績	目標値	評定	経年変化	30	元	2	3
観覧環境に関する来館者アンケート満足度	62.0%	69%	C		71.3	71.7	65.4	66.0

【年度計画に対する総合評価】

評定：B

【判定根拠、課題と対応】

特別展「国宝　東京国立博物館のすべて」の特設ショップにおいては、商品ラインナップの影響か想定よりも多くの来館者が商品を求めることになり、来館者サービスの向上に寄与したと言える。また「150年後の国宝展」では、当館と企業のコラボレーションによるオリジナルグッズの開発・販売を行い、一部の商品については欠品が続くこともある等、想定を超えた反響があった。さらには、平成館ラウンジでの虎屋の出店についても、連日、商品が売り切れとなるなど、想定以上の集客であった。観覧環境に関する来館者アンケート満足度は目標値を下回ったものの、館内環境・館内スタッフに対する評価は高いものとなり、4年度全体として来館者サービスの向上に努めることができたため、目標を達成したと言える。

【中期計画記載事項】

来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。これらの調査結果を踏まえ、事業、管理運営についての見直しや改善を行う。特に開館時間の延長、混雑時の対応、ミュージアムショップやレストランとサービスの改善等、来館者に配慮した運営を行い、観覧環境に関する来館者アンケートの上位評価が前中期目標の期間と同程度の水準の維持を目指す。

【中期計画に対する評価】

評定：B

【判定根拠、課題と対応】

4年度は特別展の状況にあわせ開館時間の延長や会期の延長を行うなど柔軟な運営を行うことができた。5年度以降も混雑する特別展では開館時間を延長することなど柔軟に運営できるように共催者とも事前に引き続き検討していきたい。

キッズデーイベントに合わせて、キッチンカーの販売商品を関連した内容にするなど、キッチンカー業者とも連携できたため、今後も引き続き飲食店と展示との連携を図っていく。

感染防止対策については3年度から継続して実施しているものもあるが、屋内外の飲水機を再開させるなど、対策の緩和を行った事項もある。引き続き、感染防止対策及び対策の緩和については、状況を注視の上、行っていきたいと考える。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1232B

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（2）展覧事業　③観覧環境の向上等　2)来館者の満足度調査等の実施、サービスの改善等

【年度計画】
・Ⅰ-1-(2)-③-2)（4館共通）ア、イ、ウ、(京都国立博物館）ア

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　阿部勝 企画室長　山川曉

【実績・成果】
（4館共通）
ア　展覧事業、観覧環境等についての来館者アンケートを4言語（日・英・中・韓）で実施し、幅広い意見の把握に努めた。
イ
・ミュージアムショップでは、利用者等の意見を参考に、オリジナルグッズを開発し、展覧会に応じた関連商品等を取り揃えた。
　カフェでは、展覧会に応じたオリジナルメニューを提供した。
・来館者のニーズの把握及びサービスの向上のため、ミュージアムショップ運営業者及び会場運営との連絡会議をそれぞれ開催し、情報交換及び新たな取組の検討を行った。
ウ
・特別展では、時間ごとの来館者数データに基づき、3年度に引き続き開館時間を30分前倒しする早朝開館を実施した。
・特別展「河内長野の霊地　観心寺と金剛寺―真言密教と南朝の遺産―」、特別展「京に生きる文化　茶の湯」では金・土曜日の開館時間を20時までとする夜間開館を実施し、展示室内の混雑緩和を避けることができ、良好な観覧環境を提供することができた。
（京都国立博物館）
ア　『博物館だより217号』に奈良大学・大河内智之氏による特別展「河内長野の霊地　観心寺と金剛寺―真言密教と南朝の遺産―」の展覧会評を掲載した。

【補足事項】
（4館共通）
イ
・収蔵品及び公式キャラクター・トラりんをモチーフにして、京都の伝統産業である京蝋燭、水引を用いたオリジナルグッズの開発を行った。
・利用者に人気がある公式キャラクター・トラりんをモチーフにした野帳を作成した。

トラりん野帳

和蠟燭セット

水引

【定量的評価】項目	4年度実績	目標値	評定	経年変化	30	元	2	3
観覧環境に関する来館者アンケート満足度	77.3%	64%	B		73.1	67.4	74.5	67.9

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	新型コロナウイルスの影響緩和により、3年度と比較して、海外からの来館者数が増加した。感染防止対策の多言語案内を継続することにより、多様な来館者が安心して観覧できる環境を整えることができた。 また、観覧環境に関するアンケート満足度は、3年度を上回り、目標値を達成できた。 満足度調査及び運営業者との情報交換により、利用者等のニーズを把握し、問題点の改善、新たな取り組みを検討し、行った。

【中期計画記載事項】
来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。これらの調査結果を踏まえ、事業、管理運営についての見直しや改善を行う。特に開館時間の延長、混雑時の対応、ミュージアムショップやレストランのサービスの改善等、来館者に配慮した運営を行い、観覧環境に関する来館者アンケートの上位評価が前中期目標の期間と同程度の水準の維持を目指す。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	来館者への満足度調査、各運営スタッフとの情報交換により、館に求められるニーズを把握し、館運営の見直し、改善を図った。また、早期開館や夜間開館を実施するなど、開館時間を柔軟に設定し、混雑緩和や観覧機会の拡大に努めることができたためBと評価する。今後も、上記取り組みを継続し、来館者のニーズに応えられる館運営を目指して努力する。

【書式A】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　1232C

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（2）展覧事業　③観覧環境の向上等　2)来館者の満足度調査等の実施、サービスの改善等

【年度計画】
・Ⅰ-1-(2)-③-2)（４館共通）ア、イ、ウ　満足度調査・サービス改善（奈良国立博物館）ア、イ

担当部課	総務課	事業責任者	課長　大西真一

【実績・成果】
（４館共通）
ア　通年で記述式アンケートを実施した。外国人来館者を含め、寄せられた意見・要望を館内の関係部署と共有し、適宜改善に努めた。
イ　アンケート及びウェブサイトを通じて寄せられたミュージアムショップやレストランへの意見・要望を踏まえ、展覧会に合わせた限定メニューを提供するなど、利用者へのサービス向上に努めた。
ウ　新型コロナウイルス感染症拡大の影響で2年度は実施を見送り、3年度の半ばから再開した毎週土曜日の夜間開館（17時～20時）を今年度も引き続き実施した。また、周辺行事に合わせたライトアップや夜間開館での協力も実施した。
（奈良国立博物館）
ア　アンケートで得られた意見・要望を参考に、レストランメニューの改善や工夫に努めた。
イ　ミュージアムショップにおいて展覧会グッズの開発や仏教美術に関する図書の充実を図った。

【補足事項】
（４館共通）
ア　新館の閉館期間中、新館が開館中と誤認する来館者が多かったため、なら仏像館へ誘導する掲示物を制作し、わかりやすい案内に努めた。
（奈良国立博物館）
ア　特別展「大安寺のすべて」および「中将姫と當麻曼荼羅」では限定メニューを提供し、利用者へのサービス向上に努めた。
イ　公式キャラクターのグッズや、第74回正倉院展の出陳宝物をあしらったグッズをミュージアムショップで販売した。公式キャラクターグッズは、新たにトートバッグ、フレークシール、メモ帳、クリアファイル、マグネット、缶バッチの6種類作成した。

特別展「大安寺のすべて」
だるまさん最中

特別展「大安寺のすべて」
熊笹茶・ソフトクリームセット

公式キャラクターグッズ
ざんまいずトートバッグ

【定量的評価】項目	4年度実績	目標値	評定	経年変化	30	元	2	3
観覧環境に関する来館者アンケート満足度	71.6%	74%	C		75.8	81.9	71.4	68.9

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
観覧環境に対するアンケート満足度はレストランの満足度が低かったことで目標値を下回る結果となったが、特別展ごとの限定メニューの提供をはじめ、公式キャラクターグッズを4年度も追加制作したことで、新たな客層として特にアンケートに含まれにくい若年層の掘り起こしを行い、集客が図られたことは高く評価できる。レストランのメニューが少ないという声が多かったため、5年度は特別展限定メニューを増やすなどの取り組みを検討する。またミュージアムショップやレストランは利用していないという声も多いため、引き続き敷地内の案内看板設置や限定メニューの提供、割引キャンペーンの企画などの取組を通して、利用率向上を目指していく。

【中期計画記載事項】
来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの意見聴取等を定期的に実施する。これらの調査結果を踏まえ、事業、管理運営についての見直しや改善を行う。特に開館時間の延長、混雑時の対応、ミュージアムショップやレストランのサービスの改善を要望する等、来館者に配慮した運営を行い、観覧環境に関する来館者アンケートの上位評価が前中期目標の期間と同程度の水準の維持を目指す。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
夜間開館の再開や、記述式アンケートやウェブサイトからの意見・要望に適宜対応し、来館者に配慮した運営を行うよう努力した。加えてアンケートは様式を適宜見直しを行い、来館者の声をより詳細に把握できるようにするなどの取り組みを行うことで、中期計画を順調に進めている。4年度、目標値に届かなかった満足度については、5年度以降改善に向けて努力し、中期計画を遂行していく。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1232D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　③観覧環境の向上等　2)来館者の満足度調査等の実施、サービスの改善等

【年度計画】
・Ⅰ-1-(2)-③-2)（４館共通）ア、イ、ウ（九州国立博物館）ア、イ

担当部課	学芸部企画課 展示課 広報課 総務課	事業責任者	課長　伊藤信二 課長　齋部麻矢 課長　野田智子 課長　執行正一

【実績・成果】
（４館共通）
ア
・文化交流展及び特別展において記述式の来館者アンケートを4言語（日・英・中・韓）で実施した。また、特別展ではQRコードを記載した看板を設置してウェブサイト上のアンケートに誘導し、幅広い意見を把握した。寄せられた意見は関係部署で共有し、改善に努めた。
・聴覚障がい者を対象とした手話通訳付きミュージアムトークを行い、障がい者対応イベントは、当日の感想シェアやアンケートにより高く評価された。太宰府駅からの案内など、来館のための利便性の向上や観覧補助の必要性などの指摘を受け、将来の継続的な事業展開のための改善の指標とした。
・特別展「ポンペイ」では展示作品「炭化したパン」に注目が集まり、「炭化したパン」をイメージした黒いパン（「ポン・パン」）を障がい者が作る「まごころ製品」として販売した。好評のうちに完売し、展覧会の広報と障がい者の自立支援を共に実現した。
イ　福岡県の世界遺産の島、宗像・大島の塩を使用した、ご当地ノベルティを製作し、文化交流展での新春特別公開に合わせて、来館者へ配布した。
ウ　開館以来、恒例となっている元旦からの開館を本年も実施した。特別展開催期間の金・土曜日に夜間開館を実施した。特別展「北斎」では、多くの来館者に対応するため、6月5日（日）と6月12日（日）は開館時間を1時間延長した。特別展「ポンペイ」では11月28日（月）を臨時開館日とした。
（九州国立博物館）
ア
・4年度もレストランとカフェの休店が続いたが、営業再開に向け、耐用年数が経過している施設設備の改修を行った。また、5年度からの再開に向け、レストラン・カフェ運営委託事業者を選定した。
・休店中の来館者サービスのため、5月からはキッチンカーを導入し、軽食や飲み物の販売提供を行った。
イ　特別展「北斎」で好評を博した「日新除魔図」をモチーフにした、地域ゆかりの玩具「さいふごま」を製作し、ミュージアムショップにて販売した。

【補足事項】

「日新除魔図」さいふごま

キッチンカー

【定量的評価】項目	4年度実績	目標値	評定	経年変化	30	元	2	3
観覧環境に関する来館者アンケート満足度	77.9%	68%	B		61.6	70.2	-	81.1

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 新春特別公開に合わせた記念品製作・配布のほか、所蔵品をモチーフとし、長期的に販売できるオリジナルグッズを作成した。また、レストラン・カフェの休店中の対応として、キッチンカーを導入し、来館者サービスの向上に努めた。なお、5年度中途からはレストラン・カフェの営業が再開する見込みである。アンケート満足度も目標値を達成し、所期の計画を遂行できたため、左記の評定とした。

【中期計画記載事項】
来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。これらの調査結果を踏まえ、事業、管理運営についての見直しや改善を行う。特に開館時間の延長、混雑時の対応、ミュージアムショップやレストランのサービスの改善等、来館者に配慮した運営を行い、観覧環境に関する来館者アンケートの上位評価が前中期目標の期間と同程度の水準の維持を目指す。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 レストラン・カフェ休店中の不便を解消するため、キッチンカーを導入した。5年度のレストラン・カフェ再開に向け、レストラン施設設備を改修するとともに、運営委託を行う事業者を選定し、中期計画に沿ったお客様サービスの向上に取り組んだ。また、アンケート満足度においても目標値を達成したことから、左記の評定とした。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1311A1

中項目	１．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供　1/2

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-1）（4館共通）ア、（東京国立博物館）ア、イ、ウ

担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	課長　鈴木みどり 教育普及室長　品川欣也 教育講座室長　勝木言一郎 ボランティア室長　金井裕子

【実績・成果】
（東京国立博物館）
ア　新型コロナウイルスの影響を考慮しながら、月例講演会や記念講演会、連続講座、オンラインギャラリートーク等を実施した。月例講演会は、平成館大講堂での対面形式で開催した。8月以降、月例講演会の定員をコロナ禍以前に戻し、感染対策を十分に講じた上で実施した。トーハク講演会手帳を増刷し、学習機会の提供につなげた。また、UDトークを利用した情報保障を実施し、聴覚障がい者をはじめ、多くの鑑賞者に対し学習機会の均等を図った。
　感染状況から、従来の対面式によるギャラリートークの開催が困難であることから、引き続きYouTubeでの動画を配信するオンライン形式で毎月1回配信した。10月より、東洋館ミュージアムシアター、平成館大講堂でオンラインギャラリートーク上映会を開催するなど、オンラインギャラリートークの普及に努めた。また、東京藝術大学大学院インターンによるギャラリートークは、展示室でのギャラリートークを変更し、本館地下教育普及スペースにてスライドトークの形式で、一般来館者向けに実施した。
イ（ア）ファミリー向け教育普及的展示企画として親と子のギャラリーを2回開催した。東京国立博物館・国立科学博物館・東京都恩賜上野動物園が連携に関連する「親と子のギャラリー　翼と羽」では、あわせて三館園によるオンライン配信「上野の山で動物めぐり」を実施した。「親と子のギャラリー　日本美術のつくり方V」では漆工の制作技法に着目し、制作工程や道具、材料などを紹介した。解説の4か国語表記や子ども向けワークシートに加え、制作工程の一部を紹介する動画、触察ボードを設置し、多様な来館者に日本文化に親しむきっかけを提供した。
（イ）「博物館でお花見を」で「東博句会　花見で一句」、「お花見ヨガ in 法隆寺宝物館」、「博物館でアジアの旅」で調査ノートの編集製作や「気軽に椅子ヨガin東洋館」、ボランティアのガイドツアー等の実施、「博物館に初もうで」でワークシートのPDF版の公開など、それぞれ連携企画を実施し、来館者の作品鑑賞を支援した。
（ウ）本館地下教育普及スペースではZoomによるオンラインワークショップを継続するとともに、5年1月より対面でのワークショップ実施を再開した。また、本館19室のみどりライオン体験コーナー、東洋館6室オアシスは全面的に再開した。恒常的に日本文化体験が行える参加型展示「日本文化のひろば」を本館特別4室にて継続運営し、関連した配信プログラムを実施した。
ウ　スクールプログラムのオンライン実施や事前視聴動画の提供を継続しつつ、感染対策を講じながら、段階的に、対面によるスクールプログラムを再開した。盲学校対象のスクールプログラムは、対面での実施を行った。また、教員研修は１月に対面、２月にオンラインで再開した。

スクールプログラムの実施風景

【補足事項】
ア 講演会(月例・記念)15回、参加者3,291名
　オンラインギャラリートーク12回　参加者38,229名（参加者はYouTube再生回数）
　東京藝術大学大学院インターンによるギャラリートーク3回186人、連続講座1回317人、公開講座1回887人
ウ スクールプログラム　137校9,748人(小学校40校2,608人、中学校57校4,241人、高校40校2,892人、高等部専攻科1校7人（うち盲学校のためのスクールプログラム　小学部1校4人、中学部2校3人、高校1校7人、高等部専攻科1校7人を含む)、職場体験11校31人(中学校7校23人、高校4校8人)

【評価指標】項目	4年度実績	目標値	評定	経年変化	30	元	2	3
講演会等の満足度アンケート	85.3%	88%	B		88.0	84.5	-	84.9
講演会等の開催回数（関連指標）	32回	-	-		93	97	19	39

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
　新型コロナウイルスの感染予防対策を講じたうえで、段階的に対面による教育普及の催しを再開し、あわせてオンラインプログラムも行った。また、親と子のギャラリーなどの体験型展示、総合文化展関連イベント、スクールプログラムも可能な形での実施や段階的な再開をし、順調に開催されたため、年度計画を達成できたと判断した。

【中期計画記載事項】
　講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
　中期計画の２年目として、新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮しつつ、段階的に講演会やワークショップ等を再開することでコロナ禍以前のニーズに対応し、さらにオンラインやほかの方法をあわせて実施するなど、学習機会の提供を行い、中期計画を遂行できている。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1311A2

中項目	１．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供　2/2

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-1）（東京国立博物館）エ、オ、カ

担当部課	学芸企画部博物館教育課 学芸企画部博物館教育課 学芸企画部博物館教育課 学芸企画部博物館教育課 総務部総務課	事業責任者	課長　鈴木みどり 教育普及室長　品川欣也 教育講座室長　勝木言一郎 ボランティア室長　金井裕子 課長　竹之内勝典

【実績・成果】
エ　聴覚障がい者、多言語、世代間コミュニケーションツールとしてのUDトークを講演会で運用するとともに、聴講者に対し、その認知度を高めるべく取り組んだ。また、オンライン配信を伴うワークショップでもUDトークを使用した。視覚障がい者に対しては、引き続き「盲学校のためのスクールプログラム」の実施と、それに伴うボランティア研修や、本館19室において、「触知図」を使った対応、点字パンフレットの作成を行った。

本館特別4室「日本文化のひろば」においては、会場内の解説は基本4か国語表記とし、徐々に増えつつある外国人観光客にも対応できた。会場では点字パンフレットの貸し出し、触察ボードの設置により、多様な来館者への配慮を継続した。また、ボランティア等に対するフォローアップ研修を実施し、よりよい学習環境の提供を目指した。

新たに感覚過敏の来館者のための取り組みを開始し、感覚刺激をマップ上に示す「センサリーマップ」を作成し、トーハクなび上に「休息スポット」を設け、多様な来館者を対象とする教育普及事業のあり方について検討した。

オ　5年1月24日（火）に、上野文化の杜新構想実行委員会の事業として、東京芸術大学等と連携し、漆をテーマとしたワークショップを開催した。 また、JR東日本と協同し、黒田記念館等をルートに含むツアーを実施した（5年2月22日（水）、3月12日（日）、19日（日））。

月イチ！トーハクキッズデーの様子

カ　創立150年記念事業を各種実施した。
・「月イチ！トーハクキッズデー」では、例年実施する年に1回の「キッズデー」を毎月第4日曜日に実施した。子どもたちを対象とした参加しやすい内容のワークショップ、鑑賞プログラムなど実施のほか、休息や飲食・授乳・おむつ替えができるよう「キッズスペース」を設けて、子ども連れの来館者が来館しやすい環境を作った。
・「トーハク劇場へようこそ！　博物館の誕生編」では、ファミリー向けのツアー実施に加え、動画を作成し、オンラインでの配信や平成館ラウンジでの上映を行った。
・「きて・みて・さわって！高校生のための学芸員体験」では、博物館学芸員に興味をもつ高校生に対し、2日間のレクチャー、作品取り扱い体験、作品鑑賞体験を実施した後、制作物を「高校生学芸員のおすすめポイント」として本館7室に掲示し、来館者への鑑賞に繋げた。
・「みんなでつくる記念チケット」は、高校生以下の子どもたちに描いてもらった「150年後に伝えたいトーハクのたからもの」のスケッチから、応募680枚のうち、150枚を選び、ノベルティチケットとして来館者に配布した。
・「触察ツール」は「親と子のギャラリー　日本美術のつくり方V」にあわせて漆工芸の制作工程や技法がわかるボードを作成した。会期終了後は、本館19室みどりのライオン体験コーナー等での活用を行った。
・「センサリーマップ」は、感覚過敏の方たちが光や音などの刺激の強い場所を事前に知ることで、来館時の見通しをたて、来館しやすくなるもので、東京都自閉症協会の当事者、明治大学の協力を得て調査を行い、ウェブサイト上で公開した。マップ作成を初めとして、今後の取り組みにつながる方向性が見られた。
・ミュージアムショップで販売する創立150年記念グッズの開発協力を行った（4月より販売開始）。
・新たな来館者層の獲得を図るため、館内周遊型・体験型謎解きイベントである SCRAP×東京国立博物館 リアル脱出ゲーム「東京国立博物館からの脱出」を5月12日（木）より実施した。
・博物館正門前に創立150年記念郵便ポストを設置した（5月23日（月））。
・館の歴史を平易な文章と写真によって紹介する『ミュージアムヒストリー　東京国立博物館―150年のあゆみ―』を10月20日（木）に刊行し、館の認知度向上に努めた。
・特別展「国宝　東京国立博物館のすべて」の大使館向け内覧会を実施した（10月20日（木））。
・東京国立博物館創立150年記念式典を実施した（11月7日（月））。

【補足事項】
（東京国立博物館）
カ　SCRAP×東京国立博物館 リアル脱出ゲーム「東京国立博物館からの脱出」の参加者数は、累計36,530人（3月現在）

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ａ	【判定根拠、課題と対応】 150周年事業の実施を通して、より多様な来館者への取り組みを検討し、実施することができた。特に「月イチ！トーハクキッズデー」では今まで来館の少なかった、未就学児などの低年齢の来館者やその家族の来館がしやすくなり、キッズデー以外の日にも低年齢層の来館が見られるようになった。また、「みんなでつくる記念チケット」や「きて・みて・さわって！高校生のための学芸員体験」における「高校生学芸員のおすすめポイント」は、子どもたちの視点や考えを一般来館者も共有することができて好評であった。また、「触察ツール」や「センサリーマップ」の作成により、視覚障がい者や感覚過敏の方など、さまざまな障がいを持つ人たちへの取り組みとユニバーサル化を実施することができた。 以上のことから、所期の計画を上回る成果を出すことができたと判断し、Ａ判定とした。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 多様な来館者へのコミュニケーションを支援し、その普及に尽力した。また、150 年事業は今後の活動につながるものであり、コロナ禍では実施できなかったツアーも再開できたことなど、教育普及に係る多岐にわたる事業を実施できたことは、中期計画 2 年目の取り組みとして評価できる。 以上のことから、所期の計画を遂行できていると判断し、Ｂ評価とした。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1311B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-1)（４館共通）ア、(京都国立博物館）ア、イ、ウ

担当部課	学芸部	事業責任者	教育室長　永島明子

【実績・成果】
（四館共通）
ア　京都国立博物館においては、34回の講演会等を開催し、満足度は84.7%であった。
（京都国立博物館）
ア・「記念講演会」(17回・2,207人)、「土曜講座」(13回・835人)、「夏期講座(動乱の時代―14世紀)」(1回・84人)を実施した。
イ・特別展関連鑑賞ガイド「最澄さんと天台宗」(日24,000部・英1,820部・中800部・韓600部)、「歴史の舞台！観心寺と金剛寺」(日27,000部・英1,800部・中500部・韓500部)、「茶の湯のイロハ」(日70,700部・英7,200部・中2,500部・韓1,500部)、「親鸞さんと浄土真宗」(日55,000部・英6,700部・中1,700部・韓1,000部) を発行した。
・子ども向けリーフレット「京都国立博物館へようこそ」(1回・10,000部) を増刷した。
・「博物館Dictionary」(5回・10,000部)を発行した。
・新春特集展示「卯づくし―干支を愛でる―」を、入門的な内容とし、平易な題箋の作成、ワークシート「うさぎうさぎ、なにといっしょ？」(日英11,000部・中韓3,000部) の発行を行った。
・名品ギャラリー ジュニア版音声ガイド（日英中韓　各22本）を作成した。
・京博ナビゲーターの再始動に向けて募集チラシ（20,000部）を作成した。
ウ・「文化財に親しむ授業」(7回・501人)、複製を活用した授業への助言・補助（3回・500人）を行った。
・「授業で使える！日本の絵画 鑑賞のヒント」(1,000部) を発行した。
・「社会科教員のための向上講座」(1回・34人) を実施した。
・スクールプログラム、来館学校団体等への対応（7回・89人）を行った。
・「記者体験in京都国立博物館」(1回・60人) を実施した。
・職場体験の受け入れた（1回・2人)。
・調査・国際連携室と連携して国際シンポジウム「アジアの博物館教育は、いま―国立博物館の事例から―」を企画・実施した。

ワークシート「うさぎうさぎ、なにといっしょ？」日英版

【補足事項】
ア・新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、講演会等の定員を講堂座席数の半分（100名）に減らしていたが、感染症防止対策を徹底した上で、10月以降は200名に戻して実施した。
イ・新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、ワークショップ、ミュージアム・カートは2年度より中止している。
・特別展関連鑑賞ガイド「茶の湯のイロハ」は、館外の団体からも配布したい旨問い合わせがあるなど好評であった。
・「文化財に親しむ授業」は、「文化庁 令和４年度Innovate MUSEUM事業」の助成（2,361千円）を受け、「誰もが楽しめる鑑賞の授業をつくる（多様な見え方・感じ方)」をテーマに内容の充実を図った。

【定量的評価】項目	4年度実績	目標値	評定	経年変化	30	元	2	3
講演会等の満足度アンケート	84.7%	82%	B		80.0	83.4	83.4	86
講演会等の開催回数（関連指標）	34回	-	-		37	28	23	31

【年度計画に対する総合評価】
評定：A

【判定根拠、課題と対応】
新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、2年度に引き続き講演会等の定員数を削減し、ハンズオンでのボランティア活動も休止せざるを得なかったが、印刷物の作成を積極的に行うとともに、ウェブサイトの充実を通して、来館者のみならずオンライン利用者に対しても学習機会を拡大することに努めた。また、新春特別展示を入門的な内容で企画し、文化庁からの助成金交付で「文化財に親しむ授業」の内容を充実させた。講座のアンケート調査での満足度も84.7%と目標値を達成できている。4年度は、国際シンポジウムで海外との交流を推進しつつ、情報発信をするという例年にはない事業展開もできたため、特にAと評価する。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】
評定：A

【判定根拠、課題と対応】
新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、コロナ禍前と比較すると縮小せざるを得なかった事業・活動は少なくないが、印刷物やオンラインコンテンツを充実させたほか、中学生の職場体験や、河内長野市・京都市教育委員会と連携した中高生の記者体験など、例年にはない事業を展開できた。また、文化庁に助成金交付申請をしたり、国際シンポジウムを通して海外の教育担当者と情報交換したりするなど、今後の教育活動の足場づくりに積極的に取り組めたため、Aと評価する。

【書式A】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　1311C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-1)（４館共通）ア　（奈良国立博物館）ア、イ、ウ、エ

担当部課	学芸部	事業責任者	教育室長　谷口耕生

【実績・成果】
（４館共通）
ア　サンデートークのアンケート結果で平均満足度87.5％を得た。講座は平均満足度89.3％を得た。
（奈良国立博物館）
ア　講座・ワークショップ
・サンデートークは毎月第3日曜日に12回実施。計870人の参加があった。
・公開講座は4つの特別展及び1つの特別陳列の会期中に10回実施。親子講座はわくわくびじゅつギャラリーの会期中に1回実施。計716人の参加があった。
・夏季講座は新型コロナウイルスの状況に鑑み、開催しないこととし、代案として「夏季連続講座」と題し4回の講座を実施。計270人の参加があり、平均満足度88％を得た。また、その動画をYouTubeならはくチャンネルで公開し、計1,937人の申込があり、計4,561回の視聴があった。
イ　小中学校
・学校プログラム「ならはく『世界遺産学習』」を小・中学校等の学校団体を対象に実施した（計30校、2,318人）。
・奈良教育大学附属中学校のフィールドワーク授業「ならめぐり」の受け入れを行った（2回、42人）。
・奈良市教育委員会と連携し、オンライン中継授業を奈良市立小学校の5年生を対象に実施した（9回、298人）。
・遠隔操作ロボット（アバター）を活用したオンライン中継授業を大分県の中学生を対象に実施した（9回、276人）。
・奈良市と大分県と連携し、奈良市立鼓阪北小学校と大分県国東市立国見小学校の2校の小学校と、当館と大分県立歴史博物館をオンラインでつなぎ、相互の地域の歴史や文化財等について学びあうプログラムを1月30日に実施した（計2回、43人を対象に実施）。
ウ　奈良教育大連携
・奈良教育大学と連携し、わくわくびじゅつギャラリー「はっけん！ほとけさまのかたち」の関連オンラインワークショップ動画「なりきり！ほとけさまのかたち」を4本制作し、公式ウェブサイト上で公開した。
エ　地下回廊
・11月より、地下回廊ワークショップコーナーにて、ぶんかつの協力によって作成した仏像レプリカを活用したワークショップ「ほとけさまに服を着せよう！」を計12日実施。見学者数1,045人、着つけ体験参加者数284人。

【補足事項】

［サンデートークの様子］

［YouTube で公開した夏季連続講座映像］

【定量的評価】項目	4年度実績	目標値	評定	経年変化	30	元	2	3
講演会等の満足度アンケート	88.2%	89%	B		88.0	91.7	90.4	92
講演会等の開催回数（関連指数）	26回	－	－		27	25	12	27

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
講演会は計画どおり計26回開催し、各回とも新型コロナウイルス対策として定員を半分以下とする措置の継続により、参加者数は3年度と同様の平均70名という水準で推移している。また検温・消毒等の徹底や、講座の事前ウェブ申込システムの運用により、各回とも大きなトラブルもなく安全に実施することができ、アンケートにみる満足度は目標値の水準を概ね維持している。なお夏季講座は新型コロナウイルスの状況を鑑みて開催しなかったものの、代案として「夏季連続講座」と題し4回の連続講座を実施し、その動画をYouTubeならはくチャンネルで公開した結果、合計4,561回という多くの聴講機会を提供できた。さらに、3年度まで新型コロナウイルス対策として制限していた学校プログラム「ならはく『世界遺産学習』」の受け入れを本格的に再開するとともに、奈良市教育委員会及び大分県との連携によってオンライン中継授業を実施することで、小・中学生を主な対象として学習の機会を数多く提供することができ、年度計画を実施できたことを勘案し、左記の評定とした。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
特別展等に関連した公開講座、当館研究員によるサンデートークを開催し、仏教美術のファンから初心者の方まで各々に応じた学習機会を提供した。新型コロナウイルス対策として対面での参加人数を制限するなど、安全対策を講じながら各回計画どおり実施した。さらに「夏季連続講座」全4回の動画配信、奈良教育大学との共催による親子ワークショップの動画配信を行うなど、他機関とも連携協力しながらオンラインを活用した新しい学習機会を提供し、中期計画を遂行できていることから左記の評定とした。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1311D1

中項目	１．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供

【年度計画】

・Ⅰ-1-(3)-①-1)（4館共通）ア（九州国立博物館）ア、イ、ウ、キ、ク、ケ

担当部課	交流課 学芸部企画課	事業責任者	課長　田中篤 課長　伊藤信二

【実績・成果】

ア　4年度は4回の講演会等を開催し、アンケート結果は93.8%であった。

（九州国立博物館）

ア　特別展「北斎」では、記念講演会「老境の北斎とその画業－浮世絵風景画史の観点から－」（4月16日 講師：大久保純一氏（国立歴史民俗博物館教授）、参加者：140人）を開催し、葛飾北斎を始めとした展示作品への理解を深めた。

　特別展「琉球」では、記念講演会「万国津梁の鐘と尚泰久」（7月16日 講師：田名真之氏（沖縄県立博物館・美術館館長）、参加者：95人）を開催し、琉球文化への理解を深めた。

　特別展「ポンペイ」では記念講演会「ポンペイに魅せられた50年」（10月15日、講師：青柳正規氏（東京大学名誉教授）、参加者：203人）を開催し、ポンペイとその周辺都市への理解を深めた。

特別展「加耶」では記念講演会「五世紀・倭の技術革新と加耶」（5年1月29日、講師：西谷正氏（海の道むなかた館館長・九州大学名誉教授）、参加者：224人）を開催し、倭と加耶の技術・文化交流について理解を深めた。

イ　大宰府学シンポジウム「大宰府四王院」を行った。

ウ　作品への理解や文化財の楽しみ方を促すことを目的とし、文化交流展示室で研究員によるミュージアムトーク（実施回数25回、参加者：694人）、ミュージアムホールで特集展示等の講座（実施回数6回、参加者：420人）を行った。また企画展の関連イベントとして、当館ボランティアの協力を得て手話通訳付きミュージアムトークを実施した。（8月27日に2回実施。参加者：1回目16人、2回目34人）アンケートに寄せられた声を参考に、ボランティアとともに、広報やより良い講座運営に努めた。

キ

・弥生時代の北部九州特有の埋葬方法「甕棺」に関するワークショップを2種類行った（「甕棺に入ろう」参加者：25人、「伊都国王のお葬式」参加者：20人）。「甕棺墓埋葬体験ワークショップ 甕棺に入ろう」では、甕棺の実寸大レプリカに参加者が副葬品とともに埋葬される体験を提供した。「甕棺墓埋葬体験ワークショップ 伊都国王のお葬式」では、王が亡くなってから甕棺墓に埋葬され、地中に埋められるまでの一連の流れを、劇をしながら体験するワークショップを開催した。いずれも好評で、全員から高い満足度を得た。

・特別展「ポンペイ」ではワークショップ「天然大理石のモザイクコースター」（11月19日・20日、参加者：195人）を開催し、体験を通して展覧会への理解を深めた。

ク　第13期福岡歴史観光市民大学「琉球の染織」（7月19日 桑原有寿子）、「装飾古墳と他界観」（10月24日 河野一隆）、「涅槃図入門」（10月31日 森實久美子）に、それぞれ講師を派遣した。

ケ

・障害の有無にかかわらず誰もが楽しめるミュージアムへの取り組みの一環として、手話通訳付きミュージアムトーク「鬼瓦のヒミツ」（8月27日、参加者：50人）や、対話型鑑賞ワークショップ「見えると見えない～対話で楽しむ博物館～」（9月3日、参加者：11人）、「視覚障害者とつくる博物館まっすぐ&ぶらぶら対話ツアー　第1回 バックヤードツアー」（11月10日、参加者：6人）、「視覚障害者とつくる博物館まっすぐ&ぶらぶら対話ツアー　第2回 ポンペイ展」（11月11日、参加者：6人）を開催した。

・視覚障がい者向けバックヤードツアーを開催した。通常のバックヤードツアーと違い、当館の建築模型や収蔵庫の壁面模型、免震装置の模型や実物の装置などに触ったり、大型エレベーターなどに乗ったりして楽しめるよう工夫し、高い満足度を得た。（11月27日、参加者：25人、内訳：当事者13人、同伴者12人）

【補足事項】

評価指標】項目	4年度実績	目標値	評定	経年変化	30	元	2	3
講演会等の満足度アンケート	93.8%	86%	B		-	80.2	92.3	92.2
講演会等の開催回数（関連指標）	53回	-	-		93	97	19	50

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 いずれの特別展においても、専門的かつ多角的な講演会や講座を実施し好評を得た。とくに特別展「ポンペイ」ではワークショップ「天然大理石のモザイクコースター」や、鑑賞ツアー「視覚障害者とつくる博物館まっすぐ&ぶらぶら対話ツアー」など社会包摂にも配慮して展示を楽しめる機会を提供した。また、講演会の満足度は90%を超えるなど、好評を得た。以上から所期の目的を完遂したと評価し、B評定とした。

【中期計画記載事項】

講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルスの感染対策を万全にすることを前提に、館内外の多彩な講師陣による展覧会の内容に即した充実した講演会や講座を行った。また特別展「琉球」では沖縄県、特別展「加耶」では韓国の美術館・博物館と連携し、作品選定や展示を行うなど、中期計画に基づく事業を順調に遂行した。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1311D2

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-1）（九州国立博物館）エ、オ、カ

担当部課	交流課 学芸部企画課	事業責任者	課長　田中篤 課長　伊藤信二

【実績・成果】

エ

・特集展示「御所の器 ―公家山科家伝来の古伊万里」の関連イベントとして、講演会＆トークセッション「宮廷文化と御所の器」(10 月 16 日 講師：山科言親氏（衣紋道山科流若宗家)、浜中邦弘氏（同志社大学歴史資料館准教授)、橋爪伸子氏（同志社大学非常勤講師)、松浦晃佑、酒井田千明（以上、当館研究員)、参加者：83 人）を開催し最新の研究成果を公表した。
・文化交流展示「沖ノ島祭祀を担った奉斎者たち」では、記念講演会「沖ノ島祭祀と渡来系遺物の流入 － 海の民ムナカタの役割 － 」を開催し、沖ノ島祭祀に関する最新の研究成果を公表した（10 月 8 日 講師：亀田修一（岡山理科大学名誉教授)、参加者：86 人)。
・文化交流展示室「いつもそばにいた 人と動物のアジア」では、「どうぶつ発見！クイズラリー」を行い、展示室を回り回答用紙に記入して応募すると、動物園への招待状など賞品が当たるイベントを開催し、3,000 人の参加があった。
・新春特別公開「国宝初音の調度」の関連イベントとして、きゅーはく☆とっておき講座「国宝　初音の調度について」(5 年 1 月 7 日、講師：川畑憲子、参加者：80 人）を開催した。

オ

・体験型展示室「あじっぱ」では、新型コロナウイルス感染防止のため「展示鑑賞ゾーン」と「体験ゾーン」に分け、アジア諸国の生活・文化や日本の伝統文化や異文化交流を紹介した。「展示鑑賞ゾーン」では、郷土人形コレクションの展示を再開し、展示を活用した学習支援として、シルエットクイズ「あじっぱ de どーこだ」を開発した。また、持ち帰りキット「おうち de あじっぱ」を 3 種類追加(合計 23 種類)し、iPad 動画「きゅーはくの絵本読み聞かせ」を引き続き配信した。
・陶磁器の装飾技法に着目した鑑賞方法を提案するワークショップ「ぺたぺたデコレーション～貼花に挑戦！～」を 2 回行った。展示室を鑑賞後に貼花を実際に体験し、講師が上野焼を解説した。新型コロナウイルス感染防止策として募集人数を制限した（1 回目:10 人、2 回目：9 人）が、幅広い年齢層に加え外国の方も参加し、焼物の理解を深める機会を提供した。
・「古代体験イベント　きゅーはく女子考古部プレゼンツ 古代の宴へようこそ！」(4 月 30 日 参加者：200 人）を開催し、甕棺埋葬体験、真綿からの糸紡ぎ体験などを実施した。
・甕棺墓埋葬体験ワークショップで活用するための副葬品及び衣装を製作した。副葬品は、伊都国王墓から出土したものに準じ、衣装は、伊都国王の衣装として、吉野ヶ里遺跡にて復元している衣装などを参考にして制作した。
・在住外国人をターゲットにした「外国人のための やさしい日本語で 博物館の見学」を実施した。文化交流展示室の作品やあじっぱなどを案内し、参加者からは、「よくわかった」「また来たい」と好評を得た。（参加者：15 人）

カ

・大分県と鹿児島県の小中学校（計 5 校）に対し、リモート授業を行った。特に大分県の学校とは 4 年度も遠隔操作ロボット「アバター」を活用し、児童生徒は自らの操作でロボットを動かすことで展示室を見学し、研究員と交流した。
・学校貸出キット「きゅうぱっく」は 30 件・31 パックを貸し出し、2,741 人の児童生徒が体験した。
・アウトリーチ活動「きゅーはくきゃらばん」は県内 9 か所の学校及び商業施設に出向き、さまざまな博物館体験を提供した。4 年度の体験者数は延べ 1,082 人であった。
・学校教育活動支援事業については県内の小中学校 35 校を受け入れた。

遠隔操作ロボットを用いたオンライン授業の様子

【補足事項】
・体験型展示室「あじっぱ」では10回の展示替えを実施した。入口横ディスプレイとあじ庵では特集展示を行った。
・きゅーはくきゃらばんでは、主な体験内容としてアジアの民族楽器体験、民族玩具体験、きゅうぱっく体験を提供した。
・学校教育活動支援事業で提供する主な学習プログラムは、博物館ガイダンス、バックヤードツアー、展示室案内である。事前に学校側が希望プログラムを申請し、職員の他、展示解説ボランティア及び館内案内ボランティアが対応した。
・考古・歴史クラブの日ごろの成果を発表する「全国高等学校歴史学フォーラム2022」を実施した。新型コロナウイルス感染拡大防止対策として参加校数及び生徒数を7校・各校2人までに制限した。今回で8回目の開催となった本フォーラムには、全国から応募があり選考の結果、福岡県から4校、他県から3校が参加した。
・筑紫地区中学22校との共催による「筑紫地区中学校美術展」を開催し、中学生の美術科授業作品を展示した。

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 一部体験プログラムの再開や持ち帰りキット及び学校貸出キットの提供、「きゅーはく号」を活用し、幅広い層に向けて体験型コンテンツを提供することができた。また、リモート授業や学校教育活動支援事業により、児童生徒に博物館の魅力を紹介することができたことから左記の評定とした。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 4 年度は教員のための講座も 3 年ぶりに再開し、また学校教育活動支援事業の実施数やきゅーはくきゃらばんの出張回数もほぼコロナ禍前の水準に戻した。多くの学習機会を提供し、中期計画を遂行できていることから左記の評定とした。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1312A

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（3）教育・普及活動　①教育活動の充実等　2)ボランティア活動の支援

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-2)（東京国立博物館）ア、イ、ウ、エ、オ

担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	ボランティア室長　金井裕子

【実績・成果】

ア　3年度に引き続き、来館者案内や特別4室「日本文化のひろば」のサポートに加え、新型コロナウイルスで休止していたハンズオン・アクティビティに対するサポートの一部を再開した（東洋館6室　オアシス、本館19室みどりのライオン［体験コーナー］）。また子ども向けワークショップや講演会のサポート、月イチ！トーハクキッズデーにおける各イベントのサポートは、感染症対策を施し、感染状況を見ながら行った。

イ　点字パンフレットの印刷、盲学校対応プログラムの準備及び実施、センサリーマップの調査準備のほか、対面及び情報発信等による研修を行った。

ウ　3年度より再開準備を行っていたグループも含め、屋外で行うガイドツアー5グループすべてとワークショップを行う1グループが再開し、参加人数の縮小やマイク使用など、感染対策を講じた上でガイドツアーを実施した。「応挙館茶会」は、飲食を伴わないお点前のデモンストレーションを紹介する形で再開したほか、コロナ禍以前は展示室内で実施していた「英語ガイド」を、新たに屋外でのガイドツアーに手法を変更して実施した。

たてもの散歩ツアーの様子

　展示室内でのガイドツアーを行っていた9グループのうち、英語ガイドを除く8グループは、感染状況拡大防止のため、展示室でのガイドではなく本館地下教育普及スペースや大講堂などでのスライドトークを試験的に実施した。またその準備として、のべ38回におよぶスライドトーク研修、兼練習会を実施した。また3年度に引き続き、たんけんマップ等をウェブサイト上で公開した。各グループが、定期的にボランティア活動室を使用して勉強会の実施等を行えるように設定し、モチベーションの維持を図った。

　また、「留学生の日」における英語ガイドや、「博物館でアジアの旅」「博物館でお花見を」にあわせた樹木ツアー等、「月イチ！トーハクキッズデー」における子ども対象のワークショップや、グループ協同でのガイドツアーなど、各グループによる工夫が見られた。

エ　コロナ禍により、職員によるスクールプログラムの対面実施を延期したことから、ボランティアによるスクールプログラムについても実施を見送ったが、職場体験は日数・人数など縮小の上で再開し、ボランティアによる職場体験のサポートを再開した。

オ　一般来館者に向けたボランティアデーを3年ぶりに開催した。屋外でのガイドツアー等のほか、屋内での各グループのスライドトーク、5年度新規ボランティア希望者に向けた説明会及び通常のボランティア活動（基本活動）の様子を見学するための館内ツアーを実施した。

【補足事項】
　東京藝術大学大学院インターンは、昨年はすべてオンラインによる実施であったが、本年度は対面を再開し、本館地下教育普及スペースでのスライドトークの形で実施した。

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	年度計画に基づき、館内案内、各種事業の補助活動、障がい者対応を実施した。新型コロナウイルスの影響拡大により休止していたガイドツアーのうち、屋外はすべて再開し、屋内は、歩き回らずディスタンスを維持しやすいスライドトークとして段階的に実施した。また、各種イベントにあわせ、実施方法や内容を工夫して実行することができた。以上のことから、B評定にした。

【中期計画記載事項】
　教育活動の充実及び来館者サービスの向上、さらに、生涯学習活動に寄与するため、ボランティアを育成し、その活動を支援する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	中期計画の 2 年目として、ボランティア活動を安全に実施する体制をとったうえで、ボランティア活動の活性化と来館者への学習機会の向上を目指し、手法を工夫したうえで、休止していた活動についても段階的に再開した。またボランティアの自主性を生かし、各種イベントでのサポートも積極的に行われている。以上のことからB判定にした。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1312B

中項目	１．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　2)ボランティア活動の支援		
【年度計画】 ・Ⅰ-1-(3)-①-2)（京都国立博物館）ア、イ、ウ、エ			
担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　阿部勝 教育室長　永島明子

【実績・成果】

ア　ボランティアによるハンズ・オン教材を用いた対話形式の鑑賞案内である「京博ナビゲーター」は、新型コロナウイルスの影響で引き続き休止したが、感染症対策上必要な物品の購入や募集チラシの作成など、活動再開に向けての準備を進めた。

イ　収蔵品調査や社寺調査補助のため、調査・研究補助ボランティアを受け入れた。(11人)

ウ　「文化財ソムリエ」を対象としたスクーリングを実施した(21回)。

・スクーリングに加え、文化庁の助成を受けて館外での研修（3回）を実施した。

・「文化財ソムリエ」(21人）が以下の活動を行った。

①京都市内の小中学校への訪問授業「文化財に親しむ授業」(7回・501人)

②記者体験in京都国立博物館（1回・60人）

エ　「京都・らくご博物館」において、落語研究会所属の大学生をボランティアとして起用した。(8人)

文化財ソムリエを対象としたスクーリング

【補足事項】

ウ　「文化財ソムリエ」として登録している大学生・大学院生のボランティア21名に、当館研究員が21回のスクーリングを実施した。文化財そのものや、教育普及の手法について講義するとともに、授業案や教材の作成に際して議論を促すなど、指導・助言に努めた。小中学校への訪問授業は、学校と緊密に連携し、感染症対策を講じて実施した。また、4年度は「誰もが楽しめる鑑賞の授業をつくる（多様な見え方・感じ方)」をテーマに、「文化財に親しむ授業」の充実を図るべく、文化庁の「令和4年度Innovate MUSEUM事業」の助成金交付を受け、館外での研修も実施した。

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 コロナ禍で実施回数が減少していた「文化財ソムリエ」による訪問授業を、学校と緊密に連携して感染症対策を徹底させることで、コロナ禍以前の水準に戻すことができた。また、文化庁の補助金制度を活用して支援学級での授業や色覚の多様性に配慮した授業の実施に向けて研修を実施できた。活動を休止していた「京博ナビゲーター」についても、再始動に向けて各種準備を進めることができたため、Ｂと評価する。

【中期計画記載事項】

教育活動の充実及び来館者サービスの向上、さらに、生涯学習活動に寄与するため、ボランティアを育成し、その活動を支援する。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 3年度に続き、4年度も新型コロナウイルスの影響で活動を大きく制限されたが、「文化財ソムリエ」については訪問授業の回数をコロナ禍以前の水準に回復させており、文化庁の補助金制度を活用して、今後の活動に備えた基盤づくりを行うことができた。また、休止していた「京博ナビゲーター」についても、5年度での活動再開に向けて各種準備を進めることができたため、Ｂと評価する。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1312C

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（3）教育・普及活動　①教育活動の充実等　2)ボランティア活動の支援

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-2)（奈良国立博物館）ア、イ、ウ

担当部課	教育室	事業責任者	教育室長　谷口耕生

【実績・成果】

ア・4年度は、学校プログラム「ならはく『世界遺産学習』」を30校、2,318人に対して実施した。ボランティアはクイズシートの配布や児童・生徒の誘導等を担当する等、新たな方法で活動を行った。
・奈良市と連携し、夏休み親子講座「親子で学ぼう 奈良の仏像」を7月28日と7月29日の計2日間実施した。ボランティアが講座の実施を担当した。計2日間の参加人数は110人だった。
・7月16日から8月28日にかけて開催した子ども向けの展覧会わくわくびじゅつギャラリー「はっけん！ほとけさまのかたち」では、開館日の毎日、ボランティアが会場内でワークショップやワークシートの配布、ワークシートのクイズの答え合わせ等の活動を行った（計39日間）。
・地下回廊の一角にあるワークショップスペースにて、ボランティアによるワークショップの実施を11月より開始した。ワークショップ「ほとけさまに服を着せよう！」では仏像レプリカを活用し、ボランティアは服の着つけ実演や、参加者が着つけ体験をする際の補助を担当した。
・4年度は庭園と茶室のガイド活動を再開した。庭園・茶室の改修後に庭園と茶室を一般に公開し、それにあわせてボランティアによる定点ガイドを行った。計22回実施し、庭園入場者数は計3,298人だった。
・講座のサポート活動を22回実施した。

オンライン中継授業の実施風景

イ・4年度も引き続き、大分県や奈良市と連携し、大分県内の小・中学校や奈良市立小学校を対象に、オンライン中継授業を実施した。各学校の教室とをなら仏像館をオンラインでつなぎ、ボランティアが仏像について解説した。実施回数は計18回、参加者数は574人だった。また、5年1月30日に奈良市と大分県国東市の小学校5年生（計43人）を対象にオンライン交流学習を2回実施した。

ウ・コロナ禍での対応のため、主にウェブ会議システムを利用する形式あるいは動画配信形式にて、ボランティア研修を計30回実施した。そのうち、活動に関する研修は4回、特別展等の展示に関する研修は26回それぞれ実施した。

【補足事項】
・わくわくびじゅつギャラリー「はっけん！ほとけさまのかたち」の会場内で実施したワークショップの実施回数は78回で、見学者数は2,709人、実際に着付けてみる体験の参加者数は502人だった。
・ボランティア活動のための練習を計28回実施した。

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 4年度もボランティアが展示案内等を担当する形で、大分県の小・中学校や奈良市の小学校を対象としたオンライン中継授業を計18回実施する等、ボランティアが主体となって行うオンラインプログラムを継続して実施することができた。また、ボランティアが実演等を担当するワークショップを新たに考案し、夏に開催した子ども向けの展覧会以降、継続的に実施した。さらに4年度は動画配信形式にてボランティア研修を計30回実施する等、ボランティアの資質向上にも努めた。よって、年度計画を無事に遂行できたと考え、B評価とした。今後もボランティアが主体となって実施する教育普及プログラムを新たに展開し、ボランティア活動の充実を図る。

【中期計画記載事項】
教育活動の充実及び来館者サービスの向上、さらに、生涯学習活動に寄与するため、ボランティアを育成し、その活動を支援する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 4年度は、学校団体を対象としたオンライン中継授業を計18回実施したことに加え、対面型のワークショップ活動を新たに実施する等、様々な形式で教育活動を展開できた。また、奈良市内の近隣の学校のみならず、大分県の小中学校に対してもオンライン中継授業を定期的に実施したことで、遠隔地の学校への教育普及活動のノウハウを蓄積することができた。さらに、ボランティア研修を計30回実施する等、ボランティア活動の支援を継続して行い、生涯学習に寄与できたことから、4年度も中期計画を遂行できたといえる。 今後は、ボランティアによるワークショップの充実化を目指すほか、庭園ガイドの実施回数を増やすなど、ボランティア活動の更なる充実化を図り、来館者サービスの向上に努める。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1312D

中項目	1． 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（3）教育・普及活動　①教育活動の充実等　2)ボランティア活動の支援

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-2)（九州国立博物館）ア、イ、ウ、エ

担当部課	交流課	事業責任者	課長　田中篤

【実績・成果】

新型コロナウイルス感染拡大防止のため休止していたボランティア活動を4年度から再開した。十分に感染防止対策を行い、さまざまな博物館活動を補助した。

ア　館内案内・展示解説・バックヤードツアーといった来館者対応だけでなく、展示資料整理・博物館周辺の環境美化といった裏方の活動に至るまで、各部会が創意工夫を凝らしながら企画・実施した。

イ　研究員による専門講座を開催し、ボランティアとしてのモチベーションの向上とスキルアップを図った。

ウ 「イベント・サポート部会」の他、有志で結成した「グループ活動」メンバーが、計5回のボランティア主催ワークショップを開催した。

エ　学校教育活動支援事業の一部プログラムをボランティアが担当した。

研究員による専門講座（施設案内研修）の様子

ボランティア主催ワークショップのポスター（『あつまれ！九博の杜』グループ）

【補足事項】
・ボランティアの総数243人（第5期ボランティア109人、第6期ボランティア134人）。週の活動回数、1日の活動時間、活動場所等について制限しながら、活動を再開した。感染状況に配慮しつつ段階的に制限を解除し、来館者案内では一度に案内する人数の上限や実施時間などを記した案内マニュアルを作成し、全員に周知徹底を図った。
・主な専門講座として、館長講話、「展示案内研修（古文書、仏像、やきもの）」「施設案内研修（地下施設、免震層、バックヤード、修復施設他）」「環境研修（博物館科学、九博周辺の自然環境）」を行った。
・4年度のボランティアグループ活動は以下4つである。
①ワークショップデザイン…オリジナリティあるワークショップを企画・運営
②さげもん…福岡県の伝統手芸作品を製作するワークショップ
③『あつまれ！九博の杜』…九博の杜をテーマにしたセミナーやワークショップ
④古筆研究会…万葉仮名からひらがなへの変遷を学び、古筆遺品による和歌集を読む
・学校教育活動支援事業でボランティアが担当するプログラムは「博物館の役割について（講義）」「バックヤードツアー」「展示室案内ツアー」の3つである。事前研修では研究員から博物館の役割について受講し、話し方スキルの向上を目的とした演習を行った。

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 4年度から加入した新規ボランティアからは、来館者案内について対応可能な言語の掲示や来館者のリクエストに合わせたルート案が豊富に提案され、それを実施したことで来館者から好評を得た。特にボランティアの自主運営によるイベントや研修は、職員とボランティア、またボランティア同士が密に連携できたことで充実した内容となった。このことから年度計画を達成したと判断し、左記の評定とした。

【中期計画記載事項】
教育活動の充実及び来館者サービスの向上、さらに、生涯学習活動に寄与するため、ボランティアを育成し、その活動を支援する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 当館でのボランティア活動を終えた者が他施設でボランティア活動を始めたり、新たに別のボランティア団体を立ち上げたりする動きが出てきている。このことから地域の生涯学習活動の拠点として、文化ボランティアの育成に寄与できているものと判断し、左記の評定とした。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1313A

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（3）教育・普及活動　①教育活動の充実等　3)大学との連携事業等の実施

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-3)（4館共通）ア
・Ⅰ-1-(3)-①-3)（東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）ア
・Ⅰ-1-(3)-①-3)（東京国立博物館）ア、イ

担当部課	総務部総務課 学芸企画部博物館教育課	事業責任者	課長　竹之内勝典 課長　鈴木みどり

【実績・成果】
（4館共通）
ア　加入校数61 校（内訳 法人：2、大学：51、専門学校：2、学部：6）が本制度を利用し、30,239 人の学生、1,450 人の教職員が総合文化展を観覧した。なお、特別展割引については、展覧会ごとに設定し実施した （当館は特別展「東福寺」で実施)。
（東京国立博物館、京都国立博物館、九州国立博物館）
ア 博物館学芸員を目指す学生の学習意欲の喚起及び職業意識の育成を目的として、大学院生を対象にインターンシップの募集を予定していたが、引き続き、4 年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。
（東京国立博物館）
ア キャンパスメンバーズ加入校の学生を対象に、博物館の運営、教育普及活動、国際交流、文化財活用等について講義する「博物館セミナー」、及びキャンパスメンバーズ加入校の学芸員志望学生を対象として、作品の取り扱いなど、博物館実務全般について講義・実習する「博物館学講座」の開催を予定していたが、3 年度に引き続き、4 年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため対面、接触を伴う「博物館学講座」は実施を見送った。「博物館セミナー」については、参加を希望するキャンパスメンバーズの学生が会場の定員数を大幅に超えていたため、多数が視聴できるように、「博物館の運営」「特別展の仕組み」「総合文化展の仕組み」「教育普及活動」の 4 本について動画を撮影し配信する、オンライン形式で実施した。

「博物館セミナー」動画

イ 東京藝術大学大学院インターンシップを 1 名受け入れた。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、通常対面で行うガイダンス・検討会・リハーサルを適宜オンラインも利用し、展示室内でのギャラリートークを変更し、本館地下みどりのライオンでスライドトークを実施した。

【補足事項】

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、当初予定していた活動が制限されたが、オンラインの活用や、開催場所と方法を変更して実施するなど、新たな方法を模索し、感染予防対策を講じて実施できた。 今後も積極的に活動し、大学との連携を深めていきたい。

【中期計画記載事項】
インターンシップ、キャンパスメンバーズ制度、大学との連携事業等の実施を通じて人材育成に寄与する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 インターンシップやセミナー等、大学との連携事業を予定していたが、3年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、活動が制限された。しかし、その中でもオンラインにより多数の参加を可能にし、対面の際には実施方法の変更をするなど、「新しい生活様式」に対応した連携事業のあり方を模索して実施できた。こうした新しい手法の利点も加味しつつ、感染終息後を見据えた事業展開を図り、引き続き、インターンシップやセミナー等、大学との連携事業を通じて人材育成に寄与したい。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1313B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　3)大学との連携事業等の実施

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-3)（４館共通）ア、（京都国立博物館）ア

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　阿部勝 上席研究員　淺湫毅

【実績・成果】
（４館共通）
ア
・キャンパスメンバーズへの入会の新規勧誘を行うと同時に、加入校 34 校との連携を継続して行った。
・加入校増加に向けた営業の結果、新規に 2 校が加入した。
・加入校に対し、名品ギャラリーの無料観覧、特別展の観覧料金の割引、講演会の開催、研究誌・図録の無料提供、施設利用・撮影利用の割引等の特典を提供した。
・キャンパスメンバーズデーとして、加入校の特別展無料観覧日を設けた。
・当館を会場として加入校が中心となり、落語会を開催した。
（京都国立博物館）
ア　京都大学との連携の一環で同大学院人間・環境学研究科の客員教員として、尾野善裕（考古学・陶磁）、山川曉（染織）、淺湫毅（彫刻）、大原嘉豊（宗教絵画）、永島明子（漆工）の 5 人が大学院生（修士・博士課程在学者）に対して、京都国立博物館で実際の作品を取り扱いながら、対面方式で文化財に関する講義を行った。受講学生は 18 人（延べ 19 人）である。また、所属する修士課程 1 人・博士後期課程 2 人の学生については、演習において論文作成に向けた口頭発表を行わせるとともに、論文作成の指導を行った。

【補足事項】
（４館共通）
ア
・キャンパスメンバーズの加入を案内するチラシを作成し、未加入校への広報活動を実施した。
・特別展「最澄と天台宗のすべて」キャンパスメンバーズ向け講演会（5月7日　講師：保存修理指導室長　大原嘉豊）（1回・81人）
・特別展「河内長野の霊地　観心寺と金剛寺」キャンパスメンバーズ向け講演会（8月9日　講師：企画室研究員　井並林太郎）（1回・82人）
・キャンパスメンバーズデー（8月9日・102人）
・施設利用の割引（加入校の学生による落語会の施設利用）

キャンパスメンバーズ講演会

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 キャンパスメンバーズについては、より多くの対象者に利用してもらえるように広報活動を行った。また、新たにキャンパスメンバーズデーとして、加入校が特別展を無料観覧できる日を設けるなど特典の充実を図り、関係性の構築に努めることができた。また、新規で加入してもらえる学校を模索するために様々な営業活動を継続的に行い、新たに2校が加入した。 また京都大学との連携講座である人間・環境学研究科の大学院生の講義に関しては、実際の文化財を用いた対面式の授業を行うことで、博物館ならではの授業及び研究指導を行うことができた。

【中期計画記載事項】
インターンシップ、キャンパスメンバーズ制度、大学との連携事業等の実施を通じて人材育成に寄与する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 キャンパスメンバーズの加入校数は安定しており、大学等の連携もできているため、中期計画を順調に遂行しているといえる。今後はより多くのキャンパスメンバーズ加入校の学生に当館のサービスを利用してもらえるように広報活動により注力していく予定である。また、引き続き地域の未加入の大学に加入してもらえるように営業活動を積極的に行っていく予定である。 京都大学との連携講座については、引き続き協定に基づき計画的に研究指導を行い、文化財にかかわる人材育成に貢献していくこととする。

【書式A】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　1313C

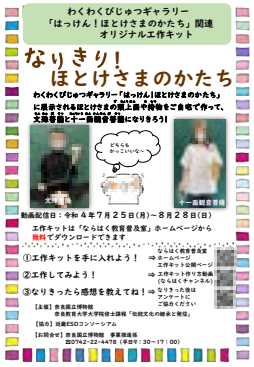
中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（3）教育・普及活動　①教育活動の充実等　3)大学との連携事業等の実施

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-3)（4館共通）ア、(東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）ア、(奈良国立博物館）ア

担当部課	総務課	事業責任者	課長　大西真一

【実績・成果】
（4館共通）
ア　キャンパスメンバーズの勧誘及び更新を進め、入会校数は3年度より1校増の27校となった。加盟校とは連携を継続した。
（東京・奈良・九州）
ア　インターンシップ受入については継続しているものの、4年度の希望者はなかった。
（奈良国立博物館）
ア
・奈良女子大学大学院人間文化総合科学研究科に学芸部研究員1人を派遣し、講義を行った。受講生は前期2人であった。また、奈良女子大学を含む奈良国立大学機構の奈良カレッジズ連携推進センターの連携事業に参画し、学問祭においては館長の講義の実施、また産地学官連携プラットフォームの立ち上げの協力など連携を進めている。
・神戸大学大学院人文学研究科の連携講座（文化資源論講座）に学芸部研究員2人を派遣し、講義を行った。受講生は通期2名であった。

【補足事項】
・わくわくびじゅつギャラリー「はっけん！ほとけさまのかたち」関連ワークショップとして、キャンパスメンバーズ加盟校である奈良教育大学と連携して作成した動画「なりきり！ほとけさまのかたち」を4本、館のYouTube公式チャンネル「ならはくチャンネル」で配信。配信した4本の動画は合計で約2,000回再生された。
・各展覧会（大安寺のすべて展、中将姫と當麻曼荼羅展、春日大社若宮国宝展）において、加盟校を対象に、研究員の解説付き鑑賞会を実施し、それぞれ43名、49名、46名の参加があった。



なりきり！ほとけさまのかたち

キャンパスメンバーズ特別鑑賞会

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	3年度に引き続き、キャンパスメンバーズ加盟校である奈良教育大学と連携し、楽しみながら展覧会の理解促進を図るワークショップ動画を配信し、好評を得た。また、加盟校の学生及び教職員を対象にした特別鑑賞会を実施し、各展覧会や館の活動に対する参加者の理解を深めることができた。 大学との連携協定における講義及び講座の実施など、教育機関との地域連携を引き続き進めることができ、計画を着実に実行した。

【中期計画記載事項】
インターンシップ、キャンパスメンバーズ制度、大学との連携事業等の実施を通じて人材育成に寄与する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	3年度より開始したキャンパスメンバーズ加盟校対象の特別鑑賞会を今年度も継続し、多くの学生・教職員の各展覧会への理解度を深めることができた。キャンパスメンバーズ制度や大学との連携協定による講座等については、若年層へ来館を促すためにも、引き続き内容の充実及び機会の提供を図っていく。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1313D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　3)大学との連携事業等の実施

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-3)（４館共通）ア
・Ⅰ-1-(3)-①-3)（東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）ア
・Ⅰ-1-(3)-①-3)（九州国立博物館）ア、イ

担当部課	学芸部博物館科学課 交流課 総務課	事業責任者	課長　木川りか 課長　田中篤 課長　執行正一

【実績・成果】
（４館共通）
ア　キャンパスメンバーズ（学校法人会員制度）による大学等との連携を継続して実施した。
（4年度における加入校内訳：大学12校、短期大学3校、専門学校1校、高等学校6校）
（東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）
ア　新型コロナウイルス感染拡大防止のため、文化財保存修復施設を利用した地域の大学との連携を図る短期インターンシップは中止した。
（九州国立博物館）
ア　博物館実習生を受け入れ、実習を実施した。
実施期間：8月16日～8月19日、8月21日～8月22日（6日間）
内容：博物館の各機能に関する講義、実習
博物館実習生を10大学から14人受け入れた。
（うちキャンパスメンバーズ校は4大学7人）
イ　放送大学の面接授業を実施した。
11月24日～25日（2日間）、19人受講　講師8人

博物館実習風景

【補足事項】
・修理技術研修は、実技が主になり密な接触が避けられないため、新型コロナウイルスの影響のため4年度は実施しなかった。
・大学との連携事業として、「撮る博物館」を実施した。
実施期間：11月15日～20日（6日間）
内容：主に若者に向けた文化交流展示室の広報を目的として、九州産業大学の学生が文化財等を撮影し、写真パネルをエントランスホールに展示するとともに、館職員の投票による優秀作品を選定し表彰した。
その他、「博物館浴」といった九州産業大学の主導のイベントも実施した。
「博物館浴」実施期間：5年1月5日～6日（2日間）

「撮る博物館」
表彰式風景

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 短期インターンシップは新型コロナウイルス感染拡大防止のため3年度に引き続き中止したが、博物館実習では、10大学から14人を受け入れ、計6日間実習を行った。さらに、放送大学の面接授業は、新型コロナウイルスの影響を考慮して例年の半数（19人）で実施し、感染状況を見据えつつ年度計画を達成した。

【中期計画記載事項】
インターンシップ、キャンパスメンバーズ制度、大学との連携事業等の実施を通じて人材育成に寄与する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中止した事業はあったが、新型コロナウイルスの影響を考慮し、適切な人数及び日数において博物館実習を実施した。さらに、放送大学の面接授業も人数を制限しつつ、3年度に引き続き実施した。中期計画を順調に遂行し、今後は感染拡大防止に配慮しつつ活動規模の拡大に努める。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1314A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等4)国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-4)（4館共通）

担当部課	学芸研究部保存修復課	事業責任者	保存修復課長　和田浩

【実績・成果】
1）研究発表実績
修理技術に関する研究成果を公表し、修理技術者との情報共有を行った。
・「磁器・ガラスに使用される光学用エポキシ樹脂の剥離に関する実験」（文化財保存修復学会第 44 回大会） 6 月 18 日～19 日
・多様な文化財の診断および修理検討のための CT 活用事例」（2022 日韓学術人的交流事業「日韓博物館における保存科学装備の活用及び展望」）10 月 28 日

2）国内外の保存修復分野に携わる人材への技術的支援等
有形文化財の修理に関する人材を技術的に援助する取り組みを行った。
・地域文化財の修理に関する相談（郡山市文化スポーツ部文化振興課）6 月 13 日
・水損した複合材料資料（民俗）の安定化処置に関する相談対応（NPO 文化財保存支援機構）11 月 24 日
・保存修復分野のキャリアパスに関する講義（東京芸術大学大学院　文化財保存学専攻保存修復工芸研究室）7 月 14 日～22 日
・日本彫刻修理に使用する材料や道具に関する意見交換（Museum of Fine Arts, Boston /Abby Hykin）11 月 28 日

【補足事項】

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 修理技術に関する研究成果を学会等で発表することにより、国内外で修理に携わる人材へ適切な情報共有を実施できた。研究成果及びこれまでの経験から得られた知見を基に、国内外の修復分野に携わる人材への技術的支援を効果的に実施できた。これまで、地域の文化財修復分野に携わる人材と具体的な修理技術情報の交換や支援をあまり実施できていなかったところ、対応できたと考えている。

【中期計画記載事項】
保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業を関係機関と連携しながら検討、実施する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 保存修復分野の技術は伝統技術的な要素が大きく、特に国内では客観的な視座から研究を進め、成果を広く公表することが難しい状況下で、中期計画の2年目として十分な研究実績を上げることができた。今後は保存修復分野に携わる人材の中で、どの段階のキャリアの人材の育成を、どのように支援していくのか、ある程度的を絞って活動を継続する必要があると考えている。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1314B

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（3）教育・普及活動　①教育活動の充実等4)国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-4)（4館共通）

担当部課	学芸部	事業責任者	保存修理指導室長　大原嘉豊

【実績・成果】
・例年は、4月及び奇数月に文化財保存修理所内工房を当館研究員が巡回し、文化財の修理状況を確認するとともに、修理技術者に指導・助言を行っているが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、9月までは一部職員のみによる監督指導にとどめ、11月以降は通常通りの体制で実施した。また、2か月に一回、修理技術者と当館との定例会議を開催した。（巡回7回、会議7回）
・当館開催の特別展と特別企画において修理技術者に対する定例の研修会を実施した。（計3回・207人）
　特別展「最澄と天台宗のすべて」（4月18日・77人）
　特別展「観心寺と金剛寺」（8月8日・65人）
　特別展「茶の湯」（10月17日・65人）
・新型コロナウイルスの感染対策を講じたうえで、保存修理技術を専攻する大学院生のための研修会を開催した。（9月9日・14名）
・文化財修理を学ぶ大学院生（3人）のインターンシップ実習を8月8日～9月16日に実施するとともに、後日報告会をオンライン形式にて開催し（出席者40人）、報告書を作成した。
・博物館における、保存科学・文化財修理の専門家等による文化財保存修理所の視察を受け入れ、情報交換などを行った。
（計 35 回・142 人）
財務省・文化庁（6 月 16 日・11 人）
宮内庁　京都事務所、保存工事事業委員会　（8 月 8 日・7 人）
参議院議員運営委員会派遣委員・文化庁（9 月 12 日・20 人）
他 47 人

【補足事項】
・文化財保存修理所の巡回に際して、技術者より文化財の修理状況について説明を受け、当館研究員が専門的な立場から指導・助言を行った。新型コロナウイルス感染状況に鑑み、4・5・7・9月は参加職員の人数を制限して実施し、11月以降は通常通り全職員を参加対象として実施した。
・文化財修理を学ぶ大学院生をインターンシップ生として受け入れ、実習を行ったことは、今後の若手技術者育成という点でも大きな意義がある。
・保存修理技術を専攻する大学院生のための研修会は、多くの学校から意欲ある学生の参加があった。実際の修理現場を体感する研修を行うことで、学生の意欲や目的意識の向上を図ることができた。
・3年度に続いてインターンシップ報告会をオンライン形式で開催したことにより、より多くの教員・学生の参加が可能となった。

保存修復を専攻する大学院生のための研修会

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルス感染予防対策を実施し、保存修理技術を専攻する大学院生のための研修会、インターンシップ実習を開催した。元年度より中止が続いた事業の再開に漕ぎつけたことは、教育普及・人材育成の点において大きな成果であったといえる。所定の事業を遂行し、年度計画を達成することができた。

【中期計画記載事項】
保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業を関係機関と連携しながら検討、実施する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 保存修理技術を専攻する大学院生のための研修会及びインターンシップ実習を滞りなく開催し、保存科学・文化財修理の専門家及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業を関係機関と連携しながら実施できたことは、中期計画の2年度として順調に計画を遂行できていると言える。

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　1314C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等 4)国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与

【年度計画】・Ⅰ-1-(3)-①-4)（４館共通）

担当部課	学芸部	事業責任者	保存修理指導室長　荒木臣紀

【実績・成果】
（４館共通）
・保存修理技術者に対する研修会を実施した。
・海外から3組の修理技術者が来館し、保存修理指導室職員と修理に関する意見交換を行った。

【補足事項】
・文化財保存修理所技術者研修会
　5年2月16日に文化財保存修理所の各工房修理技術者を対象とする研修会を開催した。
・米国ボストン美術館、フィラデルフィア美術館、英国大英博物館の修理技術者が来館し刺繍の修理方法、修理前などに行う科学調査の役割と可能性、実際のX線撮影方法について意見交換を行った。

修理技術者を対象とする研修会の様子

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 4年度は新型コロナウイルス感染防止の観点から海外専門家の招聘事業は行っていないが、海外から3組の修理技術者が来館し、保存修理指導室職員と修理や調査に関する意見交換を行った。 また、3年度は実施されなかった文化財保存修理所技術者研修会が4年度は実施され、修理技術者を対象に研修を行うことができた。さらに、問い合わせの対応や修正報告書による成果公表など保存修理従事者が情報を取得できる環境は例年通り整えており、新型コロナウイルス渦においても多様な方法で人材育成に寄与することができた。以上の理由から、年度計画を着実に実行できたと考えB評価とした。

【中期計画記載事項】
保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業を関係機関と連携しながら検討、実施する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 一部の国からは来日しやすくなったため、それらの国からの修理所見学、修理に関する意見交換を行うことができた。また、修理中の作品の蛍光X線分析やX線CT撮影、X線撮影を技術者と保存科学者が一緒解析するといった作業を行ったことで文化財の保存・修理に関する人材育成に寄与することができ、中期計画を着実に遂行しているため、左記の評定とした。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　1314D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動 ①教育活動の充実等 4)国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-4)（４館共通）

担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	課長　木川りか

【実績・成果】
（４館共通）
　文化財保存普及のための講座・研修については、3年度に続き、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から実施を中止したものもあったが、関係者や専門家を対象とした行事や研修会は、感染対策を徹底した上で実施することができた。

【補足事項】
・「漆工修理技術者研修会（試行第１回)」
　開催日：12 月 9 日～10 日
　主催：文化庁文化財第 1 課
　共催：当館
　協力：(同) 大西漆芸修復スタジオ
　当館修復施設にて修理中の国宝婚礼調度類〈徳川光友夫人千代姫所用〉のうち、初音の蒔絵調度・書棚（棚囲い・七宝繋)、初音の蒔絵調度・書棚（棚囲い・龍膽七宝繋)、胡蝶の蒔絵調度・書棚の 3 基を対象に、漆工の指定品修理実績のある全国の修理技術者や復元模造製作技術者約 20 人が参加する、専門的研修を実施した。文化庁及び当館修理技術者から、修理や科学的調査に関する報告と、作品の熟覧を行い、漆工品の修理技術や材質・技法についての経験や知見を共有した。

漆工修理技術者研修会

・「寒糊炊き」
　開催日：5 年 1 月 20 日
　協力：修理工房宰匠（株)
　寒糊炊きは書画の修理に必要不可欠な古糊（小麦澱粉糊（新糊）を約 10 年間、涼暗所で寝かせて接着力を弱めた糊）の元となる新糊を炊く作業で、文化財修理の意義を周知する機会としてきた。2 年度以降は、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から参加者を館内職員に限定し、マスク・手袋の着用など感染対策を十分行った上で実施しており、4 年度も同様に実施した。

寒糊炊き

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 　新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止した事業についても、再開に努めた。「寒糊炊き」は感染対策を行った上、館内職員のみにて実施した。また、修理作品を通じて修理技術者等が高度な意見交換及び情報共有を行える文化庁による新たな研修会を当館で開催したことで年度計画を達成した。

【中期計画記載事項】
　保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業を関係機関と連携しながら検討、実施する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 　3年度に続いて、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から実技を主とする研修事業は実施を中止した。しかし、保存・修理に関わる人材育成を継続していくため、修理技術者等と連携しながら、対応可能な内容での研修を検討・実施し、中期計画に沿って事業を遂行した。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1315A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　5)博物館支援者増加への取組

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-5)（4館共通）ア、イ、ウ、エ
・Ⅰ-1-(3)-①-5)（東京国立博物館）ア、イ

担当部課	総務部総務課	事業責任者	課長　竹之内勝典

【実績・成果】
（4館共通）
ア　会員総数は14,561件、3年度（9,881件）の1.5割増となった。
イ　賛助会会員を対象として、11月21日（月）に、特別展「国宝　東京国立博物館のすべて」の貸切観覧と事業報告会、特別講演からなる賛助会感謝デーを実施した。また、本特別展の会期延長に際しては、事前予約不要の無料観覧を実施した。
ウ　みずほプレミアムクラブ会員向けにオンラインと実参加の同時イベントを企画、12月23日（金）に実施し、認知度向上に努めた。
エ　特別展「東福寺」において、5年3月13日（月）に、三菱商事株式会社の協力による障がい者内覧会を実施し、社会貢献活動に協力した。
（東京国立博物館）
ア　賛助会感謝デーの実施や賛助会団体会員向けのイベントを実施し、継続的な支援者獲得の促進を図った。
イ　上野文化の杜新構想実行委員会として、5年1月24日（火）に東京藝術大学等と連携しワークショップを開催した。また、JR東日本と協同し黒田記念館等をルートに含むツアーを実施し、館の認知度向上に努めた（5年2月22日（水）、3月12日（日）、19日（日））。
イ　上野の山文化ゾーンフェスティバルに協力し、上野地区各施設との連携を強化した。

【補足事項】
（4館共通）
ア　賛助会会員件数608件の内訳は個人543人（プラチナ9人、ゴールド53人、シルバー481人）、団体65団体（プレミアム1団体、特別19団体、維持45団体）である。

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 現行の会員制度へ移行した3年度には、新型コロナウイルス感染拡大防止の対策として、臨時休館や特別展の開催に影響があったことにより、会員数が2年度比2割減となったが、4年度は博物館の入場制限等の緩和に伴い、実参加も含めた会員向けの企画や支援者獲得のための活動を再開できたことから、増加に転じた。また、企業等との連携により賛助会等の制度について認知度を高めることができた。

【中期計画記載事項】
企業との連携や会員制度の活性化等により博物館支援者の増加を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 会員数は特別展の内容などにより増減している。寄附による博物館の支援を目的とした賛助会員は個人・団体ともに年々堅調に推移したところ、新型コロナウイルスの影響のため、2、3年度には会員数が減少したが、4年度は博物館の入場制限等の緩和に伴い、実参加も含めた会員向けの企画や支援者獲得のための活動を再開できたことから、4年度になり増加に転じた。博物館の支援基盤の充実を図るため、今後も引き続き支援者の増加に努める。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1315B

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（3）教育・普及活動　①教育活動の充実等　5)博物館支援者増加への取組

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-5)（4館共通）ア、イ、ウ、エ、（京都国立博物館）ア、イ

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　阿部勝 部長　尾野善裕

【実績・成果】
（4館共通）
ア　「国立博物館メンバーズパス」の会員数は減少傾向にあったが、特典内容をウェブサイトにて案内する等、会員数の拡大に努めた結果、3年度より会員数は90名増加した。
イ　当館発行の「国立博物館メンバーズパス」について、3年度に引き続き近隣文化施設との相互割引等の特典を設定した。
ウ　3年度に引き続き、株式会社三越伊勢丹と連携し、国立博物館コラボレーションギフトへ参加した。
エ　企業（キヤノン、JR東日本、日本たばこ産業、三井不動産、三菱地所、明治ホールディングス等）から、展覧会事業について各種支援（協賛・協力）を得た。
（京都国立博物館）
ア
・一般社団法人清風会が行う鑑賞会（4回）・見学会（3回）・会報（4回）の解説、執筆及び総会の開催に協力した。
・伝教大師1200年大遠忌記念　特別展「最澄と天台宗のすべて」開催中に、公益財団法人仏教美術研究上野記念財団によるシンポジウムを実施した。
イ
・ミュージアムパートナー制度では、新型コロナウイルスの影響による厳しい経済状況下においても大多数のパートナーから継続して支援を得られた。
・文化財保護基金では、企業等からの寄付金を引き続き受け入れ、連携を図った。

【補足事項】
（4館共通）
ウ
・三菱商事株式会社関西支社と共同で、「障がいのある方のための特別鑑賞会」を実施した。
・近隣のタクシー会社と連携し、ステッカーを作成し、タクシー車両のリアガラスの部分に掲示してもらい、展覧会の広報活動を行うことができた。

タクシーのリアステッカー

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 企業等との連携では、「障害のある方のための特別鑑賞会」の開催やタクシーのリアガラスへの展覧会広報ステッカーの掲出など、複数の企業との間で多面的な事業展開ができた。特に、障害者が気兼ねなく鑑賞できるよう休館日に設定した特別鑑賞会は、参加者の満足度も高く、館の認知度向上にも大いに資するところがあったため、今後も継続を予定している。 総じてコロナ禍の影響が強く残る中で、ミュージアムパートナーの支援者は微減したものの、3年度より意識的に展開してきた広報活動が実を結び、「国立博物館メンバーズパス」と博物館支援団体である清風会の会員数は増加傾向にある。 以上、概ね年度計画を順調に達成しているため、全体としてはBと評価する。

【中期計画記載事項】
企業との連携や会員制度の活性化等により博物館支援者の増加を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 コロナ禍で、博物館への支援を受けにくい状況が続いているが、ギフト開発やタクシーステッカーでの展覧会広報など従前の事業を維持しただけでなく、障害者向け特別鑑賞会では開催日の調整など、新たな取り組みを行い高い評価が得られた。ミュージアムパートナーの支援者は僅かに減少したが、積極的な広報展開により「国立博物館メンバーズパス」と博物館支援団体である清風会の会員数は増加傾向にあるため、全体としてはBと評価する。

【書式A】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　1315C

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（3）教育・普及活動　①教育活動の充実等　5)博物館支援者増加への取組

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-5)（4館共通）ア、イ、ウ、エ、（奈良国立博物館）ア、イ、ウ、エ

担当部課	総務課	事業責任者	課長　大西真一

【実績・成果】
（4館共通）
ア　入会案内チラシをイベントごとに配布し、賛助会員の新規獲得を図った。
イ　賛助会員、奈良博プレミアムカード会員を対象として、研究員による解説付き特別鑑賞会を実施した。
ウ　大手百貨店と連携してコラボレーションギフトを製作し、自己収入の増加と当館の認知度向上を図った。
エ　展覧会の共催者と連携し、企業等からの協賛・協力を募った。
（奈良国立博物館）
ア　協賛企業等が主催する展覧会の解説付き鑑賞会の実施に協力した。
イ　特別展の実施に際し企業等からの協力金を得て、特別展の充実を図った。
ウ　賛助会員127（特別支援会員：2団体、特別会員7団体、一般会員（団体）：15団体、一般会員（個人）：103名）となり、昨年度より6件増加した。
エ・地元商店街、地元企業及び地元自治体と連携して観光イベント、スタンプラリー、入館料割引等を実施することにより、博物館の認知度向上と顧客層の開拓に努めた。
・企業と連携し、不用品の査定換金額が当館に寄附される取り組みを継続した。

【補足事項】
・三越伊勢丹と連携してコラボレーションギフトの製作・販売を行った。商品カタログへの情報掲載を通じて広報を行い、当館の認知度向上に繋げた。
・奈良市と連携し、ふるさと納税の返礼品として当館の過去の特別展図録を提供した。
・奈良マラソン実行委員会(奈良県ほか)と連携し、奈良マラソン2022ポスターのメインビジュアルに、当館の収蔵品である「伽藍神立像(走り大黒)」が起用されたほか、マラソン参加者に対しては当館窓口でビブス(ゼッケン)を提示することで、特別展・名品展(平常展)の入館料割引を行い、誘客と認知度向上に努めた。

ふるさと納税返礼品

奈良マラソンポスター

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	プレミアムカード会員への賛助会入会チラシを配付、また特別展の協賛企業に賛助会加入の提案をする等、賛助会会員の増加に努めた結果、昨年度比6件の増加に繋がった。 さらに、マラソンやスタンプラリー協力等自治体や商店街等との連携事業を実施し、着実に計画を実施できているためB評価とした。

【中期計画記載事項】
企業との連携や会員制度の活性化等により博物館支援者の増加を図る。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	新規会員獲得に向けた活動を積極的に行うとともに、特別鑑賞会の開催、刊行物の送付などを継続し、支援の継続を図った。 また、地域連携として近隣商店街、地元企業や地方自治体等と協力し、自己収入の増加と博物館の認知度向上、新規顧客の獲得に繋げていることから、中期計画を順調に遂行できている。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1315D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　5)博物館支援者増加への取組

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-5)（４館共通）ア、イ、ウ、エ
・Ⅰ-1-(3)-①-5)（九州国立博物館）　ア、イ、ウ、エ

担当部課	交流課 広報課 総務課	事業責任者	課長　田中篤 課長　野田智子 課長　執行正一

【実績・成果】
（４館共通）
ア　友の会及びメンバーズプレミアムパスについて、ウェブサイト、リーフレット等による広報を行い、会員数の拡大に努めた。
イ　友の会会員を対象に、季刊情報誌「アジアージュ」、特集展示チラシ等を送付した。賛助会団体会員を対象とした特別展特別観覧会について、新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため開催せず、代わりに日時指定のない招待券を送付した。
ウ
・JR九州や西日本鉄道等と連携し、福岡・九州の交通要所において特集展示や広報番組を告知した。
・サッカー・ワールドカップ開催記念「アジア代表2022トークショー」をミュージアムホールで開催した（11月2日　日比野克彦氏（東京藝術大学学長）、田嶋幸三氏（日本サッカー協会会長）、岡田武史氏（日本サッカー協会副会長））。また、ワールドカップ・アジア予選出場各国をイメージして陶芸ワークショップ「WORLD PEOPLE CUP」で制作された作品をエントランスホールに展示した。これらを若い世代が来館するきっかけとし、認知度の向上を図った。
エ　協賛企業の協力により、広報活動の充実を図ることができた。
（九州国立博物館）
ア　賛助会の広報に努め、新規会員の獲得を図った。4年度の新規加入は、個人7人、団体3団体であった。
イ　「九州国立博物館を愛する会」の会員を対象とした特別観覧会を実施した。また、会報誌の執筆に協力した。
ウ　支援団体からの財政的な支援により、空港や主要な駅へ広告を掲出することができた。
エ　特別展「ポンペイ」の広報の一環として、「炭化したパン」をイメージした黒いパン（「ポン・パン」）を障がい者が作る「まごころ製品」として販売した。好評のうちに完売し、展覧会のアピールと障がい者の自立支援を共に実現した。

特別展「ポンペイ」にちなんだパン販売

【補足事項】
（４館共通）
ウ　西日本新聞社及び（公財）九州国立博物館振興財団との共同事業として、国指定重要無形民俗文化財で平成28年にユネスコ無形文化遺産「山・鉾・屋台行事」の一つ「博多祇園山笠」の飾り山を開館以来連続してエントランスに展示した。
（九州国立博物館）
ア　賛助会員（特別会員（個人）5人、維持会員（個人）29人、プレミアム会員（団体）1団体、特別会員（団体）2団体、維持会員（団体）18団体）

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 ウェブサイト、リーフレット、チラシ等を用いて各会員制度の広報に注力し、会員制度の拡充を図った。さらに、企業や地域と連携した広報活動やイベントを実施し年度計画を達成した。今後も、広報の充実を図り、支援者増加を図る。

【中期計画記載事項】
企業との連携や会員制度の活性化等により博物館支援者の増加を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 各種会員制度を継続した。また、博物館支援者増加を図る取り組みを実施した。 さらに、障がい者施設の協力を得て当館の認知度向上と共に障がい者の自立支援に寄与した。以上から、中期計画を円滑に推進したと評価し、B評定とした。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1321A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 1)有形文化財に関する情報の発信　2)資料の収集と公開

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-②-1)(4館共通)
・Ⅰ-1-(3)-②-2)(東京国立博物館)ア、イ、ウ

担当部課	学芸研究部博物館情報課	事業責任者	課長　村田良二

【実績・成果】
1)(4館共通)
・「国立文化財機構所蔵品統合検索システムColBase」への掲載情報充実と画像追加を行った（約63,379追加)。さらに、「作品種別」を整備し検索に利用できるようにした。
・「e国宝」において、1件を追加し、既存解説文の見直しを継続して行った（解説文更新89件)。
・「ジャパンサーチ」とColBaseのデータ連携形態を更新し、自動的に定期的なデータ更新が図れる仕組みを構築した。
2)(東京国立博物館)
ア
・資料館における美術史等の情報・資料の公開のため、6,820件の図書及び逐次刊行物の収集・整理を行った。
・画像検索システムに画像データ19,873件を登録し、既存データ1,839件を修正して、正確な情報の提供に努めた。
・漢籍3冊（136カット）のデジタル撮影を行い、デジタルライブラリーで公開した。
・資料の閲覧、複写及びレファレンスサービスを継続した。(入館者2,172人）新型コロナウイルスの影響により、来館者数はコロナ前より減少しているが、非来館の複写やレファレンス依頼は増加した。
　貴重書用保存箱を50 箱作成し、10冊の補修を実施した。
イ
・東京国立博物館の列品を収載している図書について、列品番号調査と収載図書データへの列品番号入力を、継続して実施した。
・protoDBにおける文献情報への入力準備として、展覧会カタログ及び当館刊行図書・国立文化財機構内各機関発行雑誌に掲載された当館所蔵品の列品番号情報と表示用書誌情報を3,811件作成した。
・国立国会図書館のレファレンス協同データベースにデータを蓄積・公開することにより、レファレンスにおいても対非来館者サービスの拡充と広報に資することができ、3年連続で国立国会図書館より御礼状賞状を受領した。(一般公開138件、新規登録3件、被参照数 81,255件)
ウ
・ILL（図書館間相互利用）サービスによる文献複写サービスの受付（館内外)、NACSIS-ILLの複写料金相殺サービスを継続して行った。またコロナ禍において、 NACSIS-ILL非参加館からの依頼も増加し、対応を行った。
・特別展関連図書コーナーの設置、新着資料案内等をライブラリーニュースにて発信した。特に創立150年記念特別展に際しては、閲覧室内にて通常の関連図書コーナーでは戦後の特別展入場者数ランキング上位100位までの図録を順位順に展示し、加えて展示ケースでも、戦後まもなくの「国立博物館」時代、まだ国立美術館が開館する以前で近現代の西洋絵画も当館で展示していた時代の、当時大きな話題を呼んだ1951年の展覧会「アンリ・マチス」展からマティスの「JAZZ」(貴重書）や関連資料を展示・紹介した。また平成館特別展会場内にも貴重洋書を1点展示し、図録に作品解説を載せて紹介した。
・各種新型コロナウイルス対策を取りつつ、日本図書館協会「図書館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」に沿って制限を緩和し、利便性の向上に努めた。
・英語、中国語、韓国語の配布用（紙媒体）利用案内リーフレットを作成し、外国人来館者の利便性向上に努めた。
・自館・他館の特別企画展示用に貴重書を貸与し、展示の充実に貢献した。
・Wikipediaの文化財記事を充実させるためのエディタソンに会場を提供し、列品に関する資料や画像の利用方法を紹介することにより、外部文化財情報の充実にも貢献した。

【補足事項】
2)(東京国立博物館)

ア	新規受入図書	4,358 冊	既存図書の遡及入力	18 冊
	逐次刊行物の新規受入	2,462 冊	逐次刊行物の遡及入力	26 冊
イ	当館開催展覧会カタログ	1190 件	他館開催展覧会カタログ	1581 件
	当館刊行図書	1024 件	当館・機構内他館刊行雑誌	16 件

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
新型コロナウイルス対策として、対非来館サービスの一つとして図書館間の文献複写サービスやレファレンスも3年度に続き従来の外部図書館以外にも広く対応し、館内外における利便性の維持・向上を図った。また、レファレンス協同データベースにレファレンス事例を蓄積し、公開することにより、サービスとレファレンススキルの向上に資することができた。収蔵品情報に文献情報を継続して追加することにより、研究支援サービスを強化できた。創立150年記念特別展では、会場内での展示・作品解説のほか、閲覧室内でも特別な展示を行い、内外に情報発信を行った。また書庫管理運用についても他館の参考に資するべく事例発表2件を行った。新型コロナウイルスに係る資料館の運営についても、ガイドラインに則り、来館利用者の安全に配慮しつつ適宜制限を緩和し、利便性の向上に努めた。

【中期計画記載事項】
1)ウェブサイト等において、文化財その他関連する資料の情報を公開する。公開データの件数は継続的に増加させる。
2)美術史学・考古学・歴史学・博物館学・保存科学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、その情報の発信と充実に努める。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
新型コロナウイルスの影響により、利用者が安心して利用できるよう各種利用制限を設けて運用しているが、ガイドラインの改定に合わせて資料館の利用制限も適宜緩和し、利便性を高めた。加えて、資料の調査方法や書庫管理についても対外的に情報発信に努めた。3年度に続き閲覧室運用費用や資料購入及び整理保存の大幅な予算減及び人員不足の状況下において、外部基金の活用などで例年同様の収集、蓄積と未整理資料の整備を進め、新着資料や特別展関連資料等の情報の発信と充実に努めた。以上より、順調に中期計画を進めることができたと判断し、B評価とした。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1321B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 1)有形文化財に関する情報の発信　2)資料の収集と公開

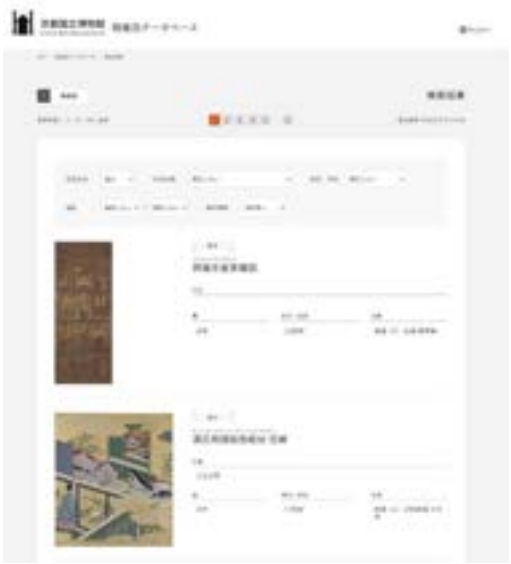
【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-②-1)（４館共通)、(京都国立博物館）ア、イ
・Ⅰ-1-(3)-②-2)（京都国立博物館）ア

担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長　羽田聡

【実績・成果】
Ⅰ-1-(3)-②-1)（４館共通）
ア　「国立博物館収蔵品統合検索システム　ColBase」に項目「種別」が新たに追加されたことに伴い、当館の収蔵品管理システムにも当該の項目を追加し、作品情報を豊かにするため業者と打ち合わせを行った。
（京都国立博物館）
ア
・館蔵品データベースにデジタル画像を2,741枚追加し、情報量充実を図った。
・当館公式ウェブサイトで公開中の館蔵品データベースについて、これまでの課題を基にリニューアルを行った。
イ　オンラインによる画像利用申請を実施するにあたり、館蔵品データベースに必要な機能を整理した。
Ⅰ-1-(3)-②-2)（京都国立博物館）
ア
・調査、研究、教育等に資するため、図書1,305冊、逐次刊行物1,728冊、新たに収集、蔵書管理システムに登録した。
・蔵書管理システムをリニューアルすることで、図書や逐次刊行物の整理、管理に関する業務効率の向上を図った。
・蔵書管理システムのリニューアルに併せ、OPAC(オンライン蔵書目録)のリニューアルを行い、蔵書検索だけではなく、調査、研究環境の向上を図った。

【補足事項】

（リニューアル前の館蔵品データベース）



（リニューアル後の館蔵品データベース）

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 デジタル画像を館蔵品データベースへ2,741枚追加し、作品情報の充実に資することができた。また、館蔵品データベースをリニューアルすることで、スマートフォンやタブレット端末等、PC以外の閲覧環境に対応することができた。新しい館蔵品データベースは、令和5年度に公開予定である。 また、館蔵品データベースだけではなく、利用開始から10年以上経過していた蔵書管理システムについてもリニューアルすることができたため、B評定とした。

【中期計画記載事項】
1)ウェブサイト等において、文化財その他関連する資料の情報を公開する。公開データの件数は継続的に増加させる。
2)美術史学・考古学・歴史学・博物館学・保存科学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、その情報の発信と充実を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画の2年目として、3年度の準備を基に館蔵品データベースと蔵書管理システムのリニューアルを行った。いずれも、要機密情報を扱わないサービスとして、クラウドサーバを活用し、機器の耐用年数に伴う、経年劣化などの課題を解決することができた。5年度以降は、リニューアル後のシステムに対して、必要に応じた改修を行い、さらなる取り組みの充実化を図る。

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　1321C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 1)有形文化財に関する情報の発信　2)資料の収集と公開

【年度計画】
・Ｉ-1-(3)-②-1)（４館共通)、(奈良国立博物館）ア、イ
・Ｉ-1-(3)-②-2)（奈良国立博物館）ア

担当部課	学芸部	事業責任者	資料室長　野尻忠

【実績・成果】
1)（４館共通）
　収蔵品データベースにおいて収蔵品等の掲載情報充実につとめ積極的に公開した。
（奈良国立博物館）
ア　仏教美術情報の公開・普及を図ることを目的に、撮影やデジタル化などで収集した画像データを4,054件、新たに登録した。
イ　ウェブサイト上のデータベースで公開している画像について、非商業目的での外部利用には、引き続き無償ダウンロードで対応した。
2)（奈良国立博物館）
ア　図書館情報システムと写真情報システムによる資料整備と情報蓄積を推進し、図書館情報システムには1,970冊（和書1,929冊、漢籍17冊、洋書24冊）を新たに登録し、写真情報システムには4,054件を新たに登録するとともに、これらの資料と写真情報を仏教美術資料研究センターにおいて引き続き公開した。

【補足事項】
・仏教美術資料研究センターでは、2年8月以降、外部利用者の入館を完全予約制としている。予約状況は、図書検索システムOPACにある開館カレンダーから、「もっと見る」ボタンをクリックして次頁へ遷移すると、確認することができる。その「もっと見る」ボタンの存在を分かりやすくするため、システムの改修を実施した（8月）。

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 文化財画像の公開件数は、例年並に着実に追加することができた。また、ウェブサイト上で公開している画像は、商業目的利用にあっては掲載申請を求めているが、トラブル等なく順調に運用できた。図書情報システムへの登録件数も順調に増えてはいるが、作業が追いつかず登録待ちとなっている図書もあり、この状況を解消するため、5年度以降、図書係の体制を整えていきたい。

【中期計画記載事項】
1)ウェブサイト等において、文化財その他関連する資料の情報を公開する。公開データの件数は継続的に増加させる。
2)美術史学・考古学・歴史学・博物館学・保存科学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、その情報の発信と充実に努める。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 文化財のデジタル画像の公開は、新規撮影・フィルムデジタル化データとも、順調に進めることができた。また、図書資料については、新型コロナ以前のようには助成金を得ることができず、研究資料の充実を十分に実現できているとは言い難いが、限られた予算の中で可能な収集に取り組んでおり、計画を着実に遂行できたためＢ評価とした。一方で、仏教美術資料研究センターの設備老朽化と書架の飽和状態は喫緊の課題であり、当面はその課題解決に重点を置く。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1321D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 1)有形文化財に関する情報の発信　2)資料の収集と公開

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-②-1)（４館共通)、（九州国立博物館）ア、イ
・Ⅰ-1-(3)-②-2)（九州国立博物館）ア

担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	課長　白井克也

【実績・成果】
Ⅰ-1-(3)-②-1)
（４館共通）
・「国立文化財機構所蔵品統合検索システム　ColBase」に新収品を含むデータ79件を追加した。また、30件分のデータに対して、新たに作品種別を付与することでサービス向上に努めた。
・「e国宝」にデータ1件を公開し、これにより当館が所蔵する全ての指定品の掲載が完了した。また、新撮した高精細画像を135点公開した（差し替えを含む)。
（九州国立博物館）
ア　収蔵品ギャラリーに、新収品を含む79件のデータと916点の画像を追加し、文化財の基礎情報に加えて3ヶ月先までの展示情報を統合して情報を発信した。
イ　対馬宗家文書のデータベースは、引き続き公開運用を行った。また、同テータベースのリニューアル仕様書を作成し、入札公告を行った（5年度開札予定)。
Ⅰ-1-(3)-②-2)
（九州国立博物館）
ア
○蔵書管理
・新規に図書560点、雑誌776点、図録・報告書2,322点、メディア27点を購入又は受贈し、蔵書管理システムに登載した。
・利便性並びに管理効率向上のため、引き続き図書資料の再分類と装備修正を行った。
○画像管理
・画像管理システムに5,182点の画像を追加登録した。画像管理システムと収蔵品の基礎データと連携させることで、情報の価値を相互に高め、利用者が活用しやすい環境づくりに寄与した。
・ウェブサイトで公開中の画像検索システムに約1,500点の画像を新規に追加した。活用可能な画像の一覧を公開することで、文化財画像の活用に係るサービスを向上した。

【補足事項】

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 ColBase及び収蔵品ギャラリーで画像を含む収蔵品データを追加公開し、発信する収蔵品情報を充実させた。また、対馬宗家文書データベースを引き続き公開しつつ、リニューアルに着手した。 3年度に引き続き、新規に図書等を購入又は受贈し、蔵書管理システムに登録している蔵書データ整備を進めた。画像管理システムは、収蔵品管理システムと連動させつつ、内容の充実を図った。以上の成果から、年度計画を達成し、Ｂ評定とした。

【中期計画記載事項】
1)ウェブサイト等において、文化財その他関連する資料の情報を公開する。公開データの件数は継続的に増加させる。
2)美術史学・考古学・歴史学・博物館学・保存科学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、その情報の発信と充実を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 ColBase及び収蔵品ギャラリーにおいて文化財その他関連する資料の情報を公開した。中期計画に基づきデータや画像の公開件数を継続して増やしている。 図書目録整備及び画像管理システムの内容充実を図り、より使いやすいシステムとして整備を進めた。以上の成果から、中期計画を円滑に推進し、Ｂ評定とした。

【書式A】　施設名 本部事務局　処理番号 1323H

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 3)広報活動の充実　3)-1 広報計画の策定と情報提供

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-②-1（機構本部）ア、イ

担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	課長　渋沢志穂

【実績・成果】
（機構本部）
ア
・『独立行政法人国立文化財機構概要　令和4年度』（日本語版・英語版）を発行し、PDF版を機構本部ウェブサイト（https://www.nich.go.jp/）に掲載した。
・『独立行政法人国立文化財機構年報　令和3年度』を3月に発行し、PDF版を機構本部ウェブサイトに掲載した。
イ
・機構本部ウェブサイトの運用を継続した。掲載情報の追加更新を行い、広く一般に向けた法人情報の提供を行った。
・10月31日に機構本部ウェブサイトをリニューアル公開した。リニューアル後のウェブサイトは、「JIS X 8341-3:2016 高齢者・障害者等配慮設計指針－情報通信における機器，ソフトウェア及びサービス－第3部：ウェブコンテンツ」に対応し、アクセシビリティの向上及び確保に努めている。

【補足事項】
ア
・『独立行政法人国立文化財機構概要　令和4年度』：日本語版1,400部、英語版300部発行
・『独立行政法人国立文化財機構年報　令和3年度』：167部発行

リニューアル後の機構本部ウェブサイトのトップページデザイン

【評価指数】	4年度実績	目標値	評定	経年変化	30	元	2	3
ｳｪﾌﾞｻｲﾄのｱｸｾｽ件数	379,623	298,703	A		336,016	362,356	302,279	409,102

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：A	年度計画に沿って、機構の概要及び年報を作成した。また、当初の計画よりも前倒しし、アクセシビリティを向上させたウェブサイトをリニューアル公開することで、よりわかりやすく法人情報の発信を行うことができた。ウェブサイトについて、計画を前倒ししてのリニューアルを達成できたためA評価とした。

【中期計画記載事項】
展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト、ＳＮＳ等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや各博物館の近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。
ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	中期目標期間の2年目として、広報印刷物やウェブサイトを活用した積極的な広報活動を行うことができた。また、機構本部ウェブサイトについては、高齢者や障害者を含め、誰もが閲覧しやすいよう、ウェブアクセシビリティにも配慮した形で大幅なリニューアルを行った。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1323A

中項目	1．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（3）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実 3)-1 広報計画の策定と情報提供　3)-2 マスメディアや近隣施設との連携強化等による広報活動 3)-3 広報印刷物、ウェブサイト等の充実

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-②-3)-1（4館共通）ア（東京国立博物館）ア、イ、ウ
・Ⅰ-1-(3)-②-3)-2（4館共通）ア（東京国立博物館）ア、イ
・Ⅰ-1-(3)-②-3)-3（4館共通）ア（東京国立博物館）ア、イ、ウ

担当部課	学芸企画部広報室 総務部総務課	事業責任者	室長　鬼頭智美 課長　竹之内勝典

【実績・成果】
Ⅰ-1-(3)-②-3)-1
（4館共通）
ア　4年度は3年度に引き続き当館ウェブサイトに年間スケジュールのページを作成し、年間の主な展示作品や展覧会を紹介することとした。
(東京国立博物館)
ア　東京国立博物館ニュース(年4回発行)を制作し、総合文化展広報に努めた。主な事業についてはプレスリリースの作成、配信を行い、広く適切なメディアに対してのアプローチを行った。なお、周知に当たってはウェブサイト・公式SNSを重点的に活用し、最新の情報を速やかに案内したほか、 適宜SNS広告を出稿し、幅広な訴求活動を実施した。
イ　新型コロナウイルスの感染状況を考慮しながら、公式キャラクター「トーハクくん」、「ユリノキちゃん」による来館者のグリーティング活動を実施するなど、親しみやすい博物館を訴求した。
ウ　創立150年事業にかかる情報を集約した記念特設本サイトを4月1日より公開、順次内容を更新し、周知に努めた。併せて新収品（金剛力士立像）紹介動画、SNSプロモーション用動画等を制作し、SNS広告の出稿や公式SNSでの投稿に活用するなど、オンラインでの広報活動にも注力した。また、JR都内主要駅や上野近隣施設の協力も仰ぎながら、都内各所へサイネージ広告、ポスター、ペナント等を掲出し、新規来館者層へのアプローチも行った。 J-WAVEに「月イチ！トーハクキッズデー」の後援名義を申請し、ラジオCMや番組にてキッズデーおよび周年事業の周知を図るとともに、親子向けライブと新規来館者向けのライブを各1回ずつ実施した。既存の利用者層には東京国立博物館ニュースやメールマガジン等を通じて定期的に周知活動を行った。
Ⅰ-1-(3)-②-3)-2
(4館共通)
ア　JR上野駅、羽田空港等に広告出稿を継続したほか、創立150年事業の一環で、JR上野駅中央改札外に大型フラッグを掲出するなど、より連携した広報活動を行った。
(東京国立博物館)
ア　特別展等の報道発表会を4回、報道内覧会を6回実施した。
イ　上野文化の杜新構想実行委員会のウェブサイトや台東区文化芸術総合サイトへの情報掲載、東京メトロ上野駅「文化の杜路」やJR上野駅構内へのポスター掲出等を継続して行った。また、創立150年事業では上野商店街での街路灯ペナント掲出、上野のれん会加盟店での広報物掲示・配布など、近隣組織と連携して広報活動を実施した。
Ⅰ-1-(3)-②-3)-3
（4館共通）
ア　ウェブサイト、スマートフォンサイトによる情報提供を行った。なお、アクセシビリティ向上を目的に、ウェブサイトを改訂した。4月4日より新デザインを稼働させた。
(東京国立博物館)
ア　『東京国立博物館ニュース』を季刊（年4回）で各60,000部の制作、配布を実施した。
イ　公式SNSでの投稿を想定した縦長短編動画等、動画コンテンツの制作、発信を行った。
ウ　SNSによる適時性のある情報発信を行った。メールマガジンを25回配信した。

【補足事項】
Ⅰ-1-(3)-②-3)-1
(東京国立博物館)
ア　東京国立博物館ニュース4年9・10・11月号は、創立150年記念特別号として通例よりもページ数を増やし、特集展示や教育普及プログラムをはじめ創立150年記念事業を手広く紹介した。
Ⅰ-1-(3)-②-3)-2
(4館共通)
ア　創立150年事業の広報として、10月10日～23日の14日間にわたりJR上野駅中央改札外に大型フラッグを掲出した。
(東京国立博物館)
イ　4年度を通して1年間に及び上野マルイの店内サイネージに2分間のプロモーション映像を掲出した。また、7月4日～10月2日には上野商店街に街路灯ペナントを出稿した。
Ⅰ-1-(3)-②-3)-3

（4館共通）
ア　ウェブサイトの改訂にあたっては、アクセシビリティの向上を目的に、トップページ等のデザインやナビゲーションの一部を変更。4月4日から新デザインを稼働させた。
（東京国立博物館）
ウ　　Twitter：フォロワー144,129件(3年度135,079件)。Facebook：いいね！36,105件(3年度35,695件)。Instagram:フォロワー48,748件(3年度46,667件)。YouTubeチャンネル：登録者数23,741件 (3年度19,830件)。

上野中央改札外大型フラッグ

【評価指数】	4年度実績	目標値	評定	経年変化	30	元	2	3
ｳｪﾌﾞｻｲﾄのｱｸｾｽ件数	10,569,749件	7,277,091件	A		7,679,851	8,235,810	7,021,923	11,382,143

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	年度計画に沿って着実に事業を実施している。4年度は創立150周年を軸とした広報活動により、普段より新規利用者層を意識した広報活動を行い、若年層を中心とした新たな層へのアプローチができた。

【中期計画記載事項】
展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト、ＳＮＳ等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや各博物館の近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。
ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 創立150年の年にあたり、新規来館者層の開拓を目的として、ウェブサイト、SNSなどにより、広く国民やマスコミ、ウェブ媒体へ充実した情報発信ができた。創立150年記念特設サイトの活用、アクセシビリティ対応を進めるとともに、SNSでの動画配信を強化するなど、デジタル展開をより積極的に行った。 以上、中期計画2年目として、順調に計画を進めることができた。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1323B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実 3)-1広報計画の策定と情報提供　3)-2マスメディアや近隣施設との連携強化等による広報活動 3)-3広報印刷物、ウェブサイト等の充実

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-②-3)-1（4館共通）ア、（京都国立博物館）ア、イ、ウ
・Ⅰ-1-(3)-②-3)-2（4館共通）ア、（京都国立博物館）ア、イ
・Ⅰ-1-(3)-②-3)-3（4館共通）ア、（京都国立博物館）ア、イ、ウ、エ、オ、カ

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　阿部勝 企画室長　山川曉

【実績・成果】
3)-1
（4館共通）
ア　年間スケジュールの配布（4年度分、4言語にてWEB公開）及び製作準備（5年度分、15,000部）を行った。
（京都国立博物館）
ア　特集展示「新発見！蕪村の「奥の細道図巻」」リーフレットや、特別公開「熊本・宮崎の古墳文化―石人と貝輪―」リーフレット、「京博のお正月2023」チラシ、特集展示「雛まつりと人形」リーフレットをはじめ、各種イベントのポスター、チラシの製作・配布を行った。
イ　3年度発行の日本語版に引き続き、4年度は「京都国立博物館ハンドブック」韓国語版を発行した。
ウ　公式キャラクター・PR大使「トラりん」を活用した広報活動を行った。
3)-2
（4館共通）
ア
・特別展「最澄と天台宗のすべて」では、読売新聞社、読売テレビと連携し紙面広告やテレビスポット広告等による広報を実施した。
・特別展「河内長野の霊地」では、京都新聞と連携し紙面広告等の広報を行ったほか、京都駅への交通広告出稿を行った。
・特別展「京に生きる文化　茶の湯」では、読売新聞社と連携し紙面広告やテレビスポット広告等の広報を行った。
・特別展「親鸞―生涯と名宝」では、朝日新聞社、NHK京都放送局、NHKエンタープライズ近畿と連携し紙面広告やテレビスポット広告等による広報を実施した。
・新春特集展示「卯づくし―干支を愛でる―」では、産経新聞への広告出稿や京都駅への交通広告出稿を行った。
・特別展・平常展示の記者発表会を7回、記者内覧会を6回実施した。
（京都国立博物館）
ア　京都市が主催するスタンプラリーへの協力や、動物園との相互広報等、地域の各種団体と連携し、地域住民や観光客に向けた広報活動を展開した。
イ　「京都市内4館連携協力協議会」で連携し、共通の展覧会パンフレットの制作、連携講座や相互割引、スタンプラリー等を実施した。
3)-3
（4館共通）
ア　ウェブサイトのリニューアルを機に、ユーザビリティ向上のため解析システムを変更した。
（京都国立博物館）
ア　『京都国立博物館だより』(214～217号)、『Newsletter』(153～156号)を発行し、ウェブサイトに掲載した。
イ　メールマガジンをリニューアル（html化）し、視覚的訴求力を高めるとともに、アクセス解析をおこない満足度の高いページ構成を検討の上、配信した。配信は月1度の12回（193号～204号)。
ウ　収蔵品貸与情報をウェブサイトの「館外での作品公開」に52件公開した。
エ　当館公式ツイッター・YouTubeチャンネル、公式キャラクター「トラりん」のブログ・ツイッター・フェイスブックを利用して継続した情報発信を行った。特に当館公式ツイッターは、ツイッター社ポリシーを遵守し、かつ、当館に興味を持ち来館のきっかけとなるように、作品や教育コンテンツの紹介など投稿内容の充実を図った。
オ　ウェブサイトをリニューアルし、モバイル対応・多言語ページの拡充を行い、利用性・情報発信力を向上させた。
カ　3年度に引き続き、博物館の活動を紹介する漫画をウェブサイトで連載した。

【補足事項】
3)-1
（京都国立博物館）
ア　「京博のお正月2023」ポスター・チラシでは、新春特集展示「卯づくし―干支を愛でる―」を中心に、各種イベントや同時開催の展覧会情報を紹介することができた。
ウ　京都国際マンガ・アニメフェア（京まふ）2022 にトラりんを出張させて、展覧会や当館の PR 活動を行った。また、ソーシャルディスタンスを確保した安全な距離で、トラりんを最大週 3 回、1 日 3 回館内に登場させて親しみが持てる博物館のイメージを印象付けた。

京まふ 2022 に登場するトラりん

3)-3
（4館共通）
ア　ウェブサイトの解析システム変更のため、4 年度のウェブサイトのアクセス件数は、旧解析システム期間（4/1～5/17）及び新解析システム期間（5/18～3/31）のアクセス数を合算し実績値とした。

【定量的評価】項目	4年度実績	目標値	評定	経年変化	30	元	2	3
ウェブサイトのアクセス件数	1,948,061件	4,386,804件	D		4,382,078	4,948,829	3,480,100	3,514,043

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
ウェブリニューアルを機にユーザビリティ向上のため解析システムを変更した。それに伴いアクセス件数の数値上の実績はこれまでより大幅に下回ったが、これは新旧解析システムのユーザーセッションカウント方法の違いによるものであり、システムの変更によりユーザーの細かな趣向の解析が可能となった点は評価できる。
また、定期刊行物や年間スケジュール、展覧会チラシの製作・配布は効果的に行うことができ、特別展においては主催メディアや共催メディアと協力して多様な広報を実施することができた。以上の点から、評価をBとした。
なお、ウェブサイトのアクセス件数については、5年度に目標値を再設定した上で、アクセス数の向上及びユーザビリティの一層の向上を目指す。

【中期計画記載事項】
展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト、ＳＮＳ等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや各博物館の近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。
ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
展覧会に応じて多様な広報展開を実施することができた。また、当初予定通りウェブサイトのリニューアルも出来たため、中期計画を順調に遂行できたといえる。5年度以降は、新たなウェブサイトをはじめとする各種広報媒体を活用し、積極的な広報活動を図る。

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　1323C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実 3)-1広報計画の策定と情報提供　3)-2マスメディアや近隣施設との連携強化等による広報活動 3)-3広報印刷物、ウェブサイト等の充実

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-②-3)-1（4館共通）ア（奈良国立博物館）ア、イ、ウ
・Ⅰ-1-(3)-②-3)-2（4館共通）ア（奈良国立博物館）ア、イ、ウ、エ
・Ⅰ-1-(3)-②-3)-3（4館共通）ア（奈良国立博物館）ア、イ、ウ

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　大西真一 情報サービス室長　宮崎幹子

【実績・成果】
1（４館共通）
ア　年間スケジュールリーフレットの制作・配布（WEB公開を含む）を行った。
（奈良国立博物館）
ア　広報・宣伝制作物の企画・制作・配布等を行った（『奈良国立博物館だより』、特別展・わくわくびじゅつギャラリー・特別陳列のポスター・ちらし6回分）。
イ　・特別展の割引券を近隣の宿泊施設や観光案内所等に配布した。
・文化大使として笑い飯・哲夫氏（よしもとクリエイティブ・エージェンシー）が出演するテレビやラジオ等で当館のPRを行った。
・仏像大好き芸人である、みほとけ氏（浅井企画）との交流を継続し、氏のSNSを通じ間接的に当館のPRを行った。
・館のSNSで当館公式キャラクター「ざんまいず」を積極的に活用し、館のPRと新たな客層の開拓をした。
ウ　ブライダルの前撮り撮影場所として仏像館西側、茶室、庭園及び仏教美術資料研究センター等を提供した。また、撮影場所についてのクレジット表記をクライアントに依頼することで、当館の認知度を向上させることに努めた。
2（４館共通）
ア　マスコミ媒体や公共機関等と連携した広報活動を展開した。
（奈良国立博物館）
ア　・特別展「中将姫と當麻曼荼羅」では當麻寺と当館の間でスタンプラリーを実施し、相互の集客に繋げた。
・特別展「春日若宮国宝展」では春日大社国宝殿で開催する企画展とのセット券を販売し、相互の集客に繋げた。
・奈良トライアングルミュージアムズや OKミュージアムパスポート、国立民族学博物館友の会、MIHO MUSEUM友の会との相互割引を継続し、来館者数増加及び各博物館との連携強化に繋げた。
イ　展覧会、博物館活動への理解・促進を図るため、マスコミへの情報提供を行うとともに、原稿・画像提供依頼や誌面作成に積極的に協力した。
ウ　・奈良県・奈良市等が実施するイベントへ講堂の貸し出しや講師の派遣などで協力・連携した。
・地元商店街と連携してチラシ掲示やポスター配布などの広報活動を展開した。
エ　近隣社寺等において展覧会チラシの配布等広報協力を依頼した。
3（４館共通）
ア　ウェブサイトによる情報公開を行い、報道発表と合わせた迅速な情報提供に努めるなど、ウェブサイトのアクセス件数の向上を目指した。
（奈良国立博物館）
ア　特別展及び名品展の情報を掲載した『奈良国立博物館だより』の編集・発行・配布を行った（年4回）。
イ　名品展や特別展、イベント情報等をウェブサイト及びSNS（Twitter）に掲載し、来館者数増加に繋げた。Twitter や YouTube では単なる情報発信だけではなく、公式キャラクター「ざんまいず」ぬいぐるみを利用しキャラクターが呼びかけているような情報の発信方法なども実施し、新たな来館者の獲得とフォロワー数の増加に努めた。
ウ　季刊誌『奈良国立博物館だより』のPDF版をウェブサイトに掲載した。

【補足事項】
・メール配信ソフトおよびプレスリリースサイトを導入し、対面によらない報道発表にも対応可能な体制整備に努めた。3年度に引き続き正倉院展の対面による報道発表が中止となったが、メール配信ソフトおよびプレスリリースサイトの活用により、円滑に対応することが叶った。
・ウェブサイトの機能追加を行い、予約更新が可能な箇所を増やした。トップページのスライダーを日時設定で更新できるようにし、担当者の勤務に左右されずに最新の情報が公開される体制が整った。
・YouTube「ならはくチャンネル」で動画を公開し、奈良博の魅力発信・認知度向上に努めた。
・奈良蔦屋書店で過去図録の販売を継続し、自己収入確保及び当館の知名度向上に努めた。
・奈良博公式キャラクター「ざんまいず」を広報物やSNSで積極的に使用することで、奈良博の知名度向上に繋げた。「ざんまいず」LINEスタンプの販売も継続し、自己収入の拡大に繋げた。
・昨年度実施したクラウドファンディングにより改修した庭園を、動画やSNSで積極的に公開し、また正倉院展にあわせて一般公開することで、館の魅力向上に繋げた。

メール配信ソフト画面

SNS での公式キャラクターの活用

【定量的評価】項目	4年度実績	目標値	評定	経年変化	30	元	2	3
ウェブサイトのアクセス件数	1,129,746件	1,331,550件	B		1,316,654	1,704,901	1,082,864	1,236,917

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 情報発信の基盤となるウェブサイトを中心に、広報活動を滞りなく進めることができた。ウェブサイトの改修を重ね、運用上の改善をはかるとともに、アクセス件数の向上を図った。また、当館公式キャラクター「ざんまいず」等を用いた情報発信により、当館のPRに繋げることができた。

【中期計画記載事項】

展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト、SNS 等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや各博物館の近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。

ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 CMSの導入により、全館的に広報や情報発信が可能となる環境を整備することができており、積極的な広報活動を目指す中期計画に基づき、順調に事業を遂行できている。 3年度実施したタレントとの連携企画、ニコニコ美術館、奈良蔦屋書店での図録販売などの取り組みを4年度も継続し、積極的な広報活動を行っていることから、中期計画を順調に遂行できている。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　1323D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実 3)-1広報計画の策定と情報提供、3)-2マスメディアや近隣施設との連携強化等による広報活動、 3)-3広報印刷物、ウェブサイト等の充実

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-②-3)-1（４館共通）ア、(九州国立博物館）ア、イ、ウ、エ、オ
・Ⅰ-1-(3)-②-3)-2（４館共通）ア、(九州国立博物館）ア、イ、ウ、エ
・Ⅰ-1-(3)-②-3)-2（４館共通）ア、（九州国立博物館）ア、イ、ウ、エ、オ

担当部課	学芸部企画課 広報課 総務課	事業責任者	課長　伊藤信二 課長　野田智子 課長　執行正一

【実績・成果】
3)-1
（４館共通）
ア　年間スケジュール・リーフレットを製作し、配布した。
（九州国立博物館）
ア　特別展ごとにポスター、チラシ等を製作した。さらに、担当者によるテレビ・ラジオ番組への出演や地元新聞社、雑誌、フリーマガジン等へ展覧会情報を発信し、公式Twitterで展覧会の見所を紹介した。
イ　応援大使サラ・オレイン氏がナレーションを務める広報番組TVQ九州放送「太宰府・九博散歩道」を製作した。
ウ　展示リストのウェブデータベースの整備を継続した。
エ　福岡空港・JR九州・西日本鉄道・観光案内所・ホテル等と連携し、ポスターやチラシなどによる広報を継続した。またSNSでは、これまでの公式Twitterに加え、公式Instagramを立ち上げ、展示品や館内外の風景など、当館の様々な魅力を発信した。
オ　大手百貨店と連携してコラボ商品を作成した。

公式 Instagram の開設

3)-2
（４館共通）
ア　主要駅でのデジタルサイネージの掲出など、公共交通機関等と連携した広報活動を実施した。
（九州国立博物館）
ア　特別展ごとにマスコミ各社を対象とした記者発表会、内覧会を実施した。
イ
・太宰府観光協会と連携して、太宰府天満宮参道で特別展と特集展の告知フラッグを設置した。
・特別展「琉球」の開催にあたり、沖縄福岡県人会の総会でポスター・チラシを配布し、所属会員店舗にポスターを掲示していただくなど、連携して特別展の周知を図った。

ウ　新型コロナウイルスの影響により、九州観光推進機構等を通じた海外に向けた広報や営業は中止した。当館ウェブサイトや当館ブログでは、4言語(日・英・中・韓)での情報発信を継続して行った。
エ　博多祇園山笠振興会等と連携し「飾り山笠」の展示企画を実施した。
3)-3
（４館共通）
ア　展示・イベント情報の提供や、駐車場の混雑対策のため、ウェブサイト、公式Twitterにて駐車場空き情報を随時提供した。
（九州国立博物館）
ア　スマートフォンでの閲覧に適したレイアウトによるウェブサイトでの公開を引き続き行った。また、ウェブアクセシビリティにも積極的に対応し、利用者の利便性に配慮した情報発信に努めた。
イ　4言語（日、英、中、韓）による情報提供を継続して行った。
ウ　「季刊情報誌アジアージュ」を年4回発行し、公共施設・交通機関・観光機関等に送付したほか、より多くの人に見ていただけるよう、ウェブサイトにも掲載した。
エ　メールマガジンは月2回発行し、展示の見所やイベント情報などを配信。Twitterや4年度開始したInstagramでは、館外の風景やショップグッズの案内なども投稿し、当館に興味を持っていただけるような情報発信を継続して行った。
オ　特別展ごとに、特別展担当者と広報課職員が魅力を伝える動画を製作し、当館のYouTubeチャンネルで紹介した。

【補足事項】
3)-3（九州国立博物館）
エ　メールマガジン開封率　約40％　（4年度24回配信）
　　Twitterフォロワー　　25,456人（4年度約4,400人 増）
　　Instagramフォロワー　　2,632人（4年6月15日開設）

【定量的評価】項目	4年度実績	目標値	評定	経年変化	30	元	2	3
ウェブサイトのアクセス件数	1,430,301件	1,670,014件	C		1,752,803	2,047,955	824,819	977,605

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	定期刊行物やチラシなどの紙媒体のほか、Twitter やメルマガなどのウェブサイトを活用した。特に新たな九博ファンの獲得につなげるため 6 月に公式 Instagram を開設し、2,600 人を超えるフォロワーを得た。ウェブサイトのアクセス件数は目標値に届かなかったものの、SNS における情報発信を積極的に行い新たなファン層を開拓できたことから、年度計画を達成したと判断し、B評定とした。

【中期計画記載事項】
展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト、ＳＮＳ等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや各博物館の近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。
ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	ウェブサイトや SNS を活用し、来館できない方にも館の魅力を伝えられるよう、積極的な情報発信を行った。また、マスコミや交通機関、地域の観光団体など関係機関との連携による広報活動を実施した。以上の実績を踏まえ、ウェブサイトのアクセス件数の目標値は達成できなかったが、中期計画を遂行できたと判断し、B評定とした。

【書式Ａ】　施設名 ４館共通　処理番号 1400ABCD

中項目	１．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究		
【年度計画】 ・Ⅰ-1-(4)-(4館共通)ア			
担当部課	東京国立博物館学芸研究部 京都国立博物館学芸部 奈良国立博物館学芸部 九州国立博物館学芸部	事業責任者	部長　救仁郷秀明 部長　尾野善裕 部長　吉澤悟 部長　河野一隆
【実績・成果】 外部資金を活用した調査研究を下記件数実施した。 （東京国立博物館） ・科学研究費補助金：11件 ・学術研究助成基金：30件 （京都国立博物館） ・科学研究費補助金：4件 ・学術研究助成基金：6件 （奈良国立博物館） ・科学研究費補助金：2件 ・学術研究助成基金：3件 （九州国立博物館） ・科学研究費補助金：4件 ・学術研究助成基金：7件			
【補足事項】 本項詳細は統計表c-⑦参照			
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 外部資金を活用した文化財に関する調査研究を行った。調査研究の実施においては、各博物館での文化財の収集・保管・展示、教育普及活動等事業と一体的に取り組み、3年度同様順調に成果を挙げている。		
【中期計画記載事項】 文化財に関する調査研究を実施し、その保存と活用を推進することにより、次代への継承及び我が国の文化の向上に寄与する。			
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 文化財に関する調査研究実施に際し、外部資金を獲得し活用することで、文化財の保存と活用の推進の一助とした。5年度以降も外部資金活用による調査研究の活性化を図る。		

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411Aｱ-1

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	1)収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 ア　a.特別調査「法隆寺献納宝物」（第 42 次）

【事業概要】当館では、昭和 54 年より法隆寺献納宝物の調査を館内及び館外の専門研究者とともに共同で行ってきた。本事業はすべての研究者に対して、画像や概要など研究のための情報を提供することを目的とする。

【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	調査研究課長　松嶋雅人 列品管理課長　沖松健次郎

【主な成果】

4 年度は、新型コロナウイルスへの対応や、150 年記念関係の各種展示・事業に集中する関係で館内外の専門家を交えて多人数で行う調査は控え、重要文化財「古今目録抄」（N-18）を中心に、天保 13 年（1842）の江戸出開帳時の「御宝物図絵」など、各種目録、記録類中の記述に登場する献納宝物について、実際の作品の画像を対照して見られるように、情報を整備した。「古今目録抄」は既に概報で図版と翻刻を紹介しているが、宝物に関する記述と実際の宝物を対応させた一覧を作成することで、今後の調査研究の便が図られると考えられる。

重要文化財「古今目録抄」

重要文化財「舎利塔」
（「古今目録抄」に記述された宝物）

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	これまで調査を重ね39件の調査概報を出して情報が蓄積されてきたことを踏まえ、一度それらを有機的に結びつけ視覚的に提示したことは、今後の調査研究、展示活用の上で有意義なことと考えられる。 それらを基に、概報だけでなく、東博セレクションなど一般の方が手に取りやすい形で公刊することで、資料中の記述と現存する作品とを結びつけて理解しやすくなり、文化財が伝来した歴史の意義や伝えてきた先人たちの思い、文化財保存の大切などを効果的に伝えることにつながり、教育普及の上でも意義あるものとなると考えらえる。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	法隆寺献納宝物の調査については、袈裟、法具、僧具、香材、遊戯具、舎利塔・百万塔、筵・氈、各種錦・綾・刺繍など主に工芸作品に未調査のものが残っているが、5年度以降に行われるそれらに対する調査のための情報整備として、中期計画2年目の意義は果たせたと考える。 5年度以降は、上記の分野について順次調査を行っていく予定である。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411A ｱ-2

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	1)収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 ア　b.特別調査「書跡」（第 18 回）

【事業概要】

本事業は平成 17 年度から始まり、当館収蔵品及び寄託品にかかる書跡・典籍、古文書について、古写経、和様の書、古文書など対象テーマを設定し、1 年に 1 回ないし 2 回、当機構内の関係職員を招へいし、実施しているものである。このうち古写経の調査は、当館収蔵品について一区切りついたことから、平成 28 年度から 3 か年、奈良国立博物館で実施した。元年度からは京都国立博物館の収蔵品を対象に実施しており、4 年度はその 2 回目である。関係職員同士で情報交換しながら、調査研究を行った。

【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	書跡・歴史室長　惠美千鶴子

【主な成果】

(1) 調査概要

調査実施日：11 月 1 日、2 日。調査場所：京都国立博物館地下調査室。

調査参加者：島谷弘幸、一瀬智、大高広和、瓜生翠、松浦晃佑（以上、九州国立博物館）、富田淳、六人部克典、惠美千鶴子、長倉絵梨子、樋笠逸人、新井恵理佳（以上、東京国立博物館）、吉川聡、橘悠太、桑田訓也（以上、奈良文化財研究所）、野尻忠、斎木涼子（以上、奈良国立博物館）、羽田聡、上杉智英（以上、京都国立博物館）、鍋島稲子、杉本一樹（以上、客員研究員）

調査内容：古写経（2 件だけ古筆）の名称、制作年代、形状、寸法、奥書等、出典、料紙などの調査を行った。

(2) 調査の成果

日本の古写経のみならず、中国、韓国、モンゴルの古写経と比較検討しながら調査を行うことで、日本の古写経の特色が浮かび上がってきた。京都国立博物館が所蔵する松本コレクションの古写経について調査を終えることができた。5 年度は京都国立博物館の上野コレクションに入る予定だが、これまでの調査結果を踏まえて、機構内の所蔵品と比較しながら研究を進め、展示・公開の向上に寄与するものである。

箱の確認作業

調査対象に捺された印の確認作業

【備考】

調査件数：古写経（松本コレクション）他計 62 件
調査日数：2 日間
調査人員：延べ 34 人
調書作成：63 件

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	3年度は新型コロナウイルス感染状況により実施がかなわなかったが、4年度は感染予防につとめながら、コロナ禍以前と同程度の調査人員により実施することができた。前回の続きとなる京都国立博物館の松本コレクション（松本文三郎旧蔵）の古写経をほぼ全て調査し終え、その全容が把握できたとともに、調査結果により今後の展示・公開に寄与することが可能となった。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	4年度は京都国立博物館における2回目の古写経調査を充分に進めることができた。5年度からは京都国立博物館の上野コレクションを調査する予定である。調査は確実に進行しており、調査を踏まえてさらなる研究を推進し、展示・公開の向上に寄与するという目標に向けて順調に進めている。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411A ｱ-5

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	1)収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 ア　d.特別調査「絵画」（第７回）

【事業概要】

戦前の当館は宮内省所管だったこともあり、コレクションには京都御所ゆかりの作品が含まれている。創立 150 年を迎えるにあたり、当館の歴史、及びコレクションの来歴等を再検討するため、京都御所ゆかりの絵画作品を対象に調査を実施し、5 年度以降の特集展示、研究に活かすことを目的とする。

【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	絵画・彫刻室長　土屋貴裕

【主な成果】

（１）調査の概要

①賢聖障子関係作品の調査

内裏紫宸殿、天皇の御座の背面に立てられた賢聖障子は中国の先賢を描いたもので、平安時代半ばには成立した。現存最古の賢聖障子は慶長度内裏のものだが（狩野孝信筆。仁和寺蔵）、当館には焼失した宝永、明暦、寛文度（狩野探幽筆）、宝永度（狩野常信筆）のものと考えられる模本、および寛政度（住吉広行筆）の下絵類が所蔵されている。これらの全体像を把握すべく、リストの作成、および作品調査を行った。

②主殿寮引継ぎ品の調査

当館には主殿寮引継として収蔵された作品がある。主殿寮は御所の調度類を管理していた部署で、奠都にともない、東京へ運ばれた屏風などが帝室博物館に移管されたものとみられる。代表的なものに国宝「檜図屏風」などがある。これら台帳上把握できる 20 数件をリストアップし、作品調査を行った。

（２）調査の成果

調査対象については、一部の著名作品についてはこれまでも展示等で活用、研究が進められてきたが、その大半はほとんど知られていない作品である。保存状態に懸念のあるものもあるが、展示等での活用の見込める作品もあることが明らかとなった。今後、さらに調査を進め、特集展示等での活用が期待される。

主殿寮引継品である「立花図屏風」（A-1067）調査の様子

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	4年度は創立150年の年であり、この周年の年にコレクションの来歴や当館の成り立ちにかかわる作品群の調査を実施した点は大きな意義が認められる。対象作品は、当館の歴史を物語作品群であり、個別の作品研究もさることながら、今後の館史研究にも寄与するところがある。加えて、従来ほとんど注目されてこなかった作品を保存状態含め改めて精査したことで、今後の展示等への活用の見込みも立った点も大きな成果として挙げられる。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画に基づき、作品調査の実施、調査研究、展示公開という見込みを立てることができた。とりわけコレクションの再評価という点では大きな意義があった。調査については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、外部の専門家を招聘することは見送り、調査の日程及び時間についても限定して実施したが、より多角的な視野で調査研究を進めるためにも、機構内外の専門家を交えての調査は不可欠と考える。新型コロナウイルスの感染状況を慎重に見極めながら、今後の課題としたい。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411Aウ

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	1)収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 ウ　収蔵品等の有形文化財に関する調査研究

【事業概要】

東京国立博物館所蔵の東洋絵画のうち、3 年度に本格修理が竣工した TA-694「五馬図巻」の絵画表現、題跋等付属資料、伝来、顔料・紙質・表装等の素材につき、調査研究課東洋室・工芸室、保存修復課保存修復室・調査分析室と協力して調査研究を行い、館内外での展示等のための基礎データを整備する。

【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	絵画・彫刻室主任研究員（兼　東洋室） 植松瑞希

【主な成果】

TA-694「五馬図巻」は、長年所在不明だったが、29 年に東京国立博物館に寄贈された後、元年度から 3 年度まで本格修理が行われた。この間に蓄積された調査研究成果に加え、4 年度には下記のような追加調査を行い、その成果を『修理調査報告「五馬図巻」』、特集展示「中国書画精華」等で公開した。

・「五馬図巻」の画風、宋人による題跋等の書風につき、関連作品との比較分析を行い、その特徴を明らかにした。
・「五馬図巻」に関連する題画詩・著録等、摹本類を整理し、その伝来の過程、評価の変遷を明らかにした。
・「五馬図巻」の彩色部分につき、蛍光 X 線分析を行い、使用された顔料を明らかにした。
・「五馬図巻」の料紙につき、マイクロスコープによる観察を行い、その特徴を明らかにした。
・「五馬図巻」に使用された表装裂につき、調査を行い、その特徴を明らかにした。

『修理調査報告「五馬図巻」』表

中国書画精華展示風景

【備考】

調査完了列品件数：1 件（TA-694）
論文：植松瑞希「「五馬図巻」とその受容史」」「「五馬図巻」の修理」、大山龍顕「「五馬図巻」の料紙について」、鳥越俊行「蛍光 X 線分析による「五馬図巻」の調査結果について」、沼沢ゆかり「「五馬図巻」の表装裂について」、六人部克典「「五馬図巻」題跋の書法について」（以上『修理調査報告「五馬図巻」』東京国立博物館、10 月 24 日）
展示：日中国交正常化 50 周年　東京国立博物館 150 周年　特集　中国書画精華―宋代書画とその広がり―（東洋館 8 室、9 月 21 日～11 月 13 日）
教育普及等：1089 ブログ「特集「中国書画精華―宋代書画とその広がり―」その 2「五馬図巻」」（10 月 14 日投稿）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	「五馬図巻」につき、表現様式分析、関連歴史資料の読解、素材に対する科学分析など、多角的な観点・手法による調査研究を実施し、その基礎データを整備、公開することができた。「五馬図巻」は、中国北宋時代の代表的文人画家李公麟による唯一の現存作例であり、近年まで所在不明であったことから、現在、国内外の学界における関心が非常に高い。元年度からの蓄積に、4年度の追加調査の成果を加えて、報告書及び展示の形で公開することで、今後の中国絵画史研究の動向に大きな影響を与えた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画の 2 年目として、収蔵品の東洋絵画のうち、特に重要な「五馬図巻」に対して、3 年度までの達成を踏まえ、集中的に調査研究を行い、成果を公開した。本事業で採用した分析手法や公開の枠組みは、今後、東京国立博物館が所蔵する同種の重要作品に対して行う調査研究・成果公開の一つのモデルとなることが期待される。ゆえに、中期計画は順調に遂行できていると考える。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411Aオ

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	1)収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 オ　美術工芸品に用いられた画絹及び染織品の組成にかかる共同研究

【事業概要】
東京文化財研究所と協力し、画絹（絵画の基底材に用いられた絹製品）を主な対象として、マイクロスコープを用い、経・緯の糸の太さや本数の比率、断面形状などを調査・計測し、地域や時代による特徴・傾向を抽出する。

【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	列品管理課長　沖松健次郎

【主な成果】
4年度は、8月9～10日、5年1月12～13日の2回（計4日間）に渡り、東京国立博物館収蔵・寄託品のうち、下記、中国・宋時代の絵画作品の画絹14件の調査をし、データの整理・検討を行った。
（調査作品）TA-131 江頭泊舟図、TA-142 蓮池水禽図、TA-297 猿図、TA-298 十六羅漢図、TA-339 山水図、TA-341 竹鶏図、TA-342 竹虫図、TA-344 山水図、TA-355 雛雀図、TA-487 唐絵手鑑筆耕園、TA-489 竹塘宿雁図、TA-633 梅花双雀図、TA-643 雪中花鳥図、茉莉花図（寄託品、常盤山文庫蔵）
また、成果公開として、東京国立博物館の研究情報アーカイブズにおけるデータベース公開等の準備を進めた。プロジェクト参加メンバーにより、データベースの仕様等につき協議し、サンプルデータを整理、博物館情報課と協力し、テストページを作成、その内容について検討を重ねた。

8月10日調査風景

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	3年度に引き続き、中国・宋時代の絵画作品を集中的に調査することで、当該地域・時代の画絹に見られる特徴・傾向に対する理解が大きく進展した。中国・宋時代は、東洋絵画史において特に重視される地域・時代であり、今後、別の地域・時代の画絹についての調査を進める上でも、重要な比較対象となる。 また、近年注目を集めている画絹のデータを、出版物でなくデータベース上で公開するのは、これまでにない試みであり、学界に大きな影響を及ぼすことが期待される。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	3年度の成果を活かし、中期計画の2年目として、中国・宋時代の画絹の調査結果を蓄積することができた。 また、中期計画期間内における、成果公開（研究情報アーカイブズにおけるデータベース公開等）のロードマップを作り、具体的な準備作業に着手することができた。よって、中期計画は順調に遂行できていると考える。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411Aヵ

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	1)収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 カ　東洋民族に関する調査研究

【事業概要】
東京国立博物館が所蔵する約 3,500 件の東洋民族列品を対象として調査研究を行い、展示を充実させる。

【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	学芸企画部企画課特別展室長 猪熊兼樹

【主な成果】
(1) 調査概要
韓国の景福宮、雲峴宮、司憲府遺跡、国立中央博物館、国立古宮博物館、国立民俗博物館、公平都市遺跡展示館、普信閣（以上ソウル）、広寒楼（南原）、国立大邱博物館、大邱薬令市韓医薬博物館（以上大邱）にて朝鮮王朝の宮廷工芸の用途・分類および韓国の伝統生活文化に関する調査を行った。
(2) 調査の結果得られた知見
・当館が所蔵する東洋民族列品のうち、特に朝鮮王朝の宮廷の調度・服飾の分類や展示活用に資する知見を得た。
・当館が所蔵する東洋民族列品のうち、特に韓国の伝統的な生活習俗のなかで用いる工芸品の分類や展示活用に資する知見を得た。
(3) 調査研究の成果
・ソウルには朝鮮王朝の宮廷の宮殿・調度・服飾を公開・展示する施設がある。ソウル・南原・大邱には韓国の伝統的な建築・器物・衣服などを公開・展示する施設がある。これらの施設を訪問・調査し、当館が所蔵する東洋民族列品のうち特に朝鮮王朝の宮廷工芸や韓国の民俗資料に関する有意義な知見を得ることができた。その成果は今後の平常展あるいは特集陳列における展示の参考とする。

国立民俗博物館の建築・器物の展示

大邱薬令市韓医薬博物館の展示

【備考】
調査日程：韓国（ソウル、南原、大邱）5 年 2 月 5 日～2 月 11 日

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	元年度の韓国の調査に引き続き、韓国の宮廷・博物館・史跡などの調査を行うことで、東洋民族列品のうち朝鮮半島関係資料に関する基礎的な情報を充実させた。 当館が所蔵する東洋民族列品のうち、特に朝鮮王朝の宮廷工芸の分類や展示活用に資する知見を得た。 また、韓国の伝統的な生活習俗のなかで用いる工芸品の分類や展示活用に資する知見も得ることができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	当館が所蔵する東洋民族列品については、中国資料・韓国資料・東南アジア資料・南洋資料・台湾先住民族資料などから構成されている。これらの資料は、東洋館の平常展および特集陳列などにおいて展示活用が期待されるため、その分類整理を進めている。 従来、ほとんど展示活用されていなかった東洋民族列品については、東洋館リニューアル以降、東洋館の平常展示「アジアの民族文化」や特集陳列などで展示活用されており、展示内容が着実に充実してきている。 以上のことから、中期計画の 2 年目として中期計画を順調に遂行できているといえる。 5 年度以降は、韓国の宮廷工芸・伝統文化に関する調査を継続するとともに、平常展示「アジアの民族文化」における台湾先住民族資料の資料の調査にも取り組みたい。 平成28年度以降、当館の東洋民族資料にちなんだアジア各地の調査を継続しており、着実に資料の分類整理と展示活用が進んでいるので、引き続き、この調査を行っていく。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411A キ-1

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	1)収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 キ　特集「東京国立博物館の近世仏画―伝統と変奏―」に関連する調査研究

【事業概要】

4年度に実施した特集「東京国立博物館の近世仏画―伝統と変奏―」（本館特別1・2室）は、総合文化展の展示体系と異なるため、展示の機会が少ない江戸時代に制作された仏画を紹介することを目的に企画された。本特集準備のため、3年度に実施した特別調査「絵画」第6回の実績を踏まえ、プロジェクトメンバーである沖松・土屋とともに所蔵する近世仏画の調査を継続して行った。本特集はこれらの調査研究の成果と位置づけられる。

【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	平常展調整室研究員　古川攝一

【主な成果】

(1)美術史的位置づけの考察を行った

これまで仏画分野の展示や調査研究は、古代・中世の作例が中心であり、近世仏画についての調査研究は積極的になされてこなかった。そのような状況で、展示に適した作品を選定するため、作品の鑑賞性、美術史的位置づけ、保存状態を軸に近世仏画を調査できた点は、所蔵する近世仏画の全体像を把握し、考察する意義深い機会となった。

(2)展示に適した措置を行った

調査研究の成果を踏まえ、展示に適う作品を選定したが、画面に折れや浮き、絵具の剥落といった損傷、表装の繕いが必要な作例が見られたため、館内の技術者による修復処置を施した。とりわけ、A-743「五百羅漢図」（狩野一信筆）の表装部分の補修ができたことは、今後の展示活用に意義あるものとなると考えられる。

本館特別1室 展示風景

本館特別2室 展示風景

【備考】

特集「東京国立博物館の近世仏画―伝統と変奏―」（4月5日～5月29日）総出品数：22件

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	当館所蔵の近世仏画について基礎的な調査研究を行い、美術史的な位置づけを考察したことは、所蔵する仏教絵画研究の幅を広げることになった。さらに、適切な保存修復処置は、今後の調査研究、展示活動を行う上で有意義なものとなった。 古代・中世の作例と比較して、近世仏画は図像や表現技法について古代・中世以来の伝統を基本的には継承しているものの、一部に注文者や鑑賞者、制作者の意向を反映した改変が認められた。さらに、描いた作者や制作にかかわった人物が判明する作例が多く、個々の作例の制作背景、作者による作風の違いや個人様式の検証が今後の課題である。5年度以降は、館外に所蔵される同一作者の作例も視野に入れつつ、近世仏画の調査研究を進めていきたい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	当館所蔵の近世仏画について基礎的な調査研究を行い、古代・中世の仏画と異なる図像や表現技法、古代・中世の作例よりも豊富な制作に関わる情報という、近世仏画を考察する二つの着眼点を明確にすることができ、中期計画2年目の計画を着実に実施できた。 5年度以降は館外に所蔵される作例も視野に入れつつ、調査を継続していく。その際、より多角的な視野で調査研究を進めるためにも、機構内外の専門家を交えての調査は不可欠と考える。新型コロナウイルスの感染状況を慎重に見極めながら、この点も今後の課題としていきたい。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411A キ-2

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	1)収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 キ　創立 150 年記念特集「収蔵品でたどる日本仏像史」に関連する調査研究

【事業概要】
館蔵及び寄託の彫刻作品のうち、各時代の特色が反映された作品を時代順に展示し、日本の仏像を通史的に紹介した。

【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	学芸研究部列品管理課平常展調整室 研究員　増田政史

【主な成果】
（1）実施概要
・作品選定のための調査を実施した。
・開催期間及び開催場所；5 月 16 日～7 月 10 日　本館 14 室
・担当者：増田政史（同上）、浅見龍介（学芸企画部長）、西木政統（学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室研究員）

（2）主な内容
・飛鳥時代から近代にいたる各時代の特徴が表れている彫刻作品、特に銘文などにより制作年が判明している基準作例を中心に選定し、15 件を展示した。
・各時代（飛鳥時代、奈良時代、平安時代、鎌倉時代、南北朝時代、室町時代、安土桃山時代、江戸時代、近代）ごとに会場内パネルを設置し、それぞれの社会状況や政治背景を説明した上で、それが仏像の作風とどのように結びついているかわかりやすく解説し、展示をより深く理解できる工夫を行った。

展示会場風景（本館 14 室）

会場内パネル（モニター投影）

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	飛鳥時代から近代までの各時代の作品を展示することで、仏像について初心者の観覧者に対して日本の仏像の通史を紹介することができた。また、日本の仏像のほとんどは寺社に伝わっているが、明治時代以降、神仏分離令などの影響によって寺社から離れた仏像・神像は博物館に収蔵されるようになり、その代表が当館であった。当館の彫刻作品を中心に各時代の作品を展示することで、当館の創立150年の節目である本年に、当館の彫刻コレクションの形成の歴史も示すことができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画の 2 年目である 4 年度に、収蔵品の調査研究を通じて、特定の分野を通史的に紹介するというモデルケースを構築することができた。5 年度以降も継続して、館蔵品・寄託品の調査研究を実施して情報及び画像データの収集に努め、今回のような通史だけではなく、時代ごと、ジャンルごとといったテーマ性をもった展示も実施していきたい。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411A キ-3

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	1)収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 キ　創立 150 年記念特集「チベット仏教の美術―皇帝も愛した神秘の美―」に関連する調査研究

【事業概要】
創立 150 周年を記念して、特集「チベット仏教の美術―皇帝も愛した神秘の美―」の開催を目的として、絵画・書跡・彫刻・工芸の各分野において、チベット仏教関連資料について調査を行う。

【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	学芸研究部調査研究課主任研究員 西木政統

【主な成果】
(1) 実施概要
・事前調査及び撮影：4 月 12 日、26 日、5 月 23 日、6 月 17 日、27 日、7 月 5 日、14 日
・プロジェクト担当者：西木政統（同上）、猪熊兼樹（特別展室長）、植松瑞希（絵画・彫刻室主任研究員）、三田覚之（奈良国立博物館主任研究員）、田中公明（客員研究員　公益財団法人東方学院）
(2) 主な内容
・絵画・書跡・彫刻・工芸の各分野において、チベット仏教に関係する資料を抽出し、必要に応じて実地調査を行った。その上で、チベット仏教の特色や歴史を表わす作品を選定し、並びに日本人として初めてチベットを旅した僧河口慧海の旧蔵品も再調査のうえ、特徴的な作品を選び、63 件を出品作として確定した。
・その成果は特集「チベット仏教の美術―皇帝も愛した神秘の美―」（会期 7 月 26 日～9 月 19 日　於平成館企画展示室）にて公開した。当館のチベット仏教関係資料には中国・清時代の作品が多く含まれるため、日中国交正常化 50 周年記念特別デジタル展「故宮の世界」（会期 7 月 26 日～9 月 19 日、於平成館）と同時開催とした。
・代表的な作品を掲載したリーフレット（8 頁）を発行し無料配布するとともに、公式サイトで PDF を公開した。
・オンラインギャラリートーク（【オンラインギャラリートーク】8 月「知られざるチベット仏教の美術」）を製作し、YouTube の公式チャンネル上で公開した。

展示風景

リーフレット

オンラインギャラリートーク

【備考】
・西木政統（執筆）東京国立博物館編集『創立 150 年記念特集　チベット仏教の美術―皇帝も愛した神秘の美―』東京国立博物館、7 月 26 日

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	当館には多分野にわたってチベット仏教関係資料が収蔵されてきたが、これまでは公開の機会に恵まれず、総合的に展示を行うのは東洋館開館30周年記念特集である「河口慧海将来品とラマ教美術」（平成11年1月5日～3月14日）以来、約20年ぶりとなった。平成29年以来進めてきた客員研究員との調査成果も反映しつつ、リーフレットの配布、ギャラリートークの配信など、多角的な情報発信を心がけ、チベット仏教関係資料への理解を深めることができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	文化財に関する基礎的かつ総合的な調査研究の成果を、展覧事業・教育普及活動等に反映できたことにより、中期計画を遂行できている。今後もチベット仏教関係資料の調査研究を継続しつつ、多角的な情報発信を心掛けたい。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411A キ-4

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	1)収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 キ　創立 150 年記念特集「東京国立博物館の模写・模造―草創期の展示と研究―」に関連する調査研究

【事業概要】

4 年度は当館創立 150 年の周年にあたる。これにちなみ、戦前期の当館が実施してきた模写・模造事業を振り返るため、館蔵の模写・模造作品の調査研究を進め、これらの成果を創立 150 年記念特集「東京国立博物館の模写・模造―草創期の展示と研究―」で公開することを目的とする。

【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	絵画・彫刻室長　土屋貴裕

【主な成果】

(1)調査の概要

当館には多くの模写・模造作品が数多く所蔵されている。本調査では以下の 3 点に絞って調査を実施した。

①　博物館の創立にかかわって収集・作成された模写・模造作品
②　帝国博物館時代（1889～1900）に作成された模写・模造作品
③　帝室博物館時代（1900～1947）に作成された模写・模造作品

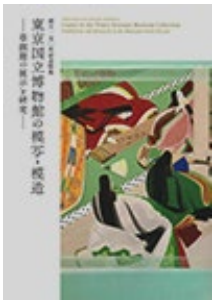
対象となる作品は絵画、書跡を中心に、彫刻、金工、漆工、染織、考古、歴史資料と他分野にわたった。これらの作品につき、原本・原品との比較による模写・模造制作のコンセプト、作り手の思想や時代背景、そして館史資料等も活用した制作時の社会状況や博物館に求められた役割について探究した。

(2)調査の成果

調査研究を進めた作品は数多くあるが、これらを精選し、創立 150 年記念特集「東京国立博物館の模写・模造―草創期の展示と研究―」で展示した。会期は 9 月 6 日～10 月 30 日、前後期の展示替により総件数 96 件を展示した。また、同名の図録を刊行するとともに（120 ページ）、9 月 10 日には月例講演会を開催し、プロジェクトメンバーである土屋、古川攝一、恵美千鶴子、猪熊兼樹、福島修、皿井舞（学習院大学文学部教授。当館客員研究員）が成果公表を行った。

先徳図像（模本）（A-8426）阿部務模
昭和 5 年(1930)　調査の様子

展示風景（特別 2 室）



特集図録表紙

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	創立150年にあたり、館の歴史と深くかかわる模写・模造作品を集中的に、かつ分野横断的に調査を進めることができた。館史資料と当該作品の位置付けに関する検討や、原本・原品との比較による作品そのものの技法・材料の考察により、従来「コピー」としてあまり評価されてこなかった模写・模造作品の位置付けをすることができた。今日の展示の枠組みではほとんど活用されてこなかった作品を数多く公開できたことも大きな成果の一つである。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画に基づき、作品調査の実施、調査研究、展示公開という流れに沿ったプロジェクトを進めることができた。ただし、今回調査しえたもののほかにも、当館にはまだ多くの模写・模造作品が収蔵されている。外部有識者の助力も得て進めていきたいが、新型コロナウイルス感染拡大防止の問題ともかかわって、これらのさらなる調査研究については今後の課題としたい。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411A キ-5

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	1)収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 キ　創立 150 年記念特集「再発見！大谷探検隊とたどる古代裂の旅」に関連する調査研究

【事業概要】

当館が所蔵する、大谷探検隊招来の中央アジア出土染織資料は詳細な調査が実施されておらず、また展示の機会も極めて少なかった。しかし、裂を挟んだガラス面には、現在の中国甘粛省敦煌や新疆ウイグル自治区トルファンなど、出土地を記した付箋がつけられたものもあり、オアシス都市の染織文化を伝える貴重な資料群である。本事業ではコレクションの悉皆調査を行い、その上で大谷探検隊招来裂の魅力と価値を紹介する特集展示を東洋館 5 室にて行った。なお、本特集は創立 150 周年記念事業、「博物館でアジアの旅　アジア大発見！」にも連携している。

【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	保存修復課保存修復室 研究員　沼沢ゆかり

【主な成果】

（1）実施概要

・3 年 6 月～4 年 3 月の間に 13 回、後述する当館所蔵品の悉皆調査を行った。（調査担当者：小山弓弦葉（学芸研究部調査研究課工芸室長）、沼沢ゆかり（学芸研究部保存修復課保存修復室研究員）、廣谷妃夏（学芸研究部列品管理課登録室アソシエイトフェロー）、小笠原小枝（東京国立博物館客員研究員））

・調査結果をもとに展示を企画し、東洋館 5 室にて 9 月 21 日（水）～12 月 4 日（日）に特集展示を行った。

（2）調査・展示内容

・TI-505,506「敦煌及吐魯番等出土裂」、TI-397「刺繍如来立像・唐草文断片」、TI-398「描絵裂」の調査を行い、技法・素材などの詳細を明らかにし、組織拡大を含む記録撮影を行い、内容を protoDB にも反映した（計 218 件）。

・調査結果より、これらが 1910 年～1914 年の吉川小一郎、橘瑞超による第三次探検隊による収集品であることを明らかにした。また、中国・旅順博物館、フランス・ギメ東洋美術館、大英博物館所蔵作品及び香川黙識『西域考古図譜』(1915 年)との比較を行い、裂の本来の姿・用途及びコレクションの収蔵経緯について考察した。

・上記の成果をもとに展示内容を検討し、大谷探検隊の旅路をたどりながら、各作品の詳細を伝える構成とした。パネル、リーフレット（オンライン公開を含む）も作成し、来館者に裂の鑑賞のポイントを伝えた。教育講座室とも連携し、オンラインギャラリートークを作成し、東京国立博物館 YouTube で公開した。

展示風景

チラシ

YouTube 動画画面

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	悉皆調査により、初めて作品の詳細を明らかにすることができ、当館コレクションの特徴について分析することができた。また、他機関所蔵の類例や『西域考古図譜』と比較することで、トルファン出土裂については被葬者との関連性、敦煌発見裂については荘厳具としての当初の姿を推測するに至った。 展示においてはパネル、リーフレットを作成し、題箋に掲載しきれなかった情報を補完することで、裂の鑑賞方法をわかりやすく来館者に提示することができた。追って公開された動画は、さらにこれを補う内容であり、インターネット上で本事業の成果と教育普及事業を恒久的に残すことができている。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	当館において大谷探検隊将来裂を主軸とした展示は初の試みであり、調査を通し、初めてコレクション全体像を明らかにすることができた。加えて、詳細なリーフレット、動画など教育普及にも努めており、この点において本事業は中期計画に沿った取り組みであったといえる。調査研究の観点では、本事業を基礎とし、今後、他機関所蔵作品の調査も視野に入れることで、館内のみならず大谷探検隊将来裂の研究全体を促進することができると考えられる。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411A キ-6

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	1)収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 キ　創立 150 年記念特集「東京国立博物館のイスラーム陶器」に関連する調査研究

【事業概要】
当館所蔵のイスラーム陶器のコレクションの悉皆調査及び成果発表としての特集展示の企画。

【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	学芸企画部出版企画室　三笠景子

【主な成果】
(1)調査概要
・3 年度寄贈品 31 件が新たに加わったイスラーム陶器コレクションの悉皆調査を行った。
(2)調査で得られた知見
・東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所の神田惟氏の教示により、最新の研究成果に基づき、生産地や生産年代の特定が可能となった。また、当館コレクションの来歴から、日本国内のコレクションのなかでも収集の草創期、1920～30 年代収蔵の作品が含まれていることが改めて判明した。
(3)調査成果
・最新の研究を反映した調査成果として、東洋館 5 室において「東京国立博物館のイスラーム陶器」の特集を行い、これに関連してリーフレットを制作した。また、国内のイスラーム陶器コレクションの調査として、石洞美術館所蔵品の調査、愛知県陶磁美術館所蔵品（5 年 3 月 8～9 日　同行：神田惟氏、当館客員研究員佐藤サアラ氏）の調査を行った。

TG-1219
多彩鳥形手付瓶

TG-622
青緑釉黒彩鉢

TG-3067
ラスター彩騎馬人物文壺

【備考】
当館所蔵品調査点数：約 40 点
東洋館 5 室特集「東京国立博物館のイスラーム陶器」（10 月 4 日～5 年 1 月 22 日）
石洞美術館所蔵品調査点数：24 点
愛知県陶磁美術館所蔵品調査点数：約 30 点

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	本研究はこれまで総括的に展示を行ったことのなかった当館のイスラーム陶器のコレクションについて、海外における最新の研究成果を反映して、調査整理を行い、その成果として特集というかたちで時代を追って公開することができた。日本におけるイスラーム陶器コレクションの先駆をなす作品が含まれており、陶磁器研究、またイスラーム文化の日本受容の側面で学術的な意義も高いものと考える。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画2年目として4年度に開催した特集展示にて示した調査成果を受けて、5年度以降も東洋館3室及び5室等において充実した展示を行うことができると考える。さらに5年度以降は、イスラーム陶器の成立と展開に影響を与えたガラスにも調査の範囲を広げていきたい。また、国内所蔵のコレクションの調査も継続して行う予定である。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411A キ-7

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	1)収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 キ　創立 150 年記念特集「王羲之と蘭亭序」に関連する調査研究

【事業概要】

当館創立 150 周年、日中国交正常化 50 周年にあたる 4 年度に、日中で文人の憧憬の対象となった、王羲之の書法や蘭亭修禊をはじめとする雅集などに関連する書画等の作品を調査研究し、特集展示を開催して、日中に通底する文人文化を紹介する。本事業における特集展示は、当館と台東区立書道博物館の連携事業の一環として実施する連携企画展示とする。

【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	学芸研究部調査研究課東洋室研究員 六人部克典

【主な成果】

（1）実施概要

・開催期間及び開催場所：5 年 1 月 31 日～4 月 23 日　東洋館 8 室
・担当者：六人部克典（同上）、植松瑞希（学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室主任研究員）、富田淳（副館長）、猪熊兼樹（学芸企画部企画課特別展室長）

（2）主な内容

・当館担当者と台東区立書道博物館担当者（鍋島稲子氏、中村信宏氏、春田賢次朗氏）が連携を図り、本事業の関係作品について調査研究を実施して、画像及び資料情報を収集、整理した。
・当館では、関連する東洋書跡、東洋絵画等 115 件を選定し、「王羲之書法の伝統」「蘭亭序とその文化」「さまざまな雅集の故事」「山水画中の文人交流」の 4 章構成により展示した。
・両館の展示作品のうち、主要作品 100 件を掲載した関連図録（128 頁）において、当館担当者が執筆、編集協力を行った。
・両館担当者が連携し、月例講演会／連携講演会（2 月 25 日、平成館大講堂）及びオンラインギャラリートーク、1089 ブログにおいて本事業の成果を発信した。

展示風景

関連図録

オンラインギャラリートーク

1089 ブログ

【備考】

・台東区立書道博物館編集・東京国立博物館編集協力『連携企画 20 周年　王羲之と蘭亭序』公益財団法人台東区芸術文化財団、5 年 1 月 31 日

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	「蘭亭序」をはじめとする王羲之の書法は、従来、中国書法史における重要な研究テーマとされてきたが、文人の憧憬の対象として位置づけ、その他の雅集など、文人文化に関連する書画等の作品と合わせて研究及び展示をされることが少なかった。本事業における調査研究により、当館の所蔵品及び寄託品における関連作品について情報を整理することができた。また、特集展示を通して主要な作品を公開し、関連図録、講演会、ギャラリートーク、ブログ等により、調査研究の成果を社会一般に発信することができた。台東区立書道博物館との連携事業という点では、両館が同時期に同一テーマで開催する連携企画展示の第20回（連携企画20周年）として、継続的に実施し、中国書画に関する研究成果を蓄積することができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中国書画分野の文化財に関する基礎的な情報整理など調査研究の成果を蓄積し、展覧事業・教育普及活動等を通して社会一般に発信し、中期計画を遂行できている。今後も所蔵品・寄託品を主として調査研究を継続し、その成果をわかりやすい形で広く発信したい。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411A キ-8

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	1)収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 キ　創立 150 年記念特集「コレクションの探求　はにわ展から 50 年」に関連する調査研究

【事業概要】
当館所蔵の埴輪コレクションの過去 50 年間の調査研究、修理など多角的に振り返る特集展示の企画。

【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	学芸企画部特別展室　河野正訓

【主な成果】
(1) 調査概要
特別展観「はにわ」(1973 年開催)から 50 年間に当館の埴輪コレクションで行われた調査研究、修理、文化財指定業務などの過去の記録や、論文・書籍で公表された成果を調査した。
(2) 調査で得られた知見
埴輪コレクションの中で、この 50 年の間で出土地が明確になったもの、出土品の性格が変わったものがあることがわかった。また、X 線 CT 撮影や三次元計測の導入により、調査研究のほかに修理や模造製作における飛躍的な発展が得られたことが判明した。また、版画家の斎藤清が、当館の埴輪コレクションを題材にして、積極的に埴輪の版画を発表したことが、近年美術史の分野から再評価されていることを知りえた。
(3) 調査成果
調査で得られた知見をもとに、平成館企画展示室について「コレクションの探求　はにわ展から 50 年」の特集を行い、これに関連してリーフレットを制作した。また、オンラインギャラリートークも行った。

展示室風景

リーフレット

鞆形埴輪の X 線 CT 画像

【備考】
平成館企画展示室　特集「コレクションの探求　はにわ展から 50 年」(5 年 2 月 28 日～4 月 9 日)
出品件数：26 件

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	本研究はこれまで東京国立博物館が所蔵する埴輪コレクションの調査研究や修理など多角的な成果を振り返り、整理することで、特集という形で公開することができた。150周年記念特集にふさわしい内容で、学術的のみならず館の事業を普及公開するという側面からも意義が高いものであったと考える。 今後50年後における調査研究等を計画する指針としても、本研究は位置づけることができる。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画の2年目として4年度に開催した特集展示にて示した調査成果を受けて、5年度以降も本館1室や平成館考古展示室にて充実した展示を行うことができると考える。さらに5年度以降は、埴輪コレクションのうち、未公開資料を中心に調査研究や撮影を進め、ColBaseに画像を掲載し、論文や書籍、展示など、多角的に成果を公開できるように努める予定である。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411Aク

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	1)収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 ウ　収蔵品等の有形文化財に関する調査研究

【事業概要】

当館が戦前から館蔵する埴輪等の資料に関する調査研究である。神奈川県横浜市の瀬戸ヶ谷古墳から出土した埴輪群の再検討と再整理を通じて総合文化展等の展示に活用する。

【担当部課】	調査研究課	【プロジェクト責任者】	考古室長　井出浩正

【主な成果】

瀬戸ヶ谷古墳は神奈川県横浜市に所在する 6 世紀後半の全長約 80m の関東地方南部を代表する前方後円墳である。昭和 18 年及び 25 年に当時の館員や地元研究者が発掘調査を実施したが、その調査成果は、戦前戦後の混乱を受け、当時のまま未登録・未整理となっており、これまで一部を除きほとんど活用されないままとなっている。そこで、賛助会寄附金「瀬戸ヶ谷古墳出土埴輪の調査研究等」を受け、3 年度より 4 か年計画で館蔵作品の再検討とその活用を目的として、上記の埴輪全体を対象とする総合的な研究を実施している。

4 年度は主に、①発掘調査時の記録資料の吟味と概要報告書や当時の日誌等の精査、②発掘調査区ごとの出土埴輪の数量把握と埴輪の分類（円筒埴輪、人物埴輪、器材埴輪等）、③分類した埴輪破片の接合検討等を実施した。

作業風景

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	4 年度は①発掘調査時の記録資料の吟味や概要報告書や当時の日誌等の精査、②発掘調査区ごとに出土した埴輪の数量の把握と埴輪の分類（円筒埴輪、人物埴輪、器材埴輪等）、③分類した埴輪破片の接合検討を中心に計画を実施した。 ①については、発掘調査当時の状況を知るための調査であり、他機関への記録類の確認と情報提供を依頼、共有することができた。②については、アルバイトの大学院生や学生の協力を得て、コンテナ箱約 100 箱にのぼる調査区ごとの出土埴輪の数量や埴輪の種類の特定作業を継続的に実施した。③については、これまで当館所蔵品の中で確認されていない新たな器材埴輪や、展示中の当該古墳出土品の一部の可能性のある破片等の検出をすることができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	4 年度は当該事業の 2 か年目に位置づけられる。3 年度に実施した出土埴輪の洗浄とコンテナ箱への簡易的な仕分け作業を受け、4 年度は主に箱ごとに埴輪の分類と、分類を経た埴輪の接合を行った。ただし、作業の効率や必要に応じて、複数の箱単位とした出土埴輪の分類と接合検討作業を実施した。以上から、中期計画を順調に遂行できているといえる。

【書式Ｂ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1411Bア

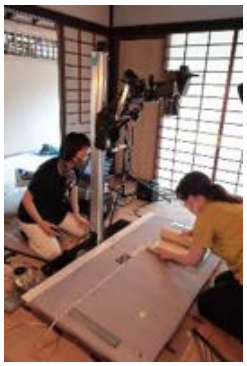
業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	1)収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 ア　近畿地区を中心とする社寺文化財の調査研究　((4)-①-1))

【事業概要】
京都国立博物館では、文化財の保存と活用に資すべく、昭和 54 年度より主に近畿地区所在の社寺を対象に伝存文化財の悉皆調査を行っている。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	調査・国際連携室長　降矢哲男

【主な成果】
(1) 2 年度より継続的に実施している大徳寺塔頭・龍光院を対象寺院として、書跡・絵画を中心に 5 日間（8 月 2 日～6 日）の調査を実施した。調査件数は 65 件である。
(2) 悉皆調査が未完了であったため、4 年度刊行の『社寺調査報告』31 では掲載を見送った檜尾山観心寺（大阪府河内長野市）所蔵の彫刻について補足調査を実施し、調査成果を『社寺調査報告』32（観心寺彫刻編）として刊行した。また、過去に実施した社寺調査の調書・写真を整理するとともに、調書データの電子化を進めた。
(3) 平成 28～令和 2 年度にかけて実施した観心寺・金剛寺の調査成果を基盤として、特別展『河内長野の霊地　観心寺と金剛寺』を開催した。


調査風景

【備考】
(1)龍光院の社寺調査
・龍光院は大徳寺 156 世の江月宗玩（1574-1643）を実質的な開山とする禅宗寺院。非公開寺院であるが、国宝曜変天目をはじめとする指定文化財を多数有する。
・新型コロナウイルス感染拡大抑制のため、龍光院での実地調査はコロナ禍以前の社寺調査よりも参加人数を絞って実施した。
(2)過去の社寺調査におけるデータの整理
・新型コロナウイルス感染拡大により作業が滞る中で、補足調査を行いながら『社寺調査報告 32』（観心寺彫刻編）の刊行に向けた編集作業を行った。
・過去に実施した社寺調査の未刊行分の調書や写真資料等について整理を行った。

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	3 年度に引き続いて、新型コロナウイルスの影響が大きく、実地調査(龍光院)の実施が危ぶまれたが、寺院側の全面的協力もあり、5 日間の調査を行うことができ、悉皆調査終了後の報告書刊行に向けて、写真整理ならびに調書データの電子化も順調に進めることができた。また、懸案であった観心寺の彫刻に関する調査を完遂し、調査成果を報告書として刊行することができた。新型コロナウイルスの影響により、例年より調査日数はやや減少しているものの、事業そのものを着実に推し進めることができたため、Bと評価する。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	中期計画に示した「有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究」事業の一環として、2 年度より大徳寺塔頭・龍光院所蔵文化財の悉皆調査を継続しており、調査は終了していないが、報告書慣行に向けての準備を着実に進められた。特記すべきは、平成 28～令和 2 年度にかけて実施した観心寺・金剛寺の調査成果を基盤とした特別展『河内長野の霊地　観心寺と金剛寺』を開催したことで、中期計画策定時には予定していなかった展覧会を通して、調査成果を分かりやすい形で公表できたことは格別大きな成果と自負しているため、特にAと評価する。

【書式Ｂ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1411Bイ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	1)収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 イ　訓点資料としての典籍に関する調査研究　((4)-①-1))

【事業概要】

漢文を訓読するために施された、「訓点」と呼ばれる読みを表すための記号は、時代や地域によりかなりの多様性があり、その大半は経典・漢籍・和書などの典籍にみられる。これらに付された訓点により、とくに古代・中世の日本人がどのように本文を読み下していたか、という日本語の有り様が判明する。京都国立博物館では、「守屋コレクション」に代表される、国内外の良質な古典籍を数多く収蔵することから、それらを中心とする調査研究を通して得られた成果を展示や講演、及び刊行など、博物館における関連事業へと還元する。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	美術室研究員　上杉智英

【主な成果】

(1)訓点の研究には、その特質に応じた専門の学識者が不可欠であるため、調査スタッフに大阪大谷大学教授の宇都宮啓吾氏（日本語学）を客員研究員として迎え、新型コロナウイルス対策に十分配慮したうえで、計 5 回の調査を実施した。

(2)調査作品は「春浦和尚自筆本錦繍段抄」や「起信論義記」「性霊集」（以上、館蔵品）など 15 件に及び、今後の研究にも資するよう撮影を行った。

(3)本研究と密接にかかわる聖教を特別展、および名品ギャラリーで展示し、記念講演会や図録掲載論文を通して調査成果の公表に努めた。

「起信論義記」展示風景
（「松本コレクションの名品」より）

【備考】

・調査回数及び件数 5 回・15 件
・成果の公開（展示）　平成知新館特別展「最澄と天台宗のすべて」（4 月 12 日～5 月 22 日）
・成果の公開（展示）　平成知新館特別展「河内長野の霊地 観心寺と金剛寺」（7 月 30 日～9 月 11 日）
・成果の公開（展示）　平成知新館名品ギャラリー「松本コレクションの名品」（1 月 31 日～2 月 26 日）
・成果の公開（特別展記念講演会）「観心寺・金剛寺の聖教」（9 月 3 日）
・成果の公開（刊行論文）　上杉智英「金剛寺本『遊仙窟』断簡、発見の意義」（特別展図録『河内長野の霊地 観心寺と金剛寺』、7 月刊行）
・成果の公開（講演会）　宇都宮啓吾「訓点資料概説」（訓点語学会主催「第 1 回訓点資料講習会」9 月 4 日）
・成果の公開（講演会）　宇都宮啓吾「訓点資料調査法」（訓点語学会主催「第 2 回訓点資料講習会」12 月 18 日）
・成果の公開（刊行論文）　宇都宮啓吾「西墓点の創始と伝播を巡る一考察―西墓点資料の複層性について―」（『訓点語と訓点資料』150 輯、5 年 3 月）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	新型コロナウイルスの感染拡大をうけ、調査の実施は必要最小限に留めたが、3年度より調査回数・撮影件数等は増加しており、一点一点堅実に成果を蓄積している。併せて、調査成果の公開も着実に展示・講演・図録の刊行へと反映でき、所期の目標は達成していると判断した。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画の2年目である4年度は、新型コロナウイルスの感染拡大抑制に留意しつつも、調査回数を増やすことができた。また、これまでの基礎的・探究的な調査及び研究の蓄積を踏まえ、展示・講演会という公衆に対しての情報発信にとどまらず、若手の訓点研究者に対する講習会（前掲主な成果(3)）など、多面的な成果発信ができており、着実に中期計画を遂行していると考えるため、Ｂと評価する。5年度以降も引き続き調査・研究を推し進め、文化財の収集・保存修理・展観等の事業に反映させていく。

【書式Ｂ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1411Bｳ

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	1)収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 ウ　旧家伝来の工芸品に関する調査研究　((4)-①-1))

【事業概要】
関西圏を中心に、旧家伝来工芸品の調査を実施することにより、地域の暮らしの在り様を物質的に探る。作品の管理・保存への助言を行うとともに、寄贈・寄託・貸与に結び付け、博物館の収蔵品と展示の充実を図る。

【担当部課】	学芸部工芸室	【プロジェクト責任者】	企画室長兼工芸室長　山川曉

【主な成果】

・科学研究費の研究課題として採択された岡山県の野﨑家所蔵文化財の悉皆調査を6月、8月、11月、3月にのべ11日間実施した。調査は野﨑家塩業歴史館と共同で行い、収蔵管理及び展示についての助言も行った。

・6月、京都市内の旧家の整理に当たって調査依頼を受け、染織品の調査を実施した。そのうちの1件を当館にて受贈し、もう1件を他館の受贈へとつなげた。

野﨑家漆工調査風景

【備考】
野﨑家調査　4回11日間　作品調書151件　調査画像1271カット
染織調査　　1回1日間　作品調書2件　調査画像27カット

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	近年の生活様式や社会環境の急激な変化により、地域共同体において中心的な役割を果たしてきた旧家では邸宅や蔵の建て替えが進行し、収蔵する美術工芸品についての調査が急務となっている。本プロジェクトの目的は、この社会的要請に応え、旧家の暮らしの物質的な基礎データを蓄積し、失われゆく生活文化を記録し研究につなげることである。あわせて、旧家のかつての生業の聞き取り調査等も行い、歴史学・民俗学的な観点からも、美術品をめぐる文化の全体像の把握につとめている。 4年度は科研費研究課題である「備前児島の野﨑家に伝わる文化財の総合調査：塩田王の美術コレクション」（永島明子・基盤研究Ａ）を中心に作品の基礎データ収集を進め、新型コロナウイルス感染防止への配慮をしつつ、作品調書や画像を蓄積することができた。また、京都市内の旧家の調査依頼に応え、1件の寄贈に結び付けた。5年度以降も、引き続き基礎データを蓄積するとともに収蔵品の充実に努めたい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	京都文化を中心とした文化財を収集・展示対象とする当館において、基礎的な研究の一翼を担う事業である。新型コロナウイルスの感染状況をみながらではあるが、調査を継続することができた。5年度以降も調査を継続し、所蔵者による文化財の収蔵管理への助言を行うとともに、当館への寄託や寄贈へと結びつけ、展示や収蔵品の充実を図る。中期計画の2年目として、順調に課題を遂行できている。

【書式Ｂ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1411Bｴ

業務実績書

中期計画の項目	(4)有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	1)収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 エ　京都周辺出土の考古遺物に関する調査研究 ((4)-①-1))

【事業概要】
調査成果と展示や研究に広く活用することを目的として、京都周辺出土の考古遺物を中心に、本館所蔵品や寄託品の資料整理・実測図作成・三次元計測等を進め、その成果を広く発信した。また、地方公共団体や大学、所蔵者等と連携をとりながら、考古遺物の保存に対する助言や共同研究を進めた。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	考古室長　石田由紀子

（主な成果）

1　所蔵品の調査・研究

・これまで凹凸が強く平面実測が困難であった平安京の鳳凰文鴟尾５点（いずれも寄託品）に対して、SfM－VMS を用いた三次元計測を行い、三次元データでフルモデルを作成し、成果を『学叢』で公開した。

・兵庫県たつの市西宮山古墳出土品について、3 年度に続き非鉄金属製品の科学分析(蛍光 X 線等)と、未報告の埴輪及び土器の整理と調書・実測図作成を進めた。特に、埴輪については、報告書作成を念頭におき研究者を招聘して研究会を行い、出土品の年代的位置づけなどについて意見交換した。金属製品については、3 年度同様『学叢』に報告した。

2　考古資料の保存に関する助言、及び共同研究

・左京区福田寺の境内に所在する花脊別所経塚出土仁平元(1151)年銘の石柱に対して、所蔵者や地元住民とともに現状の状況について確認し、保存に対する助言を行った。

・京都市北区の上ノ庄田瓦窯出土鴟尾に関して、報告書作成に関する協力・助言を行った。

鳳凰文鴟尾の三次元モデル

西宮山古墳出土品の調査・研究会
(9/10:当館)

花脊別所経塚石柱の調査
(5/18:福田寺)

【備考】
鳳凰文鴟尾(三次元データフルモデル5点　画像 1280 点)
西宮山古墳出土非鉄金属製品(蛍光 X 線分析:金銅装胡籙金具約 5 点・同 馬具約 10 点・同装身具約 2 点・同三輪玉 1 点)、埴輪(実測図約 30 点　調書約 50 点　画像 325 点)

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	当館は京都府周辺の考古資料を多く所蔵しており、従来から調査・研究の成果を名品ギャラリー、特集展示などで積極的に活用し公開してきた。3年度より継続して実施している西宮山古墳出土資料の研究・調査に関しては、4年度も計画的に資料の整理や実測図作成などを進め、さらに9月には古墳時代の研究者を招聘して研究会を実施した。また、収蔵品の整理の一環として4年度は新たにSfM-VMSを用いた三次元計測の手法を導入し、これまで平面実測図作成が困難であった鳳凰文鴟尾に関してフルモデルの図面を作成することができた。 さらに地方自治体や大学、所蔵者の要請に応え保存に関する助言や、発掘調査報告書刊行に関する協力を行った。今後もこれらの要請に積極的に応えていく。 以上の成果を鑑み、総合的評価はBと判断した。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	三次元計測などを新たな調査手法を取り入れつつ、考古遺物の整理・調査を着実に進めることができた。調査成果は、5年度以降の名品ギャラリーや特集展示等に反映させ、展示を充実させる予定であり、中期計画を順調に遂行できていると考えるため、Bと評価する。

【書式Ｂ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1411Bオ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	1)所蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 オ　特集展示・特別企画に関する調査研究　((4)-①-1))

【事業概要】
(1)「特別公開　熊本・宮崎の古墳文化―石人と貝輪―」
（会期： 6 月 28 日～7 月 24 日、7 月 30 日～9 月 11 日／5 年 1 月 2 日～2 月 26 日）
・熊本県立装飾古墳館・宮崎県立西都原考古博物館及び京都大学総合博物館との相互交換展示に基づく企画展示。
(2)「特集展示　新発見！蕪村の『奥の細道図巻』」（会期： 6 月 14 日～7 月 18 日）
・新たに発見された与謝蕪村筆「奥の細道図巻」を、関連する当館所蔵品とともに公開した。
(3)「新春特集展示　卯づくし―干支を愛でる―」（会期：5 年 1 月 2 日～1 月 29 日）
・5 年の干支、卯（兎）をテーマとした収蔵品による新春恒例の企画展示。
(4)「特集展示　雛まつりと人形」（会期：5 年 2 月 4 日～3 月 5 日）
・伝統的な年中行事である雛まつりを、人形を通して紹介する恒例の企画展示。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	学芸部長　尾野善裕

【主な成果】
(1)「特別公開　熊本・宮崎の古墳文化―石人と貝輪―」：石材や貝殻の多用にみられる独自性の高い熊本及び宮崎県地方の古墳文化の地域的特色を示す古墳出土品を展示した。
(2)「特集展示　新発見！蕪村の『奥の細道図巻』」：与謝蕪村が芭蕉の俳諧紀行『おくのほそ道』の全文を書写し、関連する絵を添えた『奥の細道図巻』が新たに発見されたため、年度当初には予定していなかったが急遽開催。初公開となった新発見作品とともに、関連する所蔵品も展示した。
(3)「新春特集展示　卯づくし―干支を愛でる―」：分かりやすい解説文の設置、低年齢層に向けたワークシートの配付等を行い、子供から大人まで幅広い層が楽しめる入門的な展示とした。
(4)「特集展示　雛まつりと人形」：現代では目にすることが少ない御殿付きの雛飾りを通し、雛まつりの変遷と意味を伝えた。4 年度は京人形のうち衣裳人形を特集し、雛人形と京人形を紹介するリーフレットを作成した。

【備考】
(1)「特別公開　熊本・宮崎の古墳文化―石人と貝輪―」：熊本・宮崎県の古墳出土品 27 件を、2 期に分けて展示した。併せてリーフレット『熊本・宮崎の古墳文化―石人と貝輪―』（4 頁）を刊行し、展示の理解促進を図った。
(2)「特集展示　新発見！蕪村の『奥の細道図巻』」：初公開の新発見作品とともに、関連する所蔵品も展示した。併せて、新発見作品の全図と解説を掲載したリーフレットを刊行、会場で無料配布し、新発見の意義と重要性を広く周知することに務めた。
(3)「新春特集展示　卯づくし―干支を愛でる―」：重文 1 件、重美 1 件を含む収蔵品 24 件を通して、日本と東アジアの人々が、どのような想いを込めて兎を表現してきたのかを紹介した。
(4)「特集展示　雛まつりと人形」：収蔵品 82 件を通し、現代にも続く日本文化における人形の愛好を多言語題箋により紹介した。

特別公開　展示風景

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	4年度は、例年特集展などを開催している夏期に特別展「河内長野の霊地　観心寺と金剛寺」（会期：7月30日～9月11日）を開催したため、企画数自体は4（3年度は5企画）にとどまったが、例年同様多分野にわたるバラエティ豊かな展示とすることができ、引き続き新型コロナウイルス感染症の影響はあったものの、入館者数は3年度を大きく上回った。また、リーフレットの作成や関連講演会の開催を通して、来館の文化財に対する理解促進を図ることもできたと考えるため、Ｂと評価する。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	その年の干支をテーマにした特集展示「卯づくし」や、桃の節句に因む特集展示「雛まつりと人形」のように例年の恒例としている展示と、4 年度の固有の独自企画である特別公開「熊本・宮崎の古墳文化」、特集展示「新発見！蕪村の『奥の細道図巻』」をバランスよく開催することができ、中期計画を順調に遂行できている。5 年度以降も、計画的に調査・研究を進め、展示を魅力あるものとするよう努力する。

【書式Ｂ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1411Bヵ

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	1)収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 カ　日本近代における中国書画の受容に関する調査研究　((4)-①-1))

【事業概要】

館蔵の中国書画コレクションは、上野理一や須磨弥吉郎の旧蔵品など、日本近代に活躍した実業家のすぐれた蒐集の成果を継承するものが中核をなしている。明治期に航路が開かれて以降、直接人とモノが往来するようになった時期に行なわれたこれらの中国書画蒐集は、江戸時代以前のものとは性格を異にしており、歴史・文化的な意義を多分に含んでいる。本事業では、館蔵の中国書画コレクションの形成や受容に関連する書簡や記録類など膨大な資料を整理し、目録化や図録の刊行によって基礎データとして活用できるようにすることで、これらの作品群の特色を活かした多角的なアプローチの可能性を拓き、将来の展覧会等での発信につなげていく。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	美術室研究員　森橋なつみ

【主な成果】

・長尾雨山旧蔵の中国書画関連資料の調査・撮影、目録との突合作業（2 か月に 1 回程度、計 5 回）
・図版目録Ⅱ刊行に向けた須磨コレクション作品の新規撮影（34 件分、撮影終了）
・図版目録Ⅱ刊行に向けた須磨コレクション作品の釈文起こし（112 件分、完了）

【備考】

・調査・撮影など客員研究員の呉孟晋氏（京都大学准教授）に全面的な協力をいただいた。

『図版目録Ⅱ』用新規撮影
（A 甲 913）

長尾雨山宛 富岡鉄斎書簡

長尾雨山所用印（一部）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	この間、継続的に整理を進めている須磨コレクションに関しては、元年に刊行済みの『図版目録Ⅰ』にならう形で情報を整備し、北京・広東を中心に活躍した画家の作品112点を収録する『図版目録Ⅱ』の出版に向けた準備を進めた。また、長尾雨山旧蔵の中国絵画関連資料についても、4年度より状態確認や撮影・調書作成、旧目録との突き合わせなどの作業を進めており、未紹介の書簡や近代書画家の印章など重要資料の存在を確認している。総じて、整理・調査が着実に進んでいるため、Ｂと評価した。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	新型コロナウイルスの再流行に起因して、調査回数がやや減少していることもあって、進捗は中期計画で想定していた作業量の約 3 割にとどまっている。しかし、新型コロナウイルス感染症の流行に伴う様々な制約が解除される見込みであることを踏まえるならば、残る 3 ヶ年で充分に挽回は可能と見込んでおり、5 年度中の『図版目録Ⅱ』の刊行にも見通しがつきつつあるため、Ｂと評価する。

【書式Ｂ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1411Bキ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	1)収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 キ　書跡及び絵画の伝来と散逸に関する調査研究　((4)-①-1))

【事業概要】

ある作品が生み出されてから、今に到るまでにたどった歴史を考えるにあたり、「伝来」と「散逸」は「だれが所蔵していたのか」「どのように受容されてきたのか」といった、それぞれに固有の情報と繋がるため、重要なキーワードとなる。これらについて、作品及び附属品、あるいは関連資料により得ることのできる知見から、書跡及び絵画のアーカイブ充実を図り、今後の調査研究活動に供する。あわせて、成果を展示、講演や刊行など、博物館における関連事業へと還元する。

【担当部課】	学芸部美術室	【プロジェクト責任者】	列品管理室長兼美術室長　羽田聡

【主な成果】

(1)調査は、新型コロナウイルスの感染対策に配慮したうえで 5 回を実施し、「布袋図　善阿印」（館蔵品）、「古文書貼交屏風」や国宝「秋景冬景山水図」（以上、寄託品）など、書跡と絵画の作品 10 件に及んだ。

(2)調査作品のうち、「古文書貼交屏風」は 6 曲 2 双の屏風に大量の古文書が貼り込まれているため、画像を対照しながら翻刻作業ができるよう、詳細なデジタルデータを撮影した。

(3)特記事項として、「古文書貼交屏風」は、『京都府古文書等緊急調査報告　本法寺文書』（京都府教育委員会、1974 年 3 月）において、目録作成と主要部分の翻刻がなされていたが、全点を徹底的に調べ直し、従前の不明点や誤りをほぼ改めた。また、今後の研究に資するよう花押データベースを作成し、基盤研究Ｂ「博物館史資料アーカイブズを活用したメタ文化財情報構築の検討」（3～6 年度、研究代表者　羽田聡）の成果も取り入れ、近代以降の活用状況を明らかにすることができた。

(4)知見を公開する手段として、展示・講演・刊行を得、4 年度は当館で茶の湯に関わる特別展を開催したことにともない、中国から日本にもたらされた「唐物」の受容という観点から、とくに中国絵画と書跡において成果をあげることができた。

古文書の調査ノート（部分）

作成した花押データベース（部分）

【備考】

・調査回数　5 回 10 件
・撮影コマ数　164 カット　　古文書の翻刻　290 点　　花押のデータベース作成　313 点
・成果の公開（展示）　特別展「京に生きる文化　茶の湯」（10 月 8 日～12 月 4 日）
・成果の公開（講演）　森橋なつみ「日本の茶文化における中国絵画受容」（特別展記念講演会　10 月 29 日）
・成果の公開（刊行）　羽田聡「金地院所蔵　国宝『秋景冬景山水図』の附属書状について」（特別展図録『京に生きる文化　茶の湯』、10 月）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	4年度から新たに始まったプロジェクトであるため、調査回数や撮影コマ数など、いずれも比較の対照となるべき実績値を持ち合わせていないが、成果の公開は展示・講演・刊行に及び、社会や学会への貢献度が高いため、所期の目標を達成していると判断した。また、大量の古文書について、継続的に全点を翻刻及び調査し、かつての不明点や誤りを正したことで、精度の高い情報を提供できる準備が整い、今後の研究の基礎となりうる点も判断の材料として加味している。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	作品を中心に据えた諸活動を行う博物館にとって、これらに関わる情報を充実させていくことは、根幹に位置する地道な作業である。かような重要性に照らし、社会や学会への発信において成果をあげているため、所期の目標は達成できていると判断した。5年度は、書跡と絵画とで、横断的な成果を提示できるような調査対象も設定したい。

【書式Ｂ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1411Cア

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	1）収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 ア　復元模写制作に伴う仏教絵画の調査研究

【事業概要】

仏教絵画の制作当初の姿を復元的に描く模写制作に際し、現状では変色や剝落によって肉眼の観察のみでは判別できなくなっている料絹・料紙や顔料などの素材について、事前に高精細デジタルカメラや蛍光エックス線分析器等を用いた光学的調査を入念に実施し、そこで得られたデータを模写制作に活用・公開する((4)-①-1))

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	教育室長　谷口耕生

【主な成果】

新型コロナウイルス感染防止のため、調査人数の制限、マスク着用・手指消毒の徹底を行うなどの対策を講じ、計画どおり下記の成果を挙げることができた。

(1) 愛知県立芸術大学が進める当館蔵千手観音像の模写制作のため、同作品の原本熟覧及び手板色合わせ等の調査を 2 度実施した（4 月 27 日、9 月 28 日）。また同作品に用いられる顔料特定のため、当館の光学機器を用いた蛍光エックス線分析調査を実施した（11 月 14 日）。

(2) 東京藝術大学が進める信貴山縁起絵巻模写制作のため、同絵巻（延喜加持巻）の原本熟覧及び手板色合わせ調査を 2 度実施した（5 月 16 日、9 月 26 日）。同模写制作にあたっては、東京文化財研究所と当館の共同研究報告書『朝護孫子寺蔵　国宝　信貴山縁起絵巻　調査研究報告書－光学調査編－』『同報告書－研究・資料編－』の成果に基づき使用する顔料の検討を重ねた。

(3) 東京藝術大学が進める平安仏画復元模写事業の素材調査の一環として、当館蔵十一面観音像、当館蔵大仏頂曼荼羅、当館蔵十王図の原本熟覧及び東京文化財研究所の高精細デジタルマイクロスコープを用いた上記作品の料絹繊維調査を実施した（12 月 22 日）。

愛知県立芸術大学による復元模写制作に伴う蛍光エックス線分析器を用いた当館蔵千手観音像の顔料調査（11 月 14 日）

【備考】

調 査 回 数：6 回（4 月 27 日・9 月 23 日・11 月 14 日：愛知県立芸術大学調査、5 月 10 日・9 月 26 日：東京藝術大学信貴山縁起絵巻調査、12 月 22 日：東京藝術大学平安仏画調査）

調査作品数：5 件（当館蔵千手観音像 1 幅、信貴山縁起絵巻（延喜加持巻）1 巻、当館蔵十一面観音像 1 幅、当館蔵大仏頂曼荼羅 1 幅、当館蔵十王図 10 幅）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、調査受け入れ人数の変更等の制約はあったものの、愛知県立芸術大学・東京藝術大学による復元模写制作のため、当館の館蔵・寄託品の熟覧・色合わせ等の作品調査を実施し、当館及び東京文化財研究所の光学機器を用いた顔料・料絹の調査データを提供した。その結果、当館収蔵の仏画作品に関する復元模写制作の精度を飛躍的に向上することが可能となり、模写制作を通じて得られた当該文化財の顔料・基底材等の知見を蓄積することができたことから、左記の評定とした。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	本事業では、中期計画の2年目として、精度の高い光学的調査・熟覧の成果に基づいて彩色・料絹等の復元的考察を加え、芸術系大学が進める復元模写制作に反映するという目標を達成することができた。以上のような成果を蓄積していくことは、絵画作品を中心とする文化財の素材研究にも大きく寄与するものであり、中期計画に沿った事業として順調に推進できたことから、左記の評定とした。

【書式Ｂ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1411Cイ

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	1）収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 イ　古代・中世の写経と聖教に関する基礎的研究((4)-①-1))

【事業概要】

我が国には、寺院を中心に古代・中世の写経や聖教が数多く伝来している。それは、人文科学全般にとって重要な研究資料であるが、仏教学以外の分野での利活用は低調である。本研究は、当館の主要な蔵品である古代・中世の写経と聖教を基軸に、文化財学的な立場から資料を調査し、多分野での利用に堪える基本情報の蓄積と提示を目指すものである。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	資料室長　野尻忠

【主な成果】

(1) 写経等の調査

・個人寄託の法華経一品経全 4 巻のうち 3 巻を、材料科学の専門家とともに調査した（5 月 18～20 日）。現状、金色に発色している部分の調査において、これまで金泥塗りと想定されていたが、実は銀泥の上に金泥を重ねて塗る技法が用いられていることが判明した。

・館蔵の華手経巻第十二など奈良時代写経 4 巻を、外部の典籍学・仏教学の専門家とともに調査し、軸端の年代観などについて意見交換した（7 月 20・21 日）。

・丹生都比売神社寄託の法華経 8 帖を、外部の国語学の専門家とともに調査した（9 月 22 日）。本品は従来、12 世紀の作とされてきたが、仮名字点は 11 世紀のものと考えられ、書写自体も 11 世紀に遡る可能性が高いと判断されるに至った。同時に調査した館蔵の法華経巻第一は、こちらは 12 世紀の作とする従来の推定が妥当。

・長谷寺寄託の法華経一品経 34 巻を、同寺の事業として全巻写真撮影するのにあわせ、料紙装飾の様相などを簡易に調査した（12 月 15・16 日）。

(2) 聖教の調査

・勧修寺寄託の御法流遺状を調査し、周辺資料と照合させた結果、本品は、同寺に「勧修寺聖教」として伝来する資料群（国重要文化財）の一部であったことが判明した（5 月 14 日）。

・仁和寺聖教調査（文化庁主宰）に、職員 2 名を派遣した（7 月 26～29 日、3 月 27 日～29 日）。

・館蔵品で、4 年度に保存修理中の南都寺社古文書古記録等につき、解体作業まで完了した全点を写真撮影するとともに、本紙紙背の状態や裏打紙の紙質等を目視により調査した（8 月 5 日）。

・園城寺寄託の智証大師関係文書典籍の保存修理に向け、3 年度に引き続き、美術史学や中世史学の外部識者を交えて調査した（10 月 6 日）。また、一部の文書典籍は修理が開始され、解体作業の進む典籍等を、智証大師関係文書典籍保存活用専門委員会の委員とともに、修理工房で実見、調査した（12 月 5 日）。

・館蔵の造仏所作物帳 3 件を、保存状態の観察を中心に調査した（12 月 14 日）。

(3) 研究成果の開示

以上の調査に基づく知見は、平常展・特別展を問わず展覧会場の題箋やパネル類、図録をはじめとする館の刊行物、さらには職員による講演会などの内容に反映されている。

【備考】

・野尻忠「古代の戸籍と正倉院文書について」（講演、奈良国立博物館サンデートーク、10 月）など、執筆物 1 件、講演 1 件で研究成果を発信。

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	館蔵品や寄託品を中心に、古代・中世の写経・聖教の調査を着実に実施できている。外部識者を交えての調査も機会を捉えて実施し、件数としては例年並みであったが、上に記したとおり従来の定説とは異なる調査結果が得られるなど、成果を上げることができている。特に、材料科学との協業には、今後も計画的に取り組んでいきたい。館外に所在する資料の調査は、機会が徐々に増えているが、新型コロナウイルスの影響がまだある中、どのように諸方面と調整を図っていくか模索中である。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	文化財の調査と研究は、着実に実施できている。研究成果は、展示会場の解説文や展覧会の図録をはじめとする館の出版物のほか、新聞・雑誌等の外部機関の発行物への寄稿など、様々な形で発信している。このことから、中期計画に言う、調査・研究成果の展覧事業への反映も、順調に実施できていると言える。写経や聖教は、そこに文字として書かれている内容は従来から研究対象であったが、現在は、モノの形状や作成経緯、伝来過程、さらには資料群の中での個々の資料の位置づけなど、資料が持っている様々な情報が研究対象となっている。写経と聖教を数多く所蔵する研究機関として、それらの研究に寄与できる情報を提供し続けるため、今後も地道な調査活動を継続していく。

【書式Ｂ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1411Cウ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	1）収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 ウ　仏教工芸・上代工芸の総合的調査((4)-①-1))

【事業概要】
仏教工芸及び日本上代工芸の総合的な調査・研究を行い、成果を公表する。対象は館蔵品、寄託品、一時預かり品をはじめ、展覧会等に際して借用した作品、他の機関、社寺等が所蔵する作品にも及ぶ。また、展覧会の出品候補となる作品や、当館のある奈良周辺の文化財など、各所の文化財についても積極的に調査を実施し、基礎情報の蓄積に励む。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	工芸考古室　研究員　三本　周作

【主な成果】
(1) 館蔵品の調査
・渋谷区立松濤美術館で 4～5 月に開催された特別展「SHIBUYA で仏教美術―奈良国立博物館コレクションより―」における出陳作品の調査を実施し、図録解説に成果を反映した。
・館蔵品の「首懸駄都種子彩絵舎利厨子（重要文化財）」について CT 調査を実施し、外観では確認できない部分の形状を確認することができた。この画像については 5 年 4 月からの平常展にてパネル展示する予定である。
・館蔵品の「伎楽復元衣装」について、東京国立博物館名誉館員で古代染織史が専門の沢田むつ代氏の指導を得て調査を実施し、基礎データの収集・整理を進めた。本作品については近年、館外への貸し出しなど活用の機会が増加しており、基礎データの整理が大きな課題となっている。
(2) 展覧会に際して借用した作品の調査
・4～6 月の特別展「大安寺のすべて―天平のみほとけと祈り―」に出陳された「金銅透彫舎利容器（国宝）」（奈良・西大寺蔵）、「金銅舎利容器屋根」（京都国立博物館蔵）、「釈迦如来石鉢」（奈良・般若寺蔵）の調査を実施し、図録解説に成果を反映した。
・7～8 月の特別展「中将姫と當麻曼荼羅―祈りが紡ぐ物語―」に出陳された「蕅糸織阿弥陀三尊来迎図」、「蕅糸織霊山浄土図」、「蕅糸織阿弥陀聖衆来迎図」（いずれも福岡・福聚寺蔵）について、蕅糸織の技法や素材の詳細を把握する調査（北九州市立いのちのたび博物館主催）に参加した。
(3) 展覧会の出品候補となる作品の調査
・6 年度開催予定の特別展「空海　KUKAI－密教のルーツとマンダラ世界―（仮）」への出品候補となっている曼荼羅群像や密教法具（いずれもインドネシア国立中央博物館蔵）について現地調査を実施し、インドネシアにおける金工作品の構造・技法などの知見を蓄積した。

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	新型コロナウイルスの影響下ではあったが、海外を含めた館外調査や、外部機関を受け入れての調査を一定程度実施することができ、館外との交流も図ることができた。 一方、館蔵品については、3年度に引き続き、これまで基礎情報が十分整理・公表されてこなかった作品を調査し、一部については図録解説を通じて広く発信することができた。特に、CT調査を実施したことによって作品の内部の形状を画像データとして取得できたケースもあり、今後公表することで、館蔵品の魅力のアピールを強化することが期待される。 また、借用作品の調査では、重要品でありながらこれまで詳しく紹介されてこなかった作品を調査・展示し、多くの方に認知していただく機会を設けることができた。 以上の点から、Ｂ評価とした。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画では、収蔵品をはじめとした文化財の基礎的・総合的な調査研究とその発信に重点が据えられている。その 2 年目にあたる 4 年度は、外部機関との共同調査や海外調査も実施し、学術交流を図りつつ文化財の調査研究を深めることができたのは特筆される。また館蔵品に関しては光学機器を使用した調査を実施することで新たな知見が得られたのも大きな成果であった。5 年間の計画遂行に向けて、着実に成果を蓄積できているものと考える。5 年度は一層収蔵品に関する調査を充実させ、成果の発信に力を注ぎたい。

【書式Ｂ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1411Cｴ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	1）収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 エ　寺院出土品の調査研究((4)-①-1))

【事業概要】
寺院出土品の学術調査を通じて展示活用や研究発信に貢献する

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	企画室長　中川あや

【主な成果】

（１）館蔵品・寄託品等の調査

・館蔵の寺院出土瓦（内藤コレクション・原田コレクション・野田コレクション）について基礎情報の整理を行い、外部からの調査等に迅速に対応できる管理体制を整えた。

・当館が昭和 30～50 年代に関わった、全国各地の寺院跡の発掘調査で撮影された記録写真や出土資料写真（フィルム、スライド、紙焼き）を全点スキャンし、データ化した（4,258 点）。刊行物未掲載の画像も多く含まれており、今後様々な形で活用するための素地が整った。

（２）展覧会における借用作品の調査

・4 年度特別展「大安寺のすべて―天平のみほとけと祈り―」で借用した大安寺旧境内出土品（奈良市、奈良文化財研究所所蔵）について、一部の資料の新規写真撮影と X 線 CT 撮影を実施し、展覧会図録や講演会において成果を公表した。

・5 年度特別展「聖地　南山城―奈良と京都を結ぶ祈りの至宝―」での借用候補作品として、南山城地域の寺院出土資料の事前調査を実施した。

大安寺旧境内出土陶枕
（奈良市埋蔵文化財センター・
奈良文化財研究所）

【備考】

・中川あや「大安寺-美術、史料、考古が織りなす歴史」『大安寺のすべて－天平のみほとけと祈り－』（展覧会図録）

・中川あや「大安寺の祈りと営み－出土品を中心に－」（「大安寺のすべて展―天平のみほとけと祈り－」公開講座、5 月 21 日）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	当館所蔵品や寄託品、また、他機関所蔵品にわたり、様々な寺院出土資料について、調査、研究を行うことができた。中でも、膨大な館蔵資料（瓦、寺院跡調査写真）のデータが整理され、蓄積されたことは、将来的に内外での活用につながるもので、大きな成果である。また、展覧会に即した作品の調査・研究内容、新規撮影写真の迅速な公開は、公共への貢献度が高いと考えるため、左記の評定とした。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画に基づき、寺院出土品の調査・研究を通じて展覧会や講演会で成果の発信を行うことができ、目標を着実に実行している。また、5年度の展覧会についても先行した調査を実施し、5年度の調査・研究の基礎を構築できたと言える。

【書式Ｂ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1411Cオ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	1）収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 オ　南都の古代・中世の彫刻に関する調査研究((4)-①-1))

【事業概要】
展覧会開催に際して借用した作品や館蔵・寄託作品、また館外の寺社等の作品のなかから、南都地域（奈良市及びその周辺地域）伝来もしくは南都と関わりの深い古代・中世の彫刻作品を選び、詳細な調書の作成とデジタル高精細画像の写真撮影やＸ線ＣＴスキャン調査を通じ、データの収集・蓄積を行う。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	美術室長　岩井共二

【主な成果】
(1)館内外において多数の作品の調査・撮影を行った。作品名は下記のとおり。
(2)調査を通じて日本古代から中世までの彫刻に関する構造・技法について、Ｘ線ＣＴスキャン調査やファイバースコープなど最新光学機器を駆使することによって、像内銘文の発見や表面観察では判定できない構造など、従来知り得なかった学術的知見を得ることができた。
(3)特別展や名品展における図録の解説や題箋の執筆、講座等における報告、また論文等刊行物のかたちで新知見の発表を行った。一部については、4 年度及び 5 年度の刊行物に発表する。
［作品名］
専修寺阿弥陀如来立像（4 月 5 日）/MIHO_MUSEUM 伎楽面（4 月 23 日）/個人蔵伎楽面(5 月 1 日)/（大安寺十一面観音立像（4 月 25 日）/永興寺四天王立像（4 月 25 日/5 月 23 日）/鷲峰寺四天王立像（5 月 9 日）/當麻寺菩薩面（5 月 18 日）/大安寺広目天立像（5 月 30 日）/大安寺馬頭観音立像（6 月 6 日）/香雪美術館阿弥陀如来立像（6 月 28 日）/香雪美術館地蔵菩薩立像（6 月 28 日）/西福寺観音菩薩立像（7 月 8 日）/西福寺不動明王坐像(7 月 8 日)/西念寺薬師如来坐像（7 月 8 日）/泉橋寺地蔵菩薩立像（7 月 8 日/12 月 14 日）/鶯瀧寺薬師如来坐像（7 月 8 日）/鶯瀧寺地蔵菩薩立像（7 月 8 日）/常念寺釈迦如来坐像及び両脇侍像（7 月 8 日/11 月 4 日）/東慶寺釈迦如来坐像（7 月 11 日）/當麻寺中将姫坐像（8 月 1 日）/西念寺仏像群（8 月 19 日）/大安寺伝楊柳観音立像（9 月 7 日）/ 今宮戎神社男神坐像(9 月 29 日)/西明寺薬師如来坐像(10 月 3 日)/西教寺地蔵菩薩坐像(10 月 3 日/12 月 14 日)/神童寺不動明王立像(11 月 10 日)/神童寺愛染明王坐像(11 月 10 日)/春日大社獅子・狛犬（2 対）（12 月 26 日)/西明寺薬師如来坐像(5 年 1 月 11 日)/金蔵院観音菩薩立像（1 月 11 日）/笠置寺毘沙門天立像(1 月 18 日)/笠置寺誕生釈迦仏立像(1 月 18 日)/巌松院釈迦如来立像(1 月 30 日)/禅定寺十一面観音立像(1 月 30 日)/不退寺観音菩薩立像（1 月 31 日）/鶯瀧寺泰澄坐像(2 月 2 日)/薬師寺四天王像(2 月 6 日)/燈明寺伝六観音像（2 月 14 日）/西念寺薬師如来坐像(3 月 2 日)

【備考】
大安寺所蔵の彫刻の調査成果は東京国立博物館で開催された特別企画「大安寺の仏像」（5 年 1 月 2 日～3 月 19 日）の展示や図録等で活用した。新規撮影された写真や調査成果は、今後開催される特別展「聖地　南山城―奈良と京都を結ぶ祈りの至宝―」（5 年 7 月 8 日～9 月 3 日）をはじめ、展覧会や写真の借用依頼への対応に寄与するものである。

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	調査の成果は、4年度及び5年度開催の特別展の展示解説などに反映させるための貴重な資料の集積となった。調査方法は、実測、撮影、3D計測、X線CTスキャンなど多岐にわたる。また、これらの調査には、展覧会輸送の事前点検も含まれ、文化財の安全な活用に資する成果を多分に含んでおり、5年度の特別展、特別陳列のみならず、講座等にも反映させることができる。特に、奈良との関連が深い木津川市や京田辺市の彫刻調査の成果及び撮影写真は、5年度開催の特別展「聖地　南山城―奈良と京都を結ぶ祈りの至宝―」（5年7月8日～9月3日）の図録や会場パネル等の作品解説で公開ができる予定である。 東慶寺釈迦如来坐像は寄託の縁があり、CTスキャン調査により材質や造りが初めて明らかになった。なお、本件は昭和17年以来の博物館での公開となったこともあり学術的価値が非常に高い。また、当館蔵釈迦如来立像はCT調査により頭部納入品の詳細が明らかになり、文献に伝わる逸話に近い納入品が確認されたりと、多大な研究成果が得られた。最終的には所期の目標を上回る成果が得られたと言える。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	中期計画期間を通し、奈良市域を中核とする南都に伝来ないし南都と関わりの深い古代・中世の彫刻作品について、調書の作成や記録写真の撮影、X 線 CT 等の光学的修法による調査を行い、データの収集・蓄積に十二分の成果をあげることができた。このように、中期計画の２年目として、研究成果の展示・公表・蓄積に着実に取り組んだといえる。以上より、所期の目標を上回る成果をあげることができたため、A評定とした。次期中期計画期間は、例年同様のペースで調査・撮影を進めつつ、新たな研究成果を発表できるよう努めていく。

【書式Ｂ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1411Cヵ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	1）収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 カ　東京文化財研究所との共同による仏教美術の光学的調査研究((4)-①-1))

【事業概要】

東京文化財研究所との共同研究「文化財の光学的調査と情報共有に関する基礎的調査研究」に基づいて、当館が所蔵及び保管する仏教絵画を中心とする美術作品について、高精細デジタルカメラや蛍光 X 線分析器など最新の光学機器を用いた文化財調査を実施し、併せてデジタルコンテンツの作成を行うものである。上記の調査を通じて、色料や基底材など作品に用いられる素材の情報や、制作技法に関する情報、補彩・補絹など補修箇所に関する情報を大量・精緻に蓄積し、報告書等でその成果を広く公表することで、美術史的研究や将来の修理に資することも視野に入れている。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	教育室長　谷口耕生

【主な成果】

(1) 東京文化財研究所との共同研究「文化財の光学的調査と情報共有に関する基礎的調査研究」と関連し、平安仏画を中心とする絹本著色絵画の技法史的展開を解明するための素材調査の一貫として、平安絵巻の代表作である国宝十一面観音像（当館蔵）、重要文化財大仏頂曼荼羅（当館蔵）、重要文化財十王図（当館蔵）を対象に、東京文化財研究所が所有する高精細デジタルマイクロスコープ（Hirox 製 RH－8800）を用いて画絹を高倍率で撮影し、絹糸の形状等を観察するとともに、深度合成機能を利用して絹糸の幅と高さの計測等を実施した（12 月 22 日）。

(2) 東京文化財研究所との覚書に基づく「装潢分野の修理における接着剤の除去法に関する共同研究」の一貫として、当館文化財保存修理所内で修理中の寄託品・宝珠台（海住山寺蔵）の彩画の表面に塗布された接着剤を明らかにするため、FTIR（フーリエ変換赤外分光光度計）を用いた採取サンプルの分析調査及び調査所見に基づく検討を重ねた（11 月 8 日・12 月 20 日）。また上記共同研究の期間延長を前提に、今後の長期的な調査計画についても協議を行った。

国宝十一面観音像（当館蔵）のデジタルマイクロスコープを用いた画絹調査（12 月 22 日）

【備考】

調 査 回 数：館蔵十一面観音像・大仏頂曼荼羅・十王図調査 1 回（12 月 22 日）、海住山寺蔵宝珠台調査 2 回（11 月 8 日・12 月 20 日）

調査作品数：合計 4 件

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	東京文化財研究所との共同研究に基づいて、新規に当館蔵十一面観音像・大仏頂曼荼羅・十王図及び海住山寺蔵宝珠台の光学的調査を実施し、当館収蔵の文化財に関する顔料や基底材、接着剤に関する基礎情報を収集するとともに、調査で得られた所見をもとに協議・検討を重ね、その成果を文化財の模写・修理の実施計画に反映するなど、年度計画を着実に達成することができたことから、左記の評定とした。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	本事業では、中期計画の2年度目して、東京文化財研究所との共同研究に基づき、精度の高い光学的調査によって高精細デジタル画像及び顔料・基底材・接着剤等の基礎データを着実に蓄積し、その成果の一部を文化財の模写・修理に活用することができた。以上の成果は、絵画作品を中心とする文化財の素材研究にも大きく寄与するものであり、中期計画に沿った事業として順調に推進できたことから、左記の評定とした。

【書式Ｂ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1411Dア

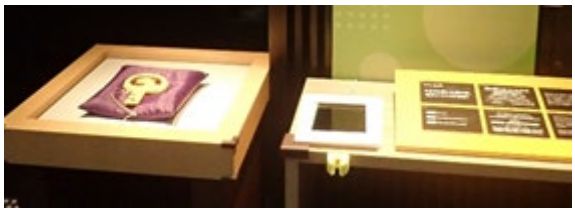
業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	1)収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 ア　X 線 CT スキャナ等による文化財の構造や製作技法に関する調査研究（(4)-①-1)）

【事業概要】
本研究では、X 線 CT スキャナ及び 3D デジタイザ等を使用した調査によって各種有形文化財の構造及び製作技法を明らかにすること並びに得られた成果を展覧事業及び教育普及活動に活用することを目的とする。

【担当部課】	学芸部博物館科学課	【プロジェクト責任者】	課長　木川りか

【主な成果】
(1) 展示関連作品の調査
徳川美術館所蔵の国宝「初音の調度」のうち刀掛、寄り掛り、及び掛硯箱（胡蝶蒔絵）の X 線 CT スキャンを実施した。刀掛の柱と梁や脚はほぞ継ぎにより接合されていること、寄り掛りの天板及び底板は複数枚の板が接ぎ合わされていること、掛硯箱（胡蝶蒔絵）の天板・底板と側板は組継ぎにより接合されていること等が判明した。
また、特別展「琉球」に出陳した朱漆竹虎連珠沈金螺鈿座屏（浦添市美術館所蔵）及び丸櫃（個人蔵）の状態並びに内部構造を X 線 CT によって調査し、今後の修理の際に活用できる成果を得た。
(2) 3 次元データの活用
3 年度の特別展「最澄と天台宗のすべて」に出陳した性空上人坐像（兵庫・圓教寺蔵）の X 線 CT スキャン調査を行った。その結果、頭部に陶器と推定される骨壺が納められ、その内部に遺骨が納められていることを明らかにした。4 年度には、引き続き関係者と検討を重ね、壺及び遺骨のデータを抽出し、3D プリンタでレプリカを作製した。
また、これまで本事業によって作製してきた金銅単龍環頭柄頭などのレプリカを、文化交流展示「ならべてわかる本物のひみつ～実物とレプリカ 2022～」でハンズ・オン展示を行った。



レプリカを用いたハンズ・オン展示風景
「ならべてわかる本物のひみつ～実物とレプリカ 2022～」

【備考】
・X 線 CT 調査件数 48 件、調査回数 208 回
・3D デジタイザ調査件数 12 件、調査回数 22 回
＜論文等＞
・渡辺祐基、川畑憲子、板谷寿美、吉川美穂、田中麻美、木川りか「国宝『初音の調度』のうち刀掛、寄り掛り、掛硯箱（胡蝶蒔絵）の木地構造および制作技法の X 線 CT 調査」『日本文化財科学会第 39 回大会研究発表要旨集』116-117（9 月）
・川畑憲子、渡辺祐基、和泉田絢子、田中麻美「叢梨地牡丹唐草向鶴紋散蒔絵調度の木地構造について（3）化粧道具（手箱）」紀要『東風西声』18 号、p.77-86（5 年 3 月）
・若杁善満、渡辺祐基、田中麻美、岡寺　良「土製地蔵菩薩 坐像の製作過程の復元的考察―中世九州北部に出土する特徴的な一群について―」紀要『東風西声』18 号、p.17-35（5 年 3 月）
・大西智洋、渡辺祐基、金城聡子「黒漆孔雀牡丹唐草沈金食籠の修復実績と X 線 CT 調査報告」『浦添市美術館紀要』18 号、p.10-18（5 年 3 月）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	4年度は60件の文化財等の調査を実施し、保存状態及び製作技法に関する情報を得た。取得したデータに基づきレプリカを作製し、展示等に活用した。さらに、3次元データの解析及び加工に用いるワークステーションを更新し、3Dプリンタ用データの効率的な加工処理やこれまで以上に高度な数値解析が可能な環境整備を行った。以上から年度計画は完遂したと評価し、Ｂ評定とした。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画2年目である4年度は、3年度に引き続き各種文化財の3次元調査を推し進め、これまでに得られたデータをレプリカとして展示で活用した。5年度以降も調査を継続するとともに、展示、学会発表、論文、教育普及等で成果を幅広く公表し、今まで同様の中期計画の円滑な推進に努める。

【書式Ｂ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1411Dイ

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	1）　収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 特集展示「御所の器－公家山科家伝来の古伊万里」に関する調査研究

【事業概要】

旧公家山科家に伝来する、江戸時代に宮中より下賜された禁裏御用品（古伊万里）約 200 点を、製作年代を整理、装飾された有職文様の分析を実施し、伝来品の特徴を明らかにした。さらに山科家に関連する史料や装束を研究し、下賜の背景にあった宮中における職務について明らかにした。その成果を 9 月 27 日から 11 月 20 日まで特集展示「御所の器―公家山科家伝来の古伊万里」として一般公開した。

【担当部課】	学芸部企画課	【プロジェクト責任者】	研究員　酒井田千明

【主な成果】

・30 年度から 3 年度までの科学研究費補助金（基盤研究 A）「アジアの文化財の伝統的製作・修理技法の詳細調査と国際修理プロジェクトの応用」（研究代表者：伊藤嘉章）の研究の一環として、山科家、同志社大学、東京藝術大学と協力して、約 200 点の悉皆調査を実施し、全点の撮影を行った。
・考古学及び美術史的観点から、全点の年代整理及び装飾された有職文様を分析し、伝来品の 9 割は肥前（現佐賀県）・有田の辻家を中心に生産された染付磁器であると判明した。生産地が不明なものは辻家の指導を受けて整理した。
・他の禁裏御用品の伝来品との比較研究で、山科家伝来品の特徴が数十枚単位の組物が多いこと、同じデザインでもサイズの異なる碗や皿で構成されたセットがあることを明らかにした。
・山科家に関連する史料や装束を研究し、山科家が宮中で内蔵頭と御厨所別当を務めていたことが、磁器が下賜されるきっかけとなった可能性を指摘した。
・特集展示「御所の器―公家山科家伝来の古伊万里」として一般公開し、会期中に山科家、同志社大学、東京藝術大学の研究協力者と共に、講演会・トークセッションを実施し、研究成果を公表した（10 月 16 日）。

特集展示「御所の器―公家山科家伝来の古伊万里」展示風景

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	従来、調査研究や公開実績が少なく、実態のよく分からなかった禁裏御用品中の古伊万里について、宮中職の衣紋道を務めた山科家との関連性に迫り、体系的に整理し公開した。また、図録を作成し、共同研究者らと共に、講演会・トークセッションを実施するなど、学術的意義を広く伝えた。以上の成果から年度計画の所期の目的以上の成果を上げたと評価し、A評定とした。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	2018年以来の山科家・同志社大学・東京藝術大学との共同研究の集大成として、旧公家である山科家に伝来した禁裏御用品の全貌を史上初公開し、宮中で使用された古伊万里についての研究を大きく前進させた。本調査研究や展観を契機として禁裏御用品への関心が高まっており、宮中で使用された陶磁器の実態解明に資する内容である。古伊万里研究の新領域を開拓し、中期計画を越える成果をあげたと評価し、左記の評定とした。

【書式Ｂ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1411Dｳ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	1)収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 ウ　水中遺跡の保存活用に関する調査研究　((4)-①-1))

【事業概要】

本事業は、国内の水中遺跡保護体制の整備とその充実を図ることを目的として平成 30 年度より実施している。4 年度は、韓国内の水中遺跡研究の拠点である國立海洋文化財研究所と、調査研究、展示、教育普及事業について意見交換した。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	部長　河野一隆

【主な成果】

3 年度で、文化庁が刊行した『水中遺跡ハンドブック』作成支援に係る諸事業が終了した。4 年度前半は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、海外との自由な往来が制限されたが、後半に緩和されたことを受けて、韓国國立海洋文化財研究所からの依頼に応じ、対面での意見交換を行った（10 月 26 日）。

訪問者と協議内容は、以下の通りである。

【訪問者】

申鍾國　國立海洋文化財研究所　展示教育課 課長
李柱憲　同　西海文化財課 課長
金炳菫　同　遺物科學チーム チーム長
朴禮理　同　展示教育課 學藝研究士
主税英徳　琉球大学　考古学研究室

韓国國立海洋文化財研究所との交流

【協議内容】

・國立海洋遺物展示館の展示に係る研究と資料調査
・相互交流・協力に向けての意見交換
・展示作品の演出技術と方法についての実地検討

水中遺跡の保存・活用に係る実績は、日本より韓国の方が先進的であり実績も蓄積されている。一方、当館は奈良文化財研究所と共同で文化庁による『水中遺跡ハンドブック』の作成を支援し、水中遺跡研究の松浦市とも連携した保存活用の取組を蓄積している。今回の意見交換は、水中遺跡についての情報共有を国際的に推進すると共に、将来的な研究交流に寄与する機会となった。

【備考】

当館での対応者
小泉恵英 副館長、河野一隆 学芸部長、白井克也 文化財課長

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	文化庁の受託事業は終了したが、新型コロナウイルスの感染状況が落ち着き海外渡航の制限が緩和されたことを受けて、韓国の水中遺跡調査研究機関との交流を再開した。リモートでなく、博物館現地での対面による意見交換ができたことは意義があり、年度計画が達成できたためＢ評定とした。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	『水中遺跡ハンドブック』を刊行し、水中遺跡の情報共有に係る国際交流を行うなど、調査研究を円滑に推進できた。水中文化遺産に関連する国内外からの依頼に対応し、調査研究や展示事業に積極的に協力することで、中期計画を推進したと評価し、左記の評定とした。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1412A ｱ-1

業務実績書

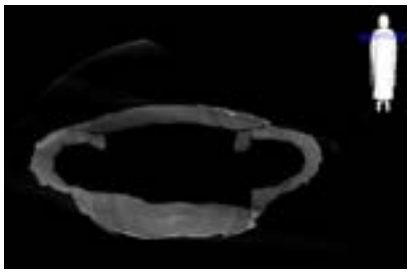
中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	2)特別展等の開催に伴う調査研究 ア　特別展「空也上人と六波羅蜜寺」に関する調査研究

【事業概要】
平安時代に空也上人が開いた六波羅蜜寺（創建当初の名称は西光寺）に伝わる仏像、仏画等を展示した。

【担当部課】	学芸企画部企画課	【プロジェクト責任者】	浅見龍介

【主な成果】
出品作品のうち、重要文化財空也上人立像（康勝作）、重要文化財地蔵菩薩立像（伝定朝作）の X 線 CT 調査、その他出品作品のデジタルカメラによる撮影を行った。
空也上人像は、背中を丸めているので、背面に材を足すが、頭部から脚部の主要部分は一材から造っていること、右足は衣との境で割矧ぎ、左足は水平に鋸で引いたうえで割っている。
地蔵菩薩立像は体幹部の前後材、左右側面材ともに木心のある材を用いて造っていることがわかった。節の多い木であり、制作の事情に関わると考えられる。

空也上人立像
X 線 CT 断層画像



地蔵菩薩立像
X 線 CT 断層画像

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	空也上人立像は、鎌倉時代の巨匠運慶の息子康勝の作として重要な作例であるが、六波羅蜜寺で常時公開しているため、十分な調査研究が行われたことがなかった。今回展覧会の出品を機に、精細な調査、特に X 線 CT 撮影を実施したことにより、構造技法に新知見が得られた。伝定朝作の地蔵菩薩立像の X 線 CT 画像とともに調査報告を『MUSEUM』に掲載することで、注目を集め、今後の研究に寄与するものと考えられる。 また展覧会についても、通常正面からしか見られない空也上人立像を 360 度全方向から見ることができるような展示の工夫を行ったことで、満足度は 80%を超えた。コロナ禍にも関わらず 14 万 6 千人あまりが観覧に訪れ、注目度の高い展覧会になったといえる。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	仏像等大型立体彫刻の内部および構造を把握できるX線CT装置は文化財機構の国立4館にしかない。そのため、館所蔵作品はもとより、特別展で借用した重要作例のX線CT調査は学界でその報告が待ち望まれている。また、造形の特色をとらえる多様な角度からの写真は彫刻研究のために欠かせないものであり、出品作品の撮影は可能な限り行っている。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1412A ｱ-2

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	2)特別展等の開催に伴う調査研究 ア　沖縄復帰 50 年記念特別展「琉球」に関する調査研究

【事業概要】

特別展「琉球」は、4 年度に復帰 50 年の節目を迎えた沖縄の歴史と文化について、かつて存在した琉球王国に焦点を当て、明治以降の近代化や戦争といった苦難を奇跡的に乗り越えて今日まで伝えられた作品とその意義を紹介するものである。これにあたり、絵画、墨跡、彫刻、金工、陶磁、漆工、染織、考古、民族、歴史資料の各分野の調査を九州国立博物館の担当者と連携して、沖縄県内外において行った。

【担当部課】	学芸企画部企画課特別展室	【プロジェクト責任者】	学芸企画部出版企画室　三笠景子

【主な成果】

展覧会では、戦後進められてきた各分野の研究成果を反映した充実した展示を行うことができた。展覧会会期中には、金工や漆工作品の CT 撮影を行い、新しい調査データを得た。また、当館所蔵品でもこれまでまとまって展示する機会のなかった冊封使の墨跡を公開したことや、沖縄本島のほか八重山や宮古を含め、諸地域で展開した染めや織りの多彩な技術を多くの染織作品から紹介したこと、さらに現代の復元技術に視点を広げ、琉球文化を未来へ伝える活動まで取り上げたことなどは、とりわけ意義深いと考える。

また、展覧会関連事業として連続講座を開催し、沖縄から高良倉吉氏、外間政明氏、與那嶺一子氏を招聘して琉球の歴史と美術工芸、また琉球美術のコレクション形成に関する講演を行い、当館研究員とのセッションも行なった。

展示会場風景
（1 室　万国津アジアの架け橋）

会場風景（3 室　国宝尚家宝物）

会場風景（4 室　手わざ復元事業）

【備考】

特別展「琉球」（5 月 3 日～6 月 26 日）　総出品数：363 点
展覧会連続講座（6 月 11 日（土））

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	調査の遂行にあたっては新型コロナウイルス感染拡大のため、国外所蔵品や沖縄本島以外の島々の調査については延期や中止をせざるを得ないものもあったが、多方面から琉球の歴史と文化に迫る大規模な展覧会を開催することができた。また、展覧会にかかる調査や沖縄の研究者との交流によって、新たな研究課題も見いだされており、継続して調査研究を進める必要があると考える。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画2年目として、4年度は様々な専門分野の調査の成果を展覧会に公開することができた。これを受けて、今後本館16室の総合文化展「アイヌと琉球」の展示充実を図り、琉球文化の理解を深めるための活動を継続して行っていきたいと考える。 また、当館の明治期購入の琉球関係資料については、伝来や収蔵経緯に関する一次資料に乏しく不明なことが多かったが、本調査を契機として、新たな手がかりが見いだされている。5年度以降も引き続き沖縄県立美術館・博物館や那覇市歴史博物館等と連携して、調査研究を進めたい。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1412A 7-3

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	2)特別展等の開催に伴う調査研究 ア　日中国交正常化 50 周年記念　特別デジタル展「故宮の世界」に関する調査研究

【事業概要】

4 年度に開催した特別デジタル展「故宮の世界」は日中国交正常化 50 周年を記念した展覧会である。展覧会を 2 章立てで構成し、第 1 章では故宮博物院と凸版印刷が進めてきたデジタル・アーカイブのデータを活用した再現ＶＲコンテンツや高精細な文物のデジタル展示を行い、第 2 章では東博が管理する清朝皇帝が愛蔵した書画や清時代の工芸品を展示する。本展の開催にあたり、内容をより充実したものにするため、展示作品の調査研究を実施した。

【担当部課】	学芸企画部企画課	【プロジェクト責任者】	学芸企画部企画課特別展室長 猪熊兼樹

【主な成果】

デジタル展示空間を作るにあたり、故宮博物院と凸版印刷が長年にわたって蓄積してきたデジタル・アーカイブのデータを活用して紫禁城の宮殿の外観や内装を再現し、また、北宋の名画「千里江山図」を高約 3 メートル、幅約 22 メートルの大画面に投影することで山水画を没入体感するように鑑賞するなどの実験的展示を行った。そして当館が管理する清朝皇帝が愛蔵した書画や清時代の工芸品を展示することで、デジタル展示と相互補完を行うなど、次世代型の鑑賞方法を試みた。これらの展示内容は、コロナ禍での海外渡航制限があるなかで、故宮博物院の研究員および凸版印刷の技術者とオンライン会議やデータ通信なども利用した協議を重ねて作り上げた。また展示内容は清朝の紫禁城が中心であったが、調査研究の対象を中国の考古資料やチベット仏教資料ついても視野を広げることで、より多角的に清時代の宮廷文化を捉えることができた。その成果の一部は、展覧会の閉会後に東京美術より刊行された『もっと知りたい中国の美術』として一般に普及することができた。

「千里江山図」のデジタル展示

清時代の書画工芸の展示

『もっと知りたい中国の美術』

【備考】

・日中国交正常化 50 周年記念特別デジタル展「故宮の世界」7 月 26 日～9 月 19 日、平成館特別展会場（1・2 室）
・特別デジタル展「故宮の世界」鑑賞ガイドブック（会場にて無料配布）
・富田淳監修『もっと知りたい中国の美術』2022 年 10 月、東京美術

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	故宮博物院と凸版印刷が進めてきたデジタル・アーカイブのデータを活かし、デジタル技術を活用した展示を行った。コロナ禍による海外渡航制限を受けて、日本と中国の間を通交することができなかったために故宮博物院が所蔵する実物作品の確認作業に不十分な点も生じたが、オンライン会議やデータ通信によって日本側と中国側との意思疎通に努力した。これまでに故宮博物院が構築してきたデジタル展示の技術を応用しながら、本展では北宋の名画「千里江山図」を没入体感する展示を開発するなど、創意工夫にも努めた。また当館が管理する実物作品も併せて展示することで、デジタル展示と相互補完する工夫を行った。本展の成果は、今後にデジタル技術を活用した展示を進めてゆくうえで大いに参考されるものとなるであろう。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	本展の開催に伴う調査研究により、当館が管理する中国の書画工芸、考古・チベット仏教の資料などの学術的価値が一層明確になった。また近年著しく発達を遂げているデジタル技術を取り入れた展示方法について長所（ストロング・ポイント）と短所（ウイーク・ポイント）が明確になった。このことからも中期計画を順調に遂行できているといえる。これらの成果を活かして、今後の特別展や総合文化展にも反映させる。これを契機として、5 年度以降も引き続き当館が管理する中国関係の文化財および次世代型の展示方法に関する調査研究を進めたい。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1412A ｱ-4

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	2)特別展等の開催に伴う調査研究 ア　東京国立博物館創立 150 年記念 特別展「国宝　東京国立博物館のすべて」に関する調査研究

【事業概要】

4 年度に開催した特別展「国宝　東京国立博物館のすべて」は、当館の創立 150 年を記念したものである。第 1 部では所蔵する国宝 89 件すべてを展示し、第 2 部では 150 年の歴史を物語る作品や関連資料を展示した。本展の開催にあたり、内容をより充実したものにするため、展示作品の調査研究を実施した。

【担当部課】	学芸企画部企画課特別展室	【プロジェクト責任者】	学芸研究部列品管理課 登録室長　佐藤寛介

【主な成果】

展示作品の解説にあたり、それぞれの分野におけるこれまでの調査研究成果を反映させて、最新の学術的知見と評価を盛り込んだ。さらに、一部の展示作品については由来伝来や修理記録などを併記し、第 2 部では収蔵時期に沿って展示することで、当館の歴史や文化財コレクションの成り立ち、博物館の社会的役割を紹介した。また、作品の展示についても、これまでに培われた展示技術によって、質の高い鑑賞体験を提供することができた。

第 1 部　展示風景（絵画）

第 1 部　展示風景（刀剣）

第 2 部　展示風景（彫刻）

【備考】

特別展「国宝　東京国立博物館のすべて」（10 月 18 日～12 月 18 日）　総出品数：150 件

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	国内最大級である当館の文化財コレクションの最高峰といえる国宝89件すべてと、日本の博物館の歴史ともいえる150年の歩みを組み合わせることで、当館の全体像を多角的に紹介することができたことの学術的意義は計り知れない。創立150年という大きな節目に相応しい内容であり、本展による成果は当館のみならず、日本の博物館の来し方行く末の大きな道標になるものといえる。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	本展の開催に伴う調査研究により、当館所蔵品の学術的価値が一層明確になった。この成果をさらなる調査研究に活かすとともに、今後の総合文化展にも反映させる。中期計画の 2 年目として、総合的かつ充実した調査研究を行うことができた。これを契機として、5 年度以降も引き続き当館の文化財コレクションの調査研究を進めたい。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1412A ｱ-5

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	2)特別展等の開催に伴う調査研究 ア　特別企画「大安寺の仏像」に関する調査研究

【事業概要】
奈良市の大安寺の宝物館に安置される奈良時代の木彫像 7 体を中心に、当館所蔵の大安寺ゆかりの瓦などを展示した。

【担当部課】	学芸企画部企画課	【プロジェクト責任者】	学芸研究部列品管理課平常展調整室 研究員　増田政史

【主な成果】
(1) 実施概要
・調査：事前調査（10 月 18 日）、写真撮影（11 月 30 日）、X 線 CT 撮影（11 月 25 日、12 月 1 日、2 日）
・開催期間及び開催場所：5 年 1 月 2 日～3 月 19 日　本館 11 室
・担当者：増田政史（同上）、丸山士郎（学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室研究員）、児島大輔（学芸研究部調査研究課東洋室主任研究員）

(2) 主な内容
・出品作品の事前調査、写真撮影、X 線 CT 撮影を実施に、作品の基本情報および画像データを収集した。
・大安寺の仏像 4 躯の X 線 CT 撮影を実施し、対象像の詳細な構造や過去の修理と判断される箇所などの情報を得ることができた。
・大安寺から借用した作品 8 点、当館所蔵の作品 6 点、当館所蔵の図書資料 1 点（参考出品）を選定し、特別企画「大安寺の仏像」を開催した（令和 4 年度日本博主催・共催型プロジェクト）。
・調査によって得られた知見を反映したパンフレット（16 頁）を 13,000 部作成し、無料で配布した。
・大安寺の仏像について説明した講演会を動画撮影し、オンラインで配信した。

11 月 30 日の調査（X 線 CT 撮影の調査）

展示会場風景（本館 11 室）

【備考】
特別企画「大安寺の仏像」パンフレット（総論 1 本：増田政史、コラム 2 本：増田政史、山本亮、作品解説 14 件：増田政史、山本亮）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	本企画では、大安寺の奈良時代の貴重な木彫像9軀のうち、宝物殿に安置される7軀を借用し、調査研究を実施した。7軀ものまとまった数を一度に調査することができた貴重な機会であり、調査によって得られた成果を展覧会パンフレットや会場内解説パネルなどに反映することができた。また、X線CT撮影を実施した作品については、今後さらに研究を進め、逐次刊行物等によって紹介したい。 また、館外から借用した作品を展示する特別展の性格を有しながらも、基本的に収蔵品で構成される総合文化展（平常展）の展示室で開催することで、総合文化展の活性化を促進することができた。また講演会の動画配信によって、展示の補助および来館できない人に対する工夫も行った。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	借用した文化財を対象に写真撮影や X 線 CT 撮影を実施した。これにより、借用文化財に科学的手法を適切に用いて、学術的・芸術的な価値の究明とコンディションの分析等を行い、中期計画の 2 年目として適切な保管・展示の環境維持や修理等の処置に資するという中期計画に沿った調査研究をすることができた。また展覧会パンフレットを発行し、有形文化財に関する調査研究の成果等の発信を行うという中期計画を順調に遂行できているといえる。このほか、今回の調査研究で得た情報を今後の展覧会企画や出版物のなかで広く発信していきたい。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1412A ｱ-6

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	2)特別展等の開催に伴う調査研究 ア　特別展「東福寺」に関連する調査研究

【事業概要】

特別展「東福寺」は、14 か年にわたって行われた明兆筆「五百羅漢図」の修理完成を記念して開催するもので、同寺の寺宝をまとめて紹介する初の機会となる展覧会である。本展では、「五百羅漢図」全幅を修理後初公開するとともに、草創以来の東福寺の歴史を辿りながら、大陸との交流を通して花開いた禅宗文化の全容を幅広く紹介する。本展の開催にあたり、絵画・書跡・彫刻の各分野の調査撮影を、京都国立博物館の担当者と連携して、東福寺及び塔頭寺院において行った。

【担当部課】	学芸企画部企画課特別展室	【プロジェクト責任者】	特別展室研究員　高橋真作

【主な成果】

(1) 調査概要

・場所：東福寺（京都市東山区本町十五丁目 778）及び塔頭寺院
・期間：絵画調査撮影：4 月 26 日～28 日（小型作品）・6 月 22 日～23 日（大型作品）、書跡調査撮影：5 月 31 日～6 月 2 日、彫刻調査撮影：7 月 20 日～22 日・8 月 30 日～31 日・10 月 26 日～28 日（一部工芸作品）
・担当者：高橋真作（同上）、六人部克典（学芸研究部東洋室研究員）、浅見龍介（学芸企画部長）

(2) 主な内容

3 年度に実施した予備調査の成果をふまえ、展覧会へ出陳する候補作品を選定したうえで、京都国立博物館担当者（森道彦氏・淺湫毅氏）とともにそれらの調査撮影を重点的に行った。東福寺の所蔵品は大型作品や連作が多く、機材やセッティングを変えて撮影する必要があったため、作品の形状や特徴に応じて、数度に分けて実施した。

絵画調査風景

彫刻調査風景

彫刻撮影風景

【備考】

特別展「東福寺」：5 年 3 月 7 日～5 月 7 日　出品数：157 件　　記念講演会（月例講演会）：5 年 3 月 25 日

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	寺内に保管されながらもこれまで未紹介であった作品について、調査を通じてその学術的価値を見出し、それらを展覧会場で初公開するとともに、図録に詳細な解説を付して紹介した。また、既知の作品においても、これまで課題として残されてきた作品の筆者認定や制作背景等について新たな知見を提供し、今後の新たな研究基盤を築くことができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画2年目として、基礎的かつ総合的な調査の成果を展覧会に還元することができた。また、図録や講演会等を通じて、研究成果を広く一般に発信した。当館所蔵品には、明兆をはじめとする東福寺派画人の作例も多くあり、それらの今後の研究に寄与できたことの意義も大きい。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1412A ｱ-7

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	2)特別展等の開催に伴う調査研究 ア　浄瑠璃寺九体阿弥陀修理完成記念　特別展「京都・南山城の仏像」に関する調査研究

【事業概要】
5 年秋実施の浄瑠璃寺九体阿弥陀修理完成記念特別展「京都・南山城の仏像」にかかわる調査研究。本展は京都の南山城地域に所在する寺院の仏像等の展示を行うものである。本プロジェクトでは主に当館寄託品の調査研究を中心に実施した。

【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	絵画・彫刻室研究員　丸山士郎

【主な成果】
(1) 実施概要
・事前調査及び写真撮影（12 月 1 日、5 年 3 月 17 日）
・担当者：丸山士郎（同上）、増田政史（学芸研究部列品管理課平常展調整室研究員）、児島大輔（学芸研究部調査研究課東洋室主任研究員）

(2) 主な内容
特別展「京都・南山城の仏像」では、京都の南山城地域に所在する寺院の仏像等の展示を予定している。同地域に所在する京都・浄瑠璃寺の地蔵菩薩立像（重文）が当館に寄託されており、その調査及び写真撮影を実施した。当該作品は、平安時代中以降に流行した「定朝様」という作風が見られる作例のひとつとして知られるものの、これまで詳細な比較検討は行われていなかった。4 年 3 月～5 月にかけて当館で開催した特別展「空也上人と六波羅蜜寺」に出品された京都・六波羅蜜寺の地蔵菩薩立像（重文）と作風が近似していることから、六波羅蜜寺像の調査時に得た知見をもって、当該作品との作風上の比較検討を行った。また、制作当時の彩色文様を留めており、色彩や文様のモチーフの詳細な調査を実施した。また、同じく当館寄託の京都・浄瑠璃寺の広目天立像（四天王立像のうち）（国宝）について、制作当時の彩色文様の調査を実施した。

12 月 1 日の調査（写真撮影）

5 年 3 月 17 日の調査

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	京都の南山城地域は知名度こそ決して高くはないものの、京都と奈良の間に位置し、奈良時代以降、独自の仏教文化が育まれてきた。そこに伝わった作品の調査研究を実施したことで、作品を通じて当該地域の歴史や彫刻史における意義の高さを浮き彫りにすることができた。展覧会が開催される5年度は、寄託品だけではなく現地での借用予定作品の事前調査を実施し、展覧会の内容や図録等に反映させていきたい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	4 年度の調査では、過去の展覧会に出品された類品との比較検討を行うという手法を用いて調査対象作品の新たな特徴を見出し、それによって今後の展覧事業の企画等に資するという中期計画に沿うことができた。4 年度は寄託品の調査のみであったが、展覧会が開催される 5 年度は事前調査を数多く実施し、また 6 年度以降は展覧会会期中に収集した作品情報および画像データを用いて、逐次、定期刊行物などで報告していく。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1412A ｱ-8

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	2)特別展等の開催に伴う調査研究 ア　特別展「やまと絵―受け継がれる王朝の美―」に関する調査研究

【事業概要】

5年秋実施の特別展「やまと絵―受け継がれる王朝の美―」にかかわる調査研究。本展は前近代の日本絵画において主要な主題であったやまと絵について、平安から室町時代までの優品によって紹介するものである。本プロジェクトでは主に館蔵及び寄託の古代・中世やまと絵の調査研究を実施した。

【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	絵画・彫刻室長　土屋貴裕

【主な成果】

(1) 調査の概要

本展出品予定の作品のうち、約3割80件程度が当館の所蔵もしくは寄託品である。画像等の撮影は既に実施しているものが大半のため、詳細な実物観察を行った。特に画像等では細部の表現の確認しにくい中世やまと絵系屏風を対象とし、重要文化財「浜松図屏風」(A-11533)、重要文化財「浜松図屏風」(A-12476)、重要文化財「日月山水図屏風」(A-1065)、重要文化財「月次風俗図屏風」(A-11090) の4点を取り上げた。

(2) 調査の成果

調査対象はいずれも室町時代やまと絵屏風の代表作とも呼べる作品である。一部作品には室町時代やまと絵屏風に特有の、下地全体に雲母を掃くなどの特徴があり、画像では確認しにくいこれら細部表現について知見を深めることができた。これら雲母の使用に加え、この時代のやまと絵屏風には金銀の加飾が特徴として挙げられるが、一部の黒線について、通常の墨線か黒化した銀によるものなのか判別できないものがある。これらについては目視では結論を出すことが叶わなかったが、今後蛍光X線分析など、科学的調査による分析が有効であるとの見通しを改めて確認することができた。

重要文化財「浜松図屏風」(A-12476) 調査の様子

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、借用予定作品の調査等を実施することは断念したが、館蔵の作品を詳細に調査しえたことは大きな成果である。とりわけ調査対象とした室町時代のやまと絵屏風は現存作例も少なく、本研究成果は今後の作品研究の基礎となることが期待される。本研究の成果は5年度の特別展における会場解説、図録解説等に反映する。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画に基づき、作品調査の実施、調査研究を進めることができている。館蔵品以外の室町時代やまと絵屏風の調査研究については、5年度以降、展覧会での借用時の調査を含め、さらに進めていきたい。

【書式Ｂ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1412Bｱ

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	2)特別展等の開催に伴う調査研究 ア　特別展「河内長野の霊地　観心寺と金剛寺－真言密教と南朝の遺産－」に関する調査研究 ((4)-①-2))

【事業概要】特別展「河内長野の霊地　観心寺と金剛寺―真言密教と南朝の遺産―」の実施に向けて調査研究を行い、その成果を展示、図録、会期中の講座、ホームページなどを通して公開する。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	企画室研究員　井並林太郎

【主な成果】

平成 28 年度（2016）から令和元年度（2019）の科研調査と 3 年度までの補足調査によって、展示作品の基礎調査と撮影はほぼ完了していたので、4 年度はそれらの成果をもとに、地域や寺の歴史、あるいは各分野の作品にかかわる先行研究を改めて博捜し、知見をまとめて展示のほか図録解説や講座で発表した。

たとえば、科研調査では重要文化財『遊仙窟』（天野山金剛寺蔵）の欠失部分を発見し、全体の約 95 パーセントを復元できたことについて、図録にコラム「金剛寺本『遊仙窟』断簡、発見の意義」を掲載し、100 年以上にわたる金剛寺での同書の復元経緯も記して、その意義をわかりやすく示した。この成果については、講座やウェブサイト（虎ブログなど）でも積極的に情報発信した。また、「金剛寺に伝えられた三躯の大日如来坐像」や「天野山金剛寺所有木造大黒天像の像内銘」（いずれもコラム）では、調査やその後の考察によって明らかになった彫刻作品の新知見を示し、古代中世の彫刻史・仏教美術史研究に資する情報の公開に努めた。その他、図録では巻頭論文や作品解説においても、美術史、仏教史、日本史などに関わる調査研究の幅広い成果を発信した。

また、京都市教育委員会や河内長野市教育委員会と連携し、河内長野市の高校生が京都市の中学生に本展の内容を解説する催しを企画するなど、地域間の人的交流を育む新たな教育普及活動にも取り組んだ。

なお、展覧会終了後も所蔵寺院の理解の下、展示品の一部を寄託品として預かり、万全な環境での保管を期すとともに、今後の展覧や研究にも役立てる環境を整えた。

重要文化財　鉄燈籠（観心寺蔵）
展示作業風景

【備考】展覧会会期　7 月 30 日～9 月 11 日
展覧会図録の作成　多言語による展覧会鑑賞ガイドの作成　記念講演会 5 回

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	調査の中核部分は過年度事業ではあるが、調査を踏まえて研究を熟成させ、その成果を展覧会という形で一般に還元することができた本調査研究は、文化財の保護・研究・発信を使命とする当館にとって、理想的な形で遂行できた事業であったといえる。調査で見出した作品を実際に観覧できる展示そのものや、新知見を盛り込んだ図録によって、来場者の多くに作品や寺の魅力や、文化財保護・研究の意義を、存分に発信することができた。調査を通して文化財の記録と保全を期するのはもちろんのこと、展示によって京都と歴史的に繋がりのある地域寺院の営みを通史的に明らかにしたことで、日本史・仏教史・美術史いずれの分野にも資する成果を示した本調査研究事業は、多分野の研究員を擁する当館が、その社会的使命を果たした点においてきわめて高い意義を有するものであり、A評価が妥当と考えられる。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本特別展に関する調査研究は、当館が 1980 年代より進めている「社寺調査」の一環であり、その成果発表を 10 年ぶりの自主予算による特別展である本展のようなかたちで完遂できたことは、単に学術的成果を挙げたことにとどまらず、当館がその使命の根幹である文化財の保護・調査研究・発信のいずれにおいても、その社会的責務を果たしたものとして、高く評価できる。また、当初特集展示として計画していた本展覧会を、調査研究成果の大きさを考慮して特別展へと昇格させ、1 年間に 3 回の特別展を開催したことは、中期計画では年 1～2 回程度としていた目標を大きく上回るものでもあるため、Aと評価する。

【書式Ｂ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1412Bｲ

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	2)特別展等の開催に伴う調査研究 イ　特別展「京に生きる文化　茶の湯」に関する調査研究　((4)-①-2))

【事業概要】
特別展「京に生きる文化　茶の湯」実施に向けて調査研究を実施し、その成果を展示、図録、教育普及や会期中の講演会などを通じて広く一般に公開する。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	調査・国際連携室長　降矢哲男

【主な成果】
「茶の湯」に関する調査研究は、これまで盛んに行われてきたこともあり、研究分野としては新規開拓の難しい分野であるといえるが、今回の展覧会に向けた調査研究では、「茶の湯」が京都を中心として形づくられた文化であることを示すべく、京都御所や京都の古社寺伝来品の調査を意識的に行い、次に示すような研究上の新たな知見を得た。

・京都御所に伝来した類品の調査を通して、京都の霊鑑寺に孝明天皇遺愛品として伝わる台子の小襖が、三上左近将曹によって描かれたものであることが判明した。また、台子と台子に付属する下船の組み合わせが、慶応 3 年（1867）に明治天皇の御用品として調進された京都御所伝来品と酷似しており、孝明天皇遺愛品という霊鑑寺の伝承の確からしさを確認した。
・京都の金地院が所蔵する国宝「秋景冬景山水図」に付属する書状の史料的な吟味を通して、そのうちの 1 通「三章令彰書状」が慶長 20 年のものであることを明らかにした。

なお、上記研究成果を、「南蛮毛織」と呼ばれる銅製品の産地をイラン地方とする最新の研究所見とともに、図録の特論や展示品解説に反映させた。

【備考】
・図録総論 1 本
・図録特論 2 本
・図録作品解説 245 件
・会期中図録販売冊数 8760 冊
・図録購買率 9.8%

特別展『京に生きる文化　茶の湯』図録

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	「茶の湯」に関する展覧会は、既に数多く開催されてきており、新たな研究成果を反映させて展覧会を構成することが甚だ難しいが、「茶の湯」文化形成の中心的な舞台である京都にことさら焦点を当て、調査・研究を進めたことによって、いくつかの新たな研究上の知見を得ることができた。新たな知見という研究上の成果を、展示・図録という形で速やかに公開・公表することができたためＢと評価する。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	新型コロナウイルス感染症の影響により、実地調査を進める上での困難は非常に大きかったが、各分野の研究員の努力により、展覧会や図録に新知見を盛り込むことができた。調査・研究成果を踏まえた図録の内容が評価されたこともあってか、会期中の図録販売冊数は 8760 冊、総観覧者数に対する図録の購買率 9.8%と、コロナ禍下の展覧会としては高い数値を記録することができたため、中期計画に対して一定の成果を挙げることができたと考え、Ｂと評価する。

【書式Ｂ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1412Bｳ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	2)特別展等の開催に伴う調査研究 ウ　特別展「親鸞　生涯と名宝」に関する調査研究　((4)-①-2))

【事業概要】特別展「親鸞　生涯と名宝」の実施に向けて文化財調査・研究を行い、その成果を展示・図録・会期中の講座などを通して、広く一般に公開する。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	美術室研究員　上杉智英

【主な成果】

本事業は、多くの人を魅了し、門徒数が国内最大を誇る浄土真宗の開祖、親鸞（1173～1262）の生誕 850 年にあたり、生誕の地であるとともに、臨終の地でもある京都を会場として開催する特別展に向けての調査研究である。親鸞や本願寺に関する展覧会は、遠忌毎に各所で開催されているため、これまでの展覧会と如何に差異をつけるのかが大きな課題であると考え、本調査研究を進めるにあたっては、総合性と新規性の 2 つの視点を特に意識した。

総合性では、展覧会に真宗十派より組織される真宗教団連合の特別協力が得られたことを踏まえ、十派全ての寺院からの出陳を通して、現存する親鸞の自筆自賛の名号 4 件、自筆書状 12 件の全ての展示を実現した。また、東本願寺・専修寺・西本願寺が所蔵する『教行信証』の親鸞自筆本や鎌倉時代の書写本を 3 件並べての展示も、史上初めてのことである。

作品調査・撮影風景　　東本願寺

新規性では、これまで親鸞に関連する作品とは考えられていなかった「藤原範綱消息」「門葉記」「慈鎮和尚伝」「慈鎮像」を敢えて取り上げ、新たな親鸞像の提示に努めた。とりわけ後 2 者は、館蔵品・寄託品であり、普段からの収蔵品調査・研究の成果を展示に反映させたものである。

収蔵品はもちろんのこと、各機関の協力を得て、東西本願寺・専修寺・龍谷大学図書館・大谷大学博物館・妙源寺・叡山文庫等でも調査・写真撮影を実施し、その成果を図録に反映させた。

【備考】

・出陳件数　180 件（うち国宝 11 件、重要文化財 75 件）
・展覧会会期　5 年 3 月 25 日～5 月 21 日（予定）
・展示図録の作製、多言語による解説、記念講演会 7 回（予定）、文化財からうかがえる親鸞の生涯に関する映像上映

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	総合性と新規性という 2 つの視点による作品選定により、よく知られた親鸞像を改めて紹介するだけでなく、既存の親鸞像の枠を広げるという目標を達成することができた。特に、完全な新出作品ではないものの、既に知られている作品を親鸞というフィルターで改めて調査・研究することにより、親鸞に関する歴史資料としての新たな側面を見いだしたことは、今後の親鸞研究にも少なからず寄与できたのではないかと自負している。図録も、学術的に充実した内容のものとすることができたが、本調査研究を通して得られた知見や情報を必ずしも盛り込み切れていないことと、やや書跡に偏った内容となり、工芸品の展示がほとんどないことは、展示としていささかバランスを欠いたと思われるので、この点に鑑みてＢと評価とする。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	事前調査や日常的な館蔵品・寄託品の調査を通して、多くの新知見を得ることができ、それを一程度まで展示・図録に反映させることができた。また、新規撮影により新たな画像資料も増やすことができており、中期計画を順調に遂行したと考える。

【書式Ｂ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1412Bｴ

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	2)特別展等の開催に伴う調査研究 エ　特別展「東福寺」に関する調査研究　((4)-①-2))

【事業概要】
東京国立博物館及び当館で開催する特別展「東福寺」の実施に向けた大規模な文化財調査を行い、その成果を図録等で示した。また5年度の当館開催に向けて、展示公開や教育普及等に向けての準備を実施した。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	列品管理室研究員　森道彦

【主な成果】

京都五山の一角を占める東福寺は、我が国の禅宗寺院のなかでも随一の巨大な伽藍と膨大な文化財を擁する、中世禅宗文化の殿堂である。本山及び塔頭が所蔵する国指定の美術工芸品は国宝5件、重要文化財87件に達し、未指定文化財の数も膨大で、一寺院の蔵品としては質量ともに比類ない。

東福寺を大きく特徴づけるのは、鎌倉から室町時代にかけての大勢のすぐれた留学僧の活躍や貿易への関与、またそれに伴う東アジアの国際交流をうかがわせる、巨大で大陸的な文物の数々である。東福寺派の僧たちは、大陸文化に学びながら典籍・書跡の収集や文筆活動、書画制作などに従事し、際立った個性を発揮して東福寺文化圏ともいうべき場を作り上げた。ことに絵画に関しては、日本水墨画の黎明期を支えた人物に東福寺関係者が多く、特に南北朝～室町時代に活躍した同寺の画僧明兆は、雪舟や狩野派などその後の多くの画人たちに画聖として学ばれ、絵画史上に巨大な足跡を残した。

東福寺を総合的に紹介する展覧会は、日本史や美術史など各方面で待ち望まれてきたが、長らく果たされず、今回が初めての機会となる。このたび東福寺の全面協力を得、長期間かけて本山及び有力塔頭が所蔵する美術工芸品をかなり悉皆的に調査し、写真撮影を実施してアーカイブ化した。多くの新出文化財が見出されたほか、従来よく知られる名品についても定説の変更をはじめとする新たな重要知見が少なからず得られ、その多くを図録に反映し、成果として打ち出すことができた。展覧会出品物以外にも大規模な寺宝調査・撮影を実施し、当館の中世文化に関する研究情報の著しい充実につながった。

作品調査・撮影風景　東福寺方丈

【備考】展覧会図録の作成
科学研究費「仏教儀礼的観点に基づく明兆作品の総合的研究」を活用した関連調査・撮影の実施
展覧会期：5年10月7日（土）～12月3日（日）予定
※先行して東京国立博物館で3月7日（火）に開幕済
出品件数：208件　及び　別途、特別出品2件

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	書画、彫刻、工芸品等各分野にわたって広範な事前調査を実施し、多くの新出作品や、重要作品にまつわる新知見を得て、展示計画や図録に盛り込むことができた。対象物が非常に大型で、撮影や調査が難航することも少なくなく、また見出した重要作例の全てを網羅的に紹介しきれたわけでもないが、当館にとって貴重な研究資料や写真素材を多数蓄積することができ、今後の展覧会計画に大いに生かされるものとなった。東福寺の所蔵品の特性上、近世の美麗な金碧障壁画など一般の観覧者に訴えかけやすい華やかな蔵品が全体的に少なく、訴求効果の点で必ずしも満点ではないかもしれないが、壮大な伽藍空間をはじめ場の魅力は十分に伝える展示計画となったと思われる。図録も学術的に充実した内容となっている点に鑑み、B評価としたい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	大規模な寺内調査を幾度も実施し、担当研究員による事前の作品把握を十分に行えた。写真アーカイブも非常に充実し、これらを反映して、展覧会の構成や作品選定にも議論を尽くすことが出来、日本史や美術史学界から期待を寄せられるこの主題に大いに応える内容に仕上がったといえる。 ただし東福寺は日本の中世文化を考える上で欠かせない存在であり、寺内外にはまだ未調査の重要資料や作品が少なからず眠っているものと判断されることから、5年度の展覧会終了後も継続的に調査研究を実施しつつ、当館の他の展示や研究事業に生かすなど、その成果の社会還元に努めていきたい。

【書式Ｂ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1412Cア

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	2）特別展等の開催に伴う調査研究 ア　特別展「中将姫と當麻曼荼羅」に関する調査研究((4)-①-2))

【事業概要】

本展覧会の主要出陳品となる貞享本當麻曼荼羅の作品調査を行うとともに、関連する諸作品についても調査を実施し、より深い作品理解を得る。當麻曼荼羅と中将姫に対する信仰の歴史を、関連作品の調査を通じて広い視野をもって捉えることで、作品が示す新たな文化史的価値を提示する。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	主任研究員　北澤菜月

【主な成果】

(1)調査概要

・貞享本當麻曼荼羅（當麻寺蔵）について、蛍光エックス線による顔料調査、裏彩色の調査、細部描写の調査、軸内納入品の調査などを行うとともに、詳細な分割写真を撮影した。その成果は展覧会の出陳品選定、図録の図版や総論、解説などの内容に反映された。

・展示内容に深く関わるが展示がかなわない作品である綴織當麻曼荼羅（當麻寺蔵）、裏板曼荼羅（當麻寺蔵）、文亀本當麻曼荼羅（當麻寺蔵）についても、特別展を見据えて撮影及び調査を進め、その成果は貞享本當麻曼荼羅の研究成果とともに、図録の図版、総論、解説や会場内に設置したビュアーに示した。

・當麻曼荼羅信仰と中将姫信仰に関する作品について、これまで展覧会という場では詳しく紹介されたことのなかった近世・近代の、芸能資料や引札資料などを含めた幅広い資料について調査を行い展示に活用した。

(2)展示会場・図録

・貞享本當麻曼荼羅及び、展示内容に深く関わるが展示がかなわない作品である綴織當麻曼荼羅、文亀本當麻曼荼羅の三つの曼荼羅について、国立情報学研究所の協力を得て、細部まで鑑賞・比較ができるビュアーを開発し、会場内に設置し、観覧者に分かりやすく示した。

・同様に展示がかなわない作品である裏板曼荼羅の画像を資料として図録に掲載し、より深い理解を促すようにつとめた。また、貞享本當麻曼荼羅、綴織當麻曼荼羅、文亀本當麻曼荼羅の軸内納入品文書について、翻刻を行い図録に掲載した。

【備考】

図録には論考として、総論１件、各論３件を、資料として軸内納入品文書および軸銘文の翻刻を掲載。

公開講座を次の２回行った。①「貞享本當麻曼荼羅とその周辺」（講師：北澤 菜月　奈良国立博物館学芸部主任研究員、8 月 6 日）、②「中将姫説話の展開」（講師：日沖 敦子 氏　文教大学文学部日本語日本文学科准教授、8 月 20 日）。

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	・重要文化財に指定される貞享本當麻曼荼羅（當麻寺蔵）の修理成果を十分に活用し、広くそれを公開する機会とすることができた。また貞享本を軸にすることによって、これまで詳しく展覧会として取り上げられることのなかった、近世の當麻曼荼羅信仰を紹介することができた。 ・貞享本當麻曼荼羅（重文、當麻寺蔵）に関連する重要な作品について、展示作品以外についても調査を行い、特別展でその成果を公開することができた。 ・當麻曼荼羅と中将姫の信仰を近代までを視野にいれて紹介することによって、日本における女性の信仰史という視点を含めて提示することができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	奈良の古寺古社と連携しながら調査・展示活動を進めるのは当館の基本かつ長期的な方針であり、今般の事業は平成 25 年（2013 年）に当館で開催した特別展「當麻寺」等を通じ、同寺との間に築いた良好な信頼関係のもとに行うことができた。その点で中期計画の実施状況に照らして、十分な成果を挙げたと考えられる。

【書式Ｂ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1412Cイ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	2）特別展等の開催に伴う調査研究 イ　「第７４回正倉院展」に関する調査研究((4)-①-2))

【事業概要】
特別展「第７４回正倉院展」の開催に当たり、円滑かつ安全に展覧会を遂行し、最新の成果を広く国民に周知するため、当該年度に出陳される宝物を含む宝物全般についての調査・研究、展示環境について調査・研究、観覧環境についての調査・研究、その他宝物の輸送方法など、多角的に研究を行う。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	工芸考古室　研究員　三本　周作

【主な成果】
(1) 宝物についての調査・研究
・宮内庁正倉院事務所の協力を得て、出陳宝物に関する調書を閲覧し、宝物に関する詳細な情報を収集した。
・上記で得た知見は、展覧会図録の作品解説や論考（宝物寸描）、会場での解説パネル、公開講座などに反映した。
(2) 展示環境についての調査・研究
・学芸部保存修理指導室を中心に、これまでの展覧会開催時の展示室・展示ケースの温湿度データを精査し、適切な環境下での宝物の展示を検討した。
・会期中も展示室や展示ケースの温湿度を常時監視し、必要に応じて設定変更を行うなど対処し、適切な保存環境を維持した。
・上記については宮内庁正倉院事務所との事前協議や逐次の情報共有を行った。
・会期終了後には塵埃の検査を実施した。
(3) 観覧環境についての調査・研究
・3 年度の入館実績や昨今の感染状況を踏まえて適切な入場制限のあり方を検討し、大きな混乱なく 3 年度より多くの方に鑑賞いただくことができた。また、車椅子を利用される方にも見やすい展示とするため、展示台を低くするなど種々の工夫を検討した。
(4) その他
・宝物の安全な輸送方法について、宮内庁正倉院事務所職員と検討した。
　また、実際の輸送時には奈良県警の協力による防犯の面でも安全な輸送を実施した。
・出陳宝物の魅力的な展示方法について、造作・照明業者と検討した。

【備考】
・宝物に関する内部検討会を 2 回実施した。
・新たに執筆された解説文について、学芸部職員全員が参加する研究会で検討した。
・公開講座　2 回
　髙畑　誠 氏（宮内庁正倉院事務所保存課保存科学室員）「正倉院宝物の保存―宝物を覆う―」
　三本　周作（当館学芸部工芸考古室研究員）「正倉院の仏具－奈良時代の寺院と法会の世界－」

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	・新型コロナウイルス感染症への対応が強いられる中、時間当たりの入場人数やチケット販売方法など事前に周到な検討を重ね、大きな混乱なく展覧会を運営することができた。3年度に引き続き、インターネットを通じた動画配信（読売テレビ制作映像、読売新聞社主催の講演会の模様など）も行われ、広範な広報が図られるとともに、来場が叶わなかった人にも楽しんでいただけるような取り組みも充実された。 ・宮内庁正倉院事務所が継続して実施している宝物に関する調査研究、及び当館の研究員による調査研究の成果を、会場の題箋やパネル、図録、公開講座などで発信することで、宝物研究の最前線に触れていただける場を提供することができた。 ・正倉院宝物の安全の確保が、正倉院展を開催するための大きな前提である。4年度もこれまでの実績を踏まえつつ、会場の温湿度環境などの現状を正確に把握し、また宮内庁正倉院事務所と密な連絡をとりながら、着実に安全性を確保することができた。特に4年度は、宝物の梱包方法についてより安全性の高い手法が検討され実行されたが、これらは将来の展覧会に貢献できるものである。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画においては宝物に関する調査研究とその成果の発信が重点項目となっている。中期計画の 2 年度となる 4 年度もコロナ禍の影響で来場者数制限やイベントの縮小などの制約が伴ったが、展覧会を安全な形で開催し、所期の目標を達成できたものと考える。 宮内庁正倉院事務所の協力を得て、調書の閲覧や実見調査を実施し、出陳宝物を中心とした宝物に関する情報を収集・蓄積することができた。また、この調査研究の成果については、会場での解説パネルや図録、公開講座、動画配信などを通じて広く発信することができた。特に 4 年度は解説パネルの充実に力を注ぎ、よりわかりやすい展示を実現させ、宝物に親しんでいただける場を提供することができた。上記のような観点から、当該項目の中期計画を着実に遂行できている。

【書式Ｂ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1412Cウ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	2）特別展等の開催に伴う調査研究 ウ　特別展「春日大社 若宮国宝展」に関する調査研究((4)-①-2))

【事業概要】

本展覧会の主要出陳品となる国宝・若宮古神宝類の全貌把握と作品調査を通して、平安時代の工芸技術の高さや美意識を探求する。また、約 900 年間の伝統をもつ造替事業について、春日大社に残る史料や遺品を調べ、その文化継承の歴史の重要性を認識し、先の作品調査成果と併せて展覧会の構成や解説に反映させる。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	学芸部長　吉澤悟

【主な成果】

(1)調査概要

・国宝・若宮御料古神宝類の金鶴及銀樹枝、銀鶴洲浜台及び木造彩色洲浜形などについて、3 年度より当館の CT や蛍光 X 線分析等で素材や構造分析を続けてきた。その成果を春日大社では神宝の復元新調に活用し、同時に当館では展覧会図録等に反映し、さらに展覧会場で完成した復元新調品を初公開した。

・若宮社より撤下された獅子・狛犬の調査を行い、同像が鎌倉時代に遡る優品と判明した。その調査成果を図録等に反映させ、原品を展覧会で初公開した。

(2)展示・図録の工夫

・国宝・若宮御料古神宝類の毛抜形太刀や平胡籙の原品及び復元模造品を比較検討し、展覧会ではパネル等を多く活用して、平安時代の高度な技術と煌びやかさを観覧者に分かり易く伝えた。

・春日大社の式年造替の歴史を調べ、それが単なる一神社の社殿修繕の歴史ではなく、社殿はもとより調度品や装束、祭儀や有職を含めて古制を伝える文化継承事業であったと認識、これを展覧会の本テーマに据え直し、解説等でもその意義を伝えることにした。

・式年造替やおん祭（若宮社の祭礼）の理解を深めるため、社殿から撤下された千木や日使装束（日使はおん祭における奉仕者行列の主役的立場。関白の束帯を着る）などの現物を展示に組み込んだ。

千木の展示

【備考】

図録論考　総論１、展示概説１、各論２により、展示品の調査成果を盛り込んだ
公開講座　松村和歌子（春日大社国宝殿）「王朝文化が蘇る 春日若宮古神宝とその復元」

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	・とかく社寺の「名宝展」になりがちな展覧会において、若宮社の特性や神宝の高度な技術、式年造替の意義など、新たな視点や研究成果を多く採り入れた展覧会にすることができた。 ・平安時代の名工による古神宝（国宝）原品と、近年の人間国宝の手による復元模造品を並べて展示し、平安貴族が賛嘆した煌びやかな世界を実感できるよう展示工夫を行った。これは春日大社との綿密な打合せや事前調査による成果である。 ・若宮社の獅子・狛犬など未調査作品の調査を実施し、その年代や作風などの成果を展示や図録で公表できた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	奈良の古寺古社と連携しながら調査・展示活動を進めるのは当館の基本かつ長期的な方針であり、今般の事業は良好な信頼関係のもとに完遂した点で、十分な成果を挙げたと考えられる。これは次年度以降も恒例の「おん祭展」等に引き継がれるものであり、中期計画における着実な歩みと評価できる。

【書式Ｂ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1412Dｱ

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	1)収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 ア　特別展「加耶」に関連する調査研究((4)-①-2))

【事業概要】
特別展「加耶」の実施に向けて、韓国からの借用予定作品と、国内各地からの借用資料（予定を含む）を調査した。成果は特別展「加耶」のディスプレイ、図録等における解説、リレー講座、さらに『東風西声』所載の論文において公表した。

【担当部課】	学芸部文化財課	【プロジェクト責任者】	課長　白井克也

【主な成果】
韓国からの借用作品について、当館に先立つ巡回館であった国立歴史民俗博物館において、9 月 26 日～30 日、11 月 3 日、12 月 12 日～15 日の 3 度にわたって調査した。加耶の特徴的な鉄製品である有刺利器に関する知見は、当館での展示解説に反映した。加耶各地の土器の製作技法についての知見は、新羅土器の製作技法とも比較した。
国内の借用（予定も含む）作品については、甘木市教育委員会所蔵品（7 月 4 日）、宗像市教育委員会所蔵品（10 月 14 日）、四條畷市教育委員会所蔵品（10 月 20 日）、大阪府教育委員会所蔵品（10 月 20 日）、市原市教育委員会所蔵品（11 月 2 日、11 月 28 日）、木島平村所蔵品（11 月 25 日、12 月 21 日）について調査した。
このほか、東京国立博物館では関連作品の調査（7 月 8 日）を行い、また、借用予定作品の最新の研究状況に関しても意見交換した（11 月 8 日）。
これらの調査研究成果は、当館での特別展「加耶」展示解説や図録のコラム、5 年 2 月 4 日、11 日に館員が登壇して実施したリレー講座、さらに『東風西声』所載の論文「加耶の広口壺」においても公表した。

【備考】

国立歴史民俗博物館での展示調査

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	特別展「加耶」は、加耶を取り上げた大規模な展覧会として国内では約30年ぶりであるが、さらに当館では巡回作品による第一部「加耶の興亡」に加えて、国内所蔵作品による第二部「渡来人」を追加したため、第一部、第二部の双方に関連して、作品を調査した。その結果、3～6世紀の倭（当時の日本）と加耶のかかわりを多面的にとらえ、当時の日韓交流の実態に関する新たな歴史像を提示することができた。 その成果は展覧会の構成、図録の解説やコラム、リレー講座など、さまざまな形で発信した。 以上から年度計画を達成したと判断し、Ｂ評定とした。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	本研究は 4 年度実施の特別展の事前準備のために実施した。当館は九州を中心としたアジアや世界との文化交流を重視する理念から、本研究の成果が文化交流展示の充実に資するところは大きい。当館では、最も近い外国である朝鮮半島の関連作品は、所蔵品、寄託品とも必ずしも多くなく、今後の収集、展示に活かすためにも、特別展終了後も関連研究の継続が今後の課題である。以上の成果より、中期計画を円滑に推進したと評価し、左記の評定とした。

【書式Ｂ】　施設名 文化財活用センター　処理番号 1413Hア

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	3)文化財を活用した効果的な展示や、教育活動等に関する調査研究 ア　レプリカやVR等先端技術を使った、文化財の活用についての調査・研究((4)-①-3))

【事業概要】
多くの人に文化財に親しむ機会を提供することを目的として、先端技術による文化財のレプリカやデジタルコンテンツの開発に係る調査研究、文化財の活用事例についての調査・研究を行った。それらの知見をもとにコンテンツの開発と体験型展示等を実施し、それらの実施事業を通して、効果の測定並びに人々のニーズの調査を行った。

【担当部課】	本部文化財活用センター	【プロジェクト責任者】	副センター長　丸山士郎

【主な成果】
(1)キヤノン株式会社、凸版印刷株式会社、シャープ株式会社、NHKとの連携による共同研究プロジェクトを継続して実施し、コンテンツの新規開発・改良を行った。キヤノン株式会社、シャープ株式会社、NHKと実施した研究の成果については、東京国立博物館創立150年記念特別企画「未来の博物館」として一般公開し、150,296名（1日平均3,131名）が鑑賞した。
シャープ株式会社との共同研究により制作した、8Kで文化財「みほとけ調査」は「2022年度グッドデザイン賞」（主催：公益財団法人日本デザイン振興会）を、2年度よりNHKと東京国立博物館が3年間共同研究として取り組んできた「８K文化財プロジェクト」（文化財活用センターはマネジメントを担当）が、教育コンテンツのみを対象とした国際コンクール「日本賞」においてデジタルメディア部門の最優秀賞（経済産業大臣賞）を受賞した。

東京国立博物館創立150年記念 特別企画「未来の博物館」実施風景（各コンテンツはNHK（左）、キヤノン（中央）、シャープ（右）と連携して制作）

(2)レプリカ制作やデジタルコンテンツ制作に関して優れた技術を持つ企業・機関等や、それらを使ったコンテンツの公開、活用を行っている施設の視察・インタビューを行った。
(3)機構内各施設や地域のミュージアムと連携し、レプリカやデジタル技術を活用したコンテンツ開発と体験型展示、教育プログラム、体験者へのアンケート調査を実施した。
(4)「2021年度ぶんかつアウトリーチプログラム報告書」を刊行した。
※4年度は新型コロナウイルスの影響により国外調査ができなかった。

アウトリーチプログラムの様子

【備考】
(2)主な調査先／名探偵コナンの脱出ゲーム、Inter BEE、ミラクルマイル株式会社
(3)アンケート調査実施事業／東京国立博物館創立150年記念 特別企画「未来の博物館」（10月18日～12月11日）、日本美術のとびら（6月18日・2023年1月28日に来館者調査）、デジタル法隆寺宝物館（1月31日～2月28日〔日本博アンケート〕）、8Kで文化財「ふれる・まわせる名茶碗」（愛知県陶磁美術館4月1日～3月5日）、ぶんかつアウトリーチプログラム（4年度全25回実施）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	・企業等との共同研究プロジェクトの成果を「未来の博物館」として公開し、15万人を超える来館者が体験した。また、開発したコンテンツが各種賞を受賞するなど、文化財活用の新しい可能性を示唆する活動として高い評価を得た。 ・文化財に親しむ手法の拡大を目指して、企業等の先進事例の調査・研究を行った。そこで得た知見をもとに、コロナ禍でも安全に実施可能な文化財体験、地域の活性化の核となる文化財体験を開発・提供することによって、研究成果を一般にも発信することができた。 ・地域の博物館や教育機関との連携を深め、先進事例の調査、コンテンツ開発、一般への公開・検証を合わせて行うことで、文化財活用の新たな道を拓く有意義な実施手法を構築する。また、今後はより広い範囲の地域・会場で簡便に活用してもらうためのコンテンツの一部改修なども行う。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画の2年目として、文化財の理解促進に資する展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究等の成果を新たな事業に反映させ、一般にも発信することができた点において、中期計画を順調に遂行できている。今後は、より広い地域の博物館・教育機関をはじめとする組織との連携を深めて、「未来の博物館」で好評を得たコンテンツ等を各地域において公開しやすく、地域の活性化にも貢献しうる文化財として活用できるコンテンツに改善していくために、調査・研究を深めることが課題となる。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1413Aア

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	3)文化財を活用した効果的な展示や、教育活動等に関する調査研究 ア　博物館環境デザインに関する調査研究

【事業概要】
当館における文化財の展示／観覧環境のデザインについて調査・研究し、今後の展示／観覧環境のデザイン向上を目的として実施する。

【担当部課】	企画課デザイン室	【プロジェクト責任者】	矢野賀一

【主な成果】
(1)「本館特別 1 室展示室改修」「未来の博物館（本館 T3 室・東洋館)」「本館 2 階特別 1 室テーブルケース製作設置」「博物館でアジアの旅」「本館 1 階 14 室展示ケース製作設置」「親と子のギャラリー『翼と羽』」「本館 1 階 14 室展「未来の国宝」展示デザイン」「法隆寺宝物館 M2 階改修」「博物館で初もうで」「広報展」「新収品展」「野口宇宙飛行士」の展示デザインを行った。
(2)「お正月・お花見」のポスター、「150 周年記念グラフィック」「サイネージサイン」「キャプションフォーマット」「チケット」のデザインを行った。
(3)本館 1 室解説、特別 1 室の解説パネルのサイネージ化を行った。

本館 1 階 14 室展示ケース製作設置

つたえるつなぐ博物館広報のあゆみ

【備考】
・他館のデザイン調査：国内の博物館・美術館でのデザインを調査し、特に 4 年度においては総合文化展の展示デザインのための参考とした。
調査先／大阪市中之島美術館、藤田美術館、江之浦測候所、MOA 美術館

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	年度当初の目標を達成している。国内外の美術博物館デザインの最新事例を調査した成果を、総合文化展示及び特別展への展開することが達成されている。5年度は引き続き国内外の美術博物館デザインの調査を行う。また最新の情報技術など、本館の総合文化展示や展示室のスマート化などへ展開できるよう調査研究を進める。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画の2年目として、本館特別1・2室で特集展示するため、高透過低反射合せガラスや小型LED照明器具を用いた展示ケースをデザインし、観覧環境の向上につながる改修を行った。 5年度以降は展示照明のLED化、3Dデザイン、3Dプリンターを使った展示デザイン、3Dプリンターを使った支具の製作などの調査研究及び本館展示改修のデザインを進める予定である。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1413Aイ

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	3)文化財を活用した効果的な展示や、教育活動等に関する調査研究 イ　博物館教育に関する調査研究

【事業概要】さまざまな来館者に向けて、博物館に親しみを持ち、鑑賞体験を豊かにすることを目的とした、博物館教育の理論を基盤とした調査研究と実践を行った。

【担当部課】	博物館教育課	【プロジェクト責任者】	課長　鈴木みどり

【主な成果】

(1) 3年度に引き続き、オンラインプログラムの開発と運営に関する研究と実践を行い、対面でのプログラムが困難な時期において、ワークショップ、スクールプログラムの一部、ギャラリートーク、キャンパスメンバーズ連携セミナー、ボランティア研修等で、事前視聴動画やウェビナー等を利用した同時配信を実践した。

(2) 日本文化体験プログラムとして、トーハク新時代プランに基づいた「日本文化のひろば」を引き続き実施し、外国人のみならず、日本人にとっても日本文化に改めて親しみを持てるアプローチを検討、研究し実践した。

(3) 障がい者に向けたプログラムの開発・調査研究を継続して行った。博物館教育課内に「みんなの博物館」プロジェクトを立ち上げ、室の枠を超えて、職員と客員研究員で事例研究等を通して、共通意識を持って実践に繋げた。また、ボランティアバリアフリー班の研修を行った。視覚障がい者に対しては、盲学校のためのスクールプログラムの実践や、新たに漆の技術を表した触察ツールを制作、聴覚障がい者に対しては講演会やワークショップでのUDトークやヒアリングループの使用を行い、障がいを持たない人にも理解補助になるようユニバーサルデザインを意識してコンテンツを作成した。また新たに感覚過敏の来館者を対象に「センサリーマップ」の調査研究を行い、公式ウェブサイト上に制作物の掲載と、「トーハクなび」において、新たなコースを開発し公開した。センサリーマップ研究は国内の博物館では先駆的な事例であり、シンポジウム分科会で発表したほか、他館への助言を行った。

(4) 低年齢層を含むファミリーグループへのプログラム開発と運営、調査を「月イチ！トーハクキッズデー」において12回行い、よりスムーズな運営と来館者の博物館体験の充実を図れるよう、年間を通じて改善を行った。

(5) 未就学児童から高校生までが作品鑑賞をできる仕組みを研究し、「みんなで描く記念チケット」のプログラムを行った。

(6) 高校生の博物館への親和性を高め、鑑賞教育とキャリア学習の一環となるよう「高校生の学芸員体験」を通して、研究と実践を行った。

(7) ボランティア組織のマネジメント及びボランティアの事業について、新型コロナウイルス感染予防の観点から、活動の方向性や内容に関する調査・研究を行った。これに基づき、オンラインを利用した研修や、展示室以外の作品紹介の場を設け、スライドトーク形式で行うなど、新たな方法での実践を行った。

「高校生の学芸員体験」の様子

【備考】
・150周年事業「月イチ！トーハクキッズデー」、「触察ツール」「みんなで描く記念チケット」「センサリーマップ」「高校生の学芸員体験」
・ワークショップ、スクールプログラム、講演会、「トーハク月イチ！キッズデー」、「高校生の学芸員体験」で、終了後にアンケートを実施

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	オンラインプログラムの研究を通して、遠隔からの参加やより多くの参加を可能にし、さらに対面と組み合わせて行うなど、多様なプログラムを開発することができた。 また、障がい者対応と研究の継続により、共通意識を持って実践することができた。新たな対象として加えた、感覚過敏の来館者に向けた「センサリーマップ」の研究と開発は、日本の博物館の中でも先進的なものであり、新たな来館者層への今後の取り組みにも繋がり、さらなる研究と実践が期待される。 さらに、150周年事業を通し、低年齢層やその家族、高校生、障がい者など、さまざまな来館者を対象とした調査研究と実践を行った。 以上の実績により、年度計画を達成できたと評価した。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	4年度は新型コロナウイルスにより、引き続きオンラインの良さを生かし実施したものと、対策を講じながら対面で行ったものがあったが、そうした中においても、中期計画の2年目として、より幅広い来館者に向けた鑑賞支援プログラムや、生涯学習ボランティアの活動・運営を持続可能とする調査・研究と実践を目指し、一定の成果を得た。また、150周年事業において、多角的な来館者への取り組みを行ったことが、今後の博物館教育研究と実践にさらに生かされるように努めたい。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1413Aウ

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	3)文化財を活用した効果的な展示や、教育活動等に関する調査研究 ウ　凸版印刷及び文化財活用センターと共同で実施するミュージアムシアターにおけるコンテンツの開発に関する調査研究

【事業概要】
文化財のデジタルアーカイブを活用した、文化財の新たな公開・鑑賞手法を、凸版印刷株式会社と共同で研究する。

【担当部課】	学芸企画部博物館情報課	【プロジェクト責任者】	博物館情報課長　村田良二

【主な成果】
・「東博のミイラ　デジタル解剖室へようこそ」を 4 月 1 日～7 月 24 日に公開した。
・企画課特別展室長・猪熊兼樹が監修し、改編したコンテンツ「故宮 VR 紫禁城・天子の宮殿　TNM & TOPPAN ミュージアムシアター編」を、関連する特別デジタル展「故宮の世界」の会期を含む 7 月 26 日～10 月 16 日に公開した。
・企画課特別展室研究員・高橋真作が監修した新作コンテンツ「雪舟 ―山水画を巡る―」を製作し、雪舟筆の国宝が出品された東京国立博物館創立 150 年記念 特別展「国宝 東京国立博物館のすべて」の会期を含む 10 月 19 日～12 月 25 日に公開した。
・「鳥獣戯画　超入門！」を 5 年 1 月 2 日～3 月 3 日に公開した。
・「雪舟 ―山水画を巡る―」を 5 年 3 月 8 日より公開した。

【備考】

雪舟筆「四季山水図」撮影の様子

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	既存のコンテンツの再演とともに、特別展と連動した改編コンテンツおよび新作コンテンツ各1作品を公開することができ、文化財のデジタルアーカイブ蓄積の有用性を再確認できた。 また、「東博のミイラ　デジタル解剖室へようこそ」は6,758人（定員充足率16.2%）、「故宮VR 紫禁城・天子の宮殿　TNM & TOPPAN ミュージアムシアター編」は13,211人（定員充足率16.2%）、「雪舟 ―山水画を巡る―」は6,834人（定員充足率39.7%）、「鳥獣戯画　超入門！」は7,060人（定員充足率29.9%）の来場者があり、デジタルデータを活用した新たな鑑賞手法の有用性が立証された。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画の 2 年目として、新たなデータ取得手法の確立を含め、デジタルアーカイブのデータ取得に関する調査研究を行い、新規データの取得による新作コンテンツを開発し、集客力のあるコンテンツの継続的な公開を行い、中期計画を遂行できている。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1413Aｴ

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	3)文化財を活用した効果的な展示や、教育活動等に関する調査研究 エ　ICT を利用した博物館見学ガイドの開発に関する調査研究

【事業概要】

来館者の鑑賞体験を深めることを目的とした日英中韓 4 言語による鑑賞支援アプリ「トーハクなび」及び児童生徒のための鑑賞ガイドアプリ「学校版　トーハクなび」を、より利便性あげて運用するとともに、「トーハクなび」のユーザー動向解析によりより豊かな鑑賞体験の創造に関する調査研究を行った。また、通常の総合文化展に加え、特別展「国宝　東京国立博物館のすべて」における試行と動向解析や、新たに「休息コース」の設定を行った。

併せて、オンラインで提供する「おうちでギャラリートーク」を QR コードの利用で、より気軽にアクセスできるよう運用した。

【担当部課】	学芸企画部博物館教育課	【プロジェクト責任者】	博物館教育課長　鈴木みどり

【主な成果】

(1)鑑賞ガイドアプリ「トーハクなび」（日英中韓 4 言語対応）を継続し運用するとともに、より利用者にわかりやすく使いやすい形を追究し、改善を図った。

(2)当館公式ウェブサイト、国立博物館所蔵品統合検索システムColBase、ProtoDBと連携し、最新の展示情報や作品解説が常に更新される仕組みについて、引き続きシステムや表現など細部の調整を行った。

(3)来館者の操作が最小限にかつスムーズに行えるよう、引き続き展示室内に設置したビーコンの位置の見直しや増設を行い、作品鑑賞につなげた。

(4)ウェブサイト上に公開した感覚過敏の来館者のための「センサリーマップ」に関連して、「トーハクなび」上に「休息スポット」を新たに開発のうえ設定し、「トーハクなび」の新たな来館者層への使用法の提案を行った。

(5)特別展「国宝　東京国立博物館のすべて」において、特別展解説のためのプログラムの試行を行った。

(6)継続して「トーハクなび」のユーザーログを集積し、総合文化展に加え、特別展「国宝　東京国立博物館のすべて」における観覧者動向を分析した。

(7)学校団体で来館する児童・生徒を対象としたスクールプログラムの一環として開発したタブレット端末によるアプリ「学校版トーハクなび」をより利用者にわかりやすく使いやすい形を追究し、改善を図るとともに、端末貸出しと運用を行った。また、「トーハク月イチ！キッズデー」では低年齢層を含むファミリーグループなど、個人来館者にも貸出しを行い、活用の機会を広めた。

(8)ICT を利用した博物館ガイドについて、他館への情報提供や意見交換を行った。

(9) 「トーハク月イチ！キッズデー」（毎月第 4 日曜日）に際し、オンラインで提供する「おうちでギャラリートーク」の QR コードを平成館や本館のラウンジ、キッズスペースなどに設置し、より気軽にアクセスできるよう取り組みを行った。

特別展「国宝　東京国立博物館のすべて」
トーハクなび試行画面

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	「トーハクなび」アプリと「学校版　トーハクなび」を、より利便性の高い形を追究し、プログラムの修正やビーコン位置の増設などを重ねて、改善することができた。また、新たに感覚過敏の来館者にも活用いただけるよう、ウェブサイトの「センサリーマップ」とともに利用できるよう、「トーハクなび」に「休息スポット」の新たなコース開発を行った。さらに、特別展「国宝　東京国立博物館のすべて」に応用して「トーハクなび」で視聴できるよう試行を行い、特別展において日本語に加え、外国語での鑑賞支援と情報提供の機会を作ることができた。 「トーハクなび」ユーザーの動向については、引き続きデータを集積し、分析することができた。また「トーハクなび」以外のオンラインを利用した動画のアクセシビリティを検討し、利用しやすくできた。 以上の実績により、年度計画を達成できたと評価する。今後は、さらに利用者のニーズに応じたICTの利便性を高め、来館者の博物館体験の充実につなげたい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画の2年目として、アプリの利便性を高め、より利用しやすくなるように改善するとともに、新しいコースや特別展での使用など、プログラムの開発を実現することができた。また、展示室内のビーコンからログデータを集積することで、ユーザー動向を分析することができた。学校団体の来館者の「学校版　トーハクなび」の本格的運用や、トーハクキッズデーにおける低年齢層を含むファミリーグループへの提供も行うことができた。 引き続きアプリの改善点の検討や要求に応じたアップデートを心掛け、さまざまな対象に対して、快適な観覧機会の提供に資するよう努めたい。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1413Aオ

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	3)文化財を活用した効果的な展示や、教育活動等に関する調査研究 オ　レプリカや VR 等先端技術を使った、文化財の活用についての調査・研究

【事業概要】収蔵品に関して、先端技術を用いた文化財のレプリカや高精細画像、映像を使用したデジタルコンテンツを開発し、その文化財の活用手法についての調査・研究を行った。本調査・研究を通じて得られた成果を、今後の展示活動に活かす。

【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	調査研究課長　松嶋雅人

【主な成果】

(1) 2 年 9 月 25 日に開始した NHK との共同研究「みんなの 8K 文化財」プロジェクトにおいて、8K 技術を用いて、これまでにない文化財の鑑賞方法を開発する調査・研究の一環として、4 年度には「樫鳥糸肩赤威胴丸」「能面 小面（天下一河内印)」「能面　伝山姥」の 8K 文化財を制作した。

(2) (1) の研究成果である 8K 文化財の一部を 10～12 月に開催された特別企画「未来の博物館」で公開した。また、「未来の博物館」ではキヤノン株式会社、シャープ株式会社との共同研究により制作した複製品や 8K コンテンツも開発し、公開した。(特別企画「未来の博物館」内〈時空をこえる 8K〉〈四季をめぐる高精細複製屏風〉〈夢をかなえる 8K〉)

(3)「日本美術のとびら」を継続開室（4 月 1 日～8 月 31 日、5 年 1 月 2 日～3 月 31 日、本館特別 3 室)。

※「未来の博物館」会期を除く。5 年 1 月 2 日～3 月 12 日は「四季」として「未来の博物館」〈四季をめぐる高精細複製屏風〉で公開した展示内容で再開室。

8K 文化財の成果を体験型展示に展開
未来の博物館　第 1 会場〈時空をこえる 8K〉

高精細画像を用いたレプリカの展示
未来の博物館　第 2 会場〈四季をめぐる高精細複製屏風〉

【備考】

(1)共同研究の成果として、以下の番組が放送された。
・「見たことのない文化財～秘仏　救世観音～」（4月5日・BS8K放送）
・「沼にハマってきいてみた」（9月27日・NHK　Eテレ）
・「鑑賞法は無限大！未来の博物館へようこそ」（10月29日・NHK総合）

(2) 事業の開催期間と会場は以下の通り。
・「未来の博物館」（10月18日～12月11日、〈時空をこえる8K〉本館特別5室、〈四季をめぐる高精細複製屏風〉特別3室、〈夢をかなえる8K〉東洋館エントランス）

(3)共同研究の成果として、3年収録の「救世観音像のデジタル調査会」がDAPCON産業賞において技術賞を、日本賞2022において、8K文化財プロジェクトがデジタルメディア部門最優秀賞（経済産業大臣賞）を受賞した。

(4)国際公共放送会議（PBI）東京大会において未来の博物館内覧実施（11月16日）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	本調査・研究は文化財の鑑賞法や活用法への新たなモデルとなり、今後の文化財の展示並びに普及活動を考える上で、ますます重要な意味を持つこととなった。文化財の原品には保存上の制約がある中で、こうした活用法は館内外において、さらなる展開が求められるものである。4年度は放送番組や、新たな手法による展示機会を得たことで、今後の調査研究の多様性とともに、発展性を期待できるものとなった。4年度の成果をもとに、5年度以降も、新たな文化財の活用方法を考究していきたい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画の 2 年目として、教育普及活動等に関する調査研究を実施し、文化財の理解促進に資する展示活動や番組の放送等により、広く一般への研究成果の発信に努めた。したがって、中期計画を順調に遂行できていると評価した。今後は、さらに先進技術を用いた展示手法、方法論の検討を深めていきたい。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1413Aカ

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	3)文化財を活用した効果的な展示や、教育活動等に関する調査研究 カ　博物館広報・国際交流活動に関する調査研究

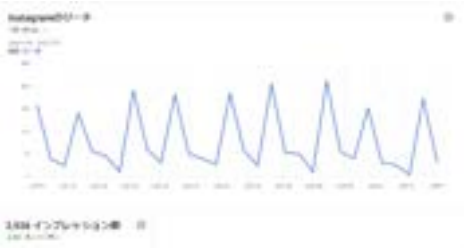
【事業概要】当館の広報活動の充実と効果的な実施及び国際交流活動を推進するため、博物館における広報及び国際交流活動について調査・研究する。
4 年度は広報活動については、創立 150 周年にあたりこれまで当館で行ってきた広報活動の歴史を振り返り、特集展示を開催する。国際交流活動については、日本・アジア美術に関する用語の当館としての英訳の標準を示すガイドブックを出版・公開する。また、外国人向けの多言語による SNS の発信内容について継続的に検証する。

【担当部課】	学芸研究部広報室、同部企画課 国際交流室	【プロジェクト責任者】	学芸研究部上席研究員兼広報室長 鬼頭智美、国際交流室長　楊鋭

【主な成果】
（1）主な内容
-1　博物館広報：広報の歴史をテーマに特集展示を開催。またウェブサイトの利用状況の調査分析を行った。
特集タイトル「つたえる、つなぐ―博物館広報のあゆみ―」　9 月 27 日～11 月 6 日　平成館企画展示室
-2　国際交流：当館の標準英訳語を示すガイドブックを出版、国際交流と多言語対応事業、SNS 発信の検証
（2）内容の詳細
-1　・1872 年の創立年を起点とし、戦後を中心に当館の広報活動の流れを検証、特別展のポスターや館案内パンフレットなどを展示するとともに、展示概要を紹介するリーフレットを制作し、研究成果の普及に努めた。
・特集で公開した過去の特別展ポスターの画像データをアーカイブ化し、当館公式ウェブサイト上で公開した。
・月例講演会（10 月 1 日、平成館大講堂）及び 1089 ブログにおいて本事業の成果を発信した。
・ウェブサイトのアクセス数と増減の傾向を記録・分析し効果的な情報発信のタイミングを検討・実施した。
-2　・当館の総合文化展等で使用した日本・アジア美術に関する用語を抽出、当館としての標準英訳語を示した。
・3 年度からスタートした英語、中国語、韓国語による SNS（Twitter、Instagram、Facebook）投稿のアクセス数、ユーザー年齢層と所在地域などデータを分析し、発信内容の充実と改善を図った。
・国立博物館 4 館の多言語対応担当者による国際交流と多言語対応の進め方について意見交換会を当館において開催した。

広報特集展示

翻訳ガイドブック


英語版インスタグラムのリーチ（11 月）

【備考】
意見交換会：　12 月 6 日開催

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	博物館広報については、創立150年の記念の年にあたり、これまであまり紹介されてこなかった当館の普及・広報活動について網羅的に調査し、特集展示という形でまとめて一般に公開することができた。またその展示のためにこれまで物理的に収集・保管していた特別展のポスターを調査・整理し、アーカイブ化してウェブサイトで広く一般に公開できた。ウェブサイトは継続して利用状況を調査、効果的発信に繋げた。 国際交流については、近年蓄積してきた文化財関連用語の英訳語について、当館として標準の訳例をまとめたガイドブックを出版、ウェブサイト上で公開することで、日本・アジア美術の翻訳のガイドラインを示すことができた。また、多言語による SNS 投稿内容の検証と改善により、フォロワー数の増加に繋げることもできた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	創立 150 年という節目の年に合わせ、普及・広報活動の研究成果を展示やアーカイブという形で披露できた。5 年度以降、新しい広報活動を模索する上で指針となるよう調査研究を進めていきたい。現在「ウィズコロナ」の生活形態が模索され、海外からの来館者も戻りつつある。4 年度は国外へ向けての発信力を高めるべく、中期計画にのっとり国際交流の具体的施策展開に向けて準備を整えることができた。外国人来館者への施策を積極的かつ効果的に実施するよう中期計画を今後も推進する。

【書式Ｂ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1413Bア

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	3)文化財を活用した効果的な展示や、教育活動等に関連する調査研究 ア　博物館教育及びボランティアに関する調査研究　((4)-①-3))

【事業概要】
文化財を活用した効果的な展示や、博物館における教育活動の充実を目指して、4 年度は「学校教育との連携」、「感染症対策と博物館教育の両立」の 2 つをテーマに調査・研究を進めるとともに、これまでの調査・研究成果を展示・シンポジウム等に反映させた。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	教育室主任研究員　水谷亜希

【主な成果】
1)「学校教育との連携」に関する調査・研究
・文化財ソムリエ 21 人の育成にかかるスクーリング（21 回）、「文化財に親しむ授業」（7 回・501 人）、職場体験の受け入れ（1 回・2 人）に際して、参加者のアンケート調査を行い、今後の博物館教育の在り方について考えるべく、その分析を行った。
・「記者体験 in 京都国立博物館」（1 回・60 人）に際して、河内長野市の高校生（レクチャー）と京都市の中学生（取材）という異なる自治体の生徒間の交流をはかる試みを実験的に行った。
・教員による複製を活用した授業（3 校・生徒のべ約 500 人）の支援、「社会科教員のための向上講座」（1 回・34 人）の実施に際して、今後の事業の在り方について考えるべく、教員からの聞き取り調査と意見交換を行った。
・「文化庁 令和 4 年度 Innovate MUSEUM 事業」の助成（2,361 千円）を受け、「誰もが楽しめる鑑賞の授業（多様な見え方・感じ方）」をテーマとして、他施設の実態調査（7 件）、小中学校の教員向けの小冊子「授業で使える！日本の絵画 鑑賞のヒント」（1,000 部）の発行を行った。
2)「感染症対策と博物館教育の両立」に関する調査・研究
・他館の教育活動に関する感染症対策について調査（10 件）し、5 年度に予定している京博ナビゲーターの再開に備えた。
3)調査・研究成果の講評・反映
・これまでの調査・研究成果を踏まえて、入門的な特集展示「新春特集展示　卯づくし―干支を愛でる―」（5 年 1 月 2 日～1 月 29 日）を企画し、展示に関連するワークシート「うさぎうさぎ、なにといっしょ？」（日英 11,000 部・中韓 3,000 部）を発行した。
・これまでの調査・研究成果を踏まえて、国際シンポジウム「アジアの博物館教育は、いま―国立博物館の事例から―」を企画し、登壇して研究報告をすると共に、海外に向けての情報発信に努めた。

【備考】
・本研究を踏まえた事業の実績については、処理番号 1311B、1312B も参照。

京博ナビゲーター
募集チラシ

「授業で使える！日本の
絵画 鑑賞のヒント」

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	学校教育との連携に関しては、「文化庁 令和4年度Innovate MUSEUM事業」に採用され、館の教育事業全体に還元できる情報の意識的収集に努めたほか、教員に向けた小冊子の発行を行った。また、新型コロナウイルスの影響は引き続き大きかったものの、異なる自治体に属する生徒間の交流や職場体験の受け入れなど新たな事業を展開することができた。さらに、入門的な新春特別展示や国際シンポジウムに調査・研究成果を反映させ、海外、特にこれまで注目度が低かったアジア地域の博物館教育担当者との交流を推進し、世界に向けた情報の発信を行うことができたためＡと評価する。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	新型コロナウイルスの影響で、3 年度に続いて館内でのボランティア活動（京博ナビゲーター）は休止せざるをえなかったが、鑑賞ガイドやワークシートの作成、オンラインコンテンツの充実を通して、一定の代替措置を講ずることができた。また、これまでの調査・研究活動を特集展示や国際シンポジウムでの研究発表に繋げるなど、館内ボランティア活動の休止を補うに足る事業展開ができた。さらに、5 年度での京博ナビゲーター活動再開の見通しもつきつつあるためＢと評価する。

【書式Ｂ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1413Cア

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	3）文化財を活用した効果的な展示や、教育活動等に関する調査研究 ア　歴史、伝統文化の教育普及に資するための調査研究（(4)-①-3)）

【事業概要】
奈良を中心とした寺社の歴史や伝統文化に関連する教育普及コンテンツやプログラムをつくり、学習の機会を提供するとともに、対面型・オンライン型いずれの教育活動も展開し、多様な形で地域学習の拡充を図る。

【担当部課】	教育室	【プロジェクト責任者】	教育室長　谷口耕生

【主な成果】

・学校プログラム「ならはく『世界遺産学習』」を小・中学校や高校等の学校団体を対象に実施した（30 校、2,318 人）。事前学習キットを各学校に提供するほか、来館した際にはワークシートを用いる形で仏像を見学してもらい、それをボランティアがサポートする等、児童・生徒が楽しくかつ主体的に作品を見て学べる方法の実践を重ねた。

ボランティアによるワークショップ実施風景

・大分県や奈良市と連携し、学校団体を対象としたオンライン中継授業を計 18 回、574 人を対象に実施した。各学校の教室とならぶ像館をオンラインでつなぎ、ボランティアが仏像について解説した。児童・生徒達の仏像に対する興味・関心を喚起させるために、案内の際にボランティアが仏像に扮するほか、仏像に関するクイズを出題する等、様々な工夫を取り入れた。また、この取組の一層の拡充を図るために、複数の小学校（奈良市立鼓阪北小学校と大分県国東市立国見小学校）と複数の博物館（当館と大分県立歴史博物館）をオンラインでつなぎ、相互の地域の歴史や文化財等について学びあうプログラムを 1 月 30 日に実施した（計 2 回、43 人を対象に実施）。

・地下回廊の一角に新たに設けたワークショップスペースにて、ボランティアによるワークショップの実施を開始した。11 月よりワークショップの実施を開始し、計 12 回行った。仏像のレプリカを活用したワークショップでは、体験参加者の反応等を確認しながら、実施方法の改良を重ねた。

・奈良教育大学と連携し、7 月 16 日から 8 月 28 日にかけて開催した子ども向けの展覧会わくわくびじゅつギャラリー「はっけん！ほとけさまのかたち」の関連ワークショップ動画「なりきり！ほとけさまのかたち 十一面観音菩薩編」と「なりきり！ほとけさまのかたち 文殊菩薩編」を制作した。各編につき 2 本の動画を制作し、公式ウェブサイト上で公開した。この動画を制作するにあたり、動画を見た子ども達の工作を通して仏像の様々な形について学びを深める方法とその効果について検証した。

【備考】
・地下回廊のワークショップスペースにおけるワークショップ
実施回数：12 回、見学者数：1,045 人、体験参加者数：284 人

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	4年度は、対面型・オンライン型など、多様な形で学習の機会を提供することができた。学校プログラムを来館する学校団体30校を対象に実施したほか、博物館と各学校をオンラインでつなぎ、遠隔地より展示を見学してもらう等、主に学校団体を対象とした地域学習の強化を図ることができた。そのほか、文化財のレプリカを活用したワークショップを幅広い層に向けて実施する等、歴史や伝統文化、文化財等に対する興味・関心の醸成を図ることができたのも成果といえる。よって、年度計画を着実に遂行できている。5年度は、教育普及事業の更なる拡充を目指す。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	奈良市等の行政機関や奈良教育大学等の大学との連携、地域の担い手であるボランティアと協働で様々な事業や活動を展開することができた。よって、中期計画を無事に遂行できているといえる。今後はより一層、様々な機関や団体等との連携を強化し、奈良の歴史や伝統文化を次世代に継承するために、若年層へのアプローチを図る。まずは文化財や歴史をより身近に感じることができるプログラムを展開することにより、それらに対する興味・関心の醸成することを目指す。

【書式Ｂ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1413Cイ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	3）文化財を活用した効果的な展示や、教育活動等に関する調査研究 イ　わくわくびじゅつギャラリー「はっけん！ほとけさまのかたち」における教育普及プログラムの実践（(4)-①-3)）

【事業概要】
7 月 16 日から 8 月 28 日にかけて、東新館にて子ども向けの展覧会わくわくびじゅつギャラリー「はっけん！ほとけさまのかたち」を開催し、その中で様々な教育普及プログラムを実践し、各効果について検証した。

【担当部課】	教育室	【プロジェクト責任者】	教育室研究員　翁みほり

【主な成果】
7 月 16 日から 8 月 28 日にかけて、東新館にて子ども向けの展覧会わくわくびじゅつギャラリー「はっけん！ほとけさまのかたち」を開催した。仏像の主な 4 つのグループ「如来」「菩薩」「明王」「天」のそれぞれの形の特徴と、その見分け方を子ども向けにわかりやすく紹介する展覧会で、子どもが仏像等の文化財に親しめることを目的に、以下の様々な教育普及事業を実践した。

作品と題箋の展示風景

・作品解説や展示パネルは子ども向けに平易にするとともに、仏像や当館公式キャラクター「ざんまいず」のイラストを多用した。
・会期中の開館日毎日 2 回、会場内中央に設けたワークショップスペースにて、ワークショップ「ほとけさまに服を着せよう！」を開催した。これはぶんかつの協力により作成した裸の姿の仏像のレプリカに服を着せる内容のワークショップで、如来の仏像がどのように服を着ているのかを学んでもらうことを目的に実施したものである。ボランティアが着つけの実演を行った後に、希望者が実際に仏像のレプリカに服を着せる体験をし、体験が完了した後には仏像のレプリカとともに記念撮影ができるという構成で実施した。見学者数は 2,709 人、体験参加者数は 502 名に上り、子どものみならず、大人が体験を希望する事例も多かったことから、幅広い層に楽しんでもらえるプログラムであることが確認できた。
・展示作品を目の前にスケッチできる体験型要素も取り入れ、さらに来場者が描いた絵を掲示できるおえかきギャラリー「みんなが描くほとけさまのかたち」をワークショップスペースに設けた。絵の掲示枚数は 1,371 枚となった。
・クイズ形式のワークシート「クイズではっけん！ほとけさまのハテナ」を会場入口にて配布した。クイズ参加者数は 15,182 人で、入場者のうちクイズ参加率は 41.4%にも上った。クイズ参加者には、景品として特製シールを配布したことにより、ワークシートの利用率が想定を大きく上回る結果となった。

【備考】
本展では、会場出入口付近に設置した通常のアンケートに加え、子ども向けのアンケート調査を行い、合計で 2,232 件回収できた（来場者数に対し回収率 6.1%）。そのうち、通常のアンケートは 1,471 枚で、本展の満足度についての設問に対する回答は 754 件あった。その回答の内訳について、「期待以上」は 609 件、「期待通り」は 138 件、「期待していたものとはちがった」は 7 件だった。「期待以上」と回答した率は 80.8%、「期待以上」と「期待通り」の回答を合わせた率は 99.1%にも上ったことから、本展に対する満足度は非常に高かったといえる。
また、子ども向けアンケートは 761 枚回収できたが、子どもの満足度を詳細に確かめるため、調査途中より、展覧会の満足度を 100 点満点での点数でたずねる設問項目を追加したところ 557 件の回答があり、満足度の平均点数は 95.1 点だった。さらに、100 点満点もしくは 100 点以上と回答した件数は 388 件で、その率は 69.7%にも上った。

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本事業では、子ども向けの新たな教育普及プログラムを実践したが、主要な対象である子どものみならず、大人からの反響も大きい結果となった。当館における展覧会アンケートの回収率は3年度実績では1%未満であることが多いのに対し、本展のアンケート回収率は6.1%にも上った。本展の満足度についても、「期待以上」もしくは「期待通り」と回答した率は99.1%にも上り、非常に満足度が高いことがわかった。この事業の効果並びに発展性が感じられることから年度計画を遂行できており、A評価とした。今後も継続的に幅広い層が文化財に親しみをもてるようなプログラムを継続的に開発・実践していく。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	アンケート調査により、本展に対する子どもの満足度が100点満点中で平均95.1点にも上った結果に加えて、557件の回答のうち100点満点もしくは100点以上との回答があった件数が388件あり、その率は69.7%にも上ったことから、主な対象である子どもの満足度は予想を上回り、非常に高い数値となった。そのため、中期計画を順調に遂行できていると評価できる。今後はより多様な方法で教育普及プログラムを展開し、どんな層に効果があるのか、またどのような形・方法で実施すればより高い効果を生み出せるのかを確認しながら都度改善するという調査・研究を継続していく。

【書式Ｂ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1413Dｱ

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	3)　文化財を活用した効果的な展示や、教育活動に関する調査研究 ア　展示のテーマに則した解説パネル・冊子・ワークショップ等、観覧者の理解促進のための教育普及プログラムに関する調査研究((4)-①-3))

【事業概要】
展示をより分かりやすくするための教育普及活動を実施している。4 年度は弥生時代の棺である甕棺のレプリカを活用したワークショップを行った。また、それに伴い、副葬品も制作した。

【担当部課】	学芸部企画課	【プロジェクト責任者】	主任研究員　西島亜木子

【主な成果】

弥生時代の「甕棺」に関する 2 種類のワークショップを行った。本ワークショップは平成 27 年度から令和元年度まで実施した「きゅーはく女子考古部」の部員や来館者の「甕棺に入ってみたい」という声に応えて企画した。甕棺レプリカの展示だけではなく、実際に甕棺に入るという体験を提供した独創的な企画である。寸劇に参加しながら学ぶワークショップは、過去の特別展で採用した手法を発展させた。いずれも 3 年度に制作した文化交流展示室に展示中の甕棺模型と同じ伊都国（福岡・糸島市）の王墓模型を活用した。

・「甕棺墓埋葬体験ワークショップ 甕棺に入ろう」では、弥生時代の王の衣装を着用し、みずらを付けて副葬品のレプリカと共に甕棺の中に入る体験を提供した。甕棺の中でどのような体勢で埋葬されたかなど、体験を通して学べるワークショップである。（参加者：25 人）
・「甕棺墓埋葬体験ワークショップ 伊都国王のお葬式」は、王が亡くなってから甕棺に埋葬され、地中に埋められるまでの流れを、寸劇に参加しながら学ぶワークショップである。甕棺についての説明や分布など解説も加えた。参加者は、貫頭衣を着用し王の埋葬を手伝う役を担い、セリフを発するものではなく、子どもから大人まで誰でも参加が可能である。（参加者：20 人）
・上記ワークショップを実施するにあたり、伊都国王墓の副葬品 56 点を制作した。体験を通して臨場感を高め、作品解説を加えて理解を深めた結果、参加者全員から非常に高い満足度を得た。

「甕棺墓埋葬体験ワークショップ 甕棺に入ろう」

「甕棺墓埋葬体験ワークショップ　伊都国王のお葬式」

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	本ワークショップでは、甕棺に入ったり、副葬品に触れ衣装を着用したりなど、体全体を使った体験を提供した。この手法は、幅広い年齢層や視覚障がい者や、外国人などを対象としても可能で、応用性、多様性、発展性に富む。この独創的な取り組みにより、年度計画を達成したと評価でき、Ｂ評定とした。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	4年度は甕棺を使った新しいワークショップで、参加者の満足度は非常に高かった。寸劇という手法は年齢層に関係なく誰にでも理解できるもので、非常に高い満足度を得た。以上から、中期計画の展示に関する教育普及について順調に遂行したと評価し、左記の評定とした。

【書式Ｂ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1413Dｲ

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	3)　文化財を活用した効果的な展示や、教育活動に関する調査研究 イ　文化交流展示室における障がい者向け展示解説プログラムに関する調査研究((4)-①-3))

【事業概要】
当館では多様な方が博物館の楽しさを享受できるよう、元年度より多岐にわたる取り組みを行ってきた。
4 年度は、視覚・聴覚に障がいがある当事者の意見を取り入れたコンテンツの活用や新たなワークショップを実施することにより、包括的な施設としての博物館を目指す。

【担当部課】	展示課 学芸部企画課 交流課	【プロジェクト責任者】	課長　齋部麻矢 主任研究員　加藤小夜子 主任研究員　西島亜木子 主任研究員　今井涼子

【主な成果】
(1)文化交流展示室 第 7 室「ならべてわかる本物のひみつ～実物とレプリカ 2022～」
・来館する前に作品数や順路を把握したいとの要望から、視覚障がい者団体には立体プリンターで作成した配布型の触知図、白黒反転の作品配置図を送付した。また関連イベントとして、当館ボランティアの協力を得て、手話通訳付きミュージアムトークを行った。(8 月 27 日に 2 回実施。参加者：1 回目 16 人、2 回目 34 人)
・2、3 年度で最も要望が多かった音声での解説を、ナビレンスタグによりすべての作品につけることができた。点字を使用しない視覚障がい者への情報保障とした。
(2)手話通訳付きバックヤードツアー
・手話通訳と要約字幕を付けたオンラインバックヤードツアーを 5 年 3 月 4 日に実施した。
(3)「みんな de きゅーはくを楽しもう‼　模型 de 博物館たんけん隊」
・当館の建築模型を使い、文化財を守るための建物の工夫を文化交流展示室内で紹介した。ボランティアの協力を得て手話通訳と要約字幕を付け、参加者は建築模型に触れて博物館への興味関心と文化財保護への理解を深めた。(11 月 20 日 参加者：午前 16 人、午後 20 人)
(4)「みんな de きゅーはくを楽しもう‼　視覚障がい者向けバックヤードツアー」
・視覚障がい者を対象に、バックヤードツアーを実施した。通常のバックヤードツアーでは触る体験が含まれないが、視覚障がい者からの要望に対応し、当館の建築模型、収蔵庫の壁面模型、免震装置の模型と実物の免震装置、大型エレベーター、トラックヤードのシャッターなど、触れる体験を重視した内容とした。参加者からは非常に高い満足度を得た。(11 月 27 日実施。参加者：25 人、内訳：当事者 13 人、同伴者 12 人)
(5)「みんな de きゅーはくを楽しもう‼　視覚障がい者向けレプリカ＆楽器体験」
・視覚障がい者を対象に、ハンズオン資料を活用したレプリカと楽器体験のワークショップを実施した。作品担当研究員や外部指導者の協力のもとに、触察をしながら作品解説を聞く体験を行い、質の高い内容を参加者に提供することができた。(11 月 27 日実施。参加者：16 人、内訳：当事者 7 人、同伴者 9 人)
(6)視覚障がい者と観覧する対話型鑑賞ツアー
視覚障がい者と晴眼者が対話しながら作品を鑑賞するワークショップを①特別展「ポンペイ」、②文化交流展示「ならべてわかる本物のひみつ～実物とレプリカ 2022～」で行った。当館では初の試みで、通常の解説以上に分かり易いと参加者から非常に高い満足度を得た。(①11 月 10 日・11 日実施。参加者:12 人)(②9 月 3 日実施。参加者:12 人)
(7)視覚障がい者に音声解説を提供するスマートフォンアプリ「ナビレンス」を開始した。作品解説や経路案内も可能で、展示室をはじめ館内外各所に専用タグを設置し、パネルによる周知で活用を図った。5 年度からは動画による解説も追加する予定で、手話通訳による解説動画約 30 件を制作し、5 年度以降も随時解説動画の制作を進める。

視覚障がい者と晴眼者が作品について対話しながら鑑賞するツアー

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	新型コロナウイルスに関する規制が緩和され、障がい者団体の来館やイベントが徐々に再開した4年度は、これまでのヒアリングや作製したコンテンツを生かすことができた。より充実した取り組みを行うことができ、来館者の満足度も高く、年度計画を達成したと評価してＢ評定とした。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	これまでの蓄積や新たな試みの検証を活かし、4年度は、展示、ワークショップ、バックヤードツアーを計画的に展開した。研究員のみならず全職員が社会包摂を意識した取り組みや検証を行い、視覚、聴覚以外の障がい者にも対応した内容に高めていくことが今後の課題である。以上の成果から、中期計画を円滑に遂行したと評価し、Ｂ評定とした。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1421Aア

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	1)有形文化財の保存環境・保存修復並びに科学技術を活用した分析等に関する調査研究 ア　博物館の環境保存に関する調査研究

【事業概要】当館による文化財の活用に伴い保全の必要性が生じる、収蔵環境、展示環境、輸送環境について調査研究し、今後の環境の向上を目的として実施する事業。

【担当部課】	学芸研究部保存修復課	【プロジェクト責任者】	保存修復課長　和田浩

【主な成果】

1）輸送環境に関する調査研究成果

文化財輸送時に生じる振動の影響を検証するため、レプリカを用いた加振試験を実施し、その結果から振動応答特性を推定する手法に関しての成果を論文で発表した。文化財の梱包に頻繁に用いられる綿の衝撃吸収特性を落下衝撃試験によって調査した結果を検証し、学会で発表した。ハンドリフトを用いた博物館施設内輸送で生じる振動を計測した結果を検証し、学会で発表した。

2）収蔵環境に関する調査研究成果

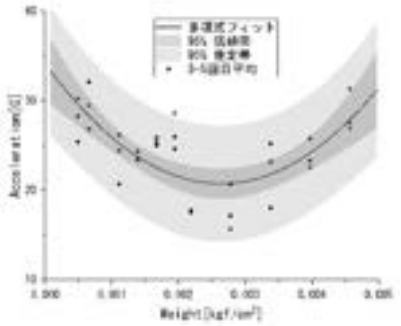
空調設備の無いコンクリート造の建造物内の温湿度変化に関して解析を実施し、来場者の入室による影響を検証し、学会で発表した。

3）展示環境に関する調査研究成果

展示室における換気対策が与えるエネルギー消費への影響を考察し、学会で発表した。

4）その他の調査研究成果

博物館施設のデジタルツインの利活用による保存環境制御の最適化と効率化を目指した研究を開始した。



綿の衝撃吸収特性に関する検証

【備考】研究成果の学会発表・論文発表

1）輸送環境に関する調査研究成果
- 屏風の振動応答特性を検証するための基礎的研究（日本包装学会誌 31(3)）
- 美術品輸送の安全対策に関する研究動向（日本包装学会誌 31(4)）
- 綿の衝撃試験についての基礎的研究（日本包装学会第 31 回年次大会）
- ハンドリフトを用いた文化財の施設内輸送時に生じる振動の原因と対策に関する研究（文化財保存修復学会 44 回大会）
- 美術品輸送包装の課題と研究開発（総務省電波資源拡大のための研究開発「同期・多数接続信号処理を可能とするバックスキャッタ通信技術の研究開発」令和 4 年度 第 1 回実利用推進検討会）
- 博物館施設内輸送における振動計測（第 60 回全日本包装技術研究大会）
- 文化財を安全に運ぶ−振動解析による施設内輸送の安全性評価−（『文化財をしらべる・まもる・いかす　―国立文化財機構 保存・修復の最前線―』）

2）収蔵環境に関する調査研究成果
- 法隆寺金堂収蔵庫における壁画の保存・公開に関する研究 −2021 年限定公開における収蔵庫内環境測定値の検討−（日本文化財科学会第 39 回大会）

3）展示環境に関する調査研究成果
- 入場者数の展示室内環境への影響の検証を目的とした特別展覧会における室内滞留者数傾向の解析（国立民族学博物館研究報告 47(4)）
- 展示室における換気対策が与えるエネルギー消費への影響と持続可能な博物館環境の維持に関する考察（文化財保存修復学会 44 回大会）

4）その他の調査研究成果
- 災害情報の統合と都市と文化財のデジタル化と防災（震災遺構資料科研中四国九州保存修復研究会合同研究会）
- 2022 年度災害対策調査部会の活動報告（文化財保存修復学会 44 回大会）
- 都市と文化財のデジタル化で生まれる博物館の新たな展開（教職課程センター紀要 7）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	各項目に関して、当初の計画よりも多くの論文及び学会発表を行い、社会に対して十分に研究成果を還元できたものと評価する。専用コード作成により解析を半自動化するといった、データサイエンス技術を駆使することで、研究の効率化を図ったことが成果に直結したと考えられる。具体的には、本プロジェクトからは、3年度、4年度を通して、査読論文3件、査読無し論文5件、国内学会発表18件が学術的成果として上がった。 特に、輸送環境に関する調査研究において多くの成果を上げることができた点や、異分野の研究者と活発に交流し、従来から継続している研究を客観的に検証することができた点は特筆すべき点としてあげられる。5年度は蓄積された各種の環境データを利活用したシミュレーション技術の研究と、予測システムの構築に向けた研究へと発展させたい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	中期計画の2年目として、収蔵環境、展示環境、輸送環境の3つの環境に対する調査研究に加え、次世代の博物館を見据えた研究をバランス良くかつ効果的に実施することができた。また、研究成果は論文及び学会等の適切な場で発表公開し、文化財分野に限らず様々な分野の研究者との交流を活発に行い、研究内容を客観的に検証し、発展させることができた。特に輸送環境に関する調査研究では多くの研究の成果を上げることができており、想定以上に中期計画を遂行できていると評価した。

【書式Ｂ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1421Bア

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	1）有形文化財の保存環境・保存修復並びに科学技術を活用した分析等に関する調査研究 ア　修復文化財に関する資料収集及び調査研究　((4)-②-1))

【事業概要】
文化財保存修理所で実施されている修復・模写文化財の資料収集及び調査研究を行う。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	保存修理指導室長　大原嘉豊

【主な成果】
(1)修復文化財情報の収集と調査
・4 年度、文化財保存修理所の工房に搬入した新規の修復文化財に関して、修理工房より提出された「修理計画書」に基づき、160 件のデータを収集し、「修復文化財データベース」に登録した。
・当館研究員により 7 回行った修理工房の巡回のほか、修理技術者とともに実施した科学調査を含む調査を適宜実施し、文化財の構造や使用材料、内部納入品・銘文調査など、修理中にのみ得られる情報を収集、分析した。
(2)修復文化財情報の整理
・3 年度に修理が完了し、搬出を終えた修復文化財に関して、修理工房より提出された「修理解説書（報告書)」に基づき、1179 件のデータを「修復文化財データベース」上で更新し、整理作業を行った。
(3)模写作成のための文化財の調査
・模写修理事業者（六法美術）による宮内庁京都事務所蔵「京都御所清涼殿障壁画」の復元模写（6 か年計画）の 3 か年目を行った。模写する文化財は搬入せず、原寸大写真及び資料をもとに行っている。
(4)情報の公開と共有
・元年度に修理が完成した文化財 150 件に関する報告を『京都国立博物館文化財保存修理所修理報告書』第 20 号(5 年 3 月 31 日発行)に掲載した。
・修理時の調査により発見された銘文 15 件を「銘文集成」として同書に収録した。

【備考】
(1)データ収集件数 160 件、巡回回数 7 回
(2)データベースの追加更新件数 1179 件
(4)報告書　1 冊（修理報告 149 件、銘文報告 15 件を含む）

『京都国立博物館文化財
保存修理所修理報告書』
第 20 号

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	文化財保存修理所で行われる文化財修理に係る情報については、紙ベースでの収集・整理を行うとともに、過去の情報から順次遡及的にデジタル化を進めており、4 年度も順調に事業が進んでいる。また、紙ベースからデジタルベースでの情報保存への移行措置として、印刷物としての報告書作成に加え、報告書の PDF 化を進めた。修復文化財データベースの更新も順調に進んでおり、総じて情報の整理収集も滞りなくできているため、B評価が妥当であるといえる。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画に沿って、有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究活動の一環として、文化財保存修理所で実施している修復・模写文化財の資料収集及び調査研究を行った。新型コロナウイルスの影響がある中、文化財保存修理所に搬入される修復文化財の件数は、3 年度と同等の水準で推移しているが、科学調査を含め修復・模写文化財に関する調査を順調に進め、情報収集をすることができた。得られた情報についてもデジタル化を着実に進めることができており、中期計画の 2 年度として計画を遂行できたといえる。

【書式Ｂ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1421Bイ

業務実績書

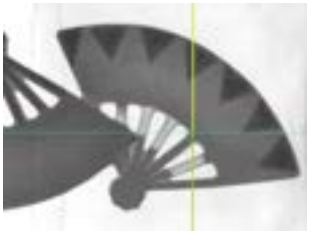
中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	1）有形文化財の保存環境・保存修復並びに科学技術を活用した分析等に関する調査研究 イ　文化財の製作技法・材料等に関わる調査・研究　((4)-②-1))

【事業概要】
博物館の展示・教育普及活動に関連する調査研究として、有形文化財の製作技術に関わる調査や、使用材料等に関する調査を実施し、データの蓄積を図る。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	保存科学室長　降幡順子

【主な成果】
(1)作品の調査研究
4 年度の構造調査としては、X 線 CT 撮像 9 件（34 点）、SfM/MVS による 3 次元形状調査 3 件（4 点）、透過 X 線撮影による内部構造調 6 件（277 点）を実施した。作品の材質調査としては、蛍光 X 線分析調査 31 件（220 点）、X 線回折調査 8 件（29 点）、分光分析調査 3 件（17 点）、オルソ撮影 1 件（1 点）を実施した。
(2)展示に関連する調査研究の一例
展示のために借用した文化財資料に対して、X線CTを用いた構造調査、蛍光X線分析調査による材質調査を実施し、製作・技法等を確認した。特別展「最澄と天台宗のすべて」では「釈迦三尊十六羅漢図（斑鳩寺蔵)」の蛍光X線分析調査を実施し、金色彩色に使われている材質の違いについて明らかにした。特別展「河内長野の霊地－観心寺と金剛寺－」では「版木（観心寺蔵)」のX線CT撮影を実施し、そのデータから３Dプリンターを用いて複製を作成し、教育活用に資した。
(3)館蔵品等を対象にした調査では、「若狭国神人絵系図」では、オルソスキャナを用いた赤外線画像の取得をはじめ、新たに導入したX線回折測定を実施し、顔料の同定を行った。「色絵釘隠（伝野々村仁清作)」では、X線CT撮像を行い江戸時代初期と考えられる資料の技術の解明にも有用なデータを得ることができ、これらの成果を学会等にて情報発信した。
(4)地方公共団体や美術館からの依頼を受入れた展示・修理事業に関わる調査を実施し、使用材料や復元材料に関するデータ提供を行った（京都府、京都市、長浜市、大津市、犬山市、香川県、石川県金沢城調査研究所、刈谷市歴史博物館、平等院)。

【備考】
(1)学会発表等
・降幡順子・降矢哲男「重要文化財「色絵釘隠（伝野々村仁清）の胎土・彩色材料に関する研究」『文化財保存修復学会第 44 回大会』、6 月
・降幡順子・井並林太郎・富澤千砂子「若狭国鎮守神人絵系図の彩色材料調査－復元模写事業を踏まえて－」『日本文化財科学会第 39 回大会』、9 月
(2)論文等
・降幡順子・神野恵・石田由紀子・岩戸晶子・清野陽一・丹羽崇史・伊奈稔哲・宇留賀朋也「7・8 世紀出土瓦・施釉瓦胎土色と鉄イオンに関する研究」『SPring-8/SACLA 利用研究成果集 10 巻第 2 号』、4 月


構造調査（色絵釘隠）

・井並林太郎・降幡順子「佐竹本三十六歌仙絵「源重之」　科学分析結果報告」『重要文化財　佐竹本三十六歌仙絵「源重之」収蔵記念特別展　歌仙絵と太刀』展覧会図録、秋水美術館、4 月
・古谷毅・降幡順子「兵庫県西宮山古墳出土品の研究Ⅰ―非鉄金属製遺物 1―」『学叢 44 号』、京都国立博物館、6 月

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	4年度は、61件（582点）の有形文化財について分析調査を実施し、製作・技法等に関わる情報を得ることができた。外部組織からの調査依頼も、積極的に受け入れ、新聞発表にも取り上げられ調査成果の活用、社会への貢献に努めた。分析事例の集積とともに、得られた調査成果の一部は学会で発表するなど情報発信を行った。5年度以降も継続して実施する予定の調査については、データの蓄積を図り、成果を図録、学会発表等で情報公開する予定である。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	4年度は、材質調査のための携帯型Ｘ線回折装置を新たに導入し、多様な材質の美術工芸品を対象に新しい知見を得られるようになった。有形文化財を対象に、使用材料の傾向や特徴を明らかにするなど、中期計画期間を通して幅広い活用を目指したい。博物館の展示・教育普及活動、さらに復元修理や文化財指定に関わる調査などに関連する科学調査を行い、データ蓄積を図るとともに、研究成果は随時、図録や学会等を通じて公開していく予定である。

【書式Ｂ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1421Bｳ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	1）有形文化財の保存環境・保存修復並びに科学技術を活用した分析等に関する調査研究 ウ　社寺等における保存環境に関する調査研究　((4)-②-1))

【事業概要】

文化財を有する社寺には、必ずしも文化財収蔵のための専用施設が整備されておらず、建造物内に常設されている有形文化財に対して、温度・湿度、照度等を博物館環境と同等に整えることは難しい。また、収蔵建物自体が有形文化財であることも珍しくなく、収蔵環境を整備するために大がかりな改修工事を行うことも困難な場合が多い。本調査研究では、文化財の劣化に大きく影響する温湿度の変動や、照度・紫外線の強度、空気質について、まずは現状の環境調査を実施し、その結果を踏まえて簡便な手法で保管環境の改善に関する助言・協力を行い、文化財のより適切な保管環境を目指す。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	保存科学室長　降幡順子

【主な成果】

社寺等を対象とする文化財の保管環境に関して基礎データの収集に努め、改善に関する協力を行った。
(1)知恩院・京都府・京都市との打合せ 1 回、月次報告 12 回実施
(2)知恩院境内の 12 箇所で温湿度モニタリングの実施、新法務棟・宝物庫の空気室調査（アンモニア、有機酸類、ホルムアルデヒド類）4 回実施（春季、夏季、秋季、冬季)。
(3)鳥取県・三仏寺収蔵庫内外 2 箇所で温湿度モニタリングの継続実施
(4)文化財資料の適切な保管環境に関する検討

【備考】

新たに設置したデータロガー（床下）

現地調査風景

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	4年度の社寺等における保存環境に関する調査研究は、3年度からの継続として、知恩院境内12箇所、三仏寺収蔵庫2箇所にて実施した。知恩院境内の環境調査については、2カ年事業の2年目であり、3年度の年間データの蓄積から、測定箇所の変更・増設を行い、高湿度の原因解明に努め、換気実施による改善等について府・市と情報共有を図った。三仏寺では、夏に現地にて打ち合わせを実施する予定であったが、新型コロナウイルスの影響により中止となり、4年度はデータ回収のみとなっているため、5年度の打ち合わせ時期を早める予定である。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画期間に環境調査を実施する社寺を順次変更しながら、広く公開・保管環境と改善に関する取り組みを実施する。4年度では、知恩院境内についての前年度モニタリング結果を反映した改善策を実施し、空気質についてはその効果を確認した。これらの調査成果は、5年度に学会等による成果報告を予定している。日常行われている法会や参拝者へも配慮をした効果的な改善策については、社寺の協力が必須であるため、今後も社寺との連携を十分に取りつつ、継続してモニタリングを実施していく予定である。

【書式Ｂ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1421Cア

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	1）有形文化財の保存環境・保存修復並びに科学技術を活用した分析等に関する調査研究 ア　収蔵庫・展示室・ケース内部等における環境が文化財に与える影響などに関する調査研究 （(4)-②-1)）

【事業概要】

館内施設や設備（展示室・展示ケース・収蔵庫等）の環境が文化財に与える影響の調査・分析を目的としている。次の 3 点の調査を継続的に実施し、得たデータの分析と情報共有を行うことで保存環境の向上を行う。

(1)温湿度センサーを用いた館内施設の温湿度調査

(2)展示ケース内に浮遊する塵埃調査（電子顕微鏡を用いた塵埃の観察）

(3)文化財害虫トラップの設置及び回収と解析

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	保存修理指導室長　荒木臣紀

【主な成果】

(1)展示室や展示ケースに設置した無線式温湿度センサーで 24 時間リアルタイムモニタリングを実施した。取得蓄積した温湿度データから、展覧会ごとに情報を整理し展示室内の環境管理に役立てた。収蔵庫についても温湿度データロガーとデジタル温湿度計を用いた定期的なモニタリングと温湿度データの回収を行い、館内環境ワーキンググループでデータ共有して空調の調整に役立てた。

(2)正倉院展終了後に、展示室、展示ケース内のデータロガー、題箋など 25 ヶ所の塵埃を採取し、電子顕微鏡での観察結果からケースの気密性に対する評価を行った。その後、結果を基に宮内庁正倉院事務所保存科学担当者を交えて評価検討を行ない、それを踏まえ、ケースに追加して環境を整える装置について調査を行った。

(3)3 年度に引き続き、文化財害虫の生息状況を把握するため、文化財の保管及び展示に関わる箇所を中心に昆虫調査用トラップを設置し、2 か月に 1 回交換を行った。調査結果を蓄積し分析することで IPM(総合的有害生物管理)を推進し、文化財害虫の生息が確認された箇所について生物対策の専門業者と結果を検討し、重点的に清掃し被害の低減に努めた。また、清掃と防塵マット交換を定期的に実施し、展示室・収蔵庫の周辺の衛生環境保持に努めた。

【備考】

・　学芸部保存修理指導室員並びに総務課環境整備係員等により構成される、「奈良国立博物館環境整備委員会保存環境に関するワーキンググループ」を実施した。月に 1 回程度開催し、展示保存環境に関する問題点や改善案について協議を重ねている。

(1)展示室内温湿度調査：97 か所

(2)展示室、展示ケース内の電子顕微鏡を用いた塵埃調査：25 か所

(3)文化財虫害生息状況調査：100 か所

・「奈良国立博物館環境整備委員会保存環境に関するワーキンググループ」：8 回開催

塵埃調査の様子

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	3年度に引き続き、温湿度、文化財害虫のモニタリング、塵埃調査などを実施し、データの蓄積を着実に行った。さらに調査で得られた結果を踏まえ、現状を館内外の関係者に共有し、館全体で展示保存環境の保持と高断熱化工事等による改善を行い、保存環境維持を図った。また、なら仏像館についても、4年度は温湿度無線データロガーを新たに4台設置して、館内環境維持、光熱費抑制に向けた調査を進めることができ、年度計画を順調に遂行することができた。5年度以降も継続して調査を実施し、データの蓄積及び分析を進め改善に活かしたい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	東新館、西新館の展示室や収蔵庫では温湿度並びに文化財害虫に関するモニタリングや調査、空調運転方法の改善を年間通じて行っている。なら仏像館も同様にデータの蓄積を着実に継続して実施しており、装置の通信状況改善などを行って中期計画を着実に進めている。

【書式Ｂ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1421C イ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ②その他 有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	1）有形文化財の保存環境・保存修復並びに科学技術を活用した分析等に関する調査研究 イ_文化財修理の観点からの収蔵品・寄託品等の調査研究（(4)-②-1)）

【事業概要】

本事業では、以下の 2 点の内容について実施した。

(1) 館蔵品や寄託品の修理前調査や修理作業に併せ、X 線 CT 撮影、X 線透過撮影、蛍光 X 線分析を実施し、所得した画像やデータを修理方針の策定に反映させた。

(2) 文化財保存修理所での修理中の文化財については、当館の研究員と工房の技術員が共同で光学調査を実施し、共に分析結果を検討して得られた結果を修理へ反映した。

【担当課】	学芸部	【プロジェクト責者】	保存修理指導室長　荒木臣紀

【主な成果】

(1) 館蔵・寄託の文化財（彫刻や漆工品など）の修理や展示作業に併せ、X 線 CT スキャナや X 線透過撮影、蛍光 X 線分析を実施し内部構造や納入品、象嵌の有無といった作品の状態把握を行った。これらの光学調査は研究や修理に活用すると共に、データの蓄積も進めた。

(2) 当館研究員と修理所工房の技術者が共同で X 線 CT スキャナ、X 線透過撮影や蛍光 X 線分析などの光学調査を行った。館蔵品や寄託品の修理前や修理中にこれらの調査を実施することで、修理へ成果を随時反映させることが可能となり、彫刻作品・漆工作品や絵画作品のより安全な修理に役立てることができた。

修理に伴うデジタル X 線撮影調査

修理に伴う蛍光 X 線分析

【備考】

・調査件数

X 線 CT スキャナ調査：32 件　蛍光 X 線分析調査：10 件、X 線撮影：3 件

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	修理等の際に内部構造や保存状態・材質情報に関する情報を得るため光学調査を実施した。X線CTスキャナやX線透過撮影は適切な修理に欠かすことのできないものとなっているが、4年度は装置の更新を行えなかったため既存の機器を活用して調査を実施した。また蛍光X線分析は、彩色材料の同定に重要な役割を果たしている装置であるが、支持具の改良が検討中のため活用が限定された部分もあった。現行機器を活用して得られた光学調査の結果は、修理調書に反映させるとともに修理方針の策定にも役立てており年度計画を実行できた。今後も装置を文化財の調査に適したものに改良や更新を行い、継続した調査並びにデータの蓄積を図りたい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	4年度も文化財保存修理所での修理内容を踏まえ、X線透過撮影や蛍光X線分析などの調査を行うことで修理方針の策定等に伴う調査を随時実施できたため、順調に中期計画を遂行できたといえる。特にX線CTスキャナは順調に稼働し、彫刻や漆工品などの修理に大いに役立っており、5年度以降も安定して稼働させるために装置の更新を行う予定である。また、その他各種調査分析装置においても改良を進めて活用範囲の拡大化を進めたい。

【書式Ｂ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1421Cｳ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ②その他 有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	1）有形文化財の保存環境・保存修復並びに科学技術を活用した分析等に関する調査研究 ウ　保存科学の観点からの収蔵品・寄託品等の調査研究（(4)-②-1)）

【事業概要】

美術史的な観点からの作品情報を裏付けるための科学調査を行うことで、作品評価の適正化を試みる。また、個別での調査に加え、博物館の特性を活かした横断的な作品調査を行うことで得られる情報を調査研究、展示、教育の分野で活用する。さらに、科学技術の進歩に伴って博物館資料への応用が可能になった新たな調査方法や従来からある調査方法の中から精度の向上した調査方法を博物館活動の中に取り入れる。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	保存修理指導室長　荒木臣紀

【主な成果】

(1)「大安寺のすべて」展における四天王立像などの木彫作品、発掘品のX線CT調査を行い多角的な視点から大安寺に関する研究を行った。

(2)寄贈、購入予定の工芸作品の蛍光X線分析調査、X線CT調査を行うことで材質や技法などを調査し、適正な作品評価を行う際の判断に寄与した。

寄贈、購入候補作品の蛍光X線分析の様子

【備考】

・調査件数

X線CTスキャナ調査：32件、蛍光X線分析調査：9件、X線撮影:3件

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	寄贈、購入等、博物館には様々な文化財が持ち込まれてくるが、内部構造や保存状態、材質情報に関する情報が付随する事は少なく、当館側で調査を行って情報を得る必要がある。それら判断材料のために各種光学調査を実施し、調査の結果は、購入、寄贈、修理に反映させるとともに修理方針の策定にも役立てており、年度計画を実行できた。X線CTスキャナやX線透過撮影は近年益々構造調査や技法解明に欠かすことのできないものとなっているが装置更新はなかなか困難な状況であった。5年度以降も装置の改良更新や継続した調査並びにデータの蓄積を図りたい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	肉眼では捉えられない情報を得られるX線を使った装置類は順調に稼働し、絵画、彫刻、漆工品や金工品などの調査、修理、展示に大いに役立っており、中期計画を順調に遂行している。5年度以降も安定して稼働させるために装置の更新に務める予定である。また文化財保存修理所での修理内容をふまえ、X線透過撮影や蛍光X線分析、ファイバースコープの調査を行うことで、修理方針の策定等に関わる調査を随時実施することができた。5年度以降も可能な範囲で修理前にそれら調査を行い、修理仕様作成などに役立てられるように努めていく。

【書式Ｂ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1421Dア

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	1)有形文化財の保存環境・保存修復並びに科学技術を活用した分析等に関する調査研究 ア　文化財の材質・構造等に関する共同研究　((4)-② -1))

【事業概要】
本研究では、X 線 CT スキャナ及び 3D デジタイザ等の非破壊的な調査手法を使用し、館内及び外部の多様な専門分野の研究者との学際的連携を通じて、各種文化財の材質・構造等に関する知見を得ることを目的とする。

【担当部課】	学芸部博物館科学課	【プロジェクト責任者】	研究員　渡辺祐基

【主な成果】
(1)漆工品の構造調査
文化庁所有の「叢梨地牡丹唐草向鶴紋散蒔絵調度」のうち、化粧道具（手箱）を X 線 CT によって調査した。その結果、十二手箱、大角赤手箱、角赤手箱について、蓋鬘の上に甲板が載ることや、底板の木口に側板が接する入れ底となっていることなど、木地構造が明らかになった。併せて大角赤手箱の朱塗の成分の蛍光 X 線分析も行い、水銀朱が使用された可能性が示唆された。また、食籠（浦添市美術館蔵）の X 線 CT スキャンの結果、側板及び高台は曲輪造であり、肩及び尻部分は巻胎技法により制作されたことが明らかになった。

漆工品の X 線 CT 及び蛍光 X 線分析装置による調査風景

(2)土製地蔵菩薩坐像の調査
九州北部を中心に分布する特徴的な一群の土製地蔵菩薩坐像を X 線 CT スキャンで調査した。その結果、土製地蔵菩薩坐像の表面形状及び内部構造に関するデータが得られ、その分類や製作過程について考察することができた。

【備考】
・X 線 CT 調査件数 48 件、調査回数 208 回
・3D デジタイザ調査件数 12 件、調査回数 22 回
＜論文等＞
・渡辺祐基、川畑憲子、板谷寿美、吉川美穂、田中麻美、木川りか「国宝『初音の調度』のうち刀掛、寄り掛り、掛硯箱（胡蝶蒔絵）の木地構造および制作技法の X 線 CT 調査」『日本文化財科学会第 39 回大会研究発表要旨集』p.116-117（9 月）
・川畑憲子、渡辺祐基、和泉田絢子、田中麻美「叢梨地牡丹唐草向鶴紋散蒔絵調度の木地構造について（3）化粧道具（手箱）」紀要『東風西声』18 号、p.77-86（5 年 3 月）
・若杁善満、渡辺祐基、田中麻美、岡寺　良「土製地蔵菩薩 坐像の製作過程の復元的考察―中世九州北部に出土する特徴的な一群について―」紀要『東風西声』18 号、p.17-35（5 年 3 月）
・大西智洋、渡辺祐基、金城聡子「黒漆孔雀牡丹唐草沈金食籠の修復実績と X 線 CT 調査報告」『浦添市美術館紀要』18 号、p.10-18（5 年 3 月）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	4年度は60件の文化財等の調査を実施し、漆工品をはじめとする各種文化財について、高精細な3次元データを収集できた。得られたデータについて、所蔵者、各分野担当者、修復技術者等とともに解析及び協議を行い、内部構造や製作技法に関する知見を得ることができた。これらの成果は、研究会、学会発表及び論文並びに展示における解説パネル等を通じて公開した。以上のことから、所期の目標を遂行し、年度計画を達成したと判断しＢ評定とした。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画に基づき、外部研究者とも協力し、各種文化財の材質・構造等に関する調査に取り組んだ。4年度は、多数の漆工品や山岳信仰に関する遺物の調査を実施し、検討会や研究会によって内部構造や製作技法に関する理解を深めた。5年度以降も調査を継続するとともに、学会発表及び論文等によって成果を幅広く公表する計画である。以上の成果から、中期計画を円滑に遂行したと評価した。

【書式Ｂ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1421Dイ

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	1)有形文化財の保存環境・保存修復並びに科学技術を活用した分析等に関する調査研究 イ　博物館における国内・アジア地域の文化財保存修復に関する研究　((4)-②-1))

【事業概要】
本事業は、国内・アジア等で制作され、修理されてきた館蔵品の解体修理を行い、各国で過去に行われた修理の理念や技法を調査する。また、これら修理作品の展示を通じて、文化財修理の理念や工程、修理に伴う知見等の成果を公開し、博物館における文化財の保護や継承の意義と取り組みについての理解を深めることを目的とする。

【担当部課】	博物館科学課	【プロジェクト責任者】	保存修復室長　志賀智史

【主な成果】

・大韓民国の古墳(統一新羅時代・8ｃ)に施された浮彫十二支像の拓本について、解体修理に伴う調査を行った。現状ではパネルに貼りつけられていたが、類例の調査により韓国では同様な装訂が一般的であることが分かった。しかし、この装訂では、常に光や空気に晒されるため、今回の修理では装訂を掛軸装に変更し、太巻きに巻き、桐箱に収納する伝統的な日本の方法を採用することとした。

・文化交流展示「賛助会費による修理成果展」
実施日：4 年 3 月 23 日～5 月 8 日の 7 週間
展示場所：文化交流展示室　第 7 室
元年度～2 年度の賛助会費で修理した作品 4 件を、修理工程を紹介するパネルや修理道具も加えて展示した。賛助会員へ謝意を示すとともに、「文化財をまもり伝える」という博物館の役割を広く周知する機会とした。
特に、展示には近現代に現地で修理されたと思われる黄地鉢（イラン・11-12ｃ）を加え、旧修理において石膏復元、オリジナル部分も含め復元部分の広範囲に補彩を行うといった各国の考古資料に共通する修理技法が採用されていたことをパネルで紹介した。

「賛助会費による修理成果展」展示風景

・文化交流展示「重要文化財『鷹尾家文書』～修理と新たな発見～」
実施日：10 月 29 日～12 月 18 日の 7 週間
展示場所：文化交流展示室　第 9 室
平成 30 年度～2 年度に当館修復施設で修理した重要文化財「鷹尾家文書」について、修理工程及び修理によって明らかになった知見を、作品と共にパネルで展示し、修理に伴う調査の重要性を示した。

「重要文化財「鷹尾家文書」～修理と新たな発見～」展示風景

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	保存修理事業を広く周知するため、例年バックヤードツアーを行っていたが、4年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。しかし、修理作品等の展示を通して、博物館の役割である本事業を広く周知した。また、3年度に引き続く海外渡航制限のため、ベトナムへの渡航が叶わず、現地での修理を諦めざるを得なかったが、事業再開に向けた準備を進めた。以上から年度計画を遂行したと評価し、左記の評定とした。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	4年度は中期計画の2年目として、修理に関連する作品及び修理工程パネルを展示室にて展示することで、保存修理事業を周知することができた。 元年度に開始したベトナムでの紙を素材とする文化財の修理事業は、日本の修理技術を用いたベトナム初の修理であり、今後の展開が期待される。引き続き海外渡航に係る世界的な動向を注視しつつ事業再開を図る。新型コロナウイルスの影響は否定できないが、中期計画に沿った準備を円滑に進めたことからＢ評定とした。

【書式Ｂ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1421Dウ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	1)有形文化財の保存環境・保存修復並びに科学技術を活用した分析等に関する調査研究 ウ　博物館危機管理としての持続的 IPM システムの研究　((4)-②-1))

【事業概要】

本研究の目的は、我が国の博物館における IPM（総合的有害生物管理）普及のための持続的なシステムづくりである。館内のさまざまな部署との連携はもちろんのこと、地元 NPO 法人やボランティア等とも協力し、持続的に IPM を実践するためのシステムづくりを行う。また、研修会の開催等を通じて IPM の社会的理解度を深めつつ、博物館等における IPM を軸にした地域共働システムづくりを目指すものである。

【担当部課】	学芸部博物館科学課	【プロジェクト責任者】	課長兼環境保全室長　木川りか

【主な成果】

(1) 「IPM セミナー」の開催

IPM セミナーを開催した（11 月 15 日、主催：当館、共催：文化庁・東京文化財研究所）。月刊文化財 10 月号の掲載内容を中心として、文化財の生物被害対策や文化財害虫に関する最新の研究を紹介した。現地参加は博物館、美術館、図書館関係者など約 130 人にのぼり、セミナー概要を収録した動画を後日オンラインで公開し約 300 人が視聴した。

(2) 「IPM オンライン相談会」の開催

2 年度、3 年度に引き続き、オンラインによる 1 施設あたり 1 時間の IPM 相談会を募集し、7 施設が参加した(12 月 22 日、5 年 1 月 26 日～27 日の 3 日間)。

環境調査報告会の様子

(3) 「環境調査報告会」の開催

館内関係者及び IPM 業務委託業者間において、IPM など保存環境に関する近年の動向について報告会を実施し、情報交換を行った（7 月 2 日）。

(4) 館内職員向け IPM 研修の開催

主に新任職員を対象として、館内職員及び館内関係業者 33 人を対象に IPM 研修を実施した（4 月 27 日、5 月 11 日）。館内の各部署の関係者と館の IPM ポリシーを共有、IPM 活動に対する理解を深める点で重要な役割を果たしている。

(5) 環境ボランティアの活動として、インジケータ作成、文化財課の協力を得て梱包用綿布団の作成、交流課の協力のもと屋外研修（野鳥観察会）、スタッフによる小話会などの活動を実施した。

環境ボランティア屋外研修の様子

【備考】

・IPM セミナー（1 日間）1 回　現地参加人数：132 人、オンライン視聴者数：301 人
・IPM オンライン相談会（3 日間）1 回　参加施設数：7 施設
・環境調査報告会（1 日間）1 回　参加人数：13 人
・館内職員向け IPM 研修（1 日間）2 回　参加人数：33 人

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	博物館の危機管理として館内のIPM活動を進めるとともに、その経験をもとにIPMセミナー、IPMオンライン相談会を開催し、全国各地の文化財関連施設への普及に資することができた。また、環境調査報告会や環境ボランティア活動など新型コロナウイルスの影響により縮小していた事業を再開するとともに、オンラインも活用して活動の幅を広げることができた。また、館内の関係部署や地元NPO法人、ボランティア等との情報共有を積極的に行い、持続的IPMシステムづくりに向けた活動を充実させることができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	IPM 活動についてのノウハウを生かし、中期計画のとおり、全国の博物館等から総務系と学芸系など職種の異なる担当者に向け、継続的に IPM の普及事業を実施することができた。対面でのセミナー及びオンラインによるセミナー動画の配信や相談会などそれぞれの方法のメリットを生かして内容の充実した普及事業を展開し、中期計画を計画的に推進した。

【書式Ｂ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1421Dｴ

業務実績書

中期計画の項目	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	1)有形文化財の保存環境・保存修復並びに科学技術を活用した分析等に関する調査研究 エ　展示収蔵環境の空気質に関する調査研究　((4)-②-1))

【事業概要】
展示収蔵環境における空気質を調査し、揮発性有機化合物濃度を低減させる実用的な対策の確立に向けた調査研究を行う。

【担当部課】	学芸部博物館科学課	【プロジェクト責任者】	課長　木川りか

【主な成果】
(1)展示空間で発生する揮発性化学物質（VOC）の継続的調査
展示ケース内における有機酸やアルデヒド等の汚染物質の濃度を継続的に調査し、特に対応が必要であるケースを把握し、優先順位をつけた対応に役立てた。
(2)展示ケースの換気システムに関する検証
展示ケース内の空気環境を清浄に保つため、対策の優先順位が高い単体ケース及び壁付ケースにそれぞれ換気ファンを取りつけ、その効果を検証した。その結果、通常の展示スケジュールの中でタイマーを活用して効率的に換気し、良好な空気質の状態が保てることがわかった。
(3)揮発性化学物質が発生しにくい材料や空気の循環がしやすい展示台の製作法を企画課とともに検討のうえ試作した。
(4)展示品から放出される汚染物質の特定と対応
海揚がり考古遺物など、展示品の種類によっては、遺物そのものが海底の硫化物（硫黄化合物）を含んでおり、それから硫黄化合物蒸気が放出されることによって、金属製品に錆が生じる場合があることがわかった。今後このような遺物の展示にあたっては、同じ空間に展示する作品への影響を考慮する必要がある。

展示ケース内の VOC 濃度の測定

調湿剤ボックスに取り付けた
タイマー付き換気ファン

ケース内で空気が流通しやすい
構造のアルミ製展示台の製作

【備考】
・学会発表：和泉田絢子、渡辺祐基、桑原有寿子、富松志帆、松尾実香、木川りか「展示ケース内 VOC 濃度低減のための内装材及び換気ファンの効果に関する検証」文化財保存修復学会第 44 回大会（6 月 19 日）
・研究紀要：和泉田絢子、渡辺祐基、木川りか「博物館の展示収蔵空間における空気環境の管理と対策事例について」『東風西声』第 18 号

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	展示収蔵環境における空気質について3年度に引き続き詳細な調査を行い、データを蓄積することができた。得られたデータをもとに、展示空間に用いる適切な材料及び製作法の検討や選定を行い、適切な換気スケジュールを作成するなど、現場での対策に生かしている。また、館内で情報共有を行い、揮発性有機化合物濃度を低減させるための方策を協議し、より良い保存環境を維持したため、Ｂ評定とした。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	4年度は中期計画の2年目として、展示環境の空気質について引き続きデータを蓄積した。さらに、4年度は具体的な対策に生かすことができ、中期計画を円滑に遂行できたと評価した。5年度以降も継続的に調査を実施し、博物館等で運用可能な空気環境改善の実用的な方策について検討を進め、広く応用できる手法の確立が課題である。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1422Aア

業務実績書

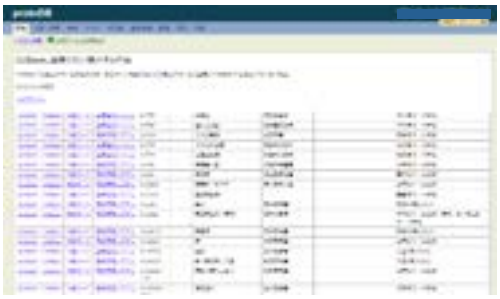
中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	2)博物館情報、文化財情報に関する調査研究 ア　博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究

【事業概要】
当館における収蔵品管理システムの調査研究を通じて、資料情報と学芸業務の有機的な関連について調査研究を行い、博物館における効果的・効率的な情報の管理及び蓄積、活用のための環境構築に資することを目的とする。

【担当部課】	学芸企画部博物館情報課	【プロジェクト責任者】	博物館情報課長　村田良二

【主な成果】

1) 収蔵品管理システムについて、作品検索、総合文化展管理、鑑査会議管理、作品管理、修理予定・履歴管理、文献情報管理の各機能を継続的に運用し、随時改善を重ねて機能を向上させた。
2) 展示中あるいは近く展示予定となっている作品のうち、ColBase に画像が掲載されていないものを抽出する機能を実装した。これにより、ColBase に画像を掲載する作業を優先するなど、より一般の利用者のニーズに合った運用を効率的に行えるようになった。
3) 管理区分として「長期借用品」を追加し、長期借用品を適切に管理できるようになった。



ColBase に画像がない作品の抽出画面

4) 会議資料等の PDF 出力において CJK 統合漢字に対応し、日本語の JIS 第 3 水準、第 4 水準漢字や、中国語漢字を正しく表示できるようになった。また鑑査会議資料について Word 形式で出力できるようにし、修正や微調整が容易に行えるようにした。
5) セキュリティ対策を強化するため、アプリケーションログおよびデータベースログから、権限のない機能へのアクセス記録、アプリケーションが通常行わないデータベース操作を検知する仕組みを実装した。

【備考】

収集データ件数　245,715 件
（内訳）
作品データ件数　230,857 件
平常展データ件数　6,563 件
鑑査会議データ件数　110 件
貸与データ件数　2,378 件
修理データ件数　2,807 件
文献データ件数　3,000 件

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	収蔵品の効果的・効率的な管理のためのシステムを継続的に開発し、館内からの要望に答えながら着実に発展させることができた。展示中あるいは展示予定がある作品の画像を優先的にColBaseに掲載するため、該当作品を自動的に抽出する機能を実装し、作業を大幅に効率化することができた。またPDF出力においてCJK統合漢字に対応することにより、列品の名称にしばしば用いられているJIS第3水準、第4水準漢字、あるいは中国語の漢字について、会議資料等に正確に表示できるようにした。さらに情報セキュリティ対策として、不正アクセスの自動検知を実現した。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画期間では、より業務の実態に即した継続的な改善と、収蔵品に関する様々なデータ資源を集約的に扱える統合環境の構築を目指す。2年目となる4年度は、ColBaseで公開されている作品のうち画像のニーズが高いものについて掲載作業を効率的に行えるようにするとともに、セキュリティ対策を強化することができた。5年度以降は、さらに公開情報との連動性を高める方策を検討する。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1422Aイ

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	2)博物館情報、文化財情報に関する調査研究 イ　創立 150 年へ向けた館史編纂のための基礎的な資料整理と調査研究

【事業概要】

4 年度の当館創立 150 年へ向けて『東京国立博物館 150 年史』を編纂するために、業務文書や刊行物等を収集、整理し、今後の編纂事業の基礎資料を作成する。また、原稿の整理や入稿など編集作業を行う。4 年度は関係文書類の整理とデータ化、保存措置を続けた。また、寄稿された原稿の整理、入稿、校正と、資料編用のデータ整理、入稿、校正を推進した。

【担当部課】	学芸企画部企画課	【プロジェクト責任者】	東京国立博物館百五十年史編纂室長・恵美千鶴子

【主な成果】

(1)収集した文書類の整理・目録化・保存措置（4 月 1 日～：月に 2 日程度）

資料保管室（資料館 3 階）に収集した約 8,500 件の館史関係文書類について、平成 27 年度に完成した目録(仮)と対応させながら、資料の保存や出納のために、中性紙箱への入れ替えを行った。また、館内より新たに収集した資料について目録を作り、活用できるように整理をした。以上は、東京国立博物館百五十年史編纂室アソシエイトフェロー1 名、有期雇用職員 1 名がともに作業を行った。

(2)『150 年史』の原稿についての整理と入稿、校正作業（適宜）

『150 年史』本編の原稿について、内容を確認し文体の統一を行いながら、編集出版業者に入稿した。編集出版業者より出来てきた校正用紙を執筆者に校正してもらい、編纂室でさらに確認をして業者へ戻した。再校正の際に全文通しての確認作業を進めた。

また、資料編の原稿データを作成し、入稿、校正作業を進めた。以上の作業は、室長とアソシエイトフェロー1 名、有期雇用職員 1 名が進めた。

(3)館史の内容に即した文書類の整理・デジタル化と館内事業への資料提供

a)『100 年史』資料のデジタル化（4 月 1 日～：週に 1 日）

『150 年史』編纂のために、『100 年史』編纂時の資料のデジタル化を行った。アソシエイトフェロー1 名、有期雇用職員 1 名がこれを進めた。

b)『150 年史』資料編のための年表作成（適宜）

「出版物年表」「教育普及年表」など、150 年史資料の中から関係するデータを抜き出して年表を作成した。

(4)古写真のデジタル化と館内事業への資料提供（8 月 17 日ほか、適宜）

館の歴史に関わる古写真を収集しデジタル化した。それらの古写真データを『150 年史　普及版』や特別展「国宝　東京国立博物館のすべて」など館内の創立 150 年記念事業に提供した。それらの編集や校正作業の補助も行った。

(5)問い合わせへの対応と関係資料の提供（6 月 21 日ほか）

『150 年史』執筆者などへの資料提供と、館内・館外からの館史に関する問い合わせに対応した。

(6)研究成果や状況報告の公開（7 月 20 日ほか）

『150 年史』編纂に関わる資料収集や整理、編纂内容に関する研究成果や編纂の状況報告を講演や論文で公開した。

【備考】

(1)収集した文書類の整理：31 日間実施
(3) a)『100 年史』資料のデジタル化：43 日間実施（767 点）
(4)『150 年史　普及版』の古写真デジタル化：200 点
(5)資料提供・問い合わせ対応：8 件
(6)研究成果や状況報告の公開：4 件

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	平成27年度より継続的に行ってきた文書類の整理・保存措置について4年度も進めた。また収集・整理した文書類のデータを活用し、『150年史』執筆者や問い合わせ、館内で開催された記念事業に対して資料提供を行うことができた。そして、寄稿された原稿と資料編用データを整理・入稿し、校正作業も行い、編集出版業務を進め、編纂に関わる資料収集の経緯など研究成果や状況報告の公開も行った。原稿執筆の遅れから少しずつ編集作業時期にずれが出て、当初予定していた『150年史』の完成時期を遅らせることとなったものの、4年度の進行はおおむね順調であった。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	『150年史』執筆者への資料提供や館史に関わる問い合わせ、調査研究などの要望に3年度に引き続き迅速に対応できた。また、原稿の整理や入稿、校正を順調に進めることはできたため、『150年史』完成時期を遅らせることとなったものの、中期計画に対する進捗状況は順調であるといえる。

【書式Ｂ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1422Bｱ

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	ア　データベースやアーカイブズ等、収蔵品等情報の整理・活用に関する調査研究　((4)-②-2))

【事業概要】
当館で運用している収蔵品管理システムや図書管理システムなどの業務用システムをはじめ、公式ウェブサイトや館蔵品データベースなどの外部公開システムなど、各種システム運用上の課題を整理するとともに、博物館情報に関する調査研究を進める。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	美術室長兼列品管理室長　羽田聡

【主な成果】
(1)「情報システム検討委員会」を開催し、当館が持つ情報を蓄積、管理するための収蔵品管理システムや蔵書管理システム、情報を発信するための公式ウェブサイト、館蔵品データベースなどの運用、改善について検討するとともに、博物館情報に関する研究を進めた。
(2) 収蔵品管理システムと公式ウェブサイトについて、3 年度にまとめたシステム運用上の課題と改善点を基に委託先と打ち合わせを行い、それぞれリニューアルを行った。
(3) 3 年度に策定した仕様書をもとに、蔵書管理システムをリニューアルした。
(4) 当館で運用中のシステムについて、耐用年数や必要な予算などをまとめ、整理した。

【備考】

（リニューアル前の収蔵品管理システム）

（リニューアル後の収蔵品管理システム）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	3年度に取り掛かった各種システムのリニューアルを、全て完了することができた。また、サーバを運用するうえで発生するメンテナンスの労力や、ランニングコストの節減を主たる目的として、物理サーバとクラウドサーバを適宜使い分けるべく、一部システムを実験的にクラウドサーバへ移行した。以上の成果から、Ｂ評価とした。 今後、これらシステムの運用を通じて、改善点を洗い出すとともに、システムの改修を進める。また、システムに登録する画像等のデータを保存するファイルサーバが耐用年数を迎えているため、仕様を定めて5年度以降にリプレイスを行う予定である。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画の 2 年目として、3 年度から進めていた各種システムを全てリニューアルすることができたため、リニューアルに急を要するシステムはなくなった。5 年度以降、各システムの運用を通じて改善点をまとめ、課題管理表を整理するとともに、小規模なシステム改修を行いつつ、次期リニューアルにも備える。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1430A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究　③国内外の博物館等との学術交流等

【年度計画】
・(4館共通) Ⅰ-1-(4)-③-1)、2)、3)、4)
・(東京国立博物館) Ⅰ-1-(4)-③-1)、2)

担当部課	学芸企画部企画課国際交流室	事業責任者	室長　楊鋭

【実績・成果】
（４館共通）
・当館と韓国国立中央博物館共同主催の「日韓博物館の保存科学設備の活用及び展望」をテーマとしたオンラインセミナーを開催した（10 月 28 日）
・館内展示作品の題箋デザインや多言語解説の内容を継続的に改良・充実させた。
・3 年度からスタートした英語、中国語、韓国語による SNS（Twitter、Instagram、Facebook）投稿のアクセス数、ユーザー年齢層と所在地域などデータを分析し、発信内容の充実と改善を図った。
・日本・アジア美術に関する用語の当館としての英訳の標準を示すガイドブックを出版・公開した（12 月 21 日）。
（東京国立博物館）
・中国国家博物館主催の日中韓国立博物館長会議はオンラインにて開催、3 館における今後の交流および協力の強化について意見交換した（7 月 27 日）。また、3 館による共同企画展覧「東方吉金―中韓日古代青銅器展」を中国国家博物館にて開催した（7 月 26 日～10 月 9 日）。
・平成 26 年から継続して実施しているミュージアム日本美術専門家連携・交流事業の一環として、日本美術専門家会議を 3 年度に引き続きオンラインにより開催した（5 年 2 月 10 日）。

【補足事項】
(4 館共通)
・オンラインで行った日本美術専門家会議の国内外参加者数は 59 人。
・3 館による共同企画展覧「東方吉金―中韓日古代青銅器展」の入場者数は 211,616 人。
・韓国国立中央博物館と共同主催の「日韓博物館の保存科学設備の活用及び展望」オンラインセミナーの参加者は 85 人。

東方吉金展会場

日本美術専門家会議

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
3 年度と同様、新型コロナウイルスの影響が続いているため、海外の博物館の定期的に行ってきた学術交流や、研究者の招聘及び当館研究員の海外派遣はすべて中止した。代替となる取組みとして、オンラインにて様々な交流を積極的に推進し、博物館同士のネットワークを維持した。
4 年度で 9 度目となるミュージアム日本美術専門家会議はオンラインにて開催し、11 ヵ国 59 人の参加があった。
また、外国人向けの SNS による多言語の情報発信は、博物館の展示活動や収蔵品の紹介により、日本の伝統文化や美術を海外へ広く紹介することに繋がり、フォロワー数も徐々に増加しており、これからも発信内容をさらに充実していきたい。
以上の実績より、年度計画を遂行できたと判断し、Ｂ評価とした。

【中期計画記載事項】
2019年 ICOM 京都大会の成果も踏まえつつ、我が国における博物館活動の先導的役割を果たすとともに、文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招へいし、国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣し、積極的に研究発表を行う。

【中期計画に対する評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
新型コロナウイルスの影響が続いている中、海外の博物館との学術交流や人的交流はオンラインにて積極的に行った。同時に、日本の伝統文化・美術を海外向けに広く紹介するために、SNSによる英語、中国語、韓国語の情報発信を継続して実施する。
訪日外国人も徐々に増加しているため、5年度以降も館内における多言語対応を改良し、外国人来館者向けのイベントを積極的に取り込むとともに、引き続き海外の博物館・美術館との交流・連携を図り、中期計画を推進する。また、デジタルメディアを活用して、持続的に発展可能な博物館国際交流及び効果的な情報発信に努めたい。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1430B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ③国内外の博物館等との学術交流等

【年度計画】・Ⅰ-1-(4)-③（４館共通）1)2)3)4)

担当部課	学芸部	事業責任者	調査・国際連携室長　降矢哲男

【実績・成果】

徐々に緩和されてきてはいるものの新型コロナウイルスの感染拡大により、国際的な人的往来が厳しく制限される状況が継続するなか、多くの事業をオンラインで行い、ウェブ会議などを積極的に活用することで以下の成果を上げることができた。

1）2）3）2年度に学術交流基本協定を締結したアメリカのサンフランシスコ・アジア美術館と当館蔵品を活用し、海外展を企画している。新型コロナウイルスの影響により、3年度9月開催予定であったが、5年度11月に延期し、翌6年度5月頃まで開催できるように準備を進めている。

1）2）3）サンフランシスコ・アジア美術館において、上記展覧会と同時期に開催が計画されている当館寄託の京都の禅宗寺院の名宝を紹介する展覧会について、寄託者、アジア美術館と協議し、開催に向けた準備を継続して行った。

2）4）国際シンポジウム「アジアの博物館教育は、いま ―国立博物館の事例から―」を5年2月4日に開催し、韓国、シンガポール、日本の研究者による事例報告とディスカッションを行った。日英中韓の同時通訳を通じて、当日会場及びWEBにより258名の参加を得た。

【補足事項】

4）バード大学院センター（5月6日、米国ニューヨーク市　オンライン参加）国際シンポジウム「Conservation Thinking in Japan」で当館職員1名が参加し、発表した。

4）アジア・ソサイエティ（6月27日、東京、ハイブリッド形式）「Art for Breakfast」シリーズとして当館職員1名が講演した。

4）「だれもが文化でつながる国際会議」(7月2日)、プレ・セッション「アジアの文化施設で広がる、社会包摂への取り組み」に参加した。

4）ICOMプラハ大会（8月20～28日　チェコ・プラハ）で当館職員1名が参加し、パネルディスカッション発表した。

4）ICOMプラハ大会（8月20～28日　チェコ・プラハ）で当館職員1名が参加し、ICDAD国際委員会セッションで座長を務めた。

4）ICOMプラハ大会（8月20～28日　チェコ・プラハ、オンライン参加）で当館職員1名が参加し、COSTUME国際委員会で発表した。

4）中国古陶瓷学会「唐三彩学術研討会」（8月28日、オンライン）で当館職員1名が参加し、研究発表した。

国際シンポジウム「アジアの博物館教育は、いま
―国立博物館の事例から―」
ディスカッション

4）ASEAN文化遺産教育国際ワークショップ（11月14日、カンボジア・プノンペン）で当館職員1名が参加し、講演した。

4）第4回世界津波博物館会議（12月15日、東北大学）で当館職員1名が参加し、パネルディスカッション発表した。

4）立命館大学ユネスコ・チェア「文化遺産と危機管理」国際研修（9月22日、京都、オンライン）で当館職員1名が講師を務めた。

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 2、3年度と同様に新型コロナウイルスの流行による制約が大きく、国を超えての研究員の招聘・派遣が困難な状況ではあったものの、ウェブ会議などオンラインツールの効果的な活用により、活発な意見交換の場を設けることができた。国際シンポジウムでは、徐々に新型コロナウイルスにともなう規制等も緩和されてきたこともあり、韓国、シンガポールから研究者が来日し、対面とオンラインを併用で行うことができた。 以上から、Ｂ評価が妥当であると考えられる。

【中期計画記載事項】

2019年ICOM 京都大会の成果も踏まえつつ、我が国における博物館活動の先導的役割を果たすとともに、文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招へいし、国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣し、積極的に研究発表を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 総じて、オンラインを活用して会議・シンポジウム等に参加し、海外の研究者や研究機関と多面的に交流することができた。とりわけ、3年度に引き続き国際シンポジウムを企画・開催し、この2年間途絶えていた対面での海外の研究者との交流を実現できたことは喜ばしい。また、今後の国際交流のあり方についての参考とするべく、3年度に試行したオンライン形式に加え、一般参加者の来場も受け付けるハイブリッド形式でのシンポジウムを実験的に開催するなど、積極的な事業展開により中期計画を順調に達成しているため、Bと評価する。

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1430C

中項目	１．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ③国内外の博物館等との学術交流等

【年度計画】
・Ⅰ-1-(4)-③（4館共通）1)、2)、3)、4)

担当部課	学芸部	事業責任者	部長　吉澤悟

【実績・成果】
（４館共通）
1)学術交流協定を締結している韓国の国立慶州博物館から2名を招聘し、情報交換を行った。
　韓国の国立扶余博物館研究員と展示や環境調査に関して当館において意見交換を行った。
　韓国の国立益山博物館研究員と展示や教育事業に関して当館において意見交換を行った。
2)職員6人を海外に派遣し、現地の研究者と交流を図った。
　インドネシア1名、米国4名、英国・仏国1名。
3)セインズベリー日本藝術研究所、大英博物館、敦煌財団及び米国斎藤財団と意見交換を行った。
4)東京国立博物館主催の海外ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業専門家会議、国際交流オンラインセミナー日韓博物館の保存科学設備の活用及び展望に職員を派遣した。浙江省博物館主催の国際シンポジウム「博物館と地域振興」に職員を派遣し、講演「外国人観光客の影響による博物館の変化　―奈良国立博物館を例として―」を行った。

【補足事項】

韓国・国立慶州博物館長との
文化財展示に関する意見交換

米国における調査

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 3年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響により海外との人的交流に制約がある状況であったが、学術協力を結ぶ韓国の博物館から研究員の招聘を再開できたこと、また、職員を海外の研究機関に派遣できたことは大きい。他にも、諸外国の研究員との対面・オンラインでの意見交換や、国際シンポジウムでの発表など、時宜に適った学術交流を行うことができ、着実に計画を実行した。

【中期計画記載事項】
2019年 ICOM 京都大会の成果も踏まえつつ、我が国における博物館活動の先導的役割を果たすとともに、文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招へいし、国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣し、積極的に研究発表を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルス感染拡大以降、初めて海外の研究者の招聘、職員の海外への派遣、対面での海外研究者との交流が実現した。また、継続してオンラインを活用した学術交流も行っている。このように、感染症対策を講じながら多様な形で海外との学術交流を実現しており、中期計画は順調に遂行できている。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1430D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ③国内外の博物館等との学術交流等

【年度計画】
・Ⅰ-1-(4)-③（４館共通）1）、2）、3）、4）
・Ⅰ-1-(4)-③（九州国立博物館）1）

担当部課	学芸部博物館科学課 交流課 総務課	事業責任者	課長　木川りか 課長　田中篤 課長　執行正一

【実績・成果】
（４館共通）
1)2)3)4)
タイ、フランス、ドイツなど4か国の博物館、美術館等へ、延べ5人派遣し、各自の研究テーマに係る研究の推進及び研究交流を行った。
カナダ保存研究所(CCI)の研究者と、対面及び一部オンラインで、日本美術の色材の劣化に関する研究協議を実施した。今後も、さらに学術交流を一層進めていく計画である。

カナダ保存研究所の研究者とのオンライン研究協議（9 月 22 日）

（九州国立博物館）
1)
・日米両国間の学識者80人が集い、両国の文化・教育交流に関する諸問題や文化・教育分野での交流増進等を目的とする「日米文化教育交流会議(カルコン)」国際シンポジウムを共催した。（10月24日）
・学術文化交流協定を締結した韓国国立公州博物館・扶餘博物館と相互訪問の再開に向けて協議し、両館を館長が訪問した（5年2月8日～9日）。
・タイ芸術局、ベトナム国立歴史博物館及び成都博物館との学術文化交流協定を更新した。

カルコン・シンポジウム（10 月 24 日）

【補足事項】

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 学術研究交流では対面とオンラインを併用して推進した。「日米文化教育交流会議(カルコン)」では、日米の政府関係者や学識経験者等が多数集いシンポジウム、ランチ・セッション及び展示室観覧を通じて日米の相互理解を深めた。韓国とは交流再開に向けた取り組みを推進し、タイ、ベトナム及び中国とは学術文化交流協定を更新した。以上の成果から、年度計画を達成できたと評価し、Ｂ評定とした。

【中期計画記載事項】
2019年ICOM 京都大会の成果も踏まえつつ、我が国における博物館活動の先導的役割を果たすとともに、文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招へいし、国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣し、積極的に研究発表を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルスの影響のため、海外渡航を伴う相互交流には今なお制限が残るが、オンラインだけでなく、対面による国際会議を開催し、交流再開のための取り組みを進めた。中期計画に基づき、渡航に伴う制限が解除されたら活発に相互交流するための環境整備を進めたことから、Ｂ評価とした。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1440A

中項目	１．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ④調査研究成果の公表

【年度計画】
・Ⅰ-1-(4)-④（東京国立博物館、京都国立博物館）1)
・Ⅰ-1-(4)-④（東京国立博物館）1）、2)、3)、4)

担当部課	学芸企画部企画課 学芸企画部博物館情報課 学芸研究部調査研究課	事業責任者	課長　原田あゆみ 課長　村田良二 課長　松嶋雅人

【実績・成果】
（東京国立博物館、京都国立博物館）
1)・『東京国立博物館文化財修理報告 23』PDFファイルを当館ウェブサイトで公開し、研究情報の普及を図った。
（東京国立博物館）
1)・「東京国立博物館研究情報アーカイブス」の運用を継続し、インターネットを活用した収蔵品・調査研究等に関する情報公開の充実を図った。
・特集印刷物リーフレット等10件のPDFファイル版を当館ウェブサイト上に全件公開することによって、研究情報の普及を図った。
・「東京国立博物館研究情報アーカイブズ」に「『大小暦類聚』データベース」を追加した。また、各研究員の研究成果を継続して更新し、インターネットを活用した情報公開の充実を図った。
2)・『東京国立博物館紀要 58 号』を刊行した。
・『法隆寺献納宝物特別調査概報 XLII(42) 竜首水瓶』(3 年度編集完了）を刊行した。
・刊行物リポジトリの準備作業を行った。
・『修理調査報告 五馬図巻』『東京国立博物館セレクション 絵巻』『続 根付　高円宮コレクション』『東京国立博物館 考古室へいこう』（考古室ガイドブック）等を刊行した。
・『博物館でアジアの旅　アジア大発見！』を刊行した。
・特別展・特別企画展図録 4 件、特集等印刷物 16 件（ﾘｰﾌﾚｯﾄ 10 件、冊子 6 件）を編集した。
3)・研究誌『MUSEUM』697 号～702 号（6 冊）を刊行した。

【補足事項】

【評価指標】	4年度実績	目標値	評定	経年変化	30	元	2	3
有形文化財の収集・保管・展示等に係る調査研究件数	32件	-	-		31	36	25	27

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 「東京国立博物館研究情報アーカイブズ」で新規に1件のデータベースを公開した。本データベースについては、関連学会においても発表され今後の活用が期待される。「東京国立博物館研究情報アーカイブズ」では研究員の調査研究活動等に関する情報も随時公開した。また、紀要、『MUSEUM』等の定期刊行物を刊行するとともに、文化財修理報告等を刊行することができた。加えて、150周年記念特集展示の刊行物を増やすことで充実した情報を提供し、特集印刷物リーフレットのPDFファイル版をウェブサイトに掲載することでさらなる情報公開に努めた。さらに、リポジトリ導入準備として、過去の刊行物のリスト作成や校正作業を進めた。刊行物リポジトリを導入するためには、必要な経費を予算化する必要がある。なお「博物館ニュース」については3年度からⅠ-1-(3)教育・普及活動へまとめている。

【中期計画記載事項】
文化財等に関する調査研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧事業に関わる刊行物などで発表するとともに、ウェブサイトでの公開等、調査研究成果の発信を更に拡充する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 研究紀要、学術雑誌並びに展覧事業に関わる刊行物などを順調に刊行した。近年の追加寄贈によって、重版となっている『根付』続編の刊行もでき、販売部数を伸ばすことができた。『東京国立博物館文化財修理報告』はウェブサイトでの公開を開始し、特集展示リーフレットをはじめとして、インターネットを活用した調査研究成果の発信を行うことができた。

【書式Ａ】　施設名　京都国立博物館　処理番号　1440B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究　④調査研究成果の公表

【年度計画】
・Ⅰ-1-(4)-④（東京国立博物館、京都国立博物館）1）、（京都国立博物館）1)、2)

担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長　山川曉 調査・国際連携室長　降矢哲男 保存修理指導室長　大原嘉豊

【実績・成果】
（東京国立博物館、京都国立博物館）
1)『文化財保存修理所　修理報告書』20を刊行した。

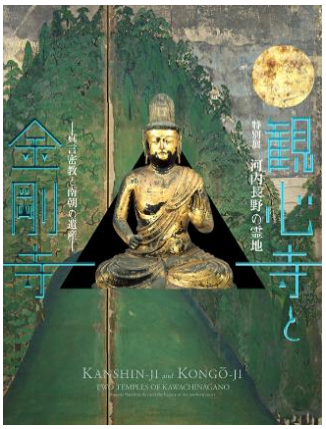
（京都国立博物館）
1）研究紀要である『学叢』44を刊行した。
2)『社寺調査報告』32（観心寺彫刻編）を編集・刊行した。

『学叢』第 44 号

【補足事項】
（京都国立博物館）
・『文化財保存修理所　修理報告書』20は、元年度に文化財保存修理所で修理が完了した作品を掲載している（修理報告149件、銘文報告15件）。国指定の文化財及び当館以外の国立博物館が管理する作品はそれぞれ報告書が刊行されるため割愛している。

・『社寺調査報告』32（観心寺彫刻編）　は、檜尾山観心寺（大阪府河内長野市）所蔵の文化財悉皆調査の報告書である。悉皆調査が未完了であったため、4年度刊行の『社寺調査報告』31（観心寺）では掲載を見送った彫刻について、別途補足調査を実施して報告書を作成したものである。

・特別展『河内長野の霊地　観心寺と金剛寺―真言密教と南朝の遺産―』の図録を編集・発行した。
・特別展『京に生きる文化　茶の湯』の図録を編集した（発行は読売新聞社）。
・親鸞聖人生誕850年特別展『親鸞―生涯と名宝』の図録を編集した（発行は朝日新聞社、ＮＨＫ京都放送局、ＮＨＫエンタープライズ近畿）。
・特別展『東福寺』の図録を東京国立博物館と共に編集した（発行は読売新聞社）。



特別展『河内長野の霊地』図録

【定量的評価】項目	4年度実績	目標値	評定	経年変化	30	元	2	3
有形文化財の収集・保管・展示等に係る調査研究件数	16件	－	－		17	11	12	13

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウィルス感染症流行に伴う規制が緩和されたため、未完了であった観心寺所蔵品（彫刻）の悉皆調査を終えることができ、年度計画通り各種報告書や展覧会の図録を刊行することができた。また、研究紀要である『學叢』には、最新の研究成果を論文として掲載し、質の高いものとすることができた。

【中期計画記載事項】
文化財等に関する調査研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧事業に関わる刊行物などで発表するとともに、ウェブサイトでの公開等、調査研究成果の発信を更に拡充する。なお、定期刊行物等を前中期目標の期間の実績以上刊行する。

【中期計画に対する評価】 評定：Ａ	【判定根拠、課題と対応】 展覧会図録・研究紀要・各種報告書とも計画通り刊行できているだけでなく、中期計画策定時点では予定していなかった自主企画の特別展である『河内長野の霊地　観心寺と金剛寺―真言密教と南朝の遺産―』の図録を自前の予算で編集・発行までしたことから、Ａと評価する。研究紀要である『學叢』は、刊行後10年を経過した時点で全文をWEB掲載する作業を継続しており、引き続きインターネットも活用して研究成果の発信に努める。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1440C

中項目	1．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究　④調査研究成果の公表

【年度計画】
・Ⅰ-1-(4)-④（奈良国立博物館）1)、2)

担当部課	学芸部	事業責任者	部長　吉澤悟

【実績・成果】
（奈良国立博物館）
1)『鹿園雑集』第 25 号を刊行した。また、奈良国立博物館リポジトリにも掲載した。
2)『奈良国立博物館 文化財保存修理所 修理報告書』第 5 号を 5 年 3 月に刊行した。また、修理報告資料を整理しデータベース化に努めた。

【補足事項】
1）掲載内容は、作品研究 2 件、研究ノート 1 件、調査報告 1 件、研究報告 1 件であった。
2）掲載内容は、修理概要 13 件、関係銘文集 6 件、材質調査（木造）3 件であった。

『鹿園雑集』第 25 号

文化財修理報告書

【定量的評価】項目	4年度実績	目標値	評定	経年変化	30	元	2	3
有形文化財の収集・保管・展示等に係る調査研究件数	14	－	－		17	18	15	15

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 刊行物については、定期刊行物、報告書とも、当初予定していたものを全て刊行することができた。また、研究紀要については、当館研究員のみならず外部研究者による寄稿を掲載するなど、例年通り充実の内容できたため、年度計画の通り刊行できたと考え、B評価とした。

【中期計画記載事項】
文化財等に関する調査研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧事業に関わる刊行物などで発表するとともに、ウェブサイトでの公開等、調査研究成果の発信を更に拡充する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 刊行物については、計画していた出版物を順調に刊行している。研究紀要については、継続的に調査研究の成果を掲載しており、刊行・ウェブサイトでの公開等も着実に実施できている。以上のことから、中期計画を遂行できているといえ評価をBとした。 5年度以降も、刊行物及びウェブサイトを通じて調査研究の成果を発信していく。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1440D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ④ 調査研究成果の公表

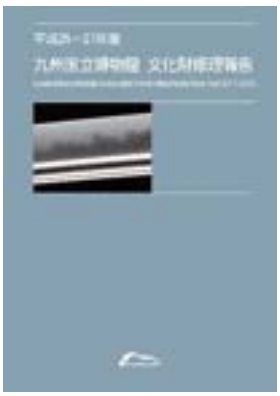
【年度計画】
・Ⅰ-1-(4)-④（九州国立博物館）1)、2)

担当部課	学芸部企画課 学芸部博物館科学課	事業責任者	課長　伊藤信二 課長　木川りか

【実績・成果】
（九州国立博物館）
1)研究紀要『東風西声』第18号を刊行した（部数900部）。
2)『平成25-27年度　九州国立博物館 文化財修理報告』（発行部数600部）を編集、刊行した。

【補足事項】
（九州国立博物館）
1)『東風西声』第18号では9本の論文を掲載した。（うち当館職員執筆6本、外部研究者からの寄稿1本、外部研究者と当館職員の共同執筆2本)。
2)『平成25-27年度　九州国立博物館 文化財修理報告』(第5号）では、25年度～27年度に当館文化財保存修復施設で行った修理及び当館経費による館外での修理の記録を掲載した。対象文化財の基本的情報、施工会社、修理前後の写真、使用材料、修理で得られた知見等を公開し、今後の修理の参考とするだけでなく、学術研究、修理事業の普及啓発など多方面での活用に資する内容を公開した。報告書は、現状では紙媒体にとどまっているが、将来的にはインターネット上での公開も検討している。5年度以降も順次刊行を推進したい。

東風西声第 18 号表紙


平成 25-27 年度
文化財修理報告表紙

【定量的評価】項目	4年度実績	目標値	評定	経年変化	30	元	2	3
有形文化財の収集・保管・展示等に係る調査研究件数	10件	-	-		16	18	18	12

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 研究紀要や特別展、特集展示等の図録等を刊行し、調査研究の成果を公表した。また、文化財修理に係る記録を『九州国立博物館　文化財修理報告』第5号で報告し、年度計画を達成したことからＢ評定とした。

【中期計画記載事項】
文化財等に関する調査研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧事業に関わる刊行物などで発表するとともに、ウェブサイトでの公開等、調査研究成果の発信を更に拡充する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画に沿って予定どおりに図録、研究紀要、報告書などを刊行し、調査研究の結果を広く公表することができた。引き続き、当館の調査研究等の取り組みを広く公開するために、計画的な刊行に努める。さらに、刊行物のリポジトリ公開についても、実現に向けて技術的、権利的な検討を引き続き継続する。以上の成果から、課題解決を図りつつ中期計画を円滑に推進しており、Ｂ評定とした。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1510A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（５）国内外の博物館活動への寄与　①国内外の博物館等への有形文化財の貸与

【年度計画】
・Ⅰ-1-(5)-①（4館共通）1)、2)
・Ⅰ-1-(5)-①（東京国立博物館）1)、2)、3)

担当部課	学芸研究部列品管理課	事業責任者	課長　沖松健次郎

【実績・成果】
（４館共通）
1)国外内の博物館等116機関に1,075件の作品を貸与した。
2)文化財活用センターと東京国立博物館は共同で東京国立博物館収蔵品貸与促進事業を実施した。国内の博物館等6機関に84件の作品を貸与した。
（東京国立博物館）
1)長崎歴史文化博物館等の平常展示のため、年度を越えた長期貸与を実施した。
2)海外の博物館等4機関に19件の作品を貸与した。
3)文化財活用センターと共同で東京国立博物館収蔵品貸与促進事業を実施し、6機関に84件の作品を貸与した。

【補足事項】
（４館共通）
2)日本およびアジアの歴史・文化への理解を進めるとともに、地方創生および観光振興に寄与することを目指し、各開催館までの往復輸送費・保険料・職員出張費を負担する「東京国立博物館収蔵品貸与促進事業」を実施した。大規模貸与として沖縄県立博物館・美術館と鹿児島県歴史・美術センター黎明館、小規模貸与として刈谷市歴史博物館ほか4機関に東京国立博物館収蔵品を貸与した。
（東京国立博物館）
2)中国国家博物館に10件、大韓民国リウム美術館に2件を貸与した。
3)当館収蔵品貸与促進事業のうち大規模貸与事業として沖縄県立博物館・美術館（会期: 10月14日～12月4日）に28件、鹿児島県歴史・美術センター黎明館 令和4年度黎明館企画特別展「茶の湯と薩摩」（会期：9月22日～11月6日）に23件を貸与したことをはじめ、小規模貸与事業として刈谷市歴史博物館 企画展「伊勢物語とかきつばた」（会期：4月23日～6月5日）に2件、島根県立古代出雲歴史博物館 企画展「ハニワの世界へようこそ」（会期：7月1日～8月28日）に9件、足利市立美術館「あしかがの歴史と文化　再発見！－鎌倉殿の義弟 足利義兼の祈り　大日如来坐像―」（会期：7月30日～10月10日）に16件、滋賀県立安土城考古博物館 令和4年度秋季特別展　開館30周年記念「里帰り！日本最大の銅鐸 太古の響きを安土の地で」（会期：10月8日～11月20日）に6件を貸与した。
を貸与した。

【評価指数】項目	4年度実績	目標値	評定	経年変化	30	元	2	3
貸与件数	1,075件	－	－		1,355	954	806	990
うち国内の貸与件数	1,056件	－	－		1,225	864	794	969
うち国外の貸与件数	19件	－	－		130	90	12	21

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	国内の博物館等の112機関に1,056件、海外の博物館・美術館の4機関に19件の収蔵品を貸与し、国内外の展覧会の開催に協力した。 貸与促進事業は、6機関に84件の収蔵品貸与行い、各地域ゆかりの文化財の展示に貢献した。

【中期計画記載事項】
収蔵品については、その保管・展示状況、コンディション、貸出先の施設の状況等を総合的に勘案しつつ、国内外の博物館等の要請に応じて、展示等の充実に寄与するため、貸与を実施する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	新型コロナウイルス感染症の感染対策を講じながら、中期計画に基づき、国外内の博物館等の出品要請に応じて、貸与を実施した。 5 年度以降も文化財活用センターとの連携を深めるとともに、有意義な展覧会に貸与を実施し、国内外の博物館活動に寄与できるよう、協力依頼に積極的に応じる。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1510B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（５）国内外の博物館活動への寄与　①国内外の博物館等への有形文化財の貸与

【年度計画】
・Ⅰ-1-(5)-①（４館共通）1)、2)、(京都国立博物館）1)、2)

担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長　羽田聡

【実績・成果】
（4館共通）
1)国内の70機関（機関は延べ件数）に対し、計263件の収蔵品を貸与した（館蔵品：123件、寄託品：140件)。
2)263件のうち、4年度国立博物館収蔵品貸与促進事業での収蔵品貸与は1件である。
（京都国立博物館）
1)京都国立近代美術館及び大阪市立美術館の平常展示のため、引き続き館蔵品を9件長期貸与した。
2)宮崎県立西都原考古博物館、熊本県教育委員会、京都大学総合博物館の計3館との間で考古資料の相互貸借事業を実施した。

【補足事項】
（4館共通）
2)収蔵品の貸与に際しては、貸出先の保管、警備体制、虫害対策、展示環境等を総合的に判断しながら、貸出先の要望に応じた。

京都府京都市樫原盆山出土
瓦経

宮崎県宮崎市大淀出土
横瓶

熊本県菊池郡大津町真木祝屋敷遺跡出土
銅戈

【定量的評価】項目	4年度実績	目標値	評定	経年変化	30	元	2	3
貸与件数	263件	－	－		289	348	286	314
うち国内の貸与件数	263件	－	－		274	347	286	314
うち国外の貸与件数	0件	－	－		15	1	0	0

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
年度計画に基づき、収蔵品の状態と貸出先の環境を勘案しながら、国宝・重要文化財を含む収蔵品を、国内の博物館に貸与した。また、4年度も考古資料の相互貸借事業を実施し、出土地の地元にある博物館での展示・公開を実現することができたため、B評価とする。

【中期計画記載事項】
収蔵品については、その保管・展示状況、コンディション、貸出先の施設の状況等を総合的に勘案しつつ、国内外の博物館等の要請に応じて、展示等の充実に寄与するため、貸与を実施する。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
収蔵品の保存状態や展示期間を十分に勘案した上で、貸出先の保管・展示環境も考慮し、可能な範囲で要請に応じており、中期計画を順調に遂行できている。更に海外への収蔵品貸与については、新型コロナウイルスの影響により実現はできていないものの3年度より継続して協議を重ねており、また打診等も来ていることから、5年度以降も可能な限り要請に応じて協力していきたい。

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　1510C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（５）国内外の博物館活動への寄与　①国内外の博物館等への有形文化財の貸与

【年度計画】。
・Ⅰ-1-(5)-①（4館共通）1)、2)

担当部課	学芸部	事業責任者	部長　吉澤悟

【実績・成果】
（４館共通）
1）収蔵品と寄託品を国内合わせて 26 の機関に計 113 件の貸出を行った。
2）文化財活用センターの国立博物館収蔵品貸与促進事業による貸与はなかった。

【補足事項】
（4館共通）
1）収蔵品・寄託品の貸与
・貸与先26件の内訳
　国立3件、公立17件、私立6件、海外0件
・貸与作品113件の内訳
　国宝13件（館蔵品4件、寄託品9件）
　重要文化財19件（館蔵品8件、寄託品11件）
　その他81件（館蔵品64件、寄託品17件）
　貸与した館蔵品76件の内訳
　　絵画15件、彫刻2件、書跡8件、工芸25件、考古24件、建築2件
　貸与した寄託品37件の内訳
　　絵画16件、彫刻6件、書跡5件、工芸5件、考古5件

写真上：大谷大学博物館　特別展「仏法東帰」貸与、
　　国宝　金光明最勝王経　巻第三（当館所蔵）
写真下：九州歴史資料館　特別展
　　「京都平野と豊国の古代」　貸与、
　　国宝　豊前国仲津郡丁里大宝二年戸籍断簡
　　（当館所蔵）

【定量的評価】項目	4年度実績	目標値	評定	経	30	元	2	3
貸与件数	113件	－	－	年	134	136	107	252
うち国内の貸与件数	113件	－	－	変	109	133	107	252
うち国外の貸与件数	0件	－	－	化	25	3	0	0

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
新型コロナウィルス感染症の流行の情勢も影響して、貸与希望館数は控え目であったが、国宝・重要文化財が合計32件貸し出されるなど、各地の展覧会へ寄与した。特に、九州歴史資料館への「豊前国仲津郡丁里大宝二年戸籍断簡」貸与のような、文化財の当初の所在地への貸し出しが複数あり、地域の文化振興に寄与することが出来たことから、年度計画を実行できたと判断される。

【中期計画記載事項】
収蔵品については、その保管・展示状況、コンディション、貸出先の施設の状況等を総合的に勘案しつつ、国内外の博物館等の要請に応じて、展示等の充実に寄与するため、貸与を実施する。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
相手機関の貸し出しの要望にできる限り応じつつ、作品のコンディションも保持するため、先方の展示・収蔵環境の改善についてアドバイスを行う、展示作業に当館職員が協力するといった条件を付した上で貸し出しを許可するなど、柔軟な対応を行い、各地の展示施設の展覧会の実施に貢献することができた。以上から、中期計画を着実に遂行できているといえ、B評価とした。5年度以降も、貸与先の状況など十分に審議を重ねつつ、要請に応じていけるよう努めていきたい。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1510D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（５）国内外の博物館活動への寄与　①国内外の博物館等への有形文化財の貸与

【年度計画】
・Ⅰ-1-(5)-①（４館共通）1)、 2)
・Ⅰ-1-(5)-①（九州国立博物館）1)

担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	課長　白井克也

【実績・成果】
国内延べ24機関に延べ128件の収蔵品を貸与した。（東京国立博物館からの長期管理換品を含む。巡回展等で複数館に貸与した場合は、それぞれ機関数と収蔵品件数をカウントしている。）
所蔵品の貸与件数：延べ99件（うち重要文化財7件）
寄託品の貸与件数：延べ29件（うち重要文化財1件、東京国立博物館からの長期管理換品を含む）

【補足事項】
（九州国立博物館）
貸与先機関と貸与件数は下記のとおりである。
（※印は文化財活用センターが実施する「国立博物館収蔵品貸与促進事業」対象事業。）
1)　国内の貸与先機関
・国立機関
東京国立博物館18件（16件（3年度から4年度にかけて貸与）／2件〈台東区立書道博物館と共催〉、
国立アイヌ民族博物館1件
・地方公共団体及び公立博物館・美術館
（福岡県内）
甘木市歴史資料館3件（長期貸与）、伊都国歴史博物館5件（長期貸与3件／
通常貸与2件）、小郡市埋蔵文化財センター5件（長期貸与）、求菩提資料館2件
（長期貸与）、九州歴史資料館5件
（福岡県外）
岡山県立美術館13件、あいち朝日遺跡ミュージアム1件、※鹿児島県歴史・美術センター黎明館7件、鹿児島県上野原縄文の森19件、山口県立美術館4件（根津美術館と共催）、神戸市立博物館2件、※沖縄県立博物館・美術館22件、長崎歴史文化博物館3件、都城島津邸2件、大分県立歴史博物館2件、台東区立書道博物館に2件（東京国立博物館と共催）、山梨県立博物館に6件
・私立博物館・美術館及び私立団体
公益財団法人古都大宰府保存協会大宰府展示館1件、根津美術館4件（山口県立美術館と共催）、五島美術館1件
2)　海外の貸与先機関
貸与なし。

重要文化財「徳有鄰」印

【定量的評価】項目	4年度実績	目標値	評定	経年変化	30	元	2	3
貸与件数	128件	－	－		80	50	36	132
うち国内の貸与件数	128件	－	－		80	44	35	130
うち国外の貸与件数	0件	－	－		0	6	1	2

【年度計画に対する総合評価】
評定：A

【判定根拠、課題と対応】
3年度と同等の貸与先件数・収蔵品貸与件数となった。文化財活用センターが実施する「国立博物館収蔵品貸与促進事業」において、2機関・29件の貸与を行い、当該2機関の展覧会開催に寄与することができた。
当館収蔵品の充実化、ColBaseや当館収蔵品データベースの拡充に伴い、4年度まで当館からの貸与実績がなかった機関からの貸与依頼が増加した。各地域におけるゆかりの当館収蔵品の活用、各機関の展覧会の充実化に貢献できた。
また、福岡県内の博物館・資料館への長期貸与を行い、福岡や九州の文化財の魅力の地域発信に寄与することができた。
以上、重要文化財8件を含む128件の文化財を適切に貸与し、各博物館・美術館の展覧会の充実化に貢献できた。年度計画を大きく上回る成果となったため、A評定とした。なお、新型コロナウイルスの影響のためか、国外機関からの出品依頼はなかった。

【中期計画記載事項】
収蔵品については、その保管・展示状況、コンディション、貸出先の施設の状況等を総合的に勘案しつつ、国内外の博物館等の要請に応じて、展示等の充実に寄与するため、貸与を実施する。

【中期計画に対する評価】
評定：A

【判定根拠、課題と対応】
当館博物館科学課環境保全室とともに出品要請機関の状況等を総合的に勘案して、適切に貸与を実施した。当館収蔵品の貸与を通じて、国内の博物館・美術館の展覧会の展示の充実に大きく寄与することができた。
「国立博物館収蔵品貸与促進事業」での貸与や、4年度まで当館が貸与したことがなかった機関への貸与、また地域の博物館・資料館への長期貸与等を通じて、国内の博物館・美術館の展覧事業に協力することができたことから、A評定とした。
5年度も引き続き、国内外への収蔵品貸与を通じて、当館の収蔵品の魅力を広く発信していく。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1520A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（５）国内外の博物館活動への寄与　②国内外の博物館等への援助・助言等

【年度計画】
・Ⅰ-1-(5)-②（４館共通）
・Ⅰ-1-(5)-②（東京国立博物館）

担当部課	学芸研究部	事業責任者	部長　救仁郷秀明

【実績・成果】
（4館共通）
1)公私立博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等に対し、122件の援助・助言を行った。
・文化庁、地方公共団体、公私立博物館等の文化財関係事業に関する助言・協力　45件
　文化庁、公益財団法人日本博物館協会、東京都立上野高校、公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団、国立美術館 ほか
・文化財の展示・展覧会の運営に関する援助・助言　14件
　宗教法人 平等院、一般社団法人アートパワーズジャパン、NHK　ほか
・文化財の調査・保存・修理に関する助言・指導　18件
　永青文庫、明治大学博物館、宮内庁三の丸尚蔵館、石山寺　ほか
・講演・セミナー・審査等での協力　19件
　公益財団法人三重県文化振興事業団、福岡県立美術館、公益財団法人日展、一般社団法人 照明学会　ほか
・博物館等の運営・事業・環境に関する援助・助言　26件
　福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館、松戸市立博物館、大分県立歴史博物館、茨城県立歴史館　ほか

また、3年度より新たに保管文化財に対する特殊な機材を用いた計測、非破壊による材質・成分等の調査、その他、特別観覧に該当しない撮影による調査等の外部からの調査協力依頼に対し、調査協力をする事業を開始したが、4年度も引き続き行った。
・東京国立博物館保管文化財の調査協力　6件（件数については参考値とし、援助・助言件数には含めない。）
　京都府立大学、宮内庁書陵部陵墓課、富山大学、群馬県立歴史博物館、大阪大学　ほか
（東京国立博物館）
1)新規貸与館に対する環境調査を実施し、指導助言を行った。
　環境調査を実施した新規貸与館は、10館。(参考：文化財活用センター貸与促進事業関係　2件)

【定量的評価】項目	4年度実績	目標値	評定	経年変化	30	元	2	3
援助・助言等の件数	122件	-	-		131	139	78	98

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	4年度はコロナ禍における活動制限の緩和の影響もあり、3年度に比べると件数は増加した。例年同様に、公私立博物館・美術館で開催される展覧会や運営等についての援助や助言、新規貸与館への環境調査を適切に行うことができた。 また、3年度より開始した公私立博物館・美術館、大学、その他研究機関の要請に応じた保管文化財の調査協力も引き続き行うことができた。

【中期計画記載事項】
国内外の博物館等からの要請に応じて、専門的・技術的な援助・助言を行うとともに、ICOM、ICOMOS 等の国際機関とも連携しつつ、博物館関係者の情報交換を推進し、人的ネットワークの形成等を図る。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	中期計画の2年目となる4年度は、活動制限の緩和に伴い展覧会事業が再開する中で、援助・助言の件数もコロナ禍前の水準に戻りつつある。その中で、技術的・専門的な援助・助言を適切に実施することができた。 5年度以降も、感染拡大防止に配慮しつつ、可能な限り積極的に対応し、文化財の保存活用に寄与していきたい。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1520B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（５）国内外の博物館活動への寄与　②国内外の博物館等への援助・助言等

【年度計画】
・Ⅰ-1-(5)-②（４館共通）1)、(京都国立博物館）1)

担当部課	学芸部	事業責任者	部長　尾野善裕

【実績・成果】
（４館共通）
1)行政、公私立博物館等の各種委員等への就任などを含め、博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を131件実施した。
・文化庁、地方公共団体、公私立博物館等の文化財関係事業に関する助言・協力（各種委員会等の委員としての助言を含む）
　文化庁文化審議会（文化財分科会）など官公庁の各種委員会への助言・協力
　京都府、大阪府、大阪市、滋賀県、三重県、静岡市など地方公共団体の文化財保護審議会委員等として助言など
・文化財の展示・展覧会の運営に関する援助・助言
　姫路市立美術館、石水博物館などの国内の博物館・美術館等への展示助言など
・文化財の調査・保存・修理に関する助言・指導
　「法隆寺金堂壁画保存活用委員会」壁画ワーキンググループ（材料調査班）専門委員として協力など
・講演・セミナー・審査等での協力
　京都大学、京都工芸繊維大学、立命館大学、同志社女子大学、國學院大學など、大学の非常勤講師として協力など
・博物館等の運営・事業・環境に関する援助・助言
　京都国立近代美術館、兵庫県立考古博物館への協力など

　ウェブ会議システムを活用し、国際研修としてUNESCOチェアITC-DRMCHに協力し、京都国立博物館の展示・収蔵環境、減災対策などの安全対策への取り組みについて情報発信を行った。また知恩院との連携研究である展示・保管環境に関する調査・研究は、昨年度のデータ解析から、今年度新たに照度や空気質対策を実施し効果が得られた。文化財資料の保管環境に関する助言として、4年度は立像2躰について転倒防止対策に関する研究を実施し、社寺等への助言を行った。

（京都国立博物館）
1)調査・国際連携室長 降矢哲男、企画室長 山川暁、保存修理指導室主任研究員 福士雄也を中心に、各分野研究員と畠山記念館学芸員とも共同で調査研究を行った。

【補足事項】
（４館共通）
1)
・文化財の展示・保管環境に関する指導・助言：知恩院、三仏寺、念仏寺
・文化財の展示・保管環境・安全対策に関する講演・研修などでの協力： UNESCOチェアITC-DRMCH
・文化財の調査・修理に関する指導・助言：林原美術館、長浜市、京都府、京都市、丸亀市、鳥取県、染技連

【定量的評価】項目	4年度実績	目標値	評定	経年変化	30	元	2	3
援助・助言等の件数	131件	－	－		140	152	137	129

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	国内の様々な機関の要請に対し、職員が各々の専門性に応じて、131件の援助・助言・指導及び協力を行った。 文化財防災に関して、引き続き多国籍の研究者へ向けた発信をし、さらにシミュレーションによる転倒防止対策に関しても成果を発表することができた。各国の状況によるが、多様な防災システムに関する情報発信が必要といえる。

【中期計画記載事項】
国内外の博物館等からの要請に応じて、専門的・技術的な援助・助言を行うとともに、ICOM 、ICOMOS 等の国際機関とも連携しつつ、博物館関係者の情報交換を推進し、人的ネットワークの形成等を図る。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	4年度も3年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響があり、国外機関への指導等はなかったが、援助・助言等の件数としては多くの要請に応じることができたため、中期計画を順調に遂行できている。 引き続き、文化財防災センターとの連携協力を図るとともに、当館の防災対策の取り組みについても、国内外研究者との情報交換・人的交流を通じて広く発信していく。さらにシミュレーション等で得られたデータから、減災対策に関する基礎的研究を継続し、簡便に実施できる対策について検討していく。

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　1520C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（５）国内外の博物館活動への寄与　②国内外の博物館等への援助・助言等

【年度計画】公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を行う。
・Ⅰ-1-(5)-②（４館共通）1）

担当部課	学芸部	事業責任者	部長　吉澤悟

【実績・成果】
（４館共通）
・援助・助言を67件実施した。
・以下の展覧会に学術協力として援助・助言を行った。
渋谷区立松濤美術館　「SHIBUYAで仏教美術―奈良国立博物館コレクションより」4月9日～5月29日
松本市美術館　御大典記念特別展「よみがえる正倉院宝物―再現模造にみる天平の技―」4月21日～6月12日
北海道立近代美術館　「聖徳太子1400年御遠忌記念　国宝・法隆寺展」9月3日～10月30日
東北歴史博物館　東日本大震災復興祈念　特別展「悠久の絆　奈良・東北のみほとけ展」5年4月15日～6月11日

【補足事項】
以下のとおり、援助・助言を行った。
・文化庁、地方公共団体、公私立博物館等の文化財関係事業に対する助言・協力　19件
　奈良県、文化庁、宮内庁、鳥取県、三重県、山口市教育委員会ほか
・文化財の展示・展覧会の運営に関する援助・助言　7件
　渋谷区立松濤美術館、松本市美術館、北海道立近代美術館、東北歴史博物館、三重県総合博物館、栃木県立博物館、群馬県立歴史博物館
・文化財の調査・保存・修理に関する助言・指導　16件
　法隆寺金堂壁画保存活用委員会、国宝智証大師関係文書典籍保存活用専門委員会ほか
・講演・セミナー・審査等での協力　16件
　奈良女子大学、京都府立大学、神戸大学ほか
・博物館等の運営・事業・環境に関する援助・助言　9件
　大和文華館、松伯美術館、日本工芸会ほか

北海道立近代美術館　国宝・法隆寺展

渋谷区立松濤美術館　「SHIBUYA で仏教美術―奈良国立博物館コレクションより」講演

【定量的評価】項目	4年度実績	目標値	評定	経年	30	元	2	3
援助・助言等の件数	67 件	－	－	変化	71	66	50	68

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	国内各地域の様々な館の要請に対し、近年の水準と比較して遜色のない件数に応じることができた。中でも、他館の要請による当館のコレクション展の外部開催は新たな試みであり、他館の展覧会に対して作品選定から展示指導まで積極的に援助を行うことができ、着実に年度計画を実行できた。

【中期計画記載事項】
国内外の博物館等からの要請に応じて、専門的・技術的な援助・助言を行うとともに、ICOM 、ICOMOS 等の国際機関とも連携しつつ、博物館関係者の情報交換を推進し、人的ネットワークの形成等を図る。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	4年度も、新型コロナウイルスの影響で制約がある中、国内外の博物館や地方公共団体の要請に応じ、前年度と同程度の件数の指導・助言を行うことができた。この点から中期計画を遂行できていると判断する。今後も実地に加えウェブ会議システムを活用し、国内外の館に対し効果的な指導・助言を行っていきたい。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1520D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（５）国内外の博物館活動への寄与　②国内外の博物館等への援助・助言等

【年度計画】
・Ⅰ-1-(5)-②（４館共通）1)
・Ⅰ-1-(5)-②（九州国立博物館）1)、 2)

担当部課	学芸部	事業責任者	部長　河野一隆

【実績・成果】
（４館共通）
1)以下のとおり、公私立の博物館・美術館等に対する援助・助言を行い、年度計画どおり事業を実施できた。
・文化庁、地方公共団体、公私立博物館等の文化財関係事業に関する助言・協力（各種委員会等の委員としての助言を含む（51件）
・文化財の展示・展覧会の運営に関する援助・助言（1件）
・文化財の調査・保存・修理に関する助言・指導（6件）
・講演・セミナー・審査等での協力（29件）
・博物館等の運営・事業・環境に関する援助・助言（10件）
（九州国立博物館）
1)「古文書保存基礎講座」については、実習中心の講座であることから新型コロナウイルスの感染拡大状況を勘案し、4年度は実施を見送った。
2)11月15日、当館ミュージアムホールにて、「IPMセミナー」（主催：当館、共催：文化庁・東京文化財研究所）を開催した。月刊文化財10月号の内容を中心に、文化財の生物劣化対策や最近明らかになった新種の文化財害虫の問題など、博物館、美術館、文書館、図書館、公共団体担当者などに向けて最新の話題を提供した。現地のセミナーには132人が参加、内容紹介の動画配信視聴には、約300人が登録した。
3) 3年度に続き、オンラインIPM相談会を、4年度についても実施した。また、館内職員向けIPM研修は、新型コロナウイルス予防対策を講じつつ2度に分け、実施した。

４年度　IPM セミナーの様子

【補足事項】
・4月27日及び5月11日に館内職員向けのIPM研修を実施した（会場：当館、受講人数：計27人）。
・11月15日にIPMセミナーをミュージアムホールで開催、オンラインでの動画配信もその後約2週間にわたって行った。
・12月22日～5年1月27日にオンラインIPM相談会を開催した（対応施設7施設、各施設1時間ずつの枠で実施）。

【定量的評価】項目	4年度実績	目標値	評定	経年	30	元	2	3
援助・助言等の件数	97件	－	－	変化	72	86	81	77

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	4年度は、IPMセミナーを現地及びオンライン配信のハイブリッド形式により実施することができた。IPM相談会についてはオンラインで実施した。また、館内IPM研修も3年度に続き、実施できた。 3年度に引き続き、日本全国の要請に対応し、97件の援助・助言を行い、年度計画を達成できた。

【中期計画記載事項】
国内外の博物館等からの要請に応じて、専門的・技術的な援助・助言を行うとともに、ICOM 、ICOMOS 等の国際機関とも連携しつつ、博物館関係者の情報交換を推進し、人的ネットワークの形成等に図る。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止した講座があったものの、4年度も全国の博物館、美術館、文書館等からの要請に応じて指導、助言を行った。今後もオンライン等を活用したセミナーや研修等を実施し、博物館・美術館関係者への援助や情報交換等を適切に進め、今まで同様に中期計画の円滑な進行に努める。

【書式A】　施設名 文化財活用センター　処理番号 1610H

中項目	１．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（６）文化財の積極的な活用による文化財の継承につなげる新たな取組 ①文化財に親しむためのコンテンツの開発とモデル事業の推進

【年度計画】・Ⅰ-1-(6)-①-1)、2)、3)、4)

担当部課	文化財活用センター企画担当	事業責任者	企画担当課長　藤田千織、室長　髙橋美奈子

【実績・成果】

1)ア　各施設、企業等と連携して高精細複製品を制作した。VR、8Kなど先端技術を使った企画コンテンツ事業の新規開発のみならず、既存コンテンツをさらに進化させるべく機能等の改良にも取り組んだ。制作したコンテンツ等は、東京国立博物館創立150年記念特別企画「未来の博物館」などの展示に活用し、同企画のみでも15万人以上に対して文化財に親しむ機会を提供した。
イ　東京国立博物館法隆寺宝物館に、高精細複製やデジタルコンテンツを活用した展示「デジタル法隆寺宝物館」を開設した。(令和4年度日本博「イノベーション型」プロジェクト)

2)3年度に文化庁「地域ゆかりの文化資産地方展開促進事業」の委託を受けて制作した文化財鑑賞コンテンツ「ふれる・まわせる名茶碗」を、TEPIA先端技術館のリニューアルオープン展示に提供した他、愛知県陶磁美術館と共同し同館で年間を通じ公開した。

3)「ぶんかつアウトリーチプログラム」として、高精細複製品の外部機関への貸与を行ったほか、首都圏を中心に、全国の小中高等学校、博物館に25件の教育プログラムを提供し、特別支援学級の生徒を含む2,792名の児童生徒・来館者が参加した。(青森県学校教育センターとの連携で行った鑑賞教育にかかる教員研修参加者39名を含む。)また、奈良文化財研究所と協力し、5年度から実施予定の「なぶんけん×ぶんかつアウトリーチプログラム」の新規コンテンツにかかるキットの開発、及び「ぶんかつアウトリーチプログラム」の特別得支援学校用のキットの開発を行った。

4)「なぶんけん×ぶんかつアウトリーチプログラム」の参考動画2本の制作、並びに教員自ら実施するための参考映像教材本編及び解説付番外編の映像を合計4本制作し、奈良文化財研究所及び文化財活用センターの公式YouTubeチャンネルで公開した。

【補足事項】

1)・30 年度～3 年度に締結した、キヤノン株式会社、凸版印刷株式会社、シャープ株式会社、NHK との共同プロジェクトを継続。
・キヤノン株式会社との共同研究で、東京国立博物館所蔵の重要文化財「車争図屏風」、国宝「花下遊楽図屏風」、国宝「納涼図屏風」、国宝「観楓図屏風」、重要文化財「風神雷神/夏秋草図屏風」、「焔」の高精細複製 6 件の制作を開始したほか、展示やハンズオンなどでの活用目的で、東京国立博物館所蔵の国宝「埴輪 挂甲の武人」、重要文化財「遮光器土偶」、重要文化財「みみずく土偶（土製)」、国宝「袈裟襷文銅鐸（外縁付鈕２式銅鐸)」(追加加工)、「自在蛇置物」(プロトタイプ)、九州国立博物館所蔵の「ウンスンカルタ」、「四区袈裟襷文銅鐸」、奈良国立博物館所蔵の国宝「地獄草紙」、国宝「辟邪絵」、国宝「薬師如来坐像」の複製など計 10 件を制作した。※4 年度より、当該年度内に制作/開発開始したコンテンツを自己点検に含めるよう整理したため、3 年度に制作開始（納品は 4 年度）し、3 年度の自己点検に含まれるべきだった 2 作品「地獄草紙」「辟邪絵」を例外的にこちらに記載した。
・キヤノン株式会社との共同研究プロジェクトで制作した複製品を米沢市上杉博物館へ 6 件貸与、並びに教育プログラムの提供を行い、展覧会（8 月 6 日(土)～9 月 11 日(日)）への特別協力を行った。
・これまでに制作・開発した高精細複製・デジタルコンテンツを活用した体験型展示「未来の博物館」を東京国立博物館で開催した。（10 月 18 日～12 月 11 日）48 日間で延べ 150,296 人が来場し、97.5%から「とてもよい/よい」の評価を得た。
・「未来の博物館」関連企画として、展示コンテンツと連動した子ども向けの仏像鑑賞プログラム「ぶつぞう調査隊」(実施日：10 月 23 日・11 月 27 日、延べ参加者数 587 名）及びワークシート「調書に挑戦！」を開発・実施した。
・トーハク新時代プランに基づき、東京国立博物館本館特別 3 室に高精細複製品や非接触体験展示による日本美術に親しむための常設体験展示室「日本美術のとびら」を継続して開室（4 月 1 日～8 月 31 日、5 年 3 月 27 日～3 月 31 日)。1 月 2 日～3 月 12 日の間は「未来の博物館」で展開した「四季をめぐる高精細複製屏風」を「日本美術のとびら　四季」として展開した。
・NHK と東京国立博物館の共同研究「みんなの８K 文化財」プロジェクトのマネージメントを行い、8K 技術を用いた文化財の鑑賞方法を開発する調査・研究の一環で「樫鳥糸肩赤威胴丸」「能面　小面（天下一河内印)」「能面　伝山姥」の 8K 文化財を制作した。
・また、国宝「救世観音像」(法隆寺）の映像、国宝「洛中洛外図屏風（舟木本)」の映像コンテンツの制作、重要文化財「遮光器土偶」、重要文化財「樫鳥糸肩赤威胴丸」、重要文化財「能面　小面」の体験型コンテンツ、国宝「救世観音像」(法隆寺）の 8K 文化財コンテンツ及び手話 CG（実証実験）の制作を行い、これらを「未来の博物館」において公開した。

2)愛知県陶磁美術館と共同で「ふれる・まわせる名茶碗」(3 年度制作）を公開し、体験者アンケートを行った（公開期間：4 月 1 日～3 月 31 日)。93.1%から「とてもよい/よい」の評価を得た。

【評価指標】項目	4年度実績	目標値	評定	経年変化	30	元	2	3
コンテンツ開発・展開数	36件	－	－		－	－	－	24
うちコンテンツ開発件数	29件	－	－		－	－	－	18

【年度計画に対する総合評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 企業と連携した高精細複製制作や、先端技術を使った体験コンテンツの開発などを意欲的に行い、共同研究の成果として特別企画「未来の博物館」において広く公開した。「未来の博物館」では15万人を超える来館者が体験し、人々が文化財に触れる機会を拡大することができた。アンケートによる評価等も好調であることから、年度計画は達成したと言える。

【中期計画記載事項】
高度な技術で制作された複製や、VR・AR、8K映像などの先端技術を使った企画コンテンツ事業を積極的に推し進めることで、文化財の新しい活用方法を探り、これまで文化財に触れる機会のなかった人々にも 、学ぶ喜びや、楽しい時間を創出する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 使用者の目的･ニーズに対応した文化財の高精細複製や、VR、AR、8K 映像など先端技術を使ったコンテンツの開発を企業と連携して行った。この成果を「未来の博物館」で公開したほか、コンテンツの貸出等を通じ学習機会の拡大や文化財に親しむ機会を創出することができ、中期計画を順調に遂行できている。5 年度以降も、地域の博物館、学校などと連携協力し、各地域での活用を推進したい。

【書式A】　施設名 文化財活用センター　処理番号 1620H

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（６）文化財の積極的な活用による文化財の継承につなげる新たな取組 ②国立博物館の収蔵品の貸与の促進

【年度計画】
・Ⅰ-1-(6)-②-1)

担当部課	文化財活用センター貸与促進担当	事業責任者	課長　沖松健次郎

【実績・成果】
1)文化財活用センターは各国立博物館と共同で、日本及びアジアの歴史・文化への理解を進めるとともに、地方創生、観光振興並びに次世代への文化財継承に寄与することを目指して国立博物館収蔵品貸与促進事業を実施し、国内の博物館等6機関に113件（大規模貸与：2機関79件、小規模貸与：4機関34件）の文化財を貸与した。このうち沖縄については、本土復帰50年展の地元開催への貢献となった。また、各館で実施された来館者アンケートからは、展覧会を通じてあらためて地域の文化と歴史を知る良い機会となったなどの声が寄せられた。

大規模貸与
鹿児島県歴史・美術センター黎明館「茶の湯と薩摩」貸与件数：30件
沖縄県立博物館・美術館「復帰50年展　琉球―美とその背景―」貸与件数：49件
小規模貸与
刈谷市歴史博物館「伊勢物語とかきつばた」貸与件数：3件
島根県立古代出雲歴史博物館「ハニワの世界へようこそ」貸与件数：9件
足利市立美術館「あしかがの歴史と文化再発見！―鎌倉殿の義弟　足利義兼の祈り　大日如来坐像」貸与件数：16件
滋賀県立安土城考古博物館「里帰り！日本最大の銅鐸―太古の響きを安土の地で―」貸与件数：6件

島根県立古代出雲歴史博物館「ハニワの世界へようこそ」会場風景

【補足事項】
1）文化財活用センターは、開催館までの往復作品輸送費・保険料・出張費、及び大規模貸与の事業実施対象館のうち鹿児島県歴史・美術センター黎明館「茶の湯と薩摩」展に対し、広報費を支出した。
広報媒体は以下の通り。
①　ポスター・チラシ、②スマホアプリへの広告掲載ページ制作、③屋外看板、④地元新聞への広告掲載
（※すべての広告に貸与促進事業の特別協力を受けている旨が明記されている。）
また、貸与にあたり、東京国立博物館収蔵品11件（沖縄貸与分：9件、滋賀貸与分2件）の応急修理を行った。
2）文化財活用センターの保存修理費により修理が完了した「J-1474 石棒」、及び5年度内に完了予定の「J-22408　甕形土器」の2件を、令和6年度国立博物館収蔵品貸与促進事業の申請要項にある、「貸与可能作品リスト」へ追加掲載した。

【評価指標】項目	4年度実績	目標値	評定		30	元	2	3
事業実施件数	6件	－	－	経年変化	－	5	5	5
貸与件数	113件	－	－		－	71	116	89
うち国内の貸与件数	113件	－	－		－	71	116	89
うち国外の貸与件数	0件	－	－		－	0	0	0

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
これまで国立博物館から作品を借りた実績がない、いわゆる「新規貸与館」1 館（刈谷市歴史博物館）に対し、本事業を通じて収蔵品を貸し出すことができた。
また、島根県立古代出雲歴史博物館、足利市立美術館、鹿児島県歴史・美術センター黎明館、滋賀県立安土城考古博物館、沖縄県立博物館・美術館においては、各地域への里帰り作品を多く貸し出すことができた。特に沖縄県立博物館・美術館では、現地にはすでに残っておらず、県内初公開となる百田紙などの民俗資料も貸与品に含まれ、本事業の趣旨にかなった意義ある事業展開を行うことができた。

【中期計画記載事項】
国立博物館が収蔵する文化財を全国の博物館・美術館等での展示で活用するため、貸与促進事業を実施し、地方創生・観光振興にも寄与する。実施にあたっては、作品の輸送費や広報費等を負担するとともに、文化財の魅力と価値を広く伝える活動に取り組む。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
直近3年間では最多の6施設に貸与を行い、中期計画2年度として、順調に実施が出来ている。5年度以降も各国立博物館と連絡を密にしつつ、更に文化財研究所との連携も視野に入れ、事業の周知、実施に力を入れていく予定である。

【書式A】　施設名 文化財活用センター　処理番号 1630H

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（６）文化財の積極的な活用による文化財の継承につなげる新たな取組 ③文化財情報のデジタル資源化の推進と国内外への情報発信

【年度計画】
・Ⅰ-1-(6)-③-1)、2)、3)、4)

担当部課	文化財活用センターデジタル資源担当 文化財活用センター企画担当	事業責任者	課長　村田良二 企画担当課長　藤田千織

【実績・成果】
1)各施設と連携して、所蔵品データベース「ColBase 国立文化財機構所蔵品統合検索システム」について、掲載画像を追加した（追加画像数63,379枚）。収蔵品テキスト情報をダウンロード可能とするなどの機能向上をは図った。また、政府標準利用規約2.0/CC BYを広範に設定し、文化財資料の利活用促進に寄与するとともに、国の分野横断統合ポータル「ジャパンサーチ」と連携する際のメタデータ整備において一つのモデルを提示した活動を評価され、デジタルアーカイブジャパン推進委員会及び実務者検討委員会により新設された「デジタルアーカイブジャパン・アワード」を受賞した。
2)各施設と連携して、4館及び奈良文化財研究所所蔵の国宝・重要文化財について、4言語（日、英、中、韓）の説明を付したデジタル高精細画像を公開する「e国宝　国立文化財機構所蔵 国宝・重要文化財」のデータを更新（追加作品1件）、解説文の見直しを継続して行った（解説文見直し300件）。
3)「ジャパンサーチ」と「ColBase」のデータ連携形態を更新し、自動的に定期的なデータ更新が図れる仕組みを構築した。
4)文化財活用センターのウェブサイト、SNS等を活用し、文化財活用センターの活動の周知並びに、文化財全般にかかる情報の発信を行った。

【補足事項】
1)「ColBase」に所蔵品テキスト情報（名称、解説など）をまとめたTSVファイルを掲載した。各言語版と、全ての言語情報を統合した版を準備しており、誰でもダウンロードして活用することが可能である。あわせて、「ジャパンサーチ」が当所蔵品テキスト情報ファイルを定期的に収集し、情報更新するかたちへと連携形態を変更した。

ColBase データセット ダウンロード画

2) Nintendo Switchのゲームソフト『あつまれ どうぶつの森』の中に、国立文化財機構の所蔵品をモチーフとしたエリアで構成される「ぶんかつ島」を作成した。本ゲームをきっかけとして、ゲームプレイヤーの方々に日本美術ならびに当機構所蔵品を知ってもらうことができた。

【評価指標】	4年度実績	目標値	評定	経年変化	30	元	2	3
e国宝のアクセス件数 ※1	818,665件	516,808件	A		－	－	215,337 ※2	650,197
ColBaseのアクセス件数	250,005件	61,026件	A		54,338	76,875	140,553	142,970

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 アクセス件数について、「e 国宝」・「ColBase」とも目標値を上回っている。また、どちらもデータ、システムともに継続的に改善、充実を図ることができたため、B 評価とする。

【中期計画記載事項】
ColBase（国立文化財機構所蔵品統合検索システム）、 e 国宝（文化財高精細画像公開システム）の内容の充実を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 「ColBase」、「e 国宝」それぞれで継続的にデータを追加・更新するだけでなく、「ColBase」におけるテキストダウンロード機能の追加を行うなど、コンテンツとシステムの両方で内容の充実を図ることができた。また、国内外で人気のゲームを通じて、より幅広く所蔵品情報の発信を行うことができたことから、中期計画を遂行できているといえる。

※1：e 国宝のアクセス件数については、2 年度のリニューアルにより件数集計方法が変更されたため、元年度までのアクセス件数を参考値とした。リニューアル後の 2 年 11 月 1 日～3 年 3 月 31 日のアクセス件数より、1 年間分のアクセス件数を算出し、目標値とした。
※2：2 年 11 月 1 日～3 年 3 月 31 日のアクセス件数。（ユーザーセッション件数）

【書式A】　施設名 文化財活用センター　処理番号 1640H

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（6）文化財の積極的な活用による文化財の継承につなげる新たな取組 ④文化財保存の質的向上に資するための協力、支援、人材育成

【年度計画】
・Ⅰ-1-(6)-④-1)、2)、3)、4)

担当部課	文化財活用センター　保存担当	事業責任者	課長　吉田直人

【実績・成果】
イ　文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による国宝・重要文化財の公開を予定している51施設を対象として、保存環境調査を行った。うち、39施設については、調査完了後に環境調査報告書を提出し、6施設に関しては公開に問題ない環境であることの簡易的な確認を行った。その他は継続中である。
ロ　公開承認施設の申請を予定している2施設に対して保存環境調査を行い、1施設に対して環境調査報告書を提出した。他の1施設については、提出された環境データなどから、現状と今後の管理体制に関する所見を示した。
ハ　5年度貸与促進事業に応募した11施設について、文化財管理、保存体制についての評価を行った。うち、貸与が内定し、かつ東京国立博物館からの貸与実績のない4施設について、展示環境調査に着手した。
ニ　国内の博物館・美術館等からの保存環境管理や改善に関する相談に対して、助言を行った（87件）。そのうち、具体的な原因究明や調査研究的な対応が必要と判断した案件に対して、現地調査を行った(10件)。
ホ　新築や増改築を予定している文化財保存施設について、関係者と直接協議を行い、保存のための良好な温湿度や空気環境維持の観点から、設計や設備について、また、竣工後の環境モニタリング方法などに関して助言を行った(15件)
ヘ　4年度「美術館・博物館等保存担当学芸員研修（基礎コース)」を8月1日～5日、1月23日～27日の2回、同一内容でそれぞれ開催し、基本的な保存環境管理に関する講義や実習を行った。
ト　資料保存専従学芸員等を対象とした「保存環境調査・管理に関する講習会」を8月23日と3月6日、それぞれ東京文化財研究所との共催により実施した。
チ　新型コロナウィルスに対応した消毒剤の文化財に与える影響、および、展示空間の内装材として使用されるクロス材からのアンモニア放散について調査を行い、結果を学会等で発表した。

【補足事項】
イ、ロ　これらの調査は、文化庁文化財第一課長発の協力依頼（3年4月9日付 3文財-第7号）に基づいて文化財活用センターが担い、文化財保護法53条に基づく公開や、公開承認施設申請を予定する施設からの依頼を受け、実施したものである。
ヘ　研修受講者数：8月開催、1月開催ともにそれぞれ20名。
ト　第4回「保存環境調査・管理に関する講習会-室内汚染物質の精密測定-」（会場参加4名、リモート参加15名)、第5回「保存環境調査・管理に関する講習会-クロスから放散するアンモニアについて-」(会場参加2名、リモート参加17名)。
チ　間渕創・吉田直人「新型コロナ感染症対策に用いられる消毒剤が文化財へ与える影響についての調査事例」文化財保存修復学会第44回大会（6月19日、熊本）

【評価指標】項目	4年度実績	目標値	評定	経年変化	30	元	2	3
文化財保存等の相談・助言・支援の取組状況	191件	-	-		20	136	76	253

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 いずれの事業も、実績値はコロナ禍以前の水準に戻り、さらに上回るものもあった。研修、講習会も、当初想定していた回数の実施が実現し、環境管理に関する最新の知見、技術等を周知することが叶った。また、保存環境に関する調査研究は、学会等で公表するレベルの知見を得るまでとなった。以上より、本評価とする。

【中期計画記載事項】
「活用との両立」の観点より、文化財の展示・収蔵環境向上に資するための、相談や協議対応、改善のための調査協力や技術支援、研修会や講習会を通じた環境管理に携わる人材育成を行う。また、環境管理に係る調査研究を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 文化財保存施設への保存環境向上に資するための諸協力、研修会や講習会等を通じた人材育成、また、環境管理に関する基礎研究、いずれの項目も中期計画に沿った実績を得ていることから、順調に推移しているものと評価する。今後、文化財施設における環境管理も、脱炭素が求められ、建築物における木材利用促進など、大きな変革が予想されるため、これを見据えた情報収集、適切かつ迅速な対応を行っていきたい。

文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施

【調査研究の評価軸及び評価指標等】

（１）新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究

①有形文化財（美術工芸品，建造物）及び伝統的建造物群に関する調査研究　　【自己点検評価：Ｂ】

本項について 4 年度は対象となる 6 件の調査研究の年度評価は「A」2 件、「B」4 件であり、美術工芸品や建造物の価値形成の多様性及び歴史・文化の源流の究明等に大きく寄与したことから、全体としてＢと評価した。

評価軸：我が国の美術工芸品や建造物の価値形成の多様性及び歴史・文化の源流の究明等に寄与しているか。	
成果	【東文研】 美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開(2111Eｴ)では、東京文化財研究所が昭和 39 年に調査撮影していた白黒ネガフィルムを用いて、現在は欠損のある与謝蕪村筆「寒山拾得図襖」を画像形成により復原し妙法寺本堂に建て込み、これまで十分なカラー図版が出版されていなかった同寺の与謝蕪村作品（重要文化財）についての報告書（160 頁）を刊行した。近・現代美術に関する調査研究と資料集成(2111Eｳ)では、岸田劉生の大正時代の静物画 4 点について、可視光・赤外線・蛍光などの高精細画像の撮影調査や蛍光 X 線分析などを初めて行い、表現や制作背景について考察し、論文と口頭発表で成果公開するなど、我が国の美術工芸品や建造物の価値形成の多様性の究明に寄与することができた。また日本東洋美術史の資料学的研究(2111Eｲ)では、日本東洋の美術工芸に関する研究発表をほぼ毎月行うことができ、歴史・文化の源流の究明に寄与することができた。
評価軸：有形文化財の保存修復等に寄与しているか。	
成果	【奈文研】 歴史的建造物及び伝統的建造物群の保存・修復・活用の実践的研究(2112F)では、法隆寺古材調査、奈良県社寺建築悉皆調査、松江市内社寺建築詳細調査等を実施した。いずれも各地域における未指定文化財の一覧表を作成し、今後の文化財保存の基礎となる成果を得た。 近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究(2113F)では、唐招提寺、興福寺、仁和寺、当麻寺等所蔵の書跡資料・歴史資料や経典の調査を実施した。管理が必ずしも十分でない膨大な資料を長年にわたり中断なく調査し、全容解明に努めており、有形文化財の保存修復等に寄与できた。

②無形文化財，無形民俗文化財等に関する調査研究　　【自己点検評価：Ａ】

本項について 4 年度は対象となる 3 件の調査研究の年度評価は「A」2 件、「B」1 件で、無形文化財、無形民俗文化財等の伝承・公開に係る基盤の形成に大きく寄与したことから、全体としてＡと評価した。

評価軸：無形文化財，無形民俗文化財等の伝承・公開に係る基盤の形成に寄与しているか。	
成果	【東文研】 コロナ禍の影響を受けて、各地で無形文化遺産の伝承や公開において支障をきたしている。そのため本年度はフォーラム「伝統芸能と新型コロナウイルス―これからの普及・継承―」(11/25) を開催し、コロナ禍を乗り越えていかに無形文化遺産を伝承・公開していくかについての議論を行った(2121E)。また昨年度より始まった国の無形文化財登録制度を受けて、近年注目されている無形文化遺産としての食文化に焦点を当てた研究協議会「文化財としての食文化」(2/1) を開催し、その伝承と公開に資する議論を行った(2122E)。

③記念物，文化的景観，埋蔵文化財に関する調査研究　　【自己点検評価：B】

本項について 4 年度は対象となる 15 件の調査研究の年度評価は「A」3 件、「B」12 件であり、平城宮跡・藤原宮跡の継続的な発掘調査において、古代国家の形成過程や社会生活等の解明に寄与する大きな成果をあげていることや、水中文化遺産の調査法の確立に大きく寄与する発展性のある成果をあげたことなどから、全体としてBと評価した。

評価軸：記念物の保存・活用に寄与しているか。	
成果	【奈文研】 我が国の記念物に関する調査研究(遺跡等整備)(2131F ｱ)では、平城宮跡史跡指定 100 年の年に、「近世における名所旧跡の保存と顕彰」をテーマとして明治時代の保存顕彰事業と関わる内容で遺跡整備・活用研究集会を開催し、記念物の保存・活用に寄与することができた。 我が国の記念物に関する調査研究(庭園)(2131F ｲ)では、庭園の修復方法の分析のため、既刊の庭園整備報告書に記載の整備事業項目を整理及び「庭園保存修理事業データベース（未定稿)」を作成を行い、記念物の保存・活用に寄与することができた。
評価軸：古代国家の形成過程や社会生活等の解明に寄与しているか。	
成果	【奈文研】 西大寺弥勒金堂の発掘調査（第 655 次）(2132F ｱ-2)では、同金堂の基壇を確認した。この成果は、奈良時代後期における金堂基壇造成手法を明らかにしただけではなく、勅願寺西大寺の中枢である金堂院全体の復元研究に寄与するところが大きい。古代における寺院伽藍の変遷の解明に繋がる重要な資料を得た。 平城宮・京跡出土遺物・遺構の調査・研究(2132F ｲ-1)では、当研究所創立 70 周年記念事業に伴う展覧会開催、図録・記念誌等の刊行を通して 70 年の研究の蓄積とその成果を通時的に理解できるよう解説することで、平城宮・京の遺跡・遺物研究の深化に寄与することができた。 藤原宮大極殿院地区の発掘調査（第 210 次）(2132F ｱ-3)では、大極殿北側の調査を行ったところ、大極殿後方回廊中央部で東西方向に長い基壇を確認した。その規模や位置関係から、この基壇が「大極殿後殿」にあたると考えることができ、古代日本の宮都構造の変遷を考える上で重要な成果を収めたことで、古代国家の形成過程や社会生活等の解明に寄与することができた。
評価軸：文化的景観に関する保存・活用並びに研究の進展に寄与しているか。	
成果	【奈文研】 文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究(2133F)では、スギ林業に関わる文化的景観について、複数の地域における林業に関わる景観を比較し検討を深めることにより、調査手法の体系化を遂行でき、文化的景観に関する保存・活用並びに研究の進展に寄与することができた。
評価軸：埋蔵文化財に関する研究の深化に寄与しているか。	
成果	【奈文研】 全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究(2134F ｱ)では、歴史災害痕跡データベース及び古代寺院・官衙データベースのα版公開を行った。両データベースともに遺構単位での災害痕跡や特徴を蓄積された発掘データより集積しており、土地の歴史的な災害履歴や土地利用を分析可能であることから、様々な調査研究に資する基盤情報として他に類を見ないものとなっている。この点によって埋蔵文化財に関する研究の深化に寄与することができた。 古代瓦に関する研究集会の開催及び報告書刊行(2134F ｲ-2)では、第 22 回シンポジウム「奈良末～平安初期の軒瓦」を開催し、奈良時代末から平安時代初期に至るまでの軒瓦の文様系譜や製作技法等の変遷に関す

	る多くの新知見を得ることができ、埋蔵文化財に関する研究の深化に寄与することができた。
評価軸：水中文化遺産に関する調査研究に寄与しているか。	
成果	【奈文研】 水中文化遺産に関する調査研究(2135F)では、博物館の展示環境下において腐食の進行が確認された海揚がりの銅製遺物について、劣化のメカニズムを検討した。検討内容に基づき考案した再処理法により銅製遺物の保存処理を実施し、水中文化遺産に関する調査研究に寄与することができた。

モニタリング指標

		第4期中期期間平均	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
論文等数	東文研	13.2	10	17			
	奈文研	57.8	68	88			
	計	71.0	78	105			
報告書等の刊行数	東文研	6.8	5	6			
	奈文研	13.6	12	8			
	計	20.4	17	14			

（2）科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究

①文化財の調査手法に関する研究開発　　【自己点検評価：B】

本項について4年度は対象となる6件の調査研究の年度評価は「A」1件、「B」5件であり、科学技術を的確に応用し、文化財の調査手法の正確性、効率性等の向上に高く寄与することができたことから、全体としてBと評価した。

評価軸：科学技術を的確に応用し，文化財の調査手法の正確性，効率性等の向上に寄与しているか。	
成果	【東文研】 文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究(2211E)では、『扇面法華経―光学調査報告書 カラー写真編』ほか5件の報告書を刊行して最先端の画像形成技術を応用した独創的な研究成果が公開できたほか、黒田記念館所蔵の黒田清輝油彩画作品のカラー高精細画像、赤外線画像、蛍光画像を紹介するウェブコンテンツを制作して専門性の高い研究資料として広く公開することができ、我が国の美術工芸品や建造物の価値形成の多様性の究明に寄与することができた。また、これまで本格的な画像資料がなかった「国宝扇面法華経」について様々な調査撮影技術を駆使してカラー写真、近紫外線写真・蛍光写真・近赤外線写真を報告書の形で成果公開することにより、歴史・文化の源流の究明に寄与することができた。 さらに、文化財の材質・構造・状態調査に関する研究(2223E)では、3年度に分析方法・分析条件の最適化を行った可搬型ハイパースペクトルカメラを用いた絵画等の彩色材料の現地調査を複数個所で実施し、我が国の美術工芸品や建造物の価値形成の多様性の究明に寄与することができた。また、可搬型蛍光X線分析装置を用いて国宝扇面法華経冊子等の材料調査では、色料等に係る情報を得て、歴史・文化の源流や展開の究明に寄与することができた 【奈文研】 年輪年代学研究(2213F)では、仁和寺塔中蔵聖教箱の調査において、一括性の高い試料群を悉皆的に調査に供し、同一材推定を中心とした分析を行うことにより、箱製作の同時性や原材からの木取りなど箱製作の様

	相を明らかにするとともに、製作年代の絞り込みを行うことができ、文化財の調査手法の正確性、効率性等の向上に寄与することができた。 動植物遺存体の分析方法の研究開発(2214F)では、正倉院宝物の特別調査に参加して動物由来素材の調査を実施した。考古学などの埋蔵文化財では土の中で分解してしまうために研究できない有機質の文化財があり、これまで調査実績がない宝物も含まれることから、古代の研究に大きく寄与することが期待される。 物質文化・地質情報等を基とした防災・減災・復興・復旧の歴史的研究(2216F)では、ボックスによる採取から CT による分析や地層剥ぎ取り技術を活用した現地での試料取得技術の開発・導入、分析・解析方法の開発、データベース化の方法について研究を進めた。実資料を基に地質学的構造と歴史学的情報の両面から過去の被災履歴の解明に取り組み、災害発生や被災メカニズム解明に向けた研究基盤構築を進めることができ、文化財の調査手法の正確性、効率性等の向上に寄与することができた。

②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　　【自己点検評価：B】

本項について 4 年度は対象となる 13 件の調査研究の年度評価は「A」6 件、「B」7 件であり、計画通り、科学技術を的確に応用し、文化財の保存・修復の質的向上に寄与できたことから、全体としてBと評価した。

評価軸：科学技術を的確に応用し，文化財の保存・修復の質的向上に寄与しているか。	
成果	【東文研】 文化財修復材料と伝統技術に関する調査研究(2225E)では、ナノセルロースを利用した修復技法に関する研修、紫外線を用いた劣化絹作成に関する研究等の成果を得て、我が国の美術工芸品や建造物の価値形成の多様性の究明に寄与することができた。また、伝統材料・技法に関する複合的調査研究(2225E)では、今後の生産確保が非常に難しいとされる材料や道具について、科学的な評価と安全な保存方法の検討を行った。特に 4 年度は紙の原材料のノリウツギやネリ等に関する科学分析と現地調査を実施し、歴史・文化の源流や展開の究明に寄与することができた。 【奈文研】 遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究(2229F)では、遺構の露出展示を行う新施設の建築に合わせた調査検討や世界遺産登録を目指す構成要素の遺跡を対象として、遺跡の安定した保存を担保しつつ、公開・活用に資する技術の研究・開発を行った。石材の乾湿繰り返しに関する定量的な評価や塩移動のモニタリング手法の開発など本研究から得られた知見は汎用性に富むもので、広範な分野にわたる様々な遺構への応用が期待され、科学技術を的確に応用し，文化財の保存・修復の質的向上に寄与することができた。 考古遺物を中心とした文化財の材質調査に関する調査研究(2230F)では、青色顔料の判別においてこれまで積極的に利用されてこなかった赤外線顕微鏡による表面観察の有効性について検討を開始した。ガラス製遺物や石製遺物について、従来の蛍光 X 線分析に加えて、X 線回折分析や同位体比分析を進めることで、具体的な産地推定につながるデータを収集することができ、科学技術を的確に応用し、文化財の保存・修復の質的向上に寄与することができた。

モニタリング指標

		第4期中期期間平均	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
論文等数	東文研	17.4	24	27			
	奈文研	40.2	65	39			
	計	57.6	89	66			
報告書等の刊行数	東文研	6.4	3	8			
	奈文研	1.0	0	1			
	計	7.4	3	9			

（3）文化遺産保護に関する国際協働

①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進　【自己点検評価：B】

本項について4年度は対象となる9件の年度評価は「A」1件、「B」8件であり、計画通り、文化遺産国際協力を推進するとともに、国際協力推進体制について中核的な役割を担うことができたことから、全体としてBと評価した。

評価軸：文化遺産国際協力を推進するとともに、国際協力推進体制について中核的な役割を担っているか。	
成果	【東文研】 コロナ禍への対策を講じつつ本格的に海外での協力活動を再開するとともに、海外専門家の招聘を含むシンポジウムや行政関係者に向けた世界遺産研究協議会の対面開催等も実施することができた(2311E ア)。カンボジアでは石造建築遺産の修復事業が無事完了し、メキシコでは紙文化財保存修復国際研修を3年ぶりに開催するなどの成果を挙げるとともに、バーレーンでは考古遺産の3Dドキュメンテーションに関する新規協力事業を始動するなど、文化遺産国際協力を多面的に推進することができた(2312E ア,イ)。引き続きオンライン等も活用しつつ国内外機関および専門家との連携ネットワークを充実し、より効率的かつ効果的に、国際協力推進体制についての中核的な役割を担うことができた。 【奈文研】 文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信(2311F ア)では、3年度まで文化庁の拠点交流事業の相手先であったカザフスタンでの事業を継続していくことで合意し、短期に留まらない学術支援・交流を実現でき、文化遺産国際協力を推進することができた。 アジア地域等の文化遺産に関する調査研究及び保護協力事業(2312F ｱ-ｱ)では、アンコール遺跡群世界遺産登録30周年記念式典及びアンコール遺跡群国際調整会議に参加し、これまでの事業に対する表彰を受けるとともに、事業報告を行うなど、修復作業を順調に進めることができた。その成果を国際的に発信し、国際協力推進体制について中核的な役割を担うことができた。

②アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究　【自己点検評価：A】

本項について4年度は対象となる1件の年度評価は「A」であり、計画通り、アジア太平洋地域の無形文化遺産の保護に向けた調査研究等の国際協力を推進することができたことから、全体としてAと評価した。

評価軸：アジア太平洋地域の無形文化遺産の保護に向けた調査研究等の国際協力を推進しているか。	
成果	【IRCI】 以下の5件の調査研究事業を通じて、国際協力を推進することができた(2320G)。

	海外研究機関との連携による研究情報の持続的な収集((1)①)では、4年度より中央アジア・小島嶼開発途上国(SIDS)における活動を開始した。中央アジアでは、既に情報収集を実施しているキルギスに加え、ウズベキスタン・カザフスタン・タジキスタン・モンゴルについて現地機関と協力関係を結び、またSIDSでは5か国(バヌアツ・パプアニューギニア・パラオ・東ティモール・フィジー)の現地機関との連携を確立したのに加え、キリバス・ツバル・トンガ、モルディブも事業への関心を示し5年度からの参加が見込まれるなど、両地域における国際協力のための関係構築が飛躍的に進展した。拠点形成による無形文化遺産保護のための研究ネットワーク強化((1)②)では、情報共有・交流のための新たなプラットフォームとして「アジア太平洋地域における無形文化遺産保護のための研究フォーラム」を立ち上げ、また域内の専門家6名による企画委員会を組織し、域内の研究者等を対象にオンラインセミナーを開始したほか、国際会議等を企画・開催するための体制を整備することができた。 無形文化遺産と災害リスクマネジメントに関する研究((1)③)、新型コロナ感染症の無形文化遺産の影響についての調査研究((3))はいずれも各国の専門家・ユネスコ等からの関心が高く、前者では域内7か国(インドネシア・バヌアツ・バングラデシュ・フィジー・フィリピン・ベトナム・モンゴル)、後者では9か国(イラン・インド・インドネシア・韓国・キルギス・パプアニューギニア・バングラデシュ・フィジー・モンゴル)の現地機関・専門家と連携し、コミュニティにおける現地調査活動を実施することができた。無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する研究((2))では、4年度よりカンボジア・フィジー・マレーシアの専門機関と新たな連携を確立し、各国で予備的な現地調査に着手するとともに、キックオフとなる国際シンポジウムを開催でき、今後の調査研究の進展につながる成果を得た。またこれらの事業に関連して、インドネシア・カンボジア・バヌアツ・バングラデシュの連携機関や調査地等を直接訪問して視察や交流を行う機会を得ることができ、詳細な事業進捗のモニタリングが可能となっただけでなく、協力関係の強化にも大きく貢献した。

モニタリング指標

		第4期中期期間平均	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
諸外国の研究機関等との共同研究等の実施件数	東文研	0.4	2	5			
	奈文研	2.2	1	1			
	計	2.6	3	6			
国際協力事業の実施件数	IRCI	4.6	5	5			

【書式Ｃ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2111Eア

中期計画の項目	2-(1)-①-1)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-①-1)-ア	①有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究 1)我が国の美術を中心とする有形文化財等に関する調査研究 ア　国内外の文化財に関する様々な情報について分析し、それらの情報を文化財保護に対して活用するための調査研究を実施する。また、イギリス・セインズベリー日本藝術研究所等と共同研究を行う。その他機関との連携も図りつつ、文化財情報の公開・活用のための、より望ましい手法等の研究を行う。
プロジェクト名称	文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究	
文化財情報資料部	○橘川英規（文化財アーカイブズ研究室長）、江村知子（文化財情報資料部長）、安永拓世（広領域研究室長）、米沢玲（研究員）、阿部朋絵、寺﨑直子、大前美由希、鈴木良太（以上、研究補佐員）	

【年度実績と成果】

ARLIS/NA 国際委員ダン・リプカン氏らの視察

○調査研究の成果データの国際標準化に向けての調整・公開
・当研究所刊行の論文を学術機関リポジトリ(IRDB)で公開する作業を進め、161 件新たに追加し合計 15 タイトル 4006 件の論文・報告書のフルテキストを公開した。
・平成 31 年・令和元年の展覧会カタログ所載記事・論文のデータ 4,870 件を「東京文化財研究所美術文献目録」を世界最大の図書目録である WorldCat で検索可能な状態にするため、米国 OCLC(Online Computer Library Center)に提供した。(12 月)
○国内外の関連機関との連携・研究協議・成果公開
・セインズベリー日本藝術研究所のサイモン・ケイナー所長、松葉涼子氏が来訪、研究協議を行った（7 月 21 日)。同研究所との共同研究において、海外での日本美術に関する研究成果（論文発表、展覧会開催）の調査を実施、その結果を当研究所ウェブサイト内で公開。調査活動の共有と共同研究の進展のために、オンライン協議を行った（12 月 13 日)。
・ARLIS/NA（北米美術図書館協会）国際関係担当委員のダン・リプカン氏、コロンビア大学バークセンターの岡みどり氏が来訪し、当研究所、国立西洋美術館、国立国会図書館等を共に視察し、研究協議を行った（8 月 16 日)。
・アメリカのゲッティ研究所との共同研究を継続的に行い、美術史研究における基礎資料 242 件（画家印譜集、美術家番付、大型画集等）をインターネットに公開、Getty Research Portal(GRP)へのメタデータを提供した(9 月)。
・京都府との共同研究：京都府が所蔵する昭和初期の文化財調書 20,000 点のデジタル画像のうち約 2,000 件のメタデータを追加（累積 16,300 件)、データベース構築を行い、公開活用のための協議を京都府担当者と行った（10 月 26 日)。

年度計画評価	B

【評定理由】
下記の各観点から評価を行った。①適時性においては、外国人の入国が再開されて以降、海外の専門家との対面による研究協議等を実施、またオンライン公開のコンテンツを拡充し、特に海外の日本美術の研究者に対して有用な基礎資料・情報を提供した。②独創性においては、海外の研究機関（セインズベリー日本藝術研究所、ゲッティ研究所）との協議等に基づき、検索の利便性を向上させた独自の情報発信を実践した。③発展性においては、ARLIS/NA 国際関係担当者との交流を図り、同団体に加盟する北米の各美術専門図書館との将来的な共同事業などの基盤を築いた。④効率性においては、京都府との共同研究において在宅勤務によるデータ入力業務の仕組みを確立し、効率的なデータベース構築を行った。⑤継続性においては、国内外の研究機関と連携して日本美術の国際的な情報発信に取り組み、その発信を安定的かつ継続的に行うための環境整備と協力関係の強化を進めた。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	A	A	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】 （参考値） 調査・研究成果の公表環境の整備 1 件（ア)、美術に関する情報公開 2 件（イ）	定量評価 —

ア　IRDB への論文・刊行物の追加（115 件)
イ　OCLC への「東京文化財研究所美術文献目録」情報提供（4,870 件）(12 月)、 GRP への基礎資料メタデータ提供（242 件）(9 月)

中期計画評価	B

中期計画記載事項	我が国において古代から近現代までに制作された絵画・彫刻・工芸等を中心とする有形文化財、及びそれらに関連する国内外の文化財について、その文化財の製作技法、制作背景等と受容の様相、その後の評価の変遷、今日に至るまでの保護等に関する調査研究、文化財やその保護に関する文献・画像資料及びその他の文化財情報に関する調査研究とそれらの収集・整理、データベースの構築手法等の文化財情報の公開・活用手法に関する調査研究を行い、調査研究成果を公開する。
評定理由	当研究所の所蔵資料および文化財に関する調査・研究の成果・データを国際標準に適合させ、専門性の高い研究資料を国内外に向けて広く提供し、日本美術の国際情報発信に努めた。また国内外の関係機関との連携を強化し、ポストコロナの社会を見据え、文化財情報の効果的な国際連携を検討し、その基盤構築を着実に進めた。以上の理由から、所期の目標を達成できている。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2111Eイ

中期計画の項目	2-(1)-①-1)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-①-1)-イ	①有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究 1)我が国の美術を中心とする有形文化財等に関する調査研究 イ　近世以前の日本を含む東アジア地域における美術作品を対象として、基礎的な調査研究及び光学調査を進め、研究の基盤となる資料情報の充実を図る。併せて、これにかかる国内外の研究交流を推進する。
プロジェクト名称	日本東洋美術史の資料学的研究	
文化財情報資料部	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○小野真由美（日本東洋美術史研究室長）、江村知子（文化財情報資料部長）、二神葉子(文化財情報研究室長)、安永拓世（広領域研究室長）、小林公治（特任研究員）、津田徹英（客員研究員）ほか	

【年度実績と成果】

○研究基盤となる資料整備

・美術史研究のためのコンテンツ（「日本美術史年表　16 世紀～17 世紀」）制作として、1570 年以降の古記録 3 件について美術関連事項を順次収集してデータ入力を行った。入力された事項は 716 件に達した。

○研究交流の推進

・日本の美術工芸に関する研究発表を 5 回（6 件）開催し、適宜オンライン会議システムなどを利用して所外の専門家も交えて活発な研究交流を行った。古代から近代にわたる多様な美術工芸品についての研究発表において、古記録の情報を美術史研究に応用したものや、高精細画像を用いたものなど、様々な調査研究手法による成果を公表し、研究討議を行った。

研究会風景（7/25）

年度計画評価	B

【評定理由】

下記の各観点から評価を行った。①適時性においては、最新の研究成果を研究会にて発表し、外部の専門家も交えた研究討議を行い、論文の形でも成果公開できた。②独創性については、新たに編年資料による美術史研究のためのコンテンツを構築し、既存のデータベースとの将来的な連携を見据えて作業を進めた。③発展性においては、近世の美術工芸品について、新たな角度からの考察を行い、作品をより深く理解し、保存修復にも活用できる情報を集約した。④効率性においては、在宅勤務によって入力業務が効率よく進められた。⑤継続性においては、データベースの拡充、調査研究への応用、口頭発表による成果公開と討議による研究の深化、そして論文による成果公開、という一連の流れを好循環で行うことができた。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	（参考値） 「日本美術史年表　16 世紀～17 世紀」データ件数 716 件 ・研究発表 6 件（ア～カ）　・論文 2 件（キ・ク）	—

ア 大谷優紀「早稲田大学會津八一記念博物館所蔵「べしみ」面に関する一考察」・イ 小野真由美「『兼見卿記』にみる絵師・扇屋宗玖について」、文化財情報資料部研究会、4 月 15 日

ウ 小林公治「螺鈿の位相―理智院蔵秀吉像厨子から見る高台寺蒔絵と南蛮漆器の関係―」文化財情報資料部研究会、7 月 25 日

エ 江村知子「遊楽図のまなざし―徳川美術館蔵・相応寺屏風を中心に」東京文化財研究所オープンレクチャー、11 月 8 日

オ 小野真由美「日本美術に関する資料学的研究―とくに 16 世紀公家日記にみる絵画関連記事について―」東京文化財研究所総合研究会、12 月 6 日

カ　二神葉子「漆工専門家 三木栄のタイでの活動－同時代の資料を中心に－」文化財情報資料部研究会、5 年 3 月 2 日

キ　大谷優紀「早稲田大学會津八一記念博物館所蔵「べしみ」面に関する一考察」『美術研究』439、5 年 3 月

ク 小野真由美「作品紹介　狩野探幽筆　探幽縮図（梅竹菓子巻）」『MUSEUM』702、5 年 2 月

中期計画評価	B

中期計画記載事項	我が国において古代から近現代までに制作された絵画・彫刻等を中心とする有形文化財、及びそれらに関連する国内外の文化財について、その文化財の制作背景等とその後の評価の変遷、今日に至るまでの保護等に関する調査研究、文献・画像資料及び文化財情報に関する調査研究とそれらの収集・整理を行い、調査研究成果を公開する。
評定理由	中期計画 2 年目にあたり、新たに「日本美術史年表　16 世紀～17 世紀」の作成を進め、研究会を順調、継続的に開催することができた。研究会では古代から近世までの幅広い研究対象を取り上げ、オンライン会議システムなどを効率よく使いながら、遠隔地の専門家にも研究協議に参加していただくなど、活発な研究交流を行い、成果公開につなげることができた。

【書式Ｃ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2111Eｳ

中期計画の項目	2-(1)-①-1)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-①-1)-ｳ	日本の近・現代美術を対象として、東京文化財研究所蔵の資料をはじめ他機関や個人が所蔵する作品及び資料の調査研究を行い、これに基づき研究交流を推進する。併せて、これまで蓄積してきた美術関係者情報の整備・発信に努め、また主に現代美術に関する資料の効率的な収集と公開体制の構築を目指す。
プロジェクト名称	近・現代美術に関する調査研究と資料集成	
文化財情報資料部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○江村知子（部長兼近・現代視覚芸術研究室長）、塩谷純（上席研究員）、橘川英規（文化財アーカイブズ研究室長）、吉田暁子（研究員）、城野誠治（専門職員）、黒﨑夏央（アソシエイトフェロー）ほか	

【年度実績と成果】

○近・現代美術の調査研究

・岸田劉生の大正期の静物画、《静物(手を描き入れし静物)》(1918 年、個人蔵)、《静物（白き花瓶と台皿と林檎四個)》(1918 年、福島県立美術館)、《静物(茶碗と湯呑と林檎四個)》(1917 年、大阪中之島美術館)、《静物(赤林檎三個、ブリキ罐、茶碗、匙)》(1920 年、大原美術館）などについて光学的調査を行った。その成果の一部は当研究所オープンレクチャーで口頭発表した。

・吉田ふじを（1887-1987）の作品・資料についての調査を外部研究者と協力して着手した。

・近代日本画の展開についての研究を進め、口頭発表を行った。

・コンセプチュアル・アート（概念芸術）の先駆者、松澤宥（1922-2006）アーカイブズについての調査研究を進め、口頭発表を行った。

岸田劉生作品の調査

○資料の収集

・戦後の日本美術教育に大きな影響を及ぼした創造美育協会の本部事務局長を務めた島﨑清海（1923-2015）の資料のうち同協会の発行物や同時代美術家との交流を示す書簡などをご遺族から寄贈を受けアーカイブ化のための作業を行った。

年度計画評価	A

【評定理由】

下記観点から評価を行った。①適時性においては、最近大規模な展覧会も開催されて注目されている岸田劉生の静物画について、光学的調査を実施し、速報的に成果公開できた。②独創性においては、光学的調査や分析化学の調査成果を初めて総合的に岸田劉生の作品研究に応用して当研究所の特色を活かした調査研究を推進できた。③発展性においては、光学的調査成果を今後の研究に活かしていくために、作品所蔵館の学芸員と研究交流を行い、当初の予定を上回る成果をあげることができた。④効率性においては、所外の研究者と連携・協力して、資料のリスト化を進め、効率よく研究資料としていくための作業が進めることができた。⑤継続性においては、基礎的・応用的研究をもとに口頭発表を行い、所内外の研究者との交流や協議を通じて継続的に研究を進めることができた点が評価された。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	A	A	A	B

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	（参考値）・論文 1 件（ア） ・研究発表 3 件（イ・ウ・エ）	―

ア 吉田暁子「「壺」幻視―新収蔵の岸田劉生《壺》を契機として―」『視る』518、京都国立近代美術館、5 月
イ 吉田暁子「岸田劉生の静物画―「見る」ことの主題化」東京文化財研究所オープンレクチャー、11 月 8 日
ウ 塩谷純「中井宗太郎「国展を顧みて」を読む」文化財情報資料部研究会、12 月 23 日
エ 橘川英規「虚空間状況探知センターから「世界蜂起」へ：松澤宥アーカイブからみる 1970 年代の表現共同体の構築の試み」文化財情報資料部研究会、5 年 3 月 15 日

中期計画評価	B

中期計画記載事項	我が国において古代から近現代までに制作された絵画・彫刻・工芸等を中心とする有形文化財、及びそれらに関連する国内外の文化財について、その文化財の製作技法、制作背景等と受容の様相、その後の評価の変遷、今日に至るまでの保護等に関する調査研究、文化財やその保護に関する文献・画像資料及びその他の文化財情報に関する調査研究とそれらの収集・整理、データベースの構築手法等の文化財情報の公開・活用手法に関する調査研究を行い、調査研究成果を公開する。
評定理由	4 年度は、岸田劉生作品の光学的調査を延べ 6 回実施して、速報的に成果公開を行い、5 年度以降の論文発表やデータ公開に向けての準備ができた。美術教育団体の会報や作家の書簡などからなる「島﨑清海資料」の受贈は、作品収蔵を主とする博物館とは異なる、研究所独自の所蔵資料の幅を広げることとなり、新たな研究アーカイブの拡充を行うことができた。今後の研究推進に貢献するとともに、資料の紛失を防ぎ、活用・保存の両面において大きく利するものである。以上の点から、順調に計画が進んでいると評価した。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2111E-エ

中期計画の項目	2-(1)-①-1)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-①-1)-エ	①有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究 1) 我が国の美術を中心とする有形文化財等に関する調査研究 エ 美術作品を中心とする有形文化財についての歴史的位置づけ及びそれに基づくより深い理解を得ることを目的として、種々の美術工芸品を主な対象として、その表現・技術・材料等について、自然科学や人文学における様々な隣接諸分野とも連携した多角的調査研究を実施し、その成果公開を行う。さらに、新たな独創的研究視点や手法の検討・開発にも取り組む。
プロジェクト名称	美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開	
文化財情報資料部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○安永拓世(広領域研究室長)、米沢玲(研究員)、橘川英規(文化財アーカイブズ研究室長)、二神葉子(文化財情報研究室長)、黒﨑夏央（アソシエイトフェロー)、大谷優紀(研究補佐員)ほか	

【年度実績と成果】

○美術作品に対する隣接諸分野と連携した多角的調査・研究

・和泉市久保惣記念美術館において「山崎架橋図」と「青磁鳳凰耳花生　銘「万声」」の撮影を行い、光学的調査を実施した（8 月 24～26 日）。

・香川県・丸亀市の妙法寺との共同研究で、現在損傷のある与謝蕪村筆「寒山拾得図襖絵」を、当研究所が所蔵する昭和 30 年代のモノクロ写真を利用して復原し、復原襖の奉安と撮影を行い（11 月 22 日）、報告書を刊行した。なお復原襖が公開されるにあたり、瀬戸内海放送や NHK 高松放送局にも取材され、その模様が放映された。

・東京国立博物館との共同研究で、当研究所保存科学センターや無形文化遺産部と協力し、マイクロスコープを用いて画絹の糸の太さや本数、断面形状などを計測し、地域や時代による傾向を抽出した（8 月 9～10 日、5 年 1 月 12～13 日で、計 14 件の作品を調査)。また、東京国立博物館研究情報アーカイブズでのデータ公開について協議した。

和泉市久保惣記念美術館での調査

○複合的研究成果の公開と、蓄積データの機能拡張・相互連携

・日本の美術工芸に関する研究会を 3 回行った（5 月 30 日、9 月 15 日、11 月 28 日)。

・売立目録デジタルアーカイブの連携協力に関する打合せを行い、今後、各機関が所蔵する売立目録について、情報共有や相互連携の可能性を協議した（8 月 23 日セインズベリー日本藝術研究所・立命館大学、12 月 1 日西尾市岩瀬文庫)。

・美術史研究のためのコンテンツ（日本美術史年紀資料集成）作成として、平成 30 年以降の展覧会図録から年紀のある作品の資料を順次収集して入力し、4 年度の入力件数は 592 件に達した。

年度計画評価	A

【評定理由】

①適時性については、最新の展覧会図録から有年紀作品のデータを計 592 点追加したほか、研究会では近世絵画の彩色材料に関する新知見を発表した。②独創性については、現在損傷した与謝蕪村の作品を、昭和 30 年代に撮影したモノクロ写真から復原する事業に、きわめて高い独創性が発揮され、その成果を報告書で公開した。③発展性については、和泉市久保惣記念美術館での光学的調査で、肉眼では判読不明な文字の解読や、釉薬の色表現に関する光学的撮影手法の開発に、今後のさらなる発展性が期待される。④効率性については、年紀資料集成や売立目録デジタルアーカイブの入力規則等の見直しにより、入力・校正の効率性を高めた。⑤継続性については、70 年近く続く研究会を引き続き開催したほか、年紀資料集成の入力や、売立目録デジタルアーカイブの連携協力も継続性の高い重要なコンテンツである。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	A	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値）	定量評価
	研究発表 5 件（ア～オ)、論文 2 件（カ・キ)、報告書 1 件、年紀資料集成追加件数 592 件	—

ア 早川泰弘「桑山玉洲と岩瀬広隆の絵具・絵画作品の材料調査」、イ　安永拓世「彩色材料分析から浮かび上がる桑山玉洲の絵画制作」

ウ 近藤壮氏（共立女子大学文芸学部准教授)「彩色材料分析から浮かび上がる岩瀬広隆の絵画制作」、文化財情報資料部研究会、9 月 15 日

エ 黒﨑夏央「菩薩像における条帛の着用・非着用の問題について―薬師寺金堂薬師三尊像に関する考察の手がかりとして―」、文化財情報資料部研究会、11 月 28 日

オ 安永拓世「呉春筆「白梅図屏風」と絵画の特殊な基底材（芭蕉布・葛布・絹の繊維の同定)」文化ファッション研究機構講演会、文化服装学園、10 月 19 日

カ 米沢玲・安永拓世「光明寺所蔵羅漢図について―重層的な作品理解を目指して―」『美術研究』437、8 月

キ 安永拓世「与謝蕪村筆「寒山拾得図」(妙法寺蔵)再考」『妙法寺蔵 与謝蕪村筆寒山拾得図 共同研究報告書』、東京文化財研究所、5 年 3 月

中期計画評価	B

中期計画記載事項	我が国において古代から近現代までに制作された絵画・彫刻・工芸等を中心とする有形文化財、及びそれらに関連する国内外の文化財について、その文化財の製作技法、制作背景等と受容の様相、その後の評価の変遷、今日に至るまでの保護等に関する調査研究、文化財やその保護に関する文献・画像資料及びその他の文化財情報に関する調査研究とそれらの収集・整理、データベースの構築手法等の文化財情報の公開・活用手法に関する調査研究を行い、調査研究成果を公開する。
評定理由	中期計画の 2 年目として、光学的調査の応用や保存科学センターの協力による彩色材料の化学分析など、隣接諸分野と連携した多角的な調査・研究を、絵画・彫刻・工芸など、より多様な有形文化財について実施することができた。とりわけ、当研究所が蓄積してきたモノクロ写真の活用など、独創的な研究も含まれ、当初の目標を上回る成果をあげることができたほか、今後の研究の発展や深化も期待される。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2112F

中期計画の項目	2-(1)-①-2)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-①-2)	①有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究 2)建造物及び伝統的建造物群に関する調査研究 古材調査等を中心とする古代建築の調査研究、近世・近代を中心とした文化財建造物の基礎データの収集、未指定建造物・歴史的建造物の今後の保存と復原に資するための調査・研究を行い、纏まったものより順次公表を行う。また、伝統的建造物群及びその保存・活用に関する調査研究を推進し、保存活用を行っている各自治体等への協力を行う。
プロジェクト名称	歴史的建造物及び伝統的建造物群の保存・修復・活用の実践的研究	
文化遺産部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】**○大林潤（建造物研究室長）、島田敏男（同室特任研究員）、箱崎和久（都城発掘調査部遺構研究室長）ほか 6 人	

【年度実績と成果】

○法隆寺古材調査　報告書のための図面の作成と執筆を行った。※法隆寺刊行物として報告書を編集した。

○奈良県社寺建築悉皆調査　奈良県と協力して行っている県内社寺の悉皆調査について、26 回の現地調査を行い、4 市町村について社寺の台帳を作成した。

○松江市内社寺建築詳細調査　松江市と協力し、松江市内の社寺建築について 2 回（のべ 5 日）の現地調査を行った。調査成果を報告書として刊行した。※松江市刊行物としてブックレットの編集を行った。

○受託調査　以下 5 件の調査研究業務を受託した。

・高野山地区建造物調査業務（高野町）　※高野町刊行物として報告書を編集した。
・佐渡市小木町伝統的建造物群保存対策調査業務（3 年度契約）（佐渡市）
・佐渡市小木町伝統的建造物群保存対策調査業務（4 年度契約）（佐渡市）
　※佐渡市刊行物として報告書を編集した。
・松江市美保関伝統的建造物群保存対策調査業務委託（松江市）
・生駒市内歴史的建造物詳細調査業務（生駒市）

奈良県社寺建築詳細調査

年度計画評価	B

【評定理由】

①適時性においては、建造物調査業務は、2 年 6 月施行の改正文化財保護法に基づいた地方公共団体の要望に則した事業で、適時性が高い。②独創性においては、いずれもある一定の地域を対象とした悉皆調査をもとに詳細調査対象を抽出するという手法を確立し、独創性がある。③発展性においては、いずれの調査とも、その成果は文化財保護施策や文化財活用に資するものであり、今後の地域の文化財保存の基礎となる調査に位置付けられ発展性がある。④効率性においては、建造物研究室所属研究員 2 人のほか、研究所内のスタッフとも連携して、数多くの調査研究を行っており、効率的である。⑤継続性においては、各年度、調査対象・調査方法の異なる調査を行うことにより、組織としての調査技術を継承するとともに、各研究員の調査能力の向上・維持も保持されていることから、組織調査として継続性があると判断する。以上より、順調に事業を遂行できたと判断し、B評価とした。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	A	A	B

【目標値】	【実績値・参考値】 ・刊行報告書数 1 件（①）、編集報告書数 4 件（②～⑤）・論文等数：5 件（⑥～⑩） ・調査（日）回数　86 日	定量評価 —

①『松江市内社寺建築詳細調査報告書』(5 年 3 月) ②『法隆寺金堂古材調査報告書』(5 年 3 月) ③『佐渡市小木町伝統的建造物群保存対策調査報告書』(5 年 3 月) ④『高野町の歴史的建造物』(5 年 3 月) ⑤『月照寺の廟門群』(5 年 3 月) ⑥「松江市内社寺建築の特質―松江市内社寺建築悉皆調査より―」『紀要 2022』(6 月) ⑦「高野山の近世建築における古代・中世建築の継承」『紀要 2022』(6 月) ⑧「地形と伝統的町割りの連関―佐渡市小木町を事例として―」『紀要 2022』(6 月) ⑨「生駒市における歴史的建造物悉皆調査について」『紀要 2022』(6 月) ⑩「松江神社の造営大工と松江藩御大工について」」『文化財論叢Ⅴ』(5 年 3 月)

中期計画評価	B

中期計画記載事項	有形文化財、 伝統的建造物群に関する基礎的・体系的な調査研究として以下の課題に取り組み、我が国の美術工芸品や建造物の価値形成の多様性及び歴史・文化の源流の究明等、並びに有形文化財の保存修復等に寄与する。 2)建造物及び伝統的建造物群に関する調査研究 建造物に関しては、古代建築の研究に資するため、古材調査を中心とする古代建築調査を行う。また、近世・近代の建造物等の調査研究及び保存活用計画の策定への協力を行い、成果を公開する。伝統的建造物群については、その保存と活用に資するため、重要伝統的建造物群保存地区を目指している地区の調査を行い、成果を公開するとともに、各地の歴史的建造物の保存に協力する。
評定理由	古代建築の技法に関する研究は、法隆寺古材調査で金堂古材の調査が完了し、その成果を報告書に反映できており、中期計画を順調に遂行できている。近世・近代を対象とした調査では、奈良県や島根県松江市での悉皆調査及び詳細調査などを行い、各地域における今後の文化財保護行政に資する調査を行っている。また伝統的建造物群に関する調査研究は、佐渡市小木町、松江市美保関町について各自治体に協力している。 以上の実績を踏まえ、B評価とした。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2113F

中期計画の項目	2-(1)-①-3)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-①-3)	①有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究 3)歴史資料・書跡資料に関する調査研究 近畿を中心とする古寺社や旧家等が所蔵してきた歴史資料・書跡資料等に関して、原本調査、記録作成を悉皆的に実施するとともに、当麻寺・吉野山関係資料等について公表に向けて整理研究を行う。
プロジェクト名称	近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究	
文化遺産部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】**○吉川聡（歴史研究室長）、橘悠太（歴史研究室アソシエイトフェロー）、綾村宏（客員研究員）	

【年度実績と成果】

○唐招提寺所蔵の書跡資料を調査し、聖教第 1 函～第 5 函の調書原本校正や、聖教第 9 函～12 函の写真撮影等を行った。
○興福寺所蔵の書跡資料・歴史資料を調査し、第 81 函の調書作成、二条家第 11 函の写真撮影と近代資料調査を行った。
○仁和寺所蔵の書跡資料の調査を実施し、御経蔵第 108 函～第 110 函聖教の調書原本校正・写真撮影を実施した。また御経蔵聖教全体の成立過程に関する論文を公表した(①)。さらに御経蔵・塔中蔵の箱の調査・写真撮影を実施した。
○当麻寺所蔵の経典の調査を実施し、西 17 函～北 3 函の調書を作成し、一部を写真撮影した。また堂舎に記された中世～近世の銘文について、写真による釈読・検討作業を行った。
○奈良市教育委員会と連携研究の協定を結び、氷室神社宮司の大宮家所蔵文書の函文書の調書作成を行った。
○薬師寺所蔵の歴史資料について、第 12 函の調書原本校正・第 27 函の写真撮影を行った。
○法華寺所蔵の歴史資料を調査し、第 7 函～9 函の調査・写真撮影を行った。
○吉野山関係の個人蔵歴史資料につき内容検討作業を行った。
○興福寺関係の当研究所に寄贈された歴史資料につき、科学研究費補助金も充当して調査を行い、調査所見記入等を行った。
○東大寺所蔵の歴史資料の調査を、科学研究費補助金も充当して実施し、新修東大寺文書聖教第 100 函～102 函の調査所見記入、第 91 函～92 函等の写真撮影を実施した。
○明治時代～昭和 20 年代の平城宮跡保存運動について、ここ数年の調査成果を取りまとめて成果を平城宮跡資料館に展示し、図録『未来につなぐ平城宮跡』(企画調整部担当)を執筆・編集した。また平城宮跡の廃都後の資料に考察を加えて公表した(②)。
○調査協力の依頼を受け、石山寺文化財調査・文化庁による仁和寺聖教調査・和歌山県橋本市による出土法華経の調査に協力した。

仁和寺の聖教箱

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性は、管理が必ずしも十分でない書跡資料・歴史資料が多い現在、その把握と保全に努めており、適時性がある。②独創性は、仁和寺の聖教箱や平城宮跡の発掘調査と関連させて書跡資料・歴史資料を考察するなど、隣接分野の研究も踏まえた視点を打ち出しており、独創性がある。③発展性は、現在の調査対象は近年中に公表見込みのものが多く、発展性が認められる。④効率性は、調査対象に応じて、紙の調書を取らずに直接パソコンに調査所見を記入するなど、効率を工夫している。⑤継続性は、膨大な資料を長年にわたり中断なく調査し、全容解明に努めており、継続性がある。よって、順調に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	A

【目標値】	**【実績値・参考値】**(参考値)・論文等数：2 件（①～②） ・調査資料点数：唐招提寺：写真撮影 53 点　興福寺：調書作成 87 点・写真撮影 23 点　仁和寺：写真撮影 257 点　当麻寺経典：調書作成 360 点　薬師寺：写真撮影 93 点　法華寺：調査 27 点・写真撮影 18 点	定量評価 ―

①橘悠太「仁和寺御経蔵聖教の形成と展開」『文化財論叢Ⅴ』(3 月)　②吉川聡「平城京・宮のあとの断章」(①に同じ)

中期計画評価	B

中期計画記載事項	有形文化財、伝統的建造物群に関する基礎的・体系的な調査研究として以下の課題に取り組み、我が国の美術工芸品や建造物の価値形成の多様性及び歴史・文化の源流の究明等、並びに有形文化財の保存修復等に寄与する。 3)歴史資料・書跡資料に関する調査研究 我が国の歴史、文化の解明及び理解の促進等を図るため、近畿地方を中心とした寺社の歴史資料・書跡資料等に関する調査研究を行う。
評定理由	新型コロナウイルスの影響が長引き、研究者が集まれずに調査・研究に支障をきたした部分もあった。一方で、東大寺は 2～3 年度は調査を実施できなかったが、4 年度は調査を再開できた。また、新型コロナウイルスの影響を受けない分野では、着実に調査研究を続けることができた。その成果として研究論文を公表し、平城宮跡資料館での展示や図録作成に生かすことができた。

【書式Ｃ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2121E

中期計画の項目	2-(1)-②-1)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-②-1)	②無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査研究 1)重要無形文化財の保存・活用に資する調査研究等 無形文化財等の伝承実態及びそれらに関わる文化財保存技術に関する基礎的な調査研究及び資料の収集を行うとともに、伝承が困難なため現状記録を要する対象を精査し、記録作成を実施する。 調査研究等に際しては関連する他分野の研究者、伝承者・保存団体、技術保持者・保持団体等との連携を図り、当該調査研究等に基づく成果の一部については、一般向けの公開講座等を通して公表する。 また、これまでに研究所で収集・保管してきた記録・資料の整理を行い、必要に応じて媒体転換等の措置を講ずる。
プロジェクト名称	重要無形文化財の保存・活用に資する調査研究等及び無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化	
無形文化遺産部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○前原恵美（無形文化財研究室長）、石村智（音声映像記録研究室長）、菊池理予（主任研究員）、鎌田紗弓（研究員） ほか	

【年度実績と成果】

○無形文化財に関する調査研究
・芸能分野：古典芸能、関連文化財保存技術（三味線、笙ほか製作技術等）、原材料生産技術（ヨシ、桐、竹、桜の樹皮等）の調査研究、伝統芸能における新型コロナウイルス禍の影響調査
・工芸分野：文化財保存技術（近世染織技法書の情報整理等）に関する調査研究、工芸技術の防災（珠洲焼等）に関する調査研究
○現状記録を要する無形文化遺産の記録作成
・実演記録：宮薗節（宮薗千碌氏ほかによる古典1曲を前後編に分けて収録） 、平家（菊央雄司氏ほかによる伝承曲2曲）の映像記録作成（文化財活用センターとの協働）
・文化財保存技術映像記録：太棹三味線修理技術（長編）の作成と公開
○研究調査に基づく成果の公表
・無形文化遺産（伝統技術）の伝承に関する研究会Ⅳ「型紙と型染」報告書の刊行（5年3月）
・第16回東京文化財研究所無形文化遺産部公開学術講座「無形文化財と映像」開催（10月28日、東京文化財研究所）
・浅田正徹氏採譜楽譜のデジタル画像化と公開（7月）
○無形文化遺産に関わるアナログ資料のデジタル化
・音声資料：オープンリールテープに関して、民謡音源等（約60時間）のデジタル化を実施

公開学術講座「無形文化財と映像」

年度計画評価	A

【評定理由】
①適時性：コロナ禍と伝統芸能、無形文化財と映像など、社会的関心の高いテーマでフォーラムや講座を開催した点を高く評価した。②独創性：森林学、民俗技術など関連分野との連携による文化財保存技術及び原材料生産技術調査研究、所内他部署との連携による美術工芸品修理の用具・原材料調査・研究を継続している点を、独創性の継続として高く評価した。③発展性：工芸技術調査研究の成果公開（青花紙）を踏まえて、一般向け講座を国立工芸館、丸紅ギャラリーで現状と課題について講演の講演を行った。また三味線と声のパートを詳細に採譜したことで音楽分析の貴重な研究材料となる浅田正徹氏の採譜楽譜（浅田譜）のデジタル画像を公開し、伝統芸能分析の発展に寄与するデータを提供した。④効率性：一部の調査をオンライン(収録含む)で行い、少人数ながら専門知識を活かした調査研究アシスタント、研究補佐員との協力体制により、効率的に調査研究・成果公開を行った点を評価した。⑤継続性：コロナの制約下で、対策を講じて実演記録、文化財保存技術の記録映像の作成を引き続き行っている点を評価した。以上のことから、当初の年度計画を上回る事業実績が達成されていると評価した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	A	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** （実績値）論文等発表2本（アイ）／刊行物5件（ウエオカキ）	定量評価 ―

ア「楽器を中心とした文化財保存技術調査報告6」　イ「無形のわざを書き記す：浅田譜における「作譜」(1)」(以上『無形文化遺産研究報告』第17号、東京文化財研究所、5年3月発行)　ウ「肥後琵琶の伝承および関連資料の現状調査」報告書」(5年3月)　エ第15回公開学術講座「樹木利用の文化―桜をつかう、桜で奏でる―」報告書（7月）　オ研究会Ⅳ「型紙と型染」報告書　カ フォーラムⅣ「伝統芸能と新型コロナウイルス―これからの普及・継承―」報告書（5年3月）　キ 日本の芸能を支える技1「琵琶」英語版（5年3月）

中期計画評価	B

中期計画記載事項	重要無形文化財を中心とする古典芸能・伝統工芸技術及びそれらに関わる文化財保存技術について、調査研究・情報収集・記録作成に努め、その保存伝承に資する成果を公開する。
評定理由	3年度に続き新型コロナウィルス禍のため調査に制限のある中、様々な対策を講じて調査研究を進め、公開学術講座やフォーラムを実施し、後者をオンラインで発信できたことは評価できる。さらに伝統芸能や関連保存技術におけるコロナ禍の影響や今後に向けた普及・継承は社会的なニーズに応えたテーマであり評価できよう。以上により、中期計画を順調に遂行できていると判断し、Ｂと判定した。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2122E

中期計画の項目	2-(1)-②-2)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-②-2)	②無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査研究 2)重要無形民俗文化財の保存・活用に資する調査研究等 我が国の風俗慣習、民俗芸能、民俗技術等無形の民俗文化財、及び文化財の保存技術のうち、近年の変容の著しいものを中心に、現在における伝承の実態、伝承組織、公開のあり方等を明らかにするとともに、各地の保存団体や保護行政担当者等とこれら研究成果及び問題意識の共有化を図る。特に災害下における伝承の復興や、後継者不足等により継承の危機にある伝承を重点的に調査研究の対象とする。 さらに、無形文化遺産の記録やその所在情報を継続的に収集し、その情報の整理・公開に努めるとともにネットワーク構築を図る。
プロジェクト名称	重要無形民俗文化財の保存・活用に資する調査研究等	
無形文化遺産部	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○久保田裕道（無形民俗文化財研究室長）、石村智（音声映像記録研究室長）、今石みぎわ（主任研究員）、後藤知美（研究員）ほか	

【年度実績と成果】

○無形民俗文化財に関する調査研究
・風俗慣習調査：祭礼行事の調査研究（福岡県苅田町等）
・民俗芸能調査：民俗芸能に拘わる調査研究（岐阜県恵那市、沖縄県八重瀬町等）
・民俗技術調査：民具製作、食文化に拘わる技術等の調査研究（岐阜県美濃市、岩手県岩泉町等）
○無形文化遺産アーカイブスの開発と公開
・被災地における無形文化遺産調査（宮城県女川町・福島県浪江町等）
・記録保存・活用に拘わる研究：斎藤たま民俗調査カード集成の情報整理。
ネパール・コカナ集落における民俗誌の活用。
・アーカイブスの構築：「無形文化遺産総合データベース」の構築と映像・画像等の収集等。
○研究集会の開催
・無形民俗文化財研究協議会：第17回協議会を「文化財としての食文化」をテーマに5年2月1日に開催。

岩村町獅子芝居（岐阜県）

年度計画評価	A

【評定理由】

下記観点から評価を行った。①適時性：継続的に行っている継承危機や自然災害に拘わる無形民俗文化財の調査・研究に加え、コロナ禍からの再開に拘わる調査や、新たな登録文化財に関する調査も実施しており、社会的ニーズに応えている点でも極めて適時性が高い。②独創性：3年度の無形・無形民俗の登録文化財制度の創設に伴い新規に登録の対象となった「食文化」分野をテーマにした協議会を企画し、今後の方針について国と地方行政の関係者を招いた協議の場を設定することは、当研究所ならではの立場を生かしたものであり、きわめて独創的である。③発展性：国内での調査研究手法を活かし作成したネパールのコカナ集落における民俗誌（元年度製作）を現地コミュニティに提供し、文化財の活用について協議を行ったことは新たな展開として高く評価できる。④効率性：コロナ禍における制限下において、オンラインによる民俗調査を実施するなど、効率的な調査も組み合わせて行っている点は評価できる。⑤継続性：無形文化遺産のデータベースの整備を継続的に実施している。以上のことから、当初の年度計画を上回る事業実績が達成されていると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	A	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】 （参考値）論文等発表3件（アイウ）／研究発表1件（エ）／映像公開1件（オ）	定量評価 —

ア「南西諸島における製糖技術」『無形文化遺産研究報告17』（東京文化財研究所、5年3月）イ「新型コロナ禍の民俗芸能」『日本民俗学』（日本民俗学会、5月）ウ「岩村町獅子芝居」『民俗芸能100』（民俗芸能刊行委員会、11月）エ「第17回無形民俗文化財研究協議会」口頭発表（東京文化財研究所、5年2月）、オ「長良川の鵜舟をつくる―鵜舟プロジェクト2017の記録」（映像記録、9月）

中期計画評価	B

中期計画記載事項	無形民俗文化財においては、全国の民俗芸能・風俗慣習・民俗技術の情報を収集記録し、その保存及び活用に貢献しうる研究成果を公開する。
評定理由	中期計画2年目にあたる4年度は、コロナ禍に中止していた民俗行事等の再開が見られたものの、実際には規模縮小など著しい変容が始まっており、無形民俗文化財の保護・継承のための検証に対する社会的ニーズは高まっている。特に文化財行政では新たな登録文化財制度も含め、無形民俗文化財の活用に関心が高まっており、そのための調査と情報発信を行ってきたことは、評価できる。また全国の無形民俗文化財を中心とした無形文化遺産のデータベース構築を継続しており、全国唯一の無形文化遺産のデータベースとして、今後の活用も期待される。予算規模の縮小やコロナ禍の制限等による調査機会の減少などはあるものの、順調に中期目標を遂行できていると判断し、Bと判定した。

【書式Ｃ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2123E

中期計画の項目	2-(1)-②-3)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-②-3)	②無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査及び研究 3)無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集等 日本と関連の深いアジア諸国等との間において研究員の交流や無形文化遺産関連調査を行う等、無形文化遺産分野における研究交流事業を実施する。ユネスコ無形文化遺産保護条約に関する調査研究を進める。
プロジェクト名称	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集等	
無形文化遺産部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○石村智（音声映像記録研究室長）、宮田繁幸（客員研究員）、二神葉子（文化財情報資料部文化財情報研究室長）ほか	

【年度実績と成果】

○韓国文化財庁国立無形遺産院との研究交流

韓国国立無形遺産院との研究交流の一環として、11 月 24 日～12 月 12 日にかけて先方より崔淑慶学芸研究士を受け入れ、無形文化財の登録制度と生活文化についての共同研究を実施した。

○無形文化遺産の国際的な動向に関する調査研究

ユネスコ無形文化遺産条約第 17 回政府間委員会（11 月 28 日～12 月 3 日）は 3 年ぶりの現地（モロッコ）開催となったが、コロナ禍の影響を鑑み、2 人のスタッフ（石村・二神）がリアルタイムで傍聴し、ユネスコ無形文化遺産条約に関する情報収集を行った。なお本調査の成果は『無形文化遺産研究報告』第 17 号において報告した。

韓国との研究交流での現地調査

○アジア太平洋無形文化遺産研究センター（IRCI）への協力

IRCI への協力として、国際シンポジウム「無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する調査研究：持続可能なまちづくりと無形文化遺産」（1 月 31 日～2 月 2 日）に石村室長が出席した。

○その他

文化遺産国際協力コンソーシアム令和 4 年度シンポジウム「気候変動と文化遺産―いま、何が起きているのか―」（11 月 18 日）に参加し、研究発表を行った。またその内容を『無形文化遺産研究報告』第 17 号において報告した。

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、世界的に問題となっているコロナ禍が及ぼす無形文化遺産への影響について海外の情報を収集し国内に発信することができた。またコロナ禍によってしばらく中断していた韓国国立無形遺産院との研究交流を再開し、感染症対策を十分講じながら現地調査を実施できたことは大きな成果である。②独創性においては、我が国における無形文化遺産研究の唯一の機関として、国際会議へ出席し、気候変動問題について情報発信を行うなど、国際的な存在感を示すことができた。③発展性においては、IRCI や文化遺産国際協力コンソーシアムへの協力において、国際的な情報発信と協力を発展的に進めることができた。④効率性においては、コロナ禍による制限下のもと、オンライン会議などによって効率的な事業を実施することができた。⑤継続性においては、韓国国立無形遺産院との研究交流を継続しており、特に 4 年度は研究交流事業を再開することが出来た。またユネスコの政府間委員会については毎年その動向を調査していることから、一定の継続性を達成している。よって順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	B	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** （実績値） 研究論文発表 2 件（ア、イ）、学会・研究発表 1 件（ウ）	定量評価 ―

ア「無形文化遺産の保護に関する第 16 回政府間委員会における議論の概要と今後の課題」（『無形文化遺産研究報告』第 17 号、5 年 3 月）イ「気候変動と無形文化遺産」（『無形文化遺産研究報告』第 17 号、5 年 3 月）ウ「気候変動と伝統的知識：オセアニアの事例から」（「文化遺産国際協力コンソーシアム令和 4 年度シンポジウム」口頭発表、11 月）

中期計画評価	B

中期計画記載事項	無形文化財、無形民俗文化財等に関する課題に取り組み、その伝承・公開に係る基盤の形成に寄与する。
評定理由	コロナ禍によってしばらく中断していた韓国国立無形遺産院との研究交流も再開することができ、5 年度以降も事業継続する予定である。ユネスコ無形文化遺産条約政府間委員会における情報収集については、4 年度もオンラインによって傍聴してその動向を把握し、その分析結果を『無形文化遺産研究報告』にて公開した。また IRCI や文化遺産国際協力コンソーシアムによる事業への協力を通じ、国際的な成果発信も順調に行っている。以上の理由から、中期計画の 2 年目は順調に遂行されたといえる。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2131Fｱ

中期計画の項目	(1)-③-1)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-1)-ｱ	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 1)史跡・名勝の保存・活用に資する調査研究 我が国の史跡・名勝に関し、以下の調査研究を行う。 ア　遺跡等の整備に関連する資料の収集・調査・整理等を行う。また、遺跡の保存・活用に関する研究集会を開催するとともに、過年度開催した研究集会の成果の取りまとめ及び公表を行う。さらに平城宮跡等で保存・活用に関する実践的研究を行う。
プロジェクト名称	我が国の記念物に関する調査研究(遺跡等整備)	
文化遺産部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○内田和伸（遺跡整備研究室長）、高橋知奈津（遺跡整備研究室主任研究員）、中島義晴（景観研究室長）	

【年度実績と成果】

○4 年 3 月 15 日に開催した 3 年度奈良文化財研究所遺跡整備・活用研究集会「移築された遺跡由来の遺構および石造物の現状と課題」の報告書を刊行した。

○5 年 3 月 21 日に 4 年度奈良文化財研究所遺跡整備・活用研究集会を関係者等 13 人で開催した。テーマは「近世における名所旧跡の保存と顕彰」とした。

○6 月 25 日に特別史跡平城宮跡の史跡指定 100 年、当研究所創立 70 周年を記念して開催したシンポジウムでは、文化財保護法の前身の一つである史蹟名勝天然紀念物保存法の成立と、古代の宮跡を巡る社会状況等を報告できた。

○平城宮跡の活用に関する実践的研究では、平城宮跡出土遺物に因む地域間交流として、11 月 2 日に兵庫県養父市立八鹿小学校の赤米献上隊を受け入れ、4 年に復元した大極殿門建物を利用した体験学習を実施し、「なぶんけんチャンネル」でも動画を発信した。また、遺跡の活用を促進するため、出土遺物等から復元した古代遊戯「かりうち」を、現代でも楽しめるゲームとして普及させるため、かりうちキットを文化財活用センターの支援を受けて試作し、11 月 26 日に朱雀門前において、平城宮跡管理センターと「かりうち体験試合」を共催し好評を得た。

年度計画評価	B

【評定理由】

下記の各観点から評価を行った。①適時性については、平城宮跡史跡指定 100 年の年であるため、明治時代の保存顕彰事業と関わる内容で研究集会が開催でき、適切なタイミングであった。②独創性については、史跡等の整備史を取り上げた研究集会はいままでなかったため、近世・近代における保存・顕彰を取り上げたことは適切であった。③効率性については、平城宮跡でも近代における顕彰があり、解説の必要もあり、研究集会と重なるテーマであり効率的であった。④継続性については、毎年研究テーマを選んでいるが、遺跡の保存活用という点では継続性をもっている。

観点	①適時性	②独創性	③効率性	④継続性	
定性評価	A	B	B	B	

【目標値】	**【実績値・参考値】** ・論文等件数　9 件（ア、イ、ウ）　・講演　3 件（エ）	定量評価 －

ア　内田和伸『未来につなぐ平城宮跡―保存運動のあけぼの―』平城宮跡資料館図録　奈良文化財研究所 4 月

イ　内田和伸「歴史的建造物の復元」「建造物の修理・整備・防災」「史跡等の整備・復旧・復元・防災」『造園大百科事典』朝倉書店 7 月

ウ　内田和伸「史蹟名勝天然紀念物保存法と山田寺跡の史跡指定」『特別史跡山田寺　史跡指定一〇〇年』奈良文化財研究所　pp.11-25 6 月　ほか 4 件

エ　内田和伸「平城宮跡の史跡指定」『平城宮跡史跡指定百年・奈良文化財研究所創立 70 周年記念シンポジウム』6 月 25 日　ほか 2 件

中期計画評価	B
中期計画記載事項	記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する基礎的・体系的な調査研究として以下の課題に取り組み、記念物の保存・活用、古代国家の形成過程や社会生活等の解明、文化的景観に関する保存・活用並びに研究の進展、埋蔵文化財に関する学術研究の深化に寄与する。 1)史跡・名勝の保存・活用に資する調査研究 記念物のうち史跡については、その保存・活用のための調査研究を地域振興の観点に基づき進める。名勝については、庭園に関する調査研究を実施し、成果を公開する。
評定理由	研究集会では、近世以降の名所旧跡に設置されている記念碑などはその顕彰の歴史を考える上で重要な要素であり、顕彰の背景には大名による先祖顕彰や地誌編纂があることなど重要な知見を参加者と共有した。今後も文化庁の行う事業を意識した文化財保護行政に資する研究集会を開催する予定である。また、平城宮跡をフィールドにその活用に関する実践的研究を他部局・他機関と連携して複数実施できた。以上の実績より、所期の計画を遂行することができたため、B評価とした。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2131F イ

中期計画の項目	2-(1)-③-1)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-1)-イ	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 1)史跡・名勝の保存・活用に資する調査研究 我が国の史跡・名勝に関し、以下の調査研究を行う。(文化遺産部・遺跡整備研究室) イ　庭園調査を行うとともに、庭園に関する基礎資料の収集・整理を進める。
プロジェクト名称	我が国の記念物に関する調査研究(庭園)	
文化遺産部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○)】** ○内田和伸（遺跡整備研究室長)、高橋知奈津（主任研究員）	

【年度実績と成果】

○庭園の保存修復技法研究：4 年度より庭園の修復方法の分析のため、既刊の庭園整備報告書に記載の整備事業項目を整理した「庭園保存修理事業データベース（未定稿)」を作成した。その中から、特に護岸修復の事例について内容の分析を行った。

○全国の庭園調査、保存活用計画、整備報告書等の収集を継続して行うとともに、文化財庭園保存技術者協議会研修・文化財庭園フォーラム（秋田／鳥取）に参加し、情報収集を行った。

○所蔵資料の整理・公開では、森蘊旧蔵資料等について、名勝九年庵庭園をはじめとする各地公体等からの資料提供依頼に対して、優先してデジタル化を進めた。また、記念物ガラス乾板の整理を行い、総数と状態の確認、包材の取り換えが完了した。

○個別庭園の調査研究として奈良市所在庭園の名勝指定に向けた助言・協力を行った。そのほか、鳥取県、三重県をはじめとする地方公共団体実施の文化財保存活用の取り組みに対する協力において、研究成果を活かすことができた。

文化財庭園技術者協議会研修への参加
（鳥取県三朝町）

年度計画評価	B

【評定理由】

①適時性については、コロナ禍後に再開された文化財庭園保存技術者協議会研修等に参加するなどして、最近の動向を把握することができた。②独創性及び③発展性について、「庭園保存修理事業データベース（未定稿)」は、これまでにないものであるとともに、今後さらに情報の充実化を図り、文化財庭園の保存修理の現場で活用できるデータベースとして発展させることのできるものである。④効率性について、報告書等による事例研究に合わせ、文化財庭園保存技術者協議会研修や地方公共団体への協力で現場を通じて効率よく最新の情報収集をすることができた。⑤継続性においては、森蘊旧蔵資料や記念物ガラス乾板などの所蔵資料の公開活用に向けて、着々と整理・デジタル化を進めることができた。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	(実績値)・論文等　1 件（①）　・口頭発表等　1 件（②） ・整理資料点数：記念物ガラス乾板　2,997 点 ・整理データ点数：庭園保存修理事業データベース　1,085 件	―

①高橋知奈津「依山楼岩崎庭園　指定説明調書（鳥取県指定名勝調査)」12 月
②高橋知奈津「文化財庭園とその継承」山形県文化財保護協会講演会、8 月 13 日

中期計画評価	B

中期計画記載事項	記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する基礎的・体系的な調査研究として以下の課題に取り組み、記念物の保存・活用、古代国家の形成過程や社会生活等の解明、文化的景観に関する保存・活用並びに研究の進展、埋蔵文化財に関する学術研究の深化に寄与する。 1)史跡・名勝の保存・活用に資する調査研究 記念物のうち史跡については、その保存・活用のための調査研究を地域振興の観点に基づき進める。名勝については、庭園に関する調査研究を実施し、成果を公開する。
評定理由	4 年度からの新たな取り組みとして、庭園の保存修復技法の分析のためのデータベースの構築に着手し基本的な情報の整理ができたことは、今後の研究を深め、文化財庭園保護行政上の適切な助言を行っていくうえで、必要な成果といえる。また、個別の庭園調査を行うともに、所蔵資料の整理・デジタル化に向けた取り組みを着実に進めることができたことは評価でき、中期計画に掲げた名勝の保存活用に資する調査研究を遂行できているものといえる。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2132F ｱ-1

中期計画の項目	2-(1)-③-2)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-2)-ｱ	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究 国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等に関する調査研究及び伝統的建造物に関する基礎的調査研究を行う。 ア　古代都城の解明のため、平城京跡、興福寺旧境内、藤原宮大極殿院地区、藤原京跡、及び飛鳥地域の宮殿・寺院の発掘調査を行う。
プロジェクト名称	特別史跡平城宮跡の発掘調査(第 648・652 次)	
都城発掘調査部（平城地区）	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○)】**○箱崎和久（都城発掘調査部長)、馬場基（同部平城地区史料研究室長)、丹羽崇史・桑田訓也・川畑純（同部平城地区主任研究員)、浦蓉子（同部平城地区考古第一研究室研究員)、山崎有生・髙野麗（同部平城地区遺構研究室研究員)、道上祥武（同部飛鳥・藤原地区考古第三研究室研究員)、飯田ゆりあ（企画調整部写真室主任)、鎌倉綾（企画調整部写真室技能補佐員）	

【年度実績と成果】

・調査目的
　平城宮北面大垣の遺構（第 648 次）及び平城宮西北部の遺構（第 652 次）の確認
・調査面積
　30 ㎡（第 648 次)、18 ㎡（第 652 次）
・調査期間
　7 月 25 日～29 日（第 648 次)、10 月 24 日～11 月 7 日（第 652 次）
・主な検出遺構
　東西溝 1 条（第 648 次)、近世以降の東西流路（第 652 次）
・主な出土遺物
　土師器・須恵器・中近世陶磁器、瓦、木質遺物、石製品、獣骨等。

第 648 次調査区全景（南東から）

・調査所見
第 648 次：後世の削平により北面大垣の遺構はなかった。検出した東西溝は中近世以降に廃絶したものと考えられる。
第 652 次：近世以降の東西流路やそれに伴う東西木杭列を検出したが、平城宮に関わる遺構は確認できなかった。

年度計画評価	B

【評定理由】①適時性：個人住宅建設に伴う事前調査で、市からの要請に応じて迅速に対応した。②独創性：狭小な地において、最も情報の得られる調査区の設定に努めた。③発展性：特別史跡平城宮跡の北面大垣及び宮西北部における遺構の残存状態を確認することができた。④効率性：限られた人員・時間で最大の情報量が得られるような調査方法を模索した。⑤継続性：平城宮に関する遺構の残存状況について新たな資料を蓄積することができた。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】**(参考値)論文等数：2 件（ア・イ） 648 次：出土遺物件数等：土師器 1 箱、瓦塼類 3 箱、木器 1 点。 記録等数：撮影写真枚数：計 237 枚　作成図面枚数：計 2 枚（A2 判） 652 次：出土遺物件数等：土師器・須恵器・瓦質土器・近世陶磁器など 2 箱、丸平瓦 5 箱、木質遺物 2 バット、石製品 1 点、獣骨 2 点 記録等数：撮影写真枚数：計 141 枚　作成図面枚数：計 3 枚	定量評価 －

ア山崎有生ほか「平城宮北面大垣の調査－第 648 次」『奈良文化財研究所発掘調査報告 2023』(5 年 12 月刊行予定)
イ髙野　麗ほか「平城宮西北部の調査－第 652 次」『奈良文化財研究所発掘調査報告 2023』(5 年 12 月刊行予定)

中期計画評価	B

中期計画記載事項	古代日本の都城の解明等を図るため、平城地区では平城宮跡東院地区及び東方官衙地区並びに平城京内の寺院遺跡の調査研究を進め、飛鳥・藤原地区では藤原宮跡大極殿院地区等及び飛鳥地域の寺院・宮殿遺跡等の調査研究を進める。
評定理由	古代日本の都城の解明等を進めるため、平城宮京の調査を継続的に実施している。本調査もその一環であり、これまで調査事例の少なかった平城宮北面大垣及び平城宮西北部を調査した。発掘の結果、北面大垣の遺構は後世の削平により残存しておらず、西北部でも奈良時代の遺構は残存していないことを確認した。また、適時性、発展性、効率性、継続性において適切な対応と今後の研究に資する情報を入手することができた。以上の成果に基づき、Ｂと判定した。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2132F ｱ-2

中期計画の項目	2-(1)-③-2)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-2)-ｱ	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究 国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等に関する調査研究及び伝統的建造物に関する基礎的調査研究を行う。 ア　古代都城の解明のため、平城京跡、興福寺旧境内、藤原宮大極殿院地区、藤原京跡、及び飛鳥地域の宮殿・寺院の発掘調査を行う。
プロジェクト名称	西大寺弥勒金堂の発掘調査(第 655 次)	
都城発掘調査部（平城地区）	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】**○箱崎和久（都城発掘調査部長）、西田紀子・小田裕樹・山本祥隆（以上、同部平城地区主任研究員）、田中龍一（同部平城地区考古第三研究室研究員）、飯田ゆりあ（企画調整部写真室主任）	

【年度実績と成果】

・調査目的
　西大寺弥勒金堂基壇の確認
・調査面積：44 ㎡
・調査期間：5 年 3 月 1 日～4 月 3 日（3 月 20 日（月）現地見学会：約 150 人来場）
・主な検出遺構
　金堂基壇土、壺地業 6 基、礎石抜取穴 6 基、瓦溝 1 条等。
・主な出土遺物
　瓦塼、土師器・須恵器・中近世陶磁器、木質遺物、凝灰岩等。
・調査所見
　これまでの発掘調査成果及び復原研究で想定していたとおり、奈良時代創建の弥勒金堂基壇の東北隅部分を確認した。弥勒金堂の礎石抜取穴や壺地業等の遺構を検出したことで、小面積ながら柱位置を検討する材料を得ることができ、また奈良時代後期の官寺金堂の基壇築成技術を解明することができた。

第 655 次調査区全景(北から)

年度計画評価	A

【評定理由】
①適時性：個人住宅建設に伴う事前調査で、市からの要請に応えて迅速に対応した。また、通常は行わない近隣住民を対象とした現地見学会を開催した。開催にあたっては、各種調整のうえ地元の自治会や小学校の協力を得て広報を行い、参加者からは遺構の理解やこの土地の重要性を知ることができたと、好評を得た。②独創性：これまで周辺の調査成果から想定していた弥勒金堂の遺構を初めて発掘調査で確認した。③発展性：弥勒金堂の遺構を確認したことで、正確な位置・規模を推定できたことに加え、特異な基壇築成技術を知ることができ、奈良時代最後の官寺の実態を検討する貴重な資料を得た。また見学会を開催したことで、将来の史跡指定にむけて住民の理解を得るためのきっかけ作りができた。④効率性：限られた費用・時間で最大の情報量を得るための調査方法を模索した。⑤継続性：弥勒金堂及び金堂院全体の復元研究を推進し、将来の史跡指定につなげる成果を上げることができた。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	A	B	A

【目標値】	**【実績値・参考値】**(参考値)論文等数：1 件（ア） 出土遺物件数等：土師器・須恵器・中近世陶磁器など 6 箱、瓦塼類 141 箱、木質遺物 28 箱・石器等 3 箱・種子等 4 箱 撮影写真枚数：計 2,552 枚　作成図面枚数：計 12 枚	定量評価 －

ア）田中龍一ほか「西大寺弥勒金堂の調査－第 655 次」『奈良文化財研究所発掘調査報告 2023』(5 年 12 月刊行予定)

中期計画評価	A

中期計画記載事項	古代日本の都城の解明等を図るため、平城地区では平城宮跡東院地区及び東方官衙地区並びに平城京内の寺院遺跡の調査研究を進め、飛鳥・藤原地区では藤原宮跡大極殿院地区等及び飛鳥地域の寺院・宮殿遺跡等の調査研究を進める
評定理由	古代日本の都城の解明等を進めるため平城宮京の調査を継続的に実施しており、本調査もその一環である。既往の調査成果から想定していた西大寺弥勒金堂を、発掘調査で初めて確認した。奈良時代創建期の基壇土及び壺地業、近世の礎石抜取穴を検出し、弥勒金堂の規模や柱位置等を復元するための成果を得た。これに基づいて金堂院の復元研究をさらに推進し、史跡指定を見据えて成果を公表していく予定である。また、市の要請に迅速に対応するとともに、地元の自治会と協力して近隣住民を対象とした現地見学会を開催することができた。以上から、Ａと判定した。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2132F ｱ-3

中期計画の項目	2-(1)-③-2)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-2)-ｱ	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究 国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等に関する調査研究及び伝統的建造物に関する基礎的調査研究を行う。 ア　古代都城の解明のため、平城京跡、興福寺旧境内、藤原宮大極殿院地区、藤原京跡、及び飛鳥地域の宮殿・寺院の発掘調査を行う。
プロジェクト名称	藤原宮大極殿院地区の発掘調査	
都城発掘調査部 （飛鳥・藤原地区）	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○清野孝之（副部長）、廣瀬覚（考古第一研究室長）、鈴木智大・山藤正敏（以上、主任研究員）、岩永玲・髙野麗・道上祥武（以上、研究員）、栗山雅夫（以上、企画調整部写真室主任）ほか	

【年度実績と成果】

○藤原宮大極殿院の発掘調査(飛鳥藤原第 210 次調査)を実施した。
・調査地：橿原市醍醐町
・調査期間：5 月 9 日～8 月 26 日
・調査面積：565 ㎡
○調査成果
大極殿後方基壇及び大極殿後方西回廊の規模と構造を明らかにした。大極殿後方基壇は東西 50m、南北約 16m、大極殿後方回廊基壇から南北に約 3m ずつ張り出す構造をもつ。大極殿後方西回廊については、桁行約 4.1m（14 尺）等間、梁行約 2.9m（10 尺）等間の礎石建ち、瓦葺きの複廊であることを確定した。大極殿後方基壇上に想定される建物は大極殿後殿にあたり、後方回廊はそれに取り付く軒廊と考えられる。以上、古代日本の宮都構造の変遷を考える上で重要な成果を挙げることができた。

飛鳥藤原第 210 次調査区全景（北東から）

年度計画評価	A

【評定理由】

下記の各観点から評価を行った。①適時性では、近年の調査成果を受け大極殿北方の調査を行い、藤原宮大極殿院の構造及び造営過程に関する重要なデータを取得できたため、Ｂとした。②独創性は藤原宮大極殿の北側において、大極殿の「後殿」に相当すると考えられる施設を遺構として認識できたことからＡとした。③発展性では、藤原宮と他の古代宮都の今後の研究に資する成果を提示できたため、Ａとした。④効率性はここ数年の調査成果を踏まえ、発掘調査の範囲・期間を必要最小限にとどめ、大きな成果を上げたことからＡとした。⑤継続性は第 200 次調査（元年度）における大極殿後方東回廊の発見を端緒とし、1 年ごとに成果と課題を積み上げることで、藤原宮における大極殿「後殿」の存否に関して一定の結論を得ることができたためＡとした。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	A	A	A	A

【目標値】	**【実績値・参考値】**	定量評価
	・報道発表資料：1 件（ア）　・現地見学会資料：1 件（イ） ・現地見学会来場者数：468 人　・論文等数：1 件（ウ） ・出土遺物：軒瓦等 2 箱、丸・平瓦 38 箱、土器 6 箱、木製品・石製品等 3 箱ほか ・記録作成数：遺構実測図 38 枚、写真 1799 枚	―

ア奈良文化財研究所都城発掘調査部「藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第 210 次調査）記者発表資料」(8 月)
イ奈良文化財研究所都城発掘調査部「藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第 210 次調査）現地見学会資料」(8 月)
ウ道上祥武「藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第 210 次)」『奈文研ニュース』No.86（9 月）

中期計画評価	A

中期計画記載事項	古代日本の都城の解明等を図るため、平城地区では平城宮跡東院地区及び東方官衙地区並びに平城京内の寺院遺跡の調査研究を進め、飛鳥・藤原地区では藤原宮跡大極殿院地区等及び飛鳥地域の寺院・宮殿遺跡等の調査研究を進める。
評定理由	3 年度の発掘調査において、大極殿後方回廊の中央に基壇建物が存在した可能性が浮上したことを受け、4 年度に必要最小限の発掘調査を実施したところ、その基壇建物が「大極殿後殿」にあたると考えることができた。この成果は、第 200 次調査（元年度）から続く大極殿北側の発掘調査において、成果と課題を積み上げた結果といえ、藤原宮を含む古代宮都の構造を明らかにするうえで重要である。着実で計画的な継続調査によって、藤原宮大極殿院の構造等に関する重要な知見を得たため、Ａとした。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2132F ｱ-4

中期計画の項目	2-(1)-③-2)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-2)-ｱ	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究 国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等に関する調査研究及び伝統的建造物に関する基礎的調査研究を行う。 ア　古代都城の解明のため、平城京跡、興福寺旧境内、藤原宮大極殿院地区、藤原京跡、及び飛鳥地域の宮殿・寺院の発掘調査を行う。
プロジェクト名称	飛鳥地域等の発掘調査	
都城発掘調査部 (飛鳥・藤原地区)	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○清野孝之(副部長)、林正憲（考古第三研究室長)、若杉智宏(主任研究員)、松永悦枝・谷澤亜里(以上、研究員)、樋口典昭（アソシエイトフェロー)、栗山雅夫(企画調整部写真室主任)ほか	

【年度実績と成果】

○奥山久米寺の発掘調査（飛鳥藤原第 211-6 次）を実施した。

・調査地：明日香村奥山・調査期間：10 月 3 日～10 月 12 日・調査面積：26 ㎡

・調査成果

調査地は奥山廃寺塔跡から南東へ約 50m に位置する。調査の結果、土坑 1 基、柱穴 1 基、東西溝 1 条を確認したが、調査地周辺は後世に削平を受けていたとみられる。

○石神遺跡東方の発掘調査(飛鳥藤原第 212 次)を実施した。

・調査地：明日香村飛鳥・調査期間：12 月 12 日～5 年 3 月 16 日・調査面積：336 ㎡

・調査成果

調査地は 3 年度調査区（飛鳥藤原第 209 次）の約 30m 東で、飛鳥寺北面大垣北門想定位置の北西にあたる。石神遺跡第 1 次・第 3 次調査区から続く東西大溝は検出できなかったが、調査区の南側に存在するものと考えられた。一方、調査区中央部で南北溝 2 条と、西側の南北溝に壊される方形石組遺構を検出した。以上は、石神遺跡東方における土地利用の実態を考えるうえで重要な成果である。

第 212 次調査区全景(南東から)

年度計画評価	B

【評定理由】

下記の各観点から評価を行った。①適時性では、石神遺跡東方及び奥山廃寺において必要な発掘調査を適切に実施できたことから、Ｂとした。②独創性では、石神遺跡周辺における過去の調査成果を十分に踏まえ、今日の問題意識に基づき必要な発掘調査を遂行できたことから、Ｂとした。③発展性では、3 年度に実施した第 209 次調査に続き、石神遺跡東方における土地利用の実態解明に資するデータを蓄積できたため、Ｂとした。④効率性では、奥山廃寺において効率的に調査を進めることができたため、Ｂとした。⑤継続性では、これまで継続的に実施してきた石神遺跡の調査成果に加え、その東方で飛鳥時代の遺構群を新たに確認することができたため、Ｂとした。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	(参考値)　・論文等数：2 件（ア・イ） ・出土遺物：丸・平瓦 17 箱、土器 26 箱、石製品・金属製品 3 箱 ・記録作成数：遺構実測図 29 枚、写真 326 枚	_

ア 若杉智宏「奥山廃寺の調査(飛鳥藤原第 211-6 次)」『奈文研ニュース』No.87(12 月)

イ 谷澤亜里「石神遺跡東方の調査（飛鳥藤原第 212 次)」『奈文研ニュース』No.88（5 年 3 月）

中期計画評価	B

中期計画記載事項	記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する基礎的・体系的な調査研究として以下の課題に取り組み、記念物の保存・活用、古代国家の形成過程や社会生活等の解明、文化的景観に関する保存・活用並びに研究の進展、埋蔵文化財に関する学術研究の深化に寄与する。 2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究 古代日本の都城の解明等を図るため、平城地区では平城宮跡東院地区及び東方官衙地区並びに平城京内の寺院遺跡の調査研究を進め、飛鳥・藤原地区では藤原宮跡大極殿院地区等及び飛鳥地域の寺院・宮殿遺跡等の調査研究を進める。
評定理由	石神遺跡東方における発掘調査を実施し、南北溝 2 条と方形石組遺構を検出した。3 年度調査で検出していた東西大溝の東延長部は未確認だが、これらに関連するとみられる南北溝を新たに検出し、調査地周辺における飛鳥時代の土地利用が明らかになりつつある。 このほか、奥山廃寺では個人住宅の建設に伴う発掘調査（第 211-6 次）を適切に実施し、調査地付近が後世に削平を受けていたことが明らかとなった。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2132F ｲ-1

中期計画の項目	2-(1)-③-2)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-2)-ｲ	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究 国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等に関する調査研究及び伝統的建造物に関する基礎的調査研究を行う。 イ　出土遺物及び遺構に関する調査、分析、復原的研究を総合的・多角的に行い、調査研究が纏まったものより順次公表する。
プロジェクト名称	平城宮・京跡出土遺物・遺構の調査・研究	
都城発掘調査部（平城地区）	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】**○箱崎和久（都城発掘調査部長）、金田明大（埋蔵文化財センター長）、加藤真二（企画調整部長）、都城発掘調査部平城地区部員計 16 名	

【年度実績と成果】

(1)2～4 年度の発掘調査及び既往の調査における出土遺物の整理及び検出遺構の調査と研究

・2 年度平城宮東方官衙地区の調査（第 621 次）、4 年度平城京の調査（第 647～654 次）等で出土した各種遺物の洗浄・整理・実測・分析・保存処理等及び検出した遺構の検討を実施した。

・報告書の刊行に向け、平城宮東区朝堂院地区、平城京左京三条一坊一・八坪、右京一条二坊四坪・二条二坊一坪等で出土した遺構・遺物の整理・分析及び報告書の執筆・編集作業等を行った。

(2)調査・研究成果の公表

・3・4 年度に実施した発掘調査及び 2 年度以前に実施した発掘調査出土遺物の研究成果について『奈良文化財研究所発掘調査報告 2023』(5 年 12 月刊行予定)（ア）にて報告すべく、その研究及び報文の執筆を実施した。

・奈良文化財研究所 70 周年記念・平城宮跡史跡指定 100 周年記念特別展『地下の正倉院展－平城木簡年代記〔クロニクル〕』(10 月 15 日～11 月 13 日　於平城宮跡資料館)を開催し、展示図録(イ)を刊行した。

・『平城宮発掘調査出土木簡概報』(四十六)（ウ）を刊行した。

・企画調整部展示企画室が実施した奈良文化財研究所 70 周年・平城宮跡史跡指定 100 周年記念特別展『のこった奇跡　のこした軌跡－未来につなぐ平城宮跡－』(10 月 29 日～12 月 11 日　於平城宮いざない館)（エ）の出展遺物選定及び展示図録の解説文執筆・校正を行った。

・『奈良文化財研究所七十年の軌跡 創立七十周年記念』（オ）の刊行に際し、近 10 年の平城地区発掘調査概要ほかの調査研究活動について執筆・校正した。

年度計画評価	A

【評定理由】

①適時性：2～4 年度の発掘調査で出土した遺物・遺構の整理作業を継続的に進め、調査研究を実施した（ア）。当研究所創立 70 周年記念事業に伴い多くの研究成果を公表した。②独創性：発掘調査、出土遺物の整理研究の成果をより効果的に公表するために、これまでの事業報告である『紀要』に代わって、4 年度から新たに『発掘調査報告書』の刊行を計画し執筆したほか、記念事業に伴う展覧会とその図録等、多様な形態での研究成果公開を実施した。③発展性：未発表資料を公表するほか、既発表資料を再検討した成果を積極的に提示し、平城宮京の遺跡・遺構・遺物の研究を推進した（ア～ウ）。④効率性：3D 計測を遺構・遺物の記録に応用し、調査期間や調査費用の効率化に取り組んだ。⑤継続性：これまで蓄積してきた平城宮・京の調査成果に新しい資料を追加した。既発表の遺構・遺物を再検討し、平城宮京の理解を深めることができた。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	A	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値）刊行物等：5 件（ア～オ）	定量評価 －

ア『奈良文化財研究所発掘調査報告 2023』5 年 12 月刊行予定、イ「地下の正倉院展－平城木簡年代記〔クロニクル〕パンフレット』10 月、ウ『平城宮発掘調査出土木簡概報』5 年 3 月、エ『のこった奇跡　のこした軌跡－未来につなぐ平城宮跡－』10 月、オ『奈良文化財研究所七十年の軌跡 創立七十周年記念』10 月

中期計画評価	A

中期計画記載事項	古代日本の都城の解明等を図るため、平城地区では平城宮跡東院地区及び東方官衙地区並びに平城京内の寺院遺跡の調査研究を進め、飛鳥・藤原地区では藤原宮跡大極殿院地区等及び飛鳥地域の寺院・宮殿遺跡等の調査研究を進める。
評定理由	平城宮京及び古代日本の都城解明等を図るため、遺構・遺物研究の蓄積を継続している。年度当初の計画通り、継続的な調査・研究を行うことができた。4 年度は研究所創立 70 周年記念事業として展覧会開催、図録・パンフレット、記念誌等を刊行したが、これまでの発掘調査や出土遺物の研究成果を公表することができた。また、未発表資料を整理するほか、既発表資料についても再検討し、その成果を公表した。中期計画を順調に実施するとともに、記念事業に伴い新たな研究成果を公表できたのでＡと判断した。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2132F ｲ-2

中期計画の項目	2-(1)-③-2)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-2)-ｲ	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究 国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等に関する調査研究及び伝統的建造物に関する基礎的調査研究を行う。 ｲ　出土遺物及び遺構に関する調査、分析、復原的研究を総合的・多角的に行い、調査研究が纏まったものより順次公表する。
プロジェクト名称	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	
都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○清野孝之（副部長）、山本崇、廣瀬覚、森川実、林正憲（以上、室長）、若杉智宏、山藤正敏、鈴木智大（以上主任研究員）、栗山雅夫（企画調整部写真室主任）ほか	

【年度実績と成果】

○4 年度の発掘調査で検出した遺構の図面・写真資料の作成・整理・分析研究を行い、出土遺物の整理・分析研究を進めた。中期計画の 2 年目にあたる 4 年度は、藤原宮大極殿の北側において発掘調査を実施した（第 210 次調査）。この発掘調査では、3 年度にその存在が明らかとなった大極殿後方回廊中央部の基壇を精査し、この建物が大極殿の「後殿」に相当する施設であった可能性を明らかにした。この調査成果は、新型コロナウイルスの感染対策を講じたうえで、一般向けの現地見学会で公表した（写真）。

○3 年度までに実施した発掘調査の遺構図面・写真資料の再整理・再検討・分析研究を実施するとともに、出土遺物の再調査・再整理・分析研究を進めた。

○飛鳥地域関係では、石神遺跡東方において発掘調査を実施したほか、石神遺跡の遺構及び出土品の整理・分析作業と報告書作成業務を重点的かつ継続的に行った。

飛鳥藤原第 210 次現地見学会風景

年度計画評価	B

【評定理由】

評定の理由は次のとおり。①適時性は新型コロナウイルス対策を講じつつ、最新の調査研究成果の普及・公開に努めたためＢとした。②独創性は藤原宮大極殿の北側において、大極殿の「後殿」に相当する施設を遺構として認識し、大極殿「後殿」の存否に関して一定の結論を得ることができたことからＡとした。③発展性は、発掘調査の規模を縮減せざるをえない中、飛鳥地域及び藤原宮中枢部における発掘調査を実施し、他の古代宮都との比較研究に資する重要な成果を得たことからＢとした。④効率性は綿密な調査計画のもと、藤原宮において発掘調査の範囲・期間を必要最小限にとどめ、一定の成果を上げたことからＡとした。⑤継続性は飛鳥地域及び藤原宮の発掘調査を継続し、その成果を順当に蓄積できたためＢとした。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	A	B	A	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** （実績値） （参考値）・記者発表件数：1 件（ア） ・刊行物：2 件（イ等） ・学会・研究発表件数：8 件 ・論文等数：38 件（ウ等）	定量評価 －

ア　奈良文化財研究所都城発掘調査部「藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第 210 次調査）記者発表資料」
イ　奈良文化財研究所都城発掘調査部「藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第 210 次調査）現地見学会資料」
ウ　岩永玲ほか「藤原宮大極殿院の調査―第 209 次」『奈良文化財研究所紀要 2022』

中期計画評価	B

中期計画記載事項	古代日本の都城の解明等を図るため、平城地区では平城宮跡東院地区及び東方官衙地区並びに平城京内の寺院遺跡の調査研究を進め、飛鳥・藤原地区では藤原宮跡大極殿院地区等及び飛鳥地域の寺院・宮殿遺跡等の調査研究を進める。
評定理由	藤原宮跡大極殿院地区と飛鳥地域の調査研究を進め、古代日本の都城の解明を図るという中期計画に従い、藤原宮大極殿北側の調査を実施したところ、後方回廊中央部の基壇が「後殿」にあたると考えられるようになった。また一連の整理・分析研究においても、これまでの調査研究が次第に結実しつつあることからＢとした。今後も、逐次整理・検討作業を進め、成果を公表していく予定である。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2132F ウ

中期計画の項目	2-(1)-③-2)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-2)-ウ	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究 国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等に関する調査研究及び伝統的建造物に関する基礎的調査研究を行う。 ウ　飛鳥時代の壁画古墳について東アジアを主とする古墳、壁画、絵画資料等の事例との比較研究を行うとともに、東アジアにおける工芸美術史・考古学研究の一環として、日中韓の古代寺院出土遺物を中心とした資料の調査を行う。また、飛鳥時代木造建築に関する研究として、藤原宮・京跡や飛鳥・藤原地域に所在する寺院の構造や出土部材の研究を行う。
プロジェクト名称	東アジアにおける工芸技術及び飛鳥時代の建築遺物等の研究	
飛鳥資料館	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○石橋茂登（学芸室長）、清野陽一（同主任研究員）、竹内祥一朗（同研究員）ほか 3 名	

【年度実績と成果】

○飛鳥資料館収蔵品のうち未整理の瓦等の資料整理、飛鳥寺塔心礎出土品の調査を原則週 1 日で継続して行った。

○3 年度行った瓦類の整理の成果をミニ展示「飛鳥資料館に寄贈された瓦―瓦の花咲く飛鳥資料館―」及び『飛鳥の考古学 2022』の一部として活用した。

○高松塚古墳壁画について発見当時の資料類、記念切手製作関係資料、壁画実物及び模写についての製作技法について調査し、飛鳥資料館秋期特別展「飛鳥美人　高松塚古墳の魅力」において展示解説及び図録として成果を公表した。また、キトラ古墳・高松塚古墳に関連して東アジアにおける古墳壁画との比較検討、漆喰上への描画技法、中国の石窟壁画との比較等を行い、展示解説、講演等で成果を活用した。

○山田寺跡出土部材の計測調査を継続した。

瓦類の整理の成果を活用したミニ展示

年度計画評価	B

【評定理由】

①適時性としては、壁画の研究成果を高松塚古墳発見 50 周年にあわせた特別展に結実させた点が評価できる。②高松塚古墳壁画の模写や実物の描画技法の検討は、模写を所蔵していることや高松塚古墳関連業務の中で実物の壁画を実見する機会があるという当研究所の立場が活かされたものであり、独創性が高い。③発展性については、調査した高松塚古墳壁画の関連資料のなかでも 1 億 2,000 万枚という記録をもつ高松塚古墳壁画記念切手の製作資料は今回が初めての展示となった。郵政博物館学芸員と共に調査したことで、文化財を題材にした切手類について従来と異なる手法での検討や活用をすることができ、今後の展開が期待できるようになった。④効率性は、瓦の整理の成果をミニ展示に活用し、調査研究活動の成果を遅滞なく展示にも活用することで業務量を抑えつつ展示の充実を図ることができた点が評価できる。⑤継続性については、館蔵資料の整理と調査、壁画古墳関連の資料調査を継続してきたことが 4 年度の成果につながっている点を評価できる。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** （実績値） （参考値）論文等 2 本（ア、イ）、講演 2 回（ウ）	定量評価

ア　石田由紀子「変形忍冬唐草文軒平瓦 6647C の再検討」飛鳥資料館カタログ第 39 冊『飛鳥の考古学 2022』（5 年 1 月 20 日発行）
イ　石橋茂登「キトラ古墳・高松塚古墳壁画についての覚書」『文化財論叢Ⅴ』（5 年 3 月）
ウ　講演　濵松佳生「漆喰に描く」・王杰「どう違う？古墳壁画と石窟壁画」（5 年 2 月 17 日・35 人）

中期計画評価	B

中期計画記載事項	古代日本の都城の解明等を図るため、平城地区では平城宮跡東院地区及び東方官衙地区並びに平城京内の寺院遺跡の調査研究を進め、飛鳥・藤原地区では藤原宮跡大極殿院地区等及び飛鳥地域の寺院・宮殿遺跡等の調査研究を進める。
評定理由	複数年にわたって継続している館蔵資料の整理は着実に進捗し、その中から新しい知見も得られている。展示や図録での成果の活用も堅実に実施できた。 飛鳥時代の古墳壁画関係では資料調査の成果が蓄積されるとともに、特別展や論文、講演会として結実し、さらに切手資料の展示など従来の飛鳥資料館の枠にとどまらない展開をみせた点が評価できる。 今後も調査研究の継続と新しい成果が期待でき、中期計画が順調に進行していると言える。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2132F ェ

中期計画の項目	2-(1)-③-2)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-2)-エ	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究 国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等に関する調査研究及び伝統的建造物に関する基礎的調査研究を行う。 エ　アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡及び陶磁器に関する調査研究並びに研究協力について、日本の古代都城及び北魏洛陽城等に関する中国社会科学院考古研究所との共同研究と学術交流の推進、中国の生産遺跡（白河窯跡及び生産品）に関する河南省文物考古研究院との共同研究、三燕文化出土の金属器・陶器等の調査・分析を中心とする遼寧省文物考古研究院との共同研究、日韓古代文化の形成と発展過程に関する韓国国立文化財研究院との研究者の発掘現場交流を含む共同研究等を、協定等に基づいて行う。また、調査研究が纏まったものより順次公表する。
プロジェクト名称	中国・韓国との共同研究	
都城発掘調査部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】**○箱崎和久（都城発掘調査部長）、清野孝之（同部副部長）、神野恵（同部平城地区考古第二研究室長）、今井晃樹（同部平城地区考古第三研究室長）、廣瀬覚（同部飛鳥・藤原地区考古第一研究室長）、林正憲（同飛鳥・藤原地区考古第三研究室長）、小田裕樹、丹羽崇史（以上同部平城地区主任研究員）、松永悦枝（同飛鳥・藤原地区考古第一研究室研究員）、庄田慎矢（企画調整部国際遺跡研究室長）、栗山雅夫(同部写真室主任)	

【年度実績と成果】

・中国社会科学院考古研究所との共同研究　新型コロナウイルスの影響に鑑み 10 月に先方との協議の結果、4 年度に予定していた両研究所の研究員を相互に派遣する学術交流、及び当研究所の研究員が中国の研究所に赴き実施する予定であった出土遺物の共同研究は中止した。これまで実施した遺物調査資料の整理、分類及び図面のトレースなどを実施した。
・遼寧省文物考古研究院との共同研究　新型コロナウイルスの影響により、2 年 6 月以来、双方の安全な往来が可能となるまで共同研究を中断している。4 年度も双方の往来は叶わなかったが、5 年度以降の再開に備え、これまでの蓄積データの整理作業を継続した。とりわけ、研究成果物として、写真画像を中心とする図録類の刊行を立案し、実現にむけて遼寧省側と協議を重ねた。
・河南省文物考古研究院との共同研究　新型コロナウイルスの影響により双方の往来が中断している。4 年度は、当研究所の過去の発掘調査で出土した中国陶磁器の整理作業等を進めた。また、8 月 27・28 日に中国河南省鄭州市で開催した「唐三彩学術研討会」（中国古陶瓷学会ほか主催）にオンラインで参加し、日本側から 4 本の研究発表（ア～エ）を行った。
・韓国国立文化財研究院との共同研究　新型コロナウイルスの影響を受けて双方の協議の上、4 年度の共同研究事業・発掘調査交流の相互派遣を中止し、共同研究の期間を 10 年 3 月まで延長することに決定した。

年度計画評価	B

【評定理由】　①適時性：新型コロナウイルスの影響により、研究員を派遣する事業は実施できなかったが、その他の事業は計画どおり実施することができた。②独創性：日本の研究手法や研究視点から中国・韓国の出土資料を分析した成果を、国内外の学者に公表することができた。③発展性：5 年度の相互交流再開にむけて、これまでの蓄積データの整理作業を行った。④効率性：河南省では、オンラインで参加可能な学会に参加し、渡航ができない状況下において成果を発表した。⑤継続性：これまでの調査研究成果を総括するとともに今後の研究に資する情報を公開した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値）学会等発表：計 4 件（ア～エ）	定量評価 －

ア巽淳一郎「７～８世紀前半期日本出土唐代瓷器」、イ尾野善裕「古代日本における施釉陶器生産技術の発展」、ウ神野恵「日中出土三彩の比較および唐三彩の設計と製作技術を考える」、エ丹羽崇史「奈良三彩の若干の問題について」

中期計画評価	B

中期計画記載事項	古代日本の都城の解明等を図るため、平城地区では平城宮跡東院地区及び東方官衙地区並びに平城京内の寺院遺跡の調査研究を進め、飛鳥・藤原地区では藤原宮跡大極殿院地区等及び飛鳥地域の寺院・宮殿遺跡等の調査研究を進める。
評定理由	中国・韓国における古代都城遺跡、生産遺跡及び出土遺物に関する調査研究並びに学術交流などの事業について、中国社会科学院考古研究所、遼寧省文物考古研究院、河南省文物考古研究院、韓国国立文化財研究院の研究者との共同研究を事業の目的としている。4 年度は主に新型コロナウイルス感染状況の影響により、研究者を相互に派遣しての共同研究及び学術交流はやむを得ず中止した。しかし、これまでの調査研究資料の整理、5 年度の調査再開に向けての準備、学術研究等の学会での発表については計画通り実施することができたのでＢと判定した。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2133F

中期計画の項目	2-(1)-③-3)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-3)	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 3)重要文化的景観等の保存・活用に資する調査研究 文化的景観の保存・活用、及び文化的景観における生活・生業に関する情報収集、調査研究を行う。また、得られた成果を公表し、全国の文化財保護行政担当者、研究者と共有する。
プロジェクト名称	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	
文化遺産部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○中島義晴（景観研究室長）、惠谷浩子（景観研究室研究員）、竹内祥一朗（飛鳥資料館学芸室研究員）	

【年度実績と成果】

○基礎的・体系的研究

・スギ林業に関わる文化的景観について、宮崎県日南市の現地調査を実施し、3 年度までに調査研究をした鳥取県智頭町等の地域との比較研究を行った。また、林業の文化的景観の特性や保護をテーマとして外部の研究者と文化的景観研究会（第 2 回）を開き、5 年度の報告書出版に向けた検討を行った。

・東京文化財研究所で 12 月 26 日に開催された世界遺産研究協議会「文化財としての景観を問いなおす」において、文化的景観の調査研究成果を発表し、世界遺産関連の情報収集を行った。

○文化的景観保護に関する現地調査・研究

・日本各地の文化的景観の調査、保存活用、整備に関する報告書等の収集を継続して行った。

・京都府京都市、宇治市、和束町等をフィールドに、市町の担当部局への協力を通じて文化的景観の価値や継承等に関する検討を行った。

日南市での現地調査の様子

年度計画評価	B

【評定理由】

①適時性においては、世界遺産における歴史文化的な環境・景観の保護について、最近の動向を把握することができた。②独創性においては、スギ林業に関わる複数の地域の詳細な研究をもとに比較研究を行うことができた。③発展性においては、多くの地域の文化的景観の事例、世界遺産に関する情報を収集、検討を深めたことにより、今後のさらなる発展が期待できる。④継続性においては、これまで継続してきたスギ林業の文化的景観の調査研究を進め、成果をまとめた。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④継続性	
定性評価	B	B	B	B	

【目標値】	【実績値・参考値】 （実績値）・論文等数　6 件（①）・研究発表等数　8 件（②）	定量評価
		—

① 中島義晴・竹内祥一朗「『整備基本計画の策定から整備へ』に関するアンケートの集計結果」『第 46 回全国遺跡環境整備会議資料集』第 46 回全国遺跡環境整備会議実行委員会　ほか　5 件

② 惠谷浩子「日本における文化的景観保護の特質」令和 4 年度世界遺産研究協議会 12 月 26 日　ほか　7 件

中期計画評価	B

中期計画記載事項	記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する基礎的・体系的な調査研究として以下の課題に取り組み、記念物の保存・活用、古代国家の形成過程や社会生活等の解明、文化的景観に関する保存・活用並びに研究の進展、埋蔵文化財に関する学術研究の深化に寄与する。 3)重要文化的景観等の保存・活用に資する調査研究 文化的景観の保存・活用の促進等を図るため、重要文化的景観に関する情報を収集・整理し、成果を公開する。あわせて、複数の事例研究により文化的景観の調査手法の体系化を行う。
評定理由	現地調査の実施、調査研究報告書の出版、研究協議会での研究報告等により、当初の計画通り研究を遂行できた上、ウェブサイトでの継続的な情報公開をして、保護行政・学術研究の深化に寄与した。現地調査・研究では、とくにこれまで調査してきた複数の地域における林業に関わる景観を比較し検討を深められたことは評価でき、中期計画に掲げた調査手法の体系化、事例の収集・公開・整理を遂行できた。 5 年度以降は、継続的に文化的景観の保存計画や整備活用事例の情報収集を進め、また、個別事例の調査、成果の公表等を行うことで調査手法の体系化を進める。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2134F ア

中期計画の項目	2-(1)-③-4)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-4)-ア	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 4)全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究 我が国の埋蔵文化財及びその保存・活用に関し、以下の調査研究を行う。 ア　全国の遺跡のうち災害痕跡のみられる遺跡や、官衙・古代寺院を中心とした資料収集及び分析に有効な指標や手法についての研究を進め、その成果をデータベース化して順次公開する。
プロジェクト名称	全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究	
埋蔵文化財センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○金田明大（埋蔵文化財センター長）、村田泰輔（埋蔵文化財センター主任研究員）、馬場基（都城発掘調査部平城地区史料研究室長）ほか 9 名	

【年度実績と成果】

・歴史災害痕跡データベース（以下、災害痕跡 DB という。）及び古代寺院・官衙データベース（以下、寺院官衙 DB という。）の 2 つのデータベースからなる遺跡データベースは、3 年度に引き続き一般公開に向けたデータベース構造並びにセキュリティ構造の大幅改修を進めた。特に研究所内外からデータ入力できるシステム構築を目標に、データ入力及び蓄積データの校訂インターフェース構築作業を進め、今後の活用、拡充に向けたステップを着実に進めている。これらの成果を踏まえ、2 つのデータベースのα版公開を 4 年度に行った。今後は遺跡 DB の安定性並びにセキュリティの確保を確認しつつβ版公開に移行する予定である。

・災害痕跡 DB は、京都、奈良を中心に発掘調査報告書から主に地震、火山噴火、水害の痕跡情報を集成し、データベースの拡充を図った。特に地震痕跡では、これまでに認識されていない潜在的な地震ハザードを「見える化」するなど（論文 1)、今後の活用への有効性が期待される。

・寺院官衙 DB は、全国の古代寺院・官衙及び集落遺跡に関する資料の集成を進め、研究調査資料集を刊行した。またその資料集は、第 26 回古代官衙・集落研究集会（12 月 16 日～17 日）の基盤資料として配布された。

第 26 回古代官衙-集落研究集会報告書

年度計画評価	B

【評定理由】

【①適時性】災害痕跡 DB は、頻発する大型災害に対する防災・減災基盤研究として重要かつ時宜を得ているといえる。寺院官衙 DB は、毎年行われる古代官衙・集落研究集会の基幹データベースとして重要な位置づけとなっている。【②独創性】2 つのデータベースともに全国規模で多様な項目データを搭載しており、様々な調査研究に資する基盤情報として他に類を見ない。【③発展性】特に災害痕跡 DB は、東京大学史料編纂所の多くの史料データベースとの統合検索システムの構築を進めており、今後も大きく発展することが見込まれる。【④効率性】2 つのデータベースともにデータの集成、入力を職員が担っており、その処理量には限界がある。外部からの入力インターフェース等の構築を進めており、一般公開とともに入力も外部の研究者から行えるよう改善を目指している。【⑤継続性】新たな遺跡調査成果の追加、調査研究の深化によるデータの更新が継続的に進められ、2 つのデータベースの充実が図られている。以上の観点からみて、所期の目標に達しており、Ｂと評価する。

観点	① 適時性	② 独創性	③ 発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	A	A	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】 （実績値）【データレコード数】DB-1：53,600 件、 DB-2：8,500 件	定量評価 -

1) Taisuke MURATA, The Construction of the Historical Disaster Evidence Database and its Effectiveness. JDR Vol.17 No.3 pp. 420-429（4 月）
2) 小田裕樹ほか『研究報告第 31 冊 第 25 回古代官術・集落研究会報告書『古代集落の構造と変遷』(12 月)

中期計画評価	B

中期計画記載事項	記念物、文化的最観、埋蔵文化財に関する基礎的・体系的な調査研究として以下の課題に取り組み、記念物の保存・活用、古代国家の形成過程や社会生活等の解明、文化的景観に関する保存・活用並びに研究の進展、埋蔵文化財に関する学術研究の深化に寄与する。 4)全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究 遺物及び遺構の解明とその保存・活用の促進等を図るため、官術・集落遮跡、古代瓦等に関し全国的な情報収集及び連携に基づく調査研究を実施し、成果を公開する。
評定理由	3 年度に引き続き、災害痕跡 DB については公開を、寺院官衙 DB については再公開に向けたデータベースの構築作業を順調に進めることができた。 新規データ、既存データの更新が 2 つのデータベースにおいて進み、特に災害痕跡 DB では、発掘調査成果から過去の災害履歴を検出し、災害の潜在的なハザードを「見える化」することに結び付けた。今後の埋蔵文化財の活用に向けて大きな成果である。 以上の成果から中期計画に対して順調に事業が推移していると判断し、B評価とした。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2134F ｲ-1

中期計画の項目	2-(1)-③-4)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-4)-ｲ	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 4)全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究 我が国の埋蔵文化財及びその保存・活用に関し、以下の調査研究を行う。 イ　古代官衙・集落遺跡に関する研究集会を開催し報告書を刊行する。古代瓦に関する研究集会を開催する。
プロジェクト名称	古代官衙・集落遺跡に関する研究集会の開催及び報告書刊行	
都城発掘調査部（平城地区）	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○箱崎和久（都城発掘調査部長）、清野孝之（同部副部長）、馬場基（同部平城地区史料研究室長）、林正憲（同部飛鳥・藤原地区考古第三研究室長）・小田裕樹（同部平城地区主任研究員）、垣中健志（同部平城地区史料研究室研究員）、道上祥武（同部飛鳥・藤原地区考古第三研究室研究員）、清野陽一（飛鳥資料館研究員）	

【年度実績と成果】

・研究集会の開催

第 26 回古代官衙・集落研究集会「古代集落の構造と変遷 3」（12 月 16 日～17 日於平城宮跡資料館講堂、対面・オンライン併用）を開催。研究報告は計 6 本。

道上祥武「古代集落の構造把握にむけた中間まとめ」のほか 5 名の報告者が全国の集落遺跡の構造とその変遷等について報告を行った。報告後、報告者全員を交えての総合討論を行った。研究集会に際しては、報告資料集（イ）を編集・刊行し、参加者等に配布した。

・研究報告書の刊行

『第 25 回古代官衙・集落研究会報告書　古代集落の構造と変遷 2』（奈良文化財研究所研究報告 36 冊）（ア）の刊行。

3 年度に開催した第 25 回研究集会の報告書を刊行し、研究成果の公開を行った。

研究集会総合討論の様子

年度計画評価	B

【評定理由】①適時性：計画どおり第 26 回研究集会を開催し、第 25 回研究集会の成果を研究報告書として刊行した。②独創性：3 年度に引き続き律令体制の成立・展開に伴う在地社会の変容と古代集落の歴史的特質の解明を目的とする研究発表及び討論を実施し、同課題における新たな研究の方向性と課題を学界に提示した。③発展性：列島各地に普遍的な集落遺跡についての総合的な研究の視点を提示したことにより、今後各地域・各遺跡で新たな知見に基づいた多くの研究成果が得られると期待される。④効率性：研究会の開催方法の効率化を模索し、4 年度も遠隔地の方も参加しやすいオンライン開催を採用した。⑤継続性：研究集会を継続的に実施し成果を刊行することで、研究者相互の交流や連携を深めることができた。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】**（参考値）論文等数：1 件、研究発表等数：6 件、報告書等刊行数：2 件（ア・イ）　研究集会参加者 180 人（うちオンライン参加者 118 人）。アンケート・回収 167 人(回収率 93%)　大変有意義 94 人、有意義 67 人、普通 6 人、あまり有意義ではなかった 0 人、有意義ではなかった 0 人	定量評価
		―

ア『第 25 回古代官衙・集落研究会報告書　古代集落の構造と変遷 2』（奈良文化財研究所研究報告 36 冊）12 月
イ『第 26 回古代官衙・集落研究集会 古代集落の構造と変遷 3 研究報告資料』12 月

中期計画評価	B

中期計画記載事項	記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する基礎的・体系的な調査研究として以下の課題に取り組み、記念物の保存・活用、古代国家の形成過程や社会生活等の解明、文化的景観に関する保存・活用並びに研究の進展、埋蔵文化財に関する学術研究の深化に寄与する。 4)全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究 遺物及び遺構の解明とその保存・活用の促進等を図るため、官衙・集落遺跡、古代瓦等に関し全国的な情報収集及び連携に基づく調査研究を実施し、成果を公開する。
評定理由	当初の計画通り研究集会を実施し報告書を刊行することができた。体系的な研究が遅れていた古代集落遺跡を全国規模で議論することで、古代国家形成の分析や古代都城研究に資する研究成果を得るとともに、全国の文化財担当職員等との調査・研究情報の交換を通じ、研究の向上及び研究成果の普及に貢献した。また、研究報告書の刊行によって研究成果を公表し、国民共有の財産となった。当研究集会及び報告書は、全国の研究者及び埋蔵文化財担当職員等からの期待も大きい。今後も継続的に事業を推進する必要があり、適切なテーマ設定による質の高い研究集会の開催を進めていきたい。以上よりＢと判定した。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2134F ｲ-2

中期計画の項目	2-(1)-③-4)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-4)-ｲ	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 4)全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究 我が国の埋蔵文化財及びその保存・活用に関し、以下の調査研究を行う。 イ　古代官衙・集落遺跡に関する研究集会を開催し報告書を刊行する。古代瓦に関する研究集会を開催する。
プロジェクト名称	古代瓦に関する研究集会の開催及び報告書刊行	
都城発掘調査部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】**○箱崎和久（都城発掘調査部長）、今井晃樹（同部平城地区考古第三研究室長）、林正憲（同部飛鳥・藤原地区考古第三研究室長）、川畑純（同部平城地区主任研究員）、田中龍一（同部平城地区考古第三研究室研究員）、道上祥武・岩永玲（同部飛鳥・藤原地区考古第三研究室研究員）	

【年度実績と成果】

・第 22 回シンポジウム「奈良末～平安初期の軒瓦」の開催

5 年 2 月 4 日(土)・5 日(日)の両日、奈良文化財研究所平城宮跡資料館講堂において開催した。同時にオンラインによる配信を実施し、多くの参加者を得た。

研究発表は、岩永玲 （奈良文化財研究所）「平城宮の瓦」のほか計 7 本である。奈良時代末から長岡京期を経て、平安時代初期に至る軒瓦の変遷過程と系譜関係を明らかにすることができた。また、シンポジウム 2 日目の午後には、発表者全員が参加し発表内容に関する総合討議を行った。

シンポジウム開催に際し、発表内容の要旨（ア）を編集・刊行し、研究会参加者等に配布した。

総合討議の様子

年度計画評価	B

【評定理由】

①適時性：計画通り第 22 回シンポジウムを開催した。②独創性：これまで学界では注目されてこなかった奈良時代末から平安時代初期に至るまでの軒瓦の文様系譜や製作技法等の変遷に関するシンポジウムを設定し、多くの新知見を得ることができた。③発展性：今後、平安時代の瓦研究を推進していく上での基礎となる資料や研究成果を提示することができた。④効率性：発表要旨（印刷物）の PDF データを作成し、来場した参加者だけでなくオンラインの参加者にも資料を配布できるよう努めた。⑤継続性：中期計画終了年度までの期間に、平安時代瓦のシンポジウムの開催を計画しており、5 年度以降の平安時代瓦研究に学術的な基礎資料を提供することができた。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	A	A	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】**参考値） 研究発表等数：7 件　報告書等の刊行数：1 件（ア） 研究集会参加者：141 人（うちオンライン参加者 62 人） アンケート回答者数：76 人(回収率 54%)	定量評価 ―

ア『第 22 回シンポジウム「奈良末～平安初期の軒瓦」』発表要旨　5 年 2 月 4 日

中期計画評価	B

中期計画記載事項	記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する基礎的・体系的な調査研究として以下の課題に取り組み、記念物の保存・活用、古代国家の形成過程や社会生活等の解明、文化的景観に関する保存・活用並びに研究の進展、埋蔵文化財に関する学術研究の深化に寄与する。 4)全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究 遺物及び遺構の解明とその保存・活用の促進等を図るため、官衙・集落遺跡、古代瓦等に関し全国的な情報収集及び連携に基づく調査研究を実施し、成果を公開する。
評定理由	計画通りシンポジウムを開催することができた。今後、数年をかけて平安時代瓦のシンポジウムを開催する計画を立てており、4 年度はその最初の年度である。これまで議論にはなっていなかった奈良時代末から平安時代初期までの瓦の変遷を明らかにした点は、古代瓦研究において大きな意義があったと考えている。平安時代瓦の研究者は全国でも少なく、その研究成果の認知度も飛鳥・奈良時代と比べて高くない。今後、シンポジウムを継続していくことで、平安時代瓦研究を推進していく見通しができた。以上からＢと判定した。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2135Ｆ

中期計画の項目	2-(1)-③-5)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-5)	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 5)水中文化遺産に関する調査研究 我が国の水中文化遺産の保存と活用の体制を構築するため、水中文化遺産の保存並びに活用に関する調査研究を行う。
プロジェクト名称	水中文化遺産に関する調査研究	
埋蔵文化財センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○金田明大（埋蔵文化財センター長）、脇谷草一郎（保存修復科学研究室長）、柳田明進（保存修復科学研究室研究員）	

【年度実績と成果】

- 鷹島海底遺跡において現地保存されている元軍船の保存状態のモニタリングの一環として、埋め戻し環境下の溶存酸素濃度等の計測を行った。また、鷹島海底遺跡において引き揚げられたイカリの木質の試料採取を行い、木質部の劣化状態や発掘後の劣化因子となる木質内部の硫黄の状態調査に着手した。
- 博物館の展示環境下において、腐食の進行が確認された海揚がりの銅製遺物について、3年度に引き続き劣化のメカニズムを検討するとともに、その成果を学術発表した。また、それに基づき考案した再処理法によって、銅製遺物の保存処理を実施した。
- 沈船の現地保存の先駆的事例である開陽丸を調査地として、埋め戻し環境下の溶存酸素濃度の測定を実施するためのセンサーを設置するとともに、埋め戻しに用いられた銅網を採取し、その劣化状態の調査を行った。

開陽丸での調査の状況

年度計画評価	B

【評定理由】

①適時性：4年度から再開された開陽丸の現状調査に合わせて、埋蔵環境や埋め戻しに用いられた材料の状態調査などの基礎的な情報の取得に着手した。②独創性：透過電子顕微鏡、電子線回折分析などの微細構造解析から得られた新知見に基づき、海揚りの銅製品で生じる展示時の劣化メカニズムを検討し、提案した。③発展性：海揚がりの木製遺物の発掘後の劣化因子について検討を進めることで、今後の大型木製遺物の保存処理や保管環境の提言に資する情報になると期待される。④効率性：松浦市、國學院大学、及び江差町と連携することにより、鷹島海底遺跡の元軍船の保存や開陽丸の調査に効率よく取り組むことができた。⑤継続性：研究員が自ら定期的に潜水し、海底における埋蔵環境の計測や試料採取を行うことにより、元軍船の状態を継続的にモニタリングすることができた。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** （実績値） ・研究発表等1件	定量評価 －

ア　柳田明進他、「“Black Spots”の正体は何か？ −還元性硫黄化合物が展示時の銅製遺物の劣化に及ぼす影響」、日本文化財科学会第39回大会、9月10日

中期計画評価	B

中期計画記載事項	記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する基礎的・体系的な調査研究として以下の課題に取り組み、記念物の保存・活用、古代国家の形成過程や社会生活等の解明、文化的景観に関する保存・活用並びに研究の進展、埋蔵文化財に関する学術研究の深化に寄与する。 5)水中文化遺産に関する調査研究 国内の水中文化遺産保護等に関する調査を行う。
評定理由	4年度は、水中遺跡の調査法、現地保存の方法の問題点の解明と、出土遺物の劣化メカニズムと保存処理に関する研究を進めた。国内では認識されていなかった海揚がりの銅製遺物の劣化現象を学術発表することにより、海揚り品に特有の劣化現象の理解を深めるとともに、その情報の周知に努めた。4年度はさらに国内初の沈船の現地保存が実施された開陽丸において調査を開始し、埋め戻しによる長期の現地保存の評価に取り組んでおり、今後の水中遺跡保護の推進に大きく寄与することができており、Ｂと評価した。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2211E

中期計画の項目	2-(2)-①-1	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-①-1	1 文化財の調査手法に関する研究開発の推進 1)デジタル画像の形成方法等の研究開発 さまざまな光源を用いた高精細デジタル撮影により、文化財が本来有する情報を目的に応じて 正確・詳細に視覚化する 調査・研究を行い、その成果を公開する。その一環として、ガラス乾板等の過去に撮影された写真原板からの画像の取得手法及び色彩復元に関する調査研究を行う。
プロジェクト名称	文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究	
文化財情報資料部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○二神葉子（文化財情報研究室長）、城野誠治（専門職員）、谷口毎子（アソシエイトフェロー）、酒井かれん（研究補佐員）、安岡みのり（研究補佐員）、横尾千穂（研究補佐員）	

【年度実績と成果】

○デジタル画像の形成方法の研究開発
・他のプロジェクトと連携、外部からの依頼により、中之島香雪美術館所蔵《レパント戦闘図・世界地図屏風》、旧ジャッカ・ドフニ収蔵品等多数の文化財について、多様な光源を用いた光学調査、記録作成を実施した。
・ガラス乾板の特性、特に色情報の再現性に関する調査として、沖縄県立博物館・美術館の共同研究に関する同館との協議、タイ文化省芸術局での調査を実施、ガラス乾板の画像のデジタル化に関する技術開発を行った。
○記録作成に関する共同研究
・撮影手引書編纂、目録作成及び情報公開等を主題とした「文化財の記録作成手法等の共同研究に関する覚書」を北海道立北方民族博物館と締結、9 月 7 日～10 日、12 月 19 日～23 日、5 年 2 月 19 日～22 日に同館での調査研究及び協議を実施した。
・「写真の保存と保護のための写真の基礎」を久下謙一氏（千葉大学）にご寄稿頂き、ウェブコンテンツとして公開した。
○研究成果の公開
・『扇面法華経―光学調査報告書』（カラー編）、同（近紫外線写真・蛍光写真・近赤外線写真編）、『宮内庁三の丸尚蔵館所蔵 国宝 絹本著色 春日権現験記絵巻十三・巻十四　光学調査報告書』の 3 冊の報告書を刊行した。
・プロジェクト「文化財情報基盤の整備・充実」と連携、6 月 2 日に研修会「文化財写真入門―文化財の記録としての写真撮影実践講座」を北海道立北方民族博物館において同館と共催、11 人が参加した。また、9 月 2 日に「文化財の記録作成に関するセミナー「記録作成と情報発信・画像圧縮の利用」を当研究所で開催、66 人が参加した。

年度計画評価	A

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、文化財の特徴を詳細に記録した画像の取得と公開を行い、作品の鑑賞や調査の機会を提供した。セミナーは、情報発信における留意点の提示、他館の若手学芸員による事例紹介など、実務者の要請に応えた内容で、いずれも極めて時宜にかなっている。②独創性においては、独自に開発・選択した技術・機材を活用した光学調査を実施し、報告書の刊行により成果公開できた。③発展性においては、カメラを用いたガラス乾板のデジタル化で鮮明で情報量の多い画像が得られることから、失われた文化財についての研究の進展が期待され、高く評価できる。記録作成に関する共同研究は、実務者が自ら文化財の特徴を写真に記録、情報を整理・発信できることを目指し、成果発信による技能向上が期待される。④効率性は、刊行物を所内で編集、内製し、効率よく活動を所内外に発信できた。⑤継続性においては、《春日権現験記絵》光学調査報告書を継続して刊行し、所外からの依頼及び他プロジェクトとの連携も行い光学調査を継続的に行った。新型コロナウィルス感染拡大の影響で計画変更も生じているものの、当初の計画を上回る成果が得られた。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	A	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】 （参考値） ア 刊行物 3 件、イ　論文 5 件、ウ　発表 5 件	定量評価 –

ア　『扇面法華経―光学調査報告書 近紫外線写真・蛍光写真・近赤外線写真編』（東京文化財研究所、1 月）ほか 3 件
イ　早川泰弘、城野誠治「春日権現験記絵の彩色材料調査（巻十三・巻十四）」『宮内庁三の丸尚蔵館所蔵 国宝 絹本著色 春日権現験記絵 巻十三・巻十四 光学調査報告書』 pp. 30-33、東京文化財研究所、9 月ほか 4 件
ウ　二神葉子「文化財の記録作成の意義」研修会「文化財写真入門―文化財の記録としての写真撮影実践講座」、北方民族博物館、6 月 2 日ほか 4 件

中期計画評価	B

中期計画記載事項	文化財の現状及び劣化状態、材料、制作技法等の情報の記録や解析に応用するため、デジタル画像の形成や 3D 記録製作等の手法について研究開発を進める。
評定理由	4 年度は、デジタル画像形成手法の研究開発、刊行物やウェブでの成果発信、研修による成果還元、共同研究と、コロナ禍でも工夫しながら実施でき、高く評価できる。5 年度も研究開発とともに、地域の文化財関係者との連携をさらに深めながら現場のニーズに応じた研修事業を展開する。以上のことから、所期の目標を上回る成果を上げて順調に計画を遂行できていると評価した。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2212F

中期計画の項目	2-(2)-①-2)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-①-2)	①文化財の調査手法に関する研究開発の推進 2)埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発 埋蔵文化財の調査における新たな手法の開発・導入と応用に関する研究を行う。特に、情報取得手段としての遺跡探査、地質の検証、遺構･遺物の計測や記録内容情報抽出についての手法及び資料の製作技法や形態・物性に基づく資料分析、一般にむけての AR・VR、ゲーム等の利用を含めた成果を活用する方法について研究を進める。
プロジェクト名称	埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発	
埋蔵文化財センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○金田明大（埋蔵文化財センター長）、村田泰輔（埋蔵文化財センター主任研究員）、山口欧志、上椙英之（同遺跡・調査技術研究室研究員）、岸田徹・平川ひろみ（以上、同客員研究員）	

【年度実績と成果】

【三次元計測】LiDAR や SfM・MVS 技術による三次元計測の研究を行い、より廉価で簡便な手法で遺構・遺物の計測を可能とする方法について検討した。三次元計測は位置情報の付加や撮影の自動化の試行などによる効率化を進めており、研修などで普及を進めている。また、形態測定学の応用や地形表示手法の検討などデータ取得後の研究も進めた。実作業としては遺跡・遺構・土器・瓦・正倉院宝物などの資料を計測し、分析を進めている。

【遺跡探査】GNSS や LiDAR と連動した地中レーダー探査手法の検討を行い、迅速なデータ取得法の研究を進めている。マルチチャンネル地中レーダーの走査や解析についても改善を行った。

【ひかり拓本】簡便な機材で碑文等の表面情報を読み取る「ひかり拓本」技術の確立と実践を行った。 技術の特許取得を受けてクラウドファンディングによるスマホアプリ版の開発等を行った。

【地質からみた遺跡調査】都城発掘調査部及び各地自治体などと連携し発掘調査における地質情報調査の実践と洗練を進め、簡便に情報取得を可能とする方法の検討を進めている。また、発掘や探査などの手法を利用した被災痕跡や断層などの確認方法についての研究を進めている。

GPS と地中レーダーの連携試験

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性：慢性的人材不足や情報通信技術の進展に対応した研究に取り組み、文化財の保護に寄与する研究を進めている。②独創性：画像解析、物理探査などの技術の導入を継続して進め、文化財記録の省力化や高精度化を進めている。③発展性：広汎に活用可能な技術の検討と普及活動により、我が国の文化財保護技術の発展と普及に大きく寄与できる。④効率性：省力化や自動化の研究など、効率的な調査を支援する技術を確立しつつある。⑤継続性：蓄積してきた研究資産を継承した研究を推進している。よって、所期の目標を達成していると認められ、Ｂと評価する。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	B	A	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	（実績値）三次元計測点数 83 点、CT データ取得 32 点、地質の検討 10 件、探査 8 件、ひかり拓本 80 件	

中期計画評価	B

中期計画記載事項	文化財の調査手法に関する研究開発を推進し、科学技術を的確に応用し、文化財の調査手法の正確性、効率性等の向上に寄与する。また、文化財を生み出した文化的・歴史的・自然的環境等の背景やその変化の過程を明らかにすることに寄与する。 2)埋蔵文化財の調査手法の研究開発 遺跡調査の質的向上及び作業の効率化等を図るため、遺跡の探査・計測・分析等の調査手法に関する研究開発を進める。
評定理由	ICT 社会の進展、文化財保護行政の担い手不足、文化財保護・研究において要求される情報取得の多様化という現状を打開し再編成を行う解決策の 1 つとして本研究を推進しているが、人員・費用に限界があり、想定を大きく超える進展は現状達成できていない。これらを解決する方策もみえているが、4 年度は予算上の限界もあり予定通りの進行となったため、Ｂとする。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2213F

中期計画の項目	2-(2)-①-3)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-①-3)	①文化財の調査手法に関する研究開発の推進 3)年輪年代学を応用した文化財の科学的分析方法の研究開発 出土遺物、建造物、美術工芸品等の木造文化財の年輪年代調査を実施し、考古学、建築史学、美術史学、歴史学等の研究に資するとともに、各地の年輪データの蓄積を進める。また、デジタル技術等を活用した年輪年代調査や、年輪年代学的手法による同一材推定の応用等、分析方法の研究開発を進め、これらの研究成果を公表する。
プロジェクト名称	年輪年代学研究	
埋蔵文化財センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○星野安治（年代学研究室長）ほか客員研究員３名	

【年度実績と成果】

○出土遺物、建造物、美術工芸品等多岐にわたる木造文化財を対象とした年輪年代学に関する調査・研究を実施するとともに、関連学会・研究会の運営を行った。

○正倉院聖語蔵の調査では、これまで明確ではなかった本建造物の年代について、治承の兵火の後に再建されたことを示唆する年輪年代測定成果が得られた。

○仁和寺塔中蔵聖教箱の調査では、ある代表的なものを対象にするのではなく一括性の高い試料群を悉皆的に調査に供し、同一材推定を中心とした分析を行うことにより、箱製作の同時性や原材からの木取りなど箱製作の様相を明らかにするとともに、製作年代の絞り込みを行うことができた。

○また、日本植生史学会・日本花粉学会合同大会、日本木材学会木質文化財研究会を、奈良文化財研究所共催事業として実施するにあたり、実行委員として中心的に運営するなど、関連分野の最新の研究交流及び研究活動の普及を行った。

仁和寺塔中蔵聖教箱の調査風景

年度計画評価	B

【評定理由】

①適時性においては、発掘調査や建造物の保存修理の進捗状況に対応した年輪年代調査を実施した。②独創性及び③発展性においては、従来、年代測定手法として使用されることの多かった年輪年代学を、同一材推定の視点から一括性の高い文書箱の調査に応用し、箱製作の同時性や箱製作の様相を明らかにするとともに、製作年代の絞り込みを行うことができた。④効率性においては、デジタル画像技術の活用により、多数の調査対象を年輪年代学的な分析に供するなど、効率的な調査を実施した。⑤継続性においては、多数の調査対象を供することができたことに伴い、特に中世における年輪データの蓄積を行うことができ、標準年輪曲線の拡充を図ることができた。以上のように、順調に事業が進捗していると判断し、評価を行った。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	A	A	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** （実績値） 論文等発表実績：8 件（ア）　学会・研究会等発表実績：2 件（イ）	定量評価 －

（ア）「仁和寺塔中蔵聖教箱の年輪年代学的検討」、『文化財論叢Ⅴ』、5 年 3 月 31 日、他 7 件
（イ）古都奈良の植生と木材利用：趣旨説明、第 37 回日本植生史学会・日本花粉学会第 63 回大会合同大会公開シンポジウム「奈良の森と花粉と人のいま・むかし」、10 月 1 日、他 1 件

中期計画評価	B

中期計画記載事項	文化財の調査手法に関する研究開発を推進し、科学技術を的確に応用し、文化財の調査手法の正確性、効率性等の向上に寄与する。また、文化財を生み出した文化的・歴史的・自然的環境等の背景やその変化の過程を明らかにすることに寄与する。 3)年輪年代学を応用した文化財の科学的分析方法の研究開発 年輪年代調査による木造文化財の年代確定を推進するとともに、分析に必要不可欠となる各地の年輪データを収集・整理し、その地域性に関する研究等を進める。また、デジタル技術等を活用した年輪年代の調査に関する研究開発を進める。
評定理由	年輪年代学に関する調査・研究により、各種文化財の歴史的考究に資する情報を提供することができた。正倉院聖語蔵や仁和寺塔中蔵聖教箱における年輪年代測定成果は、建築史学や歴史学などに寄与するものと言える。また、従来、年代測定手法として使用されることの多かった年輪年代学を、同一材推定の視点から一括性の高い文書箱に応用し、箱製作の同時性や、箱製作の様相を明らかにするだけでなく、製作年代の絞り込みを行うことができたという点も 4 年度の成果の大きな特徴である。5 年度以降も、年輪年代学による調査・研究が発展的に進展するものと判断し、評価を行った。

【書式Ｃ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 2214F

中期計画の項目	2-(2)-①-4)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-①-4)	①文化財の調査手法に関する研究開発の推進 4)動植物遺存体の分析方法の研究開発 平城宮跡・藤原宮跡等、各地の遺跡から出土する動植物遺体の調査を実施して古環境や動植物資源利用の歴史を明らかにするとともに、多様な調査手法について基礎的な研究を行う。また、環境考古学研究の基礎となる現生標本を継続的に収集して、公開する。
プロジェクト名称	動植物遺存体の分析方法の研究開発	
埋蔵文化財センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○山崎健（環境考古学研究室長）、上中央子（環境考古学研究室客員研究員）、松崎哲也（環境考古学研究室客員研究員）	

【年度実績と成果】

○保美貝塚（愛知県）、平城京右京一条二坊ほか、西大寺食堂院、西橘遺跡（奈良県）、などの遺跡から出土した動物遺存体を分析した。
○奈良県の西大寺食堂院では、井戸から多種多様な魚類が出土し、当時の食生活の実態が明らかになった。また、食堂院周辺に生息したと考えられるドブネズミやアカネズミも見つかり、一緒に出土したモモの核にはネズミの齧り痕が残っていた。
○藤原宮大極殿院の花粉分析や大官大寺南方の大型植物遺体群について報告した。また、奈良県域内の遺跡から見つかった花粉を集成して、植生の歴史的変遷を明らかにした成果を日本植生史学会・日本花粉学会合同大会のシンポジウムにおいて講演した。
○現生標本の収集と公開では、ネズミやニホンザルの標本、ニホンジカの骨やウシの角などの切断標本を作製した。
○研究成果の発信や社会還元では、上記の日本植生史学会・日本花粉学会合同大会以外にも、日本動物考古学会、宮城県考古学会、あいち朝日遺跡ミュージアムなどで研究発表や一般向け講演を行った。

日本植生史学会・日本花粉学会合同大会
シンポジウム『古都奈良の植生と木材利用』
（対面とオンラインのハイブリッド形式）

年度計画評価	B

【評定理由】

下記の各観点から評価を行った。①適時性においては、地方公共団体からの要請に対応して、発掘調査や整理作業、報告書作成へ協力や助言を行い、動植物遺存体の分析も進めた。②独創性及び③発展性においては、正倉院宝物の特別調査に参加して動物由来素材の調査を実施した。考古学などの埋蔵文化財では土の中で分解してしまうために研究できない有機質の文化財があり、これまで調査実績がない宝物も含まれることから、古代の研究に大きく寄与することが期待される。④効率性においては、貝塚や低湿地遺跡の発掘調査や整理作業において、効率的な調査を支援するための貸し出し標本の準備を進めることができた。⑤継続性：研究の基礎となる骨格や花粉の現生標本を継続的に収集・作製・管理している。所期の目標を達成していることから、Ｂと評価する。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	A	A	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値）論文等発表：7 件（ア、他 6 件）　学会等発表：5 件（イ、他 4 件）	定量評価 －

ア．山崎健「学際領域研究の動向」『日本考古学年報』74、日本考古学協会、12 月 5 日
イ．上中央子「遺跡の花粉分析データからみた奈良盆地の植生と木材利用の関わり」第 37 回日本植生史学会大会・日本花粉学会第 63 回大会合同大会公開シンポジウム『奈良の森と花粉と人のいま・むかし』、10 月 1 日

中期計画評価	B

中期計画記載事項	文化財の調査手法に関する研究開発を推進し、科学技術を的確に応用し、文化財の調査手法の正確性、効率性等の向上に寄与する。また、文化財を生み出した文化的・歴史的・自然的環境等の背景やその変化の過程を明らかにすることに寄与する。 4)動植物遺存体の分析方法の研究開発 過去の生活・生業活動の解明等を図るため、基礎研究として、分析に必要不可欠な現生の動植物標本を収集・整理するとともに、発掘調査等で出土した動植物遺存体等の調査手法に関する研究開発を進める。
評定理由	中期計画の 2 年目にあたる 4 年度は、地方公共団体等からの相談や要請に対応しながら、計画通りに動植物遺体の調査研究を順調に進めることができた。継続的に蓄積している現生標本は全国の研究者に広く利用されており、新型コロナウイルスの影響で移動が制限された状況を踏まえて、貸出用の標本整備にも着手している。ここ数年はコロナ禍で中止されることもあった一般向けの講演などの社会還元も積極的に行うことができた。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2215F

中期計画の項目	2-(2)-①-5)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-①-5)	①文化財の調査手法に関する研究開発の推進 5) 文化財の調査・研究成果を社会・教育実装するためのＩＣＴを用いた普及・啓発手法の開発 文化財の調査・研究成果の公開を主眼としてＡＲ・ＶＲ、ゲーム等の利用を含め、一般に向けた成果の活用について検討を行う。特に、小中学校のプログラミング教育必修化や新型コロナウイルスによる新しい生活様式に対応した形での文化財情報の活用を検討する。
プロジェクト名称	文化財の調査・研究成果を社会・教育実装するための ICT を用いた普及・啓発手法の開発	
埋蔵文化財センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○金田明大（埋蔵文化財センター長）、村田泰輔（同主任研究員）、山口欧志（同遺跡・調査技術研究室研究員）、岸田徹、平川ひろみ（同遺跡・調査技術研究室客員研究員）、上椙英之（本部文化財防災センター研究員）	

【年度実績と成果】

【XR】XR(Cross Reality) :AR(Augmented Reality)、VR(Virtual Reality)、MR(Mixed Reality) の総称を利用した発掘調査支援や成果公開などへの実装を目的として、5G ネットワークと VR ゴーグルなどを導入した遺跡の発掘調査現場と遠隔地を双方向に結ぶリアルタイム共有を試行し、調査手法の向上と知見の拡大、そして成果公開に資するための技術開発及び導入を進めている。4 年度は発掘調査で求められる堆積構造の認識や土色情報の取得に向け、発掘調査現場から地層転写法を用いて剥ぎ取った地層断面について、機械学習、深層学習技術を導入した粒径組成、堆積構造に関わる関心領域（ROI）の自動抽出実験を進めた。現段階では技術的な課題を残すが、発掘調査作業の負担軽減、効率化として効果性を確認することができた。

【ゲーミフィケーション】発掘調査等の成果を主に小中学生向けに分かりやすく伝えるため、近年プログラミング教育や SDGs 教育に導入されているサンドボックスゲーム「Minecraft」の応用を試行した。平城宮発掘調査現場で計測した三次元データをもとに、Minecraft データを生成し、発掘調査成果をゲーム内に取り込んだ。「Minecraft」はただのゲームではなく、創造性を高める効果から近年注目されている STEAM 教育（Science, Technology, Engineering, Art, Mathematics）の重要な道具として教育現場での利用が進められており、文部科学省が推進する GIGA スクールにおいても活用されていることから、これらに対して文化財調査の成果を活用する道筋を拓くものと期待できる（図 1）。

図 1　遺跡の三次元データをブロックにして Minecraft 風に再現

年度計画評価	B

【評定理由】
【①適時性】ICT の応用によるプログラミング教育・地域学習・ポストコロナ社会のリモート参画に対応した研究に取り組み、文化財の調査成果の公開に寄与する研究を進めている。
【②独自性】5G 高速通信や XR 及びゲーミフィケーションなど新たな技術や枠組の導入を進めており、研究成果の一層の発信を支える研究を進めている。
【③発展性】今後全国の自治体など調査機関や学校で活用できる技術の基礎研究を行うことで、我が国の文化財普及・啓発手法の発展に大きく寄与できる。
【④効率性】省力化や自動化の研究など、効率的な仕組みを支援する技術を確立しつつある。
【⑤継続性】従来からの研究資産を継承し発展させる研究を推進している。
よって、所期の目標を達成したと判断し、Ｂと評価する。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	A	A	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値）	定量評価
		-

中期計画評価	B
中期計画記載事項	文化財の調査手法に関する研究開発を推進し、科学技術を的確に応用し、文化財の調査手法の正確性、効率性等の向上に寄与する。また、文化財を生み出した文化的・歴史的・自然的環境等の背景やその変化の過程を明らかにすることに寄与する。 5)文化財の調査・研究成呆を社会・教育実装するための ICT を用いた普及・啓発手法の関発 AR・ YR 技術やゲーム、データベース等の手段を用いた文化財の調査・研究成果の公開・普及を促進するための基礎研究を進める。
評定理由	XR や Society5.0 など、社会の変化に対応した文化財の活用方法についての研究は、我が国の共有資産である文化財を「財」たらしめるために不可欠であり、本中期計画から重点的に進めたい目標である。現在、その基礎的な研究を進めているが、今後 ICT 関連の研究者を軸により積極的な研究が必要であろう。 中期計画 2 年目として、順調に事業が推移していると判断し、B 評価とした。

【書式C】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2216F

中期計画の項目	2-(2)-①-6)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-①-6)	①文化財の調査手法に関する研究開発の推進 6) 物質文化・地質情報等を基とした防災・減災・復興・復旧の歴史的研究 都城発掘調査部や地方公共団体等が実施する発掘調査によって得られる地層データについて、その取得、分析、公開などの手法を研究し、災害史の基礎資料として発掘調査データを活用することを検討する。また、これらの記録手法として三次元計測や画像解析の研究を進める。
プロジェクト名称	物質文化・地質情報等を基とした防災・減災・復興・復旧の歴史的研究	
埋蔵文化財センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○村田泰輔（埋蔵文化財センター主任研究員）、上椙英之（本部文化財防災センター研究員）	

【年度実績と成果】

発掘調査や歴史資料調査で検出した過去の災害痕跡について、1) 試料取得技術の開発・導入、2) 分析・解析方法の開発、さらに 3) データベース化方法の研究を進めた。

1) 当研究所都城発掘調査部、奈良市埋蔵文化財センター、京田辺市市民部文化・スポーツ振興課の発掘調査現場で検出された主に地震痕跡を調査するため、地質切取法、地質剥ぎ取り法（地質転写法）の技術更新を進め、埋蔵文化財情報との応答をよりよくするための技術改善を進めた。
2) 地質切取試料、地質剥ぎ取り試料について、「ひかり拓本」による堆積構造解析、層相撮影写真や X 線 CT 撮像データを用いた粒度組成分布解析を進め、さらに機械学習技術、深層学習を導入することにより堆積構造解析に結び付ける技術の開発を進めている。

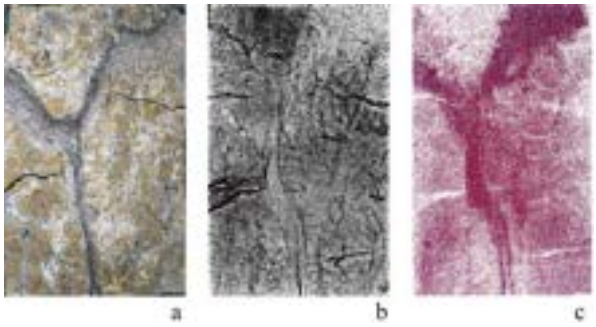


図 1 地震痕跡の堆積構造分析事例（平城第 552 次調査）
a:層相写真、b:軟 X 線写真解析、c:X 線 CT 撮像解析

3) 奈良盆地東縁断層帯における重点的な調査観測（文部科学省研究開発局受託研究、元年～3 年）を通して明らかとなった基盤地質構造（大深度）と表層地質構造との応答について着目し、空間情報を捉えられるデータベース構造の開発を進めた。

年度計画評価	B

【評定理由】

【① 適時性】災害発生頻度の増加と防災・減災への取り組みが社会全体で提唱されるなか、地質学的構造と歴史学的情報の両面から過去の被災履歴の解明に取り組み、災害発生や被災メカニズム解明に向けた研究基盤構築を進めている。
【② 独創性】考古学、地質学、歴史学を統合して、防災・減災研究を進めている点が先端的であり、独創性に富む。
【③ 発展性】解析技術開発に機械学習、深層学習技術の導入を始めた。現段階での効果は、簡易かつ明瞭な堆積構造の識別に止まるが、学習頻度の増加と学習パターンの多様化を進めることにより、堆積構造の識別率が格段に上がる状況が見えてきた。この成果は、将来的に発掘調査現場へ導入することにより作業負担の軽減や効率化が期待される。
【④ 効率性】現段階での効率性を評価するのは難しいが、事業進度としては十分な成果を出している。
【⑤ 持続性】国立大学法人東北大学災害科学国際研究所との連携研究協定締結が決定し、今後、理学、工学分野との連携研究が始まる。技術的な交流が活発化するだけでなく、その活用範囲の拡大が見込まれる。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】**	定量評価
	（実績値）企画展示 1 回、調査研究報告書 1 点	―

[1]村田泰輔編、「大地鳴動 - 大地の知らせる危機と私たちの生活」『奈良文化財研究所平城資料館令和 4 年度夏期企画展』（7～8 月）
[2]村田泰輔、「(11) 考古遺跡に残された地震痕跡」『奈良盆地東縁断層帯における重点的な調査観測』国立大学法人京都大学防災研究所編（文部科学省研究開発局受託研究、元年～3 年）、pp. 91-100。

中期計画評価	B

中期計画記載事項	文化財の調査手法に関する研究開発を推進し、科学技術を的確に応用し、文化財の調査手法の正確性、効率性等の向上に寄与する。また、文化財を生み出した文化的・歴史的・自然的環境等の背景やその変化の過程を明らかにすることに寄与する。 6)物質文化・地質情報等を基とした防災・減災・復興・復旧の歴史的研究 遺構、遺物、石造物、地質などの遺跡調査において確認される情報を統合した災害史の基礎研究を行い、防災・減災に資する情報活用、普及啓発に向けた調査研究を行う。
評定理由	災害痕跡から災害履歴や災害の発生や被災メカニズムを解明するための調査研究とその蓄積は、防災・減災に向けた社会的な取り組みとして重要であり、さらに文化財活用の大きな柱としても期待される。それらの調査・研究に向けた科学技術の導入や開発に意欲的である。企画展示[1]を行い防災リテラシー向上に努めるだけでなく、実践的な場での成果[2]も挙げており、所期の目標を達成した。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2221E

中期計画の項目	2-(2)-②-1)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-②-1)	②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 1)生物被害の機構解明と環境調和型対策に関する研究 文化財建造物、古墳内環境など生物制御が困難な空間にある文化財を対象として、分子生物学的手法を用いた加害生物種特定の技術開発を行うとともに、被災文化財を含めた虫菌害被害に対して環境低負荷型の処置方法について基礎研究を行う。
プロジェクト名称	文化財生物劣化の分子生物学的手法による機構解明と環境調和型対策	
保存科学研究センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○佐藤嘉則（生物科学研究室長）、島田潤（アソシエイトフェロー）、建石徹（センター長）ほか	

【年度実績と成果】

○木造文化財建造物の湿度制御温風殺虫処理の技術開発に関して、国内3例目として実施された実証実験(8月下旬～9月上旬)について、殺虫効果判定を含む第三者評価を行った。また、殺虫処理効果判定の供試虫の改良に向けて木材害虫の収集・人工飼育法確立の検討を進めた。

○国内で新たに確認された文化財害虫（ニュウハクシミ）について国内の分布域の調査や本種の生理学的性質を調査し、論文にまとめ報告した。さらにメディア・研修等を通じて本種の拡大防止に向けた情報提供を行い、防除策のひとつとしてベイト剤（毒餌）に関する基礎研究を行った。

○木造文化財建造物を加害する5種のシバンムシ科甲虫について、あらたにPCR法を応用した分子生物学的手法によって検出する技術を確立し、その成果を報告した。

湿度制御温風殺虫処理の内部での各種計測の様子

○被災紙資料を想定した殺カビと乾燥を両立させる湿熱殺菌乾燥処理方法の開発を目指し、カビの胞子や菌糸の熱耐性に関する基礎試験を実施した。

○国内の鍾乳洞や古墳環境において微生物叢解析を実施し、微生物劣化に関わる菌叢の特定や生態学的な役割、物質循環に関する基礎研究を進めた。

年度計画評価	A

【評定理由】

下記の各観点から評価を行った。①適時性においては、日本で新たに確認された文化財害虫「ニュウハクシミ」について分布域や生態調査を速やかに行い、メディア・研修等を通じて広く注意喚起することができたことは高く評価される。②独創性においては、被災資料の殺菌と乾燥を両立させる新規の処理方法の開発を目指した基礎研究を開始した点が高く評価できる。③発展性は、文化財建造物の湿度制御温風殺虫処理法の社会実装に向けた応用研究を発展させたことを高く評価した。④効率性においては、関係する研究機関と連携を図りながら、指定文化財への適応や将来の技術移転にかかる準備も効率よく推進した点を高く評価した。⑤継続性においては、3年度に続き分子生物学的手法を応用して文化財建造物の加害虫を虫糞から特定する技術を発展させた点を評価した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	A	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	（参考値）　学術論文・報告：合計9件（ア、イ、ウほか6件） 学会発表：合計5件（エ、オ、カほか2件）	―

ア　文化財害虫の新たな検出法 -DNAバーコーディングの応用-（佐藤嘉則、島田潤、『文化財の虫菌害』83、11月）
イ　New records of *Ctenolepisma calvum* (Ritter, 1910) (Zygentoma, Lepismatidae) from Japan（島田潤、佐藤嘉則、『Biodiversity Data Journal』10, 11月）
ウ　湿度制御した温風処理による木造建造物加害甲虫類の殺虫(1)温湿度制御性能の評価（北原博之　ほか、『保存科学』62、5年3月）
エ　竹材のフラスから加害種を特定する分子生物学的手法の検討（小峰幸夫　ほか、文化財保存修復学会第44回大会，6月18日）
オ　新種のシミの報告（島田潤、佐藤嘉則　ほか、文化財保存修復学会第44回大会、6月19日）
カ　ATP測定法による保存環境の清浄度評価に向けた試み（岡部迪子、佐藤嘉則、文化財保存修復学会第44回大会、6月19日）

中期計画評価	B

中期計画記載事項	文化財建造物、古墳内環境など生物制御が困難な空間にある文化財を対象として、分子生物学的手法を用いた生物劣化の機構解明を行うとともに、被災文化財を含めた虫菌害被害に対して環境低負荷型の処置方法について研究を行う。
評定理由	中期計画の2年目として、学術論文・報告9報と学会発表5演題の計14件の成果報告を行ったことは、研究成果発信の観点から十分な成果を挙げたといえる。新型コロナウイルス感染症の影響で3年度延期した木造建造物の湿度制御温風殺虫処理を実施することができ、着実に研究成果を積み上げることができた。文化財の生物劣化に関する幅広い研究課題についても着実に研究成果を積み上げており、順調に研究を進めることができた。以上の理由から、中期計画の2年目として初期の計画の通りに研究業務を遂行することができたといえる。

【書式Ｃ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2222E

中期計画の項目	2-(2)-②-2)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-②-2)	②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 2)文化財の保存環境と維持管理に関する調査研究 博物館美術館等の文化財保管施設における空気質等環境変動要因に関する調査を実施し、最適な環境条件を設定するための検討を行う。また、被災文化財の一時保管場所を念頭に置いて、文化財防災センターと協力して様々な施設における環境調査を実施し、安定した保存環境を設定するための方策について検討する。
プロジェクト名称	文化財の保存環境にかかる調査研究	
保存科学研究センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○秋山純子（保存環境研究室長）、相馬静乃（研究補佐員）、水谷悦子（文化財防災センター、(併)東文研）、伊庭千恵美（客員研究員）、吉田直人（文化財活用センター、(併)東文研）	

【年度実績と成果】

○持続可能な空調運用を実現するため、美術館における空調機にかかる消費電力と温湿度データを収集し、解析を行った。間欠運転が消費電力に与える影響を検証した（保存科学 62 号）。
○展示ケース内における有機酸の発生源を探るため、壁付展示ケース、独立展示ケースの床面、展示台、展示用バックボードを同じタイミングで計測し、有機酸濃度の比較検討をした。
○空気質の現状と改善に向けた研究会を博物館等の保存科学担当者向けに実施した（8 月 22 日（月）「第 4 回保存環境調査・管理に関する講習会―室内汚染物質の精密測定―」、5 年 3 月 6 日（月）「第 5 回保存環境調査・管理に関する講習会―クロスから放散するアンモニアについて―」）。
○博物館・美術館等の展示照明について、D65 照明での文化財への影響を検証した（保存科学 62 号）。
○省エネ法施行以降に建てられた美術館の空調運用に関する情報及び空調改修工事後省エネを検討した空調運用を実施している美術館にヒアリングした。
○小学校として一部使用している空調のない一時保管場所について、被災後の一時保管施設への応用も念頭に置いた環境調査を実施し、1 年の温湿度変化を解析した。この調査は文化財防災センターとも連携して実施した。

消費電力ロガーのデータ回収の様子

年度計画評価	B

【評定理由】
①適時性においては、世界的に省エネの必要性が高まる中で、SDGｓの観点を踏まえ、美術館の空調にかかる消費電力を計測し、安定した環境づくりと省エネの調査に着手したことを高く評価した。②独創性においては、これまで美術館等では行われていない消費電力の測定に着手したことを評価した。③発展性においては、今後博物館等において改修工事が増えることを見越して、省エネを念頭に置いた環境調査を始め、ノウハウが蓄積できた点を評価した。④効率性においては、空気清浄化に関する研究会を文化財活用センターと共催で開催したことを評価した。⑤継続性においては、展示照明に関する基礎実験において、これまで行ってきた波長ごとの黄色系染料の堅牢度のまとめとなる研究をすることができた点を評価した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	B	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** （実績値）・学会誌　2 件（アほか 1 件） ・学会発表　1 件　（イほか 2 件） ・研究会　2 件（ウほか 1 件）	定量評価

ア「博物館・美術館の冬季の空調消費エネルギー量と間欠運転時の収蔵庫内環境」（水谷悦子他 4 名　保存科学 62 号、5 年 3 月 31 日）
イ「放射光Ｘ線ＣＴを用いた焼成レンガにおける 硫酸ナトリウム塩の析出性状の定量化と飽和透水係数に対する影響」（水谷悦子ほか2名　2022年度日本建築学会大会　9月11日）
ウ「第 4 回保存環境調査・管理に関する講習会―室内汚染物質の精密測定―」（8 月 22 日）

中期計画評価	B

中期計画記載事項	様々な条件下における建物の特徴と環境との関係を明らかにしつつ、文化財保存に最適な環境を作り出し、維持管理する方法を検討する。被災文化財の一時保管場所を想定した保存環境について、環境整備に必要な温湿度・空気質等の状況を把握し、より良い環境づくりのための調査研究を行う。
評定理由	中期計画 5 年目のうちの 2 年目にあたり、持続可能なエネルギー資源の有効活用を検討するため、美術館において、空調にかかる消費電力を測定し、冬季の空調消費エネルギー量と間欠運転時の収蔵庫内環境について報告することができた。 文化財活用センターと協力して、空気質に関する講習会を 2 回開催し、博物館・美術館等の保存科学担当者と空気質問題を共有することができた。以上から、中期計画を順当に遂行できているため、Ｂと判定した。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2223E

中期計画の項目	2-(2)-②-3)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-②-3)	②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 3)文化財の材質・構造、及び保存状態に関する調査研究 可視光から赤外線までの波長領域にわたる反射分光分析を新たに導入し、各種分析装置を併用して文化財の材質・構造・劣化状態に関する調査研究を行う。日本絵画における顔料の変遷等の研究を進めるとともに、美術工芸品に用いられている鉛や青銅の腐食に関する調査研究及びその対策に関する検討を行う。
プロジェクト名称	文化財の材質・構造・状態調査に関する研究	
保存科学研究センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○犬塚将英（分析科学研究室長）、建石徹（センター長）、早川泰弘（副所長）、城野誠治（文化財情報資料部専門職員）、紀芝蓮（アソシエートフェロー）、岡田健、古田嶋智子（以上、客員研究員）	

【年度実績と成果】

○可搬型分析装置を用いたその場分析
・可搬型蛍光X線分析装置による材料調査として、国宝扇面法華経冊子（四天王寺）に使われている金色文字がすべて真鍮泥であること、二種類の白色顔料（鉛白と胡粉）が使い分けられていることを見出した。
・3年度に分析方法・分析条件の最適化を行った可搬型ハイパースペクトルカメラを用いて、絵画に用いられている彩色材料の現地調査を実施した。
○現代アート作品の金属装飾部分の腐食生成物の分析を実施した。また、劣化要因となる化学物質の発生源を調べるための調査手法の開発を行った。
○高輪築堤から採取された目地材の分析結果をまとめて報告を行った。
○研究成果発表
・論文2件、学会発表2件の研究成果発表を行うとともに、国宝 扇面法華経冊子（四天王寺）および国宝 久能寺経（個人蔵）に関する光学調査報告書を刊行した。

ハイパースペクトルカメラを用いた絵画作品の分析調査

年度計画評価	A

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、近年存在が明らかになった高輪築堤から採取された目地材の材料分析を実施し、その分析結果を『保存科学』62号にて報告した。②独創性においては、現代アート作品を含む多くの文化財資料に用いられている鉛で発生した腐食生成物の分析、及び腐食の要因となる化学物質の発生源を特定するための基礎実験と調査を実施した点を高く評価した。③発展性においては、3年度までに高度化を進めてきた可搬型ハイパースペクトルカメラを現地に持ち込み、絵画や建造物に用いられている彩色材料のその場分析を実施した点を高く評価した。④効率性においては、分析調査の効率を上げるために、蛍光X線分析及びハイパースペクトルカメラを固定する治具の改良を行い、現地調査に適用した点を評価した。⑤継続性においては、日本絵画等に関する材料調査結果を蓄積し、報告書の刊行を行った。よって、当初の計画以上の成果が得られていると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	A	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** （実績値） 論文等2件（ア、イ）、学会発表等2件（ウ、エ）、報告書等2件（オ、カ）	定量評価 —

ア　「高輪築堤から採取された目地資料の分析調査」（犬塚将英、紀芝蓮、ほか7名、『保存科学』62号、5年3月）
イ　「光明寺所蔵「羅漢図」に使われた彩色材料」（紀芝蓮、犬塚将英、ほか4名、『保存科学』62号、5年3月）
ウ　「文化財の2次元的な分光分析を行うためのハイパースペクトルカメラの性能評価」（紀芝蓮、犬塚将英、文化財保存修復学会第44回大会、6月19日）
エ　「秋田蘭画に関連する画材資料の分析調査」（高橋佳久、紀芝蓮、犬塚将英、文化財保存修復学会第44回大会、6月19日）
オ　『国宝久能寺経　光学調査報告書』、東京文化財研究所、9月
カ　『国宝扇面法華経冊子　光学調査報告書　―蛍光X線分析編―』、東京文化財研究所、11月

中期計画評価	B

中期計画記載事項	各種の可搬型分析機器を用いた文化財の材質・構造に関する調査研究を行う。日本絵画における顔料の変遷等の研究を進めるとともに、美術工芸品等に用いられている金属の腐食に関する調査研究及び対策の検討を行う。
評定理由	中期計画の2年目として、3年度に実用化に向けた基礎実験を終えたハイパースペクトルカメラを用いて、文化財のその場分析による調査を実施した。また、文化財の装飾に用いられている鉛の腐食生成物の分析と空気質との関連についての研究も継続して実施した。日本絵画の材料調査によって得た新たな知見を報告書として刊行した。さらに、これまでに蓄積してきたノウハウを活かし、高輪築堤から採取された目地資料の材料分析を行い、成果報告を行った。以上の内容に鑑みて、順調に研究が進捗していると判断した。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2224E

中期計画の項目	2-(2)-②-4)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-②-4)	②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 4)屋外文化財の保存修復計画に関する調査研究 屋外に存在する人文資料や自然史資料を対象に、その劣化状況を適切に評価し、価値を回復して人々に有効に伝えるための適切な保存修復方法を検討する。
プロジェクト名称	屋外文化財の保存修復計画に関する調査研究	
保存科学研究センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○朽津信明（修復計画研究室長）、白石明香（研究補佐員）、前川佳文（文化遺産国際協力センター主任研究員）	

【年度実績と成果】

屋外に所在する各種文化財の劣化状況、保存環境、保存対策について、以下の成果を得た。

○史跡である南相馬市の薬師堂石仏において、福島県沖地震によって引き起こされた劣化を定量的に評価し、今後の保存対策の方向性について示した。
○天然記念物附指定を受けている富岡市・オオツノシカの化石骨出土記念碑について計測を行い、現状に至る経年変化の過程を解明した。
○重要文化財附指定を受けている祇園橋石造記念碑について、その劣化状況から劣化原因を特定し、望まれる保存の方向性について示した。
○重要有形民俗文化財である蔓橋、重要文化的景観を構成する沈下橋、名勝を構成する橋状地形、さらに重要伝統的建造物群を構成する橋など、類似した存在でありながら様々なカテゴリで文化財指定を受けている対象について、過去の修復事例を比較検証して適切な保存のあり方について示した。

薬師堂石仏における三次元計測風景

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①4年3月の地震で被災した薬師堂石仏について、 被災直後より追跡調査をし、過去のデータ等とも比較をして迅速かつ適切に成果をあげたため、適時性が高いと判断した。②独創性においては、保存科学の視点から調査されることが少なかった天然記念物に加え、4年度は文化的景観、伝統的建造物群保存地区、名勝、有形民俗文化財なども対象とした保存科学的調査を行うことで独創的な成果を挙げた。③発展性においては、②に示した新たなカテゴリの文化財保存の方向性に手応えを得られたので、今後の発展性が期待される。④効率性においては、オンライン調査の機会を増やすことで研究の効率化を図った。⑤継続性においては、過去に保存に関わった現場について、その後の状況を4年度調査して検証を行ったことで、継続的に保存状態の把握が行えている。よって、順調に事業が推移していると判断した。

観点	① 適時性	② 独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	B	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】 （実績値） 論文等発表2件（ア、イ） 学会・研究発表3件（ウ、エ、オ）	定量評価 B

ア「富山市大山地域の恐竜の足跡化石の経年変化評価」（朽津信明、酒井修二、藤田将人） 『保存科学』62号pp1-12、5年3月
イ「文化財としての自然史資料の修復について」（朽津信明） 『保存科学』62号pp. 143-162、5年3月
ウ「天草市・祇園橋附石造記念碑の劣化と保存」（朽津信明、白石明香） 文化財保存修復学会第44回大会 6月18日
エ「富岡市・オオツノシカの化石骨出土記念碑について」（朽津信明、白石明香） 日本文化財科学会第39回大会 9月10日）
オ「福島県沖地震に伴う薬師堂石仏の劣化とその評価」（朽津信明、白石明香） 日本応用地質学会2022年度研究発表会 10月13-14日）

中期計画評価	B

中期計画記載事項	屋外に存在する多様な文化財について、その価値を有効に人々に伝えるための適切な保存修復計画の構築に資する研究を行う。
評定理由	中期計画の2年目として、これまで保存科学が対象としていたカテゴリの有形文化財や史跡などに加えて、3年度から取り組んでいる天然記念物ばかりでなく、名勝、有形民俗文化財、文化的景観、伝統的建造物群保存地区などの、さらに様々なカテゴリの屋外文化財の保存について成果を挙げることができ、当初の計画通りと判断した。

【書式Ｃ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2225E

中期計画の項目	2-(2)-②-5)6)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-②-5)6)	②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 5)文化財の修復のための技法と材料に関する調査研究 美術工芸品及び建造物等の修復に貢献するため、修復材料・修復方法に関する科学的調査を実施し、その評価を行う。また、旧来の材料・技法では施工が困難とされてきたものについて、新規の材料・技法の開発に関する調査研究を行う。修理技術者に必要な科学的知識に関して、今までの成果を元にアウトリーチ活動を行う。 6)伝統材料・製作技法について科学的調査と情報集積を行う。 文化財の構成材料や修復に関連し、伝統的材料・用具とそれらを使用する技法についての調査を行い、科学的評価を踏まえた記録を作成することで、文化資産の客観的な情報集積を目的とする。
プロジェクト名称	文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究	
保存科学研究センター	○早川典子(修復材料研究室長)、倉島玲央（研究員)、前原恵美（無形遺産部)、江村知子、安永拓世（以上、文化財情報資料部）ほか	

【年度実績と成果】

4年度は「文化財修復のための技術と材料に関する調査研究」と「伝統材料・技法に関する複合的調査研究」の二項目に分けて事業を推進した。

○文化財修復のための技術と材料に関する調査研究では3年度開始した「文化財修理技術者のための科学知識基礎研修」（10月31日～11月2日）を4年度も開催したが、さらに海外の講師を招聘してナノセルロースに関するワークショップも開催した（10月5日～7日「文化財修復処置に関するワークショップ-ナノセルロースの利用について-」)。このワークショップは2年度に開催予定だったものが、新型コロナウイルス感染拡大のため延期されていたもので、好評を博した。また、実際の研究としては酵素を使用して過去に使用したデンプンの除去方法について検討し、エタノール処理による手法を見出した。また、紫外線を用いた劣化絹の作成方法の実務評価、臼杵磨崖仏の石材表面再接着材料の現地試験の評価及び例年にない現象についての解析等、3年度開始した研究をさらに発展させた。

文化財修復処置に関するワークショップ-ナノセルロースの利用について-

○伝統材料・技法に関する複合的調査研究としては、文化庁の行う美術工芸品修理に用いる用具・材料の調査に協力し、今後の生産確保が非常に難しいとされる材料や道具について、 科学的な評価と安全な保存方法の検討を行っている。4年度は特に紙の原材料のノリウツギやネリなどに関する科学分析と現地調査を行った。また、漆の乾燥過程における白色化の原因を調査し、初期硬化過程における水分量との関連性を解明した。

年度計画評価	A

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、国内外での文化財修復における科学的知識の需要に応え、研修を2件も開催した。中でも欧米を中心にして発展した新規文化財修復技法の現状をとらえた研修・情報収集の実践を行えたためＡとした。②独創性においては、伝統材料の物性を調査し、その特徴に関する分析を行っている点が他組織では行われていない上に、文化財修復に関する科学的な技術の開発という独自の視点を持つことからＢと評価した。③発展性においては、得られたデータをもとに、今後、新たな修復材料の開発や伝統材料・技法の記録保全や提言が見込まれ、かつ、多くの文化財修復に導入可能で将来性・発展性のある成果のためＡとした。④効率性においては、複数のテーマを効率的に遂行しつつ、学会発表18本を含め膨大な成果が発信できていることからＡとした。⑤継続性においては、3年度までに開始した研究を元に4年度の研究を遂行し、今後、これらの成果を継続することで文化財修復の現場や美術史研究へ還元できる見通しを立てることが可能であるためＢと判断した。以上のことから総合評価をＡ とした。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	B	A	A	B

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	・研修会開催　2件（アほか1件） ・論文　4本（イ、ウほか2件） ・学会発表　18件（エほか17件）	―

ア　文化財修復処置に関するワークショップ-ナノセルロースの利用について-（9月29日―10月1日）受講者18名

イ　「デンプン糊で裏打ちされる文化財へのα-アミラーゼ適用方法に関する検討」」（早川ら、『保存科学』62、99-108、5年3月）

ウ　「硬化乾燥初期の漆塗膜に水が与える影響」（倉島ら、保存科学』62、pp.109-118、5年3月）

エ　「Influence of Silk Production Methods on East Asian Painting Expression and Conservation: Fibre Shape and Durability」（Hayakawa, et.al）IIC 29th Biennial Conference, 4年9月5日-9日

中期計画評価	B

中期計画記載事項	美術工芸品や建造物等の修復に貢献するため、伝統的な修復材料・技法についての科学的調査を行い、その安定性についての評価を行う。また旧来の材料・技法では施工が困難とされてきたものについて、新規の材料・技法の開発に関する調査研究を行う。
評定理由	4年度はコロナ禍で延期になっていた研修や関連研究を順調に遂行させることができた。本研究は、日本独自の伝統材料・用具を対象としつつ、それらを踏まえて新規技法の開発を行い、さらにその成果を研修としてアウトリーチするという3段階を経るものである。中期計画2年度として、初年度を踏まえた成果が得られ、今後の発展も期待されるため、Ｂと判定した。

【書式Ｃ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2227E

中期計画の項目	2-(2)-②-7)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-②-7)	②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 7)文化財の修復技術に関する調査研究 災害によって被災した文化財資料の応急処置または保存修復処置に係る技術や方法に関する調査研究を行う。近代以降に使われるようになった新しい保存修復技術や方法に関する調査研究を行う。様々な技術や方法を、保存修復処置を行う現場に効果的に適用するための研究を行う。
プロジェクト名称	多様な文化財の保存修復技術に関する研究	
保存科学研究センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○建石徹（センター長兼修復技術研究室長）、千葉毅、芳賀文絵（以上、研究員）、中山俊介（特任研究員）、中村舞（アソシエイトフェロー）	

【年度実績と成果】

○近代文化遺産・被災文化財等の所有者である地方自治体等が組織する保存や修理に関する調査・検討等の委員等として、近代文化遺産・被災文化財等の保存・活用に関する調査・助言等を行った。
○近代文化遺産については、行政や実務担当者らへの活用に係るアンケート調査結果に基づいた現地調査を実施した。
○近代文化遺産については、先の中期計画のうち、アンケート調査結果と現地調査に基づく結果をまとめた『近代文化遺産の活用』及び内部造作に係る研究成果をまとめた『Conservation and Restoration of Internal Features』を刊行した。
○被災文化財の保存修復技術に関する調査研究
・災害時における一時保管施設の活用と文化財の保存状態について調査を行った。
・博物館等施設における文化財防災訓練に係る調査研究を行った。
・水損紙資料の乾燥方法の違い等による資料状態の違いについて調査を行い、災害時における被災資料の修復方法について検討と考察を行った。
○近代文化遺産の保存ついて
・南九州市と文化財資料等の保存修復に係る調査研究に関する覚書を締結し、近代文化遺産をはじめとする文化財保存について調査を行った。またそれに係る機器類の設置及び稼働準備を行った（5 年度からの本格稼働を目指す）。
・金属、繊維をはじめとした多様な材料から構成されている近代資料の保存修復について調査研究を行った。
○研究成果発表
・論文 2 件、学会発表 3 件、刊行物 1 件の研究成果発表を行った。

年度計画評価	B

【評定理由】

修復技術研究室としての 2 年目において、近代文化遺産の研究推進の一環として鹿児島県南九州市と研究協定を結び、市域に多数ある近代文化遺産のフィールド調査が開始されたことは特筆される。①適時性においては、2 年度に設立された文化財防災センターと連動し、元年度に準備した被災文化財の保存処置研究を本格稼働できたことは高く評価できる。②独創性においては、近代文化遺産の報告書をまとめ、また南九州市でのフィールド調査を開始した。南九州市は多くの近代文化遺産を所有し、従来の文化財と規模、材料、機能等において異なる点が多く、保存と活用の新たな手法が求められる。当研究室の経験を活かし、これらの保存手法を地域と連携して検証している。当文化財研究所では、修復技術研究室をはじめ、近代文化遺産の修復技術等の研究を進めている。③発展性においては、韓国文化財保存科学会（対面開催、於：韓国木浦）にて文化財防災に係る研究成果（イ、ウ、エ）を発表し、研究交流ができた。④効率性においては 3 年度に比べコロナ禍の活動制限が緩和されたことにより、現地での研究調査が捗り、効率的に事業を推進できた。⑤継続性については近代文化遺産研究は 2 年度までの蓄積を継承・発展させ、被災文化財研究については 3 年度に準備した事業を本格開始できた。

4 年度は 3 年度に準備したこと等が順調に遂行されており年度評価をＢとした。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** （実績値） 論文等発表 2 件（オ、カ） 学会・研究発表 3 件（イ、ウ、エ） 刊行物 1 件（ア）	定量評価 ―

ア 『Conservation and Restoration of Internal Features』東京文化財研究所、6 月
イ 「日本における文化財防災センターの設立と活動の現状」（建石徹、小谷竜介、高妻洋成、韓国文化財保存科学会第 56 回大会 11 月 11-12 日）
ウ 「浸水を想定した博物館資料の緊急搬出訓練」（千葉毅ほか、韓国文化財保存科学会第 56 回大会 11 月 11-12 日）
エ 「学校を利用した収蔵庫における資料と保存環境」（芳賀文絵ほか、韓国文化財保存科学会第 56 回大会 11 月 11-12 日）
オ 「文化財防災と保存科学の接点と相互作用 ―修復技術研究室設置にあたって―」（芳賀文絵、千葉毅、建石徹『保存科学』62 号、5 年 3 月）
カ 「紙資料の真空凍結乾燥における乾燥温度と乾湿繰り返しによる状態の変化について」（芳賀文絵、建石徹『保存科学』62 号、5 年 3 月）

中期計画評価	B

中期計画記載事項	被災文化財の保存修復技術及び近代以降に使われるようになった新しい材料や技法に関する保存修復技術の調査研究を行う。様々な保存修復技術を現場に効果的に適用するための研究を行う。
評定理由	コロナ禍での活動制限が続く中、オンライン会議を活用する等工夫することで、4 年度は順調かつ効率的に事業を遂行できた。被災文化財に係る事業については文化財防災センター等との密接な連携体制を構築し、進めることができた。また貴重な近代の文化遺産を多く保有する南九州市との研究協定を締結したことによって、5 年度以降近代化産業遺産等の保存修復技術に関する調査が進むことが期待できる。これらにより中期計画評価をＢとした。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2228F

中期計画の項目	2-(2)-②-7)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-②-8)	②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 8)考古遺物の保存処理法に関する調査研究 鉄製遺物の発掘後の劣化挙動の予測技術及び効果的な新規の脱塩法を確立するための基礎研究を行う。また、木製遺物の保存処理における薬剤含浸を効率化する新たな手法の確立と実用化に向け、基礎データの蓄積を進める。
プロジェクト名称	考古遺物の保存処理法に関する調査研究	
埋蔵文化財センター	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○脇谷草一郎（保存修復科学研究室長）、田村朋美（都城発掘調査部主任研究員、保存修復科学研究室（併任））、柳田明進、松田和貴（以上、保存修復科学研究室研究員）、楊曼寧（保存修復科学研究室アソシエイトフェロー）	

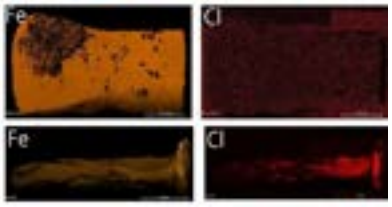
【年度実績と成果】

○木製遺物の保存処理の薬剤含浸を効率化させる新手法について、真空凍結乾燥法を併用しない場合における良好な乾燥・固化条件を検討するとともに、その成果について学会発表を行った。

○漆塗の施された出土遺物に対するより安定的な保存処理法の開発のため、遺物を模擬した試料の作製に着手した。さらに、保存処理中の塗膜の変形挙動が異なる 2 点の遺物の状態調査・対比から、変形の発生条件やメカニズムを検討し、その成果を学会で発表した。

○鉄製遺物の新規脱塩法の遺物への適応を検討するため、恒湿環境下で鉄製遺物の状態をモニタリングするための実験装置の作成、腐食層の物性の取得に着手した。

○鉄製遺物の発掘後の腐食挙動を埋蔵環境から予測する保管・管理技術の開発を目的として、平城宮出土鉄製遺物の出土位置と腐食挙動を検討するため悉皆調査を行い、情報を蓄積した。また、それらの腐食状態を非破壊にて分析し、劣化促進因子の塩素の有無などを調査した。



平城宮出土鉄製遺物の鉄と塩素の元素分布

○飛鳥池工房遺跡出土の大型木製遺物や平城宮京及び藤原宮京出土遺物の保存処理を良好に実施した。

年度計画評価	B

【評定理由】

①適時性：サステナビリティを考慮した新たな視点の金属製遺物や木製遺物の保存・管理技術の開発に取り組むとともに、平城宮京跡・藤原宮京跡出土遺物の保存処理を着実に進めた。②独創性：鉄製遺物の発掘後の劣化特性を埋蔵環境から推定するという、予防的な視点を重視する新たな保管管理システムの構築のための研究を進めた。また、木製遺物の新たな保存処理のための手法について、実用化を念頭に具体的な実施条件などの検討を進めた。③発展性：金属製品、木製品、金属胎・木胎漆器の保存処理・管理を抜本的に革新する研究を進めており、研究がさらに進展することでその成果が国内外に波及すると期待される。④効率性：平城宮出土資料を調査対象とし、これまでに当研究所が蓄積してきた考古学的情報などを活用することで、効率的に、さらに高精度に出土漆製品や鉄製遺物の劣化メカニズムに関する情報を蓄積した。⑤継続性：当研究所に大量に保管されている平城宮及び飛鳥・藤原宮跡出土遺物を対象にすることで、遺物の保存処理に関する膨大なデータを継続して蓄積することができた。また、過年度に構築された保管環境のモニタリング体制の下で基礎データの蓄積が進んだ結果、遺物の劣化抑制の具体策を提示することができた。総合評価：所期の目標を達成していると認められ、Ｂと評価する。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	B	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	（実績値）・論文等発表数：8 件　・学会、研究会等発表数：3 件（ア、イ他ほか 1 件）	—

ア　松田和貴ほか、溶媒蒸発速度の制御による水浸出土木製遺物の保存処理における薬剤含浸の効率化（その 3)、日本文化財科学会第 39 会大会　9 月 11 日

イ　楊曼寧ほか、出土銅製品に施された漆塗膜の剥離メカニズムの検討（その１） ―カールした塗膜とその金属下地の状態把握―、日本文化財科学会第 39 会大会　9 月 11 日

中期計画評価	B

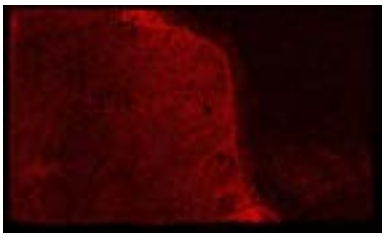
中期計画記載事項	文化財の保存科学や修復技術・修復材料・製作技法に関する中核的な研究拠点として、最新の科学技術を応用し、文化財研究としての新たな技術の開発を進め、国内外の機関との共同研究や研究交流を図り、先端的な調査研究を推進する。 以下の調査研究に取り組むとともに、その成果を広く公開することにより、文化財の保存や修復の質的向上に寄与する。 7)考古遺物の保存処理法に関する調査研究 考古遺物の診断調査から得られる情報を活用し、金属製遺物の脱塩・安定化法や木製遺物のシステマティックな含浸処理法等、考古遺物を安定した状態で保存・活用するための新規の保存処理法に関する調査研究を行う。
評定理由	中期計画 2 年目にあたる 4 年度は、木製遺物に関しては、新規考案の保存処理手法について、実用化を念頭に諸条件の具体的な検討を進めたことに加え、漆が施された遺物のうち、安定化処理において塗膜が変形したものの詳細調査を通じて、変形メカニズムの初歩的な仮説を立てるに至った。鉄製遺物では、平城宮出土遺物の埋蔵環境と腐食状態の関係に関する情報を収集し、平城宮内での出土位置と発掘後の劣化の関係についてデータが蓄積された。以上のとおり、充実した研究成果をあげられており、所期の目標を達成していると考えられるため、評価をＢとした。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2229F

中期計画の項目	2-(2)-②-8)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-②-9)	②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 9)遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究 遺構の劣化要因として塩害及び乾湿繰り返しに着目し、これらの劣化因子が遺構を破壊するメカニズムに関する基礎研究を実施する。また遺構の周辺環境がこれらの劣化の進行におよぼす影響を検討することで、それらの進行を抑制する環境制御法、及び脱塩などの処置法などについても検討する。
プロジェクト名称	遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究	
埋蔵文化財センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○脇谷草一郎（保存修復科学研究室長）、柳田明進（保存修復科学研究室研究員）	

【年度実績と成果】

- 福井県に所在の一乗谷朝倉氏遺跡において露出展示されている庭園景石の劣化要因を推定するための環境条件のモニタリング及び凍結破砕を抑制する冬季養生法について検討、実地試験を行った。また新設の博物館内で露出展示している地盤遺構に対して、遺構保存に適した埋め戻し保存法の検討を行った。これらの調査成果の一部を『一乗谷朝倉氏遺跡博物館研究紀要』に報告した。
- 石造文化財の乾湿繰り返し劣化のメカニズム及びその抑制手法を検討するため、モルタルによる模擬石材を用いた乾湿繰り返し実験を行った。乾湿繰り返し時に材料内部で発生するひずみの分布、大きさを試料の XCT 画像と画像相関法による画像解析から推定した。
- 塩害が進行するレンガ倉庫を対象に塩害の劣化状態調査を実施した。またレンガを対象に電気的脱塩を試み、レンガ内部の塩の移動状況について蛍光 X 線分析法による元素マッピング測定から推定した。



電気的脱塩を実施したレンガ試料中のナトリウムイオン分布

年度計画評価	A

【評定理由】

①適時性においては、遺構の露出展示を行う新施設の建築に合わせた調査検討や世界遺産登録を目指す構成要素の遺跡を対象として、遺跡の安定した保存を担保しつつ、公開・活用に資する技術の研究・開発を行った。②独創性については、既往の手法が材料の強化に主眼を置くものであったのに対して、本研究は遺跡における熱水分移動解析に基づいて将来生じ得る遺構の劣化を予測し、それを予め回避するために適切な環境の制御を行うことで遺構保存を実現することを目的としており、独創的な研究と言える。③発展性については、乾湿の繰り返しや塩類析出など、遺構で生じる劣化現象は熱、水分と溶質移動によって引き起こされる普遍的なものである。石材の乾湿繰り返しに関する定量的な評価や塩移動のモニタリング手法の開発など本研究から得られた知見は汎用性に富むもので、広範な分野にわたる様々な遺構への応用が期待される。④効率性については、フィールド調査で使用する機材や調査手法は、異なる環境下にある多種多様な遺構で使用可能なものであることから、機器類の導入経費や運用面において効率は高いと考えられる。⑤継続性については、各調査フィールドにおいて長期的な目標、年度ごとの短期的な目標を設定し、各地方公共団体の担当者と目標及び成果を共有しつつ調査を継続実施するとともに、遺跡の普遍的劣化要因といえる乾湿繰り返しや塩類析出を対象に基礎研究を継続した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	A	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	（実績値）・論文等数：11 件（ア、他 10 件）　・研究発表等数：10 件（イ、他 9 件）	－

ア　脇谷草一郎、「屋外文化財の保存－環境調整による遺跡現地保存法の一考察－」、『月刊文化財』(703 号)

イ　脇谷草一郎、ほか 1 名、「Basic study on deterioration mechanism of wetting-drying cycles by comparing deterioration state and preservation environment of stone cultural properties」, 4th International Symposium on Architectural Heritage Conservation Technology, 6 月 12 日

中期計画評価	A

中期計画記載事項	文化財の保存科学や修復技術・修復材料・製作技法に関する中核的な研究拠点として、最新の科学技術を応用し、文化財研究としての新たな技術の開発を進め、国内外の機関との共同研究や研究交流を図り、先端的な調査研究を推進する。 以下の調査研究に取り組むとともに、その成果を広く公開することにより、文化財の保存や修復の質的向上に寄与する。 8)遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究 遺構周辺の熱水分性状に関する環境調査及び物質移動、埋蔵環境についてモデル化を行い、遺構と埋蔵環境下にある遺物の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究を行う。
評定理由	これまでの研究成果に基づき、多くの地方公共団体から寄せられた遺跡保存に関わる案件に対して指導、助言を行ったことは適時性、発展性という点で大いに貢献し得た。また多くの遺跡において保存上問題となっている塩害並びに乾湿繰り返し劣化に着目して、4 年度は引き続きその劣化メカニズムに関する基礎研究を実施したこと、また遺跡における脱塩手法での実装を目指して、簡易電気伝導率計による遺跡材料中の塩分濃度の推定を可能とする応用研究、及び電気的脱塩法に関する基礎研究も実施したことは独創性、発展性、継続性という点で評価され得ると考える。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2230F

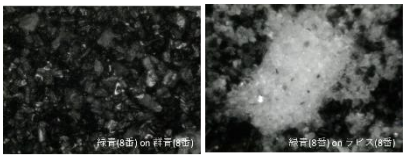
中期計画の項目	2-(2)-②-9)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-②-10)	②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 10)考古遺物を中心とした文化財の材質調査に関する調査研究 イメージング技術を活用した考古遺物等の非破壊調査を進め、古代の材料・技法に関する調査研究を行う。光学的手法を用いて各種色料（顔料、染料、ガラス着色剤など）の基礎データを収集するとともに、混色又は劣化による変化を明らかにするための実験を行う。また、文化財を対象とした蛍光Ｘ線分析等の機器分析のガイドライン作成にむけての実験及び基礎データの収集を進める。
プロジェクト名称	考古遺物を中心とした文化財の材質調査に関する調査研究	
埋蔵文化財センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○脇谷草一郎（保存修復科学研究室長）、田村朋美（都城発掘調査部主任研究員、保存修復科学研究室（併任））、柳田明進、松田和貴（以上、保存修復科学研究室研究員）、中田愛乃、柳成煜、金旻貞（以上、保存修復科学研究室客員研究員）	

【年度実績と成果】

○赤外領域の波長を使用したマルチスペクトルイメージング技術の文化財調査への有効性に関する研究及び青色顔料の判別における赤外線顕微鏡による表面観察の有効性についての研究に着手した。

○可搬型蛍光Ｘ線分析装置及び据え置き型の蛍光Ｘ線分析装置を用いて、日本で出土するガラス製遺物の材質分析データの収集を進めるとともに、可視分光分析によりガラス着色剤に関するデータの収集を行った。また、鉛及びSr同位体比分析を実施することで、原料産地に関するデータの蓄積を進めた。

○石製品については、伝・持田古墳群及び青森県猪ノ鼻遺跡出土玉類についてＸ線回折分析を実施し、これまで積極的に行われてこなかった鉱物組成による分類に向けてデータ収集を進めた。



赤外線顕微鏡による青色顔料の識別
（左：群青、右：ラピスラズリ）

○日鉄テクノロジー株式会社と共同でTIMS及びMC-ICPMSによる鉛同位体比分析の比較研究、LA-ICPMSの文化財分析への応用可能性に関する基礎研究を実施した。出土遺物の蛍光Ｘ線分析についてのガイドライン作成のための基礎実験を進め、5年度の公表に向けて成果の取りまとめを行った。

年度計画評価	A

【評定理由】

①適時性については、蛍光Ｘ線分析調査において出土遺物の劣化特性や分析手法の特性についての理解不足に起因する問題が散見される昨今の状況を踏まえ、本研究により出土遺物の蛍光Ｘ線分析についてのガイドラインの確立に寄与できる。②独創性については、青色顔料の判別においてこれまで積極的に利用されてこなかった赤外線顕微鏡による表面観察の有効性について検討を開始した。ガラス製遺物や石製遺物について、従来の蛍光Ｘ線分析に加えて、Ｘ線回折分析や同位体比分析を進めることで、具体的な産地推定につながるデータを収集した。③発展性については、新たな手法としてLA-ICP-MSの文化財への応用を検討することで、日本の文化財分析技術の発展と国際競争力の向上に寄与する研究を進めた。④効率性については、蛍光Ｘ線イメージングに加えて4年度は赤外領域の波長を使用したマルチスペクトルイメージング技術を文化財分野に導入を検討することで、様々な光学的情報を効率的に収集することが可能になると期待される。⑤継続性については、これまでに収集した材質分析データや同位体比分析データを継続的に利用できるように、新旧の分析機器や分析手法による結果の整合性について検討した。

観点	②　適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	B	A	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** （実績値） ・論文等：6件（ア他5件）　・研究発表等数：12件（イ他11件）	定量評価 －

ア　田村朋美、「Sr同位体比分析による日本列島出土ガラスの産地に関する考察」、『文化財論叢Ⅴ』
イ　田村朋美ほか、「ブハラオアシス出土のガラス製遺物のSr同位体比分析」、日本文化財科学会第39回大会、9月11日

中期計画評価	B

中期計画記載事項	文化財の保存科学や修復技術・修復材料・製作技法に関する中核的な研究拠点として、最新の科学技術を応用し、文化財研究としての新たな技術の開発を進め、国内外の機関との共同研究や研究交流を図り、先端的な調査研究を推進する。 以下の調査研究に取り組むとともに、その成果を広く公開することにより、文化財の保存や修復の質的向上に寄与する。 9)考古遺物を中心とした文化財の材質調査に関する調査研究 金属製遺物やガラス製遺物などの無機質遺物を中心に、材質に関する定量分析法の問題点を抽出するとともに、確度の高い分析法の確立を目指した調査研究を行う。
評定理由	中期計画2年目にあたる4年度は、3年度に引き続きガラス製品の各種光学的分析調査を進めるとともに、新たに石製品のＸ線回折分析及び赤外線イメージング技術により青色顔料の判別方法に関する研究に着手した。さらに、出土遺物の蛍光Ｘ線分析についてのガイドライン作成については、5年度の公表に向けて成果の取りまとめを行うなど順調に進捗しており、所定の目標を達成していると考えられることから、評価をＢとした。

【書式Ｃ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2231E

中期計画の項目	2-(2)-②-11)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-②-11)	②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 11)高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究 ア　文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画等の調査及び保存・活用に関して技術的に協力する。 イ　壁画の安定した保存と公開活用を行うための適切な保存環境について調査研究を行う。
プロジェクト名称	高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究	
保存科学研究センター	○建石徹（センター長）、佐藤嘉則（生物科学研究室長）、犬塚将英（分析科学研究室長）、秋山純子（保存環境研究室長）、早川典子（修復材料研究室長）ほか	

【年度実績と成果】

○高松塚古墳壁画に関しては、高松塚古墳壁画に関しては、修理施設内での歩行性害虫調査、浮遊菌・付着菌・落下菌調査に加え、浮遊粒子数測定、ATP 測定と空気質調査を行った。温湿度推移のモニタリングを継続し、安全な保存環境の維持に努めた。
修復後のメンテナンス作業に関連する調査研究としては、漆喰部分・補填箇所について、状態変化の有無に関する確認を定期的に行なった。また、修復事業関連の資料アーカイブを開始し、報告書刊行の準備をした。奈良文化財研究所のシンポジウムにおいて、高松塚の分析・修理事業についての講演を行なった。

○キトラ古墳壁画に関しては、「四神の館」における保存及び公開の際の環境管理について調査協力を行った。集中メンテナンスや壁画の蓋の試作など、保存状況の改善について協議や検討を行なった。また、「辰」「巳」「申」が存在すると推定される泥に覆われている漆喰片について、2 次元元素マッピングによる調査を実施した。また、塵埃の影響を防ぐために蓋を作製した。作製にあたっては、試作品を用いて、事前に蓋内外の空気の流通の阻害がないことを確認するなど、奈良文化財研究所と連携を取りつつ遂行した。

奈良文化財研究所第 14 回東京講演会における講演

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、修理終了後の高松塚古墳壁画の保存方法の検討、キトラ古墳壁画の保存環境管理への協力、さらには両古墳壁画の一般公開時の新型コロナウィルスへの対応などを行ったことからＢと判定した。②独創性においては、日本では他に行われていない古墳漆喰壁画の修復方法を検討し、得られた成果を修復現場に還元したためＢと判定した。③発展性においては、キトラ古墳壁画の泥に覆われた漆喰の下の図像に関する元素分析に取り組んだことからＢと判定した。④効率性においては、限られた人員の中で複数のテーマを遂行しており、Ｂと判定した。⑤継続性においては、古墳解体以降 10 年以上にわたり現場での検討を続けており、今後の活用に向けた継続性もあることからＢと評価した。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】 （実績値） ・シンポジウム講演（ア、イ） ・論文（ウほか 1 件）	定量評価
		—

ア　「高松塚古墳壁画の材料調査」犬塚将英、奈良文化財研究所第 14 回東京講演会、4 年 10 月 22 日、有楽町朝日ホール
イ　「壁画の保存修復　―国宝絵画としての修復処置―」早川典子、奈良文化財研究所第 14 回東京講演会、4 年 10 月 22 日、有楽町朝日ホール
ウ　「小型 X 線回折分析装置の開発と高松塚古墳壁画の彩色材料分析への適用」（犬塚将英、ほか 10 名『保存科学』62 号 63-72，5 年 3 月）

中期計画評価	B

中期計画記載事項	高松塚古墳、キトラ古墳の保存対策事業等、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、実践的調査研究を迅速かつ適切に行う。
評定理由	中期計画に沿った成果が得られている。本年度は高松塚古墳、キトラ古墳ともに初年度である 3 年度の成果を踏まえて、今後の事業発展につながる具体的成果が得られたため、順調に推移していると評価することができる。これまでの成果は両古墳壁画のみならず、他の様々な文化財の保存修復に寄与することができるものである。以上の理由から、中期計画の 5 か年の 2 年目として評価できる成果を得られたと考える。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2231F ｱ-1

中期計画の項目	2-(2)-②-10)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-②-11)-ｱ	②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 11)高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究 ア　文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画等の調査及び保存・活用に関して技術的に協力する。
プロジェクト名称	高松塚古墳の壁画等の調査及び保存・活用に関する技術的な協力	
埋蔵文化財センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○金田明大（埋蔵文化財センター長）、清野孝之（都城発掘調査部副部長）、内田和伸（文化遺産部長）ほか	

【年度実績と成果】

古墳壁画保存対策 PT（保存活用班・修復班・材料調査班・生物環境班）：東文研と当研究所で構成

○これまで X 線回折分析装置の開発と実装に向けた検討を行っており、4 年度は西壁石（女子群像）及び東壁石（青龍）を対象に、実際の壁画において色材の同定を目的とした分析調査を実施した。調査の結果、人物の衣服において赤色、青色及び緑色箇所から辰砂、群青及び緑青の主成分である硫化水銀、塩基性炭酸銅（アズライト）及び塩基性炭酸銅（マラカイト）の特徴を有するピークが検出された。

○高松塚古墳壁画に用いられた色材について検討するため、東壁石（青龍）及び西壁石（男子群像）にて可視分光分析を行った。

○壁画の現状を把握するための三次元解析技術（SfM/MVS）の応用について検討を進め、レーザースキャナーとの精度比較に着手した。

○高松塚古墳の目地漆喰を対象に、水分移動に関する材料物性の測定と、X 線 CT 像の画像解析により透水係数の推定を行った。また実験用漆喰を作成し、機械特性の取得を行った。

東壁石（青龍）の X 線回折分析による調査風景

○類似古墳調査として熊本県、大分県に所在の装飾古墳において継続的に保存環境調査を実施した。

○高松塚古墳出土遺物の材質分析を実施し、報告を行った。

年度計画評価	B

【評定理由】

①適時性：古墳壁画の保存活用に関する検討会において委員から求められた検討課題について答申するよう、適切に各調査を進めた。②独創性：新たに開発した X 線回折分析装置を実際に壁画に適用し、色材の分析を行った。これまで元素情報からの推定に留まっていた顔料の同定結果が得られた。③発展性：将来的な石室石材の安定化と公開に向けた検討のために、壁画構成材料の変形特性の評価を行い、基礎データを蓄積した。④効率性：継続的なモニタリング手法の簡便化に向けた技術の検討を行うため、実験に着手した。⑤継続性：高松塚古墳壁画の保存と活用を行うための調査研究体制及び管理・活用の体制を構築して事業・研究を継続するとともに、被災装飾古墳ついても引き続き環境調査を実施した。以上のことから、所期の事業目標を達成する成果を上げたといえる。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	A	B	B	A

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値）研究発表等数：1 件（ア）	定量評価 ―

(ア)中田愛乃・田村朋美・脇谷草一郎・柳田明進ほか 7 名「高松塚古墳から出土した棺金具の付着物質に関する分析」日本文化財科学会第 39 回大会、9 月 11 日

中期計画評価	B

中期計画記載事項	文化財の保存科学や修復技術・修復材料・製作技法に関する中核的な研究拠点として、最新の科学技術を応用し、文化財研究としての新たな技術の開発を進め、国内外の機関との共同研究や研究交流を図り、先端的な調査研究を推進する。 以下の調査研究に取り組むとともに、その成果を広く公開することにより、文化財の保存や修復の質的向上に寄与する。 10）高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究 高松塚古墳、キトラ古墳の保存対策事業等、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、実践的調査研究を迅速かつ適切に行う。
評定理由	一般に色料の同定には X 線回折分析の実施が不可欠であるが、非破壊分析が可能な装置は市販されていない。そのため、これまで実施してきた非破壊分析による色料調査では色料の推定に留まっていた。4 年度は、これまで壁画への適用を目的として開発と安全性の検討を行ってきた X 線回折分析装置を実際に壁画に適用することで、色料の同定が初めて可能となり、大きな成果を得ることができた。壁画の現状を効率的に把握するための三次元解析技術（SfM/MVS）の応用や、高松塚古墳壁画を公開する新施設への壁画輸送を想定した輸送実験とその解析、及び継続的な保存環境の調査・検討など、高松塚古墳壁画の調査及び保存・活用を効果的に実施することができた。以上から、当初の計画通りの成果をあげることができたためＢ評価とした。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2231F ｱ-2

中期計画の項目	2-(2)-②-10)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-②-11)-ｱ	②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 11)高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究 ア　文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画等の調査及び保存・活用に関して技術的に協力する。
プロジェクト名称	キトラ古墳の壁画等の調査及び保存・活用に関する技術的な協力	
埋蔵文化財センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○金田明大（埋蔵文化財センター長）、清野孝之（都城発掘調査部副部長）、内田和伸（文化遺産部部長）ほか	

【年度実績と成果】

古墳壁画保存対策 PT（保存活用班・修復班・材料調査班・生物環境班）：東文研と当研究所で構成

・キトラ古墳壁画を安定に保存する温熱環境を検討する熱水分移動解析に供するため、東文研材料調査班が作成した模擬漆喰について水分移動性状及び機械特性の物性を得た。
・キトラ古墳壁画に使用された色材について検討するため、西壁及び東壁について壁画の分光分析を実施した。赤色を呈する箇所からは、朱と類似するスペクトルが得られた。
・壁画の現状を効率よく把握するための 3 次元解析技術（SfM/MVS）の応用について、模擬試料を対象とした実験から、既往技術と同等の精度を確保するための測定条件等の検討を進めた。
・キトラ古墳壁画に対する防塵を目的とした蓋の設置の可否について検討するため、蓋のモックアップを用いた蓋内外の温湿度計測を実施した。
・類例古墳調査として、熊本県に所在の装飾古墳に対して保存環境調査の協力及び実測調査を実施した。
・古墳壁画の保存活用に関する検討会に職員を派遣した。

西壁(白虎)の分光分析の作業風景

年度計画評価	B

【評定理由】

①適時性：古墳壁画の保存活用に関する検討会において委員から求められた検討課題について答申するよう、適切に各調査を進めた。②独創性：漆喰の水分移動性状や機械特性などの基礎物性値を求め、漆喰に描かれた古墳壁画の安定した保存環境の検討を行った。③発展性：将来的な石室石材の安定化と公開に向けた検討を行うために、石室石材及び漆喰についての水分移動物性に関する基礎データを収集することができた。④効率性：材料調査に関するマニュアルを更新し、安全性の向上と作業の効率化を図った。⑤継続性：キトラ古墳壁画の保存と活用を行うための調査研究体制及び管理・活用の体制を構築して事業を継続するとともに、被災装飾古墳の調査についても随時、臨機応変に今後も対応していくことにしている。以上のことから、所期の事業目標を量的にも質的にも良好に達成したということできる。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	A

【目標値】	【実績値・参考値】 （実績値） ・研究発表等数：1 件（ア）	定量評価
		－

ア　松野美由樹、脇谷草一郎ほか、「ガランドヤ 2 号墳における緑色生物に関する報告」、日本文化財科学会第 39 回大会、9 月 11 日

中期計画評価	B

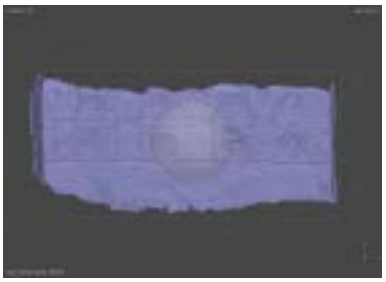
中期計画記載事項	文化財の保存科学や修復技術・修復材料・製作技法に関する中核的な研究拠点として、最新の科学技術を応用し、文化財研究としての新たな技術の開発を進め、国内外の機関との共同研究や研究交流を図り、先端的な調査研究を推進する。 以下の調査研究に取り組むとともに、その成果を広く公開することにより、文化財の保存や修復の質的向上に寄与する。 10) 高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究 高松塚古墳、キトラ古墳の保存対策事業等、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、実践的調査研究を迅速かつ適切に行う。
評定理由	4 年度は、キトラ古墳壁画保存管理施設の適切な運用・管理を行うとともに、壁画の現状を把握するための三次元解析技術（SfM/MVS）の応用に向けての基礎実験や、分光分析等を用いた色料についての材料調査など、キトラ古墳壁画の調査及び保存・活用を効果的かつ効率的に実施することができた。

【書式C】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2231F イウ

中期計画の項目	2-(2)-②-10)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-②-11)-イ ウ	②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 11)高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究 イ　壁画の安定した保存と公開活用を行うための適切な保存環境について調査研究を行う。 ウ　遺跡現地における壁画の安定した保存と公開活用を行うため、大分県や熊本県に所在の装飾古墳において温熱環境調査及び石材などの劣化状態調査を行い、適切な石室内の熱水分環境について検討を行う。
プロジェクト名称	遺跡現地における壁画の安定した保存と公開活用を行うための劣化状態調査、適切な石室内の熱水分環境に関する検討	
埋蔵文化財センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○脇谷草一郎（保存修復科学研究室長）、柳田明進（保存修復科学研究室研究員）	

【年度実績と成果】

・京都大学桂キャンパスに所在の模擬古墳を用いて、石室内部の熱水分環境の実測調査、腐食試験を行い、温熱・水分環境の形成プロセス、腐食メカニズムについて検討した。得られた成果の一部を国際会議で発表した。
・装飾古墳である日田市ガランドヤ古墳1、2号墳において環境調査を継続して実施した。4年度は共用開始された1号墳保存施設内部の環境モニタリングを継続して実施した。2号墳は石室内部の結露及び緑生物の繁茂を低減すべく石室の気密性の向上を図り、引き続き環境条件のモニタリングを実施した。
・熊本地震で被災した永安寺東、西古墳の石室温熱環境データの解析を行った。
・墳丘上に繁茂する樹木が伐採された熊本市の千金甲古墳において、樹木の伐採が墳丘封土及び石室内部の水分環境、温熱環境に及ぼす影響について検討するため、墳丘現地に気象観測装置を設置しデータ収集を行った。また、装飾が描かれた石障の保存状態をモニタリングするために、石障のSfMモデルを作成した。


千金甲古墳石障のSfMモデル

・高松塚古墳の目地漆喰を対象に、漆喰の平衡含水率測定や細孔径分布計測から水分移動特性の検討を行った。また東京文化財研究所が作成した漆喰資料に対して、同様の測定を行い、高松塚古墳の漆喰を模した試料としての妥当性について評価した。

年度計画評価	A

【評定理由】

①適時性においては、熊本地震で被災した装飾古墳を中心に応急的な対応を行うとともに、高松塚古墳壁画の新施設を念頭に古墳壁画の適切な保存環境について検討した。②独創性においては、装飾古墳における熱水分移動モデルとこれらを構成する材料の劣化モデルの練成を進めており、高松塚古墳やキトラ古墳並びに遺跡現地において装飾を安定して保存する環境解を定量的に検討しうると期待される。③発展性においては、古墳を構成する石材や土壌といった多孔質材料の劣化現象のうち、特に乾湿繰り返し劣化に着目して、劣化メカニズム解明を目的とした基礎研究を行った。この成果から装飾古墳を現地で安定に保存する環境条件が構築されると期待される。④効率性においては、実験条件を同一に整えることができる模擬古墳において、継続的かつ効率的に古墳石室の保存環境及び遺物の劣化状態に関するデータを収集することができた。⑤継続性においては、装飾古墳、模擬古墳における調査で継続してデータを収集している。以上のように、所期の目標以上の成果をあげられたため、Aと評価する。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	A	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** （実績値）・論文等数：1件（ア）　・研究発表等数：1件（イ）	定量評価 －

ア　柳田明進、脇谷草一郎ほか「Deterioration Tests Using Simulated Tumulus to Evaluate In Situ Preservation of Metal Artifacts in a Stone Chamber」『Metal2022 PROCEEDINGS OF THE INTERIM MEETING OF THE ICOM-CC METALS WORKING GROUP』9月4日
イ　脇谷草一郎「屋外文化財の保存―環境調整による遺跡現地保存法の考察―」、2022年度龍谷大学文化遺産学研究会講演会、7月3日

中期計画評価	B
中期計画記載事項	文化財の保存科学や修復技術・修復材料・製作技法に関する中核的な研究拠点として、最新の科学技術を応用し、文化財研究としての新たな技術の開発を進め、国内外の機関との共同研究や研究交流を図り、先端的な調査研究を推進する。以下の調査研究に取り組むとともに、その成果を広く公開することにより、文化財の保存や修復の質的向上に寄与する。 10）高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究 高松塚古墳、キトラ古墳の保存対策事業等、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、実践的調査研究を迅速かつ適切に行う。
評定理由	4年度は熊本地震で被災した装飾古墳や日田市のガランドヤ古墳、模擬古墳を中心に継続して環境データを取得した。被災装飾古墳では地震によって墳丘に劣化が生じた際に、暫定処置としてシートをかけられるが、シートの透水性状が石室内の温熱環境に与える影響に着目し、異なるシートを使用した古墳において新たに墳丘封土の含水率測定も追加した。これらの調査結果から、将来大規模地震が生じた際の暫定処置として適切な材料、施工法についての提言を目指す。また、古墳壁画、装飾古墳を構成する石材や漆喰などの多孔質材料でしばしば見られる、結露や乾燥の繰り返しによる乾湿繰り返し劣化に着目し、その劣化メカニズムに関する基礎研究を実施した。これらの調査研究から中期目標である、遺跡現地において劣化を抑制する具体的な環境の目標値の提言と環境の制御方法の策定を目指しており、中期計画の2年目としての研究目標を達成した。

【書式Ｃ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2311E-ｱ

中期計画の項目	2-(3)-①-1)	文化遺産保護に関する国際協働
年度計画の項目	2-(3)-①-1)-ア	①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 1)文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信 海外の文化遺産に関する情報の収集、諸外国の文化遺産保護施策・スキーム等に関する調査研究を行う。 ア 文化遺産の調査や保護に関わる国際的議論の場への参加等を通じて情報の収集を行うとともに、文化遺産の保護をめぐる今日的課題等に関する調査研究を行い、その成果を研究会の開催や出版物の刊行等により国内外に情報発信する。
プロジェクト名称	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	
文化遺産国際協力センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○金井健（国際情報研究室長）、松浦一之介（アソシエイトフェロー）、藤澤綾乃（研究補佐員）、柄澤真子（事務補佐員）、石田智香子（事務補佐員）	

【年度実績と成果】

○文化遺産保護に関する情報収集及び発信のため以下の国際会議及び研修に参加するとともに、法令収集の対象国の文化遺産保護機関を往訪してヒアリング調査を行った。

・9 月 1 日～30 日　ACCU 奈良：文化遺産の保護に資する研修 2022－木造建造物の保存と修復－（オンライン）
・9 月 21 日～22 日　ICCROM・IUCN：世界遺産条約 50 周年記念・世界遺産リーダーシップフォーラム 2022（ノルウェー）
・10 月 27 日　文化庁：令和 4 年度文化的景観保護実務研修会（東京）
・5 年 3 月 3 日～13 日　文化遺産保護制度に関する関係機関インタビュー（オランダ：1 人派遣）

○ドイツ連邦共和国の文化遺産保護関連の法令の収集・翻訳作業を実施し、その概要に関する解説（ドイツ政府の文化外交担当者に依頼）と併せて『各国の文化財保護法令シリーズ［27］ドイツ』として刊行した。

○12 月 26 日、国内の世界遺産に関係する自治体担当者や研究者等を対象に、世界遺産研究協議会「文化財としての『景観』を問いなおす」を本研究所セミナー室にて開催（参加者 48 人）し、その成果を報告書として刊行した。

年度計画評価	B

【評定理由】

下記の各観点から評価を行った。①適時性においては、文化遺産と自然遺産の包括的な管理体制の構築を目指す世界遺産制度や、点から面への保護システムの移行を指向する我が国の文化財保護制度の動向を踏まえ、その結節点として「景観」に着目した研究協議会を開催し、世界遺産を巡る国際的な議論と我が国の行政実務をつなぐ建設的な議論を展開することができた。②独創性においては、これまでに蓄積してきた独自のネットワークとスタッフの専門知識を活用して情報を収集するとともに、研究協議会では最新情報の提供にとどまらず、一線で活躍する研究者や実務家、行政官らの協力を得て長期的トレンドを踏まえた分析に基づく有用な情報提供ができた。③発展性においては、文化財保護法令シリーズで条文の翻訳のみならず法制度の背景に関する専門家の詳細な説明を付し、また、その作成及び企画を通じて関係機関との交流を図ることで組織的・人的ネットワークの発展を得た。④効率性においては、スタッフが限られる中、他の関連業務や自治体等からの要請に基づく委員会参画などで得られた周辺情報も統合するなど国内のネットワークを活用することで事業運営を効果的に行うことができた。⑤継続性においては、文化財保護法令シリーズで、各州が独立した「文化高権」を有するドイツ連邦共和国を取り上げ、27 冊目を刊行することができた。以上により、順調に事業が推移しており、当初の計画を満たす成果をあげたと判断できる。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	A	A	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値）国際会議（スピーカー）1 回、国際研修（コーディネーター）1 回、刊行物 2 冊（ア、イ）、研究会開催 1 回、研究者海外派遣 1 回（1 人）	定量評価 ―

ア『各国の文化財保護法令シリーズ［27］ドイツ』(5 年 3 月 31 日)
イ『令和 4 年度世界遺産研究協議会　文化財としての「景観」を問いなおす』(5 年 3 月 31 日)

中期計画評価	B

中期計画記載事項	海外の文化遺産に関する情報の収集、諸外国の文化遺産保護施策・スキーム等に関する調査研究を行う。また世界遺産委員会などユネスコ等が行う主要な国際会合に出席して情報の収集を行うとともに、文化遺産の保護をめぐる今日的な課題等に関する調査研究を行い、その成果を国内外に情報発信する。
評定理由	中期計画 2 年目の 4 年度は、ロシアのウクライナ侵攻によって世界遺産委員会が無期限延期になるなど文化遺産保護の国際動向も不測を極めたが、可能な限り国外の情報を収集・分析し、国内外の研究ネットワーク強化に努めた。そのような中で、機会を捉えて国際会議や研修等に参加して情報を発信するとととともに国内関係者対象の研究協議会を対面形式で開催するなど、当初の計画に沿った成果があげられている。よって予定通りに中期計画を遂行できたと判断した。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2311Fｱ

中期計画の項目	2-(3)-①-1)	文化遺産保護に関する国際協働
年度計画の項目	2-(3)-①-1)-ｱ	①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 1)文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信 海外の文化遺産に関する情報の収集、諸外国の文化遺産保護施策・スキーム等に関する調査研究を行う。 ア　文化遺産の調査や保護に関わる国際的議論の場への参加等を通じて情報の収集を行うとともに、文化遺産の保護をめぐる今日的課題等に関する調査研究を行い、その成果を研究会の開催や出版物の刊行等により国内外に情報発信する。
プロジェクト名称	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信（ユネスコ等）	
企画調整部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○庄田慎矢（企画調整部国際遺跡研究室長）、佐藤由似（同専門職）、村上夏希（同アソシエイトフェロー）	

【年度実績と成果】

○7 月 3 日、9th worldwide congress of the Society for East Asian Archaeology にて、庄田・村上が中国やカザフスタンでの調査成果に基づく研究発表を行った。
○9 月 20 日、国際中央アジア研究所（ウズベキスタン）主催の International Archaeological School にて、庄田が残存脂質分析に関するオンライン講義を行った。
○10 月 12 日、国際ユーラシアステップ考古学会議（カザフスタン）において、庄田がカザフスタンでの調査成果に基づく基調講演を行った。
○10 月 17 日、マルグラン考古学研究所（カザフスタン）にて、オンガルリ所長と MoU の更新及び今後の共同研究について協議した（写真）。
○12 月 11 日、東文研主催のバーレーン文化遺産シンポジウムに参加した。

マルグラン研究所での協議の様子

年度計画評価	B

【評定理由】
①適時性においては、海外渡航が再開する中で、オンラインツールとの併用による適切な国際事業運営協力を行った。②独創性においては、これまでに蓄積したネットワークを生かした独自性のある成果発表を行った。③発展性においては、今後のさらなる協力関係について各方面で確認した。④効率性においては、一度の訪問で複数の用務をこなすなどの工夫をこらした。⑤継続性においては、カザフスタンやウズベキスタンの各機関との今後の発展的協業について確認することができた。全体として、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値） 論文等発表実績　3 件	定量評価 －

Sasaki et al. 2022. *Kazakhstan Archaeology*, Murakami et al. 2022. *Frontiers in Ecology and Evolution*, 庄田・鈴木 2022『中国新石器時代文明の探求』

中期計画評価	B

中期計画記載事項	我が国が有する文化遺産保護に関する知識・技術・経験を活かしながら、下記のような事業を有機的連携のもと総合的に展開することを通じて、人類共通の財産である海外の文化遺産保護に協力することにより、諸外国との文化的交流及び相互理解の促進に貢献する。 1)文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信 海外の文化遺産に関する情報の収集、諸外国の文化遺産保護施策・スキーム等に関する調査研究を行う。また世界遺産委員会などユネスコ等が行う主要な国際会合に出席して情報の収集を行うとともに、文化遺産の保護をめぐる今日的な課題等に関する調査研究を行い、その成果を国内外に情報発信する。
評定理由	3 年度まで文化庁の拠点交流事業の相手先であったカザフスタンでの事業を継続していくことで合意し、短期に留まらない学術支援・交流を実現できたことは重要な成果といえる。このように中央アジアを核としながらも、その周辺国における関連情報の収集や調査研究、情報発信も積極的に行うことができた。以上から、本事業は当初の予定通り順調に推移しているものと判断した。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2311Fイ

中期計画の項目	2-(3)-①-1)	文化遺産保護に関する国際協働
年度計画の項目	2-(3)-①-1)-イ	①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 1)文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信 海外の文化遺産に関する情報の収集、諸外国の文化遺産保護施策・スキーム等に関する調査研究を行う。 イ　英国等の研究機関との間で文化遺産に関する研究交流を行う。
プロジェクト名称	文化遺産に関する研究交流（イギリス等）	
企画調整部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○庄田慎矢（同国際遺跡研究室長）、村上夏希（同アソシエイトフェロー）	

【年度実績と成果】

○4 月 11 日～5 月 15 日、ケンブリッジ大学のエンリコ・クレーマ准教授らの研究グループを当研究所に受け入れ、共同研究を進めた。
○6 月 14 日、フランス・ニースにて、庄田が日本における考古遺物の自然科学分析に関するマネジメントについて講演を行った。
○6 月 17 日、イタリア・トリノにて、庄田が日本における考古生化学的研究の最新成果に関するマネジメントについて講演を行った。
○7 月 12 日～17 日、カリフォルニア大学の羽生淳子教授らの研究グループを当研究所に受け入れ、共同研究を進めた。
○11 月 8 日、イギリス・ロンドンにて、庄田が縄文時代の食性に関する科学的アプローチに関する講演を行った。

写真　ロンドンでのワークショップ

年度計画評価	B

【評定理由】

①適時性においては、コロナ禍で長期間渡航できなかった間に蓄積した成果を海外で発信する事業を展開した。②独創性においては、イギリスを中心とする諸外国の研究機関との独自性のある共同研究を行い、成果を著名な国際誌に発表した。③発展性においては、ケンブリッジ大学、ヨーク大学、セインズベリー日本藝術研究所、サンジャンダンジェリー大学、トリノ大学などの機関との今後のさらなる協力関係について確認した。④効率性においては、直接渡航による対面でのコミュニケーションに加え、オンラインツールを用いたり、一時帰国中の海外機関所属研究者との対話による連携を強めた。⑤継続性においては、3 年度からの交流事業を継続できるよう、各研究機関との協力関係を強化した。以上から、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値） 論文等発表実績　4 件	定量評価

Stevens et al. 2022. *Frontiers in Ecology and Evolution*, Crema et al. 2022. *Science Advances*（朝日新聞デジタルで報道），庄田・村上・山崎ほか 2022 奈文研紀要 2022、庄田・村上・中村ほか 2022 奈文研紀要 2022

中期計画評価	B

中期計画記載事項	我が国が有する文化遺産保護に関する知識・技術・経験を活かしながら、下記のような事業を有機的連携のもと総合的に展開することを通じて、人類共通の財産である海外の文化遺産保護に協力することにより、諸外国との文化的交流及び相互理解の促進に貢献する。 1)文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信 海外の文化遺産に関する情報の収集、諸外国の文化遺産保護施策・スキーム等に関する調査研究を行う。また世界遺産委員会などユネスコ等が行う主要な国際会合に出席して情報の収集を行うとともに、文化遺産の保護をめぐる今日的な課題等に関する調査研究を行い、その成果を国内外に情報発信する。
評定理由	ケンブリッジ大学、ヨーク大学、セインズベリー日本藝術研究所などのイギリスの諸機関、カリフォルニア大学バークレー校との共同研究を発展的に継続するとともに、4 年度新たにフランスやイタリア、オランダ、バーレーンなどの研究機関とも現地及びオンラインでの研究交流を深めることができ、アフターコロナ時代に向けての良好なスタートを切ることができた。以上から、本事業は当初の予定通り順調に推移しているものと判断した。

【書式Ｃ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2312Eｱｲ-1

中期計画の項目	2-(3)-①-2)	文化遺産保護に関する国際協働
年度計画の項目	2-(3)-①-2)-ア-(ｱ)・(ｲ)	①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 2)文化遺産保護に関する研究及び協力事業の推進 国際共同研究等を通じて諸外国の多様な文化遺産の保存や活用等に関する理念と技術の両面における研究を進め、国際協力を推進するための基盤を強化するとともに、その成果をもとにアジア地域を主とする諸外国において文化遺産保護協力事業を実施する。 ア　文化遺産の保護に関する研究及び協力事業及を以下のように実施し、成果を広く公表する。 (ア) アジア地域等の文化遺産に関する調査研究及び保護協力事業を実施する。特にカンボジア・アンコール遺跡群（西トップ遺跡及びタ・ネイ遺跡）やブータン、カザフスタン、ウズベキスタン等の文化遺産について研究及び協力事業を実施する。 （イ)上記各事業と連携しつつ、文化遺産保護に関する研究会やワークショップの開催等を通じて国内外の専門家との情報の共有化を図る。
プロジェクト名称	アジア諸国等文化遺産保存修復協力	
文化遺産国際協力センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○)】** ○友田正彦（文化遺産国際協力センター長兼保存計画研究室長)、金井健（国際情報研究室長)、安倍雅史（主任研究員)、淺田なつみ（研究員)、ヴァル エリフ ベルナ、山田綾乃（以上、アソシエイトフェロー)、柴田みな、高橋奈緒、長尾琢磨（以上、研究補佐員)、岡崎未来、山潟愛（以上、事務補佐員)、間舎裕生、山田大樹（以上、客員研究員）	

【年度実績と成果】

○カンボジアのアンコール地域保存管理機構（APSARA）との間で、タネイ寺院遺跡の保存整備に関する協力事業を継続した。6 月 12 日～7 月 3 日（3 人）と 11 月 1 日～19 日（5 人）の派遣では、東門の修復を完了するとともに、排水改良を含む同門周囲での発掘調査、中心伽藍の安全性向上対策等を行った。また、アンコール国際調整委員会 ICC 等出席のため 12 月 12 日～18 日に職員 1 人を派遣した。

○ブータン内務文化省文化局との伝統的民家保存活用に関する共同現地調査を再開した。11 月 4 日～16 日に 4 人を派遣し、中部 4 県の石造及び版築造民家並びに集落の調査を実施、7 年度までを期間とする協力覚書に調印した。

○ネパールのカトマンズ王宮・シヴァ寺の震災復旧に関してネパール考古局（DOA）及び JICA との協力を継続した。8 月 22 日～9 月 2 日の派遣（1 人）では、歴史的集落復興のための市長会議再開に向けた協議や仏教僧院復興に関する聞き取り調査等を行った。

○バーレーンへ 2 次にわたる派遣を行った。7 月 21 日～26 日の派遣（3 人）で新規協力事業開始のための協議及び候補地調査を行い、5 年 2 月 10 日～18 日の派遣（3 人）ではイスラム墓碑の 3D ドキュメンテーション作業を実施した。

○10 月 22 日、メソポタミア考古学教育研究所と共催でオンラインシンポジウム「メソポタミアの水と人」を開催した。聴講者 50 人。

○12 月 9 日～16 日、バーレーン・デンマーク・英・仏から各 1 人の専門家を招聘し、国内専門家とともにバーレーンとアラビア半島の考古遺産をテーマとした国際シンポジウムを 11 日に東京（聴講者 30 人)、14 日に金沢（聴講者 15 人）で開催した。

○協力事業においても導入を進めているデジタル計測技術の技能向上に資するため、職員を対象に、写真測量と 3D 計測に関する講習を 10 月、ドローンに関する講習を 4 月と 9 月にそれぞれ実施した。

年度計画評価	A

【評定理由】

①適時性においては、コロナ禍が依然終息しない中でいち早く海外派遣を再開し、協力相手先機関の要請に応じて現地での技術協力や今後の計画推進に必要な調整等を行うことができた。②独創性においては、スタッフの専門性を活かし、バーレーンでの新規協力を開始したほか、調査実績の乏しいブータン中東部での民家調査に着手した。③発展性においては、ドローンや SfM 等の新技術を積極的に活用し、技術移転への期待も高い。④効率性においては、オンライン会議の活用や別地域での調査の連続実施など経費節減に努めつつ、外部専門家に頼ることなく最新技術の活用を行うなど、高い成果を挙げることができた。また、⑤継続性においては、相手国や関係機関との綿密な連携により、コロナ禍でも中断することなく、円滑に現地派遣も含めた技術協力を実施することができた。よって、当初計画以上の成果を挙げていると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	A	A	A

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	（実績値）刊行物 2 冊（ア、イ)、発表 7 件、シンポジウム 3 回、専門家海外派遣 6 回（のべ 17 人)、海外専門家本邦招聘 1 回（4 人）	―

ア　『アジア諸国等文化遺産保存修復協力　令和 4 年度成果報告書』(5 年 3 月 31 日)
イ　報告書『ブータンの伝統的石造民家建築保存のための予備調査概報』(5 年 3 月 31 日)

中期計画評価	B

中期計画記載事項	諸外国の多様な文化遺産の保存や活用等に関し、研究会の開催や現地におけるワークショップを含む国際共同研究等の実施を通じて、その理念と技術の両面における研究を進めるとともに、国際協力を推進するための基盤を強化する。また、その成果をもとに、我が国が蓄積してきた調査技術や保存技術、実践的方法論等を活かしつつ、ASEAN諸国をはじめとするアジア地域を中核としながら、諸外国での文化遺産保護に関する技術支援や体制強化などに資する協力事業を実施する。
評定理由	カンボジアの協力事業では東門の修復を無事完了し、遺跡全体の整備に向けて APSARA 各部局との連携を強化している。ブータンとバーレーンではコロナ禍で遅延していた新たな事業に着手し、具体的な調査や現地での技術協力を開始できた。ネパール・シヴァ寺の震災復旧では復旧工事に向けた設計作業が完了した。スタッフの技能向上に向けた研修等の成果を速やかに実地に応用することで、より効果的な支援につながっている。従って、中期計画に掲げた目標に向けて順調に事業を進捗し、着実に成果を挙げることができている。

【書式Ｃ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2312Eウ

中期計画の項目	2-(3)-①-2)	文化遺産保護に関する国際協働
年度計画の項目	2-(3)-①-2)-ｱ-(ｱ)・(ｲ)	①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 2)文化遺産保護に関する研究及び協力事業の推進 国際共同研究等を通じて諸外国の多様な文化遺産の保存や活用等に関する理念と技術の両面における研究を進め、国際協力を推進するための基盤を強化するとともに、その成果をもとにアジア地域を主とする諸外国において文化遺産保護協力事業を実施する。 ア　文化遺産保護に関する研究及び協力事業を以下のように実施し、成果を広く公表する。 (ア) アジア地域等の文化遺産に関する調査研究及び保護協力事業を実施する。特にカンボジア・アンコール遺跡群（西トップ遺跡及びタ・ネイ遺跡）やブータン、カザフスタン、ウズベキスタン等の文化遺産について研究及び協力事業を実施する。 (イ)上記事業と連携しつつ、文化遺産保護に関する研究会やワークショップの開催等を通じて国内外の専門家との情報の共有化を図る。
プロジェクト名称	文化遺産の保存修復技術に係る国際的研究	
文化遺産国際協力センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○加藤雅人（技術支援研究室長）、前川佳文、安倍雅史（以上、主任研究員）、牛窪彩絢、ヴァル エリフ ベルナ（以上、アソシエイトフェロー）、朽津信明（保存科学研究センター修復研究計画室長）、犬塚将英（同分析科学研究室長）中村舞（保存科学研究センターアソシエイトフェロー）、白石明香（保存科学研究センター研究補佐員）、水谷悦子（文化財防災センター）、中山俊介（特任研究員）	

【年度実績と成果】

○トルコ共和国において壁画を中心とする文化遺産保存修復に係る共同研究の確立を視野に入れた基礎調査を実施した。6 月 26 日～7 月 15 日、2 名の現地派遣を行い、アンカラ・ハジ・バイラム・ヴェリ大学の協力のもと、カッパドキアやセルチュクをはじめとする複数の都市において、文化遺産の保存状態や保存修復の取り組みについて調査した。

○スタッコ装飾及び塑像に関する研究調査を実施した。4 年度は日本国内の複数箇所でスタッコ装飾（主に鏝絵）の保存状態に関する実地調査を行った。このうち新潟県長岡市所在の旧機那サフラン酒本舗においては、鏝絵蔵保存修復計画の立案に係る科学的な分析調査を行うため、11 月 11 日に彩色や漆喰のサンプルを採取した。

○新たにクロアチア共和国において、壁画に係る共同研究の確立を視野に入れた基礎調査を実施した。5 年 2 月 28 日～3 月 8 日、1 名の現地派遣を行い、クロアチア文化財監督局及びザグレブ大学の協力のもと、イストリア半島に点在する教会壁画の保存状態について調査した。

○壁画断片の保存修復技法における課題点を見直し、新たな技法を開発することを目的とした研究を継続した。4 年度は、試作開発した技法に導入した材料の安定性を確認するため、科学的な検証実験を行った。

○国内における石造文化財の保存修復方法の改善を目的とした研究を実施した。国外の専門家とリモート会議を行い、具体的な損傷事例を示しながらその解決策について協議した。

年度計画評価	B

【評定理由】

①適時性においては、スタッコ装飾の保存修復及び維持管理について、3 年度調査の過程で所有者から要望が高かった指針の策定に向けた研究を国外の専門家とのネットワークを活用しながら進めることができた。②独創性においては、壁画断片の保存修復について新たな技法を開発し、実地試験へと移行できる段階にまで研究を進めることができた。③発展性においては、新たな研究対象国との協力関係を築くことができた。④効率性においては、保存修復に従事する国内外専門家とのネットワークを拡大し、情報共有や業務の分担を進めることによって、より効率的に研究を進めることができている。⑤継続性においては、前中期計画期間に実施した保存修復技術に係る基礎的・基盤的研究から得られた成果を発信し続けた結果、国内外から技術移転や共同研究を望む声が寄せられている。以上により、当初掲げた計画通りに事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	A	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】 （実績値）学会発表 2 件（アイ）、報告書作成 2 冊（ウエ）	定量評価
		―

ア　学会発表『明治時代の洋風建築にみられるスタッコ装飾の保存』6月19日　文化財保存修復学会第44回大会
イ　学会発表『ミャンマー・バガン遺跡における煉瓦造寺院の保存修復効果』9月10-11日　日本文化財科学会第39回大会
ウ　報告書『Research Project on Stucco Decoration and Clay Statues』5年3月
エ　報告書『トルコ共和国における事前調査報告書―文化財保存修復に係る共同研究の確立を目指して－』5 年 3 月

中期計画評価	B

中期計画記載事項	諸外国の多様な文化遺産の保存や活用等に関し、研究会の開催や現地におけるワークショップを含む国際共同研究等の実施を通じて、その理念と技術の両面における研究を進めるとともに、国際協力を推進するための基盤を強化する。また、その成果をもとに、我が国が蓄積してきた調査技術や保存技術、実践的方法論等を活かしつつ、ASEAN諸国をはじめとするアジア地域を中核としながら、諸外国での文化遺産保護に関する技術支援や体制強化などに資する協力事業を実施する。
評定理由	トルコ共和国における新規共同研究に向けた事前調査では、相手国の専門家と良好な関係を築きながら、現行の保存修復技法における問題点の精査や今後取り組むべき研究課題の明確化ができた。調査研究では、国内外におけるスタッコ装飾の保存に係る取り組みについて情報を収集し、問題の提起・分析・解決という一連の流れに沿った基盤的研究を進めることができた。さらに、壁画断片や石造文化財の保存修復については、国内外のネットワークを有効に活用しながら新たな解決策の方向性を見出し、その実用化に向けた研究を着実に進めることができている。よって、中期計画を順調に遂行していると判断した。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2312Fｱ(7)

中期計画の項目	2-(3)-①-2)	文化遺産保護に関する国際協働
年度計画の項目	2-(3)-①-2)-ｱ(7)	①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 2)文化遺産保護に関する研究及び協力事業の推進 国際共同研究等を通じて諸外国の多様な文化遺産の保存や活用等に関する理念と技術の両面における研究を進め、国際協力を推進するための基盤を強化するとともに、その成果をもとにアジア地域を主とする諸外国において文化遺産保護協力事業を実施する。 ア　文化遺産保護に関する研究及び協力事業を以下のように実施し、成果を広く公表する。 （ア）アジア地域等の文化遺産に関する調査研究及び保護協力事業を実施する。特にカンボジア・アンコール遺跡群（西トップ遺跡及びタ・ネイ遺跡）やブータン、カザフスタン、ウズベキスタン等の文化遺産について研究及び協力事業を実施する。
プロジェクト名称	アジア地域等の文化遺産に関する調査研究及び保護協力事業	
企画調整部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** 加藤真二（企画調整部長）、○庄田慎矢（企画調整部国際遺跡研究室長）、佐藤由似（同主任専門職）、杉山　洋（同客員研究員）	

【年度実績と成果】

○西トップ遺跡の中央祠堂の修復事業について、現地スタッフにオンラインで指示しながら、通年で作業を進めている（写真）。装飾のある砂岩材については、目録作成と写真撮影のため収蔵庫へ収容している。

○10 月 28 日、韓国・国立文化財研究院が主催するオンライン国際会議において、佐藤が事業の最新成果について講演を行った。

○12 月 14 日～16 日、加藤がアンコール遺跡群世界遺産登録 30 周年記念式典及びアンコール遺跡群国際調整会議に参加し、これまでの事業に対する表彰を受けるとともに、事業報告を行った。

西トップ遺跡での作業風景

年度計画評価	B

【評定理由】

①適時性については、アジア諸国の文化遺産保護に関する国際協力が必要とされる状況に適切に対応できている。②独創性においては、本事業はアンコールにおける初期上座仏教寺院の初めての本格的な調査・修復である。③発展性においては、今回の調査修復によって、調査研究の面だけでなく、現地専門家の育成が見込まれる。④効率性においては、オンラインツールを適宜使用しながら作業員など適切に配することによって効率的な調査修復を行っている。⑤継続性に関しては、当研究所は 1993 年からカンボジアと共同研究を進めているが、西トップ遺跡における調査修復に関しても前中期計画からの修復を続けている。以上から、本事業が順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値） 学会、研究発表実績　1 件	定量評価 ―

佐藤由似「アンコール西トップ遺跡の研究・復元プロジェクトの最新成果」2022Asian Archaeology 国際シンポジウム（大韓民国・国立文化財研究院、10 月 28 日）

中期計画評価	B

中期計画記載事項	我が国が有する文化遺産保護に関する知識・技術・経験を活かしながら、下記のような事業を有機的連携のもと総合的に展開することを通じて、人類共通の財産である海外の文化遺産保護に協力することにより、諸外国との文化的交流及び相互理解の促進に貢献する。 2)文化遺産保護に関する研究及び協力事業の推進 諸外国の多様な文化遺産の保存や活用等に関し、研究会の開催や現地におけるワークショップを含む国際共同研究等の実施を通じて、その理念と技術の両面における研究を進めるとともに、国際協力を推進するための基盤を強化する。 また、その成果をもとに、我が国が蓄積してきた調査技術や保存技術、実践的方法論等を活かしつつ、ASEAN 諸国をはじめとするアジア地域を中核としながら、諸外国での文化遺産保護に関する技術支援や体制強化などに資する協力事業を実施する。
評定理由	本事業は、カンボジアにおけるカウンターパートである APSARA 機構との協同によって、ユネスコ専門家委員からも高評価を得ている。4 年度も修復作業を順調に進めることができ、その成果を国際的に発信することができた。以上から、本事業は順調に進捗しているものと判断する。

【書式Ｃ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2313E７

中期計画の項目	2-(3)-①-3)	文化遺産保護に関する国際協働
年度計画の項目	2-(3)-①-3)-ア	①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 3)文化遺産保護に関する人材育成等 諸外国の文化遺産担当者等を対象とした研修や技術的支援等を通じて文化遺産の保存や活用に関する人材育成を進める。 ア　政府間機関文化財保存修復研究国際センター（ICCROM）ほか国内外の諸機関等と連携し、紙文化遺産等に関する国際研修や国際ワークショップを通じて技術及び知識を海外の文化遺産担当者と共有するとともに、協力ネットワークを構築する。
プロジェクト名称	国際研修	
文化遺産国際協力センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○加藤雅人(技術支援研究室長)、大川柚佳（アソシエイトフェロー）	

【年度実績と成果】

○「国際研修『紙の保存と修復』評価セミナー2022」
- 日時及び場所：9 月 5～7・12 日、東京文化財研究所／オンライン
- 主催：東京文化財研究所、ICCROM
- 参加者：過去の研修修了者及び講師
- 内容：口頭発表、研修内容のフォローアップ、ディスカッション

○メキシコ国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」
- 日時及び場所：11 月 9 日～22 日、メキシコ文化省国立人類学歴史機構国立文化遺産保存修復機関（CNCPC-INAH）
- 主催：CNCPC-INAH、東京文化財研究所、ICCROM
- 参加者：保存修復担当者（アルゼンチン、ブラジル、チリ、コロンビア、スペイン、メキシコ、ペルー、ウルグアイ）
- 内容：材料学講義（紙、伝統的接着剤）、装潢修理技術の基礎（講義、実習）、装潢修理技術の欧米紙文化財への応用（講義、実習）など

○過去の研修運営資料、記録等の整理及びデジタル化

メキシコ国際研修

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、新型コロナウイルスの影響や IT、ICT 変化への対応も考慮してオンライン評価セミナーを開催した。メキシコ研修ではポストコロナウイルス社会における対面研修の在り方も検討できた。②独創性においては、当研究所で行う他のプロジェクト等の成果に基づいており、他では企画できない独自のものである。③発展性においては、日本の紙文化財だけでなく海外の文化財の修復にも応用が可能である。評価セミナーでも、研修で得た知識や経験が、各国の文化財保護処置や人材育成に役立つことが報告された。④効率性においては、本来感染症対策で効率性が落ちるところをウェブ会議システム等の IT、ICT を活用することで効果を挙げることができた。⑤継続性においては、修了者から好評なうえ、開催に関わる問い合わせもきており、継続すべき事業といえる。また、それに対応すべくポストコロナウイルス社会における研修のあり方も検討し、継続できるものと考えている。

以上のことから、年度計画は順調に実行できたと判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】**	定量評価
	（参考値）評価セミナー1 件（ライブ参加者各日平均約 45 人、配信閲覧数平均約 100 回）、研修 1 件（参加者数 9 人）、報告書 1 件（ア）	－

ア『International Course on Conservation of Japanese Paper: Evaluation 2022 / 国際研修「紙の保存と修復」評価 2022』5 年 3 月

中期計画評価	B

中期計画記載事項	諸外国の文化遺産担当者等を対象とした研修や専門家の派遣を通じて、文化遺産の保存や活用等に関する人材育成を進める。またこのような機会を通じて、国際的な文化遺産保護に関する情報交換や相互協力を促進する。
評定理由	オンライン評価セミナーでは、研修生による研修成果の自国における普及共有など長期的な効果を確認し、最新の情報を共有することで研修生のフォローアップを行い、さらに研修生同士のネットワークの強化を行った。メキシコ研修は対面開催としたが、感染対策を十分に講じた上で、新型コロナウイルス感染拡大以前とほぼ同じ経験を研修生が得られるよう工夫をして遂行した。このような開催方法は 5 年度以降の日本国内における研修開催方法の参考にもなる。 以上のことから、順調に中期計画を遂行できたと判断した。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2313F ｲ

中期計画の項目	2-(3)-①-3)	文化遺産保護に関する国際協働
年度計画の項目	2-(3)-①-3)-ｲ	①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 3)文化遺産保護に関する人材育成等 諸外国の文化遺産担当者等を対象とした研修や技術的支援等を通じて文化遺産の保存や活用に関する人材育成を進める。 イ　ユネスコ･アジア文化センター(ACCU)等が実施する研修への協力を行う。
プロジェクト名称	ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）等が行う研修への協力	
企画調整部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】**○庄田慎矢（同国際遺跡研究室長）、佐藤由似（同専門職）、村上夏希（同アソシエイトフェロー）、山藤正敏（都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）主任研究員）、脇谷草一郎（埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長）・柳田明進（同研究員）	

【年度実績と成果】

4年度は、3年に引き続き、オンラインによる研修事業の実施を支援した。

・10月 ACCU実施の「文化遺産ワークショップ2022（カザフスタン共和国）博物館業務におけるデジタル技術の活用」に対し、研究員3人がオンライン講義ないしその資料を作成する協力を行った他、運営に協力した。
・11月 ACCU実施の「文化遺産の保護に資する研修2021（個別テーマ研修・ベトナム社会主義共和国)」に対し、研究員2人がオンライン講義ないしその資料を作成する協力を行った他、運営に協力した。
・12月 ACCU実施の国際会議「アジア太平洋地域における文化財防災の現状と課題―災害時応急対応事例と課題―」に対し、後援を行った。

オンラインによるワークショップの様子

年度計画評価	B

【評定理由】

①適時性においては、ACCUの実施事業の開催時期にあわせて、適切に協力を行った。②独創性においては、3次元デジタル技術など、当研究所の得意とする分野について独自性のある協力を行った。③発展性においては、今後のさらなる協力関係と連携について確認した。④効率性においては、事業間で共通する部分がある場合は同一の教材をもととして、それを加工して使用するなど効率的な協力を行った。⑤継続性においては、5年度以降も継続して協力を行う予定である。よって、順調かつ発展的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値） ・文化遺産保護に関する国際情報の収集等事業の実施件数　3件	定量評価

中期計画評価	B

中期計画記載事項	我が国が有する文化遺産保護に関する知識・技術・経験を活かしながら、下記のような事業を有機的連携のもと総合的に展開することを通じて、人類共通の財産である海外の文化遺産保護に協力することにより、諸外国との文化的交流及び相互理解の促進に貢献する。 3)文化遺産保護に関する人材育成等 諸外国の文化遺産担当者等を対象とした研修や専門家の派遣を通じて、文化遺産の保存や活用等に関する人材育成を進める。またこのような機会を通じて、国際的な文化遺産保護に関する情報交換や相互協力を促進する。
評定理由	事業の進捗は順調であった。3年度に引き続き、コロナ禍により研修事業がすべてオンラインでの実施となるなどの制限の中でも、適宜対応することができた。諸外国における文化遺産の調査・研究・保護に関する研修事業に貢献することで、ユネスコ・アジア文化センターの事業への協力を行うことができた。5年度以降も適時性、独創性、発展性、効率性、継続性を意識した協力・支援を続けて行く予定である。

【書式C】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 2314E

中期計画の項目	2-(3)-①-4)	文化遺産保護に関する国際協働
年度計画の項目	2-(3)-①-4)	①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 4)海外に所在する日本古美術品等の保存に関する協力 在外日本古美術品の保存修復に協力し、さらに成果を報告書等で公開することにより、日本が持つ伝統的保存修復に関わる知識と経験の共有を行う。
プロジェクト名称	在外日本古美術品保存修復協力事業	
文化遺産国際協力センター	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○加藤雅人（技術支援研究室長）、清水綾子、片渕奈美香（以上、アソシエイトフェロー）、江村知子（文化財情報資料部長）、米沢玲（文化財情報資料部研究員）	

【年度実績と成果】

○3年度にカナダから輸入した作品の修復事業を実施した。

・モントリオール美術館（カナダ）所蔵　女房三十六歌仙貼交屏風　紙本金地着色　屏風6曲1双　修復中
研究所での高精細画像撮影の後、修理業者（京都）への輸送を行い一連の修理作業を開始した。作品の記録、絵具等の分析、顕微鏡観察を行った。絵具、剥落止め、解体、水を用いた洗浄を行った。新しく使用する表具材料の試作などを行い準備した。

・モントリオール美術館（カナダ）所蔵　熊野曼荼羅　絹本着色　掛軸1幅　修復中
研究所での高精細画像撮影の後、一連の修理作業を開始した。作品の記録、絵具等の分析、顕微鏡観察を行った。絵具、剥落止め、解体、水を用いた洗浄を行った。裏打ちの除去を行った。補絹を行った。新しく使用する表具材料の準備を行っている。
　これらの作品に関して、所蔵館職員を招聘して中間視察を実施した（5年1月24日～29日）。

熊野曼荼羅　絹本着色
修復作業（裏打ち除去）

○作品調査を実施した。
リートベルク美術館（スイス）、バウアー財団東洋美術館（スイス）において絵画作品の調査を行った。（5年2月20日～26日）

○日本古美術品等を所蔵している諸外国の博物館等を対象にしたアンケート調査の準備を行った。

年度計画評価	B

【評定理由】

①適時性においては、日本の修復技術・材料に対する海外からの関心は依然として高く、こうした需要に対応できた。②独創性においては、日本美術品についての専門的な修復技術に関する知見と科学的手法を要し、かつ海外の保存修復の実情に関する知見をも必要とする本事業は、当研究所の特色を活かした事業であり、他では行われておらず、海外調査の再開にあたり、改めて協力先からも独自であり貴重であるとの評価を頂いたところである。③発展性においては、本事業参加館からの紹介で問い合わせが来ており、修復後の作品の活用も進んでいる。④効率性においては、限られた人員で修復及び海外での作品調査を行うことができた。また、オンラインを併用した所蔵館との打ち合わせ等で効率化を図った。⑤継続性においては、依然、国内外からの問い合わせが多く継続が望まれている。また作品修復の要望のみならず、保存修復に関する助言要請など、海外の博物館美術館から常に需要もある。海外における作品調査も再開した。

以上のことから、特に4年度前半においては新型コロナウイルスの影響が大きかったものの、全体としては概ね順調に事業を遂行できたと判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	A	B	B	A

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	（参考値）修復作品2件（3点）、作品調査2館、海外専門家招聘1人	―

中期計画評価	B

中期計画記載事項	諸外国が所蔵している日本古美術品等の保存修復に協力し、さらにその成果を英文報告書等で公開することにより日本が持つ伝統的保存修復に関わる知識と経験の共有を行う。
評定理由	3年度より継続している作品2件の修復を行ったが、作業は順調に進んでいる。3年度までは新型コロナウイルスの影響で行えなかった海外での作品調査を再開できたことから、次の修復候補作品の選定が行えた。以上により、中期計画を順調に遂行出来ていると判断した。

【書式Ｃ】　施設名 アジア太平洋無形文化研究センター　処理番号 2320G

中期計画の項目	2-(3)-②	アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究
年度計画の項目	2-(3)-②	アジア太平洋無形文化遺産研究センターは、アジア太平洋地域における無形文化遺産の保護のための調査研究の推進拠点として、域内の国々と協力し、以下の事業を行う。 ・研究情報の持続的収集と共有、及びシンポジウム・セミナー等の開催を通じたアジア太平洋地域における無形文化遺産保護のための研究の促進 ・持続的でレジリエントな社会構築につなげることを視野に入れた無形文化遺産研究の推進 ・国際会合等への出席やユネスコ及び関連機関との連携を通じた無形文化遺産保護関連の国際的動向の情報収集
プロジェクト名称	アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究	
研究担当	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○野嶋洋子（研究担当室長）、大倉美恵子・岡部政美・井上愛奈・佐々木一恵・山本倫未(以上アソシエイトフェロー)	

【年度実績と成果】

以下の事業を通じて、無形文化遺産保護及びそのための研究促進に貢献した。

(1) 無形文化遺産保護パートナーシップ事業（文化庁受託）（※詳細は処理番号 3320G-1 を参照）
　①海外研究機関との連携による研究情報の持続的な収集（中央アジア・小島嶼開発途上国）
　②拠点形成による無形文化遺産保護のための研究ネットワーク強化
　③無形文化遺産保護と災害リスクマネジメントに関する研究
(2) 無形文化遺産の持続的な開発への貢献に関する研究―持続可能なまちづくりと無形文化遺産
　・カンボジア、マレーシア、フィジーで予備調査を実施（文化財保存活用基金）
　・国際シンポジウム開催(ユネスコ未来共創プラットフォーム事業)（※詳細は処理番号 3320G-2 を参照）
(3) 新型コロナ感染症の無形文化遺産への影響についての調査研究（文化財保存活用基金）
　・現地機関・研究者と連携し現地調査を実施（対象国：イラン、インド、インドネシア、韓国、キルギス、パプアニューギニア、バングラデシュ、フィジー、モンゴル）
(4) 情報公開等
　①冊子等の作成：『IRCI 概要 2022』日・英版、『IRCI リーフレット』日・英版
　②SNS の活用促進：公式 Facebook ページ開設、Facebook グループ開設、YouTube での記録動画公開開始

年度計画評価	A

【評定理由】

無形文化遺産保護の災害リスクマネジメント((1)③)及び新型コロナウイルス感染症(3)に関する研究は国際的な関心が高まりつつあるのに加え、現在進行中の課題に取り組んでいること、また持続可能な開発への貢献に関する研究(2)は国際的枠組である SDGs への貢献を目指すものであることから、①適時性及び②独創性はＡ評価とした。4 年度より始動した研究拠点形成事業((1)②)ではオンラインを活用し、アジア太平洋地域に限らず無形文化遺産関係者に広く参加を呼び掛けており今後の進展が期待されること、また現地調査が再開され様々な研究事例の蓄積が進みつつあることから③発展性についてもＡ評価とした。④継続性においては、事業予算の安定的確保が難しい状況が依然としてあり、年度半ば頃まで採択の可否がわからない競争的資金に依存している状況もあることから、Ｃ評価とした。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④継続性	
定性評価	A	A	A	C	

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値）国際協力事業実施件数：5 件((1)-①②③、(2)、(3))、国際会議等開催件数：7 件(オンラインセミナー3 件含む)、国際会議出席件数 6 件、刊行物 5 冊	定量評価 _

中期計画評価	B

中期計画記載事項	アジア太平洋地域において活動する研究者・研究機関と連携のもと、無形文化遺産保護の実践及び方法論についての国際会議やシンポジウム及び専門家会合並びに出版等の事業を通じた研究の活性化、研究情報の収集及びその活用戦略の検討と開発を通じて、当該地域における無形文化遺産保護のための研究を促進する。
評定理由	3 件の新規事業を立ち上げ、アジア太平洋各地の研究機関や研究者との連携を確立した。また研究促進のための新たな交流基盤として「アジア太平洋地域における無形文化遺産保護のための研究フォーラム」を立ち上げ、オンラインセミナーを開始することができた。新型コロナ感染症及び災害リスクマネジメントに関する事業、SDGs 事業においては、各国の専門機関や研究者と連携して現地調査を実施し、ワークショップやシンポジウムを通じて議論を深めることができた。このように、中期計画の 2 年目として順調に計画が進展していることから、Ｂ評価とした。

【書式Ｃ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2411E

中期計画の項目	2－(4)－②	文化財情報基盤の整備・充実
年度計画の項目	2-(4)-①-1) 2-(4)-②-3)	①　文化財情報基盤の整備・充実 1)国内外の文化財情報の文化財保護への活用、研究成果の効果的な発信及び研究の実施に資するデータベースを構築・運用する。特に、各種データベースを横断的に検索する総合検索を充実させる。また、調査研究の遂行に資する情報基盤としての所内情報システムを整備・充実させる。 ②調査研究成果の発信 3)ウェブサイトの充実
プロジェクト名称	文化財情報基盤の整備・充実	
文化財情報資料部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○二神葉子（文化財情報研究室長）、小山田智寛（主任研究員）、石灰秀行（専門職）、武藤明子（アソシエイトフェロー）、安岡みのり（研究補佐員）、横尾千穂、高階郁美（以上、研究補佐員）	

【年度実績と成果】

4年度はこれまでに構築した文化財情報基盤を利用しつつ、文化財情報の文化財保護への活用という視点からの調査研究及びデータベースの構築、文化財情報の利用及び発信のための一層の環境整備を実施した。

エントランスロビー展示

○調査研究及び成果公開

・文化財情報及びデータベースとその活用に関連する調査研究を実施した。併せてプロジェクト「文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究」と連携、東京国立博物館所蔵黒田清輝油画作品のうち《湖畔》などに関するウェブコンテンツを制作した。

・パネル展示「タイ・バンコク所在王室第一級寺院　ワット・ラーチャプラディットの漆扉」を7月28日に開始し、解説パンフレット（日英）を制作・設置し、日本とタイをつなぐ文化財の理解向上に貢献した。

○情報蓄積・発信機能の強化

・ウェブサイトのデザインを変更した。また「総合検索」ウェブデータベースを中心に、データ追加、ガラス乾板データベースの画像の高精細化などを実施、文化財アーカイブズ研究室及び近・現代視覚芸術研究室と連携、データベース管理システムOracleによる所内データベースを適宜改良し利便性を向上した。さらに、ソーシャルメディアによる情報発信を適宜実施した。

○ネットワーク環境の整備・充実

・各職員の端末を含むネットワーク機器及びソフトウェアの保守・監視を実施、セキュリティ確保に努めた。また、端末をActive Directoryに参加させ、個別認証機能を強化した。さらに、WiFiのゲスト利用者の認証システム及びDHCPの更新を行った。

年度計画評価	B

【評定理由】

①適時性においては、アクセシビリティに配慮したウェブサイトのデザインを変更した点、情報発信の障壁解消のためのセミナーの開催が評価できる。②独創性においては、外注せず職員が独自に開発したデータベースである点、ウェブコンテンツは特別なアプリを用いずウェブ上でカンバスの布目が見えるほどの作品画像の拡大表示、赤外と蛍光など異なる光源による写真を並べた表示といった機能を実現した点で独創性が高い。③発展性においては、《湖畔》ウェブコンテンツにおいて多様な光源により各作品の特徴を精密に記録した画像の公開で専門家の利用が促進され、作品研究の進展が期待できる。④効率性においては、データベース及びウェブコンテンツ構築を主に職員が行い業務を効率的に遂行できた。⑤継続性においては、情報発信、研修事業及びセキュリティ確保を継続的に実施した。

データベースのアクセス件数は異常アクセスを遮断した結果、目標値を下回ったが、ページビュー数は3年度比1.4倍増と、各利用者のデータベースへの滞在時間は増えており、国民に有効に活用されている。以上を勘案し、所期の計画を遂行できたと判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	A	A	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】**	定量評価
文化財に関するデータベースのアクセス件数：2,679,886件	①（実績値）データベースのアクセス件数 2,486,307件 ②（参考値）データベースのデータ件数 1,801,110件 ③（参考値）発表　3件（ア） ④（参考値）刊行物（パネル展示パンフレット）　1件（イ）	C

ア 小山田智寛「総合検索のリニューアルについて」文化財情報資料部研究会、東京文化財研究所、6月28日　ほか2件
イ『タイ・バンコク所在王室第一級寺院　ワット・ラーチャプラディットの漆扉』（東京文化財研究所、9月30日）

中期計画評価	B

中期計画記載事項	文化財情報・資料の計画的収集、整理、保管、公開並びにそれらの電子化の推進による文化財に関するアーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としての文化財情報データベースを高度化する。また、文化財情報データベースの構築に関する国内外の事例調査を行い、調査研究及びその成果発信のための文化財情報基盤を計画的に整備する。なお、文化財に関するデータベースのアクセス件数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。
評定理由	安定運用のため短時間の反復的なアクセスを遮断したため、アクセス件数は目標値を下回っているが、ページビュー数は3年度比1.4倍増と、各利用者の滞在時間は増えているとみられる。 5年度以降も、文化財情報の文化財保護への活用のための研究及び研修を行い、所内他部局とも連携して研究の実施・成果発信のための文化財情報データベースを一層充実させ、情報システムの整備を実施する。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2411F

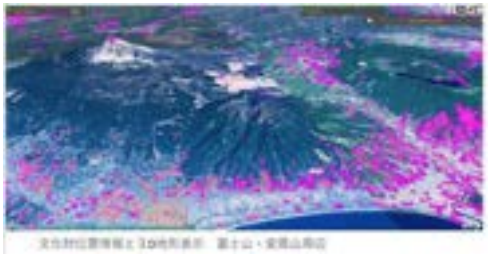
中期計画の項目	(4)-①-1)	文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用
年度計画の項目	2-(4)-①-1)	①文化財情報基盤の整備・充実 文化財関係の情報を収集して国内外に発信するため、その計画的収集、整理、保管、公開並びに電子化の推進による専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースを構築・運用する。 1)国内外の文化財情報の文化財保護への活用、研究成果の効果的な発信及び研究の実施に資するデータベースを構築・運用する。特に、各種データベースを横断的に検索する総合検索を充実させる。また、調査研究の遂行に資する情報基盤としての所内情報システムを整備・充実させる。
プロジェクト名称	文化財に関するデータベースの充実	
企画調整部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○高妻洋成（文化財情報研究室長）、高田祐一（文化財情報研究室研究員）、Yanase, Peter（文化財情報研究室アソシエイトフェロー）、呉 修喆（文化財情報研究室アソシエイトフェロー）、扈 素妍（文化財情報研究室アソシエイトフェロー）	

【年度実績と成果】

・文化財情報データベースの充実として、従来より進めている報告書抄録、報告書の各データベースに関して、データの入力・更新した。公開データベースを更新した。
・全国の博物館等の文化財関係機関が作成している文化財 3D モデルと公開できる「全国　文化財情報デジタルツインプラットフォーム」を新たに公開した。産業技術総合研究所との共同研究成果である。文化財 3D モデルを 3D 地図上に表示できるため、地形や都市ビルデータ等を合わせて閲覧できる。開発と文化財保護の両立を図っていくプラットフォームとして重要である。
・文化財総覧 WebGIS がデジタルアーカイブ学会による第 4 回学会賞 学術賞（基盤・システム）を受賞した。
・追加した新機能は以下の通り

○全国遺跡報告総覧
OCR 済みの PDF に一括差し替え 237 件
重複書誌を整理し、報告書総目録掲載対象項目を表示した。
遺跡抄録の遺跡種別に「水中」を追加
Twitter ツイート時に管理機関名と Twitter アカウントを表示する機能を追加
NCID と JP 番号の一括登録（NCID：9,303 件・JP 番号：11,607 件）
書誌の巻次及びシリーズ番号にて一括置換

○文化財総覧 WebGIS
三重県四日市市の遺跡情報を登録
自然災害伝承碑の詳細表示と 3D 地形表示の機能公開
静岡県・岐阜県の CS 立体図追加
自然災害伝承碑のポップアップ表示



文化財総覧 WebGIS

年度計画評価	A

【評定理由】

①社会的には 3D の利活用が進んでいるところである。適時性においては、文化財 3D モデルのプラットフォームを構築し、国民から活発に利用されることで文化財情報のインフラとして機能している。②独創性においては、全国遺跡報告総覧のように他に類を見ないデータを提供しており、文化財専門用語辞書を活用し自然言語処理技術を活かした独自のデータ解析も提供している。③発展性においては、既存のデータベースの内容を着実に充実させているとともに、データベースの機能強化を実現している。全国の自治体や博物館など既に 1,357 機関が本事業に参加している。4 年度は新たに文化財 3D モデルプラットフォームを公開した。④全国の文化財担当者が Web システムに登録し、自動データ品質チェックを実施することで効率化を実現している。⑤継続性においては、データ登録について毎年文化庁から地方自治体へ周知されており、継続的な協力が見込まれる。大規模なデータベースを維持し、確実なデータ提供を多年に渡って実現している。公開データベースのアクセス件数は 3 年度比 105%となった。これらより、内容豊かなデータベースとして著しく発展していることから、定量評価の目標値は若干未達であるものの目標以上の成果をあげたと判断し、全体の評定をＡとした。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	A	A	A

【目標値】	**【実績値・参考値】**※括弧内は 3 年度件数	定量評価
・文化財に関するデータベースのアクセス件数 11,612,614 件	（実績値）公開データベースの件数 35 件(32) （参考値）公開データベースへのアクセス件数 9,955,544 件（9,419,564 件） 公開データベースの一例：全国遺跡報告総覧 登録データ件数　421,300 件(284,928) 年間ダウンロード件数　2,348,202 件（1,971,911） 年間ページ閲覧数 117,834,000 件（99,974,779） 論文発表　25 件（ア）　口頭発表　11 件（イ）　刊行物 6 件（イ）	C

ア論文 高田祐一他「Integrating the Japanese Archaeological Dataset into the ARIADNEplus Data Infrastructure 」他計 25 件、イ研究発表 高田祐一「文化財情報プラットフォームとしての全国遺跡報告総覧ーデジタルアーカイブ・リファレンスツール・学術情報の流通ー 」他 計 11 件、ウ刊行物　『デジタル技術による 文化財情報の記録と利活用 5』他計 6 件

中期計画評価	A
中期計画記載事項	文化財情報・資料の計画的収集、整理、保管、公開並びにそれらの電子化の推進による文化財に関するアーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としての文化財情報データベースを高度化する。また、文化財情報データベースの構築に関する国内外の事例調査を行い、調査研究及びその成果発信のための文化財情報基盤を計画的に整備する。なお、文化財に関するデータベースのアクセス件数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。
評定理由	4年度に公開した「全国文化財情報デジタルツインプラットフォーム」は、オンライン3D地図に文化財の3Dモデルを搭載できるシステムであり、世界的にも先進的な高度システムである。産業技術総合研究所との共同研究の成果で、先進技術にて文化財データの展開事例として重要である。また、文化財総覧 WebGIS がデジタルアーカイブ学会による第4回学会賞 学術賞（基盤・システム）を受賞するなど、 データベースのアクセス件数は、目標値を下回ったものの、ページ閲覧数やダウンロード数は3年度比で18%増加しており、認知度や利用頻度が高まっているため、A評価とした。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2412F

中期計画の項目	(4)-①-2)	文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用
年度計画の項目	2-(4)-①-2)	①文化財情報基盤の整備・充実 文化財関係の情報を収集して国内外に発信するため、その計画的収集、整理、保管、公開並びに電子化の推進による専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースを構築・運用する。 2)文化財情報のデジタルアーカイブに関する実践研究を行う。データの長期保管及び公開活用に関して、技術面・法律面含めたガイドラインを作成する。
プロジェクト名称	文化財情報のデジタルアーカイブに関する実践研究	
企画調整部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○高妻洋成（文化財情報研究室長）、高田祐一（文化財情報研究室研究員）、絹川桂（文化財情報係主任）	

【年度実績と成果】

○データ長期保管

・災害が多発する日本において、データの安定的な長期保管は課題である。特に津波等においては、サーバなどの機器が消失する場合があり、バックアップが重要である。また災害時でも可用性を高めるためには、ストレージのクラウド化が有効である。当研究所では、4 年度にクラウドストレージを導入・展開した。長期保管を必要とされる研究データについて、容量無制限に保管できる環境を運用開始した。

○公開活用に関する法律研究

・研究報告第 37 冊『デジタル技術による文化財情報の記録と利活用 5』を刊行した。「映像資料や文化財動画に現れる個人情報について」や「文化財デジタルアーカイブに関する権利処理の概観」など、デジタルアーカイブ、Tidy データのありかた、知的財産権や権利処理などの論考を掲載している。法律専門家と作成しており、ガイドラインとして有用である。

年度計画評価	A

【評定理由】

①適時性においては、災害が多発する昨今の状況に鑑みて至急必要な実践研究であり、ストレージ環境を実運用開始したことで災害対応を実現した。②独創性においては、研究報告の刊行は、全国的な課題に取り組む当研究所ならではの研究であり、文化財関係機関の業務に資する。③発展性においては、文化財データの長期保管や法律面の課題は、日本全国あるいは世界共通の課題である。IT 技術の進化は加速しており、それにキャッチアップした研究報告の刊行は意義があり、今後も発展する。④効率性においては、容量無制限のストレージ環境であり、効率性に優れる。⑤継続性においては、高稼働率の継続性を実現したストレージ環境であり、業務継続性の確保を実現した。以上のように、当初計画以上の成果を上げていることからＡ評価とする。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	A	A	A

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値） 報告書刊行数：1 件（ア）	定量評価 ―

（ア）奈良文化財研究所研究報告第 37 冊『デジタル技術による文化財情報の記録と利活用 5』(2 月)

中期計画評価	A

中期計画記載事項	文化財情報・資料の計画的収集、整理、保管、公開並びにそれらの電子化の推進による文化財に関するアーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としての文化財情報データベースを高度化する。また、文化財情報データベースの構築に関する国内外の事例調査を行い、調査研究及びその成果発信のための文化財情報基盤を計画的に整備する。なお、文化財に関するデータベースのアクセス件数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。
評定理由	3 年度には、データ長期保管、公開活用に関する法律研究それぞれが持つ課題を整理した。中期計画の 2 か年目となる 4 年度は、実際に運用段階に入った。特に公開活用に関する法律研究については、実践的な論考を研究報告にて刊行するなど、中期計画 2 か年目としては想定した以上の成果を上げることができており、5 年度以降も継続して成果を上げることが期待できる。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2413E

中期計画の項目	2-(4)-①	文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用
年度計画の項目	2-(4)-①3)・4)	①文化財情報基盤の整備・充実 文化財関係の情報を収集して国内外に発信するため、その計画的収集、整理、保管、公開並びに電子化の推進による専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースを構築・運用する。3)調査研究及び文化財防災に役立つデータベースの充実並びにアーカイブ機能の更新及び拡張を行う。4)文化財に関係する図書、雑誌等の収集、整理、公開、提供を充実させる。
プロジェクト名称	専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充	
文化財情報資料部	○橘川英規（文化財アーカイブズ研究室長）、江村知子（文化財情報資料部長）、安永拓世（広領域研究室長）、米沢玲（研究員）、小山田智寛（主任研究員）、田村彩子、寺﨑直子（以上、研究補佐員）ほか	

【年度実績と成果】

○全所的な文化財情報の発信

・副所長を委員長とするアーカイブ WG を例年通り 4 回（5 月 16 日、9 月 8 日、12 月 8 日、5 年 3 月 9 日）開催し、アーカイブの拡充と積極的に情報発信を行うための協議をした。

・文化財画像などの効果的な利活用のために、著作権などに関する法律問題を広く扱う弁護士数藤雅彦氏を招き「データ利用についての実務を学ぶ勉強会」を開催した（7 月 10 日）。

・当研究所所蔵資料を活用した文化財研究を支援するために、大学・大学院学生、美術館・博物館職員を対象とした「資料閲覧室利用ガイダンス」を立ち上げ、実施した（7 月 1 日）。

資料閲覧室利用ガイダンスにおける説明の様子

○アーカイブを利用した研究・外部機関への協力

戦前の消失前の写真を「京都智積院の名宝」展（サントリー美術館）に提供し、報道にも協力したほか、「いにしえが好き！」展（国立歴史民俗博物館）にもガラス乾板画像を提供した。

○文化財研究のためのデータ蓄積と公開

・文化財防災への活用も見据えて、「東文研総合検索」等文化財アーカイブ機能を更新した。特に「展覧会における新型コロナウイルスの影響データベース」に新規に 50 件を追加し、3 年公開分も適宜、更新した。

・当研究所 75 年史編纂資料の編成・記述に取り組み、概要と一部リストを資料閲覧室ウェブサイトに公開した（5 年 3 月 31 日）。またこれに関する取り組みを部内研究会にて報告し、関係者との情報共有を実施した（5 年 1 月 31 日）。

・資料閲覧室の運営・管理 資料受け入れ数：感染症防止対策のため 3 年度に引き続き事前予約制での開室を継続、週 3 回（4 月 15 日までは週 2 回）開室した。図書等の受け入れ 和漢書 1,909 件、洋書 53 件、展覧会図録・報告書等 1,909 件、雑誌 2,903 件（合計 6,774 件）・閲覧室利用状況：公開日総数 129 日・年間利用者合計 877 人

年度計画評価	A

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、オープンアクセス資料をさらに増加したほか、「展覧会における新型コロナウイルスの影響データベース」を更新し、3 年度を上回る計 1,450 件の展覧会情報を公開した。②独創性においては、古い写真資料を利用した研究を推進したほか、「専門的アーカイブの研究活用」を実践するため、新たな取り組みとして利用ガイダンスを立ち上げた。③発展性においては、はじめて弁護士等の専門家と連携して、著作権等の専門的な知見も取り入れたより効果的な情報発信を目指す取り組みを推進できた。④効率性においては、図書館システムを活用し、図書等の入力作業と情報発信を効率よく行った。⑤継続性においては、当研究所が有する情報・画像資料のデジタル化作業を継続し、質的な向上を達成できた。アーカイブ WG とも連動して、専門的アーカイブの構築と活用を戦略的に推進した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	A	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】 （参考値） ・学会・研究会等発表　2 件（ア）　・論文　1 件（イ）　・報告　1 件（ウ）	定量評価 ―

ア　田村彩子「年史編纂資料の研究活用に向けた記述編成−東文研史資料を例に」文化財情報資料部研究会、東京文化財研究所、5 年 1 月 31 日ほか 1 件

イ　江村知子「失われた寒山拾得像をもとめて−文化財アーカイブの奇跡」『寒山拾得図襖絵共同研究報告書』、5 年 3 月

ウ　米沢玲「展覧会評　ブッダのお弟子さん　教えをつなぐ物語」『美術研究』438、5 年 3 月

中期計画評価	B

中期計画記載事項	文化財情報・資料の計画的収集、整理、保管、公開並びにそれらの電子化の推進による文化財に関するアーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としての文化財情報データベースを高度化する。また、文化財情報データベースの構築に関する国内外の事例調査を行い、調査研究及びその成果発信のための文化財情報基盤を計画的に整備する。なお、文化財に関するデータベースのアクセス件数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。
評定理由	オンラインを活用して公共性と専門性の双方を有する運営を進めることができた。中期計画の 2 年目として、文化財調査研究・成果の集約、データベースの継続的拡充はもとより、専門的アーカイブと総合的レファレンスの充実を推進するための新たな枠組み（資料閲覧室利用ガイダンス、データ利用勉強会）を立ち上げ、順調に計画を進められている。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2414F

中期計画の項目	2-(4)-①	文化財に関する情報・資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用
年度計画の項目	2-(4)-①-4)	①文化財情報基盤の整備・充実 文化財関係の情報を収集して国内外に発信するため、その計画的収集、整理、保管、公開並びに電子化の推進による専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースを構築・運用する。 4)文化財に関係する図書、雑誌等の収集、整理、公開、提供を充実させる。
プロジェクト名称	図書の収集・整理・公開・提供	
研究支援推進部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】**○井関信雄（連携推進課長）、絹川佳（文化財情報係主任）、伊藤久美（事務補佐員）、山内章子（事務補佐員）、中西晶子（事務補佐員）、堀内千嘉（事務補佐員）、永岡美和（事務補佐員）、志賀明美（事務補佐員）、三上香織（事務補佐員）	

【年度実績と成果】

【年度実績と成果】

○資料の収集・整理・保管・提供

収集・整理・保管については、例年どおり滞りなく実施した。提供については、引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行いつつ、ウィズコロナに対応すべく、一般利用の人数制限を 2 人から 4 人に変更した。併せて利用時間の制限を緩和し、来館者の利便性向上に努めた。

また寄贈図書の大量の受け入れを行い、その整理、公開、提供への対応を実施中である。

購入図書	227 冊
寄贈図書	5,117 冊
雑誌	2,531 冊
一般利用者	254 人
利用冊数	1,831 冊
来館者複写件数	220 件
遠隔利用：複写受付件数	562 件
貸借受付件数	217 件

年度計画評価	B

【評定理由】

①適時性においては、新型コロナウイルス感染拡大防止対策の緩和に対応し、3 年度よりも利用、閲覧可能な体制の維持に努めた。②発展性においては、引き続き Google カレンダーを利用して資料室の利用状況を公開しており、利便性の向上を図った。③効率性においては、2 年度導入した資料室の予約フォームの更なる改善を実施し、より一層の効率性向上に取り組んだ。④継続性においては、新型コロナウイルス感染拡大防止対策の緩和などにより、3 年度と比較して利用者へのサービス提供が向上しており、インターネットが利用できないなど予約なしで来室した利用者にも、空きがあれば対応をすることを行った。以上の観点から本事業は順調に推移していると判断した。

観点	①適時性	②発展性	③効率性	④継続性	
定性評価	B	B	B	B	

【目標値】	**【実績値・参考値】** （実績値） ・資料閲覧室・図書資料室の開室日数　240 日 ・資料閲覧室・図書資料室の利用者数　254 人 ・文化財に関する資料・図書等の総件数　509,763 件	定量評価

中期計画評価	B

中期計画記載事項	文化財情報・資料の計画的収集、整理、保管、公開並びにそれらの電子化の推進による文化財に関するアーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としての文化財情報データベースを高度化する。また、文化財情報データベースの構築に関する国内外の事例調査を行い、調査研究及びその成果発信のための文化財情報基盤を計画的に整備する。なお、文化財に関するデータベースのアクセス件数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。
評定理由	3 年度同様、中期計画に掲げた目標の一つである資料の収集において、調査・研究のための二次資料の収集が予算削減等の理由により困難をきたしているものの、各自治体が発行する調査報告書は従来どおりに収集・整理・保管・提供を行うことができた。その他の目標については、本中期計画通りの安定した推移を見せている。また、4 年度は他組織との共同研究等での新たな側面からのでデータベース発信ができ、中期計画の 2 年目として十分な成果を得たといえる。5 年度以降も文化財に関する電子化でのアーカイブの拡充を継続的に行っていく。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2421E

中期計画の項目	2-(4)-②	文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用
年度計画の項目	2-(4)-②-1)	②調査研究成果の発信 文化財に関する調査研究の成果について、定期的に刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等により、多元的に発信する。また、研究所の研究・業務等を広報するためウェブサイトを充実させるとともに、日本語はもとより多言語でのページを充実させる。 1)定期刊行物の刊行 ・『東京文化財研究所年報』 ・『東京文化財研究所概要』 ・『東文研ニュース』 ・『美術研究』(年3冊) ・『日本美術年鑑』 ・『無形文化遺産研究報告』 ・『無形民俗文化財研究協議会報告書』 ・『保存科学』
プロジェクト名称	定期刊行物の刊行	
文化財情報資料部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】**○齊藤孝正（所長）	

【年度実績と成果】

・『東京文化財研究所年報』2021年度版
・『東京文化財研究所概要』2022年度版
・『東文研ニュース』年2回（77,78号）
・『美術研究』（437号）（8月）
・『美術研究』（438号）（5年2月）
・『美術研究』（439号）（5年3月）
・『令和2年版　日本美術年鑑』（8月）
・『第15回 東京文化財研究所 無形文化遺産部 公開学術講座 「樹木利用の文化―桜をつかう、桜を奏でる」報告書』（8月）
・『無形文化遺産部研究報告』16号（5年3月）
・『第16回無形民俗文化財研究協議会報告書』（5年3月）
・『フォーラムⅣ「伝統芸能と新型コロナウイルス―これからの普及・継承―」報告書』（5年3月）
・『保存科学』62号（5年3月）

『保存科学』

『令和2年度版日本美術年鑑』

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、『美術研究』で翻訳論文により海外での最新研究動向を紹介し、新型コロナウイルスの影響によって予定変更を余儀なくされた美術展覧会を展評という形で報じたほか、コロナ禍の伝統芸能における普及・継承をテーマとしたフォーラムの記録映像を、喫緊性を鑑みて期間限定配信したのち、報告書として刊行した。②独創性においては、『美術研究』437号の米沢玲・安永拓世の共著論文「光明寺所蔵羅漢図について−重層的な作品理解を目指して」で光学的調査の成果や作品の来歴など多角的な研究が実践できたとともに、『保存科学』62号の紀芝蓮ほか著「光明寺所蔵《羅漢図》に使われた彩色材料」で文化財科学の分野でも連動的に論考が発表できたことが評価される。③発展性においては、『保存科学』、『無形文化遺産部研究報告』などが冊子体とあわせて機関リポジトリからウェブ公開されており、国内外から盛んに利活用されている点が評価できる。④効率性においては、『保存科学』が年内論文を受け付けているが投稿から査読を経て発刊までを約3か月の短期間で行い、一般的な学術雑誌と比べても迅速に成果公開がなされている点が評価できる。⑤継続性については、各種定期刊行物を継続的に編集・刊行するとともに、デジタルの利点も活かしながら成果公開を推進できた。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** ・日本美術年鑑　1点　・美術研究　3点 ・無形文化遺産部研究報告　1点　・無形民俗文化財研究協議会報告　1点 ・保存科学　1点	定量評価 ―

中期計画評価	B

中期計画記載事項	文化財に関する調査研究の成果を定期刊行物やウェブサイト、公開講演会、現地説明会、シンポジウム等により、多元的に発信する。また、ウェブサイトにおいては、上記の発信手法と併用あるいはそれらを補完するとともに、ウェブの特徴を生かした情報発信を行い、国内外の利用者に向けた日本語はもとより多言語での情報発信を図る。
評定理由	当初の計画通り、各研究プロジェクトの研究成果を反映させた定期刊行物を刊行することができた。学術誌としての一定の水準を保ちながら、また当研究所の事業内容を一般に広報する上でも有益な内容の報告となるよう、継続的に刊行できたことが評価された。また各論文等を学術リポジトリでのウェブ公開を通じて、研究成果の発信を推進する。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2421F

中期計画の項目	2-(4)-②	文化財に関する情報・資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用
年度計画の項目	2-(4)-②-1)2)3)	②調査研究成果の発信 1)定期刊行物の刊行 ・『奈良文化財研究所紀要』・『奈良文化財研究所概要』・『奈文研ニュース』『埋蔵文化財ニュース』 2)公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等 ・公開講演会 ・現地説明会 3)ウェブサイトの充実 ・なぶんけんブログ等（コラム作寶樓等）
プロジェクト名称	定期刊行物の刊行、公開講演会・現地説明会等の開催、ウェブサイトの充実	
研究支援推進部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○井関信雄（連携推進課長）、不藤忠義（研究支援課長）、田島章雅（連携推進課課長補佐）、永野陽子（研究支援課課長補佐）、桑原隆佳（連携推進課広報企画係長）、絹川佳（連携推進課文化財情報係主任）、新開良子（研究支援課係員）、ほか	

【年度実績と成果】

1) 定期刊行物の刊行
・奈良文化財研究所概要 2022　12 月刊行、2,000 部　・奈良文化財研究所紀要 2022　6 月刊行、2,600 部
・奈文研ニュース「No.85」6 月,「No.86」9 月,「No.87」12 月,「No.88」5 年 3 月,各 2,200 部
2) 現地説明会等
・8 月 6 日藤原宮大極殿院の発掘調査(飛鳥藤原第 210 次)現地見学会　於　橿原市醍醐町（参加者 468 人）
・10 月 15 日興福寺東金堂院の回廊の発掘調査(平城第 649 次調査)現地見学会 於　奈良市登大路町(参加者 1,120 人)
・5 年 1 月 20 日平城京左京三条一坊二坪の発掘調査（平城第 650 次調査）現地見学会　於　奈良市二条大路南（参加者数 317 人）
・5 年 3 月 20 日西大寺旧境内弥勒金堂跡の発掘調査（平城第 655 次調査）現地見学会（参加者数 139 人）
3) 講演会
・平城宮跡史跡指定 100 周年・奈良文化財研究所創立 70 周年記念シンポジウム 開催日：6 月 25 日　於　なら 100 年会館大ホール
テーマ「平城宮跡の過去・現在・未来」（来場者数：328 名）
・第 14 回東京講演会　開催日：10 月 22 日　於　有楽町朝日ホール
テーマ「高松塚古墳壁画を伝える－発見から石室解体、修理を経て」（来場者数：178 名）
4) シンポジウム
・12 月 16 日～17 日　第 26 回古代官衙・集落研究集会「古代集落の構造と変遷 3」（古代集落を考える 3）（参加者 186 人）
・5 年 2 月 4 日～5 日　第 22 回古代瓦研究会シンポジウム（参加者 282 人）
5) ウェブサイトの充実
・「なぶんけんチャンネル」において、4 年度は新たに 9 本の動画を公開し、チャンネルの開設から現在までに 100 本の動画を公開している。巡訪研究室、コラム作寶樓も引き続き公開した。（視聴数（オンライン）：58,142 件）

年度計画評価	B

【評定理由】

①適時性については、当研究所における調査研究成果を適時に刊行し、現地説明会や講演会開催の情報についてウェブサイト及び Twitter 上に公開し情報発信を行った。②独創性については、新たな調査研究成果を発信することができた。③発展性については、3D に関するデータベースの拡充や、他研究機関との共同研究としてのデータベースも増え、また、多様なブログ、コラム等を更新することによりウェブサイトの内容を充実させた。④継続性については、定期刊行物、講演会、ウェブサイト公開など従来から継続的に実施し、恒久的な提供が認められる。講演会等は、平城宮跡史跡指定 100 周年・奈良文化財研究所創立 70 周年を記念したシンポジウム「平城宮跡の過去・現在・未来」をなら 100 年会館大ホールにて開催したことにより、広く一般に研究成果の発信に取り組むことができた。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④継続性	
定性評価	B	B	B	B	

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値） ・定期刊行物等の刊行件数 6 件　・講演会等の開催回数 7 回 ・講演会等の来場者数　974 人 ・学術情報リポジトリ等によるウェブサイトにおける論文等の公開件数　7,577 件	定量評価 －

中期計画評価	B
中期計画記載事項	文化財に関する調査研究の成果を定期刊行物やウェブサイト、公開講演会、現地説明会、シンポジウム等により、多元的に発信する。また、ウェブサイトにおいては、上記の発信手法と併用あるいはそれらを補完するとともに、ウェブの特徴を生かした情報発信を行い、国内外の利用者に向けた日本語はもとより多言語での情報発信を図る。
評定理由	定期刊行物及びウェブサイトにおいては調査研究の成果等を公表するものとして、計画通り順調に刊行や更新ができた。平城宮跡史跡指定 100 周年・奈良文化財研究所創立 70 周年記念シンポジウムについては、広く一般に研究成果の発信に取り組むため、なら 100 年会館大ホールにて開催し、より多くの方に対して発信することができた。以上を含めて、今中期計画期間の 2 年目として、3 年目以降の今中期計画遂行における基盤となる事業を実施できたと判断し、Ｂと評価した。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2422E

中期計画の項目	2-(4)-②	文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用
年度計画の項目	2-(4)-②-2)	②調査研究成果の発信 文化財に関する調査研究の成果について、定期的に刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等により、多元的に発信する。また、研究所の研究・業務等を広報するためウェブサイトを充実させるとともに、日本語はもとより多言語でのページを充実させる。 2)公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等 ・公開講座（オープンレクチャー）
プロジェクト名称	オープンレクチャー（調査･研究成果の公開）	
文化財情報資料部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○安永拓世（広領域研究室長）、吉田暁子（研究員）、黒﨑夏央（アソシエイトフェロー）ほか	

【年度実績と成果】

○11 月 8 日（火）、一般から聴講者を募集し、オープンレクチャーを開催した。中期計画の 2 年目にあたり、大テーマは 3 年度と同じく「かたちを見る、 かたちを読む」とした。また、新型コロナウイルスの感染防止を考慮し、3 年度と同様に内部講師 2 名による 1 日の開催としたが、聴講者定員は 30 名から 50 名に増やし、抽選制とした。

○当研究所・文化財情報資料部より 2 名の講演を行った。講演テーマは次の通りである。

・江村知子（文化財情報資料部長）「遊楽図のまなざし―徳川美術館蔵・相応寺屏風を中心に」

・吉田暁子（文化財情報資料部研究員）「岸田劉生の静物画―「見る」ことの主題化」

○外部からの聴講者 50 名を得た。

講演風景（江村）

講演風景（吉田）

広報のチラシ

年度計画評価	B

【評定理由】

①適時性については、感染防止の観点から、定員を絞って抽選制とし、検温や消毒などの防止策を徹底した。結果、定員の 2 倍近くの応募があり、50 人の参加に限定したが、時宜に適った講演テーマで実施できた。②独創性については、未発表の最新の研究成果を、新知見とともに公開することができたほか、高精細画像を活用した図様の解釈や、最新の光学調査に基づく研究成果の活用には、より高い独創性が発揮された。参加者からのアンケート結果では、「大変満足した」と「おおむね満足だった」を合わせて 97%の回答を得ることができた。③発展性については、いずれの講演も今後の調査研究による深化や進展が望まれるもので、さらなる発展性が期待できる内容で実施できた。④効率性については、2 名の専門の違う研究者による成果公開によって、一般市民に効率よく研究成果を発信できた。⑤継続性については、オープンレクチャーは、研究所において 60 年以上にわたり開催しているもので、研究の最先端を発信しつつ継続することができた。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	A	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値） ・講演会の開催回数　1 回	定量評価 ―

中期計画評価	B

中期計画記載事項	文化財に関する調査研究の成果を定期刊行物やウェブサイト、公開講演会、現地説明会、シンポジウム等により、多元的に発信する。また、ウェブサイトにおいては、上記の発信手法と併用あるいはそれらを補完するとともに、ウェブの特徴を生かした情報発信を行い、国内外の利用者に向けた日本語はもとより多言語での情報発信を図る。
評定理由	4 年度は、今期中期計画の 2 年目にあたり、オープンレクチャーのテーマとしては「かたちを見る、 かたちを読む」と今期中期計画に一貫したものだが、4 年度の所員 2 名による発表は、高精細画像や光学調査や化学分析の成果によって、作品の「かたちを見る」ことを重視しつつも、それを美術史的な研究に還元し、「かたちを読む」という解釈によって、作品の真の姿に迫ろうとした点で、参加者からも好評を得た。また、3 年度同様、コロナ対策も十分に行い、無事に終えることができた。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2431F

中期計画の項目	2-(4)-③	文化財に関する情報・資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用
年度計画の項目	2-(4)-③-1)	③展示公開施設の充実 平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館の展示等を充実させ、来館者の理解を促進するとともに、平城宮跡史跡指定100周年、高松塚古墳壁画発見50周年、奈良文化財研究所創立70周年関連展示を行う。1)特別展・企画展
プロジェクト名称	平城宮跡資料館・飛鳥資料館・藤原宮跡資料室における展示公開	
企画調整部	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】○岩戸 晶子（企画調整部展示企画室長）、廣瀬智子（同アソシエイトフェロー）、下山千尋（同アソシエイトフェロー）、○石橋茂登（飛鳥資料館学芸室長）、清野陽一（同主任研究員）、竹内祥一朗（同研究員）、濵村美緒（同アソシエイトフェロー）ほか	

【年度実績と成果】

（１）平城宮跡資料館
- 春期特別展「未来につなぐ平城宮跡」(4月29日～6月12日、40日間、7,893人)
- 夏期企画展 「大地鳴動」(7月16日～8月28日、38日間、4,106人)
- 秋期特別展(1)「地下の正倉院展」(10月15日～11月13日、26日間、7,628人)
- 秋期特別展(2)「のこった奇跡 のこした軌跡」(於：平城宮跡いざない館企画展室　10月29日～12月11日、43日間、36,339人)
- 展覧会や当研究所・平城宮跡を紹介する内容のインターネット生配信（ニコニコ美術館）を2回実施した。アンケートでは満足度99%を得た。(各回5時間、視聴者①32,208人、②26,492人)
- 公式Twitterの開設や100周年を記念した平城宮跡公式キャラクターの発表を行うなど、積極的に広報に取り組んだ。

記念特別展「のこった奇跡 のこした軌跡」展展示風景

（２）飛鳥資料館
- ミニ展示 「飛鳥資料館に寄贈された瓦」(4月22日～5月22日　28日間、3,268人)
- 夏期企画展「第13回写真コンテスト「高松塚古墳」作品展」(7月15日～9月11日　51日間、2,912人) 応募77点
- 秋期特別展「飛鳥美人　高松塚古墳の魅力」(10月21日～12月18日　51日間、7,280人)
- 冬期企画展「飛鳥の考古学2021」(5年1月20日～3月12日　45日間、3,360人)

飛鳥資料館　秋期特別展

（３）藤原宮跡資料室
- 常設展示に加え、ロビーにて「藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第208次)」、「石神遺跡SD1347A出土の土器（石神遺跡第14・15次)」(11月1日～5年3月31日）を実施。

年度計画評価	B

【評定理由】①適時性では、平城宮跡史跡指定100周年、当研究所創立70周年、高松塚古墳発見50周年に合わせた企画展示を平城宮跡資料館、平城宮いざない館、飛鳥資料館でそれぞれ開催した。②独創性では各館ともそれぞれの地域性を生かした展示を行うことができた。③発展性では、広報活動として行ったインターネット配信の視聴者数の伸びもよく、満足度99%超と好評を得ることができた。平城宮跡資料館の公式Twitterは開始8か月でフォロワー3,000人を獲得し、展示活動の普及・広報の新しい展開が期待できる。④継続性においては、各館の特別展・企画展は、ほぼ定期で継続的に実施しているが、毎回新たな内容で行っている。平城宮跡資料館の「地下の正倉院展」は平成19年から15回と継続的に開催してきた。飛鳥資料館の「写真コンテスト」は13回を数え、「飛鳥の考古学」は平成18年度以来継続して開催している。定量評価は、平城宮跡資料館では、特別展・企画展満足度アンケート80%、飛鳥資料館では、89.3%であった。以上から、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	⑤継続性	
定性評価	A	B	A	B	

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
(1)平城宮跡資料館　特別展・企画展満足度アンケート　85% (2)飛鳥資料館　特別展・企画展満足度アンケート　85%	【実績値・参考値】(実績値) (1)平城宮跡資料館企画展満足度アンケート　80% (2)飛鳥資料館特別展・企画展満足度アンケート　89.3% (参考値) (1)平城宮跡資料館入館者数　39,515人、平城宮いざない館特別展入館者数　(10/29～12/11 43日間　36,339人)、開催日数310日、刊行物等発行実績　3件（ア～ウ)、特別展・企画展など4回　(2)飛鳥資料館　入館者数24,719人、開館日数307日、刊行物等発行実績　2件（エ、オ)、特別展・企画展など4回 (3)藤原宮跡資料室　入館者数7,133人、開館日数357日	B

ア）春期特別展「未来につなぐ平城宮跡 －保存運動のあけぼのー」図録(A4版フルカラー、47頁、4月29日発行)
イ）秋期特別展「地下の正倉院展－平城木簡年代記〔クロニクル〕－」(A4版フルカラー、32頁、10月15日発行)
ウ）秋期特別展「のこった奇跡のこした軌跡－未来につなぐ平城宮跡ー」(A4版フルカラー、112頁、10月29日発行)
エ）飛鳥資料館図録第75冊『飛鳥美人　高松塚古墳の魅力』(B5変形判フルカラー56ページ　10月21日発行)
オ）飛鳥資料館カタログ第39冊『飛鳥の考古学2022』(A4判フルカラー22ページ　1月20日発行)

中期計画評価	B

中期計画記載事項	平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館については、研究成果の公開施設としての役割を強化する観点からウェブサイトによる動画配信を含め、展示等を充実させ、来館者の理解を促進する。なお、来館者に対する満足度アンケートにおける上位評価が前中期目標の期間と同程度の水準の維持を目指す。
評定理由	4年度は平城宮跡史跡指定100周年、当研究所創立70周年、高松塚古墳発見50周年という節目の年であり、各館ともそれを記念した特別展を開催することができた。また、平城地区においては2回のインターネットの生配信を実施したほか、各館ともSNSの活用を進めるなど、広報面での新たな取り組みを強化している。満足度においては、平城宮跡資料館において若干目標値を下回ったが、明治期の平城宮跡の保護・顕彰活動や災害考古学など従来なじみが少ない分野の展示にチャレンジしたことなどが要因と考えられる。以上のことから、事業自体は順調に推移していると判断し、B評価とした。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2432F

中期計画の項目	2-(4)-③	文化財に関する情報・資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用
年度計画の項目	2-(4)-③-2)	③展示公開施設の充実 平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館の展示等を充実させ、来館者の理解を促進するとともに、平城宮跡史跡指定 100 周年、高松塚古墳壁画発見 50 周年、奈良文化財研究所創立 70 周年関連展示を行う。 2)定期的に勉強会や研修を開催し、平城宮跡解説ボランティアを育成するとともに、解説ボランティアとの連絡会議等を通じて、より効果的かつ効率的な制度運用を行う。
プロジェクト名称	平城宮跡解説ボランティアの研修内容の充実及び運用改善	
研究支援推進部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】**○井関信雄（連携推進課長）、田島章雅（連携推進課課長補佐）、桑原隆佳（連携推進課広報企画係長）、岩井靖子（連携推進課事務補佐員）	

【年度実績と成果】

1）解説ボランティアに関する会議

・平城宮跡解説ボランティア懇談会の開催（研究部と事務部が一体となったボランティア活動を検討する会議、毎月 1 回、計 11 回開催）

・平城宮跡解説ボランティア連絡会議の開催（解説ボランティア班長と当研究所職員によるボランティア活動の確認、活性化、改善等を検討するための会議、毎月 1 回、計 11 回開催）

・平城宮跡歴史公園ガイド連絡協議会（NPO 法人平城宮跡サポートネットワーク、奈良県（平城京 再生プロジェクト）、国交省（平城宮跡管理センター）、当研究所の 4 者で行う国営飛鳥歴史公園内のボランティア活動等の情報共有、意見交換を行う会議：2 か月に 1 回、計 6 回開催）

2）平城宮跡解説ボランティア活動再開

・新型コロナウイルス感染拡大防止のため平城宮跡解説ボランティア活動を中止していたが、平城宮跡解説ボランティア懇談会において自治体の方針・要請を踏まえた活動再開の目安を具体的に定めた再開目安の各条件を満たしたことにより、4 月 12 日から平城宮跡解説ボランティア事業を再開した。

年度計画評価	B

【評定理由】

4 年度は、4 月 12 日から平城宮跡解説ボランティア事業を再開したことに伴い、平城宮跡解説ボランティアの方々のモチベーションを保つことに留意した。①適時性については、解説ボランティアへの当研究所からの最新の情報提供、解説ボランティアからの改善等の意見を随時取り入れるための研究部と事務部が一体となって組織した「平城宮跡解説ボランティア懇談会」を定期的に開催した。②独創性については、3 年度の当研究所の研究成果を記載している「奈良文化財研究所紀要 2022」を全ボランティアに送付し、解説ボランティアの資質向上を図った。③発展性については、ボランティア懇談会において解説ボランティアからの意見を随時取り入れるようにすることにより、活動の活性化や運用改善が進められた。④継続性については、ボランティア連絡会議を定期的に開催し、また、毎朝朝礼を行いボランティアとの意思疎通を引続き行ったことにより、所期の目標を達成したと考える。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④継続性	
定性評価	B	B	B	B	

【目標値】	**【実績値・参考値】** （実績値） （参考値） ・解説ボランティア登録人数：121 人 ・ボランティア解説を受けた来場者延べ人数：46,535 人 ・解説活動日数：282 日	定量評価 －

中期計画評価	B

中期計画記載事項	平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館については、研究成果の公開施設としての役割を強化する観点からウェブサイトによる動画配信を含め、展示等を充実させ、来館者の理解を促進する。なお、来館者に対する満足度アンケートにおける上位評価が前中期目標の期間と同程度の水準の維持を目指す。また、宮跡等への来訪者に文化財及び文化財研究所の研究成果等に関する理解を深めてもらうため、「新しい生活様式」を踏まえつつ、解説ボランティアを育成し、その活動を支援する。
評定理由	4 年度はボランティア活動が再開したことにより、ボランティア連絡会議を対面で開催し、継続的にボランティアの育成と意思疎通を図るなど、中期計画の 2 年度目として、必要な対応を講じることができた。以上を含めて、事業を順調に進められていると判断し、B 評価とした。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2511E

中期計画の項目	2-(5)-①	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-①-1)・2)	①文化財に関する研修の実施 1)文化財の担当者研修、博物館・美術館等の保存担当学芸員研修を行う。 2)研修受講生を対象としたアンケート及び派遣元自治体を対象とした研修成果の活用状況に関するアンケート調査を引き続き行い、その結果を踏まえ、より充実した研修計画を策定する。
プロジェクト名称	博物館・美術館等保存担当学芸員研修	
保存科学研究センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○建石徹（保存科学研究センター長）、秋山純子（保存環境研究室長）、相馬静乃（研究補佐員）ほか	

【年度実績と成果】

○第2回博物館・美術館等保存担当学芸員研修（上級コース）を実施した（7月4～8日、受講者19人）。

3年度より保存環境に重きを置いた基礎的な内容を文化財活用センターが「基礎コース」として行い、東京文化財研究所では、「上級コース」としてこれまで博物館・美術館等保存担当学芸員研修を受講されてきた方々や同等の経験を有している方を対象に実施した。

研修内容は次のとおりである。文化財の科学調査（分析科学研究室）、文化財IPM概論・実践・実習（生物科学研究室）、屋外資料の劣化と保存（修復計画研究室）、保存環境に関する理論と実習（保存環境研究室）、修復材料の種類と特性（修復材料研究室）、多様な文化財の保存と修復（修復技術研究室）、空気質について、博物館の防災（文化財防災センター）、写真の収蔵管理・取り扱い等、民具の保存、紙の保存修復、大量文書の保存処理、近代文化遺産の保存、文化財修理の実務。

・研修終了後にカリキュラム各項目の理解度や有用度、また今後の要望等に関するアンケート調査を行ったところ、参加者から有益と評価された。

研修の様子

年度計画評価	B

【評定理由】

下記観点から評価を行った。①適時性においては、現在博物館・美術館等での課題に対して重点を置いたカリキュラムで実施した点。②独創性においては、東文研保存科学研究センター各研究員等の高い専門性により、他では実現できない研修内容となっており、評価も高い点。③発展性においては、3年度より外部の講師を増やし、多方面の文化財保存に対応できるカリキュラムにした点。④効率性においては、様々な保存修復分野の講義・実習を1週間で学べるよう、時間配分を考えて実施できた点。⑤継続性について、地域の保存担当学芸員に対し研修を行うことで、その地域における文化財保存科学の知識を高めることができた。よって、所期の計画通り、効率的に事業が進められたと判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	A	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】**	定量評価
(1) アンケートによる研修成果の活用実績80%以上	(実績値) (1) 研修成果の活用実績94% (参考値) (1) 実施件数　1件 (2) 受講者数　19人	B

中期計画評価	B

中期計画記載事項	文化財に関する高度な研究成果をもとに、地方公共団体等の文化財担当者に対し文化財に関する研修を行うとともに、保存担当学芸員に対し保存科学に関する研修を行う。なお、研修の評価については、アンケートによる研修成果の活用実績が80%以上となることを目指す。
評定理由	5か年計画の2年目にあたり、3年度の研修内容を踏まえ、外部講師を増やしたことにより、より多角的な講義・実習の研修を実施することができた。受講者向けのアンケートでは大変有益であったという評価を得た。中期計画では文化財活用センターは基礎的内容、当研究所は応用的内容の研修を独自に主催することになっており、保存環境だけではない修復や保管方法等、文化財保存の応用的な内容を実施することができた。以上の理由から、中期計画の5か年の2年目を有益に遂行できたといえる。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2512F

中期計画の項目	2-(5)-①	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-①-2)	①文化財に関する研修の実施 2)研修受講生を対象としたアンケート及び派遣元自治体を対象とした研修成果の活用状況に関するアンケート調査を引き続き行い、その結果を踏まえ、より充実した研修計画を策定する。
プロジェクト名称	文化財担当者研修	
企画調整部 研究支援推進部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○加藤真二（企画調整部長兼企画調整室長）、林洋平（総務係長）　ほか	

【年度実績と成果】

○新型コロナウイルス対策として規模を縮小した上で研修を実施した。

①建造物保存活用計画策定課程	7 月 4 日～7 月 8 日	15 名
②文化財デジタルアーカイブ課程	7 月 25 日～7 月 29 日	68 名（うちオンライン参加 50 名）
③遺跡調査技術課程	9 月 12 日～9 月 16 日	33 名
④層序学・堆積学・土壌学基礎課程	9 月 26 日～9 月 30 日	23 名
⑤保存科学（材質・構造調査）課程	10 月 11 日～10 月 14 日	7 名
⑥保存科学（遺構・石造文化財）課程	10 月 17 日～10 月 21 日	8 名
⑦中・近世瓦調査課程	11 月 9 日～11 月 11 日	19 名
⑧文化財写真課程	11 月 21 日～12 月 2 日	10 名
⑨報告書編集基礎課程	12 月 5 日～12 月 9 日	14 名
⑩報告書デジタル作成課程	12 月 12 日～12 月 16 日	10 名
⑪史跡等保存活用計画策定課程	5 年 1 月 17 日～ 1 月 23 日	12 名
⑫文化的景観調査計画課程	5 年 1 月 30 日～ 2 月 3 日	3 名
⑬文化財三次元計測入門課程	5 年 1 月 17 日～ 1 月 23 日	20 名
⑭（特別研修）文化財多言語化課程	5 年 3 月 10 日	70 名（オンラインのみ）

○遺跡の発掘調査や保存・整備等に関し、必要な知識と技術の研鑽を図るため、地方公共団体等の文化財担当職員を対象として、専門研修 13 課程・特別研修 1 課程の研修を実施し、延べ 312 人が受講した。

○10 月 31 日～11 月 2 日に開催予定であったデータベース活用課程は、出張しての実施を計画していたが、受入予定先の新型コロナウイルスの感染拡大のため中止となった。

○②文化財デジタルアーカイブ課程においては、対面と併せオンラインでも研修を実施し、50 名の受講者があった。

○研修受講者に対するアンケート調査では、100%から「有意義であった」「役に立った」との回答を得ており充実した研修が実施できた。

○派遣元を対象とした研修成果の活用状況に関するアンケート調査を 2 月～3 月に実施した。

年度計画評価	B

【評定理由】

①適時性においては、史跡等保存活用計画策定課程など、公共性、緊急性が高い研修を行った。②独創性においては、いずれの研修も当研究所以外では実施していない我が国では唯一無二のものである。かつ常に、最新の知見を盛り込み、研修内容の独自性、新規性、卓越性を備えて実施した。③発展性においては、研修後の業務における実践を重視し、基礎的な内容とともに、最新の知見・技術の紹介を講義に盛り込み、全国の文化財担当者の水準向上に寄与した。④効率性においては、基本的に 5 日間、研究所の既存設備、適任者で行うこととし、時間的投資、人的投資、設備的投資上の効率性を達成して実施した。また、文化財デジタルアーカイブ課程などにおいては、オンラインによる講義を積極的に実施した。⑤継続性においては、文化財担当者研修は、前身の埋蔵文化財担当者研修及び埋蔵文化財発掘技術者研修を含め、昭和 49 年より継続しており、のべ受講者数も 11,251 人となった。

定量的評価の観点においては、講義・実験室の密をさけるため、対面での講義の定員数を限定したが、かえってかなり深く掘り下げた講義内容につながった。研修成果の活用状況も 89%と目標を達成しており、B評価とする。以上のとおり、所期の目標を達成したため、年度計画評価をＢとした。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	A	A	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】**		定量評価
・研修成果の活用状況 80%	（実績値）・研修成果の活用状況	89%	B
	（参考値）・研修の実施件数	14 課程	
	・研修の受講者数	312 人	

中期計画評価	B

中期計画記載事項	文化財に関する高度な研究成果をもとに、地方公共団体等の文化財担当者等に対し文化財に関する研修を行うとともに、保存担当学芸員に対し保存科学に関する研修を行う。 なお、研修の評価については、アンケートによる研修成果の活用実績が 80%以上となることを目指す。
評定理由	定性評価については、いずれの観点もＢ以上で、特に、独創性、発展性ではＡと評価できた。また、定量評価については、研修成果の活用状況 80%の目標を達成した。13 課程・特別研修 1 課程を実施し、オンラインによる講義などを取り入れたこともあり、受講者数も対前年比＋173 名と大幅に増加した。このため、本事業は順調に推移しているとして、Ｂと評価した。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2521E-1

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-1)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 1)文化財活用センターを中心に地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・調査支援・情報提供等を行う。
プロジェクト名称	文化財の収集、保管に関する指導助言	
文化財情報資料部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○江村知子（部長）、二神葉子（文化財情報研究室長）、小野真由美（日本東洋美術史研究室長）、橘川英規（文化財アーカイブズ研究室長）、安永拓世（広領域研究室長）ほか	

【年度実績と成果】

1. 文化審議会世界文化遺産部会臨時委員として日本における世界遺産条約の履行のあり方に関する検討での助言
2. 文化庁の非常勤調査員として熊野速玉大社所蔵の国宝古神宝類に関する保存・現状調査・保存計画の協議と助言
3. 文化庁の非常勤調査員として重要文化財の草堂寺方丈障壁画の現状調査と今後の修理計画に関する協議・助言
4. 国立歴史民俗博物館運営会議委員・資料収集委員会委員として博物館運営に関する検討での助言、および同館資料収集委員会委員として作品収蔵に関する検討での助言
5. 国際交流基金・欧米ミュージアム基盤整備支援事業評価委員として欧米の美術館の活動に関する検討での助言
6. ふくやま美術館で開催する展覧会「名刀　江雪左文字」展に関わる展覧会の企画・展示に関する指導・助言
7. 茨木市文化財資料館郷土史教室での講演

8～38. 以下、文化財調査・保管等に関する協力・助言

愛知県美術館、足立区郷土博物館、逸翁美術館、和泉市久保惣記念美術館、大阪城天守閣、大村市歴史資料館、神奈川県立歴史博物館、鎌倉市教育委員会、岐阜市歴史博物館、京都府教育委員会、甲賀市教育委員会、角屋もてなしの文化美術館、東京大学総合図書館、徳川美術館、長崎歴史文化博物館、中之島香雪美術館、南蛮文化館、日本二十六聖人記念館、林原美術館、広島県立美術館、フェルケール博物館、文化財建造物保存技術協会、文化ファッション研究機構、北海道立北方民族博物館、大和文華館、理智院、和歌山県立博物館、寄暢園（台湾）、ポルトガル・ミレニアム BCP 財団、バウアー財団東洋美術館・リートベルク美術館（スイス）

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、国・地方公共団体等からの文化財に関するさまざまな要請に対して、適時及び適切な指導・助言を行うことができた。②独創性及び③発展性においては、各職員の有するスキル・専門性を存分に活用し、ほかではできない当研究所独自の指導・助言を実施できた。④効率性においては、担当を分けることによって、専門性の高い指導・助言を実施した。⑤継続性においては、国立歴史民俗博物館の運営に関する助言をはじめ継続的に実施しているケースにおいて、指導・助言を通して高い信頼関係を築くことができた。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** （実績値） ・指導・助言 38 件	定量評価 ―

中期計画評価	B

中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由	文化財情報資料部に要請された様々な文化財に関する依頼・要請に対して、適時、継続的に、職員の有するスキル・専門性に基づいて協力し、適切な指導・助言を行ったので、Bと判断した。5年度も引き続き、外部からの要請に対して協力・適切な指導・助言を行っていきたい。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2521E-2

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-1)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 1)文化財活用センターを中心に地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・調査支援・情報提供等を行う。
プロジェクト名称	無形文化遺産に関する助言	
無形文化遺産部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○早川泰弘（部長）、久保田裕道（民俗文化財研究室長）、前原恵美（無形文化財研究室長）、石村智（音声映像記録研究室長）ほか	

【年度実績と成果】

○無形文化遺産の保存・伝承・活用等に関する助言
・文部科学省への教科用図書検定調査審議会第６部会音楽小委員会に関する助言１件
・文化庁への文化審議会に関する助言３件
・文化庁への審査に関する助言３件
・文化庁への調査員としての楽器を中心とした文化財保存技術に関する助言１件
・伝統芸能用具・原材料に関する調査委員会における当該調査及び助言１件
・山形県への文化財保護審議会・文化財保存活用大綱策定作業部会・文化財調査に関する助言２件
・千葉県への博物館資料審査委員会に関する助言１件
・東京都への審査に関する助言２件
・東京都民俗芸能大会実行委員会への助言２件
・神奈川県への民俗芸能記録保存調査企画調整委員会に関する助言１件
・山梨県への文化財保護審議会に関する助言３件
・島根県への古代文化センターに関する助言１件
・沖縄県への武術的身体表現を伴う行事調査に関する助言１件
・静岡市への文化財保護審議会・民俗文化財調査に関する助言３件
・武蔵野市への文化財保護委員会に関する助言１件
・大豊町への碁石茶製造技術調査委員会に関する助言１件
・独立行政法人日本芸術文化振興会への審査、公演事業及び普及事業に関する助言１件
・国立歴史民俗博物館への共同研究への助言２件
・公益社団法人全日本郷土芸能協会への運営に関する助言２件
・公益財団法人ポーラ伝統文化振興財団への伝統文化ポーラ賞に関する助言１件
・一般財団法人日本青年館への全国民俗芸能大会企画に関する助言１件
・文化女子大学文化ファッション研究機構への助言１件

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、特に文化庁が行う「デジタル技術を活用した伝統行事の公開支援」等コロナ禍からの復興に関する支援事業に積極的に協力するとともに、無形の登録文化財など新たな制度に関する地方自治体への指導助言など、新たな無形文化遺産保護の施策に反映された点で高く評価できる。②独創性においては、従来の調査研究に基づく視点はもちろん、食文化などの新たなジャンルや、映像制作など新たな活用の方法論などについても指導・助言をしている点が高く評価できる。③発展性においては、コロナ禍からの再開や文化財の活用といった新たな見識が求められる指導・助言が継続的に実施できた。④効率性においては、少人数ながら専門性において各分野に適した研究員が対応できている。⑤継続性においては、無形文化遺産に関わる省庁、地方行政、関連法人等からの依頼に対して、継続的に指導・助言を行うことができている。以上の点から、定性評価として十分な評価ができると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	B	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	（実績値）助言 35 件	―

中期計画評価	B
中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由	対面の会議も復活の傾向にあり、例年通り、多様な助言依頼に対応できている。特に新たに登録無形文化財の登録の対象となった食文化などのジャンルについて指導・助言できたことは評価できる。また、助言による先方への協力のみならず、無形文化遺産をめぐる現状と課題のための情報収集にも貢献できている。以上より、中期計画を順当に遂行できていると判断し、B評定とした。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2521E-3

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-1)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 1)文化財活用センターを中心に地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・調査支援・情報提供等を行う。
プロジェクト名称	文化財の虫菌害に関する調査・助言	
保存科学研究センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○佐藤嘉則（生物科学研究室長）、島田潤（アソシエイトフェロー）、建石徹（センター長）	

【年度実績と成果】

○これまでに蓄積された文化財の生物被害対策に関する調査・研究の成果を活かし、国や地方公共団体等からの要請に応じて専門的な見地から技術的な協力・助言を行うことにより、文化財の保存に関する質的向上に貢献した。

○主な虫菌害問題の相談元は、例年の通り、国や地方公共団体の博物館、美術館、図書館、教育委員会や社寺などの文化財保存担当あるいは文化財修復工房等であった。

○対応件数は合計で 47 件あり、電話、電子メール、WEB 会議などで対応し、必要に応じて現地での調査を行い、問題解決に努めた。

○相談内容は、虫菌害の同定相談から殺虫・殺菌処理に使用する薬剤に関することなどの一般的な相談案件ほか、屋外の木造文化財建造物ではキホリハナバチの営巣に伴う被害事例といった長期の調査によって原因が判明したような被害事例もあった。

木造文化財建造物のハチによる加害事例

○遺構や古墳などでの植物根の被害、カビや藻類の発生など生物種を問わず多岐にわたる相談があった。また鳥獣害、特に木造建造物での被害相談件数があり、一年を通して対応が必要な案件もあった。

○文化財の虫菌害を未然に防ぐための啓発・普及活動の一環で、生物被害に関する研修講師を 8 件担当した。その際に生物科学研究室で作成した啓発普及ポスターを配布し、広報普及活動を行った。

年度計画評価	A

【評定理由】

下記の各観点から評価行った。①適時性においては、被害の拡大を防ぐことが最優先となる生物被害対策において、全国から寄せられた相談案件に対して迅速かつ適切に対応することができた点を高く評価した。②独創性については、動産・不動産いずれの文化財も対象とし、虫菌害をはじめ植物や鳥獣害など幅広い生物被害に対応した。特に虫害・菌害はそれぞれの専門家を有し、総合的に対応する点で他機関にはない独自性がある。③現状の課題や新たな文化財害虫の状況を把握することができることで基礎研究課題を発掘できる点に発展性がある。④効率性については、限られたプロジェクトスタッフでそれぞれの専門性を生かして、短期間で現地調査や分析試験を分担し、相談を受けた全案件に対応することができた点が高く評価できる。⑤相談案件は毎年度寄せられており、相談窓口としての認識が広く普及していること、そしてそれらに継続して対応することができていることが評価できる。よって、当初の計画を上回る事業実績が達成されていると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	B	A	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** ・協力・助言実施件数 47 件 ・研修等講師対応件数 8 件	定量評価 —

中期計画評価	B

中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由	中期計画に沿い、国や地方公共団体等からの文化財に関する生物被害の要請に対して協力・助言を行い、文化財の保存に関する質的向上に貢献することができた。生物被害は緊急性を要することが多く迅速な対応が求められるが、通常業務との調整を行い優先して取り組むことができた。一方で、年々相談案件数は多くなっており、限られた人員で対応する事が困難となってきている。そのため、生物被害に関する相談案件の絶対数を減らすことが重要で、啓発普及活動を継続して取り組んでいく必要がある。以上、中期計画の 2 年目として順調に業務が遂行されたといえる。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2521E-4

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-1)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 1)文化財活用センターを中心に地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・調査支援・情報提供等を行う。
プロジェクト名称	文化財の修復及び整備に関する調査・助言	
保存科学研究センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○朽津信明（修復計画研究室長）、建石徹（センター長）、早川典子（修復材料研究室長）、倉島玲央（研究員）、芳賀文絵（研究員）、千葉毅（研究員）、中山俊介（特任研究員）	

【年度実績と成果】

○4 年度に実施した各地の国宝、史跡や重要文化財等の保存や修復に関する指導助言は以下のとおりである。

国宝高松塚古墳壁画、国宝臼杵磨崖仏、国宝平等院鳳凰堂、国宝東照宮東西廻廊、国宝キトラ古墳壁画、国宝姫路城、国宝東大寺金堂（大仏殿）、特別史跡王塚古墳、史跡端島炭鉱跡、史跡佐渡金銀山遺跡、史跡韮山反射炉、史跡高島炭坑跡、史跡原爆ドーム、史跡原城跡、史跡日野江城跡、史跡下藤キリシタン墓地、史跡屋形古墳群、史跡田主丸古墳群、史跡吉見百穴、史跡築瀬二子塚古墳、史跡旧新橋停車場跡及び高輪築堤跡、史跡出島和蘭商館跡、史跡薬師堂石仏、史跡竹田城跡、史跡清戸廼横穴、重要文化財通潤橋、重要文化財氷川丸、重要文化財多賀城碑、重要文化財頼賢碑、重要文化財祇園橋、重要文化財厳島神社大鳥居、重要文化財厳島神社多宝塔板絵、重要文化財二条城杉戸絵、重要文化財琉球芸術調査写真（鎌倉芳太郎撮影）、重要文化財法隆寺金堂壁画、重要文化財金剛峰寺奥院経蔵、重要文化財樵夫蒔絵硯箱、重要文化財厳島神社五重塔、重要文化財赤糸威鎧、重要文化財能装束（葭水禽文様）、重要文化財羅漢寺石仏、重要文化財祇園橋、重要文化財旧帝国京都博物館本館、重要文化財東大谷日女神社石燈籠、重要文化財日本丸、重要文化財旧小野田セメント製造株式会社竪窯、特別天然記念物秋芳洞、天然記念物風連鍾乳洞、天然記念物龍河洞、名勝円月島（高嶋）及び千畳敷、福山市鞆町重要伝統的建造物群保存地区、熊本県内被災古墳

図．厳島神社多宝塔板絵の調査

○地方自治体指定その他の文化財の保存と修復に関する指導助言は以下のとおりである。

首里城、川崎市民ミュージアム、京都府指定木造彩色宝珠台（海住山寺）、鎌倉市指定文化財紙本著色束帯天神像、東京都第 5 福竜丸、航空協会航空関連紙資料、栃木市星野遺跡、久留米市益生田古墳群、奥尻町鍋釣岩、浅口市三ツ山、新見市井倉洞、登録有形文化財機那サフラン酒製造本舗土蔵

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、福島県沖地震など、4 年度に被災した文化財にも直後に対処してきており、社会の要請に的確かつ速やかに応えることができたことを評価した。②独創性においては、3 年度の天然記念物に加え、名勝や伝統的建造物群などのさらに多くのカテゴリの文化財に対して適切に助言を行うことができた点を高く評価した。③発展性においては、現在修復事業が行われている現場への協力を行っており、今後の発展性が期待される。④効率性においては、オンラインで指導助言や会議出席を増やすことで効率化が図られた。⑤継続性においては、高松塚古墳やキトラ古墳等、長年継続的に取り組んでいる事業に 4 年度も継続して寄与してきた。よって、総合的に順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	B	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】 （実績値）　指導・助言件数　64 件	定量評価
		—

中期計画評価	B
中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由	3 年度までの感染防止策としての観点ばかりでなく、効率化という観点からもオンライン対応を積極的に活用することで、さらに多くの対象に対して協力を行うことができた。また、協力した文化財のカテゴリでも、さらに様々な範疇の文化財に関わる機会が増えてきている。以上の理由から、中期計画に従って順調に進行していると言える。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2521E-5

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-1)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 1)文化財活用センターを中心に地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・調査支援・情報提供等を行う。
プロジェクト名称	文化財の材質・構造に関する調査・助言	
保存科学研究センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○犬塚将英（分析科学研究室長）、紀芝蓮（アソシエートフェロー）、早川泰弘（副所長）	

【年度実績と成果】

4年度は、蛍光X線分析・X線回折分析・ハイパースペクトルカメラによる材質調査、及びX線透過撮影による構造調査などの調査・助言を実施した。調査を行った作品、所蔵先、調査月は以下の通りである。

○材質調査

・絵画（大阪中之島美術館、4月）、・日本画屏風5点（絵金蔵、5-6月）、・建造物彩色（高徳院、6-7月）、・金工品（徳島県立近代美術館、7月）、・漫画原稿（手塚プロダクション、7月）、・歴史資料（個人蔵（茨城県立歴史館寄託品）、7月）、・国絵図（島根大学、7月）、・被災漆工品3点（沖縄美ら島財団、8月）、・油彩画2点（個人蔵、9月）、・漆工品（MOA美術館、10月）、・日本画屏風（法然院、10月）、・密教法具（小網寺、10月）、・漆工品（永青文庫、10月）、・木彫像光背（上徳寺、10月）、・経典（平等院、10月）、・仏画（平等院、10月）、・日本画4点（千葉市美術館、11月）、・金銅仏（個人蔵、12月）、・板戸絵5点（石垣島宮良殿内、12月）、・漆工品（MOA美術館、1月）、・絵画（香川県立ミュージアム、3月）

建造物彩色の材質調査

○構造調査

・絵画（個人蔵、6月）、・歴史資料（個人蔵（茨城県立歴史館寄託品）、7月）

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、所蔵先からの要請に応じて材質調査・構造調査を実施し、調査後は速やかに調査報告書を作成するとともに、材質・構造に関する助言を行った。②独創性においては、顕微鏡観察、蛍光X線分析、X線回折分析、可視分光分析、X線透過撮影などの複数の手法を適用し、互いに補完しながら調査で得られた結果の考察・検討を行った。③発展性においては、ハイパースペクトルカメラを用いた調査の実績を蓄積し、新しい分析結果などに関する情報発信を従来よりも積極的に行った点を高く評価した。④効率性においては、設置方法及び機材の輸送方法の改良を重ね、材質・構造調査の効率が向上した。⑤継続性においては、20年以上にわたる調査実績を有し、他所を凌駕する精度の調査結果を継続的に報告している点を高く評価した。よって、所期の計画通り、事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	A	B	A

【目標値】	【実績値・参考値】 （実績値）調査・助言件数　36件	定量評価 —

中期計画評価	B

中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由	中期計画の2年目である4年度は、3年度に引き続き、これまでに当研究所が実践してきた科学的調査技術を駆使して、文化財の材質・構造に関する調査・助言を継続的に行った。4年度は、ハイパースペクトルカメラを用いた反射分光分析及びその2次元マッピングによる調査の件数がさらに増加し、蛍光X線分析などの他の分析手法から結果を補完する新たな切り口からの分析データの蓄積が進んでいる。以上の理由から、中期計画の2年目として、順調に遂行されたといえる。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2521E-6

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-1)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 1)文化財活用センターを中心に地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・調査支援・情報提供等を行う。
プロジェクト名称	美術館・博物館等の環境調査と援助・助言	
保存科学研究センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】**○秋山純子（保存環境研究室長）、建石徹（保存科学研究センター長）、水谷悦子（文化財防災センター、（併）東文研）	

【年度実績と成果】

○国指定品の所有者以外による公開、公開承認施設申請に関わる資料保存環境調査の相談窓口は文化財活用センターに一本化されたが、引き続き文化財活用センターと協力しながら、当研究所では公立美術館・博物館、社寺等から保存環境に関する相談を受け、相談内容に応じて援助・助言を行った。特に 4 年度は美術館で消費電力エネルギーの測定なども実施し、実際のエネルギー消費に即した空調運用に対して助言を行った。

○新型コロナウイルスに対する博物館等でのウイルス除去・消毒作業に対し、消毒用薬剤等による文化財への影響と消毒薬剤の選択について、文化庁・文化財活用センター・当研究所保存科学研究センターの三者で協力し、その対応に当った。

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、時世の省エネに伴う相談に対し、空調等に関する援助・助言を行うことができた点を評価した。②独創性においては、展示ケースにおける空気質の発生源を調査し、環境改善のための情報提供ができた。③発展性においては、実際の美術館で消費電力エネルギーの測定を実施し、これからの省エネを念頭に置いた空調運用に関して助言することができた。④効率性においては、多岐にわたる相談に対して、文化財活用センター・東京文化財研究所保存科学研究センターとで協力して対応できた。⑤継続性においては、保存環境に関する相談に対し、それぞれの館の状況に沿った助言を継続して行った。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** （実績値） ・保存環境に関する相談対応　41 件 ・新型コロナウイルスに関する相談対応　0 件	定量評価 —

中期計画評価	B

中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由	様々な博物館・美術館等からの保存環境に関する問い合わせに対し、館の状況に沿った援助・助言することができた。5 年度においても、保存環境研究の一環として、様々な環境事例への対応・調査を進め、調査研究成果の発信を積極的に行う予定である。以上の理由から、中期計画の 2 年目を順調に遂行できたといえる。

【書式C】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2521F-1

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-1)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 1)文化財活用センターを中心に地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・調査支援・情報提供等を行う。
プロジェクト名称	地方公共団体等が行う平城地区の発掘調査等への援助・助言	
都城発掘調査部 （平城地区）	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○箱崎和久（都城発掘調査部長）ほか、同部平城地区部員 16 名	

【年度実績と成果】

・地方公共団体等の要請に対して特別史跡平城宮跡等、あるいは建設工事に伴う平城京跡や寺院旧境内の発掘調査及び工事に伴う遺跡の保護のための立会調査を実施した。

受託研究による発掘調査の概要は次のとおりである。

次 数	遺跡名	調査面積	調査期間	主な検出遺構・出土遺物等
第 647 次	平城京左京一条二坊十坪	70 ㎡	4 月 4 日～4 月 28 日	東西溝
第 649 次	興福寺旧境内	335 ㎡	7 月 5 日～11 月 18 日	東金堂院北面回廊基壇、雨落溝、土坑
第 650 次	平城京左京三条一坊二坪	686.5 ㎡	9 月 26 日～5 年 1 月 30 日	掘立柱建物、塀、溝等
第 651 次	法華寺旧境内	10.4 ㎡	10 月 11 日～10 月 19 日	遺構なし、瓦と土器が出土
第 653 次	法華寺旧境内	262.6 ㎡	11 月 2 日～12 月 16 日	南北溝 3 条、掘立柱建物 2 棟、柱穴列 3 条
第 654 次	西大寺旧境内	146 ㎡	5 年 1 月 11 日～2 月 3 日	井戸 2 基、土坑 3 基、柱穴 1 基等
第 655 次	西大寺旧境内	44 ㎡	5 年 3 月 1 日～4 月 3 日	基壇土、壺地業 6 基、礎石抜取穴 6 基等

・奈良県・奈良市等の要請に対して実施した工事等への立会調査
　計 15 件、延べ 30 日
・国土交通省平城宮歴史公園事務所に対して実施した工事等への立会調査
　計 4 件、延べ 23 日、その他打ち合わせ等対応：10 件
・文化庁に対して実施した工事等への立会調査
　計 5 件、延べ 5 日、その他打ち合わせ等対応：7 件

年度計画評価	B

【評定理由】①適時性：地方公共団体等からの要請に対して迅速に対応することで、文化財保護行政及び平城宮京の研究に重要な基礎資料を蓄積することができた。②独創性：文化財行政や学術研究において最大限の成果が得られるよう、複数の要請について戦略的、計画的に対応した。③発展性：遺構面の標高や遺構の分布状況の把握を通じて、今後の遺跡保存対策及び平城宮京の研究に資する情報を獲得することができた。④効率性：発掘調査・立会調査などの作業計画の調整などを通じて、施工者や国民への負担を最低限に留めて調査を効率的に進めることができた。⑤継続性：平城宮京内に位置する遺跡の分布状況や各遺跡の性格についての情報を継続的に蓄積することができた。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値）発掘調査（受託）：6 件　立会調査：24 件（延べ日数 58 日）	定量評価 －

中期計画評価	B

中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由	地方公共団体等からの要請に応じて適宜、発掘調査・立会等に対応して、文化財保護に資する研究を行い、平城京域における学術的情報の蓄積に貢献した。5 年度以降についても、地方公共団体からの要請に対しては都城発掘調査部の他の事業との連携を重視しながら、学術的研究に資する発掘調査・立会に戦略的に対応する計画を立て、平城宮京における遺跡の情報を確実に蓄積していきたいと考えている。以上、計画通り順調に進捗していると判断し、B評価とした。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2521F-2

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-1)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 1)文化財活用センターを中心に地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・調査支援・情報提供等を行う。
プロジェクト名称	地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への指導・助言	
都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○清野孝之（副部長）、山本崇、廣瀬覚、森川実、林正憲（以上、室長）、若杉智宏、山藤正敏、鈴木智大（以上、主任研究員）、福嶋啓人・岩永玲・谷澤亜里（以上、研究員）、栗山雅夫（企画調整部写真室主任）	

【年度実績と成果】

飛鳥・藤原地区で地方公共団体等が行う発掘調査等への協力は 13 件で、土木工事等に伴う立会調査 11 件と、発掘調査 2 件（第 211-1 次・第 211-6 次）である。立会調査のうち 3 件（第 211-8・9・10 次）は、国営飛鳥歴史公園の公園整備に伴うものである。4 年度はこれらを効率よく実施し、藤原宮及び飛鳥地域の開発等に対して適切に対応した。

次　数	調　査　地	調査原因	発掘面積	調査期間	概　要
第 211-1 次	橿原市高殿町	個人住宅	16.0 ㎡	4 月 18 日～4 月 20 日	顕著な遺構を認めず（受託事業）
第 211-2 次	橿原市高殿町	通路造成	18.0 ㎡	8 月 17 日～8 月 19 日	顕著な遺構を認めず
第 211-3 次	橿原市醍醐町	建物除却	24.0 ㎡	9 月 1 日～10 月 6 日	顕著な遺構を認めず
第 211-4 次	橿原市醍醐町	柵設置	－	9 月 5 日～9 月 30 日	顕著な遺構を認めず
第 211-5 次	橿原市醍醐町	配水改善	6.0 ㎡	9 月 20 日～9 月 27 日	顕著な遺構を認めず
第 211-6 次	明日香村奥山	個人住宅	26.0 ㎡	10 月 3 日～10 月 12 日	土坑・柱穴・東西溝を検出
第 211-7 次	橿原市縄手町	塀撤去	－	10 月 28 日	顕著な遺構を認めず
第 211-8 次	明日香村豊浦	公園整備	70.0 ㎡	12 月 5 日～5 年 2 月 8 日	顕著な遺構を認めず
第 211-9 次	明日香村豊浦	公園整備	210.0 ㎡	12 月 22 日～5 年 3 月 9 日	顕著な遺構を認めず
第 211-10 次	明日香村平田	法面工事	15.0 ㎡	5 年 2 月 13 日～3 月 1 日	顕著な遺構を認めず
第 211-11 次	橿原市高殿町	水路工事	130.0 ㎡	5 年 2 月 27 日～3 月 6 日	顕著な遺構を認めず
第 211-12 次	橿原市高殿町	建物除却	21.0 ㎡	5 年 3 月 6 日～3 月 13 日	顕著な遺構を認めず
第 211-13 次	橿原市高殿町	柵撤去	－	5 年 3 月 30 日	顕著な遺構を認めず

年度計画評価	B

【評定理由】

①適時性は地方公共団体からの要請に基づき、必要とされる立会調査・発掘調査を適時適切に実施したことからＢとした。②独創性は当研究所による調査研究成果の蓄積を活かし、地方公共団体が行う発掘調査等に協力したためＢとした。③発展性は藤原宮及び奥山久米寺において小規模な発掘調査を実施し、その成果を蓄積していることからＢとした。④効率性はそれぞれの立会調査・発掘調査を短期間で完了したことからＢとした。⑤継続性は飛鳥・藤原地域における発掘調査等の援助事業を 50 年以上にわたり続けていることからＢとした。以上から、事業の進捗状況は所期の計画通りであると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** （実績値） ・地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への援助・助言　13 件	定量評価 ―

中期計画評価	B

中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由	我が国の古代国家成立期の主要舞台である飛鳥・藤原地域の調査研究は、開発事業との調整を適切に図りながら、関係自治体と緊密に連携して今後も継続的に進めていく予定である。中期計画の 2 年目にあたる 4 年度は、地方公共団体からの要請に応えて、藤原宮及び奥山久米寺における発掘調査 2 件に加え、立会調査を 11 件実施した。以上の評定理由により、Ｂと評価する。

【書式C】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2521F-3

中期計画の項目	2-(5)-②-1)	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-1)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 1)文化財活用センターを中心に地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・調査支援・情報提供等を行う。
プロジェクト名称	地方公共団体等が行う文化財及びその保存・活用に関する技術的助言	
奈良文化財研究所	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○本中　眞（所長）	

【年度実績と成果】

地方公共団体等が行う文化財の調査・保存・修復・整備・活用等の事業について、専門委員会委員への就任等を通して、建造物修理、史跡整備、発掘調査等に関する専門的・技術的な助言を行った。

現在就任している専門委員会委員（一部抜粋）
- 川崎市橘樹官衙遺跡群調査整備委員会委員
- 静岡市史跡片山廃寺跡整備委員会委員
- 高山市文化財審議会委員
- 明日香村文化財保護委員会委員
- 桜井市山田寺跡保存活用計画検討委員会委
- 安芸市瓜尻遺跡調査指導委員
- 因幡国古代山陰道発掘委員会委員
- 藍住町勝瑞城館跡調査整備検討委員会委員
- 豊後大野市内遺跡調査指導委員会

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。
①適時性については、地方公共団体等の要請に対し、適時・適切に対応した。
②独創性については、当研究所職員が持つ独自の専門知識を生かし、各委員会等において助言を行った。
③発展性については、多様な要請に対応し今後の地方公共団体等における事業発展に貢献した。
④継続性については、継続的に検討が必要な委員会等に対して、再任・任期の延長によって継続的に協力している。
また、新型コロナウイルスの影響により、現地における協力・助言に制限が生じているが、出張だけでなくリモートでの参加により、要請に応じた的確な対応をとることができた。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④継続性	
定性評価	B	B	B	B	

【目標値】	**【実績値・参考値】**	定量評価
	（実績値） ・地方公共団体等が行う文化財及びその保存・活用に関する技術的助言　187 件 （委員会出席、審議会出席、その他（現地指導・現地調査等））	

中期計画評価	B

中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由	中期計画2年度目として、全国で行われている遺跡の発掘調査、保存・修復・整備事業や、建造物の調査、修復事業について、国・地方公共団体等からの専門的な協力・助言の要請に応じ、適時・適切に対応している。 新型コロナウイルスの影響が引き続き残るが、リモート参加を併用しつつ、国・地方公共団体等との連携・協力体制を維持することができたと判断し、B評価とした。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2522E

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-2)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 2)蓄積されている調査研究の成果を活かし、他機関等との共同研究及び受託研究を行う。
プロジェクト名称	他機関等との共同研究及び受託研究	
東京文化財研究所	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○齊藤孝正（所長）	

【年度実績と成果】

○国・地方公共団体等が行う文化財の調査・整備・修復・保存・活用等について、受託研究等を行った。
・国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務
・特別史跡キトラ古墳保存対策等調査業務
・文化遺産国際協力コンソーシアム事業
・美術工芸品修理のための用具・原材料と生産技術の保護・育成等促進事業（2 件）

このほか、一般財団法人日本航空協会ほか 2 機関と共同研究を行った（計 2 件）。

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、国・地方公共団体等の要請に応じて、喫緊の研究課題を的確に遂行した。②独創性においては、我が国の文化財研究の拠点として、これまで当研究所が蓄積してきた調査・研究の実績を活かし、他機関等との共同研究及び受託研究に取り組んだ。③効率性においては、多様な研究課題の実施に際し、所内適任者による効率的な調査を実施することができた。④継続性においては、これまで当研究所が受託してきた国宝高松塚古墳壁画、及び国宝キトラ古墳壁画等の研究課題を発展して実施した。

観点	①適時性	②独創性	③効率性	④継続性	
定性評価	B	B	B	B	

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値）受託研究　5 件 共同研究　2 件	定量評価 —

中期計画評価	B

中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由及び今後の見通し	中期計画 2 年目として、国・地方公共団体等からの共同研究及び受託研究の依頼に対し、中期計画に基づき、文化財に関する当研究所の知見や調査成果を活かし、的確に対応した。多くの機関との共同研究及び受託研究を実施したことにより、文化財に関する調査・研究の中核として、我が国全体の文化財の調査・研究の質的向上に寄与できているものと考える。 5 年度以降も、我が国全体の文化財の調査・研究の質的向上に寄与すべく、蓄積されている調査研究の成果を活かし、他機関との共同研究及び受託研究に取り組んでいく。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2522F

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-2)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 2)蓄積されている調査研究の成果を活かし、他機関等との共同研究及び受託研究を行う。
プロジェクト名称	他機関等との共同研究及び受託研究	
奈良文化財研究所	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○本中眞（所長）	

【年度実績と成果】

地方公共団体等が行う文化財の調査・保存・修復・整備・活用等について、これまで蓄積した調査・研究の成果を活かし、以下の受託研究等を行った。

・佐渡市小木町伝統的建造物群保存対策調査業務（新潟県佐渡市）
・高野山地区建造物調査業務（和歌山県高野町）
・国史跡ガランドヤ古墳における運用手法の検討及び墳丘復元法検討業務（大分県日田市）
・伊川津貝塚出土資料分析業務（愛知県田原市）
・松江市美保関伝統的建造物群保存対策調査業務委託（島根県松江市）
・明日香村西橘遺跡出土木製品の保存処理等を経ての総合的研究（奈良県明日香村）
・史跡闘鶏山古墳の調査保存に資する基礎的調査（大阪府高槻市）
・和束の茶業景観における報告書作成業務（京都府和束町）　ほか

年度計画評価	B

【評定理由】

下記観点から評価を行った。
①適時性については、地方公共団体等の要請に応じて適時・的確に調査研究を実施した。
②独創性については、当研究所が保有する卓越した技術力、そして蓄積された調査研究の成果に基づく唯一無二の専門性を生かして、業務を遂行した。
③発展性については、実施業務は多種多様であり、調査研究によって得られた成果は今後の地方公共団体等の保存・活用に寄与することが期待される。
④効率性については、受託調査研究にかける時間と人力等を効率よく配置し遂行した。
上記観点から、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	
定性評価	B	B	B	B	

【目標値】	**【実績値・参考値】** （実績値） ・受託調査研究受入・実施件数　31 件　230,441,895 円 （3 年度:39 件　271,114 千円）	定量評価

中期計画評価	B
中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由	中期計画の 2 年度目として、随時寄せられる国・地方公共団体等からの要請に対して、受託研究を通じて協力・助言を行った。新型コロナウイルスの影響により実地での調査・研究には引き続き制約が残る場面もあったが、要請に対しては十分に応えることができていると考える。 よって、十分に計画を達成していると判断し、B評価とした。

【書式C】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2523F

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-3)	②文化財に関する協力・助言等 3)地震・水害等により被災した地域の復旧・復興事業に伴い、地方公共団体等が行う文化財保護事業への支援・協力を行う。
プロジェクト名称	地震・水害等により被災した文化財の復旧に関する地方公共団体等が行う文化財保護事業への支援・協力	
埋蔵文化財センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○金田明大（埋蔵文化財センター長）、脇谷草一郎（保存修復科学研究室長）、柳田明進（保存修復科学研究室研究員）	

【年度実績と成果】

- 平成 28 年熊本地震によって被災した熊本県下の装飾古墳の復旧支援のため、各市町の教育委員会によって組織された検討委員会に対して委員として職員を派遣した。
- 地震によって墳丘封土に物理的な破壊が生じた熊本市の釜尾古墳、玉名市の永安寺東古墳、また被災古墳ではないものの、和歌山市の天王塚古墳を対象として封土を透水性あるいは透湿性を有するシートで覆い、墳丘土壌の水分量をモニタリングすることで、墳丘封土を中長期にわたって養生する適切な材料を検討した。
- 永安寺東古墳の石室内部温熱環境の実測調査、千金甲古墳の外界気象条件及び墳丘土壌の含水状態の実測調査を継続して行うとともに、千金甲古墳の装飾部を対象に SfM による簡易三次元モデルを作成し、装飾の保存環境が装飾部の劣化発生に及ぼす影響について継続して検討した。

透水性シートで覆われた釜尾古墳墳丘頂部

年度計画評価	B

【評定理由】

①適時性については熊本地震により被災した装飾古墳の復旧支援を継続して実施しているとともに、いくつかの古墳では具体的な復旧方法の策定に至っており適時性を持った対応を実施している。②独創性については、物理的な劣化が生じた墳丘封土の養生に透水性状を有するシートを適用し、墳丘封土が土の塑性を維持する含水状態を維持し得るか定量的な検討を進めている。シートの透水性状が墳丘の保存状態に及ぼす影響についてはこれまで検討例がない。③発展性については、今後地震により同様の被害が発生した際に多くの古墳に適用し得る手法の検討と言える。④効率性としては、新たな手法の活用や、継続的なモニタリングを遠隔地より集約できる試みを通じて、より多数のデータを低コストで利用可能になっている。⑤継続性としては、各調査の長期・短期にわたる目標と計画を策定し、地方公共団体の担当者を含めて事業を遂行している。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	B	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】 （実績値） ・地震等で被災した古墳の調査：3 件	定量評価 —

中期計画評価	B

中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由	自然災害における文化財の保全について、既に発生した被災遺跡の復旧とそれに伴う情報や経験の蓄積は重要なものと考えられる。中期計画の 2 年目である 4 年度は、新たに熊本県玉名市及び和歌山県和歌山市の 2 基の古墳を調査対象に加え、養生に用いるシートの透水性状について類例を増やすとともに、継続的かつ適切にこれらの情報収集や対応を進めることができていることから、順調に進捗しているものとして上記の評価とする。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2531F-1

中期計画の項目	2-(5)-③-1)	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-③-1)	③平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 1)文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 ・文化庁が行う平城宮跡、藤原宮跡の整備、管理事業への協力
プロジェクト名称	文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡の整備・管理等への協力	
研究支援推進部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○不藤忠義（研究支援課課長）、永野陽子（研究支援課課長補佐）、岡本保彦（研究支援課係員）、新開良子（研究支援課係員）	

【年度実績と成果】

（１）特別史跡平城宮跡内復原整備事業についての助言及び情報提供を行った。
・平城宮跡歴史公園第一次大極殿院東楼復原整備事業への関係資料の提供及び助言

（２）平城宮跡及び藤原宮跡内における不具合対応策提案及び維持管理業務の実施を行った。
・平城宮跡及び藤原宮跡の草刈り管理業務
・平城宮跡及び藤原宮跡の維持管理について資料提供及び助言
・復原施設、遺構表示、便益施設等故障対応提案
・近隣住民からの苦情等への確認及び文化庁への助言
・平城宮跡施設の消防通報訓練への参加

年度計画評価	B

【評定理由】

①適時性においては、文化庁や国土交通省からの要望に対し、これまでの方針や過去の経緯等の情報提供及び必要な助言を適時的確に行い、3 年度同様に継続的な実績を上げた。また、故障等の緊急事案に迅速に対応した。②独創性においては平城宮跡維持管理について過去の調査実績を基づいて助言及び提案を行った。③発展性においては、文化庁、国土交通省等の委員会等への積極的な協力による情報提供を行い、適確な審議が可能となるための助言を行った。④効率性においては、過去の維持管理及び修繕等事業毎に整理された情報を迅速に提供した。⑤継続性においては、整備内容、固執修繕事例を継続的に積み重ねることによって、今後においても必要に応じて情報を提供できるよう修繕履歴の整理を行っている。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】 （参考値） ・各種会議への参加件数（公園整備関係 第一次大極殿院東楼復元工事定例会議 19 件） ・資料提供、協議等依頼への対応事項件数（文化庁 4 件、国土交通省 12 件） ・立会調査等対応件数（日数）等（文化庁 0 件、国土交通省 3 件）	定量評価 ―

中期計画評価	B
中期計画記載事項	文化庁と国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の整備及び公開・活用事業に協力する。また、ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。
評定理由	平城宮跡及び藤原宮跡内における維持管理及び修繕等の相談について過去の工事資料・調査実績に基づいて的確に助言等を行い対応している。また、文化庁施設及び国土交通省施設（復原施設・便益施設等）の計画的整備に対しても、必要な情報提供及び助言等の協力を行っており、第一次大極殿東楼復元整備について、定期的に打ち合わせを行った。中期計画として、予定通りに成果を上げることができている。 5 年度以降も、国土交通省平城宮跡歴史公園整備計画等への必要な情報提供及び助言等を行い、公開・活用事業に継続的な協力を行っていく。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2531F 2

中期計画の項目	2-(5)-③	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-③-1)	③平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 1)文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力・国土交通省が行う平城宮跡第一次大極殿院を中心とする復原、整備・活用等への協力
プロジェクト名称	国土交通省が行う平城宮跡第一次大極殿院を中心とする復原、整備・活用等への協力	
都城発掘調査部（平城地区）	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○箱崎和久（都城発掘調査部長兼遺構研究室長）、加藤真二（企画調整部長）、岩戸晶子（同部展示企画室長）、今井晃樹（都城発掘調査部平城地区考古第三研究室長）、西田紀子（同部平城地区主任研究員）、鈴木智大（同部飛鳥・藤原地区主任研究員）、山崎有生・目黒新悟（以上同部平城地区遺構研究室研究員）、福嶋啓人（同部飛鳥藤原地区遺構研究室研究員）、大林潤（文化遺産部建造物研究室長）、中村一郎(企画調整部写真室専門職員)、飯田ゆりあ（同部写真室主任)、鎌倉綾(同技術補佐員)	

【年度実績と成果】

・東楼復原工事に伴う定例会議に参加し、適時に専門的視点からの指導・助言を行った。また、会議に先立つ勉強会で講師を務めた。箱崎和久「平城宮跡の整備と復原」(7 月 7 日)、箱崎和久「東楼と西楼の発掘調査成果」(8 月 4 日)、浦蓉子「平城宮跡で発掘された木材の見学」(9 月 15 日)。箱崎和久「東西楼の復原」(10 月 6 日)
・東楼の瓦製作や納まりについて専門的観点からの助言を行った。出土瓦見学会を 2 回開催した（9 月 1 日、12 月 9 日)。
・定期的に工事進捗状況等を写真撮影（計 4 回)、写真データを整理・保存した。
・第一次大極殿院東楼のボランティア研修資料の作成に協力した。
・第一次大極殿院復原研究報告書の本文編・図版編の作成を進めた。
・大極殿院の工事に伴う立会調査（計 2 回)

東楼の遺構についての勉強会（8 月 4 日）

年度計画評価	B

【評定理由】

①適時性については、従来どおり国土交通省国営飛鳥歴史公園事務所からの要請（勉強会の講師、工事に伴う立会調査、復原工事に対する助言・協力等）に対して適宜対応した。②発展性については、第一次大極殿院東楼の復原建物工事に対して、学術的根拠をもった資料提示と研究成果を提供した。③効率性については、関係者が一同に集まり、検討課題となる現場や実物資料を前に直接説明及び議論を行うことで、要請に対する回答の回数を適切化した。④継続性については、3 年度に竣工した南門復原工事に引き続き、東楼復原工事に対して、適宜、研究協力を継続して実施している。また、工事の過程を継続的に撮影し、工事記録の蓄積も行った。

観点	①適時性	②発展性	③効率性	④継続性	
定性評価	B	B	B	B	

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	（参考値）勉強会・研修会の講師協力：4 回、瓦復原への助言：2 回 写真撮影：4 回	－

中期計画評価	B

中期計画記載事項	文化庁と国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の整備及び公開・活用事業に協力する。また、ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。
評定理由	4 年度は第一次大極殿院東楼の復原工事が開始した。南門復原時と同様に、復原工事の進捗状況にあわせて、屋根瓦の復原や施工等について助言等を適宜実施した。そのほか、国交省からの要請に基づく勉強会及び研修会を通して、研究成果が復原工事に生かされるよう対応した。5 年度以降も継続して適宜、協力していく予定である。以上、中期計画を順調に遂行できていると判断し、B と判定した。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2531F3

中期計画の項目	2-(5)-③	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-③-1)	③平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力する。また、NPO 法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。 1)文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 ・国土交通省の平城宮いざない館展示室４（詳覧ゾーン）に関する学芸業務・連絡調整への協力
プロジェクト名称	国土交通省が行う平城宮いざない館での公開・活用事業への協力	
企画調整部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】**○岩戸晶子（展示企画室長）、廣瀬智子（展示企画室アソシエイトフェロー）、下山千尋（同アソシエイトフェロー）、藤田友香里（同アソシエイトフェロー）	

【年度実績と成果】

展示品の貸出対応作業

・平城宮いざない館（以下、いざない館と略記）第４展示室の展示の学芸業務を中心に、いざない館の活動について国土交通省国営飛鳥歴史公園並びに管理センターへの協力を行った。
・当研究所所蔵の展示資料の状態確認と日報の作成を行った。井戸部材（廊下）と斎串及び木樋（展示室4）の状態　確認・展示環境を重点モニタリングした。
・奈良まほろば館(東京)で開催のいざない館主催の木簡体験ワークショップに学術協力した。(7 月 8 日)
・古代の盤上遊戯 かりうちの体験イベントを平城宮跡管理センターと共催した。(11 月 26 日)
・平城宮跡歴史公園 5 周年記念展「よろしく都邑を建つべし」展（会期：5 年 3 月 25 日～5 月 14 日)を管理センターと共催し、奈文研所蔵資料展示品の選定及び貸出、展示作業、記者レク実施などに協力した。

〔平城宮跡史跡指定 100 周年事業関連〕

・通常時は当研究所ではいざない館では主催特別展を開催していないが、史跡指定 100 周年を記念し、特別展「のこった奇跡のこした軌跡－未来につなぐ平城宮跡－」を開催した。(10 月 29 日～12 月 11 日)
・上記特別展に関して平城宮跡解説ボランティア及び NPO 法人平城宮跡サポートネットワークにレクを実施した。(10 月 28・29 日)
・史跡指定 100 周年、平城宮跡及びいざない館も紹介する内容のパンフレットを制作し、全国の文化財関連機関・マスコミ等に配布した。
・特別展で展示した、隼人の楯に関わる京田辺市無形文化財である隼人舞を紹介するイベント及びギャラリートークを実施し、来館者の展示に対する一層の理解を促した。(10 月 29 日)
・平城宮跡及びいざない館の常設展、上記特別展の解説・案内をニコニコ美術館にて生配信した。(11 月 12 日)
・平城宮跡史跡指定 100 周年記念ツアーガイドを NPO 法人平城宮跡サポートネットワークと共催し、実施した。(12 月 10 日)

年度計画評価	A

【評定理由】

①適時性においては、平城宮跡史跡指定 100 周年に合わせた特別展やイベントの実施のほか、ロゴマークや公式キャラクターの展開・広報活動を行い、周年事業の周知に努めた。②独創性においては、記念特別展の実施、ロゴマークや公式キャラクターの利活用を行ったほか、初の試みとしてニコニコ美術館生配信事業に参画した。通常博物館の展示のみを紹介する同事業に対し、野外である平城宮跡と展示室内のいざない館をあわせて紹介する新しい企画を実施しメモリアルイヤーにおける平城宮の魅力を大きくアピールし、好評を得た。③発展性においては、上記特別展において単に平城宮の奈良時代の歴史を紹介するだけでなく、一般的には知られていないいざない館や国土交通省・文化庁など多くの機関が協同して平城宮跡を整備・活用している現況をパネル展示で解説・紹介した。また、ニコニコ美術館の生配信でいざない館の展示室について案内・解説した。これらの活動により、いざない館を知らなかった幅広い層にその存在や展示内容をアピールすることができ、今後の平城宮いざない館での公開・活用事業に大きく寄与できた。④⑤いざない館と緊密に連絡を取り合い、例年にない多さのイベント行事を効率的に遂行できたことは開館から 5 年を迎えた継続的な歩みの成果と効率性、継続性の観点から評価できる。以上から、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①　適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	A	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** （実績値）・特別展の実施　1 件　・入館者数　36,339 人 ・来館者等案内、質問対応、マスコミ・テレビ取材対応など：31 件 ・当研究所所蔵物の貸出、返却、搬出、返却後の原状復旧：50 件 ・平城宮跡いざない館発行の印刷・出版物の監修・校正：4 件 ・旅行会社企画の体験イベント、産学連携事業への専門的助言・協力　1 件 ・ニコニコ美術館視聴数 27,041 件　満足度 99.7%	定量評価

中期計画評価	A

中期計画記載事項	文化庁と国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の整備及び公開・活用事業に協力する。また、ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。
評定理由	平城宮跡史跡指定 100 周年というメモリアルイヤーにあたり、さまざまなイベント・広報活動をいざない館において、協力・連携して行うことができた。また、3 年度に引き続き、平城宮跡に関わる体験イベントなどを実施できた。これらの協力事業を継続的に実施することによって記念年のイベントや広報をより強力に推し進める成果につながった点は大いに評価できる。以上の取組みから、中期計画 2 年目として想定していた所期の計画を上回る成果をあげられたと判断し、A評価とした。 5 年度以降も、中期計画全体としての目標を達成すべく、各事業を協力して行う。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2531F-4

中期計画の項目	2-(5)-③	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-③-1)	③平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力する。また、NPO 法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。 1)文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 ・国土交通省の平城宮いざない館展示室４（詳覧ゾーン）に関する学芸業務・連絡調整への協力
プロジェクト名称	文化庁が行うキトラ古墳壁画保存管理施設の管理・運営と古墳壁画の公開事業への協力	
飛鳥資料館	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○石橋茂登（学芸室長）、濵松佳生（学芸室アソシエイトフェロー）ほか５名	

【年度実績と成果】

プラネタリウムの様子

・文化庁が行うキトラ古墳壁画保存管理施設の日常的な管理運営に協力した。
・キトラ古墳壁画の第 23 回公開（5 月 21 日～6 月 19 日）、第 24 回公開（7 月 23 日～8 月 21 日）、第 25 回公開（10 月 15 日～11 月 13 日）、第 26 回公開（5 年 1 月 21 日～2 月 19 日)の広報物と解説リーフレット（日中英韓の多言語対応)、解説映像、解説音声の作成に協力した。
・壁画非公開期間における展示室公開と新年特別展示「キトラ古墳壁画に込められた思想」(12 月 15 日～5 年 1 月 17 日）の開催にあたり企画・制作・展示などで協力した。
・キトラ天文図を解説するプラネタリウムイベント 2 回（10 月 27 日～11 月 6 日、5 年 2 月 2 日～2 月 12 日）を実施し、今回から椅子を座り心地の良いものに変更し好評を得た。
・四神の館での乾拓イベント 2 回の実施に協力した。
・キトラ古墳壁画天文図解説映像公開イベント 1 回（新しい 2D 版の天文図解説映像の公開とギャラリートーク)、「四神の館文化財講座」講演 2 回の実施に協力した。
・過去に作成したプラネタリウム投影用映像については日本プラネタリウム協議会を通じて他館に提供できるように体制を整えた。
・文化庁、国土交通省飛鳥歴史公園事務所、飛鳥管理センターほかと月 1 回の定例協議を継続した。キトラ古墳周辺地区内の飛鳥管理センターとは毎日ミーティングを行い、広報等についても協力した。

年度計画評価	A

【評定理由】
①適時性　プラネタリウムイベントは秋の天文図公開に合わせて実施し好評を得た。
②独創性　キトラ古墳天文図を題材にした 2D 版解説映像の公開と研究成果を活かしたギャラリートーク、研究員の専門を活かした講座はオリジナリティが高い。
③発展性　関係者の連絡会議には年度途中から星野リゾート、明日香村観光協会、明日香村文化財課も会議に順次参加し、さらに連携が強化されており、今後の新しい展開が期待できる。また、過去に作成したプラネタリウム投影用映像を他館に提供できるようになり、今後の利用促進が期待できる。
④効率性　施設の管理運営については例年の作業を継続し効率よく順調に運営できた。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	
定性評価	B	A	A	B	

【目標値】	**【実績値・参考値】**	定量評価
	参考値)・壁画公開実施　4 回　　・リーフレット　4 枚（ア～エ） ・協議等回数　計 12 回　・移動プラネタリウム　2 回　・講演等　5 回（オ～キ）	－

ア　リーフレット『令和 4 年度　キトラ古墳壁画　第 23 回公開』5 月 21 日発行
イ　リーフレット『令和 4 年度　キトラ古墳壁画　第 24 回公開』7 月 23 日発行
ウ　リーフレット『令和 4 年度　キトラ古墳壁画　第 25 回公開』10 月 15 日発行
エ　リーフレット『令和 4 年度　キトラ古墳壁画　第 26 回公開』5 年 1 月 21 日発行
オ　キトラ古墳壁画天文図　解説映像公開イベント「キトラ古墳壁画 天文図と中国星座の世界」講師：若杉智宏（12 月 23 日・30 人）
カ　乾拓イベント『キトラ古墳遺跡見学と乾拓体験』　内田和伸・王杰（11 月 5 日・6 日）
キ　講演　濵松佳生「漆喰に描く」・王杰「どう違う？古墳壁画と石窟壁画」(5 年 2 月 17 日・35 人）

中期計画評価	A

中期計画記載事項	文化庁と国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の整備及び公開・活用事業に協力する。また、ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。
評定理由	壁画公開はパターン化していた春夏秋冬の壁画公開順を変更し、新鮮味を出して観光客のニーズに応えた点が評価できる。プラネタリウムもキトラ天文図と関連が深い独自性が高い企画であるとともに、他館への提供や 2D 版映像の作成で今後の展開と活用が期待できるようになった。 文化庁、国営飛鳥歴史公園との連携も順調に進んでおり、イベント共催といった面で専門性を活かして相乗効果を発揮できている。よって目標を上回る成果を上げることができたと評価できる。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2532F

中期計画の項目	2-(5)-③	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-③-2)	③平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 2)NPO 法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動への協力
プロジェクト名称	NPO 法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動への協力	
	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】○井関信雄（連携推進課長）、不藤忠義（研究支援課長）、田島章雅（連携推進課課長補佐）、永野陽子（研究支援課課長補佐）、桑原隆佳（連携推進課広報企画係長）、新開良子（研究支援課事務補佐員）	

【年度実績と成果】

1）NPO 法人平城宮跡サポートネットワークへの協力

○NPO 法人平城宮跡サポートネットワークの事業等における、会場提供等及び情報共有のための会議開催の協力を行った。

・NPO 法人平城宮跡サポートネットワークとの定期連絡会議（月 1 回開催、年計 12 回開催）

・平城宮跡歴史公園ガイド連絡協議会（NPO 法人平城宮跡サポートネットワークを含む奈良県、国交省の委託業者との 4 者での会議：2 ヶ月に 1 回開催、年計 6 回開催）

・NPO 法人平城宮跡サポートネットワークが行う美化運動・防災・防犯パトロール活動に参加協力を行った。(12 回/年)

・NPO 法人平城宮跡サポートネットワークが刊行する広報誌「天平のひろば」掲載のためのインタビューに協力した

2）周辺自治会等への協力

佐保川地区社会福祉協議会主催の「かりうち」競技会への指導を行った。(5 年 3 月 25 日)

3)その他

・職場体験学習の支援（田原中学校（8 月 31 日～9 月 2 日）(参加人数 1 名)、都跡中学校（12 月 1 日～2 日）(参加人数 3 名)）

・職場見学（バックヤードツアー）の支援（奈良教育大学附属中学校（8 月 24 日）(参加人数 19 名)）

・職場紹介のキャリア教育講座への研究員派遣（富雄中学校（9 月 6 日）(派遣人数 1 名)）

年度計画評価	B

【評定理由】

①適時性については、NPO 法人の活動に継続して協力すると共に、NPO 法人との定期的な情報共有、意見交換を行う連絡会議を月 1 回実施し、活動再開した平城宮跡解説ボランティア活動の参考に資することができた。また、平城宮跡歴史公園の設置に伴う情報共有、意見交換を行うため、NPO 法人を含む奈良県、国交省の委託事業者との 4 者会議を定期的に開催したことにより継続して連携協力関係を維持し、平城宮跡の活用の重要性について認識することができた。②発展性については、周辺自治会が企画するイベントへの協力を通じて、当研究所の研究成果を広く情報発信を行うことができた。③効率性については、NPO 法人等との定期会議等開催において、当研究所の施設を利用し効率性を維持した。④継続性については、NPO 法人への支援や、周辺自治会への協力を引き続き実施し、協力体制を継続的に維持させることができた。以上により、本事業については、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②発展性	③効率性	④継続性	
定性評価	B	B	B	B	

【目標値】	**【実績値・参考値】** （実績値）	定量評価

中期計画評価	B
中期計画記載事項	文化庁と国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の整備及び公開・活用事業に協力する。また、ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。
評定理由	4 年度は計画通り、各種ボランティア活動への協力体制を維持し事業計画を達成し、活動再開した平城宮跡解説ボランティア活動にも資することができた。培ってきた連携協力関係を基礎として、5 年度以降も継続して協力を行えると判断し、Ｂ評価とした。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2541E

中期計画の項目	2-(5)-④	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-④-1)	④連携大学院教育の推進 連携大学院教育を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材を育成する。 1)東京藝術大学、京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育等の推進 ・東京藝術大学大学院：システム保存学(保存環境学、修復材料学)
プロジェクト名称	東京藝術大学との間での連携大学院教育の推進	
保存科学研究センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○朽津信明（修復計画研究室長）、犬塚将英（分析科学研究室長）、早川典子（修復材料研究室長）、佐藤嘉則（生物科学研究室長）、安倍雅史（文化遺産国際協力センター）、前川佳文（文化遺産国際協力センター）	

【年度実績と成果】

教育効果とその時々の感染状況とを考慮し、オンライン講義と対面講義を併用して教育を進めた。

○4 年度開講した授業及び担当教員、受講者数

保存環境計画論（前期、火曜 1 限）　2 単位　朽津信明・犬塚将英・佐藤嘉則　17 人（聴講 1 人）
修復計画論　（前期、木曜 1 限）　2 単位　朽津信明・安倍雅史・前川佳文　15 人
修復材料学特論（前期、木曜 2 限）　2 単位　早川典子　16 人
保存環境学特論（後期、火曜 1 限）　2 単位　犬塚将英・佐藤嘉則　12 人
文化財保存学演習
講師：早川典子　「化学の原理から学ぶクリーニングの基礎」
日時：7 月 19 日(火)13～17 時、18 人

大学院入試　修士課程　9 月 20～21 日　受験者 1 人　合格者 1 人

○成績評価等、文化財保存学専攻運営への協力
教員会議（11 回）、入試合同判定会議（2 回）、博士・修士学位審査会への協力

文化財保存学演習風景

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①コロナ禍での感染状況に応じて、対面授業とオンライン授業とを有効に組み合わせてハイブリッドで講義を行うことで、社会情勢に応じて最適な教育を行うことができたため、適時性の高い成果を挙げられた。②独創性においては、諸事情でリアルタイムで受講できなかった学生に対してオンライン講義の特性を活かして再配信で対応するなど、社会情勢を踏まえた独自の講義を行えた。③4 年度は修士課程入試で 1 人の合格者を得て、5 年度以降の教育効果の発展性が期待される。④効率性においては、対面とオンラインを効率的に使い分け、教育効果を挙げることに寄与した。⑤継続性においては、藝大との協力関係を維持することによって、最新の研究成果を若手人材育成に有効活用できている。コロナ禍でも、その時々の社会情勢に応じて柔軟な対応で教育の水準を維持し、計画通りの成果を挙げることができたと判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	A	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】**（参考値）	定量評価
	・開講時間： 前期　火曜 1 限、木曜 1 限、木曜 2 限　/　後期　火曜 1 限 ・開講回数：90 分×各 15 回、受講者数：延べ 60 人 ・開講時間　1 限 9：00～10：30　2 限 10：40～12：10　3 限 13：00～14：30 ・開講回数　計 4 コマ　各 2 単位 ・大学院合格者　修士課程 1 人	―

中期計画評価	B
中期計画記載事項	連携大学院との連携教育や大学への教育協力を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材を育成する。
評定理由	修士入試を行い、結果として合格者が出たことから、4 年度からの大学院教育が一層充実することが予想される。大学側からの評価も高く、コロナ禍でオンラインと対面との使い分けで教育レベルを保つことができた。以上の理由から、中期計画の予定通り、順調に遂行されたと言える。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2541F

中期計画の項目	2-(5)-④	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-④-1)	④連携大学院との連携教育等の推進 1)東京藝術大学、京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育等の推進及び奈良大学への教育協力の実施 ・京都大学大学院：共生文明学（文化・地域環境論） ・奈良女子大学大学院：人文科学（比較文化学） ・奈良大学：「文化財修景学」
プロジェクト名称	京都大学・奈良女子大学との間での連携大学院教育の推進及び奈良大学への教育協力	
奈良文化財研究所	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○本中眞（所長）	

【年度実績と成果】

○客員教授・准教授として学位審査及び各専門分野に関する講義、演習、実習を開設し、大学院生の研究指導を実施。

京都大学大学院人間・環境学研究科

・高妻 洋成「保存科学論 1・2」「文化遺産学演習 5A・5B」
・馬場　基「史料学論 1・2」「文化遺産学演習 3A・3B」
・山﨑　健「環境考古学論 1・2」「文化遺産学演習 4A・4B」
・清野 孝之「埋蔵文化財調査・研究・保護論」「文化遺産学演習 1A・1B」
・玉田 芳英「原始・古代精神文化論」「文化遺産学演習 2A・2B」

奈良女子大学大学院人間文化総合科学研究科

・今井 晃樹「東アジア考古学特論」「東アジア考古学演習」
・神野　恵「歴史考古学特論」「歴史考古学演習」
・桑田 訓也「木簡学特論」「木簡学演習」

○奈良大学との教育協力協定に基づき、職員を奈良大学に派遣し、講義、演習、実習を通して大学生への研究指導を実施。

奈良大学文学部文化財学科（新型コロナウイルス感染防止のため、3 年度に引き続きオンデマンドで実施した）

・内田 和伸、中島 義晴「文化財修景学」

年度計画評価	B

【評定理由】

①適時性においては、本務において得た最新の研究成果などを基に研究指導を行った。②独創性においては、当研究所が長年培ってきた専門知識を教授することができた。奈良大学「文化財修景学」の講義においては、平城宮跡見学を実施し、木簡に関する展示「地下の正倉院展」も観覧させることで、遺跡への理解を深める工夫をした。③発展性においては、連携大学院及び大学における講義や研究指導を通じて、次世代の研究者の育成・発展に大きく貢献した。④継続性においては、大学との連携協定を基に長年継続しており、継続的に実施することができた。文化財保存・活用に関する幅広い知識と高度な技術を兼ね備えた人材育成について、計画どおり寄与することができた。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】 （参考値） ・受入学生数 京都大学大学院 11 人　奈良女子大学大学院 4 人　奈良大学 83 人	定量評価 -

中期計画評価	B

中期計画記載事項	連携大学院との連携教育や大学への教育協力を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材を育成する。
評定理由	連携大学院協定及び教育協力協定に基づき、これまで蓄積してきた研究成果を基に連携大学院との連携教育や大学への教育協力を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材の育成に貢献できた。よって、中期計画 2 年目として順調に成果を挙げているものと判断した。

【書式C】　施設名 文化財防災センター　処理番号 2610

中期計画の項目	2-(6)-①	文化財防災に関する取組
年度計画の項目	2-(6)-①-1)、2)、3)	①地域防災体制の構築 地方公共団体、博物館、美術館、大学等研究機関、地域史料ネット等の文化財等関係団体の連携及び協力を深め、地域の文化財の防災体制を構築する。 1)地方公共団体、博物館、美術館、大学等研究機関、地域史料ネット等の文化財等関係団体との協議、情報交換会を開催する。 2)都道府県が策定する文化財保存活用大綱、市町村が策定する文化財保存活用地域計画及び都道府県並びに市町村が策定する地域防災計画を収集し、地域文化財の防災体制に関する調査研究を行う。 3)災害発生時における文化財等の救援活動を支援する。
プロジェクト名称	文化財保存活用大綱の分析	
文化財防災センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】**髙妻洋成（センター長）、建石徹（副センター長）、○小谷竜介（文化財防災統括リーダー）、中島志保（研究員）、上椙英之（研究員）、後藤知美（研究員）、水谷悦子（研究員）、黄川田翔（研究員）、鷲頭桂（主任研究員）、中屋菜緒（ｱｿｼｴｲﾄﾌｪﾛｰ）、小峰幸夫（ｱｿｼｴｲﾄﾌｪﾛｰ）	

【年度実績と成果】

令和4年度中国・四国地方の文化財防災に関わる研究協議会

1)
○都道府県文化財主管課等との協議（48回開催）
○特筆すべき協議等
・京都文化財防災対策等連絡会出席（6月14日、11月15日、5年3月16日）
・地域の文化財防災体制確立に向けた県内会合出席（11月24日：埼玉県）
・文化財日常管理・防災ハンドブック作成チームへの参加（9月30日、5年3月15日：山形県）
・文化財防災マニュアル策定にかかる助言（3月1日～：福岡市）
・「令和4年度中国・四国地方の文化財防災に関わる研究協議会」開催（5年3月13日）
2)
○文化財保存活用大綱の分析
・北海道・東北地方、中国・四国地方、九州地方の大綱の記述を整理し、都道府県内の連携体制について検討した。
○文化財保存活用地域計画に関するヒアリング調査及び策定に係る協議を実施した（3回）
・市町村文化財主管課等との協議（6回開催）
3)
○文化財の救援活動を実施した。
・4年3月16日発生福島県沖を震源とする地震
・4年6月19日発生能登半島を震源とする地震
○県及び市の依頼に応じて、被災文化財について現地調査を実施し、対応等に関する技術的助言を行った。
・6月14日　新潟県佐渡市　二宮神社市指定有形文化財石造狛犬
・8月30日　新潟県東蒲原郡阿賀町　重要文化財五十嵐家住宅（建造物とともに什器の取扱についても協議）
・10月15日、16日　東京都青梅市　雲慶院焼損資料処置

年度計画評価	A

【評定理由】
下記評価は次の観点から行った①適時性においては、地方公共団体が取り組む地域の防災体制構築への関心が高いことから順調に協議を進めることができた。更に、市町村からも地域計画策定などへのアドバイスが求められるようになった点が、当センターの活動が着実に深まっていることを示しており、この点が評価できることからＡとした。②独創性においては、これまでの取り組みを順調に深化させていることからＢとした。③発展性においては制作中の防災マニュアルへのコメント要望など、初期段階等全面的に役割を求められるようになってきたことは特筆でき、応用性、影響性の観点からＡとした。④効率性においては、限られたスタッフで予定通り事業を進められたことからＢとした。⑤継続性については、本事業は都道府県の担当が変わることから繰り返しアプローチを図ることが肝要となるが、新潟県の救援活動において、県側が主体的に県内ネットワークを意識した活動が実現できるなど、センターの取り組みの進展が明瞭に確認できたことからＡとした。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	B	A	B	A

【目標値】	**【実績値・参考値】**	定量評価
	（参考値）防災・救援のための連携・協力体制構築への取組状況（都道府県内各種会合等への会議等参加数）　53件（うち被災文化財への対応14件）	－

中期計画評価	B

中期計画記載事項	都道府県文化財所管部局を中心とした地域内連携体制、及び近隣都道府県の災害時相互支援体制の構築・促進等を図る。
評定理由	体制構築に向けた協議、災害発生時の被災文化財の扱いなどの協議を進める中で、体制づくりを深化させる自治体や、体制構築の必要性を理解し動き出す自治体などが出てきており、一定の成果を上げている。今後も協議を進め、体制構築の一層の進展が実現できる見通しである。

【書式C】　施設名 文化財防災センター　処理番号 2620

中期計画の項目	2-(6)-②	文化財防災に関する取組
年度計画の項目	2-(6)-②-1)、2)	②災害時ガイドライン等の整備 災害発生時において多様な文化財の迅速な救援活動を実現するために必要となる各種のガイドライン等の策定を行う。 1)各分野の文化財の防災に関する課題を整理する。 2)各分野の文化財の災害時における救援活動に必要となるガイドライン等の検討を行う。
プロジェクト名称	ガイドライン策定のための課題の整理	
文化財防災センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】**髙妻洋成（センター長）、建石徹（副センター長）、○小谷竜介（文化財防災統括リーダー）、中島志保（研究員）、上椙英之（研究員）、後藤知美（研究員）、水谷悦子（研究員）、黄川田翔（研究員）、鷲頭桂（主任研究員）、中屋菜緒（ｱｿｼｴｲﾄﾌｪﾛｰ）、小峰幸夫（ｱｿｼｴｲﾄﾌｪﾛｰ）	

【年度実績と成果】

1)

○無形文化遺産の防災事業

・3年度開催の有識者会議での議論の成果を踏まえ、災害を経験した以下の無形民俗文化財及び無形文化財の被害状況や伝承活動に対する影響について、現地調査を実施した。

a）等覚寺の松会（福岡県京都郡苅田町）3年8月前線に伴う大雨による公開地の土砂災害

b）珠洲焼（石川県珠洲市）4年6月19日発生・石川県能登地方の地震による工房被害

c）お法使祭（熊本県上益城郡益城町・阿蘇郡西原村・菊池郡菊陽町）熊本地震の復興状況

協定に基づく被災建造物調査

○被災建造物調査事業の推進

・4年3月に日本建築学会ほかと締結した災害発生時の歴史的建造物調査に関する協定に基づき、災害発生時の被災建造物調査に関するガイドラインの策定に取り組んだ。

a)4年度の取り組み実績の検証

b)協定締結団体との協議の開催

c)建築学会との初動についての協議

○史跡名勝天然記念物における文化財の安全対策

・過去の文化庁による補助金の交付対象となった史跡及び名勝に関する災害復旧事業について、事業内容の分析を行った。

2)

○レスキュー活動における安全対策ガイドラインの策定

・体系的なガイドラインの策定に向けて、必要とされるガイドラインの洗い出しと、今後の策定計画を作成した。

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、災害発生が予見できない中で、基本的なガイドラインの策定に取り組んでおり、需要、必要性、緊急性、公開性の観点から、建築学会ほかと3年度に締結した協定に基づき、実働し課題を洗い出すことができ、今後の安定的な被災調査の実施の目処が建てられたのは特筆すべきことであり、Aと評価した。②独創性に関しては、4年度の成果が具体化していないものの、予定通りガイドライン策定等に向けて実施できたことからBとした。③発展性は、被災建造物調査事業を実際に実施し、協定内容の課題を見出すとともに、より実践的な体制の構築が図られたことからBとした。④効率性は、当初計画通りの事業を実施できたことからBとした。⑤継続性は、ガイドラインの策定事業自体は継続的に順次発表する性格であることから、順調に行えたと判断しBとした。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	B	B	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
		－

中期計画評価	B

中期計画記載事項	多様な文化財に関する分野別の防災ガイドライン等の整備を図る。
評定理由	分野別ガイドライン等の整備については、一定の道筋を定めることができ、既に事業を進めている、無形文化遺産、建造物、記念物のほか、一時保管環境について、ガイドラインを整備する方針を定め、策定に向けた具体的なスケジュールの立案段階に入ることができた。既に動き出している3事業については、中期計画期間中の策定について目処をつけ事業を継続する。そのほか必要なガイドライン等は、次期中期計画期間も含めて、事業計画を順次定めていくこととする。

【書式C】　施設名 文化財防災センター　処理番号 2630

中期計画の項目	2-(6)-③	文化財防災に関する取組
年度計画の項目	2-(6)-③-1)、2)	③レスキュー及び収蔵・展示における技術開発 平常時における文化財の収蔵及び展示における技術開発並びに災害時における文化財のレスキューに関する技術開発を行う。 1)文化財の災害に対するリスクの所在及び対処に関する調査研究を行う。 2)保存科学等に基づく被災文化財等の劣化診断、安定化処置及び修理、保存環境、被災現場の作業環境等に関する調査研究を行う。
プロジェクト名称	リスク研究会の運営と文化財リスク研究	
文化財防災センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】**髙妻洋成（センター長）、建石徹（副センター長）、○小谷竜介（文化財防災統括リーダー）、中島志保（研究員）、上椙英之（研究員）、後藤知美（研究員）、水谷悦子（研究員）、黄川田翔（研究員）、鷲頭桂（主任研究員）、中屋菜緒（ｱｿｼｴｲﾄﾌｪﾛｰ）、小峰幸夫（ｱｿｼｴｲﾄﾌｪﾛｰ）	

【年度実績と成果】

1)

○社寺等における文化財の安全対策に関する研究

・立体作品に関する転倒防止対策等の減災対策に関する調査研究を目的に、社寺等が所有する仏像・神像の三次元データによる転倒シミュレーション解析を実施したうえで、立体作品の転倒防止対策に関する検討を行った（3件）。

三次元計測の様子

○文化財建造物及び展示収蔵環境の防火対策に関する研究

・火災時の高温高湿度環境が漆工品に与えた影響の評価を目的とした実験の準備として、琉球漆を模した供試体を作成と実験時の環境条件の検討を行った。

・美術館、博物館の消火設備の現状と課題を把握するため、実地調査および担当者へのヒアリング調査を行った。(4 館)

○災害時の一時保管施設の確保と環境整備に関する調査研究

・一時保管場所における劣化要因の許容範囲を明確化して、被災時における良好な保存環境の実施のため調査研究を実施した。4 年度は奈良文化財研究所第 5 収蔵庫を利用して上述の虫菌害調査、保存環境調査を実施した。虫菌害調査は 3 回、有機酸濃度測定は 5 回行った。

○灰汁を使用した水損資料の処置方法に関する研究

・資料を安全かつ効率的に作業が行えるプロトコールを検討した。

○文化財の災害リスクの所在とその対処手法に関する研究会

・リスク研究会を、1 回（8 月 9 日）開催した。研究会で各調査研究の成果について議論を行った。

2)

○けいはんなオープンイノベーションセンターにおける一時保管体制の構築

・収蔵庫内の定期的な清掃、温湿度調査、文化財害虫調査、浮遊菌調査を実施した。(年12回)

・知恩院塔頭良正院本堂の修理工事に伴う襖絵の緊急避難に関する調査研究及び襖絵の一時保管を、2 年 7 月から継続して実施した。

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性については、所有者、被災者からのニーズに基づき事業を立ち上げており、その成果はガイドライン等のかたちで公表を予定している。現在はまだ成果の上がる段階には無いが、順調に事業を実施できておりＢと評価した。②独創性は、本事業で行う防災という文化財研究を体系的に行う組織はなく全体にオリジナリティのある研究ではあるが、特に防火対策に関する研究は、時宜にもかなったものとして評価ができ、Ｂと評価した。③発展性においては、これらの成果が多様な文化財の防災に応用されるものであり、順調に進められていることからＢとした。④効率性については、各施設の既存設備を用いて順調に進められておりＢとした。⑤継続性については、原則中期計画期間において一定の成果を上げるように計画を作成しており、その中で順調に進められていることからＢとした。以上から、全体に所期の計画通りに事業が進められていると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】**	定量評価
	（参考値）文化財防災に関する技術開発への取組状況（論文等数，報告書等の刊行数）30 件	－

中期計画評価	B
中期計画記載事項	各種の文化財収蔵施設や設備の安全対策に関する調査研究、被災文化財の応急処置・修復処置に関する事例の収集と技術開発、被災文化財の保管環境や災害時対応の手順等に関する研究を行う。
評定理由	本事業は、単年度では成果の出しにくいものであるが、中期計画に基づき、順調に研究を進めることができた。中期計画期間に一定の成果をあげられる見通しにある。

【書式Ｃ】　施設名 文化財防災センター　処理番号 2640

中期計画の項目	2-(6)-④	文化財防災に関する取組
年度計画の項目	2-(6)-④-1)、2)	④文化財防災を促進するための普及啓発 文化財防災に関する指導、助言、研修等の啓発及び普及活動を行うとともに、文化財防災センターでの取組等を広く国内外へ情報発信する。 1)シンポジウム、講演会、研究集会、地方公共団体担当者等への研修会、地域の防災体制構築のための人材育成等を実施する。 2)文化財防災に関する取組についてウェブサイトでの公開とパンフレット等の作成を行い、国内外への情報発信に努める。
プロジェクト名称	講演会等開催事業	
文化財防災センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】**髙妻洋成（センター長）、建石徹（副センター長）、○小谷竜介（文化財防災統括リーダー）、中島志保（研究員）、上椙英之（研究員）、後藤知美（研究員）、水谷悦子（研究員）、黄川田翔（研究員）、鷲頭桂（主任研究員）、中屋菜緒（ｱｿｼｴｲﾄﾌｪﾛｰ）、小峰幸夫（ｱｿｼｴｲﾄﾌｪﾛｰ）	

【年度実績と成果】

1)

○シンポジウム及び講演会の開催

・国際会議「アジア太平洋地域における文化財防災の現状と課題Ⅱ　―災害後の復旧・復興の事例と課題―」
　共催：文化庁、ICCROM、文化財防災センター、公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所
　日程：12 月 21 日～22 日、参加者：（会場）21 日 8 人、22 日 6 人、（オンライン参加）21 日 102 人、22 日 96 人

国際会議での討論の様子

・京都市・文化財防災センター連携事業文化財防火デーイベント「京都における文化財防災ネットワークの構築を目指して」
　主催：文化財防災センター、京都国立博物館、京都府教育委員会、京都市　日程：5 年 1 月 19 日
　参加者：40 人（会場）、298 人（YouTube アーカイブ配信視聴数）
・シンポジウム「無形文化遺産と防災―被災の経験から考える防災・減災―」
　主催：文化財防災センター　共催：東京文化財研究所　日程：5 年 3 月 7 日　参加者：87 人（東京文化財研究所地下セミナー室）

○文化財防災に関する研修及びワークショップの開催

・e-ラーニングの導入・環境構築
・「水損書画の初期処置ワークショップ」共催：九州国立博物館、日程：11 月 2 日、参加者：6 人
・「一時保管場所におけるゾーニングワークショップ」共催：東京文化財研究所、日程：12 月 16 日、参加者：12 人

○文化財防災フォーラム開催の検討

・ぼうさいこくたい 2022（10 月 22 日、23 日、神戸市）に参加し、一般向けへのアピール法などについて検討を行った。

2)

○ウェブサイトの運営

・ウェブサイト（https://ch-drm.nich.go.jp/）を運営し、イベント情報の発信や情報の収集等を進めた。（ウェブサイトアクセス件数 18,111 件）

○文化財防災センターパンフレットの刊行

・英語版の事業パンフレットを作成し、海外への情報発信を行った。（発行部数 500 部（ウェブサイトへの PDF 公開））

○文化財防災に関する普及啓発書の刊行

・文化財防災に関する理解促進と情報発信を目的として、各種普及啓発本の企画及び出版をおこなった。

○年次報告書の作成

・『令和 3 年度文化財防災センター年次報告書』（400 部）を 6 月に刊行した。

○事業報告会の開催

・2 回開催（6 月 29 日、12 月 20 日）

○文化財防災救援基金の設立

・文化財防災に係る技術開発や、災害発生時における被災文化財救援活動等に活用するため、3 月 10 日に文化財防災救援基金を設立した。（寄附総額 297,000 円）

年度計画評価	A

【評定理由】

下記の観点から評価を行った。①文化財の防災は一定の関心をもたれており、特に地方公共団体の専門職員のニーズが高いため、これらに対してオンライン等を用いて聴講しやすいイベントなどを行った。さらに、ぼうさいこくたい 2022 に出展し、これまで関心の広がらない層にもアピールをすることができた点は特筆することができ、適時性はAと評価した。②独創性では、水損書画の初期処置ワークショップに取り組むなど、新たな試みを行い、順調に事業を行うことができたためBとした。③パンフレットの刊行など海外向けの発信に力を入れただけでなく、特に 4 年度新規に計画した文化財防災救援基金は、その発足が主要マスコミに取りあげられ、募金も順調に集まるなど反応も良く、文化財防災に対して一般の人が参加できる仕組みを新たに作る事ができたことから、発展性はSとした。④効率性においては、事業を予定通り実施することができたことからBとした。⑤継続性においては、当初計画通りの事業を過年度より継続して実施しており、内容についても徐々に充実していることからBとした。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	B	S	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	（参考値）文化財防災に関する普及啓発への取組状況 7 件(シンポジウム 4 件、講演会・研修等 3 件)	―

中期計画評価	A

中期計画記載事項	ＨＰ等の活用による各種の広報活動を行う。シンポジウム・講演会を開催するとともに、地方公共団体職員や博物館・美術館学芸員等を対象とする研修を行って、文化財防災に関する普及啓発を行う。また、国際機関・外国機関等との連携を通じ文化財防災に関する国際貢献に資する。
評定理由	計画していた事業について、概ね予定通り進めることができた。また、文化財防災救援基金の発足は、5 年度以降の実践の活動を支える基盤となり、広く国民に文化財防災の必要性をアピールする機会にも繋がった点で評価できるため、A 評価とした。

【書式Ｃ】　施設名 文化財防災センター　処理番号 2650

中期計画の項目	2-(6)-⑤	文化財防災に関する取組
年度計画の項目	2-(6)-⑤-1)、2)、3)、4)、5)	⑤文化財防災に関係する情報の収集と活用 文化財防災に関する情報の収集を進め、我が国の文化財防災システムを機能的に運用するための情報の活用方法を検討する。 1)文化財が被災した災害事例及び文化財防災の先進事例に関する情報を収集し、整理して共有化を図る。 2)多様な文化財の防災に資するデータベース構築のためのデータ収集を進めるとともに、文化財防災への活用方法の調査研究を行う。 3)歴史災害痕跡に関するデータ収集を行い、データベース等の運用及び活用を進める。 4)諸外国の防災の取組や被災文化財の保全処置方法に関する新たな知見の入手に努めるとともに、我が国の経験を活かして諸外国の文化財防災に貢献する。 5)文化遺産防災ネットワーク推進会議及び文化遺産の防災に関する有識者会議を開催し、文化財防災に係る課題等の把握に努める。
プロジェクト名称	文化財防災情報の収集	
文化財防災センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】**髙妻洋成（センター長）、建石徹（副センター長）、○小谷竜介（文化財防災統括リーダー）、中島志保（研究員）、上椙英之（研究員）、後藤知美（研究員）、水谷悦子（研究員）、黄川田翔（研究員）、鷲頭桂（主任研究員）、中屋菜緒（ｱｿｼｴｲﾄﾌｪﾛｰ）、小峰幸夫（ｱｿｼｴｲﾄﾌｪﾛｰ）	

【年度実績と成果】

1)
○文化財が被災した災害事例及び文化財防災の先進事例に関する情報収集
・文化財防災に関係する学会・研究会・イベント等への参加（3 人延べ 9 回）
・3 年度に引き続き奈良市消防局主催の櫓皮葺の燃焼実験に参加し、新たな知見を得た。（2 回、4 人参加）
○博物館等危機管理マニュアルの収集および分析
・各種リスクに対する博物館等の対応や課題を整理するため、博物館等における危機管理マニュアルの収集・分析事業に着手した。
・埼玉県立博物館等施設における収蔵資料防災マニュアル策定に係る指導及び助言を行った。（5 回実施）
2)
・国内文化財情報を集積した文化財データベースの構築に向けて、現在、東京文化財研究所が管理する「全国文化財等データベース」のバックデータ更新作業を実施した。
3)
・3 年度に暫定公開した歴史災害痕跡データベースについて、奈良盆地のデータの拡充をはかった。
4)
○国際会議、国際学会、国際研究会に参加し、研究発表を行った。（参加 14 人、発表 10 件）
・主な会合　IRCI 国際ワークショップ Research on ICH Safeguarding and Disaster Risk Management（8 月 5 日、9 月 7 日、オンライン）、ICOM Prague 2022（8 月 20 日～24 日、プラハ）
5)
○文化遺産防災ネットワーク推進会議及び幹事会の開催（各 2 回開催）
○文化遺産の防災に関する有識者会議の開催（2 回開催）
○文化庁・文化財防災センター協議会の開催（12 回開催）

ICOM Prague 2022 での発表

年度計画評価	B

【評定理由】
下記各観点から評価を行った。①適時性については、概ね予定通りの活動ができた。特に海外の情報収集は現地渡航が可能になったこともあり、対面・オンラインを含めた多様なかたちでの取り組みを行えた。とりわけ ICOM Prague 2022 では、ウクライナ情勢を反映した中で、当センターの取り組みについてはウクライナ人が大きな関心を示すなど、海外のニーズを掴むとともに、海外の取り組みと我が国との違いについて大きな成果を上げることができた。このことからＡとした。②独創性においては、順調に事業を実施し、博物館危機管理マニュアルなどの新しい取り組みを行っていることからＢとした。③発展性においては、情報収集事業として、前掲博物館危機管理マニュアルの収集分析を新規に始め、今後の成果が見通せることからＢとした。④効率性においては、予定された事業を適切に行えておりＢとした。⑤継続性については、データベースのデータ充実などの点で順調に事業が推移していると判断し、Ｂとした。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	B	B	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
		－

中期計画評価	B

中期計画記載事項	各種文化財データベースの構築を行い、防災に活用するためのシステムの整備・開発を行う。
評定理由	中期計画期間中の文化財総合データベースの構築を目指し、文化財の基本データほか、文化財の防災に係るデータの収集について順調に進めることができた。一方で、データベースの設計方針の策定は、情報担当研究員が未配置の状態となっており遅れている。5 年度より配置予定であり、作業を急ぐこととする。

(受託事業)

処理番号	年度計画の記号	受託事業名	担当	備考	頁
3112F-1	2-(1)-①-2)	高野山地区建造物調査業務	奈文研	文化遺産部	298
3112F-2	2-(1)-①-2)	佐渡市小木町伝統的建造物群保存対策調査業務（令和３年度契約）	奈文研	文化遺産部	299
3112F-3	2-(1)-①-2)	佐渡市小木町伝統的建造物群保存対策調査業務委託（令和４年度契約）	奈文研	文化遺産部	300
3112F-4	2-(1)-①-2)	生駒市内歴史的建造物詳細調査業務	奈文研	文化遺産部	301
3112F-5	2-(1)-①-2)	松江市美保関伝統的建造物群保存対策調査業務委託	奈文研	文化遺産部	302
3132F7-1	2-(1)-③-2)-ｱ	平城京跡左京一条二坊十坪の発掘調査	奈文研	都城発掘調査部（平城地区） 埋蔵文化財センター 企画調整部	303
3132F7-2	2-(1)-③-2)-ｱ	興福寺東金堂院伽藍整備に伴う発掘調査	奈文研	都城発掘調査部（平城地区） 埋蔵文化財センター 企画調整部	304
3132F7-3	2-(1)-③-2)-ｱ	歴史体験学習館整備に係る埋蔵文化財発掘調査	奈文研	都城発掘調査部（平城地区） 企画調整部	305
3132F7-4	2-(1)-③-2)-ｱ	名勝法華寺庭園保存整備事業に伴う発掘調査	奈文研	都城発掘調査部（平城地区） 企画調整部	306
3132F7-5	2-(1)-③-2)-ｱ	法華寺旧境内の発掘調査	奈文研	都城発掘調査部（平城地区） 企画調整部	307
3132F ｱ-6	2-(1)-③-2)-ｱ	西大寺旧境内住宅新築に伴う発掘調査	奈文研	都城発掘調査部（平城地区） 企画調整部	308
3132F ｱ-7	2-(1)-③-2)-ｱ	特別史跡藤原宮跡（高殿町個人住宅建築）発掘調査	奈文研	都城発掘調査部（藤原地区）	309
3132F ｲ	2-(1)-③-2)-ｲ	生駒市内須恵器窯跡の調査業務	奈文研	都城発掘調査部 埋蔵文化財センター	310
3133F	2-(1)-③-3)	和束の茶業景観における報告書作成業務	奈文研	文化遺産部	311
3212F-1	2-(2)-①-2)	史跡断夫山古墳地中レーダー探査業務	奈文研	埋蔵文化財センター	312
3212F-2	2-(2)-①-2)	土器（ハソウ）内部の構造解析	奈文研	埋蔵文化財センター	313
3213F-1	2-(2)-①-3)	高知県定福寺所蔵仏像群の年輪年代調査	奈文研	埋蔵文化財センター	314
3213F-2	2-(2)-①-3)	森川如春庵田舎家構成部材の年輪年代調査	奈文研	埋蔵文化財センター	315
3213F-3	2-(2)-①-3)	輪王寺護法天堂及び二荒山神社神輿舎の年輪年代測定	奈文研	埋蔵文化財センター	316
3214F	2-(2)-①-4)	伊川津貝塚出土資料分析業務	奈文研	埋蔵文化財センター	317
3226E-1	2-(2)-②-6)	美術工芸品修理用具等と生産技術保護等③	東文研	保存科学研究センター	318
3226E-2	2-(2)-②-6)	美術工芸品修理用具等と生産技術保護等④	東文研	保存科学研究センター	319
3228F	2-(2)-②-8)	出土鉄製文化財から探る埋蔵環境が超長期腐食機構に及ぼす影響	奈文研	埋蔵文化財センター 都城発掘調査部（平城地区）	320
3229F-1	2-(2)-②-9)	令和4年度国史跡ガランドヤ古墳における運用手法の検討及び墳丘復元法検討業務	奈文研	埋蔵文化財センター	321
3229F-2	2-(2)-②-9)	令和4年度史跡闘鶏山古墳の調査保存に資する基礎的調査	奈文研	埋蔵文化財センター	322
3231E-1	2-(2)-②-11)-ｱ	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務	東文研	保存科学研究センター	323
3231E-2	2-(2)-②-11)-ｱ	特別史跡キトラ古墳保存対策等調査業務	東文研	保存科学研究センター	324
3231F ｱ-1	2-(2)-②-11)-ｱ	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する研究等業務	奈文研	文化遺産部 都城発掘調査部（飛鳥・藤原） 埋蔵文化財センター	325

3231F ｱ-2	2-(2)-②-11)-ｱ	特別史跡キトラ古墳の保存・活用にかかる研究等業務	奈文研	文化遺産部 都城発掘調査部（飛鳥・藤原） 埋蔵文化財センター 企画調整部・飛鳥資料館	326
3311E	2-(3)-①-1)-ｱ	文化遺産国際協力コンソーシアム事業	東文研	文化遺産国際協力センター	327
3312F ｱ	2-(3)-①-2)-ｱ-(ｱ)	令和4年度文化遺産国際協力拠点交流事業（ウズベキスタンにおける考古遺産の科学的調査に関する技術移転を目的とした拠点交流事業）	奈文研	企画調整部	328
3320G-1	2-(3)-②	令和4年度無形文化遺産保護パートナーシッププログラム	アジア太平洋無形文化遺産研究センター		329
3320G-2	2-(3)-②	令和4(2022)年度　ユネスコ未来共創プラットフォーム事業（海外展開を行う草の根のユネスコ活動）「持続可能なまちづくりにおける無形文化遺産の役割に関する国際交流事業」事業	アジア太平洋無形文化遺産研究センター		330
3521F	2-(5)-②-1)	明日香村西橘遺跡出土木製品の保存処理等を経ての総合的研究	奈文研	都城発掘調査部（藤原地区）	331
3523F	2-(5)-②-3)	考古・文献史料からみた歴史災害情報の収集とデータベース構築・公開並びにその地質考古学的解析	奈文研	埋蔵文化財センター	332
3531F-1	2-(5)-③-1)	第一次大極殿院建造物復原整備他にかかる調査委託	奈文研	都城発掘調査部（平城地区） 企画調整部	333
3531F-2	2-(5)-③-1)	平城宮いざない館詳覧ゾーンにかかる学芸業務及び解説案内等業務	奈文研	企画調整部	334
3531F-3	2-(5)-③-1)	特別史跡平城宮跡及び藤原宮跡地内における歴史的環境維持業務	奈文研	研究支援推進部	335
3630	2-(6)-③-2)	被災美術工芸資料等安定化処理及び修理業務	文化財防災センター		336
3650	2-(6)-⑤-2)	令和4年度文化財防災のための詳細資料保存に係る調査等業務	文化財防災センター		337

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3112F-1

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(1)新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
【事業名称】	高野山建造物調査業務(①-2))		
【委託者】	和歌山県高野町	【受託経費】	4,791 千円
【担当部課】	文化遺産部　建造物研究室	【事業責任者】	大林　潤（建造物研究室長）

【スタッフ】鈴木智大（都城発掘調査部主任研究員)、福嶋啓人（都城発掘調査部飛鳥・藤原地区遺構研究室研究員)、目黒新悟（都城発掘調査部平城地区遺構研究室研究員)、山崎有生（同)、髙野麗（同）

【年度実績概要】

和歌山県高野町からの受託研究業務として、高野町内に所在する歴史的建造物の悉皆調査及び個別調査を継続して行っている。

4 年度は、これまでの悉皆調査及び個別の調査成果に基づき、特に重要と考えられる高野山の建築について、高精細写真撮影及び断面図作成を実施した。高精細写真撮影を実施した建物は 40 棟、断面図作成を実施した建物は 36 棟である。

4 か年の調査成果については、5 年 3 月に報告書として刊行した。

金剛峯寺大主殿（和歌山県）外観

壇上伽藍御影堂（和歌山県）外観

【実績値】

調査回数：6 回（延べ 13 日）
調査棟数：36 棟
高精細写真撮影棟数：40 棟
野帳枚数：80 枚
写真カット数：約 1,800 カット
調査研究刊行物：1 件『高野町の歴史的建造物』(5 年 3 月)

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3112F-2

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(1)新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
【事業名称】	佐渡市小木町伝統的建造物群保存対策調査業務（令和 3 年度契約）(①-2))		
【委託者】	新潟県佐渡市	【受託経費】	2,292 千円
【担当部課】	文化遺産部　建造物研究室	【事業責任者】	大林　潤（建造物研究室長）

【スタッフ】島田敏男（建造物研究室特任研究員)、福嶋啓人（都城発掘調査部飛鳥・藤原地区遺構研究室研究員)、目黒新悟（都城発掘調査部平城地区遺構研究室研究員）他 1 名

【年度実績概要】

本事業は、3 年 4 月から事業を開始したが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、契約期間を 4 年 6 月 21 日まで延長し、4 年度に完了したものである。

小木町は、近世に佐渡金山の金銀の集積地として開港した町で、寛文 12 年（1672）以後は、北前船の寄港地として繁栄した。現在の町並みは明治期の大火以後に建てられた建築が多数とみられ、伝統的な木造の町家建築が建ち並ぶ。

本調査は、2 か年計画の 1 年目にあたり、対象地区内の建造物の悉皆調査及び、悉皆調査によって年代的、技法的、意匠的に特徴の認められる物件について、詳細調査を行った。悉皆調査では、地区の地図内の建造物全てについて、建築形態と目視による建築年代の判定を行い、写真を撮影し、リストとプロット図を作成した。詳細調査では、各物件について、調書作成、実測図面作成、写真撮影、資料調査等を行った。

本調査は 2 か年計画の 2 年目として 4 年度も受託契約を行い、調査成果については、4 年度契約事業において刊行した。

奥州屋（佐渡市小木町）外観

清水家住宅（佐渡市小木町）外観

【実績値】

調査回数：4 回（延べ 16 日）
調査棟数：約 1,300 棟（悉皆調査)、27 棟（詳細調査）
野帳枚数：180 枚（悉皆調査)、126 枚（詳細調査）
写真カット数：約 12,500 カット

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3112F-3

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(1)新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
【事業名称】	佐渡市小木町伝統的建造物群保存対策調査業務委託（令和４年度契約）（①-2)）		
【委託者】	新潟県佐渡市	【受託経費】	4,762 千円
【担当部課】	文化遺産部　建造物研究室	【事業責任者】	大林　潤（建造物研究室長）

【スタッフ】島田敏男（建造物研究室特任研究員)、福嶋啓人（都城発掘調査部飛鳥・藤原地区遺構研究室研究員)、山崎有生（都城発掘調査部平城地区遺構研究室研究員)、髙野麗（同上）

【年度実績概要】

佐渡市小木町からの受託調査として、小木町の伝統的建造物群保存対策調査を行った。

小木町は、近世に佐渡金山の金銀の集積地として開港した町で、寛文 12 年（1672）以後は、北前船の寄港地として繁栄した。現在の町並みは明治期の大火以後に建てられた建築が多数とみられ、伝統的な木造の町家建築が建ち並ぶ。

本調査は、2 か年計画の 2 年目にあたり、3 年度に行った悉皆調査によって年代的、技法的、意匠的に特徴の認められる物件について、3 年度に引き続き詳細調査を行った。詳細調査では、各物件について、調書作成、実測図面作成、写真撮影、資料調査等を行った。その他、工作物調査、祭礼調査を行い、報告書に掲載する高精細写真の撮影も行った。また、佐渡市の行う住民説明会において調査成果を報告した。

なお、調査成果については、3 月に報告書を刊行した。

村川家住宅主屋（佐渡市小木町）外観

安隆寺本堂（佐渡市小木町）外観

【実績値】

調査回数：5 回（延べ 20 日）
調査棟数：23 棟（詳細調査）
野帳枚数：151 枚（詳細調査）
写真カット数：約 6,000 カット
調査研究刊行物：1 件　『佐渡市小木町伝統的建造物群保存対策調査報告書』(5 年 3 月刊行)

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3112F-4

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(1)新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
【事業名称】	生駒市内歴史的建造物詳細調査業務(①-2))		
【委託者】	奈良県生駒市	【受託経費】	127 千円
【担当部課】	文化遺産部　建造物研究室	【事業責任者】	大林　潤（建造物研究室室長）

【スタッフ】目黒新悟（都城発掘調査部平城地区遺構研究室研究員）、山崎有生（同）、高野麗（同）、前川歩（畿央大学講師・客員研究員）

【年度実績概要】

生駒市史編纂のための事前調査として、3 年度より継続して行った。

4 年度は、生駒市内の過去の建造物調査の資料収集を行った。また、生駒市内の既指定文化財建造物（国重要文化財、登録文化財等）について、詳細調査を行った。調査を行った建物は、9 件である。それぞれの建物ついて、調書の作成、写真撮影、実測調査を行った。

なお、調査成果は 8 年度に生駒市史の一部として執筆する予定である。

旧生駒町役場（生駒ふるさとミュージアム）外観

【実績値】

調査回数：6 回
調査棟数：25 棟
野帳枚数：74 枚
写真カット数：約 2,200 カット

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3112F-5

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(1)新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
【事業名称】	松江市美保関伝統的建造物群保存対策調査業務委託(①-2))		
【委託者】	島根県松江市	【受託経費】	2,069 千円
【担当部課】	文化遺産部　建造物研究室	【事業責任者】	大林　潤（建造物研究室長）

【スタッフ】島田敏男（建造物研究室特任研究員)、福嶋啓人（都城発掘調査部飛鳥・藤原地区遺構研究室研究員)、目黒新悟（都城発掘調査部平城地区遺構研究室研究員)、山崎有生（都城発掘調査部平城地区遺構研究室研究員）

【年度実績概要】

松江市からの受託調査として、松江市美保関町美保関の伝統的建造物群保存対策調査を行った。

美保関町美保関は、漁業を生業として栄えた港町で、北前船の寄港地として繁栄した。現在の町並みは江戸時代の地割を踏襲し、近世以降の伝統的な木造の町家建築が建ち並ぶ。

本調査は、2 か年計画の 1 年目にあたり、4 年度は悉皆調査と、悉皆調査によって年代的、技法的、意匠的に特徴の認められる物件について、詳細調査を行った。悉皆調査では、地区の地図内の建造物全てについて、建築形態と目視による建築年代の判定を行い、写真を撮影し、リストとプロット図を作成した。詳細調査では、各物件について、調書作成、実測図面作成、写真撮影、資料調査等を行った。

本調査は 5 年度も引き続き継続する予定であり、調査成果については、5 年度に報告書を刊行する予定である。

濱延屋　全景

月奈離宮　全景

【実績値】

調査回数：6 回（延べ 17 日）
調査棟数：400 棟（悉皆調査)、34 棟（詳細調査）
野帳枚数：90 枚（悉皆調査)、170 枚（詳細調査）
写真カット数：約 22,000 カット

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3132F ｱ-2

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(1)新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
【事業名称】	平城京跡左京一条二坊十坪の発掘調査（647 次）（③-2)-ｱ)		
【委託者】	個人	【受託経費】	1,633 千円
【担当部課】	都城発掘調査部（平城地区） 埋蔵文化財センター 企画調整部	【事業責任者】	都城発掘調査部長　箱崎和久

【スタッフ】【スタッフ】
丹羽崇史・桑田訓也(同部平城地区主任研究員)、山崎有生(同部平城地区遺構研究室研究員)、村田泰輔（埋蔵文化財センター主任研究員）、上中央子(同センター元客員研究員)、飯田ゆりあ(企画調整部写真室主任)

【年度実績概要】
・調査経緯
　共同住宅建設に伴う事前の発掘調査
・調査区の位置
　平城京跡左京一条二坊十坪・一条条間路
・調査面積
　70 ㎡
・調査期間
　4 月 4 日～28 日
・調査概要
　地表下約 1.3m で遺構を検出した。その後、東西溝状落込を部分的に掘り下げ、落込の堆積状況を観察した。
・検出遺構
　東西溝 1 条、東西溝状落込 1、東西杭列 2 条
・出土遺物
　埴輪、陶棺、土師器・須恵器・緑釉陶器・陶磁器など土器類、瓦塼類、大型木製品等
・調査所見
　調査区北半で幅約 6.3m、深さ約 1mの東西方向の素掘溝を検出した。その位置から平成 18 年度の第 417 次、平成 19 年度の第 426 次で検出した溝の延長部分とみられ、一条条間路北側溝と考えられる。埋土からは平安時代の遺物が出土した。東西溝の下部からは大規模な東西溝状落込を確認した。この落込には黒色土層が堆積し、その上は橙褐色土によって整地される。黒色土層の上部からは、奈良時代及び古墳時代の遺物が出土した。法華寺の北方で大規模な造成がされていることを確認した。

調査区全景（北東から）

【実績値】
論文等数 1 件：「平城京左京一条二坊十坪・一条条間路の発掘調査（647 次)」『奈良文化財研究所発掘調査報告 2023』(5 年 12 月予定)
(参考値)
出土遺物　：埴輪・陶棺・土師器・須恵器・緑釉陶器・陶磁器など 9 箱、軒丸瓦 5 点、軒平瓦 6 点、丸平瓦 13 箱、木質遺物 7 バット、大型木製品（粗朶 1 本、木杭 1 本)、種子 1 バット等
記録作成数：実測図 5 枚(A2 判)、撮影写真 510 枚

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3132F ｱ-2

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(1)新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
【事業名称】	興福寺東金堂院伽藍整備に伴う発掘調査（649 次）（③-2)-ｱ)		
【委託者】	宗教法人興福寺	【受託経費】	8,901 千円
【担当部課】	都城発掘調査部（平城地区） 埋蔵文化財センター 企画調整部	【事業責任者】	都城発掘調査部長　箱崎和久

【スタッフ】
和田一之輔(都城発掘調査部平城地区考古第一研究室長)、目黒新悟(同部平城地区遺構研究室研究員)、垣中健志(同部平城地区史料研究室研究員)、金田明大（埋蔵文化財センター長)、脇谷草一郎(同センター保存修復科学研究室長)、村田泰輔(同センター主任研究員)、山口欧志(同センター遺跡・調査技術研究室研究員)、中村一郎(企画調整部写真室専門職員)、飯田ゆりあ(同写真室主任)

【年度実績概要】

・調査経緯
　興福寺第 1 期境内整備事業に伴う東金堂院の発掘調査
・調査区の位置
　興福寺東金堂院北面回廊
・調査面積
　335 ㎡（南北 16m×東西 28mのうち支障物を除く）
・調査期間
　7 月 6 日～11 月 18 日
・調査概要
　東金堂院北面回廊の規模と構造を明らかにし、東金堂院の規模を把握することを目的として調査を実施した。地表下約 1mで遺構を検出した。
・検出遺構
　東金堂院北面回廊基壇（礎石 7 基、据付穴・抜取穴 6 基)、基壇に伴う雨落溝 2 条、東西溝 2 条、南北溝 6 条、東西石組列 1 条、道路遺構 1 条、道路側溝 1 条、土坑 3 基、小穴 8 基
・出土遺物
　奈良時代から近世までの土器・陶磁器類及び瓦塼類並びに金属製品等

調査区全景（北から）

・調査所見
　東金堂院北面回廊の建物と基壇の規模・構造が判明した。北面回廊は梁行 1 間の単廊で、桁行 7 間分を検出した。回廊柱間寸法は桁行約 3.4m（11.5 尺）等間、梁行約 3.5m（12 尺）である。基壇規模は、幅約 6.3m（21 尺)、高さは北辺が 0.5m、南辺が 0.1m、基壇の出は南北とも約 1.4m。基壇を貫通する暗渠を設けて、東金堂院の内庭部から回廊の北へ排水していたことが判明した。
　東金堂院北面回廊の再建と変遷の状況が明らかになった。礎石は奈良時代の創建当初とほぼ同じ位置で据え直されたことから、建物は創建当初の位置と規模を踏襲して再建された。今回検出した基壇北辺の乱石積基壇外装は、奈良時代の創建当初の位置を踏襲しているが、平安時代の再建されたものである。
　本調査で明らかになった回廊の構造と規模は、過去の調査で検出した北面回廊と整合することから、東金堂院北面回廊が従来の復元案よりも東へ延び、東西 100m以上となることが確定し、東金堂院の規模が従来よりも大きくなることが判明した。

【実績値】
論文等数：1 件「興福寺東金堂院の調査―第 649 次」『奈良文化財研究所発掘調査報告 2023』(5 年 12 月刊行予定)
(参考値)
出土遺物　：土器類（須恵器・土師器・瓦器・中近世陶磁器：整理用コンテナ 25 箱)、軒丸瓦 61 点、軒平瓦 66 点、雑瓦 388 箱、金属器 11 点、銅銭 2 点、金床石 2 点、鉄滓 1 点、窯壁 260g、凝灰岩 700g、安山岩 800g、木炭 27g 等
記録作成数：実測図 21 枚(A2 判)、撮影写真 2,457 枚

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3132F ｱ-3

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(1)新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
【事業名称】	歴史体験学習館整備に係る埋蔵文化財発掘調査（650 次）（③-2)-ｱ)		
【委託者】	奈良県	【受託経費】	23,314 千円
【担当部課】	都城発掘調査部（平城地区） 企画調整部	【事業責任者】	都城発掘調査部長　箱崎和久

【スタッフ】馬場基(都城発掘調査部平城地区史料研究室長)、川畑純(同部平城地区主任研究員)、浦蓉子(同部平城地区考古第一研究室研究員)、髙野麗(同部平城地区遺構研究室研究員)、道上祥武(同部飛鳥・藤原地区考古第三研究室研究員)、中村一郎(企画調整部写真室専門職員)、飯田ゆりあ(同部写真室主任)、鎌倉綾(同部写真室技能補佐員)

【年度実績概要】

・調査経緯
　奈良県歴史体験学習館建設に伴う発掘調査
・調査区の位置
　平城京左京三条一坊二坪
・調査面積
　北区（南北 25m×東西 19m）475 ㎡、南区（南北 9.94m×東西 21.28）211 ㎡　計 686 ㎡
・調査期間
　9 月 26 日～5 年 1 月 30 日
・調査概要
　調査区は北区と南区の 2 箇所に設定し、地表下約 80 ㎝で遺構を検出した。
・検出遺構
　北区：掘立柱建物 1 棟、南北柱穴列 3 条、東西柱穴列 1 条、蛇行する溝状遺構と花崗岩数点
　南区：東西溝 5 条、南北溝 5 条、掘立柱建物 1 棟、南北柱穴列 1 条
・出土遺物
　古代の土器、瓦塼類等
・調査所見
　北区では東半で、調査区を縦断する南北柱穴列を 9 間分検出した。柱間寸法は 2.4m（8 尺）等間。この柱穴列は坪を東西に 3 分割する分割線に近い位置で検出した。なお、北区は 5 年度に西方に調査区を拡張し、継続して詳細な調査・検討を行う予定であるため、この地区の遺構の評価については 5 年度の成果を待ちたい。
　南区では、調査区東端で東西 3 間、南北 3 間以上の南北棟掘立柱建物を 1 棟検出した。
　以上、この坪における土地利用の状況を考える上で重要な資料を提供した。

南区全景（東から）

【実績値】

論文等数：1 件「平城京左京三条一坊二坪の調査－第 650 次」『奈良文化財研究所発掘調査報告 2023』(5 年 12 月予定)
(参考値)
出土遺物　：土器類 38 箱、瓦塼類 42 箱、冶金関連遺物 37 点
記録作成数：実測図 13 枚(A2 判)、撮影写真 684 枚

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3132F ｱ-4

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(1)新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
【事業名称】	名勝法華寺庭園保存整備事業に伴う発掘調査（651 次）（③-2)-ｱ)		
【委託者】	宗教法人光明宗法華寺	【受託経費】	328 千円
【担当部課】	都城発掘調査部（平城地区） 企画調整部	【事業責任者】	都城発掘調査部長　箱崎和久

【スタッフ】馬場基（都城発掘調査部平城地区史料研究室長)、川畑純（同部平城地区主任研究員)、浦蓉子（同部平城地区考古第一研究室研究員)、道上祥武（同部飛鳥・藤原地区考古第三研究室研究員)、髙野麗（同部平城地区遺構研究室研究員)、飯田ゆりあ(企画調整部写真室主任)

【年度実績概要】

・調査経緯
　名勝法華寺庭園保存整備事業に伴う発掘調査
・調査区の位置
　名勝法華寺庭園・史跡法華寺旧境内
・調査面積
　10.4 ㎡
・調査期間
　10 月 11 日～19 日
・調査概要
　現地表下約 1.3ｍで近世の整地土とみられる層を確認した。また、当該整地土が東方へ向かって下がっていくことを確認し、旧地形の復元に関わる資料を得た。
・検出遺構
　特になし
・出土遺物
　古代～近世の土器、瓦磚類等
・調査所見
　近現代の旧表土以下の遺構面の検出は、調査区南辺部で幅約 50 ㎝、東辺部で幅約 60 ㎝の範囲で部分的に行った。近世の整地土とみられる層を確認したが、明確な遺構は検出できなかった。調査の結果、調査地の現地表面は、近現代の造成により 1m近く盛土され、大きく改変されていることが明らかとなった。

調査区全景（北から）

【実績値】
（参考値）
出土遺物　：金属器 4 点、羽口 1 点、るつぼ 1 点、須恵器・土師器・瓦質土器・近世陶磁器などコンテナ 1 箱分、軒丸瓦 5 点・軒平瓦 2 点、丸瓦・平瓦など整理用コンテナ 13 箱分、木炭 2 点等
記録作成数：実測図 1 枚（A2 判)、撮影写真 72 枚

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3132F ｱ-5

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(1)新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
【事業名称】	法華寺旧境内の発掘調査（653 次）（③-2)-ｱ)		
【委託者】	個人	【受託経費】	2,200 千円
【担当部課】	都城発掘調査部（平城地区） 企画調整部	【事業責任者】	都城発掘調査部長　箱崎和久

【スタッフ】馬場基(都城発掘調査部平城地区史料研究室長)、川畑純(同部平城地区主任研究員)、浦蓉子(同部平城地区考古第一研究室研究員)、髙野麗(同部平城地区遺構研究室研究員)、道上祥武(同部飛鳥・藤原地区考古第三研究室研究員)、中村一郎(企画調整部写真室専門職員)、飯田ゆりあ(同部写真室主任)、鎌倉綾(同部写真室技能補佐員)

【年度実績概要】

・調査経緯
　宅地造成に伴う発掘調査
・調査区の位置
　法華寺旧境内・海龍王寺旧境内
・調査面積
　262.6 ㎡
・検出遺構
　南北溝 3 条、建物 2 棟、柱穴列 3 条等
・出土遺物
　瓦塼類、須恵器等
・調査所見
　南北溝 3 条のうち、最も古い溝は平安時代以前に遡るとみられ、法華寺と海龍王寺の境界を画す溝の可能性が想定できる。
　南北溝の東側では、建物等の顕著な遺構は確認できず、南北溝の西側では、東西棟の掘立柱建物が 2 棟見つかった。南北溝の東西で土地の利用の状況が大きく異なっていたことがわかる。
　南北溝の西側で検出した 2 棟の掘立柱建物のうち 1 棟は、桁行 6 間以上、梁行 2 間で南北に廂を持つ大型建物であることを確認した。柱穴の断割調査の結果、柱の根固めを入念に行うなど相応の規模と格をもった建物であったと考えられる。
　以上、本調査区の古代における土地利用を考える上で重要な資料を提供した。

調査区全景（西から 再拡張前）

【実績値】
論文等数：1 件「法華寺旧境内の発掘調査－第 653 次」『奈良文化財研究所発掘調査報告 2023』(5 年 12 月刊行予定)
（参考値）
出土遺物：瓦塼類 49 箱、土器 6 箱、木器等 1 箱
記録作成数：実測図 15 枚（A2 判)、撮影写真 249 枚

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3132F ｱ-6

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
【事業名称】	西大寺旧境内住宅新築に伴う発掘調査（654 次）(2-(1)-③-2)-ｱ)		
【委託者】	個人	【受託経費】	2,591 千円
【担当部課】	都城発掘調査部（平城地区） 企画調整部	【事業責任者】	都城発掘調査部長　箱崎和久

【スタッフ】西田紀子・小田裕樹・山本祥隆（同部平城地区主任研究員）、田中龍一（同部平城地区考古第三研究室研究員）、中村一郎（企画調整部写真室専門職員）・飯田ゆりあ（同部写真室主任）

【年度実績概要】

・調査経緯
　共同集合住宅建設に伴う発掘調査
・調査区の位置
　西大寺旧境内（西大寺小塔院）
・調査面積
　146 ㎡
・調査期間
　5 年 1 月 11 日～5 年 2 月 3 日
・調査概要
　現地表下約 0.4～0.7ｍで奈良時代の整地土とみられる層を確認した。また、中世の井戸や土坑、時期不明の柵列などを検出した。
・検出遺構
　井戸 2 基、土坑 3 基、東西柵列 2 基、柱穴 1 基など
・出土遺物
　土器類、瓦類、木製品（柱根、礎板など）、金属製品、石製品など
・調査所見
　調査区中央部を中心に、奈良時代の整地土が広く遺存していることが判明した。一方で、古代にさかのぼる可能性のある遺構はごくわずかであった。本調査地では、古代よりむしろ中世の遺構が相対的に顕著で、井戸や土坑、落込みを各所で確認した。

写真 1　調査区全景写真（北東から）

写真 2　拡張区全景写真（北東から）

【実績値】
（参考値）
出土遺物　：土器類（須恵器・土師器・瓦器など）5 箱、軒丸瓦 7 点、軒平瓦 3 点、瓦片 32 袋、木器・木製品（柱根・礎板など）26 点、金属 3 点、銭 1 点、石製品 2 点、砥石 2 点、近現代ガラス装飾品 1 点、自然遺物 1 バット
記録作成数：実測図 10 枚（A2 判）、撮影写真 1,209 枚

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3132F ｱ-7

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(1)新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
【事業名称】	特別史跡藤原宮跡（高殿町個人住宅建築）発掘調査(③-2)-ｱ)		
【委託者】	奈良県橿原市	【受託経費】	411 千円
【担当部課】	都城発掘調査部（藤原地区）	【事業責任者】	副部長　清野孝之

【スタッフ】
岩永玲（考古第三研究室研究員）、廣瀬覚（考古第一研究室長）、鈴木智大（主任研究員）、山藤正敏（主任研究員）、栗山雅夫（企画調整部写真室主任）

【年度実績概要】

○藤原宮跡東方官衙南地区（第 211-1 次）

・調査地：　橿原市高殿町

・調査面積：16 ㎡

・調査期間： 4 月 18 日～4 月 20 日

○調査成果

・本調査は、特別史跡藤原宮跡内における個人住宅建て替えに伴う発掘調査である。調査地は藤原宮東方官衙南地区にあたり、東二坊坊間路東側溝の想定位置から東に約 4m の位置にある。藤原宮期の官衙関連遺構のほか、調査区の北方約 26m の位置で確認されている中世の南北溝の南延長部分の検出が見込まれた。

・基本層序は、上から順に①表土・盛土（10-60 ㎝）、②青灰色シルト・粘質土（20-90 ㎝、近現代の埋立土）、③灰色砂粗砂（20-40 ㎝、自然堆積か）である。調査区全体に近現代の遺物を含む土砂が厚く堆積し、掘削深度内において近世以前の遺構は存在しなかった。調査区の南方で行われた飛鳥藤原第 188-7 次・197-5 次調査では標高 74.6～75.4m にかけて自然流路由来の堆積を確認している。上記③はその延長部分にあたる可能性がある。

・調査の結果、調査区周辺は近現代に約 90 ㎝以上の埋め立てを行っていることが判明し、工事掘削深度内では顕著な遺構は確認できなかった。高殿集落南半における既往の調査では、標高 74.0～75.4m で藤原宮期の遺構を検出している。上述の基本層序③の上面の標高は 74.5-74.6m であり、本調査区周辺では藤原宮期の遺構面は削平を受けたか、埋め立て以前の旧地形が周辺よりも低く掘削深度が遺構面に達していない可能性がある。

調査区全景（南西から）

【実績値】

出土遺物：土器コンテナ 1 箱（古代～近現代）、瓦整理用コンテナ 1 箱（古代～近現代）、ガラス片バット 1 箱

記録作成数：遺構実測図 1 枚、土層断面図 1 枚、デジタル写真（4×5）12 枚、デジタルメモ写真 87 枚

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3132F イ

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(1)新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
【事業名称】	生駒市内須恵器窯跡の調査業務(③-2)-イ)		
【委託者】	奈良県生駒市	【受託経費】	735 千円
【担当部課】	都城発掘調査部・埋蔵文化財センター	【事業責任者】	箱崎和久（都城発掘調査部長）

【スタッフ】金田明大（埋蔵文化財センター長）・神野恵（都城発掘調査部平城地区考古第二研究室長）・今井晃樹（同部平城地区考古第三研究室長）・森川実（同部飛鳥・藤原地区考古第二研究室長）・丹羽崇史・小田裕樹（同部平城地区主任研究員）・若杉智宏（同部飛鳥・藤原地区主任研究員）・田中龍一（同部平城地区考古第三研究室研究員）・玉田芳英（都城発掘調査部客員研究員）

【年度実績概要】

生駒市市史編纂事業に先立ち、生駒市内での須恵器生産の実態及び平城宮・京への須恵器供給の様相を明らかにすべく、生駒市所蔵資料の調査、研究を進めている。

・遺跡の現地踏査

4 年度は、遺跡の現地踏査を行い、窯跡の位置の確認を現地で実施した。生駒市域では須恵器生産のみならず、瓦窯の存在が分布調査や採集資料などから推定されている。4 月に行った踏査では、生駒市東菜畑地区の住民の方が採集し保管していた完形の丸瓦を実見した。須恵器窯については、すでに発掘調査がなされた生駒北方窯、金毘羅窯、長命寺北窯、妙心寺窯跡などの窯跡について位置と現況を踏査で確認した。

・遺物の調査

東菜畑地区の住民が採集した丸瓦を 12 月に生駒市が住民より借り受け、受託調査として当研究所にて詳細な実測、拓本、写真撮影など記録作成を行った。11 月には、生駒北方窯、金毘羅窯などの出土品の調査、写真や実測等の記録化を進めるとともに、奈文研と生駒市が所蔵している採集資料の精査、研究などを継続的に行っている。

4 月 12 日　長命寺窯跡付近の踏査の様子

【実績値】

（参考値）

・遺跡踏査：1 回

4 月 12 日於生駒市

・研究会発表等：1 件

神野恵「考古資料がつなぐ平城京と生駒」(「生駒市史関連講演会　遺跡は語る　生駒の古代」5 年 2 月 19 日　生駒市図書会館 3 階市民ホール)

・実測図 40 点、写真約 30 枚、三次元計測 2 点

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3133F

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(1)新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
【事業名称】	和束の茶業景観における報告書作成業務(2-(1)-③-3))		
【委託者】	京都府和束町	【受託経費】	2,234 千円
【担当部課】	文化遺産部	【事業責任者】	景観研究室長　中島義晴
【スタッフ】○中島義晴（景観研究室長)、惠谷浩子（景観研究室研究員)、竹内祥一朗（飛鳥資料館学芸室研究員)			

【年度実績概要】

・調査報告書作成のため、調査成果の取りまとめや原稿の校正、図面の作成を行った。
・調査報告書の編集を行った。
・調査や委員会等の実施のため、町との協議をメールや電話で随時行った。
・現地調査を計 3 回実施した。

和束町原山の茶園

和束町白栖の集落

【実績値】
委員会報告：3 回
現地調査：3 回
デジタル写真：250 点

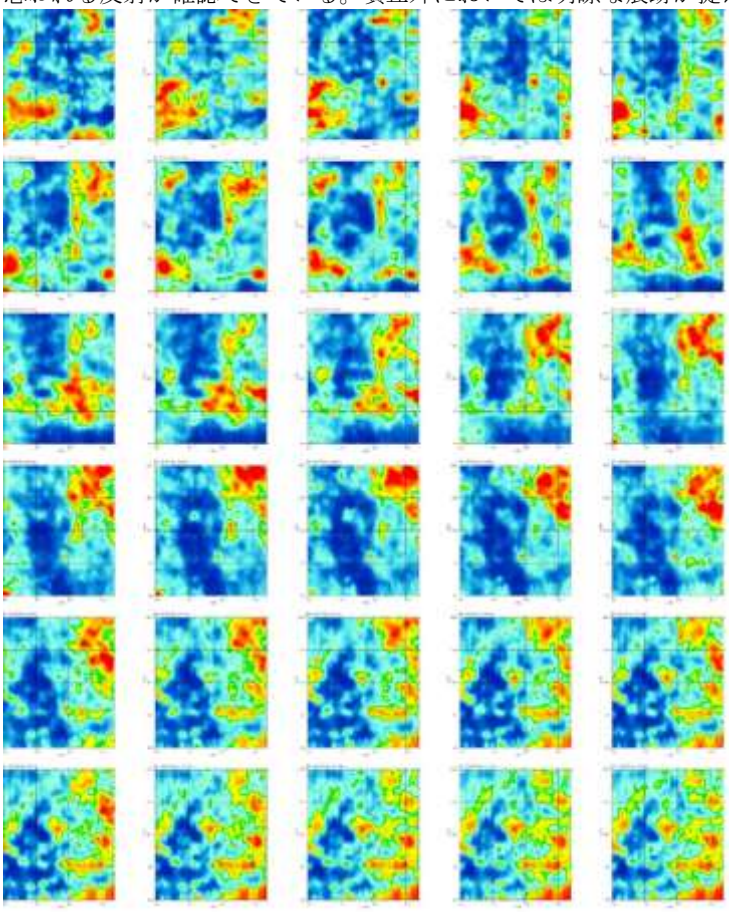
【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3212F-1

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(2)科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	史跡断夫山古墳地中レーダー探査業務(①-2))		
【委託者】	愛知県	【受託経費】	952 千円
【担当部課】	埋蔵文化財センター 遺跡・調査技術研究室	【事業責任者】	埋蔵文化財センター長　金田明大
【スタッフ】山口欧志（遺跡・調査技術研究室研究員）			

断夫山古墳は東海地方最大の古墳時代後期の前方後円墳であり、近年、史跡の追加指定や詳細な内容の情報収集を目的とした研究が進められている。今回は墳丘及び周辺施設の非破壊的な調査による情報収集を目的として地中レーダー探査を実施した。

この結果、墳丘内においては、主体部の可能性がある反射が後円部で捉えられた。また、前方部や造出部分では葺石と思われる反射が確認できている。墳丘外においては明瞭な痕跡が捉えられておらず、より詳細な検討が必要となる。



後円部地中レーダー探査成果

【実績値】
探査地点　9 地点　探査回数　13 件（後円部及び墳丘西側を異なるアンテナ・機器で比較用に探査)。

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3212F-2

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(5)科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	土器（ハソウ）内部の構造解析(①-2))		
【委託者】	株式会社パレオ・ラボ	【受託経費】	118 千円
【担当部課】	埋蔵文化財センター 遺跡・調査技術研究室	【事業責任者】	埋蔵文化財センター長　金田明大
【スタッフ】村田泰輔（埋蔵文化財センター主任研究員）			

【年度実績概要】

株式会社パレオ・ラボから委託さ入れた「土器（ハソウ)」(以下、被検体という。）について、被検体の内容物や製作技法について明らかにするため、当研究所の所有する高エネルギーX 線ＣＴ（HiXCT-1M-SP）を用いて撮像し、3 次元構造解析を行った。3 次元構造解析にあたっては、CT 撮像によって得られたコンピューター断層画像を ExFactVR2.1（日本ビジュアルサイエンス）を用いて積層計算し、立体構造物の作成を行った。被検体の X 線透過・吸収率は、16bit（65,536 諧調）グレーの輝度値として表現され、3 次元構造解析に際し、この輝度値に任意の色調を与えて性状を評価・識別した。

先行する分析（株式会社パレオ・ラボ）により、被検体の内容物に漆が含まれていることが明らかとなっているが、本解析の結果、内容物は少なくとも 2 物質以上によって構成されていることが明らかとなった（図 1)。このうち、赤色～黄色で抽出した部分が、粒子径として少なくとも長軸径が 0.1mm 以下であり、漆と推定される。同質の物質の一部は、土器内部壁面の付着物として分布する。内容物のうち図左方にみられる白色～灰色で抽出した部分は、密度の高い白色部の長軸径が 2～6mm 程度、灰色部の長軸径が 4～12mm 程度の細礫～中礫程度の塊状構造の集積を示す。前述の漆と考えられる物質は、これらの粒子を被覆するように堆積する。

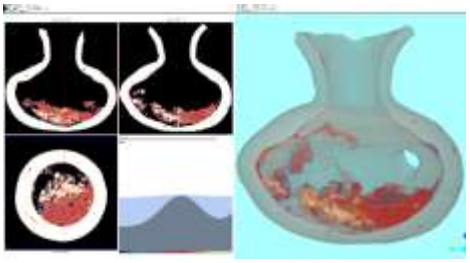


図 1　被検体の内部構造

一方、被検体の構造（図 2）についてみると、本体頸部から頸部（図中 A）と胴体部（図中 B）で胎土の密度が明確に異なる。この密度差に着目して被検体の断層像を観察すると、矢印で示す頸部の付近に空隙が分布する傾向が観察された（図 3)。今回、観察に用いた HiXCT-1M-SP の観察解像度では、この空隙の分布を明確にとらえるには不十分ではあるが、被検体の作製技法において以下の 2 点が推定された。

1）被検体の頸部と胴体部は別の部品によって構成さ入れている。

2）頸部と胴体部の空隙位置からすると、被検体は胴体部に対し頸部を張り付けるようにして作製された可能性がある。

より詳細な構造を明らかにするためには、改めてマイクロフォーカス X 線 CT などでの観察が必要となる。

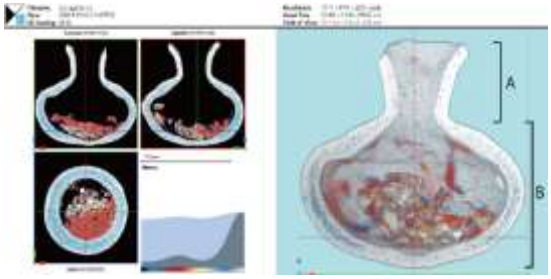


図 2　被検体の胎土密度分布

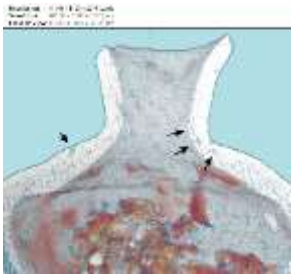


図 3　空隙部分の分布

【実績値】

村田泰輔『X 線 CT を用いた漆容器土器資料の撮像と立体構造データ作成受託事業完了報告書』(5 年 2 月 14 日）

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3213F-1

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(2)科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	高知県定福寺所蔵仏像群の年輪年代調査(①-3))		
【委託者】	定福寺	【受託経費】	436 千円
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	金田明大（埋蔵文化財センター長）

【スタッフ】
星野安治（年代学研究室長）

【年度実績概要】

・高知県定福寺が所蔵する仏像・神像などの木彫像群について、年輪年代調査を実施した。この調査は、定福寺が 5 年に開創 1300 年を迎えるのにあわせて行ったものである。

・その結果、南北朝時代の作と考えられる木造聖徳太子立像について、最外層の年代が 1262 年、また、劣化が著しい神像群について 12 世紀のものであることが示唆される年輪年代が特定された。

定福寺における調査風景

【実績値】
・調査対象点数：26 点

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3213F-2

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(2)科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	森川如春庵田舎家構成部材の年輪年代調査(①-3))		
【委託者】	覚王山日泰寺・一般財団法人 R-INE 財団森川如春庵顕彰会	【受託経費】	627 千円
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	金田明大（埋蔵文化財センター長）

【スタッフ】
星野安治（年代学研究室長）

【年度実績概要】

森川如春庵田舎家は、愛知県葉栗郡（現在の一宮市葉栗地区）の豪農今井家の住宅を、森川勘一郎氏が名古屋市内に茶室として移築したもので、茶室として改造されているものの、江戸時代以前か江戸時代初頭頃の古い農家の形式を残す貴重な建造物とされている。現在、覚王山日泰寺境内に再建が計画されているが、それに先立ち、保管されていた当該建造物部材の年輪年代調査を実施した。

その結果、9 点の部材について年輪年代を特定した。そのうち最も新しいものとして、辺材が残存し、最外層の年代が 1631 年の柱材が見出され，本建造物が 17 世紀中～後期頃に建てられたものであることが示唆された。

年輪年代が特定された柱材

【実績値】
・調査対象点数：18 点

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3213F-3

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(2)科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	輪王寺護法天堂及び二荒山神社神輿舎の年輪年代測定(①-3))		
【委託者】	公益財団法人日光社寺文化財保存会	【受託経費】	392 千円
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	金田明大（埋蔵文化財センター長）

【スタッフ】
星野安治（年代学研究室長）

【年度実績概要】

保存修理が行われている輪王寺護法天堂及び二荒山神社神輿舎の年輪年代調査を実施した。

輪王寺護法天堂では、1633 年に伐採された部材を見出し、本建造物の建築年代に資する年輪年代測定成果が得られた。

二荒山神社神輿舎では、辺材が残存する部材の最外層の年代が1611 年と特定され、元和頃と考えられている建造物的見解と整合的な年輪年代測定成果が得られた。

二荒山神社神輿舎における調査風景

【実績値】

調査対象点数
・輪王寺護法天堂：114 点
・二荒山神社神輿舎：46 点

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3214F

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(2)科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	伊川津貝塚出土資料分析業務(①-4))		
【委託者】	愛知県田原市	【受託経費】	400 千円
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	環境考古学研究室長　山崎健
【スタッフ】			

【年度実績概要】

○愛知県田原市に所在する伊川津貝塚（縄文時代晩期）から出土した動物遺存体の分析を行った。4 年度は現場取り上げ資料、篩別資料（3㎜ メッシュ、1㎜ メッシュ）の分析を行い、合計で 32,721 点を同定した。

○出土資料の同定結果

貝類はアサリとスガイが最も多く、次いでオニアサリ、ハマグリ、ウミニナ科、マガキ、オオノガイなどが含まれていた。魚類はフグ科やニシン科が多く見られ、クロダイ属、スズキ属、カサゴ亜目、アジ科、ウミタナゴ科なども確認された。哺乳類はイノシシ、ニホンジカ、タヌキ、ネズミ科などを同定した。その他に爬虫類ではヘビ亜目が含まれていた。

同定作業風景

【実績値】
分析点数：32,721 点

【受託】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 3226E

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	美工品修理用具等と生産技術保護等③（②-6）		
【委託者】	文化庁	【受託経費】	9,550 千円
【担当部課】	保存科学研究センター	【事業責任者】	修復材料研究室長　早川典子

【スタッフ】
江村知子（文化財情報資料部部長）、前原恵美（無形遺産部）、菊池理予（無形遺産部）、倉島玲央（保存科学研究センター研究員）ほか

【年度実績概要】

本事業では美術工芸品の修理材料及びその生産・製造に用いる用具の原材料について、それらを安定的に供給し続ける上で見られる現況の課題（生産量・流通体制・品質など）の調査を行い、調査結果に基づき具体的な支援策を実施するための枠組み作成を検討する。今後の安定的確保の懸念される材料・用具について、現状の製造方法の記録と、その使用の必要性に関する科学的な裏付けを行う。具体的には以下の調査を遂行した。

1)　装潢文化財に用いる修理用和紙の生産方法に関する記録と使用材料の科学的分析・今後の安定的保存方法の研究
和紙に用いるネリ材料の保存方法に関する調査研究を遂行した。

昨年まで宇陀紙の原料であるノリウツギの確保が懸念されていたが、標津町にて採取が開始され、確保の見通しが立った状況である。しかし、標津町では従来使用してきたホルマリン同封による保存方法が難色を示されているため、冷凍による保管方法を開始した。しかし、冷凍したノリウツギを他の産地で加熱抽出したところ、従来はなかった着色が確認され、この原因解明調査をおこなった。分析により、タンニン酸による影響が強く示唆された。また、関連して日本の他の産地でノリウツギを使用している紙生産地での、ノリウツギ使用方法について現地調査を行なった。

ノリウツギより多く使用されるネリであるトロロアオイについても、冷凍方法など薬剤を使用しない方法について、比較実験を開始した。

2)　彫刻・木質文化財の修理に用いる刃物の製造方法・使用方法に関する記録作成。

彫刻刃物の生産者は全国的にごく少数になっており、また、最も評価の高い生産者が既に廃業を確定していたため喫緊の案件であった。

彫刻刃物の生産方法について記録した動画を用いて、映像の編集を行い、現在の記録とした。併せて、聞き取り調査の編集も行なった。

3)　修理技術者（特に工芸）への実態調査等
工芸分野のうち、4 年度は漆芸品に関する実態調査を行なった。各修理工房にて、現在使用している材料・用具の調査、また、今後の確保が懸念される用具・材料について情報を収集した。
・大西漆芸修復スタジオ　（11 月 18 日）
・小西美術工藝社（5 年 1 月 10 日）
・目白漆芸文化財研究所（5 年 1 月 10 日）
・北村繁氏（5 年 1 月 26 日）

彫刻刃物作製の記録映像編集風景

また、本事業の委員として本事業メンバーと建石センター長が 5 月 23 日及び 5 年 2 月 28 日の委員会に出席した。

【実績値】

【受託】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 3226E-2

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	美工品修理用具等と生産技術保護等④（②-6）		
【委託者】	文化庁	【受託経費】	4,410 千円
【担当部課】	保存科学研究センター	【事業責任者】	修復材料研究室長　早川典子

【スタッフ】
江村知子（文化財情報資料部部長）、前原恵美（無形遺産部）、菊池理予（無形遺産部）、倉島玲央（保存科学研究センター研究員）ほか

【年度実績概要】
本事業では美術工芸品の修理材料及びその生産・製造に用いる用具の原材料について、それらを安定的に供給し続ける上で見られる現況の課題（生産量・流通体制・品質など）の調査を行い、調査結果に基づき具体的な支援策を実施するための枠組み作成を検討する調査研究である。地方自治体や生産者と関連する分野の修理技術者への現状に関する情報発信、関係者を繋ぐ研究会の開催、また、修理技術者への科学的な視点からの基礎的な研修事業を行った。

具体的には以下の事業を遂行した。

1) 彫刻・木質文化財の修理に用いる刃物の製造方法・使用方法に関する記録作成。
4 年度にて途絶した彫刻刃物の生産方法について記録した動画を用いて、映像の編集を行い、現在の記録とした。聞き取り調査の内容と関連づけ、今後の公開活動に使用できる映像の基礎編集を行った。

2) 標津町における紙漉き体験会への協力と今後の研究協議
装潢修理に欠かせない宇陀紙の原材料のノリウツギの生産について協力の申し出のあった標津町にて、宇陀紙生産者の福西氏を招聘して、一般市民向け、および小学生向けに和紙づくり体験学習会が開催され、当研究所も協力した。
また、それに併せて科学的な分析について、今後の研究協力予定を協議した。
開催日：8 月 20 日～21 日
会場　：標津町生涯学習センター（あすぱる）

3) 修理技術者への科学的知識基礎研修
当研究所にて開催された「文化財修復技術者のための科学的知識基礎研修」において、現状の用具材料の確保が困難になっている内容を「伝統材料」の講義にて状況の説明を行なった。
開催日：10 月 31 日～11 月 2 日

和紙づくり体験会にて山口将悟標津町長（左）に指導する福西氏（右）

【実績値】

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3228F

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(2)科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	出土鉄製文化財から探る埋設環境が超長期腐食機構に及ぼす影響(2-(2)-②-8))		
【委託者】	公益財団法人腐食防食学会	【受託経費】	1,540 千円
【担当部課】	埋蔵文化財センター、都城発掘調査部（平城地区）	【事業責任者】	保存修復科学研究室長　脇谷草一郎

【スタッフ】
和田一之輔(都城発掘調査部（平城地区）考古第一研究室長)、柳田明進(保存修復科学研究室研究員)

【年度実績概要】

・放射性廃棄物を格納するオーバーパック材の超長期腐食寿命予測モデルの妥当性の検証に資する情報を取得するため、平城宮出土鉄製遺物を対象として、鉄製遺物の劣化状態、色調、金属部の残存状況について悉皆調査を実施し、出土位置と劣化状態の関係を整理した。
・平城宮内の埋蔵環境を把握するため、これまでに報告されている地質及び水質調査データをリスト化し、解析した。
・鉄製遺物の状態をより詳細に把握するため、その中から抽出した鉄製遺物について、蛍光 X 線分析、X 線回折分析、X 線 CT を行い、非破壊にて構造調査を実施した。

出土位置と鉄製遺物の劣化状態の関係
青色：劣化が緩慢、赤色：劣化が顕著

【実績値】
事業報告書：1 件

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3229F-1

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(2)科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	令和4年度国史跡ガランドヤ古墳における運用手法の検討及び墳丘復元法検討業務(②-9))		
【委託者】	大分県日田市	【受託経費】	405千円
【担当部課】	埋蔵文化財センター　保存修復科学研究室	【事業責任者】	保存修復科学研究室長　脇谷草一郎

【スタッフ】
柳田明進（保存修復科学研究室研究員）

【年度実績概要】

・ガランドヤ1号墳については、これまで実施してきた保存環境のモニタリング調査を継続して実施した。特に4年度から開始された一般公開が保存環境に対して及ぼす影響の有無について検討を行った。
・ガランドヤ2号墳については、石室内部の石材表面に緑色の藻類が認められたことから、石室内部の照度を低減する措置をとった。この措置による藻類の増減をモニタリングするため、測色計を用いた藻類の簡易定量測定を行った。また、わずかに現地に残る封土を保全する方法として、砂質土による封土の埋め戻しと定期的な散水を計画した。その予備的な作業として封土への定期的な散水と、その後の土壌含水率変化のモニタリング調査を実施した。

ガランドヤ2号墳封土の散水試験

【実績値】
事業報告書：1点
現地調査：4回（6月、8月、11月、5年3月）

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3229F-2

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(2)科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	令和4年度史跡闘鶏山古墳の調査保存に資する基礎的調査(②-9))		
【委託者】	大阪府高槻市	【受託経費】	1,400 千円
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	金田明大
【スタッフ】○金田明大（埋蔵文化財センター長)、山口欧志（埋蔵文化財センター研究員)			

【年度実績概要】

4年度は新型コロナウイルスの影響や機器の調達難による延期を踏まえて、実際の計測作業を行った。

高槻市埋蔵文化財センターに作成された模擬石槨により試験を行い、従来のケーブルガイド方式の結果、安全に計測可能な剛性が確保できなかったことから、テレスコピックのカーボンシャフトとワイヤーを核とした機材を作成し、試験を行い、実際の古墳が開口可能となる10月24日～31日において計測を実施した。

いずれの石槨も情報不足による工夫が必要であり、状況が模擬石槨と大きく異なったことから、現地での機材の改良や工夫が必要となり、作業は困難を極めたが、改良の結果、第一石槨については内部へのカメラの挿入と推進を達成し、三次元計測用の画像取得を行うことができた。第二石槨は予想以上に小型の為、作成した機材が使用できず、急遽作成した機材による計測を行ったことから、内部でのカメラを推進しての画像取得はできず、開口部から角度を変えて撮影した。

これらの成果については現在解析を進めている。

作成した機材

試験用の模擬石槨

【実績値】

取得データ

静止画像　871枚

360度画像　538枚

動画　2セット

【受託】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 3231E-1

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(2)-②-10) 高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究		
【事業名称】	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務		
【委託者】	文化庁	【受託経費】	33,666 千円
【担当部課】	保存科学研究センター	【事業責任者】	建石徹（センター長）

【スタッフ】
早川泰弘（副所長）、朽津信明、犬塚将英、秋山純子、早川典子、佐藤嘉則、千葉毅、芳賀文絵、倉島玲央、鳥海秀実、島田潤、西田典由（以上、保存科学研究センター）、片山葉子、宇髙健太郎（以上、客員研究員）、水谷悦子（保存科学研究センター併任、文化財防災センター）

【年度実績概要】
国宝高松塚古墳壁画の恒久的な保存方針に基づき、壁画の修理、修理環境の保全及び壁画の保存・活用に係る調査・研究業務を実施した。

○壁画の制作技法に関する事項
・材料調査班で開発を行った小型 X 線回折分析装置を用いて、奈良文化財研究所とともに、西壁女子群像及び青龍が描かれている壁画の彩色材料の分析調査を実施した。
・今後、壁画の分析調査への適用を検討しているハイパースペクトルカメラの性能評価を目的として、設置方法の検討及び手板試料を用いた基礎実験を行なった。
・高松塚古墳壁画の保存活用に資するため、壁画の模擬試料を複数種作成し、構成部材の耐久性等を検討した。

・壁画の維持管理方針やその具体的内容について、科学的・学術的な助言を文化庁へ行った。また、維持管理の作業内容を検討するため、月に１回程度、修理施設等で文化庁及び関係者との協議を行った。
　修復処置を施した代表的な箇所 4 点につき、目視状態観察と測色を含めた経過観察を継続的に行なった。
・壁画の修理作業に関する各種データの整理とアーカイブ化を行い、報告書の作成準備を行った。
　また、発見以降の点検時の記録について、包括的な目録化を開始し、各種資料について関係者や専門家による助言を受けた。

○壁画の保存環境の維持管理に関する事項
・高松塚古墳壁画を良好な環境で保存活用するため、修理施設の温湿度、並びに空気質、浮遊粒子、浮遊微生物、付着微生物、並びに落下微生物（年2回）、生息生物のモニタリング調査（年4回）を実施し、適切な保存環境の維持管理を行った。
・高松塚古墳壁画が適切な場所で保存管理・公開が行われることを見据え、これまでの環境調査データをもとにして古墳壁画の保存環境管理指針の策定に関する研究成果を学会にて発表した。

XRD による西壁女子群像の調査

○その他
・4 年度行われた国宝高松塚古墳壁画仮設修理施設（国営飛鳥歴史公園内）の一般公開に際して、延べ 7 名を派遣し、立会い説明等を行った。また、一般公開にあたり新型コロナウイルス対応について助言を行った。
・古墳壁画保存関連の事業全般について情報共有を行い、効率的で正確な作業を行うために、奈良文化財研究所と古墳壁画保存対策プロジェクトチーム会議を二回開催した。
・文化庁主催の「古墳壁画の保存活用に関する検討会」（第 30、31 回）に、奈良文化財研究所とともに事務局として出席した。

【実績値】

【受託】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 3231E-2

業務実績書(受託事業)

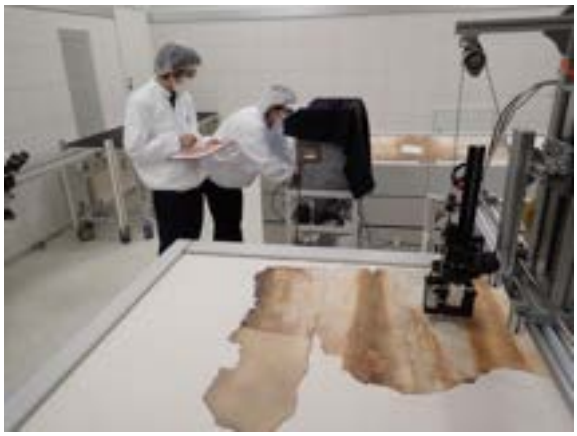
中期計画の項目	2-(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	特別史跡キトラ古墳保存対策等調査業務（2－(2)－②－11)－ア）		
【委託者】	文化庁	【受託経費】	17,431 千円
【担当部課】	保存科学研究センター	【事業責任者】	建石徹（センター長）

【スタッフ】
犬塚将英（分析科学研究室長)、佐藤嘉則（生物科学研究室長)、秋山純子（保存環境研究室長)、早川典子（修復材料研究室長）ほか

【年度実績概要】
特別史跡キトラ古墳から取り出された壁画の保存修復措置に係る資料整備、古墳・壁画の保存・活用に係る調査・研究の業務を実施した。

○キトラ古墳壁画の制作技法に関する事項
・これまでに可搬型蛍光X線分析装置を用いて実施した元素分析調査結果について、データ解析及び調査報告書刊行のための準備を行った。
・十二支のうち泥の下に描かれている可能性が示唆されている辰・巳・申の図像を確認するために、奈良文化財研究所とともに2次元元素マッピングによる分析調査を実施した。
・キトラ古墳壁画の保存活用に資するため、壁画構成部材の物性評価(引張強度・水蒸気吸脱着等温線)を行った。
・保存中の壁画に点検のたびに塵埃が確認されたことから、蓋の作製が急がれていた。2年度に作製した試作品を元に、安全性や通気性などを評価して改良し、基本設計を確定した。また、その設計に沿って、蓋を作製した。

○キトラ古墳壁画の保存環境の維持管理に関する事項
・再構成されなかった漆喰片を含むキトラ古墳壁画（5面）の最適な保存管理方法について、キトラ古墳壁画保存管理施設（キトラ古墳壁画体験館四神の館内）等で、関係者の協議を行い、必要な指示を行った。
・年間4回行われるメンテナンス作業と、毎週の点検作業において報告の多かった埃対策として、蓋を作成する可能性を検討し、試作品内部の環境調査を奈良文化財研究所と連携して行った。
・キトラ古墳壁画の保存管理に最適な設備環境に関し、保存科学・生物学等の観点から、必要な検討を行い、壁画の適切な保存・活用のための知見を提供した。



キトラ古墳壁画の可視光分析調査

【実績値】

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3231F ｱ-1

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(2)科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する研究等業務(②-11)-ｱ)		
【委託者】	文化庁	【受託経費】	37,182 千円
【担当部課】	文化遺産部 都城発掘調査部（飛鳥・藤原） 埋蔵文化財センター	【事業責任者】	埋蔵文化財センター長　金田明大

【スタッフ】清野孝之（都城発掘調査部副部長）、内田和伸（文化遺産部長）、廣瀬覚（都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）考古第一研究室長）、脇谷草一郎（埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長）、田村朋美（都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）主任研究員）

【年度実績概要】

○高松塚古墳の昭和 47 年出土品再整理作業の一環として、高松塚古墳版築切取資料の台座と収納箱を作製した。
○昭和 47 年出土品再整理報告書作成に向けた整理作業と、出土棺飾金具の取り付け方法の再現の検討を行った。
○高松塚古墳壁画のデジタルアーカイブ作業として、壁画発見時の高松塚古墳再現三次元モデル（石室・墳丘・仮設覆屋）を作成した。また、高松塚古墳周辺地形・関連古墳(植山古墳ほか）の三次元モデルの作成及び、高松塚古墳の石室解体時の映像記録のデジタルアーカイブ化を行った。
○壁画の色料調査に使用する X 線回折分析装置を、安全性の評価及び分析条件の検討を経て、実際に壁画の分析調査に適用した。
○高松塚古墳壁画に使用された材料について科学的に検討するため、3 年度に引き続き可視分光分析を行い、得られた測定データを解析した。
○高松塚古墳壁画及びその他の古墳壁画を安定に保存するための温湿度環境の提案に向け、壁画構成材料の変形特性の評価を進めた。
○新たに建設される保存管理施設へ安全に石室石材を搬送するための基礎データを得るため、3 年度に引き続き施設内で石室石材を移動させた際の振動計測を実施し、その結果を解析した。
○高松塚古墳壁画仮設修理施設において、保存環境を良好に保つため、壁画保管室等の保管環境の管理、壁画の状態観察を行った。
○壁画の経年変化を把握するため、記録撮影を行った。
○文化庁と連携し、年間 4 回の仮設修理施設の一般公開において、研究員を派遣し、高松塚古墳壁画に関する解説を行った。

西壁石(女子群像)の X 線回折分析による調査風景

○仮設修理施設の一般公開時に壁画の図柄の乾拓体験のイベントを秋に行った。また、壁画の顔料に関するリーフレットを作成し、参考資料として配布した。

【実績値】
・X 線回折分析：2 件
・可視分光分析：1 件

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3231F ｱ-2

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(2)科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	特別史跡キトラ古墳の保存・活用にかかる研究等業務(②-11)-ｱ)		
【委託者】	文化庁	【受託経費】	80,083 千円
【担当部課】	文化遺産部 都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区） 埋蔵文化財センター 企画調整部・飛鳥資料館	【事業責任者】	埋蔵文化財センター長　金田明大

【スタッフ】清野孝之（都城発掘調査部副部長）、内田和伸（文化遺産部部長）、石橋茂登（飛鳥資料館学芸室長）、脇谷草一郎（埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長）、若杉智宏（都城発掘調査部主任研究員）、清野陽一（飛鳥資料館主任研究員）、樋口典昭（都城発掘調査部アソシエイトフェロー）、濱松佳生（飛鳥資料館アソシエイトフェロー）、王杰（飛鳥資料館アソシエイトフェロー）、松野美由樹（埋蔵文化財センター保存修復科学研究室アソシエイトフェロー）

【年度実績概要】

・文化庁キトラ古墳壁画保存管理施設の日常的な管理運営を行った。
・キトラ古墳壁画の第 23 回公開（5 月 21 日～6 月 19 日）、第 24 回公開（7 月 23 日～8 月 21 日）、第 25 回公開（10 月 15 日～11 月 13 日）、第 26 回公開（5 年 1 月 21 日～2 月 19 日）の印刷物・解説映像・解説音声等の作成、印刷物発送及びインターネット媒体等への広報提供等を行った。
・壁画非公開期間における展示室公開と新年特別展示「キトラ古墳壁画に込められた思想」（12 月 15 日～5 年 1 月 17 日）を実施し、看視員 1 名を派遣した。キトラ天文図を解説するプラネタリウムイベント 2 回（10 月 27 日～11 月 6 日、5 年 2 月 2 日～2 月 12 日）を実施した。

第 25 回壁画公開の様子

・仮設保護覆屋存在時及び墳丘整備後の状況を再現した VR コンテンツに利用するため、キトラ古墳の現状の周辺地形の 3 次元モデルの作成を進めた。
・キトラ古墳壁画に用いられている色料に関する情報を得るため、可視分光分析を行った。
・泥に覆われたキトラ古墳壁画の十二支像の有無を調査するため、蛍光 X 線分析の 2 次元マッピングを実施した。
・壁画の変化を 3 次元的にモニタリングする手法として、フォトグラメトリーの一つである SfM-MVS 技術について検討を進めた。
・キトラ古墳壁画への蓋の設置を検討するため、モックアップを用いた温湿度測定を実施した。
・キトラ古墳壁画の経年変化を追跡調査するために、高精度カメラによる撮影を行った。
・キトラ古墳壁画の保存と活用に関する取り組みとして、保存管理施設における歩行性昆虫のトラップ調査、環境カビ調査、展示室展示ケースのガス濃度測定、温湿度調査、並びに粉塵量測定を実施した。また、秋の壁画公開期間にあわせて、移動式のプラネタリウムを設置し、「キトラ古墳壁画 天文図と中国星座の世界」の投影イベントを実施した。
・整備後墳丘の維持管理のため、キトラ古墳墳丘法面植栽の経過観察を行った。
・保存管理施設に基本 2 人以上の人員が常駐する体制を整え、施設の出入りと作業に関するマニュアルに則り、空調の設定及び運転状況の確認、施設内の清掃、壁画の目視による状態観察や修理技術者による壁画点検への協力、生物対策、各種業者点検の立ち合いなどの作業を行った。地震、台風、豪雨等の後は収蔵品・施設・墳丘等を目視点検し関係者に情報共有した。また、飛鳥管理センター及び飛鳥歴史公園事務所との日常的な連絡調整、月 1 回の関係者協議参加等の連絡調整作業を行った。キトラ古墳壁画の公開は 4 回実施した。壁画非公開期間においては、看視員 1 名を配置して、展示室の公開を実施し、出土品レプリカや石室模型などを展示した。このほか、保存管理施設のホームページを運営し、施設の紹介、公開等に関する情報を掲載した。

【実績値】

・可視分光分析：1 件
・蛍光 X 線分析：1 件

【受託】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 3311E

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(3) 文化遺産保護に関する国際協働		
【事業名称】	文化遺産国際協力コンソーシアム事業（①－1）－ｱ)		
【委託者】	文化庁	【受託経費】	42,995 千円
【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	文化遺産国際協力センター長　友田正彦（事務局長）

【スタッフ】金井健（国際情報研究室長）、藤井郁乃、邱君妮、前田康記（以上、アソシエイトフェロー）、廣野都未（事務補佐員）

【年度実績概要】

○文化遺産国際協力に係る諸課題について議論するとともに、各分野の研究者や関係機関との連携を図るために各種会議を開催した。新型コロナウイルス感染症対策から会議等は原則オンラインとしたが、いずれも活発な議論が行われ、必要な連携を図ることができた。また、今後の協力のあり方の検討に資するための情報収集を目的に海外調査を実施した。さらに、文化遺産保護に関する国際協力の活動を広く周知するため研究会（2 回）とシンポジウム（1 回）を開催し、このうちシンポジウムは時勢を捉えて海外専門家を含む対面開催（オンライン併用）で行った。

Ⅰ．コンソーシアムの会議の開催

・運営委員会を 2 回開催し、コンソーシアム全体としての活動方針等を協議した。
・企画分科会を 6 回、東南アジア・南アジア分科会、西アジア分科会、東アジア・中央アジア分科会、欧州分科会、アフリカ分科会、中南米分科会を各 2 回ずつ、計 18 回を開催した（以上、全てオンライン）。

Ⅱ．情報収集

・複数国の協力による文化遺産保護の支援をテーマに、EU や国際 NGO による域内外での多様な活動が実践されているヨーロッパの組織における支援体制についての情報収集を目的とした現地調査を行い、報告書を刊行した。

Ⅲ．情報発信

・コンソーシアム公式ウェブサイトで文化遺産国際協力に関わる活動の周知広報を図った。また、会員向けメールニュース（主催等イベント告知、国内外文化遺産関連イベントの案内等）を配信した。
・研究会「技術から見た国際協力のかたち」「中央ヨーロッパにおける文化遺産国際協力のこれまでとこれから」、シンポジウム「気候変動と文化遺産－いま、何が起きているのかー」を開催し、動画の公開、報告書の刊行を行った。

シンポジウム　パネルディスカッションの様子

【実績値】

運営委員会の開催：2 回、分科会の開催：(企画分科会 6 回、東南アジア・南アジア分科会 2 回、西アジア分科会 2 回、東アジア・中央アジア分科会 2 回、欧州分科会 2 回、アフリカ分科会 2 回、中南米分科会 2 回) 合計 18 回、研究会の開催：2 回、シンポジウムの開催：1 回、研究者の海外派遣：1 回（4 人）海外専門家の招聘：1 回（1 人）

（成果物）

① 報告書『JCIC-Heritage's 2021 Symposium “Maritime Network and Cultural Heritage - People and Objects Connected by Oceans”』(英語版：200 部、5 年 2 月刊行)
② 報告書『Report on the 30th Seminar “Cultural Heritage x Citizen Engagement = Potential for Multi-actors' International Cooperation”』(英語版：200 部、5 年 3 月刊行)
③ 報告書『第 31 回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会「技術から見た国際協力のかたち」』(日本語・英語版：各 200 部、5 年 3 月刊行)
④ 報告書『第 32 回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会「中央ヨーロッパにおける文化遺産国際協力のこれまでとこれから」』(日本語版：200 部、5 年 3 月刊行)
⑤ 報告書『令和 4 年度文化遺産国際協力コンソーシアムシンポジウム　気候変動と文化遺産－いま、何が起きているのかー』(日本語版：200 部、5 年 3 月刊行)
⑥ 報告書『文化遺産国際協力コンソーシアム令和 4 年度国際協力調査　欧州における複数国協力体制およびウクライナ支援動向に関する調査報告書』(日本語版：200 部、5 年 3 月刊行)
⑦ 動画『第 31 回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会　技術から見た国際協力のかたち』、『第 32 回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会　中央ヨーロッパにおける文化遺産国際協力のこれまでとこれから』、『令和 4 年度文化遺産国際協力コンソーシアムシンポジウム　気候変動と文化遺産－いま、何が起きているのかー』(以上、全てオンライン配信)

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3312Fア

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(3)文化遺産保護に関する国際協働		
【事業名称】	令和4年度文化遺産国際協力拠点交流事業(ウズベキスタンにおける考古遺産の科学的調査に関する技術移転を目的とした拠点交流事業) (①-2)-ア-(ア))		
【委託者】	文化庁	【受託経費】	11,860千円
【担当部課】	企画調整部	【事業責任者】	企画調整部長　加藤真二
【スタッフ】加藤真二(企画調整部長)、庄田慎矢(企画調整部国際遺跡研究室長)、村上夏希(同アソシエイトフェロー)、西原和代(同)、田村朋美(都城発掘調査部主任研究員)、山藤正敏(同)			

【年度実績概要】

本事業は、サマルカンドの国際中央アジア研究所(以下 IICAS)及びサマルカンド考古学研究所を現地拠点機関とし、人工遺物と自然遺物に関して、基礎的な整理から最先端の科学的分析手法までの知識やスキルを、現地の若手研究者との共同作業を通じて移転することで、中・長期的に同地における出土遺物の調査研究と保護に役立てることを目的とする。

8月3日、「出土遺物の整理・分析・保管プロセス概論」というテーマで、第1回オンライン研修を行った。研修講師は庄田慎矢、山藤正敏に加え、荻山琴美(大分県立歴史博物館)、エヴァ・ローゼンストック(ボン大学)が務め、パワーポイント資料「発掘調査後の出土遺物に関する作業工程概観」「出土遺物の記録・整理・保管」「保存科学実験室のリノベーション」「考古科学研究室の立ち上げ」をロシア語翻訳、ウズベク語通訳(ロシア語を事前に吹き込みをした動画にウズベク語による通訳をいれた)し、オンライン研修を行った。研修には電子メールやZoomを活用し、学習の支援や習熟度確認を図った。

9月26日～28日、「発掘現場での遺物収集と分析試料採取」をテーマに、第1回現地研修を行った。庄田慎矢、竹田義之(第一合成株式会社)による講義に加え、乾燥ふるい選別法とフローテーション法、土壌選別法によって検出した炭化植物遺存体の観察、土色帖・土色計の利用、カフィル・カラ遺跡及びスリマン・テパ遺跡の発掘調査現場視察などの実習を行った。土壌サンプルの状態及び分析の目的によって試料採取の方法を使い分ける必要があること、サンプリング及び土壌選別法実施時の記録事項、目的に合わせた器具の選択、試料汚染を防ぐための器具の取り扱いなどについて、実技を交えて解説した。手技や工程の意図について活発な質問があり、現地で道具の工夫も行われるなど、手を動かすことで知識を身につけていく実践的なワークショップとなった。研修終了後、次回の現地研修の教材について協議を行った。サマルカンド考古学研究所所蔵資料を実見し、タイル及び陶器片を対象とすることで合意を得た。

11月29日、「蛍光X線分析を用いた文化財調査」というテーマで、第2回オンライン研修を行った。村上夏希による文化遺産の調査研究で最も多用される手法の一つである蛍光X線分析法に関する講義を行った。サマルカンド考古学研究所には本装置の導入予定があるということで、参加者の関心も高く、積極的な質疑応答が行われた。

12月6日～7日、「文化財文化財の状態調査と環境管理」をテーマに、第2回現地研修を行った。村上夏希による「色の見え方と測り方」及び「資料の保存環境」に関する講義に加え、それぞれの講義に対応したハンズオンの実習(測色計を用いたサマルカンド考古学研究所に所蔵されている、コックサライ遺跡、アフラシヤブ遺跡出土タイル・陶磁器試料の分析、虫トラップ、パッシブインディケーター、データロガーを用いた、収蔵庫の環境モニタリングを想定した実技研修)を行った。

5年1月18日～24日に、ウズベキスタンより5名の専門家を招へいし、当研究所、帝京大学文化財研究所、東京文化財研究所などで第1回招へい研修を実施した。

現地研修の様子

【実績値】

【受託】　施設名 アジア太平洋無形文化研究センター　処理番号 3320G-1

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(3)-②アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究		
【事業名称】	令和4年度無形文化遺産保護パートナーシッププログラム		
【委託者】	文化庁	【受託経費】	48,986千円
【担当部課】	―	【事業責任者】	所長　岩本　渉

【スタッフ】野嶋洋子（研究担当室長)、外間尹隆（前総務担当室長)、池田明子、井上愛奈、大倉美恵子、岡部政美(以上アソシエイトフェロー)

【年度実績概要】

(1)アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する調査研究

①海外研究機関との連携による研究情報の持続的な収集

・　3年度に引き続きキルギス、フィリピンの機関と連携し、情報収集を実施した。

・　対象地域を中央アジア及び小島嶼開発途上国(SIDS)に移し、新たに情報収集事業を開始した(～6年度)。
中央アジア：ウズベキスタン、カザフスタン、タジキスタン、モンゴル各国の機関と連携。オンラインワークショップ（8月10日開催）を経て、情報収集に着手。
SIDS：バヌアツ、パプアニューギニア、パラオ、東ティモール、フィジー、モルディブ各国の機関と連携を確立。5年2月21日にワーキングセッションをオンライン開催、情報収集ガイドラインを検討した。

・　新たに205件の研究情報をIRCI研究データベースに投入した（5年3月)。

②研究データベースの活用促進に向けた仕組みづくり

・　IRCI研究データベースに国別検索機能を追加し、既存データの文献、研究者、研究機関情報を紐付け、利便性を高めた。データ登録・修正方法など管理面も簡便化した。

③拠点形成による無形文化遺産保護のための研究ネットワーク強化

・　「アジア太平洋地域における無形文化遺産保護のための研究フォーラム」を立ち上げ、Facebookグループも開設した（11月)。

・　アジア太平洋地域の専門家6人による企画委員会を3回開催した（7月25日、10月4日、5年3月23日)。

・　フォーラム最初の企画として、オンラインセミナーを開始した。4年度は以下のセミナーを実施した。

第1回：Community Involvement in ICH Research（12月13日)
第2回：ICH in a Climate of Emergency　(5年3月17日)
第3回：Learning from the initiatives of good safeguarding practices in the 2003 Convention (5年3月23日)

地域ワークショップの模様（(1)-④)

④無形文化遺産と災害リスクマネジメントに関する調査研究

・　3年度に実施したワークシート調査を踏まえ、8か国(インドネシア、日本、バヌアツ、バングラデシュ、フィジー、フィリピン、ベトナム、モンゴル)を対象にオンライン・ワークショップを開催した(8月5日、9月7日)。

・　各国において現地調査が実施された(10月～5年2月)。

(2)無形文化遺産保護及びその研究に関連する国際会議等の開催

①「第11回IRCI運営理事会」(10月28日、オンライン)を開催し、5年度事業計画について承認を得た。

②無形文化遺産保護のためのオンラインセミナーの開催（上記(1)③参照)

(3)無形文化遺産の保護に係るネットワークの構築

①国際会議等への出席

・　'Capacity Building for Safeguarding Intangible Cultural Heritage in Emergencies in Small Island Developing States in the Pacific and the Caribbean'（ユネスコ主催）(4月7日、オンライン)

・　無形文化遺産保護条約政府間委員会第5回臨時会合(7月1日、オンライン)

・　第9回無形文化遺産保護条約締約国会議(7月5～7日、パリ・ユネスコ本部)

・　無形文化遺産保護条約第17回政府間委員会（11月28日～12月3日、モロッコ、ラバト)

・　Regional Consultation on UNESCO Framework for Culture and Arts Education（2月13～14日、オンライン)

②C2センター連携

・　第11回中国C2センター運営理事会（4月20日、オンライン）への陪席

・　第10回C2センター会合(7月8日、パリ・ユネスコ本部）への出席

・　2022年韓国C2センター運営理事会（11月11日、オンライン)への陪席

・　中国C2センター主催の若者向けワークショップへの協力(8月～9月)

③情報公開・普及活動等

・　「IRCI概要2022」「IRCIリーフレット（改定版)」日・英版を制作した。

・　ウェブサイトの定期的更新に加え、Facebookページを開設し（11月)、情報公開に努めた。

・　第17回政府間委員会でIRCIのプロモーション展示を行った（11月28日～12月3日)。

【実績値】国際会議等開催件数：7件（セミナー3件含む)、国際会議等出席件数：6件、ウェブサイトアクセス件数：17,146件(4月1日～5年3月31日)、データベース登録件数：3,026件（5年3月31日時点)、検索件数：5,089件(4月1日～5年3月31日)

【受託】　施設名 アジア太平洋無形文化研究センター　処理番号 3320G-2

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(3)-②アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究		
【事業名称】	令和 4(2022) 年度　ユネスコ未来共創プラットフォーム事業（海外展開を行う草の根のユネスコ活動)「持続可能なまちづくりにおける無形文化遺産の役割に関する国際交流事業」事業		
【委託者】	公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター	【受託経費】	3,838 千円
【担当部課】	—	【事業責任者】	所長　岩本　渉
【スタッフ】野嶋洋子（研究担当室長)、佐々木一恵（アソシエイトフェロー)			

【年度実績概要】

9 月 21 日付けで「ユネスコ未来共創プラットフォーム事業」に採択されたことを受け、IRCI 事業「無形文化遺産の持続可能な開発への貢献：持続可能なまちづくりと無形文化遺産」の関係者等を招聘し、国際シンポジウムを開催した（5 年 1 月 31 日-2 月 2 日、開催場所：奈良文化財研究所及び奈良国立博物館)。

［日程］

・5 年 1 月 31 日(奈良文化財研究所)：シンポジウムに先立ち、カンボジア・フィジー・マレーシアの事業関係者による専門家会合を開催し、4 年度実施した予備調査成果及び 5 年度の調査計画について議論した。
・5 年 2 月 1 日(奈良文化財研究所)：国際シンポジウム(対面＋オンラインのハイブリッド形式、日英同時通訳あり)
上記事業で連携するカンボジアのアプサラ・ナショナル・オーソリティー、フィジーのイタウケイ言語文化研究所、マレーシアのジョージタウン世界遺産事務所(George Town World Heritage Incorporated(GTWHI))の専門家に加え、オーストラリア、タジキスタン、ネパール、フィリピン、日本(北海道)からも関係者を招き、SDG ターゲット 11.4(世界の文化遺産及び自然遺産の保護・保全の努力を強化する。)達成を視野に、歴史的・文化的景観の保護や管理における無形文化遺産の役割、及び、有形・無形を含めた文化遺産の統合的保護の可能性について、アジア太平洋各地の取り組みや事例をもとに議論した。基調講演は本中奈良文化財研究所長が行った。
・5 年 2 月 2 日(奈良国立博物館)：エクスカーションとして、奈良の文化遺産を活用した新しい SDGs 学習プログラムのあり方について講義を受け、奈良国立博物館 なら仏像館(特別公開 金峯山寺仁王門 金剛力士立像)を見学した。

専門家会合参加者
（5 年 1 月 31 日）

国際シンポジウム・会場の様子
（5 年 2 月 1 日）

【実績値】

シンポジウム参加者総数：83 名
招聘者数：31 名（国内：9 名；国外：22 名)(うちオンライン参加 15 名)
一般参加者数(オンライン)：52 名　(国内：26 名；海外：26 名)

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3521F

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(5)地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
【事業名称】	明日香村西橘遺跡出土木製品の保存処理等を経ての総合的研究(②-1))		
【委託者】	奈良県明日香村	【受託経費】	200 千円
【担当部課】	都城発掘調査部（藤原地区）	【事業責任者】	副部長　清野孝之

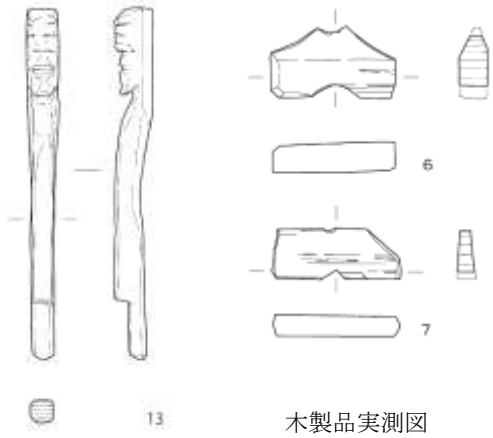
【スタッフ】
山本崇（史料研究室長)、松永悦枝（考古第一研究室研究員)、田村朋美（主任研究員)、栗山雅夫（企画調整部写真室主任)

【年度実績概要】
西橘遺跡は、奈良県明日香村に所在する、橘寺旧境内の西に隣接する遺跡である。この遺跡から 7 世紀後半頃と推定される木簡約 270 点、木製品などが出土し、類例の少ない当該期の木簡の中で、まとまった内容を示すものとして注目されている。この事業は、3 年度までに保存処理を完了した木簡に続き、出土木製品について科学的な保存処理を行うことを目的とするものである。

事業の概要は次の通りである。

1)水漬け状態における、材の形状や加工痕跡の観察などを行い、木製品の実測図を作成した。
2)保存処理前の状態を写真で記録した。
3)藤原地区保存科学実験室において科学的な保存処理を実施した。保存処理の方法は、ポリエチレン・グリコール(PEG)を含浸させた上で真空凍結乾燥を行う方法によった。研究期間の関係から、4 年度は PEG 含浸の工程まで実施し、真空凍結乾燥は、5 年度に引き続き行う予定である。
4)PEG 含浸後の遺物の現況を写真で記録した。
5)4 年度に予定された業務について、委託主体である明日香村に研究成果報告書を作成して報告した。なお、3 年度までの木簡を含む西橘遺跡出土遺物の報告は、5 年度に予定されている明日香村刊行の発掘調査報告書において行う。

検討会風景



木製品実測図

【実績値】
・保存処理（PEG 含浸）　32 点
・記録作成　207 点（実測図 41 点、デジタル写真カラー166 点）
・奈良文化財研究所都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区)『明日香村西橘遺跡出土木製品の保存処理等を経ての総合的研究 研究成果報告書（令和 4 年度）』（5 年 3 月）

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3523F

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(5)地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
【事業名称】	考古・文献史料からみた歴史災害情報の収集とデータベース構築・公開ならびにその地質考古学的解析(②-3))		
【委託者】	国立大学法人東京大学地震研究所	【受託経費】	5,838 千円
【担当部課】	埋蔵文化財センター 遺跡・調査技術研究室	【事業責任者】	埋蔵文化財センター長　金田明大
【スタッフ】村田泰輔（埋蔵文化財センター主任研究員)、上椙英之（本部文化財防災センター）			

【年度実績概要】

本事業は、科学技術・学術審議会の建議「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画（第 2 次)」に基づき、地震火山噴火予知研究協議会（以後、予知協議会）からの委託を受け、元年度から 5 か年計画として取り組んでいる。

内容は、考古発掘調査、地質調査、さらに歴史資料から検出される災害情報を収集、調査研究、さらに分類することにより、主に地震・火山噴火に関する近代的な観測データが整う以前の災害履歴を明らかにし、過去の災害発生あるいは被災発生メカニズムの解明に資するデータベースの構築と公開を進めるものである。4 年度の成果は以下の通りである。

1)発掘調査報告貴のデータ抽出、分析、整理作業

3 年度同様、4 年度も発掘調査データから災害痕跡データを抽出する作業を継続し、出上地点、時期、災害類別について精査・整理し、データベースの構築を進めた。遺跡資料及び史資料が古代より継続的に蓄積する近畿圏のうち、京都府と奈良県の発掘調査成果を中心に約 2 万調査地点についてのデータ集成を進めた。とくに 3 年度検証を進めていた長岡宮・京跡（京都府）周辺の地震痕跡と京都盆地西縁にあたる樫原断層との関係は、空中写真判読による南部終端部が、さらに南に延びる可能性を指摘する成果が得られている。現在この成果については、地質データとの対比検証を行いつつ、論文投稿を進めている。また火山噴火災害については、特に桜島大規模噴火対応を目標としてデータ集成作業を進めている。

2)データベース構築 ・ 開発作業

3 年度は、特に長岡宮・京跡での発掘調査成果の集成データから、歴史災害痕跡データベース（以後、災害痕跡 DB）を用いた歴史災害痕跡の視覚化とその有効性について検討を進めた（図 1)。とくに視認有効性については科研費（挑戦（開拓）18H05306）研究と合わせ、視認しやすい表示マーカーの開発し色覚弱者への対応を進めている。この視認有効性は全国的なアンケート調査を行い（被験者 200 名程度)、その成果をもとにデザイン開発を進めている。

災害痕跡の分布については、3 年度より明らかとなってきた京都盆地西縁にあたる樫原断層との関係において、空中写真を用いた地形判読によって想定される分布よりも、はるかに南に延伸する可能性が出てきている（図 1)。3 年度指摘した地形傾斜変換点付近での地質の脆弱性や、軟弱な泥質堆積物に被覆された沖積平野に埋没する同様の地質構造の存在の可能性もより明確となり、潜在化した地震ハザードの「見える化」における有効性をさらに示したといえる。本成果は、京都府全体の防災計画にとって重要なだけでなく、災害痕跡 DB の全国的な活用の重要性を示唆したといえる。

図 1 災害痕跡 DB による潜在的な地震ハザードの「見える化」

3)発掘調査現場における災害痕跡の調査、試料採取・分析

平城宮・京、藤原宮（以上、奈良県)、門田遺跡（京都府）の現地調査を行い、検出された地震痕跡等について調査を進め、被災時期の特定方法の改善を進めた。また 3 年度に調査した遺跡群については報告書執筆を行った。

【実績値】

[1] Taisuke MURATA, The Construction of the Historical Disaster Evidence Database and its Effectiveness. JDR Vol.17 No.3 pp. 420-429 (4 月)

[2] 村田泰輔、「歴史災害痕跡データベースの構築とその有効性」、『第 1 回日本災害・防災考古学会研究会資料・予稿集』、pp.41-50。(9 月)

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3531F-1

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(5)地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
【事業名称】	第一次大極殿院建造物復原整備他にかかる調査委託(③-1))		
【委託者】	国土交通省近畿地方整備局国営飛鳥歴史公園事務所	【受託経費】	10,000 千円
【担当部課】	都城発掘調査部（平城地区） 企画調整部	【事業責任者】	都城発掘調査部長　箱崎和久

【スタッフ】

箱崎和久（都城発掘調査部長兼遺構研究室長)、今井晃樹（同部平城地区考古第三研究室長)、西田紀子（同部平城地区主任研究員)、鈴木智大（同部飛鳥・藤原地区主任研究員)、山崎有生・目黒新悟（以上同部平城地区遺構研究室研究員)、福嶋啓人（同部飛鳥藤原地区遺構研究室研究員)、中村一郎(企画調整部写真室専門職員)、飯田ゆりあ（同部主任)、鎌倉綾(同部技術補佐員)

【年度実績概要】

本事業は、第一次大極殿院地区の整備に伴う復原検討及び公開・活用を行う国土交通省からの受託研究である。

復原検討部分は、奈良時代前期（Ⅰ-2 期）の第一次大極殿院を構成する各建物のほか、地形や諸施設等について往時の形態を復原するのが目的である。4 年度は、以下の業務を実施した。

①第一次大極殿院復原研究の成果を示す報告書の本文編・図版編の作成を進めた。

②東楼復原工事への助言と協力を行った。

・東楼復原工事に伴う定例会議に参加し、適時に専門的視点からの指導・助言を行った。
・定例会議に先立つ勉強会で講師を務めた。
・東楼の瓦製作や納まりについて専門的観点からの助言を行った。出土瓦見学会を 2 回開催した（図参照)。
・定期的に工事進捗状況等を写真撮影し、写真データを整理・保存した。
・第一次大極殿院東楼のボランティア研修資料の作成に協力した。
・第一次大極殿院復原整備の意義等について、国交省へ助言した。
・東楼の復原整備工事に用いる木材の検査を視察した。
・国交省の広報物作成に協力した。

第 2 回　出土瓦見学会（12 月 9 日）

【実績値】

・東楼復原整備工事勉強会：3 回
箱崎和久「平城宮跡の整備と復原」(7 月 7 日)、箱崎和久「東楼と西楼の発掘調査成果」(8 月 4 日)、浦蓉子「平城宮跡で発掘された木材の見学」(9 月 15 日)、箱崎和久「東西楼の復原」(10 月 6 日)
・出土瓦見学会：2 回（9 月 1 日、12 月 9 日)。
・論文等数：1 件
李暉「平城宮第一次大極殿院建築木口金具の復原意匠における製作実験の検証」『奈文研論叢 V』(5 年 3 月)
・国土交通省等からの問合せ等への対応：35 件

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3531F-2

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(5)地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
【事業名称】	平城宮いざない館詳覧ゾーンにかかる学芸業務及び解説案内等業務(③-1))		
【委託者】	一般財団法人　公園財団飛鳥管理センター	【受託経費】	5,404 千円
【担当部課】	企画調整部　展示企画室	【事業責任者】	岩戸晶子（企画調整部展示企画室長）

【スタッフ】
廣瀬智子（展示企画室アソシエイトフェロー)、下山千尋（展示企画室アソシエイトフェロー)・藤田由香里（展示企画室アソシエイトフェロー)

【年度実績概要】
・当研究所から貸し出している展示資料（常設）の継続的な状態確認と日報の作成を行った。
特に、井戸部材（廊下）と斎串・木樋（展示室 4）については、埋蔵文化財センター、都城発掘調査部担当者と協議しつつ、状態確認・展示環境のモニタリングを重点的に行った。
・新型コロナウイルスの拡大予防策として、ハンズオン展示の中止・再開について管理センターと協議・調整。
・平城宮跡いざない館発行の印刷・出版物の監修・校正を行った（4 件)。
・当研究所へあった所蔵物の貸出依頼及び都城調査部依頼の調査研究に応じ、展示室 4 の展示物の取り出し・搬出、返却後の原状復帰を行った(50 件)。
・東京の奈良まほろば館にて平城宮管理センター主催木簡体験イベントにおいて解説等協力実施した（7 月 8 日)。
・平城宮いざない館にて企画展「のこった奇跡のこした軌跡－未来につなぐ平城宮跡－」を開催した（10 月 29 日～12 月 11 日)。
・上記特別展に関して報道機関対象のレク実施（10 月 28 日)、その後も報道各社の取材に対応した（2 件)。
・上記特別展に関して平城宮跡解説ボランティア及び NPO 法人平城宮跡サポートネットワークに対しレクを実施した（10 月 28 日、29 日)。
・上記特別展に関して、展示した隼人の楯に関する京田辺市無形文化財の隼人舞を紹介するイベント及びギャラリートークを実施した。(10 月 29 日)
・ニコニコ動画 ニコニコ美術館チャンネルにて平城宮跡及び平城宮いざない館展示室並びに上記特別展の解説・案内を生配信した（11 月 12 日)。
・依頼のあった来館者等の案内、ボランティアガイド・来館者などからの質問、展示室 4 に関わるマスコミ・テレビ・新聞社等の取材に対応した(32 件)。
・平城宮跡管理センターと京産大との官学連携事業等への専門的助言を行った。
・奈文研での「平城宮跡の活用の実践的研究」の一環として、文化遺産部、都城調査部と共に出土遺物にちなんだ体験プログラムの企画・監修を行った。3 年度に引き続き、古代の盤上遊戯であるかりうちをテーマにしたイベントを、平城宮跡管理センターと共催で実施した(11 月 26 日)。
・平城宮跡いざない館各展示室の美術清掃・展示品修理に立会った(11 月 14 日・5 年 2 月 13 日)。
・平城宮跡いざない館展示室 4 の展示環境の管理の一環として、展示ケース内の調湿剤の交換と管理センター施設係と情報共有しつつ実施した(11 月 14 日)。
・平城宮跡史跡指定 100 周年記念ツアーガイドを NPO 法人平城宮跡サポートネットワークと共催した(12 月 10 日)。
・平城宮跡歴史公園 5 周年記念展「よろしく都邑を建つべし」展（会期：5 年 3 月 25 日～5 月 14 日）を管理センターと共催し、奈文研所蔵資料の選定及び貸出、展示作業、記者レク実施などに協力した。

【実績値】
・企画展入館者数　36,339 人
・当研究所へあった所蔵物の貸出依頼、及び都城調査部依頼の調査研究に応じ、展示室 4 の展示物の取り出し・搬出、返却後の原状復帰　50 件
・ニコニコ動画 ニコニコ美術館チャンネルにて平城宮跡及び平城宮いざない館展示室並びに上記特別展の解説・案内を生配信　視聴者数 延べ 27,041 人
・依頼のあった来館者等の案内、ボランティアガイド・来館者などからの質問、展示室 4 に関わるマスコミ・テレビ・新聞社等の取材への対応　33 件
・平城宮跡いざない館発行の印刷・出版物の監修・校正　4 件

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3531F-3

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(5)地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
【事業名称】	特別史跡平城宮跡及び藤原宮跡地内における歴史的環境維持業務(③-1))		
【委託者】	文化庁	【受託経費】	16,104 千円
【担当部課】	研究支援推進部研究支援課	【事業責任者】	研究支援課長　不藤　忠義

【スタッフ】
岡本保彦(研究支援課係員)、新開良子（事務補佐員)、他 2 人

【年度実績概要】
特別史跡平城宮跡地内及び藤原宮跡地内において文化庁の整備管理事業の実施に関し、技術的提案、助言を行い、遺跡の保存、公開及び活用への環境整備の円滑な実施を図った。

1. 特別史跡平城宮跡地内及び藤原宮跡地内における不具合対応策提案業務の実施を行った。
－1　環境維持、宮跡内施設等の安全確保のための対策提案
○復原施設、遺構表示、便益施設設備の状況観察及び故障等不具合があった場合の対応策提案、対応手配等協力
① 平城・藤原宮跡国有地排水改善対応への助言
② 平城宮跡第一次大極殿免震装置点検への助言
③ 平城宮跡木製橋修理対応への助言
④ 平城・藤原宮跡内工作物（柵・車止め等）維持への助言
⑤ 平城宮跡内外灯・防犯設備等維持への助言
⑥ 平城・藤原宮跡内植栽管理への助言
⑦ 平城・藤原宮跡国有地管理への助言　ほか
－2　緊急事案発生への対応提案
○事件、事故等緊急事案対応への対応策提案、対応手配等協力
① 平城宮跡内危険箇所表示対応
② 平城宮跡内水路増水対応
③ 平城・藤原宮跡内倒木対応
④ 平城宮跡公開施設設備故障対応　ほか

藤原宮跡醍醐池フェンス整備状況

2. 特別史跡平城宮跡及び藤原宮跡地内の文化庁発注の草刈り業務の管理を行った。
○計画及び実施工程等の調整
○施工箇所の点検・確認
○事前の調整（地元自治会等への説明、要望への反映）
○周辺住民等からの要望・苦情の聴取
○聴取内容、施工箇所変更などの業者への伝達

草刈り業務施工箇所の点検・確認状況

3. 平城宮跡及び藤原宮跡における整備、改修・修繕等の実施にかかる調整対応を行った。
○計画及び実施工程等の調整、施工箇所の確認
① 平城宮跡第一次大極殿ほか復原施設便益施設修繕及び設備更新等
② 平城宮跡木橋改修整備
③ 平城宮跡兵部省・式部省改修整備
④ 平城宮跡遺構表示改修工事
⑤ 平城宮跡案内サイン更新整備
⑥ 藤原宮跡仮設水路改修整備
⑦ 藤原宮跡醍醐池フェンス等更新整備
⑧ 平城宮跡藤原宮跡ベンチ更新整備
⑨ 平城宮跡（植栽剪定）
⑩ 藤原宮跡（植栽剪定）ほか

平城宮跡国有地排水改善状況

【実績値】
1－1　不具合対応策提案及び整備管理業務の実施（対応策提案件数　1,242 件）
1－2　緊急事案発生への対応提案（対応提案件数　0 件）
2－1　草刈り業務管理の実施　平城宮跡　草刈り対象面積 776,298,96 ㎡・藤原宮跡　草刈り対象面積 489,530,82 ㎡
（地元要望調整等対応件数 47 件）
2－2　計画及び実施工程等の調整、施工箇所の確認（調整対応件数　254 件）

【受託】　施設名 文化財防災センター　処理番号 3630

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(6)文化財防災に関する取組		
【事業名称】	被災美術工芸資料等安定化処理及び修理業務		
【委託者】	陸前高田市	【受託経費】	15,400 千円
【担当部課】	文化財防災センター	【事業責任者】	センター長　髙妻洋成
【スタッフ】小谷竜介（文化財防災統括リーダー）、後藤知美（研究員）、黄川田翔（研究員）、小峰幸夫（ｱｿｼｴｲﾄﾌｪﾛｰ）			

【年度実績概要】

東日本大震災で被災した陸前高田市所有の博物館資料について、資料の活用と恒久的保存に資することを目的とし、美術工芸資料の安定化処理および修理ならびに資料の保存環境に関して、以下の事業を実施した。

（1）美術工芸資料の安定化処理および修理
・事前調査及び協議の実施（8 月 23 日～24 日・9 月 15 日～16 日）。
陸前高田市博物館（旧生出小学校）にて修理事業に実施にあたっての事前調査及び協議
・木材加工関連資料の安定化処置：金属製品のうち錆の発生が確認された資料について錆落としと防錆処理を実施。
・横田膏関連資料の修理：劣化が認められた資料について修理を実施。
・漆製品の修理ワークショップの実施：剥落止め等、漆製品に係る応急処置についての技術移転を実施。

（2）資料の適切な維持管理に向けた保存環境の調査及び整備
・事前協議の実施（9 月 15 日・16 日）
陸前高田市博物館(旧生出小学校)にて、環境調査実施にあたっての事前協議を実施。
・環境調査の実施（文化財害虫等生育状況：年 3 回、微生物生息状況：12 月、室内汚染物質濃度：12 月）
・除塵清掃の実施（図書室収蔵庫：12 月、屋外収蔵庫：5 年 3 月）
・今後の保存環境構築の提案：調査結果をもとに、適切な保存環境構築に向けた今後の取り組みを提案。

陸前高田市との打合せ風景

環境測定（ATP 測定）の様子

【実績値】
ａ）安定化処置及び修理資料
木材加工関連資料：36 点、横田膏関連資料　22 点
ｂ）環境保全
環境調査：1 回、除塵清掃：2 箇所、環境維持に関する現地協議：2 回

【受託】　施設名 文化財防災センター　処理番号 3650

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(6)文化財防災に関する取組		
【事業名称】	令和4年度文化財防災のための詳細資料保存に係る調査等業務		
【委託者】	文化庁	【受託経費】	31,833千円
【担当部課】	文化財防災センター	【事業責任者】	センター長　髙妻洋成

【スタッフ】小谷竜介（文化財防災統括リーダー）、山野善紀（ｱｿｼｴｲﾄﾌｪﾛｰ）、上椙英之（研究員）、鶴岡典慶（客員研究員/京都女子大学家政学部教授）、大林潤（奈良文化財研究所文化遺産部建造物研究室長）、島田敏男（同文化遺産部特任研究員）、高田祐一（同企画調整部文化財情報研究室主任研究員）、中村一郎（同企画調整部写真室専門職員）

【年度実績概要】

(1) 要デジタル化資料総量の把握
・公益財団法人文化財建造物保存技術協会（文建協）所蔵資料調査（6月29日-7月1日）
・推定総量の算出（文建協約2,200,000枚、総計約3,200,000枚と推定）

(2) デジタル化対象資料・デジタル化手法の再検討･文化財防災のための詳細資料保存に係る調査等業務第2回担当者協議会（8月3日）
・参加機関：文化庁、京都府、奈良県、滋賀県、和歌山県文化財センター、公益財団法人文化財建造物保存技術協会
・文化庁及び資料所蔵機関による本事業の具体的な手法等を話し合う会議を実施した。
・メタデータの記入方法の簡略化とデジタル化対象資料の絞り込みを決めた。

(3) デジタル化の実施
・和歌山県文化財センター所蔵の図面、野帳、写真・フィルム、書類等のデジタル化
・デジタル化データに対するメタデータ記入
・滋賀県所蔵ガラス乾板のデジタル化

公益財団法人文化財建造物保存技術協会資料調査の様子

第2回担当者協議会はオンライン併用で開催

スキャン完了資料の一部

【実績値】
・総スキャン件数：　79,981件
　内訳：書類54箱分・野帳49箱分・図面36箱分・写真291冊分
・ガラス乾板のデジタル化974枚

【書式A】　施設名 本部事務局　処理番号 6110

大項目	Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置		
中項目	１．業務改善の取組		
事業名	（１）組織体制の見直し、（２）人件費管理の適正化		
【年度計画】 ・Ⅱ-1-(1)、(2)			
担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	課長　渋沢志穂

【実績・成果】

（１）組織体制の見直し

・ICTへの対応強化のため、デジタル分野で採用配置することで、情報担当部門の拡充を行った。

・文化財の活用や防災の機能強化のため、文化財防災でも文化財情報分野での採用配置することで、組織体制の整備強化を行った。

（２）人件費管理の適正化

・人事給与統合システムを利用して、機構全体で統一的な処理を行っている。そのシステム内で人件費のシミュレーション等も行うことで、人件費に関する計画や円滑な企画・立案等をすることができ、適正な人件費管理を行った。

・役職員の報酬額については、毎年度総務省の実施している「独立行政法人の役員の報酬等及び職員の給与の水準の公表方法等について（ガイドライン）平成15年9月9日策定」において、個別の額を公表しており、法人ウェブサイト上にも掲載している。

【補足事項】

当法人の給与規程は、国家公務員の職員給与を規定している一般職の給与に関する法律等に準拠し、国と異なる諸手当はない。ラスパイレス指数は、3年度において、事務・技術職員が95.0、研究職員が99.3となっており、その水準維持に努めた。

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	デジタル分野においてICT整備等の促進が喫緊の課題となる中、本部及び各施設情報担当の職員を採用配置し、体制を整備し、機構全体の情報セキュリティの確保・維持に努めた。文化財防災センターについて、文化財情報分野の職員を採用することで、文化財防災体制の整備を図った。今後もデジタル分野への対応を強化する必要があることから、引き続き体制の強化を進めたい。 国家公務員の給与水準とともに業務の特殊性を十分に考慮し、対国家公務員指数は国家公務員の水準を超えないよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表した。

【中期計画記載事項】

組織の機能向上のため、組織・体制等の見直しを行う。機構の事業全体を通じて、体制の整備を図る。

国家公務員の給与水準とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数については適正な水準を維持するよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	3年度に引き続き、組織の機能向上のため、組織・体制等の見直しを行った。特にデジタル分野においてICT環境の整備等が喫緊の課題となる中、本部及び各施設の情報担当の採用配置等を行うことで体制整備を行った。 更なるICT環境の整備や情報セキュリティ等への対応強化が求められており、それに対応できる体制の整備が課題であり、引き続き体制整備を進めていく必要がある。 人事給与統合システムを利用して、人件費の試算等を行うことで人件費管理の適正化に努めた。また適正水準の維持にも取り組み、検証結果や取組状況も公表した。

【書式A】　施設名 法人全体　処理番号 6120

中項目	１．業務改善の取組
事業名	（３）契約・調達方法の適正化　（４）共同調達等の取組の推進

【年度計画】
・Ⅱ-1-(3)-①、②
・Ⅱ-1-(4)

担当部課	本部事務局財務課（取りまとめ）	事業責任者	事務局長　所昌弘

【実績・成果】
（３）
①「独立行政法人における調達等合理化契約の取組の推進について（平成 27 年 5 月 25 日総務大臣決定)」に基づき、外部委員で構成された契約監視委員会を設置し、機構が 4 年度に締結した契約の点検・見直しを行った。
第 1 回契約監視委員会（5 年 2 月 15 日開催）
第 2 回契約監視委員会（5 年 6 月開催予定）
③東京国立博物館（レストラン 2 か所、自動販売機、黒田記念館カフェ）、京都国立博物館（ミュージアムショップ、自動販売機）、奈良国立博物館（ミュージアムショップ、レストラン、自動販売機）については企画競争を実施済み。4 年度においては、契約期間終了に伴い東京国立博物館にて移動式野外飲食店、ミュージアムショップ、京都国立博物館にてカフェ、レストランの企画競争を実施した。今後も、契約期間終了時に順次企画競争を実施予定である。
・11 月に機構内の会計系職員を対象として調達事務の適正化等を目的とした研修を行った。（49 人が参加）
・より多くの競争参加業者を募るため、公告期間をこれまでの「10 日間以上」から自主的措置として 20 日間以上確保するように引き続き努めている。
・列品等修理契約について、修理契約委員会を設置し、修理可能な業者が複数存在すると判断された修理案件は企画競争を実施している。

一般競争入札件数

年度	3 年度	4 年度	増減
件数	133 件	144 件	11 件

（４）
・本部事務局、東京国立博物館、東京文化財研究所について、引き続き上野地区における再生 PPC 用紙、トイレットペーパー、廃棄物処理、便器洗浄機器賃貸借の共同調達を実施した。(再生 PPC 用紙、トイレットペーパー、廃棄物処理：本部事務局、東京国立博物館、東京文化財研究所、東京藝術大学、国立科学博物館、国立西洋美術館。便器洗浄機賃貸借：東京国立博物館、国立科学博物館、国立西洋美術館。)
・4 年度に新たに学術情報ネットワーク(SINET6)を情報・システム研究機構を介し共同調達を実施している。
・京都国立博物館では、京都国立近代美術館、国際日本文化研究センター、総合地球環境学研究所と共同調達を実施した（PPC 用紙及びトイレットペーパー)。
・奈良国立博物館、奈良文化財研究所では、近隣施設の共同調達契約を調査して業者と交渉した結果、当該共同調達額以下の金額で契約した実績があるため、事務負担等を考慮し、現状では共同調達を見合わせている。ただし、近隣の共同調達契約の動向に応じて、必要があれば今後も共同調達への参加について検討を進めたい。
・九州国立博物館では、九州地区の大学と PPC 用紙、トイレットペーパー及びガソリンカードの利用について共同調達を実施した。

【補足事項】

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 計画どおり取組を実施できた。

【中期計画記載事項】
（３）契約・調達方法の適正化
「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について」（平成27年5月25日総務大臣決定）に基づき、引き続き取組を着実に実施し、文化財の購入等、随意契約が真にやむを得ないものを除き、競争性のある契約への移行を推進することにより、経費の効率化を行い、随意契約によることができる事由を会計規定等において明確化し、公正性・透明性を確保しつつ合理的な調達を実施する。
（４）共同調達等の取組の推進
各施設の業務内容や地域性を考慮しつつ、コピー用紙等の消耗品や役務について近隣の関係機関等との共同調達等の取組を推進する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 計画どおり取組を実施ができている。

【書式A】　施設名 本部事務局　処理番号 6151

中項目	１．業務改善の取組
事業名	（５）一般管理費等の削減　①機構内の共通的な事務の一元化による業務の効率化

【年度計画】
・Ⅱ-1-(5)-①

担当部課	本部事務局 本部事務局財務課 本部事務局総務企画課	事業責任者	事務局長　所昌弘 課長　尾崎克洋 課長　渋沢志穂

【実績・成果】
・機構共通の業務システムである、グループウェア、メールシステム、財務会計システム、人事給与統合システム、web給与明細システムの運用を継続した。
・勤怠管理業務の効率化のため、就業管理システムを導入した。4年度は本部事務局、文化財活用センター及び東京国立博物館の職員を対象とし、5年度以降に、その他の施設の職員へ対象を拡大し、勤怠管理業務の効率化を進め図る。
・Microsoft365機構テナントにおいて、Officeアプリ・端末認証・メールシステム・オンライン会議等のサービスの提供を継続した。これにより、各施設で購入していたOfficeアプリ、ライセンス管理等にかかるコストを軽減した。
・財務会計システムのクラウド化により、運用管理負担の軽減につながった。
・節電や消耗品の再利用、事業の見直し等に取り組み、業務経費の支出の節減に努めた。

【補足事項】

【定量的評価】項目	4年度実績	目標値	評定	経年変化	30	元	2	3
一般管理費	739百万円 (暫定値)	中期目標期間中 5%以上効率化	―		1,277	974	889	711
業務経費	5,587百万円 (暫定値)	中期目標期間中 5%以上効率化	―		5,956	5,965	5,422	4,846

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
一般管理費について、5%以上の効率化を達成できた。業務経費については、社会情勢の影響を受けた燃料費高騰に伴い光熱費の支出が増加し、目標値を下回ったものの、節電や消耗品の再利用、事業の見直し等に取り組み、支出の節減に努めた。
また、情報システムについては、 Microsoft365機構テナントの各サービス、機構共通事務システム、機構広域ネットワークの運用を継続し、事務の効率化に寄与した。
以上を勘案し、目標を達成できたと判断した。

【中期計画記載事項】
運営費交付金を充当して行う事業については、一般管理費及び業務経費の合計について、中期目標期間の最終年度において、令和２年度比５％以上の効率化を図る。ただし、文化財購入費等及び特殊要因経費、新たに追加される業務はその対象としない。また、人件費については（２）及びⅨ４．に基づき取り組むこととし、本項の対象としない。このため、事務、事業、組織等の見直しや資源の効率的な利用、ＩＣＴの活用等によりサービスの質を維持した上で業務の効率化を図る。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
一般管理費について、5%以上の効率化を達成できた。業務経費については、社会情勢の影響を受けた燃料費高騰に伴い光熱費の支出が増加したが、節電や消耗品の再利用、事業の見直し等に取り組んだ結果、支出の節減を行うことができ、中期計画を順調に実施できているといえる。
情報システムについては、中期計画の２年目として、 Microsoft365 機構テナントの各サービス、機構共通事務システム及びその基盤となる機構広域ネットワークの運用を継続した。

【書式A】　施設名 法人全体　処理番号 6152

中項目	１．業務改善の取組
事業名	（５）一般管理費等の削減　②計画的なアウトソーシング　③使用資源の減少

【年度計画】
・Ⅱ-1-(5)-②、③

担当部課	本部事務局財務課（取りまとめ） 東京国立博物館総務部経理課、京都国立博物館総務課、奈良国立博物館総務課、九州国立博物館総務課、東京文化財研究所研究支援推進部管理課、奈良文化財研究所研究支援推進部総務課、アジア太平洋無形文化遺産研究センター総務担当	事業責任者	事務局長　所昌弘

【実績・成果】
②
・全ての施設において、電気設備保守業務、機械設備保守業務、昇降機設備保守点検業務、構内樹木等維持管理業務、清掃業務、各種事務補助作業等について民間委託を実施している。
・博物館は警備・展示室監視等業務の大部分を民間委託している。研究所は警備業務の全てを民間委託している。
・博物館の来館者サービスに関しては、売札業務、受付・案内業務、ロケーション撮影対応業務、図書・写真資料を閲覧等の利用に供するサービス及び図書整理業務等について民間委託を実施している （東京国立博物館では新型コロナウイルスの影響により託児サービス休止中のため、4年度は託児業務の民間委託は未実施）。
・東京国立博物館では、引き続き茶室・大講堂等の施設貸出業務について民間委託を実施している。
③
・節電節水の周知徹底、クールビズ・ウォームビズの推進、冷暖房の省エネ運転、照明のLED化の推進等を行った。
・廃棄物削減では、両面印刷の励行、館内LAN・電子メール等の活用を引き続き行い、会議でのiPad及びノートPCの活用やオンライン会議の奨励による文書のペーパーレス化を実施した。
・リサイクルの実施（廃棄物の分別収集、リサイクル業者への古紙売り払い、再生紙の発注等）
・使用資源の推移等

光熱水使用量

事項	3年度	4年度	増減	増減率
電気（kwh）	26,034,541	26,045,809	11,267	0.04%
ガス（㎥）	1,984,325	2,027,595	43,270	2.18%
水道（㎥）	116,305	129,761	13,456	11.57%

廃棄物排出量

事項	3年度	4年度	増減	増減率
一般廃棄物（kg）	146,677	173,993	27,316	18.62%

日常の節電節水の周知徹底、冷暖房の省エネ運転等を実施したが、コロナ禍からの回復による事業再開等の影響により、光熱水使用量・廃棄物排出量のいずれについても増加した。特に増加が多い水道使用量・一般廃棄物排出量については、以下の要因によるもの。

水道使用量：東京国立博物館、京都国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館において、3年度と比較し、新型コロナウイルスの影響による規制等が緩和されたことにより、入館者数が大幅に増加したため。（東京国立博物館3年度比49.12%増、京都国立博物館3年度比84.87%増、奈良国立博物館3年度比10.43%増、九州国立博物館3年度比145.46%増）

一般廃棄物：東京国立博物館において、4年度は開館150周年の周年事業にあたり、年間を通じて記念事業が多く開催されたため、記念イベント準備に伴う紙ごみや清掃ごみが増加した。特に特別展「国宝 東京国立博物館のすべて」開催期間中は来館者増加に伴う清掃回数を大幅に増やしたため、排出量が増大した。

【補足事項】

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 アウトソーシングは計画どおり実施できている。使用資源の減少については、来館者数が大幅に増加しているため、全体量は増加しているが、適正なものである。

【中期計画記載事項】
事務、事業、組織等の見直しや資源の効率的な利用、ＩＣＴの活用等によりサービスの質を維持した上で業務の効率化を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 社会情勢が大きく変化している状況であっても、中期計画どおり外部委託、使用資源の節減に取り組めている。

【書式A】　　施設名 本部事務局　　処理番号 6200

中項目	２．業務の電子化		
事業名	業務の電子化		
【年度計画】 ・Ⅱ-2			
担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	課長　渋沢志穂

【実績・成果】
・引き続き機構本部ウェブサイトを運用し、機構に関する情報の提供を行った。
・当初のスケジュールよりも前倒しで、機構本部ウェブサイトのリニューアルを行った。リニューアル後のウェブサイトは、アクセシビリティの向上及び確保に努めている。
・ Microsoft365機構テナントの展開により、各端末のオフィスアプリをサブスク型に変更することで、利用できるオフィスアプリの共通化や、常に最新版を利用できるなど、情報システムの共通化を図った。
・コミュニケーションツール「Teams」を、在宅勤務者を含めたオンライン会議サービスとして提供を継続し、生産性向上に寄与した。
・Microsoft365機構テナント上で、機構統合メールシステム、オンライン会議サービスやオンラインストレージサービスを提供し、各サービス間の連携を継続した。
・在宅勤務用端末のクラウド対応強化について機構全体で継続し、在宅勤務で可能な業務や対応システムの拡充、操作性向上による業務の効率化を図った。

【補足事項】

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 機構本部ウェブサイトによる情報提供を継続して行い、リニューアルにおいてウェブアクセシビリティの向上を図ったことで、より広く情報発信を行うことができた。 各サービス間で連携可能なコミュニケーションツールであるMicrosoft365の提供を継続し、オンライン会議やテレワークの効率的な実施により、業務の効率化を図ることができた。

【中期計画記載事項】
機構に関する情報の提供、業務・システムの統合・融合化を含む最適化等を図ることとし、ＩＣＴを活用した業務の合理化・効率化を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画の2年目として、機構本部のウェブサイトをウェブアクセシビリティに配慮したかたちで全面リニューアルを行った。 3年度導入のMicrosoft365について、4年度も継続して展開し、オンライン会議やテレワークを実施することができ、業務の効率化を図ることができている。5年度以降も引き続き、ICTを活用した業務の合理化・効率化として、Microsoft365を活用したサービスを中心に検討継続する。

【書式A】　施設名 本部事務局　処理番号 6300

中項目	３．予算執行の効率化
事業名	予算執行の効率化

【年度計画】
収益化単位の業務及び管理部門の活動と運営費交付金の対応関係を明確にし、引き続き効率的な予算執行に務める。

担当部課	本部事務局財務課	事業責任者	課長　尾崎克洋

【実績・成果】
「独立行政法人の中期計画、中長期計画及び事業計画に係る予算等について」（中央省庁等改革推進本部事務局 平成12年4月策定，平成27年3月総務省行政管理局修正）の記載（「業務経費については、中期目標等、中期計画等の業務運営の効率化に関する項や業務の質の向上に関する項において具体的に記載される業務内容との対応関係が明らかになるように定めるものとする。」）に基づき、収益化単位と中期目標、中期計画記載事項とを一致させ、法人業務の成果を予算的にも国民に分かりやすいものになるよう継続して取り組んだ。
また、年度計画予算をもとに予算割振を行い、事業を進めていくなか、必要に応じた予算の振替等を行い、第４四半期までに予算額を確定させ、計画的な予算管理・執行管理に取り組んだ。
光熱費の高騰による予算圧迫に対応するため、より厳格に執行状況を精査し、必要に応じて年度途中で配分予算の見直しを行うなど、より効率的な予算の執行・管理に取り組んだ。
更には4年度より新たに第4四半期終了時点で事業毎に執行率が50％未満については執行状況の調査を行い、予算の適切な執行管理に取り組んだ。

【補足事項】

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 計画どおり取組を実施できている。

【中期計画記載事項】
運営費交付金収益化基準として業務達成基準が原則とされていることを踏まえ、収益化単位の業務ごとに予算と実績を管理する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画どおり取組を実施できている。

【書式A】　施設名 法人全体　処理番号 7110

大項目	Ⅲ　財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置
中項目	１．自己収入拡大への取組
事業名	（１）「新しい生活様式」を踏まえた魅力的な展覧環境の構築及び新たな自己収入の確保

【年度計画】
・Ⅲ-1-(1)

担当部課	本部事務局財務課、文化財活用センター	事業責任者	本部事務局長　所昌弘

【実績・成果】
・各館において、事前予約制の継続や夜間開館の実施等により混雑緩和・感染症拡大防止に努めた。
・東京国立博物館・文化財活用センター・NHKにて共催した特別企画「未来の博物館」においては、最先端のデジタル技術と高精細複製品を用いた新しい鑑賞体験を提供することで、来館者の誘客に努めた。(処理番号1610H参照)
・東京国立博物館法隆寺宝物館に、複製グラフィックパネルやデジタルコンテンツを活用した展示「デジタル法隆寺宝物館」を開設した（令和4年度日本博「イノベーション型」プロジェクト)。(処理番号1610H参照)
・東京国立博物館で開催した「150年後の国宝展」では、企業から出展協力を得ることで資金調達を行った。東京国立博物館史上初の一般公募を行うなど、一般の方や企業等との連携のもとに開催し、従来とは異なる新しい展覧会を実現した。また、企業とのコラボレーションにおいて、当該企業のファンを新たな来館者として迎えるなど、博物館の認知度向上に努めた。
・文化財活用センターと東京国立博物館では、創立 150 年事業の一環で、「踊る埴輪＆見返り美人　修理プロジェクト」を実施し、目標金額 1,000 万円を大きく上回る、15,396,445 円の寄附を得た。(処理番号 7130 参照)
・文化財活用センターと奈良文化財研究所では、クラウドファンディング「ひかり拓本プロジェクト」を 10 月～12 月に実施し、目標金額 380 万円を大きく上回る 653 万円の寄附を得た。(処理番号 7130 参照)
・文化財活用センターを中心に、法人全体の外部資金獲得の取組強化を目的としたファンドレイジング勉強会を法人内に立ち上げた。勉強会においては、外部講師を招いての講演や職員同士でのディスカッションを通して、法人全体の外部資金獲得に向けた意識の醸成を図った。本勉強会は 5 年度以降も継続して実施していく。(処理番号 7130 参照)

【補足事項】

「踊る埴輪＆見返り美人　修理プロジェクト」チラシ

「デジタル法隆寺宝物館」チラシ

【年度計画に対する総合評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 最先端の技術を駆使した展示や一般公募による展示など、従来の展覧会のかたちにとらわれない新たな切り口の展覧会を開催することで、新たな来館者の獲得を図った。 併せて、クラウドファンディング事業等を実施し、博物館に対する支援者の拡大に努めた。 以上により、年度計画を上回る成果をあげたため、A評価とした。

【中期計画記載事項】
コロナ禍における「新しい生活様式」を踏まえた事業展開において、展覧事業の集客力を高める工夫による来館者数の最大化に努め、自己収入の確保を図る(略)。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画の2年目として、新たなファンドレイジング事業を立ち上げるなど、初年度に引き続き、外部資金の獲得に向けた取組みを積極的に行った。 5年度以降も継続して取組みを実施し、中期計画の達成に努める。

【書式A】　施設名 法人全体　処理番号 7120

大項目	Ⅲ　財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置
中項目	１．自己収入拡大への取組
事業名	（２）展示事業等収入額

【年度計画】
・Ⅲ-1-(2)

担当部課	本部事務局財務課	事業責任者	本部事務局長　所昌弘

【実績・成果】
4年度の展示事業等収入については、1,725,067千円となり、年度計画予算額を大きく上回った。

	年度計画予算額	4年度
展示事業等収入	1,328,911千円	1,725,067千円

※受託研究・受託事業を除く。

【補足事項】

【関連指標】	4年度実績	目標値	評定	経年変化	30	元	2	3
自己収入額（展示事業等収入）	1,725,067千円（暫定値）	-	-		1,917,262	2,016,303	828,947	1,042,086

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：A	魅力的な特集展、特別展の企画や広報活動の充実等に取り組んだ結果、入館者やイベント利用、協賛金入金等が増加し、年度計画予算額を大きく上回る収入を得ることができた。

【中期計画記載事項】
コロナ禍における「新しい生活様式」を踏まえた事業展開において、展覧事業の集客力を高める工夫による来館者数の最大化に努め、自己収入の確保を図る(略)。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	計画どおり取組を実施した結果、入館者やイベント利用、協賛金入金等が増加し、中期計画を順調に遂行できている。

【書式A】　施設名 法人全体　処理番号 7130

中項目	1．自己収入拡大への取組
事業名	（3）外部資金の獲得

【年度計画】
・Ⅲ-1-(3)-(機構共通)、(文化財活用センター、東京国立博物館)、(文化財活用センター、奈良文化財研究所)

担当部課	本部事務局財務課 文化財活用センター総務担当	事業責任者	本部事務局長　所昌弘

【実績・成果】

	目標値	4年度
寄附金	787,529千円	937,293千円

(機構共通)
・機構各施設にウェブ申込による寄附を可能とする「国立文化財機構寄附ポータルサイト」を引き続き運用し、4年度計10,875,000円の寄附を集めた。
・文化財活用センターと東京国立博物館、奈良文化財研究所の共同で、展示施設等において募金箱を契機とした寄附募集に関する広報発信の強化に取り組んだ。具体的には、奈良文化財研究所においては募金箱や広報用パンフレットの刷新などを、東京国立博物館については既存募金箱の改修を行った。
・外部資金獲得に向けた取り組みを機構全体で活性化させるため、ファンドレイジング事業実施に関する情報共有等を行うための勉強会（事務局：文化財活用センター）を立ち上げ、第1回として鵜尾雅隆氏（日本ファンドレイジング協会代表理事）による役職員向けの講演会をオンラインで行った。
(文化財活用センター、東京国立博物館)
・文化財活用センターと東京国立博物館の共同で、「埴輪　踊る人々」と「見返り美人図」の修理費等を募る「創立150年記念　踊る埴輪&見返り美人　修理プロジェクト」を4月より開始し、5年3月の終了までに目標金額1,000万円を上回る寄附を集めた。(4年度計　15,396,445円)
(文化財活用センター、奈良文化財研究所)
・文化財活用センターと奈良文化財研究所の共同で、クラウドファンディングサービス「READYFOR」を利用し、石碑の判読を容易にする技術「ひかり拓本」のスマートフォンアプリ開発費などを募る「ひかり拓本プロジェクト」を 10 月 5 日～12 月 2 日の日程で行った。第一目標の 380 万円、第二目標の 500 万円を大きく上回り、プロジェクト終了までに 653 万円の寄附を集めた。

【補足事項】

【定量的評価】項目	4年度実績	目標値	評定	経年変化	30	元	2	3
寄付金等額 (その他寄付金等)	937,293千円 (暫定値)	787,529千円	B		827,718	884,196	730,711	749,596

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：A	ウェブ寄附の増加や賛助会員制度の加入者数の伸びにより、前中期目標期間の実績の年度平均である目標値を上回る寄附を得ることができた。 また、国立文化財機構寄附ポータルサイト等を活用した寄附促進のための情報提供を継続して行い、文化財活用センターと東京国立博物館が共同した収蔵品の修理に対する寄附金募集活動や、文化財活用センターと奈良文化財研究所が共同したスマートフォンアプリ開発等に対する寄附金募集活動では、目標金額を上回る寄附を得るなどの成果をあげた。 以上を勘案し、A評定とした。

【中期計画記載事項】
(略)賛助会員等への加入者の増加に継続的に取り組み、寄附金の獲得を目指す。
これらの取組により、寄附金等収入については、第５期中期目標期間の累積額が前中期目標期間の累積実績額以上を目指す。(略)競争的資金や寄附金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として運営費交付金等の国費のみに頼らない財務構造へのシフトを目指す。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	国立文化財機構寄附ポータルサイト等を活用した寄附促進のための情報提供を行った。また、文化財活用センターと東京国立博物館が共同した収蔵品の修理に対する寄附金募集活動や、文化財活用センターと奈良文化財研究所が共同したスマートフォンアプリ開発等に対する寄附金募集活動を行った。 その結果、3年度比で約187,697千円、寄附金の獲得額を増やすことができた。 また、賛助会員制度の加入者は3年度比で91人増の775人であった。 法人全体で支援者の増加に取り組んでおり、中期計画を順調に遂行できている。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 7140A

中項目	1．自己収入拡大への取組
事業名	（4）保有資産の有効利用の推進

【年度計画】
・Ⅲ-1-(4)(機構共通)①、②、③、④

担当部課	総務部総務課	事業責任者	課長　竹之内勝典

【実績・成果】
①新型コロナウイルス感染症対策措置を講じつつ、月例講演会や記念講演会、連続講座等を実施した。
②4年度はコロナ禍ではあるが、新型コロナウイルス感染対策を実施した上で施設の有効利用を促進した。申込の実件数及び利用金額については3年度より増加している。また、4年度は館内休憩スペースへのドラマ等のポスター掲出に加え、ロケ地マップの設置や、当館ウェブサイト上への放映情報の公開等、来館者へ当館の多様な活動の周知を行った。
③来館者層の拡充と施設の有効利用を目的として、コンサートなどのイベントを実施した。国際交流及び日本文化の紹介を主眼とした「留学生の日」にかかるイベントについては、寄席イベント「トーハク笑楽座」と館内のアジアに関わる樹木を紹介する「樹木ツアー」を実施した。
④ミュージアムショップの運営委託等、施設の有効利用の推進を図った。

【補足事項】
②講堂については、4年度は13年ぶりに我が国で「国際公共放送会議」が行われたことに伴い、開会式の会場として施設貸出しを行った。それを一例として、新型コロナウイルス感染症の予防及び対策に配慮の上、比較的規模の大きい貸出し案件についても対応することができた。

「国際公共放送会議」オープニングパフォーマンス

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 コロナ禍ではあるものの、ユニークベニュー、茶室利用は3年度より増加したことで、収入を大幅に増やすことができた。また、当館の取り組みを積極的に広報する場を増やし、多くの来館者へ周知することができた。 引き続き、館内施設をユニークベニュー、ロケ地・婚礼撮影等での利用を促進させ、収入の増加や当館の周知につなげるとともに、当館の多様な取り組みの一つとして、ロケ地マップや当館ウェブサイトにて積極的に広報を行うよう取り組んでいく。

【中期計画記載事項】
（略）保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用を推進する。（略）

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 ユニークベニュー、ロケ地・婚礼撮影は引き続き積極的に受け入れていく。その他講堂・茶室等も博物館本来の使用に支障のない範囲で受け入れを進めていく。

【書式Ａ】　施設名　京都国立博物館　処理番号　7140B

中項目	１．自己収入拡大への取組
事業名	（４）保有資産の有効利用の推進

【年度計画】
・Ⅲ-1-(4)（機構共通）①、②、③、④

担当部課	総務課	事業責任者	課長　阿部勝

【実績・成果】
① 展覧会に関する講演会、土曜講座、夏期講座、キャンパスメンバーズ講演会を様々な年齢層に向けて開催した。
② 施設（建物、講堂、茶室及び敷地等）の外部貸出（イベント、撮影等）については、WEBサイトでの広報や、会場下見・当日利用時に丁寧な対応を心掛けた結果、口コミによる新規利用者やリピーターを獲得できたことにより、十分な成果を上げることができた。
③ 国際交流及び日本文化の紹介を目的とした伝統文化イベント（芸舞妓、茶会等）や、若年層の獲得を目的とした、学生によるクラッシックコンサートの開催を行った。特に、国際交流に関しては、留学生が、様々な特典（無料観覧、イベント優先予約等）を受けることができる「留学生の日」を実施した。
④ ミュージアムショップ運営について、年間を通して、業者への外部委託を行った。また、特別展期間中においては共催者が運営するショップに対しても施設利用料を徴取し、自己収益獲得と施設の有効利用を行った。

【補足事項】
① 講座・講演会等の開催
・記念講演会、土曜講座、夏期講座等については（処理番号 1311B）参照
・「キャンパスメンバーズ講演会」計2回　平成知新館講堂　参加人数：163人（処理番号 1313B）参照
② 施設の外部への貸出し
・ハイブランドによる展示商談会（明治古都館）、商品カタログ・雑誌取材、結婚式の前撮り等の撮影（明治古都館、平成知新館、庭園、茶室）、茶会の開催（茶室）、コンサートの開催（講堂）にて各施設の貸出を実施した。
③ 国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサート等を実施
・「京都・らくご博物館」計4回　場所：平成知新館講堂　参加者数：266人
・「留学生の日」　場所：平成知新館　参加者数：78 人
・「夏の一絃琴演奏会」　場所：茶室　参加者数：39 人
・「秋の京博茶会」　場所：茶室　参加者数：120 人
・「芸舞妓　春の舞」　場所：平成知新館講堂　参加者数：280 人
・「八坂神社　祇園獅子舞」　場所：平成知新館講堂　参加者数：259 人
・「春のクラシックコンサート」　場所：平成知新館講堂　参加者数：242 人

夏の一絃琴演奏会

八坂神社　祇園獅子舞

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 講座・講演会については、予定通り実施することができた。 施設の外部貸出については、現在は閉館中である明治古都館を、ハイブランドによる展示商談会の会場として貸出することができ、十分な自己収入を獲得することができた。その他、撮影に関しても、3年度と同数程度の使用件数を維持することができている。国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサート等の実施については、定期的に開催し、多くの方に参加いただいた。

【中期計画記載事項】
（略）保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用を推進する。（略）

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 中期計画にあるように、本来業務に支障のない範囲で、明治古都館、茶室、敷地等を外部に貸与し、十分な自己収入を獲得することができたので、中期計画を順調に遂行しているということができる。5年度以降についても、さらに利用者を増やすべく、広報及びサービス改善について、積極的に取り組んでいく。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 7140C

中項目	1．自己収入拡大への取組
事業名	（4）保有資産の有効利用の推進

【年度計画】
・Ⅲ-1-(4)（機構共通）①、②、③、④

担当部課	総務課	事業責任者	課長　大西真一

【実績・成果】
①公開講座、サンデートーク、特別展期間中の特別鑑賞会、トークショー、イベントなど幅広い講座・講演会を実施した。
②ウェブサイトの施設貸出のページを拡充し、様々な団体や個人等に向けて貸出を行うことで、自己収入の獲得に繋げた。
③大和ハウス工業主催のコンサート、中国総領事館と共催のコンサートなどを開催し、国際交流や入館者の増加に繋げた。また「留学生の日」に主に留学生を対象としたイベントを開催することで、国際交流と日本文化紹介を図った。
④地下回廊のミュージアムショップ及びレストランとのテナント契約を継続し、自己収入を確保した。ミュージアムショップ運営元の仏教美術協会とは、評議員会において意見交換をし、よりよい運営や地下回廊の利活用を推進した。

【補足事項】
○講座・講演会
特別鑑賞会(11回)、文化財保存修理所特別公開（3回）等
○イベントの実施
・講堂：「奈良仏像けんきゅー部」(4回)、「お水取り講話と現地解説の会」
・仏教美術資料研究センター：朝ヨガ、「近代化遺産全国一斉公開」での一般公開
・文化財保存修理所：「文化財保存修理所特別公開」
・展示室：「仏像供養（年4回)」、「ニコニコ美術館（4回)」
・庭園・茶室：正倉院展期間中の一般公開
・地下回廊：「タイル作り」、「蓮糸織り体験」、留学生の日イベント「書画作品に挑戦しよう！」
○会場提供
・講堂：中国総領事館との共催によるコンサート、「文化財防火ゼミナール」、落語イベント「らくご男子落語会」
・仏教美術資料研究センター：ブライダル撮影、音楽コンサート、講演会
・庭園・茶室：「Daiwa Sakura-Aid」等の音楽コンサート、「珠光茶会」等各種茶会、ブライダル撮影
・敷地内：「氷室神社秋祭り巡業」、「春日野音楽祭」、テレビ番組撮影、雑誌撮影、ブライダル撮影等

留学生の日イベント「書画作品に挑戦しよう！」

朝ヨガ（大安寺展イベント）

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 特別展ごとに関連イベント、トークショーを開催し、それ以外の期間でも留学生の日イベントや仏像供養など、日本文化を紹介するイベントを積極的に実施することで、来館者の満足度を向上させることができた。また会場提供を積極的に行い、館の魅力発信と自己収入獲得に繋げることができたため、年度計画を着実に実行できたと考えB評価とした。

【中期計画記載事項】
保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用を推進する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 仏教美術資料研究センターやなら仏像館、庭園など、館の保有する魅力的な施設を貸し出すことによって、館の知名度向上や魅力発信に寄与することができた。また実施するイベントのアンケートでも参加者の評価は高く、来館者の満足度の向上に繋がっている。加えて講堂や仏教美術資料研究センターでの有料施設貸出も増加傾向にあり、中期計画を順調に遂行できている。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　7140D

中項目	１．自己収入拡大への取組
事業名	（４）保有資産の有効利用の推進

【年度計画】
・Ⅲ-1-(4)（機構共通）①、②、③、④

担当部課	交流課 総務課	事業責任者	課長　田中篤 課長　執行正一

【実績・成果】
（機構共通）
①特別展及び特集展等に関する講演会・講座等を開催した。
②茶室を外部団体へ貸し出した。
③エントランスやミュージアムホールにおいて、著名人を招聘した講演会や演奏家によるコンサートを実施し、入館者の拡大及び施設の有効利用を図った。

【補足事項】
①展示関連講演会等の開催
1）特別展及び文化交流展関連イベント
・特別展「北斎」
　記念講演会「老境の北斎とその画業－浮世絵風景画史の観点から－」（4月16日　参加者：140人）
・特別展「琉球」
　記念講演会「万国津梁の鐘と尚泰久」（7月16日　参加者：95人）
・特別展「ポンペイ」
　記念講演会「ポンペイに魅せられた50年」（10月15日　参加者：203人）
　※上記を含む特別展関連講演会　計 14回開催
・特集展示「御所の器 ―公家山科家伝来の古伊万里」
　講演会＆トークセッション「宮廷文化と御所の器」（10月16日 参加者：83人）
・特集展示「種子島　―風と波が育んだ歴史―」
　きゅーはく☆とっておき講座「たねがしま入門」（12月18日　参加者：74人）
　※上記を含む特集展示関連講演会　計 7回

きゅーはく夢ひろば

九博能

②外部団体への貸し出し
・茶室　2回
・研修室AB　1回(放送大学授業のため)
③入館者の拡大を目的とした講演会やコンサート等の実施
・きゅーはく夢ひろば　ケッチのフィジカルコメディショー(5月5日　参加者：288人)
・きゅーはくミュージアムコンサート 沖縄復帰50年記念 特別展「琉球」関連イベント「古謝美佐子 沖縄のこころのうた」(8月27日 参加者：540人)
・九博能（9月23日 参加者：270人）
・みゅーじあむ寄席（5年2月18日 参加者：268人）
・桜祭り（5年3月25日）
・建物外観や虹のトンネルなどを活用し、積極的な撮影協力を働きかけ、認知度の向上に努めた。(2回)
※その他、「第77期本因坊戦決定戦七番勝負第4局」(6月11・12日 対局場：茶室)、「日米文化教育交流会議（カルコン）」（10月24日 会場：ミュージアムホール、エントランスホール)、「アジア代表2022トークショー」(11月2日 会場：ミュージアムホール）を誘致した。

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 引き続き、新型コロナウイルス感染防止対策を行いつつ、特別展及び文化交流展の関連講演会やイベントを開催した。さらに入館者の拡大を目的とした講演会やコンサート等も実施した。また、外部団体へ茶室等を貸し出し、施設の有効利用を推進した。以上から年度計画は達成したと評価し、Ｂ評定とした。

【中期計画記載事項】
（略）保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用を推進する。（略）

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 3年度に引き続き、茶室の貸出しを行った。また、書道や絵画等をエントランスに展示した。また、数々の講演会やコンサート等のイベントをミュージアムホール等で実施するなど、施設の有効利用を推進し、中期計画を順調に遂行している。 今後、茶室以外の貸し出しについて、新型コロナウイルスの感染状況等を見極めながら積極的な利活用を図る。以上の成果より中期計画を順調に遂行しており、Ｂ評定とした。

【書式A】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 7140E

中項目	1．自己収入拡大への取組
事業名	（4）保有資産の有効利用の推進

【年度計画】
（機構共通）
①講座・講演会等を開催する。
②建物・講堂・セミナー室等の外部への貸出しを積極的に行う。

担当部課	研究支援推進部	事業責任者	部長　裏山　晃生

【実績・成果】
・4年度は国際動物考古学会への貸出しなど、有効に活用した。
・研究成果を広く一般にも公表するためのオープンレクチャーを4年度も開催した。この事業は台東区との連携事業として毎年開催されている「上野の山文化ゾーンフェスティバル」に当研究所のオープンレクチャーを同事業の講演会シリーズとして実施している。

【補足事項】
・第56回オープンレクチャー「かたちを見る、かたちを読む」

オープンレクチャーの様子

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 4年度もコロナ感染症対策の影響で施設の外部貸し出しは制限することとなったが、内部での利用頻度が高かったので、利用件数は増加した。なお、外部機関への有償貸付は、今後増やしていくこととした。

【中期計画記載事項】
（略）保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用の推進、競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 今中期計画期間2年目である4年度も、例年に続き、第56回オープンレクチャーを実施することができた。5年度も同様に、当研究所の保有資産の有効利用を推進する予定である。

【書式A】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 7140F

中項目	1．自己収入拡大への取組
事業名	（4）保有資産の有効利用の推進

【年度計画】
・Ⅲ-1-(4)（機構共通）①、②、③、④

担当部課	研究支援推進部研究支援課	事業責任者	課長　不藤忠義

【実績・成果】

施　設　名	4年度
平城宮跡資料館　講堂	42件　（内　有償貸与　8件）
平城宮跡資料館　小講堂	62件　（内　有償貸与　6件）
飛鳥資料館　講堂	0件　（内　有償貸与　0件）
その他（収蔵庫等）	11件　（内　有償貸与　6件）
合　　計	115件　（内　有償貸与　20件）

【補足事項】
3年度実績

施　設　名	3年度
平城宮跡資料館　講堂	30件　（内　有償貸与　2件）
平城宮跡資料館　小講堂	34件　（内　有償貸与　6件）
飛鳥資料館　講堂	0件　（内　有償貸与　0件）
その他（仮庁舎・収蔵庫等）	9件　（内　有償貸与　5件）
合　　計	73件　（内　有償貸与　13件）

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルスの影響のある中、小講堂の利用件数が大幅に増えた。有償利用件数については、貸与を積極的に実施し、3年度と同じ件数の自己収入の獲得に貢献した。

【中期計画記載事項】
（略）保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用を推進する。（略）

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画に基づき、講堂及び小講堂について、快適に利用できるように空調設備・換気設備の改修を行うとともに、ウェブサイトで講堂等の施設ができること積極的に発信し、利用促進を図った。

【書式A】　施設名 本部事務局　処理番号 7300

中項目	３．決算情報・セグメント情報の充実等		
事業名	決算情報・セグメント情報の充実等		
【年度計画】 独立行政法人会計基準に従い、引き続き適切な決算情報・セグメント情報の開示を実施する。			
担当部課	本部事務局財務課	事業責任者	課長　尾崎克洋
【実績・成果】 ・3年度に引き続き、3年度決算（4年度実施）についても、「独立行政法人会計基準」（令和3年9月改訂）に従い、公表情報の充実を図った。 ・3年度財務状況の概要をホームページ上に公開し、機構の財政状態や運営状況に関する情報を政府・国民に対して分かりやすく示した。			
【補足事項】			
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 計画どおり取組を実施できた。		
【中期計画記載事項】 財務内容等の一層の透明性を確保し、活動内容を政府・国民に対して分かりやすく示し、理解促進を図る観点から、事業のまとまりごとに決算情報・セグメント情報の公表の充実等を図る。			
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画どおり取組を実施できている。		

【書式A】　　施設名 本部事務局　　処理番号 8000

大項目	Ⅳ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画
中項目	１．予算　２．収支計画　３．資金計画
事業名	予算、収支計画、資金計画

【年度計画】
１．予算　別紙のとおり
２．収支計画　別紙のとおり
３．資金計画　別紙のとおり

担当部課	本部事務局財務課	事業責任者	課長　尾崎克洋

【実績・成果】
・4年度当初予算について、3年度中に予算配分を実施し、早期に業務を遂行できる体制を整備した。
・予算配分にあたっては、自己収入予算額の増額に対応するため、各施設の自己収入予算額に応じて、配分予算の調整を行った。
・人件費予算は本部一括管理とし、無駄のない効果的な活用が図られた。
・不測の事態に備え、物件費の一部を本部留保とし、流動する社会情勢等を見極めつつ、状況に応じて追加配分を行った。4年度は自己収入予算額の増及び光熱費の高騰に対応するため、自己収入予算額及び各施設の基盤的経費の予算額に応じて、追加配分を実施した。

【補足事項】

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 概ね当初計画に沿った管理が行われている。4年度は光熱費の高騰を受け、予算が圧迫する中、それに対応する措置として追加配分を実施した。

【中期計画記載事項】
　コロナ禍における「新しい生活様式」を踏まえた事業展開において、管理業務の効率化並びに自己収入の確保に向けた取組を踏まえた予算及び収支計画による運営を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画どおり取組を実施できている。

【書式A】　施設名 本部事務局　処理番号 9100

大項目	Ⅴ　その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置
中項目	１．内部統制
事業名	内部統制

【年度計画】
・Ⅴ-1

担当部課	本部事務局総務企画課 監査室	事業責任者	課長　渋沢志穂 監査室長　柏田昭生

【実績・成果】
（内部統制委員会、リスク管理委員会の開催）
・内部統制委員会を2回開催した。（7月1日、5年2月27日）
・リスク管理委員会を2回開催した。（7月1日、5年2月27日）
・2年度に策定したリスク管理計画の運用を進めた。
（内部監査及び監事監査等のモニタリング）
・内部監査を以下の日程で本部事務局及び各施設を対象に順次行った。
　会計監査　　11月4日～12月16日（全施設）
　給与簿監査　　10月28日～11月25日（京都国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）
※新型コロナウイルスの感染防止のため、自己チェックを行い、本部人事担当で確認。
　法人文書管理監査　5年2月～（全施設・書面監査）
　　5年2月～3月（本部事務局、東京国立博物館、東京文化財研究所）
・情報システム監査・情報セキュリティ監査を以下の日程で実施した。
(1)ペネトレーション監査　5年1月10日～1月17日（京都国立博物館、奈良国立博物館、東京文化財研究所、奈良文化財研究所）
(2)マネジメント監査　　5年1月19日（アジア太平洋無形文化遺産研究センター）、5年1月24日（奈良文化財研究所）
・保有個人情報管理監査を以下の日程で行った。
　1月　全施設（書面監査）
　2～3月　京都国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館、奈良文化財研究所、アジア太平洋無形文化遺産研究センター　※新型コロナウイルスの感染防止のため、書面監査にて実施。
・ソフトウェア等監査　　各施設で定期的に実施し、会計監査の際確認を行った。
・監事監査を以下の日程で行った。
　定期監査（業務・会計）　6月23日
　臨時監査（業務・会計）　5年1月27日～2月14日　（IRCIを除く）全施設（実地監査）
（研修の実施）
・全役職員を対象に、コンプライアンス全般に関する内容の研修をeラーニングにて実施した。（実施期間：9月1日～9月30日　受講者825人、受講率　100％）
・職務上会計業務に関与しないことが明らかな者を除いた役職員を対象に、不適切会計防止に特化した内容の研修をeラーニングにて実施した。（実施期間：10月20日～11月30日　受講者716人、受講率　96.9％）
・職員の啓発や能力向上による内部統制能力強化のため各種研修を実施した。（処理番号9420参照）
（その他）
・不正の機会を排除することを目的として、検収関連規程（検収窓口取扱要項、契約事務取扱細則、競争的研究費等管理規程、競争的研究費等不正防止計画）を5年1月に改正し、発注・検収体制の見直しを行った。
・コンプライアンスの徹底、適正なリスク管理等のため、本部・各施設の情報共有・連絡調整機能を強化することとし、本部及び各施設の事務担当課長が出席する連絡会を5年2月より毎月1回定例で開催し、各施設の取組の進捗や課題等を共有した。5年度以降も引き続き開催する予定である。

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 内部統制委員会及びリスク管理委員会、各種内部監査も計画通り実施するとともに、コンプライアンス全般、不正会計防止に関する研修を全職員向けに実施するなど、役職員のコンプライアンスの徹底、リスク管理における理解促進、意識改革を促した。 事務担当課長連絡会では、各施設等での先進的な取組みや懸念される問題点などの事項を取扱い、機構内の情報・意識の共有を図った。

【中期計画記載事項】
理事長のリーダーシップの下で、法人の使命等の周知、コンプライアンスの徹底、理事長のマネジメント強化、リスクマネジメント等を含めた内部統制環境を継続して整備し、運用する。また、内部監査等により定期的にそれらの整備状況・有効性をモニタリング・検証するとともに、監事による監査機能・体制の強化に取り組み、必要に応じて内部統制に関する見直しを行う。さらに、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取組の改善を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 規程に基づき内部統制状況のモニタリング、リスク管理・評価を行うことができた。 内部監査については、新型コロナウイルス感染拡大により実地・対面での実施が制限されたものの、書面監査やウェブ会議システムも利用しつつ監査を実施することができた。 以上より、中期計画を順調に遂行できていると判断し、B評定とした。

【書式A】　施設名 本部事務局　処理番号 9210

中項目	２．その他
事業名	（１）自己評価

【年度計画】
運営委員会、外部評価委員会の開催等、外部有識者の意見を踏まえた客観的な自己評価を実施し、その結果を組織、事務、事業等の改善に反映させる。

担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	課長　渋沢志穂

【実績・成果】
・3年度の当機構における各事業及び調査研究等について自己点検評価を行い、報告書にまとめた。
・自己点検評価報告書を外部評価委員会（研究所・センター部会：4月26日／博物館部会：5月16日／総会：5月31日）に提出し、外部有識者による評価が行われた。
・外部評価委員会の意見等を踏まえ「令和3年度自己点検評価書」を作成し、文部科学大臣に提出した。
・運営委員会(7月13日)は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を踏まえ、東京、京都及び九州会場からの参加とウェブ会議へのオンライン参加によるハイブリット形式で開催した。当機構の管理運営の重要事項について、理事長へ助言がなされた。

【補足事項】
・外部評価委員会についても、会場への参加オンライン参加のハイブリット形式で開催した。

外部評価委員会（総会）
（5 月 31 日）

運営委員会（7 月 13 日）

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	（判定根拠、課題と対応） 外部評価委員会、運営委員会とも、対面とウェブ会議のハイブリット形式にて開催した。外部有識者からの意見を踏まえた客観的な自己評価を実施することができ、改善が必要な事項や助言については、機構全体で検討を行い、見直しを図った。

【中期計画記載事項】
外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ、年１回以上事業に関する自己評価を実施し、その結果を組織、事務、事業等の改善に反映させる。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 引き続き、外部有識者の意見を踏まえた自己評価を実施し、その結果を組織、事務、事業等の改善に反映させることができた。

【書式A】　施設名 本部事務局　処理番号 9220

中項目	２．その他		
事業名	（２）情報システムの整備・管理及び情報セキュリティ対策		
【年度計画】 ・V-2-(2)			
担当部課	情報システム・セキュリティ委員会	事業責任者	最高情報セキュリティ責任者(CISO)

【実績・成果】
・情報セキュリティ対策基準等について、「政府機関等のサイバーセキュリティ対策のための統一基準群（令和３年度版)」との準拠性監査結果を踏まえた改正（4年10月4日改正）するとともに、対策基準に基づく実施手順の整備を進めた。
・全役職員を対象に、情報セキュリティに関する研修と情報セキュリティ対策の自己点検をe-ラーニングにて実施した。(4年12月12日～5年2月24日)
・以下3件の情報セキュリティ監査を外部機関に委託して実施した。
a)マネジメント監査（準拠性監査）(9月20日～5年2月28日)
b)マネジメント監査（運用状況の確認）(5年1月13日～1月24日)
c)ペネトレーションテスト（脆弱性検査）(5年1月10日～1月19日)
・監査法人による監査の一環として、システム監査を実施した。(12月19日～5年3月14日)
・情報システム・ネットワークにおける情報セキュリティ対策については、情報セキュリティ関係規程等に基づき、政府や関係機関からの情報に注視しながら適宜必要な対策を講じた。機構内各施設における情報セキュリティ対策の実施にあたっては、NICH-CERT連絡会にて情報共有、検討を行った。
・3年度に導入・展開したクラウドサービス「Microsoft365機構テナント」について、運用初年度として、Web会議やモバイル端末管理などを各種調整を行いながらサービス継続した。
・NICH-CERTメンバー向け訓練を実施した。(12月26日)

【補足事項】
・2年度構築の機構広域ネットワーク、3年度更新の機構共通メールシステムの運用を継続し、機構全体のセキュリティレベルの向上・平準化、管理の効率化に寄与した。

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 政府統一基準に沿った機構の情報セキュリティ関係規程等に基づいた規定等の見直し、研修・教育・点検・監査等の実施、及び機構広域ネットワーク、機構共通メールシステムを含む「Microsoft365機構テナント」にて導入の各種サービスについて適切な運用を継続しており、必要な情報セキュリティ対策を実施できた。

【中期計画記載事項】
「情報システムの整備及び管理の基本的な方針」（令和３年 12 月 24 日デジタル大臣決定）にのっとり、情報システムの適切な整備及び管理を行う。
多様化するサイバー攻撃やセキュリティの脅威に対する組織的対応強化を図るため、政府機関の情報セキュリティ対策のための統一基準群を踏まえた規定の整備及び適時適切な見直し、役職員の研修及び教育を実施する。
計画的な情報セキュリティ対策の点検及び情報セキュリティ監査の実施により、情報セキュリティ対策の実施状況を把握するとともに、その強化を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画の2年目として、政府統一基準を踏まえた規定の整備及び見直しを行い、研修・教育・点検・監査等を計画的に実施できた。機構広域ネットワークや機構共通メールシステムを含む「Microsoft365機構テナント」等の運用を含め、情報セキュリティ対策を適切に実施することができた。

【書式A】　施設名 本部事務局　処理番号 9300

中項目	３．施設設備に関する計画		
事業名	施設設備に関する計画		
【年度計画】 ・V-3			
担当部課	本部事務局環境整備課	事業責任者	課長　城山美香

【実績・成果】
施設整備について、東京国立博物館東洋館等建物・設備等の老朽改修など8事業を実施した。
東京文化財研究所及び奈良文化財研究所の防災設備について防火対策5か年計画を策定した。(1月20日完了)

【補足事項】
施設整備実施8事業は、東京国立博物館東洋館等建物・設備等の老朽改修・東京国立博物館本館リニューアル工事・東京国立博物館平成館空調設備改修工事・奈良国立博物館東新館エレベーター更新工事・奈良国立博物館空調設備等更新工事・九州国立博物館防水等改修工事・奈良文化財研究所老朽空調設備改修

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	防火対策5か年計画及び施設整備8事業について、計画どおりに実施できた。個別施設計画に基づき既存施設の維持管理や建築物等の長寿命化に向け整備を進める。

【中期計画記載事項】
施設設備の老朽化度合い等を勘案しつつ、別紙４のとおりの計画に沿った整備を推進する。
国立博物館の施設設備の整備においては、令和２年度策定のメンテナンスサイクル（個別施設計画）に基づき、既存施設の維持管理及び長寿命化改修を進める。重要文化財（建造物）や国宝・重要文化財（美術工芸品）を保管する建物の防火設備の整備や防火対策について検討し、具体的な防火対策プランを作成し計画的に進める。

（別紙４）　施設設備に関する計画（単位：百万円）

施設設備の内容	予　定　額	財　　源
・東京国立博物館	6,082	施設整備費補助金
平成館空調設備更新工事	710	
（令和４年度～6 年度）		
（略）	（略）	
・京都国立博物館	320	施設整備費補助金
本館(明治古都館)耐震改修等工事	320	
（令和３年度～7 年度）		
・奈良国立博物館	1,019	施設整備費補助金
環境整備(設備機器更新等)工事	856	
（令和４年度～7 年度）		
東新館エレベーター更新工事	163	
（令和４年度）		
・九州国立博物館	311	施設整備費補助金
入退室管理設備更新工事	156	
（令和４年度）		
展示室内壁付ケース照明 LED 化	155	
（令和４年度）		
・東京文化財研究所	58	施設整備費補助金
空調用ガスボイラー更新工事	58	
（令和４年度）		
・奈良文化財研究所	1,005	施設整備費補助金
老朽空調設備改修	123	
（令和４年度）		
飛鳥資料館老朽改善整備	882	
（令和４年度）		

(脚注)金額については見込みである。
また、施設・設備の老朽度合等を勘案した改修（更新）等が追加されることがあり得る。
※令和４年度実施予定事業のみ抜粋。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	2年度策定の「独立行政法人国立文化財機構個別施設計画」に基づき施設整備を推進できている。

【書式A】　施設名 本部事務局　処理番号 9410

中項目	４．人事に関する計画
事業名	（１）中長期的な人事計画の策定 （２）評価制度の導入 （３）能力や適性に応じた採用・人事の実施

【年度計画】
・V-4-(1)、(2)、(3)

担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	課長　渋沢志穂

【実績・成果】
（１）中長期的な人事計画の策定
・事務系職員の人事については、9月から11月にかけて各施設の副施設長等にヒアリングを行い、他の交流機関とも順次、5年度以降の人事交流等について打合せを行った。
・研究職の採用については、理事長、理事、施設の長、研究調整役で構成される研究職員人事選考委員会において、採用の必要性、緊急性等を考慮のうえ、採用分野（専門性)、時期等を審議し、決定している。また、人事異動については、研究調整役が各施設の長と調整し、理事長が決定する仕組みを設けている。
・人件費管理の観点から、雇用経費を外部資金等の運営費交付金以外を財源とすることで、人員の確保を図っている。
（２）評価制度の導入
・評価制度の導入について検討を行った。
（３）常勤の研究職員に準じたアソシエイトフェロー制度、高度に優れた専門的技術を兼ね備えた人材の確保のための専門職制度、60歳を超える優秀な人材を採用できる任期付職員、再雇用制度を整えて、能力や適性に応じた人事を継続的に実施している。

【補足事項】

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 事務系職員の人事については、各施設・交流機関との協議により、人事交流も含めた人事計画の策定を進めた。研究職の人事については、各施設の状況をふまえ、組織として包括的な計画の策定を検討した。採用にかかる様々な制度設計を行うことにより、能力や適性に応じた採用・人事を着実に実施できている。

【中期計画記載事項】
適切な人事管理、人事交流等を実施することにより、効率的かつ効果的な業務運営を行い、人事計画等に基づき、デジタル分野など新たな業務等にも対応した人材の確保・育成を図る。国家公務員の制度改革や社会一般の動向を勘案しつつ、職員の能力や業績を適切に反映できる人事・給与体制を整備し、人材の確保を図る。職員のキャリアパスの形成に寄与するために、研修・人事交流等を多角的に企画し、人材の育成を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 3年度に引き続き、能力や適性に応じた採用・人事を行うことができた。特にデジタル分野で、情報系の人材の採用等を行い、体制強化を図っている。課題としては、施設間の情報担当の連携、強化をさらに進めることである。

【書式A】　施設名 本部事務局　処理番号 9420

中項目	４．人事に関する計画
事業名	（３）能力や適性に応じた採用・人事の実施 （４）女性の活躍の推進、就業環境の整備及び教育・研修の実施 （５）人事交流等の実施 （６）働き方改革関連法に応じた取組の実施

【年度計画】
・Ⅴ-4-(4)、(5)、(6)

担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	課長　渋沢志穂

【実績・成果】
（４）育児や介護を行う職員が働きやすい環境を作り、女性の活躍推進のためを図るため、国の育児・介護休業法改正に合わせ、不妊治療と仕事の両立支援のための休暇等の整備に関する規程改正を行った。
研修の実施状況については下記のとおりである。

研修名称	日程	受講対象者	受講者数
＜階層別＞			
新規採用事務職員研修	6月30日～7月1日	3年度統一試験及び独自試験で採用された事務職員	8名
新任職員研修（オンライン研修）	7月19日～8月31日	4年度の新任職員等	100名
＜分野別・能力開発＞			
研究倫理教育研修 (e-ラーニング等)	4月22日他（各施設で実施）	研究者番号を持つ研究員、事務担当者等	294名
施設系職員研修	11月25日	機構内の施設系職員	16名
会計職員研修	11月25日、28日	各施設の会計担当者、その他希望者も参加可	49名
コンプライアンス教育研修 （科研費説明会と併せて実施）	7月7日他（各施設で実施）	研究者番号を持つ研究員、事務担当者等	485名
情報セキュリティ研修 (e-ラーニング等)	12月12日～5年2月24日	常勤職員、アソシエイトフェロー、有期雇用職員他	815名
情報セキュリティ研修(臨時) (e-ラーニング等)	2月9日～2月24日	常勤職員、アソシエイトフェロー、有期雇用職員他	792名
コンプライアンス研修 (e-ラーニング等)	9月1日～9月30日	常勤職員、アソシエイトフェロー、有期雇用職員他	825名
会計不正防止のための研修 (動画視聴等)	10月20日～11月30日	常勤職員、アソシエイトフェロー、有期雇用職員他	716名

（５）職員のキャリアパスの形成のため、文化庁をはじめとした関係機関との人事交流を行った。他機関との連携・協力による調査・研究基盤の強化を図ることを目的としたクロスアポイントメント制度を整備した。また、職員のスキルアップや優秀な人材の確保等を図るため、兼業規程の見直しを行い、所要の規定改正を行った。
（６）働き方改革関連法への対応及び勤怠管理業務の軽減化を図ることを目的とし、4年度は、本部事務局、文化財活用センター及び東京国立博物館の職員を対象に就業管理システムを導入した。また、年5日間の年次有給休暇の取得義務付けについても役員会等で周知のうえ、各施設へ取得促進に向けた取り組みを実施した。

【補足事項】

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 育児や介護を行う職員が働きやすい環境を作り、女性の活躍推進のためを図るため、国の育児・介護休業法改正に合わせ、不妊治療と仕事の両立支援のための休暇等の整備に関する規程改正を行った。 働き方改革関連では、就業管理システムを導入するとともに、年5日間の確実な年休取得を達成するために取得促進等の取組を実施した。

【中期計画記載事項】
適切な人事管理、人事交流等を実施することにより、効率的かつ効果的な業務運営を行い、人事計画等に基づき、デジタル分野など新たな業務等にも対応した人材の確保・育成を図る。
国家公務員の制度改革や社会一般の動向を勘案しつつ、職員の能力や業績を適切に反映できる人事・給与体制を整備し、人材の確保を図る。
職員のキャリアパスの形成に寄与するために、研修・人事交流等を多角的に企画し、人材の育成を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 3年度に引き続き、直面するICT環境整備や情報セキュリティ対策等のデジタル化に対応できる情報分野の採用等を行い、人材の確保、体制強化を図った。また今後の組織的な整備や育成に向けても促進を図った。また、今後は、研修や施設間の交流連携等も行うことで人材の育成も充実させていきたい。

Ⅲ　施設概要

【東京国立博物館】

土地・建物　　(㎡)

土地面積	１２０，２７０（黒田記念館、柳瀬荘含む）		
建物	建築面積		２３，６５１
	延面積		７８，４７１
展示館	展示面積	計	１８，５６７
	収蔵庫面積	計	１１，６０３
	本館	建	６，６０２
		延	２２，４１６
		展示面積	６，９４１
		収蔵庫面積	３，７１３
	東洋館	建	２，８９２
		延	１２，５３１
		展示面積	４，２５０
		収蔵庫面積	１，３７９
	平成館	建	５，５４２
		延	１９，４０６
		展示面積	４，４７１
		収蔵庫面積	２，４４６
	法隆寺宝物館	建	１，９３５
		延	４，０３１
		展示面積	１，４６２
		収蔵庫面積	２９１
	表慶館	建	１，１３０
		延	２，０７７
		展示面積	１，１７９
		収蔵庫面積	－
	黒田記念館	建	７２４
		延	１，９９６
		展示面積	２６４
		収蔵庫面積	２５
	その他	建	４，８２６
		延	１６，０１４
		収蔵庫面積	３，７４９

【京都国立博物館】

土地・建物　　(㎡)

土地面積	５３，１８２		
建物	建築面積		１３，０７７
	延面積		３０，８７２
展示館	展示面積	計	５，６５７
	収蔵庫面積	計	４，０８６
	平成知新館(新平常展示館)	建	５，５６８
		延	１７，９９７
		展示面積	３，５８７
		収蔵庫面積	２，７１０
	明治古都館(特別展示館)	建	２，８９６
		延	３，０１５
		展示面積	２，０７０
		収蔵庫面積	０
	旧管理棟	建	６０６
		延	１，９８８
	資料棟	建	４１４
		延	１，１２５
	文化財保存修理所	建	８２１
		延	２，７８６
	技術資料参考館	建	１０１
		延	３０４
	東収蔵庫	建	８１１
		延	１，４７１
		収蔵庫面積	８８０
	北収蔵庫	建	３１０
		延	６８２
		収蔵庫面積	４９６
	その他	建	１，５５０
		延	１，５０４

【奈良国立博物館】

土地・建物　　（㎡）

土地面積	７８，７６０		
建物	建築面積		６，７８６
	延面積		１９，１３３
展示館	展示面積	計	４，０７９
	収蔵庫面積	計	１，８０６
	なら仏像館(本館)	建	１，５１２
		延	１，５１２
		展示面積	１，２６１
	青銅器館(本館付属棟)	建	３４１
		延	６６４
		展示面積	４７０
	東新館	建	１，８２５
		延	６，３８９
		展示面積	８７５
		収蔵庫面積	１，６４２
	西新館	建	１，６４９
		延	５，３９６
		展示面積	１，４７３
	仏教美術資料研究センター	建	７３５
		延	７３５
	文化財保存修理所	建	３１９
		延	１，０３６
	地下回廊	延	２，１５２
		収蔵庫面積	１６４
	その他	建	４０５
		延	１，２４９

【九州国立博物館】

土地・建物　　（㎡）

土地面積	１５９，８４４		
			（法人　１０，７９８ 県　１４９，０４６）
建物	建築面積		１４，６２３
	延面積		３０，６７５
			（法人　９，３００ 県　５，７８０ 共用　１５，５９５）
展示館	展示面積	計	５，４４４
			（法人　３，８４４ 県　１，３７５ 共用　２２５）
	収蔵庫面積	計	４，５１８
			（法人　２，７４４ 県　１，３３５ 共用　４３９）

【東京文化財研究所】

土地・建物　　（㎡）

土地面積	４，１８１	
建物	建築面積	２，２５８
	延面積	１０，５１６

【奈良文化財研究所】

土地・建物　　（㎡）

	土地面積	建物	
本庁舎地区	８，８７９	建築面積 延面積	２，８１２ １１，３８７
平城宮跡地区	（文化庁所属の国有地を無償使用）	建築面積 延面積	１１，０６０ １６，３０３
藤原地区	２０，５１５	建築面積 延面積	６，２６０ ９，４１６
飛鳥地区	１７，０８２	建築面積 延面積	２，６６０ ４，４０３

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】

土地・建物　　（㎡）

建物	建築面積 延面積	２４４．６７ ２４４．６７

※建物は大阪府堺市より借用。

令和４年度

（第 16 期事業年度）

財　務　諸　表

独立行政法人国立文化財機構

目　　次

１．貸借対照表

２．行政コスト計算書

３．損益計算書

４．純資産変動計算書

５．キャッシュ・フロー計算書

６．利益の処分に関する書類

７．注記事項（重要な会計方針等）

８．附属明細書

貸 借 対 照 表

令和5年3月31日現在

独立行政法人国立文化財機構　　（単位：円）

科目	金額		科目	金額	
（資産の部）			（負債の部）		
Ⅰ 流動資産			Ⅰ 流動負債		
現金及び預金		4,092,522,995	運営費交付金債務（注）		527,601,103
棚卸資産		53,582,019	預り寄附金（注）		1,703,074,212
立替金		22,182,132	未払金		1,984,433,013
前払費用		575,835	未払費用		80,416,284
未収金		1,345,117,932	前受金		3,157,000
その他の流動資産		2,044,248	預り金		284,160,151
賞与引当金見返（注）		305,732,254	賞与引当金		305,732,254
流動資産合計		5,821,757,415	その他の流動負債		1,002,740
			流動負債合計		4,889,576,757
Ⅱ 固定資産			Ⅱ 固定負債		
1有形固定資産			資産見返負債		
建物	96,685,783,691		資産見返運営費交付金（注）	1,929,096,088	
減価償却累計額	−51,866,505,081	44,819,278,610	資産見返寄附金（注）	651,727,263	
構築物	4,794,839,042		資産見返物品受贈額（注）	16,177,815	
減価償却累計額	−3,377,839,347	1,416,999,695	資産見返その他補助金（注）	76,477,772	
機械・装置	731,364,796		建設仮勘定見返運営費交付金（注）	14,029,800	
減価償却累計額	−715,029,075	16,335,721	建設仮勘定見返施設費（注）	37,955,500	
車両運搬具	70,379,650		資産見返負債合計	2,725,464,238	
減価償却累計額	−63,957,680	6,421,970	引当金		
工具器具備品	10,745,249,913		退職給付引当金	2,222,782,629	
減価償却累計額	−8,626,089,096	2,119,160,817	引当金合計	2,222,782,629	
収蔵品		129,074,430,052	その他の固定負債		
土地		44,410,675,104	長期未払金	23,934,088	
建設仮勘定		51,925,500	固定負債合計		4,972,180,955
有形固定資産合計		221,915,227,469	負債合計		9,861,757,712
2無形固定資産			（純資産の部）		
ソフトウエア		99,019,201	Ⅰ 資本金		
電話加入権		1,871,100	政府出資金		104,713,813,740
その他の無形固定資産		2,880,195	資本金合計		104,713,813,740
無形固定資産合計		103,770,496			
			Ⅱ 資本剰余金		
3投資その他の資産			資本剰余金	174,067,005,197	
退職給付引当金見返（注）		2,222,782,629	その他行政コスト累計額		
投資その他の資産合計		2,222,782,629	減価償却相当累計額（−）（注）	−56,584,381,231	
固定資産合計		224,241,780,594	減損損失相当累計額（−）（注）	−3,069,000	
			除売却差額相当累計額（−）（注）	−3,334,477,211	
			その他行政コスト累計額合計	−59,921,927,442	
			資本剰余金合計		114,145,077,755
			Ⅲ 利益剰余金		
			前中期目標期間繰越積立金（注）		620,997,831
			目的積立金（注）		136,287,524
			積立金（注）		167,255,953
			当期未処分利益		418,347,494
			（うち当期総利益）		(418,347,494)
			利益剰余金合計		1,342,888,802
			純資産合計		220,201,780,297
資産合計		230,063,538,009	負債純資産合計		230,063,538,009

（注記） 1. その他行政コスト累計額のうち、出資を財源に取得した資産に係る金額は34,552,330,799円であります。

2. （注）は、独立行政法人固有の会計処理に伴う勘定科目であります。

行政コスト計算書

（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

独立行政法人国立文化財機構　　（単位：円）

Ⅰ　損益計算書上の費用		
業務費	9,013,052,160	
一般管理費	2,364,694,894	
財務費用	702,649	
雑損	729,757	
臨時損失	90,152	
損益計算書上の費用合計		11,379,269,612
Ⅱ　その他行政コスト		
減価償却相当額（注）	2,831,295,225	
減損損失相当額（注）	0	
除売却差額相当額（注）	1,785,347	
その他行政コスト合計		2,833,080,572
Ⅲ　行政コスト		14,212,350,184

（行政コスト計算書に係る注記）

1．独立行政法人の業務運営に関して国民の負担に帰せられるコスト

行政コスト	14,212,350,184
自己収入等	−2,785,956,787
法人税等及び国庫納付額	0
機会費用	784,036,057
独立行政法人の業務運営に関して国民の負担に帰せられるコスト	12,210,429,454

2．機会費用の計上方法

(1) 国又は地方公共団体の財産の無償又は減額された使用料による貸借取引から生ずる機会費用の計算方法
国の庁舎等の使用又は収益を許可する場合の取扱の基準（昭和33年1月7日付大蔵省管財局長通知蔵管第1号）及び堺市行政財産の目的外使用に関する条例（昭和39年5月29日付条例第36号）により計算しております。

(2) 政府出資等の機会費用の計算に使用した利率
10年利付国債の令和5年3月末利回りを参考に0.320%で計算しております。

(3) 国又は地方公共団体との人事交流による出向職員から生ずる機会費用の計算方法
当該職員が国又は地方公共団体に復帰後退職する際に支払われる退職金のうち、独立行政法人での勤務期間に対応する分について、給与規則に定める退職給付支給基準等を参考に計算しております。

3．（注）は、独立行政法人固有の会計処理に伴う勘定科目であります。

損 益 計 算 書

（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

独立行政法人国立文化財機構　　（単位：円）

経常費用			
業務費			
人件費		3,785,696,788	
業務経費			
収集保管業務費	542,740,502		
展覧業務費	2,276,092,393		
教育普及業務費	71,908,750		
博物館研究業務費	231,686,400		
博物館支援業務費	9,231,395		
文化財活用業務費	158,133,922		
基礎研究業務費	263,597,434		
応用研究業務費	138,997,153		
国際遺産保護業務費	84,953,220		
情報公開業務費	297,491,916		
研修協力業務費	16,828,945		
文化財防災業務費	41,081,994		
受託業務費	585,278,696	4,718,022,720	
減価償却費		509,332,652	9,013,052,160
一般管理費			
人件費		1,038,292,425	
一般管理経費		1,221,678,820	
減価償却費		104,723,649	2,364,694,894
財務費用			702,649
雑損			729,757
経常費用合計			11,379,179,460
経常収益			
運営費交付金収益(注)		7,459,057,757	
受託収入			
政府関係・地方自治体受託収入(注)	561,399,978		
その他受託収入(注)	31,325,663	592,725,641	
入場料収入		919,917,156	
展示事業等附帯収入		498,092,155	
財産利用収入		301,157,221	
寄附金収益(注)		387,693,392	
施設費収益(注)		441,569,054	
その他補助金収益(注)		33,827,153	
資産見返負債戻入			
資産見返運営費交付金戻入(注)	436,020,872		
資産見返寄附金戻入(注)	154,221,317		
資産見返物品受贈額戻入(注)	1,326,975		
資産見返その他補助金戻入(注)	10,683,851		
建設仮勘定見返運営費交付金戻入(注)	995,500		
建設仮勘定見返施設費戻入(注)	164,155,260	767,403,775	
財務収益			
受取利息	328		
その他財務収益	2,494	2,822	
雑益		6,133,444	
賞与引当金見返に係る収益(注)		305,732,254	
退職給付引当金見返に係る収益(注)		83,170,617	
経常収益合計			11,796,482,441
経常利益			417,302,981
臨時損失			
固定資産除却損		90,152	90,152
臨時利益			
資産見返運営費交付金戻入(注)		90,144	
資産見返寄附金戻入(注)		5	
資産見返物品受増額戻入(注)		1	
資産見返その他補助金戻入(注)		3	
固定資産売却益		115,499	205,652
当期純利益			417,418,481
前中期目標期間繰越積立金取崩額(注)			929,013
当期総利益			418,347,494

（注記）1. ファイナンス・リース取引が損益に与える影響額は-852,666円であり、当該損益を除いた当期総利益は419,200,160円であります。
2. 固定資産売却益は、車両運搬具の売却に伴うものであります。
3. （注）は、独立行政法人固有の会計処理に伴う勘定科目であります。

純資産変動計算書　（令和4年4月1日～令和5年3月31日）　（単位：円）

	Ⅰ 資本金		Ⅱ資本剰余金					Ⅲ 利益剰余金						純資産合計
	政府出資金	資本金合計	資本剰余金	その他行政コスト累計額			資本剰余金合計	前中期目標期間繰越積立金	目的積立金	積立金	当期未処分利益		利益剰余金合計	
				減価償却相当累計額（－）	減損損失相当累計額（－）	除売却差額相当累計額（－）						うち当期総利益		
当期首残高	104,713,813,740	104,713,813,740	170,963,725,086	−53,773,531,714	−3,376,800	−3,311,938,356	113,874,878,216	621,926,844	0	0	303,543,477	—	925,470,321	219,514,162,277
当期変動額														
Ⅰ 資本金の当期変動額														0
Ⅱ 資本剰余金の当期変動額														
固定資産の取得			3,103,280,111				3,103,280,111							3,103,280,111
固定資産の除売却				20,445,708	307,800	−22,538,855	−1,785,347							−1,785,347
減価償却				−2,831,295,225			−2,831,295,225							−2,831,295,225
Ⅲ 利益剰余金の当期変動額														
（1）利益の処分又は損失の処理														
利益処分による積立									136,287,524	167,255,953	−303,543,477		0	0
（2）その他														
当期純利益											417,418,481	417,418,481	417,418,481	417,418,481
前中期目標期間繰越積立金取崩額								−929,013			929,013	929,013	0	0
当期変動額合計	0	0	3,103,280,111	−2,810,849,517	307,800	−22,538,855	270,199,539	−929,013	136,287,524	167,255,953	114,804,017	418,347,494	417,418,481	687,618,020
当期末残高	104,713,813,740	104,713,813,740	174,067,005,197	−56,584,381,231	−3,069,000	−3,334,477,211	114,145,077,755	620,997,831	136,287,524	167,255,953	418,347,494	418,347,494	1,342,888,802	220,201,780,297

キャッシュ・フロー計算書

（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

独立行政法人国立文化財機構　　（単位:円）

Ⅰ　業務活動によるキャッシュ・フロー	
人件費支出	−4,845,767,629
業務支出	−5,564,251,241
科学研究費支出	−266,170,534
消費税等支払額	−114,014,600
運営費交付金収入	8,918,489,000
科学研究費収入	260,886,005
展示事業等収入	1,421,943,382
財産利用収入	287,801,731
受託収入	648,673,895
寄附金収入	955,311,977
その他補助金による収入	15,605,916
その他の業務収入	6,511,512
小計	1,725,019,414
利息の受取額	328
利息の支払額	−662,658
業務活動によるキャッシュ・フロー	1,724,357,084
Ⅱ　投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	−1,319,654,868
無形固定資産の取得による支出	−41,292,123
施設費による収入	412,159,460
固定資産の売却による収入	115,500
投資活動によるキャッシュ・フロー	−948,672,031
Ⅲ　財務活動によるキャッシュ・フロー	
リース債務の支払による支出	−9,826,863
財務活動によるキャッシュ・フロー	−9,826,863
Ⅳ　資金増加額	765,858,190
Ⅴ　資金期首残高	3,326,664,805
Ⅵ　資金期末残高	4,092,522,995

（注記事項）

（1）資金の期末残高の貸借対照表科目の内訳

現金及び預金勘定	4,092,522,995 円
資金期末残高	4,092,522,995 円

（2）重要な非資金取引

①現物寄附の受入

収蔵品	1,754,265,973 円
工具器具備品、ソフトウェア	6,788,045 円
合計	1,761,054,018 円

②ファイナンス・リースによる資産取得　18,043,516 円

利益の処分に関する書類

独立行政法人国立文化財機構　　（単位：円）

Ⅰ　当期未処分利益		418,347,494
当期総利益	418,347,494	
Ⅱ　利益処分額		
積立金	418,347,494	
独立行政法人通則法		
第４４条第３項により		
主務大臣の承認を受けようとする額		
業務拡充積立金	－	418,347,494

注記事項

Ⅰ．重要な会計方針

当事業年度より、改訂後の「独立行政法人会計基準」及び「独立行政法人会計基準注解」（令和 3 年 9 月 21 日改訂）並びに「『独立行政法人会計基準』及び『独立行政法人会計基準注解』に関する Q&A」（令和 4 年 3 月最終改訂）（以下「独立行政法人会計基準等」という。）のうち、時価の算定に係る改訂内容を適用して、財務諸表等を作成しています。

なお、独立行政法人会計基準等のうち、収益認識に係る改訂内容は令和５事業年度から適用します。

１．運営費交付金収益の計上基準

人件費のうちの役員給与、管理部門の職員給与、法定福利費並びに管理部門の経費（特に指定するものを除く）、減価償却費及び財務費用については、業務の実施が運営費交付金と期間的に対応しているため期間進行基準（一定の期間の経過を業務の進行とみなし、運営費交付金債務を収益化する方法）を採用しております。

人件費のうちの退職手当並びに事業部門の職員給与、法定福利費並びに事業部門の経費及び管理部門の経費のうち特に指定するものについては、業務達成基準（当該業務等の達成度に応じて、財源として予定されていた運営費交付金債務を収益化する方法）を採用しております。

その他計画外の発生費用については、費用進行基準（発生費用の額を限度として運営費交付金債務を収益化する方法）を採用しております。

２．減価償却の会計処理方法

（１）有形固定資産（リース資産を除く）

定額法により行っております。

なお、主な資産の耐用年数は以下のとおりであります。

建物	２年～５８年
構築物	２年～６３年
機械・装置	２年～１７年
車両運搬具	２年～　７年
工具器具備品	２年～２０年

また、特定の償却資産（独立行政法人会計基準第８７第１項）の減価償却に相当する額については、減価償却相当累計額として資本剰余金を減額しております。

（２）無形固定資産（リース資産を除く）

定額法により行っております。なお、機構内利用のソフトウエアについては、機構内における利用可能期間（５年）に基づいております。

（３）リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

３．賞与引当金の計上基準

役職員の賞与の支給に備えるため、賞与支給見込額のうち、当事業年度に負担すべき金額を計上しております。なお、役職員の賞与については、運営費交付金により財源措置がなされる見込みであるため、賞与引当金と同額を賞与引当金見返として計上して

おります。

４．退職給付に係る引当金の計上基準

職員の退職給付に備えるため、当該事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

退職給付債務の算定に当たり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については期間定額基準によっております。

退職一時金については、期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。このうち、運営費交付金により財源措置がなされる見込みである退職一時金については、退職給付引当金と同額を退職給付引当金見返として計上しております。

５．棚卸資産の評価基準及び評価方法

（１）貯蔵品等･･･最終仕入原価法を採用しております。

（２）未成受託研究支出金･･･個別法による低価法を採用しております。

６．収蔵品の評価方法

国からの承継分については、承継時の物品目録上の価額をもって評価しており、新規取得分については取得時の価額をもって評価しております。

７．消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっております。

Ⅱ．固定資産の減損

該当なし

Ⅲ．重要な債務負担行為

該当なし

Ⅳ．金融商品関係

１．金融商品の状況に関する事項

当機構は、資金運用については短期的な預金に限定しております。また、活動資金は事業収入及び運営費交付金等によりまかなっているため、資金調達はありません。

２．金融商品の時価等に関する事項

現金は注記を省略しており、預金、未収金、未払金は短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似することから、注記を省略しております。

Ⅴ．賃貸等不動産関係

当機構は、東京都その他の地域において、賃貸等不動産を保有しておりますが、賃貸等不動産の総額に重要性が乏しいため、注記を省略しております。

Ⅵ．資産除去債務関係

石綿（アスベスト）関係

当機構では、石綿関連法令により使用等が規制されている石綿が、奈良文化財研究所収蔵庫１棟の天井材及び資料館１棟の煙突断熱材に使用されております。

これらの石綿は全て封じ込め済みであり、建物の解体時に石綿の除去義務が発生しま

すが、当該資産の具体的な解体計画はなく、今後も、現状のまま継続的に使用する予定であります。加えて計画策定には国による認可及び予算措置が必要であり機構単独の意思決定ではなし得ない状況にあるため、資産除去債務を合理的に見積ることができません。このため、貸借対照表に資産除去債務を計上しておりません。

Ⅶ. 退職給付に係る注記

１．採用している退職給付制度の概要

当機構では、役職員の退職給付に充てるため、非積立型の退職一時金制度及び国家公務員共済組合法の退職等年金給付制度を採用しています。非積立型の退職一時金制度では、給与と勤務期間に基づいた一時金を支給しており、簡便法により退職給付引当金及び退職給付費用を計算しています。

２．確定給付制度

（１）簡便法を適用した制度の、退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表

（単位：円）

区　　分	令和4年4月1日～令和5年3月31日
期首における退職給付引当金	2,279,515,445
退職給付費用	101,505,839
退職給付の支払額	△158,238,655
期末における退職給付引当金	2,222,782,629

（２）退職給付に関連する損益

（単位：円）

区　　分	令和4年4月1日～令和5年3月31日
簡便法で計算した退職給付費用	101,505,839

（３）退職等年金給付制度

当法人の退職等年金給付制度への要拠出額は、22,629,336円です。

附　属　明　細　書

第16期

自：令和4年 4月 1日
至：令和5年 3月31日

独立行政法人　国立文化財機構

第16期　附属明細書

自：令和4年 4月 1日
至：令和5年 3月31日

１．　固定資産の取得、処分、減価償却費（「第８７　特定の資産に係る費用相当額の会計処理」及び「第９１　資産除去債務に係る特定の除去費用等の会計処理」による減価償却相当額も含む。）及び減損損失累計額の明細

２．　棚卸資産の明細

３．　有価証券の明細

４．　長期貸付金の明細

５．　長期借入金及び債券の明細

６．　引当金の明細

７．　退職給付引当金の明細

８．　資産除去債務の明細

９．　法令に基づく引当金等の明細

１０．　保証債務の明細

１１．　資本剰余金の明細

１２．　運営費交付金債務及び当期振替額等の明細

１３．　運営費交付金以外の国等からの財源措置の明細

１４．　役員及び職員の給与の明細

１５．　セグメント情報

１６．　科学研究費補助金の明細

１７．　主な資産、負債、費用及び収益の明細

1. 固定資産の取得、処分、減価償却費(「第87 特定の資産に係る費用相当額の会計処理」及び「第91 資産除去債務に係る特定の除去費用等の会計処理」による減価償却相当額も含む。)及び減損損失累計額の明細

(単位:円)

資産の種類		期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	減価償却累計額		減損損失累計額		差引当期末残高	摘要
							当期償却額		当期減損額		
有形固定資産(減価償却費)	建物	3,001,354,614	39,072,626	0	3,040,427,240	2,100,703,005	107,586,205	0	0	939,724,235	
	構築物	350,333,164	19,671,465	0	370,004,629	168,953,208	18,504,815	0	0	201,051,421	
	機械・装置	115,732,071	0	0	115,732,071	99,396,504	2,658,956	0	0	16,335,567	
	車両運搬具	67,589,877	0	3,617,817	63,972,060	57,550,099	2,630,777	0	0	6,421,961	
	工具器具備品	6,971,198,863	219,656,460	91,799,640	7,099,055,683	5,646,659,130	447,733,449	0	0	1,452,396,553	
	計	10,506,208,589	278,400,551	95,417,457	10,689,191,683	8,073,261,946	579,114,202	0	0	2,615,929,737	
有形固定資産(減価償却相当額)	建物	93,139,466,373	506,460,536	570,458	93,645,356,451	49,765,802,076	2,561,328,777	0	0	43,879,554,375	(注)
	構築物	4,424,834,413	0	0	4,424,834,413	3,208,886,139	121,735,493	0	0	1,215,948,274	
	機械・装置	620,846,421	0	5,213,696	615,632,725	615,632,571	0	0	0	154	
	車両運搬具	6,407,590	0	0	6,407,590	6,407,581	0	0	0	9	
	工具器具備品	3,521,222,396	0	14,635,067	3,506,587,329	2,979,429,966	146,288,645	0	0	527,157,363	
	計	101,712,777,193	506,460,536	20,419,221	102,198,818,508	56,576,158,333	2,829,352,915	0	0	45,622,660,175	
非償却資産	工具器具備品	139,606,901	0	0	139,606,901	0	0	0	0	139,606,901	
	収蔵品	126,479,418,613	2,595,011,439	0	129,074,430,052	0	0	0	0	129,074,430,052	(注)
	土地	44,410,675,104	0	0	44,410,675,104	0	0	0	0	44,410,675,104	
	建設仮勘定	5,395,500	308,899,800	262,369,800	51,925,500	0	0	0	0	51,925,500	
	計	171,035,096,118	2,903,911,239	262,369,800	173,676,637,557	0	0	0	0	173,676,637,557	
有形固定資産合計	建物	96,140,820,987	545,533,162	570,458	96,685,783,691	51,866,505,081	2,668,914,982	0	0	44,819,278,610	
	構築物	4,775,167,577	19,671,465	0	4,794,839,042	3,377,839,347	140,240,308	0	0	1,416,999,695	
	機械・装置	736,578,492	0	5,213,696	731,364,796	715,029,075	2,658,956	0	0	16,335,721	
	車両運搬具	73,997,467	0	3,617,817	70,379,650	63,957,680	2,630,777	0	0	6,421,970	
	工具器具備品	10,632,028,160	219,656,460	106,434,707	10,745,249,913	8,626,089,096	594,022,094	0	0	2,119,160,817	
	収蔵品	126,479,418,613	2,595,011,439	0	129,074,430,052	0	0	0	0	129,074,430,052	
	土地	44,410,675,104	0	0	44,410,675,104	0	0	0	0	44,410,675,104	
	建設仮勘定	5,395,500	308,899,800	262,369,800	51,925,500	0	0	0	0	51,925,500	
	計	283,254,081,900	3,688,772,326	378,206,478	286,564,647,748	64,649,420,279	3,408,467,117	0	0	221,915,227,469	
無形固定資産(減価償却費)	ソフトウエア	476,316,513	57,259,917	18,136,080	515,440,350	420,305,246	34,781,453	0	0	95,135,104	
	その他無形固定資産	1,285,181	0	0	1,285,181	272,922	160,646	0	0	1,012,259	
	計	477,601,694	57,259,917	18,136,080	516,725,531	420,578,168	34,942,099	0	0	96,147,363	
無形固定資産(減価償却相当額)	ソフトウエア	12,312,329	0	205,334	12,106,995	8,222,898	1,942,310	0	0	3,884,097	
	計	12,312,329	0	205,334	12,106,995	8,222,898	1,942,310	0	0	3,884,097	
無形固定資産(非償却)	電話加入権	6,854,400	0	1,914,300	4,940,100	0	0	3,069,000	0	1,871,100	
	その他無形固定資産	0	1,867,936	0	1,867,936	0	0	0	0	1,867,936	
	計	6,854,400	1,867,936	1,914,300	6,808,036	0	0	3,069,000	0	3,739,036	
無形固定資産合計	ソフトウエア	488,628,842	57,259,917	18,341,414	527,547,345	428,528,144	36,723,763	0	0	99,019,201	
	電話加入権	6,854,400	0	1,914,300	4,940,100	0	0	3,069,000	0	1,871,100	
	その他無形固定資産	1,285,181	1,867,936	0	3,153,117	272,922	160,646	0	0	2,880,195	
	計	496,768,423	59,127,853	20,255,714	535,640,562	428,801,066	36,884,409	3,069,000	0	103,770,496	
投資その他の資産	退職給付引当金見返	2,279,515,445	83,170,617	139,903,433	2,222,782,629	0	0	0	0	2,222,782,629	
	計	2,279,515,445	83,170,617	139,903,433	2,222,782,629	0	0	0	0	2,222,782,629	

(注1)当期増加額のうち、24,339,927円は東京国立博物館東洋館等建物・設備等の老朽改修、213,987,370円は東京国立博物館本館リニューアル工事、190,423,270円は東京国立博物館平成館空調設備改修工事、77,709,969円は奈良文化財研究所老朽空調設備改修によるものであります。

(注2)当期増加額2,595,011,439円の内訳は、寄贈により取得した資産1,753,665,369円、購入により取得した資産840,745,466円、編入により取得した資産600,604円であります。

2. 棚卸資産の明細

（単位：円）

種　類	期首残高	当期増加額		当期減少額		期末残高	摘　要
		当期購入・製造・振替	その他	払出・振替	その他		
貯蔵品等	46,529,239	24,866,703	0	23,919,803	0	47,476,139	
未成受託研究支出金	47,208,035	6,105,880	0	47,208,035	0	6,105,880	
計	93,737,274	30,972,583	0	71,127,838	0	53,582,019	

3. 有価証券の明細

当該年度は有価証券を保有していないため、記載を省略しております。

4. 長期貸付金の明細

当該年度は長期貸付金に関して該当がないため、記載を省略しております。

5. 長期借入金及び債券の明細

当該年度は長期借入金及び債券に関して該当がないため、記載を省略しております。

6. 引当金の明細

（単位:円）

区　　分	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高	摘　　要
			目的使用	その他		
賞与引当金	257,442,973	305,732,254	257,442,973	0	305,732,254	
計	257,442,973	305,732,254	257,442,973	0	305,732,254	

7. 退職給付引当金の明細

（単位:円）

区　　分	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	摘　　要
退職給付債務合計額	2,279,515,445	83,170,617	139,903,433	2,222,782,629	
退職一時金に係る債務	2,279,515,445	83,170,617	139,903,433	2,222,782,629	
退職給付引当金	2,279,515,445	83,170,617	139,903,433	2,222,782,629	

8. 資産除去債務の明細

当該年度は資産除去債務を計上していないため、記載を省略しております。

9. 法令に基づく引当金等の明細

当該年度は法令に基づく引当金等を計上していないため、記載を省略しております。

10. 保証債務の明細

当該年度は保証債務に関して該当がないため、記載を省略しております。

11. 資本剰余金の明細

（単位:円）

区　分	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	摘　要
施設費補助金	47,168,940,719	506,460,536	0	47,675,401,255	施設費による特定資産の取得
目的積立金	700,022,095	0	0	700,022,095	
運営費交付金	23,961,224,941	701,274,302	0	24,662,499,243	運営費交付金による収蔵品の取得
寄附金等	1,834,278,470	141,279,300	0	1,975,557,770	寄附金による収蔵品の取得
贈与	97,287,198,522	1,753,665,369	0	99,040,863,891	寄贈品の受け入れ
収蔵品編入	12,060,339	600,604	0	12,660,943	一般物品から収蔵品への編入
計	170,963,725,086	3,103,280,111	0	174,067,005,197	

12. 運営費交付金債務及び当期振替額等の明細

(1)運営費交付金債務の増減の明細

(単位:円)

期首残高	当期交付額	当期振替額						引当金見返との相殺額	期末残高
		運営費交付金収益	資産見返運営費交付金	建設仮勘定見返運営費交付金	建設仮勘定見返運営費交付金戻入	資本剰余金	小計		
405,985,512	8,918,489,000	7,459,057,757	225,645,787	14,029,800	0	701,274,302	8,400,007,646	396,865,763	527,601,103

(2)運営費交付金債務の当期振替額及び主な使途の明細

①運営費交付金収益への振替額及び主な使途の明細

(単位:円)

区分		運営費交付金収益	運営費交付金の主な使途	
			費用	主な使途
業務達成基準による振替額				
	国立博物館等の事業	4,027,502,342	4,018,253,789	人件費:1,935,627,516円、 一般管理費:69,276,538円、 業務費:2,013,349,735円、その他:0円
	文化財研究所等の事業	1,979,542,727	1,984,493,964	人件費:1,262,097,288円、 一般管理費:7,715,487円、 業務費:714,681,189円、その他:0円
	共通	56,593,157	58,497,758	人件費:0円、 一般管理費:58,497,758円、 業務費:0円、その他:0円
期間進行基準による振替額		1,395,419,531	1,249,776,428	人件費:894,711,435円、 一般管理費:354,008,507円、 その他:1,056,486円
合計		7,459,057,757	7,311,021,939	

②資産見返運営費交付金及び建設仮勘定見返運営費交付金、資本剰余金への振替額並びに主な使途の明細

(単位:円)

セグメント	資産見返運営費交付金への振替		建設仮勘定見返運営費交付金への振替		資本剰余金への振替	
	振替額	主な使途	振替額	主な使途	振替額	主な使途
国立博物館等の事業	132,303,364	京都国立博物館携帯型2次元X線回析装置 TD-20S:18,810,000円 本部文化財活用センター高精細複製品「車争図屏風」:12,531,905円 京都国立博物館講堂4Kプロジェクター-SONY VPL-GTZ380:8,773,848円 その他:92,187,611円	0		701,274,302	陳列品購入 東京国立博物館:83,060,000円 京都国立博物館:71,000,000円 奈良国立博物館:168,000,000円 九州国立博物館:377,406,166円 その他:1,808,136円
文化財研究所等の事業	67,355,044	東京文化財研究所近赤外型ハイパースペクトルカメラ:14,999,600円 東京文化財研究所高解像度デジタルマイクロスコープ:14,875,740円 東京文化財研究所一体型高速GPCシステム:9,130,000円 その他:28,349,704円	59,800	奈良文化財研究所商標出願費用:59,800円	0	
共通	25,987,379	本部事務局国立文化財機構就業管理システム一式:13,090,000円 本部事務局資料館3階電算室生体認証:2,500,003円 本部事務局資料館2階会議室系統空調機:2,447,918円 その他:7,949,458円	13,970,000	【高精細複製品】風神雷神図・夏秋草図屏風製作費:8,250,000円 【高精細複製品】花下遊楽図屏風製作費:3,960,000円 【高精細複製品】観楓図屏風製作費:990,000円 【高精細複製品】納涼図屏風製作費:770,000円	0	
合計	225,645,787		14,029,800		701,274,302	

(3)引当金見返との相殺額の明細

(単位:円)

セグメント	引当金見返との相殺	
	相殺額	主な相殺額の内訳
国立博物館等の事業	265,764,895	賞与引当金見返:149,867,454円 退職給付引当金見返:115,897,441円
文化財研究所等の事業	115,918,581	賞与引当金見返:91,912,589円 退職給付引当金見返:24,005,992円
共通	15,182,287	賞与引当金見返:15,182,287円
合計	396,865,763	

(4)運営費交付金債務残高の明細

(単位:円)

運営費交付金債務残高		使用見込み
業務達成基準を採用した業務に係る分	527,601,103	○翌事業年度に繰り越した運営費交付金債務残高と使用見込みの明細は別表1のとおりです。
期間進行基準を採用した業務に係る分	－	○翌事業年度への繰越額はない。
計	527,601,103	

別表1　翌事業年度に繰り越した運営費交付金債務残高と使用見込みの明細

セグメント	業務名称	施設名	繰越事由、債務残高及び使用見込み
国立博物館等の事業	収集保管業務費	京都国立博物館	文化財画像ファイルサーバについて、更新予定であったが、当館スペック構成を満たす半導体など機器パーツ不足により、納期に相当日数を要することとなり、年度内に納品が困難であったことから、翌期に7,546千円使用予定。
		九州国立博物館	文化財の害虫処理について、対象の物品が海外(インドネシア)からのものであり、到着する日が予定より大幅に遅れ、年度内の業務完了が困難であったことから、翌期に393千円使用予定。
			令和4年度の文化財購入候補として、売渡意志のある所蔵者と協議を重ねてきた結果、年度内に購入手続き及び納品が困難であったことから、翌期に156,564千円使用予定。
			文化財情報システムについて、仕様の調整・価格交渉に時間を要した結果、データベース構築期間を十分に確保できず、年度内の業務完了が困難であったことから、翌期に7,425千円使用予定。
	展覧業務	東京国立博物館	当館PR動画データについて、創立150年記念事業の各種イベントや、突発的な展示室及び各施設の環境整備等で休館日に全館的な撮影が可能な日時が限定され、当初予定よりも完成が遅れ、それに伴う広報活動の年度内の実施が困難であったことから、翌期に1,000千円使用予定。
			館内マップの製作について、海外旅行の規制緩和による訪日外国人の増加に伴い、中(繁)仏西独の4言語についても印刷の必要性が生じたものの、年度内の実施が困難であったことから、翌期に418千円使用予定。
		京都国立博物館	彫刻用のスポットライトについて、導入予定であったが、共催展の展示構成上、彫刻室施工及び展示に時間を要することが判明し、導入時期の再調整が必要となったことから、翌期に17,259千円使用予定。
	教育普及業務費	東京国立博物館	教育普及事業(ワークショップ事業)に活用していたタブレット48台について、格納データを消去のうえ、廃棄(業者による買い取り)を計画していたが、作業に想定外の時間を要し、年度内の完了が困難であったことから、翌期に149千円使用予定。
		京都国立博物館	令和4年9月に体験プログラムやワークショップ等の開催自粛が緩和されたことを受けて、ナビゲーターのボランティア募集をファミリー世帯向け地域情報誌に掲載予定であったが、広告枠が確保できなかったことから、翌期に759千円使用予定。
	博物館研究業務費	東京国立博物館	『東京国立博物館百五十年史』について、執筆者による原稿提出の遅れに伴い、校正作業、編集作業に遅れが生じ、年度内の完了が困難であったことから、翌期に8,132千円使用予定。
			令和5年2月から3月にX線装置の点検を予定していたが、メーカー側の都合で中間点検が11月にずれ込んでしまい、年度内の実施が困難であったことから、翌期に1,628千円使用予定。
	展覧業務費	九州国立博物館	3階特別展示室壁付ケース照明のLED更新工事について、検討に想定外の時間を要し、年度内の実施が困難であったことから、翌期に121,835千円使用予定。
			特集展示「誕生250年記念　秋田蘭画ことはじめ」のチラシ、リーフレットについて、仕様の策定に想定外の時間を要し、年度内の納品が困難であったことから、翌期に1,045千円使用予定。
			特別展「加耶」にかかる輸送費について、想定外に令和5年度に発生するものがあるものが判明したことから、翌期に1,389千円使用予定。
	文化財活用業務費	東京国立博物館	文化財の修理作業に想定外の時間を要し、年度内の完了が困難であったことから、翌期に41千円使用予定。
		京都国立博物館	文化財情報システムについて、当初の契約には含まれていなかった追加作業を令和4年度内に追加で実施する予定であったが、請負業者SE不足の影響で、作業着手できず、年度内に完了が困難であったことから、翌期に1,815千円使用予定。
		奈良国立博物館	文化財レプリカの製作について、成果物の完成までに一年以上の調査・作業期間を要する業務であり、年度内に完了が困難であったことから、翌期に3,026千円使用予定。
		九州国立博物館	ウェブ用解説の翻訳について、翻訳用データの準備・仕様策定が完了せず、令和4年度中の実施が困難であったことから、翌期に963千円使用予定。
		本部文化財活用センター	文化財の複製品制作について、工期が長期間にわたり、年度内の完了が困難であったことから、翌期に26,256千円使用予定。
			サーバ調達について、世界的な半導体不足に伴う供給遅延により、年度内に納品が困難であったことから、翌期に4,578千円使用予定。
			奈文研において、クラウドファンディングを行う予定であったが、実施時期が延期となり、文化財活用センターが支援を予定していた返礼品の作成が翌年度にずれることとなったことから、翌期に4,616千円使用予定。
	一般管理費	東京国立博物館	展示等の作業や造作等に使用する高所作業車について、新規の購入を計画していたが、材料・部品供給不足により、受注から納品までに想定以上の期間を要し、年度内に納品が困難であったことから、翌期に7,695千円使用予定。
		九州国立博物館	令和4年度に予定していた防犯用中央監視装置及び通信装置の部品について、半導体不足により、年度内に納品が困難であったことから、翌期に673千円使用予定。

文化財研究所等の事業	基礎研究業務費	東京文化財研究所	タイ国所在の日本製漆工品（幕末期伏彩色螺鈿）について、入国制限等の影響により、予定どおりの現地調査が困難であったことから、翌期に1,566千円使用予定。
		奈良文化財研究所	想定より遺構の密度が高く、規模も大きかったことに加え、悪天候により作業が順延したことで、年度内の完了が困難であったことから、翌期に600千円使用予定。
			礎石を研究所に輸送するにあたり、橿原市文化財保存活用課をはじめとする担当機関及び部局との調整が必要となり、時間を要し、年度内の実施が困難であったことから、翌期に203千円使用予定。
			新型コロナウイルスの感染防止の観点から、韓国国立文化財研究院とも協議の結果、今年度の事業実施を見送り、年度内の実施が困難であったことから、翌期に468千円使用予定。
			調達予定機器について、年度内の納品が困難であったことから、翌期に18,174千円使用予定。
	国際遺産保護業務費	東京文化財研究所	バガン遺跡（ミャンマー）において、遺跡保存に従事する現地専門家を対象にした技術支援活動を行う予定であったが、同国の不安定な社会情勢により現地調査を行うことが困難であったことから、翌期に639千円使用予定。
			特に令和4年度前半において、コロナ禍での入国制限等の影響により、当初予定通りの現地派遣が困難であったことから、翌期に2,706千円使用予定。
			「評価セミナー」（8～9月）及び「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」（11月）をメキシコで実施したが、8月に日本国内で開催予定としていた「紙の保存と修復」は、実施が困難であり、延期となったことから、翌期に3,255千円使用予定。
	情報公開業務費	東京文化財研究所	『ものの記憶』の第2冊目の刊行に向け、外部専門家に原稿執筆及び原稿和訳を依頼したが、スケジュールに大幅な遅れが生じ、年度内に報告書を刊行することが困難であったことから、翌期に2,260千円使用予定。
			『目録作成の手引き』の刊行に向け、外部専門家へ原稿執筆を依頼したが、当初予定に大幅な遅れが生じており、年度内に報告書を刊行することが困難であったことから、翌期に1,127千円使用予定。
		奈良文化財研究所	調達予定機器、部材について、年度内の納品が困難であったことから、翌期に7,759千円使用予定。
	文化財防災業務費	奈良文化財研究所	中国・四国地域における防災体制構築のための研究協議会について、新型コロナウイルスの影響により、各県の訪問による調整が順調に進まず、準備が遅れ、十分な議論と今後の方策を定めることができなかったことから、翌期に359千円使用予定。
			中国・四国地域における防災体制構築のための研究協議会について、新型コロナウイルスの影響により、各県の訪問による調整が順調に進まず、準備が遅れ、十分な議論と今後の方策を定めることができなかったことから、翌期に311千円使用予定。
			史蹟名勝天然記念物の災害時の復旧に係る安全対策調査について、新型コロナウィルスの影響により、現地調査の調整が進まず、年度内に実施することができなかったことから、翌期に85千円使用予定。
			収蔵庫の環境安定化をはかるための調査について、新型コロナウィルスの影響により、現地調査の調整が進まず、年度内に実施することができなかったことから、翌期に413千円使用予定。
			文化財データベース構築の課題を探るためのヒアリング調査について、日程調整を行っていたが、新型コロナウイルスや先方の都合により調整が付かず、年度内に実施することができなかったことから、翌期に100千円使用予定。
		本部文化財防災センター	文化財防災センターで改修予定の執務室の仕様検討に想定外の時間を要し、年度内の実施が困難であったことから、翌期に2,386千円使用予定。
	一般管理費	東京文化財研究所	1階身障者用トイレの自動ドア及び4階第2実験室のシンク排水トラップに不具合が生じたことから更新工事を検討したが、不具合が発生したのが年度末であり、年度内の納品が困難であったことから、翌期に1,076千円使用予定。
共通	一般管理費	本部事務局	機構統合認証基盤（仮称）拡張整備について、各施設システムの環境調査の実施とその結果を踏まえた設計が必要であり、各施設調査・設計提案に時間を要し、年度内の実施が困難であったことから、翌期に66,233千円使用予定。
			機構広域ネットワークの主要機器であるFW（ファイアウォール）のバージョンアップについて、作業規模が大きく、テストなどの事前準備や実施当日に向けた各種調整に時間を要し、年度内の実施が困難であったことから、翌期に6,380千円使用予定。
			就業管理システムについて、機構全体で使用するものであることから、複数年度かけて導入を予定しており、機構内6施設への導入は令和5年度内に行う予定であることから、翌期に5,985千円使用予定。
			Microsoft365（テレワーク用端末の認証システム、MDM、web会議、メール、Officeソフト等）について、令和3年度の初期構築から令和4年度、令和5年度における運用費の支出を一連の計画としていることから、翌期に18,021千円使用予定。
			財務会計システムのインボイス制度対応改修について、製品リリースが当初より遅れ、年度内の実施が困難であったことから、翌期に9,178千円使用予定。

別表2　予算配分を留保した運営費交付金債務残高と繰越事由

セグメント	繰越事由と必要性
共　通	災害等不測の事態、その他理事長が必要と判断する案件に対応するため、本部に3,114千円を留保し、翌期以降該当する案件が発生した場合に予算配分を行う。

13. 運営費交付金以外の国等からの財源措置の明細

13－1 施設費の明細　　（単位:円）

区　分	当期交付額	左の会計処理内訳			摘　要
		建設仮勘定見返施設費	資本剰余金	その他	
東京国立博物館 東洋館等建物・設備等の老朽改修	164,612,000	0	24,339,927	140,272,073	
東京国立博物館 本館リニューアル工事	333,530,000	0	213,987,370	119,542,630	
東京国立博物館 平成館空調設備改修工事	231,825,000	0	190,423,270	41,401,730	
京都国立博物館 本館耐震改修等工事 （埋蔵文化財発掘調査）	55,640,000	0	0	55,640,000	
奈良国立博物館 東新館エレベーター更新	37,955,500	37,955,500	0	0	
奈良国立博物館 空調設備等更新工事	160,430,000	0	0	160,430,000	
九州国立博物館 防水等改修工事	68,819,850	0	0	68,819,850	
奈良文化財研究所 老朽空調設備改修	97,328,000	0	77,709,969	19,618,031	
計	1,150,140,350	37,955,500	506,460,536	605,724,314	

（注）その他の内訳は、施設費収益:441,569,054円、建設仮勘定見返施設費戻入:164,155,260円です。

13－2 補助金等の明細　　（単位:円）

区　分	当期交付額	左の会計処理内訳			摘　要
		建設仮勘定見返補助金等	資産見返補助金等	収益計上	
本部 文化芸術振興費補助金	11,524,000	0	0	11,524,000	
東京国立博物館 文化芸術振興費補助金	4,684,446	0	0	4,684,446	
京都国立博物館 文化芸術振興費補助金	1,909,341	0	0	1,909,341	
奈良国立博物館 文化芸術振興費補助金	3,877,000	0	0	3,877,000	
東京文化財研究所 文化芸術振興費補助金	15,558,616	0	3,726,250	11,832,366	
計	37,553,403	0	3,726,250	33,827,153	

（注）収益計上の内訳は、その他補助金収益:33,827,153円です。

14. 役員及び職員の給与の明細

（単位:千円，人）

区　分	報酬又は給与		退職手当	
	支給額	支給人員	支給額	支給人員
役員	（ 3,840 ） 46,120	（ 3 ） 3	（ 0 ） 0	（ 0 ） 0
職員	（ 903,219 ） 3,147,188	（ 452 ） 395	（ 99 ） 158,239	（ 2 ） 10
合計	（ 907,059 ） 3,193,308	（ 455 ） 398	（ 99 ） 158,239	（ 2 ） 10

（1） 支給人員数は、報酬又は給与については令和4年4月～令和5年3月の平均支給人員数を記載しております。
また、退職手当については総支給人員数を記載しております。

（2） 役員報酬基準の概要　理事長　965,000円（報酬月額）
理事1名　895,000円（報酬月額）
理事1名　818,000円（報酬月額）
その他諸手当については、独立行政法人国立文化財機構役員報酬規程に基づき支給しております。
非常勤役員の報酬は、理事80,000円、監事120,000円を月額として支給しております。

（3） 役員退職手当基準の概要　役員の退職手当は、独立行政法人国立文化財機構役員退職手当規程に基づき支給しております。

（4） 職員給与基準の概要　職員の給与は、基本給及び諸手当としております。
基本給は、一般職の職員の給与に関する法律（昭和25年法律第95号）及び人事院規則を準用し、独立行政法人国立文化財機構職員給与規程等に基づき支給しております。

（5） 職員退職手当基準の概要　職員の退職手当は、国家公務員退職手当法を準用し、独立行政法人国立文化財機構職員退職手当規程に基づき支給しております。

（6） 非常勤の役員及び職員に係るものは、上段括弧書外数で記載しております。

（7） 上記の金額には、法定福利費は含まれておりません。

（8） 中期計画における予算上の人件費には、非常勤の役員・職員に係る給与は含まれておりません。

15. セグメント情報　（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

独立行政法人 国立文化財機構　　（単位：円）

区分	国立博物館等	文化財研究所等	計	共通	合　計
Ⅰ行政コスト					
損益計算書上の費用合計	7,540,303,941	3,341,469,001	10,881,772,942	497,496,670	11,379,269,612
その他行政コスト					
減価償却相当額	2,338,764,853	490,597,703	2,829,362,556	1,932,669	2,831,295,225
減損損失相当額	0	0	0	0	0
除売却差額相当額	400,432	1,384,915	1,785,347	0	1,785,347
その他行政コスト合計	2,339,165,285	491,982,618	2,831,147,903	1,932,669	2,833,080,572
行政コスト	9,879,469,226	3,833,451,619	13,712,920,845	499,429,339	14,212,350,184
Ⅱ独立行政法人の業務運営に関して国民の負担に帰せられるコスト	8,335,936,731	3,382,800,370	11,718,737,101	491,692,353	12,210,429,454
Ⅲ事業費用，事業収益及び事業損益					
事業費用					
業務費	6,104,632,860	2,908,419,300	9,013,052,160	0	9,013,052,160
人件費	2,308,748,338	1,476,948,450	3,785,696,788	0	3,785,696,788
業務経費	3,465,064,811	1,252,957,909	4,718,022,720	0	4,718,022,720
収集保管業務費	542,740,502	0	542,740,502	0	542,740,502
展覧業務費	2,276,092,393	0	2,276,092,393	0	2,276,092,393
教育普及業務費	71,908,750	0	71,908,750	0	71,908,750
博物館研究業務費	231,686,400	0	231,686,400	0	231,686,400
博物館支援業務費	9,231,395	0	9,231,395	0	9,231,395
文化財活用業務費	154,607,709	3,526,213	158,133,922	0	158,133,922
基礎研究業務費	0	263,597,434	263,597,434	0	263,597,434
応用研究業務費	0	138,997,153	138,997,153	0	138,997,153
国際遺産保護業務費	0	84,953,220	84,953,220	0	84,953,220
情報公開業務費	0	297,491,916	297,491,916	0	297,491,916
研修協力業務費	0	16,828,945	16,828,945	0	16,828,945
文化財防災業務費	5,679,454	35,402,540	41,081,994	0	41,081,994
受託業務費	173,118,208	412,160,488	585,278,696	0	585,278,696
減価償却費	330,819,711	178,512,941	509,332,652	0	509,332,652
一般管理費	1,435,671,041	431,527,185	1,867,198,226	497,496,668	2,364,694,894
人件費	433,878,868	311,964,248	745,843,116	292,449,309	1,038,292,425
一般管理経費	928,790,973	100,632,057	1,029,423,030	192,255,790	1,221,678,820
減価償却費	73,001,200	18,930,880	91,932,080	12,791,569	104,723,649
財務費用	0	702,649	702,649	0	702,649
雑損	0	729,757	729,757	0	729,757
事業費用計	7,540,303,901	3,341,378,891	10,881,682,792	497,496,668	11,379,179,460
事業収益					
運営費交付金収益	4,683,166,712	2,373,501,193	7,056,667,905	402,389,852	7,459,057,757
受託収入	173,194,773	419,530,868	592,725,641	0	592,725,641
入場料収入	916,599,256	3,317,900	919,917,156	0	919,917,156
展示事業等附帯収入	433,638,370	63,903,165	497,541,535	550,620	498,092,155
財産利用収入	292,511,687	8,645,534	301,157,221	0	301,157,221
寄附金収益	224,033,871	158,761,806	382,795,677	4,897,715	387,693,392
施設費収益	422,837,623	18,731,431	441,569,054	0	441,569,054
その他補助金収益	10,470,787	11,832,366	22,303,153	11,524,000	33,827,153
資産見返負債戻入	567,492,961	187,119,245	754,612,206	12,791,569	767,403,775
財務収益	283	2,539	2,822	0	2,822
雑益	4,113,874	2,019,570	6,133,444	0	6,133,444
賞与引当金見返に係る収益	175,602,395	109,058,840	284,661,235	21,071,019	305,732,254
退職給付引当金見返に係る収益	3,390,889	49,464,876	52,855,765	30,314,852	83,170,617
事業収益計	7,907,053,481	3,405,889,333	11,312,942,814	483,539,627	11,796,482,441
事業損益	366,749,580	64,510,442	431,260,022	−13,957,041	417,302,981
Ⅳ臨時損益等					
臨時損失	40	90,110	90,150	2	90,152
臨時損失計	40	90,110	90,150	2	90,152
臨時利益	115,540	90,110	205,650	2	205,652
臨時利益計	115,540	90,110	205,650	2	205,652
当期純利益	366,865,080	64,510,442	431,375,522	−13,957,041	417,418,481
前中期目標期間繰越積立金取崩額	0	929,013	929,013	0	929,013
当期総利益	366,865,080	65,439,455	432,304,535	−13,957,041	418,347,494
Ⅴ総資産					
流動資産	2,635,074,671	868,064,198	3,503,138,869	2,318,618,546	5,821,757,415
固定資産	208,915,408,432	15,102,598,760	224,018,007,192	223,773,402	224,241,780,594
建物	36,149,667,918	8,652,289,351	44,801,957,269	17,321,341	44,819,278,610
収蔵品	128,867,637,821	206,792,231	129,074,430,052	0	129,074,430,052
土地	40,238,675,104	4,172,000,000	44,410,675,104	0	44,410,675,104
その他の固定資産	3,659,427,589	2,071,517,178	5,730,944,767	206,452,061	5,937,396,828
総資産計	211,550,483,103	15,970,662,958	227,521,146,061	2,542,391,948	230,063,538,009

（注）

1．事業の種類の区分方法及び事業の内容

事業のまとまりごとの区分に基づくセグメント情報を開示しております。

（1）国立博物館等の事業

有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信等の事業を行っております。

本部文化財活用センター、東京国立博物館、京都国立博物館、奈良国立博物館及び九州国立博物館において、事業を行っております。

（2）文化財研究所等の事業

文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施等の事業を行っております。

本部文化財防災センター、東京文化財研究所、奈良文化財研究所及びアジア太平洋無形文化遺産研究センターにおいて、事業を行っております。

2．事業費用のうち共通の項目に含めた配賦不能な金額は497,496,668円であり、全て本部事務局に係る費用であります。

3．事業収益のうち国又は地方公共団体による財源措置等は、運営費交付金収益、施設費収益、その他補助金収益であります。
なお、事業収益のうち共通の項目に含めた配賦不能な金額は483,539,627円であり、全て本部事務局に係る収益であります。

4．総資産のうち共通の項目に含めた金額は2,542,391,948円であり、全て本部事務局に係る資産であります。

５．施設別の事業費用，事業収益及び事業損益等の情報は以下のとおりであります。

独立行政法人 国立文化財機構　　（単位：円）

区分	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	本部文化財活用センター	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	本部文化財防災センター	計	本部事務局	合　計
Ⅰ行政コスト												
損益計算書上の費用合計	3,353,032,053	1,195,250,406	1,344,324,055	1,319,130,024	328,567,403	1,109,667,887	2,010,923,974	121,705,215	99,171,925	10,881,772,942	497,496,670	11,379,269,612
その他行政コスト												
減価償却相当額	872,771,268	922,078,146	292,678,540	251,236,899	0	74,051,014	416,546,689	0	0	2,829,362,556	1,932,669	2,831,295,225
減損損失相当額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
除売却差額相当額	60,232	0	340,200	0	0	1	1,384,914	0	0	1,785,347	0	1,785,347
その他行政コスト合計	872,831,500	922,078,146	293,018,740	251,236,899	0	74,051,015	417,931,603	0	0	2,831,147,903	1,932,669	2,833,080,572
行政コスト	4,225,863,553	2,117,328,552	1,637,342,795	1,570,366,923	328,567,403	1,183,718,902	2,428,855,577	121,705,215	99,171,925	13,712,920,845	499,429,339	14,212,350,184
Ⅱ独立行政法人の業務運営に関して国民の負担に帰せられるコスト	3,190,107,301	1,955,885,369	1,377,081,813	1,485,332,839	327,529,409	1,010,499,324	2,269,981,263	48,027,224	54,292,559	11,718,737,101	491,692,353	12,210,429,454
Ⅲ事業費用，事業収益及び事業損益												
事業費用												
業務費	2,650,991,867	1,004,862,393	983,541,928	1,137,970,557	327,266,115	909,202,348	1,811,289,500	90,195,504	97,731,948	9,013,052,160	0	9,013,052,160
人件費	1,075,661,094	400,850,855	299,466,492	367,364,787	165,405,110	473,336,732	947,718,950	25,668,625	30,224,143	3,785,696,788	0	3,785,696,788
業務経費	1,450,159,581	536,693,190	652,177,659	684,936,327	141,098,054	365,957,623	757,118,137	64,391,515	65,490,634	4,718,022,720	0	4,718,022,720
収集保管業務費	238,098,676	146,505,324	31,854,544	126,281,958	0	0	0	0	0	542,740,502	0	542,740,502
展覧業務費	862,702,324	302,958,280	579,697,123	530,734,666	0	0	0	0	0	2,276,092,393	0	2,276,092,393
教育普及業務費	49,893,816	5,106,764	13,806,267	3,101,903	0	0	0	0	0	71,908,750	0	71,908,750
博物館研究業務費	126,493,998	61,010,677	24,765,874	19,415,851	0	0	0	0	0	231,686,400	0	231,686,400
博物館支援業務費	3,256,360	4,516,727	156,631	1,301,677	0	0	0	0	0	9,231,395	0	9,231,395
文化財活用業務費	5,882,359	4,453,796	924,000	2,249,500	141,098,054	0	3,526,213	0	0	158,133,922	0	158,133,922
基礎研究業務費	0	0	0	0	0	50,961,962	212,635,472	0	0	263,597,434	0	263,597,434
応用研究業務費	0	0	0	0	0	83,898,906	55,098,247	0	0	138,997,153	0	138,997,153
国際遺産保護業務費	0	0	0	0	0	50,361,030	17,498,881	17,093,309	0	84,953,220	0	84,953,220
情報公開業務費	0	0	0	0	0	67,703,482	229,788,434	0	0	297,491,916	0	297,491,916
研修協力業務費	0	0	0	0	0	5,401,308	11,427,637	0	0	16,828,945	0	16,828,945
文化財防災業務費	910,853	2,096,791	973,220	1,698,590	0	5,057,879	6,486,239	0	23,858,422	41,081,994	0	41,081,994
受託業務費	162,921,195	10,044,831	0	152,182	0	102,573,056	220,657,014	47,298,206	41,632,212	585,278,696	0	585,278,696
減価償却費	125,171,192	67,318,348	31,897,777	85,669,443	20,762,951	69,907,993	106,452,413	135,364	2,017,171	509,332,652	0	509,332,652
一般管理費	702,040,167	190,387,996	360,782,126	181,159,464	1,301,288	200,127,490	198,450,322	31,509,396	1,439,977	1,867,198,226	497,496,668	2,364,694,894
人件費	194,176,637	61,880,601	114,113,541	63,708,089	0	145,523,756	138,603,503	27,836,989	0	745,843,116	292,449,309	1,038,292,425
一般管理経費	472,209,272	120,400,306	231,581,408	104,599,987	0	52,229,068	43,415,271	3,672,407	1,315,311	1,029,423,030	192,255,790	1,221,678,820
減価償却費	35,654,258	8,107,089	15,087,177	12,851,388	1,301,288	2,374,666	16,431,548	0	124,666	91,932,080	12,791,569	104,723,649
財務費用	0	0	0	0	0	171,266	531,068	315	0	702,649	0	702,649
雑損	0	0	0	0	0	166,783	562,974	0	0	729,757	0	729,757
事業費用計	3,353,032,034	1,195,250,389	1,344,324,054	1,319,130,021	328,567,403	1,109,667,887	2,010,833,864	121,705,215	99,171,925	10,881,682,792	497,496,668	11,379,179,460
事業収益												
運営費交付金収益	1,781,802,468	779,638,341	771,149,986	1,029,248,445	321,327,472	816,210,179	1,455,353,031	46,133,830	55,804,153	7,056,667,905	402,389,852	7,459,057,757
受託収入	162,997,760	10,044,831	0	152,182	0	102,573,056	226,802,050	47,844,476	42,311,286	592,725,641	0	592,725,641
入場料収入	537,847,606	90,607,231	196,419,533	91,724,886	0	0	3,317,900	0	0	919,917,156	0	919,917,156
展示事業等附帯収入	306,142,145	38,119,918	64,659,434	24,716,873	0	16,180,373	44,710,712	444,000	2,568,080	497,541,535	550,620	498,092,155
財産利用収入	184,007,854	77,905,585	26,026,441	4,571,807	0	3,497,272	5,148,262	0	0	301,157,221	0	301,157,221
寄附金収益	70,187,977	57,855,836	48,279,569	46,396,045	1,314,444	66,439,802	65,698,509	26,623,495	0	382,795,677	4,897,715	387,693,392
施設費収益	137,947,773	55,640,000	160,430,000	68,819,850	0	0	18,731,431	0	0	441,569,054	0	441,569,054
その他補助金収益	4,684,446	1,909,341	3,877,000	0	0	11,832,366	0	0	0	22,303,153	11,524,000	33,827,153
資産見返負債戻入	324,497,500	75,425,437	46,984,954	98,520,831	22,064,239	68,461,463	116,380,581	135,364	2,141,837	754,612,206	12,791,569	767,403,775
財務収益	11	188	84	0	0	0	2,519	20	0	2,822	0	2,822
雑益	450,091	3,479,442	102,841	81,500	0	28,540	1,991,030	0	0	6,133,444	0	6,133,444
賞与引当金見返に係る収益	82,316,151	30,804,347	25,081,069	24,277,508	13,123,320	39,076,898	64,536,811	1,834,862	3,610,269	284,661,235	21,071,019	305,732,254
退職給付引当金見返に係る収益	20,725,173	−18,029,498	8,741,741	14,430,779	−22,477,306	−3,433,794	55,012,428	666,079	−2,779,837	52,855,765	30,314,852	83,170,617
事業収益計	3,613,606,955	1,203,400,999	1,351,752,652	1,402,940,706	335,352,169	1,120,866,155	2,057,685,264	123,682,126	103,655,788	11,312,942,814	483,539,627	11,796,482,441
事業損益	260,574,921	8,150,610	7,428,598	83,810,685	6,784,766	11,198,268	46,851,400	1,976,911	4,483,863	431,260,022	−13,957,041	417,302,981
Ⅳ臨時損益等												
臨時損失	19	17	1	3	0	0	90,110	0	0	90,150	2	90,152
臨時損失計	19	17	1	3	0	0	90,110	0	0	90,150	2	90,152
臨時利益	19	17	115,501	3	0	0	90,110	0	0	205,650	2	205,652
臨時利益計	19	17	115,501	3	0	0	90,110	0	0	205,650	2	205,652
当期純利益	260,574,921	8,150,610	7,544,098	83,810,685	6,784,766	11,198,268	46,851,400	1,976,911	4,483,863	431,375,522	−13,957,041	417,418,481
前中期目標期間繰越積立金取崩額	0	0	0	0	0	57,706	871,307	0	0	929,013	0	929,013
当期総利益	260,574,921	8,150,610	7,544,098	83,810,685	6,784,766	11,255,974	47,722,707	1,976,911	4,483,863	432,304,535	−13,957,041	418,347,494
Ⅴ純資産												
流動資産	1,013,332,877	427,779,289	511,483,303	648,490,688	33,988,514	285,632,162	474,042,626	31,258,776	77,130,634	3,503,138,869	2,318,618,546	5,821,757,415
固定資産	97,635,390,303	49,062,422,134	30,391,875,323	31,682,643,350	143,077,322	5,418,092,457	9,644,701,800	4,183,052	35,621,451	224,018,007,192	223,773,402	224,241,780,594
建物	13,840,135,959	11,673,786,350	4,229,071,680	6,399,388,555	7,285,374	2,270,937,057	6,357,405,403	0	23,946,891	44,801,957,269	17,321,341	44,819,278,610
収蔵品	55,112,341,223	27,616,009,615	21,782,652,285	24,356,634,698	0	0	206,792,231	0	0	129,074,430,052	0	129,074,430,052
土地	26,832,788,000	9,071,896,900	3,875,010,204	458,980,000	0	2,650,000,000	1,522,000,000	0	0	44,410,675,104	0	44,410,675,104
その他の固定資産	1,850,125,121	700,729,269	505,141,154	467,640,097	135,791,948	497,155,400	1,558,504,166	4,183,052	11,674,560	5,730,944,767	206,452,061	5,937,396,828
純資産計	98,648,723,180	49,490,201,423	30,903,358,626	32,331,134,038	177,065,836	5,703,724,619	10,118,744,426	35,441,828	112,752,085	227,521,146,061	2,542,391,948	230,063,538,009

16. 科学研究費補助金の明細

（単位:円）

種　　目	当　期　受　入　額	件　数	摘要
科　学　研　究　費 新　学　術　領　域　研　究	(　4,880,000) 1,464,000	4	
科　学　研　究　費 学　術　変　革　領　域　研　究（A)	9,772,797) 2,763,000	2	
科　学　研　究　費 基　盤　研　究　（　S　）	(　17,384,000) 5,215,200	16	
科　学　研　究　費 基　盤　研　究　（　A　）	(　53,661,142) 16,337,100	70	
科　学　研　究　費 基　盤　研　究　（　B　）	(　80,586,246) 24,375,000	97	
科　学　研　究　費 基　盤　研　究　（　C　）	(　25,079,055) 7,323,900	49	
科　学　研　究　費 挑　戦　的　萌　芽　研　究	(　500,000) 150,000	1	
科　学　研　究　費 挑　戦　的　研　究（開　拓）	(　4,100,000) 1,230,000	3	
科　学　研　究　費 挑　戦　的　研　究（萌　芽）	(　12,010,000) 3,603,000	9	
科　学　研　究　費 若　手　研　究　（　B　）	(　1,300,000) 390,000	2	
科　学　研　究　費 若　手　研　究	(　20,300,000) 6,090,000	25	
科　学　研　究　費 研　究　活　動　ス　タ　ー　ト　支　援	(　8,500,000) 2,550,000	9	
特　別　研　究　促　進　費	(　1,200,000) 0	1	
研　究　成　果　公　開　促　進　費 国　際　情　報　発　信　強　化	(　2,400,000) 0	1	
研　究　成　果　公　開　促　進　費 学　術　図　書	(　1,200,000) 0	1	
研　究　成　果　公　開　促　進　費 デ　ー　タ　ベ　ー　ス	(　10,700,000) 0	3	
研　究　成　果　公　開　促　進　費 ひらめき☆ときめきサイエンス	(　976,227) 0	2	
特　別　研　究　員　奨　励　費	(　300,000) 0	1	
国　際　共　同　研　究　加　速　基　金 国　際　共　同　研　究　強　化（Ａ）	(　500,000) 150,000	1	
国　際　共　同　研　究　加　速　基　金 国　際　共　同　研　究　強　化（Ｂ）	(　5,455,730) 1,636,719	7	
計	(　260,805,197) 73,277,919	304	

（注）当期受入額は間接経費相当額を記載し、直接研究費相当額は、上段括弧書外数で記載しております。

16－2　建設技術研究開発費補助金の明細　　（単位:円）

種　　目	当　期　受　入　額	件　数	摘要
建　設　技　術　研　究　開　発　費	(　2,000,000) 600,000	1	
計	(　2,000,000) 600,000	1	

（注）当期受入額は間接経費相当額を記載し、直接研究費相当額は、上段括弧書外数で記載しております。

17. 主な資産、負債、費用及び収益の明細

17－1 未収金の明細　（単位:円）

取引先	未収金の内訳	金額
文化庁	施設整備費補助金 他	980,721,460
独立行政法人日本芸術文化振興会	日本博受託事業「国宝 東京国立博物館のすべて」委託料 他	114,961,923
三井住友カード株式会社	入場料等収入(クレジットカード分)	26,406,121
奈良県知事	奈良県受託事業「平城宮跡歴史公園朱雀大路東側地区 文化財発掘調査業務」委託料 他	23,313,810
文部科学省	文部科学省受託事業「特別史跡平城宮跡及び藤原宮跡地内における歴史的環境維持業務」委託料 他	19,903,021
その他		179,811,597
合計		1,345,117,932

17－2 未払金の明細　（単位:円）

取引先	未払金の内訳	金額
株式会社大林組	東京国立博物館本館特別1室壁面展示ケース 他	204,917,900
日本装芸株式会社	東京国立博物館平成館空調設備改修 他	164,202,500
柳生設備株式会社	奈良国立博物館東・西新館改修機械設備工事 他	114,466,000
吉田機電株式会社	奈良文化財研究所平城地区他空調設備改修工事	92,928,000
アズビル・三冷・太平 共同企業体	東京国立博物館等の施設管理・運営業務	52,355,633
株式会社きんでん奈良支店	奈良国立博物館東・西新館改修電気設備工事 他	50,429,866
株式会社鈴木建設	九州国立博物館防水等改修工事	45,059,850
凸版印刷株式会社情報コミュニケーション事業本部	バーチャルトーハク拡張による東京国立博物館国宝紹介コンテンツ制作 他	43,520,900
株式会社奥村組関西支店	奈良国立博物館東新館エレベーター更新工事	36,960,000
松井建設株式会社大阪支店	京都国立博物館本館ほか3棟劣化調査工事 他	27,604,500
その他		1,151,987,864
合計		1,984,433,013

17－3 資産見返運営費交付金の明細　（単位:円）

区分	金額
建物	870,637,259
構築物	101,552,292
機械・装置	15,646,001
車両運搬具	6,421,953
工具器具備品	866,138,123
ソフトウエア	67,688,201
その他の無形固定資産	1,012,259
合計	1,929,096,088

17－4 建設仮勘定見返施設費の明細　（単位:円）

区分	金額
奈良国立博物館東新館エレベーター更新設計業務	995,500
奈良国立博物館東新館エレベーター更新工事	36,960,000
合計	37,955,500

令和４年度

（第 16 期事業年度）

決 算 報 告 書

独立行政法人国立文化財機構

令和4年度　決算報告書

（単位：円）

区　　分	国立博物館等				文化財研究所等				合　計			
	予 算 額	決 算 額	差　額	備 考	予 算 額	決 算 額	差　額	備 考	予 算 額	決 算 額	差　額	備 考
収　入												
運営費交付金	6,359,376,000	6,372,601,000	13,225,000		2,559,113,000	2,545,888,000	−13,225,000		8,918,489,000	8,918,489,000	−	
施設整備費補助金	−	1,052,812,350	1,052,812,350	（注記）1	−	97,328,000	97,328,000	（注記）1	−	1,150,140,350	1,150,140,350	（注記）1
文化芸術振興費補助金等	−	26,865,840	26,865,840	（注記）2	−	15,558,616	15,558,616	（注記）2	−	42,424,456	42,424,456	（注記）2
展示事業等収入	1,263,988,000	1,647,178,739	383,190,739	（注記）3	64,923,000	77,888,708	12,965,708	（注記）4	1,328,911,000	1,725,067,447	396,156,447	（注記）3,4
受託収入	314,746,000	173,194,773	−141,551,227	（注記）5	482,038,000	419,530,868	−62,507,132	（注記）5	796,784,000	592,725,641	−204,058,359	（注記）5
その他寄附金等	639,935,000	762,053,635	122,118,635	（注記）6	147,595,000	194,489,188	46,894,188	（注記）6	787,530,000	956,542,823	169,012,823	（注記）6
計	8,578,045,000	10,034,706,337	1,456,661,337		3,253,669,000	3,350,683,380	97,014,380		11,831,714,000	13,385,389,717	1,553,675,717	
支　出												
運営事業費	7,623,364,000	7,535,656,141	−87,707,859		2,624,036,000	2,588,328,883	−35,707,117		10,247,400,000	10,123,985,024	−123,414,976	
管理費	1,487,642,000	1,303,876,431	−183,765,569		496,180,000	409,283,245	−86,896,755		1,983,822,000	1,713,159,676	−270,662,324	
人件費	651,373,000	675,306,101	23,933,101		304,610,000	264,113,941	−40,496,059	（注記）7	955,983,000	939,420,042	−16,562,958	
一般管理費	836,269,000	628,570,330	−207,698,670	（注記）8	191,570,000	145,169,304	−46,400,696	（注記）8	1,027,839,000	773,739,634	−254,099,366	（注記）8
業務費	6,135,722,000	6,231,779,710	96,057,710		2,127,856,000	2,179,045,638	51,189,638		8,263,578,000	8,410,825,348	147,247,348	
人件費	1,849,327,000	1,793,862,577	−55,464,423		1,066,555,000	1,030,280,369	−36,274,631		2,915,882,000	2,824,142,946	−91,739,054	
収集保管事業費	1,488,937,000	1,230,437,146	−258,499,854	（注記）9	−	−	−		1,488,937,000	1,230,437,146	−258,499,854	（注記）9
展覧事業費	2,090,827,000	2,447,496,313	356,669,313	（注記）10	−	−	−		2,090,827,000	2,447,496,313	356,669,313	（注記）10
教育普及事業費	98,434,000	114,686,724	16,252,724	（注記）11	−	−	−		98,434,000	114,686,724	16,252,724	（注記）11
博物館研究事業費	252,268,000	310,129,375	57,861,375	（注記）12	−	−	−		252,268,000	310,129,375	57,861,375	（注記）12
博物館支援事業費	33,627,000	29,508,346	−4,118,654	（注記）13	−	−	−		33,627,000	29,508,346	−4,118,654	（注記）13
文化財活用事業費	322,302,000	289,929,722	−32,372,278	（注記）14	−	15,391,117	15,391,117	（注記）15	322,302,000	305,320,839	−16,981,161	
基礎研究事業費	−	−	−		409,519,000	386,995,106	−22,523,894		409,519,000	386,995,106	−22,523,894	
応用研究事業費	−	−	−		191,086,000	219,850,027	28,764,027	（注記）16	191,086,000	219,850,027	28,764,027	（注記）16
国際遺産保護事業費	−	−	−		109,788,000	108,380,068	−1,407,932		109,788,000	108,380,068	−1,407,932	
情報公開事業費	−	−	−		266,664,000	351,106,824	84,442,824	（注記）17	266,664,000	351,106,824	84,442,824	（注記）17
研修協力事業費	−	−	−		17,810,000	16,739,717	−1,070,283		17,810,000	16,739,717	−1,070,283	
文化財防災事業費	−	15,729,507	15,729,507	（注記）18	66,434,000	50,302,410	−16,131,590	（注記）18	66,434,000	66,031,917	−402,083	
施設整備費	−	1,052,812,350	1,052,812,350	（注記）1	−	97,328,000	97,328,000	（注記）1	−	1,150,140,350	1,150,140,350	（注記）1
文化芸術振興費補助金等	−	21,994,787	21,994,787	（注記）2	−	15,558,616	15,558,616	（注記）2	−	37,553,403	37,553,403	（注記）2
受託事業費	314,746,000	127,662,197	−187,083,803	（注記）5	482,038,000	423,007,748	−59,030,252	（注記）5	796,784,000	550,669,945	−246,114,055	（注記）5
その他寄附金等	639,935,000	414,768,822	−225,166,178	（注記）19	147,595,000	162,516,814	14,921,814	（注記）20	787,530,000	577,285,636	−210,244,364	（注記）19,20
計	8,578,045,000	9,152,894,297	574,849,297		3,253,669,000	3,286,740,061	33,071,061		11,831,714,000	12,439,634,358	607,920,358	

（注記）

1. 過年度予算の令和4年度への繰越によるものであります。

2. 文化庁による「美術工芸品修理のための用具・原材料と生産技術の保護・育成等促進事業」、「日本博　法隆寺の至宝事業」、「文化施設の活動継続・発展等支援事業」等によるものであります。

3. 展示事業等収入（博物館）の差額は、入場者数が見込みより増えたこと、展示事業等附帯収入が増えたこと等によるものであります。

4. 展示事業等収入（研究所）の差額は、当初見込になかった科学研究費等の契約があったためであります。

5. 受託収入及び受託事業費の差額は、当初見込に対して実際の契約が少なかったためであります。

6. 文化財保存活用基金及び賛助会等の寄附金によるものであります。

7. 一般管理人件費の差額は、退職手当の予算計上区分の相違によるものであります。

8. 一般管理費の差額は、情報基盤整備に係る予算の一部繰越及び施設整備に係る経費が見込より減少したこと等によるものであります。

9. 収集保管事業費の差額は、収蔵品購入等に係る予算の一部繰越及び事業の一部を寄附金で実施したことによるものであります。

10. 展覧事業費の差額は、特別展の設営・運営に係る経費や光熱費が増加したこと等によるものであります。

11. 教育普及事業費の差額は、自己収入財源による業務拡充によるものであります。

12. 博物館研究事業費の差額は、自己収入財源による業務拡充及び光熱費の増加によるものであります。

13. 博物館支援事業費の差額は、事業実施に伴う予算の組替によるものであります。

14. 文化財活用事業費（博物館）の差額は、高精細複製品の作成に係る予算の一部繰越等によるものであります。

15. 文化財活用事業費（研究所）の差額は、事業実施場所が博物館から研究所に一部変更になったことによるものであります。

16. 応用研究事業費の差額は、光熱費が増加したこと等によるものであります。

17. 情報公開事業費の差額は、奈良文化財研究所の70周年事業に係る経費や光熱費が増加したこと等によるものであります。

18. 文化財防災事業費の差額は、事業実施場所が研究所から博物館に一部変更になったことによるものであります。

19. その他寄附金等（博物館）の差額は、寄附金等による収蔵品購入費の減少によるものであります。

20. その他寄附金等（研究所）の差額は、寄附金等財源での事業拡充によるものであります。

21. 損益計算書の計上金額と決算金額の集計区分の相違の概要

（1）博物館収蔵品の取得支出699,466,166円は決算報告書上、収集保管事業費に表示されております。

（2）有期雇用職員に係る人件費は損益計算書上、人件費として計上されておりますが、決算報告書上、下記の各事業経費に表示されております。
一般管理費122,996,273円、収集保管業務費94,794,992円、展覧業務費198,368,044円、教育普及業務費46,579,141円、博物館研究業務費68,252,470円、博物館支援業務費20,535,597円、文化財活用業務費107,321,732円、基礎研究業務費169,308,124円、応用研究業務費49,874,809円、国際遺産保護業務費50,531,044円、情報公開業務費86,849,658円、研修協力業務費5,240円、文化財防災業務費20,992,039円。

（3）損益計算書に計上されている一般管理経費のうち605,724,314円は決算報告書上、施設整備費に計上されております。

（4）損益計算書に計上されている収集保管業務費のうち3,612,112円、展覧業務費のうち6,858,675円、文化財活用業務費のうち11,524,000円、応用研究業務費のうち11,832,366円は決算報告書上、
文化芸術振興費補助金等に計上されております。

（5）損益計算書に計上されている一般人件費のうち4,487,932円、一般管理経費のうち14,522,802円、業務人件費のうち20,350,717円、収集保管業務費のうち122,108,361円、展覧業務費のうち44,749,145円、
教育普及業務費のうち2,765,378円、博物館研究業務費のうち24,876,082円、博物館支援業務費のうち258,646円、基礎研究業務費のうち36,204,496円、応用研究業務費のうち12,584,239円、
国際遺産保護業務費のうち27,936,896円、情報公開業務費のうち48,104,772円は決算報告書上、その他寄附金等に計上されております。

（6）損益計算書に計上されている財務費用のうち351,252円は決算報告書上、受託事業費に計上されております。

令和４年度

（第16期事業年度）

事 業 報 告 書

独立行政法人国立文化財機構

目　次

１．法人の長によるメッセージ
２．法人の目的、業務内容
３．政策体系における法人の位置付け及び役割（ミッション）
４．中期目標
５．法人の長の理念や運営上の方針・戦略等
６．中期計画及び年度計画
７．持続的に適正なサービスを提供するための源泉
(1) ガバナンスの状況
(2) 役員等の状況
(3) 職員の状況
(4) 重要な施設等の整備等の状況
(5) 純資産の状況
(6) 財源の状況
(7) 社会及び環境への配慮等の状況
８．業務運営上の課題・リスク及びその対応策
(1) リスク管理の状況
(2) 業務運営上の課題・リスク及びその対応策の状況
(3) 新型コロナウイルス感染症拡大への対応
９．内部統制の運用に関する情報
１０．業績の適正な評価の前提情報
１１．業務の成果と使用した資源との対比
(1) 自己評価
(2) 当中期目標期間における主務大臣による過年度の総合評定の状況
１２．予算と決算との対比
要約した決算報告書
１３．財務諸表
(1) 要約した財務諸表
(2) 要約した財務諸表の科目の説明
１４．財政状態及び運営状況の法人の長による説明情報
各財務諸表の概要
１５．法人の基本情報
(1) 沿革
(2) 設立に係る根拠法
(3) 主務大臣
(4) 組織図
(5) 事務所の所在地
(6) 主要な特定関連会社、関連会社及び関連公益法人等の状況
(7) 主要な財務データの経年比較
(8) 翌事業年度に係る予算、収支計画及び資金計画
１６．参考情報
その他公表資料等との関係の説明

独立行政法人国立文化財機構　令和４年度事業報告書

１．法人の長によるメッセージ

独立行政法人国立文化財機構
理事長　島谷　弘幸

私ども独立行政法人国立文化財機構（以下「機構」という。）は、平成 19 年 4 月に独立行政法人国立博物館と独立行政法人文化財研究所の統合により設立されました。国の文化財保護行政を総合的に支え、社会の要請に機動的・効果的に対応することを目的とし、歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点として、収蔵品の整備と次代への継承、文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信及び文化財に関する調査・研究の推進等を任務としております。

また、文化財の次世代への確実な継承のみならず、文化財が持つ新たな魅力や価値を引き出し、文化財を通じた豊かな体験と学びを提供することで、保存と活用の好循環を創出し持続可能な文化の継承に取り組んでおります。

東京、京都、奈良、九州の各博物館においては、来館される方の安全と安心のため適切な感染防止対策を引き続き講じつつ、4 年度は延べ 229 万人（常設展示 105 万人、特別展示 124 万人）のお客様をお迎えすることができました。また、国からの交付金や皆様からのご寄附により、文化財を 30 件購入したほか、379 件のご寄贈をいただき、収蔵品を充実させることができました。

研究所においては、東京文化財研究所では基礎的・探求的な調査研究や文化遺産保護に関する国際協働事業等を実施しました。奈良文化財研究所では国や地方公共団体が行う文化財関連事業を継続的に支援したことに加え、平城宮跡・藤原宮跡や飛鳥地域の寺院遺跡における発掘調査で今後の調査研究につながる大きな成果が得られました。アジア太平洋無形文化遺産研究センターでは引き続きアジア太平洋地域における無形文化遺産保護のための調査研究を推進しました。

文化財活用センターにおいては、文化財に親しむためのコンテンツ開発とモデル事業の推進や、収蔵品貸与促進事業、文化財をめぐるファンドレイジング事業等を実施しました。また、文化財防災センターにおいては、文化財等関連組織の幅広いネットワークを活かし、各種災害に対する多様な文化財の防災・救援のため、連携・協力体制を構築するとともに、救援及び収蔵・展示に関する技術開発や普及啓発事業等を推進しました。

ウィズコロナ、ポストコロナ時代を踏まえた事業展開も見据え、国の文化財保護行政の土台を支えるという大きな使命の下、貴重な国民的財産である文化財の収集保管、展示公開、調査研究、そして国際協力という四つの大きな柱を機能させることにより、着実に事業を推進して参ります。

私どもの事業実施に対し、引き続き皆様のご支援ご協力をお願い申し上げます。

２．法人の目的、業務内容

(1)法人の目的

機構は、博物館を設置して有形文化財（文化財保護法（昭和 25 年法律第 214 号）第 2 条第 1 項第 1 号に規定する有形文化財をいう。以下同じ。）を収集し、保管して公衆の観覧に供するとともに、文化財（同項に規定する文化財をいう。以下同じ。）に関する調査及び研究等を行うことにより、貴重な国民的財産である文化財の保存及び活用を図ることを目的としております。（独立行政法人国立文化財機構法第 3 条）

(2)業務内容

機構は、独立行政法人国立文化財機構法第 3 条の目的を達成するため、以下の業務を行います。

1）博物館を設置すること。
2）有形文化財を収集し、保管して公衆の観覧に供すること。
3）前号の業務に関連する講演会の開催、出版物の刊行その他の教育及び普及の事業を行うこと。
4）第 1 号の博物館を文化財の保存又は活用を目的とする事業の利用に供すること。
5）文化財に関する調査及び研究を行うこと。
6）前号に掲げる業務に係る成果を普及し、及びその活用を促進すること。
7）文化財に関する情報及び資料を収集し、整理し、及び提供すること。
8）第 2 号、第 3 号及び前 3 号の業務に関し、地方公共団体並びに博物館、文化財に関する調査及び研究を行う研究所その他これらに類する施設（次号において「地方公共団体等」という。）の職員に対する研修を行うこと。
9）第 2 号、第 3 号及び第 5 号から第 7 号までの業務に関し、地方公共団体等の求めに応じて援助及び助言を行うこと。
10）前各号の業務に附帯する業務を行うこと。

さらに、機構は上記業務のほか、上記業務の遂行に支障のない範囲内で、国際文化交流の振興を目的とする展覧会その他の催しを主催し、又は「1)」の博物館をこれらの利用に供することができます。（独立行政法人国立文化財機構法第 12 条）

国立文化財機構についての詳細は、年度別概要や年報をご参照ください。
年度別概要・年報
https://www.nich.go.jp/kiko/nendo/

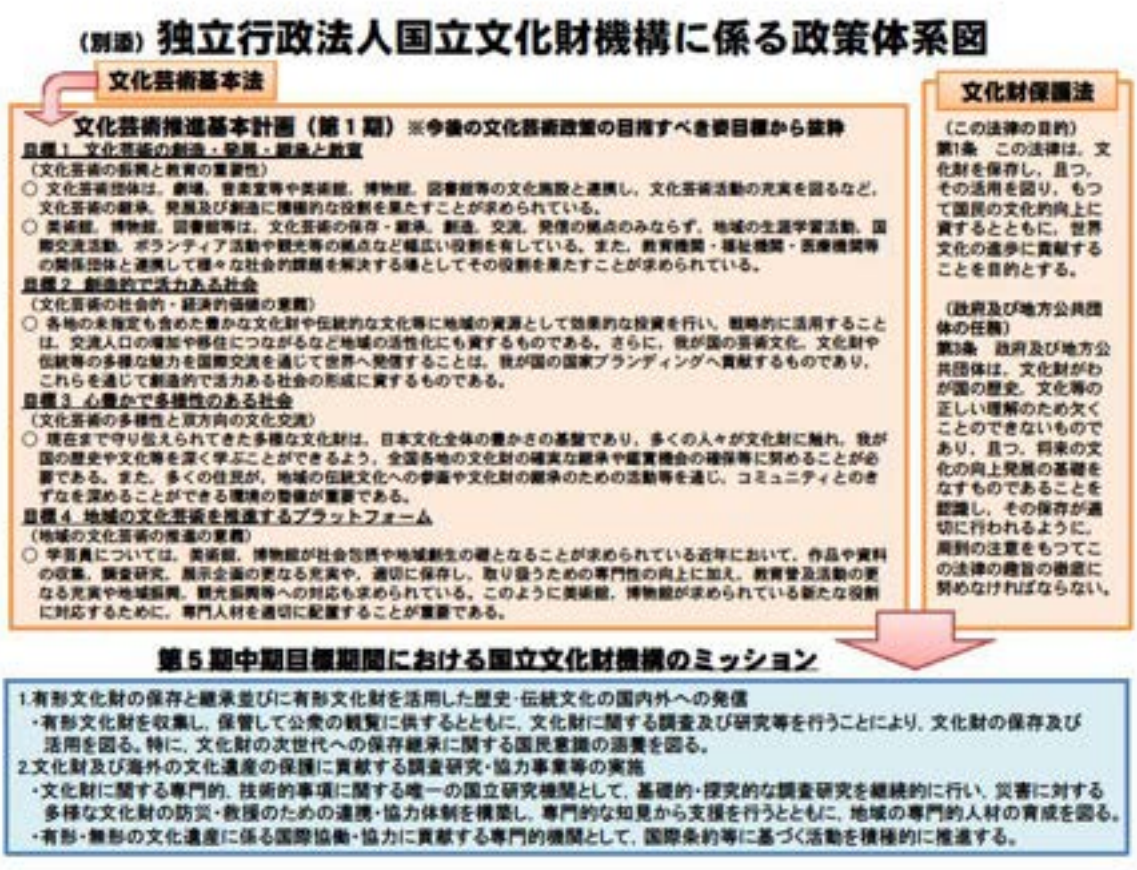
３．政策体系における法人の位置付け及び役割（ミッション）

（概要）

我が国は、諸外国を魅了する有形・無形の文化財を有しているとともに、多くの人が地域に根付いた伝統行事に参加するなど、世界に誇るべき文化・伝統があり、これを維持、継承、発展させることはもとより、日本人自身がその価値を十分に認識した上で、国内外へ更に発信していくことが求められています。

他方、人口減少社会に突入し、地域の文化財や地域文化を継承する担い手が不足する中、自然災害から国民共有の財産である文化財を守り、次世代に確実に継承することや、脆弱な文化財を適切に保存しつつ、最新技術を活用した多様な手法により、我が国の歴史、伝統、文化にふれ、学び、楽しむことができる環境を提供することが必要とされています。

機構は、我が国における文化財施策の一翼を担い、貴重な国民的財産である文化財の保存及び活用を図り、次代へ継承するとともに、国内外に我が国の歴史・伝統文化を発信するため、我が国の博物館及び文化財研究に関する中核的拠点として、有形文化財の収集・保存・管理・展示等に取り組みます。また、文化財に関する基礎的・体系的な調査研究、文化財の保存と活用のための研究、並びにそれらに関する調査手法の研究開発を総合的に実施するとともに、アジア太平洋地域における無形文化遺産保護及びそのための研究の促進、並びに文化財等の防災・救援に寄与いたします。さらに、これら機構の取組の成果についての積極的な公開・活用に取り組みます。

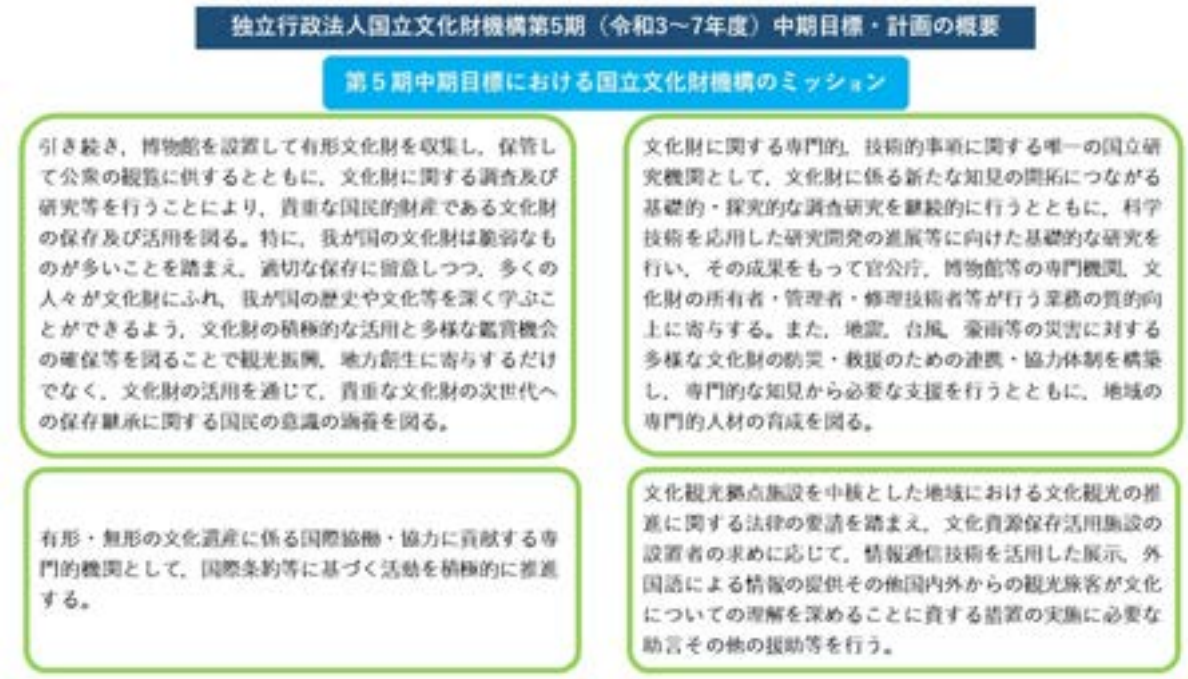


４．中期目標

(1)概要

我が国の国立博物館として、有形文化財の収集、保管、観覧を通じ、貴重な国民的財産である文化財を次世代に継承するとともに、文化財研究に関するナショナルセンターとして、文化財に関する専門的又は技術的事項に関する調査研究等において、中核的な役割を担っております。

この役割に応えるため、令和３年度からの第５期中期目標期間において、以下の４つのミッションを遂行いたします。



中期目標の期間は、令和３年（2021 年）４月１日から令和８年（2026 年）３月 31 日までの５年間となります。詳細につきましては、第５期中期目標をご参照ください。

第５期中期目標

https://www.nich.go.jp/wp-content/uploads/2021/04/02chukimokuhyo_2021-2025.pdf

(2)一定の事業等のまとまりごとの目標

機構は、中期目標における一定の事業等のまとまりごとの区分に基づくセグメント情報を開示しています。具体的な区分は、以下の２区分です。

① 国立博物館等（有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信）

② 文化財研究所等（文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施）

５．法人の長の理念や運営上の方針・戦略等

「文化財の保存と活用を目指して」

独立行政法人は、国が提供していた行政サービスをより柔軟に実施するために国から独立した組織です。「独立行政法人国立文化財機構」は、東京国立博物館、京都国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館の 4 博物館を設置し、有形文化財を収集し、保管して国民の皆様の観覧に供するとともに、4 博物館と東京文化財研究所、奈良文化財研究所、アジア太平洋無形文化遺産研究センターの計 7 施設にて文化財に関する調査及び研究等を行うことにより、貴重な国民的財産である文化財の保存と活用を図ることを目的としています。

機構は、施設等の全体を把握し、施設設備の老朽化に対応したメンテナンスサイクルを継続的に実行して参ります。

新型コロナウイルス感染症の影響により、人々の価値観が変化している中、博物館の運営については、国内外の感染状況を十分見極めた上で適切な対策を講じつつ、文化財を実際に見て楽しむ体験ができる機会を提供し得る新たな情報発信や教育普及等のあり方を模索し、「新しい生活様式」に対応した博物館運営を確立して参ります。

機構の使命である文化財の保存と活用については、法人全体で考えるべき課題であり、文化を等しく一般の方々に提供する一方で、次の世代に繋いでいくという大きな役割を果たしていけるよう活動を進めて参ります。

また、産業・観光業等他分野と連携し、展示事業や研究開発等により文化財の新たな価値を創出することで、我が国の文化が持続的に発展する好循環を目指します。そのために、ファンドレイジング等による機構に対する支援の拡大や、外部資金の獲得、保有資産の外部貸出等多様な財源の確保を図って参ります。

６．中期計画及び年度計画

中期目標を達成するための中期計画と当該計画に基づく年度計画を作成しています。中期計画と当事業年度に係る年度計画との関係は以下のとおりです。

第５期中期計画	令和４年度年度計画
Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置	
１．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信	
（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承	
①有形文化財の収集等	①有形文化財の収集等 1)有形文化財の収集 2)寄贈・寄託品の受入れ等
②有形文化財の管理・保存・修理等	②有形文化財の管理・保存・修理等 1)有形文化財の管理 2)有形文化財の保存 3)有形文化財の修理 4)文化財修理施設等の運営
（２）展覧事業	
①平常展	①平常展 展覧事業の中核と位置づけ、各博物館の特色を十分発揮したテーマ別展示等を実施するとともに、展示に関する説明の充実に努め、国内外からの来館者の増加を図る。
②特別展等	②特別展等 1)特別展 （４館共通） ア　満足度調査を実施する等広く意見を求め、満足度の高い特別展となるよう努める。来館者アンケート満足度については、前中期目標の期間と同程度の水準の維持を目指す。 イ　特別展来館者数については、各施設の工事等による影響や新型コロナウイルス感染症等による影響等、これらの事情を考慮し、モニタリングする。
③観覧環境の向上等	③観覧環境の向上等 新型コロナウイルス感染症の感染状況を十分見極めた上で、適切な対策を講ずるとともに，「新しい生活様式」に配慮した観覧環境の提供やサービスの改善等に努める。
（３）教育・普及活動	
①教育活動の充実等	①教育活動の充実等 1)学習機会の提供 2)ボランティア活動の支援 3)大学との連携事業等の実施 4)国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与 5)博物館支援者増加への取組
②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実	②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 1)有形文化財に関する情報の発信 2)資料の収集と公開 3)広報活動の充実
（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究	
①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究	①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究

	1)収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 2)特別展等の開催に伴う調査研究 3)文化財を活用した効果的な展示や、教育活動等に関する調査研究
②その他有形文化財に関連する調査研究	②その他有形文化財に関連する調査研究 1)有形文化財の保存環境・保存修復並びに科学技術を活用した分析等に関する調査研究 2)博物館情報、文化財情報に関する調査研究
③国内外の博物館等との学術交流等	③国内外の博物館等との学術交流等 （４館共通） 1)学術交流協定を締結している博物館を中心に、海外の博物館との交流を活発に行う。 2)海外の博物館・美術館等の研究者との交流を促進する。 3)当機構職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣 （オンラインを含む。）する。 4)国際的な講演・研究集会、シンポジウム等を開催若しくはそれらへ職員を派遣する。
④調査研究成果の公表	④調査研究成果の公表
（５）国内外の博物館活動への寄与	
①国内外の博物館等への有形文化財の貸与	①国内外の博物館等への有形文化財の貸与 （４館共通） 1)国内外の博物館等で開催する展覧会等へ収蔵品を貸与する。 2)文化財活用センターが中心となり、収蔵品貸与の促進を図るための取組を行う。
②国内外の博物館等への援助・助言等	②国内外の博物館等への援助・助言等 （４館共通） 1)公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を行う。
（６）文化財の積極的な活用による文化財の継承につなげる新たな取組	
①文化財に親しむためのコンテンツの開発とモデル事業の推進	①文化財に親しむためのコンテンツの開発とモデル事業の推進 1)各施設と連携して、高度な技術で制作された複製や、VR・AR、8K 映像などの先端技術を使った企画コンテンツ事業を積極的に推し進めることで、文化財の新しい活用方法を探り、これまで文化財に触れる機会のなかった人々にも、学ぶ喜びや、楽しい時間を創出する。 2)地域の美術館・博物館等への企画コンテンツの貸出を行う。 3)学校や地域の美術館・博物館との連携により、高精細複製品等を活用したアウトリーチプログラムを実施する。 4)学校向けオンラインコンテンツの開発。
②国立博物館の収蔵品の貸与の促進を行う。	②国立博物館の収蔵品の貸与の促進 1)4 館と連携して、国立博物館の収蔵品を対象とした「国立博物館収蔵品貸与促進事業」を継続して行う。
③文化財のデジタル資源化の推進と国内外への情報発信を行う。	③文化財情報のデジタル資源化の推進と国内外への情報発信 1)各施設と連携して、所蔵品データベース「ColBase 国立文化財機構所蔵品統合検索システム」 について、掲載画像を増やすとともに、画像の高精細化、データのアップデートを進め、その充実を図る。

	2)各施設と連携して、４館及び奈良文化財研究所所蔵の国宝・重要文化財について、4 言語（日、英、中、韓）の説明を付したデジタル高精細画像 を公開する「ｅ国宝国立文化財機構所蔵国宝・重要文化財」のデータの更新、解説文の見直しを継続して行う。 3)各施設の協力のもと、国の分野横断統合ポータル「ジャパンサーチ」にデータを提供する。 4)文化財活用センターのウエブサイト、SNS 等を活用し、文化財活用センターの活動の周知ならびに、文化財全般にかかる情報の発信を行う。
④文化財の保存等に関する相談・助言・支援を行う。	④文化財保存の質的向上に資するための協力、支援、人材育成 1)博物館・美術館等からの展示・収蔵環境に関する相談に対応して助言を行い、必要に応じて、改善のための調査や技術支援を行うとともに、環境管理に関する調査研究を行う。 2)文化財保存管理に携わる学芸員や行政担当者等を対象とした、保存環境管理に関する研修会や講習会等を開催する。 3)文化財保護法第 53 条に基づいて、所有者以外による文化財公開を行う施設に対する保存環境調査を実施し、必要に応じて、改善のための指導を行う。 4)国立博物館収蔵品貸与促進事業の実施館の環境調査を実施し、必要な指導・助言を行う。
２．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施	
（１）新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究	
①有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究	①有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究 1)我が国の美術を中心とする有形文化財等に関する調査研究 2)建造物及び伝統的建造物群に関する調査研究 3)歴史資料・書跡資料に関する調査研究
②無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査研究	②無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査及び研究 1)重要無形文化財の保存・活用に資する調査研究等 2)重要無形民俗文化財の保存・活用に資する調査研究等 3)無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集等
③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 1)史跡・名勝の保存・活用に資する調査研究 2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究 3)重要文化的景観等の保存・活用に資する調査研究 4)全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究 5)水中文化遺産に関する調査研究
（２）科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究	
①文化財の調査手法に関する研究開発	①文化財の調査手法に関する研究開発の推進 1)デジタル画像の形成方法等の研究開発 2)埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発 3)年輪年代学を応用した文化財の科学的分析方法の研究開発 4)動植物遺存体の分析方法の研究開発 5)文化財の調査・研究成果を社会・教育実装するためのＩＣＴを用いた 普及・啓発手法の開発 6)物質文化・地質情報等を基とした防災・減災・復興・復旧の歴史的研究
②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究	②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 1)文化財の生物劣化の機構解明と環境調和型対策に関する研究 2)文化財の保存環境と維持管理に関する調査研究

	3)文化財の材質・構造・保存状態に関する研究 4)屋外文化財の保存修復計画に関する調査研究 5)文化財の修復のための技法と材料に関する調査研究 6)伝統材料・製作技法について科学的調査と情報集積を行う。 7)文化財の修復技術に関する調査研究 8)考古遺物の保存処理法に関する調査研究 9)遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究 10)考古遺物を中心とした文化財の材質調査に関する調査研究 11)高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究
（３）文化遺産保護に関する国際協働	
①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進	①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 1)文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信 2)文化遺産保護に関する研究及び協力事業の推進 3)文化遺産保護に関する人材育成等 4)海外に所在する日本古美術品等の保存に関する協力
②アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究	②アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究 アジア太平洋無形文化遺産研究センターは、アジア太平洋地域における無形文化遺産の保護のための調査研究の推進拠点として、域内の国々と協力し、以下の事業を行う。 ・研究情報の持続的収集と共有、及びシンポジウム・セミナー等の開催を通じたアジア太平洋地域における無形文化遺産保護のための研究の促進 ・持続的でレジリエントな社会構築につなげることを視野に入れた無形文化遺産研究の推進 ・国際会合等への出席やユネスコ及び関連機関との連携を通じた無形文化遺産保護関連の国際的動向の情報収集
（４）文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用	
①文化財情報基盤の整備・充実	①文化財情報基盤の整備・充実 文化財関係の情報を収集して国内外に発信するため、その計画的収集、整理、保管、公開並びに電子化の推進による専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースを構築・運用する。
②調査研究成果の発信	②調査研究成果の発信 文化財に関する調査研究の成果について、定期的に刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等により、多元的に発信する。また、研究所の研究・業務等を広報するためウェブサイトを充実させるとともに、日本語はもとより多言語でのページを充実させる。
③展示公開施設の充実	③展示公開施設の充実 平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館の展示等を充実させ、来館者の理解を促進するとともに、平城宮跡史跡指定 100 周年、高松塚古墳壁画発見 50 周年、奈良文化財研究所創立 70 周年関連展示を行う。
（５）地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等	
①文化財に関する研修の実施	①文化財に関する研修の実施 1)文化財の担当者研修、博物館・美術館等の保存担当学芸員研修を行う。 2)研修受講生を対象としたアンケート及び派遣元自治体を対象とした研修成果の活用状況に関するアンケ

	ート調査を引き続き行い、その結果を踏まえ、より充実した研修計画を策定する。
②文化財に関する協力・助言等	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
③平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力	③平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力する。また、ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。
④連携大学院教育の推進	④連携大学院との連携教育等の推進 連携大学院との連携教育や大学への教育協力を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材を育成する。
（６）文化財防災に関する取組	
①地域防災体制の構築	①地域防災体制の構築 地方公共団体、美術館、博物館、大学等研究機関、地域史料ネット等の文化財等関係団体の連携及び協力を深め、地域の文化財の防災体制を構築する。
②災害時ガイドライン等の整備	②災害時ガイドライン等の整備 災害発生時において多様な文化財の迅速な救援活動を実現するために必要となる各種のガイドライン等の策定を行う。
③レスキュー及び収蔵・展示における技術開発	③レスキュー及び収蔵・展示における技術開発 平常時における文化財の収蔵及び展示における技術開発並びに災害時における文化財のレスキューに関する技術開発を行う。
④文化財防災を促進するための普及啓発	④文化財防災を促進するための普及啓発 文化財防災に関する指導、助言、研修等の啓発及び普及活動を行うとともに、文化財防災センターでの取組等を広く国内外へ情報発信する。
⑤文化財防災に関係する情報の収集と活用	⑤文化財防災に関係する情報の収集と活用 文化財防災に関する情報の収集を進め、我が国の文化財防災システムを機能的に運用するための情報の活用方法を検討する 。
Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	
１．業務改善の取組	
（１）組織体制の見直し （２）人件費管理等の適正化 （３）契約・調達方法の適正化 （４）共同調達等の取組の推進 （５）一般管理費等の削減	（１）組織体制の見直し （２）人件費管理の適正化 （３）契約・調達方法の適正化 ①契約監視委員会を実施する。 ②施設内店舗の貸付・業務委託について引き続き企画競争を実施する。 （４）共同調達等の取組の推進 （５）一般管理費等の削減 ①機構内の共通的な事務の一元化による業務の効率化 ②計画的なアウトソーシング ③使用資源の減少

２．業務の電子化	
３．予算執行の効率化	
Ⅲ　財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置	
１．自己収入拡大への取組	
	（１）コロナ禍における「新しい生活様式」を踏まえた事業展開において、誘客につながる魅力的な展覧環境の構築に努めるとともに、新たな自己収入の確保に取り組む。 （２）機構全体において、展示事業等収入額について年度計画予算額を上回ることを目指す。 （３）機構全体において、寄附金等の外部資金獲得により財源の多様化を図る。 （４）保有資産の有効利用の推進
２．固定的経費の節減	
３．決算情報・セグメント情報の充実等	
４．保有資産の処分	
Ⅳ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画	
１.予算、2.収支計画、3.資金計画	
Ⅴ　短期借入金の限度額	
Ⅵ　不要財産又は不要財産となることが見込まれる財産の処分等に関する計画	
Ⅶ　重要な財産の処分等に関する計画	
Ⅷ　剰余金の使途	
Ⅸ　その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置	
１．内部統制	
	内部統制委員会、リスク管理委員会を開催する。また、内部監査及び監事監査等のモニタリングを実施し、必要に応じて見直しを行うとともに、各種研修を実施し、職員の意識並びに資質の向上を図る。
２．その他	
３．施設設備に関する計画	
４．人事に関する計画	
５．中期目標期間を超える債務負担	
６．積立金の使途	

詳細につきましては，中期計画及び当事業年度に係る年度計画をご参照ください。

第５期中期計画

https://www.nich.go.jp/wp-content/uploads/2021/04/03chukikeikaku_2021-2025.pdf

令和４年度年度計画

https://www.nich.go.jp/wp-content/uploads/2022/03/04nendokeikaku_2022.pdf

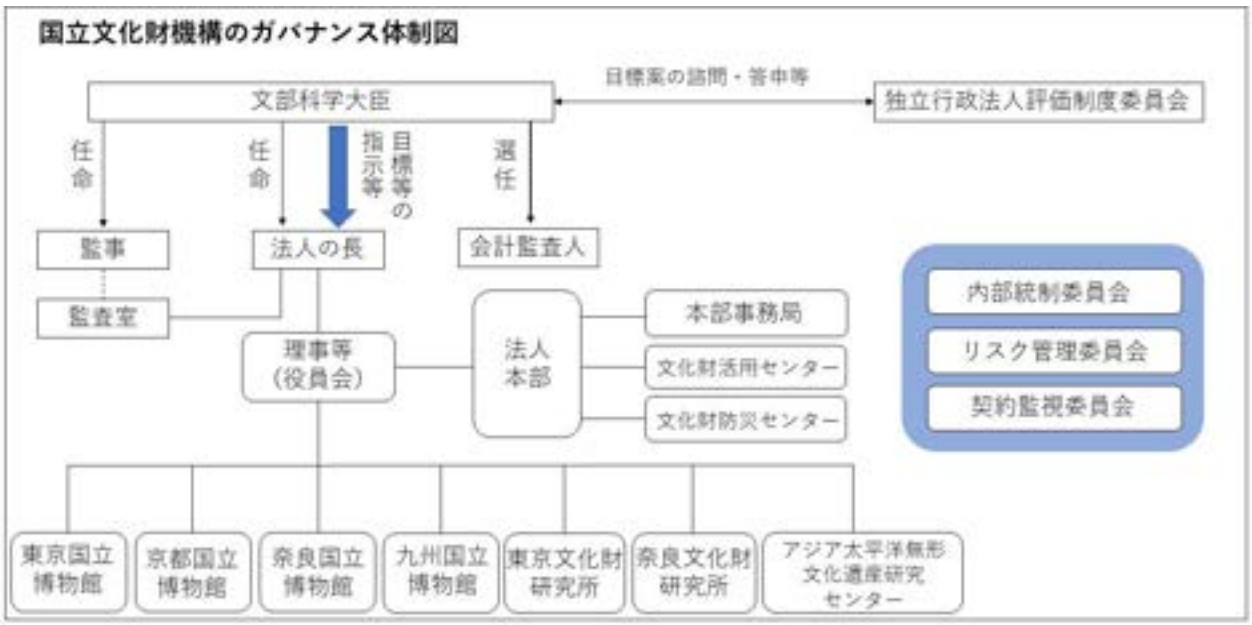
７．持続的に適正なサービスを提供するための源泉

(1)ガバナンスの状況

国立文化財機構は、機構が達成すべき業務運営に関する中期目標に基づき法令等を遵守しつつ有効かつ効率的に業務を行うために内部統制の基本方針を定めており、以下のとおり機構の業務の適正を確保するための内部統制に係る体制を整備しております。

1　業務の有効性及び効率性を確保するための体制の整備	（1）内部統制の推進体制の整備 ・内部統制委員会の設置 （2）倫理行動指針・倫理規程の遵守 （3）中期計画及び年度計画の作成 （4）年度計画に基づく業務の適切な管理 （5）職務権限等に関する規程等の制定 ・組織に関する規程、文書決裁に関する規程等の制定 （6）運営委員会等の設置 ・外部有識者からなる運営委員会の設置 ・業務実績の法人による自己点検評価に関する評価を行う外部評価委員会の設置 （7）役員会の設置 （8）契約監視委員会の設置 （9）最高情報責任者及び最高情報セキュリティ責任者の設置 ・情報システム・セキュリティ委員会の設置 (10) 監査室の設置 (11) 人的資源の管理
2　法令等の遵守体制の整備	（1）コンプライアンス違反等への対応の措置 （2）内部通報・外部通報に関する仕組の確保 （3）反社会的勢力への対応 （4）法令遵守等に関する役職員等への周知 ・コンプライアンスに関する研修の実施 （5）違反行為等に対する処分
3　損失危機管理の体制の整備	（1）リスク管理に関する規程の制定 （2）業務リスクへの対応 ・リスク管理委員会におけるリスク管理の実施
4　情報保存管理の体制の整備	（1）情報システム・情報セキュリティに関する規程等の制定 ・情報システム・セキュリティ委員会の設置 （2）個人情報保護に関する規程の制定 （3）文書管理に関する規程の制定
5　資産の管理及び処分の体制の整備	（1）固定資産に関する規程の制定
6　財務報告等の信頼性確保の体制の整備	（1）財務諸表等の作成が、関係法令、関係諸規程に基づき適正に行われるための体制の整備

なお、国立文化財機構のガバナンス体制図は下記のとおりです。



内部統制システムの整備に関する事項の詳細については、業務方法書等をご参照ください。

業務方法書

https://www.nich.go.jp/wp-content/uploads/2015/11/01gyomuhohosho.pdf

(2)役員等の状況

①役員の氏名、役職、任期、担当及び経歴

役 職	氏 名	任 期	担 当	経 歴	
理事長 (常勤)	島谷 弘幸	自 令和3年 4月1日 至 令和8年 3月31日		昭和59年04月 平成06年07月 平成13年04月 平成15年04月 平成19年04月 平成20年04月 平成23年04月 平成27年04月 平成29年10月 令和03年04月	東京国立博物館 東京国立博物館学芸部美術課書跡室長 (独)東京国立博物館学芸部資料課長 (独)東京国立博物館文化財部展示課長 (独)東京国立博物館文化財部長 (独)東京国立博物館学芸研究部長 (独)東京国立博物館副館長((兼) (独)国立文化財機構本部調整役) (独)九州国立博物館館長 (独)国立文化財機構理事((兼)九州国立博物館長) (独)国立文化財機構理事長((兼)九州国立博物館長)
理 事 (常勤)	齊藤 孝正	自 令和3年 10月1日 至 令和7年 9月30日	文化財の収集、保管、公開、調査研究担当	昭和56年11月 平成02年06月 平成03年07月 平成12年04月 平成13年01月 平成25年04月 平成26年04月 平成30年07月 平成31年01月 令和03年10月	名古屋大学助手(文学部) 文化庁文化財保護部美術工芸課 文化庁文化財保護部文化財調査官(工芸部門) 文化庁文化財保護部主任文化財調査官(工芸部門) 文化庁文化財部美術学芸課主任文化財調査官(工芸部門) (独)東京国立博物館上席研究員(学芸企画部付) 文化庁文化財部文化財鑑査官 (独)本部文化財活用ｾﾝﾀｰ総括ﾏﾈｰｼﾞｬｰ(兼)保存担当課長 (独)東京文化財研究所長 (独)国立文化財機構理事((兼)東京文化財研究所長)
理 事 (常勤)	塩見みづ枝	自 令和4年 9月1日 至 令和7年 3月31日	総務、財務、施設担当	平成02年04月 平成22年07月 平成24年01月 平成27年01月 平成28年06月 平成29年07月 平成30年01月 平成30年10月 令和元年07月 令和02年10月 令和03年04月 令和03年09月 令和04年09月	文部省 文部科学省生涯学習政策局社会教育課長 文部科学省初等中等教育局教育課程課長 文部科学省高等教育局大学振興課長 文部科学省高等教育局高等教育企画課長 文部科学省大臣官房文部科学戦略官 (生涯局担当) 文部科学省生涯学習政策局生涯学習総括官 文部科学省総合教育政策局社会教育振興総括官 文部科学省大臣官房人事課長 文部科学省大臣官房審議官 文部科学省大臣官房学習基盤審議官 文化庁次長 (独)国立文化財機構理事

理　事 (非常勤)	林田 スマ	自 令和3年 4月1日 至 令和7年 3月31日	教育普及、 生涯学習、 男女共同 参画担当	昭和43年04月 昭和55年05月 平成08年04月 平成21年04月 平成29年04月	RKB毎日放送 フリーアナウンサー 財団法人大野城市都市施設管理公社女性センター所長 （現　男女平等推進センター） 公益財団法人大野城まどかぴあ 館長　現在に至る (独)国立文化財機構理事
監　事 (非常勤)	久留島典子	自 平成27 年4月1日 至 令和7年 度財務諸表 承認日		昭和56年04月 平成04年04月 平成11年04月 平成14年04月 平成25年04月 平成27年04月 平成27年04月 令和03年04月	東京大学史料編纂所助手 東京大学史料編纂所助教授 東京大学史料編纂所教授 東京大学総長特任補佐 国立大学法人東京大学史料編纂所長 国立大学法人東京大学副学長 国立大学法人東京大学附属図書館長 (独)国立文化財機構監事 神奈川大学国際日本学部教授　現在に至る
監　事 (非常勤)	稲垣 正人	自 令和3年 9月1日 至 令和7年 度財務諸表 承認日		昭和57年10月 昭和64年01月 平成09年09月 平成17年07月 平成19年08月 令和元年07月 令和02年09月 令和03年09月	新光監査法人　入所（後の中央青山監査法人） 海外経済協力基金（現：国際協力機構）出向 中央青山監査法人 社員（パートナー） 中央青山監査法人 公共セクター部長 新日本監査法人 シニアパートナー （現：EY新日本有限責任監査法人） 稲垣公認会計士事務所開業登録 国立大学法人総合研究大学院大学監事 現在に至る (独)国立文化財機構監事

②会計監査人の名称

EY新日本有限責任監査法人

(3)職員の状況

常勤職員は令和4年度末現在408人（前期末比10人増)、平均年齢は45歳（前期末比増減なし）です。このうち、国等からの出向者は15人、令和5年3月31日退職者は△9人です。

(4)重要な施設等の整備等の状況

①当事業年度に完成した主要な施設等

＜奈良文化財研究所＞

老朽空調設備改修

②当事業年度継続中の主要な施設等の新設・拡充

該当なし

③当事業年度に処分した主要な施設等

該当なし

(5)純資産の状況

①資本金の額及び出資者ごとの出資額（前事業年度末からのそれぞれの増減を含む）

（単位：百万円）

区分	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
政府出資金	104,714	0	0	104,714
資本金合計	104,714	0	0	104,714

②目的積立金の申請状況、取崩内容等

当期未処分利益 418 百万円については、417 百万円について目的積立金として申請する予定です。前中期目標期間繰越積立金取崩額 1 百万円は、受託研究費購入資産に係る減価償却相当分の取崩です。

(6)財源の状況

①財源の内訳（運営費交付金、施設費、補助金、自己収入など）

令和 4 年度の法人単位の収入決算額は 13,385 百万円であり、その内訳は以下のとおりです。

（単位：百万円）

区　分	金　額	構成比率
運営費交付金	8,918	66.6%
施設整備費補助金	1,150	8.6%
文化芸術振興費補助金等	42	0.3%
展示事業等収入	1,725	12.9%
受託収入	593	4.4%
その他寄附金	957	7.2%
合計	13,385	100%

②自己収入に関する説明（自己収入の概要、収入先等に関する簡潔な説明など）

機構では、年間を通じて博物館を開館し、収蔵品を観覧に供するほか、複数回の特別展覧会を開催し、今年度は 9 億 20 百万円の入場料収入を得ています。このほかに展示事業等附帯収入として 4 億 98 百万円を得ています。主な内訳としては、年間パスポート収入 1 億 35 百万円、ミュージアムショップやレストランの販売手数料収入 58 百万円、科学研究費補助金間接経費収入 74 百万円などです。また財産利用収入として 3 億 1 百万円を得ています。主な内訳としては、文化財画像利用等に伴う版権・特許権使用料 28 百万円、ショップやレストラン等の建物年間貸付料 65 百万円、映像二次使用やロケーション撮影等に伴う土地建物映像使用料 35 百万円などです。

(7)社会及び環境への配慮等の状況

①独立行政法人国立文化財機構における障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応

機構では、障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律の規定に基づき、また、障害を理由とする差別の解消の推進に関する基本方針に即して、同法第 7 条に規定する行政機関等における障害を理由とする差別の禁止事項に関し、機構の役員及び職員が適切に対応するために必要な事項を定めております。

詳細につきましては、国立文化財機構における障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応要領をご参照ください。

https://www.nich.go.jp/wp-content/uploads/2016/05/taio_yoryo20160401_1.pdf

②女性活躍推進法及び次世代育成支援対策推進法による一般事業主行動計画

機構では、働き方の多様化を促進することにより、職員が仕事と子育てを両立することができ、女性の潜在的能力を活用することによって、職員全員が働きやすい環境をつくり、各人がその能力を十分に発揮する強い組織とするため、行動計画を策定しております。

詳細につきましては、国立文化財機構における女性活躍推進法及び次世代育成支援対策推進法による一般事業主行動計画をご参照ください。

https://www.nich.go.jp/wp-content/uploads/2021/04/jisedai-kodokeikaku2021-2026.pdf

③環境物品等の調達の推進を図るための方針

機構では、国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律第7条第1項の規定に基づき、環境物品等の調達の推進を図るための方針を定め、同条第3項の規定に基づき公表しております。

詳細につきましては、環境物品等の調達の推進を図るための方針をご参照ください。

https://www.nich.go.jp/wp-content/uploads/2022/04/2022kankyo_hoshin.pdf

④障害者就労施設等からの物品等の調達の推進を図るための方針

機構では、国等による障害者就労施設等からの物品等の調達の推進等に関する法律第6条の規定に基づき、障害者就労施設等からの物品等の調達の推進に関する基本方針に即して、障害者就労施設等からの物品等の調達の推進を図るための方針を定めております。

詳細につきましては、障害者就労施設等からの物品等の調達の推進を図るための方針をご参照ください。

https://www.nich.go.jp/wp-content/uploads/2022/04/2022shogai_hoshin.pdf

⑤独立行政法人国立文化財機構の中小企業者に関する契約の方針

機構では、官公需についての中小企業者の受注の確保に関する法律第5条の規定に基づき、中小企業者に関する国等の契約の基本方針に即して、中小企業者に関する契約の方針を定めております。

詳細につきましては、独立行政法人国立文化財機構の中小企業者に関する契約の方針をご参照ください。

https://www.nich.go.jp/wp-content/uploads/2022/11/2022kankouju.pdf

８．業務運営上の課題・リスク及びその対応策

(1)リスク管理の状況

①リスク管理に関する規程の整備

平成 26 年 6 月の独立行政法人通則法の改正（平成 27 年 4 月 1 日施行）では、業務方法書に内部統制の体制整備その他主務省令で定める事項を掲載することとされました。これに伴い、機構では、リスク管理に関して、業務実施の障害となる要因を事前にリスクとして識別、分析及び評価し、当該リスクへの適切な対応をとるべく、独立行政法人国立文化財機構リスク管理規程を平成 28 年 3 月 25 日に制定し、平成 28 年 4 月 1 日から施行しております。同リスク管理規程は、機構のリスク管理体制を整備し、リスクの発生の防止又はリスクが発生した場合の損失の最小化を図り、もって機構の業務の円滑な運営に資することを目的としております。内部統制とリスク管理の関係は、下記図をご参照ください。

②リスク管理にかかる組織体制

機構におけるリスク管理にかかる組織体制は、リスク管理を担当するリスク管理担当理事を指名し、機構におけるリスク管理に関する取組を総括整理しております。また、リスク管理の取組を推進するため、機構にリスク管理総括部門を置き、機構本部事務局が担当しております。

リスク管理総括部門には、総括リスク管理責任者を置き、本部事務局長を充て、また、博物館・研究所等の各施設にはリスク管理責任者を置き、各施設の長を充てております。総括リスク管理責任者及びリスク管理責任者は、所属する各施設のリスク管理の状況の把握に努め、また、所属する各施設の職員のうちからリスク管理補助者を指定し、各施設におけるリスク管理の整備及び運用を担当させております。

③リスク管理委員会の設置

機構では、リスク管理委員会を設置しております。リスク管理委員会は、リスク管理を担当する理事を委員長に置き、本部事務局長、本部事務局総務企画課長、各施設のリスク管理責任者が

指定する職員及び監査室長で構成され、委員長が招集し主催しております。なお、リスク管理委員会での検討及び審議事項は以下の通りです。

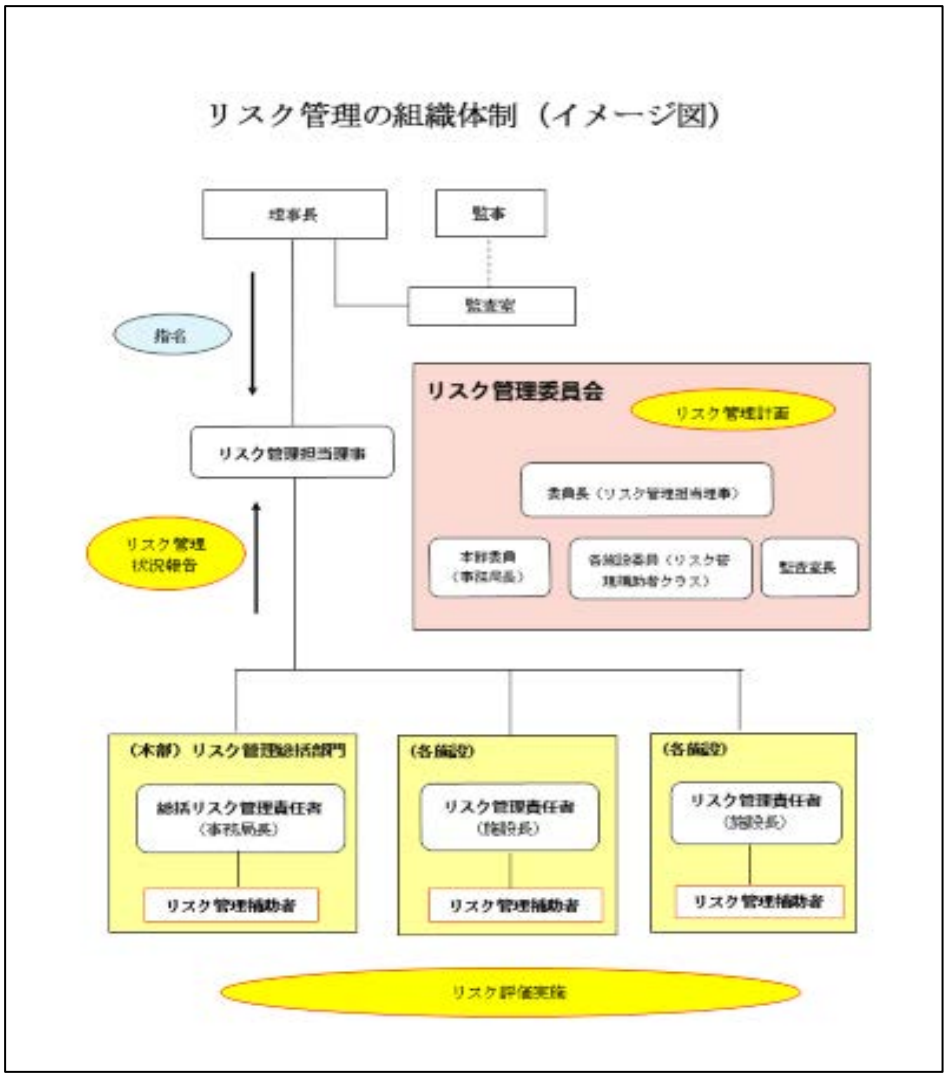
・機構全体で対応すべきリスクの評価、当該リスクへの対応策の取りまとめ及び当該対応策の推進状況の点検に関する事項
・重大な危機の再発防止に関する事項
・その他委員会が必要と認めた事項

リスク管理委員会では、機構全体で対応すべきリスクを５つ（①戦略リスク、②財務リスク、③コンプライアンスリスク、④オペレーションリスク、⑤ハザードリスク）に分類の上、機構におけるリスク管理計画を策定しております。

各施設の管理責任者等は、同リスク管理計画に基づき、各施設における当該リスクの管理を行い、常時、リスクへの対応に関しモニタリングし、定期的にリスク管理委員会へリスク管理計画の実施状況について報告しております。

なお、平成 30 年度から令和 4 年度までの委員会開催実績は下記のとおりです。

平成 30 年度：3 回
令和 元年度：3 回
令和 2 年度：2 回
令和 3 年度：2 回
令和 4 年度：2 回



(2)業務運営上の課題・リスク及びその対応策の状況

機構では、機構に関連するリスクを５つ（①戦略リスク、②財務リスク、③コンプライアンスリスク、④オペレーションリスク、⑤ハザードリスク）に分類して、機構におけるリスク管理計画を策定しております。

このうち、法人設立の目的から、文化財の毀損の発生に関するリスクが最もリスクレベルの高いものであると評価しております。

具体的には、文化財の展示・撤収作業中、輸送、撮影・調査中における文化財の毀損の発生が想定され、人的要因（習熟していない職員の作業等）、物的要因（文化財の脆弱性等）及び設備要因（温湿度等の環境変化等）などの発生要因を把握し、常日頃から適切かつ迅速な対応がとれるよう努めております。

(3)新型コロナウイルス感染症拡大への対応

①コロナ禍における「新しい生活様式」を踏まえた事業展開について

令和４年度においても、各博物館等において「博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」に沿った感染拡大防止策の導入や事前予約制の推奨、柔軟な開館時間の設定などによる混雑対策を実施しました。

また、「新しい生活様式」に対応するため、引き続き、先端技術を用いた展示の導入や、教育普及活動、情報発信、国際交流活動の手段としてオンライン等の活用を推進し、博物館活動を継続し、遠方に向けて情報発信を行い国内外に向けて、渡航制限解除後等における来館志向の維持拡大を図りました。

②財源確保について

令和４年度においても、感染症防止対策及びオンライン等を活用した事業を継続しました。「新しい生活様式」の中で多くの方に来ていただけるよう、展覧環境の整備に努め、自己収入の確保を図ります。また、入場料収入だけではない、多様な財源を確保するため、保有施設の外部貸出や競争的研究費の獲得とともに、ファンドレイジング事業を推進し、支援者の拡大と寄附金の獲得等を図ります。

９．内部統制の運用に関する情報

①内部統制に関する規程の整備

平成 26 年 6 月の独立行政法人通則法の改正（平成 27 年 4 月 1 日施行）では、業務方法書に内部統制の体制整備その他主務省令で定める事項を掲載することとされました。これに伴い、機構では、機構に対する社会的信頼を確保し、機構の使命と社会的責任を果たすことを目的として、独立行政法人国立文化財機構内部統制規程を平成 28 年 3 月 25 日に制定し、平成 28 年 4 月 1 日から施行しております。内部統制とリスク管理の関係は、「８．業務運営上の課題・リスク及びその対応策」の「(1) リスク管理の状況」の「①リスク管理に関する規程の整備」をご参照ください。

②内部統制にかかる組織体制

国立文化財機構における内部統制にかかる組織体制は、内部統制の推進を担当する内部統制担当理事を指名し、機構における内部統制に関する取組みを総括整理しております。また、内部統制の取組を推進するため、機構に内部統制推進部門を置き、機構本部事務局が担当しております。

内部統制推進部門には、総括内部統制推進責任者を置き、本部事務局長を充て、また、博物館・研究所等の各施設には内部統制推進責任者を置き、各施設の長を充てております。総括内部統制推進責任者及び内部統制推進責任者は、所属する本部・各施設において、職員が内部統制を遵守するよう監督するとともに、内部統制の整備及び運用の状況の把握に努め、また、所属する本部・各施設の職員のうちから内部統制推進管理者を指定し、本部・各施設における内部統制の整備及び運用管理を担当させております。

③内部統制委員会の設置

機構では内部統制委員会を設置しております。内部統制委員会は、内部統制の推進を担当する理事を委員長に置き、本部事務局長、本部事務局総務企画課長、各施設の内部統制推進責任者が指定する職員及び監査室長で構成され、委員長が招集し主催しております。内部統制委員会での検討及び審議事項は以下の通りです。

・機構における内部統制の整備及び運用に係る基本方針に関すること
・内部統制におけるモニタリング体制に関すること
・その他内部等統制の整備の推進に関する事項

内部統制の整備及び運用に関する定期的な状況報告に基づき、必要な改善策を検討しております。

④管理体制の整備

総括内部統制推進責任者及び内部統制推進責任者は、本部・各施設における業務執行に係る意思決定プロセス、経費支出の承認プロセスに係るチェックシステムの構築に努めております。また、調査研究業務に関する不正防止のため、調査研究資金の管理状況の把握及び管理体制の整備に努めております。内部統制の推進に必要な知識及び技能を習得させ、又は向上させるために必要な研修を行っております。

このほか、内部統制体制の円滑な運営を図るため、内部統制に関する情報の伝達が確実に行われるよう情報システムの整備に努めております。情報システムを活用した効率的な業務運営のために、積極的に事務処理の効率化及び高度化を推進しております。

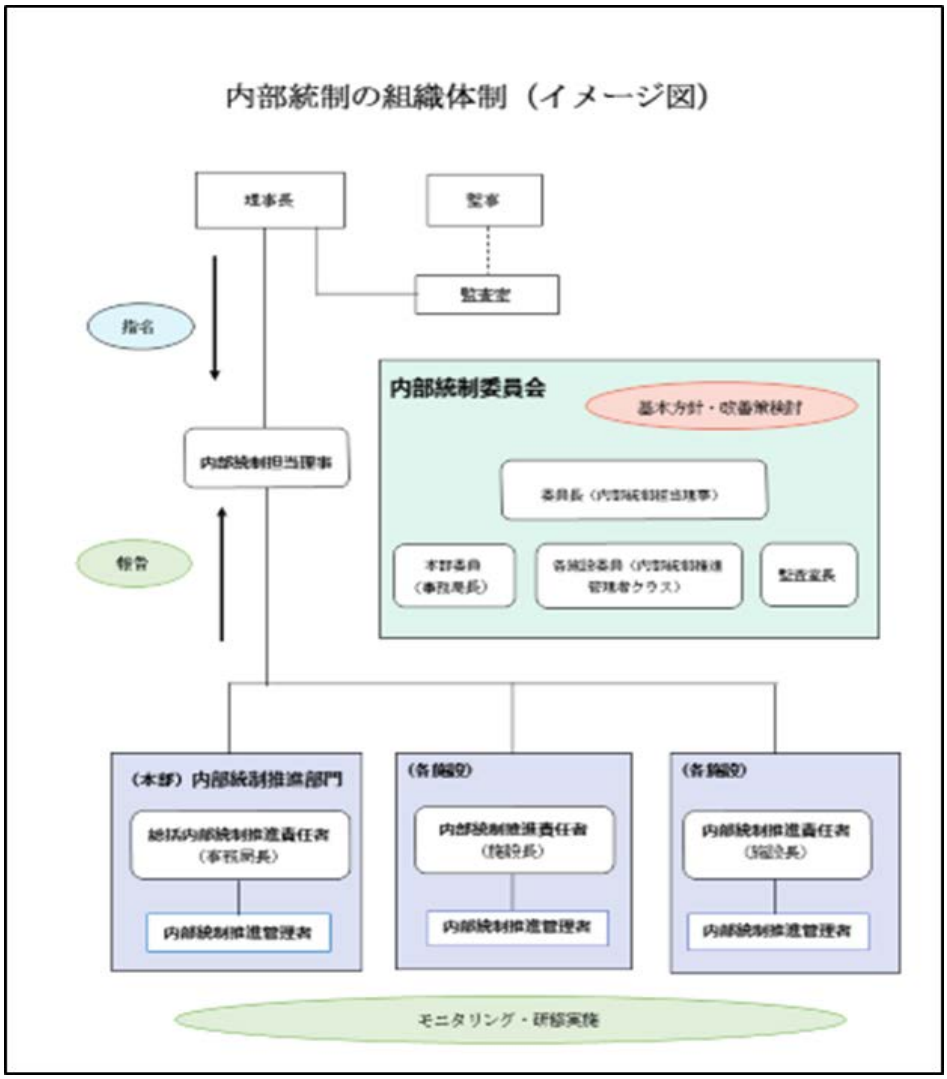
なお、平成 30 年度から令和 4 年度までの委員会開催実績は下記のとおりです。

平成 30 年度：3 回
令和 元年度：4 回
令和 2 年度：2 回
令和 3 年度：2 回
令和 4 年度：2 回

⑤内部監査・監事監査

理事長は、機構における会計状況について、適法性及び合理性の観点から公正不偏かつ客観的な立場で検証を行い、もって、業務運営の効率化と会計処理の適正化を図ることを目的として、職員のうちから監査員を命じて内部監査を行わせており、令和 4 年度においても、本部を含む全施設について監査を行っております。

また、監事は、機構の業務及び会計に関する監査を行います。監査報告書を理事長に提出し、監査の結果に基づき必要があると認めるときは、報告書に意見を付すことができます。



１０．業績の適正な評価の前提情報

事業の種類及び事業の内容

事業の種類	設置施設	事業の内容 （中期目標における一定の事業等のまとまり）
国立博物館等	東京国立博物館 京都国立博物館 奈良国立博物館 九州国立博物館	有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信等の事業 【収益化単位の業務】 収集保管業務、展覧業務、教育普及業務、博物館研究業務、博物館支援業務、文化財活用業務
文化財研究所等	東京文化財研究所 奈良文化財研究所 アジア太平洋無形文化遺産研究センター	文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施等の事業 【収益化単位の業務】 基礎研究業務、応用研究業務、国際遺産保護業務、情報公開業務、研修協力業務、文化財防災業務

１１．業務の成果と使用した資源との対比

(1)自己評価

評価項目		評定 (注)	行政コスト
全体の評定		B	
（大項目名 1）	国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置	B	
（中項目名 1）	有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信	B	
（小項目 1-1）	有形文化財の収集・保管、次代への継承	A	934 百万円
（小項目 1-2）	展覧事業	B	3,336 百万円
（小項目 1-3）	教育・普及活動	B	198 百万円
（小項目 1-4）	有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究	B	686 百万円
（小項目 1-5）	国内外の博物館活動への寄与	B	85 百万円
（小項目 1-6）	文化財の積極的な活用による文化財の継承につなげる新たな取組	B	373 百万円
（中項目名 2）	文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施	B	
（小項目 2-1）	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究	B	995 百万円
（小項目 2-2）	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究	B	354 百万円

（小項目 2-3）	文化遺産保護に関する国際協働	A	186 百万円
（小項目 2-4）	文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用	A	487 百万円
（小項目 2-5）	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等	B	130 百万円
（小項目 2-6）	文化財防災に関する取組	B	155 百万円
（大項目名 2）	業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	B	
（中項目名 1）	業務改善の取組	B	
（中項目名 2）	業務の電子化	B	
（中項目名 3）	予算執行の効率化	B	
（大項目名 3）	財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置	B	
（中項目名 1）	自己収入拡大への取組	A	
（中項目名 2）	固定的経費の節減	B	
（中項目名 3）	決算情報・セグメント情報の充実等	B	
（大項目名 4）	予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画	B	
（中項目名 1）	1.予算、2.収支計画及、3.資金計画	B	
（大項目名 5）	その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置	B	
（中項目名 1）	内部統制	B	
（中項目名 2）	その他	B	
（中項目名 3）	施設設備に関する計画	B	
（中項目名 4）	人事に関する計画	B	

（注1）評価区分

Ｓ：所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られている

Ａ：所期の目標を上回る成果が得られている

Ｂ：所期の目標を達成している

Ｃ：所期の目標を下回っており、改善を要する

Ｄ：所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた抜本的な改善を要する

※Ｂ評定が標準となる

詳細につきましては、自己点検評価報告書をご参照ください。

https://www.nich.go.jp/data/hyoka/

(2)当中期目標期間における主務大臣による総合評定の状況

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
評定（注）	B	—	—	—	—

（注）評価区分

Ｓ：所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られている

Ａ：所期の目標を上回る成果が得られている

Ｂ：所期の目標を達成している

Ｃ：所期の目標を下回っており、改善を要する

Ｄ：所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた抜本的な改善を要する

※Ｂ評定が標準となる

１２．予算と決算との対比

要約した決算報告書

（単位：百万円）

区　　分	予　算	決　算	差額理由
《収入》			
運営費交付金	8,918	8,918	
施設整備費補助金	－	1,150	繰越予算
文化芸術振興費補助金等	－	42	文化庁補助金交付
展示事業等収入	1,329	1,725	入場料、科研費等収入の増加
受託収入	797	593	当初見込に対する契約の減少
その他寄附金等	788	957	賛助会等
合　　計	11,832	13,385	
《支出》			
運営事業費	10,247	10,124	
・人件費	3,872	3,764	
・業務経費	6,375	6,360	施設整備等に係る経費の減少
施設整備費	－	1,150	繰越予算
文化芸術振興費補助金等	－	38	文化庁補助金交付
受託事業費	797	551	
その他寄附金等	788	577	寄附金等財源による収蔵品購入の減少
合　　計	11,832	12,440	

詳細につきましては、決算報告書をご参照ください。

https://www.nich.go.jp/data/kihon/

１３．財務諸表

(1)要約した財務諸表

①貸借対照表

法人の財政状態を明らかにする書類です。

令和５年３月31日　　（単位：百万円）

資産の部	金　額	負債の部	金　額
流動資産		流動負債	
現金及び預金	4,093	運営費交付金債務	528
未収金	1,345	未払金	1,984
その他	384	その他	2,378
流動資産合計	5,822	流動負債合計	4,890
固定資産		固定負債	
有形固定資産		資産見返負債	2,725
建物	44,819	その他の固定負債	2,247
収蔵品	129,074	固定負債合計	4,972
土地	44,411	負債合計	9,862
工具器具備品	2,119	純資産の部	
建設仮勘定	52	資本金	104,714
その他	1,440	資本剰余金	114,145
無形固定資産	104	利益剰余金	1,343
投資その他の資産	2,223	純資産合計	220,202
固定資産合計	224,242		
資産合計	230,064	負債純資産合計	230,064

②行政コスト計算書

法人の業績評価におけるアウトプットとの対比情報として、要したコスト（=インプット）を示す書類です。

令和４年４月１日～令和５年３月31日　　（単位：百万円）

	金　額
Ⅰ　損益計算書上の費用	11,379
Ⅱ　その他行政コスト	2,833
Ⅲ　行政コスト	14,212

③損益計算書

法人の運営状況を明らかにする書類です。

令和４年４月１日～令和５年３月31日　　（単位：百万円）

	金　額
経常費用(A)	11,379
業務費	
人件費	3,786
業務経費	4,718
減価償却費	509
一般管理費	
人件費	1,038
一般管理経費	1,222
減価償却費	105
その他	1
経常収益(B)	11,796
運営費交付金収益	7,459
受託収入	593
入場料収入	920
展示事業等附帯収入	498
財産利用収入	301
寄附金収益	388
施設費収益	442
その他補助金収益	34
資産見返負債戻入	767
その他	394
臨時損失(C)	0
臨時利益(D)	0
当期純利益(E)　(B－A＋D－C)	417
前中期目標期間繰越積立金取崩額(F)	1
業務拡充積立金取崩金(G)	0
当期総利益(E＋F＋G)	418

④純資産変動計算書

行政コスト計算書にも損益計算書にも反映されない出資等（拠出金、資源）や剰余金の変動を示す書類です。

令和４年４月１日～令和５年３月31日　　（単位：百万円）

	Ⅰ資本金	Ⅱ資本剰余金	Ⅲ利益剰余金	純資産合計
当期首残高	104,714	113,875	925	219,514
当期変動額	0	270	418	688
当期末残高	104,714	114,145	1,343	220,202

⑤キャッシュ・フロー計算書

資金（現預金）の増減理由を示している書類です。

令和４年４月１日～令和５年３月31日　　（単位：百万円）

	金　額
Ⅰ業務活動によるキャッシュ・フロー(A)	1,724
人件費支出	-4,846
運営費交付金収入	8,918
その他補助金による収入	16
自己収入等	3,575
その他の支出	-5,946
その他収入	7
Ⅱ投資活動によるキャッシュ・フロー(B)	-948
Ⅲ財務活動によるキャッシュ・フロー(C)	-10
Ⅳ資金増加額（又は減少額）(D＝A＋B＋C)	766
Ⅴ資金期首残高(E)	3,327
Ⅵ資金期末残高(F＝D＋E)	4,093

詳細につきましては、財務諸表をご参照ください。
https://www.nich.go.jp/data/kihon/

(2)要約した財務諸表の科目の説明

①貸借対照表

現金及び預金　　：現金、銀行預金（定期預金含む）
未収金　　：受託事業実施のための立替金、施設利用料の未受領分など
その他（流動資産）　：販売用図録などのたな卸資産、前払保険料、前払費用など
有形固定資産　　：土地、建物、大型研究機器、車両、収蔵品など長期にわたって使用する固定資産で無形固定資産以外のもの
建設仮勘定　　：建設中の建物の建設等のため支出した相当額など
無形固定資産　　：ソフトウエア、電話加入権など
その他（固定資産）　：保証金、長期前払費用
運営費交付金債務　：運営費交付金のうち翌年度に繰り越すものの相当額
未払金　　：退職給付、購入代金などの未払金で１年以内に支払期限が到来するもの
その他（流動負債）　：住民税納付のための給与控除預り金など
資産見返負債　　：運営費交付金などにより取得した固定資産（償却資産）の取得額のうちの未償却額
その他（固定負債）　：リース長期未払金など
資本金　　：国から出資された土地、建物等の相当額
資本剰余金　　：運営費交付金、施設費、目的積立金、寄附金などで取得した建物、収蔵品の相当額
利益剰余金　　：剰余金の累計額

②行政コスト計算書

損益計算書上の費用　：損益計算書における一切の費用
その他行政コスト　　：行政コストに含まれるものであって、独立行政法人の会計上の財産的基礎が減少する取引に相当するものであるが、独立行政法人の拠出者への返還により生じる会計上の財産的基礎が減少する取引には相当しないもの

③損益計算書

業務費　　：業務の実施に要した経費
人件費　　：給与、賞与、法定福利費等の経費
減価償却費　　：固定資産の取得額をその耐用年数にわたって費用として配分する経費
運営費交付金収益　：運営費交付金のうち、当期の収益として認識した相当額
資産見返負債戻入　：固定資産の償却時に当該資産の見返勘定を戻入したことによる収益
臨時損失　　：固定資産除却損
臨時利益　　：運営費交付金及び寄附による備品の除却等により資産見返運営費交付金等を戻入したことによる利益
前中期目標期間繰越積立金取崩額：前中期目標期間に受託研究費で取得した研究機器の当該年度の減価償却費相当額

④純資産変動計算書

資本金、資本剰余金、利益剰余金：①貸借対照表と同様

⑤キャッシュ・フロー計算書

業務活動によるキャッシュ・フロー：通常業務の実施に係る資金の状態。サービス提供等による収入、原材料、商品又はサービス購入による支出、人件費支出等
投資活動によるキャッシュ・フロー：将来に向けた運営基盤の確立のために行われる投資活動に係る資金の状態で、固定資産の取得・売却等による収入・支出
財務活動によるキャッシュ・フロー：増資等による資金の収入・支出、債券の発行・償還及び借入れ・返済による収入・支出等、資金の調達及び返済等

１４．財政状態及び運営状況の法人の長による説明情報

主要な財務データの簡潔な説明（資産、負債、行政コスト、経常費用、経常収益、当期総利益、キャッシュ・フローなど）

(1)各財務諸表の概要

①貸借対照表

令和 4 年度末現在の資産合計は、2,300 億 64 百万円と前年度比 14 億 86 百万円（0.6%）の増加となりました。これは、収蔵品が購入及び寄贈等により 25 億 95 百万円増加、入場料収入の増加等により現金及び預金が 7 億 66 百万円増加、施設整備費における未収計上の増加等により未収金が 7 億 26 百万円増加、東京国立博物館の本館特別 1 室壁面展示ケースの整備等により建物が 5 億 45 百万円増加した反面、有形固定資産の減価償却が 32 億 93 百万円進んだことが主な要因です。

令和 4 年度末現在の負債合計は、98 億 62 百万円と前年度比 7 億 98 百万円(8.8%)

の増加となりました。これは、執行額の増加により未払金が 5 億 53 百万円増加、寄附金の受入額増加により預り寄附金が 3 億 79 百万円増加したことが主な要因です。

令和 4 年度末現在の純資産合計は、④純資産変動計算書で説明します。

②行政コスト計算書

令和 4 年度の行政コストは、142 億 12 百万円となりました。損益計算書上の費用が 113 億 79 百万円、その他行政コストが 28 億 33 百万円です。その他行政コストは、主に減価償却相当額 28 億 31 百万円です。

③損益計算書

令和 4 年度の経常費用は、113 億 79 百万円と前年度比 9 億 56 百万円（9.2%）の増加となりました。これは、修繕工事の増加等により一般管理経費が 5 億 57 百万円増加、社会情勢の影響を受けた燃料費高騰に伴う光熱費の増加や特別展の運営業務委託に係る支出の増加により展覧業務費が 4 億 66 百万円増加したことが主な要因です。

また、令和 4 年度の経常収益は、117 億 96 百万円と前年度比 11 億 28 百万円（10.6%）の増加となりました。これは展覧会の入場者数の増加により入場料収入が 3 億 93 百万円増加、施設整備費補助金を財源とする修繕工事の増加等により施設費収益が 3 億 58 百万円増加、令和 3 年度からの債務繰越により運営費交付金収益が 2 億 14 百万円増加、協賛金の増加や友の会への加入者増加等により展示事業等附帯収入が 2 億 7 百万円増加したことが主な要因です。

以上による経常利益 4 億 17 百万円に、臨時損失 0.1 百万円と臨時利益 0.2 百万円を差し引きし、前中期目標期間繰越積立金取崩額 1 百万円を加え、令和 4 年度当期総利益は前年度比 1 億 15 百万円（37.8%）増加の 4 億 18 百万円となりました。

④純資産変動計算書

令和 4 年度末現在の純資産合計は、2,202 億 2 百万円と前年度比 6 億 88 百万円（0.3%）の増加となりました。これは利益剰余金が 4 億 17 百万円増加、資本剰余金が 2 億 70 百万円増加したことが要因です。利益剰余金の増加は、令和 3 年度当期総利益 3 億 4 百万円の処分により、積立金が 1 億 67 百万円増加、目的積立金が 1 億 36 百万円増加したことによるものです。資本剰余金の増加は、主に資産取得に伴う増加 31 億 3 百万円と減価償却による減少 28 億 31 百万円の差し引きによるものです。

⑤キャッシュ・フロー計算書

業務活動によるキャッシュ・フローでは、収入が 17 億 24 百万円と前年度比 2 億 9 百万円（13.8%）増加しました。これは展示事業等収入が入場者数増加による入場料収入の増加等により 6 億 8 百万円増加、業務支出が 4 億 24 百万円増加したことが主な要因です。

投資活動によるキャッシュ・フローでは、支出が 9 億 48 百万円と前年度比 6 億 35 百万円（40.1%）減少しました。これは有形固定資産の取得による支出が 5 億 90 百万円減少したほか、施設費による収入が 69 百万円増加したことが主な要因です。

財務活動によるキャッシュ・フローでは、支出が 10 百万円と前年度とほぼ同額です。当該区分は、リース債務の支払による支出のみです。

１５．法人の基本情報

(1)沿革

平成 19 年 4 月　独立行政法人国立博物館と独立行政法人文化財研究所が統合し、独立行政法人国立文化財機構として設立

平成 23 年 10 月　アジア太平洋無形文化遺産研究センターを設置

平成 30 年 7 月　文化財活用センターを設置

令和 2 年 10 月　文化財防災センターを設置

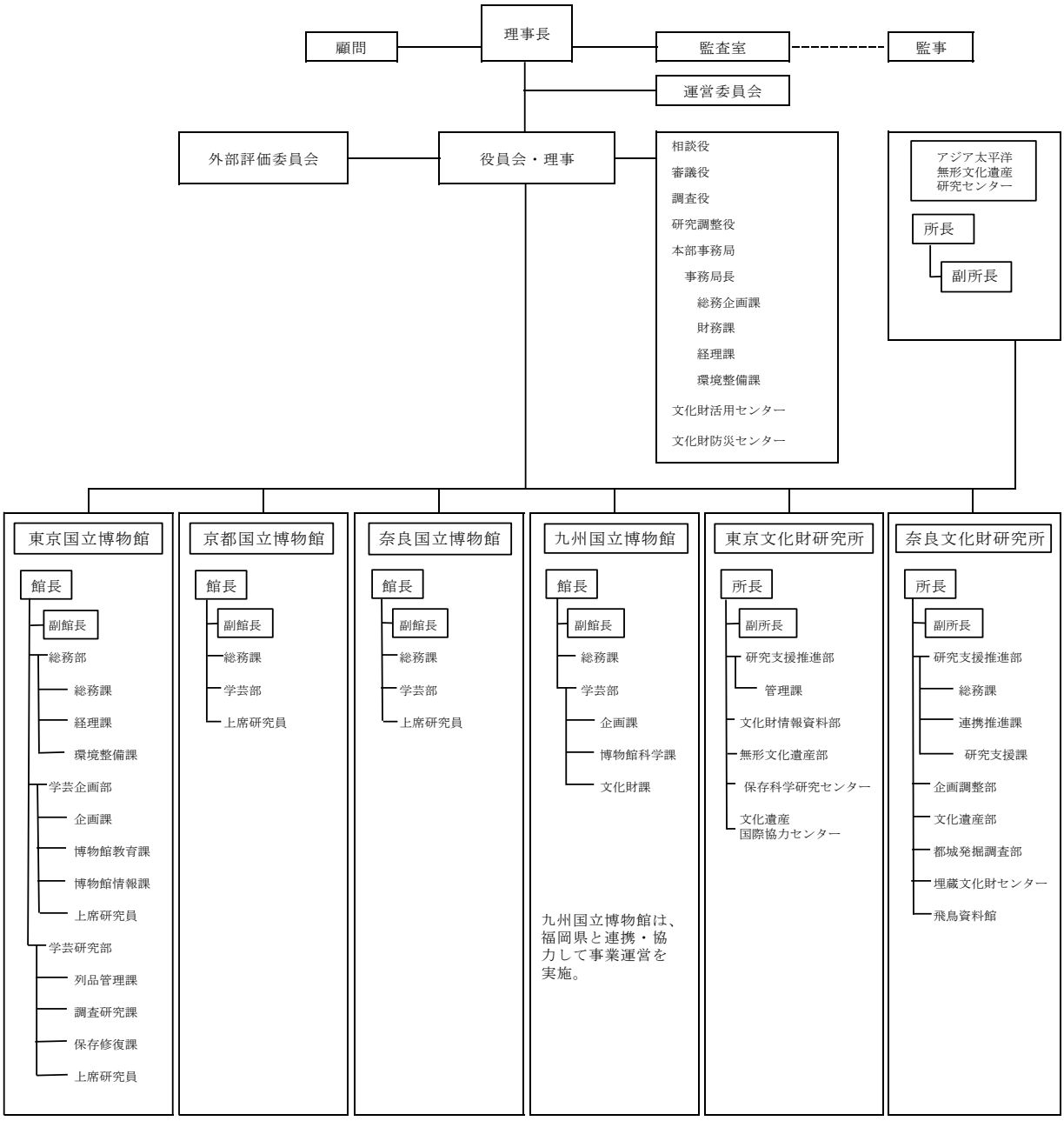
(2)設立に係る根拠法

独立行政法人国立文化財機構法（平成 11 年法律第 178 号）

(3)主務大臣

文部科学大臣（文化庁企画調整課）

(4)組織図（令和 5 年 3 月 31 日現在）



(5)事務所の所在地

事務所名	所在地
（本部）	
本部事務局	東京都台東区上野公園 13－9
本部文化財活用センター	東京都台東区上野公園 13－9
本部文化財防災センター	奈良県奈良市二条町 2－9－1
（支部）	
東京国立博物館	東京都台東区上野公園 13－9
京都国立博物館	京都府京都市東山区茶屋町 527
奈良国立博物館	奈良県奈良市登大路町 50
九州国立博物館	福岡県太宰府市石坂 4－7－2
東京文化財研究所	東京都台東区上野公園 13－43
奈良文化財研究所	奈良県奈良市二条町 2－9－1
アジア太平洋無形文化遺産研究センター	大阪府堺市堺区百舌鳥夕雲町 2 丁（堺市博物館内）

(6)主要な特定関連会社、関連会社及び関連公益法人等の状況

当事業年度は該当ありません。

(7)主要な財務データの経年比較

（単位：百万円）

区　　分	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
資産	229,941	232,417	230,491	228,578	230,064
負債	10,054	10,734	9,528	9,064	9,862
利益剰余金	1,063	928	869	925	1,343
純資産	219,887	221,683	220,963	219,514	220,202
行政コスト	―	18,261	13,807	13,482	14,212
経常費用	11,223	12,307	10,536	10,422	11,379
経常収益	11,284	12,340	10,494	10,669	11,796
当期総利益	62	84	12	304	418
業務活動によるキャッシュ・フロー	2,765	996	996	1,515	1,724
投資活動によるキャッシュ･フロー	-2,485	-1,187	-1,986	-1,583	-948
財務活動によるキャッシュ・フロー	-14	-13	-13	-12	-10
資金期末残高	4,614	4,410	3,407	3,327	4,093

(8)翌事業年度に係る予算、収支計画及び資金計画

【予算】

（単位：百万円）

収　入	金　額	支　出	金　額
運営費交付金	9,577	管理経費	2,101
施設整備費補助金	0	人件費	1,012
展示事業等収入	1,626	一般管理費	1,089
受託収入	801	業務経費	9,102
その他寄附金等	787	人件費	3,101
		事業費	6,001
		施設整備費	0
		受託事業費	801
		その他寄附金等	787
合　計	12,791	合　計	12,791

【収支計画】

（単位：百万円）

区　分	金　額
費用の部	12,145
経常費用	12,145
管理経費	2,057
業務経費	9,448
減価償却費	639
財務費用	1
臨時損失	0
収益の部	12,145
運営費交付金収益	8,582
展示事業等の収入	1,626
受託収入	801
その他寄附金等	497
資産見返負債戻入	639
財務収益	0
臨時利益	0
純利益	0
目的積立金取崩額	0
総利益	0

【資金計画】

（単位：百万円）

区　分	金　額
資金支出	12,791
業務活動による支出	11,506
投資活動による支出	1,268
財務活動による支出	17
資金収入	12,791

業務活動による収入	12,791
運営費交付金による収入	9,577
展示事業等による収入	1,626
受託収入	801
その他寄附金等	787
投資活動による収入	0
施設整備費による収入	0
財務活動による収入	0

詳細につきましては，中期計画及び当事業年度に係る年度計画をご参照ください。
第５期中期計画
https://www.nich.go.jp/wp-content/uploads/2021/04/03chukikeikaku_2021-2025.pdf
令和４年度年度計画
https://www.nich.go.jp/wp-content/uploads/2022/03/04nendokeikaku_2022.pdf

１６．参考情報
(1)その他公表資料等との関係の説明
関連する報告書等

国立文化財機構ＨＰ https://www.nich.go.jp/	東京国立博物館ＨＰ https://www.tnm.jp/	京都国立博物館ＨＰ https://www.kyohaku.go.jp/jp/
奈良国立博物館ＨＰ https://www.narahaku.go.jp/	九州国立博物館ＨＰ https://www.kyuhaku.jp/	東京文化財研究所ＨＰ https://www.tobunken.go.jp/

奈良文化財研究所ＨＰ https://www.nabunken.go.jp/	アジア太平洋無形文化遺産研究センターＨＰ https://www.irci.jp/jp/	文化財活用センターＨＰ https://cpcp.nich.go.jp/
文化財防災センターＨＰ https://ch-drm.nich.go.jp/	国立文化財機構　概要 https://www.nich.go.jp/kiko/nendo/	国立文化財機構　年報 https://www.nich.go.jp/kiko/nendo/

国立文化財機構ロゴマークについて

国立文化財機構発足から 10 年の節目となった平成 29 年度に、ロゴマークを作成しました。コンセプトは「結び」、形は結びヒモとＤＮＡのらせんの形をかけ合わせたデザインです。「結びヒモ」は「人と文化のつながり（文化財）」を、「ＤＮＡ」は「昔と今と未来のつながり（伝承）」をイメージしています。

文化の遺伝子を深く理解し、世界中の人々へ魅力的に伝承する国立文化財機構の姿勢（こころ）を表現しています。

独立行政法人国立文化財機構の

令和４年度における業務の実績に関する評価

令和５年

文 部 科 学 大 臣

独立行政法人国立文化財機構　年度評価　目次

１－１－１	評価の概要	・・・ｐ１
１－１－２	総合評定	・・・ｐ２
１－１－３	項目別評定総括表	・・・ｐ４
１－１－４－１	項目別評定調書（国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項）	・・・ｐ５
	項目別評価調書 No. Ⅰ―１　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信	・・・ｐ５
	項目別評価調書 No. Ⅰ―２　文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施	・・・ｐ41
１－１－４－２	項目別評定調書（業務運営の効率化に関する事項、財務内容の改善に関する事項及びその他業務運営に関する重要事項）	・・・ｐ64
	項目別評価調書 No. Ⅱ　業務運営の効率化に関する事項	・・・ｐ64
	項目別評価調書 No. Ⅲ　財務内容の改善に関する事項	・・・ｐ69
	項目別評価調書 No. Ⅳ　その他の事項	・・・ｐ73

１－１－１　中期目標管理法人　年度評価　評価の概要

１．評価対象に関する事項		
法人名	独立行政法人国立文化財機構	
評価対象事業年度	年度評価	令和４年度
	中期目標期間	令和３年度～令和７年度（第５期）

２．評価の実施者に関する事項				
主務大臣	文部科学大臣			
法人所管部局	文化庁	担当課、責任者	企画調整課、寺本恒昌	
評価点検部局	大臣官房	担当課、責任者	政策課、次田彰	

３．評価の実施に関する事項
令和５年７月　各種事業を担当している国立文化財機構職員との意見交換（随時）を実施した。
令和５年７月 11 日　独立行政法人国立文化財機構の評価等に関する有識者会合（対面、オンライン）で事業内容等について、意見を聴取した。
令和５年７月 21 日　監事に対する意見聴取を書面にて行った。
令和５年７月 27 日　令和４年度の業務の実績に関する自己評価書等について、有識者会合委員に対し書面にて意見聴取を行った。

４．その他評価に関する重要事項
特になし

様式１－１－２　中期目標管理法人　年度評価　総合評定

１．全体の評定						
評定（S、A、B、C、D）	B	（参考）本中期目標期間における過年度の総合評定の状況				
		令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
		B	B			
評定に至った理由	法人全体に対する評価に示すとおり、全体として中期計画に定められたとおり、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。					

２．法人全体に対する評価	
法人全体の評価	法人全体に対する評価に示すとおり、全体として中期計画に定められたとおり、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。
全体の評定を行う上で特に考慮すべき事項	令和３年度ほどではないものの、新型コロナウイルス感染症対策のため、一部の施設ではプログラムの休止などを行っており、各種事業や自己収入への影響について考慮することが必要である。

３．項目別評価における主要な課題、改善事項など	
項目別評定で指摘した課題、改善事項	【有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信】 来館者アンケートについて、回収率・回収数を上げる工夫を継続していただきたい。また、各館で統一の質問項目を作るなど、４館で比較し、業務改善につなげることができるよう工夫を行っていただきたい。（ｐ８参照） 【文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施】 データベースの活用をさらに広めるため、各施設のホームページからのアクセス導線を工夫していただきたい。（ｐ44 参照） 【その他業務運営に関する事項】 ・人材の長期育成や各職員のキャリアの検討が可能となるよう、幹部候補者の育成のためのプログラム（必要な経験・ジョブローテーションの明示）や職員のキャリアモデルを示すよう努めていただきたい。（ｐ73 参照）
その他改善事項	特になし
主務大臣による改善命令を検討すべき事項	特になし

4．その他事項	
監事等からの意見	令和３年度に会計処理に関するコンプライアンス違反事案発覚したことから、会計業務を遂行するにあたってのリスク要因と内部牽制を重点監査項目に設定している。不適切な会計処理を防ぐ内部牽制が的確に機能するような職務の流れ・役割分担ができており、内部牽制は十分に機能している。また、機構全体でコンプライアンス研修を実施し、意識改善を進めた。また、運営費交付金の繰越処理が適切になされているかについても注視している。
その他特記事項	特になし

※　評定区分は以下のとおりとする。（「文部科学省所管の独立行政法人の評価に関する基準（以降「評価基準」とする）」p13）

Ｓ：中期目標管理法人の活動により、全体として中期計画における所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られていると認められる。

Ａ：中期目標管理法人の活動により、全体として中期計画における所期の目標を上回る成果が得られていると認められる。

Ｂ：全体としておおむね中期計画における所期の目標を達成していると認められる。

Ｃ：全体として中期計画における所期の目標を下回っており、改善を要する。

Ｄ：全体として中期計画における所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める。

様式１－１－３　中期目標管理法人　年度評価　項目別評定総括表

中期目標	年度評価 令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	項目別調書№.	備考
Ⅰ．国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項							
１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信	B	B				Ⅰ－１	
２．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施	A	B				Ⅰ－２	

中期目標	年度評価 令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	項目別調書№.	備考
Ⅱ．業務運営の効率化に関する事項							
１．業務改善の取組	B	B				Ⅱ	
２．業務の電子化							
３．予算執行の効率化							
Ⅲ　財務内容の改善に関する事項							
１．自己収入拡大への取組	B	B				Ⅲ	
２．固定的経費の節減							
３．決算情報・セグメント情報の充実等							
４．保有資産の処分							
Ⅳ　その他の事項							
１．内部統制	B	B				Ⅳ	
２．その他（自己評価、情報セキュリティ対策）							
３．施設整備に関する計画							
４．人事に関する計画							

※１　重要度を「高」と設定している項目については、各評語の横に「○」を付す。
※２　難易度を「高」と設定している項目については、各評語に下線を引く。
※３　重点化の対象とした項目については、各標語の横に「重」を付す。
※４　「項目別調書№.」欄には、本評価書の項目別評定調書の項目別調書№.を記載。
※５　評定区分は以下のとおりとする。

Ｓ：中期目標管理法人の業績向上努力により、中期計画における所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られていると認められる（定量的指標の対中期計画値（又は対年度計画値）が 120%以上で、かつ質的に顕著な成果が得られていると認められる場合、又は定量的指標の対中期計画値（又は対年度計画値）が 100%以上で、かつ中期目標において困難度が「高」とされており、かつ質的に顕著な成果が得られていると認められる場合）。

Ａ：中期目標管理法人の業績向上努力により、中期計画における所期の目標を上回る成果が得られていると認められる（定量的指標の対中期計画値（又は対年度計画値）が 120%以上、又は定量的指標の対中期計画値（又は対年度計画値）が 100%以上で、かつ中期目標において困難度が「高」とされている場合）。

Ｂ：中期計画における所期の目標を達成していると認められる（定量的指標においては対中期計画値（又は対年度計画値）の 100%以上）。

Ｃ：中期計画における所期の目標を下回っており、改善を要する（定量的指標においては対中期計画値（又は対年度計画値）の 80%以上 100%未満）。

Ｄ：中期計画における所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める（定量的指標においては対中期計画値（又は対年度計画値）の 80%未満、又は主務大臣が業務運営の改善その他の必要な措置を講ずることを命ずる必要があると認めた場合）。

なお、「Ⅱ．業務運営の効率化に関する事項」、「Ⅲ．財務内容の改善に関する事項」及び「Ⅳ．その他の事項」のうち、内部統制に関する評価等、定性的な指標に基づき評価せざるを得ない場合や、一定の条件を満たすことを目標としている場合など、業務実績を定量的に測定し難い場合には、以下の要領で上記の評定に当てはめることも可能とする。

Ｓ：－

Ａ：難易度を高く設定した目標について、目標の水準を満たしている。

Ｂ：目標の水準を満たしている（「Ａ」に該当する事項を除く。）。

Ｃ：目標の水準を満たしていない（「Ｄ」に該当する事項を除く。）。

Ｄ：目標の水準を満たしておらず、主務大臣が業務運営の改善その他の必要な措置を講ずることを命ずる必要があると認めた場合を含む、抜本的な業務の見直しが必要。

１．当事務及び事業に関する基本情報			
Ⅰ―１	Ⅰ．国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 １．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
業務に関連する政策・施策	１２　文化芸術の振興 １２－４　文化芸術を推進するプラットフォームの形成	当該事業実施に係る根拠（個別法条文など）	独立行政法人国立文化財機構法 第12条 第１項
当該項目の重要度、難易度	―	関連する政策評価・行政事業レビュー	令和５年度行政事業レビュー番号 0466

２．主要な経年データ

①主要なアウトプット（アウトカム）情報

指標等			達成目標	基準値（前中期目標期間最終年度値等）	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
所蔵品件数（件）	（東博）	実績値	―	119,942	120,073	120,812			
	（京博）	実績値	―	8,150	8,279	8,526			
	（奈良博）	実績値	―	1,929	1,930	1,947			
	（九博）	実績値	―	1,412	1,489	1,581			
	（4館計）	実績値	―	131,433	131,771	132,866			
文化財購入費（百万円）	（東博）	実績値	―	200	570	88			
	（京博）	実績値	―	42	300	74			
	（奈良博）	実績値	―	284	0	190			
	（九博）	実績値	―	584	231	487			
	（4館計）	実績値	―	1,110	1,101	839			
寄贈品件数（件）	（東博）	実績値	―	52	81	136			
	（京博）	実績値	―	11	117	239			
	（奈良博）	実績値	―	8	0	5			
	（九博）	実績値	―	84	56	56			
	（4館計）	実績値	―	155	254	436			
寄託品件数（件）	（東博）	実績値	―	2,651	2,651	2,668			
	（京博）	実績値	―	6,547	6,562	6,587			
	（奈良博）	実績値	―	1,988	1,956	1,937			
	（九博）	実績値	―	1,309	1,344	1,400			
	（4館計）	実績値	―	12,495	12,513	12,592			
修理件数（本格修理）（件）	（東博）	実績値	―	44	53	94			
	（京博）	実績値	―	12	9	7			
	（奈良博）	実績値	―	7	3	6			
	（九博）	実績値	―	20	17	20			
	（4館計）	実績値	―	83	82	127			
修理のデータ	（東博）	実績値	―	13	16	24			

②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報）

	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
予算額（千円）	8,409,306	8,578,045			
決算額（千円）	7,988,353	9,152,894			
経常費用（千円）	6,756,725	7,540,304			
経常利益（千円）	205,937	366,750			
行政サービス実施コスト（千円）	―	―			
行政コスト（千円）	9,319,186	9,879,469			
従事人員数（人）	98	100			

※予算額は、４国立博物館の年度当初の予算額を計上している。
※決算額は、４国立博物館の決算額を計上している。
※予算と決算の差額については、法人の積極的な取組により外部資金の獲得や入館料等自己収入実績が予算を上回ったため、収集環境の改善及び展示維持、教育普及活動の充実等に活用した結果生じたもの。
※従事人員数は４国立博物館の全常勤研究職員の人数を計上している。

ベース化件数（件）	（京博）	実績値	―	137	124	160			
	（奈良博）	実績値	―	70	55	53			
	（3館計）	実績値	―	220	195	237			
平常展来館者アンケート満足度（%）	（東博）	実績値	85	85.8	87.9	88.4			
	（京博）	実績値	81	78.5	82.1	85.9			
	（奈良博）	実績値	92	94.2	92.1	92.6			
	（九博）	実績値	76	－	81.0	77.0			
特別展来館者アンケート満足度（%）	（東博）	実績値	86	85.5	91.0	83.9			
	（京博）	実績値	82	73.9	80.5	77.3			
	（奈良博）	実績値	89	91.1	93.3	92.6			
	（九博）	実績値	87	89.2	89.2	89.0			
博物館年間来館者数（人）	（東博）	実績値	―	375,575	836,720	1,247,750			
	（京博）	実績値	―	170,494	132,793	245,489			
	（奈良博）	実績値	―	122,452	253,196	279,613			
	（九博）	実績値	―	131,662	213,153	523,200			
	（4館計）	実績値	―	800,183	1,435,862	2,296,052			
平常展来館者数（人）	（東博）	実績値	―	166,639	211,052	625,235			
	（京博）	実績値	―	28,873	41,291	68,450			
	（奈良博）	実績値	―	43,262	52,178	116,116			
	（九博）	実績値	―	81,230	104,898	239,282			
	（4館計）	実績値	―	320,004	409,419	1,049,083			
特別展来館者数（人）	（東博）	実績値	―	208,936	625,668	622,515			
	（京博）	実績値	―	141,621	91,502	177,039			
	（奈良博）	実績値	―	79,190	201,018	163,497			
	（九博）	実績値	―	50,432	108,255	283,918			
	（4館計）	実績値	―	480,179	1,026,443	1,246,969			
観覧環境に関する来館者アンケート満足度（%）	（東博）	実績値	69	65.4	66.0	62.0			
	（京博）	実績値	64	74.5	67.9	77.3			
	（奈良博）	実績値	74	71.4	68.9	71.6			
	（九博）	実績値	68	－	81.1	77.9			
講演会等のアンケート満足度（%）	（東博）	実績値	88	－	84.85	85.3			
	（京博）	実績値	82	83.4	86.0	84.7			
	（奈良博）	実績値	89	90.4	92.0	88.2			
	（九博）	実績値	86	92.3	92.2	93.8			
講演会回数（回）	（東博）	実績値	―	19	39	32			
	（京博）	実績値	―	23	31	34			
	（奈良博）	実績値	―	12	27	26			
	（九博）	実績値	―	13	50	53			
	（4館計）	実績値	―	67	147	145			
ウェブサイトアクセス件数（件）	（本部）	実績値	298,703	302,279	409,102	379,623			
	（東博）	実績値	7,277,091	7,021,923	11,382,143	10,569,749			
	（京博）	実績値	4,386,804	3,480,100	3,514,043	1,948,061			
	（奈良博）	実績値	1,331,550	1,082,864	1,236,917	1,129,746			
	（九博）	実績値	1,670,014	824,819	977,605	1,430,301			
有形文化財の収集・保管・展示等に係る	（法人の）	実績値	―	2	2	2			
	（東博）	実績値	―	25	27	32			
	（京博）	実績値	―	12	13	16			

調査研究件数(件)	(奈良博)	実績値	―	15	15	14				
	(九博)	実績値	―	18	12	10				
	(4館計)	実績値	―	72	69	74				
文化財の貸与件数(件)	(東博)	実績値	―	806	990	1,075				
	(京博)	実績値	―	286	314	263				
	(奈良博)	実績値	―	107	252	113				
	(九博)	実績値	―	36	132	128				
	(4館計)	実績値	―	1,235	1,688	1,579				
国内外の博物館等への援助・助言等に関する取組状況(件)	(東博)	実績値	―	78	98	122				
	(京博)	実績値	―	137	129	131				
	(奈良博)	実績値	―	50	68	67				
	(九博)	実績値	―	81	77	97				
	(4館計)	実績値	―	346	372	417				
コンテンツの開発及びモデル事業の推進状況(件)	(ぶんかつ)	実績値	―	―	18	29				
国立博物館収蔵品貸与促進事業に関する取組状況(件)	(ぶんかつ)	実績値	―	116	89	113				
ウェブサイトアクセス件数(件)	「e国宝」	実績値	516,808	215,337	650,197	818,665				
	「Colbase」	実績値	61,026	140,553	142,970	250,005				
文化財保存等の相談・助言・支援に関する取組状況(件)	(ぶんかつ)	実績値	―	179	253	191				

3．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標、中期計画、年度計画

主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価
	業務実績	自己評価	
1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信	**＜実績報告書等参照箇所＞** 令和４年自己点検評価報告書 各事項に関する業務実績の詳細は下記のとおり。	以下の詳細からＢ評価とした。	評定　B **＜評定に至った理由＞** 中期計画に定められたとおり、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 自己評価書の「Ｂ」との評価結果が妥当であると確認できたため。 **＜指摘事項、業務運営上の課題及び改善方策＞** ・来館者アンケートについて、回収率・回収数を上げる工夫を継続していただきたい。また、各館で統一の質問項目を作るなど、４館で比較し、業務改善につなげることができるよう工夫を行っていただきたい。 **＜その他事項＞** 有識者からの主な意見は以下のとおり。 ・所蔵品の購入、寄贈、寄託のいずれも順調に増加している。また、収蔵品の管理システムも徐々に改良されている。 ・コロナ禍の影響が残る中、各館の特色を活かした展示を行い、来館者数を大幅に増加させたことを評価。 ・４館とも、幅広い年代層や障がいを持つ方々に対するサービスなど、誰もが楽しめる博物館体験や学習機会を提供するために多様な事業を展開している点を評価したい。特にアウトリーチ活動やオンライン配信には今後も注目したい。 ・文化財活用センターにおける企業との共同研究プロジェクトの成果を「未来の博物館」として公開し、ICTと文化財活用の可能性を具体的に示すことができた実績を高く評価したい。
（１）有形文化財の収集・保管，次代への継承 【指標】 ・有形文化財の収集に関する取組状況（収集件数，文化財購入費，寄贈・寄託品件数） ・有形文化財の修理に関する取組状況（修理件数，修理のデータベース化件数） （目標水準の考え方） ・国立博物館が購入する価値の高い有形文化財は，所有者等との直接交渉が必要であり，予算等との関係からも必ずしも計画どおりに購入できるとは限らない。したがって数値目標は設定せず，中期目標の期間において，上記の取組状況をモニタリングし総合的に	①有形文化財の収集等 **＜主要な業務実績＞** ４館とも、各館の収集方針に沿って文化財の収集を行った。購入及び寄贈・寄託の受入においては、規程に従い、「鑑査会議」（東博・九博）、「陳列品鑑査会」（京博・奈良博）での審議を経て行っている。 ・所蔵品件数 132,866 件（３年度 131,771 件） ４年度新収品 1,097 件（３年度 338 件） （うち購入 56 件、寄贈 436 件、編入 605 件） ・文化財購入費　839 百万円（３年度 1,101 百万円：262 百万円増） ・寄託品件数 12,592 件（３年度　12,513 件：79 件増） ４年度新規寄託 197 件、返却 118 件。 ※各指標の詳細はアウトプット情報（P. ５～６）を参照。 ○購入 ・購入件数　56 件（３年度 41 件）	当機構では、収集にあたっては体系的・通史的にバランスの取れた収蔵品の蓄積を図ることとしており、各館の収集方針に沿って、適時適切な収集を行うこととしている。４年度は、国指定文化財を含む価値の高い文化財を収集し、所蔵品件数は 132,866 件となった。収蔵品の件数は、購入のほか寄贈の受け入れ等により順調に増加している。 購入については、寄附金の活用や積立金により件数・質ともに高水準の実績を上げることができている。 購入のほか、寄贈や寄託により、意義のある作品やこれまで未収蔵だった地域の作品を受け入れるなどコレクションの充実に努めており、今後の活用といった面からも大きな成果を上げることができたといえる。	

評価する。

（東博）
・４年度は「重要文化財　小袖染分綸子地小手毬松楓模様」を購入した。当館には本品と同時期のいわゆる「慶長小袖」と称される江戸時代前期の地無小袖の完品が２例所蔵されるが、いずれも「慶長小袖」の典型例とされる紅・黒紅・白の複雑な抽象模様の染分ではなく、紅色の入っていない作例である。典型例は、本品以外には日本国内に２例（松坂屋コレクション、文化庁、いずれも重要文化財）しかなく、完全な小袖形として伝存する３例のうちの１例を加えられた意義は大きい。
（京博）
・日本を代表する文人画家である池大雅の筆による京都の景観図や、南蛮漆器など日本と海外との交流を示す作品など、館にとって大変意義のある作品を収集方針に沿って効率的に購入、収集することができた。
（奈良博）
・彫刻・絵画・書跡・工芸・考古の全部門に渡りバランス良く作品を収集することができた。中でも、かつて奈良県吉野櫻本坊に安置されていたことが古写真から判明した木造普賢菩薩坐像、木造不動明王及び二童子立像、木造天部立像の購入は、当館の研究を大きく前進させ、展示での活用が期待されるものである。
（九博）
・絵画分野では、南宋時代の正統的な作風を持つ稀少な「宝冠阿弥陀如来像」を購入したほか、歴史資料分野では、近年注目を集める安南国（ベトナム）に関わる新出の文書「安南国清王鄭楹令旨」を収集した。いずれも学術的な価値が高く、後者については今後、重要文化財指定の可能性も考えられるなど、当館がテーマとして掲げる文化交流を語るうえで重要な作例である。

○寄贈
・寄贈件数　436 件（３年度　254 件）

（東博）
・染織分野においては、今まで１件も所蔵が無かった重要無形文化財保持者（人間国宝）の平田郷陽氏の作品を計 58 件、東京における友禅染の歴史をたどる上で貴重な作例 47 件の寄贈を受け入れることができ、４年度において当館のコレクションの充実が大きく図られたとともに、今後の展示活用においても非常に大きな成果であったと考えられる。
（奈良博）
・彫刻部門で寄贈を受けた木造菩薩立像は、明治時代の興福寺廃寺・再興の後に北円堂から寺外に出たもので、「興福寺千体仏」と呼ばれる仏像群の１軀である。平安時代作という作品の評価に加え、伝来の経緯も考えた時、文化財の保存や継承の役割を伝える上でも大きな意義がある。
（九博）
・刀剣分野では、平安時代・12 世紀の太刀４口を含む刀剣 31 件の大型寄贈を受けた。古伯耆・古備前など、当館が収蔵していなかった制作地のものも含まれ、刀剣コレクションの一層の充実を図ることができた。

○寄託
・寄託品件数　197 件（３年度　172 件）

（九博）
・書跡分野では、３年度開催の特別展「最澄と天台宗のすべて」に出陳した広島・西福院の「宝篋印陀羅尼経」（重要文化財）を受託した。平安後期から鎌倉初期に書写された最古級の重要な作例である。陶磁分野では、肥前有田で生産された最上質の染付磁器を中心とするコレクション 49 件を受託した。陶磁史上の観点から、当館が収蔵する古伊万里作品を補完する作品群として貴重である。

文化財の管理、保存においては、各館が所蔵品等に関してデータ整備を進めているほか、各館において、データベースシステムの機能改善・拡張やシステムのリニューアルを行い、業務の効率化を進めるとともに、ユーザーにとっても利便性の向上を図ることができた。
また、収蔵品等の生物被害等を防止するため、IPM（総合的有害生物管理）を徹底し、収蔵品の保存カルテを作成している。

修理については、ファンドレイジングにより得られた寄附金等も活用しながら、緊急性の高い収蔵品から計画的に修理を行っている。修理に合わせて行う各種調査の結果は修理事業に寄与している。また、修理の成果をまとめた修理報告書は、東博においては４年度から電子書籍化している。

＜課題と対応＞

４館とも購入のほか寄贈・寄託等によりコレクションの充実に努めている。博物館が担うべき文化財保存の役割を果たしつつ、文化財の調査を通じて所蔵者との良好な関係を継続し、博物館における展示及び調査研究の充実に繋げており、今後も文化財の情報収集、調査研究の成果を踏まえて、適時適切な収集を行うとともに、活用を図る。
修理施設では、新型コロナウイルスへの対策と施設の運営（公開）の両立が必要であった。奈良博では感染対策のため人数制限をした上で、修理所への理解を深める機会の提供（一般公開）を継続した。また、修理に用いる道具類の部品の生産終了や経年劣化のため、抜本的な修理やメンテナンスが課題となっている。

・有形文化財は，その状態に応じて，適切な時期に適切な処置を施さなければ，その価値を将来にわたって継承することができないことから修理等に関する方針を設け，それにしたがって計画的に取り組むべきである。
・有形文化財に当たっては，専門的かつ高度な技術を要する外部の修復業者等との契約が必要であるが，予算措置の状況や相手方とのスケジュールの都合上，計画通りに実施できるとは限らない。したがって数値目標は設定せず，中期目標の期間において，上記の取組状況をモニタリングし総合的に評価する。
〈想定される外部要因〉
・有形文化財の修理等には，一定のまとまった予算措置が必要であり，その状況によって計画を変更せざるを得ないことがある。これらの事情を考慮し，評価においては適切に対応するものとする。

②有形文化財の管理・保存・修理等
＜主要な業務実績＞
○有形文化財の管理
（４館）
・定期的に寄託品の所在確認作業を行った。
・所蔵品等に関し、新規のデジタル撮影、データ整備を推進した。
（東博）
・「protoDB：列品管理プロトタイプデータベース」（学芸業務支援システム）における展示案機能を拡張し、２ヶ月以内に展示が予定されている作品の抽出を可能とした。これにより、「ColBase」や「トーハクなび」において、展示中の作品については画像を提供できるようになった。
（京博）
・旧収蔵品管理システムの課題と改善点をふまえ、当該システムをリニューアルした。旧システムは、画像や展示計画の登録、管理に関する機能を改修によって加えており、細かな不具合が頻発していた。新システムは、旧システムで追加した機能だけではなく、題箋登録、管理の機能を導入時から実装することで、現状の業務に寄り添ったシステムにリニューアルした。
（奈良博）
・写真情報システムの利便性を向上するため、文字種・文字数の制限解除など一部機能を改善した。また、画像利用タブ内の書式を、館内組織の実態に沿うように修正し、使いやすさ向上と効率化を図った。
（九博）
・文化財情報を管理する業務システムを点検し、入力規則のチェック機能の強化、画面表示や出力帳票の最適化等の改善を実施した。修理履歴データベースにおいては、修理文化財の一覧表を年度単位で出力する機能を実装し、修理報告書の作成作業を効率化した。

○有形文化財の保存

（４館）

・収蔵品等の生物被害等を防止するため、IPM（総合的有害生物管理）の徹底を図った。また、収蔵品の保存カルテを作成した。

（東博）

・ハンドリフトを用いた博物館施設内輸送で生じる振動を計測した結果を解析し、施設内輸送工程の最適化について検証を行い、文化財輸送環境の保全について、博物館の日常業務として高い頻度で発生する施設内輸送に際して、走行経路の選定、輸送機関上の振動計測から輸送作業工程の評価に至るまで一貫した調査研究を実施することができた。

（京博）

・包括的な文化財保存環境の管理体制を構築するべく、展示室や各収蔵施設で一体的な温湿度環境モニタリング、歩行性昆虫類生息調査、二酸化炭素濃度測定、空気質調査等を通年で実施しており、各施設の施設整備関連部署とも緊密に連携できた。

（奈良博）

・調湿装置や調湿剤を用いて展示ケース内湿度の安定化処置を行い、無線式温湿度データロガーなどでそれらの効果について 24 時間のモニタリングを実施した。４年度は、継続した調査の実施に加え、３年度より温湿度の測定箇所を増やし、より詳細なデータ蓄積を行った。

（九博）

・展示室、収蔵庫等の温湿度データを連続計測し、蓄積したデータを活用し展示・収蔵環境の保全に努めている。粘着トラップを館内全域に設置し毎月交換・観察することで、昆虫の侵入、棲息状況を把握し文化財害虫に対して早期に対処することができた。また、館内に搬入される文化財及び資材の生物処理を行うことで、収蔵品等への生物被害を未然に防ぐことができた。地元 NPO 法人やボランティアと連携した IPM 活動の体制を維持している。

○有形文化財の修理

４館とも、各館の修理計画に基づいて収蔵品の修理を行った。

・修理件数（本格修理）　127 件
・修理のデータベース化件数　237 件
　詳細はアウトプット情報（P. ５～６）を参照。

（４館）

・緊急性の高い収蔵品等から計画的に修理を実施した。

（東博）

・保存修復課の修理技術者を中心に、館内で館蔵品、寄託品の本格修理の応急修理を行った。必要に応じたＸ線 CT の活用により作品の状態や処置が必要な箇所を把握しつつ、作品の劣化予防のために 392 件の応急修理に着手し、94 件の本格修理を実施した。
・重要文化財「小袖 白綾地秋草模様（冬木小袖）」（絹製、

尾形光琳筆、江戸時代・18 世紀）は文化財活用センター文化財修理ファンドレイジング事業からの寄附金により修理を実施した（３年１月着工、工期 27 か月）。重要文化財「臨時全国宝物調査関係資料」のうち宝物目録類の一部について文化財保存活用基金による本格修理に着手した。
・データベース構築のために、３年度に修理が完了した 24 件の修理内容についてデジタル化を実施し、その成果をもとに『東京国立博物館文化財修理報告書 23』を刊行した。当該修理報告書は４年度から紙媒体から電子書籍へと移行し、より多くの国内外に発信した。
・中長期的計画策定のため、国宝・重要文化財 43 件を含む 70 件の作品を、新たに鑑査会議を経た本格修理候補作品としてリスト化した。

（京博）

・館蔵品中、緊急性の高い、絵画３件、彫刻１件、金工３件の本格修理及び応急修理を行った。特に懸案であった「紙本墨画布袋図（善阿印） Ａ甲 673、附 紙本墨画布袋図 探幽筆」の本格修理をすることができた。
・構造調査では、一例として、彫刻作品に対してＸ線 CT を使用し、表面の金箔・真鍮箔の塗膜構造、使用範囲の解明、修理の先後関係の確認など、解体時の適切な作業に関する情報を取得し、それを提供することができた。
・非破壊的な材料調査では、主として各工房からの依頼により、絵画資料の染料・顔料調査を実施し、彩色材料データの蓄積を図った。Ｘ線を使用した顔料調査では、絹本の作品について、表・裏彩色ともに調査を依頼される事例が増えてきており、可視光・赤外線を使用した染料調査も実施した。また、４年度より新たに導入したＸ線回折装置で彩色材料調査を実施し、修理方法決定の指針策定に貢献できた。

（奈良博）

・館蔵品本格修理６件のうち、新規５件の修理を行った。内訳 絵画３件、彫刻１件、考古１件、書跡１件。
・寄託所蔵者と協議を行い、寄託品 1 件について当館の推薦による財団助成と寄附金を受けて修理を実施した。
・文化財修理所で修理を行っている大型木造彫刻のＸ線撮影を行い体幹部分の構造の調査を行った。また、修理前の作品頭部のＸ線 CT 撮影調査を行って、眼の部分に用いられている技法と現状を調査して修理方針の決定に寄与した。

（九博）

・館蔵品を中心に損傷状況や展示計画等を勘案し、優先順位の高い文化財 20 件について本格修理を実施した。また、損傷が軽微な文化財６件について応急修理を実施した。
・重要文化財「対馬宗家関係資料」等の紙を素材とする文化財９件の本格修理に伴い、本紙剥落片を利用して紙質調査を行い、補修紙作成に役立て、作品の新たな学術情報として記録した。
・革包黒漆塗打刀拵（刀（銘藤原鎮清）の付属品）のＸ線

		CT による構造調査など７件の科学調査を行い、修理方針の策定等に役立てた。 ○文化財修理施設等の運営 （京博） ・新型コロナウイルス対策を実施のうえで、文化財保存修理所運営委員会を２年ぶりに対面形式にて開催した。 （奈良博） ・文化財保存修理所の施設や事業の概要を紹介する案内パンフレットを、修理所一般公開、寄附者へ修理に関する解説を行った際などに配布した。 ・５年１月 12 日に文化財保存修理所特別公開を開催し、修理の取組みや修理所各工房の活動を広く知ってもらう機会とした。新型コロナウイルス感染防止のため、参加者を 20 名にして同日に３回実施し、報道機関を含む 69 名の参加があった。 （九博） ・文化財保存修復施設で修理した文化財 63 件中 52 件、８割以上が九州山口地区所在の文化財であり、九州山口地区における文化財修理の拠点として確実に実績を蓄積した。修理文化財の中には、熊本県の球磨川水害による被災文化財を含む。		
	（２）展覧事業 【指標】 ・平常展及び特別展の来館者アンケート満足度（満足度が前中期目標の期間と同程度の水準を維持） 【関連指標】 ・平常展及び特別展の来館者数 〈目標水準の考え方〉 ・来館者アンケートは，前中期目標の期間においても実施しているが，展示に関する満足度については５段階評価で上位２位以上を選択した割合とする。 ・平常展は，国立博物館が収蔵等する有形文化財の特徴に基づく展示を行うこととし，特別展の企画は，国立博物館が継続的に行っている調査研究の成果や，諸外国との国際文化交流の計画に関係しており，定性的又は定量的な指標を示すことが困難であるため，中期目標の期間において，来館者数に関する目標は，モニタリングすることとする。 〈想定される外部要因〉	**＜主要な業務実績＞** ・博物館の年間総来館者数 ４年度合計 2,296,052 人 ※４年度 1,435,862 人（約 60％増） 内訳はアウトプット情報（P. ６）を参照 ①平常展 ・平常展の来館者アンケート満足度 東京国立博物館　88.4％（目標値 85％） 京都国立博物館　85.9％（目標値 81％） 奈良国立博物館　92.6％（目標値 92％） 九州国立博物館　77.0％（目標値 76％） ・平常展来館者数　1,049,083 人 （４館） ・定期的な陳列替を実施し、テーマ性を持った特集陳列等を随時開催し平常展の充実に努めた。 ・満足度調査等を実施し、集計結果をもとに環境改善に努めた。 （東博） ・26 件（３年度からの継続特集１件を含む）のテーマ性をもった特集展示をすべて実施することができた。特に、東京国立博物館創立 150 年記念と銘打った特集展示を、年間を通して開催し、展示にあたっては記念ロゴを積極的に活用するなど、創立 150 年の節目にふさわしい祝祭性の高い空間構成がなされ、来館者からもおおむね好評を博した。なお、４月１日から総合文化展入館のための事前予約を休止したが、特段の混雑や混乱もなく、快適な鑑賞空間を維持・提供できた。	**＜評定と根拠＞** ４館の年間総来館者数は合計 2,296,052 人で、３年度合計 1,435,862 人に比べて約 60％増加した。新型コロナウイルスの感染拡大による影響が続く中ではあったが、各館において質の高い展示を数多く実施し、来館者の満足度は概ね高かった。新型コロナウイルスの感染拡大防止の取組みを徹底しつつ、多言語化等・開館時間の延長等の取組みを行い、外国人来館者を含む来館者の安心・安全の確保及びニーズに応えたサービスが提供できたといえる。 ・各館の特色を十分に活かし、テーマ別、時代順等の展示を行っている。 ・展示替については、全体的な計画の元で適切に行っている。また、テーマ性を持った特集陳列等を随時開催するなど充実に努めている。 ・平常展来館者のアンケート満足度については、目標値を上回っていることから、各館ともに細やかなサービスの提供や指摘事項の改善を行うことにより満足度が高い水準で維持できていると考えられる。 東博においては、特に 150 周年の節目にふさわしく、館の歴史を振り返る取組みや、取組みの過程で明らかとなった知見を展示として示すことができたことは大きな成果と位置づけられる。	

・展覧会については，工事等の事情が生じた場合は，休館等せざるを得ないことがある。また，新型コロナウイルス感染症等による影響など，これらの事情を考慮し，評価においては適切に対応するものとする。	（京博） ・特集展示「新発見！蕪村の「奥の細道図巻」」は、与謝蕪村による『おくのほそ道』の全文を書写し関連する絵を添えた作品の中で、もっとも早期に制作された作品が新発見されたため、当初年度計画には記載していなかったが、急遽開催した。初公開となった新発見作品と併せて、関連する所蔵品も展示した。また、特集展示「雛まつりと人形」は、華やかな御殿飾り雛へと至る雛人形の変遷や、衣裳人形を通してみる人々の交流や旅の様相を中心に示しつつ、さまざまな京人形を展示した。 （奈良博） ・なら仏像館における名品展「珠玉の仏たち」では、常時 90 件以上の仏像を公開した。令和５年３月 21 日からは、特別公開として、修理が完了した奈良・不退寺本尊の重要文化財 聖観音菩薩立像を公開するとともに、かつて本像と対をなし、江戸時代には不退寺に安置されていた文化庁所蔵の観音菩薩像とあわせて展示した。また、わくわくびじゅつギャラリー「はっけん！ほとけさまのかたち」では、仏像等の作品を 31 件公開し、仏像の主な４つのグループ「如来」「菩薩」「明王」「天」のそれぞれの形の特徴と、その見分け方を子ども向けにわかりやすく紹介した。子どもが仏像等の文化財に親しめることを目的に、ワークショップやハンズオン展示など様々な教育普及事業を実践した。 （九博） ・特集展示「種子島ー風と波が育んだ歴史ー」は、鉄砲伝来の地としての評価だけでなく、先史以来の出土品や島内外に伝来した文化財を通じて、多角的に文化交流史上に種子島を位置付けた。ロケット打ち上げ基地と関連して、はやぶさ２やＨⅡＡロケットの精巧な模型を展示し、主たる来館者層以外への訴求を図った。図録も刊行した。また、展示室内５か所のデジタルサイネージで、現在陳列中の展示品に加えて、今後の展示企画の情報も公開しお客様へのサービス向上に努めた。 ②特別展 ・特別展来館者アンケート満足度 東京国立博物館　83.9％（目標値 86％） 京都国立博物館　77.3％（目標値 82％） 奈良国立博物館　92.6％（目標値 89％） 九州国立博物館　89.0％（目標値 86％） ・特別展来館者数　1,246,969 人 （東博） ・特別展「空也上人と六波羅蜜寺」展は、本年は空也上人没後 1050 年にあたり、空也上人立像を公開するほか、空也上人のもとで造られた四天王立像、定朝作とされる地蔵菩薩立像、運慶作の地蔵菩薩坐像など、平安から鎌倉時代の彫刻の名品を展示し、六波羅蜜寺の歴史と美術を通して、信仰の厚みにも思いをはせる内容とした。なお、本展の終了後、六波羅蜜寺では新しい宝物館	京博においては、作品の新発見に伴い急遽開催した特集展示「新発見！蕪村の「奥の細道図巻」」が多くのメディアに取り上げられ、関心を集めることができた。 奈良博においては、様々な来館者層が仏教美術について理解を深め、楽しめるように、毎年恒例の名品展やお水取り展、新たに修理された文化財展に加え、親子向けの特別陳列を３年ぶりに開催するなど硬軟織り交ぜた多彩な特集展示等を実施し、来館者数は３年度に比べ倍増した。 九博においては、種子島ロケット打ち上げ基地と関連したはやぶさ２やＨⅡＡロケットの精巧な模型展示など、自由な発想に基づく斬新な展示企画を打ち出し、平常展に関心の低かった若年層を含む新規顧客層の取り込みに成功したこともあり、来館者数は３年度から倍増した。 東博においては、展覧会によっては新型コロナウイルスの拡大防止策として日時指定制とせざるを得ない状況であったが、開館時間の延長も行い、多くの来館者を迎えることができた。また、「空也上人と六波羅蜜寺」展では空也上人立像をはじめとする平安から鎌倉時代の彫刻の名品を展示することで、空也上人と六波羅蜜寺に関する高品質な展示を行うことができ、学術的にも意義の深いものとなっ	

が開館し、当館研究員は返却と同時に展示指導を行った。作品件数 17 件（うち重要文化財 10 件）、来館者数 146,085 人、満足度　86.4%
・東京国立博物館創立 150 年記念特別展「国宝 東京国立博物館のすべて」では、令和４年は当館の創立 150 年の節目に当たる年であり、これを記念して、約 12 万件という膨大な所蔵品の中から国宝 89 件すべてを含む名品と、当館の歴史を物語る関連資料を紹介した。展覧会は２部で構成し、第１部「東京国立博物館の国宝」では当館が所蔵するすべての国宝を公開し、第２部「東京国立博物館の 150 年」では明治から令和に至る博物館 150 年の歩みを３期に分けて展観した。作品件数 150 件（うち国宝 89 件、重要文化財 27 件）、来館者数　351,153 人、満足度　91.9%
・「150 年後の国宝展―ワタシの宝物、ミライの宝物」では、今から 150 年後の西暦 2172 年に伝え残していきたい国宝候補を、その背景のストーリーとともに展示するものである。一般部門及び企業部門から構成した。一般部門は「ワタシの宝物、ミライの宝物」というテーマで一般公募を行い、その中から当館が選んだものを展示した。企業部門については、展覧会に出展協力いただいた企業と、当館にてどのような国宝候補が適当かを協議の上、展示を行った。作品件数　一般公募 67 件、出展協力企業展示 31 件、来館者数 178,525 人、満足度 92.1%
（京博）
・特別展「河内長野の霊地 観心寺と金剛寺―真言密教と南朝の遺産―」では、大阪・河内長野市の真言宗寺院である観心寺と金剛寺の文化財を特集した。両寺は高野山へつづく複数の街道が合流する地域に位置し、南北朝時代には後村上天皇の行宮となった。そのため、古代から近世にかけての密教美術のほか、武将・楠木正成をはじめとする南朝ゆかりの遺品が数多く伝えられている。当館が平成 28 年度から令和元年度にかけて実施した文化財悉皆調査（科研）の成果公開を兼ね、すでに知られた名品に新出作品を加えて構成することによって歴史を通覧し、文化財や寺、ひいては地域の歴史的・文化的な意義を発信した。作品件数 130 件（うち国宝４件、重要文化財 31 件、重要美術品３件）、来館者数 28,211 人、満足度　83.9%
（奈良博）
・特別展の記述式アンケートの回答者に、かつて作成して在庫となっていたノベルティを贈呈するという方策を立てることで、３年度の回収率が 0.6%であったところ、1.6%まで向上させることができた。
・特別展「大安寺のすべて―天平のみほとけと祈り―」では、わが国最初の天皇発願の寺を原点とし、平城京に壮大な寺地と伽藍を構えた大安寺の歴史を、寺宝、関連作品、発掘調査成果など様々な角度から紹介した。全５章からなり、大安寺の前史、奈良時代の大安寺の威容、失われた大安寺釈迦如来の実像、大安寺を行き交う僧侶と信仰、中世以降の大安寺という様々な観点から、種々

た。
東京国立博物館創立 150 年記念特別展「国宝 東京国立博物館のすべて」では、作品解説に各分野における最新の調査研究成果を反映させるとともに、伝来や収蔵時期、修理記録などを併記することで、当館の文化財コレクションの成り立ち及び博物館が果たす社会的役割を紹介した。また、新型コロナウイルス感染拡大予防のため日時指定を導入したが、来館者満足度は非常に高かった。予約できなかった観覧希望者の要望を受け、館員一同が作品の保存や運営にかかる検討を行った上で会期を１週間延長するという対応に結び付けることができた。本展は、当館のみならず日本の博物館の来し方行く末の大きな道標になるものといえる。国宝に代表される名品と 150 年の歴史を組み合わせて、当館の全体像を多角的に紹介したことの学術的意義は非常に大きいと考える。
長い歴史の中で生まれた文化・芸術をアーカイブする装置である博物館は、過去を今の人たちに伝えることが大きな使命である。東博の「150 年後の国宝展―ワタシの宝物、ミライの宝物」は、そのような使命とは若干異なり、過去を保存する装置である博物館が未来を見つめることを意図したプロジェクトであったが、文化財の未来を考える機会を提供できたことは大きな成果といえる。

京博の特別展「河内長野の霊地 観心寺と金剛寺―真言密教と南朝の遺産―」は、研究員が主体的・長期的に寺院の文化財悉皆調査を行い、その成果を一般に還元するという順序で実施したもので、文化財保護・研究・情報発信を使命とする国立博物館にとってひとつの理想的な形であったといえる。10 年ぶりの自主予算による特別展であったが、各部署の連携によって円滑に準備を進めることができた。運営面でも新型コロナウイルスの感染防止策を行った上で、夜間開館を実施し、来館者の安全に配慮した形で展覧会を開催することができた。来館者数は目標 30,000 人のところ、28,211 人と目標値にわずかに及ばなかったが、図録が売り切れとなるなど来場者の関心が観覧により深まったと考えられる。

奈良博においては、来館者へのアンケート調査において、回答者にノベルティを贈呈するという方策を立て、回答率の向上に努めた。特別展ごとにノベルティの種類を変えることで、高い回収率を維持することができた。

九博においては、特別展「北斎」で、長年多くの成果が積み重ねられてきた浮世絵研究について、文化交流の観点も交えて北斎の作品研究の成果を提示し、学術的にも非常に意義が高い展示とすることができた。また日本初公開の「日新除魔図」を写真

の文化財を織り交ぜて、大安寺の歴史上の存在感を感じさせる内容とした。また、大安寺制作の最新の天平伽藍 CG 映像を公開し、往時の伽藍の姿とゆかりの文化財とを関連付けて理解を促進する空間作りを行った。作品件数 124 件（うち国宝 10 件、重要文化財 50 件）、来館者数 32,971 人、満足度 96.4%
（九博）
・特別展「北斎」は、監修に大久保純一氏（国立歴史民俗博物館教授）を迎え、当館蔵の重要文化財「日新除魔図」と関わりの深い晩年作と肉筆画を積極的に紹介した。平成 29 年の坂本五郎氏による当館への寄贈以前は、研究者でも実見が困難であった重要文化財「日新除魔図」（宮本家本）の全 219 枚を、日本で初めて一般公開し、今後の北斎研究に大きく資する展覧会となった。また、（公財）アダチ伝統木版画技術保存財団より資料提供をうけ、「浮世絵版画（錦絵）の制作工程」のコーナーで版木や彫り・摺りの道具を展示した。モニターで動画「凱風快晴 摺りの工程」を上映し、浮世絵版画が出来るまでの製作工程を具体的に紹介した。作品件数 130 件（うち重要文化財２件）、来館者数 135,955 人、満足度 88.4%
・特別展「ポンペイ」では、数多くの出土品を所有するナポリ国立考古学博物館の全面協力のもと 125 件の優品を展示した。当時の都市生活を生き生きと蘇らせると同時に、社会構造やインフラ、進んだ科学技術など、古代ローマ繁栄期の高度な文明を紹介するとともに、当時の邸宅を飾ったフレスコ画やモザイク画、神々の彫像、高度な技術で制作された工芸品、様々な職種の道具類、パンなどの食料など多彩な作品を、「古代へのタイムトリップ」を感じる空間構成で展示し、臨場感を高めた。また、視覚障がい者に展示を楽しんでいただく企画「視覚障がい者とつくる対話型鑑賞」を実施し、さらに当館実施の講座では初めての試みとして、リレー講座の一部に手話通訳付き解説を導入した。作品件数　125 件、来館者数 79,919 人、満足度 90.8%

③観覧環境の向上
・観覧環境に関する来館者アンケート満足度
東京国立博物館　　62.0%（目標値 69%）
京都国立博物館　　77.3%（目標値 64%）
奈良国立博物館　　71.6%（目標値 74%）
九州国立博物館　　77.9%（目標値 68%）

（４館）
・施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化を推進し、高齢者、障がい者、外国人等の利用に配慮した快適な観覧環境を提供した。
・日本博物館協会ガイドラインに従い、新型コロナウイルスの感染拡大予防策として、館内の消毒や換気の実施、従業員の健康管理及び手指消毒並びにマスク着用などの基本的な対策を徹底した。
・多言語による案内パンフレットの配布を行った。

撮影可としたこと等が来館者に評価され、来館者の満足度が高まったと考えられる。また、特別展「ポンペイ」では九博の展示室の特性を生かした空間構成とし、照明や動線計画を工夫したことで来館者に古代ローマ都市生活への没入感を与えることができ、来館者に高い満足度を与えることができた。Twitter 等の SNS における広報を通して新規顧客層を開拓に努めたこともあり、来館者数の伸びにつながったと考えられる。

各館において、多言語化やバリアフリー化等を進め、多様な来館者へ快適な観覧環境を提供できるよう努めている。また、新型コロナウイルスの拡大防止のため、日本博物館協会のガイドラインに沿った感染対策を実施した。

東博においては、より快適な観覧環境を形成するため、トーハク新時代プランに基づき、展示室内の展示ケース・照明設備・内装などの整備を実施した。

		・平常展の題箋及び解説等について、４言語（日、英、中、韓）にて情報提供を行った。 （東博） ・150 周年事業の一環として、新たに漆の素材や技法のわかる触察ボードの作成を行った。また、感覚過敏の来館者のために感覚刺激の強い場所などを表す「センサリーマップ」を作成してウェブサイトで公開し、「トーハクなび」においても新たに「休息スポット」を設定し、公開した。 ・より快適な観覧環境を構築するため、本館特別１室・２室の改修、14 室中央行灯ケースの更新を実施した。本館特別１室展示室改修工事の展示ケース製作の製作監理、本館特別１室、14 室の独立ケースの設計及び製作管理を行った。 ・本館２階「日本美術の流れ」の３言語（英、中、韓）のパンフレットの PDF 版をウェブサイトで公開した。紙媒体での配布から、来館者自身の端末でのダウンロード、閲覧にシフトしたことで、より多くのニーズにこたえられるようになった。 ・表慶館にて開催した「150 年後の国宝展」では、企業との連携により、館蔵品と企業の商品等がコラボレーションを行った展覧会オリジナルグッズを開発し、販売を行った。 ・特別展「国宝 東京国立博物館のすべて」では、日時指定制による入館者数を制限した運営を行っていたが、日時指定枠については連日完売となり、多くの来館者から観覧機会を求める意見を頂戴した。そこで文化財保護の観点から展示作品の状態等を考慮した上で、開館時間の延長、休館日の臨時開館、１週間の会期延長を行った。特に１週間の会期延長については、来館者サービスの向上につながる対応を行ったと言える。 （京博） ・時間ごとの来館者数データに基づき、３年度に引き続き開館時間を 30 分前倒しする早朝開館を実施した。また、特別展「河内長野の寺地 観心寺と金剛寺―真言密教と南朝の遺産―」、特別展「京に生きる文化 茶の湯」では金・土曜日の開館時間を 20 時までとする夜間開館を実施し、展示室内の混雑緩和を避けることができ、良好な観覧環境を提供することができた。 ・収蔵品及び公式キャラクター・トラりんをモチーフにして、野帳、京都の伝統産業である京蝋燭、水引を用いたオリジナルグッズの開発を行った。 （奈良博） ・３年度実施したクラウドファンディングによる寄附を基に、庭園内を安心安全に周遊できるルートの整備、老朽化した茶室（八窓庵）の屋根及び外壁の整備、その他に崩れかけていた池の護岸の整備を行った。整備後には寄附者を招待しお披露目式を行った。また、特に来館者の多い正倉院展の会期に合わせて一般公開も行った。 ・新型コロナウイルスの感染拡大の影響で２年度は実施を見送り、３年度の半ばから再開した毎週土曜日の夜	４年度は本館特別１室展示室改修工事の展示ケース製作の製作監理、本館特別１室、14 室の独立ケースの設計及び製作管理、本館１室、本館特別１室のコーナー解説・グラフィックパネルについてデジタルサイネージを導入したことで鑑賞環境が向上した。 京博においては、来館者への満足度調査、各運営スタッフとの情報交換により、館に求められるニーズを把握し、館運営の見直し、改善を図った。また、早期開館や夜間開館を実施するなど、開館時間を柔軟に設定し、混雑緩和や観覧機会の拡大に努めることができた。 奈良博においては、クラウドファンディングを活用して、庭園の整備及びバリアフリー化を実現した。老朽化していた庭園の整備によって、多様な来館者へ配慮した観覧環境の提供ができるようになった点は高く評価できる。また、新たな客層、特に若年層の掘り起こしを行うことを目的として、公式キャラクターグッズを追加制作して集客を図っている。 九博においては、ナビレンスについて複数のメディアで取り上げられた。その中で「誰もが楽しめる博物館に」といった、社会包摂の新たな実現手段のひとつであることや、視覚や聴覚に障がいのある来館者、また外国語ユーザーなどにも博物館を楽しめる手助けとなるツールとして高く評価できるとして紹介された。 **＜課題と対応＞** 今後も、高齢者・障がい者だけでなく、文化・言語・国籍・年齢・性別などの違いにかかわらず、できるだけ多くの人が利用できることを目指した設備整備を図る。レストラン・カフェが休店中の九博では、キッチンカーを導入して来館者サービスに努めたところであるが、５年度からレストラン・カフェの営業を再開する見込みである。	

		間開館（17 時～20 時）を４年度も引き続き実施した。また、周辺行事に合わせたライトアップや夜間開館での協力も実施した。 ・公式キャラクターグッズは、新たにトートバッグ、フレークシール、メモ帳、クリアファイル、マグネット、缶バッチの６種類作成した。 （九博） ・既存の音声ガイドを廃止し、視覚及び聴覚障がい者や外国人を含め誰でも利用できるスマートフォンアプリ「ナビレンス」を利用した音声・テキストによる情報提供を開始した。このアプリは作品解説や経路案内も可能にも活用でき、展示室をはじめ館内外各所に専用タグを設置した。手話通訳による解説動画約 30 件を制作した。 ・開館以来、恒例となっている元旦からの開館を本年も実施した。特別展開催期間の金・土曜日に夜間開館を実施した。特別展「北斎」では、多くの来館者に対応するため、６月５日（日）と６月 12 日（日）は開館時間を１時間延長した。特別展「ポンペイ」では 11 月 28 日（月）を臨時開館日とした。 ・４年度もレストランとカフェの休店が続いたが、営業再開に向け、耐用年数が経過している施設設備の改修を行った。また、５年度からの再開に向け、レストラン・カフェ運営委託事業者を選定した。また、休店中の来館者サービスのため、５月からはキッチンカーを導入し、軽食や飲み物の販売提供を行った。		
（３）教育・普及活動等 【指標】 ・講演会等のアンケート（満足度が前中期目標の期間と同程度の水準を維持） ・ウェブサイトのアクセス件数（前中期目標の期間の実績以上） 【関連指標】 ・講演会等の開催回数 〈目標水準の考え方〉 ・講演会等は，平常展及び特別展の内容に応じて企画するが，「新しい生活様式」にも配慮した講演会等の開催が必要であることから，中期目標の期間において，開催回数に関する目標は，モニタリングすることとする。	**＜主要な業務実績＞** ・講演会の満足度アンケート満足度 東京国立博物館　85.3%（目標値 88%） 京都国立博物館　84.7%（目標値 82%） 奈良国立博物館　88.2%（目標値 89%） 九州国立博物館　93.8%（目標値 86%） ・講演会開催回数 東京国立博物館　32 回 京都国立博物館　34 回 奈良国立博物館　26 回 九州国立博物館　53 回 ・ウェブサイトのアクセス件数 機構本部　379,623 件（目標値　298,703 件） 東京国立博物館　10,569,749 件（目標値 7,277,091 件） 京都国立博物館※　1,948,061 件（目標値 4,386,804 件） 奈良国立博物館　1,129,746 件（目標値 1,331,550 件） 九州国立博物館　1,430,301 件（目標値 1,670,014 件） ※各指標の詳細はアウトプット情報（P. 6）を参照 ※京博においてはウェブリニューアルを機にユーザビリティ向上のため解析システムを変更した。それに伴いアクセス件数の数値上の実績はこれまでより大幅に下回った。ウェブサイトのアクセス件数については、５年度に目	**＜評定と根拠＞** 各館において、講座・講演会をはじめ、ハンズオンコーナーの新設や、体験型プログラムなど多様なプログラムを提供した。コロナ禍への対応として、各館が工夫をしながら積極的にオンライン（リモート）の取組みを試行してきた。結果として、地理的な制約がなくなり遠隔地へと視聴対象者を広げることができ、将来へとつながる重要な機会となった。 企業との連携については、共同企画や広報協力を実施し、博物館の認知度向上につなげている。 大学との連携事業等については、各種の事業を継続して実施している。	

	標値を再設定した上で、アクセス数の向上及びユーザビリティの一層の向上を目指す。 （４館） ・特別展・平常展に関連した講演会・ギャラリートーク等のほか、ガイドツアー、体験型プログラムなど、幅広い層に楽しむ機会を提供した。 ・保存修理事業者等を対象とした研修会を実施した（オンライン含む）。 ・友の会・パスポート会員等の加入を促進した。 ・大手百貨店と連携してコラボレーションギフトを製作し、自己収入の増加と認知度向上を図った。 ①教育活動の充実等 １）学習機会の提供 （東博） ・新たに感覚過敏の来館者のための取組みを開始し、感覚刺激をマップ上に示す「センサリーマップ」を作成し、トーハクなび上に「休息スポット」を設け、多様な来館者を対象とする教育普及事業のあり方について検討した。 ・「月イチ！トーハクキッズデー」（創立 150 年記念事業）では、例年実施する年に１回の「キッズデー」を毎月第４日曜日に実施した。子どもたちを対象とした参加しやすい内容のワークショップ、鑑賞プログラムなど実施のほか、休息や飲食・授乳・おむつ替えができるよう「キッズスペース」を設けて、子ども連れの来館者が来館しやすい環境を作った。 ・「きて・みて・さわって！高校生のための学芸員体験」（創立 150 年記念事業）では、博物館学芸員に興味をもつ高校生に対し、２日間のレクチャー、作品取り扱い体験、作品鑑賞体験を実施した後、制作物を「高校生学芸員のおすすめポイント」として本館７室に掲示し、来館者への鑑賞に繋げた。 ・「みんなでつくる記念チケット」（創立 150 年記念事業）は、高校生以下の子どもたちに描いてもらった「150 年後に伝えたいトーハクのたからもの」のスケッチから、応募 680 枚のうち、150 枚を選び、ノベルティチケットとして来館者に配布した。 ・「触察ツール」（創立 150 年記念事業）は、「親と子のギャラリー 日本美術のつくり方 V」にあわせて漆工芸の制作工程や技法がわかるボードを作成した。会期終了後は、本館 19 室みどりのライオン体験コーナー等での活用を行った。 ・「センサリーマップ」（創立 150 年記念事業）は、感覚過敏の方たちが光や音などの刺激の強い場所を事前に知ることで、来館時の見通しをたて、来館しやすくなるもので、東京都自閉症協会の当事者、明治大学の協力を得て調査を行い、ウェブサイト上で公開した。 ・博物館正門前に創立 150 年記念郵便ポストを設置した（５月 23 日（月））。	東博においては、150 周年事業を通じて、より多様な来館者への取組みを企画・実施することができた。特に「月イチ！トーハクキッズデー」により今まで来館の少なかった、未就学児などの低年齢やその家族が来館するきっかけとなり、キッズデー以外の日にも低年齢層の来館が見られるようになったことが特筆できる。また、「みんなでつくる記念チケット」や「きて・みて・さわって！高校生のための学芸員体験」における「高校生学芸員のおすすめポイント」は、子どもの視点や考えを一般来館者が共有できることから好評であった。その他、「触察ツール」や「センサリーマップ」の作成により、視覚障がい者や感覚過敏の方など、さまざまな障がいを持つ人たちへの取組みとユニバーサル化を実施することができた。 京博においては、国際シンポジウムで海外の教育担当者と情報交換、情報発信をするなど、今後の教育活動の足場づくりに積極的に取り組んでいる。また、「文化財に親しむ授業」については、「文化庁 令和４年度 Innovate MUSEUM 事業」の助成（2,361 千円）を受け、「誰もが楽しめる鑑賞の授業をつくる（多様な見え方・感じ方）」をテーマに、内容の充実を図った。 奈良博においては、「夏季連続講座」の動画を YouTube ならはくチャンネルで公開したほか、奈良教育大学との共催で親子ワークショップの動画配信を行うなど、他機関とも連携協力しながらオンラインを活用した新しい学習機会を提供することができた。また、３年度まで新型コロナウイルス対策として制限していた学校プログラム「ならはく『世界遺産学習』」の受け入れを本格的に再開するとともに、奈良市教育委員会及び大分県との連携によってオンライン中継授業を実施することで、小・中学生を主な対象として学習の機会を数多く提供することができた。	

	・新たな来館者層の獲得を図るため、館内周遊型・体験型謎解きイベントである SCRAP×東京国立博物館 リアル脱出ゲーム「東京国立博物館からの脱出」（創立 150 年記念事業）を５月 12 日（木）より実施した。 （京博） ・「文化財に親しむ授業」（７回・501 人）、複製を活用した授業への助言・補助（３回・500 人）を行った。 ・国際シンポジウム「アジアの博物館教育は、いま ―国立博物館の事例から―」を５年２月４日に開催し、韓国、シンガポール、日本の研究者による事例報告とディスカッションを行った。日英中韓の同時通訳を通じて、当日会場及び WEB により 258 名の参加を得た。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、講演会等の定員を講堂座席数の半分（100 名）に減らしていたが、感染防止対策を徹底した上で、10 月以降は 200 名に戻して実施した。 （奈良博） ・夏季講座は新型コロナウイルスの状況に鑑み開催しないこととしたが、代替事業として「夏季連続講座」と題し４回の講座を実施、計 270 人の参加があり、平均満足度 88％を得た。また、その動画を YouTube ならはくチャンネルで公開し、延べ1,937 人の申込があり、計4,561 回の視聴があった。 ・学校プログラム「ならはく『世界遺産学習』」を小・中学校等の学校団体を対象に実施した（計 30 校、2,318 人）。 ・遠隔操作ロボット（アバター）を活用したオンライン中継授業を大分県の中学生を対象に実施した（９回、276 人）。 ・奈良市と大分県と連携し、奈良市立鼓阪北小学校と大分県国東市立国見小学校の２校の小学校と、当館と大分県立歴史博物館をオンラインでつなぎ、相互の地域の歴史や文化財等について学びあうプログラムを１月 30 日に実施した（計２回、43 人を対象に実施）。 ・奈良教育大学と連携し、わくわくびじゅつギャラリー「はっけん！ほとけさまのかたち」の関連オンラインワークショップ動画「なりきり！ほとけさまのかたち」を４本制作し、公式ウェブサイト上で公開した。 （九博） ・障害の有無にかかわらず誰もが楽しめるミュージアムへの取組みの一環として、手話通訳付きミュージアムトークや、対話型鑑賞ワークショップを開催した。また、視覚障がい者向けバックヤードツアーを開催した。通常のバックヤードツアーと違い、当館の建築模型や収蔵庫の壁面模型、免震装置の模型や実物の装置などに触ったり、大型エレベーターなどに乗ったりして楽しめるよう工夫し、高い満足度を得た。 ・体験型展示室「あじっぱ」では、新型コロナウイルス感染防止のため「展示鑑賞ゾーン」と「体験ゾーン」に分け、アジア諸国の生活・文化や日本の伝統文化や異文化交流を紹介した。	九博においては、教員のための講座を３年ぶりに再開し、学校教育活動支援事業の実施数やきゅーはくきゃらばんの出張回数もほぼコロナ禍前の水準に戻し、多くの学習機会を提供することができた。	

・大分県と鹿児島県の小中学校（計５校）に対し、リモート授業を行った。特に大分県の学校とは４年度も遠隔操作ロボット「アバター」を活用し、児童生徒は自らの操作でロボットを動かすことで展示室を見学し、研究員と交流した。
・学校貸出キット「きゅうぱっく」は 30 件・31 パックを貸し出し、2,741 人の児童生徒が体験した。
・アウトリーチ活動「きゅーはくきゃらばん」は県内 9 か所の学校及び商業施設に出向き、さまざまな博物館体験を提供した。

２）ボランティア活動の支援
（東博）
・ボランティア活動について、３年度より再開準備を行っていたグループも含め、屋外で行うガイドツアー５グループすべてとワークショップを行う１グループが再開し、参加人数の縮小やマイク使用など、感染対策を講じた上でガイドツアーを実施した。「応挙館茶会」は、飲食を伴わないお点前のデモンストレーションを紹介する形で再開したほか、コロナ禍以前は展示室内で実施していた「英語ガイド」を、新たに屋外でのガイドツアーに手法を変更して実施した。
・一般来館者に向けたボランティアデーを３年ぶりに開催した。屋外でのガイドツアー等のほか、屋内での各グループのスライドトーク、５年度新規ボランティア希望者に向けた説明会及び通常のボランティア活動（基本活動）の様子を見学するための館内ツアーを実施した。
（京博）
・ボランティアによるハンズオン教材を用いた対話形式の鑑賞案内である「京博ナビゲーター」は、コロナ禍の影響で引き続き休止したが、感染症対策上必要な物品の購入や募集チラシの作成など、５年度での活動再開に向けて各種準備を進めることができた。「文化財ソムリエ」については、スクーリングを 21 回実施するとともに、文化庁の助成を受けて館外での研修（３回）を実施した。「文化財ソムリエ」（21 人）は以下の活動を行った。
●京都市内の小中学校への訪問授業「文化財に親しむ授業」（７回・501 人）
●記者体験 in 京都国立博物館（１回・60 人）
（奈良博）
・11 月より、地下回廊の一角にあるワークショップスペースにて、ボランティアによるワークショップの実施を 11 月より開始した。ワークショップ「ほとけさまに服を着せよう！」では仏像レプリカを活用し、ボランティアは服の着つけ実演や、参加者が着つけ体験をする際の補助を担当した。
・４年度は庭園と茶室のガイド活動を再開した。庭園・茶室の改修後に庭園と茶室を一般に公開し、それにあわせてボランティアによる定点ガイドを行った。計 22 回実施し、庭園入場者数は計 3,298 人だった。
（九博）
・新型コロナウイルス感染拡大防止のため休止していたボランティア活動を４年度から再開した。再開に当たっては研究員による専門講座を開催し、ボランティアとしてのモチベーションの向上とスキルアップを図った。４年度のボランティアグループ活動は以下４つ。
●ワークショップデザイン…オリジナリティあるワークショップを企画・運営
●さげもん…福岡県の伝統手芸作品を製作するワークショップ
●『あつまれ！九博の杜』…九博の杜をテーマにしたセミナーやワークショップ
●古筆研究会…万葉仮名からひらがなへの変遷を学び、古筆遺品による和歌集を読む

３）大学との連携事業等の実施
（東博）
・キャンパスメンバーズ加入校の学生を対象に、博物館の運営、教育普及活動、国際交流、文化財活用等について講義する「博物館セミナー」を実施した。参加を希望するキャンパスメンバーズの学生が会場の定員数を大幅に超えていたため、多数が視聴できるように、「博物館の運営」「特別展の仕組み」「総合文化展の仕組み」「教育普及活動」の４本について動画を撮影し配信する、オンライン形式で実施した。なお、キャンパスメンバーズ加入校の学芸員志望学生を対象として、作品の取り扱いなど、博物館実務全般について講義・実習する「博物館学講座」については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため実施を見送った。
（京博）
・京都大学との連携の一環で同大学院人間・環境学研究科の客員教員として、５人の研究員が大学院生（修士・博士課程在学者）に対して、京都国立博物館で実際の作品を取り扱いながら、対面方式で文化財に関する講義を行った。受講学生は 18 人（延べ 19 人）である。また、所属する修士課程１人・博士後期課程２人の学生については、演習において論文作成に向けた口頭発表を行わせるとともに、論文作成の指導を行った。
（奈良博）
・奈良女子大学大学院人間文化総合科学研究科に学芸部研究員１人を派遣し、講義を行った。また、奈良女子大学を含む奈良国立大学機構の奈良カレッジズ連携推進センターの連携事業に参画し、学問祭においては館長の講義の実施、また産地学官連携プラットフォームの立ち上げの協力など連携を進めている。神戸大学大学院人文学研究科の連携講座（文化資源論講座）では学芸部研究員２人を派遣し、講義を行った。
（九博）

東博においては、コロナ禍の影響拡大により休止していたガイドツアーのうち、屋外はすべて再開し、屋内は、歩き回らずディスタンスを維持しやすいスライドトークとして段階的に実施した。

京博においては、コロナ禍で実施回数が減少していた「文化財ソムリエ」による訪問授業を、学校と緊密に連携して感染症対策を徹底させることで、コロナ禍以前の水準に戻すことができている。また、文化庁の補助金制度を活用して、支援学級での授業や色覚の多様性に配慮した授業の実施に向けて研修を実施したほか、活動を休止していた「京博ナビゲーター」については再始動に向けて各種準備を進めることができた。

奈良博においては、ボランティアが実演等を担当するワークショップを新たに考案し、夏に開催した子ども向けの展覧会以降、継続的に実施した。また、動画配信形式にてボランティア研修を計 30 回実施する等、ボランティアの資質向上にも努めている。

九博においては、ボランティアの自主運営によるイベントや研修について、職員とボランティア、またボランティア同士が密に連携できたことから充実した内容となった。また、九博でのボランティア活動を終えた者が他施設でボランティア活動を始めたり、新たに別のボランティア団体を立ち上げたりする動きが出てきていることから、九博が地域の生涯学習活動の拠点として文化ボランティアの育成に寄与できているといえる。

各館において、コロナ禍の影響により、当初計画どおりに実施できなかった取組みもあるものの、東博においては開催場所・方法等の変更やオンラインの活用、感染予防対策を講じて事業を実施したほか、京博、奈良博、九博においては、京都大学や奈良国立大学機構等と連携して博物館ならではの授業や講義の実施、博物館実習の受け入れ等を実施することができた。

		・博物館実習生を受け入れ（10 大学 14 人）、博物館の各機能に関する講義、実習を実施した。実施期間は６日間。また、放送大学の面接授業を２日間（19 人受講 講師８人）実施した。 4）国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与 （東博） ・修理技術に関する研究成果を公表し、修理技術者との情報共有を行った。 ・「磁器・ガラスに使用される光学用エポキシ樹脂の剥離に関する実験」（文化財保存修復学会第 44 回大会） ６月 18 日～19 日 ・「多様な文化財の診断および修理検討のための CT 活用事例」（2022 日韓学術人的交流事業「日韓博物館における保存科学装備の活用及び展望」） 10 月 28 日 （京博） ・保存修理技術を専攻する大学院生のための研修会を開催した（９月９日・14 名）。また、文化財修理を学ぶ大学院生（３人）のインターンシップ実習を８月８日～９月 16 日に実施するとともに、後日報告会をオンライン形式にて開催し（出席者 40 人）、報告書を作成した。 ・博物館における、保存科学・文化財修理の専門家等による文化財保存修理所の視察を受け入れ、情報交換などを行った。（計 35 回・142 人） （奈良博） ・文化財保存修理所の各工房修理技術者を対象とする文化財保存修理所技術者研修会を開催した（５年２月 16 日）。 （九博） ・文化庁主催の「漆工修理技術者研修会（試行第１回）」（２日間）を当館共催で実施した。当館修復施設にて修理中の国宝婚礼調度類〈徳川光友夫人千代姫所用〉のうち、初音の蒔絵調度・書棚（棚囲い・七宝繋）、初音の蒔絵調度・書棚（棚囲い・龍膽七宝繋）、胡蝶の蒔絵調度・書棚の３基を対象に、漆工の指定品修理実績のある全国の修理技術者や復元模造製作技術者約 20 人が参加する専門的研修を実施した。文化庁及び当館修理技術者から、修理や科学的調査に関する報告と、作品の熟覧を行い、漆工品の修理技術や材質・技法についての経験や知見を共有した。 5）博物館支援者増加への取組 （東博） ・会員総数は 14,561 件（３年度 9,881 件）と 1.5 割増。 ・みずほプレミアムクラブ会員向けにオンラインと実参加の同時イベントを企画、12 月 23 日実施し、認知度向上に努めた。	東博においては、修理技術に関する研究成果を学会等で発表することにより、国内外で修理に携わる人材に対して適切に情報共有することができた。研究成果及びこれまでの経験から得られた知見を基に、国内外の修復分野に携わる人材への技術的支援を効果的に実施できたといえる。 京博においては、文化財修理を学ぶ大学院生をインターンシップ生として受け入れ、実習を行っている。今後の若手技術者育成という点で大きな意義がある。また、保存修理技術を専攻する大学院生のための研修会には意欲ある学生の参加があった。実際の修理現場を体感する研修を行うことで、学生の意欲や目的意識の向上を図ることができた。３年度に続いてインターンシップ報告会をオンライン形式で開催したことにより、より多くの教員・学生の参加が可能となった点も評価できる。 奈良博においては、３年度はコロナ禍の影響により実施されなかった文化財保存修理所技術者研修会を実施し、修理技術者を対象に研修を行うことができた。 九博においては、文化庁との共催で研修会を実施したことで、修理技術者等が高度な意見交換及び情報共有を行う機会を提供することができた。 東博においては、現行の会員制度へ移行した３年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館や特別展会期の変更等を行ったことから会員数が２年度比２割減となったが、４年度は博物館の入場制限等の緩和に伴い、対面参加も含めた会員向	

		・特別展「東福寺」において、５年３月 13 日に、三菱商事株式会社の協力による障がい者内覧会を開催し、社会貢献に取り組んだ。 ・JR 東日本と協同し黒田記念館等をルートに含むツアーを実施し、館の認知度向上に努めた（５年２月 22 日、３月 12 日、19 日）。 （京博） ・三菱商事株式会社関西支社と共同で、「障がいのある方のための特別鑑賞会」を実施した。 ・近隣のタクシー会社と連携し、ステッカーを作成し、タクシー車両のリアガラスの部分に掲示してもらい、展覧会の広報活動を行うことができた。 （奈良博） ・入会案内チラシをイベントごとに配布し、賛助会員の新規獲得を図ったこともあり、３年度より会員数が６件増加した。 ・奈良市と連携し、ふるさと納税の返礼品として当館の過去の特別展図録を提供した。 ・奈良マラソン実行委員会（奈良県ほか）と連携し、奈良マラソン 2022 ポスターのメインビジュアルに、当館の収蔵品である「伽藍神立像（走り大黒）」が起用されたほか、マラソン参加者に対しては当館窓口でビブス（ゼッケン）を提示することで、特別展・名品展（平常展）の入館料割引を行い、誘客と認知度向上に努めた。 （九博） ・賛助会の広報に努め、新規会員の獲得を図った。４年度の新規加入は、個人７人、団体３団体であった。 ・JR 九州や西日本鉄道等と連携し、福岡・九州の交通要所において特集展示や広報番組を告知した。 ・サッカー・ワールドカップ開催記念「アジア代表 2022 トークショー」をミュージアムホールで開催した（11 月２日 日比野克彦氏（東京藝術大学学長）、田嶋幸三氏（日本サッカー協会会長）、岡田武史氏（日本サッカー協会副会長））。また、ワールドカップ・アジア予選出場各国をイメージして陶芸ワークショップ「WORLD PEOPLE CUP」で制作された作品をエントランスホールに展示した。これらを若い世代が来館するきっかけとし、認知度の向上を図った。 ②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 **＜主要な業務実績＞** （４館） ・年間スケジュールリーフレットの制作・配布（東博はWEB公開）を行った。 ・ウェブサイトのリニューアル、また内容の充実を図り、アクセス件数（アウトプット情報を参照）の向上を図った。（アクセス件数：15,077,857 件） ・YouTube や SNS（Twitter、Facebook、Instagram を含む）を活用した情報発信を継続して行った。 1）有形文化財に関する情報の発信 /2）資料の収集と公	けの企画、支援者獲得に向けた活動等の取組みに努めたことから、会員数は増加に転じた。また、企業等との連携により賛助会等の制度について認知度を高めることができた。 京博においては、「障がいのある方のための特別鑑賞会」の開催やタクシーのリアガラスへの展覧会広報ステッカーの掲出など、複数の企業との間で多面的な事業展開ができた。特に、障がい者が気兼ねなく鑑賞できるよう休館日に設定した特別鑑賞会は、参加者の満足度も高く、館の認知度向上にもつながったことから、今後も継続を予定している。 各館において、収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びウェブサイト等での公開を継続して行っている。４館のウェブサイトアクセス件数合計は、３年度の 17,110,708 件から、４年度は 15,077,857 件となった。実績が３年度から下がっている主な要因は、京博においてウェブサイトの解析システムの入れ替えに伴いアクセス数のカウント方法が変更となったことによるものである。４年度の京博のアクセス件数は旧解析システムでカウントされた期間（４/１～５/17）及び新解析システム導入後（５/18～）の件数を合計して実績値とした。	・国立博物館では，展覧事業及び各種事業に関する広報を目的としてウェブサイトの充実を図っている。また，収蔵する有形文化財に関する情報（文字情報，画像情報）を整理し，データベース等を構築し，ウェブサイトにおいて公開している。これらの情報を一般に公開することは，国民共有の財産を広く周知する上で重要であり，また，学術研究の進展等にも資すると考えられることから，近隣施設との連携等を含めた効率的かつ効果的な広報戦略の実施などに戦略的に取り組み，ウェブサイトのアクセス件数の増加を図ることとし，数値目標

	は前中期目標の期間の実績以上とする。	開 （東博） ・「ジャパンサーチ」と ColBase のデータ連携形態を更新し、自動的に定期的なデータ更新が図れる仕組みを構築した。 ・特別展関連図書コーナーの設置、新着資料案内等をライブラリーニュースにて発信した。特に創立 150 年記念特別展に際しては、閲覧室内にて通常の関連図書コーナーでは戦後の特別展入場者数ランキング上位 100 位までの図録を順位順に展示し、加えて展示ケースでも、戦後まもなくの「国立博物館」時代、まだ国立美術館が開館する以前で近現代の西洋絵画も当館で展示していた時代の、当時大きな話題を呼んだ 1951 年の展覧会「アンリ・マチス」展からマティスの「JAZZ」（貴重書）や関連資料を展示・紹介した。また平成館特別展会場内にも貴重洋書を 1 点展示し、図録に作品解説を載せて紹介した。 ・各種新型コロナウイルス対策を取りつつ、日本図書館協会「図書館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」に沿って制限を緩和し、利便性の向上に努めた。 （京博） ・京博ウェブサイトで公開中の館蔵品データベースについて、これまでの課題を解決すべくリニューアルを行った。また、蔵書管理システムをリニューアルすることで、図書や逐次刊行物の整理、管理に関する業務効率の向上を図った。 （奈良博） ・仏教美術資料研究センターの外部利用者の予約については、図書検索システム OPAC にある開館カレンダーから予約を行うが、よりわかりやすく予約状況を確認できるようシステムの改修を行った。 （九博） ・対馬宗家文書のデータベースのリニューアルに着手した。	５年度以降は目標値を再設定し、ユーザビリティの向上を図り、アクセス件数の増加を目指す。 収蔵品等に関する資料等のデジタル化については、各館においてデータベースの充実、システムの更新など順調に進んでいる。 東博においては、創立 150 年記念特別展開催期間中、会場内での展示・作品解説のほか、閲覧室内でも特別な展示を行い、内外に情報発信を行った。またコロナ禍の影響により、利用者が安心して利用できるよう各種利用制限を設けて運用しつつ、ガイドラインの改定に合わせて資料館の利用制限も適宜緩和し、利便性を高めた。 京博においては、３年度から準備を進めていた館蔵品データベースと蔵書管理システムのリニューアルを行った。いずれもクラウドサーバを活用し、機器の耐用年数に伴う経年劣化などの課題を解決することができた。	
		3）広報活動の充実 （東博） ・創立 150 年事業にかかる情報を集約した記念特設本サイトを４月１日より公開、順次内容を更新し、周知に努めた。併せて新収品（金剛力士立像）紹介動画、SNS プロモーション用動画等を制作し、SNS 広告の出稿や公式 SNS での投稿に活用するなど、オンラインでの広報活動にも注力した。また、JR 都内主要駅や上野近隣施設の協力も仰ぎながら、都内各所へサイネージ広告、ポスター、バナント等を掲出し、新規来館者層へのアプローチも行った。 ・創立 150 年事業の広報として、10 月 10 日～23 日の 14 日間にわたり JR 上野駅中央改札外に大型フラッグを掲出した。 ・J-WAVE に「月イチ！トーハクキッズデー」の後援名義を申請し、ラジオ CM や番組にてキッズデー及び周年事	広報については、各館がオリジナルキャラクター（東博、京博、奈良博）や文化大使（奈良博）などを活用し、YouTube・Twitter 等を含め多様なメディアを利用し、積極的かつ効果的な広報に努めている。 東博においては、若年層を中心とした新たな層の開拓を目的として、ウェブサイト、SNS を活用して、広く国民やマスコミ、ウェブ媒体に向けて充実した情報発信ができた。創立 150 年記念特設サイトの活用、アクセシビリティ対応を進めるとともに、SNS での動画配信を強化するなどデジタル展開をより積極的に行った。 京博においては、ウェブリニューアルを機にユーザビリティ向上のため解析システムを変更した。こ	

		業の周知を図るとともに、親子向けライブと新規来館者向けのライブを各１回ずつ実施した。 ・トップページ等のデザインやナビゲーションの一部を変更するなどアクセシビリティ向上を目的に、ウェブサイトの改訂を行った（４月４日より稼働）。 ・東京国立博物館ニュース４年９・10・11 月号は、創立 150 年記念特別号として通例よりもページ数を増やし、特集展示や教育普及プログラムをはじめ創立 150 年記念事業を手広く紹介した。 （京博） ・３年度発行の日本語版に引き続き、４年度は「京都国立博物館ハンドブック」韓国語版を発行した。 ・京都市が主催するスタンプラリーへの協力や、動物園との相互広報等、地域の各種団体と連携し、地域住民や観光客に向けた広報活動を展開した。 ・メールマガジンをリニューアル（html 化）し、視覚的訴求力を高めるとともに、アクセス解析を行い、満足度の高いページ構成を検討の上、配信した。配信は月１度の 12 回（193 号～204 号）。 ・ウェブサイトをリニューアルし、モバイル対応・多言語ページの拡充を行い、利用性・情報発信力を向上させた。 （奈良博） ・名品展や特別展、イベント情報等をウェブサイト及び SNS（Twitter）に掲載し、来館者数増加に繋げた。Twitter や YouTube では単なる情報発信だけではなく、公式キャラクター「ざんまいず」ぬいぐるみを利用しキャラクターが呼びかけているような情報の発信方法なども実施し、新たな来館者の獲得とフォロワー数の増加に努めた。 ・ウェブサイトの機能追加を行い、予約更新が可能な箇所を増やした。トップページのスライダーを日時設定で更新できるようにし、担当者の勤務に左右されずに最新の情報が公開される体制が整った。 （九博） ・担当研究員によるテレビ・ラジオ番組への出演や地元新聞社、雑誌、フリーマガジン等へ展覧会情報を発信し、公式 Twitter で展覧会の見所を紹介した。 ・広報番組 TVQ 九州放送「太宰府・九博散歩道」を製作した。 ・SNS では、これまでの公式 Twitter に加え、公式 Instagram を立ち上げ、展示品や館内外の風景など、当館の様々な魅力を発信した。	れに伴いアクセス件数の数値上の実績はこれまでより大幅に下回ったが、新旧解析システムのユーザーセッションカウント方法の違いによるものであり、システムの変更によりユーザーの細かな趣向の解析が可能となった点は評価できる。また、定期刊行物や年間スケジュール、展覧会チラシの製作・配布は効果的に行うことができ、特別展においては主催メディアや共催メディアと協力して多様な広報を実施することができた。 奈良博においては、ウェブサイトの改修を重ね、運用上の改善を図るとともに、アクセス件数の向上を図った。また、公式キャラクター「ざんまいず」等を用いた情報発信により、館の PR に繋げることができた。 九博においては、新たな九博ファンの獲得につなげるため ６月に公式 Instagram を開設し、2,600 人を超えるフォロワーを得た。また、ウェブサイトや SNS の活用に加え、マスコミや交通機関、地域の観光団体など関係機関との連携による広報活動も積極的に展開した。 **＜課題と対応＞** 教育・普及活動においては、コロナ禍の影響を受け長く活動が制限されてきたが、４年度は各館において、感染防止対策を講じた上で講演会、各種プログラムなど対面での再開を開始した。一方で、新しい生活様式にも対応した取組みとして、ウェブを活用したオンライン型の事業、動画の配信、対面とオンラインを併用したシンポジウムなど積極的に展開した。結果として、遠隔地にあってこれまで来館が難しかった層からも参加が可能となり、新たな層の開拓にもつながった。取り組みで得た知見も活かして、今後もオンライン・対面参加を効果的に併用し、多くの方に多様な方法により効果的な学習機会を提供するよう努める。 また、博物館の支援基盤の充実には支援者の増加が不可欠であり、活動の成果等を適時適切に情報発信し、広報を行うことが重要であることから、引き続きウェブサイト、SNS 等の自主媒体を活用するとともに、関係機関やマスメディアとも連携し、積極的な情報発信に努める。	
	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 【指標】 ・有形文化財の収集・保管・展示等に係る調査研究件数 〈目標水準の考え方〉	**＜主要な業務実績＞** ①　有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究 ・４館及び文化財活用センターの有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究テーマ件数　74 件 内訳はアウトプット情報（P. ６～７）を参照	**＜評定と根拠＞** 当機構では、有形文化財の保存と活用を推進し、次世代に継承して、我が国の文化の向上に資するため、その収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究を進めた。	

	・国立博物館における有形文化財に関する調査研究は，収蔵品の収集活動，保存修理，展覧事業の企画等に資することを第一義的な目的としており，研究成果が具体的な事業等にどのように反映できたかを評価指標とする。あらかじめ目標値を設定することになじまないため，中期目標の期間において，調査研究件数に関する目標は，モニタリングすることとする。	・各博物館とも、有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究を実施することができた。 （東博） ・創立 150 年記念特集「チベット仏教の美術―皇帝も愛した神秘の美―」に関連する調査研究 絵画・書跡・彫刻・工芸の各分野において、チベット仏教に関係する資料を抽出し、必要に応じて実地調査を行った。その上で、チベット仏教の特色や歴史を表わす作品を選定し、並びに日本人として初めてチベットを旅した僧河口慧海の旧蔵品も再調査のうえ、特徴的な作品を選び、63 件を出品作として確定した。 その成果は特集「チベット仏教の美術―皇帝も愛した神秘の美―」（会期 7 月 26 日～9 月 19 日 於平成館企画展示室）にて公開した。当館のチベット仏教関係資料には中国・清時代の作品が多く含まれるため、日中国交正常化 50 周年記念特別デジタル展「故宮の世界」（会期 7 月 26 日～9 月 19 日、於平成館）と同時開催とした。 代表的な作品を掲載したリーフレットを発行し無料配布するとともに、公式サイトで PDF を公開した。 オンラインギャラリートーク（【オンラインギャラリートーク】8 月「知られざるチベット仏教の美術」）を製作し、YouTube の公式チャンネル上で公開した。 ・日中国交正常化 50 周年記念 特別デジタル展「故宮の世界」に関する調査研究 デジタル展示空間を作るにあたり、故宮博物院と凸版印刷が長年にわたって蓄積してきたデジタル・アーカイブのデータを活用して紫禁城の宮殿の外観や内装を再現し、また、北宋の名画「千里江山図」を高約 3 メートル、幅約 22 メートルの大画面に投影することで山水画を没入体感するように鑑賞するなどの実験的展示を行った。当館が管理する清朝皇帝が愛蔵した書画や清時代の工芸品を展示することで、デジタル展示と相互補完を行うなど次世代型の鑑賞方法を試みた。これらの展示内容は、コロナ禍での海外渡航制限があるなかで、故宮博物院の研究員及び凸版印刷の技術者とオンライン会議やデータ通信なども利用した協議を重ねて作り上げた。また展示内容は清朝の紫禁城が中心であったが、調査研究の対象を中国の考古資料やチベット仏教資料ついても視野を広げることで、より多角的に清時代の宮廷文化を捉えることができた。その成果の一部は、展覧会の閉会後に東京美術より刊行された『もっと知りたい中国の美術』として一般に普及することができた。 ・博物館広報・国際交流活動に関する調査研究 （1）博物館広報：広報の歴史をテーマに特集展示を開催。またウェブサイトの利用状況の調査分析を行った。 特集タイトル「つたえる、つなぐ―博物館広報のあゆみ―」（9 月 27 日～11 月 6 日 平成館企画展示室）	（東博） 多分野にわたってチベット仏教関係資料が収蔵されてきたものの公開の機会に恵まれず、総合的に展示を行うのは東洋館開館 30 周年記念特集である「河口慧海将来品とラマ教美術」（平成 11 年）以来、約 20 年ぶりとなった。平成 29 年以来進めてきた客員研究員との調査成果も反映しつつ、リーフレットの配布、ギャラリートークの配信など、多角的な情報発信を心がけ、チベット仏教関係資料への理解を深めることができた。 故宮博物院と凸版印刷が進めてきたデジタル・アーカイブのデータを活かし、デジタル技術を活用した展示を行った。コロナ禍による海外渡航制限を受けて、日本と中国の間を通交することができなかったために故宮博物院が所蔵する実物作品の確認作業に不十分な点も生じたが、オンライン会議やデータ通信によって日本側と中国側との意思疎通に努力した。これまでに故宮博物院が構築してきたデジタル展示の技術を応用しながら、北宋の名画「千里江山図」を没入体感する展示を開発したほか、当館が管理する実物作品も併せて展示することで、デジタル展示と相互補完するなど創意工夫に努めた。 創立 150 年の記念の年にあたり、これまであまり紹介されてこなかった東京国立博物館の普及・広報活動について網羅的に調査し、特集展示という形でまとめて一般に公開した。これまで物理的に収集・保管していた特別展のポスターを展示に当たって調査・整理し、アーカイブ化してウェブサイトで広く一般に公開することができた。ウェブサイトは継	

		1872 年の創立年を起点とし、戦後を中心に当館の広報活動の流れを検証、特別展のポスターや館案内パンフレットなどを展示するとともに、展示概要を紹介するリーフレットを制作し、研究成果の普及に努めた。 特集で公開した過去の特別展ポスターの画像データをアーカイブ化し、当館公式ウェブサイト上で公開した。 月例講演会（10 月 1 日、平成館大講堂）及び 1089 ブログにおいて本事業の成果を発信した。 ウェブサイトのアクセス数と増減の傾向を記録・分析し効果的な情報発信のタイミングを検討・実施した。 (2)国際交流：当館の標準英訳語を示すガイドブックを出版、国際交流と多言語対応事業、SNS 発信の検証当館の総合文化展等で使用した日本・アジア美術に関する用語を抽出、当館としての標準英訳語を示した。 3 年度からスタートした英語、中国語、韓国語による SNS（Twitter、Instagram、Facebook）投稿のアクセス数、ユーザー年齢層と所在地域などデータを分析し、発信内容の充実と改善を図った。 国立博物館 4 館の多言語対応担当者による国際交流と多言語対応の進め方について意見交換会を当館において開催した。 （京博） ・近畿地区を中心とする社寺文化財の調査研究 2 年度より継続的に実施している大徳寺塔頭・龍光院を対象寺院として、書跡・絵画を中心に 5 日間（8 月 2 日～6 日）の調査を実施した。調査件数は 65 件。 悉皆調査が未完了であったため、4 年度刊行の『社寺調査報告』31 では掲載を見送った檜尾山観心寺（大阪府河内長野市）所蔵の彫刻について補足調査を実施し、調査成果を『社寺調査報告』32（観心寺彫刻編）として刊行した。また、過去に実施した社寺調査の調書・写真を整理するとともに、調書データの電子化を進めた。 28～2 年度にかけて実施した観心寺・金剛寺の調査成果を基盤として、特別展『河内長野の霊地 観心寺と金剛寺』を開催した。 ・特別展「河内長野の霊地 観心寺と金剛寺ー真言密教と南朝の遺産ー」に関する調査研究 28 年度から元年度の科研調査と 3 年度までの補足調査によって、展示作品の基礎調査と撮影はほぼ完了していたため 4 年度はそれらの成果をもとに、地域や寺の歴史、あるいは各分野の作品にかかわる先行研究を改めて博捜し、知見をまとめて展示のほか図録解説や講座で発表した。たとえば、科研調査では重要文化財『遊仙窟』（天野山金剛寺蔵）の欠失部分を発見し、全体の約 95 パーセントを復元できたことについて、図録にコラム「金剛寺本『遊仙窟』断簡、発見の意義」を掲載し、100 年以上にわたる金剛寺での同書の復元経緯も記して、その意義をわかりやすく示した。この	続して利用状況を調査し、効果的発信に繋げた。 また、国際交流については、近年蓄積してきた文化財関連用語の英訳語について、当館として標準の訳例をまとめたガイドブックを出版、ウェブサイト上（東京国立博物館研究情報アーカイブズ）で公開することで、日本・アジア美術の翻訳のガイドラインを示すことができた。また、多言語による SNS 投稿内容の検証と改善により、フォロワー数を約 200%の増加につなげることもできた。 （京博） 3 年度に引き続いて、コロナ禍の影響があったものの、5 日間の調査を行うことができ、悉皆調査終了後の報告書刊行に向けて、写真整理並びに調書データの電子化も順調に進めることができた。また、懸案であった観心寺の彫刻に関する調査を完遂し、調査成果を報告書として刊行することができた。 調査を踏まえて研究を熟成させ、その成果を展覧会という形で一般に還元することができた本調査研究は、文化財の保護・研究・発信を使命とする当館にとって、理想的な形で遂行できた事業であったといえる。調査で見出した作品を実際に観覧できる展示そのものや、新知見を盛り込んだ図録によって、来場者の多くに作品や寺の魅力や、文化財保護・研究の意義を、存分に発信することができた。 調査をとおして文化財の記録と保全を期するのはもちろんのこと、展示によって京都と歴史的につながりのある地域寺院の営みを通史的に明らかにしたことで、日本史・仏教史・美術史いずれの分野にも資する成果を示した本調査研究事業は、多分野	

		成果については、講座やウェブサイト（虎ブログなど）でも積極的に情報発信した。 　また、「金剛寺に伝えられた三躯の大日如来坐像」や「天野山金剛寺所有木造大黒天像の像内銘」（いずれもコラム）では、調査やその後の考察によって明らかになった彫刻作品の新知見を示し、古代中世の彫刻史・仏教美術史研究に資する情報の公開に努めた。その他、図録では巻頭論文や作品解説においても、美術史、仏教史、日本史などに関わる調査研究の幅広い成果を発信した。また、京都市教育委員会や河内長野市教育委員会と連携し、河内長野市の高校生が京都市の中学生に本展の内容を解説する催しを企画するなど、地域間の人的交流を育む新たな教育普及活動にも取り組んだ。 　また、展覧会終了後も所蔵寺院の理解の下、展示品の一部を寄託品として預かり、万全な環境での保管を期すとともに、今後の展覧や研究にも役立てる環境を整えることができた。 ・博物館教育及びボランティアに関する調査研究 （１）「学校教育との連携」に関する調査・研究 ・「記者体験 in 京都国立博物館」（１回・60 人）に際して、河内長野市の高校生（レクチャー）と京都市の中学生（取材）という異なる自治体の生徒間の交流を図る試みを実験的に行った。 ・教員による複製を活用した授業（３校・生徒のべ約 500 人）の支援、「社会科教員のための向上講座」（１回・34 人）の実施に際して、今後の事業の在り方について考えるべく、教員からの聞き取り調査と意見交換を行った。 ・「文化庁 令和４年度 Innovate MUSEUM 事業」の助成（2,361 千円）を受け、「誰もが楽しめる鑑賞の授業（多様な見え方・感じ方）」をテーマとして、他施設の実態調査（７件）、小中学校の教員向けの小冊子「授業で使える！日本の絵画 鑑賞のヒント」（1,000 部）の発行を行った。 （２）「感染症対策と博物館教育の両立」に関する調査・研究 ・他館の教育活動に関する感染症対策について調査（10 件）し、５年度に予定している京博ナビゲーターの再開に備えた。 （３）調査・研究成果の講評・反映 ・これまでの調査・研究成果を踏まえて、入門的な特集展示「新春特集展示 卯づくし―干支を愛でる―」（５年 １月２日～1月 29 日）を企画し、展示に関連するワークシート「うさぎうさぎ、なにといっしょ？」（日英 11,000 部・中韓 3,000 部）を発行した。 ・これまでの調査・研究成果を踏まえて、国際シンポジウム「アジアの博物館教育は、いま―国立博物館の事例から―」を企画し、登壇して研究報告をするとともに、海外に向けての情報発信に努めた。 （奈良博） ・南都の古代・中世の彫刻に関する調査研究	の研究員を擁する当館が、その社会的使命を果たした点において極めて高い意義を有する。 学校教育との連携に関しては、「文化庁 令和４年度 Innovate MUSEUM 事業」に採用され、館の教育事業全体に還元できる情報の収集に努めたほか、教員に向けた小冊子の発行を行った。また、コロナ禍の影響は引き続き大きかったものの、異なる自治体に属する生徒間の交流や職場体験の受け入れなど新たな事業を展開することができた。さらに、入門的な新春特別展示や国際シンポジウムに調査・研究成果を反映させ、海外、特にこれまで注目度が低かったアジア地域の博物館教育担当者との交流を推進し、世界に向けた情報の発信を行うことができた。 （奈良博） 調査は、実測、撮影、3D 計測、X 線 CT スキャンな	

		館内外において多数の作品の調査・撮影を行った。調査を通じて日本古代から中世までの彫刻に関する構造・技法について、X線 CT スキャン調査やファイバースコープなど最新光学機器を駆使することによって、像内銘文の発見や表面観察では判定できない構造など、従来知り得なかった学術的知見を得ることができた。 　特別展や名品展における図録の解説や題箋の執筆、講座等における報告、また論文等刊行物のかたちで新知見の発表を行った。 　大安寺所蔵の彫刻の調査成果は東京国立博物館で開催された特別企画「大安寺の仏像」（５年１月２日～３月 19 日）の展示や図録等で活用した。新規撮影された写真や調査成果は、今後開催される特別展「聖地 南山城―奈良と京都を結ぶ祈りの至宝―」（５年７月８日～９月３日）をはじめ、展覧会や写真の借用依頼への対応に寄与するものである。 ・特別展「春日大社 若宮国宝展」に関する調査研究 （１）調査概要 ・国宝・若宮御料古神宝類の金鶴及銀樹枝、銀鶴洲浜台及び木造彩色洲浜形などについて、３年度より当館の CT や蛍光X線分析等で素材や構造分析を続けてきた。その成果を春日大社では神宝の復元新調に活用し、同時に当館では展覧会図録等に反映し、さらに展覧会場で完成した復元新調品を初公開した。 ・若宮社より撤下された獅子・狛犬の調査を行い、同像が鎌倉時代に遡る優品と判明した。その調査成果を図録等に反映させ、原品を展覧会で初公開した。 （２）展示・図録の工夫 ・国宝・若宮御料古神宝類の毛抜形太刀や平胡籙の原品及び復元模造品を比較検討し、展覧会ではパネル等を多く活用して、平安時代の高度な技術と煌びやかさを観覧者に分かり易く伝えた。 ・春日大社の式年造替の歴史を調べ、それが単なる一神社の社殿修繕の歴史ではなく、社殿はもとより調度品や装束、祭儀や有職を含めて古制を伝える文化継承事業であったと認識、これを展覧会の本テーマに据え直し、解説等でもその意義を伝えることにした。 ・式年造替やおん祭（若宮社の祭礼）の理解を深めるため、社殿から撤下された千木や日使装束（日使はおん祭における奉仕者行列の主役的立場。関白の束帯を着る）などの現物を展示に組み込んだ。 （九博） ・特集展示「御所の器―公家山科家伝来の古伊万里」に関する調査研究	ど多岐にわたる方法で実施した。調査では展覧会輸送の事前点検も行ったが、文化財の安全な活用に資する成果を多くあげることができたことから、これらの成果を５年度の特別展、特別陳列のほか、講座等にも反映させる予定である。特に、奈良と関連が深い木津川市や京田辺市の彫刻調査の成果及び撮影写真は、５年度開催の特別展「聖地 南山城―奈良と京都を結ぶ祈りの至宝―」（５年７月８日～９月３日）の図録や会場パネル等の作品解説で公開がする予定である。成果を展示事業に反映し、結び付けることができた点は高く評価できると考える。 　南都の古代・中世の彫刻に関する調査研究においては多数の作品の調査を行ったが、中でも東慶寺釈迦如来坐像については、当館への寄託がきっかけとなり、CT スキャン調査により材質や造りが初めて明らかになった。なお、本件は昭和 17 年以来の博物館での公開となったこともあり学術的価値が非常に高い。また、当館蔵釈迦如来立像は CT 調査により頭部納入品の詳細が明らかになり、文献に伝わる逸話に近い納入品が確認されたりと、多大な研究成果が得られた。 宮社の特性や神宝の高度な技術、式年造替の意義など、新たな視点や研究成果を多く採り入れた展覧会にすることができた。 　平安時代の名工による古神宝（国宝）原品と、近年の人間国宝の手による復元模造品を並べて展示し、平安貴族が賛嘆した煌びやかな世界を実感できるよう工夫を行った。これは春日大社との綿密な打合せや事前調査による成果である。 　また、若宮社の獅子・狛犬など未調査作品の調査を実施し、その年代や作風などの成果を展示で示したほか、図録として公表できた。 （九博） 従来、調査研究や公開実績が少なく、実態のよく分からなかった禁裏御用品中の古伊万里について、宮中職の衣紋道を務めた山科家との関連性の観点	

		30 年度から３年度までの科学研究費補助金（基盤研究Ａ）「アジアの文化財の伝統的製作・修理技法の詳細調査と国際修理プロジェクトの応用」（研究代表者：伊藤嘉章）の研究の一環として、山科家、同志社大学、東京藝術大学と協力して、約 200 点の悉皆調査を実施し、全点の撮影を行った。 考古学及び美術史的観点から、全点の年代整理及び装飾された有職文様を分析し、伝来品の９割は肥前（現佐賀県）・有田の辻家を中心に生産された染付磁器であると判明した。生産地が不明なものは辻家の指導を受けて整理した。 他の禁裏御用品の伝来品との比較研究で、山科家伝来品の特徴が数十枚単位の組物が多いこと、同じデザインでもサイズの異なる碗や皿で構成されたセットがあることを明らかにした。 山科家に関連する史料や装束を研究し、山科家が宮中で内蔵頭と御厨所別当を務めていたことが、磁器が下賜されるきっかけとなった可能性を指摘した。 特集展示「御所の器―公家山科家伝来の古伊万里」として一般公開し、会期中に山科家、同志社大学、東京藝術大学の研究協力者とともに、講演会・トークセッションを実施し、研究成果を公表した（10 月 16 日）。 ・特別展「加耶」に関連する調査研究 韓国からの借用作品について、当館に先立つ巡回館であった国立歴史民俗博物館において、３度、計 10 日にわたって調査した。加耶の特徴的な鉄製品である有刺利器に関する知見は、当館での展示解説に反映した。加耶各地の土器の製作技法についての知見は、新羅土器の製作技法とも比較した。国内の借用作品については、甘木市教育委員会所蔵品、宗像市教育委員会所蔵品、四條畷市教育委員会所蔵品、大阪府教育委員会所蔵品、市原市教育委員会所蔵品、木島平村所蔵品について調査した。このほか、東京国立博物館では関連作品の調査を行い、また、借用予定作品の最新の研究状況に関しても意見交換した。これらの調査研究成果は、当館での特別展「加耶」展示解説や図録のコラム、５年２月４日、11 日に館員が登壇して実施したリレー講座、さらに『東風西声』所載の論文「加耶の広口壺」においても公表した。 （文化財活用センター） ・レプリカや VR 等先端技術を使った、文化財の活用についての調査・研究 （１）キヤノン株式会社、凸版印刷株式会社、シャープ株式会社、NHK との連携による共同研究プロジェクトを継続して実施し、コンテンツの新規開発・改良を行った。キヤノン株式会社、シャープ株式会社、NHK と実施した研究の成果については、東京国立博物館創立 150 年記念特別企画「未来の博物館」として一般公開し 150,296 名（１日平均 3,131 名）が鑑賞した。 シャープ株式会社との共同研究により制作した、８K で文化財「みほとけ調査」は「2022 年度グッドデザイン賞」（主催：公益財団法人日本デザイン振興	から体系的に整理し公開した。研究の成果は図録として公表したほか、共同研究者らとともに、講演会・トークセッションなどを実施し、学術的意義を広く伝えるよう努めた。 2018 年以来の山科家・同志社大学・東京藝術大学との共同研究の集大成として、旧公家である山科家に伝来した禁裏御用品の全貌を史上初公開し、宮中で使用された古伊万里についての研究を大きく前進させることができた。本調査研究や展観を契機として禁裏御用品への関心が高まっており、宮中で使用された陶磁器の実態解明に資することができた点、古伊万里研究の新領域を開拓することができた点が成果として高く評価できると考える。 特別展「加耶」は、加耶を取り上げた大規模な展覧会として国内では約 30 年ぶりであるが、さらに当館では巡回作品による第一部「加耶の興亡」に加えて、国内所蔵作品による第二部「渡来人」を追加したため、第一部、第二部の双方に関連して、作品を調査した。その結果、３～６世紀の倭（当時の日本）と加耶とのかかわりを多面的にとらえ、当時の日韓交流の実態に関する新たな歴史像を提示することができた。その成果は展覧会の構成、図録の解説やコラム、リレー講座など、さまざまな形で発信した。 （文化財活用センター） 企業等との共同研究プロジェクトの成果を「未来の博物館」として公開し、15 万人を超える来館者が体験した。また、開発したコンテンツが各種賞を受賞するなど、文化財活用の新しい可能性を示唆する活動として高い評価を得た。	

		会）を、２年度より NHK と東京国立博物館が３年間共同研究として取り組んできた「8K 文化財プロジェクト」（文化財活用センターはマネジメントを担当）が、教育コンテンツのみを対象とした国際コンクール「日本賞」においてデジタルメディア部門の最優秀賞（経済産業大臣賞）を受賞した。 （２）レプリカ制作やデジタルコンテンツ制作に関して優れた技術を持つ企業・機関等や、それらを使ったコンテンツの公開、活用を行っている施設の視察・インタビューを行った。 （３）機構内各施設や地域のミュージアムと連携し、レプリカやデジタル技術を活用したコンテンツ開発と体験型展示、教育プログラム、体験者へのアンケート調査を実施した。 （４）「2021 年度ぶんかつアウトリーチプログラム報告書」を刊行した。 ②その他有形文化財に関連する調査研究 **＜主要な業務実績＞** （東博） ・博物館の環境保存に関する調査研究 （１）輸送環境に関する調査研究成果 文化財輸送時に生じる振動の影響を検証するため、レプリカを用いた加振試験を実施し、その結果から振動応答特性を推定する手法に関しての成果を論文で発表した。文化財の梱包に頻繁に用いられる綿の衝撃吸収特性を落下衝撃試験によって調査した結果を検証し、学会で発表した。ハンドリフトを用いた博物館施設内輸送で生じる振動を計測した結果を検証し、学会で発表した。 研究成果の学会発表・論文発表件数　７件 （２）収蔵環境に関する調査研究成果 空調設備の無いコンクリート造の建造物内の温湿度変化に関して解析を実施し、来場者の入室による影響を検証し、学会で発表した。 研究成果の学会発表・論文発表件数　１件 （３）展示環境に関する調査研究成果 展示室における換気対策が与えるエネルギー消費への影響を考察し、学会で発表した。 研究成果の学会発表・論文発表件数　２件 （４）その他の調査研究成果 博物館施設のデジタルツインの利活用による保存環境制御の最適化と効率化を目指した研究を開始した。 研究成果の学会発表・論文発表件数　３件 （九博） ・展示収蔵環境の空気質に関する調査研究 （１）展示空間で発生する揮発性化学物質（VOC）の継続的調査 展示ケース内における有機酸やアルデヒド等の汚染物質の濃度を継続的に調査し、特に対応が必要であるケースを把握し、優先順位をつけた対応に役立てた。	文化財に親しむ手法の拡大を目指して、企業等の先進事例の調査・研究を行った。そこで得た知見をもとに、コロナ禍でも安全に実施可能な文化財体験、地域の活性化の核となる文化財体験を開発・提供することによって、研究成果を発信している。 先進事例の調査からコンテンツ開発、一般への公開・検証へと一連で行うことで、文化財活用の新たな道を拓く有意義な実施手法を構築している。 東博においては、各項目に関して、当初の計画以上の論文及び学会発表を行い、社会に対して十分に研究成果を還元できたことは高く評価できる。専用コード作成により解析を半自動化するといった、データサイエンス技術を駆使することで研究の効率化を図ったことが成果に直結したと考えられる。具体的には、本プロジェクトからは、３年度、４年度を通して、査読論文３件、査読無し論文５件、国内学会発表 18 件が学術的成果として上がった。 特に、輸送環境に関する調査研究において多くの成果を上げることができた点や、異分野の研究者と活発に交流し、従来から継続している研究を客観的に検証することができた点は特筆すべき点と考えている。 （九博） 展示収蔵環境における空気質について、３年度に引き続き詳細な調査を行い、データを蓄積することができた。得られたデータをもとに、展示空間に用いる適切な材料及び製作法の検討や選定を行ったり、適切な換気スケジュールを作成するなど、現場において対策に生かすことができている。また、館	

		（２）展示ケースの換気システムに関する検証 　展示ケース内の空気環境を清浄に保つため、対策の優先順位が高い単体ケース及び壁付ケースにそれぞれ換気ファンを取りつけ、その効果を検証した。その結果、通常の展示スケジュールの中でタイマーを活用して効率的に換気し、良好な空気質の状態が保てることがわかった。 （３）空気環境向上に資する展示台の試作 　揮発性化学物質が発生しにくい材料や空気の循環がしやすい展示台の製作法を検討のうえ試作した。 （４）展示品から放出される汚染物質の特定と対応 　海揚がり考古遺物など、展示品の種類によっては遺物そのものが海底の硫化物（硫黄化合物）を含んでおり、遺物から硫黄化合物蒸気が放出されることによって金属製品に錆が生じる場合があることがわかった。今後このような遺物の展示にあたっては、同じ空間に展示する作品への影響を考慮する必要がある。 ③国内外の博物館等との学術交流 **＜主要な業務実績＞** （東博） ・韓国国立中央博物館との共同主催で「日韓博物館の保存科学設備の活用及び展望」をテーマとしたオンラインセミナーを開催した（10 月 28 日、参加者数 85 人）。 ・日中韓国立博物館長会議（中国国家博物館主催）はオンラインにて開催、３館における今後の交流及び協力の強化について意見交換を行った（７月 27 日）。また、３館による共同企画展覧「東方吉金―中韓日古代青銅器展」を中国国家博物館にて開催した（７月 26 日～10 月９日、入場者数 211,616 人）。 ・26 年から継続して実施しているミュージアム日本美術専門家連携・交流事業の一環として、日本美術専門家会議を３年度に引き続きオンラインにより開催した（５年２月 10 日、参加者数 59 人）。 （京博） ・サンフランシスコ・アジア美術館において、５年度 11 月に開催が計画されている当館寄託の京都の禅宗寺院の名宝を紹介する展覧会について、寄託者、アジア美術館と協議し、開催に向けた準備を継続して行った。 ・国際シンポジウム「アジアの博物館教育は、いま―国立博物館の事例から―」を５年２月４日に開催し、韓国、シンガポール、日本の研究者による事例報告とディスカッションを行った。 ・バード大学院センター（５月６日、米国ニューヨーク市オンライン参加）国際シンポジウム「Conservation Thinking in Japan」で当館職員１名が参加し、発表した。 ・アジア・ソサイエティ（６月 27 日、東京、ハイブリッド形式）「Art for Breakfast」シリーズとして当館職員１名が講演した。	内で情報共有を行い、揮発性有機化合物濃度を低減させるための方策をとることで、より良い保存環境を維持することができた。 各館においては、引き続きコロナ禍の影響を受けて海外の博物館等との学術交流や研究者の招聘・派遣が困難な状況であったが、シンポジウムや国際会議などウェブ会議システム等の効果的な活用（対面との併用等）により、積極的な交流を維持し、ネットワークの構築に努めている。	

		・ICOM プラハ大会（８月 20～28 日 チェコ・プラハ）で当館職員が３名参加し（１名はオンライン）、パネルディスカッションでの発表、ICDAD 国際委員会セッションでの座長、COSTUME 国際委員会での発表を行った。 ・中国古陶瓷学会「唐三彩学術研討会」（８月 28 日、オンライン）で当館職員１名が参加し、研究発表した。 ・ASEAN 文化遺産教育国際ワークショップ（11 月 14 日、カンボジア・プノンペン）で当館職員１名が参加し、講演した。 （奈良博） ・学術交流協定を締結している韓国の国立慶州博物館から２名を招聘し、情報交換を行った。また、韓国の国立扶余博物館、国立益山博物館の研究員展示や教育事業に関して当館において意見交換を行った。 ・セインズベリー日本藝術研究所、大英博物館、敦煌財団及び米国斎藤財団と意見交換を行った。 ・浙江省博物館主催の国際シンポジウム「博物館と地域振興」に職員を派遣し、講演「外国人観光客の影響による博物館の変化 ―奈良国立博物館を例として―」を行った。 （九博） ・カナダ保存研究所(CCI)の研究者と、対面及び一部オンラインで、日本美術の色材の劣化に関する研究協議を実施した。 ・日米両国間の学識者 80 人が集い、両国の文化・教育交流に関する諸問題や文化・教育分野での交流増進等を目的とする「日米文化教育交流会議(カルコン)」国際シンポジウムを共催した（10 月 24 日）。 ・学術文化交流協定を締結した韓国国立公州博物館・扶餘博物館と相互訪問の再開に向けて協議し、両館を館長が訪問した（２月８日～９日）。 ・タイ芸術局、ベトナム国立歴史博物館及び成都博物館との学術文化交流協定を更新した。 ④調査研究成果の公表 **＜主要な業務実績＞** （４館） ・博物館における調査研究成果発信として、図版目録や研究紀要、展覧会図録等の各種刊行物を発行した。 （東博） ・『東京国立博物館文化財修理報告 23』PDF ファイルを当館ウェブサイトで公開し、研究情報の普及を図った。 ・特集印刷物リーフレット等 10 件の PDF ファイル版を当館ウェブサイト上に全件公開することによって、研究情報の普及を図った。 ・「東京国立博物館研究情報アーカイブズ」に『大小暦類聚』データベース」を追加した。また、各研究員の研究成果を継続して更新し、インターネットを活用した情報公開の充実を図った。	東博においては、「東京国立博物館研究情報アーカイブズ」で新規に１件のデータベースを公開した。本データベースの公開は、関連学会においても発表され、今後の活用の拡大が期待される。紀要、『MUSEUM』等の定期刊行物のほか、文化財修理報告等を刊行することができた。加えて、150 周年記念特集展示の刊行物において充実した情報を提供することができた。特集印刷物リーフレットの PDF ファイル版をウェブサイトに掲載し、非来館者も含めた情報発信に努めた。	

	・『東京国立博物館紀要 58 号』を刊行した。 ・『法隆寺献納宝物特別調査概報 XLII(42) 竜首水瓶』（３年度編集完了）を刊行した。 ・『修理調査報告 五馬図巻』『東京国立博物館セレクション 絵巻』『続 根付 高円宮コレクション』『東京国立博物館 考古室へいこう』（考古室ガイドブック）等を刊行した。 ・『博物館でアジアの旅 アジア大発見！』を刊行した。研究誌『MUSEUM』697 号～702 号（６冊）を刊行した。 （京博） ・『文化財保存修理所 修理報告書』20、研究紀要である『学叢』44、『社寺調査報告』32（観心寺彫刻編）を刊行した。『社寺調査報告』32（観心寺彫刻編） は、檜尾山観心寺（大阪府河内長野市）所蔵の文化財悉皆調査の報告書である。悉皆調査が未完了であったため、４年度刊行の『社寺調査報告』31（観心寺）では掲載を見送った彫刻について、別途補足調査を実施して報告書を作成したものである。 （奈良博） ・奈良国立博物館研究紀要『鹿園雑集』第 25 号を刊行した。掲載内容は、作品研究２件、研究ノート１件、調査報告１件、研究報告１件であった。奈良国立博物館リポジトリに掲載した。また、『奈良国立博物館文化財保存修理所 修理報告書』第５号を刊行した。掲載内容は、修理概要 13 件、関係銘文集６件、材質調査（木造）３件であった。また、修理報告資料を整理しデータベース化に努めた。 （九博） ・研究紀要『東風西声』第 18 号『平成 25-27 年度 九州国立博物館 文化財修理報告』（発行部数 600 部）を編集、刊行した。『東風西声』第 18 号には９本の論文を掲載した（うち当館職員執筆６本、外部研究者からの寄稿１本、外部研究者と当館職員の共同執筆２本）。『平成 25-27 年度 九州国立博物館 文化財修理報告』（第５号）では、25 年度～27 年度に当館文化財保存修復施設で行った修理及び当館経費による館外での修理の記録を掲載した。	京博においては、コロナ禍の影響で未完了であった観心寺所蔵品（彫刻）の悉皆調査を終えることができ、年度計画どおり各種報告書や展覧会の図録を刊行することができた。また、研究紀要である『學叢』には、最新の研究成果を論文として掲載し、質の高いものとすることができた。 奈良博においては、定期刊行物、報告書とも、当初予定していたものを全て刊行することができた。研究紀要については、当館研究員のみならず外部研究者による寄稿を掲載するなど、充実の内容とすることができた。 九博においては、『平成 25-27 年度 九州国立博物館 文化財修理報告』（第５号）において対象文化財の基本的情報、施工会社、修理前後の写真、使用材料、修理で得られた知見等を公開し、今後の修理の参考とするだけでなく、学術研究、修理事業の普及啓発など多方面での活用に資する内容となった。 **＜課題と対応＞** 調査研究においては、ぶんかつにおいて国外調査が中止、また東博で特別調査５件が中止となるなど４年度も引き続きコロナ禍の影響を大きく受けたが、感染対策に万全を期したうえで、可能な限り取組みを実施した。調査研究は、その成果が質の高い展示、教育普及事業へとつながる博物館業の根幹ともいえる重要な活動であり、コロナ禍にあっても着実に成果を上げたことは評価に値すると考える。調査研究活動の推進に当たっては特に物理的な移動や対面でのコミュニケーションが必要となることから、コロナ禍のような状況においても活動を維持できるよう備えていく必要がある。 国内外の博物館等との学術交流についてもコロナ禍の影響、特に移動の制約による影響を大きく受けた。代替となる取組みとして、ウェブ会議などオンラインツールを活用し、様々な交流を積極的に推進し、博物館同士のネットワークを維持することができた。オンラインツールはコロナ後の新しい生活様式への対応としても有効であり、今後も効果的に活用するよう努める。	
（５）国内外の博物館活動への寄与 【指標】 ・有形文化財の貸与に関する取組状況（有形文化財の貸与件数） ・国内外の博物館等への援助・助言等に関する取組状況（専門的・技術的な援助・助言の件数，行政，公私立博物館等	①国内外の博物館等への有形文化財の貸与 **＜主要な業務実績＞** （４館） 所蔵品・寄託品の貸与については、国内外の博物館等からの要請に対し、文化財の保存状況を見極めながら、積極的に対応した。 ・文化財の貸与件数　1,579 件 内訳はアウトプット情報（P. ７）を参照	**＜評定と根拠＞** 文化財の貸与については、各館において、公立博物館等の機関からの貸与要請に積極的に対応した結果、貸与件数は 1,579 件となった。貸与先施設の環境及び貸与希望作品の状態を十分確認したうえで、収蔵品の保存状況に配慮し貸出を行っている。 東博・九博においては、文化財活用センターの【国立博物館収蔵品貸与促進事業」を共同して実施し、各地域ゆかりの文化財の展示に貢献した。京博、奈	

の各種委員等への就任件数，依頼事項への対応件数等） 〈目標水準の考え方〉 ・有形文化財の貸与については，適切な保管・展示環境が維持されることを必要条件とし，さらに国宝・重要文化財については，法令等にのっとり文化庁の許可等が必要であるため，依頼内容に応じてその都度検討することとなる。したがって，あらかじめ貸与に関する目標値を設定することになじまないため，中期目標の期間において，貸与件数をモニタリングし評価する。 ・国内外の博物館等における展覧会の企画，運営を始め，博物館等の業務に関する専門的・技術的な協力の依頼については，内容に応じてその都度検討することとなる。したがって，あらかじめ援助・助言に関する目標値を設定することになじまないため，中期目標の期間において，援助・助言件数をモニタリングし評価する。	（東博） ・国内の博物館等 112 機関に 1,056 件、海外の博物館等４機関に 19 件の作品を貸与した。文化財活用センターと共同で国立博物館収蔵品貸与促進事業を実施した。国内の博物館等６機関に 84 件の作品を貸与した。長崎歴史文化博物館等の平常展示のため、年度を越えた長期貸与を実施した。 （京博） ・国内の 70 機関（機関は延べ件数）に対し、計 263 件（館蔵品：123 件、寄託品：140 件）の収蔵品を貸与した。263 件のうち、文化財活用センターが実施する、「国立博物館収蔵品貸与促進事業」での収蔵品貸与は１件である。 ・京都国立近代美術館及び大阪市立美術館の平常展示のため、引き続き館蔵品を９件長期貸与した。また、宮崎県立西都原考古博物館、熊本県教育委員会、京都大学総合博物館の計３館との間で考古資料の相互貸借事業を実施した。 （奈良博） ・所蔵品と寄託品を国内合わせて 26 の機関に計 113 件の貸出を行った。 （九博） ・国内延べ 24 機関に延べ 128 件（うち重要文化財８件）の所蔵品、寄託品を貸与した。文化財活用センターが実施する「国立博物館収蔵品貸与促進事業」において、２機関・29 件の貸与を行い、当該２機関の展覧会開催に寄与することができた。当館収蔵品の充実化、ColBase や当館収蔵品データベースの拡充に伴い、４年度まで当館からの貸与実績がなかった機関からの貸与依頼が増加した。各地域におけるゆかりの当館収蔵品の活用、各機関の展覧会の充実化に貢献できた。巡回展等で複数館に貸与した場合は、それぞれ機関数と収蔵品件数をカウントしている。 ②国内外の博物館等への援助・助言等 **＜主要な業務実績＞** ・公私立博物館等に対する援助・助言件数　417 件 内訳はアウトプット情報（P. ７）を参照 （４館） 公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等に対し、援助・助言を行った。 実績件数は、文化財の調査や保存修理に関する援助・助言、講演会やセミナー等における講演等での協力、さらに、文化庁や地方公共団体等の文化財関係事業・会議への協力を含めたものである。 （東博） ・公私立博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等に対し、122 件の援助・助言を行った。また、３年度より保管文化財に対する特殊な機材を用いた計測、非破壊	良博においては、考古資料や作品を出土地や当初の所在地に貸与し、地元での展示・公開に貢献した。九博においては、福岡県内の博物館等へ長期貸与を行い、福岡や九州の文化財の魅力の地域発信に寄与した。 **＜評定と根拠＞** 各館において、公私立の博物館・美術館等の展覧会等に対して援助・助言を行っている。４年度はコロナ禍における活動制限が緩和されたことから３年度に比べると相談件数は増加した。 東博においては、相談を受け、公私立博物館・美術館で開催される展覧会や運営等についての援助や助言、新規貸与館への環境調査を実施した。また、３年度より開始した公私立博物館・美術館、大学、その他研究機関の要請に応じた保管文化財の調査協力も引き続き行うことができた。 京博においては、文化財防災に関して、多国籍の研究者へ向けた発信をし、さらにシミュレーションによる転倒防止対策に関しても成果を発表することができた。	

		による材質・成分等の調査、その他、特別観覧に該当しない撮影による調査等の外部からの調査協力依頼に対し、調査協力をする事業を開始したが、４年度も引き続き行った。新規貸与館に対する環境調査を実施し、指導助言を行った（実施した新規貸与館は10館、文化財活用センター「国立博物館収蔵品貸与促進事業」関係は２件）。 （京博） ・行政、公私立博物館等の各種委員等への就任などを含め、博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を131件実施した。ウェブ会議システムを活用し、国際研修としてUNESCOチェアITC-DRMCHに協力し、京博の展示・収蔵環境、減災対策などの安全対策への取り組みについて情報発信を行った。また知恩院との連携研究である展示・保管環境に関する調査・研究は、３年度のデータ解析から、４年度新たに照度や空気質対策を実施し効果が得られた。文化財資料の保管環境に関する助言として、４年度は立像２躰について転倒防止対策に関する研究を実施し、社寺等への助言を行った。 （奈良博） ・以下の展覧会等に学術協力として援助・助言を行い、計67件の援助・助言を行った。 渋谷区立松濤美術館 「SHIBUYAで仏教美術―奈良国立博物館コレクションより」４月９日～５月29日 松本市美術館 御大典記念特別展「よみがえる正倉院宝物―再現模造にみる天平の技―」４月 21 日～６月12日 北海道立近代美術館 「聖徳太子1400年御遠忌記念 国宝・法隆寺展」９月３日～10月30日 東北歴史博物館 東日本大震災復興祈念 特別展「悠久の絆 奈良・東北のみほとけ展」５年４月15日～６月11日 （九博） ・97件の援助・助言を行った。また、当館ミュージアムホールにて、「IPMセミナー」(11月15日、主催：当館、共催：文化庁・東京文化財研究所）を開催した。 ・月刊文化財10月号の内容を中心に、文化財の生物劣化対策や最近明らかになった新種の文化財害虫の問題など、博物館、美術館、文書館、図書館、公共団体担当者などに向けて最新の話題を提供した。現地のセミナーには132人が参加、内容紹介の動画配信視聴には、約300人の登録があり、オンラインでの動画配信もその後約２週間にわたって行った。 ・オンラインIPM相談会を実施した。	奈良博においては、他館の要請による当館のコレクション展の外部開催を新たな試みとして実施した。作品選定から展示指導まで積極的に援助を行うことができた。 九博においては、４年度もIPMセミナーを現地及びオンライン配信のハイブリッド形式、IPM相談会についてはオンラインで実施するなど、全国の博物館、美術館、文書館等からの要請に応じて指導、助言を行った。 **＜課題と対応＞** 収蔵品の貸与促進については、各国立博物館と文化財活用センターが連携しつつ、公私立博物館・美術館等の要請に対応し、地域ゆかりの文化財の貸与等を進める。貸与に当たっては、貸与先施設の環境及び貸与作品の状態を十分確認する。 援助・助言については、公私立博物館等からの相談等に適切に対応するほか、研修等の実施にはウェブ会議システム（オンライン）や動画配信等も活用するなど、効果的・効率的な事業の実施に努める。	
	（６）文化財の積極的な活用による文化財の継承につなげる新たな取組 【指標】 ・コンテンツの開発及びモデル事業の推進状況（レプリカや,	**＜主要な業務実績＞** （文化財活用センター） ①　文化財に親しむためのコンテンツ開発とモデル事業の推進 ・各国立博物館、企業等と連携して高精細複製品を制作した。VR、８Kなど先端技術を使った企画コンテンツ事業	**＜評定と根拠＞** 文化財活用センターは、人びとが日本の文化財に親しみ、身近に感じることができるよう、文化財の活用に関する新たな方法や機会を開発し、情報基盤の整備を行うことを使命としており、企業等と連携した高精細複製制作や先端技術を使った体験コン	

	VR・AR，８K映像など企画コンテンツの開発数） ・国立博物館収蔵品貸与促進事業に関する取組状況（事業実施件数及び有形文化財の貸与件数） ・文化財保存等の相談・助言・支援に関する取組状況（専門的・技術的な援助・助言の件数，行政，公私立博物館等の各種委員等への就任件数，依頼事項への対応件数等） ・データベース（ColBase，e国宝）のアクセス件数（前中期目標の期間の実績以上） 〈目標水準の考え方〉 ・企業等との連携を図りつつ，先端技術を駆使し，文化財に親しむためのレプリカやVR等映像コンテンツを開発するためには，内容に応じてその都度検討することとなる。また，国立博物館収蔵品貸与促進事業においては，あらかじめ事業募集を行った上，貸与品は貸与先で開催される展覧会のテーマに沿って，国立博物館における展示に支障のない範囲で作品選定を行う必要がある。文化財保存等の相談・助言・支援においては，文化財保存の観点から博物館活動の活性化に協力するために，国内外の博物館等における展示・収蔵環境に関する相談を随時受け付け，内容に応じてその都度検討することとなる。いずれもあらかじめ目標値を設定することになじまないため，中期目標の期間において，企画コンテンツの開発，国立博物館収蔵品貸与促進事業及び文化財保存等の相談・助言・支援に関する目標は，モニタリングすることとする。 ・ColBase（国立文化財機構所蔵品統合検索システム）では，各国立博物館の所蔵品を横断的に検索でき，また，e国宝（文化財高精細画像公開システム）では，所蔵する国宝・重要文化財の高精細画像を多言語による解説とともに公開している。これ	の新規開発のみならず、既存コンテンツをさらに進化させるべく機能等の改良にも取り組んだ。制作したコンテンツ等は、東京国立博物館創立150年記念特別企画「未来の博物館」などの展示に活用し、同企画のみでも15万人以上に対して文化財に親しむ機会を提供した。 ・東京国立博物館法隆寺宝物館に、高精細複製やデジタルコンテンツを活用した展示「デジタル法隆寺宝物館」を開設した（令和４年度日本博「イノベーション型」プロジェクト）。 ・３年度に文化庁「地域ゆかりの文化資産地方展開促進事業」の委託を受けて制作した文化財鑑賞コンテンツ「ふれる・まわせる名茶碗」を、TEPIA先端技術館のリニューアルオープン展示に提供した他、愛知県陶磁美術館と共同し同館で年間を通じ公開した。 ・「ぶんかつアウトリーチプログラム」として、高精細複製品の外部機関への貸与を行ったほか、全国の小中高等学校、博物館に25件の教育プログラムを提供し、特別支援学級の生徒を含む2,792名の児童生徒・来館者が参加した。（青森県学校教育センターとの連携で行った鑑賞教育にかかる教員研修参加者39名を含む。）また、奈良文化財研究所と協力し、５年度から実施予定の「なぶんけん×ぶんかつアウトリーチプログラム」の新規コンテンツにかかるキットの開発、及び「ぶんかつアウトリーチプログラム」の特別得支援学校用のキットの開発を行った。 ・「なぶんけん×ぶんかつアウトリーチプログラム」の参考動画２本の制作、並びに教員自ら実施するための参考映像教材本編及び解説付番外編の映像を合計４本制作し、奈良文化財研究所及び文化財活用センターの公式YouTubeチャンネルで公開した。 ②　国立博物館の収蔵品の貸与の促進 ・各国立博物館と共同で実施している国立博物館収蔵品貸与促進事業では、国内の博物館等６機関に113件（大規模貸与：２機関79件、小規模貸与：４機関34件）の文化財を貸与した。このうち沖縄県立博物館・美術館については、沖縄の本土復帰50年展の地元開催への貢献となった。また、各館で実施された来館者アンケートからは、展覧会を通じてあらためて地域の文化と歴史を知る良い機会となったなどの声が寄せられた。この事業では、開催館までの往復作品輸送費・保険料・出張費を文化財活用センターが支出し、大規模貸与の事業実施対象館のうち鹿児島県歴史・美術センター黎明館「茶の湯と薩摩」展に対しはこれらに加え広報費も支出した。広報媒体は以下のとおり。 ① ポスター・チラシ、②スマホアプリへの広告掲載ページ制作、③屋外看板、④地元新聞への広告掲載 なお、すべての広告に貸与促進事業の特別協力を受けている旨が明記されている。また、貸与にあたり、東京国立博物館収蔵品11件（沖縄貸与分：９件、滋賀貸与分２件）の応急修理を行った。	テンツの開発などを意欲的に行っている。４年度は、共同研究の成果を特別企画「未来の博物館」において広く公開した。15万人を超える来館者があり、アンケートによる評価等も好調であった。 国立博物館からの作品貸与実績のない「新規貸与館」１館（刈谷市歴史博物館）に対して、本事業を通じて収蔵品を貸し出すことができた。また、島根県立古代出雲歴史博物館、足利市立美術館、鹿児島県歴史・美術センター黎明館、滋賀県立安土城考古博物館、沖縄県立博物館・美術館においては、各地域への里帰り作品を多く貸し出すことができた。特に、沖縄県立博物館・美術館では、現地にはすでに残っておらず県内初公開となる百田紙などの民俗資料も貸与品に含まれ、本事業の趣旨にかなった意義ある事業展開を行うことができた。	

	らの情報を一般に公開することは，国民共有の財産を広く周知する上で重要であり，また，学術研究の進展等にも資すると考えられることから，データベースの充実に取り組むとともに，データベースへのアクセス件数の増加を図ることとし，数値目標は前中期目標の期間の実績以上とする。	・文化財活用センターの保存修理費により修理が完了した東京国立博物館所蔵の「J-1474 石棒」、及び５年度内に完了予定の「J-22408 甕形土器」の２件を、令和６年度国立博物館収蔵品貸与促進事業の申請要項にある、「貸与可能作品リスト」へ追加掲載した。 ③文化財情報のデジタル資源化の推進と国内外への情報発信 ・データベースのアクセス件数 ColBase　250,005 件、e 国宝　818,665 件 ・各施設と連携して、所蔵品データベース「ColBase 国立文化財機構所蔵品統合検索システム」について、掲載画像を追加した（追加画像数 63,379 枚）。収蔵品テキスト情報をダウンロード可能とするなどの機能向上を図った。また、政府標準利用規約 2.0/CC BY を広範に設定し、文化財資料の利活用促進に寄与するとともに、国の分野横断統合ポータル「ジャパンサーチ」と連携する際のメタデータ整備において一つのモデルを提示した活動を評価され、デジタルアーカイブジャパン推進委員会及び実務者検討委員会により新設された「デジタルアーカイブジャパン・アワード」を受賞した。 ・「ジャパンサーチ」と「ColBase」のデータ連携形態を更新し、自動的に定期的なデータ更新が図られる仕組みを構築した。 ・各施設と連携して、「e 国宝 国立文化財機構所蔵 国宝・重要文化財」のデータを更新（追加作品１件）、解説文の見直しを継続して行った（解説文見直し 300 件）。 ・Nintendo Switch のゲームソフト『あつまれ どうぶつの森』の中に、国立文化財機構の所蔵品をモチーフとしたエリアで構成される「ぶんかつ島」を作成した。本ゲームをきっかけとして、ゲームプレイヤーの方々に日本美術並びに当機構所蔵品を知ってもらうことができた。 ・文化財活用センターのウェブサイト、SNS 等を活用し、文化財活用センターの活動の周知並びに、文化財全般にかかる情報の発信を行った。 ③　文化財保存の質的向上に資するための協力、支援、人材育成 ・文化財保護法第 53 条に基づく所有者以外による国宝・重要文化財の公開を予定している 51 施設を対象として、保存環境調査を行った。うち 39 施設については、調査完了後に環境調査報告書を提出し、６施設に関しては公開に問題ない環境であることの簡易的な確認を行った。 ・公開承認施設の申請を予定している２施設に対して保存環境調査を行い、１施設に対して環境調査報告書を提出した。他の１施設については、提出された環境データなどから、現状と今後の管理体制に関する所見を示した。 ・５年度貸与促進事業に応募した 11 施設について、文化財管理、保存体制についての評価を行った。うち、貸与	「ColBase」、「e 国宝」それぞれにおいて、継続的にデータを追加・更新している。さらに、「ColBase」は、テキストダウンロード機能の追加を行うなどコンテンツとシステムの両メンから内容の充実を図ることができた。アクセス件数については、ともに目標値を大きく上回っている。また、国内外で人気があり大きな影響力を持つゲームへの参加し当機構所蔵品情報の発信を行うことで、多くの人々が新たに日本の美術や文化財に対する興味関心を持つきっかけを提供することができた。 コロナ禍の影響を受けてきたが、４年度の実績値はコロナ禍以前の水準に戻り、さらに上回るものもあった。研修、講習会も、当初想定していた回数の実施が実現し、環境管理に関する最新の知見、技術等を周知することができた。また、保存環境に関する調査研究は、学会等で公表するレベルの知見を得るまでとなった。 **＜課題と対応＞** 将来的には文化財施設における環境管理においても、脱炭素が求められ、建築物における木材利用	

		が内定し、かつ東京国立博物館からの貸与実績のない４施設について、展示環境調査に着手した。 ・国内の博物館・美術館等からの保存環境管理や改善に関する相談に対して、助言を行った（87 件）。そのうち、具体的な原因究明や調査研究的な対応が必要と判断した案件に対して、現地調査等の対応を行った(10 件)。 ・新築や増改築を予定している文化財保存施設について、関係者と直接協議を行い、保存のための良好な温湿度や空気環境維持の観点から、設計や設備について、また、竣工後の環境モニタリング方法などに関して助言を行った(15 件）。 ・４年度「美術館・博物館等保存担当学芸員研修（基礎コース)」を８月１日～５日１月 23 日～27 日の２回、同一内容でそれぞれ開催し、基本的な保存環境管理に関する講義や実習を行った（参加者各 20 人)。 ・資料保存専従学芸員等を対象とした「保存環境調査・管理に関する講習会」を８月 23 日と３月６日、それぞれ東京文化財研究所との共催により実施した。 ・新型コロナウイルスに対応した消毒剤の文化財に与える影響及び展示空間の内装材として使用されるクロス材からのアンモニア放散について調査を行い、結果を学会等で発表した。	促進など大きな変革が予想されるため、今後はこれを見据えた情報収集、適切かつ迅速な対応を行っていきたい。	

4. その他参考情報
特になし。

１．当事務及び事業に関する基本情報

Ⅰ－２	Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 ２．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施		
業務に関連する政策・施策	１２　　文化芸術の振興 １２－４　文化芸術を推進するプラットフォームの形成	当該事業実施に係る根拠（個別法条文など）	独立行政法人国立文化財機構法 第12条 第１項
当該項目の重要度、難易度	－	関連する政策評価・行政事業レビュー	令和５年度行政事業レビュー番号 0466

２．主要な経年データ

①　主要なアウトプット（アウトカム）情報

指標等			達成目標	基準値（前中期目標期間最終年度値等）	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
（１）新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究									
①有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究									
学術雑誌等への論文掲載数（件）	（東文研）	実績値	－	3	3	6			
	（奈文研）	実績値	－	7	5	7			
	（２研究所計）	実績値	－	10	8	13			
報告書等の刊行件数（件）	（東文研）	実績値	－	1	2	1			
	（奈文研）	実績値	－	4	2	1			
	（２研究所計）	実績値	－	5	4	2			
②無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査研究									
学術雑誌等への論文掲載数（件）	（東文研）	実績値	－	8	7	11			
	（奈文研）	実績値	－	0	0	0			
	（２研究所計）	実績値	－	8	7	11			
報告書等の刊行件数（件）	（東文研）	実績値	－	15	3	5			
	（奈文研）	実績値	－	0	0	0			
	（２研究所計）	実績値	－	15	3	5			
②　記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究									
学術雑誌等への論文掲載数（件）	（東文研）	実績値	－	0	0	0			
	（奈文研）	実績値	－	47	63	79			
	（２研究所計）	実績値	－	47	63	79			
報告書等の刊行件数（件）	（東文研）	実績値	－	0	0	0			
	（奈文研）	実績値	－	9	10	7			
	（２研究所計）	実績値	－	9	10	7			

②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報）

	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
予算額(千円)	3, 269, 574	3, 253, 669			
決算額(千円)	3, 295, 261	3, 286, 740			
経常費用（千円）	3, 256, 223	3, 341, 379			
経常利益（千円）	24, 616	64, 510			
行政サービス実施コスト(千円)	－	－			
行政コスト（千円）	3, 750, 135	3, 833, 452			
従事人員数	90	88			

※予算額は、２研究所・センターの年度当初の予算額を計上している。
※決算額は、２研究所・センターの決算額を計上している。
※従事人員数は２文化財研究所・センターの全常勤研究職員の人数を計上している。

41

指標等			達成目標	基準値	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
（２）科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究									
①文化財の調査手法に関する研究開発の推進									
学術雑誌等への論文掲載数（件）	（東文研）	実績値	－	5	5	5			
	（奈文研）	実績値	－	8	34	13			
	（２研究所計）	実績値	－	13	39	18			
報告書等の刊行件数（件）	（東文研）	実績値	－	1	1	5			
	（奈文研）	実績値	－	0	0	0			
	（２研究所計）	実績値	－	1	1	5			
②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究									
学術雑誌等への論文掲載数（件）	（東文研）	実績値	－	14	19	22			
	（奈文研）	実績値	－	6	31	26			
	（２研究所計）	実績値	－	20	50	48			
報告書等の刊行件数（件）	（東文研）	実績値	－	10	2	3			
	（奈文研）	実績値	－	0	0	1			
	（２研究所計）	実績値	－	10	2	4			
（３）　文化遺産保護に関する国際協働									
①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進									
文化遺産保護の国際協同に関する取組状況（件）	（東文研）	実績値	－	1	2	4			
	（奈文研）	実績値	－	1	1	1			
	（２研究所計）	実績値	－	2	3	5			
②アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究									
アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する取組状況（件）	（IRCI）	実績値	－	5	5	7			
（４）文化財に関する情報・資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用									
データベースのアクセス件数（件）	（東文研）	実績値	2, 679, 886	4, 078, 322	2, 929, 768	2, 486, 307			
	（奈文研）	実績値	11, 612, 614	14, 183, 774	9, 419, 564	9, 955, 544			
データベースのデータ件数（件）	（東文研）	実績値	－	1, 715, 186	1, 718, 006	1, 801, 110			
	（奈文研）	実績値	－	1, 385, 920	2, 071, 434	2, 292, 801			
公開施設来館者に対する満足度アンケート（%）	（平城宮跡）	実績値	90	90	90	80			
	（飛鳥）	実績値	85	87	83.7	89.3			
公開施設来館者における特別展・企画展の開催件数（件）	（平城宮跡）	実績値	２～３	5	5	4			
	（飛鳥）	実績値	２～３	3	4	4			
公開施設の来館者数（件）	（奈文研）	実績値	－	57, 994	47, 853	71, 367			
学術リポジトリ公開件数（件）	（東文研）	実績値	－	3, 726	3, 845	4, 006			
	（奈文研）	実績値	－	6, 962	7, 454	7, 577			
	（２研究所計）	実績値	－	10, 688	11, 299	11, 583			
（５）地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等									
研修成果の活用状	（東文研）	実績値	80	94	100	94			

42

	況 (件)	(奈文研)	実績値	80	100	100	89			
	専門的・技術的な援助・助言(件)	(東文研)	実績値	―	180	214	261			
		(奈文研)	実績値	―	230	267	227			
		(計)	実績値	―	410	481	488			
	（６）文化財防災に関する取組									
	防災・被災のための連携・協力体制構築への取組状況(件)	(防災)	実績値	―	9	68	53			
	文化財防災に関する技術開発への取組状況(件)	(論文等数)	実績値	―	16	11	29			
		(刊行物等数)	実績値	―	5	2	1			
	文化財防災に関する普及啓発への取組状況(件)	(防災)	実績値	―	3	6	7			

３．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標、中期計画、年度計画

主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価
	業務実績	自己評価	
２．　文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究，協力事業等の実施	**＜実績報告書等参照箇所＞** 令和４年度自己点検評価報告書 各事項に関する業務実績の詳細は、下記のとおり	以下の詳細からＢ評価とした。	評定　B **＜評定に至った理由＞** 　中期計画に定められたとおり、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 　自己評価書の「B」との評価結果が妥当であると確認できたため。 **＜指摘事項、業務運営上の課題及び改善方策＞** ・データベースの活用をさらに広めるため、各施設のホームページからのアクセス導線を工夫していただきたい。 **＜その他事項＞** 有識者からの主な意見は以下のとおり。 ・基礎的・探究的な調査研究は継続的に行ってこそ意義がある。伝統芸能におけるコロナ禍の影響調査は時宜にかなったものであり、その分析結果が待たれる。 ・文化財害虫の調査研究を推進し、メディア等を通じての注意喚起が行われたことを評価。さらに普及啓発にも注力してほしい。 ・文化財総覧 WebGIS という優れたシステムを開発し、かつその内容がメディアでとりあげられ、学会賞まで受賞した点は大きな称賛に値する。これからアクセス数が増えることを期待 ・文化財防災センターにおいて、ガイドラインの整備や地方公共団体との協議、普及啓発活動が進んでいることを評価。
（１）新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究 ①　有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究 〔評価軸〕 ・我が国の美術工芸品や建造物の価値形成の多様性及び歴史・文化の源流の究明等に寄与しているか。 ・有形文化財の保存修復等に寄与しているか。 〔主な定量的指標〕 特になし （関連する評価指標・モニタリング指標） ・具体的な研究成果（評価指標） ・論文等数（モニタリング指標） ・報告書等の刊行数（モニタリング指標）	**＜主要な業務実績＞** 　24 件の研究テーマを設定し、調査研究を実施した。 ・学術雑誌等への論文掲載数 103 件 　内訳はアウトプット情報（P. 41）を参照 ・報告書等の刊行数 14 件 　内訳はアウトプット情報（P. 41）を参照 　主な研究成果は以下のとおり。 （東文研） ・近・現代美術に関する調査研究と資料集成 　岸田劉生の大正期の静物画、《静物（手を描き入れし静物）》（1918 年、個人蔵）、《静物（白き花瓶と台皿と林檎四個）》（1918 年、福島県立美術館）、《静物（茶碗と湯呑と林檎四個）》（1917 年、大阪中之島美術館）、《静物（赤林檎三個、ブリキ罐、茶碗、匙）》（1920 年、大原美術館）などについて光学的調査を行った。また、その成果の一部は当研究所オープンレクチャーで口頭発表した。 ・美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開 　香川県・丸亀市の妙法寺との共同研究で、現在損傷のある与謝蕪村筆「寒山拾得図襖絵」を、当研究所が所蔵する昭和 30 年代のモノクロ写真を利用して復原、撮影を行い、報告書を刊行した。なお復原襖が公開されるにあたり、瀬戸内海放送や NHK 高松放送局にも取材され、その模様が放映された。	**＜評定と根拠＞** 　中期計画に沿った研究テーマにより、それぞれの調査研究を計画に基づき着実に実施した。国内外の機関との共同研究や研究交流を含め、文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究を推進することにより、国・地方公共団体における文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関する基盤の形成に大きく寄与している。 　調査研究の成果については量だけで評価できないことから、学術雑誌等への論文掲載数はモニタリング指標とされているが、３年度は合計 78 件のところ、４年度は 103 件となった。報告書等の刊行数も同様にモニタリング指標とされているが、３年度は合計 17 件のところ、４年度は 14 件となった。 （東文研） ・最近大規模な展覧会も開催されて注目されている岸田劉生の静物画について、光学的調査を実施し、速報的に成果公開する等、当研究所の特色を活かした調査研究を推進できた。また、光学的調査成果を今後の研究に活かしていくために、作品所蔵館の学芸員と研究交流を行い、今後、作品所蔵館と連携協力して研究を推進する基盤を築くことができた。 ・３年度から実施してきた丸亀市妙法寺所蔵の与謝蕪村筆襖絵「寒山拾得図」については、完全な形でのカラー図版が刊行されておらず、今回刊行した報告書が今後の蕪村研究の基礎資料となることが期待される。	
②　無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査研究 〔評価軸〕	（東文研） ・重要無形文化財の保存・活用に資する調査研究等及び無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料	（東文研） ・森林学、民俗技術など関連分野との連携による文化財保存技術及び原材料生産技術調査研究、所内他	

	・無形文化財，無形民俗文化財等の伝承・公開に係る基盤の形成に寄与しているか。 〈主な定量的指標〉 特になし 〈関連する評価指標・モニタリング指標〉 ・具体的な研究成果（評価指標） ・論文等数（モニタリング指標） ・報告書等の刊行数（モニタリング指標）	のデジタル化 無形文化財に関する調査研究として、芸能分野では古典芸能、関連文化財保存技術（三味線、笙ほか製作技術等）、原材料生産技術（ヨシ、桐、竹、桜の樹皮等）の調査研究、伝統芸能におけるコロナ禍の影響調査を実施した。 工芸分野では、文化財保存技術（近世染織技法書の情報整理等）に関する調査研究、工芸技術の防災（珠洲焼等）に関する調査研究を実施した。 現状記録を要する無形文化遺産の記録作成においては、実演記録：宮薗節（宮薗千穐氏ほかによる古典１曲を前後編に分けて収録）、平家（菊央雄司氏ほかによる伝承曲２曲）の映像記録作成（文化財活用センターとの協働）を行った。 また、文化財保存技術映像記録として、太棹三味線修理技術（長編）の作成と公開を行った。また研究調査に基づく成果の公表として、「伝統芸能と新型コロナウイルス―これからの普及・継承―」を開催し、報告書も刊行した。第16回東京文化財研究所無形文化遺産部公開学術講座「無形文化財と映像」を開催した。浅田正徹氏採譜楽譜をデジタル画像化し、公開した。	部署との連携による美術工芸品修理の用具・原材料調査・研究を継続している点を評価した。また、三味線と声のパートを詳細に採譜したことで、音楽分析の貴重な研究材料となる浅田正徹氏の採譜楽譜（浅田譜）のデジタル画像を公開し、伝統芸能分析の発展に寄与するデータを提供することができた。３年度に続きコロナ禍のため調査に制限のある中、様々な対策を講じて調査研究を進め、公開学術講座やフォーラムを実施できたことは高く評価できる。	
		・重要無形民俗文化財の保存・活用に資する調査研究等 風俗慣習調査では、祭礼行事の調査研究（福岡県苅田町等）を実施した。民俗芸能調査では、民俗芸能に拘わる調査研究（岐阜県恵那市、沖縄県八重瀬町等）を実施した。民俗技術調査では、民具製作、食文化に拘わる技術等の調査研究（岐阜県美濃市、岩手県岩泉町等）を実施した。 被災地における無形文化遺産調査（宮城県女川町・福島県浪江町等）では、記録保存・活用に拘わる研究として、斎藤たま民俗調査カード集成の情報整理、ネパール・コカナ集落における民俗誌の活用を行った。 「無形文化遺産総合データベース」の構築と映像・画像等の収集等を行った。 「文化財としての食文化」をテーマに、無形民俗文化財研究協議会（第17回）を５年２月１日に開催した。	・継続的に行っている継承危機や自然災害に関わる無形民俗文化財の調査・研究に加え、コロナ禍に中止していた民俗行事等の再開に関わる調査や、新たな登録文化財に関する調査も実施することができた。また、３年度の無形・無形民俗の登録文化財制度の創設に伴い新規に登録の対象となった「食文化」分野をテーマにした協議会を企画し、今後の方針について国と地方行政の関係者を招いた協議の場を設定することができた。国内での調査研究手法を活かし作成したネパールのコカナ集落における民俗誌（元年度製作）を、現地コミュニティに提供し、文化財の活用について協議を行うことができた。	
	③　記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 〈評価軸〉 ・記念物の保存・活用に寄与しているか。 ・古代国家の形成過程や社会生活等の解明に寄与しているか。 ・文化的景観に関する保存・活用並びに研究の進展に寄与しているか。 ・埋蔵文化財に関する研究の深化に寄与しているか。 〈主な定量的指標〉 特になし 〈関連する評価指標・モニタリング指標〉 ・具体的な研究成果（評価指標） ・論文等数（モニタリング指標） ・報告書等の刊行数（モニタリング指標）	（奈文研） ・西大寺弥勒金堂の発掘調査（第655次） 調査目的：西大寺弥勒金堂基壇の確認 調査面積：44 ㎡ 調査期間：５年３月１　日～４月３日（３月20日（月）現地見学会：約150人来場） 主な検出遺構：金堂基壇土、壺地業６基、礎石抜取穴６基、瓦溝１条等。 主な出土遺物：瓦塼、土師器・須恵器・中近世陶磁器、木質遺物、凝灰岩等。 調査所見：これまでの発掘調査成果及び復原研究で想定していたとおり、奈良時代創建の弥勒金堂基壇の東北隅部分を確認した。弥勒金堂の礎石抜取穴や壺地業等の遺構を検出したことで、小面積ながら柱位置を検討する材料を得ることができ、また奈良時代後期の官寺金堂の基壇築成技術を解明することができた。	（奈文研） ・これまで周辺の調査成果から想定していた弥勒金堂の遺構を初めて発掘調査で確認した。正確な位置・規模を推定できたことに加え、特異な基壇築成技術を知ることができ、奈良時代最後の官寺の実態を検討する貴重な資料を得た。それにより、弥勒金堂及び金堂院全体の復元研究を推進し、将来の史跡指定につなげる成果を上げることができた。 また、近隣住民を対象とした現地見学会を開催した。開催にあたっては、各種調整のうえ地元の自治会や小学校の協力を得て広報を行い、参加者からは遺構の理解やこの土地の重要性を知ることができたと好評を得た。	
		・藤原宮大極殿院地区の発掘調査 藤原宮大極殿院の発掘調査（飛鳥藤原第210次調査）を実施した。 調査地：橿原市醍醐町 調査期間：５月９日～８月26日 調査面積：565 ㎡ 調査成果：大極殿後方基壇及び大極殿後方西回廊の規模と構造を明らかにした。大極殿後方基壇は東西50m、南北約16m、大極殿後方回廊基壇から南北に約３m ずつ張り出す構造をもつ。大極殿後方西回廊については、桁行約4.1m（14尺）等間、梁行約2.9m（10尺）等間の礎石建ち、瓦葺きの複廊であることを確定した。大極殿後方基壇上に想定される建物は大極殿後殿にあたり、後方回廊はそれに取り付く軒廊と考えられる。以上、古代日本の宮都構造の変遷を考える上で重要な成果を上げることができた。	・近年の調査成果を受け大極殿北方の調査を行い、藤原宮大極殿院の構造及び造営過程に関する重要なデータを取得できた。また、藤原宮大極殿の北側において、大極殿の「後殿」に相当すると考えられる施設を遺構として認識できたことにより、藤原宮と他の古代宮都の今後の研究に資する成果を提示できた。第200次調査（元年度）における大極殿後方東回廊の発見を端緒とし、１年ごとに成果と課題を積み上げることで、藤原宮における大極殿「後殿」の存否に関して一定の結論を得ることができた。	
		・平城宮・京跡出土遺物・遺構の調査・研究 (1)２～４年度の発掘調査及び既往の調査における出土遺物の整理及び検出遺構の調査と研究 ２年度平城宮東方官衙地区の調査（第621次）、４年度平城京の調査（第647～654次）等で出土した各種遺物の洗浄・整理・実測・分析・保存処理等及び検出した遺構の検討を実施した。 報告書の刊行に向け、平城宮東区朝堂院地区、平城京左京三条一坊一・八坪、右京一条二坊四坪・二条二坊一坪等で出土した遺構・遺物の整理・分析及び報告書の執筆・編集作業等を行った。 (2)調査・研究成果の公表 ３・４年度に実施した発掘調査及び２年度以前に実施した発掘調査出土遺物の研究成果について『奈良文化財研究所発掘調査報告 2023』（５年12月刊行予定）（ア）にて報告すべく、その研究及び報文の執筆を実施した。 奈良文化財研究所70周年記念・平城宮跡史跡指定100周年記念特別展『地下の正倉院展－平城木簡年代記〔クロニクル〕』（10月15日～11月13日 於平城宮跡資料館）を開催し、展示図録（イ）を刊行した。 『平城宮発掘調査出土木簡概報』（四十六）（ウ）	・２～４年度の発掘調査で出土した遺物・遺構の整理作業を継続的に進め、調査研究を実施した（ア）。当研究所創立70周年記念事業に伴い、多くの研究成果を公表した。 発掘調査、出土遺物の整理研究の成果をより効果的に公表するために、これまでの事業報告である『紀要』に代わって、４年度から新たに『発掘調査報告書』の刊行を計画し執筆したほか、記念事業に伴う展覧会とその図録等、多様な形態での研究成果公開を実施した。未発表資料を公表したほか、既発表資料を再検討した成果を積極的に提示し、平城宮京の遺跡・遺構・遺物の研究を推進した（(ア)～(ウ)）。 また、3D 計測を遺構・遺物の記録に応用し、調査期間や調査費用の効率化に取り組んだ。 これまで蓄積してきた平城宮・京の調査成果に新しい資料を追加した。既発表の遺構・遺物を再検討し、平城宮京の理解を深めることができた。	

		を刊行した。 企画調整部展示企画室が実施した奈良文化財研究所 70 周年・平城宮跡史跡指定 100 周年記念特別展『のこった奇跡 のこした軌跡ー未来につなぐ平城宮跡ー』(10 月 29 日～12 月 11 日 於 平城宮いざない館)(エ)の出展遺物選定及び展示図録の解説文執筆・校正を行った。 『奈良文化財研究所七十年の軌跡 創立七十周年記念』(オ)の刊行に際し、近 10 年の平城地区発掘調査概要ほかの調査研究活動について執筆・校正した。 ・古代瓦に関する研究集会の開催及び報告書刊行 第 22 回シンポジウム「奈良末～平安初期の軒瓦」を５年２月４日(土)・５日(日)の両日、奈良文化財研究所平城宮跡資料館講堂において開催した。 同時にオンラインによる配信を実施し、多くの参加者を得た。研究発表は、岩永玲 (奈文研)「平城宮の瓦」のほか計７本である。 奈良時代末から長岡京期を経て、平安時代初期に至る軒瓦の変遷過程と系譜関係を明らかにすることができた。また、シンポジウム２日目の午後には、発表者全員が参加し発表内容に関する総合討議を行った。シンポジウム開催に際し、発表内容の要旨(ア)を編集・刊行し、研究会参加者等に配布した。	・シンポジウムでは、これまで議論にはなっていなかった奈良時代末から平安時代初期までの瓦の変遷を明らかにした点は、古代瓦研究において大きな意義があったと考えられる。平安時代瓦の研究者は全国でも少なく、その研究成果の認知度も飛鳥・奈良時代と比べて高くない。今後、シンポジウムを継続していくことで、平安時代瓦研究を推進していく見通しができた。 **＜課題と対応＞** ー
	（２）科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究	**＜主要な業務実績＞** 以下 19 件の研究テーマを設定し、調査研究を実施した。 ・学術雑誌等への論文掲載数　66 件 内訳はアウトプット情報（P. 42）を参照 ・報告書等の刊行数　９件 内訳はアウトプット情報（P. 42）を参照	**＜評定と根拠＞** 中期計画に沿った研究テーマにより、それぞれの調査研究を計画に基づき実施し、文化財の調査手法に関する研究・開発を推進した。 調査研究の成果については量だけで評価できないことから、学術雑誌等への論文掲載数はモニタリング指標とされているが、３年度は合計 89 件のところ、４年度は 66 件であった。報告書等の刊行数は３年度合計３件のところ、４年度は９件となった。
	① 文化財の調査手法に関する研究開発 〈評価軸〉 ・科学技術を的確に応用し、文化財の保存・修復の調査手法の正確性、効率性等の向上に寄与しているか。 〈主な定量的指標〉 特になし （関連する評価指標・モニタリング指標） ・具体的な研究成果（評価指標） ・論文等数（モニタリング指標）	主な研究成果は以下のとおり。 （東文研） ・文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究 デジタル画像の形成方法の研究開発として、他のプロジェクトと連携、外部からの依頼により、中之島香雪美術館所蔵《レパント戦闘図・世界地図屏風》、旧ジャッカ・ドフニ収蔵品等多数の文化財について、多様な光源を用いた光学調査、記録作成を実施した。また、ガラス乾板の特性、特に色情報の再現性に関する調査として、沖縄県立博物館・美術館の共同研究に関する同館との協議、タイ文化省芸術局での調査を実施、ガラス乾板の画像のデジタル化に関する技術開発を行った。 記録作成に関する共同研究として、撮影手引書編纂、目録作成及び情報公開等を主題とした「文化財の記録作成手法等の共同研究に関する覚書」を北海	（東文研） ・デジタル画像の形成方法の研究開発では、カメラを用いたガラス乾板のデジタル化で鮮明で情報量の多い画像が得られることから、失われた文化財についての研究の進展が期待される。記録作成に関する共同研究では、実務者が自ら文化財の特徴を写真に記録、情報を整理・発信できることを目指しており、成果発信による技能向上が期待される。研究成果の公開では、『春日権現験記絵　光学調査報告書』を継続して刊行し、所外からの依頼及び他プロジェクトとの連携も行い光学調査を継続的に行った。また、セミナーでは、情報発信における留意点の提示、他館の若手学芸員による事例紹介など、実務者の要請に応えた内容とすることができた。

	・報告書等の刊行数（モニタリング指標）	道立北方民族博物館と締結、９月７日～10 日、12 月 19 日～23 日、５年２月 19 日～22 日に同館での調査研究及び協議を実施した。また、「写真の保存と保護のための写真の基礎」を久下謙一氏（千葉大学）にご寄稿いただき、ウェブコンテンツとして公開した。 研究成果の公開としては、『扇面法華経ー光学調査報告書』(カラー編)、同（近紫外線写真・蛍光写真・近赤外線写真編)、『宮内庁三の丸尚蔵館所蔵 国宝 絹本著色 春日権現験記絵巻十三・巻十四 光学調査報告書』の３冊の報告書を刊行した。また、プロジェクト「文化財情報基盤の整備・充実」と連携、６月２日に研修会「文化財写真入門ー文化財の記録としての写真撮影実践講座」を北海道立北方民族博物館において同館と共催、11 人が参加した。また、９月２日に「文化財の記録作成に関するセミナー「記録作成と情報発信・画像圧縮の利用」を当研究所で開催、66 人が参加した。 （奈文研） ・年輪年代学研究 出土遺物、建造物、美術工芸品等多岐にわたる木造文化財を対象とした年輪年代学に関する調査・研究を実施するとともに、関連学会・研究会の運営を行った。 正倉院聖語蔵の調査では、これまで明確ではなかった本建造物の年代について、治承の兵火の後に再建されたことを示唆する年輪年代測定成果が得られた。 仁和寺塔中蔵聖教箱の調査では、ある代表的なものを対象にするのではなく一括性の高い試料群を悉皆的に調査に供し、同一材推定を中心とした分析を行うことにより、箱製作の同時性や原材からの木取りなど、箱製作の様相を明らかにするとともに、製作年代の絞り込みを行うことができた。また、日本植生史学会・日本花粉学会合同大会、日本木材学会木質文化財研究会を、奈良文化財研究所共催事業として実施するにあたり、実行委員として中心的に運営するなど、関連分野の最新の研究交流及び研究活動の普及を行った。	（奈文研） ・年輪年代学に関する調査・研究により、各種文化財の歴史的考究に資する情報を提供することができた。正倉院聖語蔵や仁和寺塔中蔵聖教箱における年輪年代測定成果は、建築史学や歴史学などに寄与するものと言える。また、従来、年代測定手法として使用されることの多かった年輪年代学を、同一材推定の視点から一括性の高い文書箱に応用し、箱製作の同時性や、箱製作の様相を明らかにするだけでなく、製作年代の絞り込みを行うことができたという点も４年度の成果の大きな特徴である。
	② 文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 〈評価軸〉 ・科学技術を的確に応用し、文化財の保存・修復の質的向上に寄与しているか 〈主な定量的指標〉 特になし （関連する評価指標・モニタリング指標） ・具体的な研究成果（評価指	**＜主要な業務実績＞** （東文研） ・文化財生物劣化の分子生物学的手法による機構解明と環境調和型対策 ○木造文化財建造物の湿度制御温風殺虫処理の技術開発に関して、国内３例目として実施された実証実験（８月下旬～９月上旬）について、殺虫効果判定を含む第三者評価を行った。また、殺虫処理効果判定の供試虫の改良に向けて木材害虫の収集・人工飼育法確立の検討を進めた。 ○国内で新たに確認された文化財害虫（ニュウハク	（東文研） 学術論文・報告９報と学会発表５演題の計 14 件の成果報告を行ったことは、研究成果の公開としても十分な成果をあげたと考える。 文化財建造物の湿度制御温風殺虫処理法の社会実装に向けた応用研究を発展させることができた。 日本で新たに確認された文化財害虫「ニュウハク

標） ・論文等数（モニタリング指標） ・報告書等の刊行数（モニタリング指標）	シミ）について国内の分布域の調査や本種の生理学的性質を調査し、論文にまとめ報告した。さらにメディア・研修等を通じて本種の拡大防止に向けた情報提供を行い、防除策のひとつとしてベイト剤（毒餌）に関する基礎研究を行った。 ○木造文化財建造物を加害する５種のシバンムシ科甲虫について、新たにPCR法を応用した分子生物学的手法によって検出する技術を確立し、その成果を報告した。 ○被災紙資料を想定した殺カビと乾燥を両立させる湿熱殺菌乾燥処理方法の開発を目指し、カビの胞子や菌糸の熱耐性に関する基礎試験を実施した。 ○国内の鍾乳洞や古墳環境において微生物叢解析を実施し、微生物劣化に関わる菌叢の特定や生態学的な役割、物質循環に関する基礎研究を進めた。	シミ」について分布域や生態調査を速やかに行い、メディア・研修等を通じて広く注意喚起することができた。 ３年度に続き分子生物学的手法を応用して文化財建造物の加害虫を虫糞から特定する技術を発展させることができた。 被災資料の殺菌と乾燥を両立させる新規の処理方法の開発を目指した基礎研究を開始することができた。
	・文化財の材質・構造・状態調査に関する研究 ○可搬型蛍光Ｘ線分析装置による材料調査として、国宝扇面法華経冊子（四天王寺）に使われている金色文字がすべて真鍮泥であること、２種類の白色顔料（鉛白と胡粉）が使い分けられていることを見出した。また３年度に分析方法・分析条件の最適化を行った可搬型ハイパースペクトルカメラを用いて、絵画に用いられている彩色材料の現地調査を実施した。研究成果発表として、論文２件、学会発表２件の研究成果発表を行うとともに、国宝 扇面法華経冊子（四天王寺）及び国宝 久能寺経（個人蔵）に関する光学調査報告書を刊行した。 ○現代アート作品の金属装飾部分の腐食生成物の分析を実施した。また、劣化要因となる化学物質の発生源を調べるための調査手法の開発を行った。 ○高輪築堤から採取された目地材の分析結果をまとめて報告を行った。	分析調査の効率を上げるために、蛍光Ｘ線分析及びハイパースペクトルカメラを固定する治具の改良を行い、現地調査に適用させた。また日本絵画等に関する材料調査結果を蓄積し、報告書の刊行を行った。 現代アート作品を含む多くの文化財資料に用いられている鉛で発生した腐食生成物の分析、及び腐食の要因となる化学物質の発生源を特定するための基礎実験と調査を実施した点を高く評価した。 近年存在が明らかになった高輪築堤から採取された目地材の材料分析を実施し、その分析結果を『保存科学』62 号にて報告した。
	・文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究 ○文化財修復のための技術と材料に関する調査研究では、３年度開始した「文化財修理技術者のための科学知識基礎研修」(10 月 31 日～11 月２日）を４年度も開催したが、さらに海外の講師を招聘してナノセルロースに関するワークショップも開催した（10 月５日～７日「文化財修復処置に関するワークショップ−ナノセルロースの利用について−」）。このワークショップは２年度に開催予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大のため延期したもので、好評を博した。また、実際の研究としては酵素を使用して過去に使用したデンプンの除去方法について検討し、エタノール処理による手法を見出した。また、紫外線を用いた劣	国内外での文化財修復における科学的知識の需要に応え、研修を ２件開催した。中でも欧米を中心にして発展した新規文化財修復技法の現状をとらえた研修・情報収集の実践を行えた点を評価した。

	化絹の作成方法の実務評価、臼杵磨崖仏の石材表面再接着材料の現地試験の評価及び例年にない現象についての解析等、３年度開始した研究をさらに発展させた。 ○伝統材料・技法に関する複合的調査研究としては、文化庁の行う美術工芸品修理に用いる用具・材料の調査に協力し、今後の生産確保が非常に難しいとされる材料や道具について、 科学的な評価と安全な保存方法の検討を行っている。４年度は特に紙の原材料のノリウツギやネリなどに関する科学分析と現地調査を行った。また、漆の乾燥過程における白色化の原因を調査し、初期硬化過程における水分量との関連性を解明した。	伝統材料の物性を調査し、その特徴に関する分析を行っている点は、他組織では行われていない上に、文化財修復に関する科学的な技術の開発という独自の視点を持つ点を評価した。得られたデータをもとに、今後、新たな修復材料の開発や伝統材料・技法の記録保全や提言が見込まれ、かつ、多くの文化財修復に導入可能で将来性・発展性があると考えられる。 研究成果の公開としては、複数のテーマを効率的に遂行しつつ、学会発表 18 本を含め多くの成果を発信することができた。
	（奈文研） ・遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究 ○福井県に所在の一乗谷朝倉氏遺跡において露出展示されている庭園景石の劣化要因を推定するための環境条件のモニタリング及び凍結破砕を抑制する冬季養生法について検討、実地試験を行った。また新設の博物館内で露出展示している地盤遺構に対して、遺構保存に適した埋め戻し保存法の検討を行った。これらの調査成果の一部を『一乗谷朝倉氏遺跡博物館研究紀要』に報告した。 ○石造文化財の乾湿繰り返し劣化のメカニズム及びその抑制手法を検討するため、モルタルによる模擬石材を用いた乾湿繰り返し実験を行った。乾湿繰り返し時に材料内部で発生するひずみの分布、大きさを試料の Ｘ線 CT 画像と画像相関法による画像解析から推定した。 ○塩害が進行するレンガ倉庫を対象に塩害の劣化状態調査を実施した。またレンガを対象に電気的脱塩を試み、レンガ内部の塩の移動状況について蛍光 Ｘ線分析法による元素マッピング測定から推定した。 ・考古遺物を中心とした文化財の材質調査に関する調査研究 ○赤外領域の波長を使用したマルチスペクトルイメージング技術の文化財調査への有効性に関する研究及び青色顔料の判別における赤外線顕微鏡による表面観察の有効性についての研究に着手した。	（奈文研） 遺構の露出展示を行う新施設の建築に合わせた調査検討や世界遺産登録を目指す構成要素の遺跡を対象として、遺跡の安定した保存を担保しつつ、公開・活用に資する技術の研究・開発を行った。既往の手法が材料の強化に主眼を置くものであったのに対して、本研究は遺跡における熱水分移動解析に基づいて将来生じ得る遺構の劣化を予測し、それをあらかじめ回避するために適切な環境の制御を行うことで遺構保存を実現することを目的としており、独創的な研究と言える。 乾湿の繰り返しや塩類析出など、遺構で生じる劣化現象は熱、水分と溶質移動によって引き起こされる普遍的なものである。石材の乾湿繰り返しに関する定量的な評価や塩移動のモニタリング手法の開発など本研究から得られた知見は汎用性に富むもので、広範な分野にわたる様々な遺構への応用が期待される。 青色顔料の判別において、これまで積極的に利用されてこなかった赤外線顕微鏡による表面観察の有効性について検討を開始した。蛍光Ｘ線イメージングに加えて４年度は赤外領域の波長を使用したマルチスペクトルイメージング技術を文化財分野に導入を検討することで、様々な光学的情報を効率的に収集することが可能になると期待される。
	○可搬型蛍光Ｘ線分析装置及び据え置き型の蛍光Ｘ線分析装置を用いて、日本で出土するガラス製遺物の材質分析データの収集を進めるとともに、可視分光分析によりガラス着色剤に関するデータの収集を行った。また、鉛及びSr 同位体比分	蛍光Ｘ線分析調査においては、出土遺物の劣化特性や分析手法の特性についての理解不足に起因する問題が散見される昨今の状況を踏まえ、本研究により出土遺物の蛍光Ｘ線分析についてのガイドラインの確立に寄与できる。ガラス製遺物や石製遺物につ

	析を実施することで、原料産地に関するデータの蓄積を進めた。 ○石製品については、伝・持田古墳群及び青森県猪ノ鼻遺跡出土玉類についてX線回折分析を実施し、これまで積極的に行われてこなかった鉱物組成による分類に向けてデータ収集を進めた。 ○日鉄テクノロジー株式会社と共同で TIMS 及び MC-ICPMS による鉛同位体比分析の比較研究、LA-ICPMS の文化財分析への応用可能性に関する基礎研究を実施した。出土遺物の蛍光X線分析についてのガイドライン作成のための基礎実験を進め、5年度の公表に向けて成果の取りまとめを行った。 ・遺跡現地における壁画の安定した保存と公開活用を行うための劣化状態調査、適切な石室内の熱水分環境に関する検討 ○京都大学桂キャンパスに所在の模擬古墳を用いて、石室内部の熱水分環境の実測調査、腐食試験を行い、温熱・水分環境の形成プロセス、腐食メカニズムについて検討した。得られた成果の一部を国際会議で発表した。 ○装飾古墳である日田市ガランドヤ古墳1、2号墳において環境調査を継続して実施した。4年度は共用開始された1号墳保存施設内部の環境モニタリングを継続して実施した。2号墳は石室内部の結露及び緑生物の繁茂を低減すべく石室の気密性の向上を図り、引き続き環境条件のモニタリングを実施した。 ○熊本地震で被災した永安寺東、西古墳の石室温熱環境データの解析を行った。墳丘上に繁茂する樹木が伐採された熊本市の千金甲古墳において、樹木の伐採が墳丘封土及び石室内部の水分環境、温熱環境に及ぼす影響について検討するため、墳丘現地に気象観測装置を設置しデータ収集を行った。また、装飾が描かれた石障の保存状態をモニタリングするために、石障の SFM（複数の写真から被写体の立体形状を復元する技術）モデルを作成した。 ○高松塚古墳の目地漆喰を対象に、漆喰の平衡含水率測定や細孔径分布計測から水分移動特性の検討を行った。また東京文化財研究所が作成した漆喰資料に対して、同様の測定を行い、高松塚古墳の漆喰を模した試料としての妥当性について評価した。	いては、従来の蛍光X線分析に加えて、X線回折分析や同位体比分析を進めることで、具体的な産地推定につながるデータを収集した。 日鉄テクノロジー株式会社と共同研究では、新たな手法として LA-ICP-MS の文化財への応用を検討することで、日本の文化財分析技術の発展と国際競争力の向上に寄与する研究を進めた。 実験条件を同一に整えることができる模擬古墳において、継続的かつ効率的に古墳石室の保存環境及び遺物の劣化状態に関するデータを収集することができた。また、古墳を構成する石材や土壌といった多孔質材料の劣化現象のうち、特に乾湿繰り返し劣化に着目して、劣化メカニズム解明を目的とした基礎研究を行った。この成果から装飾古墳を現地で安定に保存する環境条件が構築されると期待される。 装飾古墳における熱水分移動モデルとこれらを構成する材料の劣化モデルの練成を進めており、高松塚古墳やキトラ古墳並びに遺跡現地において装飾を安定して保存する環境解を定量的に検討しうると期待される。 熊本地震で被災した装飾古墳を中心に応急的な対応を行うとともに、高松塚古墳壁画の新施設を念頭に古墳壁画の適切な保存環境について検討した。 **＜課題と対応＞** ―	
（3）文化遺産保護に関する国際協働				

①　文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 〈評価軸〉 ・文化遺産国際協力を推進するとともに，国際協力推進体制について中核的な役割を担っているか。 〈主な定量的指標〉 特になし 〈関連する評価指標・モニタリング指標〉 ・文化遺産保護の国際協働に関する取組状況（諸外国の研究機関等との共同研究等の実施件数）	**＜主要な業務実績＞** 10 件の研究等テーマを設定し、調査研究等を実施した。 主な研究等成果は以下のとおり。 ・諸外国の研究機関等との共同研究等の実施件 5件 （東文研） ・アジア諸国等文化遺産保存修復協力 1．カンボジアのアンコール地域保存管理機構（APSARA）との間で、タネイ寺院遺跡の保存整備に関する協力事業を継続した。6月 12 日～7月3日（3人）と 11 月1日～19 日（5人）の派遣では、東門の修復を完了するとともに、排水改良を含む同門周囲での発掘調査、中心伽藍の安全性向上対策等を行った。また、アンコール国際調整委員会 ICC 等出席のため 12 月 12 日～18 日に職員1人を派遣した。 2．ブータン内務文化省文化局との伝統的民家保存活用に関する共同現地調査を再開した。11 月4日～16 日に4人を派遣し、中部4県の石造及び版築造民家並びに集落の調査を実施、7年度までを期間とする協力覚書に調印した。 3．ネパールのカトマンズ王宮・シヴァ寺の震災復旧に関してネパール考古局（DOA）及び JICA との協力を継続した。8月 22 日～9月2日の派遣（1人）では、歴史的集落復興のための市長会議再開に向けた協議や仏教僧院復興に関する聞き取り調査等を行った。 4．バーレーンへ2次にわたる派遣を行った。 7月 21 日～26 日の派遣（3人）で新規協力事業開始のための協議及び候補地調査を行い、 5年2月 10 日～18 日の派遣（3人）ではイスラム墓碑の 3D ドキュメンテーション作業を実施した。 5．メソポタミア考古学教育研究所と共催でオンラインシンポジウム「メソポタミアの水と人」を開催した。10 月 22 日、聴講者 50 人。 6．バーレーン・デンマーク・英・仏から各1人の専門家を招聘し（12 月9日～16 日）、国内専門家とともにバーレーンとアラビア半島の考古遺産をテーマとした国際シンポジウムを 11 日に東京（聴講者 30 人）、14 日に金沢（聴講者 15 人）で開催した。 7．協力事業においても導入を進めているデジタル計測技術の技能向上に資するため、職員を対象に、写真測量と 3D 計測に関する講習を 10 月、ドローンに関する講習を4月と9月にそれぞれ実施した。 （奈文研）	**＜評定と根拠＞** 計画に基づき、文化財保護に関する国際協力に関して、事業を有機的・総合的に展開している。文化財保護に関する国際協力を通じて、我が国の国際貢献に寄与している。 諸外国の研究機関等との共同研究等の実施件数は、3年度は合計3件のところ、4年度は5件となった。 （東文研） コロナ禍が依然終息しない中でいち早く海外派遣を再開し、協力相手先機関の要請に応じて現地での技術協力や今後の計画推進に必要な調整等を行うことができた。また、オンライン会議の活用や別地域での調査の連続実施など効率化にも努めつつ、外部専門家に頼ることなく最新技術の活用を行うなど高い成果を挙げることができた。スタッフの専門性を活かし、バーレーンでの新規協力を開始したほか、調査実績の乏しいブータン中東部での民家調査に着手した。 以上のとおり、相手国や関係機関との綿密な連携により、コロナ禍でも中断することなく、円滑に現地派遣も含めた技術協力を実施することができた点は高く評価できると判断した。 （奈文研）	

		・アジア地域等の文化遺産に関する調査研究及び保護協力事業 西トップ遺跡の中央祠堂の修復事業について、現地スタッフにオンラインで指示しながら、通年で作業を進めている。装飾のある砂岩材については、目録作成と写真撮影のため収蔵庫へ収容している。 韓国・国立文化財研究院が主催するオンライン国際会議において、佐藤企画調整部国際井関研究室主任研究員が事業の最新成果について講演を行った（10月28日）。 アンコール遺跡群世界遺産登録30周年記念式典及びアンコール遺跡群国際調整会議に加藤企画調整部長が参加し、これまでの事業に対する表彰を受けるとともに、事業報告を行った（12月14日～16日）。	・アジア諸国の文化遺産保護に関する国際協力が必要とされる状況に適切に対応した。西トップ遺跡の中央祠堂の修復事業は、アンコールにおける初期上座仏教寺院の初めての本格的な調査・修復であるが、今回の調査修復によって、調査研究の面だけでなく、現地専門家の育成にもつながると考えられる。また、オンラインツールを活用しながら作業員を適切に配し、効率的な調査修復を行うことができた。
②　アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究 〈評価軸〉 ・アジア太平洋地域の無形文化遺産の保護に向けた調査研究等の国際協力を推進しているか。 〈主な定量的指標〉 特になし 〈関連する評価指標・モニタリング指標〉 ・アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する取組状況（国際協力事業の実施件数）	（IRCI） ・アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究 アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関し、以下の調査研究事業を通じて、無形文化遺産保護及びそのための研究促進に貢献した。 （１）無形文化遺産保護パートナーシップ事業（文化庁受託） ①海外研究機関との連携による研究情報の持続的な収集（中央アジア・小島嶼開発途上国） ②拠点形成による無形文化遺産保護のための研究ネットワーク強化 ③無形文化遺産保護と災害リスクマネジメントに関する研究 （２）無形文化遺産の持続的な開発への貢献に関する研究―持続可能なまちづくりと無形文化遺産 ・カンボジア、マレーシア、フィジーで予備調査を実施（文化財保存活用基金） ・国際シンポジウム開催（ユネスコ未来共創プラットフォーム事業）– （３）新型コロナ感染症の無形文化遺産への影響についての調査研究（文化財保存活用基金） ・現地機関・研究者と連携し現地調査を実施（対象国：イラン、インド、インドネシア、韓国、キルギス、パプアニューギニア、バングラデシュ、フィジー、モンゴル） （４）情報公開等 ①冊子等の作成：『IRCI 概要 2022』日・英版、『IRCI リーフレット』日・英版 ②SNSの活用促進：公式 Facebook ページ開設、Facebook グループ開設、YouTube での記録動画公開開始	（IRCI） （１）「③無形文化遺産保護の災害リスクマネジメント」及び「（３）新型コロナ感染症の無形文化遺産への影響についての調査研究」は、国際的な関心が高まっている事柄であり、かつ、現在も継続中の課題であることから時宜にかなったものと言える。また、「（２）無形文化遺産の持続的な開発への貢献に関する研究―持続可能なまちづくりと無形文化遺産」はSDGsへの貢献を目指すものである点を評価した。 ４年度より始動した（１）「②拠点形成による無形文化遺産保護のための研究ネットワーク強化」では、オンラインを活用し、アジア太平洋地域に限らず無形文化遺産関係者に広く参加者を集めることができたことで今後の進展が期待されること、また現地調査が再開され様々な研究事例の蓄積が進みつつあることも評価した。

		＜課題と対応＞ ―
（４）文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用 ①文化財情報基盤の整備・充実 【指標】 ・文化財に関するデータベースのアクセス件数（前中期目標の期間の実績以上） 【関連指標】 ・データベースのデータ件数 〈目標水準の考え方〉 ・文化財に関するデータベースのアクセス件数については，研究の進展等にも資すると考えられることから，データベースの充実に取り組むとともに，文化財に関するデータベースへのアクセス件数の増加を図ることとし，数値目標は前中期目標の期間の実績以上を指標とする。	**＜主要な業務実績＞** 10件の研究等テーマを設定し、調査研究等を実施した。 主な研究等成果は以下のとおり。 （奈文研） ・文化財に関するデータベースの充実 文化財情報データベースの充実として、従来より進めている報告書抄録、報告書の各データベースに関して、データの入力・更新を行った。 全国の博物館等の文化財関係機関が作成している文化財3Dモデルと公開できる「全国 文化財情報デジタルツインプラットフォーム」を新たに公開した。産業技術総合研究所との共同研究成果である。文化財3Dモデルを3D地図上に表示できるため、地形や都市ビルデータ等を合わせて閲覧できることから、今後、土地等の開発と文化財保護の両立を図っていくプラットフォームとして重要な役割を果たすことが期待される。 ○全国遺跡報告総覧には新たに以下の新機能を追加した。 ・OCR済みのPDFに一括差し替え 237件 ・重複書誌を整理し、報告書総目録掲載対象項目を表示 ・遺跡抄録の遺跡種別に「水中」を追加 ・Twitter ツイート時に管理機関名と Twitter アカウントを表示する機能を追加 ・NCIDと JP番号の一括登録（NCID：9,303件・JP 番号：11,607件） ・書誌の巻次及びシリーズ番号にて一括置換 ○文化財総覧 WebGIS には新たに以下の新機能を追加した。また、文化財総覧 WebGIS は、デジタルアーカイブ学会による第４回学会賞 学術賞（基盤・システム）を受賞した。 ・三重県四日市市の遺跡情報を登録 ・自然災害伝承碑の詳細表示と3D地形表示の機能公開	**＜評定と根拠＞** 計画に基づき文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用を行った。文化財に関するデータベースのアクセス件数は異常アクセスの遮断等の影響もあり、12,441,851件と、前中期目標の期間の平均値 14,292,500 件に比べ減少した（87.1%）。関連指標であるデータベースのデータ件数は、３年度は 3,789,440 件の所、４年度は 4,093,911件となり、順調に増加している。 （奈文研） ・４年度に公開した「全国文化財情報デジタルツインプラットフォーム」は、オンライン3D地図に文化財の3Dモデルを搭載できるシステムであり、世界的にも先進的な高度システムである。産業技術総合研究所との共同研究の成果であるが、先進技術を用いた文化財データの展開事例として重要である。また、文化財総覧 WebGIS がデジタルアーカイブ学会による第４回学会賞 学術賞（基盤・システム）を受賞するなど、データベースのアクセス件数は、目標値を下回ったものの、ページ閲覧数やダウンロード数は３年度比で 18%増加しており、認知度や利用頻度が高まっている。これらより、内容豊かなデータベースとして著しく発展していることから、定量評価の目標値は若干未達であるものの十分な成果をあげたと判断した。

		・静岡県、岐阜県の CS 立体図追加 ・自然災害伝承碑のポップアップ表示	
		・文化財情報のデジタルアーカイブに関する実践研究 ○データ長期保管 災害が多発する日本において、データの安定的な長期保管は課題である。特に津波等においては、サーバなどの機器が消失する場合があり、バックアップが重要である。また災害時でも可用性を高めるためには、ストレージのクラウド化が有効である。当研究所では、４年度にクラウドストレージを導入・展開した。長期保管を必要とされる研究データについて、容量無制限に保管できる環境を運用開始した。 ○公開活用に関する法律研究 研究報告第 37 冊『デジタル技術による文化財情報の記録と利活用 5』を刊行した。「映像資料や文化財動画に現れる個人情報について」や「文化財デジタルアーカイブに関する権利処理の概観」など、デジタルアーカイブ、Tidy データのありかた、知的財産権や権利処理などの論考を掲載している。	・災害が多発する昨今の状況に鑑みて、データの長期保管は至急必要な実践研究であり、ストレージ環境を実運用開始したことで災害対応を実現することができた。また、容量無制限のストレージ環境で、高稼働率の継続性を実現したストレージ環境であり、業務継続性の確保を実現した。文化財データの長期保管や法律面の課題は、日本全国あるいは世界共通の課題である。IT 技術の進化は加速しており、それにキャッチアップした研究報告の刊行は意義がある。また、研究報告は法律専門家と作成しており、ガイドラインとして有用で、文化財関係機関の業務に資することができると考える。以上のように、当初計画以上の成果をあげていると判断した。
		（東文研） ・専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡大 ○文化財情報の発信 文化財画像などの効果的な利活用のために、著作権などに関する法律問題を広く扱う弁護士数藤雅彦氏を招き「データ利用についての実務を学ぶ勉強会」を開催した（７月 10 日）。 当研究所所蔵資料を活用した文化財研究を支援するために、大学・大学院学生、美術館・博物館職員を対象とした「資料閲覧室利用ガイダンス」を立ち上げ、実施した（７月１日）。 ○アーカイブを利用した研究・外部機関への協力 戦前の消失前の写真を「京都智積院の名宝」展（サントリー美術館）へ提供、報道にも協力したほか、「いにしえが好き！」展（国立歴史民俗博物館）へガラス乾板画像を提供した。 ○文化財研究のためのデータ蓄積と公開 文化財防災への活用も見据えて、「東文研総合検索」等文化財アーカイブ機能を更新した。特に「展覧会における新型コロナウイルスの影響データベース」に新規に 50 件を追加し、３年公開分も適宜更新した。 資料閲覧室の運営・管理 資料受け入れ数：感染症防止対策のため ３年度に引き続き事前予約制での開室を継続、週３回（４月 15 日までは週２回）開室した。図書等の受け入れ 和漢書 1,909 件、洋書 53 件、展覧会図録・報告書等 1,909 件、雑誌 2,903 件（合計 6,774 件）・閲覧室利用状況：公開	（東文研） ・弁護士等の専門家と連携して、著作権等の専門的な知見も取り入れた、より効果的な情報発信を目指す取組みを推進できたこと、専門的アーカイブと総合的レファレンスの充実を推進するための新たな枠組みとして資料閲覧室利用ガイダンス、データ利用勉強会を立ち上げたこと、またオープンアクセス資料をさらに増やしたほか、「展覧会における新型コロナウイルスの影響データベース」を更新し３年度を上回る計 1,450 件の展覧会情報を公開できたことを評価した。

		日総数 129 日・年間利用者合計 877 人	
	②調査研究成果の発信 【関連指標】 ・学術情報リポジトリ等によるウェブサイトにおける論文等の公開件数	（東文研、奈文研） ・文化財に関する調査研究の成果について、公開講演会、現地見学会、シンポジウムの開催等により、多元的に発信した。 ・定期刊行物の刊行を行った。	学術情報リポジトリ等によるウェブサイトにおける論文等の公開件数について３年度実績の 11,299 件から４年度は 11,583 件となり、着実に増えている。調査研究成果については、論文の公開（刊行物、ウェブサイト等）のほか、講演会や説明会、シンポジウムなど様々な形で広く発信するよう努めている。
		（東文研） ・オープンレクチャーを開催した。大テーマは ３年度と同じく「かたちを見る、かたちを読む」とした。新型コロナウイルスの感染防止を考慮し、３年度と同様に内部講師２名による１日の開催としたが、聴講者定員は 30 名から 50 名に増やし、抽選制とした。当研究所・文化財情報資料部より２名の講演を行った。 ＜講演テーマ＞ 江村知子（文化財情報資料部長） 「遊楽図のまなざし―徳川美術館蔵・相応寺屏風を中心に」 吉田暁子（文化財情報資料部研究員） 「岸田劉生の静物画―「見る」ことの主題化」	（東文研） ・オープンレクチャーのテーマは「かたちを見る、かたちを読む」と今期中期計画に一貫したものだが、４年度の所員２名による発表は、高精細画像や光学調査や化学分析の成果によって、作品の「かたちを見る」ことを重視しつつも、それを美術史的な研究に還元し、「かたちを読む」という解釈によって、作品の真の姿に迫ろうとした点で、参加者からも好評を得た。
		（奈文研） ・平城宮跡史跡指定 100 周年・奈良文化財研究所創立 70 周年記念シンポジウム （６月 25 日） テーマ「平城宮跡の過去・現在・未来」（来場者数：328 名）	
	③展示公開施設の充実 【指標】 ・公開施設来館者に対する満足度アンケート（特別展・企画展）（満足度が前中期目標の期間と同程度の水準を維持） 【関連指標】 ・公開施設における特別展・企画展の開催件数（年２～３回程度） ・公開施設の来館者数 〈目標水準の考え方〉 ・奈良文化財研究所の平城宮跡資料館・飛鳥資料館は，発掘調査等の研究成果を適時に展示することが重要であり，特別展・企画展については，定期的又は定量的な指標を示すことが困難であるため，来館者に対する満足度アンケートの満足度が前中期目標の期間と同程	（奈文研） ・平城宮跡資料館・飛鳥資料館・藤原宮跡資料室における展示公開において、以下の展覧会を開催した。 ○平城宮跡資料館 ・春期特別展「未来につなぐ平城宮跡」（４月 29 日～６月 12 日、40 日間、7,893 人） ・夏期企画展「大地鳴動」（７月 16 日～８月 28 日、38 日間、4,106 人） ・秋期特別展（１）「地下の正倉院展」（10 月 15 日～11 月 13 日、26 日間、7,628 人） ・秋期特別展（２）「のこった奇跡 のこした軌跡」（於：平城宮跡いざない館企画展室 10 月 29 日	（奈文研） ４年度もコロナ禍の影響を受けたが、感染対策を徹底し、計画どおり特別展、企画展を開催することができた（平城宮跡資料館と飛鳥資料館で計８回）。特別展、企画展の満足度アンケートの満足度は、目標水準値が 85％のところ、平城宮跡資料館の満足度が 80％、飛鳥資料館の満足度が 89.3％となった。入館者数は、平城宮跡資料館で 39,515 人（３年度 25,264 人）、飛鳥資料館で 24,719 人（３年度 17,363 人）、藤原宮跡資料室で 7,133 人（３年度 5,226 人）であった。 ・平城宮跡史跡指定 100 周年、当研究所創立 70 周年、高松塚古墳発見 50 周年に合わせた企画展示を平城宮跡資料館、平城宮いざない館、飛鳥資料館でそれぞれ開催した。展覧会や当研究所；平城宮跡の広報活動として行ったインターネット配信の視聴者数の伸びもよく、満足度 99％超と好評を得ることができた。また、平城宮跡資料館の公式 Twitter は開始８か月でフォロワー3,000 人を獲得すること

	度の水準を維持することを目標とする。	～12 月 11 日、43 日間、36,339 人） ・展覧会や当研究所・平城宮跡を紹介する内容のインターネット生配信（ニコニコ美術館）を２回実施した。アンケートでは満足度 99%を得た。（各回５時間、視聴者①32,208 人、②26,492 人） ・公式 Twitter の開設や 100 周年を記念した平城宮跡公式キャラクターの発表を行うなど、積極的に広報に取り組んだ。 ○飛鳥資料館 ・ミニ展示 「飛鳥資料館に寄贈された瓦」（４月 22 日～５月 22 日 28 日間、3,268 人） ・夏期企画展「第 13 回写真コンテスト「高松塚古墳」作品展」（７月 15 日～９月 11 日 51 日間、2,912 人）応募 77 点 ・秋期特別展「飛鳥美人 高松塚古墳の魅力」（10 月 21 日～12 月 18 日 51 日間、7,280 人） ・冬期企画展「飛鳥の考古学 2021」（５年１月 20 日～３月 12 日 45 日間、3,360 人） ○藤原宮跡資料室 ・常設展示に加え、ロビーにて「藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第 208 次）」、「石神遺跡 SD1347A 出土の土器（石神遺跡第 14・15 次）」（11 月１日～３月 31 日）を実施。	ができた。各公開施設は SNS の活用を進めた広報面での新たな取組みを強化しており、展示活動の普及・広報の新しい展開が期待できる。 **＜課題と対応＞** ―
	（５）地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等	**＜主要な業務実績＞** 21 件のテーマを設定し、研修及び協力等を実施した。	**＜評定と根拠＞** 文化財に関する研修・協力等についてもコロナ禍の影響を受ける中ではあったが、対策を講じながら各事業を実施し、国や地方公共団体、大学等研究機関など関係機関との連携協力体制の構築に努め、発信等、当機構では下記のとおり研修及び協力等を行った。アンケートによる研修成果の活用実績は、目標値 80%のところ、91.5%となり目標値を上回った。
	①文化財に関する研修の実施 【指標】 ・研修成果の活用状況（アンケートによる研修成果の活用実績が 80%以上） 〈目標水準の考え方〉 ・地方公共団体等における文化財に係る専門人材の資質の向上は，我が国全体の文化財行政等の基盤を支える観点から重要である。中期目標の期間においては，各研修の目的，項目及び課程等の研修体系を策定するとともに，アンケートにより地方公共団体等の要望や研修成果の活用状況を調査し，適宜研修プログラム等に反映する。	研修等に関して主な実績は以下のとおり。 （東文研） ・第２回博物館・美術館等保存担当学芸員研修（上級コース）（７月４日～８日、受講者 19 人） 研修内容は下記のとおり。 文化財の科学調査文化財 IPM 概論・実践・実習、屋外資料の劣化と保存、保存環境に関する理論と実習、修復材料の種類と特性、多様な文化財の保存と修復、空気質について、博物館の防災、写真の収蔵管理・取り扱い等、民具の保存、紙の保存修復、大量文書の保存処理、近代文化遺産の保存、文化財修理の実務。	（東文研） ・「博物館・美術館等保存担当学芸員研修」では、現在博物館・美術館等での課題に対して重点を置いたカリキュラムで実施した点、東文研保存科学研究センター各研究員等の高い専門性により、他では実現できない研修内容となっている点、外部の講師を増やし、多方面の文化財保存に対応できるカリキュラムにした点、様々な保存修復分野の講義・実習を１週間で学べるよう時間配分を考えて実施できた点、地域の保存担当学芸員に対し研修を行うことで、その地域における文化財保存科学の知識を高めることができた点を評価した。また、研修終了後にカリキュラム各項目の理解度や有用度、今後の要望等に関するアンケート調査では、９割を超える参加者から有益と評価された。

		（奈文研） ・文化財担当者研修は、新型コロナウイルス対策のため規模を縮小した上で、遺跡の発掘調査や保存・整備等に関し必要な知識と技術の研鑽を図るため、地方公共団体等の文化財担当職員を対象として専門研修 13 課程・特別研修１課程の研修を実施し、延べ 312 人が受講した。一部の研修では対面と併せオンラインによる講義も取り入れた。	（奈文研） ・史跡等保存活用計画策定課程など、公共性、緊急性が高い研修を行った。いずれの研修も当研究所以外では実施していない我が国では唯一無二のものであり、かつ最新の知見を盛り込み、研修内容の独自性、新規性、卓越性を備えて実施した。講義・実験室の密をさけるため、対面での講義の定員数を限定したが、研修受講者に対するアンケート調査では、100%から「有意義であった」「役に立った」との回答を得ており、かなり深く掘り下げた講義内容につながった。また、一部課程においては、オンラインによる講義を積極的に実施したこともあり、受講者数も３年度比＋173 人と大幅に増加した。また研修成果の活用状況も 89%と目標を達成することができた。
	②文化財に関する協力・助言等 【指標】 ・専門的・技術的な援助・助言の取組状況（行政，公私立博物館等の各種委員等への就任件数，依頼事項への対応件数等） 〈目標水準の考え方〉 行政機関が実施する発掘調査や史跡整備事業を始め，博物館等の業務に関する専門的・技術的な協力の依頼については，内容に応じて都度検討することとなる。したがって，あらかじめ援助・助言に関する目標値を設定することになじまないため，援助・助言件数をモニタリングし総合的に評価する。	協力・助言については、以下の内容で 488 件実施した。 （東文研） ・文化財の収集、保管に関する指導助言　38 件 ・無形文化遺産に関する助言　35 件 ・文化財の虫菌害に関する調査・助言　47 件 ・文化財の修復及び整備に関する調査・助言　64 件 ・文化財の材質・構造に関する調査・助言　36 件 ・美術館・博物館等の環境調査と援助・助言　41 件 （奈文研） ・地方公共団体等が行う文化財及びその保存・活用に関する技術的助言　187 件 ・地方公共団体等が行う平城地区の発掘調査等への援助・助言　24 件 ・地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への指導・助言　13 件 ・地震・水害等により被災した文化財の復旧に関する地方公共団体等が行う文化財保護事業への支援協力　３件	専門的・技術的な協力依頼についてはその内容に応じて対応を検討することになるため、援助・助言件数はモニタリング指標とされているが、３年度は東文研、奈文研でそれぞれ 214 件、267 件だったところ、４年度は 261 件、227 件となった。 （東文研） ・「文化財の虫菌害に関する調査・助言」では、被害の拡大を防ぐことが最優先となる生物被害対策において、全国から寄せられた相談案件に対して迅速かつ適切に対応することができた点を高く評価した。 ・動産・不動産いずれの文化財も対象とし、虫菌害をはじめ植物や鳥獣害など幅広い生物被害に対応した。特に虫害・菌害はそれぞれの専門家を有し、総合的に対応する点で他機関にはない独自性がある。 ・限られたプロジェクトスタッフでそれぞれの専門性を生かして、短期間で現地調査や分析試験を分担し、相談を受けた全案件に対応することができた。 （奈文研） ・「地震・水害等により被災した文化財の復旧に関する地方公共団体等が行う文化財保護事業への支援・協力」では、自然災害における文化財の保全について、既に発生した被災遺跡の復旧とそれに伴う情報や経験の蓄積は重要なものと考えられる。４年度は、新たに熊本県玉名市及び和歌山県和歌山市の２基の古墳を調査対象に加え、養生に用いるシートの透水性状について類例を増やすとともに、継続的かつ適切にこれらの情報収集や対応を進めることができた。

	・蓄積されている調査研究の成果を活かし、他機関等との共同研究及び受託研究を実施した。 （東文研）受託研究５件、共同研究２件 （奈文研）受託研究 37 件	
③平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力	（奈文研） 国土交通省が行う平城宮いざない館での公開活用事業への協力を行っている。 〔平城宮跡史跡指定 100 周年事業関連〕 ・通常時は当研究所ではいざない館では主催特別展を開催していないが、史跡指定 100 周年を記念し、特別展「のこった奇跡 のこした軌跡ー未来につなぐ平城宮跡ー」を開催した。（10 月 29 日～12 月 11 日） ・史跡指定 100 周年、平城宮跡及びいざない館も紹介する内容のパンフレットを制作し、全国の文化財関連機関・マスコミ等に配布した。 ・特別展で展示した、隼人の楯に関わる京田辺市無形文化財である隼人舞を紹介するイベント及びギャラリートークを実施し、来館者の展示に対する 一層の理解を促した。（10 月 29 日） ・平城宮跡及びいざない館の常設展、上記特別展の解説・案内をニコニコ美術館にて生配信した。(11 月 12 日） ・平城宮跡史跡指 100 周年記念ツアーガイドを NPO 法人平城宮跡サポートネットワークと共催し、実施した。（12 月 10 日）	（奈文研） ・平城宮跡史跡指定 100 周年に合わせた特別展やイベントの実施のほか、ロゴマークや公式キャラクターの展開・広報活動を行い、周年事業の周知に努めた。また、初の試みとしてニコニコ美術館生配信事業に参画し、いざない館を知らなかった幅広い層にその存在や展示内容をアピールすることができ、今後の平城宮いざない館での公開・活用事業に大きく寄与できた。以上のとおり、平城宮跡史跡指定 100 周年である４年度においては、いざない館において、さまざまなイベント・広報活動を協力・連携して行うことができ、メモリアルイヤーにおける平城宮の魅力を大きくアピールすることができた。
	・キトラ古墳壁画の第 23 回公開（５月 21 日～６月 19 日）、第 24 回公開（７月 23 日～８月 21 日）、第 25 回公開（10 月 15 日～11 月 13 日）、第 26 回公開（５年１月 21 日～２月 19 日）の広報物と解説リーフレット（日中英韓の多言語対応）、解説映像、解説音声の作成に協力した。 ・壁画非公開期間における展示室公開と新年特別展示「キトラ古墳壁画に込められた思想」（12 月 15 日～５年１月 17 日）の開催にあたり企画・制作・展示などで協力した。 ・キトラ天文図を解説するプラネタリウムイベント２回（10 月 27 日～11 月６日、５年２月２日～２月 12 日）を実施し、椅子を座り心地の良いものに変更し好評を得た。 ・キトラ古墳壁画天文図解説映像公開イベント１回（新しい 2D 版の天文図解説映像の公開とギャラリートーク）、「四神の館文化財講座」講演２回の実施に協力した。 ・文化庁、国土交通省飛鳥歴史公園事務所、飛鳥管理センターほかと月１回の定例協議を継続した。キトラ古墳周辺地区内の飛鳥管理センターとは毎日ミーティングを行い、広報等について協力した。	・キトラ天文図と関連が深い内容で実施したプラネタリウムイベントは、秋の天文図公開に合わせて開催し好評を得た。また、過去に作成したプラネタリウム投影用映像を他館に提供できるようになり、今後の利用促進が期待できる。 ・オリジナリティが高いキトラ古墳天文図を題材にした 2D 版解説映像の公開と研究成果を活かしたギャラリートーク、研究員の専門を活かした講座を開催することができた。 ・文化庁、国土交通省飛鳥歴史公園事務所、飛鳥管理センターほかと開催する定例協議には、年度途中から星野リゾート、明日香村観光協会、明日香村文化財課も会議に順次参加し、さらに連携が強化されており、今後の新しい展開が期待できる。

	た。	
④連携大学院との連携教育等の推進	（東文研） ・東京藝術大学との間での連携大学院教育を行った。教育効果とその時々の感染状況とを考慮し、オンライン講義と対面講義を併用して教育を進めた。また、成績評価等、文化財保存学専攻運営への協力も積極的に行った。 （奈文研） ・京都大学大学院人間・環境学研究科、奈良女子大学大学院人間文化総合化学研究科の大学院生及び奈良大学文学部文化財学科の大学生へ講義、演習、実習を通しての研究指導を行った。	（東文研） ・修士入試において、結果として合格者が出たことから、５年度以降の大学院教育が一層充実することが予想される。コロナ禍でオンラインと対面との使い分けで教育レベルを保つことができた。 （奈文研） ・これまで蓄積してきた研究成果を基に大学への教育協力を実施することにより、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材の育成に貢献できた。 **＜課題と対応＞** 「文化財の虫菌害に関する調査・助言」など生物被害は緊急性を要することが多く、迅速な対応が求められる。しかし、年々相談件数は増加しており、人員が限られる中では対応することが困難となってきている。相談件数を減らすためには生物被害発生の絶対数を減らすことが重要であり、普及啓発活動を継続して取り組んでいく必要がある。
（６）文化財防災に関する取組 【指標】 ・防災・救援のための連携・協力体制構築への取組状況（都道府県内各種会合等への会議等参加数） ・文化財防災に関する技術開発への取組状況（論文等数，報告書等の刊行数） ・文化財防災に関する普及啓発への取組状況（シンポジウム等の開催件数） 〈目標水準の考え方〉 ・文化財の防災・救援のための連携・協力体制の構築に関しては，都道府県内連携体制の構築・促進，地域ブロック内における地域間連携の促進を図るためには，都道府県内の各種会合等に参加する必要がある。また，文化財防災のための技術開発に関しては，各種の施設・設備の安全対策，被災文化財の応急処置・修復処置，被災文化財の保管環境等に関する調査研究を推進する必要がある	**＜主要な業務実績＞** （文化財防災センター） 文化財の防災・救援のための地域防災体制の構築、災害時ガイドライン等の整備、レスキュー及び収蔵・展示における技術開発、文化財防災を促進するための普及啓発、文化財防災に関係する情報の収集と活用を図った。 ・道府県内各種会合等への会議等参加数　53 件 ・文化財防災に関する技術開発への取組状況（論文等数，報告書等の刊行数）　30 件 ・文化財防災に関する普及啓発への取組状況（シンポジウム等の開催件数）　７件 ①地域防災体制の構築 ○都道府県文化財主管課等との協議（48 回開催） ○文化財保存活用大綱の分析 ・北海道・東北地方、中国・四国地方、九州地方の大綱の記述を整理し、都道府県内の連携体制について検討した。 ○文化財保存活用地域計画に関するヒアリング調査及び策定に係る協議を実施した（３回） ・市町村文化財主管課等との協議（６回開催） ○文化財の救援活動を実施した。 ・４年３月 16 日発生福島県沖を震源とする地震	**＜評定と根拠＞** （文化財防災センター） 文化財の防災・救援のための連携・協力体制の構築、文化財防災のための技術開発、専門的な知見から必要となる支援を行うとともに、文化財防災に関する地域の専門的人材の育成を図るため、計画に基づき事業を実施した。また、災害が発生した際は、地方公共団体の依頼に応じて文化財の被災状況に関する現地調査を実施し、技術的助言を行うなど、文化財防災センターの設置から３年目を迎え、着実に我が国文化財の防災・救援に寄与している。 ・地方公共団体が取り組む地域の防災体制構築への関心が高いことから順調に協議を進めることができた。更に、市町村からも地域計画策定などへのアドバイスが求められるようになった点が、当センターの活動が着実に深まっていることを示している。また、制作中の防災マニュアルへのコメント要望など、初期段階等全面的に役割を求められるようになってきたこと、新潟県の救援活動において県側が主体的に県内ネットワークを意識した活動が実現できるなど、センターの取り組みの進展が明瞭に確認できた。

	が，いずれもあらかじめ目標値を設定することになじまないため，都道府県内各種会合等への会議等参加数及び文化財防災のための技術開発に関する論文等数，報告書等の刊行数をモニタリングし総合的に評価する。 ・文化財防災に関する普及啓発への取組においては，専門的人材の育成を図るためのシンポジウム，講演会，研修及びワークショップ等を開催し，調査研究の成果公表等を進めるとともに，課題の共有化等を図る必要があるが，あらかじめ目標値を設定することになじまないため，中期目標の期間において，普及啓発への取組状況をモニタリングし総合的に評価する。	・４年６月 19 日発生能登半島を震源とする地震 ○県及び市の依頼に応じて、被災文化財について現地調査を実施し、対応等に関する技術的助言を行った。 ・６月 14 日 新潟県佐渡市 二宮神社市指定有形文化財石造狛犬 ・８月 30 日 新潟県東蒲原郡阿賀町 重要文化財五十嵐家住宅（建造物とともに什器の取扱についても協議） ・10 月 15 日、16 日 東京都青梅市 雲慶院焼損資料処置 ②災害時ガイドライン等の整備 ○無形文化遺産の防災事業 ・３年度開催の有識者会議での議論の成果を踏まえ、災害を経験した以下の無形民俗文化財及び無形文化財の被害状況や伝承活動に対する影響について、現地調査を実施した。 a）等覚寺の松会（福岡県京都郡苅田町）３年８月前線に伴う大雨による公開地の土砂災害 b）珠洲焼（石川県珠洲市）４年６月 19 日発生・石川県能登地方の地震による工房被害 c）お法使祭（熊本県上益城郡益城町・阿蘇郡西原村・菊池郡菊陽町）熊本地震の復興状況 ○被災建造物調査事業の推進 ・４年３月に日本建築学会ほかと締結した災害発生時の歴史的建造物調査に関する協定に基づき、災害発生時の被災建造物調査に関するガイドラインの策定に取り組んだ。 ○史跡名勝天然記念物における文化財の安全対策 ・過去の文化庁による補助金の交付対象となった史跡及び名勝に関する災害復旧事業について、事業内容の分析を行った。 ○レスキュー活動における安全対策ガイドラインの策定 ・体系的なガイドラインの策定に向けて、必要とされるガイドラインの洗い出しと、今後の策定計画を作成した。 ③レスキュー及び収蔵・展示における技術開発 以下のとおりの技術開発、調査研究を実施した。 ○社寺等における文化財の安全対策に関する研究 ○文化財建造物及び展示収蔵環境の防火対策に関する研究 ○災害時の一時保管施設の確保と環境整備に関する調査研究 ○灰汁を使用した水損資料の処置方法に関する研究 ○文化財の災害リスクの所在とその対処手法に	・災害発生が予見できない中で、基本的なガイドラインの策定に取り組んでおり、需要、必要性、緊急性、公開性の観点から、建築学会ほかと３年度に締結した協定に基づき、被災建造物調査事業を実際に実施し、協定内容の課題を見出すとともに、より実践的な体制の構築が図られた。 ・本事業は、所有者、被災者からのニーズに基づき事業を立ち上げており、特に防火対策に関する研究は、時宜にもかなったものである。これらの成果は多様な文化財の防災に応用されるものであり、意義のある調査研究を進めることができた。なお、技術開発・調査研究の成果については、ガイドライン等のかたちで公表を予定している。	

		関する研究会 ○けいはんなオープンイノベーションセンターにおける一時保管体制の構築 ④文化財防災を促進するための普及啓発 ○国際会議「アジア太平洋地域における文化財防災の現状と課題Ⅱ ―災害後の復旧・復興の事例と課題―」 共催：文化庁、ICCROM、文化財防災センター、公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所 日程：12 月 21 日～22 日、参加者：（会場）21 日８人、22 日６人、（オンライン参加）21 日 102 人、22 日 96 人 ○京都市・文化財防災センター連携事業文化財防火デーイベント「京都における文化財防災ネットワークの構築を目指して」 主催：文化財防災センター、京都国立博物館、京都府教育委員会、京都市 日程：５年１月 19 日 参加者：40 人（会場）、298 人（YouTube アーカイブ配信視聴数） ○シンポジウム「無形文化遺産と防災―被災の経験から考える防災・減災―」 主催：文化財防災センター 共催：東京文化財研究所 日程：５年３月７日 参加者：87 人 ○「水損書画の初期処置ワークショップ」共催：九州国立博物館、日程：11 月２日、参加者：６人 ○「一時保管場所におけるゾーニングワークショップ」 共催：東京文化財研究所 日程：12 月 16 日 参加者：12 人 ○ぼうさいこくたい 2022（10 月 22 日、23 日、神戸市）に参加し、一般向けへのアピール法などについて検討を行った。 ○ウェブサイトアクセス件数 18,111 件 ○英語版の事業パンフレットを作成し、海外への情報発信を行った。（発行部数 500 部（ウェブサイトへの PDF 公開）） ○文化財防災に関する理解促進と情報発信を目的として、各種普及啓発本の企画及び出版を行った。 ○『令和３年度文化財防災センター年次報告書』（400 部）を６月に刊行。 ○事業報告会を２回開催（６月 29 日、12 月 20 日） ○文化財防災に係る技術開発や、災害発生時における被災文化財救援活動等に活用するため、３月 10 日に「文化財防災救援基金」を設立した。	・文化財の防災は特に地方公共団体の専門職員のニーズが高く、これらに対応するためにオンライン等を用いて聴講しやすいイベントなどを行った。また、水損書画の初期処置ワークショップに取り組むなど新たな試みを行った。また、「ぼうさいこくたい 2022」に出展し、これまで関心の広がらない層にもアピールをすることができ、さらに英語版パンフレットの刊行など海外向けの発信に力を入れただけでなく、４年度新規に計画した文化財防災救援基金は、その発足が主要マスコミに取りあげられ、募金も順調に集まるなど反応も良く、文化財防災に対して一般の人が参加できる仕組みを新たに作ることができた。文化財防災救援基金の発足は、５年度以降の実践の活動を支える基盤となり、広く国民に文化財防災の必要性をアピールする機会にも繋がった。	

		（４年度寄附収入額 297,000 円） ④　文化財防災に関係する情報の収集と活用 ・文化財防災に関係する学会・研究会・イベント等への参加（３人延べ９回） ・昨年に引き続き奈良市消防局主催の檜皮葺の燃焼実験に参加し、新たな知見を得た。（２回、４人参加） ・各種リスクに対する博物館等の対応や課題を整理するため、博物館等における危機管理マニュアルの収集・分析事業に着手した。 ・国際会議、国際学会、国際研究会に参加し、研究発表を行った。（参加 14 人、発表 10 件） ・文化遺産防災ネットワーク推進会議及び幹事会の開催（各２回開催） ・文化遺産の防災に関する有識者会議の開催（２回開催）	・海外の情報収集は現地渡航が可能になったこともあり、対面・オンラインを含めた多様なかたちでの取り組みを行えた。とりわけ ICOM Prague 2022 では、ウクライナ情勢を反映した中で、当センターの取り組みについてはウクライナ人が大きな関心を示すなど、海外のニーズを掴むとともに、海外の取り組みと我が国との違いについて大きな成果を上げることができた。 **＜課題と対応＞** ―	

４．その他参考情報
特になし。

様式１－１－４－２　中期目標管理法人　年度評価　項目別評定調書（業務運営の効率化に関する事項、財務内容の改善に関する事項及びその他の業務運営に関する重要事項）様式

１．当事務及び事業に関する基本情報			
Ⅱ	業務運営の効率化に関する事項		
当該項目の重要度、難易度	―	関連する政策評価・行政事業レビュー	令和５年度行政事業レビュー番号　0466

２．主要な経年データ

評価対象となる指標		達成目標	基準値（前中期目標期間最終年度値等）	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	（参考情報）当該年度までの累積値等、必要な情報
一般管理費（物件費）（千円）	実績値	中期目標期間中５％以上効率化	889,241	710,657	773,740				
業務経費（物件費）（千円）	実績値	中期目標期間中５％以上効率化	5,422,139	4,845,965	5,586,682				

３．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標、中期計画、年度計画

主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価
	業務実績	自己評価	
Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置 １．業務改善の取組 （１）組織体制の見直し 組織の機能向上のため，不断の組織・体制の見直しを行うものとし、法人の事業全体を通じて，体制の整備を図ることとする。	**＜実績報告書等参照箇所＞** 令和４年度自己点検評価報告書 各事項に関する業務実績の詳細は下記のとおり。 **＜主要な業務実績＞** ・組織機能向上のため、ICT や文化財防災などの機能強化、体制整備に努めている。４年度は、情報セキュリティやデジタルデータの公開促進など ICT 対応の強化を図るため、文化財情報分野を含む情報担当職員の採用配置を行った。また、政府において宮内庁三の丸尚蔵館の管理・運営を５年 10 月に当機構に移管することが決定されたことを受け、機構における移管に向けた準備を円滑に進めるため、準備室を設置し、専任職員を配置した。	**＜評定と根拠＞** 以下の詳細からＢ評価とした。 **＜評定と根拠＞** これまで以上に情報発信、データベース構築・公開など情報分野における機能の充実が求められている。一方で、情報セキュリティへの対応も複雑化・高度化していることから、より専門的で高度な知識・経験を持つ職員の配置が不可欠となっている。業務の効率化にも対応するため、本部・各施設において ICT 環境の強化を進めている。 また、５年 10 月の三の丸尚蔵館の移管に向け、準備室が中心となり、宮内庁・文化庁等関係機関との調整を進めている。	評定　B **＜評定に至った理由＞** 中期計画に定められたとおり、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 自己評価書の「B」との評価結果が妥当であると確認できたため。 **＜今後の課題＞** ―
（２）人件費管理の適正化 給与水準については，公務員の給与改定に関する動向等を踏まえ，国家公務員の給与水準等とともに業務の特殊性を十分考慮し検証した上で，	・人事給与統合システムを利用して、機構全体で統一的な処理を行っている。そのシステム内で人件費のシミュレーション等も行うことで、人件費に関する計画や円滑な企画・立案等をすることができ、適正な人件費管理を行った。 ・役職員の報酬額については、毎年度総務省の実施している「独立行政法人の役員の報酬等及び職員の給与の水準の公表方法等について（ガイドライン）平成 15 年９月９日策定」	機構の業務の特殊性を十分に考慮しつつ、対国家公務員指数において国家公務員の水準を超えないよう取り組んでいる。取り組みの状況について検証を行い、検証結果を公表している。	**＜その他事項＞** 有識者からの主な意見は以下のとおり。 ・自己評価が適切である。 ・ICT 強化に伴い人員を配置する、節電など経費削減に努めるなど、適正に業務改善に取り組んでいる。 ・業務で使われる「紙の削減（ペーパーレス）」を意識することが電子化に繋がるため、ペーパーレス化を推進してもらいたい。

その適正化に取り組むとともに，検証結果や取組状況を公表すること。	において、個別の額を公表しており、法人ウェブサイト上にも掲載している。	
（３）契約・調達方法の適正化 契約については，「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について」（平成27年５月25日総務大臣決定）に基づく取組を着実に実施し，「調達等合理化計画」に沿って，一層の競争性，公正性及び透明性の確保に努め，契約の適正化を推進すること。	①「独立行政法人における調達等合理化契約の取組の推進について（平成27年５月25日総務大臣決定）」に基づき、外部委員で構成された契約監視委員会を設置し、機構が４年度に締結した契約の点検・見直しを行った。 第１回契約監視委員会（５年２月15日開催） 第２回契約監視委員会（５年６月開催予定） ③東京国立博物館（レストラン２か所、自動販売機、黒山記念館カフェ）、京都国立博物館（ミュージアムショップ、自動販売機）、奈良国立博物館（ミュージアムショップ、レストラン、自動販売機）については企画競争を実施済み。４年度においては、契約期間終了に伴い東京国立博物館にて移動式野外飲食店、ミュージアムショップ、京都国立博物館にてカフェ、レストランの企画競争を実施した。今後も、契約期間終了時に順次企画競争を実施予定である。 ・11月に機構内の会計系職員を対象として調達事務の適正化等を目的とした研修を行った。（49人が参加） ・より多くの競争参加業者を募るため、公告期間をこれまでの「10日間以上」から自主的措置として20日間以上確保するように引き続き努めている。 ・列品等修理契約について、修理契約委員会を設置し、修理可能な業者が複数存在すると判断された修理案件は企画競争を実施している。 一般競争入札件数 年度 / ３年度 / ４年度 / 増減 件数 / 133件 / 144件 / 11件	計画どおり、公正性・透明性を確保しつつ合理的な調達を実施した。
（４）共同調達等の取組の推進 周辺機関との共同調達について、有用性が確認された以下の案件について引き続き実施する。 上野地区　再生PPC用紙、トイレットペーパー、廃棄物処理、古紙等売買、複写機賃貸借、 トイレ洗浄機器等賃貸借 京都地区　再生PPC用紙、トイレットペーパー 九州地区　再生PPC用紙、トイレットペーパー、ガソリン	・本部事務局、東京国立博物館、東京文化財研究所について、引き続き上野地区における再生PPC用紙、トイレットペーパー、廃棄物処理、便器洗浄機器賃貸借の共同調達を実施した。（再生PPC用紙、トイレットペーパー、廃棄物処理：本部事務局、東京国立博物館、東京文化財研究所、東京藝術大学、国立科学博物館、国立西洋美術館。便器洗浄機賃貸借：東京国立博物館、国立科学博物館、国立西洋美術館。） ・４年度に新たに学術情報ネットワーク（SINET6）を情報・システム研究機構を介し共同調達を実施している。 ・京都国立博物館では、京都国立近代美術館、国際日本文化研究センター、総合地球環境学研究所と共同調達を実施した（PPC用紙及びトイレットペーパー）。 ・奈良国立博物館、奈良文化財研究所では、近隣施設の共同調達契約を調査して業者と交渉した結果、当該共同調達額以下の金額で契約した実績があるため、事務負担等を考慮し、現状では共同調達を見合わせている。ただし、近隣の共同調達契約の動向に応じて、必要があれば今後も共同調達への参加について検討を進めたい。 ・九州国立博物館では、九州地区の大学とPPC用紙、トイレットペーパー及びガソリンカードの利用について共同調達を実施した。	各施設の業務内容や地域性を考慮しつつ、コピー用紙等の消耗品や役務について、周辺の他機関等との共同調達等の取組を推進することができた。
（５）一般管理費等の削減 運営費交付金を充当して行う事業については、一般管理費及び業務経費の合計について、中期目標期間の最終年度において、令和２年度比５％以上の効率化を図る。ただし、文化財購入費等及び特殊要因経費、新たに追加される業務はその対象としない。また、人件費については（２）及びⅥ４．に基づき取り組むこととし、本項の対象としない。	①機構内の共通的な事務の一元化による業務の効率化 ・機構共通の業務システムである、グループウェア、メールシステム、財務会計システム、人事給与統合システム、web給与明細システムの運用を継続した。 ・勤怠管理業務の効率化のため、就業管理システムを導入した。４年度は本部事務局、文化財活用センター及び東京国立博物館の職員を対象とした。５年度以降にその他の施設の職員へ対象を拡大し、勤怠管理業務の効率化を進める。 ・Microsoft365機構テナントにて、Officeアプリ・端末認証・メールシステム・オンライン会議等のサービスの提供を継続した。これにより、各施設で購入していたOfficeアプリ、ライセンス管理等にかかるコストを軽減した。 ・財務会計システムのクラウド化により、運用管理負担の軽減につながった。 ４年度実績 / ２年度実績 / 削減率 一般管理費 / 739百万円 / 889百万円 / △16.95％ 業務経費 / 5,587百万円 / 5,422百万円 / 3.03％ ②計画的なアウトソーシング ・全ての施設において、電気設備保守業務、機械設備保守業務、昇降機設備保守点検業務、構内樹木等維持管理業務、清掃業務、各種事務補助作業等について民間委託を実施している。 ・博物館は警備・展示室監視等業務の大部分を民間委託している。研究所は警備業務の全てを民間委託している。 ・博物館の来館者サービスに関しては、売札業務、受付・案内業務、ロケーション撮影対応業務、図書・写真資料を閲覧等の利用に供するサービス及び図書整理業務等について民間委託を実施している（東京国立博物館ではコロナ禍の影響により託児サービス休止中のため、４年度は託児業務の民間委託は未実施）。 ・東京国立博物館では、引き続き茶室・大講堂等の施設貸出業務について民間委託を実施している。 ③使用資源の減少 ・節電節水の周知徹底、クールビズ・ウォームビズの推進、冷暖房の省エネ運転、照明のLED化の推進等を行った。 ・廃棄物削減では、両面印刷の励行、館内LAN・電子メール等の活用を引き続き行い、会議でのiPad及びノートPCの活用やオンライン会議の奨励による文書のペーパーレス化を実施した。 ・リサイクルの実施（廃棄物の分別収集、リサイクル業者への古紙売り払い、再生紙の発注等） 電気使用量（３年度比0.04％）、ガス使用量（３年度比2.18％）、水道使用量（３年度比11.57％）、一般廃棄物（３年度比18.62％） ※日常の節電節水の周知徹底、冷暖房の省エネ運転等を実施したが、コロナ禍からの回復による事業再開等の影響により、光熱水使用量・廃棄物排出量のいずれについても増加した。特に増加が多い水道使用量・　一般廃棄物排出量については、以下の要因によるもの。 水道使用量：東京国立博物館、京都国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館において、３年度と比較し、コロナ禍の影響による規制等が緩和されたことにより、入館者数が大幅に増加したため。（東京国立博物館３年度比49.12%増、京都国立博物館３年度比84.87%増、奈良国立博物館３年度比10.43%増、九州国立博物館３年度比145.46%増） 一般廃棄物：東京国立博物館において、４年度は開館150周年の周年事業にあたり、年間を通じて記念事業が多く開催されたため、記念イベント準備に伴う紙ごみや清掃ごみが増加した。特に特別展「国宝 東京国立博物館のすべて」開催期間中は来館者増加に伴う清掃回数を大幅に増やしたため、排出量が増大した。	①機構内の共通的な事務の一元化による業務の効率化 一般管理費について、５％以上の効率化を達成できた。業務経費については、社会情勢の影響を受けた燃料費高騰に伴い光熱費の支出が増加し、目標値を下回ったものの、節電や消耗品の再利用、事業の見直し等に取り組み、支出の節減に努めた。情報システムについては、Microsoft365機構テナントの各サービス、機構共通事務システム、機構広域ネットワークの運用を継続し、事務の効率化に寄与した。 ②計画的なアウトソーシング アウトソーシングは計画どおり実施できている。使用資源の減少については、来館者数が大幅に増加しているため、全体量は増加しているが、適正なものである。
２．業務の電子化 文化財機構に関する情報の提供，業務・システムの最適化等を図ることとし，ICTを活用した業務の合理化・効率化を図る。	**＜主要な業務実績＞** ・引き続き機構本部ウェブサイトを運用し、機構に関する情報の提供を行った。 ・当初のスケジュールよりも前倒しで、機構本部ウェブサイトのリニューアルを行った。リニューアル後のウェブサイトは、「JIS X 8341-3:2016」の適合レベルAAに準拠し、アクセシビリティの向上及び確保に努めている。 ・ Microsoft365機構テナントの展開により、各端末のオフィスアプリを買い切り型からサブスクリプション型に変更することで、利用できるオフィスアプリの共通化や、常に最新版を利用できるなど、情報システムの共通化を図った。	機構本部ウェブサイトによる情報提供を継続して行い、リニューアルにおいてウェブアクセシビリティの向上を図ったことで、より広く情報発信を行うことができた。各サービス間で連携可能なコミュニケーションツールである

		・コミュニケーションツール「Teams」を、在宅勤務者を含めたオンライン会議サービスとして提供を継続し、生産性向上に寄与した。 ・Microsoft365 機構テナント上で、機構統合メールシステム、オンライン会議サービスやオンラインストレージサービスを提供し、各サービス間の連携を継続した。 ・在宅勤務用端末のクラウド対応強化について機構全体で継続し、在宅勤務で可能な業務や対応システムの拡充、操作性向上による業務の効率化を図った。	Microsoft365 の提供を継続し、オンライン会議やテレワークの実施により、業務の効率化を図ることができた。	
	３．予算執行の効率化 独立行政法人会計基準における運営費交付金の会計処理として，業務達成基準による収益化が原則とされていることを踏まえ，収益化単位の業務ごとに予算と実績を管理する。	**＜主要な業務実績＞** ・「独立行政法人の中期計画、中長期計画及び事業計画に係る予算等について」（中央省庁等改革推進本部事務局 平成 12 年４月策定，平成 27 年３月総務省行政管理局修正）の記載（「業務経費については、中期目標等、中期計画等の業務運営の効率化に関する項や業務の質の向上に関する項において具体的に記載される業務内容との対応関係が明らかになるように定めるものとする。」）に基づき、収益化単位と中期目標、中期計画記載事項とを一致させ、法人業務の成果を予算的にも国民に分かりやすいものになるよう継続して取り組んだ。 また、年度計画予算をもとに予算割振を行い、事業を進めていくなか、必要に応じた予算の振替等を行い、第４四半期までに予算額を確定させ、計画的な予算管理・執行管理に取り組んだ。 光熱費の高騰による予算圧迫に対応するため、より厳格に執行状況を精査し、必要に応じて年度途中で配分予算の見直しを行うなど、より効率的な予算の執行・管理に取り組んだ。 更には４年度より新たに第４四半期終了時点で事業毎に執行率が 50％未満については執行状況の調査を行い、予算の適切な執行管理に取り組んだ。	計画どおり取組を実施できている。 **＜課題と対応＞** 業務運営の効率化を進めるうえで ICT 環境の整備が一層求められるが、それとともに情報セキュリティ等の強化も非常に重要となる。引き続き体制の整備及び対応の強化を進める必要がある。	

4．その他参考情報
【契約に係る規程類】 ①独立行政法人国立文化財機構会計規程 ②独立行政法人国立文化財機構会計規程の特例を定める規程 ③独立行政法人国立文化財機構予算、決算及び出納事務取扱細則 ④独立行政法人国立文化財機構契約事務取扱細則 ⑤独立行政法人国立文化財機構施設等設計業務プロポーザル実施細則 ⑥独立行政法人国立文化財機構工事に関する競争参加資格審査委員会及び総合評価審査委員会に関する取扱細則 ⑦独立行政法人国立文化財機構における大型設備等の調達に係る仕様策定等に関する取扱要項 ⑧独立行政法人国立文化財機構契約情報公表要項 ⑨契約情報公表に必要な事項に関する取扱 ⑩独立行政法人国立文化財機構修理契約委員会要項 ⑪独立行政法人国立文化財機構契約監視委員会要項 ⑫標準型プロポーザル方式の実施要項 ⑬公募型及び簡易公募型プロポーザル方式の実施要項 ⑭調査の業務委託に関する入札に係る総合評価落札方式 ⑮研究開発の業務委託に関する入札に係る総合評価落札方式 ⑯広報の業務委託に関する入札に係る総合評価落札方式 ⑰情報システムの調達に関する入札に係る総合評価落札方式 ⑱独立行政法人国立文化財機構における「企画競争・公募」ならびに「総合評価落札方式」に関するマニュアルについて ⑲令和元年度独立行政法人国立文化財機構調達等合理化計画 【審査体制】 ①内部のチェック体制

各施設に分任契約担当役を設置し、各施設において契約処理並びに適正な契約が行われているかをチェックする体制を整備している。特に随意契約の場合、契約が適正かを十分に精査し契約を行うよう本部から指導を行っており、また新たな随意契約を締結する場合は、調達合理化等検討会に事前報告し点検を受けることとしている。
東京国立博物館における１千万円を超える物品調達の場合の例
[購入依頼]：購入依頼者が所属課長の承認を得て購入依頼書を契約担当へ送付→契約担当係員チェック→同係長チェック→経理課室長チェック→経理課長チェック→総務部長（分任契約担当役）決裁により発注を決定
（必要に応じ仕様策定等を実施：実施した場合は購入依頼と同様にチェック・決裁）
[予定価格]：契約担当係員が予定価格調書を作成し、購入依頼と同様にチェック・決裁
[一般競争入札]→[契約者決定]→[契約書作成]：契約担当係員が作成し、購入依頼と同様にチェック・決裁→[契約書締結]
[物品の納品検収]：検査職員が物品の内容が契約と相違ないかチェック→[検査調書作成]
[支払い]：契約担当係員が支払伝票を作成し、購入依頼と同様に係員から室長のチェック→経理課長（分任出納命令役）決裁し支払いを決定→経理課室長（分任出納役）→[契約者への支払い]
②内部でのチェック対象案件の抽出方法
各施設において契約された契約のうち、契約金額や案件等から抽出した契約に係る書類等を監事監査並びに内部監査においてチェックを実施し、適正な契約処理が行われているか等の確認を実施している。

１．当事務及び事業に関する基本情報			
Ⅲ	財務内容の改善に関する事項		
当該項目の重要度、難易度	―	関連する政策評価・行政事業レビュー	令和５年度行政事業レビュー番号　0466

２．主要な経年データ

評価対象となる指標			達成目標	基準値（前中期目標期間最終年度値等）	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	（参考情報）当該年度までの累積値等、必要な情報
自己収入額（千円）	－	実績値	―	828,947	1,042,086	1,725,067				受託研究・受託事業を除く
寄付金等額（千円）	－	実績値	787,529	730,711	749,596	937,293				

３．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標、中期計画、年度計画

主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価
	業務実績	自己評価	評定　B
Ⅲ　財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置 １．自己収入拡大への取組 （１） コロナ禍における「新しい生活様式」を踏まえた事業展開において、誘客につながる魅力的な展覧環境の構築に努めるとともに、新たな自己収入の確保に取り組む。 【中期目標・計画上の評価指標】 ・（指標）その他寄附金等収入額（前中期目標期間の累積実績額以上） ・（関連指標） 展示事業等収入額	**＜実績報告書等参照箇所＞** 令和４年度自己点検評価報告書 各事項に関する業務実績の詳細は下記のとおり **＜主要な業務実績＞** ・東京国立博物館・文化財活用センター・NHKにて共催した特別企画「未来の博物館」においては、最先端のデジタル技術と高精細複製品を用いた新しい鑑賞体験を提供することで、来館者の誘客に努めた。 ・東京国立博物館法隆寺宝物館に、高精細複製やデジタルコンテンツを活用した展示「デジタル法隆寺宝物館」を開設した（令和４年度日本博「イノベーション型」プロジェクト）。 ・東京国立博物館で開催した「150年後の国宝展」では、企業から出展協力を得ることで資金調達を行った。東京国立博物館史上初の一般公募を行うなど、一般の方や企業等との連携のもとに開催し、従来とは異なる新しい展覧会を実現した。また、企業とのコラボレーションにおいて、当該企業のファンを新たな来館者として迎えるなど、博物館の認知度向上に努めた。 ・文化財活用センターと東京国立博物館では、創立150年事業の一環で、「踊る埴輪＆見返り美人　修理プロジェクト」を実施し、目標金額1,000万円を大きく上回る、15,396,445円の寄附を得た。 ・文化財活用センターと奈良文化財研究所では、クラウドファンディング「ひかり拓本プロジェクト」を10月～12月に実施し、目標金額380万円を大きく上回る653万円の寄附を得た。 ・文化財活用センターを中心に、法人全体の外部資金獲得の取組強化を目的としたファンドレイジング勉強会を法人内に立ち上げた。勉強会においては、外部講師を招いての講演や職員同士でのディスカッションを通して、法人全体の外部資金獲得に向けた意識の醸成を図った。本勉強会は５年度以降も継続して実施していく。 ・展示事業等収入額 ４年度の展示事業等収入については、1,725,067 千円となり、年度計画予算額を上回った。 年度計画予算額　　４年度実績 展示事業等収入　1,328,911千円　　1,725,067千円 ※受託研究・受託事業を除く。 ・外部資金の獲得 寄附金等収入額　937,293千円 目標値　　787,529千円 （機構共通） ・機構各施設にウェブ申込による寄附を可能とする「国立文化財機構寄附ポータルサイト」を引き続き運用し、４年度計10,875,000円の寄附を集めた。 ・文化財活用センターと東京国立博物館、奈良文化財研究所の共同で、展示施設等において募金箱を契機とした寄附募集に関する広報発信の強化に取り組んだ。具体的には、奈良文化財研究所においては募金箱や広報用パンフレットの刷新などを、東京国立博物館については既存募金箱の改修を行った。 ・外部資金獲得に向けた取り組みを機構全体で活性化させるため、ファンドレイジング事業実施に関する情報共有等を行うための勉強会（事務局：文化財活用センター）を立ち上げ、第１回として鵜尾雅隆氏（日本ファンドレイジング協会代表理事）による役職員向けの講演会をオンラインで行った。 （文化財活用センター、東京国立博物館） ・文化財活用センターと東京国立博物館の共同で、「埴輪　踊る人々」と「見返り美人図」の修理費等を募る「創立150年記念　踊る埴輪＆見返り美人　修理プロジェクト」を４月より開始し、５年３月の終了までに目標金額1,000万円を上回る寄附を集めた。（４年度計15,396,445円） （文化財活用センター、奈良文化財研究所） ・文化財活用センターと奈良文化財研究所の共同で、クラウドファンディングサービス「READYFOR」を利用し、石碑の判読を容易にする技術「ひかり拓本」のスマートフォンアプリ開発費などを募る「ひかり拓本プロジェクト」を10月５日～12月２日の日程で行った。第一目標の380万円、第二目標の500万円を大きく上回り、プロジェクト終了	以下の詳細より、Ｂ評価とした。 **＜財務分析結果＞** 令和４年度は、入場料収入や協賛金等の伸びにより経常収益が令和３年度から10.8億円増えた一方、燃料費高騰に伴う光熱費の増加や修繕工事の増加等により経常費用が9.6億円増加した。このように、収益が費用を上回る勢いで伸び、令和４年度の総利益は、令和３年度から1.1億円増の4.2億円の黒字となった。自己収入額や寄附金受入額はコロナ禍から回復傾向にあるが、コロナ禍前の水準には至っていないため、新たな自己収入の確保や財源の多様化に取り組み、安定的な財源の確保に努めていく。 **＜評定と根拠＞** 最先端の技術を駆使した展示や一般公募による展示など、従来の展覧会の形式にとらわれない新たな切り口で展覧会を開催することで、新たな来館者の獲得を図り、入場料収入増につなげた。 また、クラウドファンディング事業等を実施し、博物館に対する支援者の拡大に努めた。（４年度のクラウドファンディングを含む寄附実績額は法人全体で937,293千円となった）。 ウェブ寄附の増加や賛助会員制度の加入者数の伸びにより、前中期目標期間の実績の年度平均である目標値を上回る寄附を得ることができた。また、国立文化財機構寄附ポータルサイト等を活用した寄附促進のための情報提供を継続して行い、文化財活用センターと東京国立博物館が共同した収蔵品の修理に対する寄附金募集活動や、文化財活用センターと奈良文化財研究所が共同したスマートフォンアプリ開発等に対する寄附金募集活動では、目標金額を上回る寄附を得るなどの成果をあげた。	**＜評定に至った理由＞** 中期計画に定められたとおり、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 自己評価書の「Ｂ」との評価結果が妥当であると確認できたため。 **＜今後の課題＞** ― **＜その他事項＞** 有識者からの主な意見は以下のとおり。 ・自己収入拡大への取組について、コロナ禍の影響が残る中、コロナ前（令和元年度）の85%まで自己収入を戻していることを高く評価。 ・展示事業等収入の他、寄附金・クラウドファンディングなど多様な外部資金の獲得に積極的に取り組み、事業の拡充に努めた点、魅力的な施設を生かし、外部貸出により収入を増やすことができた点を評価。 ・クラウドファンディングを通しての寄附金獲得は高く評価すべき（特に「ひかり拓本プロジェクト」への寄附は少額ではあるが、研究レベルの高さ、ならびに社会へのインパクトを考慮するともっと高く評価されても良いと思う）。 ・保有資産のデジタル化や貸与収入を増加させる方法については一層の検討を期待。

		までに 653 万円の寄附を集めた。 （東博） ①新型コロナウイルスの感染対策措置を講じつつ、月例講演会や記念講演会、連続講座等を実施した。 ②４年度はコロナ禍ではあるが、新型コロナウイルス感染対策を実施した上で施設の有効利用を促進した。申込の実件数及び利用金額については３年度より増加している。また、４年度は館内休憩スペースへのドラマ等のポスター掲出に加え、ロケ地マップの設置や、当館ウェブサイト上への放映情報の公開等、来館者へ当館の多様な活動の周知を行った。講堂については、４年度は 13 年ぶりに我が国で「国際公共放送会議」が行われたことに伴い、開会式の会場として施設貸出しを行った。それを一例として、新型コロナウイルス感染症の予防及び対策に配慮の上、比較的規模の大きい貸出し案件についても対応することができた。 ③来館者層の拡充と施設の有効利用を目的として、コンサートなどのイベントを実施した。国際交流及び日本文化の紹介を主眼とした「留学生の日」にかかるイベントについては、寄席イベント「トーハク笑楽座」と館内のアジアに関わる樹木を紹介する「樹木ツアー」を実施した。 ④ミュージアムショップの運営委託等、施設の有効利用の推進を図った。 （京博） ① 展覧会に関する講演会、土曜講座、夏期講座、キャンパスメンバーズ講演会を様々な年齢層に向けて開催した。 ② 施設（建物、講堂、茶室及び敷地等）の外部貸出（イベント、撮影等）については、ウェブサイトでの広報や、会場下見・当日利用時に丁寧な対応を心掛けた結果、口コミによる新規利用者やリピーターを獲得できたことにより、十分な成果を上げることができた。 ③ 国際交流及び日本文化の紹介を目的とした伝統文化イベント（芸舞妓、茶会等）や、若年層の獲得を目的とした、学生によるクラシックコンサートの開催を行った。特に、国際交流に関しては、留学生が、様々な特典（無料観覧、イベント優先予約等）を受けることができる「留学生の日」を実施した。 ④ ミュージアムショップ運営について、年間を通して、業者への外部委託を行った。また、特別展期間中においては共催者が運営するショップに対しても施設利用料を徴収し、自己収益獲得と施設の有効利用を行った。 （奈良博） ①公開講座、サンデートーク、特別展期間中の特別鑑賞会、トークショー、イベントなど幅広い講座・講演会を実施した。 ②ウェブサイトの施設貸出のページを拡充し、様々な団体や個人等に向けて貸出を行うことで、自己収入の獲得につなげた。 ③大和ハウス工業主催のコンサート、中国総領事館と共催のコンサートなどを開催し、国際交流や入館者の増加に繋げた。また「留学生の日」に主に留学生を対象としたイベントを開催することで、国際交流と日本文化紹介を図った。 ④地下回廊のミュージアムショップ及びレストランとのテナント契約を継続し、自己収入を確保した。ミュージアムショップ運営元の仏教美術協会とは、評議員会において意見交換をし、よりよい運営や地下回廊の利活用を推進した。 （九博） ①　特別展及び特集展等に関する講演会・講座等を開催した。	（東博） コロナ禍ではあるものの、ユニークベニュー、茶室利用は３年度より増加したことで、収入を大幅に増やすことができた。また、当館の取り組みを積極的に広報する場を増やし、多くの来館者へ周知することができた。 （京博） 施設の外部貸出については、現在は閉館中である明治古都館を、ハイブランドによる展示商談会の会場として貸出することができ、十分な自己収入を獲得することができた。その他、撮影に関しても、３年度と同数程度の使用件数を維持することができている。国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサート等の実施については、定期的に開催し、多くの方に参加いただいた。 （奈良博） 特別展ごとに関連イベント、トークショーを開催し、それ以外の期間でも留学生の日イベントや仏像供養など、日本文化を紹介するイベントを積極的に実施することで、来館者の満足度を向上させることができた。また会場提供を積極的に行い、館の魅力発信と自己収入獲得につなげることができた。 （九博） 引き続き、新型コロナウイルス感染防止対策	

		②茶室を外部団体へ貸し出した。 ③エントランスやミュージアムホールにおいて、著名人を招聘した講演会や演奏家によるコンサートを実施し、入館者の拡大及び施設の有効利用を図った。 （東文研） ・国際動物考古学会への貸出しなど、有効に活用した。 ・研究成果を広く一般にも公表するためのオープンレクチャーを４年度も開催した。この事業は台東区との連携事業として毎年開催されている「上野の山文化ゾーンフェスティバル」に当研究所のオープンレクチャーを同事業の講演会シリーズとして実施している。 （奈文研） ・施設名　４年度 平城宮跡資料館講堂　42 件　（内 有償貸与 ８件） 平城宮跡資料館小講堂　62 件　（内 有償貸与 ６件） 飛鳥資料館講堂　０件　（内 有償貸与 ０件） その他（収蔵庫等）　11 件　（内 有償貸与 ６件） 合計　115 件　（内 有償貸与 20 件）	を行いつつ、特別展及び文化交流展の関連講演会やイベントを開催した。さらに入館者の拡大を目的とした講演会やコンサート等も実施した。また、外部団体へ茶室等を貸し出し、施設の有効利用を推進した。 （東文研） ４年度も新型コロナウイルスの感染対策の影響で施設の外部貸し出しは制限することとなったが、内部での利用頻度が高かったため、利用件数は増加した。今後は外部機関への有償貸付増を目指す。 （奈文研） 講堂及び小講堂について、快適に利用できるように空調設備・換気設備の改修を行うとともに、ウェブサイトで講堂等の施設ができること積極的に発信し、利用促進を図った。	
２．固定的経費の節減	Ⅱ１．（５）一般管理費等の削減に関する事項に取組んだ。			
３．決算情報・セグメント情報の充実等	・３年度に引き続き、３年度決算（４年度実施）についても、「独立行政法人会計基準」（令和３年９月改訂）に従い、公表情報の充実を図った。 ・３年度財務状況の概要をホームページ上に公開し、機構の財政状態や運営状況に関する情報を政府・国民に対して分かりやすく示した。	計画どおり取組を実施できた。 **＜課題と対応＞** 自己収入増や各施設の周知につなげるためにも、本来業務に支障のない範囲で茶室や講堂、その他各施設をユニークベニュー、ロケ地・婚礼撮影等を含めた外部貸出を積極的に推進していく。	

４．その他参考情報

目的積立等の状況

（単位：百万円、％）

	令和３年度末	令和４年度末	令和５年度末	令和６年度末	令和７年度末
前期中(長)期目標期間繰越積立金	622	621			
目的積立金（残高）	0	136			
積立金（残高）	0	167			
うち経営努力認定相当額					
その他の積立金等	0	0			
運営費交付金債務	406	528			
当期の運営費交付金交付額(a)	9,052	8,918			
うち年度末残高(b)	406	528			
当期運営費交付金残存率(b÷a)	4.5%	5.9%			

様式１－１－４－２　中期目標管理法人　年度評価　項目別評定調書（業務運営の効率化に関する事項、財務内容の改善に関する事項及びその他の業務運営に関する重要事項）様式

１．当事務及び事業に関する基本情報			
Ⅳ	その他の事項		
当該項目の重要度、難易度	―	関連する政策評価・行政事業レビュー	令和５年度行政事業レビュー番号　0466

２．主要な経年データ

評価対象となる指標	達成目標	基準値（前中期目標期間最終年度値等）	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	（参考情報）当該年度までの累積値等、必要な情報

３．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標、中期計画、年度計画

主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価
	業務実績	自己評価	
Ⅳ　その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置	**＜実績報告書等参照箇所＞** 令和４年度自己点検評価報告書 各事項に関する業務実績の詳細は下記のとおり。	以下詳細によりＢ評価とした。	評定　B **＜評定に至った理由＞** 中期計画に定められたとおり、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。自己評価書の「Ｂ」との評価結果が妥当であると確認できたため。 なお、昨年度指摘したリスクを発見しやすい環境の整備という点では、各施設の事務担当課長連絡会を新たに設置し、施設間の情報の共有の体制を強化したことは評価できる。
１．内部統制	**＜主要な業務実績＞** （内部統制委員会、リスク管理委員会の開催） ・内部統制委員会を２回開催した。（７月１日、５年２月 27 日） ・リスク管理委員会を２回開催した。（７月１日、５年２月 27 日） ・２年度に策定したリスク管理計画の運用を進めた。 （内部監査及び監事監査等のモニタリング） ・内部監査を以下の日程で本部事務局及び各施設を対象に順次行った。 会計監査　　11 月４日～12 月 16 日（全施設） 給与簿監査　10 月 28 日～11 月 25 日（京都国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館） ※新型コロナウイルスの感染防止のため、自己チェックを行い、本部人事担当で確認。 法人文書管理監査　　５年２月～（全施設・書面監査）	**＜評定と根拠＞** 内部統制委員会及びリスク管理委員会、各種内部監査を計画どおり実施するとともに、コンプライアンス全般、会計不正防止に関する研修を全職員向けに実施するなど、役職員のコンプライアンスの徹底、リスク管理における理解促進、意識改革を促した。 事務担当課長連絡会では、各施設等での取り組みの進捗状況や共通の課題を取り扱い、各施設の情報や施設間の問題意識の共有を行うとともに、課題解決に向けた取組みを法人全体で進める意識の醸成を図っている。	**＜今後の課題＞** ・人材の長期育成や各職員のキャリアの検討が可能となるよう、幹部候補者の育成のためのプログラム（必要な経験・ジョブローテーションの明示）や職員のキャリアモデルを示すよう努めていただきたい。 **＜その他事項＞** 有識者からの主な意見は以下のとおり。 ・複数の博物館やセンターを有する組織として、各種委員会や連絡会も適切に開催し、組織全体の統制を図っている。 ・失敗を起こさない体制づくりは一定の成果を上げているように思われる。「失敗を共有する」体系づくりについても期待する。

	５年２月～３月（本部事務局、東京国立博物館、東京文化財研究所） ・情報システム監査・情報セキュリティ監査を以下の日程で実施した。 (1)ペネトレーション監査　５年１月 10 日～１月 17 日（京都国立博物館、奈良国立博物館、東京文化財研究所、奈良文化財研究所） (2)マネジメント監査　　５年１月 19 日（アジア太平洋無形文化遺産研究センター）、５年１月 24 日（奈良文化財研究所） ・保有個人情報管理監査を以下の日程で行った。 １月　全施設（書面監査） ２～３月　京都国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館、奈良文化財研究所、アジア太平洋無形文化遺産研究センター　※新型コロナウイルスの感染防止のため、書面監査にて実施。 ・ソフトウェア等監査　　各施設で定期的に実施し、会計監査の際確認を行った。 ・監事監査を以下の日程で行った。 定期監査（業務・会計）　６月 23 日 臨時監査（業務・会計）　５年１月 27 日～２月 14 日（IRCI を除く）全施設（実地監査） （研修の実施） ・全役職員を対象に、コンプライアンス全般に関する内容の研修を e ラーニングにて実施した。（実施期間：９月１日～９月 30 日　受講者 825 人、受講率 100%） ・職務上会計業務に関与しないことが明らかな者を除いた役職員を対象に、不適切会計防止に特化した内容の研修を e ラーニングにて実施した。（実施期間：10 月 20 日～11 月 30 日　受講者 716 人、受講率 96.9%） ・職員の啓発や能力向上による内部統制能力強化のため各種研修を実施した。 （その他） ・不正の機会を排除することを目的として、検収関連規程（検収窓口取扱要項、契約事務取扱細則、競争的研究費等管理規程、競争的研究費等不正防止計画）を５年１月に改正し、発注・検収体制の見直しを行った。 ・各施設における先進的な取組の共有等により、リスクを発見しやすい、職員が働きやすい環境を整備するため、本部・各施設間の情報共有・連絡調整機能を強化することとし、新たに本部及び各施設の事務担当課長による連絡会を定期的に開催し、各施設の取組の進捗や課題等を共有することとした。	
２．その他 （１）自己評価	**＜主要な業務実績＞** ・３年度の当機構における各事業及び調査研究等について自己点検評価を行い、報告書にまとめた。 ・自己点検評価報告書を外部評価委員会（研究所・センター部会：４月 26 日／博物館部会：５月 16 日／総会：５月 31 日）に提出し、外部有識者による評価が行われた。 ・外部評価委員会の意見等を踏まえ「令和３年度自己点検評価書」を作成し、文部科学大臣に提出した。 ・運営委員会（７月 13 日）は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を踏まえ、東京、京都及び九州会場からの参加とウェブ会議へのオンライン参加によるハイブリット形式で開催した。当機構の管理運営の重要事項について、理事長へ助言がなされた。	外部評価委員会、運営委員会とも、対面とウェブ会議のハイブリット形式にて開催した。外部有識者からの意見を踏まえた客観的な自己評価を実施することができ、改善が必要な事項や助言については、機構全体で検討を行い、見直しを図った。
（２）情報セキュリティ対策	・情報セキュリティ対策基準等について、「政府機関等のサイバーセキュリティ対策のための統一基準群（令和３年度版）」との準拠性監査結果を踏まえた改正（４年 10 月４日改正）するとともに、対策基準に基づく実施	政府統一基準に沿った機構の情報セキュリティ関係規程等に基づいた規定等の見直し、研修・教育・点検・監査等の実施、

		手順の整備を進めた。 ・全役職員を対象に、情報セキュリティに関する研修と情報セキュリティ対策の自己点検を e-ラーニングにて実施した。（4 年 12 月 12 日～5 年 2 月 24 日） ・以下 3 件の情報セキュリティ監査を外部機関に委託して実施した。 a)マネジメント監査（準拠性監査）（9 月 20 日～5 年 2 月 28 日） b)マネジメント監査（運用状況の確認）（5 年 1 月 13 日～1 月 24 日） c)ペネトレーションテスト（脆弱性検査）（5 年 1 月 10 日～1 月 19 日） ・監査法人による監査の一環として、システム監査を実施した。（12 月 19 日～5 年 3 月 14 日） ・情報システム・ネットワークにおける情報セキュリティ対策については、情報セキュリティ関係規程等に基づき、政府や関係機関からの情報に注視しながら適宜必要な対策を講じた。機構内各施設における情報セキュリティ対策の実施にあたっては、NICH-CERT 連絡会にて情報共有、検討を行った。 ・3 年度に導入・展開したクラウドサービス「Microsoft365 機構テナント」について、運用初年度として、Web 会議やモバイル端末管理などの各種調整を行いながらサービス継続した。 ・NICH-CERT メンバー向け訓練を実施した。（12 月 26 日）	及び機構広域ネットワーク、機構共通メールシステムを含む「Microsoft365 機構テナント」にて導入の各種サービスについて適切な運用を継続している。また、全役職員を対象とする研修の実施や各施設の監査等を通じて、情報セキュリティ対策を実施している。
	3．施設設備に関する計画	**＜主要な業務実績＞** 施設整備について、東京国立博物館東洋館等建物・設備等の老朽改修など 8 事業を実施した。 東京文化財研究所及び奈良文化財研究所の防災設備について防火対策 5 か年計画を策定した。（1 月 20 日完了） 施設整備実施 8 事業は、東京国立博物館東洋館等建物・設備等の老朽改修・東京国立博物館本館リニューアル工事・東京国立博物館平成館空調設備改修工事・奈良国立博物館東新館エレベーター更新工事・奈良国立博物館空調設備等更新工事・九州国立博物館防水等改修工事・奈良文化財研究所老朽空調設備改修	防火対策 5 か年計画及び施設整備 8 事業について、計画どおりに実施できた。個別施設計画に基づき既存施設の維持管理や建築物等の長寿命化に向け整備を進める。
	4．人事に関する計画 （1）中長期的な人事計画の策定を検討する。その際、理事長の裁量によって、一定数の職員を配置できる仕組みを併せて検討する。	**＜主要な業務実績＞** ・事務系職員の人事については、9 月から 11 月にかけて各施設の副施設長等にヒアリングを行い、他の交流機関とも順次、5 年度以降の人事交流等について打合せを行った。 ・研究職の採用については、理事長、理事、施設の長、研究調整役で構成される研究職員人事選考委員会において、採用の必要性、緊急性等を考慮のうえ、採用分野（専門性）、時期等を審議し、決定している。また、人事異動については、研究調整役が各施設の長と調整し、理事長が決定する仕組みを設けている。 ・人件費管理の観点から、雇用経費を外部資金等の運営費交付金以外を財源とすることで、人員の確保を図っている。	事務系職員の人事については、各施設・交流機関との協議により、人事交流も含めた人事計画の策定を検討した。研究職の人事についても、人事選考委員会を通じて採用の実施や理事長の決定による人事異動など、組織として包括的な計画の策定を検討した。
	（2）職員の能力向上と組織のパフォーマンス向上を目的とした評価制度の 導入について、検討を継続する。	・評価制度の導入について検討を行った。	

	（3）性別、年齢、国籍、障がいの有無等にとらわれない、能力や適性に応じた採用・人事を引き続き行う。	・常勤の研究職員に準じたアソシエイトフェロー制度、高度に優れた専門的技術を兼ね備えた人材の確保のための専門職制度、60 歳を超える優秀な人材を採用できる任期付職員、再雇用制度を整えて、能力や適性に応じた人事を引き続き行った。	採用にかかる様々な制度設計を行うことにより、能力や適性に応じた採用・人事を着実に実施できている。
	（4）女性の活躍を推進し、制度改正を含めた就業環境の整備及び教育・研修を引き続き実施する。	・育児や介護を行う職員が働きやすい環境を作り、女性の活躍推進を図るため、国の育児・介護休業法改正に合わせ、不妊治療と仕事の両立支援のための休暇等の整備に関する規程改正を行った。 研修の実施状況については下記のとおりである。	育児や介護を行う職員が働きやすい環境を作り、女性の活躍推進のためを図るため、国の育児・介護休業法改正に合わせ、不妊治療と仕事の両立支援のための休暇等の整備に関する規程改正を行った。働き方改革関連では、就業管理システムを導入するとともに、年 5 日間の確実な年休取得を達成するために取得促進等の取組を実施した。 **＜課題と対応＞** 3 年度に引き続き、能力や適性に応じた採用・人事を行うことができた。デジタル分野については、人材の採用等を行い体制強化に努めているが、情報セキュリティリスクが高まっている状況から、本部・各施設情報担当間の連携・強化をさらに進める必要がある。

研修名称	日程	受講対象者	受講者数
＜階層別＞			
新規採用事務職員研修	6 月 30 日～7 月 1 日	3 年度統一試験及び独自試験で採用された事務職員	8 名
新任職員研修（オンライン研修）	7 月 19 日～8 月 31 日	4 年度の新任職員等	100名
＜分野別・能力開発＞			
研究倫理教育研修(e-ラーニング等)	4 月 22 日他(各施設で実施)	研究者番号を持つ研究員、事務担当者等	294名
施設系職員研修	11月25日	機構内の施設系職員	16名
会計職員研修	11月25日、28日	各施設の会計担当者、その他希望者も参加可	49名
コンプライアンス教育研修（科研費説明会と併せて実施）	7 月 7 日他(各施設で実施)	研究者番号を持つ研究員、事務担当者等	485名
情報セキュリティ研修(e-ラーニング等)	12 月 12 日～5 年 2 月24日	常勤職員、アソシエイトフェロー、有期雇用職員他	815名
情報セキュリティ研修(臨時)(e-ラーニング等)	2 月 9 日～2 月 24 日	常勤職員、アソシエイトフェロー、有期雇用職員他	792名
コンプライアンス研修(e-ラーニング等)	9 月 1 日～9 月 30 日	常勤職員、アソシエイトフェロー、有期雇用職員他	825名

会計不正防止のための研修 （動画視聴等）	10月20日～11月30日	常勤職員、アソシエイトフェロー、有期雇用職員他	716名	

（５）職員のキャリアパスの形成のため、職位に応じた人事交流等の実施を企画・立案する。

職員のキャリアパスの形成のため、文化庁をはじめとした関係機関との人事交流を行った。他機関との連携・協力による調査・研究基盤の強化を図ることを目的としたクロスアポイントメント制度を整備した。また、職員のスキルアップや優秀な人材の確保等を図るため、兼業規程の見直しを行い、所要の規定改正を行った。

（６）働き方改革関連法の施行に対応した取り組みを実施する。

働き方改革関連法への対応及び勤怠管理業務の軽減化を図ることを目的とし、４年度は、本部事務局、文化財活用センター及び東京国立博物館の職員を対象に就業管理システムを導入した。また、年５日間の年次有給休暇の取得義務付けについても役員会等で周知のうえ、各施設へ取得促進に向けた取り組みを実施した。

４．その他参考情報
特になし。

（別添）中期目標、中期計画、年度計画

項目別調書No.	中期目標	中期計画	年度計画
No. Ⅰ―１ 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信	（１）有形文化財の収集・保管，次代への継承 国立博物館は，それぞれの設置の経緯を踏まえ，既に多くの所蔵品及び寄託品（以下「収蔵品」という。）を収集・保管している。多くの文化財は，経年の自然劣化と材質の脆弱性等によるコンディションの変化にさらされており，収蔵品の収蔵施設と展示施設は，接触・転倒等の事故を防ぐとともに，温湿度，照度，防虫，防カビ等の環境を最適の状態にすることが求められている。 また，有形文化財の収集等については，国立博物館における調査研究の成果に基づき，体系的・通史的にバランスの取れた収蔵品の充実を図るため，計画的に行うこととする。 有形文化財の管理・保存・修理等については，収蔵品等の管理に必要なデータの整備を進めるとともに，その状態に応じて適切な保存・展示環境を整え，必要な修理等を計画的に施すこととする。	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承 ①有形文化財の収集等 １）有形文化財の収集 体系的・通史的にバランスのとれた所蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各博物館の収集方針に沿って、調査研究及び情報収集の成果、並びに外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。 （東京国立博物館） 日本を中心にして広くアジア諸地域等にわたる美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。 （京都国立博物館） 京都文化を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。 （奈良国立博物館） 仏教美術及び奈良を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。 （九州国立博物館） 日本とアジア諸地域等との文化交流を中心とした、美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。 ２）寄贈・寄託品の受入れ等 収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、積極的に活用する。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかけ、積極的に活用する。 ②有形文化財の管理・保存・修理等 １）有形文化財の管理 国民共有の貴重な財産である文化財を永く次代へ伝えるため、収蔵品の管理を徹底し、特に収蔵品の増加に伴い収蔵に必要な施設設備の充実、改善を図る。また、収蔵品の現状を確認の上、管理に必要なデータ（画像データ、テキストデータ等）を整備して、展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。 ２）有形文化財の保存 適切な展示・保存環境の保持のため、収蔵・展示施設の温湿度、生物生息、空気汚染及び地震等への対策、並びに保存等に関する調査研究とそのデータの解析・蓄積を引き続き実施する。 ３）有形文化財の修理 修理を要する収蔵品は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。 ４）文化財修理施設等の運営 文化財保存修理所等については、国と協力して整備充実を図る。	（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承 ①有形文化財の収集等 １）有形文化財の収集 各博物館の収集方針に沿って、鑑査会議等で収集案を作成し、外部有識者からなる買取協議会の意見を踏まえて収集する。また、文化財の散逸や海外流出を防ぐため、内外の研究者、学芸員、古美術商等との連携を図り、迅速かつ的確な情報収集にも努め、それらを収集活動に効果的に反映していく。 （東京国立博物館） ア　日本を中心として広くアジア諸地域の文化財の体系的収集及び展示を目指し、絵画、書跡、彫刻、工芸、考古、歴史資料等の中から、東京国立博物館 150 周年を踏まえて、展示効果が特に高い文化財を重点的に購入する。 （京都国立博物館） ア　京都文化を中心とした絵画、書跡、彫刻、工芸、考古、歴史資料等の中から重点的に購入する。 （奈良国立博物館） ア　仏教美術及び奈良を中心とした絵画、書跡、彫刻、工芸、考古、歴史資料等の中から重点的に購入する。 （九州国立博物館） ア　日本とアジア諸国との文化交流を中心とした絵画、書跡、彫刻、工芸、考古、歴史資料等の中から重点的に購入する。 ２）寄贈・寄託品の受入れ等 （４館共通） ア　展示に必要な文化財の継続寄託及び新規寄託の受け入れに努めるとともに、寄贈を受け入れる。併せて、文化庁とも連携を図り、登録美術品や特定美術品などの制度活用も、所蔵者へ積極的に働きかける。 ②　有形文化財の管理・保存・修理等 １）有形文化財の管理 所蔵品及び寄託品（以下「収蔵品」という。）等の管理を徹底するとともに、それらの増加に伴い収蔵等に必要な施設設備の充実、改善を図る。また、収蔵品等の現状を確認の上、管理に必要なデータ（画像データ、テキストデータ等）を蓄積して、展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。 （４館共通） ア　収蔵等に必要な施設設備の充実、改善に向けた検討を行う。 イ　定期的に寄託品等の所在確認作業を行う。 ウ　収蔵品等に関し、新規に撮影したデジタル画像等を蓄積し、それらに関する基本情報のデータ化及びデータ整備を引き続き推進する。 （東京国立博物館） ア　収蔵品及び一時預品の情報管理を継続して行う。 イ　古写真・ガラス原板・館史資料等の旧資料部関係品を整理し、列品として編入活用・公開するための作業を進める。 ウ　外部への公開を見据えた「列品管理プロトタイプデータベース」（学芸業務支援システム）の構築を進め、博物館機能の充実及び業務の効率化を図る。 エ　「収蔵品データ管理システム」の更新及び収蔵品データの整備を進め、列品にかかる統計業務の効率化と情報の利活用向上を図る。 オ　収蔵品の和古書・洋古書のデジタル化を前中期目標の期間の実績の年度平均以上実施し、公開を推進する。 カ　ガラス原板・未整理のプローニー・スライド・写真カード等のデジタル化について引き続き検討する。

			キ　本館で保管している収蔵品等について、文化財管理棟への移動にともない変更となった収蔵品等の所在情報について、継続して確認し、「列品管理プロトタイプデータベース」及び「収蔵品データ管理システム」の情報を更新する。 （京都国立博物館） ア　収蔵品等写真のデジタル化を継続して実施する。 イ　文化財情報システムのリニューアルを継続して実施、新システムにおける列品管理、画像管理の業務効率化を進めるとともに、運用面での課題解決を図る。展示業務機能の改善によって、展示リストのウェブサイト公開について半自動化を図るとともに、題箋情報の蓄積によりデータベース拡充を進める。 （奈良国立博物館） ア　収蔵品について情報の整備を継続して実施し、収蔵品データベースの充実を図る。 イ　画像データベースの個別データを追加更新する。 ウ　収蔵品写真等の既存の白黒フィルムのデジタル化を進める。 （九州国立博物館） ア　収蔵品等についての情報整備と管理を継続して行う。 イ　文化財情報（収蔵品データベース、寄託品・借用品データベース、陳列案管理データベース、画像データベース、修理履歴データベース）を一元的管理する業務システムの改善を引き続き実施する。 ２）有形文化財の保存 収蔵・展示施設の温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・管理・活用のための環境を整備する。 （４館共通） ア　収蔵品等の生物被害等を防止するため、IPM（総合的有害生物管理）の徹底を図る。 イ　所蔵品を中心とした保存カルテを作成する。 ウ　収蔵・展示施設に関する環境について、全館的視野に立った調査研究を進め、環境データの解析・蓄積を行う。 （東京国立博物館） ア　収蔵・展示施設における地震対策に関わる調査研究を行う。 イ　収蔵・展示施設の温湿度、空気汚染物質など保存環境に関する年次報告を整備する。 ウ　文化財の輸送環境に関する調査研究を行う。 （京都国立博物館） ア　平成知新館の地震対策に関わる振動調査を行う。 イ　本館（明治古都館）の改修計画に役立てるため、環境データの収集・解析等を行う。 ウ　平成知新館収蔵庫、東収蔵庫、北収蔵庫、資料棟、文化財保存修理所も含めた、包括的な保管管理体制の構築を目指す。 （奈良国立博物館） ア　展示ケース内の温湿度・粉塵量などを継続的に計測し、ケースの調湿性能や気密性能の向上を図る。 （九州国立博物館） ア　館内の温湿度・生物生息など保存環境に関するデータを蓄積する。 ３）有形文化財の修理 ３）－１計画的な修理及びデータの蓄積 修理、保存処理を要する収蔵品等については、外部の専門家等との連携のもと、緊急性の高いものから順次、計画的に修理する。 （４館共通） ア　応急修理を取り入れながら文化財の劣化の予防に努めるとともに、劣化の著しい収蔵品等を中心に緊急性の高いものから本格修理を実施する。 イ　保存修復関係資料のデータベース化を図る。 （東京国立博物館） ア　引き続き収蔵品の中長期的修理計画を策定する。

			（京都国立博物館） ア　引き続き収蔵品の中長期的修理計画を策定する。 （奈良国立博物館） ア　本格修理は、特に「絹本著色十二天像」等の修理に取り組む。 イ　引き続き収蔵品の中長期的修理計画を策定する。 ウ　寄託の継続を図る必要性の高い寄託品について修理を実施する。 （九州国立博物館） ア　本格修理は、特に重要文化財「対馬宗家関係資料」等の修理に継続して取り組む。 ３）－２科学的な技術を取り入れた修理 伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れた修理を実施する。 （４館共通） ア　修理前あるいは修理中に、文化財の物性に応じた各種科学分析調査を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。 （東京国立博物館） ア　X線CTスキャナ、蛍光X線分析や分光分析、X線透過撮影等各種光学的調査を駆使して研究の進展を図りつつ文化財の状態を正確に把握して修理や保存、活用の指針の策定に資する。 （京都国立博物館） ア　文化財のX線 CT 撮影、X線透過撮影等を行い、適切な修理指針の検討に役立てる。 イ　蛍光X線分析、分光分析等の非破壊的な分析手法を用い、材料等の分析事例を集積することにより統計的に有意なものとし、修理指針の検討に役立てる。 （奈良国立博物館） ア　木造文化財について、木材樹種同定の調査を行い、文化財の材料の解明及び修理指針の検討に役立てる。 イ　X線 CT 撮影、X線透過撮影や蛍光X線分析装置等の機器により調査を行い、材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。 （九州国立博物館） ア　修理作品の状態を、実体顕微鏡観察を基本としてX線CTスキャナ、X線透過撮影等の各種光学的調査も駆使して正確に判定し、修理指針の策定に資する。 ４）文化財修理施設等の運営 国立博物館の文化財保存修理所の整備・充実に努める。 （京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館） ア　文化財保存修理所等の整備・充実に向けた検討を行う。 イ　文化財保存修理所等を計画的に運用して、文化財の積極的な保存修理に活用する。
	（２）展覧事業 有形文化財の保護は，保存と活用のバランスをとりながら行うことが肝要であるが，国立博物館は国全体の 22%に相当する国宝・重要文化財を収蔵しており，これらを公開することは，文化財保護法（昭和 25 年法律第 214 号）に基づく重要な役割のひとつである。また国宝・重要文化財にかかわらず，国立博物館は収蔵品について，専門的な調査研究を行い，その成果を反映しながら，「新しい生活様式」にも配慮した展覧事業において計画的に展示することが使命である。 収蔵品の状態に留意しつつ，適切な数量を平常展で展示し，日本の歴史や日本美術の流れを概観できるよう工夫を施す。さらに収蔵品以外の文化財も含め特定のテーマの下に企画する特別展（外国における展覧事業も含む）は，新たな知見を拓き，	（２）展覧事業 展覧事業については、我が国の博物館の中核的拠点として、国民のニーズ、学術的動向等を踏まえ、かつ国際文化交流にも配慮しながら、開催目的、期待する成果、学術的意義を明確にして、質の高い魅力あるものを目指す。また、2019 年 ICOM 京都大会の成果も踏まえつつ 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会及び 2025 年日本国際博覧会（以下「大阪・関西万博」という。）等に向けた政府の文化政策と連動した活動を実施する。 さらに、見やすさ分かりやすさに配慮した展示や解説、並びに音声ガイド等の導入により、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化についての理解を深められるよう工夫するとともに、「新しい生活様式」にも配慮しながら展覧事業について常に点検・評価を行い、改善を図る。	（２）展覧事業 東京、京都、奈良、九州４館それぞれの特色を活かし、国内はもとより、海外からも訪れたくなるような魅力ある平常展や特別展を実施する。また、日本博事業及び紡ぐプロジェクト事業を関係機関と連携して執り行う。 ①平常展 展覧事業の中核と位置づけ、各博物館の特色を十分発揮したテーマ別展示等を実施するとともに、展示に関する説明の充実に努め、国内外からの来館者の増加を図る。 （４館共通） １）満足度調査等を実施し、その結果を展示内容等の改善に活かす。来館者アンケート満足度については、前中期目標の期間と同程度の水準の維持を目指す。 ２）平常展来館者数については、各施設の工事等による影響や新型コロナウイルス感染症等による影響等、これらの事情を考慮し、モニタリングする。 （東京国立博物館） １）「日本美術の流れ」を中心とする本館の日本美術、平成館の日本考古、東洋館の東洋美術、黒田記念館の近代洋画等、各種展示の更なる充実を図る。 ２）特集

	文化財の価値をより広く深く理解することに大きく寄与するものであり，質の高い展示を提供する必要がある。また，観覧環境の向上等を図るべく，来館者に配慮した運営を行う。	①平常展 平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・総合的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図る。 なお、平常展の来館者アンケートの満足度については、前中期目標の期間と同程度の水準の維持を目指す。 ②特別展等 １）特別展 特別展等については、積年の研究成果を活かしつつ、国民の関心の高い時宜に適った企画を立案し、国内外の博物館と連携しながら我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。 特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を年度計画において設定する。また、特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとし、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、その達成に努める。 （東京国立博物館） 年３～４回程度 （京都国立博物館） 年１～２回程度 （奈良国立博物館） 年２～３回程度 （九州国立博物館） 年２～３回程度 なお、特別展来館者アンケートを実施し、その満足度については、前中期目標の期間と同程度の水準の維持を目指し、常に展示内容等の改善を図る。 ２）海外展等 海外からの要請等に応じて、海外において展覧会等を行うことにより、日本の優れた文化財をもとにした歴史と伝統文化を紹介する。 ③観覧環境の向上等 国民に親しまれる博物館を目指し、来館者と「新しい生活様式」に配慮した観覧環境の整備や利用者の要望を踏まえた管理運営を行う。 １）快適な観覧環境の提供 博物館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化並びに各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人、乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。 ２）来館者の満足度調査等の実施、サービスの改善等 来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。これらの調査結果を踏まえ、事業、管理運営についての見直しや改善を行う。特に開館時間の延長、混雑時の対応、ミュージアムショップやレストランのサービスの改善等、来館	テーマ性をもった展示を各種実施し、調査研究成果を公開するとともに、平常展の更なる充実を図る。 ・東南アジアのやきもの―収集と研究の軌跡―（３月 23 日～５月 15 日） ・東京国立博物館の近世仏画―伝統と変奏―（４月５日～５月 29 日） ・親と子のギャラリー「翼と羽」（４月 26 日～５月 29 日） ・特集収蔵品でたどる日本仏像史（５月 17 日～７月 10 日） ・時代を語る洋画たち―東京国立博物館の隠れたコレクション―（６月７日～７月 18 日） ・東博のガラスコレクション（仮）（７月 12 日～９月４日） ・親と子のギャラリー「日本美術のつくり方Ⅴ」（７月 20 日～８月 28 日） ・東京国立博物館の 150 年（仮称）　チベット仏教との出会い（７月 25 日～９月 19 日） ・新収品（８月２日～８月 28 日） ・帝室博物館の模写・模造―博物館草創期の展示と研究―（９月６日～10 月 30 日） ・未来の国宝―東京国立博物館　彫刻・工芸・考古の逸品―（考古）（９月６日～10 月 10 日） ・再発見！大谷探検隊とたどる古代裂の旅（アジアの旅 2022 と同期間） ・中国書画精華――宋代書画とその広がり（仮）（９月 21 日～11 月 13 日） ・つたえる、つなぐ―博物館広報の歩み―（９月 26 日～11 月６日） ・東京国立博物館のイスラーム陶器（10 月４日 ～ ５年１月 22 日） ・未来の国宝―東京国立博物館　彫刻・工芸・考古の逸品―（漆工）（10 月 12 日～11 月 13 日） ・古代染織の保存と修理―50 年にわたる取り組み―（10 月 18 日～12 月 11 日） ・東京国立博物館 150 周年特集陳列　根付　郷コレクション（仮）（11 月２日 ～ ５年１月 22 日） ・未来の国宝―東京国立博物館　彫刻・工芸・考古の逸品―（東洋陶磁）（11 月 15 日～12 月 25 日） ・高円宮殿下二十年式年祭記念特集陳列　根付　高円宮コレクション（11 月 15 日～12 月 25 日） ・初もうで　うさぎ（１月２日～１月 29 日） ・近世能狂言面名品選―天下一号を授かった面打（仮）（５年１月２日（火）～２月 26 日） ・コレクションの探求　はにわ展から 50 年（５年１月 31 日～３月 13 日） ・蘭亭―王羲之憧憬（仮）（５年１月 31 日～４月 23 日） ・おひなさまと日本の人形（５年２月 28 日～３月 19 日） ・保存と修理（５年３月 14 日～４月９日（仮）） ３）文化庁関係企画 「令和４年 新指定 国宝・重要文化財」（４月 26 日～５月 15 日）にて、令和３年に新たに国宝・重要文化財に指定される文化財を展示する。 ４）トーハク新時代プランに基づき、展示室に映像コンテンツを引き続き設置し、日本文化と展示への理解促進を図る。また、文化財活用センターと博物館教育課を中心に、本館特別３室及び特別４室に、日本美術や日本文化に親しむための体験型展示を設ける。 （京都国立博物館） １）特別展示館である本館（明治古都館）改修に伴い、平常展示館である平成知新館において特別展と名品ギャラリー（平常展）を開催する。そのための適切な展示計画を策定、実施する。 ２）平成知新館において、趣向をこらした特集展示を実施し、平常展の充実を図る。 特集展示 ・「卯づくしー干支を愛でるー」（５年１月２日～１月 29 日） ・「雛まつりと人形」（５年２月４日～３月５日） 特別公開 ・「熊本・宮崎の古墳文化（仮）」（６月 28 日～９月 11 日、５年１月２日～２月 26 日）

		者に配慮した運営を行い、観覧環境に関する来館者アンケートの上位評価が前中期目標の期間と同程度の水準の維持を目指す。	（奈良国立博物館） １）下記のとおり各展示施設において、最新の研究成果を取り入れた名品展（平常展）を実施する。また、収蔵品の中からテーマを選んで特集展示を適宜実施する。 ・西新館　絵画、書跡、工芸、考古 ・なら仏像館　彫刻 ・青銅器館　中国古代青銅器 ２）分野の枠を超えた特別陳列を実施する。 独創的な研究テーマ及び地域に密着した研究テーマによる特別陳列の充実 ・「お水取り」（５年２月４日～３月 19 日）等 （九州国立博物館） １）特集展示等によって、独創的なテーマ及び地域に密着したテーマで研究成果を公開する。 ・特集展示「きゅーはく女子考古部プレゼンツ　かわいい考古学のススメ」（４月 19 日～７月 24 日） ・「新収品展」（５月 31 日～７月 18 日） ・特集展示「古伊万里 - 公家山科家伝来の禁裏御用品（仮）」（９月 27 日～11 月 20 日） ・特集展示「種子島展（仮）」（12 月 13 日～５年２月 12 日） ・新春特別公開「徳川美術館所蔵　国宝　初音の調度」（５年１月１日～１月 29 日） ２）新時代プラン「楽しかぁ！！九博プラン」に基づき、高精度のレプリカを活用したハンズオン展示の充実を図る。 ②特別展等 １）特別展 （４館共通） ア　満足度調査を実施する等広く意見を求め、満足度の高い特別展となるよう努める。来館者アンケート満足度については、前中期目標の期間と同程度の水準の維持を目指す。 イ　特別展来館者数については、各施設の工事等による影響や新型コロナウイルス感染症等による影響等、これらの事情を考慮し、モニタリングする。 （東京国立博物館） ア　特別展「空也上人と六波羅蜜寺」（３月１日～５月８日）（28 日間） 2022 年は空也上人が歿してから 1050 年になる。これを記念して空也上人が開いた六波羅蜜寺に伝わった仏像を展示する。（目標来館者数３万人） イ　沖縄復帰 50 年記念特別展「琉球」（５月１日～６月 26 日）（49 日間） アジアにおける琉球王国成立の意義を考古学、歴史学から紐解く。（目標来館者数５万人） ウ　東京国立博物館創立 150 年記念　特別展「国宝　東京国立博物館のすべて」（10 月 18 日～12 月 11 日）（48 日間） 東京国立博物館創立 150 年を記念して、東京国立博物館が所蔵する国宝全件（89 件）を展示し、併せて 150 年の歴史を紹介する。（目標来館者数８万人） エ　その他、特別展（令和４年度分の目標来館者数計３万人）と特別企画（総合文化展の一部のため来館者数はカウントしない）を各１回開催予定 ○目標来館者数の合計 19 万人（海外展、他館開催を除く。） （京都国立博物館） ア　伝教大師 1200 年大遠忌記念 特別展「最澄と天台宗のすべて」（４月 12 日～５月 22 日）（41 日間） 伝教大師最澄の遠忌を記念して、京都から全国に広まった各地の天台寺院の名宝を紹介する。（目標来館者数５万人） イ　特別展「河内長野の霊地 観心寺と金剛寺―真言密教と南朝の遺産―」（７月 30 日～９月 11 日）（45 日間） 平成 28 年～令和元年度に当館が実施した観心寺と金剛寺の文化財調査の成果を公開する機会として、従来知られた名品に加え、新たに発見された寺宝の数々を、自主企画展として紹介する。（目標来館者数３万人）

ウ　特別展「京に生きる文化―茶の湯―」（10 月８日～12 月４日）（58 日間）
京都にゆかりのある各時代の名品を紹介しながら、千年以上も日本の中心にあり、今もなお、茶の湯が生きる京都を中心とした茶の湯文化を紹介する。（目標来館者数５万人）
エ　親鸞聖人生誕 850 年 特別展「親鸞　生涯と名宝（仮）」（４年３月 25 日～４年５月 21 日）（58 日間）
親鸞の求道と布教の生涯を自筆の名号、著作をはじめ御影、絵巻など浄土真宗各派の寺院が所蔵する法宝を通じて紹介する。（目標来館者数５万人）
○目標来館者数の合計 18 万人
（奈良国立博物館）
ア　特別展「大安寺のすべて―天平のみほとけと祈り―」（４月 23 日～６月 19 日）（51 日間）
最初の天皇発願の寺を原点とし、南都七大寺の１つに数えられた大安寺の歴史を寺宝や発掘調査成果等、様々な角度から紹介する。（目標来館者数５万人）
イ　貞享本當麻曼荼羅修理完成記念　特別展「中将姫と當麻曼荼羅―祈りが紡ぐ物語―」（７月 16 日～８月 28 日）
　貞享本當麻曼荼羅の修理完成を記念し、當麻曼荼羅信仰や、連動する中将姫信仰の動向を紹介する。（目標来館者数 3.8 万人）
ウ　特別展「第 74 回 正倉院展」（予定）（10 月～11 月）
正倉院宝庫に伝わる宝物約 70 件を展示。（目標来館者数６万人）
○目標来館者数の合計 14.8 万人
（九州国立博物館）
ア　特別展「北斎」（４月 16 日～６月 12 日）（51 日間）
　平成 29 年度に寄贈を受けた葛飾北斎の重要文化財「日新除魔図」の全点を公開するとともに、同図と製作年代の近い「冨嶽三十六景」「東町祭屋台天井絵」など北斎の代表作を集め、その多彩で魅力的な活躍を紹介する。（目標来館者数４万人）
イ　沖縄復帰 50 年記念特別展「琉球」（７月 16 日～９月４日）（45 日間）
　アジアにおける琉球王国の成立、及び独自の文化の形成と継承の意義を琉球・沖縄ゆかりの文化財と、その復興の歩みから紐解く。（目標来館者数３万人）
ウ　特別展「ポンペイ」（10 月 12 日～12 月４日）（47 日間）
　イタリアのナポリ国立考古学博物館が所蔵するフレスコ画、モザイク画、彫像、貴金属などの美術品、日常的に使用していた食器や道具類など、ポンペイから出土した遺物を展示して、2000 年前の当時の生活を生き生きと甦らせると同時に、社会構造やインフラ、進んだ科学技術など、古代ローマ繁栄期の高度な文明を紹介する。（目標来館者数４万人）
エ　特別展「加耶」（５年１月 24 日～３月 19 日）（48 日間）
　朝鮮半島の古代国家である加耶を、最新の発掘成果と研究成果によって紹介するとともに、加耶からの渡来人が日本国内に遺した考古資料によって、日本の古代国家形成に加耶が果たした役割を示す。（目標来館者数２万人）
○目標来館者数の合計 13 万人
③観覧環境の向上等
　新型コロナウイルス感染症の感染状況を十分見極めた上で、適切な対策を講ずるとともに,「新しい生活様式」に配慮した観覧環境の提供やサービスの改善等に努める。
１）快適な観覧環境の提供
（４館共通）
ア　平常展及び特別展における、題箋及び解説等について、４言語（日、英、中、韓）にて情報提供を行い、来館者に対するサービスの向上を図る。
イ　館内の施設のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化を推進し、来館者等の利用に配慮した快適な観覧環境の提供を行う。
（東京国立博物館）
ア　トーハク新時代プランに基づき、多言語による案内、デジタルサイネージ及び誘導サイン等を引き続き整備する。

イ　トーハク新時代プランに基づき、より快適な観覧環境を構築するため、展示ケース・照明・内装など展示室等を引き続き整備する。
ウ　トーハク新時代プランに基づきリニューアルした多言語対応型の鑑賞ガイドアプリ「トーハクなび」を引き続き運用し、活用促進を図る。
エ　講座・講演会の会場におけるヒアリングループの設置・管理、スマートフォンアプリを用いた音声認識サービスの運用、ユニバーサルデザインの触知図による対応の継続等、障がい者のための環境整備を充実させる。
オ　「総合案内パンフレット」（７言語（８種）：日、英、中（簡体字・繁体字）、韓、仏、独、西）を制作・配布する。
カ　本館２階「日本美術の流れ」の展示を外国人に理解してもらうために、より基礎的な解説を盛り込んだ、多言語（英、中、韓）のパンフレットを継続して制作・配布する。
キ　トーハク新時代プランに基づき、外国人にも分かりやすい展示解説の工夫に取り組む。
ク　トーハク新時代プランに基づき、引き続きレプリカ・VR・８K映像等を活用した新感覚の展示及び日本文化の体験型展示を行う。
（京都国立博物館）
ア　館内案内リーフレット（７言語（８種）：日、英、中（簡体字・繁体字）、韓、仏、独、西）を継続して配布する。
イ　デジタルサイネージやSNSを活用し、効果的な情報発信を図る。
ウ　スマートフォンアプリを活用し、屋外展示、敷地内遺構（方広寺大仏殿）、建物等を多言語でガイドする体験学習型コンテンツを開発する。
エ　令和２年12月より開始した音声ガイドジュニア版を引き続き作成し、内容充実に努める。
オ　快適で魅力的な展示空間を構築するため、展示ケース・照明・内装等、展示室等を引き続き整備する。
（奈良国立博物館）
ア　快適な観覧環境を提供するための計画的な整備を行う。
イ　統一した誘導サイン等の一層の整備を図り、より快適な観覧環境を確保する。
ウ　混雑が予想される特別展では、新たに誘導サインを作成したり救護スペースを設置したりするなど、より快適な観覧環境を確保する。
エ　館内案内リーフレット（４言語：日、英、中、韓）を継続して制作する。
オ　多言語による案内について充実を図る。
（九州国立博物館）
ア　快適な観覧環境を保持するため、サインや照明等の空間デザインを工夫し、満足度の高い展示の実現を目指す。
イ　展示室の年間カレンダーを見やすいものに更新し、分かりやすい情報発信に努める。
ウ　館内案内リーフレット（７言語（８種）：日、英、中（簡体字・繁体字）、韓、仏、独、西）を継続して制作する。
エ　新時代プラン「楽しかぁ！！九博プラン」に基づき、スマートフォンやポータブル端末を用いた多言語対応型の新しい展示案内及び作品解説の提供を行う。
２）来館者の満足度調査等の実施、サービスの改善等
（４館共通）
ア　展覧事業等に関する満足度調査等に加え、観覧環境に関する来館者アンケート等の各種調査を実施し、観覧環境やサービスの改善に努める。
イ　ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議の上、オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供する等、サービス向上に努める。
ウ　年間を通じ来館者の利便性や周辺行事等に合わせて、特別展も含めた早朝開館・夜間開館等の開館時間の柔軟な設定を検討する。
（東京国立博物館）

			ア　特別展等に合わせて軽食販売を行う等、サービスの向上に努める。 （京都国立博物館） ア　特別展等に関し、専門家の展覧会評を求め、広報誌等に掲載する。 （奈良国立博物館） ア　アンケート等の意見を参考にレストランメニューの改善や工夫に努める。 イ　ミュージアムショップにおいて展覧会関連グッズの開発や仏教美術に関する図書の充実を図る。 （九州国立博物館） ア　レストランの営業再開に向け、設備のリニューアルを行い、来館者の利用促進を図る。 イ　ミュージアムショップにおいてオリジナルグッズの提供に努める。
	（３）教育普及活動等 国立博物館が行う講演会等のイベントや各種図録の出版等の教育普及活動は，展覧事業の効果を高めるとともに，有形文化財の収集や修理等を含め，国立博物館の多様な業務を広く普及する上で不可欠であり，その重要性は高まっている。 「新しい生活様式」にも配慮しつつ，講演会，ギャラリートーク等（以下「講演会等」という。）を開催し，来館者等を対象とする教育・普及活動の充実と向上や幅広い層を対象とした多様な学習機会の提供，ボランティアの受入れや博物館支援者増加への取組を推進する。 また，展覧事業及び各種事業に関し，積極的な広報を行うとともに，ウェブサイトにおいて収蔵する有形文化財に関する情報を公開し，その質的向上と量的拡充を推進し，アクセスの増加を図る。	（３）教育・普及活動 日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解促進に寄与するよう，「新しい生活様式」にも配慮しながら教育活動、広報の充実を図る。また、展覧事業同様、2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会及び大阪・関西万博等に向けた関係機関の文化政策と連動した活動を実施する。 ①教育活動の充実等 日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解促進に寄与するよう、新型コロナウイルスの感染防止対策を講じた上で、機構の人的資源・物的資源・情報資源を活用した教育活動を実施する。なお、講演会等のアンケートの上位評価が前中期目標の期間と同程度の水準の維持を目指す。 １)学習機会の提供 講演会、ギャラリートーク、スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。 ２)ボランティア活動の支援 教育活動の充実及び来館者サービスの向上、さらに、生涯学習活動に寄与するため、ボランティアを育成し、その活動を支援する。 ３)大学との連携事業等の実施 インターンシップ、キャンパスメンバーズ制度、大学との連携事業等の実施を通じて人材育成に寄与する。 ４)国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与 保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業を関係機関と連携しながら検討、実施する。 ５)博物館支援者増加への取組 企業との連携や会員制度の活性化等により博物館支援者の増加を図る。 ②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 文化財に関する情報の発信を推進するとともに、展覧事業及び各種事業に関し、積極的な広報を行う。 １)有形文化財に関する情報の発信 ウェブサイト等において、文化財その他関連する資料の情報を公開する。公開データの件数は継続的に増加させる。 ２)資料の収集と公開 美術史学・考古学・歴史学・博物館学・保存科学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、その情報の発信と充実を図る。 ３)広報活動の充実 展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト、SNS等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや各博物館の近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。 ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。	（３）教育・普及活動 日本の歴史・伝統文化及びアジア諸地域の歴史・文化の理解促進を図り、国立博物館としてふさわしい教育普及事業を実施する。また、日本博事業において多くの来館者への教育普及事業に取り組む。 新型コロナウイルス感染症の感染状況を十分見極めた上で、適切な対策を講ずるとともに、「新しい生活様式」にも配慮した教育普及事業を実施する。 ①教育活動の充実等 １)学習機会の提供 （４館共通） ア　講演会等のアンケートについては、満足度が前中期目標の期間と同程度の水準の維持を目指す。 （東京国立博物館） ア　文化財についてわかりやすく理解するための月例講演会・記念講演会・連続講座・ギャラリートーク・教育普及イベント等を継続して実施する。状況に応じてオンラインによる配信も活用する。 イ　日本の歴史・文化及びアジア諸地域の歴史・文化の理解促進を図るための教育普及の先導的事業を実施する。本館特別４室「日本文化のひろば」、本館地下、19 室のみどりのライオン、東洋館２室、６室のオアシス等を教育普及スペースと位置づけ、さらに、大講堂、小講堂等も活用し、対象と内容に応じた事業を展開する。また、本館地下みどりのライオンにオンライン発信ステーションを整備し運営を行う。 (ア)ファミリー向け教育普及の展示企画「親と子のギャラリー」の実施 ・特集「親と子のギャラリー　翼と羽」（４月 26 日～５月 29 日） ・「親と子のギャラリー　日本美術のつくり方Ⅴ」（７月 20 日～８月 28 日） (イ)総合文化展の活性化を目的とした総合イベント「博物館でお花見を」（時期調整中）、「博物館でアジアの旅」（時期調整中）、「博物館に初もうで」（時期調整中）において、講演会、ギャラリートーク、体験型プログラム等の教育普及事業を実施する。 (ウ)体験型プログラムの実施 ・特集「親と子のギャラリー」ほか、総合文化展（平常展）に関連した一般向け及びファミリー向け体験型プログラムを実施する。 ・本館 19 室・本館地下みどりのライオン・東洋館オアシスで展開する教育普及スペースで、ワークショップやハンズオンアクティビティ等の体験型プログラムを実施する。 ・トーハク新時代プランに基づき、日本文化に関連した体験型アクティビティを恒常的に実施するためのスペースとして本館特別４室に開室した「日本文化のひろば」を運営しプログラムを実施する。 ウ　学校との連携事業を推進する。状況に応じてオンラインによる配信も活用する。 ・スクールプログラム（鑑賞支援・体験型プログラム等）を継続して実施する（小・中・高校生対象）。 ・職場体験の受け入れを継続して行う（中・高校生対象）。 ・教員を対象とした研修等を継続して実施する。 エ　障がい者や外国人等多様な来館者を対象とした教育普及事業のあり方について検討する。 オ　トーハク新時代プランに基づき、ツアー等の実施について検討する。 カ　創立 150 年を記念する各種事業を実施する。 （京都国立博物館） ア　歴史や文化について分かりやすく理解してもらうため、講演会・土曜講座・夏期講座等を継続して実施する。 イ　京都文化を核としながら、日本及び東洋の歴史・文化に対する理解促進を図るために教育普及事業を実施する。 ・展覧会鑑賞ガイド・ワークシート（小中学生向けを含む）等を発行する。 ・分かりやすい展示作品解説シート「博物館ディクショナリー」を発行し配信する。 ・「新しい生活様式」に配慮した教育プログラムの展開に向けた検討を行う。 ウ　教育諸機関等との連携事業を推進する。 ・京都市内の小中学生を対象とする訪問授業「文化財に親しむ授業」を実施する。 ・教員のための講座を開講する。 ・他の博物館や教育諸機関と協力した教育普及事業を実施する。 （奈良国立博物館） ア　講座等の開催 ・仏教美術等に関するサンデートークを定期的に実施する。 ・特別展等に際してシンポジウム、フォーラム及び公開講座等を開催する。 ・一般向け教育普及事業として夏季講座を開催する。 ・特別陳列に因み、伝統的行事を体験する催しを実施する。 ・文化財保存修理所の一般公開を行い、文化財保存の意義についての認知度向上に努める。 ・展覧会において親子を対象とした講座やワークショップを実施する。 イ　小中学校との連携 ・奈良市内の公私立小中学校に博物館だよりを送付する。 ・世界遺産学習を小学校高学年を中心に実施する。 ・中学生の職場体験学習を受け入れる。 ウ　奈良市教育委員会及び奈良教育大学と連携して ESD(持続発展教育)プログラムの開発を引き続き行う。 エ　地下回廊で仏像模型及びパネルを用いて、文化財に関する情報を引き続き公開する。 （九州国立博物館） ア　特別展記念講演会を開催する。 イ　シンポジウムを開催する。 ウ　ミュージアムトークを継続的に実施する。 エ　文化交流展（平常展）に関する講座を定期的に開催する。 オ　博物館における体験型事業の充実を図る。 ・教育普及ゾーンで活用する様々な教育キットを開発する。 ・幅広い層に向け体験活動の促進を図るため、教育活動の場を提供する。 ・アジア諸国の文化を理解する様々な体験学習プログラムを開発する。 カ　学校教育との連携事業を実施する。 ・職場体験（中学生）の受け入れを実施する。 ・ジュニア学芸員(高校生)事業を実施する。 ・博物館活用の促進を図るため、教員研修の場を設置する。 ・学校貸出キット「きゅうばっく」の貸し出しを実施する。 ・移動博物館車「きゅーはく号」の活用により、きゅーはくきゃらばん（移動博物館事業）の充実を図る。 ・福岡県教育委員会及び（公財）九州国立博物館振興財団と連携して、小中学生を招き、様々な学習プログラムを体験させる学校教育活動支援事業を実施する。 キ　展示に関連した教育普及事業を実施する。 ク　文化施設等へ講師を派遣する。

ケ　手話通訳付きミュージアムトークを開催したり、点字ガイドブックを作成するなど、障がいをもつ方にも展示を楽しんでもらえるような環境を整える。
２）ボランティア活動の支援
（東京国立博物館）
ア　館内案内、各種事業の補助活動等の充実を図る。
イ　点字パンフレット、触知図、盲学校対応プログラム等による視覚障がい者対応、手話やコミュニケーションボード等による聴覚障がい者への博物館案内等、バリアフリー活動を実施する。
ウ　自主企画グループによる各種ガイドツアー等を継続して実施する。
エ　スクールプログラムの一部をボランティアにより実施または実施補助する。
オ　ボランティアデー等、ボランティアの企画立案によるプログラムの充実を図る。
（京都国立博物館）
ア　教育普及補助ボランティア（京博ナビゲーター）の活動内容の検討を行う。
イ　調査・研究補助ボランティアを受け入れ、調査研究事業の充実を図る。
ウ　文化財に親しむ授業講師（文化財ソムリエ）として大学生・大学院生ボランティアを育成し、小中学校への訪問授業を実施する。
エ　「京都・らくご博物館」において、大学生をボランティアとして起用する。
（奈良国立博物館）
ア　ボランティアが関わる教育普及プログラムを新たに考案し、ボランティア活動の充実化を図る。
イ　ボランティアが展示案内等を行うオンラインプログラムを継続して実施する。
ウ　ボランティアを対象とした研修を実施し、ボランティアの資質向上を図る。
（九州国立博物館）
ア　ボランティア各部会の活動の充実を図る。
イ　第６期ボランティアの活動をスタートさせる。
ウ　ボランティアの企画立案によるワークショップ等のプログラムの充実を図る。
エ　学校教育活動支援事業の学習プログラムの一部をボランティアにより実施する。
３）大学との連携事業等の実施
（４館共通）
ア　キャンパスメンバーズ（学校法人会員制度）による大学等との連携を継続して実施する。
（東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）
ア　インターンシップを継続して実施する。
（東京国立博物館）
ア　キャンパスメンバーズを対象とした「博物館学講座」、「博物館セミナー」を実施する。
イ　東京藝術大学との連携事業を継続して実施する（大学院生対象）。
（京都国立博物館）
ア　連携協力協定に基づき京都大学大学院人間・環境学研究科の歴史文化社会論講座を担当する。
（奈良国立博物館）
ア　奈良女子大学及び神戸大学との連携講座を継続して実施する（大学院生対象）。
（九州国立博物館）
ア　大学生の博物館実習の受け入れを実施する。
イ　放送大学の面接授業を実施する。
４）国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与
（４館共通）
保存修理従事者を対象とした人材育成に係る事業の実施又はインターンの受け入れや保存修理従事者と協力した事業について、実施及び方法を検討する。
５）博物館支援者増加への取組
　企業との連携及び会員制度の活性化を図る。
（４館共通）

ア　会員制度によるリピーターの拡大に努める。
イ　会員制度利用者を対象とした事業を実施する。
ウ　企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。
エ　展覧会事業の協賛企業から各種支援（協賛・協力）を募る。
（東京国立博物館）
ア　賛助会等の会員制度を通して、リピーター獲得の促進を図る。
イ　上野地区の文化施設等と連携した各種事業を実施する。
（京都国立博物館）
ア　支援団体等が行う文化財の鑑賞会・見学会・シンポジウム等に協力する。
イ　ミュージアムパートナー制度及び文化財保護基金制度を活用し、企業等との連携を図る。
（奈良国立博物館）
ア　支援団体等との連携により施設を活用したイベント等を実施し、博物館支援の輪を広げる。
イ　支援団体等と連携し、展覧会の充実を図る。
ウ　賛助会員制度の継続・拡充を図る。
エ　地域、企業との連携を推進する。
（九州国立博物館）
ア　賛助会員の更なる獲得を図る。
イ　支援団体等との連携によりイベント等を実施し、博物館支援の輪を広げる。
ウ　支援団体等と連携し、展覧会の充実を図る。
エ　地域、企業との連携を推進する。
②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実
１）有形文化財に関する情報の発信
（４館共通）
収蔵品のデジタル画像による情報提供及びウェブサイト等での公開を継続して行う。また、画像利用の条件等について、国内外の事例も参照しながら、引き続き検討する。
（京都国立博物館）
ア　リニューアルに着手した「館蔵品データベース」を公開し、新たに所蔵品の画像及び解説等の情報を掲載するとともに、運用面での課題解決を図る。
イ　機構内外の事例を参考にしながら、オンラインでの画像利用申請について検討する。
（奈良国立博物館）
ア　仏教美術情報の公開・普及を図る。
イ　収蔵品データベース及び画像データベースで公開している画像について、引き続き非商業目的での使用に無償ダウンロードで提供する。
（九州国立博物館）
ア　収蔵品に関する基本情報や解説並びに展示予定の情報を掲載した収蔵品データベースを継続して公開する。
イ　対馬宗家文書データベースのリニューアルに着手する。
２）資料の収集と公開
美術史・考古学・博物館学その他の関連諸学に関する基礎資料、国内外の博物館・美術館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図る。また、資料の登録や検索・利用については、最新の情報処理技術を用いた、活用しやすいシステムを開発する。
（東京国立博物館）
ア　調査研究・教育等博物館の機能全般に関わる情報及び関係資料を収集・蓄積し、広く一般に公開する。
イ　博物館における情報資源の活用に向けて、各種資料のデータ整備を推進し、レファレンス機能とサービスの充実を図る。
ウ　資料館の機能の拡充に向け、施設・設備の見直しを含めた、利用計画を策定する。
（京都国立博物館）

			ア　資料・画像・蔵書等の各研究支援データベースや研究情報ストレージについて整備を継続して実施し、資料の保守・管理や検索性を向上させる。特に、蔵書については新しい図書情報システムを導入する。 （奈良国立博物館） ア　図書情報システム及び写真情報システムによる資料整備と情報蓄積を推進し、内外の利用者に対してサービスの充実を図る。 （九州国立博物館） ア　画像管理システムにおけるデータベースの充実に努め、内外の利用に供する。 ３）広報活動の充実 ３）－１広報計画の策定と情報提供 （機構本部） ア　機構の概要、年報を作成する。 イ　機構本部ウェブサイトを運用し、機構に関する情報の提供を行う。また、機構本部ウェブサイトリニューアルの検討を開始する。 （４館共通） ア　年間スケジュールリーフレットの制作・配布（WEB 公開を含む。）を行う。 （東京国立博物館） 総合文化展の活性化に重点をおいた広報活動を行う。 ア　特別企画・特集等を軸とした総合文化展の広報の企画・運営、広報・宣伝制作物の制作・配布等を行う。 イ　公式キャラクターを活用するなど、一般の人により親しまれる広報活動を行う。 ウ　創立 150 年を広く一般にアピールするよう広報活動を行う。 （京都国立博物館） ア　広報・宣伝制作物の企画・製作・配布等を行う。 イ　当館を総合的に紹介する小冊子「京都国立博物館ハンドブック」の販売および多言語版の制作を進める。 ウ　公式キャラクターを活用するなど、一般の人により親しまれる広報活動を行う。 （奈良国立博物館） ア　広報・宣伝制作物の企画・制作・配布等を行う。 イ　文化大使を引き続き任命し、広報活動を行う。 ウ　写真・映像の撮影等に場所を提供し、協力することにより博物館の認知度を高める。 （九州国立博物館） ア　特別展の実施に伴う広報・宣伝材料を制作する。 イ　応援大使による広報活動を引き続き行う。 ウ　現在及び過去や将来の展示リストを検索・紹介し、展示情報を発信するためのウェブデータベースの整備を継続する。 エ　ポスター・チラシ・ウェブコンテンツを活用し、文化交流展示室からの積極的な情報発信を図る。 オ　民間企業と協同し、商品開発やコラボイベントによる広報活動を推進する。 ３）－２マスメディアや近隣施設との連携強化等による広報活動 （４館共通） ア　マスコミ媒体や公共機関等と連携した広報活動を展開する。 （東京国立博物館） ア　報道発表会、内覧会等を通じ、主要メディアの文化担当記者をはじめとしたマスコミなど報道媒体との連携を強化する。 イ　近隣施設等と連携したイベントの実施及び広報活動の充実を図る。 （京都国立博物館） ア　地域の自治体・商工団体・観光団体等と連携した広報活動を展開する。 イ　京都市内４美術館・博物館（京都国立博物館、京都国立近代美術館、京都文化博物館、京都市美術館）で組織する「京都市内４館連携協力協議会」において、共通の展覧会情報パンフレットを制作・配布するなど、連携協力を図る。

			（奈良国立博物館） ア　近隣社寺・博物館等との連携協力により、集客増に繋がる広報活動を展開する。 イ　展覧会、博物館活動への理解・促進を図るため、マスコミへの情報提供を行うとともに取材を積極的に受け入れる。 ウ　地域の自治体・商工団体・観光団体・公共交通機関等と連携した広報活動の展開を図る。 エ　近隣社寺等において展覧会チラシの配布等広報協力を依頼する。 （九州国立博物館） ア　報道発表会、内覧会等を通じ、主要メディアの文化担当記者をはじめとしたマスコミとの連携を強化する。 イ　地域の自治体・商工団体・観光団体・公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。 ウ　九州観光推進機構等を通じた海外への広報・営業活動を展開する。 エ　近隣地域の諸団体や支援団体等と連携したイベントの実施及び広報活動の充実を図る。 ３）－３広報印刷物、ウェブサイト等の充実 （４館共通） ア　ウェブサイトによる情報提供を行う。また、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、ウェブサイトのアクセス件数の向上を目指す。 （東京国立博物館） ア　『東京国立博物館ニュース』の編集・発行・配布を行う。（年４回） イ　ウェブサイトでは、動画コンテンツを含むコンテンツを継続して発信する。 ウ　SNS（ツイッター、フェイスブック、インスタグラムを含む）やメールマガジンを活用した情報発信を継続して行う。 （京都国立博物館） ア　『京都国立博物館だより』、『Newsletter』（英文）を編集・発行・配布し、あわせて PDF 版をウェブサイトに掲載する。（年４回） イ　「博物館ディクショナリー」を発行し、新刊をウェブサイトにて公開すると同時に、メールマガジンにて配信する。 ウ　収蔵品貸与情報をウェブサイトにて公開する。 エ　SNS（ツイッター等）、ブログ、メールマガジンによる情報発信を継続して行う。視覚的訴求力を高めるため、メールマガジンを html メールにリニューアルする。 オ　ウェブサイトをリニューアルし、モバイル対応・多言語ページの拡充等により、利用性及び情報発信力を高める。 カ　博物館の活動を紹介する漫画をウェブサイトで連載し、SNS での情報発信を積極的に行う。 （奈良国立博物館） ア　特別展及び名品展の情報を掲載した『奈良国立博物館だより』の編集・発行・配布を行う。（年４回） イ　ウェブサイトのほか、SNS(ツイッター、YouTube)による情報発信を行う。 ウ　季刊誌『奈良国立博物館だより』の PDF 版をウェブサイトに掲載する。 （九州国立博物館） ア　ウェブサイトで提供する博物館情報の充実を図るとともに、利用者の利便性を考慮した情報の発信に努める。 イ　４言語（日、英、中、韓）によるウェブサイトでの情報提供を行う。 ウ　『九州国立博物館季刊情報誌アジアージェ』の編集・発行・配布を行う。（年４回） エ　SNS(ツイッター)やメールマガジンによる情報発信を継続して行う。 オ　展示やイベントを紹介する動画を制作し、ウェブサイト等での情報発信を行う。
	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 国立博物館における事業は調査研究の成果に	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 文化財に関する調査研究を実施し、その保存と活	（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 文化財の保存と活用を推進するとともに、次代へ継承し、我が国の文化の向上に資するため、以下の調査研究を行い、展覧事業・教育活動等において、その成果を発信す

基づき実施されるものであることを踏まえ，有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等その他事業を行うために必要な調査研究を計画的に行い，その成果の反映により各種事業の進展を図る。また，国立の文化施設として中核的な役割を担うことができるよう，国内外の博物館等との学術交流の進展に資するシンポジウム等の開催及び学術交流等を行う。

用を推進することにより、次代への継承及び我が国の文化の向上に寄与する。

①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究

収蔵品をはじめとする文化財に関する基礎的かつ総合的な調査研究、各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関する基礎的かつ総合的な調査研究、及び歴史・伝統文化の理解促進に資する展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究等を実施し、その成果を展覧事業・教育普及活動等に反映し、広く一般に発信する。

②その他有形文化財に関連する調査研究

文化財の収集・保存・修理・管理ほか、文化財及び博物館の業務に関連する調査研究を実施する。また、将来的に展覧事業や教育活動等に結びつく基礎的な調査研究を実施する。

③国内外の博物館等との学術交流等

2019 年 ICOM 京都大会の成果も踏まえつつ、我が国における博物館活動の先導的役割を果たすとともに、文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招へいし、国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣し、積極的に研究発表を行う。

④調査研究成果の公表

文化財等に関する調査研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧事業に関わる刊行物などで発表するとともに、ウェブサイトでの公開等、調査研究成果の発信を更に拡充する。

る。

（４館共通）
ア　科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金等外部資金を活用した調査研究
①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
1)収蔵品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究
（東京国立博物館）
ア　特別調査（「法隆寺献納宝物」（第 42 次）、「書跡」第 18 回、「工芸」第 13 回、「彫刻」第 11 回、「絵画」第７回、「考古」第１回）
イ　関東地域の社寺所蔵文化財に関する調査研究
ウ　収蔵品等の有形文化財に関する調査研究
エ　仏教美術等の光学的手法による共同研究
オ　美術工芸品に用いられた画絹及び染織品の組成にかかる共同研究
カ　東洋民族に関する調査研究
キ　「東京国立博物館の近世仏画―伝統と変奏―」ほか特集に関連する調査研究
ク　館蔵の埴輪等資料に関する調査研究
（京都国立博物館）
ア　近畿地区を中心とする社寺文化財の調査研究
イ　訓点資料としての典籍に関する調査研究
ウ　旧家伝来品・収蔵品などの有形文化財に関する研究
エ　京都周辺出土の考古遺物に関する調査研究
オ　特集展示・特別企画に関連する調査研究
カ　日本近代における中国書画の受容に関する調査研究
キ　書跡及び絵画の伝来と散逸に関する調査研究
（奈良国立博物館）
ア　復元模写制作に伴う仏教絵画の調査研究
イ　古代・中世の写経と聖教に関する基礎的研究
ウ　仏教工芸・上代工芸の総合的調査
エ　寺院出土品の調査研究
オ　南都の古代・中世の彫刻に関する調査研究
カ　東京文化財研究所との共同による仏教美術の光学的調査研究
（九州国立博物館）
ア　X 線 CT スキャナ等による文化財の構造や製作技法に関する調査研究
イ　特集展示・特別公開等に関連する調査研究
ウ　水中遺跡の保存活用に関する調査研究
２）特別展等の開催に伴う調査研究
国内外の博物館等と連携しながら、特別展等の開催に向けた各種調査研究を実施する。
（東京国立博物館）
ア　特別展「東福寺の名宝（仮称）」ほか特別展等に関する調査研究
（京都国立博物館）
ア　特別展「京に生きる文化―茶の湯―」ほか特別展に関する調査研究
（奈良国立博物館）
ア　真享本當麻曼荼羅修理完成記念　特別展「中将姫と當麻曼荼羅―折りが紡ぐ物語―」ほか特別展に関する調査
（九州国立博物館）
ア　特別展「加耶」ほか特別展に関する調査研究
３）文化財を活用した効果的な展示や、教育活動等に関する調査研究
（文化財活用センター）
ア　レプリカや VR 等先端技術を使った、文化財の活用についての調査・研究
（東京国立博物館）
ア　博物館環境デザインに関する調査研究
イ　博物館教育に関する調査研究
ウ　凸版印刷及び文化財活用センターと共同で実施するミュージアムシアターにおけ

るコンテンツの開発に関する調査研究
エ　ICT を利用した博物館見学ガイドの開発に関する調査研究
オ　レプリカや VR 等先端技術を使った、文化財の活用についての調査・研究
カ　博物館広報・国際交流活動に関する調査研究
（京都国立博物館）
ア　博物館教育及びボランティア活動に関する調査研究
（奈良国立博物館）
ア　歴史、伝統文化の教育普及に資するための調査研究
（九州国立博物館）
ア　展示のテーマに則した解説パネル・冊子・ワークショップ等、観覧者の理解促進のための教育普及プログラムに関する調査研究
イ　文化交流展示室における障がい者向け展示解説プログラムに関する調査研究

②その他有形文化財に関連する調査研究
１）有形文化財の保存環境・保存修復並びに科学技術を活用した分析等に関する調査研究
（東京国立博物館）
ア　博物館の環境保存に関する調査研究
（京都国立博物館）
ア　修復文化財に関する資料収集及び調査研究
イ　文化財の製作技法・材料等に関する調査研究
ウ　社寺等における保存環境に関する調査研究
（奈良国立博物館）
ア　収蔵庫・展示室・ケース内部等における環境が文化財に与える影響等に関する調査研究
イ　文化財修理の観点からの収蔵品等の調査研究
ウ　保存科学の観点からの収蔵品等の調査研究
（九州国立博物館）
ア　文化財の材質・構造等に関する共同研究
イ　博物館における国内・アジア地域の文化財保存修復に関する研究
ウ　博物館危機管理としての持続的 IPM システムの研究
エ　展示収蔵環境の空気質に関する調査研究
２）博物館情報、文化財情報に関する調査研究
（東京国立博物館）
ア　博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究
イ　創立 150 年へ向けた館史編纂のための基礎的な資料整理と調査研究
（京都国立博物館）
ア　データベースやアーカイブズ等、収蔵品等情報の整理・活用に関する調査研究
③国内外の博物館等との学術交流等
（４館共通）
１）学術交流協定を締結している博物館を中心に、海外の博物館との交流を活発に行う。
２）海外の博物館・美術館等の研究者との交流を促進する。
３）当機構職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣（オンラインを含む。）する。
４）国際的な講演・研究集会、シンポジウム等を開催若しくはそれらへ職員を派遣する。
（東京国立博物館）
１）アジア国立博物館協会(ANMA)理事会・定期大会、IEO（国際展覧会オーガナイザー会議）、日中韓国立博物館館長会議等の国際会議へ参加する。
２）ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業等の、日本美術を通じた密接な国際交流を推進する。
（九州国立博物館）

	（５）国内外の博物館活動への寄与 国立博物館は，多くの有形文化財を収蔵しており，従来，国内外の博物館等における展覧事業への出品要請等に対応するとともに，展覧事業の企画等への援助・助言等を行っている。 これらの業務を通じて，国内外の博物館活動へ寄与することは重要であり，国内外からの博物館等からの収蔵品貸与等の依頼に対し，収蔵品の保管・展示状況，コンディション，貸出先の施設の状況等を総合的に勘案し，積極的に応じる。 また，国内外からの博物館等からの専門的・技術的な協力等の依頼に対し，可能な限り積極的に応じる。	（５）国内外の博物館活動への寄与 ①国内外の博物館等への有形文化財の貸与 収蔵品については、その保管・展示状況、コンディション、貸出先の施設の状況等を総合的に勘案しつつ、国内外の博物館等の要請に応じて、展示等の充実に寄与するため、貸与を実施する。 ②国内外の博物館等への援助・助言等 国内外の博物館等からの要請に応じて、専門的・技術的な援助・助言を行うとともに、ICOM、ICOMOS 等の国際機関とも連携しつつ、博物館関係者の情報交換を推進し、人的ネットワークの形成等を図る。	（５）国内外の博物館活動への寄与 ①国内外の博物館等への有形文化財の貸与 （４館共通） １）国内外の博物館等で開催する展覧会等へ収蔵品を貸与する。 ２）文化財活用センターが中心となり、収蔵品貸与の促進を図るための取組を行う。 （東京国立博物館） １）各地域ゆかりの文化財の平常展示のため、引き続き長期貸与を促進する。 ２）海外の美術館・博物館等で開催する展覧会へ貸与する（海外交流展出品作品を含む）。 ３）地方公共団体の博物館等に収蔵品を貸与する。 （京都国立博物館） １）各地域ゆかりの文化財の平常展示のため、引き続き長期貸与する。 ２）国内の公私立博物館と考古資料の相互貸借を実施する。 （九州国立博物館） １） 各地域の博物館・資料館の平常展示のため、九州ゆかりの文化財を引き続き長期貸与する。 ②国内外の博物館等への援助・助言等 （４館共通） １）公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を行う。 （東京国立博物館） １）新規貸与館に対する環境調査を実施し、指導助言を行う。 （京都国立博物館） １）畠山記念館の建て替え工事に伴い、同館の所蔵品を預かるとともに、共同でこれらの調査研究を行う。 （九州国立博物館） １）地域の自治体等と連携し、公私立博物館・美術館等職員のための古文書保存に関する専門講座を開催する。 ２）公私立博物館・美術館等職員等のための IPM（総合的有害生物管理）に関する専門講座を開催する。

	（６）文化財の積極的な活用による文化財の継承につなげる新たな取組 文化財活用センターは，文化財が持つ新たな魅力や価値を引き出し，文化財を通した豊かな体験と学びを提供することで，文化財の次世代への確実な継承のみならず，地方創生，観光振興につながる新たな活用のあり方を目指す。そのため，文化財に親しむためのコンテンツの開発とモデル事業の推進，国立博物館収蔵品貸与促進事業の促進，文化財機構の文化財のデジタル資源化の推進と国内外への情報発信及び文化財の保存等に関する相談・助言・支援を行う。	（６）文化財の積極的な活用による文化財の継承につなげる新たな取組 ①文化財に親しむためのコンテンツの開発とモデル事業の推進 高度な技術で制作された複製や、VR・AR、８Ｋ映像などの先端技術を使った企画コンテンツ事業を積極的に推し進めることで、文化財の新しい活用方法を探り、これまで文化財に触れる機会のなかった人々にも、学ぶ喜びや、楽しい時間を創出する。 ②国立博物館の収蔵品の貸与の促進を行う。 国立博物館が収蔵する文化財を全国の博物館・美術館等での展示で活用するため、貸与促進事業を実施し、地方創生・観光振興にも寄与する。実施にあたっては、作品の輸送費や広報費等を負担するとともに、文化財の魅力と価値を広く伝える活動に取り組む。 ③文化財のデジタル資源化の推進と国内外への情報発信を行う。 ColBase（国立文化財機構所蔵品統合検索システム）、ｅ国宝（文化財高精細画像公開システム）の内容の充実を図る。 ④文化財の保存等に関する相談・助言・支援を行う。 「活用との両立」の観点より、文化財の展示・収蔵環境向上に資するための、相談や協議対応、改善のための調査協力や技術支援、研修会や講習会を通じた環境管理に携わる人材育成を行う。また、環境管理に係る調査研究を行う。	（６）文化財の積極的な活用による文化財の継承につなげる新たな取組 （文化財活用センター） ①文化財に親しむためのコンテンツの開発とモデル事業の推進 １）各施設と連携して、高度な技術で制作された複製や、VR・AR、８Ｋ映像などの先端技術を使った企画コンテンツ事業を積極的に推し進めることで、文化財の新しい活用方法を探り、これまで文化財に触れる機会のなかった人々にも、学ぶ喜びや、楽しい時間を創出する。 ア　企業等と連携して高精細複製品を制作する。 イ　東京国立博物館法隆寺宝物館に、８Ｋ等の技術を使った法隆寺ゆかりの文化財に親しむための体験型展示コーナーを新設する（令和５年２月予定）。 ウ　企業等と連携して、最先端の技術を駆使した体験型展示、東京国立博物館 150 周年記念特別企画「未来の博物館」（10 月 18 日～12 月 11 日）（８週間）を開催する。 ２）地域の美術館・博物館等への企画コンテンツの貸出を行う。 ア　TEPIA 先端技術館における、８Ｋで文化財「ふれる・まわせる名茶碗」公開等を行う。 ３）学校や地域の美術館・博物館との連携により、高精細複製品等を活用したアウトリーチプログラムを実施する。 4）学校向けオンラインコンテンツの開発。 ②国立博物館の収蔵品の貸与の促進 １）４館と連携して、国立博物館の収蔵品を対象とした「国立博物館収蔵品貸与促進事業」を継続して行う。 ③文化財情報のデジタル資源化の推進と国内外への情報発信 １）各施設と連携して、所蔵品データベース「ColBase 国立文化財機構所蔵品統合検索システム」について、掲載画像を増やすとともに、画像の高精細化、データのアップデートを進め、その充実を図る。 ２）各施設と連携して、４館及び奈良文化財研究所所蔵の国宝・重要文化財について、４言語（日、英、中、韓）の説明を付したデジタル高精細画像を公開する「ｅ国宝　国立文化財機構所蔵 国宝・重要文化財」のデータの更新、解説文の見直しを継続して行う。 ３）各施設の協力のもと、国の分野横断統合ポータル「ジャパンサーチ」にデータを提供する。 ４）文化財活用センターのウェブサイト、SNS 等を活用し、文化財活用センターの活動の周知ならびに、文化財全般にかかる情報の発信を行う。 ④文化財保存の質的向上に資するための協力、支援、人材育成 １）博物館・美術館等からの展示・収蔵環境に関する相談に対応して助言を行い、必要に応じて、改善のための調査や技術支援を行うとともに、環境管理に関する調査研究を行う。 ２）文化財保存管理に携わる学芸員や行政担当者等を対象とした、保存環境管理に関する研修会や講習会等を開催する。 ３）文化財保護法 53 条に基づいて、所有者以外による文化財公開を行う施設に対する保存環境調査を実施し、必要に応じて、改善のための助言や協力を行う。 ４）国立博物館収蔵品貸与促進事業の実施館の環境調査を実施し、必要な助言や協力を行う。
No. Ⅰ―２ 文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施	（１）新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究 有形文化財及び伝統的建造物群に関する調査研究においては，文化財の価値や保存に関する研究基盤等の蓄積を図ることとし，各時代の絵画・彫刻，古代建築，近畿地方を中心とする寺社の歴史資料・書跡資料，重要伝統的建造物群保存地区の候補となりうる伝統的建造物群に関する研究	（１）新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究 国内外の機関との共同研究や研究交流を含め、文化財に関する基礎的・体系的な調査研究や文化財の保存・活用のための調査研究に取り組む。その成果は、基礎的データの増大や学術的知見の蓄積、文化財指定等の基礎資料の提供につながり、国・地方公共団体における文化財保護施策の企画・立案、文化財の評	（１）新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究 ①有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究 １）我が国の美術を中心とする有形文化財等に関する調査研究 ア　国内外の文化財に関する様々な情報について分析し、それらの情報を文化財保護に対して活用するための調査研究を実施する。また、イギリス・セインズベリー日本藝術研究所等と共同研究を行う。その他機関との連携も図りつつ、文化財情報の公開・活用のための、より望ましい手法等の研究を行う。 イ　近世以前の日本をはじめとする東アジア地域における美術作品を対象として、基

	に重点的に取り組むものとする。 無形文化財，無形民俗文化財等に関する調査研究においては，無形の文化財の現状把握と記録に関する研究基盤等の蓄積を図ることとし，重要無形文化財を中心とする古典芸能，伝統工芸技術及びそれに関わる文化財保存技術，重要無形民俗文化財を中心とする民俗芸能，風俗慣習，民俗技術に関する研究に重点的に取り組むものとする。 記念物，文化的景観，埋蔵文化財に関する調査研究においては，文化財の価値や保存に関する研究基盤等の蓄積を図ることとし，古代日本の都城遺跡（平城宮跡，飛鳥・藤原宮跡）の発掘調査，史跡・名勝の保存と活用の在り方，重要文化的景観及びその候補となりうる文化的景観の保存・活用実態，水中文化遺産及び古代官衙遺跡等に関する研究に重点的に取り組むものとする。	価等に関し，個別的・総合的に寄与する。 ①有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究 有形文化財、伝統的建造物群に関する基礎的・体系的な調査研究として以下の課題に取り組み、我が国の美術工芸品や建造物の価値形成の多様性及び歴史・文化の源流の究明等、並びに有形文化財の保存修復等に寄与する。 １）我が国の美術を中心とする有形文化財等に関する調査研究 我が国において古代から近現代までに制作された絵画・彫刻・工芸等を中心とする有形文化財、及びそれらに関連する国内外の文化財について、その文化財の製作技法、制作背景等と受容の様相、その後の評価の変遷、今日に至るまでの保護等に関する調査研究、文化財やその保護に関する文献・画像資料及びその他の文化財情報に関する調査研究とそれらの収集・整理、データベースの構築手法等の文化財情報の公開・活用手法に関する調査研究を行い、調査研究成果を公開する。 ２）建造物及び伝統的建造物群に関する調査研究 建造物に関しては、古代建築の研究に資するため、古材調査を中心とする古代建築調査を行う。また、近世・近代の建造物等の調査研究及び保存活用計画の策定への協力を行い、成果を公開する。伝統的建造物群については、その保存と活用に資するため、重要伝統的建造物群保存地区を目指している地区の調査を行い、成果を公開するとともに、各地の歴史的建造物の保存に協力する。 ３）歴史資料・書跡資料に関する調査研究 我が国の歴史、文化の解明及び理解の促進等を図るため、近畿地方を中心とした寺社の歴史資料・書跡資料等に関する調査研究を行う。 ②無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査研究 無形文化財、無形民俗文化財等に関する以下の課題に取り組み、その伝承・公開に係る基盤の形成に寄与する。 １）重要無形文化財等の保存・活用に資する調査研究 重要無形文化財を中心とする古典芸能・伝統工芸技術及びそれらに関わる文化財保存技術について、調査研究・情報収集・記録作成に努め、その保存伝承に資する成果を公開する。 ２）重要無形民俗文化財等の保存・活用に資する調査研究 無形民俗文化財においては、全国の民俗芸能・風俗慣習・民俗技術の情報を収集記録し、その保存及び活用に貢献しうる研究成果を公開する。 ③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する基礎的・体系的な調査研究として以下の課題に取り組み、記	礎的な調査及び研究を進める。また年紀資料をはじめとする基盤となる資料情報の充実を図る。併せて、これにかかる国内外との研究交流を推進する。 ウ　日本の近・現代美術を対象として、東京文化財研究所蔵の資料をはじめ他機関や個人が所蔵する作品及び資料の調査研究を行い、これに基づき研究交流を推進する。併せて、これまで蓄積してきた美術関係者情報の整備・発信に努め、また主に現代美術に関する資料の効率的な収集と公開体制の構築を目指す。 エ　美術作品を中心とする有形文化財についての歴史的位置づけ及びそれに基づくより深い理解を得ることを目的として、種々の美術工芸品を主な対象として、その表現・技術・材料等について、自然科学や人文学における様々な隣接諸分野とも連携した多角的調査研究を実施し、その成果公開を行う。さらに、新たな独創的研究視点や手法の検討・開発にも取り組む。 ２）建造物及び伝統的建造物群に関する調査研究 古材調査等を中心とする古代建築の調査研究、近世・近代を中心とした文化財建造物の基礎データの収集、未指定建造物・歴史的建造物の今後の保存と復原に資するための調査・研究を行い、纏まったものより順次公表を行う。また、伝統的建造物群及びその保存・活用に関する調査研究を推進し、保存活用を行っている各自治体等への協力を行う。 ３）歴史資料・書跡資料に関する調査研究 近畿を中心とする古寺社や旧家等が所蔵してきた歴史資料・書跡資料等に関して、原本調査、記録作成を悉皆的に実施するとともに、当麻寺・吉野山関係資料等について公表に向けて整理研究を行う。 ②無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査研究 １）重要無形文化財の保存・活用に資する調査研究等 無形文化財等の伝承実態及びそれらに関わる文化財保存技術に関する基礎的な調査研究及び資料の収集を行うとともに、伝承が困難なため現状記録を要する対象を精査し、記録作成を実施する。 調査研究等に際しては関連する他分野の研究者、伝承者・保存団体、技術保持者・保持団体等との連携を図り、当該調査研究等に基づく成果の一部については、一般向けの公開講座等を通して公表する。 また、これまでに研究所で収集・保管してきた記録・資料の整理を行い、必要に応じて媒体転換等の措置を講ずる。 ２）重要無形民俗文化財の保存・活用に資する調査研究等 我が国の風俗慣習、民俗芸能、民俗技術等無形の民俗文化財、及び文化財の保存技術のうち、近年の変容の著しいものを中心に、現在における伝承の実態、伝承組織、公開のあり方等を明らかにするとともに、各地の保存団体や保護行政担当者等とこれら研究成果及び問題意識の共有化を図る。特に災害下における伝承の復興や、後継者不足等により継承の危機にある伝承を重点的に調査研究の対象とする。 さらに、無形文化遺産の記録やその所在情報を継続的に収集し、その情報の整理・公開に努めるとともにネットワーク構築を図る。 ３）無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集等 日本と関連の深いアジア諸国等との間において研究員の交流や無形文化遺産関連調査を行う等、無形文化遺産分野における研究交流事業を実施する。ユネスコ無形文化遺産保護条約に関する調査研究を進める。 ③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 １）史跡・名勝の保存・活用に資する調査研究 我が国の史跡・名勝に関し、以下の調査研究を行う。 ア　遺跡等の整備に関連する資料の収集・調査・整理等を行う。また、遺跡の保存・活用に関する研究集会を開催するとともに、過年度開催した研究集会の成果の取りまとめ及び公表を行う。さらに平城宮跡等で保存・活用に関する実践的研究を行う。 イ　庭園調査を行うとともに、庭園に関する基礎資料の収集・整理を進める。 ２）古代日本の都城遺跡に関する調査研究 国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等

		念物の保存・活用、古代国家の形成過程や社会生活等の解明、文化的景観に関する保存・活用並びに研究の進展、埋蔵文化財に関する学術研究の深化に寄与する。 １）史跡・名勝の保存・活用に資する調査研究 記念物のうち史跡については、その保存・活用のための調査研究を地域振興の観点に基づき進める。名勝については、庭園に関する調査研究を実施し、成果を公開する。 ２）古代日本の都城遺跡に関する調査研究 古代日本の都城の解明等を図るため、平城地区では平城宮跡東院地区及び東方官衙地区並びに平城京内の寺院遺跡の調査研究を進め、飛鳥・藤原地区では藤原宮跡大極殿院地区等及び飛鳥地域の寺院・宮殿遺跡等の調査研究を進める。 ３）重要文化的景観等の保存・活用に資する調査研究 文化的景観の保存・活用の促進等を図るため、重要文化的景観に関する情報を収集・整理し、成果を公開する。あわせて、複数の事例研究により文化的景観の調査手法の体系化を行う。 ４）全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究 遺物及び遺構の解明とその保存・活用の促進等を図るため、官衙・集落遺跡、古代瓦等に関し全国的な情報収集及び連携に基づく調査研究を実施し、成果を公開する。 ５）水中文化遺産に関する調査研究 国内の水中文化遺産保護等に関する調査を行う。	に関する調査研究及び伝統的建造物に関する基礎的調査研究を行う。 ア　古代都城の解明のため、平城京跡、興福寺旧境内、藤原宮大極殿院地区、藤原京跡、及び飛鳥地域の宮殿・寺院の発掘調査を行う。 イ　出土遺物及び遺構に関する調査、分析、復原的研究を総合的・多角的に行い、調査研究が纏まったものより順次公表する。 ウ　飛鳥時代の壁画古墳について東アジアを主とする古墳、壁画、絵画資料等の事例との比較研究を行うとともに、東アジアにおける工芸美術史・考古学研究の一環として、日中韓の古代寺院出土遺物を中心とした資料の調査を行う。また、飛鳥時代木造建築に関する研究として、藤原宮・京跡や飛鳥・藤原地域に所在する寺院の構造や出土部材の研究を行う。 エ　アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡及び陶磁器に関する調査研究並びに研究協力について、日本の古代都城及び北魏洛陽城等に関する中国社会科学院考古研究所との共同研究と学術交流の推進、中国の生産遺跡（白河窯跡及び生産品）に関する河南省文物考古研究院との共同研究、三燕文化出土の金属器・陶器等の調査・分析を中心とする遼寧省文物考古研究院との共同研究、日韓古代文化の形成と発展過程に関する韓国国立文化財研究院との研究者の発掘現場交流を含む共同研究等を、協定等に基づいて行う。また、調査研究が纏まったものより順次公表する。 ３）重要文化的景観等の保存・活用に資する調査研究 文化的景観の保存・活用、及び文化的景観における生活・生業に関する情報収集、調査研究を行う。また、得られた成果を公表し、全国の文化財保護行政担当者、研究者と共有する。 ４）全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究 我が国の埋蔵文化財及びその保存・活用に関し、以下の調査研究を行う。 ア　全国の遺跡のうち災害痕跡のみられる遺跡や、官衙・古代寺院を中心とした資料収集及び分析に有効な指標や手法についての研究を進め、その成果をデータベース化して順次公開する。 イ　古代官衙・集落遺跡に関する研究集会を開催し報告書を刊行する。古代瓦に関する研究集会を開催する。 ５）水中文化遺産に関する調査研究 我が国の水中文化遺産の保存と活用の体制を構築するため、水中文化遺産の保存並びに活用に関する調査研究を行う。
	（２）科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究 文化財の調査手法に関する研究開発においては，文化財の価値や保存に関する研究の進展を図ることとし，可搬型分析機器を用いた調査方法，デジタル画像の形成方法等，埋蔵文化財の探査・計測等の調査手法，年輪年代学による木造文化財の年代確定，動植物遺存体等の調査手法に関する研究に重点的に取り組むものとする。 文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究においては，文化財の保存に関する研究の進展を図ることとし，生物被害の機序解明と対策，文化財の保存環境と維持管理，文化財の材質・構造等の科学的分析，屋外文化財の保存修復計画，文化財の修復方法と材料の研究，被災文化財や近代文化遺産の修復技術，考古遺物の保存処理法，環境制御による遺構の保存法，高松塚古墳・キトラ古墳の保存対策に関する研究に重点的に取り組むものとする。	（２）科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究 文化財の価値や保存に関する研究の進展を図るため、下記の研究開発及び調査研究に取り組む。 ①文化財の調査手法に関する研究開発 文化財の調査手法に関する研究開発を推進し、科学技術を的確に応用し、文化財の調査手法の正確性、効率性等の向上に寄与する。また、文化財を生み出した文化的・歴史的・自然的環境等の背景やその変化の過程を明らかにすることに寄与する。 １）視覚情報からのデジタル情報の形成方法等の研究開発 文化財の現状及び劣化状態、材料、制作技法等の情報の記録や解析に応用するため、デジタル画像の形成や３Ｄ記録製作等の手法について研究開発を進める。 ２）埋蔵文化財の調査手法の研究開発 遺跡調査の質的向上及び作業の効率化等を図るため、遺跡の探査・計測・分析等の調査手法に関する研究開発を進める。	（２）科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究 ①文化財の調査手法に関する研究開発の推進 １）デジタル画像の形成方法等の研究開発 さまざまな光源を用いた高精細デジタル撮影により、文化財が本来有する情報を目的に応じて正確・詳細に視覚化するための調査・研究を行い、その成果を公開する。その一環として、ガラス乾板等の過去に撮影された写真原版からの画像の取得手法及び色彩復元に関する調査研究を行う。 ２）埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発 埋蔵文化財の調査における新たな手法の開発・導入と応用に関する研究を行う。特に、情報取得手段としての遺跡探査、地質の検証、遺構・遺物の計測や記録内容情報抽出についての手法及び資料の製作技法や形態・物性に基づく資料分析、一般にむけての AR・VR、ゲーム等の利用を含めた成果を活用する方法について研究を進める。 ３）年輪年代学を応用した文化財の科学的分析方法の研究開発 出土遺物、建造物、美術工芸品等の木造文化財の年輪年代調査を実施し、考古学、建築史学、美術史学、歴史学等の研究に資するとともに、各地の年輪データの蓄積を進める。また、デジタル技術等を活用した年輪年代調査や、年輪年代学的手法による同一材推定の応用等、分析方法の研究開発を進め、これらの研究成果を公表する。 ４）動植物遺存体の分析方法の研究開発 平城宮跡・藤原宮跡等、各地の遺跡から出土する動植物遺体の調査を実施して古環境や動植物資源利用の歴史を明らかにするとともに、多様な調査手法について基礎的な

		３）年輪年代学を応用した文化財の科学的分析方法の研究開発 年輪年代調査による木造文化財の年代確定を推進するとともに、分析に必要不可欠となる各地の年輪データを収集・整理し、その地域性に関する研究等を進める。また、デジタル技術等を活用した年輪年代の調査に関する研究開発を進める。 ４）動植物遺存体の分析方法の研究開発 過去の生活・生業活動の解明等を図るため、基礎研究として、分析に必要不可欠な現生の動植物標本を収集・整理するとともに、発掘調査等で出土した動植物遺存体等の調査手法に関する研究開発を進める。 ５）文化財の調査・研究成果を社会・教育実装するための ICT を用いた普及・啓発手法の開発 AR・VR 技術やゲーム、データベース等の手段を用いた文化財の調査・研究成果の公開・普及を促進するための基礎研究を進める。 ６）物質文化・地質情報等を基とした防災・減災・復興・復旧の歴史的研究 遺構、遺物、石造物、地質などの遺跡調査において確認される情報を統合した災害史の基礎研究を行い、防災・減災に資する情報活用、普及啓発に向けた調査研究を行う。 ②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 文化財の保存科学や修復技術・修復材料・製作技法に関する中核的な研究拠点として、最新の科学技術を応用し、文化財研究としての新たな技術の開発を進め、国内外の機関との共同研究や研究交流を図り、先端的な調査研究を推進する。 以下の調査研究に取り組むとともに、その成果を広く公開することにより、文化財の保存や修復の質的向上に寄与する。 １）生物被害の機序解明と対策に関する調査研究 生物被害の機序解明を通して、虫菌害対策のシステム化を行う。文化財建造物や古墳など生物制御が困難な場所では、環境と調和した新しい対策法の検討を進める。博物館等施設内の生物被害モニタリングの改良と標準化によって予防保存をより向上させる。また、被災文化財の生物被害を低減するための初期対応方法を研究する。 ２）文化財の保存環境と維持管理に関する調査研究 様々な条件下における建物の特徴と環境との関係を明らかにしつつ、文化財保存に最適な環境を作り出し、維持管理する方法を検討する。被災文化財の一時保管場所を想定した保存環境について、環境整備に必要な温湿度・空気質等の状況を把握し、より良い環境づくりのための調査研究を行う。 ３）文化財の材質・構造、及び保存状態に関する調査研究 　各種の可搬型分析装置を用いた文化財の材質・構造・劣化状態に関する調査研究を行う。日本絵画における顔料の変遷等の研究を進めるとともに、美術工芸品等に用いられている金属の腐食に関する調査研究及び対策の検討を行う。 ４）屋外文化財の保存修復計画に関する調査研究 　屋外に存在する多様な文化財について、その価値を有効に人々に伝えるための適切な保存修復計画の構築に資する研究を行う。 ５）文化財の修復技法及び修復材料に関する調査研究 美術工芸品や建造物等の修復に貢献するため、伝統的な修復材料・技法についての科学的調査を行い、その安定性についての評価を行う。また旧来の材料・技法では施工が困難とされてきたものについて、新規の材料・技法の開発に関する調査研究を行う。 ６）文化財の修復技術に関する調査研究 被災文化財の保存修復技術、及び近代以降に使われるようになった新しい材料や技法に関する保存修復技術の調査研究を行う。様々な保存修復技術を現場に効果的に適用するための研究を行う。 ７）考古遺物の保存処理法に関する調査研究 考古遺物の診断調査から得られる情報を活用し、金属製遺物の脱塩・安定化法や木製遺物のシステマティックな含浸処理法等、考古遺物を安定した状態で保存・活用するための新規の保存処理法に関する調査研究を行う。 ８）遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究 遺構周辺の熱水分性状に関する環境調査及び物質移動、埋蔵環境についてモデル化を行い、遺構と埋蔵環境下にある遺物の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究を行う。 ９）考古遺物を中心とした文化財の材質調査に関する調査研究 金属製遺物やガラス製遺物などの無機質遺物を中心に、材質に関する定量分析法の問題点を抽出するとともに、確度の高い分析法の確立を目指した調査研究を行う。 10）高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究 高松塚古墳、キトラ古墳の保存対策事業等、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、実践的調査研究を迅速かつ適切に行う。	研究を行う。また、環境考古学研究の基礎となる現生標本を継続的に収集して、公開する。 ５）文化財の調査・研究成果を社会・教育実装するための ICT を用いた普及・啓発手法の開発 文化財の調査・研究成果の公開を主眼として AR・VR、ゲーム等の利用を含め、一般に向けた成果の活用について検討を行う。特に、小中学校のプログラミング教育必修化や新型コロナウイルスによる「新しい生活様式」に対応した形での文化財情報の活用を検討する。 ６）物質文化・地質情報等を基とした防災・減災・復興・復旧の歴史的研究 都城発掘調査部や地方公共団体等が実施する発掘調査によって得られる地層データについて、その取得、分析、公開などの手法を研究し、災害史の基礎資料として発掘調査データを活用することを検討する。また、これらの記録手法として三次元計測や画像解析の研究を進める。 ②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 １）文化財の生物劣化の機構解明と環境調和型対策に関する研究 文化財建造物、古墳内環境など生物制御が困難な空間にある文化財を対象として、分子生物学的手法を用いた加害生物種特定の技術開発を行うとともに、被災文化財を含めた虫菌害被害に対して環境低負荷型の処置方法について基礎研究を行う。 ２）文化財の保存環境と維持管理に関する調査研究 博物館美術館等の文化財保管施設における空気質等環境変動要因に関する調査を実施し、最適な環境条件を設定するための検討を行う。また、被災文化財の一時保管場所を念頭に置いて、文化財防災センターと協力して様々な施設における環境調査を実施し、安定した保存環境を設定するための方策について検討する。 ３）文化財の材質・構造・保存状態に関する研究 可視光から赤外線までの波長領域にわたる反射分光分析を新たに導入し、各種分析装置を併用して文化財の材質・構造・劣化状態に関する調査研究を行う。日本絵画における顔料の変遷等の研究を進めるとともに、美術工芸品等に用いられている鉛や青銅の腐食に関する調査研究及びその対策に関する検討を行う。 ４）屋外文化財の保存修復計画に関する調査研究 屋外に存在する人文資料や自然史資料を対象に、その劣化状況を適切に評価し、価値を回復して人々に有効に伝えるための適切な保存修復方法を検討する。 ５）文化財の修復のための技法と材料に関する調査研究 美術工芸品及び建造物等の修復に貢献するため、修復材料・修復方法に関する科学的調査を実施し、その評価を行う。また、旧来の材料・技法では施工が困難とされてきたものについて、新規の材料・技法の開発に関する調査研究を行う。修理技術者に必要な科学的知識に関して、今までの成果を元にアウトリーチ活動を行う。 ６）伝統材料・製作技法について科学的調査と情報集積を行う。 文化財の構成材料や修復に関連し、伝統的材料・用具とそれらを使用する技法についての調査を行い、科学的評価を踏まえた記録を作成することで、文化資産の客観的な情報集積を目的とする。 ７）文化財の修復技術に関する調査研究 災害によって被災した文化財資料の応急処置または保存修復処置に係る技術や方法に関する調査研究を行う。近代以降に使われるようになった新しい保存修復技術や方法に関する調査研究を行う。様々な技術や方法を、保存修復処置を行う現場に効果的に適用するための研究を行う。 ８）考古遺物の保存処理法に関する調査研究 鉄製遺物の発掘後の劣化挙動の予測技術及び効果的な新規の脱塩法を確立するための基礎研究を行う。また、木製遺物の保存処理における薬剤含浸を効率化する新たな手法の確立と実用化に向け、基礎データの蓄積を進める。 ９）遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究 遺構の劣化要因として塩害及び乾湿繰り返しに着目し、これらの劣化因子が遺構を破壊するメカニズムに関する基礎研究を実施する。また遺構の周辺環境がこれらの劣化の進行におよぼす影響を検討することで、それらの進行を抑制する環境制御法、及び脱塩などの処置法などについても検討する。 10）考古遺物を中心とした文化財の材質調査に関する調査研究 イメージング技術を活用した考古遺物等の非破壊調査を進め、古代の材料・技法に関する調査研究を行う。光学的手法を用いて各種色料（顔料、染料、ガラス着色剤など）の基礎データを収集するとともに、混色又は劣化による変化を明らかにするための実験を行う。また、文化財を対象とした蛍光 X 線分析等の機器分析のガイドライン作成にむけての実験及び基礎データの収集を進める。 11）高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究 ア　文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画等の調査及び保存・活用に関して技術的に協力する。 イ　壁画の安定した保存と公開活用を行うための適切な保存環境について調査研究を行う。 ウ　遺跡現地における壁画の安定した保存と公開活用を行うため、大分県や熊本県に所在の装飾古墳において温熱環境調査及び石材などの劣化状態調査を行い、適切な石室内の熱水分環境について検討を行う。
（３）文化遺産保護に関する国際協働 文化遺産の保護に関する国際的な協力については，「海外の文化遺産の保護に係る国際的な協力の推進に関する法律」及び同法に基づく「海外の文化遺産の保護に係る国際的な協力の推進に関する基本的な方針（平成 26 年 2 月 21 日外務	（３）文化遺産保護に関する国際協働 ①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 我が国が有する文化遺産保護に関する知識・技術・経験を活かしながら、下記のような事業を有機的連携のもと総合的に展開することを通じて、人類共通の財産である海外の文化遺産保護に協力することにより、諸外国との文化的交流及び相互理解の促進に貢献する。	（３）文化遺産保護に関する国際協働 ①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 １）文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信 海外の文化遺産に関する情報の収集、諸外国の文化遺産保護施策・スキーム等に関する調査研究を行う。 ア　文化遺産の調査や保護に関わる国際的議論の場への参加等を通じて情報の収集を行うとともに、文化遺産の保護をめぐる今日的課題等に関する調査研究を行い、その成果を研究会の開催や出版物の刊行等により国内外に情報発信する。

省・文部科学省告示第１号）（以下「基本方針」という。）」等に従い，文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進を行う。
また，アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関し，ユネスコと日本国政府の間の協定に基づき設立されたアジア太平洋無形文化遺産研究センターについて，基本方針第１の４（２）教育研究機関等の役割の④に掲げる文化財機構の役割に従い，文化遺産国際協力を推進する。
「海外の文化遺産の保護に係る国際的な協力の推進に関する基本的な方針」（抜粋）
第１　文化遺産国際協力の基本的方向
４．文化遺産国際協力の推進における国等の役割
（２）教育研究機関等の役割
④ また，平成 23 年 10 月には，日本国政府とUNESCO（国際連合教育科学文化機関（以下「ユネスコ」という。）との協定に基づき，ユネスコが賛助するアジア太平洋地域における無形文化遺産のための国際調査研究センターとして，独立行政法人国立文化財機構アジア太平洋無形文化遺産研究センターが設置された。当該センターにおいては，我が国の無形文化遺産に関する国際協力の拠点として，東京文化財研究所等の関係機関と連携しつつ，アジア太平洋地域の無形文化遺産の保護に向けた調査研究等の国際協力を推進することが望まれる。

（４）文化財に関する情報・資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用研究の進展や行政事務の効率化等に資することを目的として，文化財に関する情報及び図書・雑誌等を収集・整理し，公開する。
調査研究の成果を刊行物，講演会等を通じて広く公表するとともに，平城宮跡資料館・飛鳥資料館等の公開施設において公開する。なお可能な限り，調査研究に関する論文等について，学術情報リポジトリ等としてウェブサイトでの公開を推進する。

１）文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信
海外の文化遺産に関する情報の収集、諸外国の文化遺産保護施策・スキーム等に関する調査研究を行う。また世界遺産委員会などユネスコ等が行う主要な国際会合に出席して情報の収集を行うとともに、文化遺産の保護をめぐる今日的な課題等に関する調査研究を行い、その成果を国内外に情報発信する。
２）文化遺産保護に関する研究及び協力事業の推進
諸外国の多様な文化遺産の保存や活用等に関し、研究会の開催や現地におけるワークショップを含む国際共同研究等の実施を通じて、その理念と技術の両面における研究を進めるとともに、国際協力を推進するための基盤を強化する。
また、その成果をもとに、我が国が蓄積してきた調査技術や保存技術、実践的方法論等を活かしつつ、ASEAN 諸国をはじめとするアジア地域を中核としながら、諸外国での文化遺産保護に関する技術支援や体制強化などに資する協力事業を実施する。
３）文化遺産保護に関する人材育成等
諸外国の文化遺産担当者等を対象とした研修や専門家の派遣を通じて、文化遺産の保存や活用等に関する人材育成を進める。またこのような機会を通じて、国際的な文化遺産保護に関する情報交換や相互協力を促進する。
４）海外に所在する日本古美術品等の保存に関する協力
諸外国が所蔵している日本古美術品等の保存修復に協力し、さらにその成果を英文報告書等で公開することにより日本が持つ伝統的保存修復に関わる知識と経験の共有を行う。
②②アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究
アジア太平洋地域において活動する研究者・研究機関と連携のもと、無形文化遺産保護の実践及び方法論についての国際会議やシンポジウム及び専門家会合並びに出版等の事業を通じた研究の活性化、研究情報の収集及びその活用戦略の検討と開発を通じて、当該地域における無形文化遺産保護のための研究を促進する。

（４）文化財に関する情報・資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用
　文化財に関連する情報・資料の収集・整理・保管を行うとともに、調査研究成果を公開し、国内外の諸機関との連携を強化することにより、広く社会に還元する。
①文化財情報基盤の整備・充実
　文化財情報・資料の計画的収集、整理、保管、公開並びにそれらの電子化の推進による文化財に関するアーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としての文化財情報データベースを高度化するとともに、文化財情報データベースの構築に関する国内外の事例調査を行い、調査研究及びその成果発信のための文化財情報基盤を計画的に整備する。なお、文化財に関するデータベースのアクセス件数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。
②調査研究成果の発信
　文化財に関する調査研究の成果を定期刊行物やウェブサイト、公開講演会、現地説明会、シンポジウム等により、多元的に発信する。また、ウェブサイトにおいては、上記の発信手法と併用あるいはそれらを補完するとともに、ウェブの特徴を生かした情報発信を行い、国内外の利用者に向けた日本語はもとより多言語での情報発信を図る。
③展示公開施設の充実
　平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館については、研究成果の公開施設としての役割を強化する観点からウェブサイトによる動画配信を含め、展示等を充実させ、来館者の理解を促進する。なお、来館者に対する満足度アンケートにおける上位評価が前中期目標の期間と同程度の水準の維持を目指す。
また、宮跡等への来訪者に文化財及び文化財研究所の研究成果等に関する理解を深めてもらうため、「新しい生活様式」を踏まえつつ、解説ボランティアを育成し、その活動を支援する。

（５）地方公共団体等を対象とする文化財に関する

イ　英国等の研究機関との間で文化遺産に関する研究交流を行う。
２）文化遺産保護に関する研究及び協力事業の推進
国際共同研究等を通じて諸外国の多様な文化遺産の保存や活用等に関する理念と技術の両面における研究を進め、国際協力を推進するための基盤を強化するとともに、その成果をもとにアジア地域を主とする諸外国において文化遺産保護協力事業を実施する。
ア　文化遺産保護に関する研究及び協力事業を以下のように実施し、成果を広く公表する。
（ア）アジア地域等の文化遺産に関する調査研究及び保護協力事業を実施する。特にカンボジア・アンコール遺跡群（西トップ遺跡及びタ・ネイ遺跡）やブータン、カザフスタン、ウズベキスタン等の文化遺産について研究及び協力事業を実施する。
（イ）上記事業と連携しつつ、文化遺産保護に関する研究会やワークショップの開催等を通じて国内外の専門家との情報の共有化を図る。
３）文化遺産保護に関する人材育成等
諸外国の文化遺産担当者等を対象とした研修や技術的支援等を通じて文化遺産の保存や活用に関する人材育成を進める。
ア　政府間機関文化財保存修復研究国際センター（ICCROM）ほか国内外の諸機関等と連携し、紙文化遺産等に関する国際研修や国際ワークショップを通じて技術及び知識を海外の文化遺産担当者と共有するとともに、協力ネットワークを構築する。
イ　ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）等が実施する研修への協力を行う。
４）海外に所在する日本古美術品等の保存に関する協力
在外日本古美術品の保存修復に協力し、さらに成果を報告書等で公開することにより、日本が持つ伝統的保存修復に関わる知識と経験の共有を行う。
②アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究
アジア太平洋無形文化遺産研究センターは、アジア太平洋地域における無形文化遺産の保護のための調査研究の推進拠点として、域内の国々と協力し、以下の事業を行う。
・研究情報の持続的収集と共有、及びシンポジウム・セミナー等の開催を通じたアジア太平洋地域における無形文化遺産保護のための研究の促進
・持続的でレジリエントな社会構築につなげることを視野に入れた無形文化遺産研究の推進
・国際会合等への出席やユネスコ及び関連機関との連携を通じた無形文化遺産保護関連の国際的動向の情報収集

（４）文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用
①文化財情報基盤の整備・充実
文化財関係の情報を収集して国内外に発信するため、その計画的収集、整理、保管、公開並びに電子化の推進による専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースを構築・運用する。
１）国内外の文化財情報の文化財保護への活用、研究成果の効果的な発信及び研究の実施に資するデータベースを構築・運用する。特に、各種データベースを横断的に検索する総合検索を充実させる。また、調査研究の遂行に資する情報基盤としての所内情報システムを整備・充実させる。
２）文化財情報のデジタルアーカイブに関する実践研究を行う。データの長期保管及び公開活用に関して、技術面・法律面含めたガイドラインを作成する。
３）調査研究及び文化財防災に役立つデータベースの充実並びにアーカイブ機能の更新及び拡張を行う。
４）文化財に関係する図書、雑誌等の収集、整理、公開、提供を充実させる。
②調査研究成果の発信
文化財に関する調査研究の成果について、定期的に刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等により、多元的に発信する。また、研究所の研究・業務等を広報するためウェブサイトを充実させるとともに、日本語はもとより多言語でのページを充実させる。
１）定期刊行物の刊行
・『東京文化財研究所年報』
・『東京文化財研究所概要』
・『東文研ニュース』
・『美術研究』（年３冊）
・『日本美術年鑑』
・『無形文化遺産研究報告』
・『無形民俗文化財研究協議会報告書』
・『保存科学』
・『奈良文化財研究所紀要』
・『奈良文化財研究所概要』
・『奈文研ニュース』
・『埋蔵文化財ニュース』
２）公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等
・公開講座（オープンレクチャー）
・公開講演会
・現地説明会
３）ウェブサイトの充実
・東文研総合検索
・学術情報リポジトリ
・なぶんけんブログ等（コラム作資機等）
③展示公開施設の充実
平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館の展示等を充実させ、来館者の理解を促進するとともに、平城宮跡史跡指定 100 周年、高松塚古墳壁画発見 50 周年、奈良文化財研究所創立 70 周年関連展示を行う。
１）特別展・企画展
（平城宮跡資料館）
・平城宮跡史跡指定 100 周年記念・奈良文化財研究所 70 周年記念「平城宮跡の過去・未来（仮称）」（４月 29 日（祝・金）～６月 12 日（日））
・ミニ展示「大地鳴動」展（７月 16 日（土）～８月 28 日（日））
・平城宮跡史跡指定 100 周年記念・奈良文化財研究所 70 周年記念「地下の正倉院展」（サブタイトル未定）（10 月 15 日（土）～11 月 13 日（日））
・平城宮跡史跡指定 100 周年記念・奈良文化財研究所 70 周年記念「奈文研づくし（仮称）」（10 月 29 日（土）～12 月 10 日（日））
（飛鳥資料館）
・ミニ展示「収蔵品セレクション」（仮）（４月 22 日～５月 22 日）
・企画展「第 13 回写真コンテスト作品展「高松塚古墳」（仮）」（７月 15 日～９月 11 日）
・特別展「飛鳥美人　高松塚古墳の魅力（仮）」（10 月 21 日～12 月 18 日）
・企画展「飛鳥の考古学 2022」（５年１月 20 日～３月 12 日）
２）定期的に勉強会や研修を開催し、平城宮跡解説ボランティアを育成するとともに、解説ボランティアとの連絡会議等を通じて、より効果的かつ効率的な制度運用を行う。

（５）地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等

	る研修及び協力等 地方公共団体等の職員を対象とした有形文化財・記念物等の保存及び修復に関する研修並びに埋蔵文化財等に関する各種研修について，地方公共団体等の要望を踏まえた研修計画に基づき実施する。 また，文化財に関する国・地方公共団体の行政事務や博物館の業務等に関する依頼等について，専門的・技術的見地から適切な協力等を行う。	研修及び協力等 我が国の文化財に関する調査研究の中核として、これまでの調査研究の成果を活かし、文化財担当者を対象とした各種研修について、研修項目、課程等の体系を示し、地方公共団体等の要望を踏まえた研修計画を策定して実施し、文化財保護に携わる人材を育成する。 また、我が国全体の文化財の調査研究の質的向上に寄与するため、国・地方公共団体等に対する専門的・技術的な協力・助言を行う。 ①文化財に関する研修の実施 文化財に関する高度な研究成果をもとに、地方公共団体等の文化財担当者等に対し文化財に関する研修を行うとともに、保存担当学芸員に対し保存科学に関する研修を行う。 なお、研修の評価については、アンケートによる研修成果の活用実績が 80%以上となることを目指す。 ②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 ③平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の整備及び公開・活用事業への協力 文化庁と国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の整備及び公開・活用事業に協力する。また、NPO 法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。 ④連携大学院との連携教育等の推進 連携大学院との連携教育や大学への教育協力を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材を育成する。	①文化財に関する研修の実施 1）文化財の担当者研修、博物館・美術館等の保存担当学芸員研修を行う。 2）研修受講生を対象としたアンケート及び派遣元自治体を対象とした研修成果の活用状況に関するアンケート調査を引き続き行い、その結果を踏まえ、より充実した研修計画を策定する。 ②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 1）文化財活用センターを中心に地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・調査支援・情報提供等を行う。 2）蓄積されている調査研究の成果を活かし、他機関等との共同研究及び受託研究を行う。 3）地震・水害等により被災した地域の復旧・復興事業に伴い、地方公共団体等が行う文化財保護事業への支援・協力を行う。 ③平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力する。また、NPO 法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。 1）文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 ・文化庁が行う平城宮跡、藤原宮跡の整備、管理事業への協力 ・文化庁が行うキトラ古墳壁画保存管理施設の管理・運営と古墳壁画の公開事業への協力 ・国土交通省が行う平城宮跡第一次大極殿院を中心とする復原、整備・活用等への協力 ・国土交通省の平城宮いざない館展示室４（詳覧ゾーン）に関する学芸業務・連絡調整への協力 2）NPO 法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動への協力 ④連携大学院との連携教育等の推進 連携大学院との連携教育や大学への教育協力を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材を育成する。 1）東京藝術大学、京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育等の推進及び奈良大学への教育協力の実施 ・東京藝術大学大学院：システム保存学(保存環境学、修復材料学) ・京都大学大学院：共生文明学（文化・地域環境論） ・奈良女子大学大学院：人文科学（比較文化学） ・奈良大学：「文化財修景学」
	（６）文化財防災に関する取組 文化財防災センターは，文化財の防災・救援のための連携・協力体制の構築，文化財防災のための技術開発，専門的な知見から必要となる支援を行うとともに，文化財防災に関する地域の専門的人材の育成を図る。	（６）文化財防災に関する取組 文化財の防災・救援のための連携・協力体制の構築、文化財防災のための技術開発、専門的な知見から必要となる支援を行うとともに、文化財防災に関する地域の専門的人材の育成を図るため、次の取り組みを行う。 ①地域防災体制の構築 都道府県文化財所管部局を中心とした地域内連携体制、及び近隣都道府県の災害時相互支援体制の構築・促進等を図る。 ②災害時ガイドライン等の整備 多様な文化財に関する分野別の防災ガイドライン等の整備を図る。	（６）文化財防災に関する取組 （文化財防災センター） ①地域防災体制の構築 地方公共団体、博物館、美術館、大学等研究機関、地域史料ネット等の文化財等関係団体の連携及び協力を深め、地域の文化財の防災体制を構築する。 1）地方公共団体、博物館、美術館、大学等研究機関、地域史料ネット等の文化財等関係団体との協議、情報交換会を開催する。 2）都道府県が策定する文化財保存活用大綱、市町村が策定する文化財保存活用地域計画及び都道府県並びに市町村が策定する地域防災計画を収集し、地域文化財の防災体制に関する調査研究を行う。 3）災害発生時における文化財等の救援活動を支援する。 ②災害時ガイドライン等の整備 災害発生時において多様な文化財の迅速な救援活動を実現するために必要となる各種

		③レスキュー及び収蔵・展示における技術開発 各種の文化財収蔵施設や設備の安全対策に関する調査研究、被災文化財の応急処置・修復処置に関する事例の収集と技術開発、被災文化財の保管環境や災害時対応の手順等に関する研究を行う。 ④文化財防災を促進するための普及啓発 HP 等の活用による各種の広報活動を行う。シンポジウム・講演会を開催するとともに、地方公共団体職員や博物館・美術館学芸員等を対象とする研修を行って、文化財防災に関する普及啓発を行う。また、国際機関・外国機関等との連携を通じ文化財防災に関する国際貢献に資する。 ⑤文化財防災に関係する情報の収集と活用 各種文化財データベースの構築を行い、防災に活用するためのシステムの整備・開発を行う。	のガイドライン等の策定を行う。 1）各分野の文化財の防災に関する課題を整理する。 2）各分野の文化財の災害時における救援活動に必要となるガイドライン等の検討を行う。 ③レスキュー及び収蔵・展示における技術開発 平常時における文化財の収蔵及び展示における技術開発並びに災害時における文化財のレスキューに関する技術開発を行う。 1）文化財の災害に対するリスクの所在及び対処に関する調査研究を行う。 2）保存科学等に基づく被災文化財等の劣化診断、安定化処置及び修理、保存環境、被災現場の作業環境等に関する調査研究を行う。 ④文化財防災を促進するための普及啓発 文化財防災に関する指導、助言、研修等の啓発及び普及活動を行うとともに、文化財防災センターでの取組等を広く国内外へ情報発信する。 1）シンポジウム、講演会、研究集会、地方公共団体担当者等への研修会、地域の防災体制構築のための人材育成等を実施する。 2）文化財防災に関する取組についてウェブサイトでの公開とパンフレット等の作成を行い、国内外への情報発信に努める。 ⑤文化財防災に関係する情報の収集と活用 文化財防災に関する情報の収集を進め、我が国の文化財防災システムを機能的に運用するための情報の活用方法を検討する。 1）文化財が被災した災害事例及び文化財防災の先進事例に関する情報を収集し、整理して共有化を図る。 2）多様な文化財の防災に資するデータベース構築のためのデータ収集を進めるとともに、文化財防災への活用方法の調査研究を行う。 3）歴史災害痕跡に関するデータ収集を行い、データベース等の運用及び活用を進める。 4）諸外国の防災の取組や被災文化財の保全処置方法に関する新たな知見の入手に努めるとともに、我が国の経験を活かして諸外国の文化財防災に貢献する。 5）文化遺産防災ネットワーク推進会議及び文化遺産の防災に関する有識者会議を開催し、文化財防災に係る課題等の把握に努める。
No. Ⅱ 業務運営の効率化に関する事項	１．業務改善の取組 （１）組織体制の見直し 組織の機能向上のため，不断の組織・体制の見直しを行うものとし，法人の事業全体を通じて，体制の整備を図ることとする。 （２）人件費管理の適正化 給与水準については，公務員の給与改定に関する動向等を踏まえ，国家公務員の給与水準等とともに業務の特殊性を十分考慮し検証した上で，その適正化に取り組むとともに，検証結果や取組状況を公表すること。 （３）契約・調達方法の適正化 契約については，「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について」(平成 27 年 5 月 25 日総務大臣決定）に基づく取組を着実に実施し，「調達等合理化計画」に沿って，一層の競争性，公正性及び透明性の確保に努め，契約の適正化を推進すること。 （４）共同調達等の取組の推進 消耗品や役務について，上野地区を始め近隣の関係機関と連携して共同調達に取り組む。 なお，具体的な対象品目等は，年度計画等に定	１．業務改善の取組 （１）組織体制の見直し 組織の機能向上のため、組織・体制等の見直しを行う。機構の事業全体を通じて、体制の整備を図る。 （２）人件費管理等の適正化 国家公務員の給与水準とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数については適正な水準を維持するよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表する。 （３）契約・調達方法の適正化 「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について」（平成 27 年 5 月 25 日総務大臣決定）に基づき、引き続き取組を着実に実施し、文化財の購入等、随意契約が真にやむを得ないものを除き、競争性のある契約への移行を推進することにより、経費の効率化を行い、随意契約によることができる事由を会計規定等において明確化し、公正性・透明性を確保しつつ合理的な調達を実施する。 （４）共同調達等の取組の推進 各施設の業務内容や地域性を考慮しつつ、コピー用紙等の消耗品や役務について近隣の関係機関等との共同調達等の取組を推進する。	１．業務改善の取組 （１）組織体制の見直し ・独立行政法人の業務運営の柔軟性を生かし、より一層の組織機能向上のため、ICT への対応強化、文化財の活用や防災のための機能の強化等、組織体制整備に努める。 （２）人件費管理の適正化 国家公務員の給与水準とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数は国家公務員の水準を超えないよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表する。 （３）契約・調達方法の適正化 ①契約監視委員会を実施する。 ②施設内店舗の貸付・業務委託について引き続き企画競争を実施する。 （４）共同調達等の取組の推進 周辺機関との共同調達について、有用性が確認された以下の案件について引き続き実施する。 上野地区　再生 PPC 用紙、トイレットペーパー、廃棄物処理、古紙等売買、複写機賃貸借、トイレ洗浄機器等賃貸借 京都地区　再生 PPC 用紙、トイレットペーパー 九州地区　再生 PPC 用紙、トイレットペーパー、ガソリン （５）一般管理費等の削減 ①機構内の共通的な事務の一元化による業務の効率化 情報システムについては、機構共通事務システム・ネットワークの運用を継続し、業務の効率化及び情報の共有化を図る。

	めた上で進めるものとする。 （５）一般管理費等の削減 運営費交付金を充当して行う事業については，一般管理費及び業務経費の合計について，中期目標期間の最終年度において，令和２年度比5%以上の効率化を図る。ただし，文化財購入費等及び特殊要因経費，新たに追加される業務はその対象としない。また，人件費については（２）及びⅥ４．に基づき取り組むこととし，本項の対象としない。 ２．業務の電子化 文化財機構に関する情報の提供，業務・システムの最適化等を図ることとし，ICT を活用した業務の合理化・効率化を図る。 ３．予算執行の効率化 独立行政法人会計基準における運営費交付金の会計処理として，業務達成基準による収益化が原則とされたていることを踏まえ，収益化単位の業務ごとに予算と実績を管理する。	（５）一般管理費等の削減 運営費交付金を充当して行う事業については、一般管理費及び業務経費の合計について、中期目標期間の最終年度において、令和２年度比５％以上の効率化を図る。ただし、文化財購入費等及び特殊要因経費、新たに追加される業務はその対象としない。また、人件費については（２）及びⅨ４．に基づき取り組むこととし、本項の対象としない。このため、事務、事業、組織等の見直しや資源の効率的な利用、ICT の活用等によりサービスの質を維持した上で業務の効率化を図る。 ２．業務の電子化 機構に関する情報の提供、業務・システムの統合・融合化を含む最適化等を図ることとし、ＩＣＴを活用した業務の合理化・効率化を図る。 ３．予算執行の効率化 運営費交付金収益化基準として業務達成基準が原則とされていることを踏まえ、収益化単位の業務ごとに予算と実績を管理する。	②計画的なアウトソーシング 以下の業務の外部委託を継続して実施する。 （東京国立博物館） ・警備及び看視案内の一部並びに売札及び清掃業務 ・資料館業務の一部 ・施設内店舗業務 （京都国立博物館） ・警備業務及び設備保全業務の一部並びに清掃業務 ・会場運営業務 ・代表電話対応及び受付業務 （奈良国立博物館） ・建物設備の運転・管理業務 ・警備及び看視案内の一部並びに売札及び清掃業務 ・代表電話対応 （九州国立博物館） ・建物設備の運転・管理業務等 ・警備業務、看視案内業務及び清掃業務 （東京文化財研究所・奈良文化財研究所） ・警備業務、清掃業務及び建物設備の運転・管理業務等 ③使用資源の減少 ・省エネルギー 光熱水量の使用状況を把握し、管理部門を中心に引き続き節減に努める。 ・廃棄物減量化 使用資源の節減に努め、廃棄物の減量化に引き続き努める。 ・リサイクルの推進 廃棄物の分別収集を徹底し、リサイクルを引き続き推進する。 ２．業務の電子化 機構ウェブサイトにおいて、機構に関する情報の提供を引き続き行う。情報システムの共通化や、令和３年度に導入したコミュニケーションツールを活用しての業務の合理化・効率化を図る。 ３．予算執行の効率化 収益化単位の業務及び管理部門の活動と運営費交付金の対応関係を明確にし、引き続き効率的な予算執行に務める。
No. Ⅲ 財務内容の改善に関する事項	１．自己収入拡大への取組 コロナ禍における「新しい生活様式」を踏まえた事業展開において，引き続き展覧事業のサービスの向上に努め，安定的な自己収入の確保を図るとともに，業務の質の向上等に必要な資金の充実を図るため，会員制度の充実，保有財産の有効利用の推進，競争的資金や寄附金の獲得など多様な財源確保に努め，運営費交付金等の国費のみに頼らない財務構造へのシフトを目指す。	１．自己収入拡大への取組 コロナ禍における「新しい生活様式」を踏まえた事業展開において、展覧事業の集客力を高める工夫による来館者数の最大化に努め、自己収入の確保を図るとともに、賛助会員等への加入者の増加に継続的に取り組み、寄附金の獲得を目指す。 これらの取組により、寄附金等収入については、第５期中期目標期間の累積額が前中期目標期間の累積実績額以上を目指す。 また、保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用を推進する。さらに、競争的資金や寄附金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として運営費交付金等の国費のみに頼らない財務構造へのシフトを目指す。	１．自己収入拡大への取組 （１）コロナ禍における「新しい生活様式」を踏まえた事業展開において、誘客につながる魅力的な観覧環境の構築に努めるとともに、新たな自己収入の確保に取り組む。 （２）機構全体において、展示事業等収入額が年度計画予算額を上回ることを目指す。 （３）機構全体において、寄附金等の外部資金獲得により財源の多様化を図る。 （機構共通） ・所蔵品の修理や施設整備等への寄附を募る。 ・文化財活用センターが中心になって運用する国立文化財機構寄附ポータルサイト等を通じた情報提供や寄附事業の実施等により、一層の寄附を促す取組を行う。 （文化財活用センター、東京国立博物館） ・東京国立博物館創立 150 年を記念し同館所蔵品の修理に対する寄附金募集活動を新たに開始する。 （文化財活用センター、奈良文化財研究所） ・奈良文化財研究所の展示公開施設等における募金獲得強化やプロジェクト型クラウドファンディングを行う。 （４）保有資産の有効利用の推進 （機構共通）

			①講座・講演会等を開催する。 ②建物・講堂・セミナー室等の外部への貸出しを積極的に行う。 ③博物館４施設において、国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサート等を実施し、施設の有効利用を図る。 ④展示公開施設におけるミュージアムショップの運営委託等、施設の有効利用の推進を引き続き図る。
	２．固定的経費の節減 管理業務の節減を行うとともに，効率的な施設運営を行うこと等により，固定的経費の節減を図る。 ３．決算情報・セグメント情報の充実等 財務内容等の一層の透明性を確保し，活動内容を政府・国民に対して分かりやすく示し，理解促進を図る観点から，事業のまとまりごとに決算情報・セグメント情報の公表の充実等を図る。 ４．保有資産の処分 保有資産の見直し等については，「独立行政法人の保有資産の不要認定に係る基本的視点について」（平成 26 年９月２日付け総管査第 263 号総務省行政管理局通知）に基づき，保有の必要性を不断に見直し，保有の必要性が認められないものについては，不要財産として国庫納付等を行うこととする。	２．固定的経費の節減 管理業務の節減を行うとともに、効率的な施設運営を行うことにより、固定的経費の節減を図る。 ３．決算情報・セグメント情報の充実等 財務内容等の一層の透明性を確保し、活動内容を政府・国民に対して分かりやすく示し、理解促進を図る観点から、事業のまとまりごとに決算情報・セグメント情報の公表の充実等を図る。 ４．保有資産の処分 保有資産の見直し等については、「独立行政法人の保有資産の不要認定に係る基本的視点について」（平成 26 年９月２日付け総管査第 263 号総務省行政管理局通知）に基づき、保有の必要性を不断に見直し、保有の必要性が認められないものについては、不要財産として国庫納付等を行う。	２．固定的経費の節減 固定的経費の節減のため、Ⅱ１．（５）一般管理費等の削減に関する事項に取り組む。 ３．決算情報・セグメント情報の充実等 独立行政法人会計基準に従い、引き続き適切な決算情報・セグメント情報の開示を実施する。
No. Ⅳ その他の事項	１．内部統制 理事長のリーダーシップの下で，文化財機構の全ての役職員が，法令等を遵守し，日常の業務において役職員の使命感の向上等に資するよう適切な運営を行う。法人の使命等の周知，コンプライアンスの徹底，経営層による意思決定，内部規定の運用，リスクマネジメント等を含めた内部統制環境を継続して整備・運用し不断の見直しを行う。また，整備状況やこれらが有効に機能していること等について定期的に内部監査等によりモニタリング・検証するとともに，監事による監査機能・体制を強化する。 ２．その他 （１）自己評価 外部有識者を含めた客観的な自己評価を行うこととし，その結果を組織，事務，事業等の改善に反映させるものとする。 （２）情報セキュリティ対策 多様化するサイバー攻撃やセキュリティの脅威に対する組織的対応強化を図るため，政府機関の情報セキュリティ対策のための統一基準群を踏まえた規定の整備，役職員の研修及び教育を実施する。 計画的な情報セキュリティ対策の点検及び情報セキュリティ監査の実施により，情報セキュリティ対策の強化を図る。	１．内部統制 理事長のリーダーシップの下で、法人の使命等の周知、コンプライアンスの徹底、理事長のマネジメント強化、リスクマネジメント等を含めた内部統制環境を継続して整備し、運用する。また、内部監査等により定期的にそれらの整備状況・有効性をモニタリング・検証するとともに、監事による監査機能・体制の強化に取り組み、必要に応じて内部統制に関する見直しを行う。さらに、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取組の改善を行う。 ２．その他 （１）自己評価 外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ、年１回以上事業に関する自己評価を実施し、その結果を組織、事務、事業等の改善に反映させる。 （２）情報セキュリティ対策 多様化するサイバー攻撃やセキュリティの脅威に対する組織的対応強化を図るため、政府機関の情報セキュリティ対策のための統一基準群を踏まえた規定の整備及び適時適切な見直し、役職員の研修及び教育を実施する。 計画的な情報セキュリティ対策の点検及び情報セキュリティ監査の実施により、情報セキュリティ対策の実施状況を把握するとともに、その強化を図る。	１．内部統制 内部統制委員会、リスク管理委員会を開催する。また、内部監査及び監事監査等のモニタリングを実施し、必要に応じて見直しを行うとともに、各種研修を実施し、職員の意識並びに資質の向上を図る。 ２．その他 （１）自己評価 運営委員会、外部評価委員会の開催等、外部有識者の意見を踏まえた客観的な自己評価を実施し、その結果を組織、事務、事業等の改善に反映させる。 （２）情報セキュリティ対策 多様化するサイバー攻撃やセキュリティの脅威に対する組織的対応強化を図るため、政府機関等のサイバーセキュリティ対策のための統一基準群を踏まえた規定の整備及び適時適切な見直し、役職員の研修及び教育を実施する。 計画的な情報セキュリティ対策の点検及び情報セキュリティ監査の実施により、情報セキュリティ対策の実施状況を把握するとともに、その強化を図る

	３．施設設備に関する計画 施設設備の老朽化度合い等を勘案しつつ，計画的な整備を推進する。 施設設備の点検・診断の結果に基づき，必要な対策を適切な時期に，着実かつ効率的に実施するとともに，施設等の全体を把握し，長期的な視点をもって，更新・長寿命化などを計画的に行う。 東京国立博物館の本館及び表慶館，京都国立博物館の本館並びに奈良国立博物館の本館は，有形文化財の収蔵・展示施設であると同時に，建物自体が重要文化財であることを考慮し，関係機関と連携の上，適切な保存を図りながら活用を図る。	３．施設設備に関する計画 施設設備の老朽化度合い等を勘案しつつ、別紙４のとおりの計画に沿った整備を推進する。 国立博物館の施設設備の整備においては、令和２年度策定のメンテナンスサイクル（個別施設計画）に基づき、既存施設の維持管理及び長寿命化改修を進める。重要文化財（建造物）や国宝・重要文化財（美術工芸品）を保管する建物の防火設備の整備や防火対策について検討し、具体的な防火対策プランを作成し計画的に進める。 （東京国立博物館） 開館後約 80 年が経過した本館の空調設備、収蔵・展示施設について、建物が重要文化財に指定されていることに配慮し、改修等計画を推進する。 （京都国立博物館） 京都国立博物館本館（明治古都館）の改修に当たっては、重要文化財に指定された建造物としての保存とともに展示施設としての活用に配慮した改修計画及び観覧環境の再整備計画を進める。 （奈良国立博物館） 構内のバリアフリー化やエントランスの拡張等観覧環境等の改善及び展示施設の改修等を図るとともに、奈良における文化財の調査研究等の拠点として必要な研究設備を整備する。 （九州国立博物館） 防犯設備や展示照明等、開館から 15 年が経過し老朽化がみられる施設・設備について、展示環境の維持改善を目的とした改修等計画を推進する。	３．施設設備に関する計画 （１）施設整備について以下の事業を実施する。 ・東京国立博物館東洋館等建物・設備等の老朽改修 ・東京国立博物館本館リニューアル工事 ・東京国立博物館平成館空調設備改修工事 ・京都国立博物館本館耐震改修に向けた劣化調査工事等 ・奈良国立博物館東新館エレベーター更新工事 ・奈良国立博物館空調設備等更新工事 ・九州国立博物館防水等改修工事 ・奈良文化財研究所老朽空調設備改修 （２）防火対策５か年計画の推進について博物館４施設は、策定した防火対策５か年計画に基づき整備を進める。文化財研究所２施設は、各施設の防災設備等について現地調査の実施、整備・取組内容の検討を進める。
	４．人事に関する計画 適切な人事管理，人事交流等を実施することにより，効率的かつ効果的な業務運営を行い，人事計画等を策定し，デジタル分野など新たな業務にも対応した人材の確保・育成を図る。	４．人事に関する計画 （１）方針 適切な人事管理、人事交流等を実施することにより、効率的かつ効果的な業務運営を行い、人事計画等に基づき、デジタル分野など新たな業務等にも対応した人材の確保・育成を図る。 国家公務員の制度改革や社会一般の動向を勘案しつつ、職員の能力や業績を適切に反映できる人事・給与体制を整備し、人材の確保を図る。 職員のキャリアパスの形成に寄与するために、研修・人事交流等を多角的に企画し、人材の育成を図る。 （２）人員に係る指標 給与水準の適正化等を図りつつ、業務内容を踏まえた適切な人員配置等を推進する。 中期目標期間中の人件費総額見込額 14,278 百万円 但し、上記の額は、役職員に対し支給する報酬（給与）、賞与、その他の手当の合計額であり、退職手当、福利厚生費を含まない。 ５．中期目標期間を超える債務負担 中期目標期間を超える債務負担については、機構の業務運営に係る契約の期間が中期目標期間を超える場合で、当該債務負担行為の必要性及び資金計画の影響を勘案し、合理的と判断されるものについて行う。 ６．積立金の使途 前中期目標期間の最終年度において、独立行政法人通則法第 44 条の処理を行ってなお積立金があるときは、その額に相当する金額のうち文部科学大臣の承認を受けた金額について、次期へ繰り越した経過勘定損益影響額等に係る会計処理に充当する。	４．人事に関する計画 （１）中長期的な人事計画の策定を検討する。その際、理事長の裁量によって、一定数の職員を配置できる仕組みを併せて検討する。 （２）職員の能力向上と組織のパフォーマンス向上を目的とした評価制度の導入について、検討を継続する。 （３）性別、年齢、国籍、障がいの有無等にとらわれない、能力や適性に応じた採用・人事を引き続き行う。 （４）女性の活躍を推進し、制度改正を含めた就業環境の整備及び教育・研修を引き続き実施する。 （５）職員のキャリアパスの形成のため、職位に応じた人事交流等の実施を企画・立案する。 （６）働き方改革関連法の施行に対応した取り組みを実施する。

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会評価報告書

－令和４年度－

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会

目次

1. 外部評価委員会評価結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

2. 外部評価委員会評価報告

総会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

博物館部会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

研究所・センター部会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

3. 外部評価委員会委員名簿

外部評価委員会全体・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17

博物館部会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18

研究所・センター部会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18

令和4年度　独立行政法人国立文化財機構自己点検評価に対する外部評価委員会評価結果

中期目標大項目	中項目	小項目	自己点検評価	部会評価	総会評価	業務のまとまり
Ⅰ．国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項	1．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信	(1)有形文化財の収集・保管、次世代への継承	A	A 小松 A 浜田 A 大久保 A 榊原 B 出川 A	A 名児耶 A 小笠原 A 坂本 A 小松 A 寺崎 A	博物館
		(2)展覧事業	B	B 小松 B 浜田 B 大久保 B 榊原 B 出川 B	B 名児耶 B 小笠原 A 坂本 B 小松 B 寺崎 B	
		(3)教育・普及活動	B	B 小松 B 浜田 B 大久保 B 榊原 B 出川 B	B 名児耶 B 小笠原 B 坂本 B 小松 B 寺崎 B	
		(4)有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究	B	B 小松 B 浜田 B 大久保 B 榊原 B 出川 B	B 名児耶 B 小笠原 B 坂本 B 小松 A 寺崎 B	
		(5)国内外の博物館活動への寄与	B	B 小松 B 浜田 B 大久保 B 榊原 B 出川 B	B 名児耶 B 小笠原 B 坂本 B 小松 B 寺崎 B	
		(6)文化財の積極的な活用による文化財の継承につなげる新たな取組	B	B 小松 B 浜田 B 大久保 B 榊原 B 出川 B	B 名児耶 B 小笠原 B 坂本 B 小松 B 寺崎 B	
	2．文化財及び海外の文化遺産保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施	(1)新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究	B	B 寺崎 B 児島 B 栗本 B 藤井 B	B 名児耶 B 小笠原 B 坂本 B 小松 A 寺崎 B	研究所・センター
		(2)科学技術を応用した研究開発の進展に向けた基盤的な研究	B	B 寺崎 B 児島 B 栗本 B 藤井 B	B 名児耶 B 小笠原 B 坂本 B 小松 A 寺崎 B	
		(3)文化遺産保護に関する国際協働	A	A 寺崎 B 児島 A 栗本 A 藤井 A	A 名児耶 A 小笠原 A 坂本 A 小松 A 寺崎 A	
		(4)文化財に関する情報資料の収集・整備に関する調査研究成果の公開・活用	A (外部評価委員会評価を反映)	A 寺崎 A 児島 B 栗本 A 藤井 B	A 名児耶 A 小笠原 A 坂本 B 小松 B 寺崎 A	
		(5)地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等	B	B 寺崎 B 児島 B 栗本 B 藤井 B	B 名児耶 B 小笠原 B 坂本 B 小松 B 寺崎 B	
		(6)文化財防災に関する取組	B	B 寺崎 B 児島 B 栗本 B 藤井 B	B 名児耶 B 小笠原 A 坂本 B 小松 B 寺崎 B	
Ⅱ．業務運営の効率化に関する事項			B	— —	B 名児耶 B 小笠原 B 坂本 B 小松 B 寺崎 B	法人共通
Ⅲ．財務内容の改善に関する事項			B	— —	B 名児耶 B 小笠原 A 坂本 B 小松 B 寺崎 B	
Ⅳ．予算、収支計画及び資金計画			B	— —	B 名児耶 B 小笠原 B 坂本 B 小松 B 寺崎 B	
Ⅴ．その他事項			B	— —	B 名児耶 B 小笠原 B 坂本 B 小松 B 寺崎 B	

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会評価報告書

－令和４年度－

総会

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会評価書（総会）
まとめ

〔博物館業務〕

１．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承

自己点検評価　A　　委員会評価　A

委員名	委員評価	コメント
名児耶 委員長	A	全体として順調に活動成果をあげていると思われる。さらに、それらの有益な活用に力を注がれることを期待する。
小笠原委員	A	個別項目のAの数は少ない（３／１９）ように見受けられるが、部会評価書に記載の質的な評価を尊重して、収集・寄贈が根気を要し、容易でないことにも鑑みて、A評価としたい。
坂本委員	A	部会では一部委員からB評価がありましたが、件数およびその希少性などを鑑み、自己点検評価のAを支持します。
小松委員	A	各館とも、重要な作品の購入、受託に注力し、成果をあげている。また、作品の保存・修復の面においても、新しい技術が導入されて効果をあげており、今後もこの分野の充実が期待される。
寺崎委員	A	―

（２）展覧事業

自己点検評価　B　　委員会評価　B

委員名	委員評価	コメント
名児耶 委員長	B	毎回感じることだが、見せ方の工夫など特別展への取り組みは安定しているようだが、入館者数の多さを目標にするだけでは無く、少しずつ力を入れているようだが、蔵品を活かした自主企画も増やすと良いと思う。
小笠原委員	A	国民や訪日外国人からみた日本文化への関心や接点を考えると当該事業の集客による発信は非常に重要視すべきものである。来館者数の見積もりは容易ではないし、精度を上げることは困難であるものの、当該見積もりの目標来館者数を大きく上回る特別展が多く、全体として特別展は年間で前年比20%増であること、平常展が同じく2.5倍に増えていることを考えると、満足度も高いことも踏まえ、A評価が妥当であると思われる。なお、個々の特別展に関してもS評価に匹敵するものが「150年後の国宝展」以外にも複数あったものと評価している。
坂本委員	B	メディアと共催する特別展以外に、京博の10年ぶりの自主予算企画「観心寺と金剛寺」や東博の「150年後の国宝展」など、意欲的な事業展開をされました。こうした出色の企画は、資金調達の新しい手法と組み合わせることで、課題や批判を乗り超えることも可能です。たとえば①繁閑に応じたダイナミックプライシング、②クラウドファンディングのさらなる活用、③館内を歩いた歩数でポイント付与など、今後も未来への挑戦を続けていただきたいと考えます。
小松委員	B	令和2年度、3年度とコロナ禍で入場者数が激減していたが、4年度になってようやく回復しつつあるようにみえる。今後は、特別展に偏重することなく、平常展を中心とした地道な活動を継続して、博物館を長期的にサポートしてくれるような観客を増やす施策がより必要になっていくのではないか。
寺崎委員	B	―

（3）教育・普及活動		
自己点検評価　B		委員会評価　B
委員名	委員評価	コメント
名児耶 委員長	B	他にも意見にもあるように、青少年向けの事業も増えているようで、活動が安定していると思われるが、これから先の美術館、博物館活動を考えると、さらに若年層や若者層に対する取り組みが重要と考えられ、もっと積極的な活動を期待する。
小笠原委員	B	自己評価、部会評価に同意見である。
坂本委員	B	オンラインを活用したギャラリートークを時々拝見しています。学校との連携も重要ですが、若い世代との接点としてSNSのさらなる活用を期待します。
小松委員	B	各館とも入場者の多くは中・高年層であり、若年層をどのようにして取り込むかは喫緊の課題である。各館ともそれぞれに策を講じているようだが、一過性のものではなく、九博の「あじっぱ」のようなスペースを恒常的に確保して、次世代の観客を増やす努力をしていく必要があるのではないか。
寺崎委員	B	―

（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究		
自己点検評価　B		委員会評価　B
委員名	委員評価	コメント
名児耶 委員長	B	各館の活動報告から、調査研究活動が多岐にわたって成果を上げたと感じられる。こうした取り組みが将来の博物館の存在意義を強めることにつながることと思われ、継続を期待する。
小笠原委員	B	特別展「河内長野の霊地観心寺と金剛寺―真言密教と南朝の遺産」の調査研究や「南都の古代・中世の彫刻」に関する調査研究など特筆すべきものがあった。調査研究→展覧会という流れは今後もぜひ継続していただきたい。また、「はっけん！ほとけたちのかたち」の教育普及プログラムは、参加したが、大人も楽しめる日本の仏教及び仏教彫刻を知る素晴らしい企画展であったことを付言したい。
坂本委員	B	「みほとけ調査」がグッドデザイン賞を受賞、８ｋ文化財プロジェクトが日本賞最優秀賞を受賞など、最先端の科学技術と文化財を掛け合わせることで幅広く社会にアピールできる機会が広がります。これらの成果を多くの方に見ていただけるようさらなるご尽力をお願いいたします。
小松委員	A	博物館業務の基幹となるのは調査・研究活動である。その点からいえば、地道な作品調査が展覧会に結びついた事例がいくつも報告されているのは心強い。また、文化財の保存・修復の面でも新しい技術の研究が進んでおり、さらなる進展が期待される。
寺崎委員	B	―

（5）国内外の博物館活動への寄与		
自己点検評価　B		委員会評価　B
委員名	委員評価	コメント
名児耶 委員長	B	文化財活用センターの活動も次第に認知され、オンラインの活用も有効になっていることも確認でき、博物館活動への寄与を評価できる。
小笠原委員	B	コロナ禍において制限される中、目標通りの成果を国内外においてあげたものと考える。
坂本委員	B	新型コロナ感染症が落ち着きを見せてきたこともあり、国内外博物館への収蔵品貸与など数字が回復してきており、Ｂといたしました。

小松委員	B	コロナ禍の状況下においても、貸与であるとか援助、助言の件数が減っていない点は注目される。機構 4 館は、日本美術の分野では国の内外を問わず、指導的な役割を担うことが期待されており、今後もその期待に応えられるような活動を継続していってほしい。
寺崎委員	B	―

（6）文化財の積極的な活用による文化財の継承につなげる新たな取組		
自己点検評価　B　　委員会評価　B		
委員名	委員評価	コメント
名児耶 委員長	B	データベースの充実をはじめ、文化財活用センター中心の活動が認知され、「e 国宝」へのアクセス増加の例のように、目標を達していることが確認できる。
小笠原委員	B	「未来の博物館」には様々な創意工夫がみられること、またデジタルアーカーブジャパンアワードの受賞も将来を考えると非常に意義のある目を見張る成果であるものと考える。
坂本委員	B	文化財活用センターが多方面で活躍されていることが理解できました。文化財継承を文化行政の中だけで実現するのは難しいですから、広い視座を持ち、ネットワークを駆使して活動してください。
小松委員	B	東博で開催された「未来の博物館」が画期的な試みだったと思う。日本の美術品は、概ねケース越しでしか鑑賞できないので、今後、さまざまな映像技術を駆使して、より美術品に親しんでもらう方策が必要になるだろう。また、ColBase の件数も飛躍的に伸びているようだが、今後、さらなる充実が期待される。
寺崎委員	B	―

〔研究所・センター業務〕		
2．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施		
（1）新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
自己点検評価　B　　委員会評価　B		
委員名	委員評価	コメント
名児耶 委員長	B	各施設での調査研究は、着実に成果をあげていることが確認できる。こうした新しい知見等の成果を広く認知されるための工夫もこれからは必要になるかと思われる。
小笠原委員	B	24 項目中 7 つのＡはどれも素晴らしい調査研究であると思われる。今後も無形文化財及び無形民俗文化財等に関する調査研究を深めていただきたいと同時に、古代の平城宮や藤原宮、飛鳥地域の調査研究は、古代史を解明し、中国から伝来した土木技術や政治制度、仏教文化を知る貴重な財産ともいえるので、継続調査をお願いしたい。
坂本委員	B	とりわけ無形民俗文化財の継承について各地で厳しい状況にあるようです。少子高齢化による継承者不足に加えて、コロナ禍による中断・休止と、かなり危機的な状況にあることをしばしば耳にします。取り組みをさらに加速させていただけるよう期待しています。
小松委員	A	これまで科学的な調査に遅れがみられた近・現代美術の分野で、進展があったことはおおいに評価できる。今後、さらに対象を広げて体系的な調査がおこなわれることを期待したい。
寺崎委員	B	―

（2）科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
自己点検評価　B　　委員会評価　B		
委員名	委員評価	コメント
名児耶 委員長	B	さまざまな研究の成果は安定している。科学技術の応用も重要だが、長年積み重ねられてきた、従来の文化財保存をはじめとする過去の知恵への取り組みも重視した方がよいと思う。
小笠原委員	B	昨年のA評価となんら劣るものはないと考えたものの、昨年を受けより目標のバーが上がったものと思料して、B評価とした。しかしながらモニタリング指標としての論文数や報告書の刊行数も確実な成果を上げたものと考える。
坂本委員	B	光学的調査や電気的脱塩法など毎年、科学的な手法による成果が着実に蓄積されており、時代を超えて研究が発展していることが理解できます。
小松委員	A	近年、さまざまな文化財について科学的な調査がなされており、作品の制作当初の形を明らかにし、また、作品保全の方向性を探るなど、いくつもの面で大きな成果をあげている。今後も、さらに新しい技術を開発するなどして、この方面に注力していってほしい。
寺崎委員	B	―

（3）文化遺産保護に関する国際協働		
自己点検評価　A　　委員会評価　A		
委員名	委員評価	コメント
名児耶 委員長	A	着実に活動が実施され、評価通りで良いと思う。
小笠原委員	A	特にアジア諸国等文化遺産保存修復協力において、シンポジウムの開催も含めて特筆すべき成果があったものと考える。今後もリーダーシップを発揮して、当該取り組みの推進を図っていただきたい。
坂本委員	A	部会報告によりますとB評価の委員が１名いらっしゃいました。個別事業におけるB評価が多いことが理由とのことで、確かにその通りではありますが、他委員３名がA評価とされておられることから、全体評価としてもAといたします。
小松委員	A	コロナ禍によって停滞を余儀なくされていた事業がようやく再開され、おおきな成果をあげているようにみえる。今後のさらなる充実が期待される。
寺崎委員	A	―

（4）文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用		
自己点検評価　B　　委員会評価　A		
委員名	委員評価	コメント
名児耶 委員長	A	記念事業での特別展等、全体に目標を超える成果が上がったという委員の意見の通りと判断できる。
小笠原委員	A	文化財に関するデータベースを充実したことで、前年比１８％閲覧数も伸びている「文化財総覧ＷｅｂＧＩＳ」がデジタルアーカイブ学会　学会賞を獲得したことは目覚ましいことであり、また研究成果公開施設である平城宮跡、藤原宮跡、飛鳥の各資料館の来館者数が前年比1.5倍以上になっている点も高く評価すべきものである。したがって、A評価としたい。
坂本委員	B	部会評価はA。４名の委員のうち２名が自己評価を上回る上位評価をされておられました。個別の研究・取り組みを拝見したところ、着実に進展してはいるものの、世の中全体の急速な変化と比較すると、さらなるスピード感がほしいと感じます。自己評価を尊重してBとさせていただきます。

小松委員	B	厖大な数の文化財をデータベースとして整備していくことは、文化財機構の大きな役割の一つだと思う。現状では考古部門が中心となっているようだが、今後、美術・工芸の分野でも整備が進んでいくよう期待したい。
寺崎委員	A	部会の４委員のうち、２委員より「A」評価とすべきだという意見が出され、総合的に判断した結果、部会評価を「A」とした。これまでの文化財データベースの充実、専門的アーカイブの拡充に加え、各種の企画展示と図録刊行、公式ツイッターでの情報発信など、大きな成果が得られたものと考える。

（５）地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等

自己点検評価　B　　委員会評価　B

委員名	委員評価	コメント
名児耶 委員長	B	それぞれの研究所の活動は、報告書通り着実に成果を上げている。
小笠原委員	B	自己評価、部会評価と同意見である。
坂本委員	B	コロナ禍のもたらした数少ないプラス面としては、全国各地とオンラインで即座につながる経験を広く共有できた点であると思います。今後もその効用を生かして地方公共団体等との連携を深めてください。
小松委員	B	文化財に関わる研究者、職員の知識、経験などにはばらつきがあるのが現状であり、全体的な水準の底上げが必要と考えられる。その意味で、東文研、奈文研がおこなっている研修、指導は重要であり、今後とも、この方面に注力していく必要があるだろう。
寺崎委員	B	―

（６）文化財防災に関する取組

自己点検評価　B　　委員会評価　B

委員名	委員評価	コメント
名児耶 委員長	B	概ね目標通りの成果を上げていると判断できる。
小笠原委員	A	５項目中２項目がAであり、定量的に充足すべきものであるし、初の出展となった「ぼうさいこくたい」への参加における普及啓発の取り組みやコロナ禍によるシンポジウム・講演会の５回開催、文化財防災救援基金の設立など、今後に期待したい内容が多いため、その期待もこめてA評価としたい。
坂本委員	B	文化財防災センターの活動は重要です。令和５年度には最初の成果発表が予定されているとのこと。文化財防災救援基金の拡大も含めて期待しています。
小松委員	B	防災に関する取り組みでは、まだ地域によって温度差がみられるように思う。今後、全国的に防災に関する意識を高めていく必要があり、その点で文化財機構が果たすべき役割は大きいと思われる。
寺崎委員	B	―

〔法人共通業務〕

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

自己点検評価　B　　委員会評価　B

委員名	委員評価	コメント
名児耶 委員長	B	着実に効率化が実施されており、自己点検評価通りと思われる。
小笠原委員	B	一般管理費を効率化したこと、また光熱費の伸びを抑える努力も奏功している点は評価したい。一方業務の電子化、ＤＸ化については、今後も推進することで、より効率化に努めていただきたい。

坂本委員	B	光熱費の高騰など避けがたい影響も大きいと思いますが、しっかりと運営されていると評価できます。
小松委員	B	一般管理費、業務経費ともに節約の効果があがっていると思われる。省エネに関しては、開館している限り削減は困難だが、引き続き努力を続けていってほしい。
寺崎委員	B	―

Ⅲ　財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置		
自己点検評価　B	委員会評価　B	
委員名	委員評価	コメント
名児耶 委員長	B	所定の目標を確実に達成していると思われる。さまざま工夫が見られる。
小笠原委員	A	自己収入額が前期比及び予算比で大きく上回っていること、外部資金も寄付金増加が寄与して、前年を 2 億以上上回っていること、保有資産の有効活用についても前年と比べても著しい成果があること、などから、一般に支出するより収入を得ることがいかに大変であるかを勘案すれば、達成率 120%超の十分な成果があったものと思料する。
坂本委員	B	ファンドレイジング勉強会を法人内に立ち上げるなど、意欲的な取り組みが目立ちます。保有資産の活用にも力を入れておられることが実績値の伸びからわかります。
小松委員	B	業務の効率化、電子化については、民間企業においてもさまざまな試みがなされている。文化財機構においても、それらの成果を取り入れることによって、さらなる効率化の促進をはかる必要がある。また、外部資金の導入、施設の目的外使用などの面にも注力し、さらに収入があがるような方策を練っていってほしい。
寺崎委員	B	―

Ⅳ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画		
自己点検評価　B	委員会評価　B	
委員名	委員評価	コメント
名児耶 委員長	B	収支計画、資金計画等も概ね計画通り実施されている。光熱費の値上がり等、種々の条件の変化に対する対応への工夫も実施されている。
小笠原委員	B	年度を通じて安定した収支実績（資金調達運用実績）を残したものと考える。
坂本委員	B	機構の性質上、一般企業で行われているような目標設定や、目標達成のための PDCA はなかなかなじみにくいと理解していますが、世間一般から見た際によりわかりやすい形を模索していただければと考えます。
小松委員	B	国内外の展示施設を見渡しても、収入が支出を上回るといった例は極めて少なく、現状で文化財機構の各館が運営費交付金に依存した経営をおこなっているのはやむを得ないことと考える。しかしながら、自助努力は不可欠であり、今後は、23 パーセント程度にとどまっている展示事業等収入をいかに増やしていくか、さまざまな手立てを考えていく必要があるだろう。
寺崎委員	B	―

Ⅴ　その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置		
自己点検評価　B　　委員会評価　B		
委員名	委員評価	コメント
名児耶 委員長	B	全体に、経費節減、効率化等の努力が見られるが、これからの博物館を考えると、若年、青年層の博物館、文化財への理解を深める必要がある。現在の高年齢層を頼りにした展示活動では先行きが危ういであろう。少しずつ増えている若者への対応を充実させるためにも普及活動確保のための予算拡充は不可欠と思われる。若者を育てれば、10 年後には新しい博物館活動生まれるはずで、そこへの投資は最も効率的ではないかと思われる。
小笠原委員	B	内部統制についても各組織のトップのリーダーシップのもと堅実に行われている。また必要な人財の獲得も機動的に行われている。
坂本委員	B	限られた要員のなかで攻めと守りの両面でご尽力されておられることが今年のご報告からも伺えました。失敗を恐れず、多様性を追求してください。
小松委員	B	研究系職員についてのコメントになるが、年を経るごとにその業務量は増していく傾向にあると思われる。アソシエートフェローの採用などによってマンパワーの不足を補っているというが、やはり人材の育成、業務の継続性などの観点からすれば、優秀な常勤職員を増やしていく必要があり、その点に留意して採用計画を立ててほしい。
寺崎委員	B	―

その他（総合的な事項、自己点検評価について等）	
名児耶 委員長	概ね、目標を達成していることが確認できるが、さらなる活動の発展継続も望みたい。この先の博物館活動を確保するための予算の充実も不可欠であろうと思う。
小笠原委員	コロナが十分に収束しきれていない本事業年度において、感染防止の各規制や従前からの事業に関わる各種規制及び政策のなかで、各博物館及び各文化財研究所において、創意工夫をされて、運営に努力されていることは十分に評価すべきものである。全体として最終評価時点がコロナ明けで謙虚な評価となっているようであるが、量的にも質的にもご尽力された事業年度であると思料する。 なお今後は評価上、目標設定が必須であるため定量化できるものはあらかじめ設定していくことも検討いただきたい（例、文化財防災のシンポジウム開催回数、保有資産の有効活用の推進に関する自己収入、機構内の新規・中途人財の採用予定など。）
坂本委員	いまだコロナ禍の影響を大きく受けながらも、博物館および研究所・センターの両業務とも創意工夫を凝らし、新しい取り組みに挑みながら成果を挙げておられることを評価します。 新聞社経験者として申し上げると、博物館業務も研究所・センター業務も、もっとメディア（既存メディアだけでなくデジタルメディアを含む）を活用して広報活動できる余地があると思います。おもしろい企画や成果をトピックとしてわかりやすく発信することで、記事やニュースとして取り上げられる機会は確実に増えます。ＳＮＳの導入と並行して、立体的な周知活動につなげていただけることをお勧めします。
小松委員	コロナ禍や予算面での制約がありながら、多岐にわたる事業を限られた人員で効率的かつ効果的に実施していると評価することができる。今後も有意義な展覧会事業、調査研究活動を通じて、わが国の文化事業に指導的な役割を果たしていくことが期待される。
寺崎委員	・猖獗をきわめたコロナの影響がようやく下降し、様々な活動が復活しつつある１年となった。各機関とも、幅広い分野で調査研究・教育普及活動等を、計画的かつ着実に展開しているものと考え、その成果は高く評価される。関係者の尽力に敬意を表したい。 ・全体として、所期の目標を十分に達成していると考える。個別の評価については、博物館業務及び法人共通業務に関しては、特に異論はない。研究所・センター業務については、（４）文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用の評価を、部会評価にしたがって「A」とした。

	・総会における研究所・センター部会報告の最後に、次のように述べた。 「2018 年までは、総会の場に外部評価委員全員の出席が求められ、部会の枠を超えて意見の交換ができたが、翌年から、総会への出席は部会長のみとなった。本来的には以前の方式の方が望ましく、総会の開催方式を再度、検討してもらいたい旨の意見が、部会で複数の委員から出された」と。 　その後、事務局からメールで前回変更された際の経緯を説明いただいた。それによって初めて知った点もあるが、2019 年総会での変更が大幅かつ唐突であったという点は、当時の柳林委員の発言（『平成 30 年度独立行政法人国立文化財機構年報』546 頁）の通りであろう。外部評価委員会のあり方として、当時の改革が良い方向だったのか、さらなる改良点はないのか、常に検討する必要があると思われる。 　総会に外部評価委員全員の参加を求め、その場で議論することが難しいということであれば、たとえば、総会は現在の方式のままとしても、外部評価委員全員に「自己点検評価報告書」を送付し、自由記述でコメントを求める、といったことがあっても良いのではなかろうか。たまたま部会長を拝命している小生よりも、はるかに博物館業務や法人共通業務に精通している部会委員がおられるのに、その意見がどこにも反映されないのはいかにも残念だ、と考えるからである。 ・去る３月 29 日、寺田吉孝委員（研究所・センター部会、副部会長）が逝去された。謹んでお悔やみ申し上げます。

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会評価報告書

－令和４年度－

博物館部会

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会評価書（博物館部会）まとめ

自己点検評価　B　　部会評価　B

１．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承		
自己点検評価　A　　部会評価　A		
委員名	委員評価	コメント
小松 部会長	A	いずれの館においても作品の受贈・受託を積極的に進めているようすがうかがえる。貴重な美術品は、適切な環境で保管されていくことが望ましく、その意味で今後も機構各館が大きな役割を果たしていくことが期待されるだろう。また、有効活用できる文化財を増やすという意味では、作品の修復も重要な事業である。各館とも修復工房を整備するなど、こちらも以前に較べれば格段の進展がみられるように思う。
浜田 副部会長	A	堅実に業務が推進され、各館員の努力が感じられる。引き続き、資料収集と保存のための十分な予算確保に努められたい。
大久保 委員	A	国立機関ならではの質の高く、かつ美術史的に意義のある作品購入がおこなわれており、今後もそれを維持・拡充していってほしい。文化財の修理に関しては、その重要性を社会に周知し、外部資金や寄付金などの活用をさらに進めていってほしい。
榊原委員	B	各館それぞれ収集方針に従い、優れた作品資料収集の実を上げた。また寄贈寄託品も多く、これは長年に及ぶ各館の活動が所蔵家の信頼と理解を得た結果に他ならず今後とも寄託品の充実に努めるべきだろう。収集には限りがない。さらなる活動の活発化と充実を期待する意を込めて評価した。
出川委員	A	国立博物館として文化財の修理やそれに伴う研究などの活動を高く評価したいと思います。

（２）展覧事業		
自己点検評価　B　　部会評価　B		
委員名	委員評価	コメント
小松 部会長	B	コロナ禍が一応終熄し、各館とも入場者数が増加しつつあるようにみえる。今後は、今回の経験を活かして、適切な展観環境とはどのようなものか、また、どうすれば無理なく入場料収入を増やしていけるのか、それぞれに模索していく必要があるだろう。また、会議の席上でメディアと共催する特別展が偏重され、自主企画展の試みがおろそかになっているのではないかとの指摘があった。自主企画展の実施については、予算の手当、マンパワーの確保などさまざまな課題を克服しなくてはならないが、これを実施することにより、各展示施設において展覧会を企画する力、館そのものの魅力を発信する力などが向上すると思われる。今後、各館においては、自主企画展の実施に向けて、積極的に方策を練ってほしいと思う。
浜田 副部会長	B	館制限が徐々に緩和されつつあるが、入館者数や収益等の回復には、まだ時間がかかるものと思われる。そうした中で、東京国立博物館で開催された開館150周年記念「国宝展」が、予想を大幅に上回る438.9%という入館者を得たことは特筆事項と言える。「150年後の国宝展」も大変良い視点であった。
大久保 委員	B	特定の寺院に関わる文化財の公開など、周到な調査活動をもとにした学術的に高い意義を有する展覧会活動が行えている。「国宝 東京国立博物館のすべて」展に関してはその企画内容に批判的な世論もあったが、150周年という節目に当たっての企画と考えれば理解できる。

榊原委員	B	周年記念や遠忌にちなむ展覧会は、規模・内容ともに大きく、それを担えるのは国立博物館の、それも複数館の連携以外にないと考えるのは自然だろうが、それにしてもそうした巡回展が多過ぎるのではないか。今後ともこうした傾向は強まりそうなので敢えて苦言を呈したい。各館、日ごろの調査・研究を展示に結びつけた優れた展覧会を開催しているだけに、そうした展示への応援の意を込めて一言述べておきたい。
出川委員	B	展覧会の内容も充実し、展示技術などの作品の見せ方の面においても優れたものがあり、各館の展覧会について高く評価します。

（3）教育・普及活動

自己点検評価　B　　部会評価　B

委員名	委員評価	コメント
小松 部会長	B	各館とも多種多様な施策をおこなっていると評価することができる。なかでも注目されるのは、東博における多数回のオンラインギャラリートークや九博における YouTube を活用した動画配信などであり、コロナ禍が終熄したとしても、今後、このような形で多くに人々と交流を図り、展示施設への興味を繋いでいくことは必要になると思われる。また、各館においてキャンパスメンバーズ、スクールプログラムなど、青少年向けの事業が積極的におこなわれている点も心強い。次世代の博物館・美術館愛好者を増やしていくことは重要な施策であり、引き続きの努力の傾注が期待される。
浜田 副部会長	B	3 年度まで、オンライン事業が中心であったが、4 年度からは一部で対面事業が復活し、利用者からすれば喜ばしい事業展開となった。平時の活動に戻る日を心待ちにしたい。
大久保 委員	B	多様なメディアや最新のシステムを積極的に活用し、展覧会に関わるものに限定されない、広範で深みのある普及活動をおこなっている。
榊原委員	B	各館、小・中・高、学校教育との連携が図られている点、大いに評価したい。またこうした教育普及活動は、地方の美術館・博物館の範ともなるもので、そのプログラム内容や問題点、成果など広く公開して欲しい。
出川委員	B	さまざまな工夫を凝らしながら、コロナ禍等で困難ななか事業を推進され、所期の目標を達成されていると思います。

（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究

自己点検評価　B　部会評価　B

委員名	委員評価	コメント
小松 部会長	B	コロナ禍によって活動が制約されるなかで、各館とも多岐にわたる調査研究活動がおこなわれてきたと評価することができる。とくに京博で開催された「河内長野の霊地 観心寺と金剛寺―真言密教と南朝の遺産―」展は、地道な調査研究の成果が展覧会の形で示されたもので、展示施設における調査研究の重要性を如実に示したものということができるだろう。また、九博を中心に IPM などをテーマとした調査研究活動がおこなわれている点にも注目したい。作品の保存・修復などを主な研究課題とする博物館科学は、わが国では未だに発展途上の分野であり、機構各館においては、より積極的な調査研究活動への取り組みが期待される。
浜田 副部会長	B	京都国立博物館において、10 年ぶりに自主予算による特別展が開催されたと聞き、持ち込みや協賛による特別展が主流をなしている事実を知った。展示のための自主予算の充実を切に願いたい。 8K による「みほとけ調査」での「2022 年度グッドデザイン賞」の受賞並びに、「8K 文化財プロジェクト」の国際コンクール日本賞おける「デジタルメディア部門最優秀賞（経済産業大臣賞）」の受賞は特筆事項と言えよう。
大久保 委員	B	展覧会活動に関わる調査研究だけではなく、科研費などを活用した館員個々の研究活動およびその成果発表も博物館活動のための基礎体力を向上させるための重要な要素であるので、機構全体として支援していく体制が望まれる。

榊原委員	B	博物館の活動というと、ともすれば展覧会に目がいってしまうのだが、日常的な調査研究こそは博物館の最も重要な仕事であるはずで、それがあればこそ優れた展覧会も可能となる。各館それぞれ科研費や学術研究助成基金など外部資金を利用しつつ活発な調査研究が行われており評価するとともに今後の更なる研究の進展を期待する。
出川委員	B	「五馬図巻」の数年にわたる修理調査報告書や各館の特別展の図録掲載論文などに優れた研究成果が反映され、機構としての調査研究の役割を十分はたされていると思います。

（５）国内外の博物館活動への寄与

自己点検評価　B　　部会評価　B

委員名	委員評価	コメント
小松 部会長	B	感染症が蔓延するなかで、海外との交流事業も大きな影響を受けているが、それでも各館ともリモートなどを活用して会議や研究発表をおこなっているようすがうかがえる。これを契機にして、オンラインによる交流がさらに深まれば、お互いにおおきな成果を得られるのではないか。また、コロナ禍の状況においても、国内でさまざまな展覧会が開催され、機構４館がそれらの事業を支援していることが報告書から読み取れる。今後とも、作品の貸与にとどまらず、文化財の保全、展示、研究などの面で指導的な役割を果たしていくことが期待される。
浜田 副部会長	B	引き続き、コロナ禍の影響により中止されたものや、オンラインによる事業もあったが、対面事業や資料貸与が活性化されたことは評価したい。
大久保 委員	B	展覧会への文化財の貸与だけでなく、展覧会運営や文化財の保存・修復、保存環境の向上など、多様な面で国内の美術館・博物館に助言・指導を行っている点が評価できる。
榊原委員	B	毎年同じことを要望する。地方の美術館博物館の展覧会への作品貸与をはじめとする支援・寄与は文化財活用センターのそれも含めて大いに評価するが、さらに大規模な地方への出前展の実現を希望する。地方在住の者には優れた日本の古美術を直接目にする機会はあるようで実は余りないからである。そうした機会を地方の人間が願うのは当然だし、文化財機構もそれに応えたい。
出川委員	B	オンラインで海外の研究者と学術交流を行い、シンポジウムに参加するなど活発な活動を評価いたします。

（６）文化財の積極的な活用による文化財の継承につなげる新たな取組

自己点検評価　B　　部会評価　B

委員名	委員評価	コメント
小松 部会長	B	各館ともそれぞれに新たな取り組みをおこなっているようだが、やはり中心になるのは文化財活用センターの貸与促進事業だろう。令和４年度は６機関が対象になったようだが、これ以外にも多くの地方美術館・博物館との交渉・交流があったと推察される。地方展示施設は、予算面、人員面などで苦境に立たされているところが多く、今後、なんらかの形で支援をおこなっていく必要がある。貸与促進事業は、地方展示施設における展示環境の保全、学芸員の能力向上などの面において資するところが大きいとみられ、今後、この事業のさらなる拡充が期待される。
浜田 副部会長	B	メタデータ整備における「デジタルアーカイブジャパン・アワード」の受賞は、特筆すべき事項と考える。
大久保 委員	B	ColBase に関してはコンテンツの精度とデータ数も当初より格段に向上してきた。ただ、既存の画像データを活用するだけでなく、ColBase 用に収蔵資料の計画的な撮影計画を構築し、公開データ数の拡充を加速させ、欧米の主要博物館の公開データベースの水準に近づける必要もあるだろう。

榊原委員	B	地方の美術館博物館の企画展への作品貸与が行われていることは感謝とともに評価したいが、さらに(5)でも述べたような大規模出前展への取り組みを期待する。古美術鑑賞(受容)の面白さ＝喜びを広く知って貰うためにも是非検討してほしい。
出川委員	B	デジタル化資源を着実に増やして、文化財情報を多方面に発信するなど所期の目標を達成されていると思います。

その他（総合的な事項、自己点検評価について等）	
小松 部会長	令和４年度もコロナ禍の影響を大きく受けた年だったと思う。各館とも入場者数は通常期をかなり下回っており、経営面からすればかなり逼迫した状況にある。今後は、メディアによる大々的な宣伝のもと、大量の観客を動員するといったビジネスモデルはなかなか成立しがたいのではないか。これから博物館が生き残っていくためにはどうすればいいのか。相対的に恵まれた環境にある機構４館が、この課題に真剣に取り組むことによって、わが国の展示施設全体の底上げに繋がるのではないかと考える。機構４館のさらなる活躍が期待されるところである。
浜田 副部会長	ウクライナ紛争を背景に光熱費が高騰し、博物館運営への財政的圧迫が続いている。利用者である国民に向けた事業や、資料保管のための空調への影響が出ないように、国から十分な財政支援がなされることが肝要である。 また、ウィズコロナの時代を迎え、コロナ禍の中で培ったオンラインやデジタル技術を活用した新たな取り組みは、改正博物館法に加えられた博物館のデジタル化に直結するものである。国立博物館の先進的な取り組みが、全国の博物館の模範となることを期待する。
大久保 委員	社会から求められる多様な要請に対して十分に応えようとしていることには敬意を表したい。ただ、現在の人員・予算のもとで無理が生じていることはないのだろうか。後者は外部予算の獲得なで多少は改善できるであろうが、過重な業務量から個々の研究職員が疲弊し、専門家としての活躍が阻害されることのないよう、普段に目配りをおこなっていただきたい。
榊原委員	評価そのものに係わるコメントではないが、この報告書の評価項目等について各館の報告相互にばらつきがあるようだが、これが文化財機構の報告書として提出されている以上、そうした乱れや認識の違いは正されるべきだろう。各館相互で共通認識のためのすり寄せが必要と思われる。
出川委員	国立文化財機構の博物館は日本の博物館のリーダー的存在として、十分な役割を果たしていますが、特に収集、保管や修復面においては成果をあげられ、また特別展では東博の「国宝展」九博の「北斎展」京博の「茶の湯展」など予想を上回る注目を集める一方、研究を反映した特別展では東博の「六波羅密寺展」、「琉球展」、京博の「観心寺と金剛寺展」奈良博の「大安寺展」九博の「加耶展」などが好感をもてました。展示方法などもふくめ、日本の展覧会活動においても大きな貢献をしていて、全体として所期の目標を達成していると思います。

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会評価報告書

－令和４年度－

研究所・センター部会

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会

自己点検評価　B　　部会評価　B

２．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施

（１）新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究

自己点検評価　B　　部会評価　B

委員名	委員評価	コメント
寺崎 部会長	B	フォーラム「伝統芸能と新型コロナウィルス」の開催（東文研 2121E）などは、時宜を得たものと思われるし、西大寺の発掘調査（奈文研 2132F ｱ-2）で弥勒金堂の位置を突き止めたのも大きな成果と言えよう。
児島 副部会長	B	2111E-2 で昭和 30 年代の写真が現在の修復と復元に役立ったように、研究所の事業は継続することで将来意義を持つ。息長く継続できるようにすることが重要である。また他機関との連携も一層推進してほしい。岸田劉生に関しては東京国立近代美術館で修復の調査結果を発表しているが、こうした知見との連携も試みられるとよいのではないか。
栗本委員	B	有形・無形文化財、文化的景観を対象に、幅広い調査を進められ所期の目標を達成されているものと考えます。無形文化財の保存では、映像記録だけで無く、美術工芸品修理の用具や材料の調査にまで目が向けられていることが重要と感じました。遺跡データベースを公開するとともに潜在的な地震ハザードを「見える化」したこと（2134F ア）や、管理が十分でない膨大な書籍資料の調査と保全（2113F）など、データの継続的な蓄積が進んでいることから、得られた成果の発信と活用を期待します。「林業の文化的景観の特性や保護（2133F）」については、評価書にもう少し具体的な内容の記載をお願いします。
藤井委員	B	③遺跡などの整備において、復元建物の修理について、とりあえず平城宮跡内部で、どのような修理を実施したのか、報告を公表する慣例を確立することが望まれる。全国的に必要とされている情報であるから、ぜひそれを発信して欲しい。

（２）科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究

自己点検評価　B　　部会評価　B

委員名	委員評価	コメント
寺崎 部会長	B	ガラス乾板のデジタル画像化に関する技術開発（東文研 2211E）、遺構の露出展示に関する調査研究（奈文研 2229F）など、注目されるところである。
児島 副部会長	B	ガラス乾板のデジタル化や古墳の保存は急がれる内容であり重要な取り組みである。またゲーム化による教育ツールの開発は将来研究者を目指す人材の育成にも役立つ取り組みと思われる。絵画作品の画材分析も重要で、引き続き継続し、公開していただきたい。
栗本委員	B	自己点検評価は昨年の A から B へと低下している。この項目の総体として変化があったとは考えませんが自己点検評価と同じ「B」としました。文化財調査における自動化や省力化手法の開発（2212F）、美術館・博物館の維持管理に掛かる消費エネルギーの把握（2222E）などの進展を期待します。特に 2222E では、調査に留まらず将来的な運営方針にまで提案を広げて欲しい。
藤井委員	B	着実に成果が上がっていると思われる。有効な対策は、なるべく広く発信して、広く共有されることが望ましい。

（３）文化遺産保護に関する国際協働

自己点検評価　A　　部会評価　A

委員名	委員評価	コメント
寺崎 部会長	B	IRCI が中央アジア、小島嶼開発途上国での活動を拡げる（2320G）など、国際協力の進展が見られた点は評価できるが、個別事業毎の評価を総合すると（A＝2、B＝8）、全体としてはＢ評価が妥当だと考える。
児島 副部会長	A	大規模な遺跡修復事業を成功させて成果を出せたことは評価に価する。そうした知見を国際的に発信できたことは重要である。
栗本委員	A	コロナ禍の影響下、オンラインを活用しての活動が多かったと思うが、研修生のフォローアップや研修生同士のネットワーク構築（2313E ア）は、オンラインの特性を上手く使った成果と考える。評価書について、「独自性のある協力」「独自性のある研究発表」の記述など、限られた紙面ではあるが、独自性がどのようなものか？理解しやすいように記載をお願いします。
藤井委員	A	着実に成果が上がっていると思われる。

（４）文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用

自己点検評価　B　部会評価　A

委員名	委員評価	コメント
寺崎 部会長	A	これまでも幅広く活用されてきた、文化財データベースの充実（奈文研 2411F）や、専門的アーカイブの拡充（東文研 2413E）などに加えて、今年創立 70 周年を迎えた奈文研が行った各種の企画展示と図録（2431F）がとても分かりやすく懇切であり、これらの成果を考え合わせると、全体でA評価と判断したい。
児島 副部会長	B	黒田清輝《湖畔》の新しいウェッブコンテンツを探すのが難しかった。一般の人が検索したときに出てくる「e 国宝」などからのリンクがあるとよいのではないだろうか。同様のことはおそらく他の情報でもあると思われ、知っていないと見つけられないのではもったいない。Web データを見つけやすくする工夫があるとよいのでは。
栗本委員	A	2431F では、特別展の開催や公式 Twitter での情報発信など、成果が得られているものと考えます。また、他の事業でも目標を上回る成果が得られているものもあり「A」としました。
藤井委員	B	①文化財情報基盤の整備、充実について、重要文化財建造物の修理工事報告書の電子化、WEB 上での公開、重要文化財の図面の電子化、公開を検討すべき時期に来ているのではないか。ぜひ検討して欲しい。

（５）地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等

自己点検評価　B　　部会評価　B

委員名	委員評価	コメント
寺崎 部会長	B	昨年度までのコロナ禍の影響が少し下がり、研修・指導助言の件数も増え、対面とオンラインを併用することによって、より幅広い活動が行えるようになったものと思われる。
児島 副部会長	B	安定しておこなわれており、活動の柱の一つとも言える重要な位置をしめ、今後も継続することが必要であろう。
栗本委員	B	専門知識と経験を活かして地方公共団体等への助言や協力、専門職の研修、大学での教育などを通して、所期の目標は達成しているものと考えます。
藤井委員	B	③国土交通省が行う平城宮跡第一次大極殿院の復元整備について、主要部である復元建築の復元的考察を詳述した報告書の刊行を実現すべく、働きかけて欲しい。復元建築の高い単価などの根拠となるから。また国内・国際的にその姿の妥当性を説明するための必須の根拠となるから。

（６）文化財防災に関する取組		
自己点検評価　B　　部会評価　B		
委員名	委員評価	コメント
寺崎 部会長	B	地震・火災等の災害時における個別の対応とともに、各地域団体との連携・指導・情報収集・技術開発など、文化財防災センターの広範な活動の様子がうかがえた。次年度以降に、各種のマニュアル・ハンドブック・ガイドラインといった形で結実していくことを期待したい。
児島 副部会長	B	以前よりも運営組織、運営方法が明確化されている点に成果をみることができる。
栗本委員	B	評価委員会において、文化財防災センターの認知度が高まり自治体との連携も増えたなどの説明から、活発な活動をしているものと判断しました。限られた人員や自治体の関心に濃淡がある中で、地域で整備すべき体制の構築やガイドラインの作成など、優先順位をつけて取り組まれることを期待します。
藤井委員	B	①地域防災体制の構築について、事後的でも構わないので、現在文化庁が進めている、全国的な市町村の作成する文化財保存活用地域計画と、密接な協力関係を構築して欲しい。

その他（総合的な事項、自己点検評価について等）	
寺崎 部会長	全体として、自己評価が前年度よりも「控えめ」になっているように見受けられるが、それでも所期の目的は十分に達成しているものと判断される。 いずれの機関も、限られた人員と予算の中で、しかもコロナ禍の影響が未だ終焉しない環境下で、多方面にわたって大きな成果をあげていることに対し、敬意を表したい。今後も状況が好転するか否かは不透明であるが、引き続き尽力していただきたい。
児島 副部会長	コロナの影響を少しずつ脱してよい成果がみられた。現状の評価項目が適切なのかというご意見が会議で出されていた。研究機構の活動は、地道な研究調査を継続し、その成果を社会還元していくことで実績を上げてきた。その点からは、もとより実行しているはずの「効率性」は果たして評価の重要項目だろうか。例えば他機関や外部研究者との連携は「発展性」に関わる重要な活動であるから「連携性」のような観点があってもよいのではないか。
栗本委員	調査研究と成果の公開、各種の相談業務、専門職の研修・次世代への教育、国内外への情報発信、文化財防災など、大変多くの事業が活発に運営され所期の目標を達成されていることを評価します。コロナ禍の状況にありましたが、オンラインでの打合せや研究会、動画配信などの有用性が明らかになりました。今後もこれらを上手く活用して、限られた人材と予算の中での運営と成果の両立を期待します。 自己点検評価書は概ね明確に書かれていると考えますが、評定理由には具体性に欠ける箇所も認められました。記述の工夫をお願いします。
藤井委員	新型コロナのために、まだ活動が全面的に展開できない点も散見されるのだが、それなりに十分な成果があげられたと考える。2023 年度の事業の進展に大いに期待している。

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会

委員長	名児耶　　明	（元公益財団法人五島美術館副館長）
副委員長	小　松　大　秀	（公益財団法人永青文庫館長）
委員	大久保　純　一	（国立歴史民俗博物館教授）
委員	小笠原　　直	（監査法人アヴァンティア法人代表 CEO　代表社員 公認会計士）
委員	児　島　　薫	（実践女子大学文学部美学美術史学科教授）
委員	栗　本　康　司	（秋田県立大学木材高度加工研究所教授）
委員	榊　原　　悟	（岡崎市美術博物館特任館長）
委員	坂　本　弘　子	（元朝日新聞社常勤監査役）
委員	出　川　哲　朗	（大阪市立東洋陶磁美術館名誉館長、大阪大学招聘教授、大阪市博物館機構学芸顧問）
委員	寺　崎　保　広	（奈良大学文学部名誉教授）
委員	浜　田　弘　明	（桜美林大学教授）
委員	藤　井　恵　介	（東京大学名誉教授）

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会　博物館部会

部会長	小　松　大　秀	（公益財団法人永青文庫館長）
副部会長	浜　田　弘　明	（桜美林大学教授）
委員	大久保　純　一	（国立歴史民俗博物館教授）
委員	榊　原　　悟	（岡崎市美術博物館特任館長）
委員	出　川　哲　朗	（大阪市立東洋陶磁美術館名誉館長、大阪大学招聘教授、大阪市博物館機構学芸顧問）

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会　研究所・センター部会

部会長	寺　崎　保　広	（奈良大学文学部名誉教授）
副部会長	児　島　　薫	（実践女子大学文学部美学美術史学科教授）
委員	栗　本　康　司	（秋田県立大学木材高度加工研究所教授）
委員	藤　井　恵　介	（東京大学名誉教授）

Ⅵ 日誌

（法人全体及び７施設共通事項）

年　月　日	記　　事
4.　4.　5	第１回役員会
4.　4. 26	独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会（研究所・センター調査研究等部会）
4.　4. 27	第１回情報システム・セキュリティ委員会（Web 開催）
4.　5. 16	独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会（博物館調査研究等部会）
4.　5. 31	独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会（総会）
4.　6. 21	監査法人の監査結果（令和３年度）通知
4.　6. 22	第２回役員会（東京文化財研究所）
4.　6. 23	令和３年度定期監事監査（東京国立博物館）
4.　6. 30	独立行政法人国立文化財機構の令和３年度自己評価書の提出
4.　6. 28	独立行政法人国立文化財機構の第 15 期事業年度財務諸表の提出
4.　7.　1	第１回内部統制委員会（Web 開催）
4.　7.　1	第１回リスク管理委員会（Web 開催）
4.　7. 13	独立行政法人国立文化財機構運営委員会（サテライト開催）
4.　7. 19	令和４年度独立行政法人国立文化財機構新任職員研修会（オンライン）（～8 月 31 日）
4.　7. 26	第３回役員会（Web 開催）
4. 12. 23	第２回情報システム・セキュリティ委員会（掲示板開催）（～令和 5 年 1 月 13 日）
4.　9. 13	第４回役員会（奈良国立博物館）
4. 11.　9	第５回役員会（東京国立博物館）
4. 12. 14	第６回役員会（京都国立博物館）
5.　1. 24	第７回役員会（奈良文化財研究所）
5.　2. 27	第２回内部統制委員会（Web 開催）
5.　2. 27	第２回リスク管理委員会（Web 開催）
5.　3. 22	第８回役員会（東京国立博物館）
5.　3. 24	文化財（美術工芸品）の修理記録アーカイブ構築に関する調査報告会（東京国立博物館）

（文化財活用センター）

年	月	日	記事
4.	4.	1	ファンドレイジング事業「東京国立博物館創立150年記念　踊る埴輪＆見返り美人　修理プロジェクト」寄附受入開始
4.	4.	23	国立博物館収蔵品貸与促進事業「伊勢物語とかきつばた」（～6月5日、刈谷市歴史博物館）
4.	4.	25	ぶんかつアウトリーチプログラム「見て、感じて、楽しむ松林図屏風」（品川区立大井第一小学校）
4.	5.	24	ぶんかつアウトリーチプログラム「絵で読む平家物語」（～5月25日、三重県立四日市高等学校）
4.	6.	8	第1回文化財活用センター連絡調整委員会（オンライン開催）
4.	6.	10	ぶんかつアウトリーチプログラム「見て、感じて、楽しむ風神雷神図／夏秋草図屏風」（江戸川区立東小岩小学校）
4.	6.	21	ぶんかつアウトリーチプログラム「見て、感じて、楽しむ風神雷神図／夏秋草図屏風」（足立区西保木間小学校）
4.	7.	1	国立博物館収蔵品貸与促進事業「ハニワの世界へようこそ」（～8月28日、島根県立古代出雲歴史博物館）
4.	7.	7	ぶんかつアウトリーチプログラム「自分だけの松林図屏風をつくってみよう！」（中野区立美鳩小学校）
4.	7.	11	ぶんかつアウトリーチプログラム「見て、感じて、楽しむ風神雷神図／夏秋草図屏風」（～7月15日、平安女学院中学高等学校、講師派遣なし）
4.	7.	13	ぶんかつアウトリーチプログラム「自分だけの松林図屏風をつくってみよう！」（つばさ大森教室）
4.	7.	30	国立博物館収蔵品貸与促進事業「あしかがの歴史と文化再発見！－鎌倉殿の義弟、足利義兼の祈り 大日如来坐像－」（～10月10日、足利市立美術館）
4.	8.	1	令和4年度　博物館美術館等保存担当学芸員研修（基礎コース）（～8月5日）
4.	8.	7	ぶんかつアウトリーチプログラム「自分だけの松林図屏風をつくってみよう！」（舟形町中央公民館）
4.	8.	18	ぶんかつアウトリーチプログラム「焔」「松林図屏風」（特別プログラム）（～8月19日、青森県総合学校教育センター、教員研修）
4.	8.	18	ゲームソフト『あつまれ どうぶつの森』において「ぶんかつ島」を公開
4.	8.	23	ColBase（国立文化財機構所蔵品統合検索システム）がデジタルアーカイブジャパン・アワード2022受賞
4.	8.	23	第4回講習会「保存環境調査・管理に関する講習会-室内汚染物質の精密測定-」（対面／オンラインのハイブリッド開催）
4.	8.	27	ぶんかつアウトリーチプログラム「自分だけの松林図屏風をつくってみよう！」（～8月28日、米沢市上杉博物館）
4.	8.	29	令和5年度国立博物館貸与促進事業実施対象館選定委員会
4.	9.	8	ぶんかつアウトリーチプログラム「風神雷神/夏秋草図屏風（特別プログラム）」（中野区立第二中学校特別支援級）

4. 9. 22　国立博物館収蔵品貸与促進事業「茶の湯と薩摩」（～11 月 6 日、鹿児島県歴史・美術センター黎明館）
4. 10. 5　ファンドレイジング事業「ひかり拓本プロジェクト」寄附受入開始（～12 月 2 日）
4. 10. 6　ぶんかつアウトリーチプログラム「自分だけの松林図屏風をつくってみよう！」（つばさ蒲田教室）
4. 10. 8　国立博物館収蔵品貸与促進事業「里帰り！日本最大の銅鐸―太古の響きを安土の地で―」（～11 月 20 日、滋賀県立安土城考古博物館）
4. 10. 12　ぶんかつアウトリーチプログラム「見て、感じて、楽しむ風神雷神図／夏秋草図屏風」（～10 月 13 日、世田谷区立砧中学校）
4. 10. 14　国立博物館収蔵品貸与促進事業「復帰 50 年展「琉球―美とその背景―」」（～12 月 4 日、沖縄県立博物館・美術館）
4. 10. 18　東京国立博物館創立 150 年記念特別企画「未来の博物館」（～12 月 11 日、東京国立博物館本館特別 5 室、特別 3 室、東洋館エントランス）
4. 10. 24　ぶんかつアウトリーチプログラム「見て、感じて、楽しむ風神雷神図／夏秋草図屏風」（～11 月 2 日、京都府立福知山高等学校・附属中学校）
4. 11. 8　ぶんかつアウトリーチプログラム「自分だけの松林図屏風をつくってみよう！」（東星学園中学校・高等学校）
4. 11. 16　ぶんかつアウトリーチプログラム「自分だけの松林図屏風をつくってみよう！」（つばさ池上教室）
4. 11. 30　ぶんかつアウトリーチプログラム「絵で読む平家物語」（世田谷区立玉川中学校）
4. 12. 8　ぶんかつアウトリーチプログラム「見て、感じて、楽しむ風神雷神図／夏秋草図屏風」（つばさ羽田教室）
4. 12. 15　ぶんかつアウトリーチプログラム「絵で読む平家物語」（～12 月 27 日、芝中学校・高等学校、講師派遣なし）
5. 1. 12　ぶんかつアウトリーチプログラム「絵で読む平家物語」（～1 月 13 日、豊島岡女子中学校）
5. 1. 17　東京国立博物館バーチャル展示「エウレカトーハク！⊙８９」（～3 月 31 日）
5. 1. 19　ぶんかつアウトリーチプログラム「見て、感じて、楽しむ風神雷神図／夏秋草図屏風」（葛飾区立川端小学校）
5. 1. 23　令和 4 年度　博物館美術館等保存担当学芸員研修（基礎コース）（～1 月 27 日）
5. 1. 31　体験型展示「デジタル法隆寺宝物館」開室（東京国立博物館法隆寺宝物館中二階）（通年展示。ただし、半年毎に展示替。）
5. 2. 9　ぶんかつアウトリーチプログラム「見て、感じて、楽しむ風神雷神図／夏秋草図屏風」（田園調布学園中等部）
5. 2. 24　ぶんかつアウトリーチプログラム「風神雷神図／夏秋草図屏風」（筑波大学附属大塚特別支援学校）
5. 3. 2　ぶんかつアウトリーチプログラム「見て、感じて、楽しむ松林図屏風」（三重県立四日市高等学校）
5. 3. 6　第 5 回講習会「保存環境調査・管理に関する講習会-クロスから放散するアンモニアについて」（対面／オンラインのハイブリッド開催）

5. 3. 7　ぶんかつアウトリーチプログラム「見て、感じて、楽しむ風神雷神図／夏秋草図屏風」（～3 月 14 日、目黒区立大鳥中学校、講師派遣なし）
5. 3. 14　第 2 回文化財活用センター連絡調整委員会（オンライン開催）
5. 3. 15　国立文化財機構ファンドレイジング勉強会立ち上げ
5. 3. 23　ColBase（国立文化財機構所蔵品統合検索システム）において、所蔵品の詳細情報まとめたデータセットの提供を開始

（文化財防災センター）

年	月	日	記事
4.	4.	18	第1回文化庁・文化財防災センター協議会（文化庁/オンライン）
4.	5.	18	第2回文化庁・文化財防災センター協議会（文化庁/オンライン）
4.	6.	15	第1回文化遺産防災ネットワーク推進会議参画団体幹事会（奈良文化財研究所/オンライン）
4.	6.	20	第3回文化庁・文化財防災センター協議会（文化庁/オンライン）
4.	6.	24	第1回文化遺産防災ネットワーク推進会議（奈良文化財研究所/オンライン）
4.	6.	29	第1回文化財防災センター事業報告会（奈良文化財研究所/オンライン）
4.	6.	29	第1回文化遺産の防災に関する有識者会議（奈良文化財研究所/オンライン）
4.	7.	19	第4回文化庁・文化財防災センター協議会（文化庁/オンライン）
4.	8.	18	第5回文化庁・文化財防災センター協議会（文化庁/オンライン）
4.	9.	21	第6回文化庁・文化財防災センター協議会（文化庁/オンライン）
4.	10.	18	第7回文化庁・文化財防災センター協議会（文化庁/オンライン）
4.	10.	23	令和4年度文化遺産国際協力コンソーシアムシンポジウム「気候変動と文化遺産―いま、何が起きているのか―」（東京大学弥生講堂一条ホール/オンライン）
4.	11.	2	研修「水損書画の初期処置ワークショップ」（奈良文化財研究所）
4.	11.	21	第8回文化庁・文化財防災センター協議会（文化庁/オンライン）
4.	11.	28	第2回文化遺産防災ネットワーク推進会議参画団体幹事会（奈良文化財研究所/オンライン）
4.	12.	9	第2回文化遺産防災ネットワーク推進会議（奈良文化財研究所/オンライン）
4.	12.	16	研修「一時保管場所におけるゾーニングワークショップ」（東京文化財研究所）
4.	12.	19	第9回文化庁・文化財防災センター協議会（文化庁/オンライン）
4.	12.	20	第2回文化財防災センター事業報告会（奈良文化財研究所/オンライン）
4.	12.	20	第2回文化遺産の防災に関する有識者会議（奈良文化財研究所/オンライン）
4.	12.	21	国際会議「アジア太平洋地域における文化財防災の現状と課題（Ⅱ）―災害後の復旧・復興の事例と課題―」（奈良県コンベンションセンター/オンライン）（～12月22日）
5.	1.	16	第10回文化庁・文化財防災センター協議会（文化庁/オンライン）
5.	1.	19	文化財防火デーイベント「京都における文化財防災ネットワークの構築を目指して」（京都国立博物/Youtubeアーカイブ配信）
5.	2.	20	第11回文化庁・文化財防災センター協議会（文化庁/オンライン）
5.	2.	24	シンポジウム「歴史が導く災害科学の新展開Ⅳ―文化遺産を守り伝える新たな技術―」（東北大学災害科学国際研究所/オンライン）
5.	3.	7	シンポジウム「無形文化遺産と防災―被災の経験から考える防災・減災―」（東京文化財研究所）
5.	3.	20	第12回文化庁・文化財防災センター協議会（文化庁/オンライン）

（東京国立博物館）

年　月　日	記　　事
4.　4. 24	月イチ！トーハクキッズデー
4.　4. 26	親と子のギャラリー　翼と羽（～5 月 29 日）
4.　5.　2	沖縄復帰 50 年記念特別展「琉球」特別内覧会（会期　5 月 3 日～6 月 26 日）
4.　5. 18	国際博物館の日　総合文化展無料観覧日
4.　5. 22	月イチ！トーハクキッズデー
4.　5. 25	天皇皇后両陛下　沖縄復帰 50 年記念特別展「琉球」行幸啓
4.　5. 26	西銘恒三郎復興大臣 福島原発事故再生総括担当 内閣府特命担当大臣（沖縄及び北方対策）　沖縄復帰 50 年記念特別展「琉球」視察
4.　6.　9	上皇上皇后両陛下　沖縄復帰 50 年記念特別展「琉球」ご覧
4.　6. 17	秋篠宮皇嗣同妃両殿下　沖縄復帰 50 年記念特別展「琉球」ご覧
4.　6. 26	月イチ！トーハクキッズデー
4.　7. 20	東京国立博物館創立 150 年記念　総合文化展無料観覧日（～7 月 24 日）
4.　7. 24	グランドキッズデー
4.　7. 26	日中国交正常化 50 周年記念　特別デジタル展「故宮の世界」（～9 月 19 日）
4.　8. 23	永岡桂子文部科学大臣　総合文化展「日本美術の流れ」視察
4.　8. 28	月イチ！トーハクキッズデー
4.　9.　6	「踊る埴輪＆見返り美人　修理プロジェクト」初音ミクコラボ連動企画（～10 月 2 日）
4.　9. 19	敬老の日　総合文化展無料観覧日
4.　9. 21	博物館でアジアの旅　アジア大発見！（～10 月 16 日）
4.　9. 25	月イチ！トーハクキッズデー
4. 10.　1	留学生の日　総合文化展無料観覧日（留学生のみ）
4. 10.　2	第 17 回「台東区の伝統工芸職人展」（～10 月 5 日）
4. 10.　4	東京国立博物館評議員会（オンラインと対面の両形式で開催）
4. 10. 17	東京国立博物館創立 150 年記念　特別展「国宝　東京国立博物館のすべて」特別内覧会（会期　10 月 18 日～12 月 18 日）
4. 10. 18	特別企画「未来の博物館」（～12 月 11 日）
4. 10. 23	月イチ！トーハクキッズデー
4. 11.　1	高精細複製品　お披露目（～11 月 20 日）
4. 11.　2	創エネ・あかりパーク 2022 に伴うスペシャルライトアップ（～11 月 6 日）
4. 11.　2	150 年後の国宝展―ワタシの宝物、ミライの宝物（～1 月 29 日）
4. 11.　3	文化の日　総合文化展無料観覧日
4. 11.　5	Daiwa Sakura Aid Concert in Tokyo National Museum（～11 月 6 日）
4. 11.　7	東京国立博物館創立 150 年記念式典
4. 11.　7	松本剛明総務大臣　東京国立博物館創立 150 年記念　特別展「国宝　東京国立博物館のすべて」視察
4. 11.　7	永岡桂子文部科学大臣　東京国立博物館創立 150 年記念　特別展「国宝　東京国立博物館のすべて」視察
4. 11. 24	天皇皇后両陛下並びに愛子内親王殿下　東京国立博物館創立 150 年記念　特別展「国宝

東京国立博物館のすべて」ご覧

4. 11. 27　月イチ！トーハクキッズデー

4. 12. 3　岸田文雄内閣総理大臣　東京国立博物館創立 150 年記念　特別展「国宝　東京国立博物館のすべて」視察

4. 12. 3　東博ボランティアデー2022

4. 12. 14　松野博一内閣官房長官　東京国立博物館創立 150 年記念　特別展「国宝　東京国立博物館のすべて」視察

4. 12. 25　月イチ！トーハクキッズデー

5. 1. 2　博物館に初もうで（～1 月 29 日）

5. 1. 17　東京国立博物館バーチャル展示「エウレカトーハク！⊙８９」（～3 月 31 日）

5. 1. 22　月イチ！トーハクキッズデー

5. 2. 26　月イチ！トーハクキッズデー

5. 3. 6　特別展「東福寺」特別内覧会（会期　3 月 7 日～5 月 7 日）

5. 3. 6　西村明宏環境大臣 内閣府特命担当大臣（原子力防災）　特別展「東福寺」視察

5. 3. 14　博物館でお花見を（～4 月 9 日）

5. 3. 26　月イチ！トーハクキッズデー

（京都国立博物館）

年　月　日	記　　事
4.　4.　1	庭園開館（～4 月 10 日）
4.　4. 11	伝教大師 1200 年大遠忌記念特別展「最澄と天台宗のすべて」内覧会（会期 4 月 12 日～5 月 22 日）
4.　5. 20	京都らくご博物館【春】～新緑寄席～Vol.62
4.　5. 24	庭園開館（～6 月 12 日）　／　庭園デジタルスタンプラリー（～7 月 28 日）
4.　5. 25	文化財保存修理所運営委員会
4.　6. 20	普通救命講習会
4.　7. 26	庭園開館（～7 月 28 日）
4.　7. 29	特別展「河内長野の霊地　観心寺と金剛寺―真言密教と南朝の遺産―」内覧会（会期 7 月 30 日～9 月 11 日）
4.　7. 30	夜間開館開始（～9 月 10 日までの毎金曜・土曜　20:00 まで開館）
4.　8.　3	記者体験 in 京都国立博物館
4.　8.　5	夏期講座「動乱の時代―14 世紀」（～8 月 6 日）
4.　8.　8	鰐淵洋子文部科学大臣政務官視察
4.　8.　9	キャンパスメンバーズデー（観覧無料・限定講演会）
4.　8. 26	京都らくご博物館【夏】～納涼寄席～Vol.63
4.　9.　2	社会科・美術科教員のための向上講座
4.　9. 10	夏の一絃琴演奏会（～9 月 11 日）
4.　9. 12	参議院議院運営委員会視察
4.　9. 13	庭園開館（～10 月 6 日）
4. 10.　1	「京都ミュージアムズ・フォー」スタンプラリー（～11 月 30 日）
4. 10.　7	特別展「京（みやこ）に生きる文化　茶の湯」関係者開会式、内覧会（会期 10 月 8 日～12 月 4 日）
4. 10.　8	夜間開館開始（～12 月 3 日までの毎金曜・土曜　20:00 まで開館）
4. 10. 12	豊田市議会行政視察
4. 11.　5	秋の京博茶会（～11 月 6 日）
4. 11. 18	京都らくご博物館【秋】～錦秋寄席～Vol.64
4. 11. 21	障がいのある方のための特別鑑賞会
4. 12.　6	庭園開館（～12 月 25 日）
5.　1.　9	芸舞妓　春の舞　／　留学生の日（観覧無料）
5.　1. 15	八坂神社　祇園獅子舞
5.　1. 19	文化財防火デーイベント「京都における文化財防災ネットワークの構築を目指して」
5.　2.　4	国際シンポジウム「アジアの博物館教育は、いま―国立博物館の事例から―」（ハイブリッド開催）
5.　2. 10	京都らくご博物館【冬】～早春寄席～Vol.65
5.　2. 17	京都国立博物館評議員会
5.　2. 26	春のクラシックコンサート
5.　3.　7	庭園開館（～3 月 23 日）

5. 3. 17　伯井美徳文部科学審議官視察

5. 3. 24　親鸞聖人生誕850年特別展「親鸞―生涯と名宝」開会式、内覧会（会期3月25日～5月21日）

（奈良国立博物館）

年　月　日	記　　事
4.　4. 17	サンデートーク「薬師如来像をめぐって」
4.　4. 23	特別展「大安寺のすべて―天平のみほとけと祈り―」関連イベント「らくご男子落語会 恋バナ編」
4.　4. 28	特別展「大安寺のすべて－天平のみほとけと祈り－」キャンパスメンバーズ特別鑑賞会
4.　4. 29	公開講座「大安寺伽藍縁起并流記資財帳の考古学」
4.　4. 30	特別展「大安寺のすべて―天平のみほとけと祈り―」関連イベント「重文で朝ヨガ・呼吸法体験！～ならはくでととのいませんか？～」
4.　5.　5	特別展「大安寺のすべて―天平のみほとけと祈り―」関連　親子向けワークショップ「小花もようのかざりタイルをつくろう！」
4.　5.　8	奈良国立博物館「大安寺のすべて ―天平のみほとけと祈り―」を巡ろう【ニコニコ美術館】
4.　5. 10	特別展「大安寺のすべて－天平のみほとけと祈り－」賛助会特別鑑賞会
4.　5. 11	特別展「大安寺のすべて－天平のみほとけと祈り－」奈良博プレミアムカード特別鑑賞会
4.　5. 11	春期仏像供養
4.　5. 15	サンデートーク「文化財を加害するムシの話」
4.　5. 21	公開講座「大安寺の祈りと営み－出土品を中心に－」
4.　5. 28	特別展「大安寺のすべて―天平のみほとけと祈り―」関連イベント「重文で朝ヨガ・呼吸法体験！～ならはくでととのいませんか？～」
4.　5. 28	特別展「大安寺のすべて―天平のみほとけと祈り―」関連イベント「奈良仏像けんきゅー部　大安寺展編」
4.　6. 11	公開講座「大安寺の仏像」
4.　6. 19	サンデートーク「文化財の健康診断―X 線 CT 調査でみる文化財―」
4.　7. 16	夏季連続講座第 1 回 如来「東アジア世界のブッダの姿」
4.　7. 17	サンデートーク「平安貴族と装飾写経」
4.　7. 20	夏期仏像供養
4.　7. 23	夏季連続講座第 2 回 菩薩「菩薩像のかたちと信仰 ―観音菩薩を中心に」
4.　7. 25～	わくわくびじゅつギャラリー「はっけん！ほとけさまのかたち」関連ワークショップ「なりきり！ほとけさまのかたち」
4.　7. 28	貞享本當麻曼荼羅修理完成記念特別展「中将姫と當麻曼荼羅―祈りが紡ぐ物語―」 キャンパスメンバーズ特別鑑賞会
4.　7. 28.	夏休み親子講座「親子で学ぼう 奈良の仏像」
4.　7. 29	貞享本當麻曼荼羅修理完成記念特別展「中将姫と當麻曼荼羅―祈りが紡ぐ物語―」 奈良博プレミアムカード特別鑑賞会
4.　7. 29.	夏休み親子講座「親子で学ぼう 奈良の仏像」
4.　7. 30	夏季連続講座第 3 回 明王「図像から彫像へ ―不動明王像の魅力」
4.　7. 31	貞享本當麻曼荼羅修理完成記念 特別展「中将姫と當麻曼荼羅―祈りが紡ぐ物語―」関連イベント「蓮糸織り体験」
4.　8.　3	貞享本當麻曼荼羅修理完成記念特別展「中将姫と當麻曼荼羅―祈りが紡ぐ物語―」

賛助会特別鑑賞会

4. 8. 5　夏休みファミリー新聞教室 in 奈良
4. 8. 6　公開講座「貞享本當麻曼荼羅とその周辺」
4. 8. 7　サンデートーク「仏教美術以前の日本美術」
4. 8. 11　貞享本當麻曼荼羅修理完成記念 特別展「中将姫と當麻曼荼羅―祈りが紡ぐ物語―」関連イベント「奈良仏像けんきゅー部　中将姫展編」
4. 8. 11　奈良国立博物館「中将姫と當麻曼荼羅 ―祈りが紡ぐ物語―」を巡ろう【ニコニコ美術館】
4. 8. 20　公開講座「中将姫説話の展開」
4. 8. 21　親子講座「なぜなぜ？はっけん！ほとけさまのかたち」
4. 8. 27　夏季連続講座第4回 天部「天部のかたち ―毘沙門天を中心に」
4. 9. 18　サンデートーク「明恵上人をめぐる仏教絵画」
4. 9. 28　秋期仏像供養
4. 9. 30
～10. 2　クラウドファンディング寄付者対象　庭園御披露目式
4. 10. 5　奈良教育大学附属中学校のフィールドワーク授業「ならめぐり」の受け入れ
4. 10. 11　ウェブ会議システムを活用した展示案内プログラム（対象：奈良市立伏見南小学校5年生）
4. 10. 16　サンデートーク「古代の戸籍と正倉院文書について」
4. 10. 17　ウェブ会議システムを活用した展示案内プログラム（対象：奈良市立平城西小学校5年生）
4. 10. 29　公開講座「正倉院宝物の保存―宝物を覆う―」
4. 10. 30　「第74回正倉院展」関連イベント「奈良仏像けんきゅー部　正倉院展編」
4. 11. 4　特別展「第74回正倉院展」賛助会・奈良博プレミアムカード特別鑑賞会
4. 11. 12　公開講座「正倉院の仏具―奈良時代の寺院と法会の世界―」
4. 11. 19　近代化遺産全国一斉公開
4. 11. 20　サンデートーク「古写真と仏像研究」
4. 11. 26　留学生の日関連イベント「書画作品に挑戦しよう！」
4. 11. 28　遠隔操作ロボットを活用した展示案内プログラム（対象：大分市立西中学校1年生）
4. 12. 5　遠隔操作ロボットを活用した展示案内プログラム（対象：大分市立西中学校1年生）
4. 12. 12　ウェブ会議システムを活用した展示案内プログラム（対象：奈良市立大安寺西小学校5年生）
4. 12. 16　式年造替記念特別展「春日大社 若宮国宝展―祈りの王朝文化―」賛助会特別鑑賞会
4. 12. 16　奈良国立博物館「春日大社 若宮国宝展―祈りの王朝文化―」を巡ろう【ニコニコ美術館】
4. 12. 18　サンデートーク「如来像の着衣について」
4. 12. 21　式年造替記念特別展「春日大社 若宮国宝展―祈りの王朝文化―」奈良博プレミアムカード特別鑑賞会
4. 12. 22　式年造替記念特別展「春日大社 若宮国宝展―祈りの王朝文化―」キャンパスメンバーズ特別鑑賞会

5. 1. 7　公開講座「王朝文化が蘇る　春日若宮古神宝とその復元」
5. 1. 12　文化財保存修理所公開
5. 1. 15　サンデートーク「仏像の模刻をめぐって」
5. 1. 16　遠隔操作ロボットを活用した展示案内プログラム（対象：大分市立戸次小学校6年生）
5. 1. 19　冬期仏像供養
5. 1. 21　式年造替記念特別展「春日大社 若宮国宝展―祈りの王朝文化―」関連イベント「奈良仏像けんきゅー部　春日大社若宮国宝展編」
5. 1. 23　遠隔操作ロボットを活用した展示案内プログラム（対象：平松学園向陽中学校3年生）
5. 1. 30　遠隔操作ロボットとウェブ会議システムを活用したオンライン交流学習（対象：奈良市立鼓阪北小学校5年生と大分県国東市立国見小学校5年生）
5. 2. 4　公開講座「参籠した時の醍醐味とは」
5. 2. 5　特別陳列「お水取り」関連イベント「お水取り　「講話」と「現地解説」の会　2023年」
5. 2. 6　ウェブ会議システムを活用した展示案内プログラム（対象：奈良市立飛鳥小学校5年生）
5. 2. 19　サンデートーク「奈良の仏像版画をめぐって　Nara’s Buddhist Prints」
5. 3. 14　特別陳列「お水取り」関連イベント「お水取り　特別上映会」
5. 3. 19　サンデートーク「ステラレネーゼ達の“断捨離”」

(九州国立博物館)

年	月	日	記　　事
4.	4.	15	特別展「北斎」内覧会(会期　4 月 16 日～6 月 12 日)
4.	4.	16	特別展「北斎」記念講演会「老境の北斎とその画業－浮世絵風景画史の観点から－」
4.	4.	19	特集展示「きゅーはく女子考古部プレゼンツ　かわいい考古学のススメ」(～7 月 24 日)
4.	4.	24	第 88 回はじめての茶道体験
4.	4.	26	きゅーはく夢ひろば　つくし郷土かるた展
4.	4.	30	古代体験イベント　きゅーはく女子考古部 presents 古代の宴へようこそ！
4.	4.	30	きゅーはく☆とっておき講座「かわいい考古学って何？」
4.	5.	4	きゅーはく夢ひろば(～5 月 5 日)
4.	5.	7	特別展「北斎」担当研究員による展示レクチャー
4.	5.	18	文化交流展無料観覧日（国際博物館の日）
4.	5.	21	特別展「北斎」記念トークショー「おしえて、しりあがりサン！-北斎のすごさとは-」
4.	5.	22	第 94 回親子で茶道体験
4.	6.	3	第 50 回福岡ブロック大会つくし大会「感じてつくし幸せ体験」(～6 月 5 日)
4.	6.	4	きゅーはくミュージアムコンサート「タンゴ 3 姉妹＋ 」
4.	6.	8	UBE ビエンナーレ PR 事業
4.	6.	10	第 77 期本因坊戦決定戦七番勝負第 4 局　開幕式・記念展示・大盤解説会・関連イベント(～6 月 12 日)
4.	6.	18	第 89 回はじめての茶道体験
4.	6.	25	百済の国のお宝拝見！ - 韓国国宝・百済金銅大香炉紹介講座 -
4.	7.	8	きゅーはくカフェコンサート
4.	7.	15	沖縄復帰 50 年記念 特別展「琉球」内覧会(会期　7 月 16 日～9 月 4 日)
4.	7.	16	沖縄復帰 50 年記念 特別展「琉球」記念講演会「万国津梁鐘と尚泰久」
4.	7.	18	沖縄復帰 50 年記念 特別展「琉球」関連イベント琉球の宝 ウチナーの心
4.	7.	20	ならべてわかる本物のひみつ～実物とレプリカ 2022～(～10 月 10 日)
4.	7.	23	きゅーはくカフェコンサート「夏を彩るメロディ」
4.	7.	24	第 95 回親子で茶道体験
4.	7.	30	特別展「琉球」×『刀剣乱舞-ＯＮＬＩＮＥ-』おっきい こんのすけ撮影会
4.	8.	6	全国高等学校歴史学フォーラム 2022
4.	8.	6	第 96 回親子で茶道体験
4.	8.	7	沖縄復帰 50 年記念 特別展「琉球」講演会「琉球の美術と文化を深める」
4.	8.	11	甕棺墓　埋葬体験　ワークショップ「弥生時代の棺　甕棺に入ろう」
4.	8.	13	リレー講座「琉球展ちゃんぷる一講座　①歴史編」
4.	8.	20	リレー講座「琉球展ちゃんぷる一講座　②工芸編」
4.	8.	23	伊都国ウィーク in 九州国立博物館　伊都国の王墓に関するパネル展示(～8 月 28 日)
4.	8.	25	山笠御神入れ
4.	8.	27	きゅーはくミュージアムコンサート 沖縄復帰 50 年記念 特別展「琉球」関連イベント「古謝美佐子 沖縄のこころのうた」
4.	8.	27	伊都国ウィーク in 九州国立博物館　鋳造体験

4. 8. 28　甕棺墓　埋葬体験　ワークショップ「伊都国王のお葬式」
4. 9. 3　九州国立博物館「大宰府学研究」事業・特別史跡「大野城跡」史跡指定 90 年記念シンポジウム大宰府四王院 -「西の都」に築かれた鎮護国家思想の寺 -
4. 9. 3　対話型鑑賞ワークショップ「見えると見えない～対話で楽しむ博物館～」
4. 9. 4　きゅーはく☆とっておき講座「弥生王墓の実像を探る―三雲南小路遺跡発見 200 年」
4. 9. 11　第 90 回はじめての茶道体験
4. 9. 13　第 73 回太宰府天満宮七夕揮毫大会 優秀作品展示(～9 月 25 日)
4. 9. 19　文化交流展無料観覧日(敬老の日)
4. 9. 21　特別公開「沖ノ島祭祀を担った奉斎者たち」(～12 月 4 日)
4. 9. 23　九博能
4. 9. 27　特集展示「御所の器―公家山科家伝来の古伊万里」(～11 月 20 日)
4. 10. 1　日本遺産「西の都」古代史講座（・10 月 8 日)
4. 10. 6　久山町立久原小学校ポスター展示・プレゼン
4. 10. 8　「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群　世界遺産登録 5 周年記念展覧会「沖ノ島祭祀を担った奉斎者たち」開催記念講演会「沖ノ島祭祀と渡来系遺物の流入 - 海の民ムナカタの役割 - 」
4. 10. 9　きゅーはくミュージアムコンサート「福岡ジュニアオーケストラ」
4. 10. 11　特別展「ポンペイ」内覧会(会期　10 月 12 日～12 月 4 日)
4. 10. 15　特別展「ポンペイ」記念講演会「ポンペイに魅せられた 50 年」
4. 10. 16　講演会＆トークセッション「宮廷文化と御所の器」
4. 10. 16　第 97 回親子で茶道体験
4. 10. 24　日米文化教育交流会議(カルコン)シンポジウム
4. 10. 25　おおむた PR キャンペーン「三池の刀が切り開く 大牟田の未来」(～10 月 30 日)
4. 10. 29　リレー講座①「ポンペイがやってきた！-見どころ紹介-」
4. 10. 30　おおむた PR キャンペーン「三池の刀が切り開く 大牟田の未来」公開講座「刀匠と語る三池刀の魅力」
4. 10. 31　第 1 回評議員会(書面審議・～12 月 8 日)
4. 11. 2　アジア代表日本 2022　トークショー
4. 11. 3　文化交流展無料観覧日(留学生の日) ※留学生のみ
4. 11. 3　令和 4 年度留学生イベント「茶道体験×バックヤードツアー」
4. 11. 5　きゅーはく☆とっておき講座「御所の器の魅力」
4. 11. 5　ワークショップぺたぺたデコレーション ～貼花に挑戦！～(・11 月 12 日)
4. 11. 6　リレー講座②「ポンペイとインド」「ポンペイの黒い鏡」「ポンペイの絵画とそのひみつ」
4. 11. 8　ワンヘルスに関するパネル展示(～11 月 13 日)
4. 11. 10　特別展「ポンペイ」関連イベント　視覚障害者とつくる博物館まっすぐ&ぶらぶら対話ツアー(・11 月 11 日)
4. 11. 10　第 21 回 FAVA(アジア獣医師連合会)大会　エクスカーション
4. 11. 15　IPM セミナー
4. 11. 15　九州国立博物館×九州産業大学「撮る博物館」(～11 月 20 日)
4. 11. 19　きゅーはくミュージアムコンサート「南欧 音楽の旅」

4. 11. 19　子ども向けワークショップ～天然大理石のモザイクコースター～(・11 月 20 日)
4. 11. 20　文化交流展無料観覧日(家族の日)　※中学生以下のお子様の同伴者 2 名まで
4. 11. 20　みんな de きゅーはくを楽しもう‼　模型 de 博物館たんけん隊
4. 11. 22　第 25 回日中青少年書画交流大会(～11 月 27 日)
4. 11. 27　第 91 回はじめての茶道体験
4. 11. 27　みんな de きゅーはくを楽しもう‼　視覚に障害がいがある方に向けた①バックヤードツアー②レプリカ＆楽器体験
4. 11. 29　アジア代表日本 2022　ワークショップ作品の展示(～12 月 11 日)
4. 12.　3　きゅーはくミュージアムコンサート「ビロードのような歌声が奏でるイタリアの世界」
4. 12.　3　ワークショップ「九博の杜」のブローチ作り体験
4. 12.　4　きゅーはくで楽しく！わく☆わくワークショップ
4. 12.　6　宮地嶽第 55 回光の道全国競書大会(～12 月 23 日)
4. 12. 10　きゅーはく☆とっておき講座「長崎警備と白帆注進-近世日本の沿岸警備-」
4. 12. 11　九州国立博物館杯　葛飾北斎「日新除魔図さいふごま」製作記念　第 18 回さいふごま大会
4. 12. 13　特集展示「種子島－風と波が育んだ歴史－」(～2 月 12 日)
4. 12. 13　九博でバードウォッチング！～九博が所蔵する 46 羽の野鳥のはく製を一挙公開！～(～12 月 16 日)
4. 12. 13　筑紫地区中学校美術展(～12 月 17 日)
4. 12. 18　きゅーはく☆とっておき講座「たねがしま入門」
5.　1.　1　新春特別公開　徳川美術館所蔵　国宝　初音の調度(～1 月 29 日)
5.　1.　3　きゅーはくニューイヤーコンサート「～幸福を呼ぶカルテット～」
5.　1.　3　きゅーはくで書き初め
5.　1.　5　新春は九博で博物館浴しよう！－展示鑑賞と科学的データの測定－
5.　1.　7　きゅーはく☆とっておき講座「徳川美術館所蔵　国宝　初音の調度」
5.　1. 11　第 6 回 MOA 美術館児童作品展 in 九州国立博物館(～1 月 15 日)
5.　1. 23　特別展「加耶」内覧会(会期　1 月 24 日～3 月 19 日)
5.　1. 28　特集展示「種子島－風と波が育んだ歴史－」関連イベント　歴史と宇宙への入口「種子島」
5.　1. 29　特別展「加耶」記念講演会　「五世紀・倭の技術革新と加耶」
5.　2.　4　特別展「加耶」リレー講座①
5.　2. 11　特別展「加耶」リレー講座②
5.　2. 11　種子島観光物産展
5.　2. 11　令和 4 年度筑紫地区文化財写真展「ちくし再発見～見てみんね。中世の筑紫～」
5.　2. 14　九州女子大学　第 55 回卒業書作展(～2 月 19 日)
5.　2. 18　第 8 回みゅーじあむ寄席　人間国宝がやってきた
5.　2. 25　日本遺産「やばけい遊覧」PR(・2 月 26 日)
5.　2. 25　HOT KOREA, HOT KYUHAKU ホットコリア,ホットきゅーはくフェア
5.　3.　4　手話通訳付きオンラインバックヤードツアー
5.　3.　4　きゅーはくミュージアムコンサート「アン・サリー 幻の王国“加耶”に思いを馳せて」

5. 3. 11　外国人のための　やさしい日本語で　「博物館の見学」
5. 3. 12　世界遺産沖ノ島講演会
5. 3. 13　第 2 回評議員会(書面審議・～3 月 28 日)
5. 3. 25　きゅーはくさくらまつり
5. 3. 26　九博デー「九博さくら祭りもちつき大会・桜の講演会」
5. 3. 26　西の都こども学校院「西の都」ってなに？

（東京文化財研究所）

年	月	日	記事
4.	6.	2	研修会「文化財写真入門―文化財の記録としての写真撮影実践講座」
4.	7.	4	令和4年度　博物館・美術館等保存担当学芸員研修（～7月8日）
4.	7.	12	データ利用についての実務を学ぶ勉強会
4.	8.	22	第4回保存環境調査・管理に関する講習会
4.	8.	28	文化遺産国際協力コンソーシアム　第31回研究会
4.	9.	2	令和4年度第1回文化財の記録作成に関するセミナー
4.	9.	5	国際研修「紙の保存と修復」評価セミナー（～9月12日）
4.	10.	5	文化財修復処置に関するワークショップ-ナノセルロースの利用について（～10月7日）
4.	10.	22	国際シンポジウム「メソポタミアの水と人」
4.	10.	23	令和4年度シンポジウム「気候変動と文化遺産－いま、何が起きているのかー」
4.	10.	28	第16回　東京文化財研究所 無形文化遺産部 公開学術講座『無形文化財と映像』
4.	10.	31	文化財修復技術者のための科学知識基礎研修（～11月2日）
4.	11.	8	第56回オープンレクチャー
4.	11.	9	国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復：東洋との出会い2022」（～11月22日）
4.	11.	25	フォーラムⅣ　「伝統芸能と新型コロナウイルスーこれからの普及・継承―」
4.	11.	28	国際考古動物学会南西アジア分科会（～12月2日）
4.	12.	11	日本・バーレーン外交関係樹立50周年事業シンポジウム『考古学と国際貢献：バーレーンの文化遺産保護に対する日本の貢献』
4.	12.	14	日本・バーレーン外交関係樹立50周年事業シンポジウム『アラビア考古学の最前線』
4.	12.	26	令和4年度世界遺産研究協議会
5.	1.	28	文化遺産国際協力コンソーシアム第32回研究会「中央ヨーロッパにおける文化遺産協力のこれまでとこれから」
5.	2.	1	第17回無形民俗文化財研究協議会「文化財としての食文化―無形民俗文化財の新たな広がり―」
5.	3.	4	早川泰弘東京文化財研究所副所長・髙妻洋成奈良文化財研究所副所長退任記念シンポジウム「分析化学の発展がもたらした文化財の新しい世界-色といろいろ-」
5.	3.	6	第5回保存環境調査・管理に関する講習会―クロスから放散するアンモニアについて―
5.	3.	10	無形文化遺産部実演記録室内覧会

（奈良文化財研究所）

年	月	日	記　　事
4.	4.	22	飛鳥資料館ミニ展示「飛鳥資料館に寄贈された瓦」（～5 月 22 日）
4.	4.	29	平城宮跡資料館春期特別展「未来につなぐ平城宮跡」（～6 月 12 日）
4.	5.	21	国宝高松塚古墳壁画修理作業室の公開（第 37 回）（～5 月 27 日）
4.	5.	21	国宝キトラ古墳壁画の公開（第 23 回）（～6 月 19 日）
4.	6.	25	記念シンポジウム「平城宮跡の過去・現在・未来」
4.	7.	4	文化財担当者専門研修「建造物保存活用計画策定課程」（～7 月 8 日）
4.	7.	15	飛鳥資料館夏期企画展「第 13 回写真コンテスト「高松塚古墳」作品展」（～9 月 11 日）
4.	7.	16	平城宮跡資料館夏期企画展「大地鳴動」（～8 月 28 日）
4.	7.	23	国宝高松塚古墳壁画修理作業室の公開（第 38 回）（～7 月 29 日）
4.	7.	23	国宝キトラ古墳壁画の公開（第 24 回）（～8 月 21 日）
4.	7.	25	文化財担当者専門研修「文化財デジタルアーカイブ課程」（～7 月 29 日）
4.	8.	6	藤原宮大極殿院の発掘調査（飛鳥藤原第 210 次）現地見学会
4.	9.	12	文化財担当者専門研修「遺跡調査技術課程」（～9 月 16 日）
4.	9.	26	文化財担当者専門研修「層序学・堆積学・土壌学基礎課程」（～9 月 30 日）
4.	10.	11	文化財担当者専門研修「保存科学（材質・構造調査）課程」（～10 月 14 日）
4.	10.	15	平城宮跡資料館秋特別展「地下の正倉院展」（～11 月 13 日）
4.	10.	15	興福寺東金堂院の回廊の発掘調査（平城第 649 次）現地見学会
4.	10.	15	国宝高松塚古墳壁画修理作業室の公開（第 39 回）（～10 月 21 日）
4.	10.	15	国宝キトラ古墳壁画の公開（第 25 回）（～11 月 13 日）
4.	10.	17	文化財担当者専門研修「保存科学（遺構・石造文化財）課程」（～10 月 21 日）
4.	10.	21	飛鳥資料館秋期特別展「飛鳥美人　高松塚古墳の魅力」（～12 月 18 日）
4.	10.	22	第 14 回東京講演会「高松塚古墳壁画を伝える－発見から石室解体、修理を経て」
4.	10.	29	記念特別展「のこった奇跡　のこした軌跡」（～12 月 11 日）於：平城宮いざない館
4.	11.	1	藤原宮跡資料室ロビー展示「藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第 208 次）」「石神遺跡 SD1347A 出土の土器（石神遺跡第 14・15 次）」（～3 月 31 日）
4.	11.	9	文化財担当者専門研修「中・近世瓦調査課程」（～11 月 11 日）
4.	11.	21	文化財担当者専門研修「文化財写真課程」（～12 月 2 日）
4.	12.	5	文化財担当者専門研修「報告書編集基礎課程」（～12 月 9 日）
4.	12.	12	文化財担当者専門研修「報告書デジタル作成課程」（～12 月 16 日）
4.	12.	16	第 26 回古代官衙・集落研究集会「古代集落の構造と変遷３」（～12 月 17 日）
5.	1.	17	文化財担当者専門研修「史跡等保存活用計画策定課程」（～1 月 23 日）
5.	1.	17	文化財担当者専門研修「文化財三次元計測入門課程」（～1 月 23 日）
5.	1.	20	飛鳥資料館　冬企画展「飛鳥の考古学 2022」（～3 月 12 日）
5.	1.	20	平城京左京三条一坊二坪の発掘調査（平城第 650 次）現地見学会
5.	1.	21	国宝高松塚古墳壁画修理作業室の公開（第 40 回）（～1 月 27 日）
5.	1.	21	国宝キトラ古墳壁画の公開（第 26 回）（～2 月 19 日）
5.	1.	30	文化財担当者専門研修「文化的景観調査計画課程」（～2 月 3 日）

5. 2. 4 第22回古代瓦研究会シンポジウム（～2月5日）

5. 3. 10 文化財担当者専門研修（特別研修）「文化財多言語化課程」

5. 3. 20 西大寺旧境内弥勒金堂跡の発掘調査（平城第655次）現地見学会

（アジア太平洋無形文化遺産研究センター）

年	月	日	記　　事
4.	4.	7	Capacity Building for Safeguarding Intangible Cultural Heritage in Emergencies in Small Island Developing States in the Pacific and the Caribbean への陪席（オンライン）
4.	4.	20	第 11 回中国 C2 センター運営理事会への陪席（オンライン）
4.	7.	1	無形文化遺産保護条約政府間委員会第 5 回臨時会合への出席（オンライン）
4.	7.	5	第 9 回無形文化遺産保護条約締結国会議への出席（～7 月 7 日、フランス）
4.	7.	8	第 10 回 C2 センター会合への出席（フランス）
4.	8.	5	「無形文化遺産保護と災害リスクマネジメントに関する調査研究」事業地域ワークショップ(セッション 1)を開催（オンライン）
4.	8.	10	「無形文化遺産保護のための持続的研究情報収集：中央アジアと小島嶼開発途上国（SIDS）を中心に」事業　オンラインワークショップを開催（オンライン）
4.	8.	28	第 34 回無形文化遺産理解セミナー「インドネシアジャワ島の伝統芸能と人々の暮らしー無形文化遺産の伝承を考えるー」を開催（堺市と共催）
4.	9.	7	「無形文化遺産保護と災害リスクマネジメントに関する調査研究」事業地域ワークショップ(セッション 2)を開催（オンライン）
4.	10.	28	アジア太平洋無形文化遺産研究センター（IRCI）第 11 回運営理事会を開催（オンライン）
4.	11.	11	2022 年韓国 C2 センター運営理事会への陪席（オンライン）
4.	11.	28	無形文化遺産保護条約第 17 回政府間委員会への出席、および IRCI のプロモーション展示を実施（～12 月 3 日、モロッコ）
4.	12.	13	アジア太平洋地域における無形文化遺産保護のためのオンラインセミナー（第 1 回）Community Involvement in ICH Research を開催（オンライン）
5.	1.	31	「無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する調査研究持続可能なまちづくりと無形文化遺産」第一回専門家会合および国際シンポジウムを開催（～2 月 2 日、奈良文化財研究所、奈良国立博物館及びオンライン）
5.	2.	13	Regional Consultation on UNESCO Framework for Culture and Arts Education への出席（～2 月 14 日、オンライン）
5.	2.	21	「無形文化遺産保護のための持続的研究情報収集：中央アジアと小島嶼開発途上国（SIDS）を中心に」事業　ワーキングセッションを開催（オンライン）
5.	3.	17	アジア太平洋地域における無形文化遺産保護のためのオンラインセミナー（第 2 回）ICH in a Climate of Emergency を開催（オンライン）
5.	3.	23	アジア太平洋地域における無形文化遺産保護のためのオンラインセミナー（第 3 回）Learning from the initiatives of good safeguarding practices　in the 2003 Convention を開催（オンライン）

Ⅶ 運営委員・評議員・外部評価委員名簿及び組織図・役職員名簿

独立行政法人国立文化財機構運営委員会委員名簿

（令和 5 年 3 月 31 日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　考
藤　井　　譲　治	京都大学名誉教授	委員長
田　辺　　征　夫	公益財団法人元興寺文化財研究所所長	副委員長
池　坊　　専　好	華道家元池坊次期家元	
伊　藤　　嘉　章	愛知県陶磁美術館総長、町田市立博物館館長	
上　原　　眞　人	京都大学名誉教授	
梅　本　　和　義	独立行政法人国際交流基金理事長	
逢　坂　　惠理子	独立行政法人国立美術館理事長	
唐　池　　恒　二	九州旅客鉄道株式会社代表取締役会長執行役員	
木　下　　直　之	静岡県立美術館館長	
佐　藤　　禎　一	元ユネスコ代表部特命全権大使	
檀　　ふ　み	俳優	
西高辻　　信　良	太宰府天満宮最高顧問	
西　村　　泰　彦	宮内庁長官	
古　瀬　　奈津子	お茶の水女子大学名誉教授	
鉾　井　　修　一	京都大学名誉教授	
和　田　　浩　一	観光庁長官	

・各館の評議員会評議員名簿

東京国立博物館評議員会評議員名簿

（令和５年３月 31 日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　考
青　柳　正　規	学校法人多摩美術大学理事長	会長
浦　井　正　明	寛永寺貫主	副会長
石　澤　良　昭	上智大学アジア人材養成研究センター所長	
ロバート・キャンベル	早稲田大学特命教授	
小　西　祐　一	台東区立根岸小学校長	
齊　藤　裕　司	東日本旅客鉄道株式会社上野駅長	
篠　田　謙　一	独立行政法人国立科学博物館長	
田　中　正　之	独立行政法人国立美術館国立西洋美術館長	
服　部　征　夫	台東区長	
浜　佳　葉　子	東京都教育委員会教育長	
早　川　　徹	日本空港ビルデング株式会社企画管理本部 総務グループ広報・ブランド戦略室長	
日　比　野　克　彦	東京藝術大学長	
平　井　邦　明	台東区立忍岡中学校長	
二　木　忠　男	上野観光連盟名誉会長	
室　瀬　和　美	漆芸家・重要無形文化財「蒔絵」保持者	
山　田　五　郎	編集者・評論家	
吉　田　寿　美	東京都立上野高等学校統括校長	
林　原　行　雄	昭和女子大学現代ビジネス研究所特別研究員	

京都国立博物館評議員会評議員名簿

（令和５年３月31日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　考
金　田　　章　裕	京都府立京都学・歴彩館長	会長
福　永　　治	独立行政法人国立美術館　京都国立近代美術館長	副会長
井　上　　洋　一	独立行政法人国立文化財機構　奈良国立博物館長	
後　藤　　典　生	高台寺　常任教師	
榊　田　　隆　之	京都信用金庫　理事長	
鈴　鹿　　可奈子	株式会社聖護院八ッ橋総本店　専務取締役	
住　友　吉左衛門	公益財団法人住友財団　理事長	
千　　宗　守	武者小路千家　官休庵　家元	
辻　　弘　嗣	株式会社京都ホテル　元顧問	
上　田　　輝　久	株式会社島津製作所　代表取締役会長	
森　口　　邦　彦	染織作家　重要無形文化財「友禅」保持者	
吉　田　　憲　司	大学共同利用機関法人人間文化研究機構　国立民族学博物館長	
吉　田　　良比呂	京都市　副市長	
冷　泉　　貴実子	公益財団法人冷泉家時雨亭文庫　常務理事	

奈良国立博物館評議員会評議員名簿

（令和５年３月31日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　考
東　野　　治　之	奈良大学名誉教授・大阪大学名誉教授	会長
松　本　　伸　之	独立行政法人国立文化財機構京都国立博物館長	副会長
浅　野　　秀　剛	公益財団法人　大和文華館長	
飯　田　　剛　彦	宮内庁正倉院事務所長	
植　野　　康　夫	株式会社南都銀行特別顧問	
花山院　　弘　匡	春日大社宮司	
川　井　　徳　子	ノブレスグループ代表	
千　田　　嘉　博	奈良大学文学部文化財学科教授	
多　川　　俊　映	興福寺寺務老院	
田　淵　　裕　久	近鉄グループホールディングス株式会社監査役	
筒　井　　寛　昭	東大寺上院院主	
中　野　　聖　子	ホテル尾花代表取締役社長	
は　な	モデル・ナレーター・エッセイスト・タレント	
舟　木　　豊	奈良県文化・教育・くらし創造部長	
古　谷　　正　覚	聖徳宗管長・法隆寺住職	
本　中　　眞	独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所長	

九州国立博物館評議員会評議員名簿

（令和５年３月31日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　考
青　柳　　俊　彦	九州旅客鉄道株式会社　代表取締役会長執行役員	会長
高　倉　　洋　彰	西南学院大学名誉教授	副会長
阿　川　　佐和子	作家	
今　泉　　今右衛門	陶芸作家	
大　曲　　昭　恵	福岡県副知事	
楠　田　　大　蔵	太宰府市長	
倉　富　　純　男	西日本鉄道株式会社　代表取締役会長	
柴　田　　建　哉	株式会社西日本新聞社 代表取締役社長	
高　良　　倉　吉	琉球大学名誉教授	
竹　添　　賢　一	日本放送協会福岡放送局　局長	
西高辻　　信　良	太宰府天満宮最高顧問	
西　中　　章　子	国際ソロプチミストアメリカ日本南リジョン ガバナー	

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会委員名簿

（令和５年３月 31 日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　考
名児耶　明	元公益財団法人五島美術館副館長	委員長
小松　大秀	公益財団法人永青文庫館長	副委員長
大久保　純一	国立歴史民俗博物館教授	
小笠原　直	監査法人アヴァンティア法人代表 CEO　代表社員 公認会計士	
栗本　康司	秋田県立大学木材高度加工研究所教授	
児島　薫	実践女子大学文学部美学美術史学科教授	
榊原　悟	岡崎市美術博物館特任館長	
坂本　弘子	朝日新聞社常勤監査役	
出川　哲朗	大阪市立東洋陶磁美術館名誉館長、大阪大学招聘教授、大阪市博物館機構学芸顧問	
寺崎　保広	奈良大学名誉教授	
寺田　吉孝	国立民族学博物館名誉教授	
浜田　弘明	桜美林大学教授	
藤井　恵介	東京大学名誉教授	

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会

博物館調査研究等部会委員名簿

（令和５年３月31日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　考
小松　大秀	公益財団法人永青文庫館長	部会長
浜田　弘明	桜美林大学教授	副部会長
大久保　純一	国立歴史民俗博物館教授	
榊原　悟	岡崎市美術博物館館長	
出川　哲郎	大阪市立東洋陶磁美術館名誉館長、大阪大学招聘教授、大阪市博物館機構学芸顧問	

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会

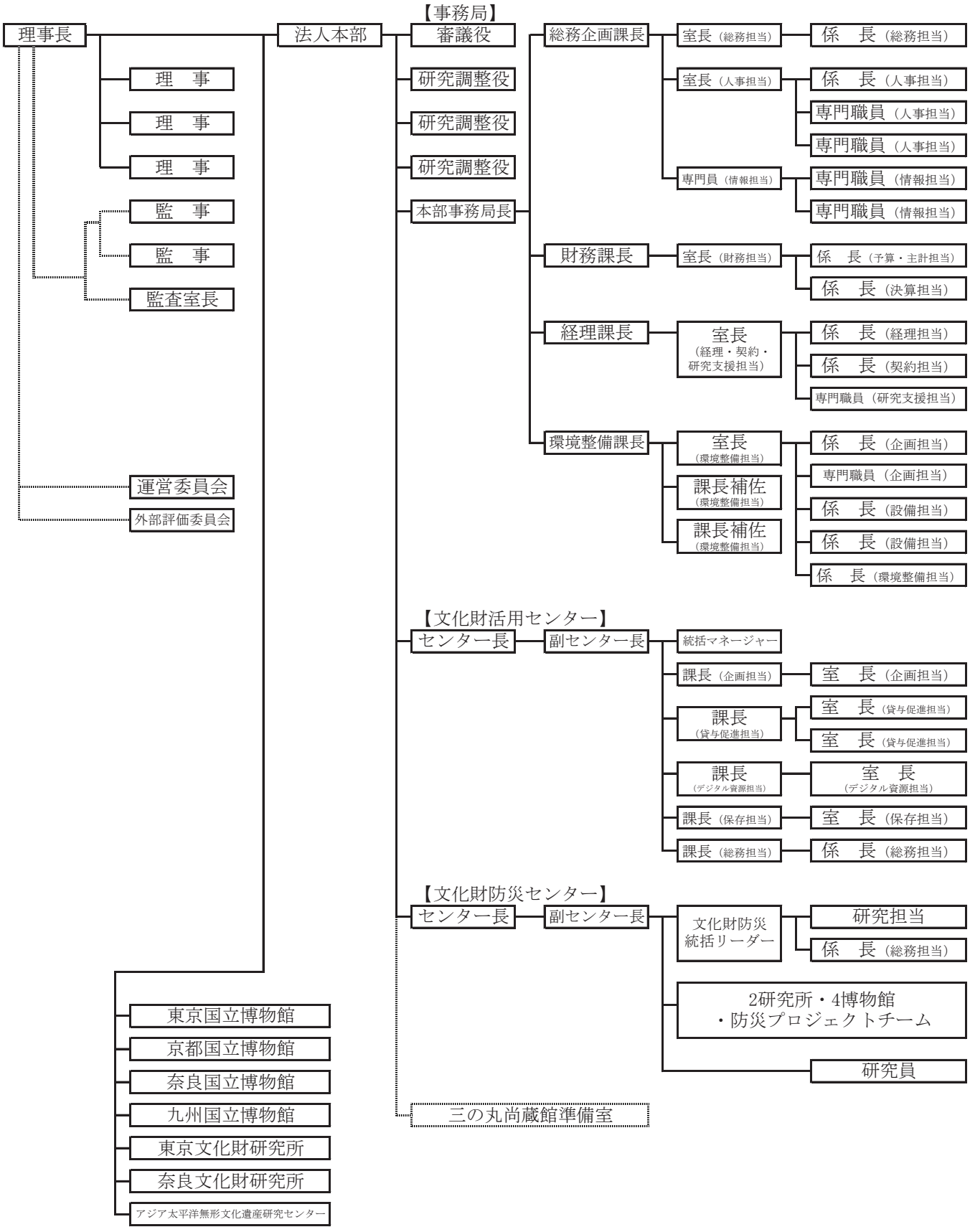
研究所・センター調査研究等部会委員名簿

（令和５年３月31日現在、敬称略）

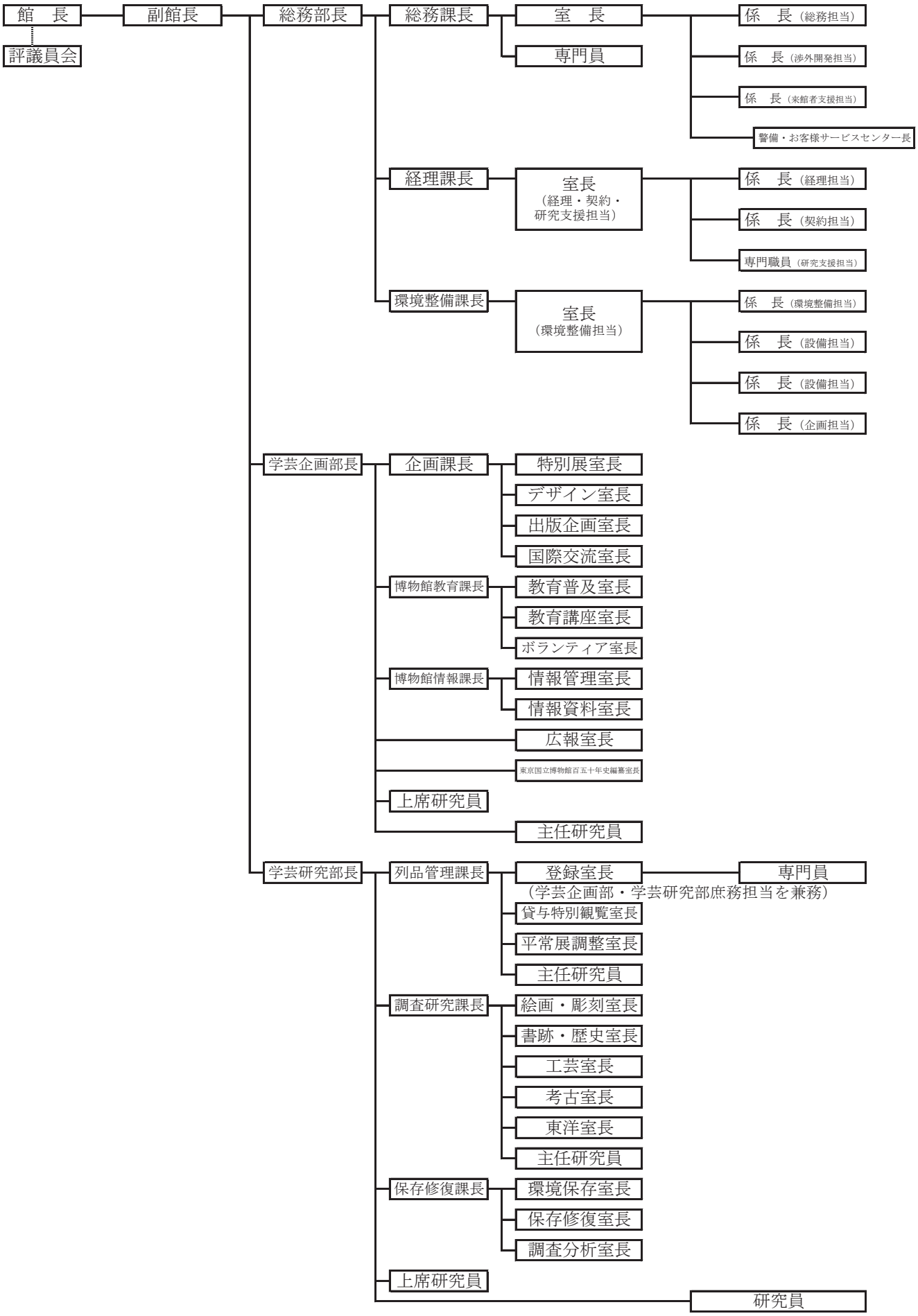
氏　　名	現　　職	備　考
寺崎　保広	奈良大学名誉教授	部会長
児島　薫	実践女子大学文学部美学美術史学科教授	副部会長
栗本　康司	秋田県立大学木材高度加工研究所教授	
藤井　恵介	東京大学名誉教授	

独立行政法人国立文化財機構　組織図

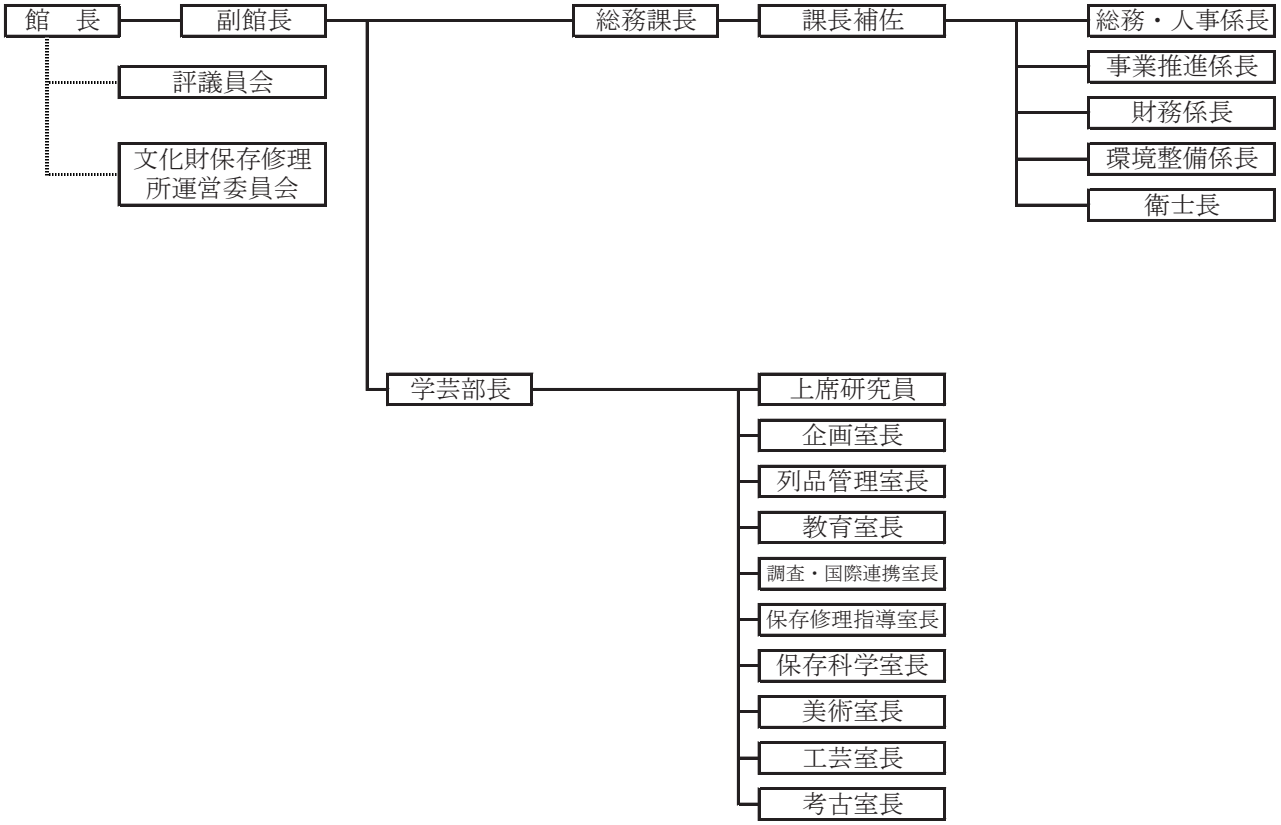
令和5年3月31日現在



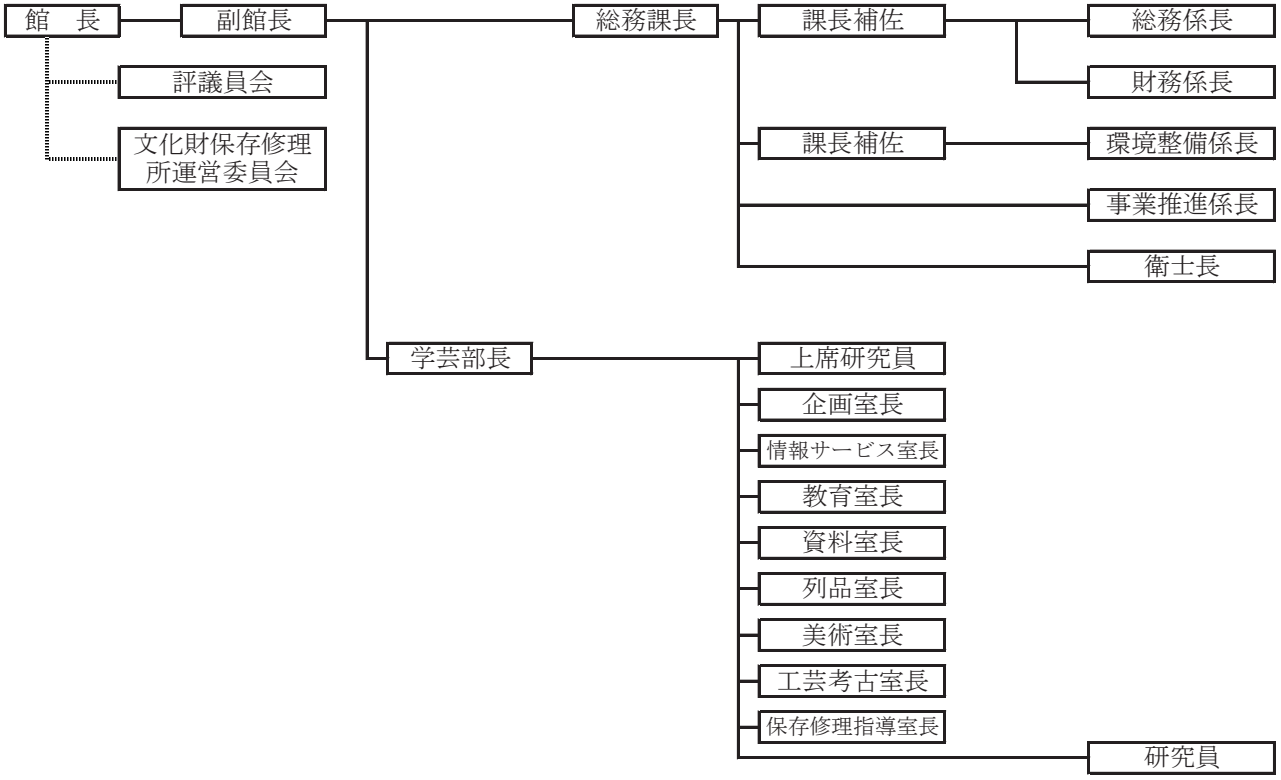
【東京国立博物館】


館　長
副館長
評議員会
総務部長
総務課長
室　長
係　長（総務担当）
係　長（渉外開発担当）
係　長（来館者支援担当）
警備・お客様サービスセンター長
専門員
経理課長
室長
（経理・契約・研究支援担当）
係　長（経理担当）
係　長（契約担当）
専門職員（研究支援担当）
環境整備課長
室長
（環境整備担当）
係　長（環境整備担当）
係　長（設備担当）
係　長（設備担当）
係　長（企画担当）
学芸企画部長
企画課長
特別展室長
デザイン室長
出版企画室長
国際交流室長
博物館教育課長
教育普及室長
教育講座室長
ボランティア室長
博物館情報課長
情報管理室長
情報資料室長
広報室長
東京国立博物館百五十年史編纂室長
上席研究員
主任研究員
学芸研究部長
列品管理課長
登録室長
専門員
（学芸企画部・学芸研究部庶務担当を兼務）
貸与特別観覧室長
平常展調整室長
主任研究員
調査研究課長
絵画・彫刻室長
書跡・歴史室長
工芸室長
考古室長
東洋室長
主任研究員
保存修復課長
環境保存室長
保存修復室長
調査分析室長
上席研究員
研究員

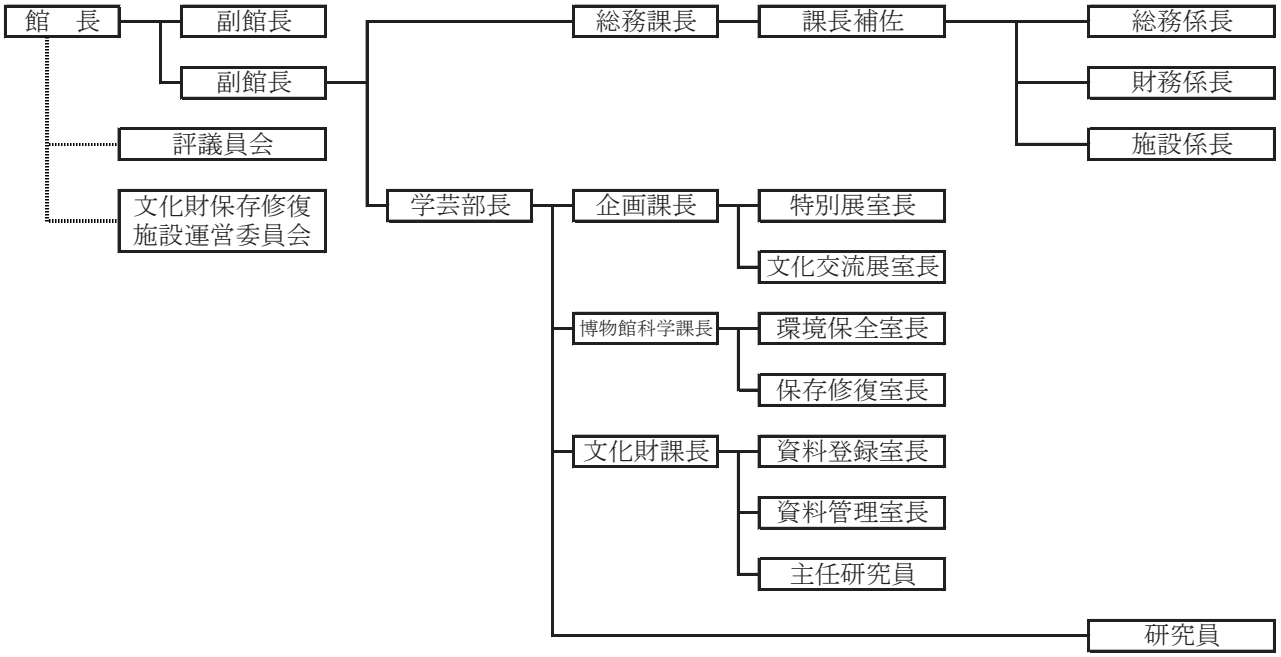
【京都国立博物館】



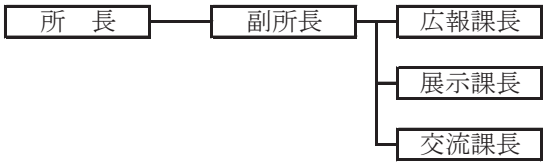
【奈良国立博物館】



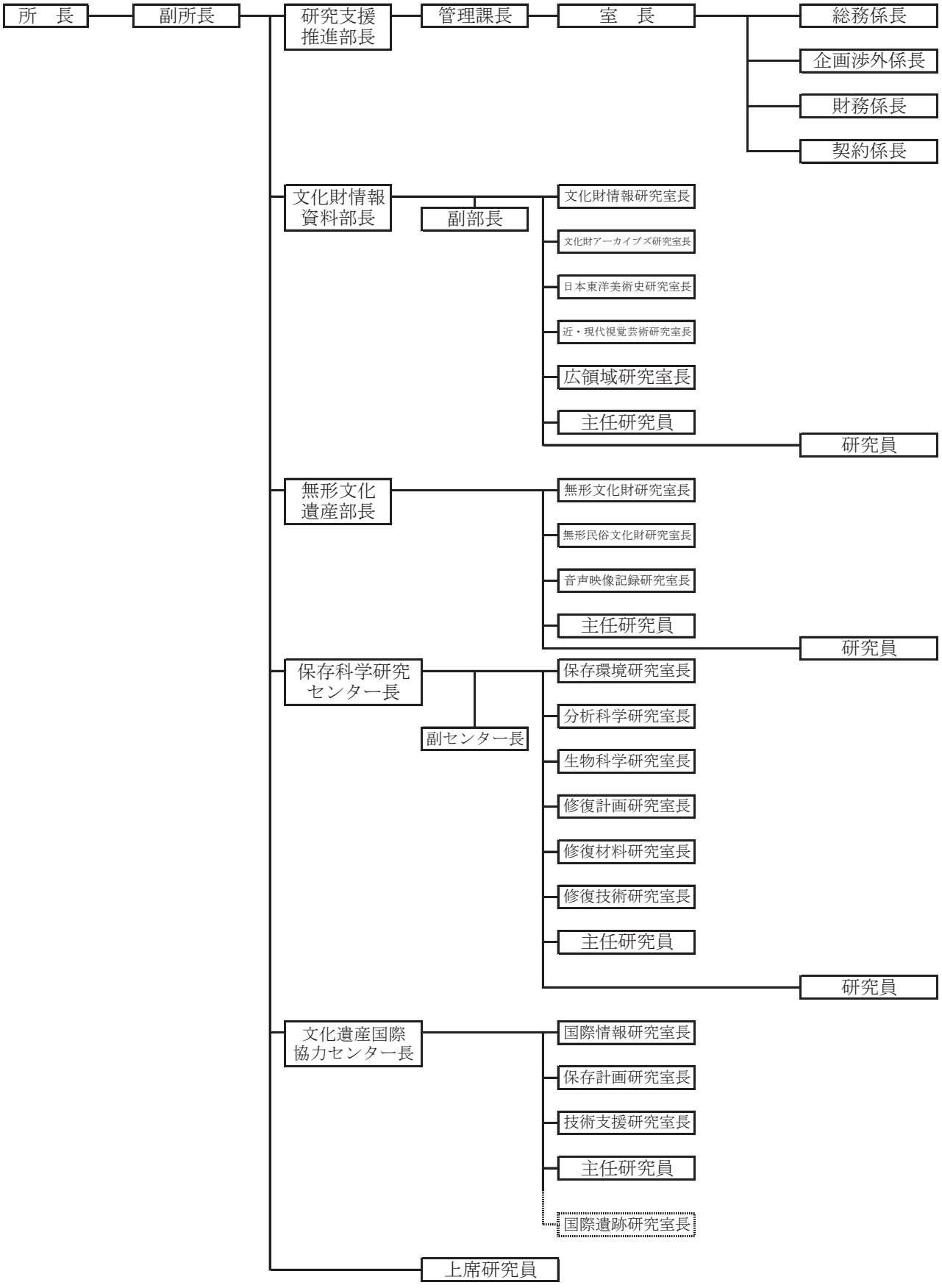
【九州国立博物館】



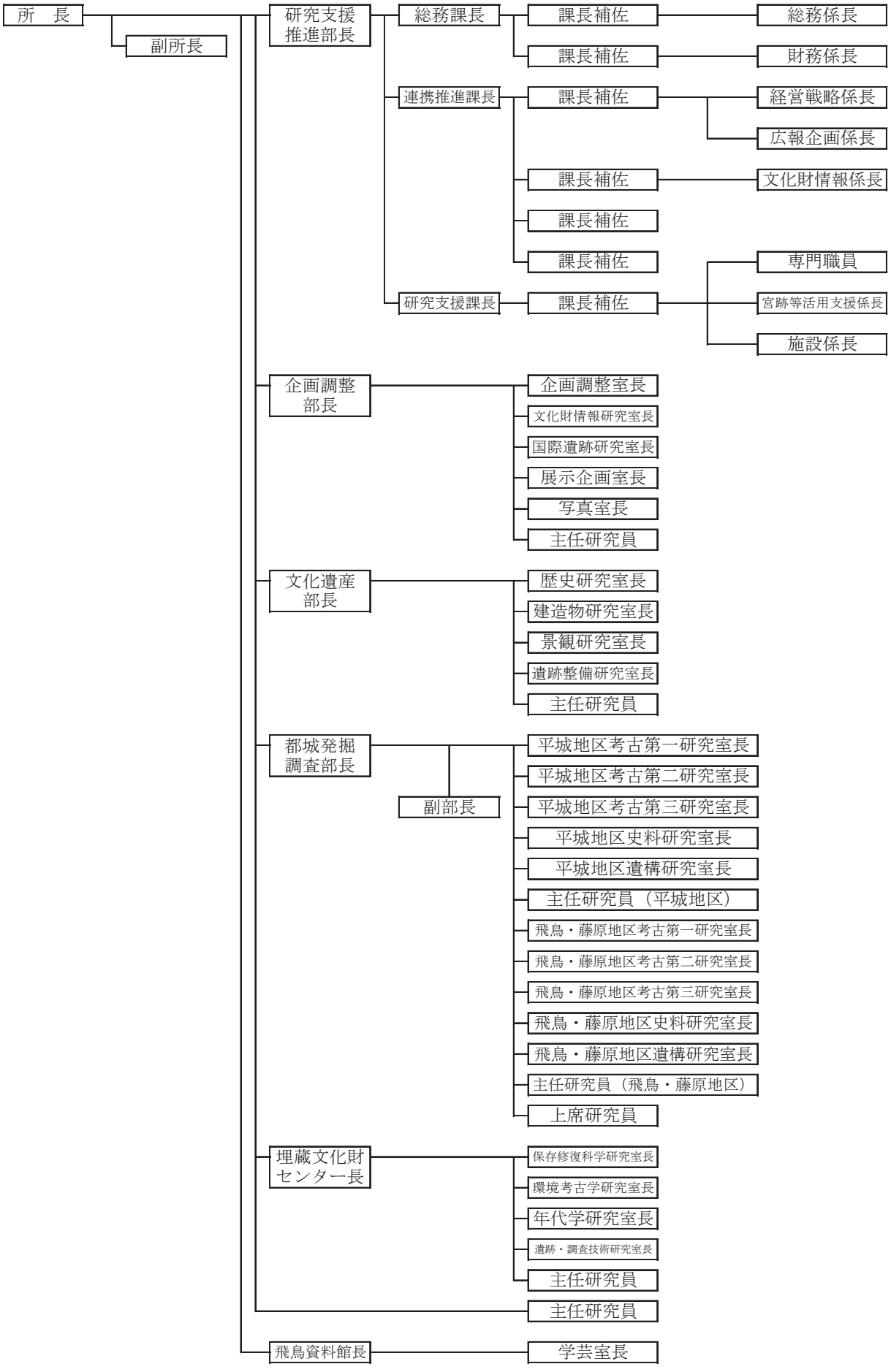
【福岡県立アジア文化交流センター（H17.4.1発足）】



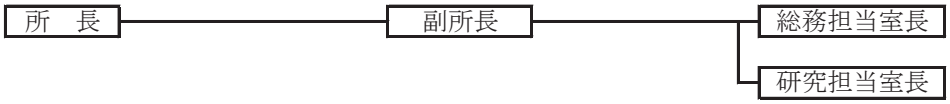
【東京文化財研究所】


所　長
副所長
研究支援推進部長
管理課長
室　長
総務係長
企画渉外係長
財務係長
契約係長
文化財情報資料部長
副部長
文化財情報研究室長
文化財アーカイブズ研究室長
日本東洋美術史研究室長
近・現代視覚芸術研究室長
広領域研究室長
主任研究員
研究員
無形文化遺産部長
無形文化財研究室長
無形民俗文化財研究室長
音声映像記録研究室長
主任研究員
研究員
保存科学研究センター長
副センター長
保存環境研究室長
分析科学研究室長
生物科学研究室長
修復計画研究室長
修復材料研究室長
修復技術研究室長
主任研究員
研究員
文化遺産国際協力センター長
国際情報研究室長
保存計画研究室長
技術支援研究室長
主任研究員
国際遺跡研究室長
上席研究員

【奈良文化財研究所】


所　長
副所長
研究支援推進部長
総務課長
課長補佐
総務係長
課長補佐
財務係長
連携推進課長
課長補佐
経営戦略係長
広報企画係長
課長補佐
文化財情報係長
課長補佐
課長補佐
専門職員
研究支援課長
課長補佐
宮跡等活用支援係長
施設係長
企画調整部長
企画調整室長
文化財情報研究室長
国際遺跡研究室長
展示企画室長
写真室長
主任研究員
文化遺産部長
歴史研究室長
建造物研究室長
景観研究室長
遺跡整備研究室長
主任研究員
都城発掘調査部長
副部長
平城地区考古第一研究室長
平城地区考古第二研究室長
平城地区考古第三研究室長
平城地区史料研究室長
平城地区遺構研究室長
主任研究員（平城地区）
飛鳥・藤原地区考古第一研究室長
飛鳥・藤原地区考古第二研究室長
飛鳥・藤原地区考古第三研究室長
飛鳥・藤原地区史料研究室長
飛鳥・藤原地区遺構研究室長
主任研究員（飛鳥・藤原地区）
上席研究員
埋蔵文化財センター長
保存修復科学研究室長
環境考古学研究室長
年代学研究室長
遺跡・調査技術研究室長
主任研究員
主任研究員
飛鳥資料館長
学芸室長

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】



令和4年度　自己点検評価報告書　統計表

令和４年度　自己点検評価報告書　統計表

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
1-(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承
1-(1)-① 有形文化財の収集等
1-(1)-①-1 収蔵品一覧表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
1-(1)-①-2 (参考)収蔵品・寄託品件数合計(過去５か年) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
1-(1)-①-3 令和３年度新収品一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
1-(1)-①-4 令和３年度新収品一覧
【東京国立博物館】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
【京都国立博物館】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
【奈良国立博物館】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
【九州国立博物館】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
1-(1)-①-5 有形文化財（美術工芸品）に関する取組状況（文化財購入費）・・・・・・・・・・・・ 49
1-(1)-①-6 寄託品一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50
1-(1)-①-7 寄託品増減表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50
1-(1)-①-8 登録美術品一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50
1-(1)-②有形文化財の管理・保存・修理等
1-(1)-②-1 各収蔵庫、展示場の温湿度・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 51
1-(1)-②-2 収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数
（収蔵品写真（フィルム）等のデジタル化件数）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 51
1-(1)-②-3 保存カルテ作成件数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 52
1-(1)-②-4 本格修理件数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 53
1-(1)-②-5 修理概況
【東京国立博物館】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 54
【京都国立博物館】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 64
【奈良国立博物館】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 66
【九州国立博物館】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 66
1-(1)-②-6 文化財修理データのデータベース化件数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 71
1-(2) 展覧事業
1-(2)-① 平常展・② 特別展等
1-(2)-①・②-1 来館者数推移(入館料別) (過去５か年) (p.180 ◎共通資料 a-①)
1-(2)-①・②-2 来館者数推移(展覧会別) (過去５か年) (p.181 ◎共通資料 a-②)
1-(2)-①・②-3 平常展・特別展・海外展 (p.183 ◎共通資料 a-③)
1-(2)-①-4 平常展の展示替件数 (p.183 ◎共通資料 a-③)
1-(2)-①-5 平常展の展示総件数 (p.183 ◎共通資料 a-③)
1-(2)-①-6 平常展来館者アンケート (p.285 ◎共通資料 e)
1-(2)-②-7 特別展来館者アンケート (p.285 ◎共通資料 e)
1-(2)-③ 観覧環境の向上等
1-(2)-③-1 観覧環境に関する来館者アンケート (p.285 ◎共通資料 e)
1-(2)-③-2 多言語表記に関する外国人アンケート (p.285 ◎共通資料 e)
1-(2)-③-3 バリアフリー施設・設備の設置状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 72
1-(2)-③-4 音声ガイド実施状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 73
1-(3) 教育・普及活動

1-(3)-① 教育普及活動の充実等
1-(3)-①-1 学習機会の提供(過去５か年)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 74
1-(3)-①-2 講座・講演会等の開催実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 75
1-(3)-①-3 児童生徒を対象とした教育普及事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 84
1-(3)-①-4 大学生・大学院生を対象とした教育事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 95
1-(3)-①-5 キャンパスメンバーズ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 98
1-(3)-①-6 留学生の日・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 101
1-(3)-①-7 ボランティア受入実績 (p.194 ◎共通資料 b)
1-(3)-①-8 友の会・パスポート等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 102
1-(3)-①-9 賛助会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 103
1-(3)-①-10 渉外活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 105
1-(3)-② 有形文化財に関する情報の発信と広報の充実
1-(3)-②-1 収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数
（収蔵品写真（フィルム）等のデジタル化件数）
1-(3)-②-2 収集した情報資料数（総数）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 117
1-(3)-②-3 特別観覧件数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 118
1-(3)-②-4 画像利用件数（フィルムを含む）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 118
1-(3)-②-5 広報実績一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 119
1-(3)-②-6 広報刊行物一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 147
1-(3)-②-7 ウェブサイトアクセス件数 (p.284 ◎共通資料 d)
1-(4) 有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究
1-(4)-① 有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
1-(4)-①-1 調査研究テーマ一覧 (p.211 ◎共通資料 c-②)
1-(4)-①-2 学会、研究会等発表実績一覧 (p.218 ◎共通資料 c-③)
1-(4)-①-3 論文等発表実績一覧 (p.241 ◎共通資料 c-⑤)
1-(4)-①-4 科学研究費助成事業による調査研究 (p.273 ◎共通資料 c-⑦)
1-(4)-①-5 客員研究員一覧 (p.242 ◎共通資料 c-⑧)
1-(4)-② その他の有形文化財に関連する調査研究
1-(4)-②-1 調査研究テーマ一覧 (p.211 ◎共通資料 c-②)
1-(4)-②-2 学会、研究会等発表実績一覧 (p.218 ◎共通資料 c-③))
1-(4)-②-3 論文等発表実績一覧 (p.241 ◎共通資料 c-⑤)
1-(4)-②-4 科学研究費助成事業による調査研究 (p.273 ◎共通資料 c-⑦)
1-(4)-②-5 客員研究員一覧 (p.242 ◎共通資料 c-⑧)
1-(4)-③ 国内外の博物館等との学術交流等
1-(4)-③-1 研究交流実績一覧 (p.198 ◎共通資料 c-①)
1-(4)-④ 調査研究成果の公表
1-(4)-④-1 調査研究刊行物一覧 (p.268 ◎共通資料 c-⑥)
1-(4)-④-2 平常展・特別展・海外展 (p.218 ◎共通資料 c-③)
1-(4)-④-3 講座・講演会等の開催実績 (p.75 1-(3)-①-2)
1-(5) 国内外の博物館活動への寄与
1-(5)-① 国内外の博物館等への有形文化財の貸与
1-(5)-①-1 国内外の博物館等への収蔵品・寄託品貸与件数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 149
1-(5)-①-2 国内外の博物館等への収蔵品・寄託品貸与先別件数・・・・・・・・・・・・・・・・・ 149
1-(5)-①-3 海外への列品貸与・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 150
1-(5)-①-4 考古の相互貸借実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 150

1-(5)-② 国内外の博物館等への援助・助言等
1-(5)-②-1 国内外の博物館等への援助・助言等に関する取組状況・・・・・・・・・・・・・・・・ 151
1-(6)文化財の積極的な活用による文化財の継承につなげる新たな取組
1-(6)-① 文化財に親しむためのコンテンツの開発とモデル事業の推進・・・・・・・・・・・・・・ 161
1-(6)-② 国立博物館収蔵品貸与促進事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 162
1-(6)-③ 文化財情報のデジタル資源化の推進と国内外への情報発信 (p. 284 ◎共通資料 d)
1-(6)-④-1 文化財の保存等の相談・助言・支援に関わる取組状況・・・・・・・・・・・・・・・・ 162

2 文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施
2-(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
2-(1)-1 調査研究テーマ一覧 (p. 211 ◎共通資料 c-②)
2-(1)-2 学会、研究会等発表実績一覧 (p. 218 ◎共通資料 c-③)
2-(1)-3 論文等発表実績一覧 (p. 241 ◎共通資料 c-⑤)
2-(1)-4 調査研究刊行物一覧 (p. 268 ◎共通資料 c-⑥)
2-(1)-5 科学研究費助成事業による調査研究 (p. 273 ◎共通資料 c-⑦)
2-(1)-6 客員研究員一覧 (p. 281 ◎共通資料 c-⑧)
2-(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
2-(2)-1 調査研究テーマ一覧 (p. 211 ◎共通資料 c-②)
2-(2)-2 学会、研究会等発表実績一覧 (p. 218 ◎共通資料 c-③)
2-(2)-3 論文等発表実績一覧 (p. 241 ◎共通資料 c-⑤)
2-(2)-4 調査研究刊行物一覧 (p. 268 ◎共通資料 c-⑥)
2-(2)-5 科学研究費助成事業による調査研究 (p. 273 ◎共通資料 c-⑦)
2-(2)-6 客員研究員一覧 (p. 281 ◎共通資料 c-⑧)
2-(3) 文化遺産保護に関する国際協働
2-(3)-① 文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進
2-(3)-①-1 文化遺産保護の国際協働に関する取組状況（文化遺産保護に関する国際情報の収集等事業の実施件数、諸外国における文化遺産の保存・修復に関する研修・ワークショップ等の満足度）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 169
2-(3)-①-2 文化遺産保護の国際協働に関する取組状況（諸外国の研究機関等との共同研究等の実施件数）・・ 169
2-(3)-② アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究
2-(3)-②-1 アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する取組状況(刊行物件数) (p. 268 ◎共通資料 c-⑥)
2-(3)-②-2 アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する取組状況（国際会議等開催件数）・・ 170
2-(3)-②-3 研究交流実績一覧 (p. 198 ◎共通資料 c-①)
2-(3)-②-4 調査研究テーマ一覧 (p. 211 ◎共通資料 c-②)
2-(3)-②-5 学会、研究会等発表実績一覧 (p. 218 ◎共通資料 c-③)
2-(3)-②-6 シンポジウム開催実績一覧 (p. 238 ◎共通資料 c-④)
2-(3)-②-7 論文等発表実績一覧 (p. 241 ◎共通資料 c-⑤)
2-(3)-②-8 調査研究刊行物一覧 (p. 268 ◎共通資料 c-⑥)
2-(3)-②-9 ウェブサイトアクセス件数 (p. 284 ◎共通資料 d)
2-(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用
2-(4)-① 文化財情報基盤の整備・充実

2-(4)-①-1 図書、雑誌等の公開に関する取組状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 171
2-(4)-①-2 文化財に関するデータベースの状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 171
2-(4)-② 調査研究成果の発信
2-(4)-②-1 調査研究刊行物一覧 (p.268 ◎共通資料 c-⑥)
2-(4)-②-2 講演会等の開催実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 172
2-(4)-②-3 シンポジウム開催実績一覧 (p.238 ◎共通資料 c-④)
2-(4)-②-4 ウェブサイトアクセス件数 (p.284 ◎共通資料 d)
2-(4)-②-5 学術情報リポジトリ等によるウェブサイトにおける論文等の公開件数・・・・・・・ 172
2-(4)-③ 展示公開施設の充実
2-(4)-③-1 来館者数推移(入館料別)(過去５か年) (p.180 ◎共通資料 a-①)
2-(4)-③-2 来館者数推移(展覧会別)(過去５か年) (p.181 ◎共通資料 a-②)
2-(4)-③-3 平常展・特別展・海外展 (p.183 ◎共通資料 a-③)
2-(5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
2-(5)-① 文化財に関する研修の実施
2-(5)-①-1 文化財に関する研修の実施実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 173
2-(5)-② 文化財に関する協力・助言等
2-(5)-②-1 専門的・技術的な協力・助言の取組状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 175
2-(5)-③平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力
2-(5)-③-1 ボランティア受入実績 (p.194 ◎共通資料 b)
2-(5)-⑤ 文化財等の防災・救援等への寄与
2-(5)-⑤-1 研究交流実績一覧 (p.198・206 ◎共通資料 c-①1)・3))
2-(5)-⑤-2 シンポジウム開催実績一覧 (p.238 ◎共通資料 c-④)
2-(5)-⑤-3 ウェブサイトアクセス件数 (p.284 ◎共通資料 d)
2-(6) 文化財防災に関する取組
2-(6)-① 地域防災体制の構築 (p.268 ◎共通資料 c-⑥)
2-(6)-①-1 防災・救援のための連携・協力体制構築への取組状況・・・・・・・・・・・・・・・・ 176
2-(6)-③ レスキュー及び収蔵・展示における技術開発
2-(6)-③-1 文化財防災に関する技術開発への取組状況 (p.241・268 共通資料 c-⑤,⑥)
2-(6)-④ 文化財防災を促進するための普及啓発
2-(6)-④-1 文化財防災に関するシンポジウムの開催件数 (p.238 共通資料 c-④)
2-(6)-④-2 文化財防災に関する講演会・研修会等の開催件数・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 178
Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置
1.業務改善の取組
1-(5) 一般管理費等の削減
1-(5)-① 施設の有効利用件数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 179
◎共通資料
a 展示
a-①来館者数推移(入館料別)(過去５か年) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 180
a-②来館者数推移(展覧会別)(過去５か年) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 181
a-③平常展・特別展・海外展・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 183
b ボランティア受入実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 194
c 調査研究
c-① 研究交流実績一覧
1) 海外研究者招聘・受入実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 198
2) 他機関の共同研究への参画実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 200

3）研究者海外派遣実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 206
c-② 調査研究テーマ一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 211
c-③ 学会、研究会等発表実績一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 218
c-④ シンポジウム開催実績一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 238
c-⑤ 論文等発表実績一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 241
c-⑥ 調査研究刊行物一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 268
c-⑦ 科学研究費助成事業による調査研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 273
c-⑧ 客員研究員一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 281
d ウェブサイトアクセス件数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 284
e 平常展・特別展アンケート結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 285

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するために とるべき措置

1 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

1-(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承

1-(1)-①　有形文化財の収集等

1-(1)-①-1　所蔵品一覧表

（単位：件）　令和5年3月31日現在

	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
合計	132,866	135	1,009	120,812	89	649	8,526	29	200	1,947	13	114	1,581	4	46
絵画	14,009	35	219	11,200	21	105	2,357	9	60	308	4	44	144	1	10
書跡	3,720	37	175	1,930	14	60	1,484	17	78	153	5	29	153	1	8
彫刻	1,465	1	49	1,113	0	24	152	0	3	158	1	16	42	0	6
建築	87	0	2	30	0	0	49	0	1	5	0	0	3	0	1
金工	17,462	3	61	16,445	1	17	610	2	31	171	0	11	236	0	2
刀剣	3,535	21	57	3,467	19	57				16	0	0	52	2	0
陶磁	4,527	0	22	2,970	0	13	1,362	0	3	81	0	0	114	0	6
漆工	4,798	6	32	3,969	4	20	542	0	3	109	2	5	178	0	4
染織	5,053	2	30	3,912	0	21	972	1	8	98	1	1	71	0	0
考古	30,508	5	78	28,625	5	55	699	0	11	747	0	8	437	0	4
民族資料	1,399	0	0	1,283	0	0	0	0	0	101	0	0	15	0	0
歴史資料	6,682	0	12	6,250	0	5	299	0	2	0	0	0	133	0	5
和書	17,560	0	2	17,560	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
写真資料	2,794	0	2	2,794	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0
東洋 絵画	719	4	31	719	4	31									
東洋 書跡	1,736	10	13	1,736	10	13									
東洋 彫刻	816	0	20	816	0	20									
東洋 金工	1,041	0	0	1,041	0	0									
東洋 陶磁	3,091	0	11	3,091	0	11									
東洋 漆工	529	0	4	529	0	4									
東洋 染織	615	0	1	615	0	1									
東洋 考古	5,983	0	2	5,983	0	2									
東洋 民族	3,590	0	0	3,590	0	0									
法隆寺献納宝物	326	11	184	326	11	184									
黒田記念館収蔵品	818	0	2	818	0	2									
準歴史資料(含和書)	0	0	0	0	0	0									

＊東京国立博物館は、列品管理規程による「東洋関係の列品」あり
　京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館は、東洋の作品も「日本」に含む
＊列品管理規程改正により、新たに「写真資料」が追加され、東京国立博物館の列品「その他」は「写真資料」に変更した。
＊列品に編入されていない資料については、「準歴史資料(含和書)」の項目にしるし、列品化整理中の資料と分けて表示している。
＊東京国立博物館、京都国立博物館では、国宝・重要文化財の数は文化庁の指定件数に合わせている。

1-(1)-①-1（参考）
【奈良文化財研究所】

○保管及び所蔵文化財・資料概要（主なもの）　　令和5年3月31日現在

保管及び所蔵文化財・資料名	数
[文化遺産部]	
国宝・重要文化財建造物保存図	約30,400枚
国宝・重要文化財建造物摺拓本	約26,000枚
国宝・重要文化財建造物写真乾板	約32,200枚
北浦定政関係資料（重要文化財）	約1,100点
棚田嘉十郎関係資料	26点
関野貞関係資料	54点
菅原大三郎関係資料	7箱
中村泰寄贈文書	一式
森蘊資料	約4,500点
村岡正資料	約3,000点
小林剛関係資料	約38箱
牛川喜幸関係資料	2,927点
塚原家寄贈資料(歴史資料)	3箱
岡嶋家寄贈 大極殿標木建設等資料	1箱
溝辺家寄贈 大極殿標木	2本(4片)
川辺富子寄贈資料	一括
[都城発掘調査部（平城地区）]	
平城宮跡出土木簡（国宝）	3,184点
興福寺旧境内土壙（一乗院宸殿跡下層）出土品（重要文化財）	一括
平城宮・京出土土器・土製品	31,509箱
平城宮・京出土木製品・金属製品・石製品	36,449箱
平城宮・京出土瓦類	1,005,680箱
平城宮・京出土木簡	252,747点
塚原家寄贈資料(考古資料)	7箱
長屋王家木簡附平城京跡左京三条二坊出土木簡（重要文化財）	1,809点
[都城発掘調査部(飛鳥・藤原地区)]	
軒丸瓦・軒平瓦	約37,117点
丸瓦・平瓦　　土嚢袋	約167,867袋
丸瓦・平瓦　　整理箱	41,808箱
土器　　整理箱	17,093箱
土製品	15,165点
木器・木製品	34,387点
木簡	35,323点
建築部材	約3,000点
金属製品	20,044点
石器・石製品	15,011点
漏刻復原模型	1点
幢幡復原模型（台付き）	一式
飛鳥大仏頭部複製（模刻）	1点
藤ノ木古墳鞍復原模型	1点
富本銭枝銭復原模型	一式
碁盤復原模型	1点
鉄釜鋳造土坑復原模型	1点
[飛鳥資料館]	
高松塚古墳出土品(海獣葡萄鏡 銀製太刀金具 棺金具 ガラス小玉漆塗り木棺)(重要文化財)	一式
須弥山石	1点
石人像	1点
飛鳥寺塔跡出土舎利荘厳具	一式
飛鳥寺出土瓦類	一式
山田寺跡出土品（重要文化財）	一括
和田廃寺鴟尾（都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区所属）	1点
川原寺出土水波紋土磚	2点
岡出土車石	8点
飛鳥各地出土瓦類	一式
川原寺裏山出土三尊磚仏	2点
飛鳥川原宮出土唐居敷	1点
高松塚古墳壁画模写（前田青邨、平山郁夫等）	3面
高松塚古墳人物復元衣装	一式
石上神宮七枝刀レプリカ	1点
水落遺跡遺構1/20模型	1点
猿石模刻	一式
亀石模刻	1点
須弥山石復元模刻	1点
石人像復元模刻	1点
出水酒船石模刻	2点
阿武山古墳出土　玉枕　冠帽　復元模型	3点
川原寺伽藍1/50模型	1点
山田寺金堂復原	1点
飛鳥京復原模型	1点
山田寺発掘遺構1/100模型	1点
石舞台古墳1/20模型	1点
飛鳥寺発掘遺構1/100模型	1点
石のカラト古墳1/20模型	1点
野中寺銅造弥勒菩薩半伽像レプリカ	1点
銅造摩耶夫人及天人像レプリカ	4点
威奈大村骨蔵器レプリカ	1点
長谷寺法華説相図レプリカ	1点
諸陵周垣成就記並諸陵図譜	1点
鼓銅図録	1点
高松塚古墳木棺模造	1点
八釣マキト５号古墳石室	1点
十二支拓本（表装済み・収納箱あり）	一式
キトラ古墳模型	1点
山東省済南市解放橋北唐墓石棺　青龍・白虎・小口面拓本	各1点
近藤千尋関連資料	一式

保管及び所蔵文化財・資料名	数
武人復原	1点
山田寺灯籠復原	1点
具注歴木簡レプリカ	1点
天皇木簡レプリカ	1点
壬申の乱ジオラマ	一式
牽牛子塚古墳ミニジオラマ	1点
キトラ古墳出土品金銅製鐶座金具レプリカ	2点
キトラ古墳出土品銀鐶付六花形飾金具レプリカ	2点
キトラ古墳出土品大刀・銀製鞘尻金具レプリカ	2点
キトラ古墳出土品大刀・銀装把レプリカ	1点
キトラ古墳出土品鉄地銀張金象嵌帯執金具レプリカ	3点
キトラ古墳出土品琥珀玉レプリカ	4点
キトラ古墳出土品金銅製鐶座金具復元品	10点
キトラ古墳出土品銅釘復元品	一括
キトラ古墳出土品銀鐶付六花形飾金具復元品	10点
キトラ古墳出土品円環棺金具復元品	10点
飛鳥池遺跡出土施釉陶器復元品	3点
鍛冶工房風景想定復元図	1点
銅造観音菩薩立像（夢違観音）複製品	1体
隅田八幡宮人物画像鏡複製品	1点
山田寺仏頭複製品	1点
金銅小野毛人墓誌複製品	1点
筑前国嶋郡川辺里大宝２年戸籍残簡複製品	2点
人頭石（光永寺）複製品	1点
鍔淵寺銅造観音菩薩立像複製品	1点
重要文化財図勝寺銅壺鋳造模型（下道圀依母婦人骨蔵器）	1点
四十八体仏如来坐像複製	1点
丙寅年銘菩薩半跏像複製品	1具
於美阿志神社石塔婆のうち供養具	一括
牽牛子塚古墳出土品	一括
マルコ山古墳出土品	一式
高松塚古墳壁画漆喰印刷複製	一式
飛鳥池遺跡出土施釉陶器復元品	3点一式
飛鳥池遺跡出土木簡複製品	13点
暗文土師器復原制作品（脇田宗孝氏制作）	5点
一町長法寺押出仏複製品	1点
飛鳥寺塔跡出土　蛇行状鉄器複製品	1点
飛鳥寺塔跡出土　馬鈴複製品	1点
扶桑略記　巻二十一～二十八	7冊
高松塚古墳石室　原寸模型	1台
高松塚古墳石室　1/20模型	1台
藤原宮跡木簡複製品	4点一括
飛鳥池遺跡木簡複製品	5点一括
二面石（橘寺　模刻）	1点
呉文字ヘラ書き丸瓦	1点
特別史跡山田寺跡出土「銅板五尊像」　原寸鋳造	1点
特別史跡山田寺跡出土「銅板五尊像」　拡大樹脂製（４倍）	1点
国宝「高松塚古墳壁画」コロタイプ印刷複製品	一式
[埋蔵文化センター]	
埼玉県真福寺貝塚資料	一式
岡山県福田貝塚資料	一式
埼玉県上福岡貝塚資料	一式
神奈川県田戸遺跡資料	一式
神奈川県子母口貝塚	一式
神奈川県大口坂貝塚資料	一式
能登縄文資料（15遺跡）	一式
千葉県曽谷貝塚資料	一式
長野県石小屋遺跡資料	一式
山形県蛭沢洞窟資料	一式
東京都小豆沢貝塚資料	一式
茨城県広畑貝塚資料	一式
中国・朝鮮瓦磚資料	一式
岡山地方陶棺資料	一式
下総国分寺・尼寺資料	一式
関東地方加曽利B式資料	一式
岩手県足沢遺跡資料	一式
茨城県浮島貝塚資料	一式
千葉県幸田貝塚資料	一式
滋賀県安土遺跡資料	一式
岡山県黒土遺跡資料	一式
神奈川県保土ヶ谷貝塚資料	一式
千葉県姥山貝塚資料	一式
宮城県川下り・響き資料	一式
大木囲貝塚	一式
東貝塚	一式
室浜貝塚	一式
福浦島貝塚	一式
里浜貝塚	一式
東北縄文晩期末資料	一式
東北各地発見縄文資料	一式
北海道資料	一式
発見地不詳縄文資料	一式
発見地不詳須恵器資料	一式
発見地不詳石器・石斧資料	一式
愛知県西滋賀貝塚資料	一式
愛知県吉胡貝塚資料	一式
茨城県前浦遺跡資料	一式
関東地方埴輪資料	一式
静岡県登呂遺跡資料	一式
発見地不詳須恵器資料	一式
発見地不詳石器・石斧資料	一式
愛知県西滋賀貝塚資料	一式
茨城県前浦遺跡資料	一式
関東地方埴輪資料	一式
現生動物標本	一式
年輪年代学用木材標本	一式

収蔵品(所蔵品・寄託品)件数合計(過去5か年)

(単位:件)　令和5年3月31日現在

		平成30年度			令和元年度			令和2年度			令和3年度			令和4年度		
		計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
収蔵品合計	国立博物館 計	142,680	332	2,180	143,576	329	2,180	143,928	332	2,207	144,284	334	2,209	145,458	334	2,213
	東京国立博物館	122,194	144	897	122,462	141	891	122,593	143	910	122,724	143	910	123,480	143	909
	京都国立博物館	14,509	116	812	14,650	117	815	14,697	117	818	14,841	119	819	15,113	118	819
	奈良国立博物館	3,882	66	418	3,885	65	420	3,917	66	423	3,886	66	423	3,884	67	425
	九州国立博物館	2,095	6	53	2,579	6	54	2,721	6	56	2,833	6	57	2,981	6	60
所蔵品	国立博物館 計	130,211	135	994	131,191	135	1,002	131,433	135	1,006	131,771	135	1,006	132,866	135	1,009
	東京国立博物館	119,064	89	644	119,871	89	646	119,942	89	648	120,073	89	648	120,812	89	649
	京都国立博物館	8,075	29	196	8,130	29	200	8,150	29	200	8,279	29	200	8,526	29	200
	奈良国立博物館	1,908	13	113	1,911	13	114	1,929	13	114	1,930	13	114	1,947	13	114
	九州国立博物館	1,164	4	41	1,279	4	42	1,412	4	44	1,489	4	44	1,581	4	46
寄託品	国立博物館 計	12,469	197	1,186	12,385	194	1,178	12,495	197	1,201	12,513	199	1,203	12,592	199	1,204
	東京国立博物館	3,130	55	253	2,591	52	245	2,651	54	262	2,651	54	262	2,668	54	260
	京都国立博物館	6,434	87	616	6,520	88	615	6,547	88	618	6,562	90	619	6,587	89	619
	奈良国立博物館	1,974	53	305	1,974	52	306	1,988	53	309	1,956	53	309	1,937	54	311
	九州国立博物館	931	2	12	1,300	2	12	1,309	2	12	1,344	2	13	1,400	2	14

1-(1)-①-3 令和4年度新収品一覧表

（単位：件）　令和5年3月31日現在

	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入
合計	1,097			741			247			17			92		
計	56	436	605	1	136	604	8	239	0	12	5	0	35	56	1
絵画	5	122	0	0	1	0	2	121	0	1	0	0	2	0	0
書跡	1	111	0	0	3	0	0	108	0	1	0	0	0	0	0
彫刻	3	2	0	0	0	0	0	0	0	3	2	0	0	0	0
建築	0	0	9	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0
金工	3	4	19	0	0	19	1	3	0	2	0	0	0	1	0
刀剣	0	31	1	0	0	1			0	0	0	0	0	31	0
陶磁	2	1	2	0	0	2	0	1	0	0	0	0	2	0	0
漆工	6	6	6	0	2	6	5	3	0	1	1	0	0	0	0
染織	4	127	6	1	111	6	0	1	0	3	1	0	0	14	0
考古	29	12	0	0	1	0	0	0	0	1	1	0	28	10	0
民族資料	0	0	19	0	0	19	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歴史資料	3	2	2	0	0	1	0	2	0	0	0	0	3	0	1
和書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
写真資料	0	0	511	0	0	511	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 絵画	0	1	0	0	1	0									
東洋 書跡	0	7	0	0	7	0									
東洋 彫刻	0	2	0	0	2	0									
東洋 金工	0	0	0	0	0	0									
東洋 陶磁	0	2	0	0	2	0									
東洋 漆工	0	0	0	0	0	0									
東洋 染織	0	2	1	0	2	1									
東洋 考古	0	1	1	0	1	1									
東洋 民族	0	3	28	0	3	28									
法隆寺献納宝物	0	0	0	0	0	0									
黒田記念館収蔵品	0	0	0	0	0	0									

＊東京国立博物館は、列品管理規程による「東洋関係の列品」あり
＊列品管理規程改正により、新たに「写真資料」が追加され、東京国立博物館の列品「その他」は「写真資料」に変更した。

付表・文化財収集件数の推移

5年間の新収品一覧表

（単位：件）

	平成30年度			令和元年度			令和2年度			令和3年度			令和4年度		
	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入
合計	2,005			980			242			338			1,097		
小計	154	348	1,503	87	125	768	69	155	18	41	254	43	56	436	605
絵画	8	22	0	31	9	0	7	8	0	6	104	1	5	122	0
書跡	3	50	0	2	8	0	3	59	0	2	11	0	1	111	0
彫刻	2	3	0	1	0	0	1	18	0	1	3	0	3	2	0
建築	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9
金工	3	21	0	3	12	0	6	1	0	3	9	0	3	4	19
刀剣	1	0	0	0	1	0	2	9	0	0	0	2	0	31	1
陶磁	15	44	0	1	11	0	4	2	0	1	13	4	2	1	2
漆工	4	23	0	1	8	0	5	1	0	1	6	5	6	6	6
染織	30	21	0	3	7	0	7	5	0	8	2	22	4	127	6
考古	81	120	2	34	10	0	30	31	0	11	41	1	29	12	0
民族資料	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	4	0	0	0	19
歴史資料	6	1	0	3	50	0	3	1	0	2	0	0	3	2	2
和書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
写真資料				0	0	767	0	0	16	0	0	0	0	0	511
その他	0	0	1,500	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 絵画	0	15	0	3	1	0	0	0	0	5	4	0	0	1	0
東洋 書跡	0	18	0	0	0	0	0	15	0	0	0	0	0	7	0
東洋 彫刻	0	0	0	4	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2	0
東洋 金工	0	6	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 陶磁	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	30	2	0	2	0
東洋 漆工	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 染織	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	2	1
東洋 考古	0	3	0	0	4	0	0	3	0	0	27	0	0	1	1
東洋 民族	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	4	0	3	28
法隆寺献納宝物	0	0	1	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0
黒田記念館収蔵品	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

1-(1)-①-4 令和4年度新収品一覧
【東京国立博物館】(計741件)

（１）購入（1件）

＜染織＞（1件）

1　名称	[重要文化財]小袖染分綸子地小手毬松楓模様 （こそでそめわけりんずじこでまりまつかえでもよう）	品　質	綸子（絹）、刺繍、鹿子絞、縫締絞、摺箔
作者等		員　数	1領
時　代	江戸時代・17世紀	寸法等	丈138.4cm,裄 57.0cm
作品概要	卍繋ぎに牡丹と蓮華の折枝紋を散らした中国産の綸子に、縫い締め絞りの技法で紅・黒紅・白の三色に染め分け、更に鹿の子絞りや刺繍で模様を表した小袖である。黒紅に染めた部分には、型紙と金箔を用いた摺箔の技法で雲や霞、松葉などの模様が捺されていたが、今はすっかり擦り落ちており、かろうじて糊の跡が見える。かつては、色とりどりの刺繍に金箔が輝く、豪奢な小袖であったと考えられる。 地を埋め尽くすように様々な技法を凝らして模様を施すことから「地無」と称された小袖は、江戸時代初期には礼装用の晴れ着として用いられた。松や桜、楓といったお馴染みの模様のほか、安土桃山時代から江戸時代初期にかけて好まれて模様に表されるようになった小手毬の花が刺繍で表される。巴紋や鶴丸紋、有職風の入子菱模様など、部分部分を見れば細かな刺繍に彩られるが、遠目に見ると、複雑で明言し難い染め分け模様の中に、橋が大きくかかり、全身が一枚の風景画のように見えてくる。慶長期から元和期にかけて主流であった段や筋といった区画を重視するデザインから、万治期から寛文期にかけて花ひらく絵画的な構図へと転換する、過渡期的な意匠と位置付けられる。明治期以降、長らく「慶長小袖」と呼び慣らされてきたデザイン様式であるが、その技法的特徴や小袖の形態から、実際は正保期頃に位置付けられるべきである。		

（２）寄贈（136件）

＜絵画＞(1件)

1　名称	中国真景図巻（ちゅうごくしんけいずかん）	品　質	紙本墨画
作者等	伝雪舟等楊（1420～1506?）筆	員　数	1巻
時　代	室町時代・15～16世紀	寸法等	本紙 縦24.9cm 横395.3cm
作品概要	巻子装、牙軸。 雪舟が入明時に眼にしたとされる中国の風景を描いた画巻。雪舟は48歳から50歳にかけて中国への外交使節に随行し、寧波と北京の間を往復した。本作は、北京からの帰路の情景を描いたとされる伝雪舟筆「唐土勝景図巻」（京都国立博物館）前半の図様とほぼ一致する。鎮江周辺の景観のみで構成されているが、京博本をはじめとする他の伝本では見られない風景も収めている。		

＜書跡＞(3件)

2　名称	宮本竹逕所用印（みやもとちくけいしょよういん）	品　質	石製、木製、竹製
作者等		員　数	114顆
時　代	昭和～平成時代・20世紀	寸法等	
作品概要	現代かな書家の宮本竹逕(1912～2002)が所蔵・使用していた印章114顆。印文は「竹逕」「顕」「寒玉」の字を刻んだものが多くを占め、「宮本竹逕作品集」125帖の落款・箱書に使用された印が多数確認されるように、大部分は竹逕の落款印として制作されたものと考えられる。側款には「癸未」(昭和18年(1943))から「癸酉」(平成5年(1993))までの干支が認められ、竹逕の活動期全般にわたる。自刻印は確認されず、おおむね篆刻家が制作したものと考えられ、「蘭台」（二世中村蘭台、1892～1969）「香石」（内藤香石、1908～86）「丁齋」（梅舒適、1916～2008）など、著名な篆刻家の号を側款に刻むものもある。中でも梅舒適作と推定される数点は、落款印として特に愛用されていることが指摘でき、竹逕の作歴と書壇における交友関係を知るうえで重要である。		

3　名称	四大字屏風「敬神勧農」（よんだいじびょうぶけいしんかんのう）	品　質	紙本墨書
作者等	貫名菘翁（1778～1863）筆	員　数	2曲1隻
時　代	江戸時代・文久元年(1861)	寸法等	154.7cm×75.6cm
作品概要	屏風装。貫名菘翁が「敬神勧農」の四文字を大字で揮毫したもの。落款より菘翁84歳の書だが、当館所蔵の菘翁83歳作「いろは屏風」と同様に力強くよどみのない筆遣いで揮毫されている。本作は「いろは屏風」よりもさらに一文字が大きく、菘翁の代表作ともいえるものである。また、菘翁が最晩年まで第一線で活躍していたことがわかる貴重な作品である。屏風装。貫名菘翁が「敬神勧農」の四文字を大字で揮毫したもの。落款より菘翁84歳の書だが、当館所蔵の菘翁83歳作「いろは屏風」と同様に力強くよどみのない筆遣いで揮毫されている。本作は「いろは屏風」よりもさらに一文字が大きく、菘翁の代表作ともいえるものである。また、菘翁が最晩年まで第一線で活躍していたことがわかる貴重な作品である。		

4　名称	装飾法華経 巻第一（そうしょくほけきょう　まきだいいち）	品　質	彩箋墨書
作者等	藤原定信（1088～1154～?）筆	員　数	1巻
時　代	平安時代・12世紀	寸法等	縦25.6cm 全長996.6cm
作品概要	巻子装。木軸。本紙は20紙を継ぐ。料紙に金の截金で単界線を施し、経文を墨書する。第1・2・20紙の天地欄外には銀の砂子・芒に金の小切箔を散らし、第3～19紙の天地欄外には金銀の砂子のみを散らす。紙背にはやや大ぶりの裂箔を交えた金銀箔を散らす。表紙は後補、田中塊堂の筆跡で墨書外題「妙法蓮華経巻第一」を打付け書きする。経文は鳩摩羅什訳『妙法蓮華経』の巻第一を完存する。右肩上がりに崩した字姿が特徴的な筆跡は、藤原定信自筆の書写奥書を有する「般若理趣経」（春敬記念書道文庫蔵）、および定信筆と推定される「久能寺経 譬喩品」（鉄舟禅寺蔵）と同筆と認められる。		

＜漆工＞(2件)

5　名称	[重要美術品]紙胎漆塗彩絵華籠（したいうるしぬりさいえけ	品　質	紙製漆塗
作者等		員　数	1口
時　代	鎌倉時代・13世紀	寸法等	高4.2cm 径24.2cm
作品概要	浅い盆型を呈し、見込みからなだらかに口縁へ向かって広がり、口縁部で垂直に立ち上がる。素地は十枚程度の紙を型を用いて貼り合わせ、漆を塗った紙胎であり、裏面は刷毛目の残る透漆仕上げ、表面（見込み）には白土下地を施して彩絵を施す。見込みには八花形の花托を持つ八弁の蓮花を表し、赤と緑で彩色して金線で縁取る。蓮弁の隙間を透かして背後に八つの三鈷を配し、箔押しして墨で刻線を描き起こしている。三鈷と蓮弁の間には窓が切り透かされており、計16の窓を開けて籠の形状の名残を見せている。		

6　名称	薄桐紋蒔絵椀（すすききりもんまきえわん）	品　　質	木製漆塗
作 者 等		員　　数	10客
時　　代	江戸時代・18世紀	寸 法 等	総高10.8cm 口径13.4cm
作品概要	端反り、落とし蓋形式の塗物椀。蓋、身とも高台周りを広く平坦に残し、腰から側面にかけて面取りしてから丸みを加えて仕上げている。総体黒漆塗に口縁及び蓋の環状把手を金地とし、外側面には平蒔絵で曲線を引き連ねて薄を表し、同じく平蒔絵で五三桐紋を散らす。桐紋は絵梨子地に針描、付描を併用して表されており、技法としては近世初頭に広く行われた高台寺蒔絵に通じる。		

＜染織＞(111件)

7　名称	「虫の音」粘土原型（「むしのね」ねんどげんけい）	品　　質	粘土
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　　数	1体
時　　代	昭和27年（1952	寸 法 等	高11.2cm
作品概要	昭和27年（1952）の個展で出品した木彫彩色の人形「虫の音」を制作するにあたり試作した粘土原型である。女房装束（唐衣裳、いわゆる十二単）をまとい、虫の音に袖を濡らす宮廷女性の姿を捉えている。板裏に郷陽が記した銘記に「周防内侍」とあり「住わひて我さへ軒の忍ふ草 しのふかたかたしけきやとかな」（『金葉和歌集』巻第九 雑部上）をモチーフとしたのだろう。完成品は現在、東京国立近代美術館が所蔵する。		

8　名称	「秋韻」粘土原型（「しゅういん」ねんどげんけい）	品　　質	粘土
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　　数	1体
時　　代	昭和28年（1953）	寸 法 等	高11.2cm
作品概要	第9回日本美術展に出品された木目込人形「秋韻」（昭和28年（1953））の制作に際し、試作した粘土原型である。粘土原型では右手を台座に付き、膝に置いた手に冊子のようなものを手にして物思いにふける振袖の若い女性を形作るが、完成品（寄贈予定）は左手を胸の前に挙げ、人差し指を立てた姿に変わっている。		

9　名称	「清閑」粘土原型（「せいかん」ねんどげんけい）	品　　質	粘土
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　　数	1体
時　　代	昭和36年（1961）	寸 法 等	高10.0cm
作品概要	第8回日本伝統工芸展に出品された衣裳人形「清閑」を制作する際に試作した粘土原型である。完成品とほぼ、同様の形状であるが、原型では背もたれのある椅子に腰かけた着物姿の若い女性像であるが、完成品では木彫に幾何学的な意匠を彩色した着物をまとう姿で、背もたれのない台座に腰かける姿となっている。		

10　名称	「瑞鳥」粘土原型（「ずいちょう」ねんどげんけい）	品　　質	粘土
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　　数	1体
時　　代	昭和36年（1961）頃	寸 法 等	高29.8cm
作品概要	昭和34年（1959）に皇居新宮飾りとして制作された衣裳人形「瑞鳥」のための試作と考えられる。粘土原型では、頭頂に丸く髪を結った少女が左肩に留まった小鳥を愛でる立ち姿であるが、完成品では、髪を結わずに禿風のおかっぱ頭へと変化している。		

11　名称	「荒事」粘土原型（「あらごと」ねんどげんけい）	品　　質	粘土
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　　数	1体
時　　代	昭和37年（1962）	寸 法 等	高8.0cm
作品概要	昭和37年（1962）の第22回人形美術院展に出品した木彫人形「荒事」の試作として制作された粘土原型である。誇張された素襖の袖や袖に表された三枡紋から、市川家のお家芸である「暫」を演じる姿を形にしている。粘土原型にも彩色を施すようになるのは、平田郷陽の昭和30年代後半の特徴である。完成品では、目は見開かれておらず、目は閉じられ、隈取りの美しさが強調される。		

12　名称	「愛趣楽」粘土原型（「あしゅら」ねんどげんけい）	品　　質	粘土
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　　数	1体
時　　代	昭和38年（1963）	寸 法 等	高10cm
作品概要	第10回日本伝統工芸展に出品された衣裳人形「愛趣楽」のために試作された粘土原型である。三角に切り取られた杉板の上に三方を向いた少年が膝下丈の着物をまとい、それぞれ異なるポーズを取って立つ姿は興福寺所蔵の阿修羅像を思わせる。		

13　名称	「越後路」粘土原型（「えちごじ」ねんどげんけい）	品　　質	粘土
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　　数	1個
時　　代	昭和39年（1964）頃	寸 法 等	高2.8cm
作品概要	昭和39年（1964）に開催された第11回日本伝統工芸展に出品された衣裳人形「越後路」のために試作された獅子舞の頭の粘土原型であろう。いわゆる郷土芸能の「越後獅子」をあらわしたものではなく、完成品では、白頭をまとった獅子を被る舞手が腰を低くする造形となっている。		

14　名称	「抱擁」粘土原型（「ほうよう」ねんどげんけい）	品　　質	粘土
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　　数	1体
時　　代	昭和41年（1966）	寸 法 等	高12cm
作品概要	昭和41年（1966）の第13回日本伝統工芸展に出品された木彫衣裳人形「抱擁」のために試作された粘土原型である。着物姿の若い母親が立ち膝で座り、おくるみから顔をのぞかせる赤子に唇を寄せる姿を形づくる。着物の袖のたもとや裾には線刻で大きな葉の模様が描かれる。		

15　名称	「地唄舞」粘土原型（「じうたまい」ねんどげんけい）	品　　質	粘土、胡粉彩色
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　　数	1体
時　　代	昭和46年（1971）	寸 法 等	高13.5cm
作品概要	昭和47年（1972）の第16回陽門会に出品された木彫木目込人形「地唄舞」のために試作された粘土原型である。江戸時代後期の芸妓風の装いで、深く衿を後方に落とし、幅広の帯をつけ、裾を引く姿に造形される。胡粉を塗り、赤い顔料で上彩色される。完成品もほぼ、おなじ姿形をとる。		

16　名称	「松浦佐用比賣」粘土原型（「まつらさよひめ」ねんどげんけい）	品　　質	粘土
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　　数	1体
時　　代	昭和46年（1971）	寸 法 等	高14cm
作品概要	昭和46年（1971）の第18回日本伝統工芸展に出品された木彫木目込人形「松浦佐用比売」のために試作された粘土原型である。大伴狭手彦が新羅を討つために出征した際、松浦の山の上から領巾を振って見送ったという伝説をもとに、中国風の唐衣に襞のある裳を着て、腕に掛けた領巾をなびかせる瞬間を造形している。粘土で形づくった後、胡粉を塗り、上から赤い顔料で薄く彩色を重ねる。木箱表に「松浦の里」と付箋があり、横に赤字で「松浦の佐用姫」と書き直される。		

17　名称	「寂」粘土原型（「じゃく」ねんどげんけい）	品　　質	粘土
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　　数	1体
時　　代	昭和47年（1972）	寸 法 等	高12.8cm
作品概要	昭和48年（1973）の第17回陽門会に出品された木彫人形「寂」のために試作された粘土原型である。唐風の髪型、衣裳を身にまとい、両手を胸の高さに挙げて水瓶を持つ姿に造形される。胡粉を塗り、赤い顔料で上彩色する。完成品もほぼ、同型である。紙箱表に「寂」と記される。		

18　名称	「をんな」粘土原型（「おんな」ねんどげんけい）	品　　質	粘土
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　　数	1体
時　　代	昭和47年（1972）	寸 法 等	高8.8cm
作品概要	昭和47年(1972）の第19回日本伝統工芸展で出品された木彫人形「朝の庭」のために試作された粘土原型である。前髪を揃えたおかっぱ頭に華やかな花模様を施した着物をまとい、正座した若い女性の姿である。胡粉を塗り、赤や緑、青の顔料で彩色を施す。完成品では、前髪をあげたおかっぱ頭で、着物は白地に紫陽花の模様へと変化している。紙箱表には「をんな　昭和四十七年　六月二十二日　於箱根湯本郷」とある。		

19　名称	「吉野水分玉依姫」粘土原型（「よしのみまくりたまよりひめ」ねんどげんけい）	品　　質	粘土
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　　数	1体
時　　代	昭和48年（1973）	寸 法 等	高7.0cm
作品概要	昭和49年（1974）の「第10回人間国宝新作展」に出品した人形「吉野水分玉依姫」のために試作された粘土原型である。奈良・吉野水分神社に子授かりの神として祀られる玉依姫命を、袿袴姿と思われる宮廷女性の姿に造形される。胡粉を塗り、黄や赤の顔料で上彩色される。木箱表に「吉野水分玉依姫」と記される。		

20　名称	「櫛名田姫衣装像」粘土原型（「くしなだひめいしょうぞう」ねんどげんけい）	品　　質	粘土
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　　数	1体
時　　代	昭和48年（1973）	寸 法 等	高10.5cm
作品概要	昭和48年(1973）の第20回日本伝統工芸展に出品された木彫人形「櫛名田姫衣装像」のために試作された粘土原型である。素戔嗚尊の妻となった櫛名田姫とされるこの像は、古墳時代の巫女のような髪型に中国風の唐衣を左衽にまとい、裳と領巾をつけた姿で立ち膝をし、両手に剣を掲げた姿に形作られる。胡粉を塗り、赤い顔料で彩色する。完成品も同様の姿形である。		

21　名称	「天のうずめの命」粘土原型（「あめのうずめのみこと」ねんどげんけい）	品　　質	粘土
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　　数	1体
時　　代	昭和49年（1974）頃	寸 法 等	高12.5cm
作品概要	第21回日本工芸展に出品された木彫木目込人形「天のうずめの命」を制作するにあたり、試作された粘土原型である。岩戸に隠れた天照大神の気を引くために、岩戸の前で面白おかしく踊ったというアメノウズメを、『古事記』の記述にあるように胸をあらわにした姿でかたどっている。完成品もほぼ、同様の姿形である。紙箱表に「天のうずめの命」とある。		

22　名称	「宴の花」粘土原型（「うたげのはな」ねんどげんけい）	品　　質	粘土
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　　数	1体
時　　代	昭和50年（1975）頃	寸 法 等	高9.7cm
作品概要	昭和50年（1975）の「第22回日本伝統工芸展」に出品された木彫人形「宴の花」のために試作した粘土原型である。左手で小鼓の緒を締め、右手で打ち鳴らそうとする振袖の若い女性が、立ち膝で腰を下ろした姿を形作っている。薄く白い胡粉を塗り、その上から赤、青の顔料で彩色する。完成品もほぼ、同じような姿形である。紙箱表には「花の宴」と記される。		

23　名称	上代女子立像粘土原型（じょうだいじょしりゅうぞうねんどげんけい）	品　　質	粘土
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　　数	1体
時　　代	昭和時代・20世紀	寸 法 等	高12.0cm
作品概要	古代中国風の唐衣と裳をまとい、後方で低く髪を結った女性の立像である。粘土でおおまかに形を作った試作の粘土原型と考えられるが、現在確認できる完成品の中には、同様の造形の作品を特定することができない。		

24　名称	手を合わせる女子立像　粘土原型（てをあわせるじょしりゅうぞう　ねんどげんけい）	品　質	粘土
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　数	1体
時　代	昭和時代・20世紀	寸 法 等	高12.5cm
作品概要	着物を着用し、腰あたりで手を合わせる女性の立ち姿をかたどっている。粘土でおおまかに形を作った試作の粘土原型と考えられるが、現在確認できる完成品の中には、同様の造形の作品を特定することができない。あるいは、昭和46年の「第14回陽門会展」に出品した木彫木目込人形「南庭に遊ぶ菅公」が近い。		

25　名称	人形女子立像（にんぎょうじょしりゅうぞう）	品　質	桐製
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　数	1体
時　代	昭和時代・20世紀	寸 法 等	高45.5cm
作品概要	平田郷陽が得意とした木目込人形を制作する過程を見ることができる、未完成の木彫人形である。元結で前髪を上げ、やや細めの帯をしたつい丈の小袖を着用した江戸時代前期頃の女性像は「沢辺の雪」（昭和23年（1948））、「茶」（昭和25年（1950））、「秋韻」（昭和28年（1958））に共通する。通常は顔や手に胡粉を塗り、髪や顔に彩色を施し、綾錦を用いて衣装を貼っていくが、未完成のため、頭、両手先、上半身、下半身の5パーツに分解できる構造であったことがうかがえる。		

26　名称	木彫人形 桃太郎（もくちょうにんぎょう ももたろう）	品　質	木、彩色
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　数	1体
時　代	大正13年(1924)	寸 法 等	高25.0cm
作品概要	1つに割れた桃とそこから見栄を切って現れた桃太郎を木彫し、胡粉彩色して髪の毛を絹糸で毛植えする。木彫でありながら、柔らかく肉付きのよい子どもの体形や、頬に見える愛らしいえくぼなど、生人形の制作でキャリアを積んだ平田郷陽の力量がうかがえる。		

27　名称	衣裳人形 婦女（いしょうにんぎょう ふじょ）	品　質	木、胡粉、絹ほか
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　数	1体
時　代	昭和7年(1932)	寸 法 等	高30.0cm
作品概要	昭和7年(1932)の第5回白澤会展に出品された衣裳人形である。体を木彫にし胡粉彩色し、露芝模様を刺繍した水浅葱色の縮緬の着物に鹿の子模様が入った菱繋文の織の丸帯を淡桃色の帯揚と白い丸紐けの帯締めでお太鼓結びにし、桃色の重ねの下着の下に白い襦袢を重ねる。長い髪を後ろで低くまとめ、簪で止めた姿は、昭和初期当時の若い女性の姿をそのままに映している。正座を少し崩した足裏や耳、手指など写実的な技が細部にまで行き届く。		

28　名称	衣裳人形 薬玉（いしょうにんぎょう くすだま）	品　質	木、胡粉、絹ほか
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　数	1体
時　代	昭和8年(1933)	寸 法 等	高72.0cm
作品概要	昭和8年（1933）の「第６回白澤会展」に出品された衣裳人形である。波に千鳥の蒔絵を施した黒漆塗りの葛桶の上に立ち、左手に薬玉を掲げる若い女性である。前髪を揚げて元結でとめ、御所風に髪を高く結んで元結でまとめ、顔は面長、鹿の子絞りを色とりどりの刺繍で表した桜の模様は、まさに井原西鶴の浮世草子に描写されるような元禄期の贅沢な衣装を再現している。振袖の長さや浅葱、紅の下着を重ねる着装もまた、浮世絵を参考にしていると考えられる。帯は紅地芭蕉模様の錦帯を片蝶結びにする。江戸時代前期、元禄期頃の風俗を再現した衣裳人形である。郷陽のリアリズムは顔の表情や耳や手足の細密さ、金糸の細さまで人形のサイズに合わせて細い糸を使用させている点に感じられる。薬玉はもともとはサツキなど初夏の花で飾った薬草の玉に、五色の糸飾りを垂れて几帳や柱などに飾った宮中の端午の節句の行事であるが、この薬玉には内部に電球で仕込んであり、制作当時は薬玉を光らせる仕掛けであった。		

29　名称	衣裳人形 泣く子（いしょうにんぎょう なくこ）	品　質	木、胡粉、絹ほか
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　数	1体
時　代	昭和11年(1936)	寸 法 等	高19.5cm
作品概要	昭和10年(1935)に開催された第一回日本人形社展に出品された衣裳人形であるが、極めて生人形に近い。観世水に向かい横菊紋を地紋に織り出した白綸子地の産衣に襞のついた縮緬の涎掛けをした赤子が力をみなぎらせて泣く姿を写実的に表わす。木彫に胡粉彩色し、髪は絹糸を毛植えする。細部まで写実をつらぬくが、殊に目を見張るのは、赤子の大きく口を開けて泣く口の内部の、歯の生えていない歯茎や舌などの造形である。ビロード貼りの椅子が付属する。		

30　名称	衣裳人形　朝鮮の佳日（いしょうにんぎょう　ちょうせんのかじつ）	品　質	木、胡粉、絹ほか
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　数	3体
時　代	昭和12年(1937)頃	寸 法 等	（男児）高36.5cm　奥9.0cm（母）高32.5cm（父）高39.0cm
作品概要	昭和12年(1937)の「第２回日本人形社展」に出品された衣裳人形「朝鮮の佳日」。幼い男児とその母親の姿を表わす。父親も同時期に制作されたと考えられる。服装から、満1歳の誕生日を祝うトルラルの場面であることがわかる。男児はカチトゥルマギの上に紺のチョンボクを羽織り、パジと称する白い袴を着用し、刺繍を施した鞋をはく。頭にはポッコンと称する黒い帽子をかぶる。母親は半回装チョゴリに薄絹のチマを着用し、男児が被るポッコンの紐を後ろで結ぶしぐさをする。手先や表情などから、若い母親の喜びと優しさが表現される。父親は20世紀初頭頃の朝鮮両班の普段着で、白いチョゴリに白いバジを履き、足に白いポソン、頭に黒い紗張りのカッを被り、長い煙管を右手にはさみ、火皿を前に座る。人形本体は他の母子と同様、生人形と基本的なつくりは同じで、木彫に胡粉彩色し、口ひげを毛植えする。父母の人形は共に制作されたと考えられるが、日本人形社展では、トルラルの身支度をする男児の人形とポッコンの紐を結ぶ母親の人形が展示されたものの、父親は展示されなかった。この人形を制作するに際し、実際に京城の雑貨店「新羅商会」「朝鮮館」から服飾資料一式を入手していたことが、遺された資料からうかがえる。		

31　名称	衣裳人形 一茶と雀（いしょうにんぎょう いっさとすずめ）	品　質	木、胡粉、絹ほか
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　数	1体
時　代	昭和15年(1940)	寸 法 等	幼児 高16cm ； 雀 高2cm ； 鼠 高1.7cm
作品概要	昭和15年(1940)の第5回日東人形社展に出品された衣裳人形「一茶と雀」である。鶯色地花唐草文緞子の着物を着た幼児が、右手の一指し指をくわえ、足元に留まった雀を凝視する様を表わす。草鞋の片方を脱いで右足裏を左足の甲に載せるといった幼児らしいしぐさを捉える。一茶と雀というモチーフは繰り返し制作され、第5回日本人形社展（昭和15年(1940)）ではほぼ同じ姿形で髪型が異なる衣裳人形を出品しているほか、昭和23年(1948)には子雀を両手で捉えた幼児を表わした人形を、平田郷陽人形新作展（昭和34年(1959)）でも同様の「一茶と雀」、「子雀」のタイトルで第20回日本人形美術院展（昭和35年(1960)）に出品などがある。幼児をモチーフにした衣裳人形は平田郷陽が得意の1つであり、遺された膨大な写真資料から幼児のしぐさや表情を研究していたことがうかがえる。		

32　名称	木彫人形 元禄美人と鍾馗（もくちょうにんぎょう げんろくびじんとしょうき）	品　　質	木、彩色
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　　数	1体
時　　代	昭和18年(1943)	寸 法 等	高35.0cm
作品概要	生人形師として著名な松本喜三郎が文久元年(1861)に制作した生人形を平田郷陽が模作した「鍾馗」「元禄風女」「あまのじゃく」の頭部である。喜三郎の人形では、あまのじゃくを踏みつけた元禄女が鍾馗の髪の間からしらみを採る場面を3体の木彫彩色の生人形に仕立てている。その頭部のみを木彫に彩色で忠実に模倣する。付属する箱に貼り紙があり「松本喜三郎作　鍾馗　元禄風女　あまむじゃく　部分模作」と記される。		

33　名称	衣裳人形 明鏡（いしょうにんぎょう めいきょう）	品　　質	木、胡粉、絹ほか
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　　数	1体
時　　代	昭和22年(1947)	寸 法 等	高30.0cm
作品概要	パーマを当てた髪を整えるために左手に櫛をもち、鏡に映る自分を見つめる姿を衣裳人形に表わす。髪を含めた本体は木彫に胡粉彩色し、大小縞を染めた縮緬（縞の間に絣風の模様を染めていることから、実際はお召の着物を表わしていると考えられる）の中振袖に紅の下着を重ね、地紙散らし模様の繻珍帯を淡紅色の帯揚げと桃色の帯締めでお太鼓結びにする。昭和初期の若い女性の風俗を写実的にとらえた人形である。		

34　名称	衣裳人形 十三夜（いしょうにんぎょう じゅうさんや）	品　　質	木、胡粉、絹ほか
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　　数	1体
時　　代	昭和22年(1947)	寸 法 等	高30.0cm
作品概要	昭和22年(1947)の第1回現代美術展に出品された木彫衣裳人形である。旧暦9月13日に月見する日本の習慣をモチーフに、若い女性が膝をついた姿で月を仰ぐ姿を表わす。昭和初期から女性の間で流行したパーマを前髪にあてた女性は、右手にうちわを持ち、葦に雁の模様を刺繍した卵色の着物、その下に黄土色の下着を重ね、羽衣のような模様を織り出した錦の帯を淡紅の帯揚げと帯締めでお太鼓結びにする。付属する木箱の蓋表に「十三夜　木彫衣装像」と墨書される。		

35　名称	木彫彩色板絵 沢辺の雪（きぼりさいしきいたえ さわべのゆき）	品　　質	額装、木彫、彩色
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　　数	1面
時　　代	昭和23年（1948）頃	寸 法 等	縦61cm 横45.5cm
作品概要	板に直接江戸時代初期の女性の姿を彫り彩色した板絵風の作品である。女性の姿形はMOA美術館に所蔵される「湯女図」に描かれた女性群像の内、向かって右から2番目の女性を写したものであろう。前髪を元結で挙げた垂髪の女性像はこの後の平田郷陽の作品にしばしば見られる表現である。昭和23年（1948）に同じタイトルで制作された木彫木目込人形があり、本作はその関連作品と位置づけられる。		

36　名称	木目込人形 装い（きめこみにんぎょう よそおい）	品　　質	木、胡粉、絹ほか
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　　数	1体
時　　代	昭和26年(1951)	寸 法 等	高25.5cm
作品概要	昭和26年(1951)の文部省主催「第3回日本現代美術地方巡回展」に出品され、同年に三越本店で開催された人形芸50年展にも出品された木目込人形である。髪をセットした女性が正座して、髪型を気に掛ける様子を表わす。衣装を含めた本体を木彫りにし、顔や手足を胡粉彩色、衣裳は、紬や金襴などを用いて木目込みにする。底部分の足袋を履く足の姿まで丁寧に作られる。付属する木箱の蓋表に貼り紙があり「二十六年作／装い／平田郷陽」と墨書される。		

37　名称	木彫人形 秋韻（もくちょうにんぎょう しゅういん）	品　　質	木、胡粉、彩色
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　　数	1体
時　　代	昭和28年(1953)	寸 法 等	高36.0cm
作品概要	昭和28年(1953)の第9回日展に出品された木目込人形「秋韻」である。本作は、従来の衣裳人形や木目込人形とは異なり、体型を大胆にデフォルメし、衣裳も写実性を排除し、今後の平田郷陽の作品の大きな特徴の1つとなったヨレ貼りの衣裳をまとう。前髪を元結で結い上げ、垂髪を背中で玉結びにし、振袖をまとう江戸時代前期の女性の風俗を表わす。これまでの写実主義から脱却した新しい作風が評価され、同展で北斗賞を受賞。記念碑的作品となった。		

38　名称	衣裳人形 手鏡を持つ女（いしょうにんぎょう てかがみをもつおんな）	品　　質	木、胡粉、絹ほか
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　　数	1体
時　　代	昭和20年代	寸 法 等	高19.5cm
作品概要	頭部や手足を木彫とした衣裳人形である。パーマを当てた髪を整えようと、赤い塗りを施した手鏡を左手に正座し、鏡に横顔を映し出す女性を表わす。本体は髪の毛も含めた木彫に胡粉彩色し、縮緬に白い四弁花を散らして染めた淡い紅色の着物に紅色の下着を重ね、紅地花唐草模様錦の昼夜帯（表と裏で模様が異なる）を、淡紅の帯揚げと淡黄の帯締めでお太鼓結びにする。木箱の蓋表にある貼り紙に「手鏡を持つ女／平田郷陽」とある。		

39　名称	木彫人形 朝霜（もくちょうにんぎょう あさしも）	品　　質	木、胡粉、彩色
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　　数	1体
時　　代	昭和30年(1955)	寸 法 等	高36.0cm
作品概要	昭和30年(1955)の第11回日本美術展に出品された木彫人形である。昭和20年代半ば頃から作風を変えた様式を継ぐもので、人形全体をややデフォルメされた体型を木彫にし胡粉彩色した後に、衣裳の一部分にヨレ貼りを施して彩色を加える。ここでは、鼠色の着物に黒い前掛けをし御所風に髪を結った立ち膝の女性が、赤い頭巾をかぶった赤子を両手に抱えて、指で遊ぶ赤子の姿を愛おしく見つめる姿を表わす。		

40　名称	板絵 影 試作（いたえ かげ しさく）	品　質	木彫、彩色
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　数	1面
時　代	昭和35年(1960)	寸 法 等	縦51.5cm 横35.0cm
作品概要	昭和35年(1960)の「童文会絵と人形展」に出品された木彫板絵である。少女の人影を木彫し、影の部分には布張りをしてその上から黒い塗料を塗っている。また、背景の部分には薄墨を塗る。右下隅に「郷陽作」と線刻銘が入る。人形制作とは異なる展開を目指した試作的な作例と位置づけられる。		

41　名称	木目込人形 流れ（きめこみにんぎょう ながれ）	品　質	木、胡粉、絹ほか
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　数	1体
時　代	昭和37年(1962)	寸 法 等	高38.5cm
作品概要	昭和37年(1962)の第9回日本伝統工芸展に出品された木彫木目込人形である。正座して左手で顎を支え左に首を傾ける若い女性が正座した姿を表わす。この頃には郷陽作品の特徴ともなったデフォルメした体型や髪型に形作り、頭部と手足は胡粉彩色を施し、着物は抽象化された模様を織り出した錦を、抽象化した模様の形に合わせて木目込みにする。昭和30年代は帯に正倉院模様の錦を好んで用いた。付属する木箱の蓋表にある貼り紙に「日本伝統工芸展出品／流れ（昭和三十七年）／平田郷陽作」と墨書される。		

42　名称	木目込人形 おんな（きめこみにんぎょう おんな）	品　質	木、胡粉、絹ほか
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　数	1体
時　代	昭和39年(1964)	寸 法 等	高35.5cm
作品概要	昭和39年(1964)の第8回陽門会展に出品された木彫木目込人形である。正座した着物姿の女性がカードを手に思案する姿を表わす。木彫で作られた本体はデフォルメされた髪型や体型が特徴的で頭部や手は胡粉彩色される。抽象化された衣裳の模様に合わせて、光沢のある絹織物や和更紗風に模様を染めた布を木目込にする。帯に用いられる錦は「流れ」の木目込衣裳に用いた錦と同じものだろう。体をやや斜めに崩し、片足を少し立てた後ろ姿が女性らしさを醸す。		

43　名称	木彫人形 越後路（もくちょうにんぎょう えちごじ）	品　質	木、胡粉、彩色
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　数	1体
時　代	昭和39年(1964)	寸 法 等	高21.0cm
作品概要	昭和39年(1964)の第11回日本伝統工芸展に出品された木彫人形である。越後の古典芸能である獅子舞の様子を、デフォルメされた木彫とし、胡粉彩色し、一部にはヨレ貼りにして彩色の後、さらに金彩を加える。体全体を低くした後方には、袴をはいた男性の踵を上げた足と下駄がのぞく。女性の風俗や幼児の姿を表わすことを得意とした郷陽作品の中では異色である。		

44　名称	木彫人形 抱擁（もくちょうにんぎょう ほうよう）	品　質	木、胡粉、彩色
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　数	1体
時　代	昭和41年(1966)	寸 法 等	高35.0cm
作品概要	昭和41年(1966)の第13回日本伝統工芸展に出品された木彫人形である。平田郷陽の長男の妻が最初の子どもを産んだ年に制作された。立ち膝をし、両手でおくるみに包まれた赤子を抱いた母が、赤子に唇を寄せる姿を表わす。木彫でデフォルメされた体型に形作られ、頭部や手は胡粉彩色し、着物にはヨレ貼りを施して金銀彩色を加える。当館で平成26年(2014)に開催された特別展「人間国宝展―生み出された美、伝えゆくわざ」でも平田郷陽の代表作として出品された。		

45　名称	木彫人形 香り（もくちょうにんぎょう かおり）	品　質	木、胡粉、彩色
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　数	1体
時　代	昭和44年(1969)	寸 法 等	高31.0cm
作品概要	昭和44年(1969)の第16回日本伝統工芸展に出品された木彫人形である。この時期の郷陽作品には珍しく体型のデフォルメ化を避け、香をかぐ京舞妓の丸みを帯びた顔や、肩上げし広く裾を広げた着物、だらりの帯の繊留に入った置屋の家紋、ぽっちりと呼ばれる大きな帯留や花簪まで、舞妓の特徴が細部に至るまで彫り込まれている。全体を胡粉彩色しているが、着物の部分にはヨレ貼りを施し抽象化された模様を彩色する。		

46　名称	木彫人形 朝の庭（もくちょうにんぎょう　あさのにわ）	品　質	木、胡粉、彩色
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　数	1体
時　代	昭和47年(1972)	寸 法 等	高34.5cm
作品概要	昭和47年(1972) の第19回日本伝統工芸展に出品された木彫人形である。昭和30年代に展開されたデフォルメや抽象化はやや抑えられ、着物の模様も具象的に木彫で表現される。肩にかかるほどのおかっぱ頭の前髪を頭頂で結い、正座して顔を右手に振るしぐさは早朝の庭を眺めているのだろうか。白地の着物には網を貼り、大輪を開く紫陽花の花が彫られ、彩色される。赤地雲文錦の細帯を締める。後ろに回した右手や足裏にも風情がある。底裏に朱文方印「郷」。		

47　名称	木彫人形 宴の花（もくちょうにんぎょう うたげのはな）	品　質	木、彩色
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　数	1体
時　代	昭和50年(1975)	寸 法 等	高30.5cm
作品概要	昭和50年(1975)の第22回日本伝統工芸展に出品された。腰をおろし、左手で小鼓の緒を締め、右手で打ち鳴らそうとかまえる若い女性の凛とした表情を、木彫彩色で表わす。江戸時代前期に見られる島田髷、赤地に桜樹と裾に源氏車を表わした振袖の模様は元禄風である。帯は細めの紫地亀甲模様を片結びにする。平田郷陽の遺作。底裏に貼り紙があり「「宴の花」／平田郷陽」。また、朱文方印「郷」。		

48　名称	女子生人形面部（じょしいきにんぎょうめんぶ）	品　質	木、胡粉、彩色
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　数	1面
時　代	昭和時代・20世紀	寸 法 等	顔長20.5cm、顔幅12.5cm
作品概要	平田郷陽は、江戸時代後期に見世物として流行した生人形を制作する父の後を継ぎ、その初期には生人形師として活動していた。生人形制作に携わっていた頃の作品はほとんど遺されていないが、その貴重な一例と考えられる生人形の面部である。端正な顔立ちの若い女性の顔面は、木彫に胡粉を塗り、彩色して髪や上まつ毛は毛植えし、目にはガラスをはめて表現される。このような生人形制作は、その後、芸術としての人形を目指した平田郷陽の人形制作にも強い影響を与えた。		

49　名称	武士姿三折れ人形（ぶしすがたみつおれにんぎょう）	品　　質	木、胡粉、絹ほか
作 者 等	伝二代平田郷陽（1903～81）作	員　　数	1体
時　　代	昭和10～20年代	寸 法 等	高25.5cm
作品概要	三つ折とは、腕、肘、膝などの関節が曲がるような仕掛けをした人形のことである。江戸時代後期には市松人形にこのような仕掛けが作られたが、それを生人形に応用したのである。本作は髷を結い、口ひげを生やした武士の全体像で、生人形と同様に、木彫に胡粉彩色を施し髪は毛植えし、目にはガラスをはめる。現状では、筒袖の下着を着用するのみで、手や足が灰色に塗られているのに違和感があるが、別に小紋革の手袋をはめた関節が動く腕が2本、同じ小紋革の足袋が一足付属することから、本来は狩りや戦に出かける武士を意図していたのかもしれない。平田郷陽は、江戸時代後期に見世物として流行した生人形を制作する父の後を継ぎ、その初期には生人形師として活動していた。生人形制作に携わっていた頃の作品はほとんど遺されていないが、その貴重な一例と考えられる生人形の三つ折人形である。平田郷陽が制作した類例としては、大正～昭和初期に平田郷陽が制作した片岡仁左衛門の三つ折衣裳人形がある。		

50　名称	木目込人形 身支度（きめこみにんぎょう みじたく）	品　　質	木、胡粉、絹ほか
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　　数	1体
時　　代	昭和時代・20世紀	寸 法 等	高32.0cm
作品概要	女性が襦袢の上に着物を着付ける姿を木目込人形に表わす。パーマを当てた髪が特徴的な女性が浅葱無地縮緬の着物の着丈を決め、おはしょりをつくろうとしている場面である。髪を含めた頭部、手足などは胡粉彩色し、下着お襦袢や着物は木目込みにする。女性が身支度をする一瞬の動きを的確にとらえている。付属する木箱の蓋に貼り紙があり「身支度／平田郷陽作」とある。		

51　名称	木目込人形 女子納涼姿（きめこみにんぎょう じょしのうりょうすがた）	品　　質	木、胡粉、絹ほか
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　　数	1体
時　　代	昭和時代・20世紀	寸 法 等	高23.0cm
作品概要	立ち膝で左手に団扇を持ち、遠くに目をやる女性の姿を木彫木目込人形に表わす。頭部は髪も含めて木彫に胡粉彩色、手も木彫に胡粉を塗る。衣装は全体を木彫にし、縮緬で木目込みにする。やや鬢が張った島田髷、櫛や笄といった髪飾り、藍鼠色の縮緬の小袖に広幅の帯を後ろでだらり結びにした風俗は、江戸時代後期の女性を想定している。		

52　名称	木彫人形 女子立姿（もくちょうにんぎょう じょしたちすがた）	品　　質	木、彩色
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　　数	1体
時　　代	昭和時代・20世紀	寸 法 等	高33.0cm
作品概要	前髪を元結で上げ、垂髪を先で玉結びにして浅葱の布で包んだ、江戸時代前期の風俗を表わしたと思われる木彫彩色の女性立ち姿である。髪も含めてすべてを木彫で表わし、胡粉彩色を施すが、髪型や帯結びなどの表現は昭和28年(1953)に第18回日本美術展に出品した木彫人形「秋韻」に近似する。		

53　名称	木彫額 作品（もくちょうがく さくひん）	品　　質	木、彩色
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　　数	1面
時　　代	昭和時代・20世紀	寸 法 等	縦32cm 横41.5cm
作品概要	板に抽象的なデザインを彫り、金銀彩色を施した板絵額である。平田郷陽は昭和20年代後半から30年代前半にかけて人形制作においてデフォルメ化や抽象表現に傾倒した時期があり、そのような傾向と関連付けられる作品であろう。長らく、平田家の居間に飾られていた。		

54　名称	朝鮮風俗衣裳（ちょうせんふうぞくいしょう）	品　　質	絹、木綿、麻、刺繍など
作 者 等		員　　数	1式
時　　代	20世紀前半	寸 法 等	
作品概要	昭和12年（1937）、平田郷陽「衣裳人形　朝鮮の佳日」の制作時に参照したであろうトルボク一式を含む、計28点の朝鮮風俗衣裳である。トルボクとは満1歳の誕生日であるトルラルに子供が着用するもので、本資料には色縞（セクトン）袖のカチトゥルマギに戦服（チョンボク）、パジ、印金の幞巾（ポッコン）など男児用一式が認められる。これらに加え、婦人用チマチョゴリ等が附属する。とくに、袖口（クットン）とコルムで裂の色が異なる半回装チョゴリと浅葱色のチマは「朝鮮の佳日（母）」にも共通する。さらに、人形用と思われる小型のピニョ（簪）や戦服、幞巾の印金の指示書も認められ、衣裳一式は制作にあたっての参考資料であったことがうかがえる。 なお、1930年～1940年代に京城に実在した雑貨店「新羅商会」、「朝鮮館」の包み紙が附属する。本資料はこれらの商店で入手されたと考えられる。		

55　名称	黄櫨染束帯雛形（こうろぜんそくたいひながた）	品　　質	綾（絹）、浮織物（絹）など
作 者 等		員　　数	1具
時　　代	昭和時代・20世紀	寸 法 等	袍：幅62.5cm　丈49.5cm　袖幅20.0cm　袖丈23.5cm　袿31.0cm、単：幅48.8cm　丈28.0cm　袖幅13.0cm　袖丈22.5cm　袿24.0cm、袍：幅45.8cm　丈24.5cm　袖幅11.8cm　袖丈22.5cm　袿23.5cm、下襲：幅45.3cm　前丈23.5cm　後丈39.5cm　袖幅11.0cm　袖丈23.0cm　袿23.0cm、大口：丈29.3cm　幅23.5cm、表袴：丈27.5cm　幅27.0cm、沓：長10.0cm　幅4.3cm　高4.2cm
作品概要	江戸時代後期、京都では武家や公家に需要があった有職雛の流れをくむ雛形衣裳で、天皇が即位式に着用する黄櫨染御袍一式である。①桐竹鳳凰麒麟文黄櫨染御袍１領、②白綾地小葵文下襲1領、③緋綾地袖（板引）1領、④緋綾地竪四菱文単1領、⑤白地窠霰文浮織物表袴1腰、⑥紅大口1腰、⑦繧繝錦浅沓1組、以上からなる。公家装束は決められた有職模様を織り出した織物が中心であるが、それらの織模様も雛形用に小さく織り出しており、非常に精巧にできている。		

56　名称	鎧直垂（人形用）（よろいひたたれ（にんぎょうよう））	品　　質	
作 者 等		員　　数	1具
時　　代	昭和40年（1965）	寸 法 等	鎧直垂：丈28.3cm　袿27.5cm、袴：丈31.0cm　幅22.5cm
作品概要	人形用に小さく仕立てられた鎧直垂とその付属品である。武家故実に従って精巧に制作されている。内訳は①赤綾地花唐草模様鎧直垂１具（脚絆1組を含む）、②白地鎧直垂1具（腰当を含む）、③萎烏帽子2頭、④白大口1腰、⑤白足袋1足、⑥紐類8本、である。紙箱蓋表に「昭和四十年三月調　ヨロイ下　着衣」とあるほか、以前は昭和11年第一回帝展に出品した衣裳人形「桜梅の少将」の箱に用いられていたようである。戦中の疎開先だった岡山の住所を付した付箋も付属する。		

57　名称	印（いん）	品　　質	
作 者 等		員　　数	12顆
時　　代	昭和時代・20世紀	寸 法 等	
作品概要	平田郷陽が制作した人形に用いた印である。①ツゲ材文字なし(1.5×1.5)、②ツゲ材朱文方印「人形子郷陽蔵」(1.9×2.0)、③ツゲ材「平」(1.5×1.5)、④ツゲ材朱文長方印「goyo Hirata」(0.7×4.3)、⑤ツゲ材白文長方印「彫装像」(3.3×0.6)、⑥ツゲ材朱文方印「日月」(3.0×0.7)、⑦石材白文方印「郷陽」(1.3×1.0)、⑧石材朱文方印「郷」(1.3×1.3)、⑨ツゲ材朱文方印「こうよう」(1.4×1.3)、⑩ツゲ材朱文梅花形印「平」(1.7×2.5)、⑪ツゲ材朱文方印「郷」(1.8×1.8)、⑫ツゲ材白文方印「無心有楽」(1.1×1.1)。なお、「平」を押した紙袋に印章・文房具店「鶯谷　甲州堂／台東区根岸3-5-1／電話（872）7359」の印が押してあることから、③の印を注文した店である可能性がある。		

58　名称	平田郷陽人形制作資料（ひらたごうようにんぎょうせいさくしりょう）	品　　質	紙本着色
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　　数	5点
時　　代	昭和時代・20世紀	寸 法 等	①権衡図 縦23cm 横15.9cm ； ②スクラップ・ブック 縦26.7cm 横27.8cm ； ③スクラップ・ブック 縦30.7cm 横23.0cm ； ④沢辺の雪　下絵 縦48.6cm 横33.7cm ； ⑤人体図 縦77.0cm 横34.5cm
作品概要	平田郷陽が人形制作に際し使用した資料5点である。内訳は①権衡図1冊、②スクラップブック1冊、③スクラップブック1冊、④額装木彫板絵「沢辺の雪」下絵1枚、⑤人体図2枚、以上である。④以外は、郷陽が人形を制作する際に体の比率や、顔の表情などさまざまな部分の動きを形にするために参考にした資料と考えられる。		

59　名称	三折れ豆人形（みつおれまめにんぎょう）	品　　質	木、胡粉、絹ほか
作 者 等	不明	員　　数	1体
時　　代	江戸時代・19世紀	寸 法 等	高7.5cm
作品概要	京都の土産物として江戸時代後期に発達した御所人形を関節が動くように仕掛けを施した三つ折の衣裳人形である。特に小さいことから豆人形と称する。山繭糸で繻模様を織り出した縮緬の産衣には分厚い紫縮緬の袍が裾と袖口につく。帯は萌黄色の精好である。このように小さくても、衣裳を脱ぎ着できる。平田郷陽が人形制作の参考資料として蒐集したと考えられる。		

60　名称	衣裳人形内裏雛（いしょうにんぎょうだいりびな）	品　　質	木、胡粉、絹ほか
作 者 等	頭部：野口光彦（1896～1977）　衣裳：初代津田蓬玉	員　　数	1組
時　　代	昭和時代・20世紀	寸 法 等	男雛 高27.0cm ； 女雛 高23.5cm
作品概要	御所人形作家・野口光彦が頭を制作し、衣裳人形作家・初代津田蓬玉が衣裳を制作した、内裏雛である。男雛は立纓冠に束帯風、女雛はおすべらかしに髪を結い、平額をつけ、女房装束（唐衣裳、いわゆる十二単）風の出で立ちであるが、いわゆる有職雛ではなく、表着にはきらびやかな金糸入りの錦を用いる。やや下膨れの顔立ちや細い切れ長の目など、古様な表現がみられる。		

61　名称	衣裳人形 海の幸（いしょうにんぎょう うみのさち）	品　　質	木、胡粉、絹ほか
作 者 等	久保佐四郎（1872～1944）作	員　　数	1組
時　　代	昭和39年（1964）	寸 法 等	童子 高31.5cm ； 鯛 幅11cm ； 釣り竿 長さ29.5cm
作品概要	童形1体、鯛、釣り竿からなり、童子が釣り竿で鯛を獲る場面を表わす。江戸時代に流行した京人形の1つ、嵯峨人形の影響を強く受けた木彫に極彩色を施した人形が特徴である。この作品でも、童形の人形が着用する衣裳に嵯峨人形に特徴的な細密な金彩色や、胡粉を盛り上げ青海波や立波文を表わす。		

62　名称	木目込人形 子雀（きめこみにんぎょう こすずめ）	品　　質	木、胡粉、絹ほか
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　　数	1体
時　　代	昭和時代・20世紀	寸 法 等	高27.7cm
作品概要	外形を木彫した上に、胡粉、彩色し、木彫の溝に沿って綾錦を貼り込んだ木目込人形である。垂髪を後ろでまとめた少女が、毬を手にたたずむ姿をとらえている。子どもらしいふっくらした頬や手、上目使いなどを写生的に表現し、子ども特有の肩上げをした着付けや、丈の長い着物を大きくおはしょりを作って着る姿など、子どもの姿や表情を研究し尽くした平田郷陽ならではの視点が感じられる。		

63　名称	生人形女性頭部（いきにんぎょうじょせいとうぶ）	品　　質	木、胡粉、彩色
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　　数	1頭
時　　代	昭和時代・20世紀	寸 法 等	高38.0cm
作品概要	平田郷陽は、江戸時代後期に見世物として流行した生人形を制作する父の後を継ぎ、その初期には生人形師として活動していた。生人形制作に携わっていた頃の作品はほとんど遺されていないが、その貴重な一例と考えられる生人形の頭部である。長い髪を後ろで結い上げた若い女性の頭部で、木彫に胡粉を塗り、彩色して髪は毛植えし、目にはガラスをはめて表現される。このような生人形制作は、その後、芸術としての人形を目指した平田郷陽の人形制作にも強い影響を与えた。		

64　名称	生人形幼児頭部（いきにんぎょうようじとうぶ）	品　　質	木、胡粉、彩色
作 者 等	二代平田郷陽（1903～81）作	員　　数	1頭
時　　代	昭和時代・20世紀	寸 法 等	高24.0cm
作品概要	平田郷陽は、江戸時代後期に見世物として流行した生人形を制作する父の後を継ぎ、その初期には生人形師として活動していた。生人形制作に携わっていた頃の作品はほとんど遺されていないが、その貴重な一例と考えられる生人形の頭部である。坊主頭の幼児を写したもので、木彫に胡粉を塗り、彩色して髪は毛植えし、目にはガラスをはめて表現される。箱書に「勝次郎」とあり、あるいは、実際の幼児をモデルに制作したとも考えられる。このような生人形制作は、その後、芸術としての人形を目指した平田郷陽の人形制作にも強い影響を与えた。		

65　名称	金魚牙彫彩色帯留（きんぎょげちょうさいしきおびどめ）	品　　質	象牙、彩色
作 者 等	安藤緑山作	員　　数	1個
時　　代	昭和時代・20世紀	寸 法 等	縦4.2cm 横6.5cm
作品概要	象牙を彫刻し、写生的に水中を泳ぐ金魚の姿を表わし、金魚の赤い斑文を彩色する。裏面には帯留として使用するため、三分紐を通すための金具が付属する。また、裏面には「緑山」の銘が彫られる。		

66　名称	ほおずき牙彫彩色帯留（ほおずきげちょうさいしきおびどめ）	品　質	象牙、彩色
作 者 等	安藤緑山作	員　数	1個
時　代	昭和時代・20世紀	寸 法 等	縦2.2cm 横5.0cm
作品概要	象牙を彫刻し、写生的に殻が開いた熟れたほおずきと殻を閉じたほおずきを表わし、彩色する。裏面には帯留として使用するため、三分紐を通すための金具が付属する。また、裏面には「緑山」の銘が彫られる。		

67　名称	胡瓜牙彫彩色帯留（きゅうりげちょうさいしきおびどめ）	品　質	象牙、彩色
作 者 等	安藤緑山作	員　数	1個
時　代	昭和時代・20世紀	寸 法 等	縦1.8cm 横4.1cm
作品概要	象牙を彫刻し、写生的に黄色い花が先に残る胡瓜を表わし、彩色する。裏面には帯留として使用するため、三分紐を通すための通し穴が彫られている。また、裏面には「緑山」の銘が彫られる。		

68　名称	福寿草牙彫彩色帯留（ふくじゅそうげちょうさいしきおびどめ）	品　質	象牙、彩色
作 者 等	安藤緑山作	員　数	1個
時　代	昭和時代・20世紀	寸 法 等	縦1.8cm 横4.1cm
作品概要	象牙を彫刻し、写生的に大小2本の福寿草が彫られ、その一方は黄色い花が開くさまを表わし、彩色する。裏面には帯留として使用するため、三分紐を通すための金具がつく。裏面には「緑山」の銘が彫られるが、後代にピンを取り付けてブローチとして使用されたため、銘の一部がピンの金具の内側に隠れている。		

69　名称	柚子牙彫彩色帯留（ゆずげちょうさいしきおびどめ）	品　質	象牙、彩色
作 者 等	安藤緑山作	員　数	1個
時　代	昭和時代・20世紀	寸 法 等	縦2cm 横2.6cm
作品概要	象牙を彫刻し、写生的に黄色く熟れかかる柚子を表わし、彩色する。裏面には帯留として使用するため、三分紐を通すための金具が付属する。また、裏面には「緑山」の銘が彫られる。		

70　名称	丸帯色々裂切継模様（まるおびいろいろぎれきりつぎもよう）	品　質	平絹、相良繍
作 者 等		員　数	1条
時　代	明治時代・19～20世紀	寸 法 等	長さ467cm 幅32.5cm
作品概要	表側にも裏側にも同じ模様を施した丸帯である。木綿地に地模様を型紙で染め、地模様の表面をさまざまな色の絹糸で相良繍や纏繍を施す。帯の模様は名物裂や更紗などの模様を切継にしたようなデザインになっており、切継風の模様も、正平革模様、唐草に雪輪、蜀江錦模様、分銅模様、松皮段更紗模様、鱗形模様、更紗切継模様、青海波模様、松皮菱繋模様、花入襷模様、格天井更紗模様など、11種あまりもあり、それぞれを縫い継いでいる。仕立は袋帯風であるが、表裂の幅が足りなかったためと考えられる。現状では帯の仕立て糸はほつれて失われる。芯がなく、中綿に真綿が薄く敷いてある点は古様な仕立てである。		

71　名称	黒留袖「御所の四季」（くろとめそで「ごしょのしき」）	品　質	縮緬（絹）、友禅染、刺繍
作 者 等	野口眞造（大彦）作	員　数	1領
時　代	昭和30～40年代	寸 法 等	丈 157cm ； 裄 64.5cm
作品概要	江戸時代後期の武家女性が着用した様式的な「茶屋辻」と称される帷子の風景模様を元にデザインされた黒留袖である。黒縮緬に極めて細い糸目糊で四季草花や雲模様を交えた風景模様を白上げにし、その風景模様を透かした御所車を紫に染める。模様全体を白上げであっさりと染める中に、金糸や絹糸による刺繍で色を添えた洒脱な作風は東京友禅の粋な好みを示している。野口家の替え紋である唐花菱の五つ紋が入る。黒留袖の仕立であるため、白地の重ねがつく。八掛にも同様の模様が染められる。右衽に二つ、方印の染め抜き「野口眞造」「大彦染」。		

72　名称	黒留袖「彩貝」（くろとめそでいろどりがい）	品　質	縮緬（絹）、友禅染、刺繍
作 者 等	野口眞造（大彦）作	員　数	1領
時　代	大正～昭和初期	寸 法 等	丈159cm 裄62cm
作品概要	金銀通しの波模様を織り出した縮緬に蛤に花鳥の模様を染めた黒留袖である。蛤の内部の模様には、雉や鴛鴦、松、椿、牡丹、蔦など四季花鳥を友禅染と刺繍で表わす。比翼（裏裾）八掛は表地の織物の地紋に合わせ、友禅染と金糸の刺繍で立波を白上げにし金糸で波模様を表わす。野口眞造の妻、操のために誂えた留袖で、野口家の五つ紋が入る。		

73　名称	黒留袖「鸚鵡のいる風景」（くろとめそでおうむのいるふうけい）	品　質	縮緬（絹）、友禅染、刺繍
作 者 等		員　数	1領
時　代	昭和30～40年代	寸 法 等	丈156.5cm 裄64cm
作品概要	華やかな赤い額縁の中に3羽の鸚鵡が枝にとまる風景を友禅染で染めた黒留袖である。友禅染の色挿しは油絵を描くようにこまやかで、金糸や絹糸の刺繍が加えられる。鸚鵡が額縁の外にあるはずの葡萄の実をついばみ、額の周囲には葡萄の蔓が染められ、西洋風のモダンなデザインは大彦染の特色を示す。野口眞造の6女眞理子の結婚式に妻・操が着用するために誂えたもので、野口家の五つ紋が入る。共八掛にも同様の友禅染が施される。 右衽に二つ、方印の染め抜き「野口眞造」「大彦染」。		

74　名称	色留袖小豆色縮緬地波の丸魚の丸模様（いろとめそであずきいろちりめんじなみのまるさかなのまるもよう）	品　質	縮緬（絹）、友禅染
作 者 等		員　数	1領
時　代	昭和10年代	寸 法 等	丈160.5cm 裄62.0cm
作品概要	礼装用の色留袖で、水玉に波や魚にかたどった丸紋の裾模様を友禅染で染める。華やかさを抑えながらも、共八掛に同様の模様を染め、裏地には紅絹を用いる。野口家の替紋である花菱紋の五つ紋を染める。		

75　名称	訪問着「緑の中のくれない」（ほうもんぎ「みどりのなかのくれない」）	品　質	縮緬（絹）、友禅染、刺繍、金箔
作者等	野口眞造（大彦）作	員　数	1領
時　代	昭和30年代	寸法等	丈154cm 裄64cm
作品概要	刷毛使いと色糊の技術で絵画風に仕上げ、木漏れ日を表現したモダンな風景模様の訪問着である。木漏れ日のような表現の中には、糸目糊だけではなくさまざまな糊の効果を用いて、友禅染にさまざまな風合いを加えていることがうかがえる。洋風の愛らしい花をそめた細かい柄には、糸目糊や色挿しによって、細やかな染色表現が見える。ぼかしを入れた写生的な表現により、裾回りにデザインされた花の模様が着用の際に一層立体的に見える効果を狙っているようだ。右衽に二つ、方印の染め抜き「野口眞造」「大彦染」。		

76　名称	振袖淡紅綸子地桜橘模様（ふりそでうすべにりんずじさくらたちばなもよう）	品　質	綸子（絹）、友禅染、刺繍
作者等	野口眞造（大彦）作	員　数	1領
時　代	昭和10年代	寸法等	丈164cm 裄63cm
作品概要	大きな卍繋ぎの地紋がある綸子を淡い紅色に染め、枝垂桜の樹と、橘の樹を友禅染で染める。樹の幹は一見、摺匹田のようにみえるが、実際は染匹田で1つ1つ糊を置いて白上げにした手の込んだものである。また、紅、紺、桃色などの絹糸や金糸で刺繍が加えられる。八掛にも共裂が用いられ、同様の模様が友禅染で染められる。裏地には紅絹が用いられる。野口家の五つ紋が入り、正装用の振袖だったと考えられる。		

77　名称	訪問着「シャルトルのノートルダム」（ほうもんぎ「しゃるとるののーとるだむ」）	品　質	縮緬（絹）、友禅染、刺繍
作者等	野口眞造（大彦）作	員　数	1領
時　代	昭和40年代	寸法等	丈155.5cm 裄64cm
作品概要	地色の茶の部分と刷毛で描いたような大胆な色糊による染が特徴的な友禅染である。岩肌を思わせる地模様に窓をあけ、シャルトル大聖堂の概観と内部の建物を部分的に友禅染で表わす。建物の表現も筆で描いたような柔らかい表現で染められており、さらに、金彩を加えることで荘重な雰囲気を表現している。右衽に二つ、方印の染め抜き「野口眞造」「大彦染」がある。眞造がフランスを外遊した後に着想を得たデザインと伝わり、背景となる歴史を鑑みて地色も大胆な柄と色をもちいたという。		

78　名称	訪問着「樹立」（ほうもんぎ「こだち」）	品　質	綾（絹）、友禅染、刺繍
作者等	野口眞造（大彦）作	員　数	1領
時　代	昭和40年代	寸法等	丈155.5cm 裄62.0cm
作品概要	イタリアのモザイクに発想を得て、白上げのモザイクとグリーンの筋目を効果的に用いた友禅染の訪問着である。白地のモザイクに微妙なマーブル調のぼかしで入れた黄色やグリーンの色挿しには、特に大彦の職人による高度な技術が見て取れる。黒いモザイクで表現した木立は、壁に映る木立の影のようにも見える。影の部分と、実際の木立の表現の対比もまた、この作品のデザインの面白さである。樹の幹に表された赤い樹皮の刺繍にも細かい技法で模様が施され、モダンな色合いのデザインとなっている。		

79　名称	単衣訪問着淡茶縮緬地睡蓮白鳥模様（ひとえほうもんぎうすちゃちりめんじすいれんはくちょうもよう）	品　質	縮緬（絹）、友禅染、刺繍
作者等	野口眞造（大彦）作	員　数	1領
時　代	昭和20年代	寸法等	丈148cm 裄64.5cm
作品概要	水面の色をあえて淡い茶地にそめ、1羽のみ浮かぶ白鳥を大きく白上げにし、輪郭を筆で描いたように太く表わす。睡蓮は花を白上げにした上で素描風の輪郭線を加え、葉は焦茶色と写生とは異なる色合いを用いることで、モダンさを狙ったものだろう。野口眞造の妻・操の衣装と伝えられる。		

80　名称	訪問着「水のセレナーデ」（ほうもんぎ「みずのせれなーで」）	品　質	縮緬（絹）、友禅染、刺繍
作者等	野口眞造（大彦）作	員　数	1領
時　代	昭和27、28年頃	寸法等	丈148.0cm 裄64.5cm
作品概要	縮緬地に色糊を効果的に用いて、絵具で描いたかのように染める友禅染の技法を用いる。水面に光を映す写真のような柄を友禅染の技法で表現している。色糊を効果的に用い、筆使いを駆使して水面を巧みに染めた、大彦らしい独創的な技術がみられる。背に一つ、前裾に一つ、白百合の花が水面に浮かぶデザインも洒落ている。裏地には淡紅平絹が用いられる。		

81　名称	訪問着「とまり舟」（ほうもんぎ「とまりふね」）	品　質	縮緬（絹）、友禅染、刺繍、金箔
作者等	野口眞造（大彦）作	員　数	1領
時　代	昭和10～20年代	寸法等	丈157.0cm 裄66.5cm
作品概要	大彦初代彦兵衛と親交があった横山大観が、大彦のために描いた絵画「藻刈舟」（藻刈を儲かるにかける）をモチーフに、着物のデザインとして応用した友禅染の訪問着である。肩と裾を濃い藍で暈し染めにし、大粒で空から降りてくる牡丹雪や舟の泊まる水辺の葦の葉には、金箔で小紋箔が施される。小紋箔は江戸時代初期の小袖に流行した技法で、ここにも、大彦染の特徴がみられる。本来は「藻刈舟」であるが、人が表されていないことから「とまり舟」としたと伝わる。右衽に二つ、方印の染め抜き「野口眞造」「大彦染」。襟裏に「三越」のラベルが付属する。		

82　名称	訪問着「インディアンの工芸」（ほうもんぎ「いんでぃあんのこうげい」）	品　質	縮緬（絹）、友禅染、刺繍、金箔
作者等	野口眞造（大彦）作	員　数	1領
時　代	昭和29年頃	寸法等	丈158cm 裄62.5cm
作品概要	アメリカインディアン、ナバホ族を訪ねた時のインディアンの日用品（壺、皿など）からヒントを得たデザインである。当時注目されていなかったナバホ族の工芸はアメリカを訪ねて以後、眞造の関心のひとつであった。紺色に染めた縮緬地に工芸品を落ち着いた色合いの友禅染で染め、その模様の周りは金砂子で幻想的なイメージを表現している。金糸の駒留で模様を繊細に表現し、華やかさを添える。右衽に二つ、方印の染め抜き「眞造統作」「大彦染」。この「統作」とは、野口眞造独自の制作精神を表現する言葉とされ「一人の力によってではなく、織物の制作者や大彦の職人と一体となって1つの作品を作り上げる」という眞造の制作精神から生まれた言葉という。		

83　名称	訪問着「海底美観」（ほうもんぎ「かいていびかん」）	品　　質	縮緬（絹）、友禅染、刺繍、金箔
作 者 等	野口眞造（大彦）作	員　　数	1領
時　　代	昭和35年頃	寸 法 等	丈161.5cm 裄63.5cm
作品概要	樺色に染めた縮緬地を裾にかけて紺の暈し染とし、海底を表わす。褄から裾にかけて、本友禅で海底に泳ぐ美しい魚や珊瑚、海藻などを染め、刺繍を加える。八掛にも共裂を用い、同様の海底模様を染める。裏地は白平絹である。背には、細い金糸の菅繍による野口家の一つ紋（花菱入り木瓜紋）が入る。また、衿先に一つ方印の染抜き「真造統作」がある。 野口眞造氏はこの他にも魚のモチーフの着物を制作しており、現在、国立歴史民俗博物館に所蔵される「単衣　白縮緬地竜宮城模様」（林あやコレクション）も、大彦の可能性がある。		

84　名称	振袖水浅葱縮緬地遠山桜若松紅葉模様（ふりそでみずあさぎちりめんじとおやまざくらわかまつもみじもよう）	品　　質	縮緬（絹）、友禅染、刺繍、金箔
作 者 等	野口眞造（大彦）作	員　　数	1領
時　　代	昭和10年代	寸 法 等	丈161.5cm 裄63.5cm
作品概要	友禅、刺繍、金の小紋箔などを用い、遠山桜、紅葉、若松などを表す。古典柄でありながら、刺繍には昭和初期から戦後にかけて流行した色とりどりのラメ箔の箔糸を、斬新な刺繍技法で用いている。雲模様の内部に施された立涌や七宝繋ぎ、小葵文などの有職風の小紋箔、あるいは、雲の蝙蝠、渦文などの洒落た小紋箔の型押しには、伊勢型紙を使用していると考えられる。小紋箔は江戸時代初期のいわゆる「慶長小袖」に見られる技法であるが、大彦ではオリジナルの模様を用いて、小紋箔で装飾することを１つの特色としていた。裾回しにも模様が染められ、褪色を免れたために、かえって表面より色がよく残る。裏地には紅絹がもちいられる。野口家の五つ紋が入る。		

85　名称	振袖「しのあずり」（ふりそで「しのあずり」）	品　　質	縮緬（絹）、友禅染、刺繍、金箔
作 者 等	野口眞造（大彦）作	員　　数	1領
時　　代	昭和30年代	寸 法 等	丈158cm 裄63.5cm
作品概要	17～18世紀にヨーロッパで流行した「シノアズリー」と称される中国風にデザインされたインド更紗の立木模様を現代風の模様に翻案した、大彦らしい友禅染である。樹の幹には、他の友禅染には見られない特殊な色挿しの表現も見られ、大彦の個性的な友禅染の特徴を今に伝える。大きな立木模様の間には、樹下で楽器を奏でる女性や釣りを楽しむ男性、橋上で待ち人を思う女性や舟に乗る男性といった人物風景模様がさまざまにあらわされ、刺繍や金箔による装飾も細やかに入る。白上げで野口家の花菱入り木瓜紋の五つ紋（女紋）が入り、裾回しにも同様の模様を入れた正装用の振袖である。右衽に二つ、方印の染め抜き「野口眞造」「大彦染」がある。		

86　名称	単衣訪問着「孫過庭の書譜」（ひとえほうもんぎ「そんかていのしょふ」）	品　　質	綾（絹）、友禅染、刺繍
作 者 等	野口眞造（大彦）作	員　　数	1領
時　　代	昭和10年代	寸 法 等	丈152cm 裄62.5cm
作品概要	訪問着とは、近代以降、外出用に普及した着物の1種である。魚々子風の白綾地に、唐時代の書家、孫過庭の『書譜』をもとに、淡い墨色に散らし書きにし、紫陽花に藤の葉を添えた、初夏にふさわしい涼しげなデザインの単衣である。文字散らし模様は江戸時代前期に流行した小袖模様で近代以降の着物には見られないが、野口眞造が古典的なデザインを現代に応用した意図が感じられる。モダンな色使いの友禅染に、金銀糸の刺繍や絹糸の刺繍がきらめきを添える。野口眞造の妻からその長女に譲られた衣装と伝わる。		

87　名称	訪問着白縮緬地衝立鷹模様（ほうもんぎしろちりめんじついたてたかもよう）	品　　質	綾（絹）、友禅染、刺繍
作 者 等	野口眞造（大彦）作	員　　数	1領
時　　代	昭和3年(1928)頃	寸 法 等	丈155.5cm 裄83.5cm
作品概要	大彦初代、彦兵衛が蒐集し、現在、当館が所蔵する「大彦コレクション」の内、「重要文化財 振袖 白縮緬地梅樹衝立鷹模様」（I-3869）を忠実に復元した友禅染の訪問着である。職人の技を駆使して極めて細い糸目糊を置き、鷹の羽一つ一つに至る丁寧な色挿しは精密を極めた作品となっている。友禅染のほかにも、衝立の梅の花などは紅糸や金糸による刺繍がオリジナルと同様に施され、ところどころに配される周辺の地ににじむように広がる紫色の部分は、江戸時代の雛形本で「つかみ染」と記され、現在「爆弾染」と呼ばれる特殊な絞り染によってあらわされる。特にこの技法は、現在では復元が難しいといわれている特殊な技術である。復元作品は当時の天然染料で染めたものであると伝えられる。 江戸時代の逸品を現代の技術で忠実に表現し、現物と全く遜色のないものに仕上げられ、当時いかに野口眞造率いる大彦の技術が優れていたかを証明するものである。		

88　名称	訪問着染分縮緬地住吉風景模様（ほうもんぎそめわけちりめんじすみよしふうけいもよう）	品　　質	縮緬（絹）、友禅染、刺繍
作 者 等	野口眞造（大彦）作	員　　数	1領
時　　代	昭和3年(1928)頃	寸 法 等	丈156cm 裄65cm
作品概要	大彦初代彦兵衛が蒐集し、当館に所蔵される小袖コレクション「大彦コレクション」の内、「帷子 白麻地住吉浦風景模様」（I-3955）の模様を写した友禅染訪問着である。松原の間に三つの屋根が連なる社殿・鳥居・塩釜などが見えることから、大阪の住吉の浦を表わす。原本は帷子（麻地の単仕立）であるが、本品は模様を原本に忠実に写しているものの、縮緬地に友禅染の技法を用いて糸目糊を置き、色挿しを施した袷仕立となっている。また、色彩を褪色した原品よりも鮮やかに復元することで、かつての美しさを伝える作品となっている。糸目糊は極めて繊細で、江戸時代の友禅染の最盛期の技を残す原品を今によみがえらせる、大彦の高い技術を伝えるものである。		

89　名称	訪問着染分縮緬地花の丸模様（ほうもんぎそめわけちりめんじはなのまるもよう）	品　　質	縮緬（絹）、友禅染、刺繍
作 者 等	野口眞造（大彦）作	員　　数	1領
時　　代	昭和3年(1928)頃	寸 法 等	丈155.5cm 裄65.0cm
作品概要	大彦初代・彦兵衛が蒐集し、現在当館に所蔵される小袖コレクション「大彦コレクション」の内、「小袖　鬱金綸子地染分花の丸模様」（I-3878）を復元した訪問着である。縮緬を鬱金色に染め、紅鹿の子、浅葱鹿の子、紫鹿の子など本鹿の子絞りによる染め分けをし、絹糸や金銀糸の刺繍で花の丸紋を表す。花の丸は、桐、菖蒲、葵、藤、松などさまざまである。花の丸模様は、江戸時代前期から中期にかけて、宮崎友禅は扇絵に描いたことが流行になり、その後、和の模様を代表する意匠となった。原品は褪色で色がかなり失われているが、本品は鮮やかな色彩も復元によってよみがえらせている。		

90　名称	訪問着萌黄縮緬地南天松皮菱模様（ほうもんぎもえぎちりめんじなんてんまつかわびしもよう）	品　　質	縮緬（絹）、友禅染
作 者 等	野口眞造（大彦）作	員　　数	1領
時　　代	昭和3年(1928)頃	寸 法 等	丈154.5cm 裄61.5cm
作品概要	大彦の初代彦兵衛が蒐集し、現在当館に所蔵される小袖コレクション「大彦コレクション」の内、「小袖 紫萌黄染分縮緬地南天菊垣模様」（I-3974）を元に友禅染で模様を染めた中振袖である。原品は友禅染の小袖で紋付となっているが、それを、振袖として染める。デザインも訪問着にふさわしく、原品と大きく異なる部分として、肩の部分に松皮菱を紫のぼかしで染めている。野口眞造は、江戸時代のデザインを現代風にアレンジして染めることも得意とした。現状は仮縫い仕立てであることから、実際に着用したかは不明である。小札「大彦［朱文印］　小袖　松皮に南天文様」、裏に墨書あり「南天二松皮　訪問ギ」、また染抜きの印形「大彦染」がある。 南天は「難を転ずる」と言われ、日本では吉祥模様として好まれた。特に、悪い夢から目覚めた時、南天の樹の前で「摸喰え」と3回唱えると厄を払うことができるという俗説があることから、枕や夜着の意匠に好まれた模様であった。		

91　名称	訪問着紅縮緬地鳥兜紅葉模様（ほうもんぎべにちりめんじとりかぶともみじもよう）	品　　質	縮緬（絹）、友禅染、刺繍
作 者 等	野口眞造（大彦）作	員　　数	1領
時　　代	昭和3年(1928)頃	寸 法 等	丈153.5cm 裄63.0cm
作品概要	大彦初代彦兵衛が蒐集し、現在は当館に所蔵される小袖コレクション「大彦コレクション」の内、「小袖　紅縮緬地鳥兜紅葉模様」（I-3887）を復元した訪問着である。原品は刺繍のみですべての模様を表しているが、この作品では、友禅染を本領とする大彦にふさわしく、友禅で鳥兜、紅葉の一部を表現し、それに彩を添えるように金糸や絹糸で刺繍を加えている。右衽に二つ、方印の染め抜き「野口眞造」「大彦染」が入る。 雅楽で使用する鳥兜と呼ばれる帽子と、色づき始める紅葉を散らした模様を刺繍で表した小袖。「鳥兜」と「紅葉」の模様は『源氏物語』の「紅葉賀」の巻を暗示する。江戸時代の小袖模様に好まれたモティーフの１つである。		

92　名称	訪問着染分綸子地手綱歌文字模様（ほうもんぎそめわけりんずじたずなうたもじもよう）	品　　質	綸子（絹）、友禅染、刺繍
作 者 等	野口眞造（大彦）作	員　　数	1領
時　　代	昭和3年(1928)頃	寸 法 等	丈155.0cm 裄65.0cm
作品概要	大彦初代彦兵衛が蒐集し、現在、当館の所蔵となる小袖コレクション「大彦コレクション」の内、「小袖　白綸子地斜縞歌文字模様」（I-3870）を元に復元的に制作された訪問着である。オリジナルの作品は、江戸時代前期の男性の衣装で背面および前面には鹿の子絞りや金糸・色糸の刺繍で文字模様が入り『拾遺和歌集』巻第8・雑上、斎宮女御の歌「琴の音に峯の松風かよふらし　いづれの緒よりしらべそめけむ」と読める。大胆な斜縞は「左巻」と称され、貞享～元禄期の小袖雛形本に見られる。この衣装は、菊花紋の綸子地に、絞りではなく友禅染で斜めの手綱模様を染め、金銀糸や紅の刺繍を加える。鹿の子絞りの模様もまた、絞りではなく染匹田（友禅染）で表現する。訪問着としてバランスを考慮し、文字模様もオリジナルよりは少なく染められている。衽に二つ、方印形の染抜き「真造統作」「大彦染」がみられる。		

93　名称	単衣振袖淡紅絽地御簾に冊子杜若模様（ひとえふりそでうすべにろじみすにさっしかきつばたもよう）	品　　質	絽（絹）、友禅染、刺繍
作 者 等	大彦作	員　　数	1領
時　　代	大正時代	寸 法 等	丈160cm 裄63cm
作品概要	鮮やかなピンクを裾に掛けて濃く地色を染めた絽に、明治～大正期に流行した光琳模様のリバイバル模様を思わせる杜若の模様を友禅染で染める。風に舞う御簾や冊子もまた、戦前に流行した元禄模様を彷彿とさせる。絹の薄物である絽で仕立てられた夏の単衣の振袖であることから、結婚前の若い女性が着用したものであろう。金銀の刺繍や箔がきらめきを添える。現代よりも大きめの五つ紋（縦3.8×横3.7cm）を施していることから、明治後期から大正期に用いられたものと考えられる。		

94　名称	単衣振袖染分縮緬地蝶源氏香模様（ひとえふりそでそめわけちりめんじちょうげんじこうもよう）	品　　質	絽（絹）、友禅染、刺繍
作 者 等	野口眞造（大彦）作	員　　数	1領
時　　代	昭和3年(1928)頃	寸 法 等	丈153cm 裄61.5cm
作品概要	大彦初代彦兵衛が蒐集し、現在は当館に所蔵される小袖コレクション「大彦コレクション」の内、「帷子 白紅染分麻地秋草源氏香蝶模様」（I-3960)を復元的にデザインした中振袖の単衣である。原品は麻地の帷子であるが、この衣装は、絹縮を淡い紅と白地に染め分け、友禅染にして単仕立てにした夏の単衣である。さらに、金糸や絹糸で刺繍を加えて華やかさを添えている。		

95　名称	単衣クリーム色絽地パンジー模様（ひとえくりーむいろろじぱんじーもよう）	品　　質	絽（絹）、型友禅
作 者 等	大彦作	員　　数	1領
時　　代	大正時代・20世紀	寸 法 等	丈151.5cm 裄62.5cm
作品概要	呉服商大彦は本来、手描き友禅染が本業であったが、その一方で、機械を導入した染工場も経営し、型友禅や捺染による長板中形染などの大量生産も実験的に手掛けていた。特に大正期には、初代彦兵衛の息子であった功造・眞造兄弟は型友禅の開発に力を入れた。眞造は、着物を気軽に着られるように、大量生産の着物もあってよいと考えていた。 本品はその一例である。着物のデザインとしては珍しいパンジーの模様を斜めに配し、夏向けの薄物の絽に染めた型友禅の単衣である。型送り(一つの型模様の長さ)は、48.3cmあまりである。		

96　名称	着物白縮緬地バティック切継模様（きものしろちりめんじばていっくきりつぎもよう）	品　　質	縮緬（絹）、型友禅
作 者 等	大彦作	員　　数	1領
時　　代	昭和20年代	寸 法 等	丈149.0cm 裄61.5cm
作品概要	呉服商大彦は本来、手描き友禅染が本業であったが、その一方で、機械を導入した染工場も経営し、型友禅や捺染による長板中形染などの大量生産も実験的に手掛けていた。本品はその一例である。 表地はインドネシア・ジャワ島北部のバティック模様に影響を受けたさまざまな模様をつないで型で染めた、型友禅の着物である。眞造氏が戦中に、インドネシア・ジャワに赴き、バティックの技術を研究した影響がうかがえる。型送り（1つの型模様の長さ）は58.0cmあまりである。		

97　名称	着物赤縮緬地立涌花鳥更紗模様（きものあかちりめんじたてわくかちょうさらさもよう）	品　　質	縮緬（絹）、型友禅
作 者 等	大彦作	員　　数	1領
時　　代	昭和30年代	寸 法 等	丈151cm 裄63cm
作品概要	呉服商大彦は本来、手描き友禅染が本業であったが、その一方で、機械を導入した染工場も経営し、型友禅や捺染による長板中形染などの大量生産も実験的に手掛けていた。本品はその一例である。 表地には、インド更紗をイメージした赤地にやはりインド更紗の影響をうけたと考えられる花鳥模様が型友禅で染められる。型送り（1つの型模様の長さ）は26.5cmあまりである。初代彦兵衛は「更紗きちがい」と称されるほどに更紗を蒐集し「大彦コレクション」には「彦根更紗」が含まれるが、2代目である野口眞造もまたインド更紗への関心が深く、これ以外にも型友禅の着物や帯の例が遺されている。		

98　名称	着物染分縮緬地更紗切継模様（きものそめわけちりめんじさらさきりつぎもよう）	品　　質	縮緬（絹）、型友禅
作 者 等	大彦作	員　　数	1領
時　　代	昭和30年代	寸 法 等	丈160.5cm 裄63cm
作品概要	呉服商大彦は本来、手描き友禅染が本業であったが、その一方で、機械を導入した染工場も経営し、型友禅や捺染による長板中形染などの大量生産も実験的に手掛けていた。本品はその一例である。 表地には、初代彦兵衛が蒐集し、当館に所蔵される「彦根更紗」からモティーフを採用したと思われる様々な種類のインド更紗を切り継ぎ風にデザインし、型友禅で染められる。型送り（1つの型模様の長さ）は37cmあまりである。初代彦兵衛は「更紗きちがい」と称されるほどに更紗を蒐集し「大彦コレクション」には「彦根更紗」が含まれるが、2代目である野口眞造もまたインド更紗への関心が深く、これ以外にも型友禅の着物や帯の例が遺されている。		

99　名称	着物芥子色縮緬地笹鳥熨斗蝶模様（きものからしいろちりめんじささどりのしちょうもよう）	品　　質	縮緬（絹）、中形染
作 者 等	大彦作	員　　数	1領
時　　代	昭和30年代	寸 法 等	丈157cm 裄62.5cm
作品概要	呉服商大彦は本来、手描き友禅染が本業であったが、その一方で、機械を導入した染工場も経営し、型友禅や捺染による長板中形染などの大量生産も実験的に手掛けていた。本品はその一例である。本品は地色を芥子色一色に染め、有職模様から派生した熨斗蝶や笹鳥の模様を中形風に白上げにしたデザインである。		

100　名称	茶縛絣紬地筒袖羽織（ちゃよこがすりつむぎじつつそでばおり）	品　　質	紬（絹）、型友禅、刺繍
作 者 等	大彦作	員　　数	1領
時　　代	昭和30年代	寸 法 等	丈68cm 裄88cm
作品概要	茶の濃淡で縛絣が入った紬地で仕立てられた男羽織である。作業がしやすいように通常の羽織と異なり、袂がない筒袖の仕立てになっており、野口眞造が独自にデザインし、好んで用いたという。男羽織の特徴の一つは表とは異なりさまざまな意匠を凝らした裏地にあり、この裏地にも大彦染に特徴的な型友禅の更紗が用いられている。更紗模様は唐子、葡萄蔓、山鵲など、日本輸出向け更紗やシノワズリー調のインド更紗に用いられてきた模様をもとにデザインされている。背中心に野口家の花菱木瓜紋が縫紋で施される。		

101　名称	紺紬地筒袖羽織（こんつむぎじつつそでばおり）	品　　質	紬（絹）、描絵、刺繍
作 者 等	大彦作	員　　数	1領
時　　代	昭和30年代	寸 法 等	丈94cm 裄72.5cm
作品概要	紺紬地で仕立てられた男羽織である。作業がしやすいように通常の羽織と異なり、袂がない筒袖の仕立てになっており、野口眞造が独自にデザインし、好んで用いたという。男羽織の特徴の一つは表とは異なりさまざまな意匠を凝らした裏地にあり、この裏地には大淡彩で秋草風景模様が描かれている。		

102　名称	単衣白絽地パンジー模様（ひとえしろろじぱんじーもよう）	品　　質	絽（絹）、型友禅
作 者 等	大彦作	員　　数	1領
時　　代	昭和30年代	寸 法 等	丈146cm 裄62.5cm
作品概要	大正期に野口功造・眞造兄弟が開発に力を入れてきた量産を目指した型友禅を戦後にリバイバルさせる形で制作された型友禅の単衣である。夏の薄物である絽に型友禅で染めたパンジー模様は、大正期に制作されたものに比較して青系の濃淡で落ち着いた色使いであるが、花の模様はより密に表わされ蔓模様になっている。		

103　名称	単衣染分紬地遠州綴子模様（ひとえそめわけつむぎじえんしゅうどんすもよう）	品　　質	紬（絹）、型友禅
作 者 等	大彦作	員　　数	1領
時　　代	昭和30年代	寸 法 等	丈144cm 裄63.5cm
作品概要	紬に遠州綴子の模様を染めた、型友禅の単衣である。遠州模様とは、江戸時代前期の茶人・小堀遠州(1579～1647)が好んだ中国渡りの「遠州緞子」と呼ばれる石畳模様の緞子にちなんだ模様である。江戸時代後期に小袖や帯の模様に好まれるようになり、大彦初代彦兵衛が蒐集した当館所蔵の「大彦コレクション」の中にも、野口眞造寄贈による「小袖 黒綸子地遠州模様」（I-3985)がある。この型友禅の単衣もまた、大彦コレクションに発想を得てデザインされたものと考えられる。四辺をやや波立たせた石畳模様を白・鶯色・芥子色の三色に染め分けているが、石畳の内部には蓮、牡丹、菊、銭形などの模様を表わした、典型的な遠州模様である。型送り(一つの型模様の長さ)は19.0cmあまりである。		

104　名称	名古屋帯染分平絹地変わり菱花弁更紗模様（なごやおびそめわけへいけんじかわりびしかきさらさもよう）	品　　質	平絹、型友禅
作 者 等	大彦作	員　　数	1領
時　　代	昭和30年代	寸 法 等	全長357cm 幅30.4cm
作品概要	呉服商大彦は本来、手描き友禅染が本業であったが、その一方で、機械を導入した染工場も経営し、型友禅や捺染による長板中形染などの大量生産も実験的に手掛けていた。本品はその一例である。 名古屋帯とは、お太鼓結びが簡便にできるように仕立てられた日常向けの帯である。その帯地には、インド更紗に特徴的な花弁模様をさまざまに組み合わせ、日本の帯模様に合うように型友禅で染めた帯である。型送り(一つの型模様の長さ)は62.0cmあまりである。初代彦兵衛は「更紗きちがい」と称されるほどに更紗を蒐集し「大彦コレクション」には「彦根更紗」が含まれるが、2代目である野口眞造もまたインド更紗への関心が深く、これ以外にも型友禅の着物や帯の例が遺されている。		

105　名称	羽織染分縮緬地立涌手鞠模様（はおりそめわけちりめんじたてわくてまりもよう）	品　　質	縮緬（絹）、型友禅
作 者 等	大彦作	員　　数	1領
時　　代	昭和30年代	寸 法 等	丈82cm 裄62.5cm
作品概要	型友禅で絞り風の模様をあらわした女性用の羽織である。立涌模様は縫締絞り風に輪郭に絞りのアシを表現し、紫と鼠色という大胆な配色で染め分ける。大小二つの手鞠を組み合わせた模様の内部にも鹿の子絞り風の模様を型友禅で表わす。大きな赤い手鞠には宝尽模様をあらわした帯がデザインされ、一方の小さな手鞠には花唐草模様をあしらう。華やかで愛らしいデザインは、若い少女の衣装と考えられる。裏地にも熨斗橘模様を染めた型友禅の絹地が用いられる。羽織紐が付属する。		

106　名称	羽織黒縮緬地木の葉湖畔模様（はおりくろちりめんじこのはこはんもよう）	品　　質	縮緬（絹）、友禅染
作 者 等	野口眞造（大彦）作	員　　数	1領
時　　代	昭和30年代	寸 法 等	丈79cm 裄63.5cm
作品概要	女性用の羽織である。縮緬を黒味がかった藍色に染め、裾あたりに水面と思われる水の揺らぎを表わす。肩を覆うように樹木の枝を無線友禅で影のように染め、繁る葉の上に雪が降り積もり、枝がしな垂れる様を表わす。右肩に赤と黄に紅葉した葉を大きく友禅染で染めた、大彦染らしいモダンなデザインである。		

107　名称	丸帯萌黄綾地花丸尾長鳥丸八藤菱模様（まるおびもえぎあやじはなのまるおながどりのまるやつふじびしもよう）	品　　質	綾（絹）、刺繍
作 者 等	大彦作	員　　数	1領
時　　代	昭和3年(1928)頃	寸 法 等	全長411cm 幅31cm
作品概要	丸帯とは、広幅の1反の織物を縦に半分に折り輪にして、表も裏も共裂で仕立てられた本式の帯のことである。本品は有職模様の一つ、雲立涌模様を6枚綾で地紋に織り出し、唐織の様に絵緯糸で白い尾長鳥丸と紫の八藤菱を織り出した絹織物に、さらに南天、菖蒲、藤などの花の丸模様を刺繍で散らした、豪華な帯である。「訪問着　染分綸子地手綱歌文字模様」に合わせる帯として制作されたものと伝わる。		

108　名称	袋帯黒塩瀬地雲地紙桐傘散模様（ふくろおびくろしおぜじくもじがみきりかさちらしもよう）	品　　質	塩瀬（絹）、友禅染、刺繍
作 者 等	野口眞造（大彦）作	員　　数	1領
時　　代	昭和初期	寸 法 等	全長384cm 幅31.5cm
作品概要	袋帯は丸帯よりはやや略礼装化された形式の帯で、表地と裏地の模様や絹地が異なる。この帯は、表地に柳の枝と変わり鶴菱を染めた雲模様、四季草花を入れた地紙模様、雪持ちの傘や桐の模様を散らした友禅染で、金糸や絹糸の刺繍が加えられる。さらに、江戸小紋の工房・小宮家のものと考えられる江戸小紋（藤色地極鮫小紋）を用いた豪華な帯である。方印を白く染め抜いた「大彦染」の落款がある。		

109　名称	丸帯染分塩瀬地氷割光琳模様（まるおびそめわけしおぜじひわれこうりんもよう）	品　　質	塩瀬（絹）、友禅染、刺繍、銀箔
作 者 等	野口眞造（大彦）作	員　　数	1条
時　　代	大正時代	寸 法 等	全長392cm 幅30.5cm
作品概要	丸帯とは、広幅の1反の織物を縦に半分に折り輪にして、表も裏も共裂で仕立てられた本式の帯のことである。本品は、塩瀬地を藍、鼠色、紫などに染め分け、友禅染で明治～昭和初期に断続的に流行の波があった光琳模様で、梅・鶴・竹・鹿・流水などを白上げにする。さらに、鼠色の染料で暈しをいれたり、氷割模様の輪郭や波の渦に沿って銀糸で駒繍を加えたり、絹糸で鶴に陰影をつけた刺繍を施す。付属する畳紙に「大彦塩瀬丸帯」「松坂屋文化帯」と記される。		

110　名称	単衣白平絹地花丸模様（ひとえしろへいけんじはなのまるもよう）	品　　質	平絹、型染（大形）
作 者 等	大彦作	員　　数	1領
時　　代	昭和時代・20世紀	寸 法 等	丈136cm 裄55cm
作品概要	呉服商大彦は本来、手描き友禅染が本業であったが、その一方で、機械を導入した染工場も経営し、型友禅や捺染による長板中形染などの大量生産も実験的に手掛けていた。江戸時代には大柄な模様を型紙を用いて染めた「大形」があったが、本品は白地藍の大形染風に染めた単衣である。大小さまざまな花の丸模様を散らした浴衣風のデザインである。他にも白地藍の型染風に染めた単衣の着物が遺されており、量産の開発を手掛けた時代の例の１つであると考えられる。		

111　名称	単衣中振袖白平絹地孔雀羽根模様（ひとえちゅうぶりそでしろへいけんじくじゃくばねもよう）	品　　質	平絹、型染（大形）
作 者 等	大彦作	員　　数	1領
時　　代	昭和時代・20世紀	寸 法 等	丈137cm 裄58.5cm
作品概要	呉服商大彦は本来、手描き友禅染が本業であったが、その一方で、機械を導入した染工場も経営し、型友禅や捺染による長板中形染などの大量生産も実験的に手掛けていた。江戸時代には大柄な模様を型紙を用いて染めた「大形」があったが、本品は白地藍の大形染風に染めた単衣である。華やかな孔雀羽根の模様を散らした浴衣風のデザインで、若い女性向けの中振袖に仕立ててある。他にも白地藍の型染風に染めた単衣の着物が遺されており、量産の開発を手掛けた時代の例の１つであると考えられる。		

112　名称	単衣白縮緬地破れ七宝繋蝶模様（ひとえしろちりめんじやぶれしっぽうつなぎちょうもよう）	品　　質	平絹、型染（中形）
作 者 等	大彦作	員　　数	1領
時　　代	昭和時代・20世紀	寸 法 等	丈145cm 裄61cm
作品概要	呉服商大彦は本来、手描き友禅染が本業であったが、その一方で、機械を導入した染工場も経営し、型友禅や捺染による長板中形染などの大量生産も実験的に手掛けていた。江戸時代には小紋よりは模様が大振りな模様を型紙を用いて染めた「長板中形」という白地藍の染物があったが、本品は中形染風に染めた単衣である。七宝模様を連続させて七宝繋ぎ模様の所どころに隙間を設けた「破れ七宝模様」を小さな蝶の群れで囲んだ浴衣風のデザインである。他にも白地藍の型染風に染めた単衣の着物が遺されており、量産の開発を手掛けた時代の例の一つであると考えられる。		

113　名称	単衣白格子織地波碇模様（ひとえしろこうしじなみいかりもよう）	品　　質	格子織（絹）、型染（中形）
作 者 等	大彦作	員　　数	1領
時　　代	昭和時代・20世紀	寸 法 等	丈149cm 裄63cm
作品概要	呉服商大彦は本来、手描き友禅染が本業であったが、その一方で、機械を導入した染工場も経営し、型友禅や捺染による長板中形染などの大量生産も実験的に手掛けていた。江戸時代には小紋よりは模様が大振りな模様を型紙を用いて染めた「長板中形」という白地藍の染物があったが、本品は中形染風に染めた単衣である。渦を巻く波模様の中に碇の模様を散らした粋な浴衣風のデザインである。他にも白地藍の型染風に染めた単衣の着物が遺されており、量産の開発を手掛けた時代の例の一つであると考えられる。		

114　名称	単衣白絽地草花風景模様（ひとえしろろじくさばなふうけいもよう）	品　　質	絽（絹）、型染（中形）
作 者 等	大彦作	員　　数	1領
時　　代	昭和時代・20世紀	寸 法 等	丈153cm 裄65cm
作品概要	呉服商大彦は本来、手描き友禅染が本業であったが、その一方で、機械を導入した染工場も経営し、型友禅や捺染による長板中形染などの大量生産も実験的に手掛けていた。本品は、江戸時代後期の武家女性が夏季に着用した「茶屋辻」と称される帷子の染模様を型友禅で表わした単衣である。白絽地に藍の濃淡で、松、笹、梅、桜、菖蒲、河骨、葦、撫子、萩、菊、秋草、紅葉といった四季草花の模様を染める。		

115　名称	干支飾布（えとかざりぬの）	品　　質	平絹、型友禅
作 者 等	大彦作	員　　数	19枚
時　　代	昭和30～40年代	寸 法 等	各縦31.5cm 横36cm
作品概要	大彦染が手掛けた型友禅の技法で木綿に干支を染めた飾布である。その年の干支に合わせて添えられ、年始の挨拶回りに配ったものであろう。鼠2種、牛2種、虎2種3枚、兎2種、龍2種、蛇2種、馬1種、羊1種、猿1種、鶏1種、犬1種、猪1種の計19枚である。それぞれ包紙が付属し、その表には飾り布の名称を印字し、熨斗を貼り「大彦染繍研究所」の朱文方印を捺す。		

116　名称	大彦染見本（だいひこそめみほん）	品　　質	木綿、型染（形友禅・中形）
作 者 等	大彦作	員　　数	9枚
時　　代	大正～昭和初期	寸 法 等	① 縦35cm 横42.2cm ； ② 縦34.5cm 横43.1cm ； ③ 縦35.5cm 横41.7cm ； ④ 縦36.2cm 横40.2cm
作品概要	夏の浴衣用に染め、各百貨店で「大彦染」のブランドで販売するために作られたサンプルである。型友禅あるいは中形染で染められる。それぞれ以下の4種である。①正藍趣味ゆかた／大彦染／髙島屋特選：紺木綿地松秋草模様（3枚）②大彦染／正藍中形／そごう別染：浅葱木綿地大格子模様（3枚）③大彦染／玉藍ゆかた／大丸別染：鶯色木綿地松竹梅模様（2枚）④趣味の中形／三越製／大彦士工：藍木綿地撫子藤袴模様（1枚）。		

117　名称	白木綿地波鯉模様裂（しろもめんじなみこいもようぎれ）	品　　質	木綿、型染（中形）
作 者 等	大彦作	員　　数	1枚
時　　代	大正～昭和初期	寸 法 等	長さ123cm 幅34cm
作品概要	呉服商大彦は本来、手描き友禅染が本業であったが、その一方で、機械を導入した染工場も経営し、型友禅や捺染による長板中形染などの大量生産も実験的に手掛けていた。江戸時代には小紋よりは模様が大振りな模様を型紙を用いて染めた「長板中形」という白地藍の染物があったが、本品は江戸時代後期の長板中形にもみられるような波鯉模様を復元的に染めようと試みた例である。木綿地に本藍で両面染を試みたもので、高い技術がうかがえる。染始めに「登録商標［大彦締の印］東京大彦染」の染め抜き文字が見られる。		

＜考古＞(1件)

118　名称	中細形銅戈　（なかぼそがたどうか）	品　　質	青銅製
作 者 等	出土地不詳	員　　数	1個
時　　代	弥生時代(中期)・前2～前1世紀	寸 法 等	全長25.2cm 胡幅7.9cm 内幅1.7cm 内長1.6cm 胡最大厚1.2cm 重さ161cm
作品概要	銅戈は柄に直角に着柄する刺突用の武器で、弥生時代中期に朝鮮半島より先行する型式の細形銅戈が伝来した。細形銅戈は実用的な武器であったが、次第に大形かつ扁平で非実用的な祭器へと変化することが知られている。本例は、薄手ながらも実用的な刃部を持つ特徴から中細形銅戈に該当する。九州地方北部では中細形銅戈の段階より鋳型の出土数が急増することが知られ、本例は銅戈の定着と生産の本格化の指標となる重要な作品である。		

＜東洋絵画＞(1件)

119　名称	文字絵屏風（もじえびょうぶ）	品　　質	（画）紙本墨画淡彩、（書）紙本墨書
作 者 等		員　　数	10曲1隻
時　　代	（画）朝鮮時代・19～20世紀、（書）大韓帝国・光武5年（1901）	寸 法 等	（画）各86.8cm×32.5cm、（書）各87.8cm×32.5cm
作品概要	10曲1隻。屏風（衝立）表装は当初のものと推測される。表に画10扇、裏に書8扇。画は、儒教の徳目である、孝、悌、忠、信、礼、義、廉、恥の各字を絵画化し、関連の図像を散りばめた文字絵。書はおそらくその解説。		

＜東洋書跡＞(7件)

120　名称	摶人余土硯（たんじんよどけん）	品　質	石製（澄泥石）
作 者 等	銘：呉昌碩（1844～1927）、呉丹姮筆	員　数	1面
時　代	清時代・17～19世紀、[呉昌碩銘]中華民国6年（1917）	寸 法 等	縦11.7cm 横13.8cm 高2.7cm
作品概要	江蘇省蘇州市の霊巌山で採取される　嶲村石のような、澄泥と称される自然石を加工した澄泥硯。澄泥硯は、もとは陶硯の一種と伝わるが、清時代に自然石の硯がこの名で流通したと言う。石色は鱔魚（タウナギ）の体色に似た、鱔魚黄という黄褐色。器形は石材の自然な形状を生かした天成硯（天然硯）と称される形式。清末民国期、沈石友の所蔵時に、呉昌碩・呉丹姮父子の銘が硯背に刻された。呉昌碩銘の「摶人余土。元気万古。」（古代神話の女神、女媧が黄土を摶めて人を創ったという伝説上の土の残余で作られたかのように、万物の源となる元気が永遠に具わる。）の句から、「摶人余土硯」と称される。沈石友輯、沈若懐編『沈氏研林』収録。		

121　名称	双鷺硯（そうがけん）	品　質	石製（端渓石）
作 者 等	銘：邵士賢、呉昌碩（1844～1927）筆	員　数	1面
時　代	清時代・17～19世紀、[邵士賢銘]清時代・同治7年（1868）、	寸 法 等	縦10.8cm 横7.2cm 高1.0cm
作品概要	広東省西方の端渓で採取される端渓石を加工した端渓硯。器形は長方形に、硯面は矩形に作り、硯縁には渦状の文様をコ字に施す。硯背は薄く圏足を巡らして、雲が漂う空の下に2羽の鷺鳥が池で泳ぐ図様を彫刻する。硯背には「双鷺硯」と題する邵士賢の銘（同治7年、1868）があり、硯側には沈石友の五言絶句の題詩を呉昌碩が書写した銘がある。邵士賢銘は、譚竹渓がこの硯を作り、同治年間に馮霞軒が停雲館で得たという。その後、沈石友が入手して、呉昌碩の銘が刻された。沈石友輯、沈若懐編『沈氏研林』収録。		

122　名称	草書家書横披（そうしょかしょおうひ）	品　質	彩箋本墨書
作 者 等	呉昌碩（1844～1927）筆	員　数	1面
時　代	清時代・光緒29年（1903）	寸 法 等	本紙 縦23.2cm 縦12.6cm ； 封筒 縦15.7cm 横14.8cm ； 表装 縦36.0cm 横(全長)178.0cm
作品概要	横披装。呉昌碩が次子の呉涵に宛てた書簡。魚の画像塼の図様を刷った呉昌碩特製の便箋7枚に、妻で呉涵の母である施酒（1848～1917）のことなどについて書写され、封筒とともに合装される。封筒の消印（1903年）から、呉昌碩60歳、呉涵28歳時の作とわかる。外題簽に「呉昌碩家書」（家書は家族への書簡）とある。		

123　名称	蠅頭書冊「耆儒澄鑑」（ようとうしょさつ　きじゅちょうかん	品　質	紙本墨書
作 者 等	翁方綱（1733～1818）等全23家筆	員　数	1帖
時　代	清時代・乾隆57～60年（1792～95）	寸 法 等	本紙（一扇） 縦7.1cm 横4.2cm
作品概要	帖装。翁方綱をはじめとする清朝乾隆期の進士17名を含む全23名の諸家が、秋浦なる人物の求めに応じて、名跡の臨書や跋語等を書写した一帖。各家、蠅頭の書（蠅の頭に例えられる極小の書）で書写し、特製とみられる極小の印を捺す。帖首には伊秉綬による玉箸篆の題字「耆儒澄鑑」（「老儒の秋浦先生、ご高覧ください」の意）があり、帖末には周三燮と戴熙の識語、筆者不詳の篆書の題箋「寸心妙画」が付される。		

124　名称	行書遊天池詩巻（ぎょうしょゆうてんちしかん）	品　質	紙本墨書
作 者 等	文徴明（1470～1559）筆	員　数	1巻
時　代	明時代・嘉靖17年(1538)	寸 法 等	（本紙）縦31.3cm 横505.6cm
作品概要	巻子装。文徴明が蘇州(江蘇省)の天池山に遊んだ際に詠んだ七言古詩を蔵経紙に自書した一巻。款記により、文徴明は40歳時(1509)にこの「遊天池詩」を詠み、69歳時(1538)に上質の紙を得たので、旧作の本詩を揮毫したことが知られる。文徴明が得意とした北宋の黄庭堅風の大字行書で記され、この種の様式の代表的な作例の一つである。明の文徴明(1470～1559)、清末民国期の羅振玉(1866～1940)の跋文と羅振玉の外題簽を付す。清末の孔広陶(1832～90)の跋を賦す。		

125　名称	草書唐詩巻（そうしょとうしかん）	品　質	紙本墨書
作 者 等	王鐸（1592～1652）筆	員　数	1巻
時　代	清時代・順治4年(1647)	寸 法 等	（本紙）縦31.0cm 横575.2cm
作品概要	巻子装。王鐸が56歳時(1647)に二章老詞契道人のために唐人の五言律詩8首を揮毫した書巻。8首は順番に杜甫「瞿唐両崖」、王維「過香積寺」、杜甫「観李固請司馬弟山水図　三首之一」、杜甫「登兗州城楼」、李白「贈孟浩然」、銭起「和万年成少府寓直」、常建「破山寺後禅院」、杜甫「洞房」である。冒頭の題記には、「この上質の巻紙を喜んだが、紙の前に絵画が一点描かれているのが恨めしく、切り取り除去させ、大いに喜んでこれを書いた」と言う。王鐸が得意とした、連綿を駆使した草書で記される。		

126　名称	楷行草雑書巻（かいぎょうそうざっしょかん）	品　質	(1)紙本墨書　(2)淡藍地金箋本墨書
作 者 等	王鐸（1592～1652）筆	員　数	1巻
時　代	清時代・嘉慶8年(1803)	寸 法 等	(1)縦19.0cm 横39.8cm　(2)縦19.0cm 横120.6cm
作品概要	巻子装。劉墉が、謝霊運「登池上楼」の句を1紙に揮毫して遺山に贈った書と、2紙にわたって諸帖を臨書したものを合装した書巻。両者ともに、劉墉が没する前年の85歳時(1803)、9月の作であり、前者が題記に相当する可能性もある。後者の臨書には、陶潜「庚戌歳九月中於西田穫早稲」、同「擬古九首其五」（以上、蘇軾書）、曹操「短歌行」、李白「観魚潭」、孟浩然「万山潭作」、欧陽脩「瑞鶴鴿」の6帖が収録される。		

＜東洋彫刻＞(2件)

127　名称	菩薩立像（ぼさつりゅうぞう）	品　質	塑造彩色
作 者 等		員　数	1躯
時　代	唐時代・7～10世紀	寸 法 等	高92cm
作品概要	後頭部の頭髪を左右二つに束ね、左右両肩に垂らす。それ以外の頭髪は円錐状に結う。右手を下ろし、左手を上げる。左脚に重心をかけ、右脚をやや緩めて蓮台の上に立つ。首に瓔珞を付け、胸元を飾る。左右両手首に腕釧を付ける。左肩から右脇腹へと斜めに条帛を掛ける。裳に宝相華文を表す。		

128　名称	ダーキニー立像（だーきにーりゅうぞう）	品　質	銅造、彩色
作 者 等		員　数	1躯
時　代	清時代・18～19世紀	寸 法 等	像高14.8cm 総高16.3cm
作品概要	総髪とし、後頭部に髪束を三条表わす。第三目を表わし、両目を瞋らす。開口して上下の歯列を表わす。五つの髑髏を表わした冠帯をつける。両耳に耳璫をつける。胸から腹にかけて、および腰部に瓔珞を巡らす。両肩から天衣と髑髏の飾りをかける。手足に臂釧および腕釧ならびに足釧をつける。右手は振りあげ、肉切り包丁のカルトリを執り、左手は胸前にて髑髏杯のカパーラを持つ。左脚を上げて蓮華座上に丁字立ちとする。蓮華座は、蓮肉に一重の連珠を巡らし、一重反花及び二重框とする。底板に羯磨金剛を線刻する。 本体、台座とも真鍮製。全身を一鋳とする。右手肘先、天衣、右足枘などは別鋳。台座に底板をかしめて嵌める。本体には中型土が残り、股間に銅板で塞がれた開口部があるため、ここから土をかき出し、垂直に巻子を納入する。台座の前後にも水平に巻子や布類を納入する。顔から首にかけて金彩を施し、頭髪を丹、髑髏の目を朱で彩色する。瓔珞にサンゴとみられる貴石を嵌める。 裸形で、右手にカルトリ、左手にカパーラを持ち、髑髏杖のカトヴァーンガを亡失するものの、肩から髑髏の飾りをかけて踊る姿の女性尊はダーキニーの典型作といえる。入念な造形や象嵌を用いる技法から、清時代に製作されたものであろう。台座も本体と同じ真鍮製であるものの、組成が少し異なり亜鉛分が多いこと、本来足下に踏むべき人体がないこと、台座に使用されない枘が残ることから、転用である可能性があるが、同時期に製作されたとみてよい。		

＜東洋陶磁＞(2件)

129　名称	白釉瓶（はくゆうへい）	品　質	陶製
作 者 等		員　数	1口
時　代	15～16世紀	寸 法 等	残存高4.9cm 高台径4.3cm
作品概要	鉄分を含む陶質胎、胴下部が膨らんだ瓶。裾広がりの高台を削り出す。高台とその周囲を除き総体に錫白釉を施す。		

130　名称	青磁双耳瓶（せいじそうじへい）	品　質	陶製
作 者 等		員　数	1口
時　代	15～16世紀	寸 法 等	高8.0cm 口径2.7cm 底径3.6cm
作品概要	白色陶質胎、肩が張り、胴裾に向かって窄まる瓶。口部が広がり、肩の左右に縦耳が付く。胴部に鎬文を施す。底部は平底で、左回り轆轤の糸切痕がある。底裏を除き総体に黄褐色の青磁釉を施す。		

＜東洋染織＞(2件)

131　名称	プルカリ茶木綿地幾何文様刺繍（ぷるかりちゃもめんじきかもんようししゅう）	品　質	平織（木綿）、刺繍（絹）
作 者 等		員　数	1枚
時　代	20世紀	寸 法 等	長さ252.5cm 幅131.5cm ； 裂①(織幅) 幅47cm ； 裂②(織幅) 幅42cm ； 裂③(織幅) 幅42.5cm
作品概要	インド北西部からパキスタン北東部のパンジャーブ地方で伝統的に製作される大判の刺繍裂で、「プル」は「花」を指し、「プルカリ」（Phulkari）は「花刺繍」を意味する。織幅の細長い3枚の裂をはぎ合わせて、全面に刺繍を施している。赤紫色の木綿平織（経緯Z撚り）の地に白、萌黄、紫、淡茶、オレンジ、濃オレンジの6色の絹製刺繍糸をたっぷりと使い、幾何学文様を表している。刺繍は地組織の織り目に沿っており、また、裏面にはほぼ糸が渡らない渡し繍いである。一方の長辺には鎖繍（チェーンステッチ）を用いて、鋸歯文を縁どっており、作品長辺の端はすべてかがり繍い（ボタンホールステッチ）とする。本作のように、一面を刺繍糸が覆う作品は「バグ・プルカリ」（Bagh Phulkari、「バグ」はパンジャーブ語で「庭園」を意味する）と呼ばれる。		

132　名称	袍紺綾地龍文様刺繍（ほうこんあやじりゅうもんようししゅう）	品　質	
作 者 等		員　数	1着
時　代	清時代・19世紀	寸 法 等	身丈123.5cm 裄74cm ； 袖 幅38cm ； 腰 幅81cm ； 裾 幅110.5cm
作品概要	紺色の絹の経三枚綾地に、五爪龍をはじめ、蝶、牡丹、蝙蝠、鶴、桃などの吉祥モチーフを重厚な刺繍で表す。全体に撚金糸・撚銀糸を用い、多色の糸で細かく留めつけているため、色とりどりに輝くように見える。鶴には前段と後段の刺し目をつなげて色彩の濃淡を変化させる套針を用い、また、中央の龍の眼にはビーズ状の珊瑚、真珠を使用した絢爛豪華な袍といえる。裏地は浅葱の絹で、平織地に経六枚綾で花文様を織り出している。清朝の皇帝が着用した龍袍の文様構成であるが、袖の形状から京劇などの清朝の皇帝役の舞台衣装と考えられる。		

＜東洋考古＞(1件)

133　名称	ガラス三連瓶（がらすさんれんへい）	品　質	3口の吹きガラスを溶着
作 者 等		員　数	1個
時　代	ローマ時代・2世紀	寸 法 等	幅12.2cm 器高16.8cm
作品概要	ローマ帝国内に流通したガラス工芸品の主要な生産地であった地中海東岸のガラス生産、特に製作技法やデザインの多様性を伝える良好な資料。完形の状態で残っている2世紀の三連瓶は、世界的に見ても貴重である。		

＜東洋民族＞(3件)

134　名称	クリス（くりす）	品　質	鉄、木、象牙、真鍮
作 者 等		員　数	1本
時　代	20世紀	寸 法 等	総長51.8cm、身長41.8cm
作品概要	東南アジア島嶼部に広く分布する鉄剣「クリス」は、その霊力によって持ち主の男性を守護するとともに、持ち主の威信を象徴するものでもある。クリスの剣身は直線状あるいは蛇行状に作り、特殊な加工技術によって幾重もの地鉄が作り出される。また、柄や鞘の材質や造形にも地域ごとに特徴が認められる。 本器は、直線状の剣身に象牙製の柄が付き、木製の鞘が付属する。剣身は、金属を層状に重ねて木目金風の地鉄に作る。柄は、象牙を加工して柄頭を屈曲させた形状に作り、精緻な彫刻によって花葉風の装飾や騎馬人物などを表わす。この象牙柄の意匠は、ジャワ島の北東にあるマドゥラ島の典型的なものである。鞘は木製で、柄を覆う部分を稜形に作るほか、装飾は施さない。		

135　名称	クリス（くりす）	品　　質	鉄、木、真鍮、玳瑁
作 者 等		員　　数	1本
時　　代	20世紀	寸 法 等	総長49.0cm、身長35.4cm
作品概要	東南アジア島嶼部に広く分布する鉄剣「クリス」は、その霊力によって持ち主の男性を守護するとともに、持ち主の威信を象徴するものでもある。クリスの剣身は直線状あるいは蛇行状に作り、特殊な加工技術によって幾重もの地鉄が作り出される。また、柄や鞘の材質や造形にも地域ごとに特徴が認められる。 本器は、直線状の剣身に木製の柄が付き、真鍮製の鞘が付属する。剣身は、金属を層状に重ねて木目金風の地鉄に作る。柄は、木を加工して柄頭を屈曲させた形状に作り、屈曲部の内側に突起物を作り、刻み目のような彫刻を施す。この木柄の意匠は、ジャワ島のスラカルタの典型的なものである。鞘は真鍮製の本体部に木製の柄覆が付き、本体の先端付近から末端にかけて樋状に透かし、そこに玳瑁を嵌装する。		

136　名称	石貨（せっか）	品　　質	石製
作 者 等		員　　数	1個
時　　代	19～20世紀初頭	寸 法 等	径38.2cm～35.8cm
作品概要	南太平洋のミクロネシア地域のヤップ島の石貨。同島の石貨は日常貨幣ではなく、儀礼における贈答品として用いられた。その形状は、石灰岩などの堆積岩をほぼ円形に成形して中心部に穿孔するのを基本とし、通常は60～100センチであり、小さなもの6センチ、大きなものは300センチに及ぶ。石貨の材料となる石灰岩はヤップ島では産出せず、遠方のパラオにて採掘・製造され、その価値は直径の大小や形状、表面の仕上げ、運搬にかかる労力などによって判断された。 本貨は、透過性のある緑色系の堆積岩を正円に近い形状に成形して、中心部に7.5～10センチの孔を穿ち、表面は平滑に仕上げられているのに対し、裏面には加工の痕跡を留めている。石の透明度が高い部分では光が透過する。		

（３）編入（604件）

＜金工＞19件、＜刀剣＞1件、＜陶磁＞2件、＜漆工＞6件、＜染織＞6件、＜民族＞8件、＜歴史資料＞1件、＜東洋染織＞1件、＜東洋考古＞1件、＜東洋民族＞28件

1～73　名称	鉤　ほか（かぎ　ほか）	員　　数	73件
作品概要	過去に列品として登録されていたが、種々の事由により台帳から削除された作品のうち、令和2年度から令和3年度にかけて行った収蔵品移動に伴う列品情報調査の結果、存在が確認された作品73件。		

＜建築＞(9件)

74　名称	本館屋根瓦　軒丸瓦（ほんかんやねがわら　のきまるがわら）	品　　質	陶製
作 者 等		員　　数	1個
時　　代	昭和13年(1938)	寸 法 等	径25.8cm 長さ59.0cm
作品概要	軒先に取り付けられる軒丸瓦である。文様のある瓦当に丸瓦を接合している。瓦当文様は十六弁菊花文で、中房に五つの蓮子を配し、弁区外縁に圏線を1条巡らす。周縁は無文で、施釉後の本焼きで使われた窯道具のトチンの目跡がある。褐色の胎土に赤褐色の釉薬を掛けている。釉薬が厚く掛かった部分が黒色に発色して、独特のまだら模様になっている。軒丸瓦は玉縁の有無と寸法により分類でき、本品は玉縁のある大型品である。		

75　名称	本館屋根瓦　軒平瓦（ほんかんやねがわら　のきひらがわら）	品　　質	陶製
作 者 等		員　　数	1個
時　　代	昭和13年(1938)	寸 法 等	全幅41.0cm 長さ50.8cm
作品概要	軒先に取り付けられる軒平瓦である。文様のある瓦当に平瓦を接合している。瓦当文様は唐草文で、中央から3単位の唐草が左右に展開する。周縁は無文で、施釉後の本焼きで使われた窯道具のトチンの目跡がある。褐色の胎土に赤褐色の釉薬を掛けている。釉薬が厚く掛かった部分が黒色に発色して、独特のまだら模様になっている。軒平瓦は側縁前方に設けた突起の位置により分類でき、本品は瓦当面に向かって右側に突起がある。平瓦部凸面には、「大右20」の注記がある。		

76　名称	本館屋根瓦　軒丸瓦、軒平瓦（ほんかんやねがわら　のきまるがわら、のきひらがわら）	品　　質	陶製
作 者 等		員　　数	2個
時　　代	昭和13年(1938)	寸 法 等	軒丸瓦 径22.5cm 長さ54.5cm ； 軒平瓦 全幅40.0cm 長さ50.8cm
作品概要	軒先に取り付けられる軒丸瓦と軒平瓦である。文様のある瓦当に丸瓦または平瓦を接合している。軒丸瓦の瓦当文様は十六弁菊花文で、中房に五つの蓮子を配し、弁区外縁に圏線を１条巡らす。軒平瓦の瓦当文様は唐草文で、中央から３単位の唐草が左右に展開する。軒丸瓦、軒平瓦ともに周縁は無文で、施釉後の本焼きで使われた窯道具のトチンの目跡がある。褐色の胎土に赤褐色の釉薬を掛けている。釉薬が厚く掛かった部分が黒色に発色して、独特のまだら模様になっている。軒丸瓦は玉縁の有無と寸法により分類でき、本品は玉縁のない中型品である。軒平瓦は側縁前方に設けた突起の位置により分類でき、本品は瓦当面に向かって左側に突起がある。		

77　名称	本館屋根瓦　鬼瓦（朱雀）（ほんかんやねがわら　おにがわら（すざく））	品　　質	陶製
作 者 等		員　　数	1個
時　　代	昭和13年(1938)	寸 法 等	縦65.0cm 横92.0cm
作品概要	鬼瓦は、屋根の棟先に取り付ける装飾瓦で、雨仕舞いの役割もある。鬼面が彫刻されていないものでも鬼瓦という。本品は朱雀をかたどった鬼瓦である。朱雀は南方を守護する神獣とされる。本品と同形の鬼瓦が本館入口の車寄屋根の正面（南側）に飾られている。翼を大きく広げた姿で、羽毛まで細かく立体的に表現されている。褐色の胎土に赤褐色の釉薬を掛けている。釉薬が厚く掛かった部分が黒色に発色して、独特のまだら模様になっている。		

78　名称	本館屋根瓦　鬼瓦（ほんかんやねがわら　おにがわら）	品　　質	陶製
作 者 等		員　　数	1個
時　　代	昭和13年(1938)	寸 法 等	縦38.0cm 横47.3cm
作品概要	鬼瓦は、屋根の棟先に取り付ける装飾瓦で、雨仕舞いの役割もある。鬼面が彫刻されていないものでも鬼瓦という。本品は中央に主題文様のない鬼瓦で、外縁に珠文を巡らしている。褐色の胎土に赤褐色の釉薬を掛けている。釉薬が厚く掛かった部分が黒色に発色して、独特のまだら模様になっている。		

79　名称	本館屋根瓦　鬼瓦（鬼面）（ほんかんやねがわら　おにがわら（きめん））	品　　質	陶製
作 者 等		員　　数	1個
時　　代	昭和13年(1938)	寸 法 等	右上顎；縦41.0cm 横26.0cm 左上顎；縦48.0cm 横37.0cm
作品概要	鬼瓦は、屋根の棟先に取り付ける装飾瓦で、雨仕舞いの役割もある。本品は鬼面の鬼瓦の破片である。右目と右角、右上顎の一部にあたる。褐色の胎土に赤褐色の釉薬を掛けている。釉薬が厚く掛かった部分が黒色に発色して、独特のまだら模様になっている。		

80　名称	本館屋根瓦　鬼瓦（鬼面）（ほんかんやねがわら　おにがわら（きめん））	品　　質	陶製
作 者 等		員　　数	1個
時　　代	昭和13年(1938)	寸 法 等	縦48.0cm 横37.0cm
作品概要	鬼瓦は、屋根の棟先に取り付ける装飾瓦で、雨仕舞いの役割もある。本品は鬼面の鬼瓦の破片である。右目と右角、右上顎の一部にあたる。褐色の胎土に赤褐色の釉薬を掛けている。釉薬が厚く掛かった部分が黒色に発色して、独特のまだら模様になっている。		

81　名称	本館屋根瓦　鬼瓦（鬼面）（ほんかんやねがわら　おにがわら（きめん））	品　　質	陶製
作 者 等		員　　数	1個
時　　代	昭和13年(1938)	寸 法 等	縦40.0cm 横35.0cm
作品概要	鬼瓦は、屋根の棟先に取り付ける装飾瓦で、雨仕舞いの役割もある。本品は鬼面の鬼瓦の破片である。左目と左角の一部にあたる。褐色の胎土に赤褐色の釉薬を掛けている。釉薬が厚く掛かった部分が黒色に発色して、独特のまだら模様になっている。		

82　名称	本館屋根瓦　鬼瓦（鬼面）（ほんかんやねがわら　おにがわら（きめん））	品　　質	陶製
作 者 等		員　　数	1個
時　　代	昭和13年(1938)	寸 法 等	縦32.0cm 横34.0cm
作品概要	鬼瓦は、屋根の棟先に取り付ける装飾瓦で、雨仕舞いの役割もある。本品は鬼瓦の破片である。右下顎の一部にあたる。褐色の胎土に赤褐色の釉薬を掛けている。釉薬が厚く掛かった部分が黒色に発色して、独特のまだら模様になっている。		

＜民族＞(11件)

83　名称	マキリ（小刀）（まきり　こがたな）	品　　質	木製
作 者 等		員　　数	1本
時　　代	19世紀	寸 法 等	全長19.3cm、鞘 長14.8cm、幅4.3cm、柄 長4.5cm、幅1.8cm
作品概要	マキリ(小刀)はアイヌ文化の人々が常に携行した日常用の利器である。鞘は二枚矧ぎで三ヶ所に桜皮を巻いて固定し、鞘上部には紐掛用の孔が設けられている。鞘と柄にはアイヌ特有の渦状文や鱗文が施されている。鞘には所有者を示すだろう「土井」の二文字が刻まれている。		

84　名称	マキリ（鞘）（まきり　さや）	品　　質	木製
作 者 等		員　　数	1本
時　　代	19世紀	寸 法 等	鞘 長17.9cm 幅3.2cm
作品概要	マキリ(小刀)はアイヌ文化の人々が常に携行した日常用の利器である。鞘は二枚矧ぎで、五ヶ所に桜皮を巻いて固定し、鞘上部には紐掛用の孔が設けられている。鞘には渦状文や棘状文が施され、「明治〇〇」の文字が刻まれている。		

85　名称	マキリ（小刀）（まきり　こがたな）	品　　質	木製・鉄製
作 者 等		員　　数	1本
時　　代	19世紀	寸 法 等	全長30.8cm、鞘 長21.3cm、幅6.4cm、柄 長9.5cm 幅2.0cm、刀身 長10.4cm
作品概要	マキリ(小刀)はアイヌ文化の人々が常に携行した日常用の利器である。鞘は一木造で表面には鱗文が施され、鞘尻には刳り抜きのための孔が設けられている。刀身は鉄製で、砥ぎ減りしているものの、残りはよい。		

86　名称	マキリ（鞘）（まきり　さや）	品　　質	木製
作 者 等		員　　数	1本
時　　代	19世紀	寸 法 等	鞘 長18.7cm、幅6.0cm 根付 長9.8cm、幅3.0cm、高1.8cm
作品概要	マキリ(小刀)はアイヌ文化の人々が常に携行した日常用の利器である。本例は小刀のうち柄と刀身を欠くも、船形の根付が付属する。鞘は一木造で、下面に刳り抜き孔が施されている。鞘には線刻による文様とともに、「種前村　番家　石切用」の文字が刻まれている。その内容から消防・自警団の詰所である番屋の常備品として用いられたものと考えられる。種前村(明治9～39年)は現在の北海道寿都郡寿都町にあたる。		

87　名称	マキリ（小刀）（まきり　こがたな）	品　　質	木製・鉄製
作 者 等		員　　数	1本
時　　代	19世紀	寸 法 等	全長32.5cm、鞘 長22.2cm、幅4.9cm、柄 長10.3cm、幅2.7cm、刀身 長9.5cm
作品概要	マキリ(小刀)はアイヌ文化の人々が常に携行した日常用の利器である。鞘は一木造で、下面に刳り抜き孔が施されている。表面には綾杉文や鱗文が刻まれている。刀身は鉄製で、砥ぎ減りしているもののよく残る。		

88　名称	マキリ（小刀）（まきり　こがたな）	品　　質	木製・鉄製
作 者 等		員　　数	1本
時　　代	19世紀	寸 法 等	全長30.2cm、鞘 長20.2cm、幅3.8cm、柄 長10.0cm、幅3.4cm、刀身 長13.5cm
作品概要	マキリ(小刀)はアイヌ文化の人々が常に携行した日常用の利器である。鞘は一木造で、表面にはアイヌ特有の渦巻文と鱗文が施され、屋号(やまさん)が刻まれている。鞘尻には刳り抜き孔がある。刀身は鉄製。		

89　名称	マキリ（柄）（まきり　つか）	品　　質	木製
作 者 等		員　　数	1本
時　　代	19世紀	寸 法 等	柄長12.6cm、幅3.5cm
作品概要	マキリ(小刀)はアイヌ文化の人々が常に携行した日常用の利器である。本例は小刀のうち、鞘と刀身を欠く。柄の中央には紐掛用の孔が施されている。柄の周囲をめぐるように線刻が施され、表面には祖印あるいは所有印と考えられる記号とともに、文字が線刻されている（うち一文字は「喜」か）。		

90　名称	マキリ（柄）（まきり　つか）	品　　質	木製
作 者 等		員　　数	1本
時　　代	19世紀	寸 法 等	柄長11.7cm、幅2.1cm
作品概要	マキリ(小刀)はアイヌ文化の人々が常に携行した日常用の利器である。本例は小刀のうち、鞘と刀身を欠く。柄には曲線や渦巻を組み合わせた文様が施されている。		

91　名称	茶台（ちゃだい）	品　　質	木製
作 者 等		員　　数	1枚
時　　代	19世紀	寸 法 等	長径11.0cm、短径5.1cm、高2.1cm、底径4.6cm
作品概要	江戸時代後期になるとアイヌの人々は、自らが使う日用品とは別に、筆立てや筆軸、手拭い掛けなど蝦夷地に滞在する和人のための献上品や土産物を作った。本例もその一つで「蝦夷みやげ」、「蝦夷細工物」などと呼ばれた茶台である。茶台上面の周囲や受けの周りに文様を施し、底面に鉛筆書きで「シコタン土人作　ランコ（ヲンコ）ノ木」とあるため、千島アイヌ(色丹)から収集した茶台であると考えられる。		

92　名称	小熊用玩具（こぐまようがんぐ）	品　　質	木製
作 者 等		員　　数	1個
時　　代	19世紀	寸 法 等	最大長10.4cm、最大幅3.8cm、高4.0cm
作品概要	小熊用玩具は、アイヌがイオマンテ（飼い熊の霊送り儀礼）を行う際に用いる道具。熊送りとは、捕獲した小熊を神から養育を任されたと考え、村内で大切に飼育し、一定期間ののち小熊を神のもとに送り返す（魂を送る）ことで、カムイから生活の安定を保障してもらう儀礼を指す。本例は、飼育する小熊に与えた遊び道具（おしゃぶり）の一つである。		

93　名称	矢毒臼（やどくうす）	品　　質	木製
作 者 等		員　　数	1個
時　　代	19世紀	寸 法 等	最大長10.3cm、最大幅5.8cm、高3.0cm
作品概要	アイヌが狩猟の際にもっぱらに用いた道具は弓である。弓には手持ちの弓と、罠として用いる仕掛け弓があり、いずれも矢の鏃にはトリカブトをすり潰して作られた毒が塗られた。本例はそのトリカブトを刻み、すり潰す際に用いた矢毒臼である。台部には刃物を使用した際にできた傷が良く残る。		

＜写真資料＞(511件)

94～604　名称	写真資料（しゃしんしりょう）	品　　質	鶏卵紙、ゼラチンシルバープリント、プラチナプリント等
作 者 等		員　　数	511件(1,551枚)
時　　代	明治時代・19～20世紀	寸 法 等	15.0cm×24.1cm（台紙30.9cm×39.1cm）ほか
作品概要	今回の511件(1,551枚)は、小川一真が明治21年(1888)の近畿宝物調査時に撮影した絵画・彫刻・美術・工芸等の写真、同じく小川により同34年(1901)に撮影された北京城内の紫禁城や諸宮殿の建築・装飾等の写真、そして早崎梗吉が明治20年代後半に撮影した中国史跡・景観写真等が含まれる。 写真帖に仕立てられているものは1帖を1件（親）と数える（ただし「写真帖　人民之部」10帖は親1件とし10帖を部分とする）。他は、1枚を1件（親）とし、パノラマ撮影の場合は一被写体につき1件とする。 小川一真による宝物調査写真は合計1,044枚で、台紙に貼られている。写真の横には宝物名と所蔵先が書かれた短冊が添えられ、帖に仕立てられている。写真帖表紙には、「一等　絵画　京都府」のように等級、種別、地名が記載されている。表紙には東京帝室博物館シールが貼られ、品名欄に帖の名称が記載されている。「写真帖　人民之部」10帖には個人が所有する宝物の写真が貼られている。 同じく小川による北京城写真は、焼付写真合計352枚からなる。そのうち8件は3枚1組、2件は2枚1組でパノラマ撮影している作品もある。台紙に貼られており、写真の横には表題が記載されている。		

【京都国立博物館】（計247件）

（１）購入（8件）

＜絵画＞（2件）

1　名称	年中行事絵巻模本（ねんちゅうぎょうじえまきもほん）	品　　質	紙本墨画
作 者 等		員　　数	3巻
時　　代	江戸時代　18世紀	寸 法 等	各　縦45.6cm 長（上巻）623.0cm　（中巻）643.0cm　（下巻）404.0cm
作品概要	平安時代末、後白河院の命により制作されたと考えられている絵巻の模本。原本は失われたが、江戸時代の模本が複数伝わる。本作は住吉如慶による白描模本の図像系統を伝えるもので、住吉本第12巻の内容が3巻にわたり写されている。写し崩れが少ないことから住吉本の直模と見られる点が貴重で、祭礼等さまざまな展示での活用が見込まれる。		

2　名称	京都名所六景図（稲荷山図） （きょうとめいしょろっけいず（いなりやまず））	品　　質	紙本墨画
作 者 等	池大雅筆	員　　数	1幅
時　　代	江戸時代　18世紀	寸 法 等	縦128.4cm　横52.5cm
作品概要	池大雅（1723～1776）が 京都東山周辺の6か所の名所を描いたシリーズのうち、伏見稲荷を描く1点。落款に、中国五代宋初に活躍した画僧巨然の画法を用いて描いたと記す。日本の現実の風景を、中国と結び付けて描写するこのような態度は、江戸時代中期の文化の基調をなすものとして重要。京都の名所を描いた大雅の優品として、当館が収蔵するにふさわしい 。		

＜金工＞（1件）

1　名称	黒漆太刀（くろうるしたち）	品　　質	鉄製　鍛造
作 者 等	長船則光	員　　数	1揃
時　　代	刀身：室町時代・享徳二年（1453） 拵・袋・箱：室町時代　15世紀	寸 法 等	刀身：刃長66.2cm 反り2.5cm 拵：全長97.3cm 把長19.0cm 鞘長76.5cm 袋：長117.0cm 幅16.0cm 箱：長108.4cm 幅16.0cm 高15.8cm
作品概要	奈良・春日大社旧蔵と伝わる古神宝の黒漆太刀一式。「太刀 銘備州長船則光／享徳二年八月日」「黒漆太刀拵」「菊花文銀襴太刀袋」「朱漆塗太刀箱」からなる。刀身は保存状態が極めて良好で、「生刃」と呼ばれる製作当初の状態を残している点が貴重である。拵も製作年代が確実な中世の太刀拵として類例は少ない。また、「菊花文銀襴太刀袋」は文字記録に見える日本製金襴の最古例（『鹿苑日録』文禄元年（1592）三月の条）より約150年近く古い可能性が指摘されており、日本製金襴の最古の現存作例として史料価値が極めて高い。刀剣・金工・漆工・染織各分野の基準作となる本品を収蔵することで、展示と研究の両面に活用が期待できる。		

＜漆工＞（5件）

1　名称	野馬丸紋散箔絵螺鈿書箪笥 （のまるもんちらしはくえらでんしょだんす）	品　　質	木製　漆塗　蒔絵　箔絵　螺鈿
作 者 等		員　　数	1基
時　　代	桃山～江戸時代　17世紀	寸 法 等	縦37cm、横66.6cm、高46.8cm
作品概要	桃山時代から江戸時代の初めに西洋人に向けて輸出されたいわゆる南蛮漆器のうちの書箪笥。幾何学文や丸紋で縁取りつつ、菱形の絵窓のなかに絵画的な野馬図を描き、南蛮漆器としては新しい要素が見られる作例である。天板では欠失した文様を西洋の技法で入念に修復しており、彼の地での受容の歴史も伝える。大型で展示室に映え、異文化交流の証しとして活用が期待される。		

2　名称	蓬莱花見図蒔絵手箱（ほうらいはなみずまきえてばこ）	品　　質	木製　漆塗　蒔絵
作 者 等		員　　数	1合
時　　代	江戸時代　17世紀	寸 法 等	縦26.1cm、横32.4cm、高21.7cm
作品概要	化粧道具などをしまったと思われる手箱。黒漆に平蒔絵を用いた比較的簡易な技法による作品だが、天板は松竹に鶴亀を添えたいわゆる蓬莱文様であり、儀礼的な調度であってもおかしくはない。しかし、側面に桜狩りを楽しむ男性ばかりを描いた風俗図が描かれる点が大変珍しい。蒔絵の受容者層の広がりを考える上で有用な作品である。2013年の「遊び」展にも出品された。		

3　名称	秋草蒔絵香炉（あきくさまきえこうろ）	品　　質	木製　漆塗　蒔絵
作 者 等		員　　数	1基
時　　代	桃山～江戸時代　16-17世紀	寸 法 等	最大径7.9cm 総高8.2cm（火屋なしの高6.9cm）
作品概要	桃山時代に流行したいわゆる高台寺蒔絵様式による香炉。磁器の香炉を写しており、胴部に鐶や二段のくびれを挽き出し、底裏を千鳥形式にしている。小品ながら古風な秋草の表現と千鳥香炉の写しとしては高台の残る初期の形体を見せる点が魅力であり、高台寺蒔絵や香道具、桃山時代をテーマにした展示での活用が見込まれる。		

4　名称	田植蒔絵香盆（たうえまきえこうぼん）	品　　質	木製　漆塗　蒔絵
作 者 等		員　　数	1面
時　　代	江戸時代　18世紀	寸 法 等	縦28.2cm、横41.2cm、高5cm
作品概要	近世初頭に流行する風俗図蒔絵のなかでも料紙硯箱などに繰り返し描かれた田植図の系統の品。高度で緻密な蒔絵を用いながら、さらさらと手慣れたようすで描かれているところから、見込み生産で作られたことを思わせる。江戸時代の中期以降の蒔絵の需要層の広がりを示すと考えられ、江戸時代の蒔絵の意匠の多様性と技術の高さを伝える好例である。		

5　名称	桜花卍文蒔絵螺鈿平棗 （おうかまんじもんまきえらでんひらなつめ）	品　　質	木製　漆塗　蒔絵　螺鈿
作 者 等		員　　数	1合
時　　代	桃山～江戸時代　16-17世紀	寸 法 等	径6.9cm、高3.9cm
作品概要	平棗を小型にしたような合子。内部まで梨地に仕立てられており、卍や輪宝など仏教的な文様であるため、茶道具というよりは、仏前で用いる塗香などをいれた香合であったと想像される。桜花、卍紋、輪宝などが絶妙な間隔で散らされており、近世初頭の紋散らしの流行を伝える品である。		

（２）寄贈（239件）

＜絵画＞（121件）

1～27 名称	秋山茂樹図（しゅうざんもじゅず）ほか	品　質	絹本墨画など
作 者 等	溥儒筆	員　数	27件
時　代	中国　近代	寸 法 等	-
作品概要	溥儒（1896-1963）に直接師事をした現代作家の伊藤紫虹氏より、溥儒が手本として伊藤氏に与えた絵画27件の寄贈を受けた。溥儒は清朝皇族恭親王奕訢（1833-1898）の孫。張大千（1899-1983、四川の人、上海で活躍）と並んで「南張北溥」と称される中国近現代の代表的書画家である。1949 年に台湾へ渡り、師範学院にて教鞭を執る一方で、日本や韓国、香港などの地を遊歴しつつ、教育機関で講義を行った。寄贈者の伊藤紫虹氏は昭和28年（1953）、10代の大学生であった時に、来日していた溥儒に願い出て門下生となった。寄贈品は小品ながら、最も充実した溥儒晩年の作例である。 1. 秋山茂樹図　溥儒筆　絹本墨画　1幅、 2. 秋山樹径図　溥儒筆　絹本墨画淡彩　1幅、 3. 秋色樹影図　溥儒筆　絹本墨画淡彩　1幅、 4. 斜陽秋色図　溥儒筆　絹本墨画淡彩　1幅、 5. 秋亭臨水図　溥儒筆　絹本墨画淡彩　1幅、 6. 秋気図　溥儒筆　紙本墨画　1幅、 7. 寒湍図　溥儒筆　絹本墨画淡彩　1幅、 8. 寒雨疎林図　溥儒筆　紙本著色　1幅、 9. 蒼林暮煙図　溥儒筆　絹本墨画淡彩　1幅、 10. 山谷図　溥儒筆　絹本著色　1幅、 11. 松陰図　溥儒筆　紙本墨画　1幅、 12. 松陰高士図　溥儒筆　絹本墨画　1幅、 13. 月下高士図　溥儒筆　紙本墨画淡彩　1幅、 14. 携琴訪隠図　溥儒筆　紙本墨画　1幅、 15. 指頭騎驢図　溥儒筆　絹本墨画淡彩　1幅、 16. 鍾馗騎驢図　溥儒筆　絹本墨画淡彩　1幅、 17. 鍾馗図　溥儒筆　絹本著色　1幅、 18. 古樹攀猿図　一九五五年　溥儒筆　紙本墨画　1幅、 19. 猿声渡水図　溥儒筆　絹本墨画淡彩　1幅、 20. 孝猿図　一九五五年　溥儒筆　絹本墨画淡彩　1幅（孝猿図附：霊猿桃実図（臨孝猿図）　伊藤紫虹筆　溥儒題　1幅）、 21. 白猿図　溥儒筆　絹本墨画淡彩　1幅、 22. 白鷹図　一九五六年　溥儒筆　絹本墨画淡彩　1幅、 23. 籬辺秋色図　一九五六年　溥儒筆　紙本墨画　1幅、 24. 迎風浥露図　溥儒筆　紙本墨画　1幅、 25. 竹図　溥儒筆　紙本墨画　1幅、 26. 茶花図　一九五五年　溥儒筆　絹本著色　1幅、		

28　名称	百蟹図（ひゃくかいず）	品　質	絹本墨画
作 者 等	李天民筆	員　数	1幅
時　代	大正13年（1924）	寸 法 等	116.5×52.5cm
作品概要	李天民（1893-？）は名を学樵、号を鳴皋といい、清末に台湾で生まれた詩人・画家。蟹は作家の最も得意とした画題で、吉祥的含意もあるため、たびたび贈答として知人に譲っている。本作は為書から富岡鉄斎(1837-1924)に贈られたものとわかる。		

29～49 名称	煙寺晩鐘図（えんじばんしょうず）ほか	品　質	紙本着色ほか
作 者 等	呉石僊筆	員　数	21件
時　代	中国　清～中華民国	寸 法 等	-
作品概要	中国金石学・書道史の研究者、また書家であった須羽源一（号は水雅、1910-1974）の旧蔵品21件。須羽は書家の山本竟山（1863-1934）、篆刻家の河井筌廬（1871-1945）に師事し、漢籍や書画金石を蒐集した。寄贈品は清末から民国初期の書画家、特に書・篆刻に秀でた作家の作例が中心で、日本の書画家が敬慕した呉昌碩、王一亭、斉白石のほか、程庭鷺の画帖が含まれる。 29. 煙寺晩鐘図　呉石僊筆　紙本着色　1幅、 30. 寒山拾得図　施廷輔筆　絹本墨画　1幅、 31. 白雲山図　張坊筆　紙本着色　1幅、 32. 秋斎清供図　童旭滄筆　紙本着色　1幅、 33. 竹石図　王廷珏筆　紙本着色　1幅、 34. 書画扇面（山水図・詩書）王冶梅・衛鑄生筆　絖本着色・墨書　1幅、 35. 松画賛　黄吟梅、陳曼寿筆　絖本着色　1幅、 36. 墨梅冊　王元珍筆　1冊、 37. 小松圖閣画中詩　程庭鷺筆　1冊、 38. 牛背横笛図　王一亭筆　1幅、 39. 達磨図　王一亭筆　1幅、 40. 富貴神仙図　呉昌碩筆　1幅、 41. 葫蘆図　呉昌碩筆　1幅、 42. 墨梅図　朱為弼筆　1幅、 43. 墨蟹図　斉白石筆　1幅、 44. 葡萄老鼠図　斉白石筆　1幅、 45. 書画合璧（山水・詩書）曹知白・文徴明筆　1幅、 46. 松陰観瀑図　潘思牧筆　1幅、 47. 西湖柳艇図　弘昨筆　1幅、 48. 臨石溪山水図　柯易葉筆　1幅、 49. 名士書画帖　1冊		

50　名称	瀑布図（ばくふず）	品　質	絖本墨画
作 者 等	浅井柳塘筆	員　数	1幅
時　代	明治18年（1885）	寸 法 等	165.9×43.2cm
作品概要	浅井柳塘（1842～1907）は京都もしくは阿波の人。百々広年・谷口靄山に文人画を、のち長崎で木下逸雲・鉄翁祖門・清の徐雨亭について山水画を学ぶ。明治13年から京都府画学校につとめた。明治18年（1885）の作。絖本の質感を生かした表現に見どころがある。		

51　名称	牛若丸図（うしわかまるず）	品　質	絹本著色
作 者 等	猪飼嘯谷筆	員　数	2幅
時　代	大正11年（1922）	寸 法 等	各127.8×27.5cm
作品概要	共箱、大正11年（1922）の作。牛若丸を鞍馬寺とともに描く双幅。猪飼嘯谷（1881～1939）は京都の人。谷口香嶠に四条派の絵を学ぶ。はじめ母校京都市美術工芸学校で、明治43年から大正14年までは京都絵画専門学校(現京都市立芸大)で教鞭を執った。歴史画を中心に明治41年以降文展で活躍、帝展に出品せず、昭和12年新文展に無鑑査出品した。		

52 名称	秋菊画賛（しゅうきくがさん）	品　質	紙本墨画
作 者 等	巌谷一六筆	員　数	1幅
時　代	明治時代（19～20世紀）	寸 法 等	131.7×33.0cm
作品概要	巌谷一六（1834～1905）は明治時代の書家・官僚。近江水口藩医。維新後、内閣書記官・元老院議官・貴族院議員。書を中沢雪城、楊守敬に学び、独自の一六流をつくりだした。		

53 名称	出山釈迦図（しゅっせんしゃかず）	品　質	絹本墨画
作 者 等	今尾景年筆	員　数	1幅
時　代	明治～大正時代（19～20世紀）	寸 法 等	108.8×36.4cm
作品概要	今尾景年（1845～1924）は明治～大正時代の日本画家。京都の人。鈴木百年に学ぶ。明治28年、京都後素協会委員長となる。シカゴ、パリなどの万博で受賞。37年帝室技芸員、大正8年帝国美術院会員。		

54 名称	霞自画賛（かすみじがさん）	品　質	紙本墨画淡彩
作 者 等	大田垣蓮月筆	員　数	1幅
時　代	江戸～明治時代（19世紀）	寸 法 等	31.7×43.0cm
作品概要	太田垣蓮月（1791～1875）は幕末の歌人、陶芸家。京都の人。自分の歌を彫り込んだ陶器蓮月焼で知られる。和歌は上田秋成・六人部是香に学んだという。「たつひよりのとかになりて世の中のうさをへだつる春かすみかな」。新年を迎えて、年が改まるとともに一新した気分を詠んだ春の歌。正月の注連縄飾を添えている。		

55 名称	菊自画賛（きくじがさん）	品　質	紙本墨画淡彩
作 者 等	大田垣蓮月筆	員　数	1幅
時　代	江戸～明治時代（19世紀）	寸 法 等	100.8×36.4cm
作品概要	太田垣蓮月（1791～1875）は幕末の歌人、陶芸家。京都の人。自分の歌を彫り込んだ陶器蓮月焼で知られる。和歌は上田秋成・六人部是香に学んだという。「めてそめしちよのむかしもゆく末の秋のかきりもしらきくの花」。78歳の作。		

56 名称	薄自画賛（すすきじがさん）	品　質	紙本墨画淡彩
作 者 等	大田垣蓮月筆	員　数	1幅
時　代	江戸～明治時代（19世紀）	寸 法 等	30.0×42.2cm
作品概要	太田垣蓮月（1791～1875）は幕末の歌人、陶芸家。京都の人。自分の歌を彫り込んだ陶器蓮月焼で知られる。和歌は上田秋成・六人部是香に学んだという。「よなよなにうちこそまされからころもころも更ゆく秋しののさと」。79歳の作。		

57 名称	郭子儀図（かくしぎず）	品　質	絹本著色
作 者 等	暁園筆	員　数	1幅
時　代	嘉永4年（1851）	寸 法 等	144.1×85.9cm
作品概要	明治から大正にかけて活躍した内畠暁園という画家がいるが、時代的に別の画家と思われる。		

58 名称	陶朱公居宅図（とうしゅこうきょたくず）	品　質	絹本著色
作 者 等	海保青陵筆	員　数	1幅
時　代	文化9年（1812）	寸 法 等	109.7×34.1cm
作品概要	海保青陵（1755～1817）は江戸の人。宇佐美灊水に徂徠学を学んだ儒学者・経世家。青陵には自ら賛を記した絵がほかにもあるが、知られている作品数は多くはなく、貴重な1点と言える。陶朱公とは、中国春秋時代の越王勾践の臣、范蠡の別称。本作は、その朱公の邸宅を描いたもの。賛は陶朱公の徳を賞賛しつつ、富裕商人の代名詞ともなった朱公を、京の富商である細辻氏に重ね合わせている。		

59 名称	富士画賛（ふじがさん）	品　質	紙本墨画
作 者 等	烏丸光広筆	員　数	1幅
時　代	江戸時代（17世紀）	寸 法 等	38.3×53.0cm
作品概要	烏丸光広（1579～1638）は公卿、歌人。書家としても知られる。本図は富士山を一筆で描いた淡墨の略画で、その余白に富士山を詠み込んだ和歌を書き添えたもの。光広が富士を詠んだ和歌は多く、家集『黄葉和歌集』（巻第七・羈旅部）には20首が収められている。この和歌はその中には含まれていないが、光広の自詠と見られる。慶應義塾センチュリー赤尾コレクションに、同一の和歌を記した類品がある。		

60 名称	虎鼻蛇蜂猿之図（とらねずみはちさるのず）	品　質	絹本著色
作 者 等	岸竹堂筆	員　数	1幅
時　代	文久2年（1862）	寸 法 等	135.0×57.1cm
作品概要	共箱。『仏説譬喩経』『大方等大集経』などの経典に説かれる、「黒白二鼠のたとえ」あるいは「無常の虎」などと呼ばれる説話を主題とする。岸竹堂（1826～1897）は江戸後期～明治時代の画家。近江の人。狩野永岳や岸連山に学び、岸家の養子となる。帝室技芸員。		

61 名称	朝顔雀図（あさがおすずめず）	品　質	絹本著色
作 者 等	国井応陽筆	員　数	1幅
時　代	明治38年（1905）	寸 法 等	123.3×50.8cm
作品概要	共箱。芦雪画にならう旨を記す。国井応陽（1867～1923）は京都の人。円山派の画家で、応挙の曽孫にあたる国井応文の養子。当館には応文の作品も収蔵されており、円山派の系譜が肉付けされることは意義深い。		

62　名称	太夫・舞妓・芸姑図（たゆう・まいこ・げいこず）	品　質	絹本著色
作 者 等	国井応陽筆	員　数	3幅
時　代	明治41年（1908）	寸 法 等	各111.2×41.5cm
作品概要	中幅に太夫、右幅に舞妓、左幅に芸姑が描かれている。応挙の「三美人図」（岡田美術館蔵）を写した作品。比較すると応挙の技術の高さが際立つが、軸端にも蒔絵が施された丁寧な表装で、共箱が添う優品。国井応陽（1867～1923）は京都の人。円山派の画家で、応挙の曽孫にあたる国井応文の養子。		

63　名称	漁樵図（ぎょしょうず）	品　質	絹本著色
作 者 等	国井応陽筆	員　数	2幅
時　代	明治44年（1911）	寸 法 等	各104.6×40.8cm
作品概要	漁樵問答の円山派的表現。国井応陽（1867～1923）は京都の人。円山派の画家で、応挙の曽孫にあたる国井応文の養子。		

64　名称	蘭亭曲水図（らんていきょくすいず）	品　質	絹本著色
作 者 等	熊谷酔香筆	員　数	1幅
時　代	江戸～明治時代（19世紀）	寸 法 等	135.6×42.1cm
作品概要	熊谷酔香（1817～75)は幕末明治期の商人。京都の鳩居堂7代目当主。酔香は書画の収集家であり、自ら筆を執って画を描くこともあった。落款から、遠藤家の求めに応じ制作したものであることがわかる。末尾には、「殤為」の下に「妄作後之視今」の6字が脱落していたのでこれを追記している。絵はこなれてはいるもののやはり素人の作というレベルだが、当時の文化人たちの交流を知る資料と言える。		

65　名称	秋景山水図（しゅうけいさんすいず）	品　質	絹本著色
作 者 等	幸野楳嶺筆	員　数	1幅
時　代	明治時代（19世紀）	寸 法 等	103.5×41.5cm
作品概要	幸野楳嶺（1844～1895）は京都の人。中島来章、塩川文麟らに学び、花鳥画を得意とした。明治13年京都府画学校（現在の京都市芸大）の設立に参加。竹内栖鳳・川合玉堂・上村松園らを育てた、明治前期京都画壇の重要画家である。付属する資料から、楳嶺の画塾と望月玉泉の画塾資清館の画家たちが合同で絵の頒布会を企画し、この頒布会で須羽彦右衛門が譲り受けたものであることがわかる。		

66　名称	猿柿図（さるかきず）	品　質	紙本墨画淡彩
作 者 等	幸野楳嶺筆	員　数	1幅
時　代	明治時代（19世紀）	寸 法 等	143.0×47.3cm
作品概要	楳嶺の水墨技法の高さがよくわかる優品。		

67　名称	採筍図（さいじゅんず）	品　質	紙本著色
作 者 等	幸野楳嶺筆	員　数	1幅
時　代	明治時代（19世紀）	寸 法 等	120.2×31.6cm
作品概要	幸野楳嶺（1844～1895）は京都の人。中島来章、塩川文麟らに学び、花鳥画を得意とした。明治13年京都府画学校（現在の京都市芸大）の設立に参加。竹内栖鳳・川合玉堂・上村松園らを育てた、明治前期京都画壇の重要画家である		

68　名称	蘭図（らんず）	品　質	紙本墨画淡彩
作 者 等	孝明天皇筆	員　数	1幅
時　代	江戸時代（19世紀）	寸 法 等	37.4×55.9cm
作品概要	署名などはないが、孝明天皇宸翰と伝わる画賛。付属の書付には、弘化元年（1844）に佐々木家から安田家に譲られた旨が記されている。ただし、孝明天皇が即位したのは弘化3年なので、書付の内容を信ずるとすれば皇太子時代の作ということになる。		

69　名称	旭日双鶴図（きょくじつそうかくず）	品　質	絹本著色
作 者 等	近藤樵仙筆	員　数	1幅
時　代	大正～昭和時代（20世紀）	寸 法 等	125.4×40.5cm
作品概要	近藤樵仙（1865～1951）は熊本の人。郷里で杉谷雪樵に師事し、その後雪樵とともに上京、日本画会・日本美術協会の中堅画家として文展に出品。宮内省の御用絵画や明治神宮壁画の制作などに携わり、画壇的地位を固めていった。しかし、大正3年の第8回文展の落選をきっかけに忽然と中央画壇から姿を消し、京都、鎌倉地方を遊歴しながらのちの半生を送った。		

70　名称	仙境雪景図（せんきょうせっけいず）	品　質	綾本墨画淡彩
作 者 等	塩川文麟筆	員　数	1幅
時　代	安政5年（1858）	寸 法 等	140.6×86.3cm
作品概要	塩川文麟（1808～1877）は京都の人。岡本豊彦に学び、維新期の四条派の中心的な存在となった。慶応2年（1866）、京都の画家を集めて如雲社を結成し、明治京都画壇の基礎を築いた。門下に幸野楳嶺、野村文挙らがいる。本作は綾本に描かれている点が珍しい。比較的大幅でもあり優品と言ってよい。		

71　名称	郭子儀図（かくしぎず）	品　質	絹本著色
作 者 等	鈴木百年筆	員　数	1幅
時　代	明治20年（1887）	寸 法 等	120.1×55.8cm
作品概要	鈴木百年（1825～91）は幕末～明治時代の画家。赤穂出身の儒学者鈴木星海の子。円山派の大西椿年らに師事（もしくは私淑）。明治13年京都府画学校の開設にあたり北宗科の教師となる。山水・花鳥画を得意とし、鈴木派の祖となった。晩年作。		

72　名称	鷺図（さぎず）	品　質	紙本墨画淡彩
作 者 等	鈴木松年筆	員　数	1幅
時　代	明治時代（19世紀）	寸 法 等	137.6×52.4cm
作品概要	鈴木百年（1825～91）は幕末～明治時代の画家。赤穂出身の儒学者鈴木星海の子。円山派の大西椿年らに師事（もしくは私淑）。明治13年京都府画学校の開設にあたり北宗科の教師となる。山水・花鳥画を得意とし、鈴木派の祖となった。		

73　名称	雪月花図（せつげっかず）	品　質	紙本墨画淡彩
作 者 等	鈴木松年筆	員　数	3幅
時　代	明治～大正時代（19～20世紀）	寸 法 等	各118.1×30.7cm
作品概要	鈴木松年（1848～1918）は京都の人。円山派の画家鈴木百年の長男。明治14年京都府画学校の教員となる。内国勧業博覧会などで受賞。上村松園の最初の師としても知られる。本作は、花見帰りの美人を雪月花の花として中幅に据えた三幅対。「今蕭白」とはまた異なる、瀟洒な円山派の画風が好もしい優品。		

74　名称	達磨図（だるまず）	品　質	紙本墨画淡彩
作 者 等	鈴木松年筆	員　数	4幅
時　代	明治～大正時代（19～20世紀）	寸 法 等	各131.1×57.1cm
作品概要	「今蕭白」らしい力強い作品。顔の表情もユーモラス。松年の達磨図は人気が高く多くの作品が伝わっているが、それぞれポーズを違えた4幅対という大作であり展示効果も高い。		

75　名称	桃山茅屋図（とうざんぼうおくず）	品　質	絹本著色
作 者 等	鈴木松僊筆	員　数	1幅
時　代	明治～大正時代（19～20世紀）	寸 法 等	127.8×36.3cm
作品概要	鈴木松僊（1872～？）は鈴木松年の長男。		

76　名称	達磨図（だるまず）	品　質	絹本墨画淡彩
作 者 等	木村光年筆	員　数	1幅
時　代	明治～昭和時代（19～20世紀）	寸 法 等	113.6×36.7cm
作品概要	木村光年（1877～？）は金沢の人。はじめ東京に出て山本光一に学び、のち京都で鈴木松年の門下となった。本作は光年の描いた達磨の絵に、師である松年が賛を記したもの。		

77　名称	林和靖・李白図（りんなせい・りはくず）	品　質	絹本著色
作 者 等	木村光年筆	員　数	2幅
時　代	明治～昭和時代（19～20世紀）	寸 法 等	各126.1×42.2cm
作品概要	林和靖「梅花」（「雪後園林纔半樹、水辺籬落忽横枝、人憐紅艶多応俗、天与清香似有私」）、李白「望廬山瀑布」（「日照香炉生紫煙、遥看瀑布掛長川、飛流直下三千尺、疑是銀河落九天」）を賛として引用しつつこれを絵画化している。		

78　名称	神武天皇図（じんむてんのうず）	品　質	絹本著色
作 者 等	谷口香嶠筆	員　数	1幅
時　代	明治～大正時代（20世紀）	寸 法 等	120.6×56.0cm
作品概要	谷口香嶠（1864～1915）は大坂の人。京都の幸野楳嶺の塾に入門。歴史画に優れ、竹内栖鳳らとともに楳嶺門の四天王といわれる。京都市立美術工芸学校、京都市立絵画専門学校で教鞭を執った。神武天皇が大和の実力者である長髄彦と戦って勝てなかったとき、金鵄が天皇の弓弭にとまって雷のように輝いたため、長髄彦は眩惑されて戦意を失い、天皇は大和を平定しえたと伝える。本作はこれを主題とする。共箱。		

79　名称	業平東下図（なりひらあずまくだりず）	品　質	絹本著色
作 者 等	土佐光時筆	員　数	1幅
時　代	江戸時代（18～19世紀）	寸 法 等	95.0×34.5cm
作品概要	土佐光時（1764～1819）は土佐光淳の子。父の跡を継いで絵所預となる。寛政2年の内裏造営に際し、円山応挙・岸駒・叔父の土佐光貞らとともに障壁画の制作にあたった。文政元年(1818)には大嘗会悠紀主基屏風を描いた。『伊勢物語』「東下り」を主題とする定型図様。雪が「鹿の子まだらに」積もっている様子を描いているのが面白い。光時が従四位下に叙された文化11年（1814）以降の晩年作。		

80　名称	富士山図（ふじさんず）	品　質	絹本墨画
作 者 等	長澤蘆雪筆	員　数	1幅
時　代	江戸時代（18世紀）	寸 法 等	25.1×45.9cm
作品概要	小品ながら、長澤蘆雪（1754～99）の水墨画の佳品である。		

81　名称	恵比寿図（えびすず）	品　質	紙本墨画淡彩
作 者 等	中島来章筆	員　数	1幅
時　代	江戸～明治時代（19世紀）	寸 法 等	115.3×41.4cm
作品概要	中島来章（1796～1871）は近江の人。渡辺南岳、のち円山応瑞の門に入る。幕末の円山派の大家として重きをなし、横山清暉・岸連山・塩川文麟とともに平安四名家と称された。門下に幸野楳嶺らがいる。		

82　名称	大黒天図（だいこくてんず）	品　質	紙本墨画
作 者 等	中島来章筆	員　数	1幅
時　代	江戸～明治時代（19世紀）	寸 法 等	97.8×28.6cm
作品概要	中島来章（1796～1871）は近江の人。渡辺南岳、のち円山応瑞の門に入る。幕末の円山派の大家として重きをなし、横山清暉・岸連山・塩川文麟とともに平安四名家と称された。門下に幸野楳嶺らがいる。		

83　名称	蓮図（はすず）	品　質	紙本墨画
作 者 等	中島来章筆	員　数	1幅
時　代	江戸～明治時代（19世紀）	寸 法 等	129.2×58.6cm
作品概要	中島来章（1796～1871）は近江の人。渡辺南岳、のち円山応瑞の門に入る。幕末の円山派の大家として重きをなし、横山清暉・岸連山・塩川文麟とともに平安四名家と称された。門下に幸野楳嶺らがいる。		

84　名称	蓬莱山図（ほうらいさんず）	品　質	絹本著色
作 者 等	中島来章筆	員　数	1幅
時　代	江戸～明治時代（19世紀）	寸 法 等	106.3×42.2cm
作品概要	中島来章（1796～1871）は近江の人。渡辺南岳、のち円山応瑞の門に入る。幕末の円山派の大家として重きをなし、横山清暉・岸連山・塩川文麟とともに平安四名家と称された。門下に幸野楳嶺らがいる。呉春の作にならう旨を記す。		

85　名称	牛図（うしず）	品　質	紙本著色
作 者 等	野澤如洋筆	員　数	1幅
時　代	大正13年（1924）	寸 法 等	138.4×33.1cm
作品概要	野沢如洋（1865～1937）は弘前の人。京都で今尾景年に学び、日本美術協会展などに入賞。文展審査員に任命されたが辞退し、生涯反官展主義を貫いた。山水、馬などの水墨画を描き、「馬の如洋」と呼ばれた。大正13年12月に岡岩太郎が表装した際の須羽氏宛領収書が付属しているので、須羽家からの依頼による制作だったと見られる。		

86　名称	烏図（からすず）	品　質	紙本墨画淡彩
作 者 等	野澤如洋筆	員　数	1幅
時　代	明治30年（1897）	寸 法 等	132.0×66.4cm
作品概要	野沢如洋（1865～1937）は弘前の人。京都で今尾景年に学び、日本美術協会展などに入賞。文展審査員に任命されたが辞退し、生涯反官展主義に立つ。水墨画を専らとした。款記から、細辻家のために制作したものとわかる。		

87　名称	鯉登瀑布図（りとうばくふず）	品　質	紙本墨画
作 者 等	長谷川玉峰筆	員　数	1幅
時　代	江戸～明治時代（19世紀）	寸 法 等	137.7×56.2cm
作品概要	長谷川玉峰（1822～1879）は京都の人。四条派の松村景文に学び、花鳥画を得意とした。本作は鯉を描く際に水流を巧みに塗り残すことで、流れ落ちる水の中を泳ぐさまを表現している。これは応挙が得意とした表現手法で、当館にも応挙による類作があり、円山派における図様の継承を示すことができる点でも意義深い。		

88　名称	士農工商図（しのうこうしょうず）	品　質	絹本墨画淡彩
作 者 等	長谷川玉峰筆	員　数	1幅
時　代	江戸～明治時代（19世紀）	寸 法 等	99.0×26.9cm
作品概要	士農工商を主題とする絵画は、浮世絵を含め少なくない作例が知られており、本作もその流れを汲むものと言える。本作は、愛らしいユニークな人物描写がとりわけ印象深い魅力的である。		

89　名称	蝦蟇鉄拐図（がまてっかいず）	品　質	絹本著色
作 者 等	原在中筆	員　数	2幅
時　代	江戸時代（18～19世紀）	寸 法 等	各155.5×78.7cm
作品概要	原在中（1750～1837）は京都の人。鶴澤派の石田幽汀、のち円山応挙に学び、原派の祖となった。本作は、顔輝筆「蝦蟇鉄拐図」（知恩寺蔵）を写したもの。背景描写も含め細部まで丹念に写し取りつつ、独立した作品として確固たる表現を作り上げている。		

90　名称	寒山拾得図（かんざんじっとくず）	品　質	紙本墨画
作 者 等	原在中筆	員　数	2幅
時　代	天明6年（1786）	寸 法 等	各120.6×40.8cm
作品概要	原在中（1750～1837）は京都の人。鶴澤派の石田幽汀、のち円山応挙に学び、原派の祖となった。37歳の作。		

91　名称	鶺鴒図小襖（せきれいずこぶすま）	品　質	紙本金地墨画
作 者 等	原在中筆	員　数	2面
時　代	江戸時代（18～19世紀）	寸 法 等	各65.6×64.3cm
作品概要	原在中（1750～1837）は京都の人。鶴澤派の石田幽汀、のち円山応挙に学び、原派の祖となった。檀紙に箔を貼って水墨で描いた作。		

92　名称	高砂浦相生松真図（たかさごうらあいおいまずしんず）	品　質	紙本墨画淡彩
作 者 等	原在中筆	員　数	1幅
時　代	天保2年（1831）	寸 法 等	113.8×57.3cm
作品概要	高砂の相生の松を描いた在中の画に、明治3年（1870）になって歌人の平忠秋（1811～81）が和歌賛を記している。忠秋の款記によれば、この和歌は伊勢の五十鈴川の水を使って書いたという。桂園派歌人としても知られる永楽屋細辻家8代の昌雄は、明治14年に忠秋の歌集を出版しているので、その筋からの繋がりで賛が書かれた可能性が考えられる。		

93 名称	関羽図（かんうず）	品　質	絹本著色
作 者 等	原在照筆	員　数	1幅
時　代	文久元年（1861）	寸 法 等	108.8×41.8cm
作品概要	原在照（1813～71）は江戸後期～明治時代の画家。原在明（在中次男、原派2代目）の娘婿。画法を養父に学び、原派3代を継いだ。安政の内裏造営のとき障壁画を描いた。款記から、何らかの古図を写したものとわかる。		

94 名称	瀑布図　ばくふず）	品　質	絹本墨画淡彩
作 者 等	原在泉筆	員　数	1幅
時　代	明治～大正時代（19～20世紀）	寸 法 等	112.1×41.2cm
作品概要	原在泉（1849～1916）は京都の人。原在照の養嗣子で、原派4代目。明治13年京都府画学校教授。有職故実に通じ、作品に「明治天皇御大喪絵巻」や仁和寺宸殿の障壁画などがある。箱書きによれば、明治33年（1900）に「関長利」なる人物の遺品として、遠藤家が入手したという。		

95 名称	八幡公凱旋図（はちまんこうがいせんず）	品　質	絹本著色
作 者 等	原在泉筆	員　数	1幅
時　代	明治44年（1911）	寸 法 等	109.6×42.2cm
作品概要	共箱。原在泉（1849～1916）は京都の人。原在照の養嗣子で、原派4代目。明治13年京都府画学校教授。有職故実に通じ、作品に「明治天皇御大喪絵巻」や仁和寺宸殿の障壁画などがある。		

96 名称	春駒・桃花牛図（はるこま・とうかうしず）	品　質	絹本著色
作 者 等	原在泉筆	員　数	2幅
時　代	明治～大正時代（19～20世紀）	寸 法 等	各129.4×50.9cm
作品概要	周の武王が殷の紂王を滅ぼしたのち、軍用の馬を華山に、牛を桃林に放ったという『書経』「武成篇」に見える故事に基づく作品と考えられる。付属の書付によれば、十二支を主題とする作品のうち二、三月に相当するといい、もとは12幅セットの作品だったらしい。子の在寛による箱書きがある。		

97 名称	蓬莱仙境図（ほうらいせんきょうず）	品　質	絹本著色
作 者 等	原在泉筆	員　数	1幅
時　代	大正2年（1913）	寸 法 等	113.0×41.0cm
作品概要	款記から、遠藤氏の婚礼祝いとして制作されたものとわかる。		

98 名称	白菊睡猫図（しらぎくすいびょうず）	品　質	絹本著色
作 者 等	原在寛筆	員　数	1幅
時　代	大正2年（1913）	寸 法 等	108.9×42.1cm
作品概要	原在寛（1884～1957）は原在泉の次男、応挙の弟子在中に始まる原派の5代目。京都市美術工芸学校（現在の京都市芸大）図案科卒業。明治末に父在泉が依頼を受けた仁和寺宸殿の障壁画製作には助手として協力した。菊の下で眠る猫を描いた作。箱書きによれば、大正2年（1913）に原在寛が結婚した際、答礼として本作が描かれたという。		

99 名称	富士山図（ふじさんず）	品　質	絹本著色
作 者 等	原在寛筆	員　数	1幅
時　代	大正11年（1922）	寸 法 等	40.0×50.1cm
作品概要	共箱。遠藤氏の富士登山を記念して制作されたことがわかる。またその際、「金明水」つまり富士山頂に湧く水を使用したことが明記されている。金明水を使って墨をするなどして富士山を描くのは、江戸時代後期から主に文人画家を中心に流行した手法。それが近代の原派においても継承されている点は興味深い。		

100 名称	吹飯浦鶴図（ふけいのうらつるず）	品　質	絹本著色
作 者 等	原在寛筆	員　数	1幅
時　代	昭和7年（1932）	寸 法 等	115.6×42.8cm
作品概要	共箱。吹飯浦とは、大阪府泉南郡岬町深日の海岸。古くから景勝地として知られた歌枕で、鶴の名所だった。付属する在寛自身の書付から、藤原清正「天つ風ふけいのうらにゐるつるのなどか雲井に帰らざるべき」（『新古今和歌集』）に基づく絵画表現とわかる。		

101 名称	山水図（さんすいず）	品　質	絹本墨画淡彩
作 者 等	日根対山筆	員　数	1幅
時　代	文久3年（1863）	寸 法 等	129.1×41.2cm
作品概要	日根対山（1813～1869）は江戸時代後期～幕末の画家。大坂和泉の人。京都の貫名海屋に学問と書画の指導をうけ、文人画山水を得意とした。款記に「仿梅道人画法」とあり、元末四大家のひとり呉鎮の画法にならった旨を記す。		

102 名称	山水図押絵貼屏風（さんすいずおしえばりびょうぶ）	品　質	紙本墨画淡彩
作 者 等	日根対山筆	員　数	8曲1隻
時　代	慶応2年（1866）	寸 法 等	各図136.3×26.6cm
作品概要	各図には四字題が付されており、明末の画家王建章の「桐城十景図」にちなむ主題であることがわかる。桐城は安徽省に位置する都市で、古城で知られる。その景観を描く王建章の「桐城十景」は、奥原清湖が模本をつくるなど、幕末の文人画家には知られていたものだったらしい。本作は8図なので十景すべてが網羅されているわけではないが、中国の名勝を主題とする大作として貴重である。		

103 名称	桃源図（とうげんず）	品　質	紙本著色
作 者 等	本田蔭軒筆	員　数	1幅
時　代	大正～昭和時代（20世紀）	寸 法 等	27.8×37.0cm
作品概要	本田蔭軒（1881～1945）は中国哲学者・漢学者・書画家。岐阜県生。青木正児・小島祐馬と共に支那学舎を結成し、同人誌「支那学」を創刊した。画を富岡鉄斎に師事し、南宗派を能くした。		

104 名称	群鴨図（ぐんおうず）	品　質	絹本著色
作 者 等	前川文嶺筆	員　数	1幅
時　代	明治～大正時代（19～20世紀）	寸 法 等	111.1×42.0cm
作品概要	前川文嶺（1837～1917)は京都の人。松村景文門下の四条派画家、前川五嶺の子として生まれる。開校時の京都府画学校に出仕し、京都私立日本青年絵画共進会では審査員を務めるなど、明治初期における京都画壇の中堅作家として活躍した。内国絵画共進会・内国勧業博覧会・日本絵画協会・日本美術院連合絵画共進会・日本南画協会会展などに出品している。		

105 名称	恵比寿図（えびすず）	品　質	紙本墨画淡彩
作 者 等	松村景文筆	員　数	1幅
時　代	江戸時代（19世紀）	寸 法 等	110.3×28.2cm
作品概要	松村景文（1779～1843）は江戸時代後期の画家。京都の人。呉春の異母弟。優麗な花鳥画を得意とした。呉春亡きあと四条派の中心となる。		

106 名称	大黒天図（だいこくてんず）	品　質	絖本墨画
作 者 等	松村景文、中島来章筆	員　数	1幅
時　代	江戸時代（19世紀）	寸 法 等	36.3×41.9cm
作品概要	本作は、絖本に景文が宝珠を、来章が金泥で大黒を描いたおめでたい作。		

107 名称	月兎図（げっとず）	品　質	紙本墨画
作 者 等	村瀬双石筆	員　数	1幅
時　代	江戸～明治時代（19世紀）	寸 法 等	115.3×29.8cm
作品概要	村瀬雙石（1822～77）は京都の人。松村景文に画を学んだ四条派の画家。月に兎が棲むという言説は、紀元前4～3世紀、中国戦国時代に遡るとされ、釈迦の本生譚や神仙思想などが入り混じり、兎が月で仙薬をつく図像が生まれた。これが、日本において餅をつくとされるようになった事情は必ずしも明らかではないが、満月を意味する「望月」からの連想であるとも言われる。		

108 名称	鶏・牛図（とり・うしず）	品　質	絹本著色
作 者 等	村瀬双石筆	員　数	1幅
時　代	慶応3年（1867）	寸 法 等	各105.2×35.9cm
作品概要	村瀬雙石（1822～77）は京都の人。松村景文に画を学んだ四条派の画家。慶応3年（1867）11月の作。十二支のうちの二図であった可能性もある。		

109 名称	若王夏瀑・保津渓雪図 （にゃくおうかばく・ほずけいせつず）	品　質	絹本著色
作 者 等	望月玉泉筆	員　数	2幅
時　代	明治24年（1891）	寸 法 等	各112.2×41.5cm
作品概要	望月玉泉（1834～1913）は幕末～明治期の画家。京都の人。江戸時代中期から続く望月派の画家玉川の子で望月派4代目。幸野楳嶺らと京都府画学校の創設を建議し、明治13年の開校に際しては東宗（大和絵）担当の教員となっている。明治37年には帝室技芸員となった。京都の名勝百景を選んで百図を制作したうちの2幅。これまで所在が知られていなかった新発見作としてたいへん貴重である。		

110 名称	太秦春趣・桂川斜照図 （うずまさしゅんしゅ・かつらがわしゃしょうず）	品　質	絹本著色
作 者 等	望月玉泉筆	員　数	2幅
時　代	明治24年（1891）	寸 法 等	各113.2×41.7cm
作品概要	望月玉泉（1834～1913）は幕末～明治期の画家。京都の人。江戸時代中期から続く望月派の画家玉川の子で望月派4代目。幸野楳嶺らと京都府画学校の創設を建議し、明治13年の開校に際しては東宗（大和絵）担当の教員となっている。明治37年には帝室技芸員となった。京都の名勝百景を選んで百図を制作したうちの2幅。これまで所在が知られていなかった新発見作としてたいへん貴重である。		

111 名称	芦雁図（ろがんず）	品　質	絹本著色
作 者 等	望月玉泉筆	員　数	2幅
時　代	明治39年（1906）	寸 法 等	各110.4×50.4cm
作品概要	泉屋博古館分館に明治40年作の類品がある。芦雁図を得意とした玉泉の優品。		

112 名称	僊山迎春図（せんざんげいしゅんず）	品　質	絹本墨画
作 者 等	望月玉川筆	員　数	1幅
時　代	嘉永4年（1851）	寸 法 等	107.5×44.0cm
作品概要	望月玉川（1794～1852）京都の人。望月派の画家2代玉仙（初代玉蟾の子）の子で、望月派の3代目。幼時に父を失い、村上東洲・岸駒に学んだ。のち四条派の松村月渓の画風を学び、一家をなした。本作は富士山を写実的に描いたもので、描表装には雲鶴文があしらわれた吉祥性の強い作品となっている。八双裏に玉川自身による識語があり、嘉永４年（1851）に須羽氏のために制作した旨が記されている。		

113 名称	花鳥・山水図（かちょう・さんすいず）	品　質	紙本墨画
作 者 等	山本梅逸、中林竹洞筆	員　数	2幅
時　代	江戸時代（19世紀）	寸 法 等	梅逸：133.5×28.9cm　竹洞：138.2×29.4cm
作品概要	尾張の南画家による対幅。他の作品と若干毛色が異なり、市場流通品を購入したものである可能性が高い。		

114 名称	悠紀田之秋（ゆきでんのあき）	品　質	絹本著色
作 者 等	渡辺公観筆	員　数	1幅
時　代	昭和3年（1928）	寸 法 等	45.0×50.3cm
作品概要	渡辺公観（1878～1938）は大津の人。明治27年京都美術工芸学校に入り、翌年退学、森川曽文に師事する。文展にたびたび出品、大正8年井口華秋、広田百豊と共に日本自由画壇を創立し、毎年同展に出品した。箱書きから、昭和3年（1928）に野洲市御上神社のそばにあった昭和天皇大嘗祭の悠紀田を描いたものとわかる。		

115 名称	柳蔭漁艇図（りゅういんぎょていず）	品　質	絹本墨画
作 者 等	江上瓊山筆	員　数	1幅
時　代	明治43年（1910）	寸 法 等	138.0×42.0cm
作品概要	江上瓊山（1862～1924）は明治期の長崎を代表する南画家、書家。幕末三筆のひとり鉄翁の流れを汲む守山湘颺に南画を、岡田篁所に書を学んだ。明治38年に京都師範学校教師として招聘される。京都では、亡命清人である羅振玉や富岡鉄齋・桑名鐵城・犬養毅などとの交流の中で風雅を極めた。		

116 名称	臨孟覲乙江南碩果図（りんもうきんいつこうなんせきかず）	品　質	紙本著色
作 者 等	江上瓊山筆	員　数	1幅
時　代	明治35年（1902）	寸 法 等	109.5×37.4cm
作品概要	江上瓊山（1862～1924）は明治期の長崎を代表する南画家、書家。幕末三筆のひとり鉄翁の流れを汲む守山湘颺に南画を、岡田篁所に書を学んだ。明治38年に京都師範学校教師として招聘される。京都では、亡命清人である羅振玉や富岡鉄齋・桑名鐵城・犬養毅などとの交流の中で風雅を極めた。		

117 名称	忠臣蔵図扇面貼交屏風 （ちゅうしんぐらずせんめんはりまぜびょうぶ）	品　質	絹本著色
作 者 等	北野恒富ほか筆	員　数	1幅
時　代	大正～昭和時代（20世紀）	寸 法 等	各図17.0×54.2cm
作品概要	北野恒富（1880～1947）は明治～昭和戦前期を中心に活躍した画家。石川県の出身。稲野年恒に師事。明治43年文展で「すだく虫」が初入選。大正3年からは院展に出品。6年日本美術院同人。また大正美術会、大阪美術会を結成。大阪を拠点に独特の美人画を描いた。本作は、「仮名手本忠臣蔵」から15の名場面を恒富ら12名の画家が描いた扇面を貼り交ぜた屏風。		

118 名称	瀬戸之石図（せとのいしず）	品　質	紙本墨画淡彩
作 者 等	趙陶斎筆	員　数	1幅
時　代	江戸時代（18世紀）	寸 法 等	62.0×26.3cm
作品概要	趙陶斎（1713～86）は江戸時代中期の書家。長崎の人。清の商人の子という。竺庵浄印に師事、のち還俗して大坂の深見氏の家に住む。書をもって諸国を遊歴し、晩年は堺で森田士徳らの後援を受けた。撰者未詳の賛によれば、宝暦13年（1763）に瀬戸で手に入れた石を描いたという。文人たちの石の愛好を背景として、この種の作品が多く制作された。ただし、本作は写しの可能性もあるか。		

119 名称	宝珠図（ほうじゅず）	品　質	紙本墨画
作 者 等	鶴澤探山筆	員　数	1幅
時　代	正徳2年（1712）	寸 法 等	31.3×53.9cm
作品概要	鶴澤探山（1655～1729）は江戸時代前期～中期の画家。鶴沢家の祖。元禄のころ狩野探幽門下から選抜され、禁裏御用絵師となる。宝永期の内裏造営、享保期の東宮御殿建造に際し障壁画を描いた。正月に描いたもの。		

120 名称	立葵図扇面（たちあおいずせんめん）	品　質	紙本著色
作 者 等	中村芳中筆	員　数	1枚
時　代	江戸時代　18～19世紀	寸 法 等	縦21.3cm　横55.5cm
作品概要	京都に生まれ、大坂に移り住んで活動した中村芳中（？～1819）の扇面で、もとは屏風貼交だったうちの1枚。これまで、当館の館蔵品には芳中の作が1点もなく、寄贈によってその欠が補われることは喜ばしい。		

121 名称	富士山図扇面（ふじさんずせんめん）	品　質	紙本著色
作 者 等	中村芳中筆	員　数	1枚
時　代	江戸時代　18～19世紀	寸 法 等	縦21.3cm　横55.3cm
作品概要	京都に生まれ、大坂に移り住んで活動した中村芳中（？～1819）の扇面で、もとは屏風貼交だったうちの1枚。これまで、当館の館蔵品には芳中の作が1点もなく、寄贈によってその欠が補われることは喜ばしい。		

＜書跡＞（108件）

1　名称	題伊藤紫虹画展　一九五六年（いとうしこうがてんにだいす）	品　質	紙本墨書
作 者 等	張大千筆	員　数	1幅
時　代	中国　近代	寸 法 等	26.5×56.1cm
作品概要	張大千(1899-1983)が東京で開催された伊藤紫虹氏の初の個展に贈った題辞。張大千の友人である溥儒の弟子となった伊藤氏の才能を讃えるもので、近現代の中国を代表する二大家と、日本人画家の直接の交流が記録されている点でも貴重な書幅。		

2　名称	行書陋室銘（ぎょうしょろうしつめい）	品　　質	紙本墨書
作 者 等	金権郁筆	員　　数	1幅
時　　代	1913年	寸 法 等	131.0×37.3cm
作品概要	中唐の劉禹錫「陋室銘」を書したもの。陋室とは狭くて粗末な部屋のことどんなに狭くて粗末な部屋に住んでいても、自身の品徳を高尚に保っていれば何ら恥じることはないことを詠う。書写した金権郁については未詳。富岡鉄斎旧蔵品。		

3　名称	隷書五言詩聯　拓本（れいしょごごんしれん　たくほん）	品　　質	紙本墨拓
作 者 等	金農筆	員　　数	1対
時　　代	中国　清時代	寸 法 等	各92.2×19.4cm
作品概要	唐の温庭筠「秘書劉尚書晩歌詞二首」の詩句「王筆活鸞鳳、謝詩生芙蓉」（王羲之の書法は鸞鳳を活かし、謝霊運の詩は芙蓉を生じる）を、揚州八怪のひとりにあげられる、清の金農があらわした漆書の拓本。本作はその拓本を額に貼り、対聯に仕立てている。富岡鉄斎の旧蔵品。		

4　名称	行書潤格　拓本（ぎょうしょじゅんかく　たくほん）	品　　質	紙本墨拓
作 者 等	鄭燮筆	員　　数	1面
時　　代	中国　清時代	寸 法 等	27.2×93.2cm（最長）
作品概要	揚州八怪のひとりにあげられる、清の鄭燮（鄭板橋）が記した潤格（値段表）の拓本を額装したもの。官途から外れ、揚州市中で書画を売って生活することとなった鄭燮が、「大幅は六両、中幅は四両、小幅は二両。書條、対聯は一両。扇子、斗方は五銭」とみずから値段を決めて掲げたもの。伝統的文人像と一線を画した、近代作家の新しい生き方を示す記念的な内容で、日本の作家にも好まれた。富岡鉄斎の旧蔵品。		

5～106 名称	漢詩色紙（かんししきし）など	品　　質	紙本墨書など
作 者 等	伝後伏見天皇筆	員　　数	102件
作品概要	金石文や書道史の研究者で、書家としても活躍した須羽源一（水雅、1910～74）の旧蔵品である。大きく1和歌懐紙を中心とする和様の書、2貫名海屋をはじめとする唐様の書、3拓本類に分けられ、3の多くは書を学んだ山本竟山（1863～1934）の没後、行われた蔵品の売り立てにて落掌した。これらは、縁故をたどって直接、あるいは間接に入手したものが大半を占めると考えられる。長尾雨山や呉昌碩など、近現代を代表する著名な書家の作品を含んでいる点に加え、これらを群として検討することで、源一が自身の書風を形成するにあたり何を手本としたかが判明する点が重要といえる。細目は以下の通り。 5　漢詩色紙　伝後伏見天皇筆　1幅　　6　墨蹟　高泉性潡筆　1幅　　7　行書陶淵明五言古詩　貫名海屋筆　1幅 8　楷書五律一首　翁同龢筆　1幅　　9　篆書「万歳万歳万々歳」　呉昌碩筆　1幅　　10　臨洛神賦　貫名海屋筆　1冊 11　摹秦嶧山碑　貫名海屋筆　1冊　　12　尺牘　翁同龢筆　1冊　　13　唐顔真卿争坐位文稿 西安本　明拓　1冊 14　隋蘇孝慈墓誌拓本　張榮升跋本　1冊　　15　始興忠武王碑拓本　1冊　　16　漢史晨前後碑拓本　秋字已損　2冊 17　筠清館帖　存四冊　４冊　　18　潘存臨北魏高貞碑　他二種　1冊　　19　張大千題何紹基臨漢石門頌井土霊山双鉤　1冊 20　停雲館法帖　十二巻本　12冊　　21　和歌懐紙（新年詠新年松応制歌）　有栖川宮威仁親王筆　1幅 22　詠草（わが宿の）　京極宮家仁親王筆　1幅　　23　和歌懐紙（寄松祝）　五辻豊仲筆　1幅 24　和歌懐紙（花似雲）　岡本保考筆　1幅　　25　和歌懐紙（夏日詠故郷郭公）　香川景樹筆　1幅 26　和歌懐紙（友なる季延）　香川景恒筆　1幅　　27　和歌色紙（竹契遐年）　梶井宮承真法親王筆　1幅 28　和歌懐紙（十五夜月）　賀茂季鷹筆　1幅　　29　和歌懐紙（歳のくれに）　賀茂季鷹筆　1幅 30　和歌懐紙（春日同詠歓無極歌）　賀陽宮邦憲王筆　1幅　　31　和歌懐紙（治世文事興）　清水谷公正筆　1幅 32　和歌懐紙（不尽）　千種有功筆　1幅　　33　和歌懐紙（常磐木雪）　日野資枝筆　1幅 34　和歌短冊（もみちのみしよみける中に）　山中信天翁筆　1幅　　35　和歌懐紙（月契久秋といや心を）　冷泉為則筆　1幅 36　和歌懐紙（寄世述懐のこゝろを）　冷泉為理筆　1幅　　37　五絶一首（為原田西疇作）　江馬天江筆　1幅 38　尺牘（西頻先生宛）　河井荃廬筆　1幅　　39　八秩自寿詩コロタイプ　日下部鳴鶴筆　1幅 40　行書移居詩　小林卓斎筆　1幅　　41　行書詩文　杉溪言長（六橋）筆　1枚　　42　臨蘭亭序　須羽水雅筆　1幅 43　篆書「和而敬」　園田湖城筆　1幅　　44　篆書「敬徳」　園田湖城筆　1枚　　45　篆書「苦瓢連根苦」　園田湖城筆　1幅 46　篆書「万歳」書　富岡鉄斎筆　1幅　　47　草書茉莉花五律　長尾雨山筆　1幅　　48　額字「百禄是遒」　山本竟山筆　1幅 49　額字「柳條」　山本竟山筆　1幀　　50　真書六言対聯　山本竟山筆　2幅　　51　臨蘭亭序　山本竟山・須羽水雅筆　3巻 52　乙丑詩書　王一亭筆　1幅　　53　額字「心与水月涼」　陳曼寿筆　1幀　　54　行書唐詩　鉄保筆　1幅 55　金秋史墨寶　金正喜筆　1冊　　56　宝賢堂集古帖　零本　1冊　　57　停雲館法帖　零本　1冊 58　清歎閣蔵帖　存五冊　5冊　　59　海山仙館蔵真　存十六冊　16冊　　60　滋蕙堂帖　存三冊　3冊 61　墨妙軒法帖　零本　1冊　　62　式古堂法帖　存三冊　3冊　　63　唐孫過庭法帖　（揚雄蜀都賦）　1冊 64　魏鍾繇宣示表　他　1点　　65　唐孫過庭書譜安岐刻本　1冊　　66　楽毅論　1冊 67　王献之洛神賦十三行　林佶跋　1冊　　68　王献之洛神賦　貫名海屋旧蔵　1冊　　69　集帖　趙模千字文　零本　1冊 70　響琴斎晋帖　零本　1冊　　71　垂裕閣法帖　和刻本　零本　1冊　　72　玉虹鑑真帖　零本　1冊 73　墨池堂帖　零本　1冊　　74　唐孫過庭書譜　和刻本　1冊　　75　唐懐素千金帖　和刻本　1冊　　76　唐懐素法帖　1冊 77　緑天庵瑞石帖　存四冊　４冊　　78　蘭亭序　米芾跋　1冊　　79　渤海李思訓真帖　存六冊　６冊 80　東魏隻脩羅碑拓本　1冊　　81　隋斐鏡民碑拓本　1冊　　82　唐孫過庭書譜　宋寧宗臨本　1冊 83　渤海蔵真帖　零本　1冊　　84　隋信州舎利塔銘拓本　1冊　　85　北魏高貞碑拓本　1冊 86　北魏張猛龍碑　1冊　　87　北魏李璧墓誌拓本　1冊　　88　唐伊闕仏龕碑拓本　1冊　　89　唐温彦博碑拓本　1冊 90　唐皇甫誕碑拓本　1冊　　91　唐李思訓碑拓本　1冊　　92　唐昭仁寺碑拓本　1冊　　93　前秦広武将軍碑拓本　1冊 94　劉宋爨龍顔碑拓本　1冊　　95　唐周孝侯之碑拓本　1冊　　96　唐雁塔聖教序拓本　1冊 97　漢司隷校尉楊孟文石門頌拓本　1冊　　98　漢封龍山碑拓本　1冊　　99　漢孔宙碑拓本　1冊　　100 漢衡方碑拓本　1冊 101 唐李思訓碑拓本（重刻）　1冊　　102 北魏石門銘拓本　1冊　　103 唐晋祠銘題名記拓本　1冊 104 北魏雲峯山（天柱山）全套　12冊　　105 梅所臨薛紹彭書譜　1巻　　106 清人詩集　1冊		

107 名称	東福寺即宗院（薩摩島津氏菩提寺）関係文書 （とうふくじそくしゅういん（さつましまづしぼだいじ）かんけいもんじょ）	品　　質	紙本墨書
作 者 等		員　　数	88通
時　　代	桃山～江戸時代（16～19世紀）	寸 法 等	第1通 伊勢貞昌書状（折紙、35.4×49.7cm）　第2通 伊勢貞昌書状（折紙、37.6×52.9cm）　ほか
作品概要	薩摩島津氏の菩提寺である東福寺即宗院に伝来した文書群。同院は、島津氏久の菩提を弔うため、剛中玄柔（東福寺54世、1318～88）を開基として嘉慶2年（1388）に創建されたと伝え、永禄12年（1569）には火災により焼失するが、島津家久（忠恒、1576～1638）の尽力により、慶長末年に再興を果たした。これらは、天正8年（1580）と考えられる「北郷時久書状」を上限とし、嘉永4年（1851）の「島津斉彬入部参詣入用帳」を下限とする88通からなり、伊勢貞昌をはじめ、薩摩藩の家老が発給した書状が中心をなす。再興に関連する文書を多く含み、加えて、表装がなされておらず、ほぼオリジナルの状態を保っているため、内容および形態の面で重要な情報を提供してくれる。		

108 名称	木戸孝允書状（四月廿五日付） （きどたかよししょじょう （しがつにじゅうごにちづけ））	品　質	紙本墨書
作者等		員　数	1幅
時　代	江戸時代　慶応4年（1868）	寸法等	第1段 18.7×40.1cm　第2段 18.7×40.1cm　第3段 18.7×40.1cm　第4段 18.7×40.4cm　第5段 18.7×40.8cm
作品概要	木戸孝允（桂小五郎、1833～77）が後藤象二郎にあてた書状。もとは数枚の紙を貼り継いだ切続紙であったが、現状はほぼ等間隔で切断のうえ、軸装へと改められている。署名に「準一郎」を用いることから、33～36歳ごろのものであり、文中に「御一新」の表記がみえ、さらに、明治天皇が大坂に巡幸中と分かるため、慶応4年と判明する。大隈重信・三条実美・伊達宗城らとともに、天皇の御前にて、肥前国彼杵郡浦上村における潜伏キリシタンの処分（浦上四番崩れ）について相談したことが本文の中心をなし、明治新政府のみならず、木戸本人のキリスト教にたいする強硬な姿勢が表れており興味ぶかい。		

＜金工＞（3件）

1　名称	七宝蓮華形香炉（しっぽうれんげがたこうろ）	品　質	銅製　鋳造　鍛造　象嵌七宝　鍍金
作者等		員　数	1口
時　代	江戸時代　17～18世紀	寸法等	口径27.3cm　胴径36.5cm　高12.2cm
作品概要	蓮華の花を模した大型の香炉。胴の側面に大ぶりの蓮弁を象嵌七宝であらわし、脚部を荷葉形とする。七宝の色調を赤から白へと無段階に変化させたグラデーションで連弁を彩り、鍍金部分と対比させることで一層の華やかさを演出している。近世の象嵌七宝の作品としてはかなりの大型作品である点も貴重である。		

2　名称	刀　銘肥前国住近江大掾藤原忠廣 （かたな　めい ひぜんのくにじゅうおうみだいじょうふじわらのただひろ）	品　質	鉄製　鍛造
作者等	近江大掾忠廣（二代）	員　数	1口
時　代	江戸時代　17世紀	寸法等	刃長71.4cm　反り2.1cm
作品概要	肥前国の刀工・初代忠吉の子である近江大掾忠廣の手による打刀。近江大掾忠廣は新刀期を代表する名工の一人で、半世紀以上にわたる作刀活動から現存作品は極めて多い。その中でも本品は忠廣の常の作風とはやや異なる互の目を主体とした非常に華やかな出来であり、長寸で身幅が広く、重も厚く、彼の現存作例の中でも抜きん出た名品である。		

3　名称	刀　銘備州長船祐光 （かたな　めい びしゅうおさふねすけみつ）	品　質	鉄製　鍛造
作者等	長船祐光	員　数	1口
時　代	室町時代　15～16世紀	寸法等	刃長64.4cm　反り2.0cm
作品概要	備前国長船派の刀工である祐光は永享頃の初代から17世紀末まで続いた名跡。本品は「片手打」と呼ばれる軽快な取り回しに主眼を置いた打刀の一種で、戦場の主力が騎馬武者による弓射戦から徒歩武者による打物戦に移行した時期に出現した。この打ち刀は先反りのついた短めの刀身と、拳一つ分しかない短小な茎仕立てが典型的な片手打の体配を示しており、室町時代の武装の変化を知る上で重要である。		

＜漆工＞（3件）

1　名称	江上瓊山所用 古竹払子 （えがみけいざんしょよう　こちくほっす）	品　質	竹　絹
作者等	不詳	員　数	1本
時　代	江戸～明治時代　19世紀	寸法等	長47.5cm　径3.2cm
作品概要	竹製の柄の先端に竹の小枝の束を取りつけ、絹組紐を編んで枝の根元を覆った小型の払子。毛先を獣毛でなく竹の枝で作るのは珍しい。附属の白絹包裂に、髙野清雄（1862-1921）による明治42年（1909）の本品を譲り受けた旨の由緒書きと、師である江上瓊山(1862-1924)による大正11年（1922）の竹図および墨書がある。瓊山が清雄に与えた本品だったが、先に没した清雄を偲んで瓊山が包裂に画と銘文を寄せたものらしい。		

2　名称	玳瑁塗輪花天目台（たいまいぬりりんかてんもくだい）	品　質	木製　箔押　漆塗　漆絵
作者等		員　数	1口
時　代	室町～桃山時代　16世紀	寸法等	最大径16.5cm　高9.5cm
作品概要	禅宗寺院で献茶などで用いる天目碗用の台。鍔を六弁花形に作り、表面は、漆塗りの上に金箔を押し、その上から漆を塗り、ところどころ濃い飴色の漆で雲や七宝文様を描いている。この手法は見た目が鼈甲に似た仕上がりになるということで、玳瑁塗と呼ばれている。本品は木地が薄く、鍔の裏まで花弁が立体的に彫り出されており、類品のなかでも古様を見せる。		

3　名称	朱漆塗および玳瑁塗輪花天目台　伝即宗院伝来 （しゅうるしぬり および たいまいぬりりんかてんもくだい でんそくしゅういんでんらい）	品　質	木製　箔押　漆塗　漆絵
作者等		員　数	3口
時　代	桃山～江戸時代　17-19世紀	寸法等	1.最大径16.2cm　高9.5cm、 2.最大径16.3cm　高10.2cm、 3.最大径16.0cm　高8.7cm
作品概要	上記と同様の天目台。東福寺の塔頭のひとつ、即宗院に関わる文書（書跡分野で受贈）とともに伝わった。3口のうち２口は、錫箔の上に梨地漆をかけた玳瑁塗りとし、縁金具をつけ、高台内にそれぞれ「東福寺」「竜吟」（塔頭、竜吟院を示す）の銘があり、東福寺伝来の天目台と同形、同装飾であることから、一連の品と思われ、実際に即宗院に伝来した可能性が高い。残りの1口は時代が下がり、総体朱漆塗である。		

＜陶磁＞（1件）

1　名称	褐釉有蓋壺（かつゆうゆうがいこ）	品　質	施釉陶器
作者等		員　数	1口
時　代	唐時代（８～９世紀）	寸法等	総高17.6cm　高14.5cm　口径5.2cm　胴幅13.5cm　底部6.6～6.5cm
作品概要	蓋のついた小振りの壺である。蓋裏、身の底部周辺以外には褐色の釉が掛けられている。胎土は白色、形状としては万年壺と呼ばれるものに近いが、やや細身であることと口づくりの立ち上がるの様子などはそれらと異なっている。		

＜染織＞（1件）

1　名称	第五回内国勧業博覧会紀念　染織鑑 （だいごかいないこくかんぎょうはくらんかいきねん　せんしょくかがみ）	品　　質	
作 者 等		員　　数	1冊（見本裂貼付台紙　253枚）
時　　代	明治時代　明治37年（1904）発行	寸 法 等	見本裂台紙：縦26cm　横19cm
作品概要	明治36年（1903）、大阪今宮で開催された第五回内国勧業博覧会の後に、染織品出品者および関係者の有志の発意により、実用社から発刊された見本裂付きの記念誌。裂貼の帙に冊子一冊と見本裂を貼付した台紙253枚が納められる。見本裂は、厚紙の台紙１枚に上下２枚が貼り付けられる。台紙には、生地の産地、織の丈幅、量目、価格、備考が記載されており、この時代の日本における染織技術の水準を知ることができる。		

＜歴史資料＞（2件）

1　名称	獅鈕石印（ししちゅうせきいん）	品　　質	石製
作 者 等	池大雅刻	員　　数	2顆
時　　代	江戸時代（18世紀）	寸 法 等	角印：高6.9cm　楕円印：高7.0cm
作品概要	池大雅が刻したとされる石印。大雅自身の用印ではないようだが、「無名」「三岳逸史」の刻銘がある。		

2　名称	劉冷窓所用印（りゅうれいそうしょよういん）	品　　質	木製
作 者 等	山本竹雲刻	員　　数	2顆
時　　代	江戸～明治時代（19世紀）	寸 法 等	大：6.4×6.6×6.4cm
作品概要	山本竹雲（1826～94）は幕末～明治時代の篆刻家。細川林谷に師事。篠崎小竹に漢学を学ぶ。煎茶道でも名を知られ、茶器の鑑定には定評があった。刻銘から、劉冷窓のために刻した印であることがわかる。劉冷窓（1825～70）は江戸後期～明治時代の儒者。劉石秋の子。広瀬淡窓に学ぶ。父に従って丹波園部藩に仕え、藩校教先館で教えた。漢詩、書に優れた。		

【奈良国立博物館】　（計17件）

（１）購入（12件）

＜彫刻＞（3件）

1　名称	木造普賢菩薩坐像（もくぞうふげんぼさつざぞう）	品　　質	木造（ヒノキ材か）　彩色
作 者 等		員　　数	一軀
時　　代	平安時代（11世紀）	寸 法 等	像高46.2cm　髪際高34.5cm
作品概要	ヒノキと推定される一材から彫り出された坐像。手先や天衣まで同材から作り出す構造は古様で、表情や四角張った輪郭は10世紀の特徴を示すが、厚みを減じた体軀や浅い脚部衣文の様子から、11世紀初め頃の制作と推定される。頭部の宝冠には孔があり、小さい五仏を取り付けていた可能性がある。近年の当館職員の調査により、かつて吉野山に伝来したが、明治時代初めに個人に譲渡された像であることが判明した。		

2　名称	木造不動明王および二童子立像（もくぞうふどうみょうおうおよびにどうじりゅうぞう）	品　　質	［不動明王］木造（ヒノキ材か）　彩色・截金　［矜羯羅童子・制吒迦童子］木造（ヒノキ材か）　古色塗り
作 者 等		員　　数	三軀
時　　代	不動明王：平安時代（12世紀）　矜羯羅童子・制吒迦童子：江戸時代	寸 法 等	像高　不動明王96.3cm　矜羯羅童子52.0cm　制吒迦童子51.3cm 髪際高　不動明王90.5cm　矜羯羅童子48.9cm　制吒迦童子49.6cm
作品概要	不動明王に矜羯羅・制吒迦の二童子が従う三尊像。不動明王像は、誇張の少ない憤怒相や柔らかな質感の着衣表現、彩色と截金を交えた華麗な文様など、平安時代後期彫刻の魅力が凝縮されており、明王像の優品である。ただし二童子像は江戸時代の補作のため、当初から三尊型式であったかは不明である。近年の当館職員の調査により、かつて吉野山に伝来したが、明治時代初めに個人に譲渡された像であることが判明した。		

3　名称	木造天部立像（もくぞうてんぶりゅうぞう）	品　　質	木造（ヒノキ材か）　彩色
作 者 等		員　　数	一軀
時　　代	平安時代（11世紀）	寸 法 等	総高116.5cm　像高103.4cm　兜際高84.8cm
作品概要	兜を被り、両袖を翻して邪鬼の上に立つ天部立像。邪鬼を含め全体を一材から彫り出している。両目を大きく開いたいかめしい顔つきは平安時代前期の特色だが、厚みを減じた体、手足が細く軽快な身振りなどは平安後期へとつながる要素であることから、11世紀初め頃の制作と推定される。近年の当館職員の調査により、かつて吉野山に伝来したが、明治時代初めに個人に譲渡された像であることが判明した。		

＜絵画＞（1件）

4　名称	春日吒枳尼天曼荼羅（かすがだきにてんまんだら）	品　　質	絹本著色　掛幅装
作 者 等		員　　数	一幅
時　　代	室町時代16世紀	寸 法 等	本紙：縦94.5cm　横38.6cm（表具：縦166.2cm　横53.3cm）
作品概要	社殿は表されないものの。一之鳥居と御蓋山・春日奥山の存在によって春日大社の神域を描く画像と理解される。山の上空には3つの円相が描かれ、中央の白色大円相は伊勢外宮の豊受大神を象徴する可能性が高く、向かって左小円相内には北斗七星第一星の貪狼星の擬人像、右の小円相内には虚空蔵菩薩が表される。さらに一之鳥居上には白狐に乗る吒枳尼天と勢至菩薩が描かれる。春日曼荼羅としては極めて特殊な構図であり、伊勢神道と春日信仰が重層的に結びつく複雑な信仰背景があったと推定される。		

＜書跡＞（1件）

5　名称	三品弟子経（中聖武）（さんぼんでしきょう（ちゅうじょうむ））	品　　質	紙本墨書　巻子装
作 者 等		員　　数	一巻
時　　代	奈良時代（8世紀）	寸 法 等	縦27.8cm　長141.3cm
作品概要	原料である植物の甘皮の細かい粒を漉き込んだ料紙、茶毘紙を用いた奈良時代の写経。茶毘紙とは釈迦の骨粉を混ぜ込んだ紙に見立てられた呼称で、茶毘紙を用いた写経としては、大字で書写された奈良時代の『賢愚経』、いわゆる「大聖武」が有名である。これは特徴的な料紙と堂々とした文字ぶりから、古筆鑑定の世界で書き手を聖武天皇と伝承してきたことによる呼称である。 本品は茶毘紙を用いながら、一般的な写経と同様に1行17文字で書写されており、こうした特徴を持つ奈良時代の写経は「大聖武」にならい「中聖武」と呼ばれてきた。本品は3紙からなるが、欠落や裁断もなく、本紙は完存している。赤密陀を塗ったと思われる撥型軸は、制作当初より本品に付いていたかは不明であるが、奈良時代のものである。		

＜金工＞（2件）

6　名称	六器（ろっき）	品　　質	銅製鋳造　鍍金
作 者 等		員　　数	一口
時　　代	鎌倉時代（13～14世紀）	寸 法 等	口径7.9cm　高3.1cm　高台径4.0cm
作品概要	鋺外面に八葉蓮華を表す六器で、この型式は「蓮弁飾六器」「慈覚大師請来形六器」と通称される。附属の台座にも同型式の文様を表しているが、作風に若干の違いが見られる。		

7　名称	金銅火焔宝珠形舎利容器（こんどうかえんほうじゅがたしゃりようき）	品　　質	宝珠形容器は水晶製　その他は銅製、鋳造、鍛造、彫金、鍍金
作 者 等		員　　数	一基
時　　代	鎌倉時代(13～14世紀)	寸 法 等	総高15.3cm　最大幅（下框）7.7cm　宝珠形容器高3.8cm　同径3.0cm
作品概要	多層からなる蓮華座に火焔宝珠をいただいた舎利容器。真言密教では舎利と宝珠を同体とみなす説があり、火焔宝珠形舎利容器はこうした説に則って作られるようになったと考えられる。本品は、小型ではあるが、細部の造形に高水準の金工技術を示す優品である。		

＜漆工＞（1件）

8　名称	綾張竹華籠（あやばりたけけこ）	品　　質	竹製　綾貼り　銅製鍍金
作 者 等		員　　数	一枚
時　　代	平安時代(12世紀)	寸 法 等	径27.5cm　深4.4cm
作品概要	華籠は仏教の法会において散華を盛るための容器。本品は薄く削った竹を編み込んで皿状に作り、綾裂を貼っている。竹編部分は二重構造になっており、複雑な編み目文様を作っている。下面の三箇所には組紐が結びつけられており、手に持ったときに垂飾のような装飾効果を発揮したと考えられる。重要文化財に指定されている藤田美術館蔵品の華籠と本来一具であった優品である。		

＜染織＞（3件）

9　名称	白地唐花文氈断片（しろじからはなもんせんだんぺん）	品　　質	獣毛（羊か）製　染色
作 者 等		員　　数	1枚
時　　代	唐または奈良時代(8世紀)	寸 法 等	縦26.5cm　横24.0cm　厚0.4cm
作品概要	各色に染めた獣毛を、地となる獣毛に重ねて圧縮させた、いわゆる花氈の断片。法隆寺献納宝物（東京国立博物館蔵）の中にある「白地花文氈」の１つと同一の素材・技法・文様構成をとることから、法隆寺伝来品であったことがわかる。花氈は、法隆寺献納宝物中に2点ある他は正倉院宝物にしか存在せず、極めて貴重な遺例である。		

10　名称	経帙（きょうちつ）	品　　質	竹製　雲母引　縁は絹製　錦織　金具は銅製鍍金　木牌は木製
作 者 等		員　　数	一枚
時　　代	平安時代（12世紀）	寸 法 等	縦31.2cm　横46.0cm
作品概要	京都・神護寺において一切経を包んでいた「神護寺経帙」と通称される経帙の遺品。和紙を芯とし、細い竹籤を密に並べ色糸を用いて飾り編みする。表面は錦で縁取りし、裏面は綾が張られ、中央に「神護寺」の朱印が捺される。外帯には金銅製蝶形金具が取り付けられる。		

11　名称	刺繍阿弥陀三尊来迎図（ししゅうあみださんぞんらいごうず）	品　　質	絹製、平絹地に刺繍　種子、讃文、仏・菩薩の頭髪、阿弥陀如来における袈裟の縁・堅条・横堤、菩薩の裙裾には髪繍を施す　軸装　軸端は銅製透彫
作 者 等		員　　数	一幅
時　　代	鎌倉～南北朝時代(13～14世紀)	寸 法 等	本紙：縦69.3cm　横30.1cm
作品概要	中央の阿弥陀如来と下方左右に観音・勢至菩薩を刺繍で表した三尊像。鎌倉～南北朝時代に制作された刺繍の来迎図として、代表的な型式を備えている。特徴的な点としては、表具を表した部分に種子で釈迦三尊を刺繍している点、阿弥陀如来が正面向きである点が挙げられる。当初の型式を比較的よく保存した中世の作品として重要である。		

＜考古＞（1件）

12　名称	蓮華文方形軒瓦（伝南滋賀廃寺出土）（れんげもんほうけいのきがわら（でんみなみしがはいじしゅつど））	品　　質	瓦製
作 者 等		員　　数	一点
時　　代	飛鳥時代（7世紀）	寸 法 等	瓦当横幅23.0cm　瓦当縦幅21.5cm　筒部残存長10.3cm
作品概要	蓮華文方形軒瓦は、飛鳥時代後期（7世紀後半）に出現し、琵琶湖岸のごく限られた地域の寺院で使用された特異な軒瓦である。本品は南滋賀廃寺出土と伝わり、実際に当遺跡の出土品には同笵・同技法による資料が確認できる。南滋賀廃寺は大津宮と深く関わりを持つ寺院であった。		

（２）寄贈（5件）

＜彫刻＞（2件）

1　名称	木造菩薩立像（もくぞうぼさつりゅうぞう）	品　質	木造（ヒノキ材か）　彩色　漆箔
作者等		員　数	一軀
時　代	平安時代　12世紀	寸法等	総高50.0cm　像高39.9cm　髪際高34.1cm
作品概要	一般に「興福寺千体仏」と称される仏像群のひとつ。明治5年（1872）に興福寺が廃寺処分となり、同15年に再興された際の記録に、北円堂に数百体の像があったと記されており、千体仏はこれにあたると考えられている。藤田美術館などにまとまった数が所蔵されているほか、巷間に少なからず伝わっているが、全容は把握されていない。本品は伏し目の表情、なだらかな面、緩やかな曲線の体つきや着衣など、平安時代後期の典型を示している。また類品のなかでも比較的整った像容をしている。		

2　名称	木造阿弥陀如来立像（もくぞうあみだにょらいりゅうぞう）	品　質	木造（ヒノキ材か）漆箔　金泥塗り　彩色
作者等		員　数	一軀
時　代	鎌倉時代　13世紀	寸法等	像高82.9cm　髪際高78.1cm
作品概要	来迎印を結ぶ阿弥陀如来像で、やや小ぶりであるが、髪際で二尺五寸（周三寸）を測るいわゆる三尺阿弥陀像。三尺阿弥陀は鎌倉時代において阿弥陀如来への信仰の高まりとともに盛んに造られたが、特に快慶が多くの作品を残している。全体に鎌倉時代の作風を示すが、快慶の作風とは別系統の作とみられる。鎌倉時代に一般的な諸型式を用いて制作された三尺阿弥陀の佳作と評価できる。		

＜漆工＞（1件）

3　名称	百万塔（付属　陀羅尼経）（ひゃくまんとう　（ふぞく　だらにきょう））	品　質	本体：木製　轆轤挽　白土塗　陀羅尼経：紙本　印刷
作者等		員　数	一基（付属一巻）
時　代	奈良時代　8世紀	寸法等	相輪部：縦8.5cm　幅3.3cm　塔身部：13.4cm　幅10.1cm　陀羅尼経：縦5.5cm　横19.3cm
作品概要	天平宝字8年（764）の恵美押勝（藤原仲麻呂）の乱の後、称徳天皇の勅願により作られた百万個の木製小塔のうちの一つ。無垢浄光陀羅尼経の陀羅尼を印刷したものが中に収められるが、これは陀羅尼を写し塔に安置し供養すれば、延命、罪障の消滅、如来の擁護が受けられることなどを説く同経の教えを実践したものである。塔身底部には工房や工人を示す墨書が残る。百万塔は当初南都十大寺に納められたが、現代にまでこれを伝えたのは法隆寺のみで、本品も法隆寺伝来と考えられる。		

＜染織＞（1件）

4　名称	花氈　模造（文様再現見本）（かせん　もぞう（もんようさいげんみほん））	品　質	羊毛製
作者等		員　数	四枚
時　代	令和2年（2020）	寸法等	幅110cm　長さ115.5cm
作品概要	正倉院宝物の花氈（北倉150）を部分的に模造したもの。製作目的は、主に花氈の文様表現技法を再現することにあった。正倉院事務所の近年の調査により、花氈の素材や製作技法が明らかにされており、調査成果を踏まえ、実製作を通じて素材の特性や縮絨の関係を検証するために本品が作られた。本品に含まれる同模様の大中小3枚は、それぞれ縮絨率の異なるサンプルであり、縮絨率と文様の現れ方をわかりやすく示している。宝物模造品の中でも高い学術的意義を有する品である。		

＜考古＞（1件）

5　名称	施釉均整唐草文軒平瓦（東大寺出土）（せゆうきんせいからくさもんのきひらがわら（とうだいじしゅつど））	品　質	瓦製　施釉
作者等		員　数	一点
時　代	奈良時代　8世紀	寸法等	瓦当厚5.2cm　瓦当残存幅11.5cm　平瓦部残存長7.4cm
作品概要	平城京内で供給された型の軒平瓦で、同型は法華寺旧境内に隣接する地点や東大寺二月堂仏餉屋下層遺構などでも出土している。本品は当初東大寺大仏殿北西で拾得されたもので、かつて石田茂作（昭和35～40年に当館館長）により紹介された。当時、東大寺境内では施釉瓦は知られておらず、本品が初の発見品であった。これら学史的意義に加え、現時点でも緑釉ないし三彩瓦の発見は僅かであるため、東大寺における「瑠璃堂」探求の貴重な資料と見なされる。		

【九州国立博物館】（計92件）

（１）購入（35件）

＜絵画＞（2件）

1　名称	宝冠阿弥陀如来像（ほうかんあみだにょらいぞう）	品　質	絹本着色
作者等		員　数	1幅
時　代	中国・南宋時代 13世紀	寸法等	本紙：縦108.8　横49.2、表装：縦163.0　横69.2　軸長74.6
作品概要	宝冠を着けて定印を結ぶ、特徴ある阿弥陀如来を細緻な筆致で描く。中国・南宋時代の正統的な本尊画像で、東京・静嘉堂文庫美術館の「釈迦如来像」や蘭渓道隆（1213-78）請来と伝わる神奈川・建長寺の「釈迦三尊像」（重要文化財）と共通する表現描写が見いだせる。これら３作品は同一の環境で制作された可能性が考えられ、南宋における仏画制作を考える上でも意義深い。鎌倉時代にもたらされ、それ以降の日本中世の絵画・彫刻の規範となり、多大な影響を及ぼしたであろう宋代絵画の一例として、また入念に描かれた佳品としてその価値はきわめて高い。		

2　名称	竹図屏風（たけずびょうぶ）	品　質	紙本金地着色
作者等		員　数	1隻
時　代	江戸時代 17世紀	寸法等	本紙　縦153.3、横350.2　（折畳時　縦170.5、横63.0、厚11.0）
作品概要	筍が伸びた夏の竹、赤い蔦の絡まる秋の竹、雪を冠った冬の竹を描く6曲1隻の屏風。画面構成は、日本の伝統的な景物画と中国絵画の四季墨竹図の構成が混淆した室町時代のやまと絵屏風である四季竹図屏風（メトロポリタン美術館蔵）左隻のそれに酷似する。しかし、枯淡な作風をもつMET本に対して、本作品は基底材を金箔地に変更して装飾性を高めており、近世初期の翻案的作例と考えるべきである。また、明時代の元・李衎『竹譜詳録』の影響も指摘されている。室町時代のやまと絵屏風は、中国、朝鮮などへの朝貢品、贈答品であったが、同時代の作例は現存数が大変少なく、本作品はそのような中世着色屏風を想起させる希少な作例である。		

＜陶磁＞（2件）

3　名称	肩衝茶入　銘　富士（かたつきちゃいれ　めい　ふじ）	品　質	陶器
作 者 等	高取　白旗山窯(1630-65)	員　数	1口
時　代	江戸時代 17世紀中葉	寸 法 等	口径3.2　底径3.0　高7.3
作品概要	高取焼の肩衝茶入。二代福岡藩主の黒田忠之(1602-54)は、江戸幕府の茶の湯指南役であった小堀遠州(1579-1647)と交流があった。高取焼は、寛永年間(1624-44)には遠州の指導を受けて、洗練された作風の茶陶を生産するようになった。本作品は、端正な作りで、透明感のある釉薬が際立つ。安土桃山時代の豪放な様式は影をひそめ、江戸時代初期の新しい様式を示す作品である。胴部に巡らした糸目の刻文も繊細で、内面の丁寧な仕上げや、底部が右糸切であることなどから、白旗山窯の製品と考えられる。「富士」の銘に相応しく、重ねられた釉薬は美しい山景色を成す。仕覆が3袋付き、それぞれの中込に、「伊予殿好此方二而/高取白薬/しゅす地銀入ノ紋」、「高取白薬/毛う留」、「高取白薬/博多織」と墨書され、さらに牙蓋も5枚付属し、その包紙にも、「伊予殿好/此方より/長左衛門挽」「此方二而」「宗玄好」の記載がある。		

4　名称	半筒茶碗　銘　村雨（はんづつちゃわん　めい　むらさめ）	品　質	陶器
作 者 等	高取　白旗山窯(1630-65)	員　数	1口
時　代	江戸時代 17世紀中葉	寸 法 等	口径11.0　底径5.2　高7.5
作品概要	端正な作りの高取焼の半筒茶碗で、鉄釉と藁灰釉を内外に掛け分け、その絶妙な混ざり合いが簾のような美しい景色を成しており、「村雨」の銘に相応しい。透明感のある釉調は洗練された印象を与える。安土桃山時代の豪放な様式は影をひそめ、江戸時代初期の新しい様式を示す作品のため、高取焼が小堀遠州(1579-1647)の指導を受けて洗練された作品を生産するようになった、白旗山窯の製品と考えられる。本作品は、益田鈍翁(1848-1938)旧蔵品で、風呂敷と内箱蓋裏に鈍翁の蔵印がある。また内箱蓋表の銀字について、遠州筆であるとの小堀宗慶(1923-)による極書が付属する。		

＜考古＞（28件）

5　名称	石刀（せきとう）	品　質	石製
作 者 等	青森県むつ市川内町下戸ヶ渕出土	員　数	1個
時　代	縄文時代 5,000年前-4,000年前	寸 法 等	長92.6　直径13.0
作品概要	大型の石刀で、刃部は柄部寄りに部分的に作り出され、その周辺は手擦様の摩耗が見られる。類品は、縄文時代中期の東北地方北部から出土する。全体形状は同時期の東日本で盛行する大型の石棒に類似しており、その一類型と考えられることもある。縄文文化が最盛期を迎えた縄文時代中期の祭祀具の地域性を知る上で貴重である。		

6　名称	石棒（せきぼう）	品　質	石製
作 者 等	千葉県印西市木下出土	員　数	1個
時　代	縄文時代 5,000年前-4,000年前	寸 法 等	長80.0 直径18.0
作品概要	石棒は男性を象徴する祭祀具で、子孫繁栄や豊穣などを祈ったと考えられている。本品のような大型の石棒は、縄文文化が最盛期を迎えた縄文時代中期の東日本から出土するもので、最盛期の縄文文化の祭祀を知る上で貴重である。なお、本品は千葉県成田市の考古資料収集家、大野市平の旧蔵品であり、付属資料として大野雲外による本品等を描いた図や江見水蔭による書簡類がある。		

7　名称	深鉢形土器（ふかばちがたどき）	品　質	土製
作 者 等	青森県三戸郡出土	員　数	1口
時　代	縄文時代 5,000年前-4,000年前	寸 法 等	高85.7　最大径47.0　底径16.0
作品概要	口縁部に４つの突起を持つ大形円筒形の土器で、胴部は羽状文と呼ばれる鳥の羽根状の縄目文を地文とし、その上に細い粘土紐を貼り付け幾何学文様を施す。類品は、縄文時代中期の東北地方北部から北海道南西部にかけて出土する。この時期の日本列島では、新潟の火焔型土器をはじめとする立体装飾を持つ土器が主に東日本で流行したが、本品はその地域性を示す資料である。		

8　名称	深鉢形土器（ふかばちがたどき）	品　質	土製
作 者 等	伝神奈川県出土	員　数	1口
時　代	縄文時代 5,000年前-4,000年前	寸 法 等	高65.0　最大径48.0
作品概要	大形のバケツ形の土器で、口縁部には1個の眼鏡状の突起が付き、胴部には粘土紐貼り付けによる楕円形文が廻る。類品は縄文時代中期の関東地方西部から中部地方にかけて出土する。この時期の日本列島では、新潟の火焔型土器をはじめとする立体装飾を持つ土器が主に東日本で流行したが、本品はその地域性を示す資料である。		

9　名称	深鉢形土器（ふかばちがたどき）	品　質	土製
作 者 等	伝長野県山形村三夜塚出土	員　数	1口
時　代	縄文時代 5,000年前-4,000年前	寸 法 等	高60.0　最大径44.0
作品概要	大形のバケツ形の土器で、粘土紐の貼り付けによる連続する楕円形文やヘビなどの動物風の文様を持つ。類品は、縄文時代中期の関東地方西部から中部地方にかけて出土する。この時期の日本列島では、新潟の火焔型土器をはじめとする立体装飾を持つ土器が主に東日本で流行したが、本品はその地域性を示す資料である。		

10　名称	深鉢形土器（ふかばちがたどき）	品　質	土製
作 者 等	伝長野県山形村三夜塚出土	員　数	1口
時　代	縄文時代 5,000年前-4,000年前	寸 法 等	高53.0　最大径38.0
作品概要	口縁部に人面装飾のある突起を持つ大形の土器である。土器を人体に見立てたものであろう。類品は縄文時代中期の関東地方西部から中部地方にかけて出土する。この時期の日本列島では、新潟の火焔型土器をはじめとする立体装飾を持つ土器が主に東日本で流行したが、本品はその地域性を示す資料である。		

11　名称	深鉢形土器（ふかばちがたどき）	品　質	土製
作 者 等		員　数	1口
時　代	縄文時代 5,000年前-4,000年前	寸 法 等	高51.0　最大径37.0
作品概要	口縁部に立体的な透かしを有する四つの突起を持ち、胴部に唐草文風の文様が施された土器である。類品は縄文時代中期の東北地方南部で出土する。この時期の日本列島では、新潟の火焔型土器をはじめとする立体装飾を持つ土器が主に東日本で流行したが、本品はその地域性を示す資料である。		

12　名称	石皿（いしざら）	品　質	石製
作 者 等	青森県むつ市田名部二又・松山町出土	員　数	1個
時　代	縄文時代 5,000年前-3,000年前	寸 法 等	縦54.5　横34.5　高10.0
作品概要	石皿は磨石とセットで用いられ、食料となるドングリやクルミなどの堅果類を磨り潰すための道具と考えられている。縄文時代の食料加工技術を知る上で貴重な資料である。本品のような水滴形をした有脚の石皿は、縄文時代中後期の東北地方で出土するものである。		

13　名称	石皿（いしざら）	品　質	石製
作 者 等	青森県むつ市田名部斗南丘出土	員　数	1個
時　代	縄文時代 5,000年前-3,000年前	寸 法 等	縦69.0　横33.5　高12.5
作品概要	石皿は磨石とセットで用いられ、食料となるドングリやクルミなどの堅果類を磨り潰すための道具と考えられている。縄文時代の食料加工技術を知る上で貴重な資料である。本品のような方形の有脚の石皿は、縄文時代中後期の東北地方で出土する。		

14　名称	耳飾（みみかざり）	品　質	土製
作 者 等	(1)・(3)-(11)青森県東半出土　(2)青森県五戸町出土　(12)-(14)青森県むつ市大畑二枚橋出土	員　数	14個
時　代	縄文時代 (1)-(5)5,000年前-4,000年前　(6)4,000年前-3,000年前　(7)-(11)5,000年前-2,300年前　(12)-(14)3,000年前-2,300年前	寸 法 等	(1)最大径4.9　厚1.6　(2)最大径4.3　厚3.0　(3)最大径3.3　厚2.4　(4)最大径3.0　厚2.2　(5)最大径2.5　厚1.9　(6)最大径1.7　厚1.0　(7)最大径2.5　厚1.7　(8)最大径2.0　厚2.5　(9)最大径1.9　厚1.7　(10)最大径1.6　厚1.5　(11)最大径1.3　厚1.7　(12)最大径2.1　厚1.2　(13)最大径2.0　厚1.2　(14)最大径1.9　厚1.9
作品概要	縄文時代中期から晩期の東北地方で出土する耳飾である。大型で刺突文を持つものや小型で赤彩の施されたもの等がある。縄文時代の装身具を知る上で貴重である。		

15　名称	手形付土製品（てがたつきどせいひん）	品　質	土製
作 者 等	青森県むつ市田名部品ノ木出土	員　数	1個
時　代	縄文時代 4,000年前-3,000年前	寸 法 等	縦13.2　横9.5　厚2.2
作品概要	縄文時代後期の東北地方から北海道にかけて出土する手形の付いた土製品である。手形は、その大きさから幼児のものと推定される。何らかの祭祀具と考えられるが、具体的な用途は不明である。		

16　名称	石皿（いしざら）	品　質	石製
作 者 等	青森市玉清水遺跡出土	員　数	1個
時　代	縄文時代 3,000年前-2,300年前	寸 法 等	縦25.0　横16.5　高10.5
作品概要	縄文時代晩期の東北地方北部で出土する突出した磨面を持つ有脚の石皿である。石皿は磨石とセットで用いられ、ドングリやクルミなどの堅果類を磨り潰したと考えられており、縄文時代の食料加工技術を知る上で貴重である。		

17　名称	岩版（がんばん）	品　質	石製（白色凝灰岩製）。
作 者 等	秋田県能代市二ツ井町麻生上ノ山出土	員　数	1個
時　代	縄文時代 3,000年前-2,300年前	寸 法 等	縦13.6　横9.5　厚2.2
作品概要	縄文時代晩期の東北地方から出土する岩版である。台形に成形した白色凝灰岩に、遮光器土偶の眼部、正中線、全面にS字・逆S字状文などを線刻して赤彩を施している。数ある岩版の中で最も優れた作例の一つである。明治時代に出土し、学会で紹介された後、永らく民間で所蔵されてきた。		

18　名称	注口土器（ちゅうこうどき）	品　質	土製
作 者 等	千葉県成田市荒海貝塚出土	員　数	1口
時　代	縄文時代 3,000年前-2,300年前	寸 法 等	高9.5　最大径12.0
作品概要	縄文時代晩期の関東地方から出土する土器である。羽釜のような形で、欠失した注口部の上方には、この時期の土偶の特徴であるミミズク風の顔面装飾が付く。千葉県成田市の考古資料収集家、大野市平の旧蔵品で、付属資料として江見水蔭、水谷幻花、坪井正五郎等の明治期の考古資料収集家や人類学者からの書簡類がある。		

19　名称	土偶（どぐう）	品　質	土製
作 者 等	岩手県岩手町高梨遺跡出土	員　数	1軀
時　代	縄文時代 3,000年前-2,300年前	寸 法 等	高18.8　幅10.2　厚5.4
作品概要	縄文時代晩期の東北地方から出土する亀ヶ岡文化の土偶である。中空の作りで、眼部は雪眼鏡（遮光器）風に表現され、全身に雲形文や赤彩が施されている。縄文時代に肩部で割れた後、下半身が火を受け黄土色に変色している。		

20　名称	広口壺（ひろくちつぼ）	品　質	土製
作 者 等	河内地域・伝船橋遺跡出土	員　数	1口
時　代	弥生時代　前1世紀	寸 法 等	口径19.0　底径5.8　胴部最大径23.0　器高32.5
作品概要	下膨れの胴部とやや強めにすぼまる頸部、外反する口縁部を持つ平底の壺で、河内地域第Ⅳ様式（弥生時代中期後半）の広口壺の典型例である。頸部・同部に一部修理痕跡があるがほぼ完形品である。口縁端部、頸部と胴上位は、いわゆる簾状文により飾られる。のちの修理によりふさがれているが、胴中位に焼成後穿孔が施されており、おそらく祭祀などに用いられ完全な形のまま廃棄されたものであろう。		

21　名称	注口土器（ちゅうこうどき）	品　　質	土製
作 者 等	伝北海道江別市対雁坊主山出土	員　　数	1口
時　　代	続縄文時代 3-4世紀	寸 法 等	高16.2　最大径19.4
作品概要	北海道から出土する続縄文時代後半期の土器である。縞状の縄文、連続する刺突文、微隆起線により幾何学文が施されている。縄文時代の末期には朝鮮半島から北部九州に稲作が伝播し、弥生時代が開始した。稲作は一気に日本海沿岸部を北上し東北まで伝わったが、北海道では寒冷気候のため稲作が定着せず、狩猟、採集、漁労を生業とする縄文的な文化が続いた。北海道ではこの時代を続縄文時代と呼ぶ。本品は、日本列島に育まれた文化の多様性を知る上で貴重な資料である。		

22　名称	深鉢形土器（ふかばちがたどき）	品　　質	土製
作 者 等	伝北海道江別市対雁坊主山出土	員　　数	1口
時　　代	続縄文時代 3-4世紀	寸 法 等	高16.8　最大径16.0
作品概要	北海道から出土する続縄文時代後半期の土器である。縞状の縄文、連続する刺突文により幾何学文が施されている。縄文時代の末期には朝鮮半島から北部九州に稲作が伝播し、弥生時代が開始した。稲作は一気に日本海沿岸部を北上し東北まで伝わったが、北海道では寒冷気候のため稲作が定着せず、狩猟、採集、漁労を生業とする縄文的な文化が続いた。北海道ではこの時代を続縄文時代と呼ぶ。本品は、日本列島に育まれた文化の多様性を知る上で貴重な資料である。		

23　名称	深鉢形土器（ふかばちがたどき）	品　　質	土製
作 者 等	伝北海道江別市対雁坊主山出土	員　　数	1口
時　　代	続縄文時代 3-4世紀	寸 法 等	高15.2　最大径19.8
作品概要	北海道から出土する続縄文時代後半期の土器である。縞状の縄文、連続する刺突文、微隆起線により幾何学文が施されている。縄文時代の末期には朝鮮半島から北部九州に稲作が伝播し、弥生時代が開始した。稲作は一気に日本海沿岸部を北上し東北まで伝わったが、北海道では寒冷気候のため稲作が定着せず、狩猟、採集、漁労を生業とする縄文的な文化が続いた。北海道ではこの時代を続縄文時代と呼ぶ。本品は、日本列島に育まれた文化の多様性を知る上で貴重な資料である。		

24　名称	重要文化財　山口県竹島古墳出土品（やまぐちけんたけしまこふんしゅつどひん）	品　　質	(1)-(4)青銅製　(5)-(8)鉄製
作 者 等	山口県周南市竹島御家老屋敷古墳	員　　数	一括
時　　代	古墳時代	寸 法 等	(1)直径22.8　(2)直径22.3　(3)最大径17.7　(4)残存長2.1～5.8　厚2.2　(5)残存長3.7　(6)長さ36、37、41程度　(7)長さ27.1程度　(8)残存長8.8
作品概要	山口県周南市に所在する全長約56mの規模を持つ古墳時代前期の前方後円墳である竹島御家老屋敷古墳より明治21年に出土した一括品である。昭和63年6月6日付で、（1）・（2）三角縁神獣鏡2面、（3）神人車馬画像鏡1面、（4）銅鏃26本、（5）鉄鏃1本、（6）鉄剣3振、（7）素環頭大刀1振、（8）鉄斧1本が一括で「山口県竹島古墳出土品」として国の重要文化財に指定されている。中でも三角縁神獣鏡のうち1面は、群馬県蟹沢古墳出土例、兵庫県森尾古墳出土例と同型鏡で「正始元年」の年号を持つ記銘鏡であることが知られる。またもう1面の三角縁神獣鏡も、京都府椿井大塚山古墳、福岡県神蔵古墳、神奈川県加瀬白山古墳出土品に同笵鏡が知られる古式の三角縁神獣鏡である。古墳時代前期前半の地域首長墓におさめられた副葬品セットの典型例を示す点でも非常に価値が高い資料群である。		

25　名称	二重口縁壺（にじゅうこうえんつぼ）	品　　質	土製
作 者 等	関東地域	員　　数	1口
時　　代	古墳時代 4世紀	寸 法 等	口縁部径20.2、底部径9.5、胴部最大径31.0、器高34.5
作品概要	やや下膨れの胴部と小さな平底、強く締まる短い頸部と大きく開く二重口縁を持つ、関東地方古墳時代前期頃の二重口縁壺である。胴部上半と口縁部に、櫛状工具による密な平行沈線を交差させるように斜めに施し、細かい斜格子文状の文様帯を形成している。この文様帯と底部を除く胴部外面のほぼ全体に赤色顔料を塗布し、細かい磨きによって仕上げる、赤彩土器のひとつである。		

26　名称	青磁博山炉（せいじはくさんろ）	品　　質	青磁
作 者 等	中国	員　　数	1合
時　　代	中国・南北朝時代 5-6世紀	寸 法 等	口径5.9　盤径9.3　総高12.7
作品概要	承盤と一体化した炉身と蓋からなる。蓋は全体が円錐形で、神々や仙人のすまう空想上の「博山」を象る。蓋には２カ所に煙出しの小さな円孔を設ける。承盤の底部には裾の緩やかに広がる中実の脚台がつく。淡緑色の青磁釉がほぼ全体に薄くかかるが、炉身と蓋のわずかに張り出す口縁部にはかからない。 漢時代の中国に東南アジアや西アジアから龍脳樹など樹脂性の香料が伝わるようになると、それらを焚くのにより適した深手の博山炉が登場した。南北朝時代になると、博山炉は漢時代の基本的な形態を継承しつつ、材質の面では青銅製や緑釉陶に代わり青磁の作例が主流となった。小型の本作は墓に副葬するための非実用品ながら、異国産の香料を嗜む六朝貴族の優雅な暮らしの一端を今に伝えている。		

27　名称	重要文化財　埴輪　鹿（はにわ　しか）	品　　質	土製
作 者 等	伝群馬県伊勢崎市（旧佐波郡境町）大字境上武士　天神山古墳出土	員　　数	1個
時　　代	古墳時代 6世紀	寸 法 等	長48.5　幅29.5　高52.7
作品概要	古墳に立て並べられた動物埴輪で、指定名称は「埴輪　犬」だが、形態上の特徴から鹿を表したものである。頭頂部を除きほぼ欠損が認められない完形品で、後補部が見分けの付かないよう丁寧な修復が施されている。焼成は良好で赤褐色を呈し、全体にハケ調整が施されている。頭部周辺は特に仕上げが丁寧で、ナデやケズリを多用して仕上げられている。鹿の子模様などが表されているかは不明である。目は楕円形で、鼻は2つの円孔で表現する。口は大きく開き、両端は線刻される。耳はピンと立ち、横向きである。胴及び頭部は中空で、尻尾は下方にまっすぐに伸びる。尻尾の下には透かし孔を1つ開けている。長い四脚を持ち、各脚端の踵に当たる部分は、斜めに切り落とされる。		

28　名称	埴輪　猪（はにわ　いのしし）	品　　質	土製
作 者 等	茨城県旧真壁郡内出土	員　　数	1個
時　　代	古墳時代 6世紀	寸 法 等	長60.5　幅24.5　高50.8
作品概要	古墳に立て並べられた動物埴輪で、鼻筋が短く鼻孔が正面を向く特徴やたてがみが表されている。色調は淡赤褐色である。胴体から後脚にかけて欠損が認められるが、完形に復元されている。胴および頭・脚部は中空である。目は杏仁形に開けられた切れ目状で、口は中央を大きく開き、両端は線刻で表現する。耳はピンと立って横向きである。背はたてがみを板状に表現する。尻尾は短くやや上方に直立する。尻尾の下部に透かし孔を1孔開ける。脚はまっすぐに延び、蹄の表現は認められない。たてがみから胴部にかけて両面に線刻がある。東京国立博物館の重要文化財「埴輪　猪」（群馬県上武士天神山古墳出土）は本品とも造形的に近く、数少ない優品の一つと見ることができる。		

29　名称	埴輪　壺を持つ女子（はにわ　つぼをもつじょし）	品　質	土製
作 者 等	群馬県前橋市（旧荒砥村）出土	員　数	1軀
時　代	古墳時代 6世紀	寸 法 等	幅40.5　奥行18.5　高さ55.0
作品概要	古墳に立て並べられた人物埴輪で、右手を腰帯に当て、左手で小壺を持つ上半身の女性像である。島田髷を結い入墨を刺し、両肩に襷をかけて舞う巫女を表現している。基台の最下部や左腕の一部などに欠損が認められるが、その他の部分は残存し、完形に復元されている。縦方向のハケ目で調整される。頭部には島田髷（潰し島田）を結い、前額には突起と線刻で前から竪櫛を挿している。両眼は切れ目状に透かしを入れ、眉と鼻は粘土を軽く隆起させて表現する。口は右口角を少し上がり気味に表し、耳には耳環を装着する。首飾りや着衣の表現が無く、胸は粘土を貼り付けて乳房を表す。襷をかけただけの裸身の可能性もある。腰には腰帯を表現し中央で留め、右手を帯に添える。左手は横に伸ばし、掌に小壺をつかむ。		

30　名称	埴輪　女子（はにわ　じょし）	品　質	土製
作 者 等	伝群馬県伊勢崎市（旧佐波郡境町）大字境上武士　天神山古墳出土	員　数	1軀
時　代	古墳時代 6世紀	寸 法 等	幅36.5　奥行25.0　高92.5
作品概要	乳房を表現した女性の上半身象である。基台の上部に透かし孔を対向方向に２ヶ所開け、最下部には一条の低位置突帯をめぐらせる。胴体部の大半は欠損しており後補であるが、それ以外の顔などについては残存している。表面には縦方向のハケ調整が顕著に遺存し、ていねいに仕上げられたことが分かる。髪型は頭部よりも大きな島田髷（潰し島田）で、前額部に竪櫛を隆起した形で表す。目は切れ目状に透かし孔を設け、眉と鼻はT字形に一連で表現される。目から下方にかけて縦方向の黒色顔料の塗布が確認されるため、入墨を表現した可能性がある。口は小さな一文字状であり、耳には小玉を連ねた飾りを着用し、その下に耳環を垂らす。首には首飾りを着け、手首にも腕飾りを表現する。		

31　名称	埴輪　農夫（はにわ　のうふ）	品　質	土製
作 者 等	伝群馬県伊勢崎市（旧佐波郡境町）大字境上武士　天神山古墳出土	員　数	1軀
時　代	古墳時代 6世紀	寸 法 等	幅36.5　奥行22.5　高114.5
作品概要	笠をかぶり、右肩に農具をかけた男子（農夫）を表現する。背から腹にかけて大きな欠損が認められ、後補部分が多いが、顔並びに基台についてはほぼ完存する。基台に透かし孔を対向する方向に2つあける。 笠は先端が尖る円錐形のもので、菅笠や網代笠のような編笠の一種と判断される。目は杏仁形に透かし孔をあけ、眉と鼻は連接して粘土を隆起させて作り出している。口は横一文字に透かし孔で表現する。耳は大きな耳環を着装し、その上から耳の脇で束ねた髪を折り返してまとめた「上げ美豆良」を結う。右肩にかけたものは、農具と判断されるが鍬か鎌かは判然としない。また、両手は農具を握らずに胸に当てている。		

32　名称	埴輪　盛装男子（はにわ　せいそうだんし）	品　質	土製
作 者 等		員　数	1軀
時　代	古墳時代 6世紀	寸 法 等	幅36.5　奥行22.5　高114.5
作品概要	下げ美豆良を結い、頭には頭巾をかぶった男性の全身像である。首飾りを付けて大刀を佩き、籠手をはめ着衣を着て盛装する。右胸、左足などの部分に多く欠損があり、後補となっている。基台は楕円形で対向する方向に2つの透かし孔を設け、最下段突帯を有する。 頭部は頭巾をかぶり、その上から鉢巻を結う。目は杏仁形に透かし孔で表現し、眉と鼻は隆起させて作り出す。耳には耳環を着け、その上から下げ美豆良を結う。首には首飾りを着ける。腰に手を当てて肘には籠手を着装する。腰には粘土紐を隆起させて腰帯を表し、腰前に大刀、腰左側に靫を表現する。靫は、弓を射る際に弦が左手に当たらないように守る革製の防具である。両脚は膝の部分に脚結い紐を表現する。先端が尖った履をはいている。		

＜歴史資料＞（3件）

33　名称	豊臣秀次朱印状（とよとみひでつぐしゅいんじょう）	品　質	紙本墨書
作 者 等		員　数	1幅
時　代	安土桃山時代 文禄2年(1593)	寸 法 等	本紙：縦21.9　横59.9　表装：縦105.5　横62.5　軸長67.5
作品概要	文禄2年(1593)5月26日付、宗義智宛に発給された豊臣秀次の朱印状である。朝鮮半島に在陣する義智への在陣見舞状である。豊臣秀吉が名護屋に在陣する一方で、秀次は京都に残り、5月26日付あるいはその前後の日付で、朝鮮半島在陣中の諸将に、本品と同内容の在陣見舞の朱印状を発給している。日本側と明側で講和交渉が行われ、明から秀吉のもとに偽装した「勅使」が派遣されることになったことを受け、秀吉は5月1日付で、朝鮮半島に在陣する諸将に見舞いの朱印状を発給している。秀次の見舞いの朱印状発給も、この秀吉の動きに合わせたものと位置付けられる。 本品はおそらくもと折紙であったが、江戸時代に対馬藩で巻子に改装された。明治維新後、藩主が東京に移るに伴い、この巻子も明治11年(1878)に対馬から東京に移送された。大正15年(1926)に宗伯爵家は「宗家文書」の一部を朝鮮総督府朝鮮史編修会に売却した。朝鮮半島に渡っていた「宗家文書」は、戦後に日本に戻り、掛幅装などに改装されて、美術品市場に出回った。本品も同様の経緯を辿ったものである。 本品は「文禄の役」時に朝鮮半島に在陣していた大名にのみ発給された朱印状で、豊臣秀吉と秀次の二重の政治構造を垣間見せる一次史料として重要である。		

34　名称	安南国清王鄭棡令旨（あんなんこくせいおうちんちゃんりょうじ）	品　質	紙本墨書
作 者 等		員　数	1幅
時　代	ベトナム・黎朝時代 徳隆6年(1634)	寸 法 等	(本紙)縦37.7　横50.2　(表装)縦126.2　横62.3　軸張67.9
作品概要	安南国の清王鄭棡(ﾁﾝ･ﾁｪﾝ、在位1623-57)が日本人商人「喜左衛門」に宛てた指令書。先年「義子啓明」と「宗右」に与えた答礼品について、啓明を通じて宗右の父母親戚に受領させるよう、帰国する喜左衛門に令達する。鄭棡は黎朝皇帝のもとでベトナム北部を支配した鄭氏の当主。喜左衛門・啓明・宗右は鄭棡のもとに来航した日本人である。本令旨の2年前に鄭棡が発した「安南国答賜物目録」（重文、個人蔵）との関係から、3人の日本人は朱印船貿易を営んだ豪商末　家の関係者と想定される。本令旨は16-17世紀のベトナムの人々が日本人に宛てた安南文書（安南日越外交文書）の新出史料の原文書であり、日越外交史やアジアの古文書学上、大変貴重な資料である。		

35　名称	眼科新書(五巻､付録)（がんかしんしょ　ごかん、ふろく）	品　質	紙本墨刷
作 者 等	巻一～巻五：杉田立卿訳、石川大浪画、プレンク（プレンキ）著、付録：杉田立卿検閲、松田芹斎編、平安書肆廣文堂	員　数	6冊
時　代	江戸時代 巻一～巻五：文化12年(1815)、付録：文化13年(1816)	寸 法 等	各　横17.7　縦25.1
作品概要	ランダ・ロッテルダムのプロイス(Martinus Pruys, 1752-1830)が、オーストリア・ウィーンの医師ヨゼフ・プレンク(Joseph Jacob Plenck, 1735-1807)の"Doctrina de Morbis Oculorum"（1777年初版、ラテン語版）を、蘭語訳した"Verhandeling over de Oogziekten"（1778年初版）を、さらに重訳した和訳本である。本書は、杉田立卿(1786-1846)が翻訳した巻一から巻五と、その門人である松田芹斎が編集した付録からなる。全体で118の病例を解説したもので、巻一には石川大浪(1765-1817)の描いた眼球略図（全11図）や、巻五巻末には大槻玄沢(1757-1827)の跋が収められる。		

（１）寄贈（56件）

＜金工＞（1件）

1　名称	雲版（うんぱん）	品　　質	銅
作 者 等	肥前か	員　　数	1面
時　　代	南北朝時代 正平24年(1369)	寸 法 等	縦52.0　横48.5
作品概要	銅製鋳造の雲版。頭部は頸上に幅広く開いた花先形で、懸垂孔は間隔をやや広くあけて2つ設け、それぞれの孔の周囲に圏線一条を鋳出す。身部は頸の外曲線に従って内側へ巻き込み、両肩を蕨手状につくる。裾近くに八花形の蓮肉に鎬を立てた間弁付八葉蓮華座を巡らした撞座を設ける。吊手頂部と撞座の長軸線上には「筑後州三池之郡圓通寺常住」、腰には右に「荘厳律寺」、左に「皇帝萬歳」をそれぞれ刻す。また、裏面は鋳放し状態で、下辺に一文字湯口を残す。長軸上に「正平二十〈二／二〉年巳（己ヵ）酉四月五」、この銘文右側に「于時永正十年癸酉二月吉日／願主／敬白」、更に右腰から「淳公／肇公／長公／芳公／冨公／圀公」を横一列に刻む。九州ゆかりの在銘雲版としては2番目に古い貴重な作例である。		

＜刀剣＞（31件）

2　名称	太刀　銘貞綱（たち　めいさだつな）	品　　質	鉄
作 者 等	貞綱 伯耆国	員　　数	1口
時　　代	平安時代 12世紀	寸 法 等	刃長70.0　反2.6
作品概要	鎬造、庵棟、中鋒。腰反高く踏ん張りつく。表裏ともに棒樋を掻き流す。鍛は板目に杢目、大肌交じり、小沸微塵によくつく。刃文は直刃に小丁子交じり、匂口うるみごころ、刃中に金筋著しく入る。帽子は湾れて沸崩れ、掃きかける。茎は磨上、先切、鑢目大筋違、目釘孔4つ開く。佩表の茎尻付近に二字銘を刻む。平安時代後期から鎌倉時代初期にかけて伯耆国で活動した刀工たちを古伯耆と総称し、日本刀成立期の刀工として知られる安綱をはじめ、真守、守綱、真綱、有綱が比較的知られているが、貞綱の在銘作としては本品以外では京都国立博物館所蔵品（E甲461）が知られる程度である。現存作の少ない古伯耆の貴重な作例であるばかりでなく、室町時代後期の刀剣書『往昔抄』に本品の茎姿が収載されている点も注目される。		

3　名称	太刀　銘友成（たち　めいともなり）	品　　質	鉄
作 者 等	友成 備前国	員　　数	1口
時　　代	平安時代 12世紀	寸 法 等	刃長72.2　反3.0
作品概要	鎬造、庵棟、小鋒。腰反強く踏ん張りあり。鍛は板目流れごころにやや肌立ち、地沸よくつく。刃文は小乱で、刃中に砂流し・金筋入る。帽子はやや乱れた焼詰風となる。茎は生で先刃上がりの栗尻、鑢目勝手下がり、目釘孔1つ開く。本品の作者である友成は、正恒と双璧と謳われる古備前の名工として知られる。友成の太刀銘には長銘のものと、二字銘・三字銘のものがある。前者のほうがやや時代が上がるとされるが、細身で腰反り深いその体配から本品もまた平安時代末期から鎌倉時代初頭に収まるものとみてよい。古備前を代表する刀工の制作当初の姿をとどめた健全な一振である。		

4　名称	太刀　銘正恒（たち　めいまさつね）	品　　質	鉄
作 者 等	正恒 備前国	員　　数	1口
時　　代	平安時代 12世紀	寸 法 等	刃長74.8　反2.7
作品概要	鎬造、小鋒。腰反強く踏ん張りあり。鍛よく約み、刃文は直刃調に小乱となり、深く沸つき、刃中に砂流しかかる。帽子は焼き細く焼詰める。佩表の腰元に倶利伽羅龍を刻む。佩裏にも彫物の痕跡が認められるが、研磨による摩耗のため意匠不明。茎は生で先浅い栗尻、鑢目勝手下り、目釘孔3つ開く。正恒は、友成と並ぶ古備前を代表する刀工で、古備前の中では比較的多く現存する。その作風や銘ぶりにはやや相違がみられるため、同名の刀工が複数いたと考えられる。なお、隣国の備中青江派にも同名工がおり、作風は近似する。全体的に友成と比べて身幅広く鍛よく約むと言われるが、本品もまさにそうした特徴を示しており、正恒の典型作と言いうる作品である。		

5　名称	太刀　銘豊後国定秀作（たち　めいぶんごこくさだひでさく）	品　　質	鉄
作 者 等	定秀 豊後国	員　　数	1口
時　　代	平安時代 12世紀	寸 法 等	刃長74.6　反2.7
作品概要	鎬造、小鋒。腰反強く踏ん張りあり。鍛は小板目流れて柾交じり、地沸細かにつく。刃文は小沸出来で細直刃、物打やや上で焼き深く小乱となり沸強くなる。帽子は浅く湾れて小丸に浅く返る。佩表の腰元に梵字を刻む。茎は生で目釘孔1つ開く。定秀は豊後最古の在銘刀工で、平安時代末期から鎌倉時代初期にかけて作刀を行い、名工として名高い行平の師としても知られる。定秀は、中近世の刀剣書や銘尽などでは「彦山三千坊の学頭」として評され、豊前豊後の両国にまたがってそびえる霊峰英彦山（彦山）ともゆかりが深い。行平は鎚元を焼き落としとする作例が多いなか、本品の場合は焼出しが区際となるのがやや異例である。また、物打付近に矢や刀を受けた際についたと思われる誉疵がある点が珍しく貴重である。		

6　名称	太刀　銘宗依（たち　めいむねより）	品　　質	鉄
作 者 等	宗依 備前国	員　　数	1口
時　　代	鎌倉時代 13世紀	寸 法 等	刃長73.8　反2.6
作品概要	鎬造、中鋒。腰反で反り高く身幅広い。鍛は板目肌立ちごころに地沸つく。刃文は小沸出来の直刃調に小乱刃を交え、砂流し・金筋入る。帽子は先焼詰となる。茎はわずかに磨上げ、先切。鑢目浅い筋違。目釘孔2つ開く。また、拵は毛抜形太刀拵で、鞘に沢瀉紋をあらわす。備前国は平安時代後期から鎌倉時代にかけて数多くの刀工を輩出したが、そのなかで、鎌倉時代初期までの刀工並びにその作刀を古備前と総称する。本品の作者である宗依もその一人とみられるが、在銘作が極めて少なく、管見では東京国立博物館所蔵品（F-172）があるのみであり、貴重である。		

7　名称	太刀　無銘（たち　むめい）	品　　質	鉄
作 者 等	千手院派　大和国	員　　数	1口
時　　代	鎌倉時代 13世紀	寸 法 等	刃長94.7　反3.1
作品概要	鎬造、中鋒。身幅やや広く鎬高い。腰反高く踏ん張りあり。鍛は板目に杢目や流れ肌交じりで総じて肌立つ。刃文は直刃を基調に小乱れ交じり、匂深く小沸厚くつき、刃縁ほつれて二重刃・三重刃・湯走りを交える。刃中には砂流し・金筋盛んにかかる。帽子は掃きかけて小丸風に返るが、佩表は沸崩れる。茎は朽ち込み激しいながらほぼ生で、先刃上がり栗尻、鑢目ごく浅い勝手下り、目釘孔2つ開く。大和国は古来数多くの刀工がいたが、なかでも千手院は平安時代末期にはじまり、当国で最も古くから作刀を行っていた一派である。古朴な直刃調で全体にやや地味なものが多いことで知られ、本品はまさしくそうした千手院派の特徴をよく示すものである。		

8　名称	太刀　銘恒次（たち　めいつねつぐ）	品　　質	鉄
作 者 等	恒次 備中国	員　　数	1口
時　　代	鎌倉時代 13世紀	寸 法 等	刃長75.6　反3.0
作品概要	鎬造、庵棟、中鋒。長寸で中反強くつく。鍛は小板目よく約み、杢を交えてやや肌立つ。刃文は直刃で匂やや深く刃縁締まる。帽子は表裏ともに丸く返る。茎は生で、尻刃上り栗尻、鑢目大筋違。目釘孔2つ開く。備中国は、備前国と並ぶ良質な砂鉄の産地であり、数多くの刀工を輩出した。なかでも著名なのが、平安時代末期の安次を祖とする青江系と備前物にやや作風が似る正恒系の刀工で、このうち青江は「次」を通字としていることが大きな特徴である。恒次は、中青江から末青江にまたがる時期の刀工で、同銘工が複数いるとも言われる。銘を太刀銘に切り、しかも中央ではなくやや棟寄りに位置し、かつ鑢目を大筋違とする点などは、鎌倉時代後期以降の青江派に共通する特徴であり、本品もその典型作と言える。		

9　名称	太刀　銘吉次（たち　めいよしつぐ）	品　　質	鉄
作 者 等	吉次 備中国	員　　数	1口
時　　代	鎌倉時代 13世紀	寸 法 等	刃長80.8　反2.9
作品概要	鎬造、庵棟、中鋒。細身で反高い。鍛は板目肌立ち地沸つく。刃文は直刃に湾れ交じり、匂口締まりごころに小沸つく。帽子は小丸に返る。茎はやや長く刃側に肉のついた生茎で、先は細って先浅い栗尻となる。鑢目大筋違、目釘孔2つ開く。銘は佩裏に「吉次」を刻む。備中国は、備前国と並ぶ良質な砂鉄の産地であり、数多くの刀工を輩出した。なかでも著名なのが、平安時代末期の安次を祖とする青江系と備前物にやや作風が似る正恒系の刀工で、このうち青江は「次」を通字としていることが大きな特徴である。このうち吉次は、中青江を代表する刀工の一人である。		

10　名称	太刀　銘国行（たち　めいくにゆき）	品　　質	鉄
作 者 等	国行 山城国	員　　数	1口
時　　代	鎌倉時代 13世紀	寸 法 等	刃長87.6　反2.2
作品概要	鎬造、庵棟。細身で中反り深く、鋒はやや詰まって小鋒となる。鍛は小板目でよく約み、柾が交じる。刃文は丁子交じりで小沸出来の焼き幅広い直刃で、砂流し・金筋かかる。帽子は先小丸に返る。茎は先鑓形となる。佩表に銘「国行」を刻む。鑢目勝手下がり、目釘孔2つ開く。山城国の来派は、鎌倉時代中期から南北朝時代にかけて活躍した山城鍛冶を代表する刀工集団で、室町時代に書写された『観智院本銘尽』に「先祖の鍛冶高麗より来たるあいだ来国と号す」とあり、その来歴は数多の刀工集団のなかでもひと際特異である。本品の作者である国行は、来派の実質的な祖とされ、「来太郎」の通称とともに知られる。その作風には重ね厚く猪首鋒となった豪壮なものと、細身の造込みのものがあり、本品は後者にあたる。		

11　名称	太刀　無銘（たち　むめい）	品　　質	鉄
作 者 等	尻懸派 大和国	員　　数	1口
時　　代	鎌倉時代 13世紀	寸 法 等	刃長72.2　反1.8
作品概要	鎬造、中鋒。反やや浅い。鍛は板目肌流れて肌立つ。刃文は匂出来でほつれ交じりの直刃調に頭の揃った互の目が交じる。帽子は掃きかけ焼き詰め風に尖る。茎は大磨上、先浅い栗尻、鑢目浅い勝手下り、目釘孔3つ開く。指表中程に金粉銘がごくわずかに残る。大和国（現奈良県）は、古来数多くの刀工がおり、なかでも尻懸派は現在の天理市岸田町尻懸町を拠点としたと伝わり、則長を事実上の祖とする。直刃調に互の目が目立つところに尻懸派の特徴があらわれており、大磨上無銘の本品もこの通則に従う。明治から昭和にかけて著名な刀剣研師であった本阿弥光遜（1879-1955）によって則長と鑑せられたものである。鞘書にある1981年段階では指表に残っていた金粉銘は、現状ほぼ消えているが、その作行から尻懸派の作とみることは妥当である。		

12　名称	刀　無銘（かたな　むめい）	品　　質	鉄
作 者 等	長船派もしくは畠田派 備前国	員　　数	1口
時　　代	鎌倉時代 13世紀	寸 法 等	刃長65.2　反1.4
作品概要	鎬造、庵棟、小鋒。身幅狭く反浅い。鍛は板目に地沸つき、淡く映り立つ。刃文は丁子に小丁子が交じり、中程で蛙子丁子を交えて華やかに乱れる。帽子はやや尖ってすぐ小丸に返る。茎は大磨上で先切、鑢目切、目釘孔2つ開く。長船派あるいは備前の長船に隣接して作刀を行った畠田派の作とみられる。畠田派は守家に始まり二代ほど続き、真守、守重、守俊といった刀工を輩出したが、のち長船に移住して吸収されたとみられる。本品は畠田派の名工畠田真守の作とも伝わるが、もとより同派は、時代・作風とも長船派と近似しているため区別がつき辛く、さらに無銘であれば刀工まで特定することは極めて困難である。ただし、その造り込みや刃文の特徴から鎌倉時代の備前物であることは明らかである。		

13　名称	短刀　銘国光（たんとう　めいくにみつ）	品　　質	鉄
作 者 等	国光 相模国	員　　数	1口
時　　代	鎌倉時代 13世紀	寸 法 等	刃長22.3　反なし
作品概要	冠落造、三ツ棟。杢目肌よく約み、地沸つく。刃文は沸出来の直刃で刃縁締まる。刃中に金筋かかる。茎は先栗尻の生で、鑢目ごく薄く勝手下り。指表に銘「国光」を刻み、目釘孔1つ開ける。作者の新藤五国光は、相州鍛冶の実質的な祖と言われる刀工で、古来短刀の名手として京の藤四郎吉光と双璧と称される。その作風は直刃を基調とし、全体的に京の粟田口派に近似するが、新藤五肌とも称されるよく約んだ杢目肌に地沸が豊かにつくのが特徴である。八寸前後の平造のものが多いが、本品のように冠落造にしたものも少なからずある。冠落造は、棟の上半分をそぎ落とす点に特色があり、鎌倉時代後期から登場する造込みとして知られる。		

14　名称	太刀　無銘（たち　むめい）	品　　質	鉄
作 者 等	兼光か 備前国	員　　数	1口
時　　代	南北朝時代 14世紀	寸 法 等	刃長69.3　反1.4
作品概要	鎬造、大鋒。身幅広く元先の幅差少なく、重ね厚い。表裏ともに棒樋を掻き流す。鍛は板目に杢目を交えて映りが立つ。刃文は角張る片落ち互の目を基調として腰の開いた互の目を交え、小沸つく。帽子は乱れ込んで尖って返る。茎は大磨上無銘、先刃上がり栗尻、鑢目筋違、目釘孔3つでうち2つ埋める。本品は大磨上無銘だが、その作行から兼光の作と目される。兼光は『観智院本銘尽』に「長船流景光子」とあり、光忠、長光、景光と続く長船派正系の刀工である。太刀、短刀ともに比較的現存作例は多く、確認されている作刀時期は少なくとも元徳（1329-32）から貞治（1362-68）までの約40年間に及ぶ。このうち、観応（1350-52）あたりを境として作風が大きく変化するが、本品の場合はやや鋒は大振りではあるものの、刃文のさまや体配から前半期のものとみられる。		

15　名称	短刀　銘備中国住大隈権介平貞次／正平十二年八月日作（たんとう　めいびっちゅうこくじゅうおおすみごんのすけたいらのさだつぐ／しょうへいじゅうにねんはちがつひさく）	品　　質	鉄
作 者 等	貞次 備中国	員　　数	1口
時　　代	南北朝時代 正平12年（1357）	寸 法 等	刃長25.0　反0.2
作品概要	平造、三ツ棟。反浅くつく。鍛は板目に杢交じりで総体に肌立ち、地沸つく。淡く乱れて映りが立つ。刃文は匂い口締まりよく沸つき、広直刃でわずかに小丁子が交じり、区際を焼き落とす。帽子は先尖りごころ、返りは沸崩れて下半まで長く焼き下げる。茎は生で先刃上がり栗尻、鑢目大筋違、目釘孔1つ開く。指表に刀工名、指裏に南朝年紀銘を切る。付属の拵は籐巻柄に九曜紋の目貫金物を打ち、地板を胡麻竹にした小柄を伴う隈府拵で、刀子には銘「勢陽御瀧門来国光」を刻む。貞次は後鳥羽院の御番鍛冶をつとめたとされる著名な古青江の刀工である。同銘の刀工が複数代に及ぶと考えられるが、本品には年紀を伴い、貞次の基準作のひとつとして貴重である。		

16　名称	刀　銘備州長船秀光／応安五年二月（かたな　めいびしゅうおさふねひでみつ／おうあんごねんにがつ）	品　　質	鉄
作 者 等	秀光 備前国	員　　数	1口
時　　代	南北朝時代 応安5年（1372）	寸 法 等	刃長75.0　反2.7
作品概要	鎬造、大鋒。反やや浅い。表に棒樋と護摩箸、裏に棒樋と倶利伽羅を彫る。鍛は小板目肌よく約み、地沸つく。棒映りが立つ。刃文は小互の目に小丁子や小乱を交え、匂口締まる。帽子は乱れ込んで先尖りごころに返る。茎はわずかに磨上、先切、鑢目勝手下り、目釘孔3つ開く。表に「備州長船秀光」、裏に「応安五年二月」の北朝年紀銘を切る。南北朝時代の備前刀工のなかで、総体に細身で小模様の互の目乱れを焼く刀工群を小反物と呼ぶが、そのなかでも秀光は技量に優れ、恒弘や師光と並ぶ代表的な刀工として知られる。また、作刀数が比較的多く、在銘作も時代幅が広いことから、南北朝時代から室町時代後期にかけて同名工が数代続いていたと考えられる。本品は磨上体配でありながらも年紀が伴っており貴重である。		

17　名称	太刀　銘備州長船政光／応永五年二月日（たち　めいびしゅうおさふねまさみつ／おうえいごねんにがつひ）	品　　質	鉄
作 者 等	政光 備前国	員　　数	1口
時　　代	室町時代 応永5年（1398）	寸 法 等	刃長67.0　反2.3
作品概要	鎬造、小鋒。腰反り強く元先の幅差あり。鍛は板目に杢交じりとなり、流れて総体肌立つ。地沸細かについて映り立つ。刃文は互の目乱れで2つずつ互の目連れとなり、刃中に細かな砂流しかかる。帽子は浅く湾れて丸く返り、先やや掃きかけとなる。茎は生で先栗尻、鑢目勝手下り、目釘孔2つ開く。佩表に六字銘「備州長船政光」、佩裏に年紀「應永五年二月日」を切る。政光は備前刀工の一人で、相伝備前を代表する刀工、兼光の作風に似る。康安元年（1361）銘作（重要文化財、個人蔵）を制作の上限として室町時代初期の応永までの約40年間に渡って在銘作が残っており、そのなかで本品は、政光の末期作に位置づけられる。政光の生茎在銘の作は非常に貴重であり、その作風を知る上で重要な作品である。		

18　名称	短刀　無銘（たんとう　むめい）	品　　質	鉄
作 者 等	宇多派 越中国	員　　数	1口
時　　代	室町時代 15世紀	寸 法 等	刃長24.9　反なし
作品概要	平造、庵棟。鍛は板目に柾がかる。刃文は細直刃、沸つく。帽子は尖って小丸に返る。茎は磨上、先栗尻、鑢目浅い勝手下り。目釘孔3つ開く。本品は無銘だが、宇多派の作とみられる。宇多派は、鎌倉時代末期に大和国宇多（宇陀）郡から移住してきた国光を祖とし、南北朝時代から室町時代にかけて越中国で作刀を行った一派である。現存作例は、おおむね室町時代中・後期のものが大半を占める。大和刀工及びその影響の北陸への広がりを示す作例である。		

19　名称	太刀　銘久盛（たち　めいひさもり）	品　　質	鉄
作 者 等	久盛 豊後国	員　　数	1口
時　　代	室町時代 16世紀	寸 法 等	刃長68.8　反3.2
作品概要	鎬造、庵棟、やや詰まった中鋒。中反強い。表裏ともに棒樋を角留めし、裏は区下より添樋を彫る。鍛は板目に柾がかる。刃文は互の目に飛焼交じる。帽子は丸く返るが判然としない。茎は磨上で、先切、鑢目大筋違。目釘孔3つ開く。指表に刀工銘「久盛」を刻む豊後国は南北朝時代の友行を祖として江戸時代に至るまで数多くの刀工を輩出した。なかでも、室町時代には大友氏の庇護のもと、高田庄（現大分県大分市鶴崎）で盛んに作刀が行なわれ、同時代の美濃や備前と比肩しうるほどの生産量を誇ったとされる。特に、応永年間から天正年間ころまでは平姓を冠した刀工（平高田）が多く、安土桃山時代以降には藤原姓を名乗った刀工（藤原高田）が増加する。本品の作者である久盛は平高田に属する刀工であるが、在銘作は少ない。		

20　名称	脇差　無銘（わきざし　むめい）	品　　質	鉄
作 者 等		員　　数	1口
時　　代	室町時代 16世紀	寸 法 等	刃長55.7　反1.1
作品概要	鎬造、庵棟、中鋒。鍛は板目に杢交じり肌立つ。刃文は湾れに小互の目交じる。刃中に砂流し・金筋かかる。帽子は表裏ともに掃きかける。茎は大磨上無銘、先切で鑢目ごく浅い切。目釘孔2つ開く。拵は鐺に鍬形の大尻金具を伴う突兵拵で、小柄と割笄を伴う。大磨上のため無銘だが、もとは室町時代頃の備前刀とみられる。また、この刀身を収める突兵拵は、幕末に盛んだった洋式訓練に合わせて登場した拵で、洋装のバンドにも挟みやすいように鞘尻を細く尖らせて仕上げた点に特徴がある。もとは兜鉢の頂部が尖った変わり兜のことを突盔形と称し、突は突出、盔は冑を表わす言葉であるためその音が兵に通じ、転じて先がなめらかに細く尖るさまを突兵と呼ぶ。近世末期に兵装が西洋化したことを示す好個の作例である。		

21　名称	脇差　銘村正（わきざし　めいむらまさ）	品　　質	鉄
作 者 等	村正 伊勢国	員　　数	1口
時　　代	室町時代 16世紀	寸 法 等	刃長34.6　反0.6
作品概要	平造、三ツ棟。鍛は板目約み、乱れ映り立つ。刃文は腰刃に焼き出して湾れ、小互の目交じる。帽子は表裏ともに大丸に返る。茎はたなご腹となり先刃上り栗尻、鑢目浅い筋違、棟寄りに銘「村正」と切り、銘上に目釘孔1つ開く。拵は鮫革柄に阿形の獅子目貫を打った梨地蒔絵合口拵で、小柄を伴う。村正は、伊勢国桑名の刀工で、同銘のものが年紀入りの古作例では文亀元年（1501）、永正10年（1513）などがあり、以下大永・天文・元亀・天正までの年紀が認められることから、その活動時期は室町時代後期・16世紀と判じられる。古来、その切れ味が称賛され、実戦刀として用いられた。本品は、重ねやや薄めで湾れの刃文などに村正の特徴が看取される一方、たなご腹をなす茎の刃側角度がやや急で目釘孔が銘上に開く点は異例である。		

22　名称	刀　銘備州長船勝光／永正二年八月日（かたな　めいびしゅうおさふねかつみつ／えいしょうにねんはちがつひ）	品　　質	鉄
作 者 等	勝光 備前国	員　　数	1口
時　　代	室町時代 永正2年（1505）	寸 法 等	刃長60.6　反2.0
作品概要	鎬造、庵棟、中鋒。鍛は板目に柾がかる。刃は小互の目を主体に片落互の目が交じる。帽子は表崩れて返り、裏湾れ込んで返る。茎は区を送り、先刃上り栗尻、鑢目浅い勝手下り。目釘孔2つ開く。指表に刀工銘「備州長舩勝光」、指裏に年紀「永正二年八月日」を刻む。勝光は、室町時代中期から末期にかけて作刀を行った、「末備前」と総称される刀工のひとり。同時代の備前刀工のなかでも中心的な立場にあったらしく、京都・相国寺の塔頭、鹿苑院の歴代蔭涼軒主が記した日記『蔭涼軒日録』には、長享2年（1488）8月22日条また同九月廿一日条に勝光が備前から刀工たちを多数引き連れて、六角氏征伐のため近江出陣中であった室町幕府九代将軍の足利義尚（1465-1489）のために作刀を行ったことが記されている。		

23　名称	刀　銘備州長船源兵衛尉祐定作／天正五年八月日（かたなめいびしゅうおさふねげんべえじょうすけさださく／てんしょうごねんはちがつひ）	品　　質	鉄
作 者 等	祐定 備前国	員　　数	1口
時　　代	安土桃山時代 天正5年（1577）	寸 法 等	刃長65.6　反2.5
作品概要	鎬造、庵棟、中鋒やや伸びる。刀身の表に「八幡大菩薩」、裏に阿弥陀如来・不動明王・大日如来と思われる梵字を刻む。鍛は板目に柾がかる。刃文は小互の目、沸つく。帽子は表焼詰め、裏尖り気味に湾れ込んで小丸に返る。目釘孔3つ開け、うち2つを鉛で埋める。指表に「備州長舩源兵衛尉祐定作」の刀工銘、指裏に「天正伍年八月日」の年紀銘をそれぞれ切る。祐定は、室町時代中期から末期にかけて作刀を行った、「末備前」と総称される刀工のひとり。祐定の在銘作をみると同銘の刀工が複数存在したらしく、本品にある「源兵衛尉」のほか「与左衛門尉」「彦兵衛尉」「彦左衛門尉」「十郎左衛門尉」などの通称が知られる。		

24　名称	刀　銘肥前国住人忠吉作（かたな　めいひぜんこくじゅうにんただよしさく）	品　　質	鉄
作 者 等	忠吉　肥前国	員　　数	1口
時　　代	江戸時代 17世紀	寸 法 等	刃長76.3　反1.8
作品概要	鎬造、庵棟、やや猪首風の中鋒。重厚く身幅広い。鍛は小板目よく約み小糠肌となり、一部に地景入る。刃文は広直刃で刃縁沸つき、物打付近に二重刃あらわれる。帽子は表裏とも小丸に返る。茎は生で先刃上り栗尻、鑢目切、目釘孔3つ開く。指裏に太刀銘「肥前國住人忠吉作」を切る。新刀期を代表する刀工として知られる忠吉は、もと肥前の大名龍造寺家の家臣であったが、幼少の頃に祖父・父の相次ぐ死去に伴う家禄断絶を受けて刀鍛冶の修行に入った。慶長元年（1596）に上京、埋忠明寿の門に入り鍛刀を学んで3年後に帰国し、佐賀藩お抱え工として活躍した。初代忠吉の銘は当初「肥前国忠吉」と五字銘に切ったが、慶長末期頃から元和十年の武蔵大掾受領までは本品のように「肥前国住人忠吉作」（住人銘）と切ることが知られている。従って、本品も概ねこの頃の作とみてよい。		

25　名称	刀　銘肥前国住近江大掾藤原忠広（かたな　めいひぜんこくじゅうおうみだいじょうふじわらのただひろ）	品　　質	鉄
作 者 等	忠広 肥前国	員　　数	1口
時　　代	江戸時代 17世紀	寸 法 等	刃長74.4　反1.8
作品概要	鎬造、庵棟、中鋒。身幅広く元先の幅差つき、重厚めで反深くつく。鍛は小板目肌よく約み、小沸厚く付いて米糠肌状となる。刃文は中直刃にところどころ小互の目がまじり、匂口冴える。帽子は小丸にやや深く入る。茎は生で、先入山形、鑢目はごく浅い勝手上がり。目釘孔1つ開く。指裏に刀工名を切る。忠広は、初代忠吉の子で寛永18年（1641）に近江大掾を受領した。受領前の銘はすべて「肥前国住藤原輝広」と刻むが、受領後は刀に「肥前國住近江大掾藤原忠広」、脇差に「近江大掾藤原忠広」とそれぞれ刻むのを通例としている。長命したこともあり、作刀数も多いことで知られるが、本品については姿・鍛ともに作行がよい。		

26　名称	脇差　銘下坂忠親（わきざし　めいしもさかただちか）	品　　質	鉄
作 者 等	下坂忠親 筑後国	員　　数	1口
時　　代	江戸時代 17世紀	寸 法 等	刃長39.4　反1.5
作品概要	菖蒲造、庵棟。先反強い。鍛は平地小板目よく約み、鎬地柾目肌。刃文は直刃、帽子は表掃きかけて返り、裏尖って深く返る。茎は生で先栗尻、鑢目切、目釘孔1つ開く。指表に「下坂忠親」の刀工銘を切る。下坂忠親は、寛文年間を中心に筑後柳川で作刀を行った下坂派の刀工。下坂派は近江国坂田郡下坂村（現長浜市）を本拠とした下坂鍛冶にはじまり、16世紀頃には特に槍の生産で知られた。慶長5年（1600）の関ヶ原の合戦以後、下坂鍛冶は近江国ゆかりの大名家に招かれ、全国各地へ広まった。このうち、筑後柳川には下坂八郎左衛門が湖北出身の田中吉政に召し抱えられて入国し、筑後下坂派の祖となった。本品の作者である忠親は、同派の代表的な刀工として知られ、江戸時代に盛名のあった古今の刀工780余名を国別に図入りで紹介した『続新刀銘尽』には、筑後下坂派から唯一選ばれてその作行が評価されている。		

27　名称	脇差　銘長曽祢興里入道虎徹（わきざし　めいながそねおきさとにゅうどうこてつ）	品　　質	鉄
作 者 等	虎徹 武蔵国	員　　数	1口
時　　代	江戸時代 17世紀	寸 法 等	刃長51.2　反1.1
作品概要	鎬造、庵棟、中鋒。鍛は小板目よく約み、地沸一面につく。刃文は焼き出し直刃、のち湾れる。帽子は表乱れ込み、裏掃きかけて返る。茎は生で先栗尻、鑢目筋違、鎬上に銘「長曽祢興里入道虎徹」を切り、初字にかかるようにして目釘孔を1つ開ける。虎徹は、当初「長曽祢興里」と称したが、のちに入道し、それとともに虎徹を名乗った。また、制作期によって「虎」の書体を変えており、最初は「古」、その後「虎」（＝通称「箱虎」）、さらに「虎」の最終画を上に大きく跳ね上げている（＝通称「跳虎」）。これに当てはめれば、本品は箱虎銘ということになる。但し、虎徹はその名声ゆえに江戸時代から贋作も非常に多いことで知られており、注意を要する。新刀期の作風を理解するための資料としたい。		

28　名称	刀　銘和泉守藤原国虎／元禄十一年戊寅八月日（かたな　めいいずみのかみふじわらのくにとら／げんろくじゅういちねんつちのえとらはちがつひ）	品　　質	鉄
作 者 等	藤原国虎 陸奥国	員　　数	1口
時　　代	江戸時代 元禄11年（1698）	寸 法 等	刃長63.4　反1.4
作品概要	鎬造、庵棟、中鋒。鍛は小板目約み、刃文は沸の強い直刃調で、刃中に長く砂流しが入る。帽子は表裏とも小丸に返る。茎は先刃上がりの生茎で、鑢目は化粧鑢、目釘孔2つ開く。茎表には十六弁菊花紋を刻み、その下に「和泉守藤原國虎」、茎裏には「元禄十一年戊寅八月日」の年紀銘を切る。国虎（1658-1713）は、大坂の井上真改あるいは京都の伊賀守金道の門人とされる。19歳で奥州磐城平藩3代藩主の内藤義概（1619-1685）に召し抱えられ、貞享元年（1684)に和泉守を受領、あわせて菊紋を拝領した。現存作の極めて少ない国虎の在銘作として貴重である。		

29　名称	短刀　無銘（たんとう　むめい）	品　　質	鉄
作 者 等		員　　数	1口
時　　代	江戸時代 19世紀	寸 法 等	刃長17.9　反0.6
作品概要	おそらく造。表裏ともに掻き流しの腰樋と添樋。鍛は板目やや流れ、刃文は互の目に小沸つき、匂口ややうるむ。茎は栗尻、化粧鑢仕立ての生茎で、鎬上に目釘孔1つ開く。付属の拵には「和泉守兼重」の銘を切った小柄を伴う。本品の本歌は、室町時代後期・16世紀に駿河島田派の刀工助宗が打った「短刀　銘助宗（おそらく助宗）」（個人蔵）で、刀身に「おそらく」の字句が刻まれていることからこの名がある。横手筋が刀身の中程まで下がり刀身の半分以上が鋒となる反り深い体配が極めて特徴的で、安土桃山時代から江戸時代前期にかけて活躍した京都の刀工・白銀師の埋忠重長（寿斎）が自家に来た刀剣を絵図にまとめた『埋忠銘鑑』に収載され、のちにそれが数多く筆写されたことで衆目を集め、各地の刀工がその写しを制作した。本品はその一例である。		

30　名称	短刀　銘武州住正義（たんとう　めいぶしゅうじゅうまさよし）	品　　質	鉄
作 者 等	正義 武蔵国	員　　数	1口
時　　代	江戸時代 19世紀	寸 法 等	刃長17.7　内反あり
作品概要	平造、庵棟。内反りあり。鍛は小板目よく約む。刃文は互の目を匂出来に焼く。帽子は表裏とも少し湾れて小丸に返る。茎は生で先刃上がり栗尻、化粧鑢を施す。指表に銘「武州住正義」を刻み、「武」「州」の間に目釘孔1つ開く。正義は、水心子正秀の門人で、はじめ正方、守秀と称し、のち正義に名を改めた。正秀が提唱した復古刀の実践者であり、その作風は大板目肌の鍛に大乱刃で砂流しのかかる相州伝と一文字風の重花丁子を焼いた備前伝の2種に大別され、本品は前者にあたる。江戸で活躍し、後に美作津山藩のお抱え工となった。		

31　名称	太刀　銘小烏丸模／天保十四年氷心子秀世（たち　めいこがらすまるもす／てんぽうじゅうよねんひょうしんしひでよ）	品　　質	鉄
作 者 等	水心子秀世 武蔵国	員　　数	1口
時　　代	江戸時代 天保14年（1843）	寸 法 等	刃長63.2　反1.7
作品概要	小烏丸造、丸棟。表裏ともに薙刀樋に長い添樋を掻き流す。鍛は柾がかり、刃文は直刃、匂出来。茎は生で先栗尻、鑢目は化粧に仕上げ、目釘孔1つ開く。茎表に「小烏丸模」、茎裏に「天保十四年　氷心子秀世」の年紀と刀工銘を刻む。氷心子秀世は、新々刀の祖と言われる江戸時代後期の刀工、水心子正秀（天秀、1750-1825）に師事した。門弟百人と称された数多の正秀の弟子中にあって、師に作行がとりわけ近く、正秀の晩年には数多くの代作を行ったと言われる。本品の本歌は古来天国作とされる平安時代の無銘太刀で、平貞盛が藤原純友征討の功で賜り、その後平家の重宝として伝来したと言われる。江戸時代には有職故実の伊勢家が所持し、明治時代に対馬宗家が求めて明治天皇に献上し、御物として今に伝わる。		

32　名称	鉄道院短剣（てつどういんたんけん）	品　　質	鉄
作 者 等		員　　数	1口
時　　代	明治時代～大正時代 20世紀	寸 法 等	刃長22.4　反なし
作品概要	平造、庵棟。鍛は大板目流れ、刃文は浅く湾れて刃中に砂流しや金筋入る。茎は生で栗尻、鑢目は粗い勝手下り、目釘孔1つ開く。拵は、黒鮫革を3本の金線で斜めに絞り込んだ柄と茶地研出鮫革巻の鞘からなる短剣拵で、目貫金具は五七桐紋をかたどり、兜金・口金物・鐺にはそれぞれ桐唐草文を大ぶりに刻む。鞘口左右に佩緒2つを設ける。本品は、鉄道院（のち鉄道省）で用いられた礼装用短剣で、明治42年（1909）の「鉄道院職員服装規則」に基づき、翌43年(1910)から大正8年（1919）に廃止されるまで用いられた。鉄道院では総裁以下、判任官までの官吏がこの規則の対象となり、職階によってその服制に細則が設けられていた。本品の拵は、柄に黒鮫革を用い、目貫金具に五七桐紋をあらわすことから、判任官の佩用短剣であることがわかる。廃刀令以後も明治時代まで伝統的な刀剣制作の技法が引き継がれていたことを如実に示す作品である。		

＜染織＞（14件）

33-45　名称	対獣文様錦対獣文様錦裂（たいじゅうもんようにしきぎれ）など	品　　質	絹（錦）　など
作 者 等	中国　など	員　　数	13件
時　　代	中国　後漢-北魏時代 3-5世紀　など	寸 法 等	
作品概要	3世紀から16世紀ごろにかけての東アジアから西アジアにかけて出土した計13件の古裂類。うち9件は契丹人の建国した遼の墳墓から出土した古裂が占める。遼の染織品は、我が国の平安時代の染織品との共通点が見られることから、東アジアにおける9-12世紀の染織品の体系化や流通経路の解明に寄与することが期待される貴重な作例である。 1　対獣文様錦裂（たいじゅうもんようにしきぎれ）　2枚 2　小円文様錦裂（しょうえんもんようにしきぎれ）　1枚 3　双孔雀文様錦幞頭裂（そうくじゃくもんようにしきぼくとうぎれ）　1枚 4　鳳凰花文様錦裂（ほうおうはなもんようにしきぎれ）　1枚 5　鸚哥花文様錦袋（いんこはなもんようにしきぶくろ）　1口 6　牡丹唐草鳥円文様錦裂（ぼたんからくさちょうえんもんようにしきぎれ）　2枚 7　双鳥文様錦裂（そうちょうもんようにしきぎれ）　1枚 8　樹下双鹿文様錦裂（じゅかそうろくもんようにしきぎれ）　1枚 9　獅子文様錦裂（ししもんようにしきぎれ）　1枚 10 錦裂（蝶鳥菱文様錦・花鳥円文様錦）《にしきぎれ（ちょうとりひしもんようにしき・かちょうえんもんようにしき）》　1枚 11 七宝繋文様錦裂（しっぽうつなぎもんようにしきぎれ）　1枚 12 鳳凰文様金銀糸刺繍裂（ほうおうもんようきんぎんししゅうぎれ）　5枚 13 唐草文様刺繍裂（からくさもんようししゅうぎれ）　1枚		

46　名称	久留米絣着物「紫陽花」（くるめがすりきもの　あじさい）	品　　質	
作 者 等	松枝哲哉	員　　数	1領
時　　代	平成13年（2001）	寸 法 等	丈169.0　裄69.7
作品概要	久留米絣の代表的作家の松枝哲哉（1955-2020）による作品。松枝は　重要無形文化財工芸技術保持団体の久留米絣技術保持者会長を務め、藍染、手織、絣手括の技術保持者認定を受けた。本作は平成13年(2001)に日本伝統工芸展に出品し、入選を果たした原作品である。本作のような幾何学文以外を織り表した絵絣は、久留米絣の特徴のひとつである。ここに用いられた交錯する曲線の表現や、ごく小さな丸い点は、絣の表現の中でもとりわけ難しい文様である。また、色の掛け合わせによる表現の他に、糸を複雑に染め分けることで細かな縞や格子を作り上げ、更に文様に奥行きを出す工夫を施している。本作は光の表現を追求した哲哉の代表作のひとつと言える。		

＜考古＞（10件）

47　名称	注口土器（ちゅうこうどき）	品　質	土製
作 者 等	岩手県葛巻町江刈五日市出土	員　数	1口
時　代	縄文時代 前1,000年-前300年	寸 法 等	長径14.5　短径8.5　高6.0
作品概要	縄文時代晩期の東北地方から北海道南西部にかけて出土する亀ヶ岡文化の土器である。楕円形の体部で、注口部と口縁部を欠失する。同地域から出土した3年度購入の3点及び4年度寄贈の6点は昭和9年に出土し、旧蔵者宅に一括して保管されていたものである。		

48　名称	注口土器（ちゅうこうどき）	品　質	土製
作 者 等	岩手県葛巻町江刈五日市出土	員　数	1口
時　代	縄文時代 前1,000年-前300年	寸 法 等	直径20.0　高12.5
作品概要	縄文時代晩期の東北地方から北海道南西部にかけて出土する亀ヶ岡文化の土器である。胎土はやや粗い。同地域から出土した3年度購入の3点及び4年度寄贈の6点は昭和9年に出土し、旧蔵者宅に一括して保管されていたものである。		

49　名称	注口土器（ちゅうこうどき）	品　質	土製
作 者 等	岩手県葛巻町江刈五日市出土	員　数	1口
時　代	縄文時代 前1,000年-前300年	寸 法 等	直径13.5　高7.0
作品概要	縄文時代晩期の東北地方から北海道南西部にかけて出土する亀ヶ岡文化の土器である。胎土はやや粗く、注口部と口縁部を欠失する。注口部の破断面には、器を作った後に注口を取り付けた痕跡や粘土紐を貼り付けて文様を施した痕跡などの土器製作痕が確認できる。同地域から出土した3年度購入の3点及び4年度寄贈の6点は昭和9年に出土し、旧蔵者宅に一括して保管されていたものである。		

50　名称	壺形土器（つぼがたどき）	品　質	土製
作 者 等	岩手県葛巻町江刈五日市出土	員　数	1口
時　代	縄文時代 前1,000年-前300年	寸 法 等	直径16.3　高15.0
作品概要	縄文時代晩期の東北地方から北海道南西部にかけて出土する亀ヶ岡文化の土器である。口縁部を欠失する。同地域から出土した3年度購入の3点及び4年度寄贈の6点は昭和9年に出土し、旧蔵者宅に一括して保管されていたものである。		

51　名称	動物形土製品（どうぶつがたどせいひん）	品　質	土製
作 者 等	岩手県葛巻町江刈五日市出土	員　数	1個
時　代	縄文時代 前1,000年-前300年	寸 法 等	縦8.0　横7.4　厚2.8
作品概要	縄文時代晩期の東北地方から北海道南西部にかけて出土する亀ヶ岡文化の土製品である。隆線による正中線と脚部（乳房？）様の突起、側縁部の刺突が特徴的である。動物形土製品は中空に作られるものが多いが、本品は中実で作られている。同地域から出土した3年度購入の3点及び4年度寄贈の6点は、昭和9年に出土し旧蔵者宅に一括して保管されていたものである。		

52　名称	鉢形土器（はちがたどき）	品　質	土製
作 者 等	岩手県葛巻町江刈五日市出土	員　数	1口
時　代	縄文時代 前1,000年-前300年	寸 法 等	直径11.0、高6.8
作品概要	縄文時代晩期の主に東北から北海道南西部にかけて出土する亀ヶ岡文化の土器である。底部には網籠や籃胎漆器を模したような小さな脚を持つ。同地域から出土した3年度購入の3点及び4年度寄贈の6点は、昭和9年に出土し旧蔵者宅に一括して保管されていたものである。		

53　名称	壺（つぼ）	品　質	土製
作 者 等	伝福岡県行橋市竹並遺跡	員　数	1口
時　代	古墳時代 6-7世紀	寸 法 等	高12.5　胴部径16.0
作品概要	球状の胴部が残存し、頸部から口縁部を欠く須恵器の壺である。本来は高さのある口縁部を有する長頸壺の形状を呈していた。頸部がきれいに打ち欠かれたようになっているため、埋葬時などに故意に欠失した可能性も考えられる。胴部には中央に刺突文による文様帯が一条巡る。その上下には、カキメによる丁寧な調整がなされる。カキメ調整は金属器の壺を模倣したために用いられた技法と考えられる。そのことからも、古墳時代終末期頃まで下るものである。豊前を代表する古墳時代の横穴墓・古墳群である竹並遺跡の出土と伝えられるものである。竹並遺跡は福岡県行橋市南泉に所在する遺跡で、国内最大級の横穴墓群を有する遺跡でもある。また、5世紀代にさかのぼる最古級の横穴墓や墳丘を持つ横穴墓が初めて見つかった遺跡としても全国的にも知られている。		

54　名称	蓋坏（ふたつき）	品　質	土製
作 者 等	伝福岡県行橋市竹並遺跡	員　数	1合
時　代	古墳時代 7世紀	寸 法 等	身：径12.5　高3.5、蓋：径12.5　高2.5、総高5.5
作品概要	口縁部に、身の口縁部を受けるための返りを有する蓋と、高台を持たない身がセットとなる須恵器の坏である。蓋はつまみを持たないが、天井部まで丁寧にヘラケズリで調整する。一方、身はヘラケズリは底部までは達せず、底部は粗くナデつけている。豊前を代表する古墳時代の横穴墓・古墳群である竹並遺跡の出土と伝えられるものである。竹並遺跡は福岡県行橋市南泉に所在する遺跡で、国内最大級の横穴墓群を有する遺跡でもある。また、5世紀代にさかのぼる最古級の横穴墓や墳丘を持つ横穴墓が初めて見つかった遺跡としても全国的にも知られている。		

55　名称	平瓶（ひらべ）	品　質	土製
作 者 等	伝福岡県行橋市竹並遺跡	員　数	1口
時　代	古墳時代 6-7世紀	寸 法 等	高19.0　胴部径19.0
作品概要	口縁部をわずかに欠失するが、ほぼ完存する須恵器の平瓶である。大ぶりで、扁平な球状の胴部に注口部が取り付けられる。体部外面は、底部までヘラケズリで丁寧に調整され、平瓶の初現である６世紀末頃（小田編年Ⅵ期）の形態を表している。口縁部はやや歪んでおり、底部には焼き台の痕跡が残る。豊前を代表する古墳時代の横穴墓・古墳群である竹並遺跡の出土と伝えられるものである。竹並遺跡は福岡県行橋市南泉に所在する遺跡で、国内最大級の横穴墓群を有する遺跡でもある。また、5世紀代にさかのぼる最古級の横穴墓や墳丘を持つ横穴墓が初めて見つかった遺跡としても全国的にも知られている。		

56　名称	舎利容器（しゃりようき）	品　　質	
作 者 等	中国	員　　数	1合
時　　代	中国　遼時代 11世紀	寸 法 等	蓋径2.5　蓋高1.8　身径4.2　身高4.0
作品概要	水晶による小壺。内部には砂が敷かれ、ガラスビーズ（鉛ガラス）による舎利が2粒収められる。ことから、舎利容器として用いられていたことがわかる。蓋の鈕には蓮の花托に見立てた丸文、身には蓮弁が彫り表される。さらに蓮弁には葉脈が線刻される。小ぶりながらも細かな彫刻が見事な優品である。本品の詳細な出土地域は不明であるが、水晶による舎利容器の類例が中国・遼代の遺跡から出土していること、また蓮花を模したガラスの舎利容器の破片が大量に宇治・平等院の本尊台座より発見されていることから、11世紀の遼の遺跡から出土したものと推測される。		

（１）編入（1件）

＜歴史資料＞（1件）

1　名称	官板実測日本地図（畿内・東海・東山・北陸）（かんばんじっそくにほんちず（きない・とうかい・とうざん・ほくりく））	品　　質	紙本墨書淡彩
作 者 等	大学南校刊行	員　　数	1舗
時　　代	明治時代　明治3年(1870)	寸 法 等	縦230.4　横158.0
作品概要	「官板実測日本地図」は、伊能忠敬の「大日本沿海輿地全図」の小図3舗をもとに、江戸幕府の洋学教育機関である開成所が慶応元年(1865)から慶応3年の間に刊行した日本図であり、「大日本沿海輿地全図」の唯一の刊行図である。「官板実測日本地図」は木版で3色に多色摺したもので、「北蝦夷」（樺太）・「蝦夷諸島」（北海道）・「畿内・東海・東山・北陸」（本州東半部）・「山陰、山陽、南海、西海」（本州西半部・四国・九州・琉球諸島）の4枚組からなる。 樺太、北海道内陸部の詳細、小笠原諸島、琉球諸島については、「大日本沿海輿地全図」に収載されていない。「官板実測日本地図」は「大日本沿海輿地全図」をそのまま板刻したわけではなく、江戸幕府が統治領域の範囲を示そうとした意図が見て取れる。実際、江戸幕府はこうした意図をもって、1867年のパリ万博開催にあわせて「官板実測日本地図」を刊行したことが知られる。 本図は、慶応3年に刊行した時と同じ版木を用いて、明治3年(1870)に大学南校が刊行した再版図である。地図行政は民部省地理司が掌ることになったが、近代的測量法に基づく「輯製二十万分一図」の製作開始は明治17年まで待たなければならなかった。維新後、明治政府は対内的・対外的に国土基本図たる地図が必要であるものの、「伊能図」の水準を超える地図製作は困難な状況であり、再版したと推測される。 「官板実測日本地図」は「大日本沿海輿地全図」の唯一の刊行図としてだけでなく、幕末維新期の幕府・明治政府の国土観、明治初期の地図行政のあり方を示す地図として重要である。		

1-(1)-①-5　有形文化財に関する取組状況（文化財購入費）

令和5年3月31日

	令和4年度 合計金額（千円）	総件数	内訳					
			運営費交付金（千円）	件数	寄附金（千円）	件数	目的積立金（千円）	件数
国立文化財機構	839,906	56	699,466	54	140,440	1	0	0
東京国立博物館	88,000	1	83,060	1	4,940	(1)※	0	0
京都国立博物館	74,000	8	71,000	7	3,000	1	0	0
奈良国立博物館	190,500	12	168,000	12	22,500	(1)※	0	0
九州国立博物館	487,406	35	377,406	34	110,000	2(1)※	0	0

※()の数値は、運営費交付金と寄附金を合算し購入した件数。

1-(1)-①-6 寄託品一覧表

（単位：件）　令和5年3月31日現在

	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
合計	12,592	199	1,204	2,668	54	260	6,587	89	619	1,937	54	311	1,400	2	14
絵画	3,768	57	418	393	12	62	2,332	29	247	554	16	106	489	0	3
書跡	1,666	69	277	388	10	36	869	42	200	364	16	37	45	1	4
彫刻	865	9	192	148	2	40	262	1	63	427	6	87	28	0	2
建築	5	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	2	0	0
金工	997	15	88	126	5	17	577	3	39	200	7	30	94	0	2
刀剣	274	8	57	240	8	48				16	0	9	18	0	0
陶磁	1,482	1	7	100	0	2	1,017	1	4	8	0	0	357	0	1
漆工	760	15	57	75	6	14	545	4	16	116	5	26	24	0	1
染織	669	7	37	68	2	4	525	3	30	48	2	3	28	0	0
考古	970	13	35	170	4	13	420	6	10	202	2	11	178	1	1
民族資料	115	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	110	0	0
歴史資料	68	0	12	2	0	0	37	0	10	2	0	2	27	0	0
和書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
写真資料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 絵画	156	2	14	156	2	14									
東洋 書跡	48	2	8	48	2	8									
東洋 彫刻	17	0	0	17	0	0									
東洋 金工	2	0	1	2	0	1									
東洋 陶磁	191	1	0	191	1	0									
東洋 漆工	28	0	1	28	0	1									
東洋 染織	8	0	0	8	0	0									
東洋 考古	487	0	0	487	0	0									
東洋 民族	3	0	0	3	0	0									
黒田記念館収蔵品	13	0	0	13	0	0									

＊東京国立博物館は、列品管理規程による「東洋関係」あり。京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館は、東洋の寄託品も「日本」に含む。
＊列品管理規程改正により、新たに「写真資料」が追加され、東京国立博物館の列品「その他」は「写真資料」に変更した。
＊東京国立博物館では、国宝・重要文化財の数は文化庁の指定件数に合わせている。

1-(1)-①-7 寄託品増減表

（単位：件）　令和5年3月31日現在

	国立博物館				東京国立博物館				京都国立博物館				奈良国立博物館				九州国立博物館			
	3年度	4年度			3年度	4年度			3年度	4年度			3年度	4年度			3年度	4年度		
	計	新規	返却	計	計	新規	返却	計	計	新規	返却	計	計	新規	返却	計	計	新規	返却	計
合計	12,513	197	118	12,592	2,651	42	25	2,668	6,562	74	49	6,587	1,956	4	23	1,937	1,344	77	21	1,400
絵画	3,757	35	24	3,768	394	0	1	393	2,314	35	17	2,332	555	0	1	554	494	0	5	489
書跡	1,666	4	4	1,666	389	1	2	388	870	1	2	869	364	0	0	364	43	2	0	45
彫刻	867	6	8	865	150	0	2	148	261	2	1	262	428	4	5	427	28	0	0	28
建築	5	0	0	5	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	2	0	0	2
金工	991	7	1	997	126	0	0	126	571	7	1	577	200	0	0	200	94	0	0	94
刀剣	273	1	0	274	240	0	0	240					16	0	0	16	17	1	0	18
陶磁	1,443	63	24	1,482	108	0	8	100	1,021	12	16	1,017	8	0	0	8	306	51	0	357
漆工	746	16	2	760	76	0	1	75	529	16	0	545	117	0	1	116	24	0	0	24
染織	693	0	24	669	68	0	0	68	535	0	10	525	49	0	1	48	41	0	13	28
考古	957	34	21	970	161	10	1	170	421	1	2	420	217	0	15	202	158	23	3	178
民族資料	115	0	0	115	5	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	110	0	0	110
歴史資料	68	0	0	68	2	0	0	2	37	0	0	37	2	0	0	2	27	0	0	27
和書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
写真資料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 絵画	158	0	2	156	158	0	2	156												
東洋 書跡	51	0	3	48	51	0	3	48												
東洋 彫刻	12	5	0	17	12	5	0	17												
東洋 金工	2	0	0	2	2	0	0	2												
東洋 陶磁	169	26	4	191	169	26	4	191												
東洋 漆工	28	0	0	28	28	0	0	28												
東洋 染織	9	0	1	8	9	0	1	8												
東洋 考古	487	0	0	487	487	0	0	487												
東洋 民族	3	0	0	3	3	0	0	3												
黒田記念館収蔵品	13	0	0	13	13	0	0	13												

1-(1)-①-8 登録美術品一覧表

（単位：件）　令和5年3月31日現在

	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
合計	10	0	3	8	0	3	0	0	0	0	0	0	2	0	0
絵画	5	0	3	5	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
書跡	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
彫刻	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
陶磁	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
染織	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
金工	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 絵画	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 陶磁	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歴史資料	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
複合資料	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0

1-(1)-②　有形文化財の管理・保存・修理等

1-(1)-②-1 各収蔵庫、展示場の温湿度

【東京国立博物館】

会場等		空調実施時間	温度(年間)	湿度（年間）
本館	展覧会場	09：00～17：00	13～29℃	22～87%
	収蔵庫	09：30～17：00	16～27℃	29～75%
平成館	展覧会場	09：00～17：00	18～29℃	31～69%
	収蔵庫	09：30～17：00	21～24℃	46～58%
東洋館	展覧会場	09：30～17：00	15～29℃	25～69%
	収蔵庫	09：30～17：00	13～28℃	38～65%
法隆寺宝物館	展覧会場	24時間運転	21～25℃	50～58%
	収蔵庫	24時間運転	21～23℃	50～60%
黒田記念館	展覧会場	24時間運転	16～23℃	33～78%
	収蔵庫	24時間運転	20～23℃	48～58%
管理棟	収蔵庫	24時間運転	21～23℃	52～59%

【京都国立博物館】

会場等		空調実施時間	温度(年間)	湿度（年間）
明治古都館	展覧会場（閉室中）	休止中		
	収蔵庫	2年12月より休止中		
平成知新館	展覧会場	8：40～17：20	19～25℃	50～60%
	収蔵庫	8：40～17：20	19～24℃	55～60%（金工収蔵庫のみ45～55%
北収蔵庫		9：00～17：30	19～24℃	50～60%
東収蔵庫		9：00～17：30	19～24℃	50～60%
文化財保存修理所		8：30～17：30	20～25℃	50～65%

【奈良国立博物館】

会場等		空調実施時間	温度（年間）			湿度（年間）
			冬	夏	中	
なら仏像館	展覧会場	24時間運転	20±2℃	24±2℃	22±2℃	60±5%
青銅器館	展覧会場	24時間運転	20±2℃	24±2℃	22±2℃	60±5%
西新館	展覧会場	24時間運転	20±2℃	24±2℃	22±2℃	60±5%
東新館	展覧会場	24時間運転	20±2℃	24±2℃	22±2℃	60±5%
	収蔵庫	24時間運転	20±1℃	22±1℃	21±1℃	60±4%
地下回廊	収蔵庫	24時間運転	20±1℃	22±1℃	21±1℃	60±4%

【九州国立博物館】

会場等	空調実施時間	温度（年間）	湿度（年間）
3階展覧会場	8:00～19:00	22～26℃	55±5%
4階展覧会場	7:00～21:00	22～26℃	55±5%
収蔵庫	8:40～21:30	22～24℃	材質別に50±2%、55±2%、60±2%

1-(1)-②-2 収蔵品に関する資料等のデジタル化件数（収蔵品写真（フィルム）等のデジタル化件数）

令和5年3月31日現在

東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館
画像	55件	画像	3,326件	画像	3,012件	（完了）
和古書・漢籍	11,055件			文字	4,054件	
洋古書	0件					

1-(1)-②-3 保存カルテ作成件数

【東京国立博物館】　令和5年3月31日現在

合計			
計		本格修理調査時	応急修理時
		65	392
絵画		7	135
書跡		0	4
彫刻		0	0
建築		0	0
金工		0	2
刀剣		1	6
陶磁		0	5
漆工		0	2
染織		1	1
考古		6	2
歴史資料		0	29
民族資料		0	16
和書		41	7
写真資料		0	123
東洋	絵画	2	13
	書跡	1	12
	彫刻	0	0
	金工	0	0
	陶磁	0	1
	漆工	0	0
	染織	0	21
	考古	6	0
	民族	0	1
法隆寺献納宝物		0	1
その他（黒田含）		0	11

【京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館】

計	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
	123	136	86
絵画	37	48	6
書跡	12	28	1
彫刻	11	10	1
建築	0	0	0
金工	16	17	0
刀剣		2	1
陶磁	19	0	1
漆工	6	7	2
染織	1	4	1
考古	18	14	6
民族資料	0	0	2
歴史資料	3	0	5
和書	0	0	0
写真資料	0	6	0
その他	0	0	60

1-(1)-②-4 本格修理件数

令和5年3月31日現在

		計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
合　計		127	94	7	6	20
絵　画		17	8	3	3	3
書　跡		2	0	0	1	1
彫　刻		2	0	1	1	0
建　築		0	0	0	0	0
金　工		3	0	3	0	0
刀　剣		2	1		0	1
陶　磁		1	0	0	0	1
漆　工		0	0	0	0	0
染　織		28	27	0	0	1
考　古		14	7	0	1	6
民族資料		2	0	0	0	2
歴史資料		5	0	0	0	5
和　書		42	42	0	0	0
写真資料		0	0	0	0	0
東洋	絵　画	2	2			
	書　跡	1	1			
	彫　刻	0	0			
	金　工	0	0			
	陶　磁	0	0			
	漆　工	0	0			
	染　織	0	0			
	考　古	6	6			
	民　族	0	0			
法隆寺献納宝物		0	0			
黒田記念館収蔵品		0	0			
館史資料(収蔵品外)		0	0			

※東京国立博物館(　)内は考古相互貸借経費、内数。

1-(1)-②-5 修理概況

【東京国立博物館】（計 94件）

＜絵画＞（8件）

1 列品番号	A-11131	品　質	紙本淡彩
名　称	六遠山水図　澹遠	員　数	1幅
時　代	江戸時代	寸 法 等	縦135.7 横57.8
年代世紀	明和3年(1766)	施工会社	㈱光影堂
補足事項	①表装を解体する。 ②剥落止めを施し、汚れを除去する。 ③旧裏打紙を除去する。 ④欠損部に補紙を施す。 ⑤新規裏打ちを行い、折れ伏せを入れる。 ⑥新規裏打ちを重ね、補彩をする。 ⑦表装裂、軸首は再使用し、掛幅装に仕立てる。 ⑧桐製太巻、桐製印籠箱（6幅共用箱、旧蓋板等収納）、包裂、中性紙布貼帙を新調する。 （4年度は③の途中まで実施）		

2 列品番号	A-11132	品　質	紙本淡彩
名　称	六遠山水図　幽遠	員　数	1幅
時　代	江戸時代	寸 法 等	縦135.7 横57.8
年代世紀	明和3年(1766)	施工会社	㈱光影堂
補足事項	①表装を解体する。 ②剥落止めを施し、汚れを除去する。 ③旧裏打紙を除去する。 ④欠損部に補紙を施す。 ⑤新規裏打ちを行い、折れ伏せを入れる。 ⑥新規裏打ちを重ね、補彩をする。 ⑦表装裂、軸首は再使用し、掛幅装に仕立てる。 ⑧桐製太巻、桐製印籠箱（6幅共用箱、旧蓋板等収納）、包裂、中性紙布貼帙を新調する。 （4年度は③の途中まで実施）		

3 列品番号	A-11133	品　質	紙本淡彩
名　称	六遠山水図　迷遠	員　数	1幅
時　代	江戸時代	寸 法 等	縦135.7 横57.8
年代世紀	明和3年(1766)	施工会社	㈱光影堂
補足事項	①表装を解体する。 ②剥落止めを施し、汚れを除去する。 ③旧裏打紙を除去する。 ④欠損部に補紙を施す。 ⑤新規裏打ちを行い、折れ伏せを入れる。 ⑥新規裏打ちを重ね、補彩をする。 ⑦表装裂、軸首は再使用し、掛幅装に仕立てる。 ⑧桐製太巻、桐製印籠箱（6幅共用箱、旧蓋板等収納）、包裂、中性紙布貼帙を新調する。 （4年度は③の途中まで実施）		

4 列品番号	A-11134	品　質	紙本淡彩
名　称	六遠山水図　平遠	員　数	1幅
時　代	江戸時代	寸 法 等	縦135.7 横57.8
年代世紀	明和3年(1766)	施工会社	㈱光影堂
補足事項	①表装を解体する。 ②剥落止めを施し、汚れを除去する。 ③旧裏打紙を除去する。 ④欠損部に補紙を施す。 ⑤新規裏打ちを行い、折れ伏せを入れる。 ⑥新規裏打ちを重ね、補彩をする。 ⑦表装裂、軸首は再使用し、掛幅装に仕立てる。 ⑧桐製太巻、桐製印籠箱（6幅共用箱、旧蓋板等収納）、包裂、中性紙布貼帙を新調する。 （4年度は③の途中まで実施）		

5 列品番号	A-11135	品　質	紙本淡彩
名　称	六遠山水図　深淵	員　数	1幅
時　代	江戸時代	寸 法 等	縦135.7 横57.8
年代世紀	明和3年(1766)	施工会社	㈱光影堂
補足事項	①表装を解体する。 ②剥落止めを施し、汚れを除去する。 ③旧裏打紙を除去する。 ④欠損部に補紙を施す。 ⑤新規裏打ちを行い、折れ伏せを入れる。 ⑥新規裏打ちを重ね、補彩をする。 ⑦表装裂、軸首は再使用し、掛幅装に仕立てる。 ⑧桐製太巻、桐製印籠箱（6幅共用箱、旧蓋板等収納）、包裂、中性紙布貼帙を新調する。 （4年度は③の途中まで実施）		

6 列品番号	A-11136	品　質	紙本淡彩
名　称	六遠山水図　高遠	員　数	1幅
時　代	江戸時代	寸 法 等	縦135.7 横57.8
年代世紀	明和3年(1766)	施工会社	㈱光影堂
補足事項	①表装を解体する。 ②剥落止めを施し、汚れを除去する。 ③旧裏打紙を除去する。 ④欠損部に補紙を施す。 ⑤新規裏打ちを行い、折れ伏せを入れる。 ⑥新規裏打ちを重ね、補彩をする。 ⑦表装裂、軸首は再使用し、掛幅装に仕立てる。 ⑧桐製太巻、桐製印籠箱（6幅共用箱、旧蓋板等収納）、包裂、中性紙布貼帙を新調する。 （4年度は③の途中まで実施）		

7 列品番号	A-12486	品　質	紙本着色
名　称	泰西騎士像	員　数	1幅
時　代	江戸時代	寸 法 等	縦85.1 横38.5
年代世紀	17世紀	施工会社	㈱半田九清堂
補足事項	①仮張りから本紙を外す。 ②剥落止めを施し、汚れを除去する。 ③旧裏打紙を除去する。 ④新規裏打ちを行ない、折れ伏せを入れる。 ⑤本紙、表装裂を切り継ぐ。 ⑥新規裏打ちを行なう。 ⑦表装裂、発装、軸首、金具、紐を新調し、掛幅装に仕立てる。 ⑧桐製太巻、包裂、桐製二重箱、中性紙布貼帙を新調する。 （4年度は⑤まで実施）		

8 列品番号	A-1155	品　質	紙本墨画着色
名　称	扇面雑画	員　数	60面のうち15面
時　代	江戸時代	寸 法 等	36.5×63.8
年代世紀	18～19世紀	施工会社	㈱半田九清堂
補足事項	①本紙を取り外す。 ②剥落止めを施し、汚れを除去する。 ③本紙裏面に付着した銀箔紙を除去し、増裏打ち紙を除去する。 ④新規裏打ちを行う。 ⑤中性紙ボードで落とし込みのマットを作製し、保管する。		

＜刀剣＞（1件）

1 列品番号	F-4-2	品　質	木製漆塗など
名　称	沃懸地鳳凰蒔絵小脇指	員　数	1口
時　代	江戸時代	寸 法 等	総長47.9 柄長12.2 鞘長35.5
年代世紀	19世紀	施工会社	
補足事項	①鐺を取り外す。鞘と強固に接着されている場合は、鐺の形に沿って鞘を切断する。 ②指裏の鐺から0.7センチ程続く亀裂に対して充填強化する。 ③鞘内部の木質を掘削して金属物を除去する。 ④金属物の除去によって鞘の木質が可動し、刃方に広がる23センチ程の亀裂が塞がる場合は、亀裂を圧着する。 金属物を除去しても鞘の木質が既に硬化して可動しない場合は、亀裂は現状のままとし、充填強化する。 ⑤工程①において鐺を取り外した場合は、鞘の先端に新たに凸型を作って鐺を装着する。 工程①において鐺に沿って鞘を切断した場合は、切断分を含めて鞘の一部を新補して鐺を装着する。 （令和4年度は④の途中までを実施）		

＜染織＞（27件）

1　列品番号	I-3947	品　　質	
名　　称	小袖白地片身替格子縞段縅	員　　数	1領
時　　代	安土桃山時代	寸 法 等	丈126 裄57 袖巾22 袖丈48
年代世紀	16世紀	施工会社	㈱松鶴堂
補足事項	①処置範囲になじみ、損傷部に負荷の少ない絹製補修糸を用意する。 ②表地と裏地の解体は行なわず、必要に応じて織糸と中綿を整え、皺伸ばしを行なう。 ③脆弱な箇所には、生地の裂け部分から中綿や補修裂を挿入する。 ④必要に応じ、生地端を補修糸で縫いかける。 ⑤作品をたたまず平置きできる収納台と保存箱を作製する。この収納台については展示にも対応可能な仕様とする。 （4年度は②の途中まで実施）		

2　列品番号	I-721	品　　質	絹
名　　称	小袖白綾地秋草模様	員　　数	1領
時　　代	江戸時代	寸 法 等	身丈147.2 裄65.1
年代世紀	18世紀	施工会社	㈱松鶴堂
補足事項	①解体する ②補強、補修を行なう ③旧修理を除去する ④表地に補修裂を綴じ付ける ⑤裏地を新調する ⑥仕立て　左右の袖を入れ替える（現状変更） ⑦収納		

3　列品番号	I-337-6	品　　質	絹製、繻繻・平絹
名　　称	緑地目結文繻繻平絹	員　　数	1枚
時　　代	奈良時代	寸 法 等	縦21.9 横28.7
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.クリーニングの上、形を整える。 3.I-337-6とI-337-7の2点を１枚の低加圧式ウィンドウマット装にする。		

4　列品番号	I-337-7	品　　質	絹製、繻繻・平絹
名　　称	緑地目結文繻繻平絹	員　　数	1枚
時　　代	奈良時代	寸 法 等	縦20.4 横28.3
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.クリーニングの上、形を整える。 3.I-337-6とI-337-7の2点を１枚の低加圧式ウィンドウマット装にする。		

5　列品番号	I-337-48	品　　質	絹製、繭繻・平絹
名　　称	茶地霞襷鳥文繭繻平絹	員　　数	1枚
時　　代	奈良時代	寸 法 等	縦13 横15.3
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.糸目を揃える。 3.和紙で裏打ちを行う。 4.中性紙のウィンドウマット装にする。		

6　列品番号	I-337-49	品　　質	絹製、繭繻・平絹
名　　称	緑地霞襷鳥文繭繻平絹	員　　数	1枚
時　　代	奈良時代	寸 法 等	縦18.5 横9.1
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.糸目を揃える。 3.低加圧式ウィンドウマット装にする。		

7　列品番号	I-337-50	品　　質	絹製、繭繻・平絹
名　　称	紫地海賦文繭繻平絹	員　　数	1枚
時　　代	奈良時代	寸 法 等	縦9.7 横4.3
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.糸目を揃える。 3.和紙で裏打ちを行う。 4.中性紙のウィンドウマット装にする。		

8　列品番号	I-337-54	品　　質	絹製、繭繻・平絹
名　　称	緑地草花文繭繻平絹	員　　数	1枚
時　　代	奈良時代	寸 法 等	縦29.2 横23.2
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.クリーニングの上、形を整える。 3.低加圧式ウィンドウマット装にする。		

9　列品番号	I-337-57	品　　質	絹製、繭繻・平絹
名　　称	淡青地草花文臙繻平絹腰裃残欠	員　　数	1枚
時　　代	奈良時代	寸 法 等	縦23.4 横14.0
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.糸目を揃える。 3.低加圧式ウィンドウマット装にする。		

10　列品番号	I-337-89	品　　質	絹製、夾繻・平絹
名　　称	淡茶地集花文夾繻平絹	員　　数	1枚
時　　代	奈良時代	寸 法 等	縦27.0 横40.8
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.糸目を揃える。 3.和紙で裏打ちを行う。 4.低加圧式ウィンドウマット装にする。		

11 列品番号	I-337-90	品　質	絹製、夾纈・平絹
名　称	淡茶地集花文夾纈平絹	員　数	1枚
時　代	奈良時代	寸 法 等	縦26.6 横40.8
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.糸目を揃える。 3.和紙で裏打ちを行う。 4.低加圧式ウィンドウマット装にする。		

12 列品番号	I-337-109	品　質	絹製、夾纈・羅
名　称	茶地花葉文夾纈羅	員　数	1枚
時　代	奈良時代	寸 法 等	縦40.0 横25.0
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.糸目を揃える。 3.低加圧式ウィンドウマット装にする。		

13 列品番号	I-337-134	品　質	絹製、綾
名　称	紫地飛仙文綾天蓋垂飾残欠	員　数	1枚
時　代	奈良時代	寸 法 等	縦33.7 横27.0
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.糸目を揃える。 3.和紙で裏打ちを行う。 4.低加圧式ウィンドウマット装にする。		

14 列品番号	I-337-135	品　質	絹製、綾
名　称	紫地雲鳳文綾天蓋垂飾残欠	員　数	1枚
時　代	奈良時代	寸 法 等	縦39.8 横26.0
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.糸目を揃える。 3.和紙で裏打ちを行う。 4.低加圧式ウィンドウマット装にする。		

15 列品番号	I-337-136	品　質	絹製、綾
名　称	黄地花唐草文綾	員　数	1枚
時　代	奈良時代	寸 法 等	16.1 横24.3
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.クリーニングの上、形を整える。 3.低加圧式ウィンドウマット装にする。		

16 列品番号	I-337-137	品　質	絹製、綾
名　称	紫地花唐草文綾幡足残欠	員　数	1枚
時　代	奈良時代	寸 法 等	縦24.4 横15.9
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.糸目を揃える。 3.和紙で裏打ちを行う。 4.中性紙のウィンドウマット装にする。		

17 列品番号	I-337-171	品　質	絹製、錦
名　称	紫地唐花文錦	員　数	1枚
時　代	奈良時代	寸 法 等	縦25.2 横27.1
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.糸目を揃える。 3.和紙で裏打ちを行う。 4.中性紙のウィンドウマット装にする。		

18 列品番号	I-337-173	品　質	絹製、錦
名　称	黄地唐花文錦	員　数	1枚
時　代	奈良時代	寸 法 等	縦17.8 横17.3
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.クリーニングの上、形を整える。 3.縁の処理を行う。 4.低加圧式ウィンドウマット装にする。		

19 列品番号	I-337-176	品　質	絹製、錦
名　称	長斑花鳥文錦	員　数	1枚
時　代	奈良時代	寸 法 等	縦16.0 横17.3
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.クリーニングの上、形を整える。 3.縁の処理を行う。 4.低加圧式ウィンドウマット装にする。		

20 列品番号	I-337-196	品　質	絹製、錦
名　称	黄地連珠入亀甲繋花文錦幡足垂端飾	員　数	1枚
時　代	奈良時代	寸 法 等	縦12.3 横11.5
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.クリーニングの上、形を整える。 3.I-337-196とI-337-197の2点を並列し、１枚の低加圧式ウィンドウマット装にする。		

21 列品番号	I-337-197	品　質	絹製、錦
名　称	黄地花文錦幡足垂端飾	員　数	1枚
時　代	奈良時代	寸 法 等	縦13.0 横11.8
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.クリーニングの上、形を整える。 3.I-337-196とI-337-197の2点を並列し、１枚の低加圧式ウィンドウマット装にする。		

22　列品番号	I-337-198	品　　質	絹製、錦
名　　称	赤地唐花文錦幡足垂端飾	員　　数	1枚
時　　代	奈良時代	寸 法 等	縦13.1 横11.7
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.クリーニングの上、形を整える。 3.I-337-198とI-337-199の2点を並列し、１枚の低加圧式ウィンドウマット装にする。		

23　列品番号	I-337-199	品　　質	絹製、錦
名　　称	白茶地花文錦幡足垂端飾	員　　数	1枚
時　　代	奈良時代	寸 法 等	縦13.5 横11.7
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.クリーニングの上、形を整える。 3.I-337-198とI-337-199の2点を並列し、１枚の低加圧式ウィンドウマット装にする。		

24　列品番号	I-337-200	品　　質	絹製、錦
名　　称	赤地唐花文錦幡足垂端飾	員　　数	1枚
時　　代	奈良時代	寸 法 等	縦12.4 横11.6
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.クリーニングの上、形を整える。 3.I-337-200とI-337-201の2点を並列し、１枚の低加圧式ウィンドウマット装にする。		

25　列品番号	I-337-201	品　　質	絹製、錦
名　　称	緑地唐花文錦幡足垂端飾	員　　数	1枚
時　　代	奈良時代	寸 法 等	縦12.9 横12.0
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.クリーニングの上、形を整える。 3.I-337-200とI-337-201の2点を並列し、１枚の低加圧式ウィンドウマット装にする。		

26　列品番号	I-337-233	品　　質	絹製、錦
名　　称	淡縹地唐花文錦	員　　数	1枚
時　　代	奈良時代	寸 法 等	縦34.8 横9.2
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.クリーニングの上、形を整える。 3.I-337-233とI-337-234の2点を１枚の低加圧式ウィンドウマット装にする。		

27　列品番号	I-337-234	品　　質	絹製、平絹・纐纈
名　　称	黄緑地目結文纐纈平絹	員　　数	1枚
時　　代	奈良時代	寸 法 等	縦34.8 横8.8
年代世紀	8世紀	施工会社	東京国立博物館
補足事項	1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.クリーニングの上、形を整える。 3.I-337-233とI-337-234の2点を１枚の低加圧式ウィンドウマット装にする。		

＜考古＞（7件）

1　列品番号	J-6195	品　　質	土師器
名　　称	広口壺	員　　数	1個
時　　代	古墳時代	寸 法 等	高33.3　口径22.5
年代世紀	3～4世紀	施工会社	㈲武蔵野文化財修復研究所
補足事項	①解体し、旧復元石膏部を除去する。 ②クリーニングする。 ③強化し、接合する。 ④欠失部を補填し、復元する。 ⑤補填部に補彩を施す。（4年度は①②を実施）		

2　列品番号	J-11982	品　　質	土師器
名　　称	甑	員　　数	1個
時　　代	古墳時代	寸 法 等	高27.0　復原口径26.0
年代世紀	6世紀	施工会社	㈲武蔵野文化財修復研究所
補足事項	①解体し、旧復元石膏部を除去する。 ②クリーニングする。 ③強化し、接合する。 ④欠失部を補填し、復元する。 ⑤補填部に補彩を施す。（4年度は①②を実施）		

3　列品番号	J-1474	品　　質	石製（溶結凝灰岩）
名　　称	石棒	員　　数	1個
時　　代	縄文時代(中期)	寸 法 等	長101.0 最大径13.0 ； 頭部 最大径8.6 ； くびれ部 径6.3
年代世紀	前3000～前2000年	施工会社	㈱東都文化財保存研究所
補足事項	①クリーニングする。 ②表面および破断面を強化する。 ③接合する。		

4　列品番号	J-22408	品　　質	土製
名　　称	壺形土器	員　　数	1個
時　　代	オホーツク文化期	寸 法 等	口径28.0 最大径28.4 底径13.5
年代世紀	5～6世紀	施工会社	㈱東都文化財保存研究所
補足事項	①クリーニングする。 ②強化し、接合する。 ③欠失部分を補填、復元する。 ④補填部に補彩する。 （4年度は②を実施）		

5　列品番号	J-21428	品　　質	土製
名　　称	埴輪　踊る人々	員　　数	1個
時　　代	古墳時代	寸 法 等	高57cm 幅14cm 重量3.4kg
年代世紀	6世紀	施工会社	㈱東都文化財保存研究所
補足事項	①解体し、旧修理による石膏部分を除去する。 ②クリーニングする。 ③破断面を中心に強化し、接合する。 ④欠失部を補填し、復元する。 ⑤補填箇所に補彩を施す。 ⑥専用展示台を作成する。		

6　列品番号	J-21429	品　　質	土製
名　　称	埴輪　踊る人々	員　　数	1個
時　　代	古墳時代	寸 法 等	高64cm 幅17cm 重量3.5kg
年代世紀	6世紀	施工会社	㈱東都文化財保存研究所
補足事項	①解体し、旧修理による石膏部分を除去する。 ②クリーニングする。 ③破断面を中心に強化し、接合する。 ④欠失部を補填し、復元する。 ⑤補填箇所に補彩を施す。 ⑥専用展示台を作成する。		

7　列品番号	J-7822	品　　質	土製
名　　称	埴輪　馬	員　　数	1個
時　　代	古墳時代	寸 法 等	高78.9cm 長77.2cm
年代世紀	6世紀	施工会社	繭山隆司
補足事項	①解体し、石膏部分を除去する。 ②クリーニングする。 ③破断、亀裂箇所を重点的に強化し、接合する。 ④欠失部を補填し、復元する。 ⑤補填箇所に補彩を施す。 ⑥取り外し可能な支持具付きの展示台を作製し、頭部にかかる重心を分散し安定した展示を可能にする。		

＜和書＞（42件）

1　列品番号	QA-3623-2	品　　質	紙本墨書
名　　称	《岩手県宝物目録；社寺及人民》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	28.3×20.3
年代世紀	19世紀	施工会社	㈳国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。（4年度は①まで。一部については②の途中までを実施）		

2　列品番号	QA-3624-1	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《岩手県宝物精細簿；単》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈳国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。（4年度は①まで。一部については②の途中までを実施）		

3　列品番号	QA-3624-2	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《東京府宝物精細簿；甲；公爵徳川家達・侯爵徳川義礼》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈳国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。（4年度は①まで。一部については②の途中までを実施）		

4　列品番号	QA-3624-3	品　　質	紙本墨書
名　　称	《東京府宝物精細簿；乙》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈳国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。（4年度は①まで。一部については②の途中までを実施）		

5　列品番号	QA-3624-4	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《東京府宝物精細簿；甲；公爵徳川家達・侯爵徳川義礼》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈳国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。（4年度は①まで。一部については②の途中までを実施）		

6　列品番号	QA-3624-5	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《東京府宝物精細簿；乙》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈱国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。(4年度は①まで。一部については②の途中までを実施)		

7　列品番号	QA-3624-6	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《徳川公爵宝物精細簿》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈱国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。(4年度は①まで。一部については②の途中までを実施)		

8　列品番号	QA-3624-7	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《前田公爵宝物精細簿》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈱国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。(4年度は①まで。一部については②の途中までを実施)		

9　列品番号	QA-3624-8	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《東京府宝物参攷簿；単》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈱国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。(4年度は①まで。一部については②の途中までを実施)		

10　列品番号	QA-3624-9	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《東京府仮定精細簿》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈱国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。(4年度は①まで。一部については②の途中までを実施)		

11　列品番号	QA-3624-10	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《神奈川県宝物精細簿；単》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈱国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。(4年度は①まで。一部については②の途中までを実施)		

12　列品番号	QA-3624-11	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《神奈川県宝物参攷簿；単》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈱国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。(4年度は①まで。一部については②の途中までを実施)		

13　列品番号	QA-3624-12	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《愛知県宝物精細簿；各社寺人民》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈱国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。(4年度は①まで。一部については②の途中までを実施)		

14　列品番号	QA-3624-13	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《愛知県宝物精細簿；単；社寺士民》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈱国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。(4年度は①まで。一部については②の途中までを実施)		

15　列品番号	QA-3624-14	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《徳川侯爵宝物精細簿；2；附成瀬子爵刀剣之部》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈱国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。(4年度は①まで。一部については②の途中までを実施)		

16　列品番号	QA-3624-15	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《滋賀県宝物精細簿；天；滋賀郡延暦寺・園城寺・安楽律院》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈱国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。(4年度は①まで。一部については②の途中までを実施)		

17　列品番号	QA-3624-16	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《滋賀県宝物精細簿；地；滋賀郡・栗太郡・野洲郡・甲賀郡》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈱国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。(4年度は①まで。一部については②の途中までを実施)		

18　列品番号	QA-3624-17	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《滋賀県宝物精細簿；人；神崎郡・蒲生郡・愛知郡・犬上郡・坂田郡・東浅井郡・西浅井郡・伊香郡・高島郡・附士民》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈱国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。(4年度は①まで。一部については②の途中までを実施)		

19　列品番号	QA-3624-18	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《滋賀県宝物精細簿；甲；滋賀郡・栗太郡・野洲郡・甲賀郡》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈱国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。(4年度は①まで。一部については②の途中までを実施)		

20　列品番号	QA-3624-19	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《滋賀県宝物精細簿；乙；蒲生郡・神崎郡・愛知郡・犬上郡・坂田郡・東浅井郡・伊香郡・高島郡》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈱国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。(4年度は①まで。一部については②の途中までを実施)		

21　列品番号	QA-3624-20	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《滋賀県宝物参攷簿；天；滋賀郡・栗太郡・野洲郡・甲賀郡・蒲生郡》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈱国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。(4年度は①まで。一部については②の途中までを実施)		

22　列品番号	QA-3624-21	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《滋賀県宝物参攷簿；地；神崎郡・愛知郡・犬上郡・坂田郡・東浅井郡・西浅井郡・伊香郡・高島郡・附士民之部》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈱国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。(4年度は①まで。一部については②の途中までを実施)		

23　列品番号	QA-3624-22	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《滋賀県宝物参攷簿；天》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈱国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。(4年度は①まで。一部については②の途中までを実施)		

24　列品番号	QA-3624-23	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《滋賀県宝物参攷簿；地》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈱国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。(4年度は①まで。一部については②の途中までを実施)		

25　列品番号	QA-3624-24	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《滋賀県史料参攷簿；単；社寺及士民》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈱国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。(4年度は①まで。一部については②の途中までを実施)		

26　列品番号	QA-3624-25	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《京都市宝物精細簿；1；上京区》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈱国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。(4年度は①まで。一部については②の途中までを実施)		

27　列品番号	QA-3624-26	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《京都市宝物精細簿；2；下京区；甲》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈱国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。(4年度は①まで。一部については②の途中までを実施)		

28　列品番号	QA-3624-27	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《京都市下京区精細簿；3；下京区；乙》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈱国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。(4年度は①まで。一部については②の途中までを実施)		

29　列品番号	QA-3624-28	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《京都府宝物精細簿；4；愛宕郡》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈱国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。(4年度は①まで。一部については②の途中までを実施)		

30　列品番号	QA-3624-29	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《京都府宝物精細簿；5；葛野郡》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈱国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。(4年度は①まで。一部については②の途中までを実施)		

31　列品番号	QA-3624-30	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《京都府宝物精細簿；6；乙訓郡・紀伊郡・宇治郡》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈱国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。(4年度は①まで。一部については②の途中までを実施)		

32　列品番号	QA-3624-31	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《京都府宝物精細簿；7；久世郡・相楽郡・綴喜郡・南桑田郡・北桑田郡・船井郡・天田郡・何鹿郡・加佐郡・与謝郡・中郡・竹野郡》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈱国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。(4年度は①まで。一部については②の途中までを実施)		

33　列品番号	QA-3624-32	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《京都市宝物精細簿；8；上京区士民》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈱国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。(4年度は①まで。一部については②の途中までを実施)		

34　列品番号	QA-3624-33	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《京都府宝物精細簿；9；下京区士民・附各郡士民》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈱国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。(4年度は①まで。一部については②の途中までを実施)		

35　列品番号	QA-3624-34	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《京都市下京区宝物精細簿；1》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈱国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。(4年度は①まで。一部については②の途中までを実施)		

36　列品番号	QA-3624-35	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《京都府宝物精細簿；2；愛宕郡》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈱国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。(4年度は①まで。一部については②の途中までを実施)		

37　列品番号	QA-3624-36	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《京都府宝物精細簿；3；葛野郡》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈱国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。(4年度は①まで。一部については②の途中までを実施)		

38　列品番号	QA-3624-37	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《京都府宝物精細簿；4；乙訓郡・紀伊郡・宇治郡》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈱国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。(4年度は①まで。一部については②の途中までを実施)		

39　列品番号	QA-3624-38	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《京都府宝物精細簿；5；久世郡・相楽郡・綴喜郡・南桑田郡・北桑田郡・船井郡・天田郡・何鹿郡・加佐郡・与謝郡》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈱国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。(4年度は①まで。一部については②の途中までを実施)		

40　列品番号	QA-3624-39	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《京都市宝物精細簿；6；上京区・下京区・士民・附各郡》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈱国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。(4年度は①まで。一部については②の途中までを実施)		

41　列品番号	QA-3624-40	品　　質	袋綴、紙本墨書他
名　　称	《京都府史要参攷簿》	員　　数	1冊
時　　代	明治時代	寸 法 等	27.8×19.6
年代世紀	19世紀	施工会社	㈱国宝修理装潢師連盟
補足事項	①修理前調査・状況記録を行う。 ②解体する。 ③整形、クリーニング、補強する。 ④本紙の欠損部に補紙を施す。 ⑤補修紙の余白等を裁断する。 ⑥表紙を補修する。 ⑦修理後撮影を行う。 ⑧元の冊子装に製本する。 ⑨保存箱を作成する。 ⑩報告書を作成する。(4年度は①まで。一部については②の途中までを実施)		

42　列品番号	QB-30	品　　質	紙本墨摺
名　　称	大三川志	員　　数	109冊
時　　代	江戸時代	寸 法 等	各冊とも、縦26.4×横18.1
年代世紀	宝暦13年(1763)	施工会社	㈲東京修復保存センター
補足事項	リーフキャスティング（漉き嵌め）法による修理とする。 ①修理前調査を行なう。 ②解体する。 ③リーフキャスティング前処置（本紙整形、虫糞等除去、脆弱部分を和紙と生麩糊で固定）をする。 ④リーフキャスティング（本紙に適した楮・三椏の混合液を原料として、作業後は十分な乾燥期間をおく） ⑤断裁作業（周囲を本紙保護に適した余白を残して裁断する） ⑥表紙を補修する。 ⑦元の冊子装に製本する。 （3～4年度は②～⑦を実施）		

＜東洋絵画＞（2件）

1　列品番号	TA-339	品　　質	絹本墨画
名　　称	山水図軸	員　　数	1幅
時　　代	南宋時代	寸 法 等	22.5×25.4
年代世紀	13世紀	施工会社	㈱文化財保存
補足事項	①表装を解体する。 ②剥落止めを施し、汚れを除去する。 ③旧裏打ち紙を除去し、本紙の欠損部に補絹を施す。 ④新規裏打ちを行い、折れ伏せを入れる。 ⑤新規補絹部分には補彩を施す。 ⑥表装裂、軸首は再使用し、掛幅装に仕立てる。掛風帯金具は新調する。 ⑦桐製太巻、桐製印籠箱、桐製外箱（新旧箱を同梱）を新調する。 (4年度は③の途中までを実施)		

2　列品番号	TA-693-72	品　　質	紙本に水彩、金彩
名　　称	カシミール様式写本	員　　数	1冊
時　　代		寸 法 等	10.5×16.5 (252葉)
年代世紀	19世紀前半	施工会社	㈱Conservation for Identity
補足事項	①ドライクリーニング後、支持体を表紙から解体し、花布は残し、背貼りや背固めを除去する。 ②本紙の繕いや補強を行う。花布には必要な際には補強を行う。 ③表紙ボードのゆがみを補正する。 ④表装布の前小口の欠損箇所等への処置はめくれの再接着に留める。 ⑤背貼り、ヒンジ、クータを取り付け、背表紙と本紙を再固定する。		

＜東洋書跡＞（1件）

1　列品番号	TB-1438	品　　質	紙本墨書
名　　称	傑山偈	員　　数	1幅
時　　代	元時代	寸 法 等	縦34.3 横64.2
年代世紀	泰定3年(1326)	施工会社	㈱松鶴堂
補足事項	①表装を解体する。 ②剥落止めを施し、汚れを除去する。 ③旧裏打紙を除去し、本紙の欠損部に補紙を施す。 ④新規裏打ちを行ない、折れ伏せを入れる。 ⑤新規補紙部分に補彩を施す。 ⑥表装裂、軸首は再使用して、掛幅装に仕立てる。 ⑦桐製太巻、包裂、桐製印籠箱、漆塗り差込外箱、中性紙布貼帙を新調する。 （4年度は③の途中までを実施）		

＜東洋考古＞（6件）

1　列品番号	TJ-2977	品　　質	土製
名　　称	灰陶壺	員　　数	1個
時　　代	後漢時代	寸 法 等	高19.0　口径10.5
年代世紀	2世紀	施工会社	繭山隆司
補足事項	①クリーニングする。 ②強化し、接合する。 ③欠失部を補填し、復元する。 ④補填部に補彩を施す。		

2　列品番号	TJ-2983	品　　質	土製
名　　称	灰陶倉	員　　数	1個
時　　代	後漢時代	寸 法 等	高20.1　口径14.8
年代世紀	2世紀	施工会社	繭山隆司
補足事項	①解体し、旧復元石膏部を除去する。 ②クリーニングする。 ③強化し、接合する。 ④欠失部を補填し、復元する。 ⑤補填部に補彩を施す。 ※TJ-3004 灰陶倉（屋根）と一具のため併せて実施する。 （4年度は③の途中までを実施）		

3　列品番号	TJ-2984	品　　質	土製
名　　称	灰陶倉	員　　数	1個
時　　代	後漢時代	寸 法 等	高22.0　口径15.2
年代世紀	2世紀	施工会社	繭山隆司
補足事項	①解体し、旧復元石膏部を除去する。 ②クリーニングする。 ③強化し、接合する。 ④欠失部を補填し、復元する。 ⑤補填部に補彩を施す。 ※TJ-3005 灰陶倉（屋根）と一具のため併せて実施する。（4年度は③の途中までを実施）		

4　列品番号	TJ-2985	品　　質	土製
名　　称	灰陶井戸	員　　数	1個
時　　代	後漢時代	寸 法 等	高18.0　口径16.0
年代世紀	2世紀	施工会社	繭山隆司
補足事項	①解体する。 ②クリーニングする。 ③強化し、接合する。 ④欠失部を補填し、復元する。 ⑤補填部に補彩を施す。 （令和４年度は③の途中までを実施）		

5　列品番号	TJ-3004	品　　質	土製
名　　称	灰陶倉（屋根）	員　　数	1個
時　　代	後漢時代	寸 法 等	高5.2　口径17.3
年代世紀	2世紀	施工会社	繭山隆司
補足事項	①解体し、別材を除去する。 ②クリーニングする。 ③強化し、接合する。 ④欠失部を補填し、復元する。 ⑤補填部に補彩を施す。 ※TJ-2983 灰陶倉と一具のため併せて実施する。（4年度は③の途中までを実施）		

6　列品番号	TJ-3005	品　　質	土製
名　　称	灰陶倉（屋根）	員　　数	1個
時　　代	後漢時代	寸 法 等	高6.5　口径20.1
年代世紀	2世紀	施工会社	繭山隆司
補足事項	①解体する。 ②クリーニングする。 ③強化し、接合する。 ④欠失部を補填し、復元する。 ⑤補填部に補彩を施す。 ※TJ-2984 灰陶倉と一具のため併せて実施する。（4年度は③の途中までを実施）		

【京都国立博物館】（計7件）

＜絵画＞（3件）

1　名　　称	雪舟筆達磨図模本 （せっしゅうひつだるまずもほん）	員　　数	1幅
時　　代		寸 法 等	縦39.3cm×横40.0cm
品　　質	紙本墨画	施工会社	株式会社修美
補足事項	①調査及び記録を行う。 ②表装裂地を取り外す。 ③剥落止めを行い、絵具層を強化する。 ④浄化水を用いて本紙の汚れを除去する。 ⑤本紙の肌裏紙を除去する。 ⑥本紙欠損箇所に裏面より補紙を行う。 ⑦各種裏打を施し、折れ伏せを入れる。 ⑧総裏打ののち仮張りし、充分に乾燥させる。 ⑨新たな補紙の箇所に補彩を行う。 ⑩掛幅装に仕立てる。表装裂、軸首等は全て新調する。 ⑪桐太巻添軸、桐屋郎箱を新調し、納入する。 ⑫修理後の記録をとり、報告書を作成する。		
指　　定			

2　名　　称	梅樹小禽図（ばいじゅしょうきんず）	員　　数	1幅
時　　代		寸 法 等	縦86.6cm、横38.8cm
品　　質	紙本著色	施工会社	株式会社岡墨光堂
補足事項	①調査及び記録を行う。 ②掛軸装を解体し、表装裂地及び一部の裏打紙を取り外す。 ③あらかじめ危険個所の剥落止めを行った上、本紙の汚れを除去する。 ④改めて剥落止めを行う。 ⑤本紙の肌裏紙を除去する。 ⑥本紙の欠損部に補修紙を入れる。 ⑦各種の裏打を新たに施し、折れ伏せを入れて補強する。 ⑧補修紙に補彩を施す。 ⑨掛軸装に仕立てる。 ⑩桐太巻添軸及び箱を新調し、収納する。 ⑪修理後の記録をとり、報告書を作成する。		
指　　定			

3 名　称	布袋図（善阿印） 附. 探幽筆 紙本墨画 布袋図 （ほていず（ぜんあいん）つけたり. たんゆうひつしほんぼくが　ほていず）	員　数	2幅
時　代		寸 法 等	縦77.1cm×横30.9cm、附 縦98.0cm×横34.7cm
品　質	紙本墨画	施工会社	株式会社光影堂
補足事項	①調査・写真撮影等を行い、修理前の状況を記録する。 ②掛軸装を解体し、表装裂地を取り外す。 ③剥落止めを行い、墨層を強化する。 ④濾過水を用いて、本紙のクリーニングを行う。 ⑤本紙の肌裏紙を除去する。 ⑥本紙の欠失箇所に補紙を施す。 ⑦各種裏打を施し、折れ伏せを施す。 ⑧掛幅装に仕立てる。【紙本墨画 布袋図（眠り布袋）伝牧谿筆】の表装裂地等は全て元のものを修理し再使用する。 ⑨桐太巻添軸、桐屋郎箱を新調し、納入する。 ⑩修理後の記録をとり、修理報告書を作成する。		
指　定			

＜彫刻＞（1件）

4 名　称	木造神像のうち　猿田比古神立像 （さるたひこしんりゅうぞう）	員　数	1躯
時　代	江戸時代　１７～１８世紀	寸 法 等	像高122.0cm
品　質	木造彩色	施工会社	公益財団法人美術院
補足事項	①付着する塵埃を払い、汚れをできるだけ除去する。 ②表面の後補彩色は、下層に当初彩色の残る箇所は除去する。 ③当初彩色層の浮き上がりは、膠・樹脂等で剥落止めを行う。また、後補彩色除去後に木地が露出する箇所は、周囲に合わせて古色で繕いを行う。 ④矧ぎ目が離れる箇所は一旦取り離し、矧ぎ面に付着する劣化した膠等を除去し、目違いを修整して組み付ける。矧ぎ目が離れず緩み・隙間がみられる箇所は、　隙間に膠や薄板を差し入れ、矧ぎ目を木屎漆で整形し補修する。 ⑤後補の顎襞は一旦取り離して形状の修整を行い、取り付ける。また、各所の後世修理箇所の変色は除去し、除去後の表面層は補修する。 ⑥脱落する右蟻先は膠で接着し、接合部を木屎漆で整形し補修する。 ⑦取り付けが緩む平緒は一旦取り離し、強固に取り付ける。 ⑧像底の亡失する枘は新補し、新補の台座に安定して立てる。 ⑨台座は桧材黒色摺漆仕上げの方座を新補し、安定をはかる。		
指　定			

＜金工＞（3件）

5 名　称	縹糸威胴丸 兜・大袖付 附旗一旒 （はなだいとおどしどうまる　かぶと・おおそでつき　つけたりはた１りょう）	員　数	1領
時　代	室町時代・16世紀	寸 法 等	胴高29.0cm　兜鉢高14.0cm
品　質	鉄製　革製　漆塗　絹　韋	施工会社	西岡甲房
補足事項	①漆の亀裂ヶ所に接着用の漆を充填し、固定する。 ②塗膜の欠落ヶ所に上塗りを行う。 ③札の欠失個所を漆で補填する。欠損している部位には新たな札を補う。 ④威毛や耳糸のうち、十分な支持力を有さない部分については紐の交換を行う。 ⑤断裂箇所についてはこれを再接合させる。 ⑥胴の綴じ紐についてはこれを補う。 ⑦絵韋の剥落止めを行う。 ⑧内張については断裂箇所に補修を行う。 ⑨CTによる構造解析の後、可能であれば障子板の付け直しを行う。 ⑩金具の再固定、及び欠失している部位には新たな金具を補う。 ⑪鎧架を新調する。 ⑫外箱を新調する。 ⑬綻びを留める。		
指　定	重要文化財		

6 名　称	刀　銘兼明／濃州関住兼知作（かたな　めいかねあき／のうしゅうせきじゅうかねともさく）	員　数	1口
時　代	兼明・兼知　室町時代・16世紀	寸 法 等	拵長97.0cm、刃長65.2cm
品　質	鉄製　鍛造	施工会社	玉置美術刀剣研磨処
補足事項	①金剛砥・備水砥・改正砥を用いて成形し、下地研磨を行う。 ②中名倉砥・細名倉砥を用いて地鉄を整える。 ③内曇砥を用いて刃と地を研磨する。 ④刃艶と地艶を用い、古式研磨法である差込研を行う。 ⑤鋒部分の鉄子を磨き、ナルメを行う。 ⑥鎺を純銀で新規製作する。 ⑦白鞘を朴材で新規製作する。 ⑧報告書を作成する。		
指　定			

7 名　称	短刀　銘日州住信濃守国廣作／天正十九年二月吉日 （たんとう　めいにっしゅうじゅうしなののかみくにｈろさく／てんしょうじゅうきゅうねんにがつきちじつ）	員　数	1口
時　代	堀川国広　桃山時代・天正十九年	寸 法 等	全長45.66、刃長34.1
品　質	鉄製　鍛造	施工会社	玉置美術刀剣研磨処
補足事項	①金剛砥・備水砥・改正砥を用いて成形し、下地研磨を行う。 ②中名倉砥・細名倉砥を用いて地鉄を整える。 ③内曇砥を用いて刃と地を研磨する。 ④刃艶と地艶を用い、古式研磨法である差込研を行う。 ⑤鋒部分の鉄子を磨き、ナルメを行う。 ⑥鎺を清掃し、調整を行う。 ⑦白鞘を清掃し、内部の錆の付着を除去する。 ⑧報告書を作成する。		
指　定			

【奈良国立博物館】（計6件）

＜絵画＞（3件）

1 名　称	仏涅槃図	員　数	1幅
時　代	鎌倉時代	寸 法 等	縦128.6cm 横57.3cm（表装：縦200.7cm 横78.6cm）
品　質	絹本著色	施工会社	株式会社文化財保存
補足事項	修理前調査、剝落止め、解体、クリーニング、剥落止め、損傷地図作り、表補絹、表打ち、旧補絹除去、補絹。2か年修理1年目。		

2 名　称	絹本著色十二天像	員　数	12幅
時　代	鎌倉～南北朝時代	寸 法 等	各紙、本紙：縦122.7cm 横41.8cm、表装：縦199.7cm　横57.4cm
品　質	絹本著色	施工会社	株式会社文化財保存
補足事項	修理前調査、剝落止め、解体、クリーニング、裏打ち除去、補絹、裏打ち、補彩、表装、箱新調。2年より継続修理。		

3 名　称	五大明王像	員　数	1幅
時　代	鎌倉時代	寸 法 等	縦125.5cm　横86.7cm
品　質	絹本著色	施工会社	株式会社文化財保存
補足事項	修理前調査、剝落止め、解体、クリーニング、剥落止め、損傷地図作り、表補絹、表打ち、旧補絹除去、補絹。2か年修理1年目。		

＜書跡＞（1件）

4 名　称	南都寺社古文書・古記録等	員　数	22通
時　代	8世紀～15世紀	寸 法 等	縦25.6～32.3cm 横16.4～53cm
品　質	紙本墨書	施工会社	株式会社文化財保存
補足事項	修理前調査、ドライクリーニング、剝落止め、解体、クリーニング、プレス乾燥、補修紙作成、補修、畳紙、保存箱製作。		

＜彫刻＞（1件）

4 名　称	蔵王権現立像	員　数	1躯
時　代	平安時代	寸 法 等	総高48.0cm
品　質	木彫	施工会社	公益財団法人美術院国宝修理所
補足事項	修理前調査、クリーニング、剝落止め、再接着、形状整形、補修、虫損部安定化、部材取り付け。		

＜考古＞（1件）

5 名　称	金銅宝塔形経筒	員　数	1合
時　代	平安時代　永久4年	寸 法 等	総高45.6cm 底径15.1cm
品　質	銅製、鋳造、鍍金	施工会社	公益財団法人元興寺文化財研究所
補足事項	修理前調査、クリーニング、補強、洗浄、防錆処理、樹脂含浸、欠失部品製作。		

【九州国立博物館】（計20件）

＜絵画＞（3件）

1 名　称	釈教三十六歌仙絵断簡　満誓	員　数	1幅
時　代	南北朝時代・14世紀	寸 法 等	本紙：縦28.3　横19.3　表具：縦132.0　横38.0　軸長42.6
品　質	紙本墨画淡彩	施工会社	修理工房宰匠株式会社
補足事項	1.表装を解体する。 2.膠水溶液を用いて剥落止めを行う。 3.旧肌裏紙を除去する。 4.本紙裏面より損傷箇所の補修を行う。 5.新糊を用いて肌裏打ちを行う。 6.古糊を用いて増裏打ちを行う。 7.折れ伏せを施し、肌裏打ちと増裏打ちを行う。 8.本紙、台紙と表装裂地をもとの表装形態に付け廻す。 9.宇陀紙と古糊を用いて総裏打ちを行い、乾燥させる。 10.補修箇所に補彩を施す。 11.上下軸木・吊鐶・啄木等を新調して掛軸装に仕立てる。 12.桐太巻添軸、桐印籠箱を新調する。		

2 名　称	列祖図冊	員　数	1帖
時　代	江戸時代・17世紀	寸 法 等	本紙：縦54.2　横40.1　表装：縦62.0　横45.7
品　質	紙本著色	施工会社	修理工房宰匠株式会社
補足事項	1.装訂を解体する。 2.膠水溶液を用いて剥落止めを行う。 3.汚れを除去する。 4.布海苔で表打ちを行う。 5.旧肌裏紙を除去する。 6.本紙裏面より補修を行う。 7.薄美濃紙と新糊を用いて肌裏打ちを行う。 8.美濃紙と新糊を用いて2回目の裏打ちを行う。 9.補修箇所に補彩を施す。 10.台紙を作製し、表面に雲母引きを行って繋ぎ合わせる。 11.表紙裂は復元新調し、見返しと縁裂は新調し、美濃紙にて肌裏打ちを行う。 12.表紙裂と見返しを台紙に取り付けて画帖に仕立てる。 13.下足板付桐被箱を新調する。 （4～6年度　3か年継続事業、4年度は工程3まで実施）		

3 名　称	椿白鷹図	員　数	1幅
時　代	琉球　第二尚氏時代・康熙55年(1716)	寸 法 等	本紙：縦91.7　横37.3　表装：縦172.5　横48.0　軸長54.0
品　質	絹本著色	施工会社	修理工房宰匠株式会社
補足事項	1.膠水溶液を用いて剥落止めを行う。 2.表装を解体する。 3.汚れを除去する。 4.絵具層の剥落止めを行う。 5.旧肌裏紙を除去する。 6.薄美濃紙と新糊を用いて肌裏打ちを行う。 7.本紙表面より欠失箇所の補修を行う。 8.美栖紙と古糊を用いて増裏打ちを行う。 9.折れ伏せを施し、肌裏打ちと増裏打ちを行う。 10.本紙と表装裂地を付け廻す。 11.美栖紙と古糊を用いて中裏打ちを行い、仮張りする。 12.宇陀紙と古糊を用いて総裏打ちを行い、仮張りし乾燥させる。 13.本紙欠失箇所に補修を施す。 14.軸首は再使用し、上下軸木・吊鐶・啄木等を新調し、掛軸装に仕立てる。 15.桐太巻添軸、桐印籠箱を新調する。 （4～5年度　2か年継続事業、4年度は工程6まで実施）		

＜書跡＞（1件）

4 名　称	法華経	員　数	8巻
時　代	南北朝時代・14世紀	寸 法 等	各縦24.4
品　質	紙本墨刷	施工会社	修理工房宰匠株式会社
補足事項	1.巻子装を解体する。 2.膠水溶液を用いて剥落止めを行う。 3.汚れを除去する。 4.旧裏打紙及び旧補修紙を除去する。 5.本紙欠失箇所の補修を行う。 6.折れ、亀裂箇所に補強を施す。 7.表紙と見返しに肌裏打ちを行い、本紙に継ぎ合わせる。 8.軸首は再使用し、八双竹・巻緒・軸木を新調し、巻子装に仕立てる。 9.桐太巻添軸を新調し、桐製貪箱に納入する。 10.蒔絵経箱の修理は、大西漆芸修復スタジオへ委託する。クリーニング、金具の調整と接着、構造安定処置、漆塗膜接着、漆固め、脚の復元、刻苧充填、下地付け、仕上げを行う。 （4～5年度　2か年継続事業、4年度は工程1～5の50%及び工程10の50%を施工）		

＜刀剣＞（1件）

5 名　称	〔刀　銘藤原鎮清の付属品〕革包黒漆塗打刀拵	員　数	1口
時　代	安土桃山時代・16世紀後半	寸 法 等	全長101.3
品　質	木製、黒漆塗	施工会社	合同会社大西漆芸修復スタジオ
補足事項	1.修理前写真の撮影とX線CT撮影調査、記録を行う。 2.柔らかい木綿布に極少量の水分を与えたもので少しずつ汚れを拭きとる。 3.亀裂箇所に溶剤で希釈した充填接着用の麦漆を含浸し、構造安定処置を行う。 4.塗膜接着用の麦漆で塗膜を接着安定させる。 5.亀裂部と欠損部に刻苧を充填して形態を復元する。 6.刻苧箇所に錆漆下地を付けて表面肌を整える。 7.漆固めによる強化を行う。		

＜陶磁＞（1件）

6 名　称	〔文琳茶入　銘　薩摩文琳　薩摩の付属品〕仕覆「よきや純子（道元緞子）」	員　数	1袋
時　代	明時代・14-15世紀	寸 法 等	直径7.5、高さ8.5
品　質	絹	施工会社	株式会社松鶴堂
補足事項	1.修理前写真の撮影と調査、記録を行う。 2.生地の継ぎ、表裏の縫い合わせを解き、表地と裏地に解体する。 3.旧補修裂を可能な範囲で外す。 4.表地と裏地を、楮紙と小麦澱粉糊を用いて裏打ちする。 5.裏打ちした本体生地を納める中性紙マット、アーカイバルボード製保存箱を作製する。		

＜染織＞（1件）

7 名　称	白地鶴菖蒲丸文霞に牡丹枝垂れ桜文紅型衣裳	員　数	1領
時　代	琉球　第二尚氏時代・19世紀	寸 法 等	丈121.0、裄61.0、袖丈34.0、衿長100.0、袖幅13.5
品　質	苧麻	施工会社	株式会社松鶴堂
補足事項	1.修理前写真の撮影と調査、記録を行う。 2.経緯の織り目を整え、欠失端口などの形状を織り目に沿った形状にする。きつい皺には、間接的に湿り気を与える等の方法で緩める。 3.収納用の中性紙台紙とアーカイバルボード製保存箱を作成する。		

＜考古＞（6件）

8 名　称	鳥付き柄杓	員　数	1個
時　代	タイ　青銅器-鉄器時代・紀元前300年-後200年	寸 法 等	高34.5　幅9.6
品　質	青銅鋳造	施工会社	株式会社芸匠
補足事項	1.修理前作品の撮影とX線透過写真の撮影、記録を行う。 2.綿棒やブラシ等を用いて汚れを除去する。 3.純水に漬け、定期的に交換しながら脱塩を行う。 4.ベンゾトリアゾール（アルコール溶液）を含浸して防錆処理を行い、乾燥させる。 5.アクリル樹脂を含浸して強化し、乾燥させる。 6.各破片をアクリル樹脂（パラロイドB72アセトン30%溶液）もしくはエポキシ樹脂で接合する。目地にはエポキシ樹脂（アラルダイド　主剤：XNR-6504　硬化剤：XNH-6504）を充填、もしくはアクリル樹脂（パラロイドB72アセトン溶液）とマイクロバルーン、顔料を混合したものを充填する。接合に強度が足りない場合には、内側などの目立たない部分に和紙による裏打ち補強を行う。 7.樹脂充填部分にアクリル絵具で補彩を施す。		

9 名　称	鉄刀剣	員　数	2振残欠共10点
時　代	古墳時代・6-7世紀	寸 法 等	鉄刀残欠 (1)縦76.0 横2.9 厚0.6 (2)縦22.2　横3.1 厚0.8 金銅三輪玉 (1)縦2.5 横2.1 高0.8 (2)縦2.1 横2.1 高0.8 (3)縦1.9　横2.1 高0.7 (4)縦1.9　横2.1 高1.1 (5)縦1.5 横1.9 高1.0 金銅楕円形飾金具 (1)縦1.5 横1.4 高0.6 (2)縦2.2 横1.5 高0.5 (3)縦2.1 横1.5 高0.5 (4)縦2.2 横1.5 高0.5 (5)縦2.2 横1.5 高0.6
品　質	鉄、金銅	施工会社	株式会社芸匠
補足事項	1.修理前写真の撮影と透過X線撮影調査、記録を行う。 2.綿棒やブラシ等を用いて汚れを除去する。 3.亀裂部分や脆弱な部分にアクリル樹脂（パラロイドB72アセトン5%溶液）を塗布して養生を行う。 4.純水に漬け、定期的に交換しながら脱塩を行う。 5.アクリル樹脂を含浸させて強化し、乾燥させる。 6.アクリル樹脂（パラロイドB72アセトン30%溶液)もしくはエポキシ樹脂系接着材を用いて、破片をできる限り接合する。 7.欠失部分や接合部分の隙間に、エポキシ樹脂（アラルダイド　主剤：XNR-6504　硬化剤：XNH-6504）もしくはアクリル樹脂（パラロイドB72アセトン溶液）とマイクロバルーン、顔料を混合したものを充填する。 8.樹脂充填部分にアクリル絵具で補彩を施す。 9.台座を作製する。 （4～5年度　2か年継続事業、4年度は工程6まで実施）		

10 名　称	広形銅矛	員　数	1振
時　代	弥生時代・2-3世紀	寸 法 等	長83.4　幅13.7　厚5.0
品　質	青銅鋳造	施工会社	株式会社芸匠
補足事項	1.修理前写真の撮影と透過X線撮影調査、記録を行う。 2.綿棒やブラシ等を用いてクリーニングを行う。 3.亀裂部分や脆弱な部分にアクリル樹脂（パラロイドB72アセトン5%溶液）を塗布して強化、養生を行う。 4.純水に漬け、定期的に交換しながら脱塩を行う。 5.ベンゾトリアゾール（アルコール溶液）を含浸して防錆処理を行い、乾燥させる。 6.再度、クリーニングを行う。 7.アクリル樹脂を含浸させて強化し、乾燥させる。 8.亀裂箇所や破断面にアクリル樹脂を塗布して養生する。亀裂の隙間や欠損部分にエポキシ樹脂（アラルダイド 主剤：XNR-6504　硬化剤：XNH-6504）もしくはアクリル樹脂（パラロイドB72アセトン溶液）とマイクロバルーン、顔料を混合したものを充填する。 9.樹脂充填部分にアクリル絵具で補彩を施す。 10.台座を作製する。		

11 名　称	吸角器	員　数	1個
時　代	アッバース朝・10世紀	寸 法 等	口径7.5　底径3.5　高8.5　総幅13.5
品　質	ガラス	施工会社	株式会社芸匠
補足事項	1.修理前写真の撮影と調査、記録を行う。 2.綿棒やブラシ等を用いてクリーニングを行い、溶剤等を用いて解体する。 3.破断面にアクリル樹脂（パラロイドB72アセトン5%溶液）を塗布して養生を行う。 4.アクリル樹脂（パラロイドB72アセトン30%溶液）で破片を接合し、欠失部や目地を充填した後、ガラスの刀で磨き仕上げを行う。		

12 名　称	岩偶	員　数	1軀
時　代	縄文時代・3,000年前-2,300年前	寸 法 等	縦9.8　横12.0　厚4.0
品　質	石製	施工会社	株式会社芸匠
補足事項	1.修理前写真の撮影と調査、記録を行う。 2.綿棒やブラシ等を用いてクリーニングを行い、溶剤等を用いて解体する。 3.破断面にアクリル樹脂（パラロイドB72アセトン5%溶液）を塗布して養生を行う。 4.エポキシ樹脂（アラルダイド　主剤：XNR-6504　硬化剤：XNH-6504）で破片を接合した後、目地にエポキシ樹脂（同左）もしくはアクリル樹脂（パラロイドB72アセトン溶液）とマイクロバルーン、顔料を混合したものを充填する。 5.樹脂充填部分にアクリル絵具で補彩を施す。		

13 名　称	ガラス勾玉・ガラス管玉	員　数	2点・66点
時　代	弥生時代中期・前1世紀	寸 法 等	【勾玉】（各）全長21～22mm、太さ4.0～8.5mm、孔径3.0mm 【管玉】（各）長さ約10mm～13mm、太さ3.2～5.5mm、孔径1.4～2.4mm
品　質	ガラス	施工会社	株式会社芸匠
補足事項	1.修理前写真の撮影と調査、記録を行う。 2.綿棒やブラシ等を用いてクリーニングを行う。 3.表面にアクリル樹脂（パラロイドB72アセトン5%溶液）を塗布して強化する。 4.管玉の破片はエポキシ樹脂（アラルダイド　主剤：XNR-6504　硬化剤：XNH-6504）等を用いて管状に復元する。 5.樹脂充填部分にアクリル絵具で補彩を施す。 6.台座を作製する。		

＜民族資料＞（2件）

14 名　称	浮彫十二支像（善徳女王陵）拓本	員　数	11枚
時　代	現代 20世紀(原品:大韓民国　統一新羅時代 8世紀)	寸 法 等	各 縦141.0 横74.0
品　質	紙本墨拓	施工会社	修理工房宰匠株式会社
補足事項	1.膠水溶液を用いて剥落止めを行う。 2.額装の解体を行う。 3.汚れの除去を行う。 4.旧肌裏紙の除去を行う。 5.本紙周囲に補修を行う。 6.新たに裏打ちを行う。 7.折れ伏せを施す。 8.表装裂地を新調し、丸表装の形に仕立てる。 9.表装裂地を新調し、裏打ちを行う。 10.本紙と表装裂地を付け廻し、丸表装の形に仕立てる。 11.軸首、上下軸木、吊鐶、啄木等を新調し、掛幅装に仕立てる。 12.桐製太巻添軸、桐製印籠箱2合を新調する。 （3～4年度 2か年継続事業。4年度は工程10以降を施工）		

15 名　称	浮彫十二支像（金庾信墓）拓本	員　数	11枚
時　代	現代 20世紀(原品:大韓民国　統一新羅時代 8世紀)	寸 法 等	各 縦141.0 横74.0
品　質	紙本墨拓	施工会社	修理工房宰匠株式会社
補足事項	1.膠水溶液を用いて剥落止めを行う。 2.額装の解体を行う。 3.汚れの除去を行う。 4.再度、剥落止めを行う。 5.旧肌裏紙の除去を行う。 6.本紙周囲に補修を行う。 7.新たに裏打ちを行う。 8.折れ伏せを施す。 9.表装裂地を新調し、裏打ちを行う。 10.本紙と表装裂地を付け廻し、丸表装の形に仕立てる。 11.軸首、上下軸木、吊鐶、啄木等を新調し、掛幅装に仕立てる。 12.桐製太巻添軸、桐製印籠箱2合を新調する。 （3～4年度 2か年継続事業。4年度は工程10以降を施工）		

＜歴史資料＞（5件）

16 名　称	対馬宗家関係資料　20箱 巻7～9巻	員　数	3巻
時　代	江戸時代 18世紀	寸 法 等	巻7：本紙縦23.4 本紙全長3965.0 巻8：本紙縦23.1 本紙全長2887.1 巻9：本紙縦24.2 本紙全長343.3
品　質	紙本墨書	施工会社	修理工房宰匠株式会社
補足事項	1.巻子装を解体する。 2.膠水溶液を用いて剥落止めを行う。 3.汚れを除去する。 4.旧肌裏紙及び旧補修を除去する。 5.本紙の欠失箇所に補修を行う。 6.新たに裏打ちを行う。 7.折れ伏せを施す。 8.補修した表紙裂地と見返しを貼り合わせ、総裏打ちを行う。 9.表紙を本紙に継ぎ合わせる。 10.軸首、軸木、八双、紐を再使用して巻子装に仕立てる。 11.桐製太巻添軸を新調する。		

17 名　称	対馬宗家関係資料　箱55　文書記録類	員　数	7通2巻2点
時　代	江戸時代・元禄8-9年(1695-1696)	寸 法 等	P13436：縦34.0　横52.3　P13437：縦33.9　横51.6 P13438：縦37.4　横58.1　P13439：縦26.8　横142.3（巻子装） P13440：縦34.1　横52.1　P13441：縦33.8　横52.2 P13442：縦37.2　横57.9　P13443：縦26.7　横146.3（巻子装） P13444：縦36.8　横42.8　P14698：縦17.2　横3.1（断簡） P14699：縦23.6　横17.8（断簡）
品　質	紙本墨書	施工会社	修理工房宰匠株式会社
補足事項	1.汚れを除去する。 2.巻子装を解体し、本紙を一紙ずつの状態にする。 3.膠水溶液を用いて剥落止めを行う。 4.汚れを除去する。 5.旧裏打紙及び旧補修紙を除去する。 6.新糊を用いて本紙欠失箇所の補修を行う。 7.薄美濃紙と新糊を用いて肌裏打ちを施す。 8.折れ伏せを施す。 9.旧裏打紙（総裏紙）を再使用し、新糊と布海苔の混合糊で総裏打ちを行って乾燥させる。 10.表紙・見返し・軸巻紙・軸首は再使用し、八双竹・紐・軸木を新調してもとの巻子装に仕立てる。 11.桐太巻添軸・桐印籠箱を新調する。		

18 名　称	宗義真書「龍虎梅竹、花鳥風月」	員　数	1幅
時　代	江戸時代・慶安4年(1651)	寸 法 等	本紙：縦29.6　横43.0　表装：縦116.6　横55.7　軸長60.2
品　質	紙本墨書	施工会社	修理工房宰匠株式会社
補足事項	1.表装の解体を行う。 2.汚れを除去する。 3.墨の剥落止めを行う。 4.旧肌裏紙を除去する。 5.薄美濃紙と新糊を用いて肌裏打ちを行う。 6.美栖紙と古糊を用いて増裏打ちを行う。 7.折れ伏せを施す。 8.一文字・風帯・中縁裂は再使用し、上下裂は新調して肌裏打ちと増裏打ちを行う。 9.本紙と表装裂地とをもとの表装形態に付け廻しする。 10.宇陀紙にて古糊を用いて総裏打ちを行い、乾燥させる。 11.軸首は再使用し、上下軸木・吊鐶・啄木等を新調し、掛軸装に仕立てる。 12.桐太巻添軸、桐印籠箱を新調する。		

19 名　　称	花鳥図	員　　数	1幅
時　　代	江戸時代・17-18世紀	寸 法 等	本紙：縦52.8　横42.1　表装：縦144.2　横55.0　軸張59.5
品　　質	絹本着色	施工会社	修理工房宰匠株式会社
補足事項	1.膠水溶液を用いて剥落止めを行う。 2.表装の解体を行う。 3.汚れを除去する。 4.再度絵具層の剥落止めを行う。 5.旧肌裏紙を除去する。 6.新糊を用いて肌裏打ちを行う。 7.美栖紙と古糊を用いて増裏打ちを行う。 8.折れ伏せを施す。 9.表装裂地は再使用し、肌裏打ちと増裏打ちを行う。 10.本紙と表装裂地をもとの表装形態に付け廻す。 11.宇陀紙と古糊を用いて総裏打ちを行い、乾燥させる。 12.軸首は再使用し、上下軸木・吊鐶・啄木等を新調し、掛軸装に仕立てる。 13.桐太巻添軸、桐印籠箱を新調する。		

20 名　　称	宗義章十三歳書「天保無為徳」	員　　数	1幅
時　　代	江戸時代・天保元年(1830)	寸 法 等	本紙：縦124.5　横27.8、表装：縦196.5　横36.0　軸張40.2
品　　質	紙本墨書	施工会社	修理工房宰匠株式会社
補足事項	1.表装の解体を行う。 2.汚れを除去する。 3.剥落止めを行う。 4.旧肌裏紙を除去する。 5.新糊を用いて肌裏打ちを行う。 6.美栖紙と古糊を用いて増裏打ちを行う。 7.折れ伏せを施す。 8.一文字裂は再使用し、総縁裂は新調して肌裏打ちと増裏打ちを行う。 9.本紙と表装裂地をもとの表装形態に付け廻しする。 10.宇陀紙と古糊を用いて総裏打ちを行い、乾燥させる。 11.軸首・上下軸木・吊鐶・啄木等を新調し、掛軸装に仕立てる。 12.桐太巻添軸、桐印籠箱を新調する。		

1-(1)-②-6 文化財修理データのデータベース化件数

令和5年3月31日現在

		計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館
合　計		237	24	160 (5,577)	53 (1,198)
絵　画		105	3	86 (2,314)	16 (426)
書　跡		37	2	26 (1,254)	9 (229)
彫　刻		47	0	28 (1,432)	19 (344)
建　築		0	0	0 (15)	0 (1)
金　工		1	0	0 (2)	1 (5)
刀　剣		0	0	0 (0)	0 (0)
陶　磁		0	0	0 (1)	0 (0)
漆　工		6	0	0 (40)	6 (131)
染　織		7	1	4 (198)	2 (27)
考　古		7	7	0 (18)	0 (0)
民族資料		1	0	1 (6)	0 (2)
歴史資料		10	0	10 (242)	0 (31)
和　書		0	0	0 (0)	0 (0)
写真資料		0	0	0 (0)	0 (0)
その他		7	2	5 (55)	0 (2)
東洋	絵　画	2	2		
	書　跡	0	0		
	彫　刻	0	0		
	金　工	0	0		
	陶　磁	1	1		
	漆　工	1	1		
	染　織	5	5		
	考　古	0	0		
	民　族	0	0		
法隆寺献納宝物		0	0		
黒田記念館収蔵品		0	0		
館史資料(収蔵品外)		0	0		

※ 東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。

※ 記載の件数は当年度新規入力件数、（　）内は当年度までの新規入力件数の累計。

1-(2) 展覧事業
1-(2)-① 平常展
1-(2)-② 特別展等

1-(2)-①・②-1 来館者数推移（入館料別）(過去５か年 （後述の資料に記載）◎共通資料a-①

1-(2)-①・②-2 来館者数推移（展覧会別）(過去５か年 （後述の資料に記載）◎共通資料a-②

1-(2)-①・②-3 平常展・特別展・海外展 （後述の資料に記載）◎共通資料a-③

1-(2)-①-4 平常展の展示替件数 （後述の資料に記載）◎共通資料a-③

1-(2)-①-5 平常展の展示総件数 （後述の資料に記載）◎共通資料a-③

1-(2)-①-6 平常展来館者アンケート （後述の資料に記載）◎共通資料e

1-(2)-②-7 特別展来館者アンケート （後述の資料に記載）◎共通資料e

1-(2)-③ 観覧環境の向上等

1-(2)-③-1 観覧環境に関する来館者アンケート （後述の資料に記載）◎共通資料e
1-(2)-③-2 多言語表記に関する外国人アンケート （後述の資料に記載）◎共通資料e

1-(2)-③-3バリアフリー施設・設備の設置状況

令和5年3月31日現在

	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
トイレ(多目的トイレ、車いす対応)	18か所 （本館6、平成館3、東洋館2、法隆寺宝物館1、資料館1、黒田記念館2、正門プラザ2、庭園1）	9か所 （平成知新館5、明治古都館1、南門施設1（乳児ベッド併設）、屋外トイレ1、文化財保存修理所1）	3か所 （東新館1、地下回廊2）	10か所 （本体建物7、屋外3）
エレベータ(手すり、押しボタン、車いす対応)	10基 （本館1、平成館1、東洋館4、法隆寺宝物館1、黒田記念館2、表慶館1）	5基 （平成知新館4,東収蔵庫1） 昇降装置1基 （旧管理棟1）	4基 （なら仏像館1、なら仏像館附属棟1、東新館1、西新館1）	7基 （本体建物）
スロープ	5か所 （本館、東洋館、法隆寺宝物館、表慶館、黒田記念館）	4か所 （平成知新館1、明治古都館1、南門施設1、文化財保存修理所1）	4か所 （なら仏像館1、なら仏像館附属棟1、西新館1、庭園1）	1か所 （通用口）
ハンディキャップ優先駐車	2台	3台	4台	23台
車椅子	27台 （正門・正門プラザ5、本館5、東洋館3、平成館11、法隆寺宝物館2、黒田記念館1）	14台 (検札2、平成知新館7、倉庫保管5)	14台	28台
乳幼児用設備	○ベビーカー 3台 ○ベビーシート 16か所 ○ベビーチェア 13か所 ○授乳室 1か所	○ベビーカー 8台 ○ベビーシート 12か所 ○ベビーチェア 11か所 ○授乳室 2か所	○ベビーシート 2か所 ○ベビーチェア 1か所 ○おむつ交換台 1か所	○ベビーカー 10台 ○ベビーシート 15か所 ○ベビーチェア 6か所 ○幼児用補助便座 6か所 ○授乳室 1か所
自動扉	61台(多目的トイレ含む)	33台(多目的トイレ含む)	13台	19台(多目的トイレ含む)
4年度整備事項	平成館2階トイレブース改修工事で一般便所ブース内に手すりを設置した。		イラストやピクトグラムを利用して、外国人来館者や障がい者にもわかりやすい内容となるよう、館内看板などを新たに作成、更新等を行った。また、館内看板などの4言語（日・英・中・韓）による表記を進めた。	

1-(2)-③-4 音声ガイド実施状況

令和5年3月31日現在

東京国立博物館	
4年度計（台）：	134,076台
・特別展「ポンペイ」（日）	3,705台
・特別展「空也上人と六波羅蜜寺」（日）	20,566台
・沖縄復帰50年記念　特別展「琉球」（日）	15,936台
・東京国立博物館創立150年記念特別展「国宝　東京国立博物館のすべて」（日）	87,766台
・特別展「東福寺」（日）	6,103台
（参考） 4年度ダウンロード件数	18,685件
・「トーハクなび」（リニューアル版）	
Android版	5,770件
iOS版	12,915件
	貸出終了
アプリ端末貸出（日英）	貸出終了
音声ガイド貸出（中韓）	公開終了
「法隆寺宝物館30分ナビ」iOSアプリ	

京都国立博物館	
4年度計（台）：	27,951台
・伝教大師1200年大遠忌記念特別展　「最澄と天台宗のすべて」（日、英）	7,069台
うち日本語版	7,047台
うち英語版	22台
・「河内長野の霊地 観心寺と金剛寺―真言密教と南朝の遺産―」（4言語　日・英・中・韓）	2,477台
うち日本語版	2,345台
うち英語版	62台
うち中国語版	61台
うち韓国語版	9台
・特別展「京（みやこ）に生きる文化　茶の湯」（日、英）	15,217台
うち日本語版	14,878台
うち英語版	339台
名品ギャラリー（平常展）	3,188台
うち日本語版・一般向け	2,352台
うち日本語版・ジュニア版	78台
うち英語版・一般向け	310台
うち英語版・ジュニア版	9台
うち中国語版・一般向け	295台
うち中国語版・ジュニア版	13台
うち韓国語版・一般向け	124台
うち韓国語版・ジュニア版	7台

奈良国立博物館	
4年度計（台）：	30,204台
・特別展「大安寺のすべて―天平のみほとけと祈り―」	4,196台
うち日本語版	4,196台
うち英語版	―
うち中国語版	―
うち韓国語版	―
・貞享本當麻曼荼羅修理完成記念 特別展「中将姫と當麻曼荼羅―祈りが紡ぐ物語―」	2,045台
うち日本語版	2,045台
うち英語版	―
うち中国語版	―
うち韓国語版	―
・「第74回正倉院展」	21,731台
うち日本語版	21,731台
うち英語版	―
うち中国語版	―
うち韓国語版	―
・なら仏像館名品展	2,232台
うち日本語版	1,970台
うち英語版	121台
うち中国語版	107台
うち韓国語版	34台

※式年造替記念特別展「春日大社 若宮国宝展―祈りの王朝文化―」は音声ガイドなし

九州国立博物館	
4年度計（台）：	29,074台
・特別展「北斎」	13,172台
うち日本語版	13,172台
うち英語版	―
うち中国語版	―
うち韓国語版	―
・沖縄復帰50年記念　特別展「琉球」	4,511台
うち日本語版	4,511台
うち英語版	―
うち中国語版	―
うち韓国語版	―
・特別展「ポンペイ」	11,391台
うち日本語版	11,391台
うち英語版	―
うち中国語版	―
うち韓国語版	―
（参考） ・文化交流展 端末貸出数※2	2,519台

※1　特別展「加耶」は音声ガイドの実施なし。
※2　4年度より、文化交流展の音声ガイドはスマートフォンアプリ（ナビレンス）に切り替えたため、利用者数の集計はできない。上記は、スマートフォンを持っていない来館者への代替機器貸出数。合計値には含まない。

1-(3) 教育・普及活動等

1-(3)-① 教育活動の充実

1-(3)-①-1 学習機会の提供（過去5か年）

令和5年3月31日現在

	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度
○講演会等の回数					
東京国立博物館					
講演会等　実施回数	93回	97回	19回	39回	32回
講演会等　参加者数	12,206人	11,691人	52,032人	34,403人	42,910人
①講演会	23回	20回	10回	14回	15回
	6,249人	6,051人	29,875人	10,199人	3,291人
アンケート結果（満足度）	86.16%	84.89%	―	84.85%	84.87%
（内訳）					
・月例講演会等	12回	10回	8回	12回	12回
	2,822人	2,630人	24,923人	8,777人	2,570人
アンケート結果（満足度）	89.57%	84.75%	―	86.74%	83.39%
・記念講演会	7回	7回	0回	1回	3回
	2,189人	2,591人	0	135人	721人
アンケート結果（満足度）	85.24%	84.19%	―	67.80%	82.99%
・シンポジウム	1回	2回	2回	1回	0回
	250人	575人	4,952人	1,287人	人
アンケート結果（満足度）	―	―	―	―	―
・テーマ別講演会	3回	1回	0回	0回	0回
	988人	255人	0人	0人	0人
アンケート結果（満足度）	84.20%	93.46%	―	―	―
・その他講演会	0回	0回	0回	0回	0回
	0人	0人	0人	0人	0人
アンケート結果（満足度）	―	―	―	―	―
②列品解説（ギャラリートーク等）	64回	71回	9回	23回	15回
	5,108人	4,791人	22,157人	23,701人	38,415人
③連続講座	1回（2日）	1回（2日）	0回	1回	1回
	728人	645人	0人	276人	317人
アンケート結果（満足度）	88.50%	92.93%	―	94.50%	91.20%
④公開講座	5回	5回	0回	1回	1回
	121人	204人	0人	227人	887人
アンケート結果（満足度）	100.00%	100.00%	―	―	―
京都国立博物館					
講演会等　実施回数	37回	28回	23回	31回	34回
講演会等　参加者数	4,357人	3,285人	1,435人	3,164人	3,488人
①土曜講座	19回	13回	7回	12回	13回
	1,969人	1211人	572人	583人	835人
アンケート結果（満足度）	80%	85%	84%	82%	83%
②記念講演会	12回	9回	12回	14回	17回
	1,884人	1,465人	1,227人	1,106人	2,207人
アンケート結果（満足度）	80%	81%	83%	81%	83%
③夏期講座	1回（2日）	1回（2日）	1回（2日）	1回（2日）	1回（2日）
	198人	201人	60人	73人	84人
アンケート結果（満足度）	90%	78%	94%	96%	88%
④社会科教員のための向上講座	1回	1回	0回	1回	1回
	39人	50人	0人	34人	34人
⑤ギャラリートーク・シンポジウム等	4回	3回	3回	3回	2回
	267人	358人	248人	1,368人	328人
奈良国立博物館					
講演会等　実施回数	27回	25回	12回	27回	26回
講演会等　参加者数	3,569人	3,261人	847人	1,865人	1856人
①特別展等講座	14回	13回	5回	15回	10回
	1,853人	1,838人	353人	1,060人	716人
アンケート結果（満足度）	88.0%	91.7%	91.0%	93.0%	89.3%
②夏季講座	1回（3日）	1回（3日）	0回	0回	4回
	478人	386人	―	―	270人
アンケート結果（満足度）	95%	94%	―	―	87.6%
③サンデートーク	12回	11回	7回	12回	12回
	1,238人	1,037人	494人	805人	870人
アンケート結果（満足度）	88%	91.7%	90%	90%	87.5%
九州国立博物館					
講演会等　実施回数	80回	69回	13回	50回	53回
講演会等　参加者数	4,491人	4,862人	308人	2,229人	3,237人
①特別展記念講演会	2回	6回	0回	3回	4回
	150人	1,336人	0人	385人	662人
アンケート結果（満足度）	―	―	―	92.9%	94.4%
②講演及びシンポジウム	16回	16回	0回	20回	24回
	2,166人	2,033人	0人	1,395人	1,881人
アンケート結果（満足度）		―	―	91.7%	95.0%
③ミュージアムトーク	62回	47回	13回	27回	25回
	2,175人	1,493人	308人	449人	694人
○キャンパスメンバーズ					
東京国立博物館	56校	60校	61校	59校	61校
京都国立博物館	32校	32校	33校	32校	34校
奈良国立博物館	28校	27校	28校	26校	27校
九州国立博物館	23校	23校	21校	22校	22校

1-(3)-①-2 講座・講演会等の開催実績

	東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
回数・人数※1	**回数計**	**32回**	**回数計**	**34回**	**回数計**	**26回**	**回数計**	**53回**
	参加者計	**42,910人**	**参加者計**	**3,488人**	**参加者計**	**1,856人**	**参加者計**	**3,237人**
	講演会	15回 3,291人	土曜講座	13回 835人	特別展等講座	10回 716人	特別展記念講演会	4回 662人
	列品解説（ギャラリートーク等）	15回 38,415人	記念講演会	17回 2,207人	夏季講座	4回 270人	講演及びシンポジウム	24回 1,881人
	連続講座（2日間）	1回 317人	夏期講座（2日間）	1回 84人	サンデートーク	12回 870人	ミュージアムトーク	25回 694人
	公開講座	1回 887人	社会科教員のための向上講座	1回 34人				
			セミナー・シンポジウム等	2回 328人				
	その他展示に関連するイベント	23回 5,162人	その他展示に関連するイベント	— —	その他展示に関連するイベント	20回 47,676人	その他展示に関連するイベント	19回 1,674人

※1実施事業のうち、参加者数をカウントしていない、又は当該事業を実施した建物の入館者数のみ把握しているものについては、合計値に参加者数を計上していない。（実施回数は計上している。）

【東京国立博物館】

1) 講演会　　15回　　3,291人

①月例講演会

12回　　2,570人

	開催日	テーマ	講師等	参加者数	″良い″の割合
※1～4は新型コロナウイルスの感染拡大と防止策を十分に配慮し、定員を通常の半数以下の180名とした上で、大講堂で実施した。					
1	4月9日	東京国立博物館の150年ー作品からたどる美の軌跡ー	百五十年史編纂室長　恵美千鶴子	156人	75.83%
2	5月21日	文化財を科学する	保存修復課調査分析室長　鳥越俊行	140人	93.04%
3	6月4日	踊る埴輪の修理プロジェクト	企画課特別展室主任研究員　河野正訓	156人	86.07%
4	7月16日	時代を語る洋画たち ー東京国立博物館の隠れた洋画コレクションー	列品管理課長　沖松健次郎 東京文化財研究所 文化財情報資料部長　塩谷純 東京文化財研究所 文化財情報資料部研究員　吉田暁子	142人	62.50%
※5～12は新型コロナウイルスの感染拡大と防止策を十分に配慮し、定員をほぼ通常通りの350名に緩和した上で、大講堂で実施した。					
5	8月6日	楽浪文化の諸相	列品管理課平常展調整室長　市元塁	196人	83.09%
6	9月10日	東博150年の歴史と模写・模造	調査研究課絵画・彫刻室長　土屋貴裕 列品管理課平常展調整室研究員　古川攝一 百五十年史編纂室長　恵美千鶴子 企画課特別展室長　猪熊兼樹 特別展室研究員　福島修 学習院大学文学部教授　皿井舞	300人	88.99%
7	10月1日	つたえる、つなぐ—博物館広報のあゆみー	広報室長　鬼頭智美	157人	92.79%
8	11月12日	法隆寺・染織品修理50年の軌跡	客員研究員　沢田むつ代	241人	84.77%
9	12月10日	石の文化史	文化財活用センター企画担当研究員　飯田茂雄	238人	81.46%
10	5年1月14日	一遍聖絵と中世律宗絵画	保存修復課保存修復室長　瀬谷愛	270人	88.73%
11	5年2月25日	王羲之と蘭亭序	副館長　富田淳 台東区立書道博物館主任研究員　鍋島稲子 調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　植松瑞希 調査研究課東洋室研究員　六人部克典	294人	87.91%
12	5年3月25日	伝説の絵仏師・明兆の画力	企画課特別展室研究員　高橋 真作	280人	91.58%

②記念講演会

3回　　721人

	開催日	テーマ	講師等	参加者数	″良い″の割合
新型コロナウイルスの感染拡大と防止策を十分に配慮し、定員をほぼ通常通りの350人に緩和した上で、大講堂で実施した。 ※1は特別展「空也上人と六波羅蜜寺」の共催者である朝日新聞社が実施した。					
1	4月2日	空也上人と六波羅蜜寺	六波羅蜜寺山主　川崎純性	119人	-
2	11月24日	特別展『国宝　東京国立博物館のすべて』見どころ解説	副館長　富田淳 列品管理課登録室長　佐藤寛介 列品管理課長　沖松健次郎 百五十年史編纂室長　恵美千鶴子 列品管理課平常展調整室研究員　増田政史	300人	82.99%
3	5年2月16日	大安寺の歴史と仏像	大安寺貫主　河野良文 列品管理課平常展調整室研究員　増田政史	302人	88.36%

③シンポジウム

0回　　0人

④テーマ別講演会

0回　　0人

⑤その他講演会

0回　　0人

2)　列品解説（ギャラリートーク等）　15回　　38,415人

①ギャラリートーク

12回　　38,229人

	開催日	テーマ	講師等	参加者数
※1～12は新型コロナウイルスの影響を勘案し、オンラインギャラリートークとして実施した（事前収録・YouTube配信）。開催日は配信日、参加者数は再生回数からの算定数値である。				
1	5月12日	東京国立博物館の近世仏画―伝統と変奏―	列品管理課平常展調整室研究員　古川攝一	3,309人
2	5月25日	親と子のギャラリー　翼と羽	博物館教育課教育講座室研究員　横山梓	2,100人
3	7月7日	創立150年記念特集　時代を語る洋画たち－東京国立博物館の隠れた洋画コレクション	列品管理課長　沖松健次郎	2,577人
4	8月1日	武士の芸術―甲冑―	列品管理課登録室長　佐藤寛介	6,734人
5	8月31日	知られざるチベット仏教の美術	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　西木政統	5,315人
6	10月6日	博物館でアジアの旅　アジア大発見！	企画課長　原田あゆみ	2,925人
7	11月15日	創立150年記念特集　再発見！大谷探検隊とたどる古代裂の旅	保存修復課保存修復室研究員　沼沢ゆかり 列品管理課登録室アソシエイトフェロー　廣谷妃夏	2,404人
8	12月15日	描かれた『源氏物語』－近世の絵巻と色紙」	博物館教育課ボランティア室長　金井裕子	3,528人
9	5年1月18日	創立150年記念特集　根付　郷コレクション	企画課特別展室研究員　福島修	2,618人
10	5年1月26日	特集　博物館に初もうで　兎にも角にもうさぎ年	清水 健（調査研究課工芸室 主任研究員）	1,710人
11	5年3月22日	創立150年記念特集　王羲之 と蘭亭序	六人部 克典（調査研究課東洋室 研究員）	4,415人
12	5年3月31日	創立150年記念特集　コレクションの探求　はにわ展から50年	河野 正訓（企画課特別展室 主任研究員）	594人

②特別展関連ギャラリートーク

0回　　0人

③東京藝術大学大学院インターンシップによるギャラリートーク

3回　　186人

	実施日	回数	テーマ	氏名	参加者
新型コロナウイルスの影響を勘案し、ガイダンス・検討会・リハーサル・ギャラリートーク等すべてをオンラインで実施。トーク対象は、当館ボランティア。					
1	12月15日、5年1月16日、5年1月17日	3回	「技法と姿勢から読み解く『菩薩立像』」	出口武頼	186人

3)　連続講座　　2日間（計1回）　　1回　　317人

	開催日	テーマ・講師等	参加者数	″良い″の割合
1	6月10日～6月11日	未来へつなぐ琉球・沖縄文化 ごあいさつ　三笠景子（企画課出版企画室主任研究員） 趣旨説明 第1講　「国宝に指定された尚家継承資料」 講師：外間政明（那覇市文化財課担当副参事） 第2講　「東京国立博物館の琉球コレクション」 明治17、18年購入の東博琉球コレクション 講師：品川欣也（博物館教育課教育普及室長） 市河米庵コレクションの琉球関係資料 講師：六人部克典（調査研究課東洋室研究員） 第3講　「沖縄県立博物館・美術館のコレクションと復元事業」 講師：與那嶺一子（沖縄県立博物館・美術館主任学芸員） 未来へつなぐ琉球・沖縄文化 基調講演　「首里城のこれから」 講師：高良倉吉（琉球大学名誉教授） 第4講　「琉球・沖縄、最新研究」 海東諸国紀と朝鮮国書―15世紀の琉球・朝鮮・日本― 講師：一瀬智（九州国立博物館展示課主任研究員） 琉球の宮廷文化 講師：猪熊兼樹（企画課特別展室長） 琉球の染織 講師：小山弓弦葉（調査研究課工芸室長） 第5講　パネルディスカッション「首里城をめぐる歴史と文化の継承」 司会：原田あゆみ（企画課長）	317人	91.20%

4) 公開講座　　1回　　887人

	開催日	テーマ・講師等	参加者数	会場
※2は新型コロナウイルスの感染拡大と防止策を十分に配慮した上で、オンラインによる講演会を実施した（事前収録・YouTube配信）。				
1	実施せず	教育連携事業「博物館学講座」	0人	平成館小講堂、本館地下みどりのライオン（教育普及スペース）他
2	9月14日～5年1月31日(公開日)	教育連携事業「博物館セミナー」 第1講　博物館の運営 　講師：　総務課長　竹之内勝典 第2講　総合文化展の仕組み 　講師：　列品管理課平常展調整室長　市元 塁 第3講　特別展の仕組み 　講師：　企画課特別展室研究員　熊谷美和 第4講　博物館の教育普及活動 　講師：　博物館教育課長　鈴木みどり	887人	事前収録のうえYouTube配信

5) その他展示に関連する事業　　23回　　5,162人

	実施日	内容	会場	参加者数	備考
1	3月14日～4月10日	博物館でお花見を2022　東博句会「花見で一句」	館内、オンライン	94人	小学生以下5句、一般89句
2	5月15日	国際博物館の日記念「上野の山で動物めぐり　動物の「翼」と「羽」」	恩賜上野動物園、国立科学博物館、東京国立博物館	129人	数値は端末アクセス数、人数の合計は不明
3	9月21日～10月16日	「博物館でアジアの旅 調査ノート」5,000部配布	東洋館	—	
4	10月12日	博物館でアジアの旅2022「気軽に椅子ヨガin東洋館」（同日3回）	東洋館1室	40人	同日3回実施
5～10	10月4日、11月15日、12月13日、1月24日、2月21日、3月30日	オンラインギャラリートーク上映会	東洋館ミュージアムシアター 平成館大講堂(3/30)	648人	(同日2回、3/30は1回)
11～19	11月8日～11月17日	「みんなでつくる記念チケット」配布	正門プラザ	—	150年記念事業
20	11月6日～	トーハク劇場へようこそ「博物館の誕生編」YouTube配信	オンライン	4,224人	150年記念事業 数値はアクセス数
21	12月13日～	トーハク劇場へようこそ「博物館の誕生編」上映	平成館ラウンジ	—	150年記念事業
22	5年1月2日～	2023トーハクめでたいカルタ作り	オンライン	—	ウェブサイトでダウンロード
23	5年3月29日	博物館でお花見を2023「お花見ヨガin法隆寺宝物館」	法隆寺宝物館	27人	同日2回実施

【京都国立博物館】

1) 土曜講座　　13回　　835人

特別展覧会関連などの講座

	開催日	テーマ	講師	参加者数
1	6月18日	日本古代の遷都事情 ―飛鳥から藤原京、藤原京から平城京へ―	学芸部長　尾野善裕	80人
2	6月25日	御室焼と彩色材料 ―色絵釘隠の事例―	学芸部保存科学室長　降幡順子	37人
3	7月2日	文化財の防災・減災 ―大地震から文化財を守る―	学芸部保存科学室アソシエイトフェロー　中屋菜緒	30人
4	7月9日	新出の与謝蕪村筆「奥の細道図巻」について	学芸部保存修理指導室主任研究員　福士雄也	100人
5	7月16日	熊本・宮崎の古墳文化 ―九州の石の“埴輪”と貝の道―	学芸部考古室研究員　古谷毅	50人
6	7月23日	観心寺と金剛寺での京博社寺調査　漆工編	学芸部教育室長　永島明子	40人
7	5年1月14日	美しい卯づくし ―兎のかたちをめぐって―	学芸部教育室主任研究員　水谷亜希	83人
8	5年1月21日	考古学からみた月のウサギ ―月兎二千年史―	学芸部特任研究員　宮川禎一	75人
9	5年1月28日	古墳時代の文字資料 ―熊本県古城横穴墓群出土「火守」銘の位置―	学芸部研究員　古谷毅	48人
10	5年2月11日	定朝様と京都の仏像	学芸部上席研究員　淺湫毅	80人
11	5年2月18日	涅槃図をなるべく楽しく見るために	学芸部保存修理指導室長　大原嘉豊	96人
12	5年2月25日	屋根を飾る鴟尾	学芸部考古室長　石田由紀子	50人
13	5年3月4日	唐代文化の受容と展開 ―飛鳥時代から平安時代まで―	館長　松本伸之	66人

2)　記念講演会　　17回　　2,207人

	実施日	テーマ	講師	参加者数(人)
1	4月16日	【対談】伝教大師最澄を語る 【落語】仏教落語	天台宗宗務総長　阿部昌宏 落語家（兼天台宗道心寺住職）　露の団姫	74人
2	4月23日	日吉大社山王祭と神輿	日吉大社禰宜　須原紀彦 学芸部列品管理室主任研究員　末兼俊彦	66人
3	5月7日	天台宗の信仰と仏画	学芸部保存修理指導室長　大原嘉豊	61人
4	5月14日	天台のみほとけたち	学芸部上席研究員　淺湫毅	80人
5	7月30日	観心寺・金剛寺と南北朝動乱	元河内長野市教育委員会　尾谷雅彦	100人
6	8月20日	観心寺・金剛寺の歴史と文化財調査	学芸部企画室研究員　井並林太郎	100人
7	8月27日	観心寺・金剛寺の金属工芸	学芸部列品管理室主任研究員　末兼俊彦	100人
8	9月3日	観心寺・金剛寺の聖教	学芸部調査・国際連携室研究員　上杉智英	83人
9	9月10日	真言密教のみほとけたち ―観心寺・金剛寺を中心に―	学芸部上席研究員　淺湫毅	100人
10	10月15日	利休の懐石	京都府立大学客員教授（兼茶道資料館顧問） 筒井紘一	200人
11	10月22日	京に生きる文化 茶の湯 ―歴史とその背景―	学芸部調査・国際連携室長　降矢哲男	158人
12	10月29日	日本の茶文化における中国絵画受容	学芸部調査・国際連携室研究員　森橋なつみ	85人
13	11月5日	京都における数寄者と茶の湯	野村美術館館長　谷晃	200人
14	11月12日	天下人と茶の湯	國學院大學兼任講師　竹本千鶴	200人
15	11月19日	京都における公家と茶の湯 ―そのはじまりと展開―	湯木美術館理事　谷端昭夫	200人
16	12月3日	中世の文書と典籍にみる「茶」	学芸部列品管理室長兼美術室長　羽田聡	200人
17	5年3月25日	親鸞聖人の生涯	大谷大学名誉教授　草野顕之	200人

3)　夏期講座　　1回　　84人

	開講日	テーマ	講師	参加者数(人)
1	8月5日	第1講 初期水墨画と中世海道	学芸部列品管理室研究員　森道彦	84人
		第2講 絵図で読み解くモンゴル時代の東西交流	京都大学文学部文学研究科助教　宮紀子	
		第3講 中世武家の一揆	国立歴史民俗博物館准教授　田中大喜	
	8月6日	第1講 交錯するヨーロッパの宮廷美術―フランス王朝から見た14世紀―	大妻女子大学比較文化学部准教授　岩谷秋美	
		第2講 乱世の七朝帝師―夢窓疎石の頂相と袈裟―	学芸部工芸室兼企画室長　山川曉	
		第3講 亡国と美術―宋遺民の絵画をめぐって	学芸部調査・国際連携室研究員　森橋なつみ	

4)　社会科教員のための向上講座　　1回　　34人

	開講日	テーマ	講師	参加者数(人)
1	9月2日	講義「特別展＜河内長野の聖地　観心寺と金剛寺―真言密教と南朝の遺産―＞鑑賞ポイント」	学芸部企画室研究員　井並林太郎	34人

5)　ギャラリーツアー・シンポジウム等　2回　　328人

	開講日	テーマ・講師		参加者数(人)
1	4月29日	研究発表と座談会　中世天台戒家の思想と文化	金城学院大学文学部教授　舩田淳一 大津市歴史博物館　鯨井清隆 愛媛県鬼北町教育委員会　幡上敬一 保存修理指導室長　大原嘉豊	70人
2	5年2月4日	国際シンポジウム「アジアの博物館教育は、いま― 国立博物館の事例から―」	教育室主任研究員 水谷亜希	258人

※キャンパスメンバーズ限定講演会については1-(3)-①-4 大学生・大学院生を対象とした教育事業　に記載。

【奈良国立博物館】

1) 特別展等講座

10回　716人

	開催日	事業名称等	講師	参加者数
1	4月29日	「大安寺伽藍縁起并流記資財帳の考古学」	京都大学名誉教授　上原眞人	76人
2	5月21日	「大安寺の祈りと営みー出土品を中心にー」	学芸部企画室長　中川あや	65人
3	6月11日	「大安寺の仏像」	京都大学教授　稲本泰生	71人
4	8月6日	「貞享本當麻曼荼羅とその周辺」	学芸部主任研究員　北澤菜月	66人
5	8月20日	「中将姫説話の展開」	文教大学文学部日本語日本文学科准教授 日沖敦子	60人
6	8月21日	親子講座「なぜなぜ？はっけん！ほとけさまのかたち」	学芸部研究員　翁みほり	90人
7	10月29日	「正倉院宝物の保存―宝物を覆う―」	宮内庁正倉院事務所保存課保存科学室員　髙畑誠	71人
8	11月12日	「正倉院の仏具―奈良時代の寺院と法会の世界―」	学芸部研究員　三本周作	65人
9	5年1月7日	「王朝文化が蘇る　春日若宮古神宝とその復元」	春日大社国宝殿主任学芸員　松村和歌子	77人
10	5年2月4日	「参籠した時の醍醐味とは」	東大寺長老・東大寺総合文化センター総長 狭川普文	75人

2) 夏季講座

4回　270人

	実施日	テーマ	解説者	参加者数(人)
1	7月16日	第1回 如来「東アジア世界のブッダの姿」	学芸部美術室長　岩井共二	70人
2	7月23日	第2回 菩薩「菩薩像のかたちと信仰 一観音菩薩を中心に」	学芸部研究員　内藤航	67人
3	7月30日	第3回 明王「図像から彫像へ 一不動明王像の魅力」	学芸部主任研究員　山口隆介	66人
4	8月27日	第4回 天部「天部のかたち 一毘沙門天を中心に」	奈良女子大学文学部准教授　佐藤有希子	67人

3) サンデートーク

12回　870人

	実施日	テーマ	解説者	参加者数(人)
1	4月17日	「薬師如来像をめぐって」	学芸部アソシエイトフェロー　伊藤旭人	76人
2	5月15日	「文化財を加害するムシの話」	学芸部アソシエイトフェロー　小峰幸夫	71人
3	6月19日	「文化財の健康診断―X線CT調査でみる文化財―」	学芸部アソシエイトフェロー　安藤真理子	75人
4	7月17日	「平安貴族と装飾写経」	学芸部列品室長　斎木涼子	71人
5	8月7日	「仏教美術以前の日本美術」	館長　井上洋一	70人
6	9月18日	「明恵上人をめぐる仏教絵画」	学芸部教育室長　谷口耕生	66人
7	10月16日	「古代の戸籍と正倉院文書について」	学芸部資料室長　野尻忠	74人
8	11月20日	「古写真と仏像研究」	学芸部主任研究員　山口隆介	73人
9	12月18日	「如来像の着衣について」	学芸部美術室長　岩井共二	72人
10	5年1月15日	「仏像の模刻をめぐって」	学芸部研究員　内藤航	77人
11	5年2月19日	「奈良の仏像版画をめぐって　Nara's Buddhist Prints」	学芸部アソシエイトフェロー　Mary Lewine	68人
12	5年3月19日	「ステラレネーゼ達の“断捨離”」	学芸部保存修理指導室長　荒木臣紀	77人

4) その他展示に関連するイベント

20回　　47,676人

	実施日	内容	会場	参加者
1	4月23日	特別展「大安寺のすべて―天平のみほとけと祈り―」関連イベント「らくご男子落語会 恋バナ編」	講堂	75人
2	4月30日	特別展「大安寺のすべて―天平のみほとけと祈り―」関連イベント「重文で朝ヨガ・呼吸法体験！～ならはくでととのいませんか？～」	仏教美術資料研究センター	27人
3	5月5日	特別展「大安寺のすべて―天平のみほとけと祈り―」関連　親子向けワークショップ「小花もようのかざりタイルをつくろう！」	地下回廊	24人
4	5月8日	奈良国立博物館「大安寺のすべて ―天平のみほとけと祈り―」を巡ろう【ニコニコ美術館】	展示室	23,417人
5	5月28日	特別展「大安寺のすべて―天平のみほとけと祈り―」関連イベント「重文で朝ヨガ・呼吸法体験！～ならはくでととのいませんか？～」	仏教美術資料研究センター	26人
6	5月28日	特別展「大安寺のすべて―天平のみほとけと祈り―」関連イベント「奈良仏像けんきゅー部　大安寺展編」	講堂	58人
7	7月22日、7月23日	貞享本當麻曼荼羅修理完成記念 特別展「中将姫と當麻曼荼羅―祈りが紡ぐ物語―」研究員レクチャー付き夜間特別鑑賞	講堂	108人
8	7月25日～	わくわくびじゅつギャラリー「はっけん！ほとけさまのかたち」関連ワークショップ「なりきり！ほとけさまのかたち」	YouTube	2,000人
9	7月31日	貞享本當麻曼荼羅修理完成記念 特別展「中将姫と當麻曼荼羅―祈りが紡ぐ物語―」関連イベント「蓮糸織り体験」	地下回廊	25人
10	8月11日	貞享本當麻曼荼羅修理完成記念 特別展「中将姫と當麻曼荼羅―祈りが紡ぐ物語―」関連イベント「奈良仏像けんきゅー部　中将姫展編」	講堂	45人
11	8月11日	奈良国立博物館「中将姫と當麻曼荼羅 ―祈りが紡ぐ物語―」を巡ろう【ニコニコ美術館】	展示室	20,831人
12	10月30日	「第74回正倉院展」関連イベント「奈良仏像けんきゅー部　正倉院展編」	講堂	41人
13	11月14日	「第74回正倉院展」研究員レクチャー付き鑑賞会	講堂	176人
14	11月19日	近代化遺産全国一斉公開	仏教美術資料研究センター	633人
15	11月26日	留学生の日関連イベント「書画作品に挑戦しよう！」	展示室	15人
16	12月16日	奈良国立博物館「春日大社 若宮国宝展 ―祈りの王朝文化―」を巡ろう【ニコニコ美術館】	展示室	15,774人
17	5年1月12日	文化財保存修理所公開	文化財保存修理所	50人
18	5年1月21日	式年造替記念特別展「春日大社 若宮国宝展 ―祈りの王朝文化―」関連イベント「奈良仏像けんきゅー部　春日大社若宮国宝展編」	講堂	43人
19	5年2月5日	特別陳列「お水取り」関連イベント「お水取り　「講話」と「現地解説」の会　2023年」	講堂	38人
20	5年3月14日	特別陳列「お水取り」関連イベント「お水取り　特別上映会」	講堂	44人

【九州国立博物館】

1)特別展記念講演会　　4回　　662人

	開催日	事業名称等	講師	参加者数
1	4月16日	特別展「北斎」記念講演会 「老境の北斎とその画業－浮世絵風景画史の観点から－」	国立歴史民俗博物館教授　大久保純一	140人
2	7月16日	特別展「琉球」記念講演会 「万国津梁の鐘と尚泰久」	沖縄県立博物館・美術館　館長　田名真之	95人
3	10月15日	特別展「ポンペイ」記念講演会 「ポンペイに魅せられた50年」	東京大学名誉教授　青柳正規	203人
4	5年1月29日	特別展「加耶」記念講演会 「五世紀・倭の技術革新と加耶」	海の道むなかた館館長・九州大学名誉教授 西谷正	224人

2)講演及びシンポジウム等　　24回　　1,881人

	開催日	事業名称等	講師	参加者数
1	4月30日	きゅーはく☆とっておき講座 かわいい考古学って何？	学芸部企画課主任研究員　西島亜木子 交流課主任研究員　今井涼子 九州歴史資料館　岸本圭 九州歴史資料館　小嶋篤 むぎばんだ女子考古部 きゅーはく女子考古部　中村麻衣子・丸山新奈	80人
2	5月7日	特別展「北斎」担当研究員による展示レクチャー	学芸部文化財課主任研究員　畑靖紀	96人
3	5月21日	特別展「北斎」記念トークショー 「おしえて、しりあがりサン-北斎のすごさとは-」	漫画家　しりあがり寿 学芸部文化財課主任研究員　畑靖紀	97人
4	6月12日	囲碁の歴史と本因坊家のあゆみ	学芸部企画課研究員　大澤信	80人
5	8月6日	全国高等学校歴史学フォーラム2022 「江戸時代の農村地帯における庚申信仰の広がりについて」 「『鉢之記』にせまる！」 「ダークツーリズムとしての熊谷空襲」 「石錘FISHING!?～弥生のおもりで魚釣り～」 「『甘木絞』の魅力　～失われかけた地域文化の再生に向けて～」 「九州北部の『道』の歴史推移について」 「栃木県におけるサメ食文化に関する一考察」	群馬県立高崎北高等学校 九州産業大学付属九州産業高等学校 史跡探索研究部 埼玉県立熊谷西高等学校 福岡県立糸島高等学校 歴史部 福岡県立朝倉高等学校 史学部 福岡県立八幡高等学校 栃木県立矢板東高等学校 リベラルアーツ同好会	21人 （参加校関係者数）
6	8月7日	特別展「琉球」講演会「琉球の美術と文化を深める」	沖縄美ら島財団　上江洲安亨 東京国立博物館　原田あゆみ	78人
7	8月13日	特別展「琉球」リレー講座「琉球展ちゃんぷる一講座」①歴史編	展示課主任研究員　一瀬智 学芸部文化財課研究員　松浦晃佑	44人
8	8月20日	特別展「琉球」リレー講座「琉球展ちゃんぷる一講座」②工芸編	学芸部企画課特別展室長　川畑憲子 学芸部企画課主任研究員　望月規史 学芸部企画課研究員　桑原有寿子	51人
9	9月3日	九州国立博物館「大宰府学研究」事業・特別史跡「大野城跡」史跡指定90年記念シンポジウム「大宰府四王院」	国立歴史民俗博物館教授 三上喜孝 九州歴史資料館 松川博一 元亀岡市文化資料館 近藤謙 展示課主任研究員 岡寺良	105人
10	9月4日	きゅーはく☆とっておき講座 弥生王墓の実像を探る一三雲南小路遺跡発見200年	展示課主任研究員　小澤佳憲	74人
11	10月1日	日本遺産「西の都」古代史講座	太宰府天満宮顧問、太宰府天満宮文化研究所主管学芸員 味酒安則氏	35人
12	10月8日	日本遺産「西の都」古代史講座	太宰府天満宮顧問、太宰府天満宮文化研究所主管学芸員 味酒安則氏	70人
13	10月8日	「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群　世界遺産登録５周年記念展覧会「沖ノ島祭祀を担った奉斎者たち」開催記念講演会「沖ノ島祭祀と渡来系遺物の流入 － 海の民ムナカタの役割 － 」	岡山理科大学名誉教授　亀田修一	86人
14	10月16日	講演会＆トークセッション 「宮廷文化と御所の器」	衣紋道山科流若宗家　山科言親 同志社大学歴史資料館准教授　浜中邦弘 同志社大学非常勤講師　橋爪伸子 学芸部企画課研究員　酒井田千明 学芸部文化財課研究員　松浦晃佑	83人

15	10月24日	日米文化教育交流会議(カルコン)シンポジウム	ペンシルベニア大学准教授 ジョイリン・トーマス 津田塾大学学長 高橋裕子 スタンフォード大学教授 筒井清輝 CFRシニア・フェロー シーラ・スミス 防衛大学校長 久保文明 福岡ソフトバンクホークス会長 王貞治 当館館長 島谷弘幸 元駐米大使 加藤良三 ライス大学教授 清水さゆり	80人
16	10月29日	特別展「ポンペイ」リレー講座① 「ポンペイがやってきた！-見どころ紹介-」	展示課長　齋部麻矢	62人
17	10月30日	おおむたPRキャンペーン 「三池の刀が切り開く 大牟田の未来」 公開講座「刀匠と語る三池刀の魅力」	大牟田市世界遺産文化財室長 山田 元樹 國天刀匠 坂口優美	100人
18	11月5日	きゅーはく☆とっておき講座 御所の器の魅力	学芸部企画課研究員　酒井田千明	80人
19	11月6日	特別展「ポンペイ」リレー講座② 「ポンペイとインド」 「ポンペイの黒い鏡」 「ポンペイの絵画とそのひみつ」	副館長　小泉惠英 学芸部文化財課長　白井克也 学芸部文化財課アソシエイトフェロー　折山桂子	53人
20	12月10日	きゅーはく☆とっておき講座 長崎警備と白帆注進 -近世日本の沿岸警備-	展示課主任研究員　岡寺良	32人
21	12月18日	きゅーはく☆とっておき講座 たねがしま入門	上野原縄文の森園長　堂込秀人 交流課主任研究員　今井涼子	74人
22	5年1月7日	きゅーはく☆とっておき講座 徳川美術館所蔵　国宝　初音の調度	学芸部企画課特別展室長　川畑憲子	80人
23	5年2月4日	特別展「加耶」リレー講座①	学芸部文化財課長　白井克也 展示課長　齋部麻矢 学芸部企画課研究員　大澤信	154人
24	5年2月11日	特別展「加耶」リレー講座②	展示課主任研究員　大高広和 展示課主任研究員　岡寺良 九州歴史資料館学芸員　小嶋篤	166人

3)　ミュージアムトーク　　25回 参加者総数　　694人

・担当研究員数　　延べ 20人　　※うち夜間開催分は 0人

・事業内容　文化交流展示室にて担当の研究員が作品に関する解説を行った。

（原則として第1、3、5火曜日の15時より15～30分間、夜のミュージアムトークは原則として第2、4土曜日の18時より15～30分間）

	開催日	テーマ	解説者	参加者数（人）
1	4月12日	影絵人形ワヤン・クリでみるラーマーヤナ物語	学芸部文化財課課長（兼）資料管理室長 白井克也	13人
2	4月26日	名所を旅する　浮世絵編	学芸部企画課文化交流展室アソシエイトフェロー 杉田真菜	17人
3	5月17日	囲碁の歴史と本因坊家のあゆみ	学芸部企画課特別展室研究員　大澤 信	23人
4	5月31日	約２千年前のアジアの青銅器	学芸部企画課文化交流展室長　川村佳男	38人
5	6月14日	日蘭貿易の舞台　平戸と出島	交流課主任研究員　今井涼子	21人
6	6月28日	観音さま	学芸部文化財課資料登録室長　森實久美子	19人
7	7月12日	古代瓦の文様あれこれ	展示課長　齋部麻矢	23人
8	7月26日	イメージするための絵画	学芸部文化財課アソシエイトフェロー 折山桂子	18人
9	8月2日	沖ノ島ってどんなところ？	展示課主任研究員　大高広和	37人
10	8月16日	覗いてみよう　洛中洛外図の世界	学芸部企画課文化交流展室アソシエイトフェロー 杉田真菜	35人
11	8月27日	鬼瓦のヒミツ	展示課長　齋部麻矢	50人
12	8月30日	等覚寺の山岳信仰	展示課主任研究員　岡寺良	31人
13	9月27日	墨蹟がつなぐ交流	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー 瓜生翠	20人
14	10月12日	日本の埴輪と中国の陶俑	学芸部企画課文化交流展室長　川村佳男	20人
15	10月25日	古代の沖ノ島と宗像氏	展示課主任研究員　大高広和	32人
16	11月1日	「海の彼方のあの世～古墳時代の海上他界観をめぐって～」	学芸部長　河野一隆	29人
17	11月15日	中国・遼代の染織品	学芸部企画課特別展室研究員　桑原有寿子	25人
18	11月29日	長崎港を警備せよ!! －長崎警備と白帆注進－	展示課主任研究員　岡寺良	35人
19	12月13日	文化財を守るお仕事　－博物館の環境管理－	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー 和泉田絢子	19人
20	5年1月17日	梵鐘について－観世音寺の国宝鐘を中心に－	学芸部企画課長　伊藤信二	29人
21	5年1月31日	博物館におけるX線CT調査について	学芸部博物館科学課研究員　渡辺祐基	35人
22	5年2月14日	灰汁の科学　～災害で水濡れし、くっついて読めない古文書を開く～	学芸部博物館科学課長　環境保全室長 木川りか	36人
23	5年2月28日	異国憧憬―江戸時代の文化交流―	学芸部博物館科学課主任研究員　文化財防災センター　鷲頭桂	28人
24	5年3月14日	むしが出る―啓蟄恒例・はらのむし―	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー 瓜生 翠	36人
25	5年3月28日	博物館で文化財を守り、育てる	学芸部博物館科学課保存修復室長 志賀智史	25人

4)　その他展示に関連するイベント

19回　　1,674人

	実施日	内容	会場	参加者数	備考
1	4月15日	特別展「北斎」沖ノ島解説パネル展示	エントランス	—	
2	4月30日	特集展示「きゅーはく女子考古部プレゼンツ かわいい考古学のススメ」展関連イベント　古代の宴へようこそ！	ミュージアムホール	200人	
3	6月25日	百済の国のお宝拝見！ － 韓国国宝・百済金銅大香炉紹介講座 －	ミュージアムホール／研修室	18人	
4	7月18日	復帰50年記念 特別展「琉球」 関連イベント 琉球の宝 ウチナーの心	ミュージアムホール／研修室／和室	140人	
5	7月20日	復帰50年記念 特別展「琉球」関連パネル展示	エントランス	—	
6	7月30日	特別展「琉球」×『刀剣乱舞-ＯＮＬＩＮＥ-』おっきい こんのすけ撮影会	ミュージアムホール／研修室	—	
7	8月11日	甕棺墓埋葬体験ワークショップ「弥生時代の棺　甕棺に入ろう」	ミュージアムホール	25人	
8	8月27日	きゅーはくミュージアムコンサート 沖縄復帰50年記念 特別展「琉球」関連イベント「古謝美佐子 沖縄のこころのうた」	ミュージアムホール	540人	
9	8月28日	甕棺墓埋葬体験ワークショップ「弥生時代の棺　伊都国王のお葬式」	ミュージアムホール	20人	
10	11月4日	特別展「ポンペイ」関連パン販売	エントランス／和室	—	
11	11月5日、12日	ワークショップぺたぺたデコレーション ～貼花に挑戦！～	研修室	19人	
12	11月10日	特別展「ポンペイ」関連イベント 視覚障害者とつくる博物館まっすぐ&ぶらぶら対話ツアー 第1回 バックヤードツアー	ミュージアムホール／館内バックヤード	6人	
13	11月11日	特別展「ポンペイ」関連イベント 視覚障害者とつくる博物館まっすぐ&ぶらぶら対話ツアー 第2回 ポンペイ展	和室／3階特別展示室	6人	
14	11月19日、20日	特別展「ポンペイ」 子ども向けワークショップ～天然大理石のモザイクコースター～	研修室	195人	
15	11月27日	みんなdeきゅーはくを楽しもう‼　視覚障がい者向けバックヤードツアー」	研修室他	25人	（同伴者を含む）
16	12月3日	特別展「ポンペイ」関連パン販売	エントランス／和室	—	
17	5年1月24日～2月12日	特別展「加耶」関連パネル展示「日韓の懸け橋～朝鮮通信使 誠信の足跡」	エントランス	—	
18	5年2月25日	特別展「加耶」関連　HOT KOREA, HOT KYUHAKU ホットコリア,ホットきゅーはくフェア	屋外広場	—	
19	5年3月4日	特別展「加耶」関連　きゅーはくミュージアムコンサート 「アン・サリー 幻の王国“加耶”に思いを馳せて」	ミュージアムホール	480人	

1-(3)-①-3 児童生徒を対象とした教育普及事業

	東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
回数・人数 ※1 ※2	**回数計**	**1,319回**	**回数計**	**21回**	**回数計**	**917回**	**回数計**	**409回**
	参加者計	**33,888人**	**参加者計**	**21,169人**	**参加者計**	**48,491人**	**参加者計**	**7,281人**
	体験型プログラム等	1,168回 24,072人	体験型プログラム等	2回 20,043人	体験型プログラム等	863回 45,514人	体験型プログラム等	328回 1,781人
	学校との連携事業	151回 9,816人	学校との連携事業	19回 1,126人	学校との連携事業	54回 2,977人	学校との連携事業	81回 5,500人
	児童生徒を対象とした刊行物	9件 136,228部	児童生徒を対象とした刊行物	8件 238,320部	児童生徒を対象とした刊行物	4件 101,318部	児童生徒を対象とした刊行物	1件 2,500部
	児童生徒を対象とした音声ガイド	— —	児童生徒を対象とした音声ガイド	1件 107台	児童生徒を対象とした音声ガイド	— —	児童生徒を対象とした音声ガイド	— —

※1ー定期間通して実施した事業については、期間の日数＝回数としてカウントする

※2実施事業のうち、参加者数をカウントしていない、又は当該事業を実施した建物の入館者数のみ把握しているものについては、合計値に参加者数を計上していない。（実施回数は計上している。）

【東京国立博物館】

1)体験型プログラム等　　1,168回　　24,072人

①ハンズオン展示等

790回　　5,126人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	通年	東洋館オアシス6室「アジアの占い体験」	東洋館6室	159回		9月21日（水）から再開（3/31現在159日間開室）参加者のカウントなし。
2	通年	本館19室みどりのライオン体験コーナー	本館19室	308回		4月5日（火）から再開（3/31現在308日間開室）参加者のカウントなし。工程見本展示は「紅型のできるまで」
3	通年	日本文化のひろば	本館特別4室	311回		3/31現在311日開室。参加者のカウントなし。
4	4月24日、5月22日、6月26日、7月24日、8月28日、9月25日、10月23日、11月27日、12月25日、1月22日、2月26日、3月26日	キッズスペース	本館地下教育普及スペース	12回	5,126人	月イチ！トーハクキッズデー関連イベントとして実施。（4月276人、5月248人、6月333人、7月738人、8月300人、9月468人、10月481人、11月541人、12月254人、1月454人、2月563人、3月470人

②ワークショップ

233回　　6,289人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	4月1日～7月25日	みんなでつくる記念チケット	本館内ポストほか	116回	680人	150周年記念事業。回数は実施日数。
2	4月24日、5月22日、6月26日、7月24日	みんなでつくる記念チケット・お絵描きコーナー	本館2階ラウンジ、本館19室	4回	469人	150周年記念事業。月イチ！トーハクキッズデーにあわせ、お絵描きコーナーの実施。（4月88人、5月67人、6月101人、7月213人）
3	4月24日	読み聞かせ「牛若丸」	本館18室	4回	86人	月イチ！トーハクキッズデー関連イベント、1日4回公演
4	4月24日、5月22日、6月26日、2月26日	よろいのひみつ（Zoom生配信）、ハンズオン	—	8回	371人	月イチ！トーハクキッズデー関連イベント、1日2回実施。人数はzoom配信及び現地視聴数（4月41人、5月89人、6月95人、2月146人）
5	5月22日、6月26日、8月28日、9月25日、10月23日、1月22日	アートスタジオ「勾玉づくり」	本館地下教育普及スペース	7回	54人	月イチ！トーハクキッズデー関連ボランティアイベント（5月6人、6月6人、8月5人、9月5人、10月5人、1月8人、2月19人）
6	6月18日～6月19日	オンラインワークショップ「びょうぶをつくる」	本館地下教育普及スペース+zoom	4回	64人	zoomにてオンライン開催
7	6月26日、7月24日	紙芝居「ぶんぶくちゃがま」	本館4室	8回	496人	月イチ！トーハクキッズデー関連イベント（1日4回公演。6月183人、7月313人）
8	7月24日、11月27日、12月25日	さわってみよう！考古ハンズオン	平成館考古展示室前	3回	—	月イチ！トーハクキッズデー関連イベント（参加者のカウントなし）
9	7月24日、12月25日	コロタイプ印刷ワークショップ	本館1階ラウンジ	2回	313人	月イチ！トーハクキッズデー関連イベント（4月196人、12月117人）

10	7月24日	アートスタジオ「親子で勾玉づくり」	本館地下教育普及スペース	2回	18人	月イチ！トーハクキッズデー関連ボランティアイベント（1日2回実施）
11	7月24日、9月25日、10月23日、11月27日、12月25日、1月22日、2月26日、3月26日	こどもたてものさんぽツアー　～たんけんマップをもって～	構内	16回	439人	月イチ！トーハクキッズデー関連ボランティアイベント（1日2回実施。7月63人、9月152人、10月80人、11月144人、12月50人、1月141人、2月77人）
12	8月28日、9月25日、3月26日	紙芝居「かぐや姫」	本館18室	12回	435人	月イチ！トーハクキッズデー関連イベント（1日4回公演、8月118人、9月161人、3月156人）
13	8月28日、1月22日	ひいながたぬりえ	本館19室	1回	385人	150周年記念事業。月イチ！トーハクキッズデー関連イベント（8月137人、1月248人）
14	9月25日、10月23日、11月27日	手遊び&ユリノキのガイド『大きなユリノキの下で』	構内	3回	71人	月イチ！トーハクキッズデー関連ボランティアイベント（9月10人、10月23人、11月38人）
15	10月1日～10月2日	きて・みて・さわって！高校生のための学芸員体験	応挙館、本館	1回	9人	150周年記念事業として実施。2日間のプログラム
16	10月9日、10日、23日、11月3日	ファミリーツアー 「トーハク劇場へようこそ！～博物館の誕生編～」	本館展示室	8回	132人	150周年記念事業として実施。1日2回実施10月23日は月イチ！トーハクキッズデー関連イベントとして実施
17	10月23日	紙芝居「じごくのそうべえ」	本館18室	4回	228人	月イチ！トーハクキッズデー関連イベント（1日4回公演）
18	10月23日,11月27日	ぶつぞう調査隊	本館11室	8回	587人	月イチ！トーハクキッズデー関連イベント（1日4回実施、10月313人、11月274人） 実施：文化財活用センター
19	9月25日、10月23日、11月27日	手遊び&ユリノキのガイド『大きなユリノキの下で』	構内	3回	71人	月イチ！トーハクキッズデー関連ボランティアイベント（9月10人、10月23人、11月38人）
20	11月27日、2月26日	アジアの占い体験	東洋館6室オアシス	2回	―	月イチ！トーハクキッズデー関連イベント
21	11月27日、2月26日	はじめてのお茶室たんけん	九条館	6回	386人	月イチ！トーハクキッズデー関連イベント（1日3回実施）11月181人、2月205人
22	12月25日、3月26日	アートスタジオ「親子で楽しむ根付づくり」	本館地下教育普及スペース	2回	21人	月イチ！トーハクキッズデー関連ボランティアイベント(12月12人、3月9人)
23	12月25日、1月22日、2月26日、3月26日	手遊び&散策『ユリノキのからたんけん！』	構内	4回	115人	月イチ！トーハクキッズデー関連ボランティアイベント(12月22人、1月40人、2月32人、3月21人)
24	12月25日、1月22日、2月26日、3月26日	東洋館でさがしてみよう	東洋館	4回	489人	月イチ！トーハクキッズデー関連ボランティアイベント12月102人、1月141人、2月142人、3月104人、）
25	3月26日	さくらぬりえ	本館19室	1回	370人	月イチ！トーハクキッズデー関連イベント

③その他の体験型プログラム　　27回　　4,120人

1	4月24日、5月22日、6月26日、7月24日、8月28日、9月25日、10月23日、1月22日、2月26日、3月26日	うるし体験ペーパークラフトサービス	本館特別4室	10回	2,328人	月イチ！トーハクキッズデー関連イベント(4月187人、5月120人、6月196人、7月368人、8月156人、9月282人、10月170人、1月259人、2月289人、3月301人）
2	6月26日、7月24日	学校版トーハクなび貸出サービス	本館2階便殿前	2回	236人	月イチ！トーハクキッズデー関連イベント(6月47人、7月121人、8月68人）
3	7月24日	初めてのお茶入れ体験	平成館ラウンジ	1回	112人	月イチ！トーハクキッズデー関連イベント　実施：(株）伊藤園
4	7月24日	トーハクくん、ユリノキちゃん登場	本館、平成館ほか	4回	―	月イチ！トーハクキッズデー関連イベント参加者のカウントなし
5	7月24日、8月28日	「150年後の国宝展」みんなの国宝大募集！	平成館ラウンジ	2回	―	150周年記念事業 月イチ！トーハクキッズデーで紹介コーナーの設置
6	1月22日	恐竜をつくって知ろう！プラノサウルス組立体験会	平成館ガイダンスルーム	1回	1,444人	月イチ！トーハクキッズデー関連イベント　主催：BANDAI SPIRITS
7	1月22日	恐竜稼働イベント	平成館、構内	3回	―	月イチ！トーハクキッズデー関連イベント　主催：ON-ART、参加者のカウントなし
8	1月22日	恐竜バルーンアート	本館前	1回	―	月イチ！トーハクキッズデー関連イベント　主催：BANDAI　SPIRITS、参加者のカウントなし
9	2月26日	トーハクくん、トラりん登場！	平成館ラウンジ、本館前、東洋館前	3回	―	月イチ！トーハクキッズデー関連イベント参加者のカウントなし

④児童生徒を対象とした展示

79回　　— 人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	4月26日～5月29日	「親と子のギャラリー　翼と羽」	平成館企画展示室	30回	—	東京都恩賜上野公園、国立科学博物館、東京国立博物館連携企画「上野の山で動物めぐり」。回数は開催日数。
2	7月20日～8月28日	「親と子のギャラリー　日本美術のつくり方Ⅴ」	本館特別2室	36回	—	回数は開催日数。参加者のカウントなし。
3	10月23日～11月6日	「きて・みて・さわって！高校生のための学芸員体験　高校生の学芸員のおすすめポイント」	本館7室	13回	—	150周年記念事業。月イチ！トーハクキッズデーにあわせて実施。回数は開催日数。参加者のカウントなし。

⑤児童生徒を対象とした鑑賞会

39回　　8,537人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	4月24日、5月22日、6月26日、7月24日、8月28日、9月25日、10月23日、11月27日、12月25日、1月22日、2月26日、3月26日	おうちでギャラリートーク「こどものためのギャラリートーク」	本館地下みどりのライオンほか	12回	3,571人	月イチ！トーハクキッズデー関連イベントとして、動画を公開。上映のほか、QRコードでアクセスが可能。参加者数はアクセス数(4テーマそれぞれ805件,908件,664件,1194件）の合計値
2	4月24日、5月22日、6月26日、7月24日、9月25日、11月27日、3月26日	トーハク笑楽座公演	平成館大講堂、東洋館ラウンジ	14回	2,445人	月イチ！トーハクキッズデー関連イベント、1日2回公演(4月:186人、5月:199人、6月:270人、7月:538人、9月:377人、11月:450人、3月:425人）
3	8月28日、10月23日、12月25日、1月22日、2月26日	笑おう！楽しもう！こども落語	平成館大講堂	10回	1,483人	月イチ！トーハクキッズデー関連イベント、1日2回公演（8月:174人、10月:227人、12月:271人、1月:352人、2月:459人）
4	7月24日、8月28日、1月22日	トーハクファミリーコンサート	平成館ラウンジ	3回	1,038人	月イチ！トーハクキッズデー関連イベント（7月ピアノ:540人、8月チェロ:277人、1月バイオリン:221人）

2)学校との連携事業　　151回　　9,816人

①スクールプログラム、来館学校団体等への対応

137回　　9,748人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	通年	スクールプログラム	—	132回	9,712人	
2	通年	盲学校のためのスクールプログラム	本館地下教育普及スペース、本館展示室	5回	36人	

②出前授業等　　— 回　　— 人

③職場体験

11回　　31人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	通年	職場体験の受け入れ	本館及び東洋館展示室など	11回	31人	11校、のべ21日

④教員を対象とした研修　　2回　　29人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	1月18日	文京区美術科教員研修「はじめての日本美術」	本館地下教育普及スペース	1回	6人	
2	2月17日	教員研修「発掘品から見る縄文時代のくらし」	オンライン	1回	23人	

⑤その他の学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力に基づいた事業

1回　　8人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	10月13日	上野ナイトパークコンソーシアム	本館地下みどりのライオン	1回	8人	ポッドキャスト「10代、ミュージアムのよるラジオ」におけるスクールプログラム「はじめてのトーハク」レクチャー。人数は出演者及びスタッフ

3)児童生徒を対象とした刊行物、音声ガイドの制作

①刊行物　　9件　　136,228部 ＊トーハク記念アルバムとコレクションカードの合計含む

	名　称	発行部数	備　考
1	「日本文化のひろば」ワークシート	20,000部	
2	「紅型のできるまで」	2,000部	本館19室みどりのライオン体験コーナー工程見本展示
3	「親と子のギャラリー　日本美術のつくり方Ⅴ」ワークシート	10,000部	
4	ジュニアガイド「沖縄復帰50年記念特別展　琉球」	68,266部	琉球展関連
5	ジュニアガイド「トーハクものがたり」	31,530部	東京国立博物館創立150年記念特別展「国宝 東京国立博物館のすべて」関連

6	トーハク記念アルバム	1,745部	月イチ！トーハクキッズデーにて限定配布　(4月:134冊、5月:106冊、6月:129冊、7月:221冊、8月:95冊、9月:190冊、10月:170冊、11月:154冊、12月:70冊、1月:196冊、2月:154冊、3月:126冊)
7	トーハクコレクションカード	2,447部	月イチ！トーハクキッズデーにて限定配布　(4月:137枚、5月:134枚、6月:188枚、7月:250枚、8月:167枚、9月:250枚、10月:242枚、11月:250枚、12月:137枚、1月:250枚、2月:240枚、3月:202枚)
8	「博物館に初もうで」ワークシート「トーハクめでたいカルタづくり」	240部	月イチ！トーハクキッズデーにて限定配布。ウェブサイトでPDF版も公開。
9	「東福寺展」ジュニアガイド	―	東福寺展関連

②音声ガイド　― 件　― 台

③その他メディア　― 件　― 台

【京都国立博物館】

1)体験型プログラム等　2回　20,043人

①ハンズオン展示等

― 回　― 人

②ワークショップ

― 回　― 人

③その他の体験型プログラム

― 回　― 人

④児童生徒を対象とした展示

1回　19,983人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	5年1月2日～1月29日	新春特集展示「卯づくし―干支を愛でる―」	京都国立博物館　平成知新館	1回	19,983人	参加者は当該期間の入館者数

⑤児童生徒を対象とした鑑賞会

1回　60人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	8月3日	記者体験in京都国立博物館	京都国立博物館　平成知新館	1回	60人	京都市立中学校の生徒（美術部員）を招き、特別展「河内長野の霊地 観心寺と金剛寺―真言密教と南朝の遺産―」を鑑賞し、感想等を記事にまとめる「記者体験」を行った。今年度は特別展と関連させ、河内長野市教育委員会、大阪府立長野高等学校の協力のもと実施した。 講師：京都国立博物館　文化財ソムリエ2名・大阪府立長野高校の生徒10名（河内長野歴史遺産PR大使） 主催：京都市教育委員会・京都市中学校美術科教育研究会・京都国立博物館 協力：河内長野市教育委員会・大阪府立長野高等学校

2)学校との連携事業　19回　1,126人

①スクールプログラム、来館学校団体等への対応

7回　89人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	5月6日、11月18日	京都府立嵯峨野高等学校　2年生	京都府立嵯峨野高等学校	2回	15人	「京の文化財」をテーマとした探求活動への協力 講義・助言：水谷亜希（主任研究員）
2	6月10日	大津市立真野中学校　2年生	京都国立博物館	1回	4人	建築に関する調べ学習への協力 解説：大西征爾（環境整備係長）
3	8月30日	京都市立銅駝美術工芸高等学校　3年生	京都市立銅駝美術工芸高等学校	1回	29人	「文化財修理に関する授業」への協力 講義：大原嘉豊（保存修理指導室長）・森道彦（研究員）
4	9月26日	開智日本橋学園中学校　3年生	京都国立博物館	1回	5人	「京都の観光・文化と博物館」をテーマとした探求活動への協力 質問対応：水谷亜希（主任研究員）
5	11月17日	京都市立藤森中学校　2、3年生（育成学級）	京都国立博物館	1回	7人	特別展「京に生きる文化　茶の湯」見学にかかる基礎的な解説 解説：水谷亜希（主任研究員）
6	11月26日	京都市崇仁児童館 児童・保護者・引率	京都国立博物館	1回	29人	特別展「京に生きる文化　茶の湯」見学にかかる基礎的な解説 解説：水谷亜希（主任研究員）

②出前授業等

7回　501人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	6月14日	文化財に親しむ授業 京都市立広沢小学校　6年生	京都市立広沢小学校	1回	60人	教材：俵屋宗達筆「風神雷神図屏風」（複製）、講師：文化財ソムリエ
2	7月11日	文化財に親しむ授業 京都市立太秦中学校　2年生	京都市立太秦中学校	1回	202人	教材：俵屋宗達筆「風神雷神図屏風」（複製）、講師：文化財ソムリエ

3	9月16日	文化財に親しむ授業 京都市立向島東中学校　1、2年生（育成学級）	京都市立向島東中学校	1回	2人	教材：俵屋宗達筆「風神雷神図屏風」（複製）、講師：文化財ソムリエ
4	10月7日	文化財に親しむ授業 京都市立修学院第二小学校　6年生	京都市立修学院第二小学校	1回	75人	教材：雪舟筆「天橋立図」（複製）、講師：文化財ソムリエ
5	10月28日	文化財に親しむ授業 京都市立松ヶ崎小学校　4年生	京都市立松ヶ崎小学校	1回	62人	教材：雪舟筆「天橋立図」（複製）、講師：文化財ソムリエ
6	11月14日	文化財に親しむ授業 京都市立松原中学校　2年生	京都市立松原中学校	1回	80人	教材：尾形光琳筆「八橋図屏風」（複製）、講師：文化財ソムリエ
7	12月15日	文化財に親しむ授業 京都市立向島藤の木小学校　6年生	京都市立向島藤の木小学校	1回	20人	教材：俵屋宗達筆「風神雷神図屏風」（複製）、講師：文化財ソムリエ

③職場体験

1回　　2人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	11月9日、11日	京都市立西陵中学校 生き方探求・チャレンジ体験	京都国立博物館	1回	2人	

④教員を対象とした研修

1回　　34人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	9月2日	社会科教員のための向上講座（（小・総）社会科授業実践力向上講座、（中・高・総）社会科教員指導力向上講座）	京都国立博物館	1回	34人	講義「特別展＜河内長野の聖地　観心寺と金剛寺―真言密教と南朝の遺産―＞鑑賞ポイント」井並林太郎（研究員） 主催：京都市教育委員会、京都国立博物館、京都市小学校社会科教育研究会、京都市立中学校教育研究会社会科部会、京都市立高等学校社会科研究会

⑤その他の学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力に基づいた事業

3回　　500人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	6月21日	京都市立二条中学校　2年生 鑑賞の授業	京都市立二条中学校	1回	121人	複製（俵屋宗達筆「風神雷神図屏風」）を活用した授業への助言・当日の補助を行った
2	10月26日	京都市立洛水中学校　1年生 鑑賞の授業	京都市立洛水中学校	1回	85人	複製（俵屋宗達筆「風神雷神図屏風」）を活用した授業への助言・当日の補助を行った
3	12月12日、13日	京都市立洛北中学校　2年生 鑑賞の授業	京都市立洛北中学校	1回	294人	複製（俵屋宗達筆「風神雷神図屏風」）を活用した授業への助言・当日の補助を行った

3)児童生徒を対象とした刊行物、音声ガイドの制作

①刊行物

8件　　238,320部

	名　　称	発行部数	備　　考
1	特別展「最澄と天台宗のすべて」関連鑑賞ガイド「最澄さんと天台宗」	（日）24,000部 （英）1,820部 （中）800部 （韓）600部	4月発行。観覧者（子ども～大人）対象。4言語で作成し、ウェブサイトにも掲載。
2	特別展「河内長野の霊地 観心寺と金剛寺–真言密教と南朝の遺産–」関連鑑賞ガイド「歴史の舞台！観心寺と金剛寺」	（日）27,000部 （英）1,800部 （中）500部 （韓）500部	7月発行。観覧者（子ども～大人）対象。4言語で作成し、ウェブサイトにも掲載。 河内長野市教育委員会を通じて、河内長野市の小学校・中学校の全生徒に配付。
3	特別展「京に生きる文化　茶の湯」関連鑑賞ガイド「茶の湯のイロハ」	（日）70,700部 （英）7,200部 （中）2,500部 （韓）1,500部	9月発行。観覧者（子ども～大人）対象。4言語で作成し、ウェブサイトにも掲載。
4	博物館Dictionary No.134,168,208,227,228	10,000部	6月、5年1月、2月発行。観覧者（子ども～大人）対象。No.134,168,208は過去に発行した号を増刷。 ウェブサイトにも掲載。
5	子ども向けリーフレット「京都国立博物館へようこそ」	10,000部	11月増刷。観覧者（子ども～大人）対象。
6	新春特集展示「卯づくし―干支を愛でる―」ワークシート　うさぎうさぎ、なにといっしょ？	（日・英）11,000部 （中・韓）3,000部	5年1月発行。観覧者（6歳以上～）対象。
7	特別展「親鸞聖人生誕850年特別展　親鸞–生涯と名宝」関連鑑賞ガイド「親鸞さんと浄土真宗」	（日）55,000部 （英）6,700部 （中）1,700部 （韓）1,000部	3月発行。観覧者（子ども～大人）対象。4言語で作成し、ウェブサイトにも掲載。
8	「授業で使える！日本の絵画 鑑賞のヒント」	1,000部	3月発行。小中学校の教員向け。

②音声ガイド　　1件　　107台

	名　　称	台数	備　　考
1	名品ギャラリー ジュニア版音声ガイド（日本語・英語・中国語・韓国語）	107台	各言語につき、作品解説など22本作成。利用台数107台。

③その他メディア　　4件

	名　　称	発行部数	備　　考
1	虎BLOG	—	公式キャラクター「トラりん」のブログを活用し、展覧会やイベント等について親しみやすく紹介。
2	トラりんツイッター	—	公式キャラクター「トラりん」のTwitterを活用し、展覧会やイベント等について親しみやすく紹介。
3	トラりんFacebook	—	公式キャラクター「トラりん」のFacebookを活用し、展覧会やイベント等について親しみやすく紹介。
4	トラりんYouTube	—	公式キャラクター「トラりん」のYouTubeを活用し、展覧会やイベント等について親しみやすく紹介。

【奈良国立博物館】

1)体験型プログラム等　　863回　　45,514人

①ハンズオン展示等　　51回　　786人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	7月16日～8月28日	「阿弥陀如来立像（裸形）」のレプリカのハンズオン展示	東新館	39回	502人	※回数：会期中の開館日数 ※参加者数：着つけ体験参加者数
2	11月5日、11月10日、11月11日、11月12日、12月9日、12月16日、12月17日、1月21日、1月26日、1月27日、2月15日、3月11日	「阿弥陀如来立像（裸形）」のレプリカのハンズオン展示	地下回廊	12回	284人	※回数：展示日数 ※参加者数：着つけ体験参加者数

②ワークショップ　　136回　　7,935人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	見学・参加者数（人）	備　考
1	5月5日	特別展「大安寺のすべて―天平のみほとけと祈り―」関連　親子向けワークショップ「小花もようのかざりタイルをつくろう！」	地下回廊	3回	24人	
2	7月16日～8月28日	わくわくびじゅつギャラリー「はっけん！ほとけさまのかたち」関連ワークショップ「ほとけさまに服を着せよう！」	東新館	78回	見学者数：2,709人 着つけ体験参加者数：502人	※会期中の開館日毎日2回実施
3	7月16日～8月28日	わくわくびじゅつギャラリー「はっけん！ほとけさまのかたち」関連ワークショップ　仏像スケッチ	東新館	39回	1,371人	※回数：会期中の開館日数 ※参加者数：おえかきギャラリーに掲示されたおえかきシートの枚数より算出
4	7月25日～	わくわくびじゅつギャラリー「はっけん！ほとけさまのかたち」関連ワークショップ　「なりきり！ほとけさまのかたち」	YouTube	4回	2,000人	YouTube奈良博公式チャンネル「ならはくチャンネル」にて配信
5	11月5日、11月10日、11月11日、11月12日、12月9日、12月16日、12月17日、1月21日、1月26日、1月27日、2月15日、3月11日	ワークショップ「ほとけさまに服を着せよう！」	地下回廊	12回	見学者数：1,045人 着つけ体験参加者数：284人	※回数：実施日数

③その他の体験型プログラム　　— 回　　— 人

④児童生徒を対象とした展示　　673回　　36,653人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	4月1日～	地下回廊の仏像模型コーナーの子ども向け題箋の設置	地下回廊	317回	-人	地下回廊にある仏像模型コーナーに、子ども向け題箋2点を設置 ※回数：展示日数
2	4月1日～	なら仏像館の子ども向け題箋の設置	なら仏像館	317回	-人	なら仏像館に子ども向け題箋10点を設置 ※回数：展示日数
3	7月16日～8月28日	わくわくびじゅつギャラリー「はっけん！ほとけさまのかたち」	東新館	39回	36,653人	※回数：会期中の開館日数

⑤児童生徒を対象とした鑑賞会　　3回　　140人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	7月28日・7月29日	夏休み親子講座「親子で学ぼう 奈良の仏像」	講堂・東新館	2回	110人	奈良市教育委員会共催事業
2	8月5日	夏休みファミリー新聞教室 in 奈良	講堂・東新館	1回	30人	読売新聞共催、わくわくびじゅつギャラリー「はっけん！ほとけさまのかたち」の関連事業

2)学校との連携事業　　54回　　2,977人

①スクールプログラム、来館学校団体等への対応

54回　　2,977人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
学校プログラム「ならはく『世界遺産学習』」の実施校						
1	5月25日	北九州市立向洋中学校3年生	地下回廊・なら仏像館	1回	54人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館
2	6月10日	奈良市立富雄南小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	119人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館
3	6月17日	堺市立竹城台小学校6年生	地下回廊・なら仏像館	1回	41人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館
4	6月21日	奈良市立東市小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	25人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館
5	7月1日	奈良市立朱雀小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	46人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館
6	9月22日	奈良市立富雄第三小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	59人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館
7	9月27日	奈良市立帯解小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	19人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館
8	9月30日	奈良市立あやめ池小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	93人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館
9	10月7日	奈良市立柳生小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	10人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館
10	10月7日	奈良市立興東小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回		
11	10月7日	奈良市立済美小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	61人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館
12	10月21日	西宮市立鳴尾北小学校6年生	地下回廊・なら仏像館	1回	150人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館
13	10月26日	近畿大学付属中学校2年生	地下回廊・なら仏像館	2回	266人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館
14	10月27日	中央大学附属中学校2年生	地下回廊・なら仏像館	1回	169人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館
15	10月28日	百合学院高等学校2年生	地下回廊・なら仏像館	1回	76人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館
16	11月15日	奈良市立大宮小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	84人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館
17	11月18日	奈良市立伏見小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	133人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館
18	11月22日	奈良市立椿井小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	29人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館
19	11月22日	奈良市立明治小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	62人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館
20	11月22日	奈良市立三碓小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	96人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館
21	11月24日	奈良市立ならやま小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	78人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館
22	11月25日	奈良市立二名小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	83人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館
23	11月25日	奈良市立左京小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	49人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館
24	11月29日	奈良市立都跡小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	86人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館
25	11月29日	奈良市立富雄北小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	100人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館
26	12月9日	宮若市立宮若東中学校2年生のうち2組・3組	地下回廊・なら仏像館	1回	64人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館
27	1月26日	奈良市立佐保小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	56人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館
28	1月27日	奈良市立登美ヶ丘小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	88人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館
29	1月27日	奈良市立鶴舞小学校5年生	地下回廊・なら仏像館	1回	56人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館
30	2月15日	静岡市立城内中学校2年生のうち2組・3組	地下回廊・なら仏像館	2回	66人	当館より事前学習キットを提供し、事前学習を実施した上で来館

学校団体を対象にしたオンライン中継プログラムの実施						
31	10月11日	ウェブ会議システムを活用した展示案内プログラム（対象：奈良市立伏見南小学校5年生）	奈良市立伏見南小学校・なら仏像館	2回	74人	奈良市教育委員会との連携事業
32	10月17日	ウェブ会議システムを活用した展示案内プログラム（対象：奈良市立平城西小学校5年生）	奈良市立平城西小学校・なら仏像館	2回	62人	奈良市教育委員会との連携事業
33	11月28日・12月5日	遠隔操作ロボットを活用した展示案内プログラム（対象：大分市立西中学校1年生）	大分市立西中学校・なら仏像館	5回	140人	大分県商工観光労働部先端技術挑戦室課との連携事業
34	12月12日	ウェブ会議システムを活用した展示案内プログラム（対象：奈良市立大安寺西小学校5年生）	奈良市立大安寺西小学校・なら仏像館	3回	80人	奈良市教育委員会との連携事業
35	1月16日	遠隔操作ロボットを活用した展示案内プログラム（対象：大分市立戸次小学校6年生）	大分市立戸次小学校・なら仏像館	2回	66人	大分県商工観光労働部先端技術挑戦室課との連携事業
36	1月23日	遠隔操作ロボットを活用した展示案内プログラム（対象：平松学園向陽中学校3年生）	平松学園向陽中学校・なら仏像館	1回	38人	大分県商工観光労働部先端技術挑戦室課との連携事業
37	1月23日	遠隔操作ロボットを活用した展示案内プログラム（対象：由布市立東庄内小学校6年生）	由布市立東庄内小学校・なら仏像館	1回	32人	大分県商工観光労働部先端技術挑戦室課との連携事業
38	1月30日	遠隔操作ロボットとウェブ会議システムを活用したオンライン交流学習（対象：奈良市立鼓阪北小学校5年生と大分県国東市立国見小学校5年生）	奈良市立鼓阪北小学校・大分県国東市立国見小学校・なら仏像館	2回	43人	奈良市教育委員会ならびに大分県商工観光労働部先端技術挑戦室課との連携事業
39	2月6日	ウェブ会議システムを活用した展示案内プログラム（対象：奈良市立飛鳥小学校5年生）	奈良市立飛鳥小学校・なら仏像館	2回	82人	奈良市教育委員会との連携事業
学校のフィールドワークの受け入れ						
40	10月5日	奈良教育大学附属中学校のフィールドワーク授業「ならめぐり」の受け入れ	講堂・なら仏像館	2回	42人	奈良教育大学附属中学校との連携事業

②出前授業等　　— 回　　— 人

③職場体験　　— 回　　— 人

④教員を対象とした研修　　— 回　　— 人

⑤その他の学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力に基づいた事業
— 回　　— 人

3)児童生徒を対象とした刊行物、音声ガイドの制作

①刊行物　　4件　　101,318部

	名　称	発行部数	備　考
1	特別展「大安寺のすべて」の鑑賞ガイド「大安寺のひみつーオニやんの展覧会レポートー」	14,000部	4月発行。観覧者（子ども～大人）対象。特別展会場にて配布。また、PDFデータを特別展特設ウェブサイトや当館ウェブサイト内にある教育普及ウェブサイト「ならはく教育普及室」にて公開した。
2	わくわくびじゅつギャラリー「はっけん！ほとけさまのかたち」のワークシート「クイズではっけん！ほとけさまのハテナ」	25,000部	7月発行。観覧者（子ども～大人）対象。特別展会場にて配布。また、PDFデータを当館ウェブサイト内にある教育普及ウェブサイト「ならはく教育普及室」にて公開した。
3	仏像をもっと楽しむ鑑賞ガイド「かたちで見分ける！仏像4つのグループ」	60,000部	12月発行。観覧者（子ども～大人）対象。なら仏像館にて配布。また、PDFデータを当館ウェブサイト内にある教育普及ウェブサイト「ならはく教育普及室」にて公開した。
4	なら仏像館クイズ＆ミッションシート、解答解説シート	2,318部	学校プログラム ならはく「世界遺産学習」の現地学習の際に配布する教材。

②音声ガイド　　0件　　0台

③その他メディア　　3件

	名　称	件数	備　考
1	動画「ならはく世界遺産学習」	1件	学校プログラム ならはく世界遺産学習の事前学習教材として、当館の案内動画をYouTube上で公開した
2	学校プログラムの事前学習シート「仏像ちょこっとクイズ」	1件	PDFにし、学校プログラムで来館する各学校に提供した。
3	わくわくびじゅつギャラリー「はっけん！ほとけさまのかたち」の会場内公開動画「おしえて！仏像ハカセ」	1件	わくわくびじゅつギャラリー「はっけん！ほとけさまのかたち」の会期中に、会場無内に設置した液晶モニターにて、動画をループ再生、公開した。

【九州国立博物館】

1)体験型プログラム等　　328回　　1,781人

①ハンズオン展示（あじっぱ・あじ庵・あじぎゃら）等
310回

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	4月1日～3月31日	おうちdeあじっぱ	あじっぱ	310回	—	展示日数

②ワークショップ　　6回　　459人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数（人）	備　考
1	4月30日	特集展示「きゅーはく女子考古部プレゼンツ かわいい考古学のススメ」展関連イベント　古代の宴へようこそ！	ミュージアムホール	1回	200人	
2	8月11日	甕棺墓埋葬体験ワークショップ「弥生時代の棺 甕棺に入ろう」	ミュージアムホール	1回	25人	
3	8月28日	甕棺墓埋葬体験ワークショップ「弥生時代の棺 伊都国王のお葬式」	ミュージアムホール	1回	20人	
4	11月5日	ワークショップぺたぺたデコレーション ～貼花に挑戦！～	研修室	1回	10人	
5	11月12日	ワークショップ ぺたぺたデコレーション ～貼花に挑戦	研修室	1回	9人	
6	11月19日	特別展「ポンペイ」 子ども向けワークショップ～天然大理石のモザイクコースター～	研修室	1回	195人	

③その他の体験型プログラム　　12回　　1,322人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数（人）	備　考
1	8月1日	きゅーはくきゃらばん（民族楽器体験）	福岡県庁	1回	60人	移動博物館車「きゅーはく号」運行
2	9月21日	きゅーはくきゃらばん（民族楽器・玩具体験、レプリカ触察体験）	春日市立日の出小学校	1回	60人	移動博物館車「きゅーはく号」運行
3	10月3日	きゅーはくきゃらばん（民族楽器・玩具体験、レプリカ触察体験）	大野城市立大野小学校放課後児童クラブ	1回	60人	移動博物館車「きゅーはく号」運行
4	10月16日	きゅーはくきゃらばん（工作体験、民族楽器体験、レプリカ触察体験）	イオンモール筑紫野	1回	150人	移動博物館車「きゅーはく号」運行
5	10月27日	きゅーはくきゃらばん（民族楽器・玩具体験、レプリカ触察体験）	福岡市立百道小学校	1回	95人	移動博物館車「きゅーはく号」運行
6	11月23日	暮らしをかえる「め」の機器展（レプリカ及び九博建築模型を触るプログラム）	福岡市市民福祉プラザ	1回	200人	
7	11月27日	みんなdeきゅーはくを楽しもう‼　視覚障がい者向けバックヤードツアー	研修室他	1回	25人	（同伴者を含む）
8	1月14日	きゅーはくきゃらばん（民族楽器・玩具体験、レプリカ触察体験）	ソラリアプラザ	1回	450人	移動博物館車「きゅーはく号」運行
9	2月27日	きゅーはくきゃらばん（民族楽器体験）	筑紫野市立筑紫東小学校	1回	83人	
10	3月7日	きゅーはくきゃらばん（民族楽器体験）	うきは市立千年小学校	1回	40人	
11	3月11日	外国人のための やさしい日本語で「 博物館の見学」	研修室他	1回	15人	
12	3月14日	きゅーはくきゃらばん（民族楽器体験）	太宰府市立太宰府南小学校	1回	84人	

④児童生徒を対象とした展示　　0回　　0人

⑤児童生徒を対象とした鑑賞会　　0回　　0人

2)学校との連携事業　　81回　　5,500人

①スクールプログラム、来館学校団体等への対応

35回　　1,862人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	5月18日	みやま市立東山中学校	ミュージアムホール/文化交流展示室/バックヤード	1回	43人	
2	5月20日	久留米市立安武小学校	ミュージアムホール/文化交流展示室/バックヤード（外回り）	1回	73人	
3	5月24日	太宰府市立太宰府中学校	ミュージアムホール/文化交流展示室/バックヤード（外回り）	1回	130人	
4	5月31日	小郡市立小郡小学校	ミュージアムホール/特別展示室/	1回	126人	
5	6月3日	筑紫野市立天拝小学校	ミュージアムホール/バックヤード/文化交流展示室/あじっぱ	1回	55人	
6	6月16日	宗像市立玄海小学校	研修室/バックヤード/文化交流展示室/あじっぱ	1回	20人	
7	6月17日	久留米市立青峰小学校	研修室/バックヤード/文化交流展示室/あじっぱ	1回	12人	
8	6月22日	上毛町立西吉富小学校	研修室/バックヤード/文化交流展示室/あじっぱ	1回	29人	
9	6月24日	大任町立今任小学校	研修室/バックヤード/文化交流展示室	1回	20人	
10	6月28日	大川市立川口小学校	ミュージアムホール/文化交流展示室/バックヤード	1回	53人	

11	6月30日	添田町立添田小学校	ミュージアムホール/文化交流展示室/バックヤード	1回	50人	
12	7月1日	福津市立福間中学校	研修室/文化交流展示室/和室/バックヤード	1回	6人	
13	7月12日	久留米市立櫛原中学校	ミュージアムホール/バックヤード/文化交流展示室	1回	67人	
14	9月1日	久留米市立西牟田小学校	ミュージアムホール/バックヤード/文化交流展示室	1回	74人	
15	9月2日	大任町立大任小学校	研修室/文化交流展示室/バックヤード	1回	34人	
16	9月7日	柳川市立柳南中学校	ミュージアムホール/バックヤード/文化交流展示室	1回	64人	
17	9月8日	みやま市立山川中学校	ミュージアムホール/バックヤード/文化交流展示室	1回	49人	
18	9月15日	赤村立赤小学校	ミュージアムホール/バックヤード/文化交流展示室	1回	42人	
19	9月16日	田川市立大藪小学校	ミュージアムホール/バックヤード/文化交流展示室	1回	72人	
20	10月5日	赤村立赤中学校	研修室/バックヤード/文化交流展示室	1回	34人	
21	10月12日	鞍手町立古月小学校	第１会議室/バックヤード/文化交流展示室	1回	19人	
22	10月14日	飯塚市立庄内中学校	ミュージアムホール/文化交流展示室/バックヤード（外回り）	1回	101人	
23	11月1日	小郡市立立石小学校	研修室/バックヤード/文化交流展示室	1回	20人	
24	11月8日	広川町立広川中学校	研修室/文化交流展示室/和室/バックヤード	1回	21人	
25	11月17日	行橋市立中京中学校	ミュージアムホール/文化交流展示室/バックヤード（外回り）	1回	99人	
26	11月18日	うきは市立吉井小学校	ミュージアムホール/バックヤード/文化交流展示室	1回	48人	
27	11月22日	久留米市立柴刈小学校	研修室/バックヤード/文化交流展示室	1回	13人	
28	11月25日	久留米市立御井小学校	ミュージアムホール/バックヤード/文化交流展示室	1回	77人	
29	11月30日	久留米市立長門石小学校	ミュージアムホール/文化交流展示室	1回	93人	
30	12月1日	古賀市立古賀西小学校	ミュージアムホール/文化交流展示室/あじっぱ	1回	109人	
31	12月7日	大任町立大任中学校	ミュージアムホール/バックヤード/文化交流展示室/あじっぱ	1回	54人	
32	1月20日	岡垣町立内浦小学校	研修室/バックヤード/文化交流展示室/あじっぱ	1回	13人	
33	1月24日	久留米市立荘島小学校	研修室/バックヤード/文化交流展示室/あじっぱ	1回	34人	
34	2月1日	久留米市三潴小学校	ミュージアムホール/バックヤード/文化交流展示室/あじっぱ	1回	75人	
35	2月28日	大刀洗町立大刀洗小学校	研修室/バックヤード/文化交流展示室/あじっぱ	1回	33人	

②出前授業等

13回　779人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	7月13日	ふくおか県政出前講座	福岡建設専門学校	1回	200人	
2	7月18日	福岡県手話通訳問題研究会研修会	クローバープラザ	1回	80人	
3	9月18日	出前講座「九州国立博物館の魅力とは」	ゆめさが大学唐津校	1回	47人	
4	11月17日	出前講座「九州国立博物館の魅力とは」	ゆめさが大学鳥栖校	1回	49人	
5	12月6日	出前講座「九州国立博物館の魅力とは」	ゆめさが大学佐賀校	1回	80人	
6	12月19日	文化交流展示室よりリモート授業	別府市立東山小学校 姫島存立姫島小学校	1回	20人	バックヤード、文化交流展示室よりリモート授業
7	1月10日	出前講座「九州国立博物館の魅力とは」	ゆめさが大学佐賀校	1回	80人	
8	1月17日	出前講座「九州国立博物館の魅力とは」	ゆめさが大学唐津校	1回	50人	
9	1月23日	文化交流展示室よりリモート授業	南種子町立南種子中学校	1回	40人	文化交流展示室よりリモート授業

10	1月26日	総合的な学習の時間「キャリア教育について」	太宰府市立太宰府東中学校	1回	40人	
11	1月30日	文化交流展示室よりリモート授業	西之表市立上西小学校	1回	7人	文化交流展示室よりリモート授業
12	2月6日	文化交流展示室よりリモート授業	中種子町立南界小学校	1回	11人	文化交流展示室よりリモート授業
13	3月17日	出前講座「九州国立博物館の魅力とは」	直方市立植木中学校	1回	75人	

③職場体験

0回　　0人

④教員を対象とした研修

2回　　97人

	開催日		開催場所	回数	参加者数	備　考
1	7月29日	福岡市教職員互助会	研修室	1回	66人	
2	8月23日	福岡市中学校社会科研究会	研修室	1回	31人	

⑤その他の学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力に基づいた事業

31回　　2,762人

	開催日		開催場所	回数	参加者数	備　考
1	4月1日～5年3月31日	学校貸出キット「きゅうぱっく」の貸し出し	―	30回	2,741人	計31パック
2	8月6日	全国高等学校歴史学フォーラム2022	研修室 ミュージアムホール	1回	21人	

3)児童生徒を対象とした刊行物、音声ガイドの制作

①刊行物

1件　　2,500部

	名　　称	冊数	備　　考
1	まるわかりきゅーはく	2,500部	スクールプログラムでの来館学校団体及び出前授業の実施校

②音声ガイド　　―件　　―台

③その他メディア　　―件　　―回

1-(3)-①-4　大学生・大学院生を対象とした教育事業

令和5年3月31日現在

	東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
	インターンシップ	0 人	インターンシップ	3 人	インターンシップ	0 人	インターンシップ	0 人
	大学との連携講座	1 件 887 人	大学との連携講座	1 件 19 人	大学との連携講座	2 件 4 人	大学との連携講座	1 件 19 人
	見学対応	3 回 10 人	見学対応	3 回 31 人	見学対応	0 回 0 人	見学対応	1 回 13 人
	その他	0 回 0 人	その他	23 回 184 人	その他	3 回 138 人	その他	4 回 117 人

【東京国立博物館】

1)　インターンシップ　　0 人

受入期間			
受入部署			
参加者数	0 人	学校数	0 大学／　0 専門学校
担当研究員数	0 人		
事業内容	新型コロナウイルスの影響を勘案し、インターンシップ受け入れは中止した。		

2)　大学等との連携講座　　1 件　　887 人

期　　間	9月14日		
回　　数	1回		
開催場所	動画配信方式によるオンライン		
参加者数	887 人	学校数	61
担当研究員数	4 人		
事業内容	参加者希望者増加のため、キャンパスメンバーズ校を対象とした教育連携事業「博物館セミナー」は大講堂での対面から、動画配信に変更した。		

3)　見学対応　　3 回　　10 人

期　　間	年間		
開催場所	全館対象		
参加者数	30 人	学校数	2 大学／　1 専門学校
担当研究員数	3人		
事業内容	対面及びオンラインでプログラムを実施し、参加学生は当日及び後日に自由見学した。		

4)　その他　　0 回　　0 人

【京都国立博物館】

1)　インターンシップ　　3 人

受入期間	8月8日～9月16日		
受入部署			
参加者数	3 人	学校数	3 大学／　0 専門学校
担当研究員数	2 人		
事業内容	文化財修復大学院生インターンシップ協議会より推薦を受けた学生について、国宝修理装潢師連盟の協力を得て、文化財修復に関わる加盟大学院生3名のインターンを文化財保存修理所にて受け入れた。12月3日にオンラインにて3名による報告会を行った。（出席者40名）		

2)　大学等との連携講座　　1 件　　19 人

内　　容	京都大学大学院人間・環境学研究科の歴史文化社会論講座
実施日	通年
開催場所	京都国立博物館
受入人数	19 人
担当研究員数	5 人

3) 見学対応　　3 回　　31 人

期　　間	年間		
開催場所	京都国立博物館		
参加者数	31 人	学校数	3 大学／　　0 専門学校
担当研究員数	4 人		
事業内容	・大阪大谷大学（5人）「歴史観光フィールドワーク」への協力 活動紹介：水谷亜希（主任研究員）口 ・鳥取大学大学院（3人）「博物館と社会の繋がり」をテーマとしたフィールドワークへの協力 質問対応：上杉智英（研究員）・水谷亜希（主任研究員） ・立命館大学（23人）名品ギャラリー展示に関する解説・見学 作品解説：永島明子・井並林太郎		

4) その他　　23 回　　184 人

期　　間	5月18日、5月25日、6月1日、6月8日、6月29日、7月6日、7月20日、7月27日、8月31日、9月7日、9月21日、9月28日、10月5日、10月12日、10月19日、11月2日、11月9日、11月30日、12月7日、5年1月11日、1月25日		
回　　数	21 回		
開催場所	京都国立博物館		
参加者数	21 人	学校数	13 大学／　　0 専門学校
担当研究員数	4 人		
事業内容	「文化財ソムリエに向けたスクーリング」 京都市内の小中学校で文化財の高精細複製品を用いた訪問授業を行う「文化財ソムリエ」養成のためのスクーリングを実施した。 参加者は、京都市内及びその周辺の大学で日本文化等を専門に学ぶ大学生、大学院生。スクーリングでは、教材となる文化財の取り扱い方法や作品の専門的な知識について当館の研究員が解説をした。また、授業案の作成では文化財ソムリエ同士の主体的な議論を促し、必要に応じて助言をした。		

期　　間	5月7日、8月9日		
回　　数	2 回		
開催場所	京都国立博物館		
参加者数	163 人	学校数	34 大学／　　0 専門学校
担当研究員数	2 人		
事業内容	京都国立博物館キャンパスメンバーズ会員校の学生・教職員を対象とした特別展「最澄と天台宗のすべて」、特別展「河内長野の霊地　観心寺と金剛寺」にかかる講演会を実施した。		

【奈良国立博物館】

1) インターンシップ　　0 人

2) 大学等との連携講座　　2 件　　4 人

内　　容	奈良女子大学大学院人間文化研究科との連携講座
実施日	前期、後期
開催場所	奈良女子大学、奈良国立博物館
受入人数	2 人　（前期2人、後期0人）
担当研究員数	1 人

内　　容	神戸大学大学院人文学研究科との連携講座
実施日	通年
開催場所	奈良国立博物館
受入人数	2 人
担当研究員数	2 人

3) 見学対応　　0 回　　0 人

4) その他　　3 回　　138 人

期　　間	4月28日、7月28日、12月22日		
回　　数	3 回		
開催場所	奈良国立博物館		
参加者数	138 人	学校数	12 大学／　　1 専門学校
担当研究員数	3 人		
事業内容	奈良国立博物館キャンパスメンバーズ加盟校の学生・教職員を対象とした講演会を、特別展「大安寺のすべて―天平のみほとけと祈り―」、「中将姫と當麻曼荼羅―祈りが紡ぐ物語―」、「春日大社 若宮国宝展―祈りの王朝文化―」において実施した。		

【九州国立博物館】

1) インターンシップ　　0 人

2) 大学等との連携講座　　1 件　　19 人

内　　容	放送大学の面接授業
実施日	11月24日、25日
開催場所	九州国立博物館研修室
受入人数	19人
担当研究員数	8人

3) 見学対応　　1 回　　13 人

期　　間	6月5日		
開催場所	九州国立博物館		
参加者数	13 人	学校数	大学／　　0 専門学校
担当研究員数	1 人		
事業内容	「博物館実習」学外見学実習		

4) その他　　4 回　　117 人

期　　間	8月16日、17日、18日、19日、21日、22日（6日間）		
回　　数	1回		
開催場所	全館		
参加者数	14 人	学校数	10 大学／　　0 専門学校
担当研究員数	2 人		
事業内容	博物館実習		

期　　間	11月15日～11月20日		
回　　数	1回		
開催場所	九州国立博物館1階エントランス		
参加者数	－人	学校数	1 大学／　　0 専門学校
担当研究員数	2 人		
事業内容	九州産業大学「撮る博物館」展示		

期　　間	5年2月14日～2月19日		
回　　数	1回		
開催場所	九州国立博物館1階エントランス		
参加者数	－人	学校数	1 大学／　　0 専門学校
担当研究員数	－人		
事業内容	九州女子大学　第55回卒業書作展		

期　　間	7月8日		
回　　数	1回		
開催場所	九州国立博物館1階エントランス（オープンカフェ）		
参加者数	103 人	学校数	1 大学／　　0 専門学校
担当研究員数	－　　人		
事業内容	カフェコンサート		

1-(3)-①-5 キャンパスメンバーズ

令和5年3月31日現在

東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
61校	34校（※）	27校（※）	22校

※うち京都国立博物館・奈良国立博物館共通加入23校

【東京国立博物館】

①　加入校数（61校）

	学校名	学生数	入会日	備考
1	桜美林大学	11,148人	20年4月1日	
2	武蔵野美術大学	8,195人	20年4月1日	
3	文化学園（文化学園大学、 文化学園大学短期大学部、文化ファッション大学院大学、文化服装学院、文化外国語専門学校）	8,668人	20年4月1日	
4	東京学芸大学	5,990人	20年4月1日	
5	東京藝術大学	4,832人	20年4月1日	
6	東京大学	35,085人	20年4月1日	
7	お茶の水女子大学	3,329人	20年4月1日	
8	大正大学	5,322人	20年4月1日	
9	東海大学	30,970人	20年4月1日	
10	青山学院大学・青山学院女子短期大学	21,447人	20年4月1日	
11	メイ・ウシヤマ学園（ハリウッド大学院大学、ハリウッド美容専門学校）	575人	20年4月1日	
12	多摩美術大学	5,500人	20年4月1日	
13	立教大学	22,815人	20年4月1日	
14	東京都立大学	9,708人	20年4月1日	
15	女子美術大学・女子美術大学短期大学部	3,973人	20年4月1日	
16	東京造形大学	1,988人	20年4月1日	
17	法政大学	38,379人	20年4月1日	
18	筑波大学	20,104人	20年4月1日	
19	昭和女子大学	6,595人	20年4月1日	
20	実践女子大学・実践女子短期大学	4,860人	20年5月1日	
21	東洋大学	33,274人	20年6月1日	
22	東洋美術学校	1,246人	20年6月1日	
23	日本大学（芸術学部・芸術学研究科）	4,700人	20年6月1日	
24	文教大学	9,054人	20年7月1日	
25	上智学院（上智大学、上智短期大学部、上智社会福祉専門学校）	15,869人	20年10月1日	
26	国際基督教大学	3,428人	21年4月1日	
27	学習院女子大学	1,800人	21年11月1日	
28	獨協大学	8405人	22年4月1日	
29	学習院大学	10,320人	22年4月1日	
30	東京工業大学	12,514人	22年7月1日	
31	日本女子大学	8,396人	23年4月1日	
32	二松学舎大学	3,384人	23年5月1日	
33	東京家政大学・東京家政大学短期大学部	7,594人	23年6月1日	
34	神奈川大学	19,336人	24年6月1日	
35	日本工業大学	4,517人	24年7月1日	
36	東京女子大学	4,299人	24年8月1日	
37	中央大学（文学部・文学研究科）	4,208人	25年6月1日	
38	麗澤大学	2,779人	25年6月1日	
39	慶応義塾大学	45,059人	25年8月1日	
40	共立女子大学・共立女子短期大学	6,310人	26年4月1日	
41	成城大学（文芸学部・文学研究科）	1,730人	26年4月1日	
42	日本文化大學	1,058人	27年4月1日	
43	鶴見大学（文学部・文学研究科）	1,429人	27年5月1日	
44	十文字学園女子大学	4,282人	27年6月1日	
45	早稲田大学	51,347人	27年6月1日	
46	横浜国立大学	10,185人	28年4月1日	
47	國學院大學・國學院大學北海道短期大学部	11,657人	28年4月1日	
48	聖心女子大学	2,810人	28年5月1日	
49	津田塾大学	3,813人	29年8月1日	
50	清泉女子大学	2,141人	29年10月1日	
51	立正大学（文学部）	2,237人	30年4月1日	
52	東京国際大学・東京国際大学付属日本語学校	6,737人	30年4月1日	
53	明治大学（文学部・文学研究科）	36,123人	30年5月1日	
54	大妻女子大学・大妻女子大学短期大学部	8,313人	31年4月1日	
55	宝塚大学	1,155人	元年5月29日	
56	東京理科大学	20,918人	2年4月1日	
57	駒澤大学	15,348人	2年8月1日	
58	中央学院大学	3,424人	3年4月1日	
59	東京家政学院大学	1,730人	4年7月25日	
60	日本体育大学	7,947人	4年8月1日	
61	東京女子医科大学	3,461人	4年11月1日	

※キャンパスメンバーズ対象人数が学生＋教職員数のため、学生数には教職員の人数も含む。

【京都国立博物館】

①　加入校数（34校）

	学校名	学生数	入会日	入会内容	備考
1	学校法人　瓜生山学園	16,513人	18年6月1日	京博のみ	
2	帝塚山大学	3,645人	18年6月1日	奈良博との共通加入	
3	奈良女子大学	2,674人	18年6月1日	奈良博との共通加入	
4	嵯峨美術大学、嵯峨美術短期大学	1,118人	18年7月1日	奈良博との共通加入	
5	学校法人　京都女子学園	6,821人	18年7月1日	奈良博との共通加入	
6	京都精華大学	3,803人	18年7月1日	奈良博との共通加入	
7	京都橘大学	6,779人	18年7月1日	奈良博との共通加入	
8	龍谷大学	20,263人	18年7月1日	奈良博との共通加入	
9	成安造形大学	931人	18年8月1日	京博のみ	
10	京都大学	23,099人	18年9月1日	奈良博との共通加入	
11	近畿大学文芸学部、近畿大学大学院総合文化研究科	2,165人	18年9月1日	奈良博との共通加入	
12	花園大学	1,682人	18年11月1日	京博のみ	
13	大谷大学	3,344人	18年12月1日	京博のみ	
14	佛教大学	13,853人	19年4月1日	奈良博との共通加入	
15	京都工芸繊維大学	3,959人	19年6月1日	奈良博との共通加入	
16	学校法人　同志社　（同志社大学、同志社女子大学、同志社高等学校、同志社香里高等学校、同志社女子高等学校、同志社国際高等学校）	37,978人	19年6月1日	奈良博との共通加入	
17	奈良大学	4,113人	19年6月1日	奈良博との共通加入	
18	奈良先端科学技術大学院大学	1,127人	19年12月1日	奈良博との共通加入	
19	就実大学 人文科学部	984人	20年4月1日	奈良博との共通加入	
20	京都市立芸術大学	1,106人	20年8月1日	京博のみ	
21	大阪大学、大阪大学歯学部附属歯科技工士学校	25,496人	20年12月1日	奈良博との共通加入	
22	京都外国語大学　京都外国語大学短期大学	6,195 人	21 年 8 月 1 日	奈良博との共通加入	
23	学校法人　関西大学（関西大学、関西大学第一高等学校、関西大学北陽高等学校、関西大学高等部）	32,488人	23年6月1日	奈良博との共通加入	
24	京都府立大学	2,202人	23年7月1日	京博のみ	
25	学校法人　京都産業大学	16,218人	24年8月1日	京博のみ	
26	学校法人　立命館	36,979人	26年4月1日	奈良博との共通加入	
27	学校法人　二本松学院	3,354人	29年4月1日	京博のみ	
28	四天王寺大学 人文社会学部	2,827人	29年5月1日	奈良博との共通加入	
29	学校法人　関西学院	27,214人	30年4月1日	奈良博との共通加入	
30	大手前大学	3,728人	30年6月1日	京博のみ	
31	大阪大谷大学	2,930人	30年11月1日	奈良博との共通加入	
32	滋賀大学	3,722人	2年4月1日	京博のみ	
33	追手門学院大学　文学部・国際教養学部	3,812人	4年6月1日	奈良博との共通加入	
34	京都先端科学大学　人文学部・人間文化研究科	701人	4年6月1日	京博のみ	

【奈良国立博物館】

①加入校数（27校）

	学校名	学生数	入会日	入会内容	備考
1	奈良教育大学	1,255人	18年4月4日	奈良博のみ	
2	帝塚山大学	3,645人	18 年 5 月 8 日	京博との2館併用	
3	奈良女子大学	2,674人	18年5月15日	京博との 2 館併用	
4	嵯峨美術大学、嵯峨美術短期大学	1,118人	18年6月9日	京博との 2 館併用	
5	京都精華大学	3,803人	18年6月28日	京博との 2 館併用	
6	京都橘大学	6,779人	18年6月30日	京博との 2 館併用	
7	龍谷大学、龍谷大学短期大学部	20,662人	18年6月30日	京博との 2 館併用	
8	京都大学	23,099人	18年8月22日	京博との 2 館併用	
9	近畿大学文芸学部、近畿大学大学院総合文化研究科	2,165人	18年8月24日	京博との 2 館併用	
10	佛教大学	13,853人	19年4月1日	京博との 2 館併用	
11	奈良大学	4,113人	19 年 5 月 2 日	京博との 2 館併用	
12	京都工芸繊維大学	3,959人	19年6月1日	京博との 2 館併用	
13	学校法人　同志社　（同志社大学、同志社女子大学、同志社高等学校、同志社香里高等学校、同志社女子高等学校、同志社国際高等学校）	37,978人	19年6月1日	京博との 2 館併用	
14	奈良先端科学技術大学院大学	1,127人	19年11月7日	京博との 2 館併用	
15	就実大学　人文科学部	984人	20年4月1日	京博との 2 館併用	
16	天理大学	3,013人	20 年 7 月 1 日	奈良博のみ	
17	大阪大学、大阪大学歯学部附属歯科技工士学校	25,496人	20年12月1日	京博との 2 館併用	
18	京都外国語大学、京都外国語短期大学	6,195人	21年8月1日	京博との 2 館併用	
19	学校法人　関西大学（関西大学、関西大学第一高等学校、関西大学北陽高等学校、関西大学高等部）	32,488人	23年6月1日	京博との 2 館併用	
20	奈良工業高等専門学校	1,111人	23年7月1日	奈良博のみ	
21	学校法人　立命館	36,979人	26年4月1日	京博との 2 館併用	
22	京都女子大学	6,821人	29年4月1日	京博との 2 館併用	
23	四天王寺大学　人文・社会学部	2,827人	29年5月1日	京博との 2 館併用	
24	学校法人　関西学院	27,214人	30年4月1日	京博との 2 館併用	
25	大阪大谷大学	2,930人	30年11月1日	京博との 2 館併用	
26	奈良県立大学	634人	2年6月1日	奈良博のみ	
27	追手門学院大学　文学部・国際教養学部	1,268人	4年6月1日	京博との 2 館併用	

【九州国立博物館】

① 加入校数（22校）

	学校名	学生数	入会日	備考
1	九州産業大学	10,634人	19年4月1日	
2	久留米大学	7,219人	19年4月1日	
3	筑紫女学園大学	2,850人	19年4月1日	
4	福岡教育大学	2,826人	19年4月1日	
5	福岡大学	20,119人	19年4月1日	
6	九州産業大学造形短期大学部	308人	19年4月1日	
7	福岡女子短期大学	332人	19年4月1日	
8	久留米大学医学部附属臨床検査専門学校	129人	19年4月1日	
9	久留米大学附設高等学校	621人	19年4月1日	
10	筑紫女学園高等学校	1,254人	19年4月1日	
11	筑紫台高等学校	1,407人	19年4月1日	
12	福岡大学附属大濠高等学校	1,918人	19年4月1日	
13	福岡大学附属若葉高等学校	888人	19年4月1日	
14	放送大学福岡学習センター	2,624人	19年5月1日	
15	九州大学	18,973人	20年5月1日	
16	九州情報大学	490人	21年4月1日	
17	日本経済大学（福岡キャンパス）	2,421人	21年5月1日	
18	第一薬科大学	1,017人	27年4月1日	
19	福岡工業大学	4,452人	2年10月1日	
20	福岡工業大学短期大学部	374人	2年10月1日	
21	福岡工業大学附属城東高等学校	1,992人	2年10月1日	
22	福岡女子大学	1,096人	24年4月1日	30年一時退会、3年4月再入会

1-(3)-①-6 「留学生の日」

館名・日程	内容	アンケート結果概要
東京国立博物館 10 月 1 日（土）	○来館者数　2,223 人 　留学生　　59 人《0 人（中止）》 ・寄席イベント「トーハク笑楽座」を実施 ・博物館内のアジアに関わる樹木を紹介する樹木ツアー	・留学生アンケートは未実施
京都国立博物館 1 月 9 日(月・祝) 9：30～17：00	○来館者数　1,222 人《569 人》 　留学生　　78 人《45 人》 ・名品ギャラリー（平常展示）観覧料無料 ・同日開催の新春イベント「芸舞妓　春の舞」の優先予約	・留学生アンケート回答者数 6 人 （回収率 8%） ・来館頻度：来たことがある 33% ・「留学生の日」参加：初めて 100% ・認知経路：ポスター・チラシを見て 17%、HP を見て 50%、チラシをもらって 0%、友人・教師 0%　他 33% ・展示内容:とても良かった 50%、良かった 50%、普通以下 0% ・出身国：日本 17%、中国 50%、アメリカ 17%
奈良国立博物館 11 月 26 日(土) 9：30～17:00	○来館者数　　375 人《530 人》 （なら仏像館 360 人＋イベント 15 人） 　留学生　　25 人《31 人》 （なら仏像館 12 人＋イベント 13 人） ・「名品展」の無料観覧 ・留学生の日関連イベント「書画作品に挑戦しよう！」を実施	・関連イベント留学生アンケート回答者数 13 人（回収率 100%） ・来館頻度：来たことがある 33% ・認知経路：チラシ 15%、友人・教師 15%、大学からの紹介 46%、その他 24% ・出身国：中国 4、マレーシア 3、台湾、バングラディシュ、ベトナム、イギリス、ドイツ、チェコ各 1
九州国立博物館 11 月 3 日(木・祝) 9：30～17：00	○来館者数 文化交流展(平常展)　3,190 人《1,284 人》 令和 4 年度留学生イベント 「茶道体験×バックヤードツアー」 参加者 20 人 ※同伴者のカウントはなし ※特別展「ポンペイ」観覧者は含まない ・文化交流展（平常展）のみ無料観覧	・留学生アンケート回答者数 22 人 ・出身国：アメリカ 9 人、中国 7 人、ドイツ 2 人、台湾 1 人、韓国 1 人、イギリス 1 人、シリア 1 人 ・来館回数：1 回 9 人、2 回 7 人、3 回 3 人、4 回 2 人、5 回以上 1 人 ・認知経路（複数回答）：ポスター・チラシ 7 人、学校（教師）から 2 人、友人から 10 人、ホームページ 3 人、観光ガイドブック 4 人、留学生イベントをきっかけに知った 8 人、テレビ・雑誌 4 人、観光ガイド・案内所 6 人、SNS 等 4 人、その他 3 人 ※アンケートは、留学生イベント参加者（20 人）と交流展来館者（2 人）から回収。

＊来館者数、参加者数等：《　　》内は令和 3 年度

1-(3)-①-7　ボランティア受入実績　　（後述の資料に記載）◎共通資料b

1-(3)-①-8 友の会・メンバーズパス等

1) 会員数

友の会　　令和5年3月31日現在

区分 / 館名	友の会会員数	(参考) 年会費
東京国立博物館	9,335 人	7,000 円
九州国立博物館	68 人	7,500 円

メンバーズプレミアムパス　　令和5年3月31日現在

区分（年会費） / 館名	会員数	一般 (3,800 円)	一般 (3,500 円)	学生 (2,500 円)
奈良国立博物館 (奈良博プレミアムカード)	2,013 人	−	2,013 人	−
九州国立博物館	3,943 人	2,247 人	−	1,696 人

国立博物館メンバーズパス（4館共通）　　令和5年3月31日現在

区分（年会費） / 館名	会員数	一般 (2,500 円)	学生 (1,200 円)
東京国立博物館	4,618 人	4,361 人	257 人
京都国立博物館	339 人	329 人	10 人
奈良国立博物館	63 人	55 人	8 人
九州国立博物館	25 人	23 人	2 人

2)各種会員を対象とした事業

友の会会員を対象とした事業

【東京国立博物館】

特別展無料観覧券3枚贈呈、ミュージアムシアター無料観覧券1枚贈呈、当館ミュージアムショップ・レストラン・カフェでの割引。

【九州国立博物館】

当館特別展観覧券6枚贈呈、季刊情報誌「アジアージュ」、特別展示ちらし、特別展連続講座等イベント案内送付、当館ミュージアムショップ・レストラン･カフェでの割引、入会時の記念品プレゼント。

メンバーズプレミアムパスを対象とした事業

【奈良国立博物館】（奈良博プレミアムカード）

①当館特別展の無料観覧（計4回まで、うち同一展は2回まで）
②当館名品展（平常展）の無料観覧
③機構内他館特別展の団体料金観覧
④機構内他館平常展の無料観覧
⑤『奈良国立博物館だより』（年4回）の送付
⑥『奈良国立博物館展示案内』（年1回）の送付
⑦当館ミュージアムショップでの展覧会図録の割引
⑧当館レストランでの飲食料金の割引
⑨近隣他館の入館料金割引または無料
⑩当館研究員による解説付きの別鑑賞会を実施

・5月11日（水）　特別展「大安寺のすべて―天平のみほとけと祈り―」
　特別鑑賞会　参加人数　75人
・7月29日（金）　貞享本當麻曼荼羅修理完成記念特別展「中将姫と當麻曼荼羅―祈りが紡ぐ物語―」
　特別鑑賞会　参加人数　79人
・11月4日（金）　特別展「第74回正倉院展」
　特別鑑賞会　参加人数　88人
・12月21日（水）　式年造替記念特別展「春日大社 若宮国宝展―祈りの王朝文化―」
　特別鑑賞会　参加人数84人

【九州国立博物館】

①当館特別展の無料観覧（計4回まで、うち同一展は2回まで）
②当館平常展の無料観覧

1-(3)-①-9 賛助会

1) 会員数

令和5年3月31日現在

館名	東京国立博物館	京都国立博物館		奈良国立博物館	九州国立博物館
		（一般社団法人 清風会）	（ﾐｭｰｼﾞｱﾑ・ﾊﾟｰﾄﾅｰ）		
件数	608件	510件	6件	127件	55件
内訳	ﾌﾟﾗﾁﾅ会員（個人）:9人 ｺﾞｰﾙﾄﾞ会員（個人）:53人 ｼﾙﾊﾞｰ会員（個人）:481人 ﾌﾟﾚﾐｱﾑ会員（団体）:1団体 特別会員（団体）:19団体 維持会員（団体）:45団体	賛助会員（団体）:28団体 特別会員（団体）:25団体 特別会員（個人）:40人 普通会員（団体）:21団体 普通会員（個人）:396人	団体会員:5 件 個人会員:1 件	特別支援会員:2団体 特別会員:7団体 一般会員（団体）:15団体 一般会員（個人）:103人	特別会員（個人）:5人 維持会員（個人）:29人 ﾌﾟﾚﾐｱﾑ会員（団体）:1団体 特別会員（団体）:2団体 維持会員（団体）:18団体

2) 賛助会員を対象とした事業

【東京国立博物館】

①当館総合文化展、特別展（シルバー会員以外）の無料観覧
②各特別展開会式・内覧会へのご招待
③賛助会感謝デーへのご招待
④『東京国立博物館ニュース』（年4回）の配布
⑤当館ミュージアムショップの商品の一部割引
⑥当館レストラン、カフェでの飲食料金の割引

【京都国立博物館】

①『京都国立博物館だより』（年4回）の配布
②当館平常展（平成知新館名品ギャラリー）、特別展の無料観覧
③清風会が行う鑑賞会、見学会、会報に協力
④当館ミュージアムショップの商品の一部割引
⑤国際シンポジウム（年1回）案内の発送

【奈良国立博物館】

①当館名品展（平常展）、特別展の無料観覧
②各特別展開会式（内覧会）へのご招待
③展覧会図録の1冊贈呈
④『奈良国立博物館だより』（年4回）の送付
⑤当館ミュージアムショップでの展覧会図録の割引
⑥当館レストランでの飲食料金の割引
⑦当館研究員による解説付きの賛助会員特別鑑賞会を実施
・5月10日（火）　特別展「大安寺のすべて―天平のみほとけと祈り―」
特別鑑賞会　参加人数　40人
・8月3日（水）　貞享本當麻曼荼羅修理完成記念　特別展「中将姫と當麻曼荼羅―祈りが紡ぐ物語―」
特別鑑賞会　参加人数　39人
・11月4日（金）　特別展「第74回正倉院展」
特別鑑賞会　参加人数　72人
・12月16日（金）　式年造替記念特別展「春日大社 若宮国宝展―祈りの王朝文化―」
特別鑑賞会　参加人数　36人

【九州国立博物館】

①当館文化交流展、特別展の無料観覧
②各特別展開会式へのご招待
③各特別展につき1回の特別鑑賞会へのご招待（3年度は新型コロナウイルスの影響により特別鑑賞会中止。代わりに日時指定のない招待券を送付）
④特別展図録の贈呈
⑤季刊情報誌『アジアージュ』（年4回）の配布
⑥当館駐車場無料利用
⑦当館施設利用料割引
⑧当館レストラン、カフェでの飲食料金の割引

1-(3)-①-10 渉外活動

令和 5 年 3 月 31 日現在

【東京国立博物館】

1) 会場提供　3 件

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者数（人）	備考
1	10 月 2～5 日	展示会	台東区主催によるイベント（伝統工芸職人展）	平成館ラウンジ	1,826	
2	11 月 26 日	イベント	ミミ・ゲイツ氏記念講演会	平成館大講堂	380	主催：齋藤財団
3	3 月 24 日～4 月 9 日	イベント	Daiwa Sakura Aid 写真展	平成館ラウンジ	―	主催：東京国立博物館、大和ハウス工業

2) 館主催・協力イベント　37 件

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者数（人）	備考
1	4 月 7 日	音楽会	東京・春・音楽祭 2022「東博でバッハ vol.57」小暮浩史	法隆寺宝物館	71	主催：東京・春・音楽祭実行委員会 協力：東京国立博物館
2	4 月 14 日	音楽会	東京・春・音楽祭 2022「東博でバッハ vol.58」三浦謙司	平成館ラウンジ	134	主催：東京・春・音楽祭実行委員会 協力：東京国立博物館
3	4 月 24 日	イベント	キッズデー「トーハク笑楽座」	平成館大講堂	186	主催：東京国立博物館、落語芸術協会
4	5 月 22 日	イベント	キッズデー「トーハク笑楽座」	東洋館	199	主催：東京国立博物館、落語芸術協会
5	6 月 26 日	イベント	キッズデー「トーハク笑楽座」	平成館大講堂	270	主催：東京国立博物館、落語芸術協会
6	7 月 9 日	音楽会	東京国立博物館　初夏のコンサート	平成館ラウンジ	110	主催：東京国立博物館、サロン・ド・ソネット
7	7 月 20～22 日	イベント	無料観覧日 落語会「トーハク笑楽座」	平成館大講堂	1,005	主催：東京国立博物館、落語芸術協会
8	7 月 23 日	イベント	無料観覧日「笑おう！楽しもう！こども落語体験」	平成館大講堂	234	主催：東京国立博物館、落語芸術協会
9	7 月 24 日	イベント	キッズデー「トーハク笑楽座」、「ファミリーコンサート」、「初めてのお茶体験」	平成館大講堂 平成館ラウンジ	1,190	主催：東京国立博物館、落語芸術協会、伊藤園
10	8 月 28 日	イベント	キッズデー「笑おう！楽しもう！こども落語体験」	平成館大講堂	174	主催：東京国立博物館、落語芸術協会
11	9 月 25 日	イベント	キッズデー「トーハク笑楽座」、「ファミリーコンサート」	平成館大講堂	654	主催：東京国立博物館、落語芸術協会
12	9 月 28 日	音楽会	Music Program TOKYO まちなかコンサート	本館大階段	425	主催：東京文化会館 共催：東京国立博物館
13	10 月 1 日	イベント	留学生の日「トーハク笑楽座」	みどりのライオン	182	主催：東京国立博物館、落語芸術協会
14	10 月 8 日	音楽会	東京国立博物館　秋のコンサート	平成館ラウンジ	115	主催：東京国立博物館、サロン・ド・ソネット
15	10 月 22 日	講演会	「味わう国宝　和菓子」	平成館大講堂	259	主催：株式会社虎屋 協力：東京国立博物館
16	10 月 23 日	イベント	キッズデー「笑おう！楽しもう！こども落語体験」	平成館大講堂	227	主催：東京国立博物館、落語芸術協会
17	11 月 2～5 日	イベント	創エネ・あかりパーク 2022 に伴うライトアップ	本館前庭	―	主催：「創エネ・あかりパーク 2022」実行委員会 協力：東京国立博物館
18	11 月 5～6 日	音楽会	Daiwa Sakura Aid コンサート	本館前特設ステージ	933	主催：東京国立博物館、大和ハウス工業
19	11 月 8 日	イベント	バンク・オブ・アメリカ「文化財保護プロジェクト」に係る内覧会	平成館	200	主催：ＢＯＡ 協力：東京国立博物館
20	11 月 20 日	イベント	特別企画「漫才の DENDO 」	平成館大講堂	254	主催：吉本興業株式会社 協力：東京国立博物館
21	11 月 20 日	イベント	特別企画「よしもと放課後クラブ漫才ワークショップ」	平成館大講堂	18	主催：吉本興業株式会社 協力：東京国立博物館
22	11 月 23 日	イベント	ミニチュアポニー 馬事イベントデー～お馬さんとのふれあい体験～	本館前庭	―	主催：JRA 協力：東京国立博物館
23	11 月 27 日	イベント	キッズデー「トーハク笑楽座」	平成館大講堂	450	主催：東京国立博物館、落語芸術協会
24	12 月 17 日	音楽会	東京国立博物館　クリスマスコンサート	平成館ラウンジ	111	主催：東京国立博物館、サロン・ド・ソネット

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者数（人）	備考
25	12 月 25 日	イベント	キッズデー「笑おう！楽しもう！こども落語体験」	平成館大講堂	271	主催：東京国立博物館、落語芸術協会
26	1 月 3 日	イベント	トーハクで初笑い！笑おう！楽しもう！初春こども落語体験＆落語会	平成館大講堂	284	主催：東京国立博物館、落語芸術協会
27	1 月 9 日	イベント	新春東博寄席 2023	平成館大講堂	192	主催：東京国立博物館
28	1 月 12 日	イベント	トーハク 150 周年 × au Design project20 周年記念トークイベント「150 年後のデザイン」	応挙館	35	主催：KDDI 株式会社 協力：東京国立博物館
29	1 月 13 日	講演会	しょうゆ再発見 意外と知らないしょうゆの話	平成館大講堂	72	主催：キッコーマン国際食文化研究センター 協力：東京国立博物館
30	1 月 21、22、28、29 日	イベント	『恐竜をつくって知ろう！プラノサウルス組立体験会』	平成館ラウンジ	4,192	主催：株式会社 BANDAI SPIRITS 協力：東京国立博物館
31	1 月 22 日	イベント	キッズデー「笑おう！楽しもう！こども落語体験」	平成館大講堂	352	主催：東京国立博物館、落語芸術協会
32	2 月 5 日	イベント	笑おう！楽しもう！こども落語体験＆落語会	平成館大講堂	177	主催：東京国立博物館、落語芸術協会
33	2 月 12 日	イベント	笑おう！楽しもう！こども落語体験＆落語会	平成館大講堂	250	主催：東京国立博物館、落語芸術協会
34	2 月 26 日	イベント	キッズデー「笑おう！楽しもう！こども落語体験」	平成館大講堂	459	主催：東京国立博物館、落語芸術協会
35	3 月 22 日	音楽会	東京・春・音楽祭 2023「東博でバッハ vol.59」周防亮介	法隆寺宝物館	104	主催：東京・春・音楽祭実行委員会 協力：東京国立博物館
36	3 月 23 日	音楽会	東京・春・音楽祭 2023「東博でバッハ vol.60」周防亮介	法隆寺宝物館	98	主催：東京・春・音楽祭実行委員会 協力：東京国立博物館
37	3 月 29 日	音楽会	東京・春・音楽祭 2023「東博でバッハ vol.61」徳永真一朗	法隆寺宝物館	108	主催：東京・春・音楽祭実行委員会 協力：東京国立博物館

【京都国立博物館】

1）会場提供　　72 件

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
1	4 月 4 日	研修会	会場運営スタッフ「最澄と天台宗のすべて」展研修	会議室１・研修室	40	
2	4 月 15 日	研修会	国宝修理装潢師連盟　修理技術者資格制度　新任者研修会	研修室・会議室１	13	
3	4 月 16 日	茶席	茶道教室	茶室	3	
4	4 月 17 日	結婚式	結婚式	明治古都館中央ホール・展示室１	100	
5	4 月 18 日	講演会	鑑賞会「最澄と天台宗のすべて」	講堂	100	
6	4 月 29 日	講演会	仏教美術研究上野記念財団研究発表と座談会	講堂	100	
7	4 月 30 日	結婚式	結婚式	明治古都館中央ホール・展示室１	100	
8	5 月 7 日	茶席	茶会	茶室	15	
9	5 月 9 日	鑑賞会	休館日特別内覧会	平成知新館展示室、講堂、接客室１	100	
10	5 月 13 日	研修会	国宝修理装潢師連盟　修理技術者資格制度　登録審査	研修室・会議室１・会議室２	10	
11	5 月 21 日	茶席	茶道教室	茶室	3	
12	5 月 21 日	結婚式	結婚式	明治古都館中央ホール・展示室１	100	
13	5 月 29 日	結婚式	結婚式	明治古都館中央ホール・展示室１	100	

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
14	5月29日	茶席	お茶会	茶室	40	
15	6月25日	茶席	茶道教室	茶室	3	
16	6月27日	講演会	第６０回定時総会並びに鑑賞会	講堂	100	
17	7月11日～7月18日	イベント	Gucci High Jewelry & High Watch Making Event	明治古都館、技術資料参考館、敷地	129	
18	7月16日	茶席	茶道教室	茶室	4	
19	7月22日	研修会	講習会	会議室１	22	
20	7月26日	茶席	茶道のお稽古	茶室	20	
21	7月31日～8月5日	研修会	指定文化財（美術工芸品）企画・展示セミナー	会議室１	20	
22	8月8日	講演会	鑑賞会　特別展「観心寺と金剛寺」	講堂	100	
23	8月20日	茶席	茶道教室	茶室	4	
24	9月5日	研修会	修理技術者資格制度　第２回試験準備委員会	会議室１	9	
25	9月13日～19日	イベント	海外ブランド展示会（ラルフ･ローレン）	明治古都館、技術資料参考館	569	
26	9月14日	研修会	DACグループ上級管理職研修会	講堂	100	
27	9月17日	茶席	茶道教室	茶室	4	
28	9月25日	茶席	茶道体験	茶室	45	
29	9月26日	研修会	「茶の湯展」看視スタッフ研修	会議室１	30	
30	10月1日	茶席	茶道教室	茶室	4	
31	10月3日	研修会	「茶の湯展」集札スタッフ研修	研修室	10	
32	10月5日	茶席	座談会	茶室	15	
33	10月11日	鑑賞会	休館日特別内覧会	平成知新館展示室、接客室１	100	
34	10月16日	結婚式	結婚式	明治古都館中央ホール・展示室１	80	
35	10月16日	茶席	茶道練習会	茶室	10	
36	10月17日	講演会	鑑賞会　特別展「茶の湯」	講堂	100	
37	10月17日	鑑賞会	休館日特別内覧会	平成知新館展示室、講堂、接客室１	100	
38	10月21日	研修会	修理技術者資格制度　主任技師／技師長第１次試験	会議室１・会議室２・研修室	24	
39	10月29日	結婚式	結婚式	明治古都館中央ホール・展示室１	100	
40	10月30日	研修会	お点前見学と和室の作法体験（授業）	茶室	10	
41	10月31日	鑑賞会	休館日特別内覧会	平成知新館展示室、接客室１	1000	
42	11月3日	茶席	茶会の開催	茶室	100	
43	11月5日	結婚式	結婚式	明治古都館中央ホール・展示室１	80	
44	11月21日	イベント	学生に向けた落語会の開催	講堂	100	

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
45	11 月 23 日	講演会	日本と世界の五穀豊穣をお祝いする講演会	講堂	100	
46	11 月 24 日	研修会	研修として聴講及び展覧会の観覧	講堂	50	
47	11 月 25 日～11 月 26 日	研修会	修理技術者資格制度　初級講習会	会議室１・会議室２	18	
48	11 月 26 日	結婚式	結婚式	明治古都館中央ホール・展示室１	80	
49	11 月 30 日	研修会	修理技術者資格制度　主任技師／技師長第２次試験	会議室１・会議室２・研修室	24	
50	12 月 10 日	茶席	脳波茶会	茶室	13	
51	12 月 17 日	茶席	茶道教室	茶室	4	
52	12 月 22 日	茶席	訪日旅行者（アメリカ）のお茶席体験	茶室	7	
53	12 月 23 日	研修会	社内研修	研修室	15	
54	12 月 24 日	演奏会	ピアノ発表会	講堂（講堂控室含む）	100	
55	12 月 24 日	茶席	茶会	茶室	20	
56	12 月 25 日	茶席	茶道練習会	茶室	10	
57	12 月 5 日～12 月 26 日	イベント	ひかりと食のアンサンブル	明治古都館前広場・噴水広場、表門前広場	50000	
58	1 月 2 日	講演会	小学館『若冲の声を聴け　狩野博幸美術論集成』発刊記念文化講演会	講堂（講堂控室含む）	210	
59	1 月 11 日	茶席	茶道教室	茶室	4	
60	2 月 6 日、2 月 13 日、2 月 20 日、2 月 21 日、2 月 22 日	演奏会	京都女子大学大学院発達教育学研究科表現文化専攻令和 4 年修士研究発表会のため	講堂（講堂控室含む）	60	
61	2 月 18 日	茶席	茶道教室	茶室	4	
62	3 月 5 日	コンサート	第 2 回恵の会　コンサート	講堂（講堂控室含む）	120	
63	3 月 7 日	会議	「調査研究事業案」と「研究給付金応募者選考」等の審議のため	研修室	9	
64	3 月 13 日	研修会	親鸞展研修	講堂（講堂控室含む）	30	
65	3 月 18 日	茶席	茶道の会	茶室	4	
66	3 月 20 日	研修会	親鸞展研修	講堂（講堂控室含む）	15	
67	3 月 23 日	理事会	財団「第２回理事会」及び「第２回評議員会」開催	講堂（講堂控室含む）	13	
68	3 月 23 日	理事会	財団評議員ウェブ会議のため	講堂（講堂控室含む）	1	
69	3 月 25 日	茶席	お茶会	茶室	10	
70	3 月 23 日	理事会	財団評議員ウェブ会議のため	講堂（講堂控室含む）	1	
71	3 月 25 日	茶席	お茶会	茶室	10	
72	3 月 27 日	鑑賞会	休館日の浄土真宗ご門徒向け観覧ならびに主催者会員向け内覧のため	平成知新館展示室、接客室 2	300	

2) 館主催・協力イベント　15 件

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
1	4 月 17 日	コンサート	コンサート	講堂・接客室 1	96	主催：Hijiya Music Club（京都国立博物館ミュージアムパートナー）　後援：当館
2	5 月 7 日	講演会	特別展「最澄と天台宗のすべて」キャンパスメンバーズ講演会	講堂	82	主催：京都国立博物館
3	5 月 20 日	イベント	京都・らくご博物館【春】～新緑寄席～ Vol.62	講堂	75	主催：京都国立博物館 製作協力：米朝事務所
4	8 月 9 日	講演会	特別展「河内長野の霊地 観心寺と金剛寺」キャンパスメンバーズ講演会	講堂	102	主催：京都国立博物館
5	8 月 21 日	コンサート	コンサート	講堂・接客室 1	96	主催：Hijiya Music Club（京都国立博物館ミュージアムパートナー）　後援：当館
6	8 月 26 日	イベント	京都・らくご博物館【夏】～納涼寄席～ Vol.63	講堂	61	主催：京都国立博物館 製作協力：米朝事務所
7	9 月 10 日、11 日	イベント	夏の一絃琴演奏会	茶室	39	主催：京都国立博物館
8	11 月 5 日、6 日	イベント	秋の京博茶会	茶室	120	主催：京都国立博物館
9	11 月 18 日	イベント	京都・らくご博物館【秋】～錦秋寄席～ Vol.64	講堂	83	主催：京都国立博物館 製作協力：米朝事務所
10	12 月 4 日	コンサート	コンサート	講堂・接客室 1	96	主催：Hijiya Music Club（京都国立博物館ミュージアムパートナー）　後援：当館
11	1 月 9 日	イベント	芸舞妓　春の舞	講堂	280	主催：京都国立博物館
12	1 月 15 日	イベント	八坂神社　祇園獅子舞	講堂	259	主催：京都国立博物館
13	1 月 9 日	イベント	留学生の日	講堂	78	主催：京都国立博物館
14	2 月 10 日	イベント	京都・らくご博物館【冬】～早春寄席～ Vol.65	講堂	47	主催：京都国立博物館 製作協力：米朝事務所
15	2 月 26 日	コンサート	春のクラシックコンサート	講堂	242	主催：京都国立博物館 協力：京都市立芸術大学

【奈良国立博物館】

1) 会場提供　55 件

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
1	4 月 2 日	撮影	ウェディングフォト	なら仏像館	－	（株）トライアングル
2	4 月 5 日	撮影	ウェディングフォト	茶室・庭園	－	（株）スタジオゼロ
3	4 月 6 日	撮影	ウェディングフォト	茶室・庭園	－	（株）スタジオゼロ
4	4 月 6 日	撮影	ウェディングフォト	なら仏像館	－	（株）トライアングル
5	4 月 10 日	撮影	ウェディングフォト	なら仏像館	－	（株）トライアングル
6	4 月 15 日	撮影	ウェディングフォト	なら仏像館	－	（株）スタジオゼロ
7	4 月 28 日	撮影	ウェディングフォト	なら仏像館	－	（株）トライアングル
8	5 月 19 日	撮影	ウェディングフォト	なら仏像館	－	（株）スタジオゼロ
9	5 月 26 日	撮影	ウェディングフォト	なら仏像館	－	（株）スタジオゼロ
10	6 月 6 日	撮影	ウェディングフォト	仏教美術資料研究センター	－	（株）スタジオゼロ
11	6 月 12 日	撮影	ウェディングフォト	なら仏像館	－	（株）スタジオゼロ
12	6 月 19 日	展示会	ロールス・ロイス　ツーリングイベント	敷地内	－	（株）ツーアンドフォー
13	6 月 27 日	撮影	ウェディングフォト	なら仏像館	－	スタジオ TVB

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
14	7月18日	講演会	「中将姫物語」を聞く会	講堂	－	（一社）なら文化交流機構
15	8月5日	撮影	ウェディングフォト	なら仏像館	－	（株）スタジオゼロ
16	8月11日	撮影	ウェディングフォト	なら仏像館	－	オーシャンフロント
17	8月12日、13日	コンサート	音燈華コンサート	庭園	448	寧屋舎中合同会社
18	9月17日、18日	コンサート	春日野音楽祭	敷地内	－	春日野音楽祭実行委員会
19	9月22日	撮影	ウェディングフォト	なら仏像館	－	スタジオTVB
20	10月1日	祭礼	氷室神社渡御	敷地内	－	氷室神社
21	10月20日	撮影	ウェディングフォト	なら仏像館	－	（株）トライアングル
22	11月4日	撮影	ウェディングフォト	なら仏像館	－	ジャパンクリエイト（株）
23	11月7日	撮影	ウェディングフォト	なら仏像館	－	JWマリオットホテル奈良
24	11月13日	講演会	「スペインの魅力発信講演会」	講堂	70	奈良市
25	11月15日	撮影	ウェディングフォト	なら仏像館	－	スタジオTVB
26	11月15日	撮影	ウェディングフォト	なら仏像館	－	スタジオTVB
27	11月17日	撮影	ウェディングフォト	なら仏像館	－	スタジオTVB
28	11月20日	講演会	行基記念シンポジウム	仏教美術資料研究センター	150	（株）リード
29	11月20日	撮影	ウェディングフォト	なら仏像館	－	（株）スタジオゼロ
30	11月23日	講演会	ミミ・ガートナー・ゲイツ博士来日記念講演	講堂	80	米国斎藤財団
31	11月24日	撮影	ウェディングフォト	なら仏像館	－	スタジオTVB
32	11月26日	撮影	ウェディングフォト	茶室・庭園	－	（株）スタジオゼロ
33	11月27日	コンサート	大地の響きコンサート	仏教美術資料研究センター	130	ピアノで奈良を奏でる会
34	11月27日	撮影	ウェディングフォト	なら仏像館	－	（株）スタジオゼロ
35	12月4日	撮影	ウェディングフォト	なら仏像館	－	（株）スタジオゼロ
36	12月11日	イベント	奈良マラソン	敷地内	－	奈良マラソン実行委員会
37	12月12日	撮影	ウェディングフォト	茶室・庭園	－	（株）スタジオゼロ
38	12月17日	祭礼	春日若宮おん祭	敷地内	－	春日大社
39	12月19日	撮影	ウェディングフォト	なら仏像館	－	ブライダルソラ
40	12月24日	撮影	ウェディングフォト	なら仏像館	－	個人
41	1月26日	シンポジウム	文化財防災ゼミナール	講堂	88	奈良市消防局
42	2月1日	茶会	学茶会	茶室・庭園	20	奈良市生涯学習財団自主クラブ
43	2月2日	シンポジウム	持続可能なまちづくりと無形文化遺産文化遺産第一回国際シンポジウム	講堂	25	アジア太平洋無形文化遺産研究センター
44	2月2日、6日、7日、13日	セミナー	キャリアコンサルティングセミナー	応接室	9	（株）文化財保存
45	2月5日、6日	茶会	珠光茶会	茶室・庭園	60	珠光茶会実行委員会
46	2月10日、11日	イベント	奈良博寄席	講堂・会議室	98	(公社)落語芸術協会
47	2月18日	イベント	こども撮影会	関野ホール	－	シャーロットの部屋
48	2月25日	イベント	Lamborghini Giro Japan 2023	敷地内	－	（株）ツーアンドフォー

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
49	3月11日	撮影	ウェディングフォト	なら仏像館	－	スタジオTVB
50	3月13日	イベント	小浜市お水取り親善使節団	講堂	10	奈良市
51	3月23日	撮影	卒業記念撮影	敷地内	－	個人
52	3月26日	撮影	ウェディングフォト	なら仏像館	－	（株）スタジオゼロ
53	3月26日	イベント	見学会	講堂・茶室・庭園	－	（公社）日本建築家協会
54	3月29日	撮影	ウェディングフォト	なら仏像館	－	スタジオTVB
55	3月31日	撮影	ウェディングフォト	なら仏像館	－	（株）スタジオゼロ

2）館主催・協力イベント　23件

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
1	4月23日	イベント	特別展「大安寺のすべて―天平のみほとけと祈り―」関連イベント「らくご男子落語会　恋バナ編」	講堂	75	
2	4月30日	イベント	特別展「大安寺のすべて―天平のみほとけと祈り―」関連イベント「重文で朝ヨガ・呼吸法体験！～ならはくでととのいませんか？～」	仏教美術資料研究センター	27	
3	5月5日	イベント	特別展「大安寺のすべて―天平のみほとけと祈り―」関連　親子向けワークショップ「小花もようのかざりタイルをつくろう！」	地下回廊	24	
4	5月8日	鑑賞会	奈良国立博物館「大安寺のすべて ―天平のみほとけと祈り―」を巡ろう【ニコニコ美術館】	展示室	23,417	
5	5月11日	法要	春期仏像供養	展示室	－	
6	5月28日	イベント	特別展「大安寺のすべて―天平のみほとけと祈り―」関連イベント「重文で朝ヨガ・呼吸法体験！～ならはくでととのいませんか？～」	仏教美術資料研究センター	26	
7	5月28日	イベント	特別展「大安寺のすべて―天平のみほとけと祈り―」関連イベント「奈良仏像けんきゅー部　大安寺展編」	講堂	58	
8	7月20日	法要	夏期仏像供養	展示室	－	
9	7月25日～	ワークショップ	わくわくびじゅつギャラリー「はっけん！ほとけさまのかたち」関連ワークショップ「なりきり！ほとけさまのかたち」	YouTube	2,000	
10	7月31日	イベント	貞享本當麻曼荼羅修理完成記念 特別展「中将姫と當麻曼荼羅―祈りが紡ぐ物語―」関連イベント「蓮糸織り体験」	地下回廊	25	
11	8月11日	イベント	貞享本當麻曼荼羅修理完成記念 特別展「中将姫と當麻曼荼羅―祈りが紡ぐ物語―」関連イベント「奈良仏像けんきゅー部 中将姫展編」	講堂	45	
12	8月11日	鑑賞会	奈良国立博物館「中将姫と當麻曼荼羅 ―祈りが紡ぐ物語―」を巡ろう【ニコニコ美術館】	展示室	20,831	
13	9月28日	法要	秋期仏像供養	展示室	－	
14	9月30日～10月2日	イベント	クラウドファンディング寄付者対象　庭園御披露目式	庭園・茶室	236	
15	10月30日	イベント	「第74回正倉院展」関連イベント「奈良仏像けんきゅー部　正倉院展編」	講堂	41	
16	11月19日	イベント	近代化遺産全国一斉公開	仏教美術資料研究センター	633	
17	11月26日	イベント	留学生の日関連イベント「書画作品に挑戦しよう！」	展示室	15	
18	12月16日	鑑賞会	奈良国立博物館「春日大社 若宮国宝展―祈りの王朝文化―」を巡ろう【ニコニコ美術館】	展示室	15,774	

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
19	1月12日	イベント	文化財保存修理所公開	文化財保存修理所	50	
20	1月19日	法要	冬期仏像供養	展示室	－	
21	1月21日	イベント	式年造替記念特別展「春日大社 若宮国宝展―祈りの王朝文化―」関連イベント「奈良仏像けんきゅー部　春日大社若宮国宝展編」	講堂	43	
22	2月5日	イベント	特別陳列「お水取り」関連イベント「お水取り　「講話」と「現地解説」の会　2023年」	講堂	38	
23	3月14日	イベント	特別陳列「お水取り」関連イベント「お水取り　特別上映会」	講堂	44	

【九州国立博物館】

1）会場提供　0件（イベント、講演会等）
2）館主催・協力イベント　105件

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
1	4月15日	展示	特別展「北斎」　沖ノ島解説パネル展示	エントランス	―	主催：福岡県、西日本新聞社、TNCテレビ西日本、九州国立博物館
2	4月23日	イベント	ボランティア発足式	ミュージアムホール	140	主催：九州国立博物館
3	4月24日	イベント	第八十八回はじめての茶道体験	茶室	13	主催：九州国立博物館
4	4月26日	展示	きゅーはく夢ひろば　つくし郷土かるた展	エントランス	―	主催：九州国立博物館
5	4月30日	ワークショップ	古代体験イベント きゅーはく女子考古部presents 古代の宴へようこそ！	ミュージアムホール／研修室	200	主催：九州国立博物館
6	4月30日	講座･セミナー	きゅーはく☆とっておき講座 「かわいい考古学って何？」	ミュージアムホール	80	主催：九州国立博物館
7	5月4日	イベント	きゅーはく夢ひろば　筑紫地区マスコット大集合！	屋外（カフェ前広場）／太宰府天満宮（遊園地前広場）／エントランス／研修室	―	主催：九州国立博物館
8	5月5日	イベント	きゅーはく夢ひろば　ケッチのフィジカルコメディショー	ミュージアムホール	288	主催：九州国立博物館
9	5月7日	講座･セミナー	特別展「北斎」　担当研究員による展示レクチャー	ミュージアムホール	96	主催：福岡県、西日本新聞社、TNCテレビ西日本、TVQ九州放送、九州国立博物館
10	5月22日	イベント	第九十四回親子で茶道体験	茶室	21	主催：九州国立博物館
11	5月28日	イベント	お茶会	屋外（レストラン棟）	26	主催：茶時遊空間、九州国立博物館
12	6月3日～5日	展示	第50回福岡ブロック大会つくし大会「感じてつくし幸せ体験」	エントランス	―	主催：つくしJC、九州国立博物館
13	6月4日	イベント	きゅーはくミュージアムコンサート　「タンゴ3姉妹＋ 」	ミュージアムホール	288	主催：九州国立博物館
14	6月8日	展示	UBEビエンナーレPR事業	エントランス		主催：山口県宇部市、九州国立博物館
15	6月10日	イベント	第 77 期本因坊戦決定戦七番勝負第 4 局開幕式	ミュージアムホール	―	主催：毎日新聞社、日本棋院、関西棋院、九州国立博物館
16	6月11日	イベント	第77期本因坊戦決定戦七番勝負第4局	茶室	―	主催：毎日新聞社、日本棋院、関西棋院、九州国立博物館
17	6月12日	イベント	第77期本因坊戦決定戦七番勝負第4局 ・大盤解説会 ・展示解説「囲碁の歴史と本因坊家のあゆみ」 ・囲碁入門教室	ミュージアムホール／ミュージアムホール入口付近／研修室	80	主催：毎日新聞社、日本棋院、関西棋院、九州国立博物館

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
18	6月18日	イベント	第八十九回はじめての茶道体験	茶室	20	主催：九州国立博物館
19	6月25日	講座･セミナー	百済の国のお宝拝見！ － 韓国国宝・百済金銅大香炉紹介講座 －	ミュージアムホール	18	主催：九州国立博物館
20	7月8日	イベント	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	103	主催：九州国立博物館
21	7月18日	イベント	復帰50年記念 特別展「琉球」 関連イベント琉球の宝 ウチナーの心	ミュージアムホール	140	主催：福岡県、NHK 福岡放送局、NHK エンタープライズ九州、読売新聞社、文化庁、九州国立博物館
22	7月20日～9月4日	展示	復帰50年記念 特別展「琉球」 関連パネル展示	エントランス	―	主催：福岡県、NHK 福岡放送局、NHK エンタープライズ九州、読売新聞社、文化庁、九州国立博物館
23	7月23日	イベント	きゅーはくミュージアムコンサート 「夏を彩るメロディ」	ミュージアムホール	210	主催：九州国立博物館
24	7月24日	イベント	第九十五回親子で茶道体験	茶室	9	主催：九州国立博物館
25	7月30日	イベント	特別展「琉球」×『刀剣乱舞-ＯＮＬＩＮＥ-』おっきい こんのすけ撮影会	ミュージアムホール	―	主催：福岡県、NHK 福岡放送局、NHK エンタープライズ九州、読売新聞社、文化庁、九州国立博物館
26	8月6日	講演･シンポジウム	全国高等学校歴史学フォーラム2022	ミュージアムホール	300	主催：九州国立博物館
27	8月6日	イベント	第九十六回親子で茶道体験	茶室	15	主催：九州国立博物館
28	8月11日	ワークショップ	甕棺墓 埋葬体験 ワークショップ「弥生時代の棺　甕棺に入ろう」	ミュージアムホール	25	主催：九州国立博物館
29	8月13日	講座･セミナー	復帰50年記念 特別展「琉球」リレー講座「琉球展ちゃんぷる一講座　①歴史編」	ミュージアムホール	44	主催：福岡県、NHK 福岡放送局、NHK エンタープライズ九州、読売新聞社、文化庁、九州国立博物館
30	8月20日	講座･セミナー	復帰50年記念 特別展「琉球」リレー講座「琉球展ちゃんぷる一講座　②工芸編」	ミュージアムホール	51	主催：福岡県、NHK 福岡放送局、NHK エンタープライズ九州、読売新聞社、文化庁、九州国立博物館
31	8月23日～28日	展示	伊都国ウィーク in 九州国立博物館 伊都国の王墓に関するパネル展示	エントランス	―	主催：糸島市文化課、糸島市立伊都国歴史博物館、九州国立博物館
32	8月27日	ワークショップ	伊都国ウィーク in 九州国立博物館 鋳造体験	研修室	61	主催：糸島市文化課、糸島市立伊都国歴史博物館、九州国立博物館
33	8月25日	イベント	山笠御神入れ	エントランス	―	主催：博多祇園山笠振興会天神一丁目、九州国立博物館
34	8月27日	イベント	きゅーはくミュージアムコンサート 沖縄復帰50年記念 特別展「琉球」関連イベント「古謝美佐子 沖縄のこころのうた」	ミュージアムホール	540	主催：九州国立博物館
35	8月28日	ワークショップ	甕棺墓 埋葬体験 ワークショップ「伊都国王のお葬式」	ミュージアムホール	20	主催：九州国立博物館
36	9月3日	講座･セミナー	九州国立博物館「大宰府学研究」事業・特別史跡「大野城跡」史跡指定90年記念シンポジウム大宰府四王院- 「西の都」に築かれた鎮護国家思想の寺 －	ミュージアムホール	105	主催：福岡県立美術館、九州国立博物館
37	9月3日	ワークショップ	対話型鑑賞ワークショップ「見えると見えない～対話で楽しむ博物館～」	研修室／和室／４階文化交流展室	12	主催：九州国立博物館
38	9月4日	講座･セミナー	きゅーはく☆とっておき講座「弥生王墓の実像を探る一三雲南小路遺跡発見200年」	ミュージアムホール	74	主催：九州国立博物館
39	9月11日	イベント	第九十回　はじめての茶道体験	茶室	18	主催：九州国立博物館
40	9月13日～25日	展示	「第73回太宰府天満宮七夕揮毫大会」優秀作品展示	エントランス	―	主催：公益財団法人 太宰府顕彰会、九州国立博物館
41	9月23日	イベント	九博能	ミュージアムホール	270	主催：九州国立博物館

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
42	10月1日	講座・セミナー	日本遺産「西の都」古代史講座	研修室	35	主催：九州国立博物館
43	10月6日	展示	久山町立久原小学校ポスター展示・プレゼン	ミュージアムホール	150	主催：九州国立博物館
44	10月8日	講座・セミナー	日本遺産「西の都」古代史講座	研修室	70	主催：九州国立博物館
45	10月8日	講座・セミナー	「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群世界遺産登録５周年記念展覧会「沖ノ島祭祀を担った奉斎者たち」開催記念講演会「沖ノ島祭祀と渡来系遺物の流入 － 海の民ムナカタの役割 － 」	ミュージアムホール	86	主催：宗像市教育委員会、福岡県、九州国立博物館
46	10月9日	イベント	きゅーはくミュージアムコンサート「福岡ジュニアオーケストラ」	エントランス	200	主催：九州国立博物館
47	10月11日～12月4日	展示	特別展「ポンペイ」　関連パネル展示	エントランス	―	主催：福岡県、ナポリ国立考古学博物館、朝日新聞社、NHK福岡放送局、NHKエンタープライズ九州、西日本新聞社、西日本新聞イベントサービス、九州国立博物館
48	10月16日	講座・セミナー	特集展示「御所の器 ―公家山科家伝来の古伊万里」 講演会＆トークセッション「宮廷文化と御所の器」	ミュージアムホール	83	主催：九州国立博物館
49	10月16日	イベント	第九十七回親子で茶道体験	茶室	26	主催：九州国立博物館
50	10月24日	イベント	日米文化教育交流会議（カルコン）シンポジウム	エントランス／ミュージアムホール	80	主催：国際交流基金カルコン事務局、九州国立博物館
51	10月25日～30日	展示	おおむたPRキャンペーン「三池の刀が切り開く 大牟田の未来」 三池の刀剣パネル展示	エントランス	―	主催：大牟田市、九州国立博物館
52	10月29日	講座・セミナー	特別展「ポンペイ」　リレー講座 【第1回】「ポンペイがやってきた！～見どころ紹介～」	ミュージアムホール	62	主催：福岡県、ナポリ国立考古学博物館、朝日新聞社、NHK福岡放送局、NHKエンタープライズ九州、西日本新聞社、西日本新聞イベントサービス、九州国立博物館
53	10月30日	講座・セミナー	おおむたPRキャンペーン「三池の刀が切り開く 大牟田の未来」　公開講座「刀匠と語る三池刀の魅力」	ミュージアムホール	100	主催：大牟田市、九州国立博物館
54	11月2日	講演・シンポジウム	アジア代表日本2022　トークショー	ミュージアムホール	270	主催：「アジア代表2022」実行委員会、九州国立博物館
55	11月3日	イベント	令和4年度留学生イベント「茶道体験×バックヤードツアー」	トラックヤード／4階バックヤード／茶室／研修室	20	主催：九州国立博物館
56	11月4日	イベント	特別展「ポンペイ」関連パン販売	エントランス	―	主催：九州国立博物館
57	11月5日	講座・セミナー	きゅーはく☆とっておき講座「御所の器の魅力」	ミュージアムホール	80	主催：九州国立博物館
58	11月5日	ワークショップ	ワークショップぺたぺたデコレーション～貼花に挑戦！～	研修室	10	主催：九州国立博物館
59	11月6日	講座・セミナー	特別展「ポンペイ」　リレー講座【第2回】「ポンペイとインド」「ポンペイの黒い鏡」「ポンペイの絵画とそのひみつ」	ミュージアムホール	53	主催：福岡県、ナポリ国立考古学博物館、朝日新聞社、NHK福岡放送局、NHKエンタープライズ九州、西日本新聞社、西日本新聞イベントサービス、九州国立博物館
60	11月8日～13日	展示	ワンヘルスに関するパネル展示	エントランス	―	主催：福岡県、九州国立博物館
61	11月10日	イベント	第21回FAVA（アジア獣医師連合会）大会エクスカーション	研修室	―	主催：福岡県、九州国立博物館
62	11月10日	イベント	特別展「ポンペイ」関連イベント視覚障害者とつくる博物館まっすぐ&ぶらぶら対話ツアー第1回 バックヤードツアー	ミュージアムホール／館内バックヤード	6	主催：九州国立博物館
63	11月11日	イベント	特別展「ポンペイ」関連イベント視覚障害者とつくる博物館まっすぐ&ぶらぶら対話ツアー　第2回	和室／３階特別展示室	6	主催：九州国立博物館

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
64	11月12日	ワークショップ	ワークショップ ぺたぺたデコレーション ～貼花に挑戦！	研修室	9	主催：九州国立博物館
65	11月15日	講座･セミナー	IPMセミナー	ミュージアムホール	132	主催：九州国立博物館
66	11月15日～20日	展示	九州国立博物館×九州産業大学 「撮る博物館」	エントランス	―	主催：九州国立博物館
67	11月19日	イベント	きゅーはくミュージアムコンサート 「南欧 音楽の旅」	ミュージアムホール	360	主催：九州国立博物館
68	11月19日	ワークショップ	特別展「ポンペイ」 子ども向けワークショップ～天然大理石のモザイクコースター～	研修室	195	主催：九州国立博物館
69	11月20日	ワークショップ	みんなdeきゅーはくを楽しもう！！ A. 模型de博物館たんけん隊	４階文化交流展示室	36	主催：九州国立博物館
70	11月22日～27日	展示	第25回日中青少年書画交流大会	エントランス	―	主催：九州日中文化協会、九州国立博物館
71	11月23日	イベント	第25回日中青少年書画交流大会　表彰式	ミュージアムホール、研修室、和室	150	主催：九州日中文化協会、九州国立博物館
72	11月27日	ワークショップ	みんなdeきゅーはくを楽しもう！！ B. バックヤードツアー C. レプリカ&楽器体験	ミュージアムホール、研修室、和室／トラックヤード／２階バックヤード／免震層	B.25 C.16	主催：九州国立博物館
73	11月27日	イベント	第九十一回はじめての茶道体験	茶室	27	主催：九州国立博物館
74	11月29日～ 12月11日	展示	アジア代表日本 2022　ワークショップ作品の展示	エントランス	―	主催：「アジア代表２０２２」実行委員会、九州国立博物館
75	12月3日	イベント	きゅーはくミュージアムコンサート 「ビロードのような歌声が奏でるイタリアの世界」	ミュージアムホール	200	主催：九州国立博物館
76	12月3日	イベント	特別展「ポンペイ」関連パン販売	エントランス／和室	―	主催：九州国立博物館
77	12月3日	ワークショップ	ワークショップ 「九博の杜」のブローチ作り体験	研修室	20	主催：九州国立博物館
78	12月4日	ワークショップ	きゅーはくで楽しく！わく☆わくワークショップ ・はらのむしご祝儀袋を作ろう！ ・水引アレンジでお正月飾りを作ろう！	研修室	10	主催：九州国立博物館
79	12月6日～23日	展示	宮地嶽第55回光の道全国競書大会	エントランス	―	主催:宮地嶽光の道全国競書実行委員会、九州国立博物館
80	12月10日	講座･セミナー	きゅーはく☆とっておき講座 「長崎警備と白帆注進　-近世日本の沿岸警備-」	ミュージアムホール	32	主催：九州国立博物館
81	12月11日	ワークショップ	九州国立博物館杯 葛飾北斎「日新除魔図さいふごま」製作記念第18回さいふごま大会	ミュージアムホール	40	主催：九州国立博物館
82	12月13日～12月16日	展示	九博でバードウォッチング！ ～九博が所蔵する46羽の野鳥のはく製を一挙公開！～	ミュージアムホール	793	主催：九州国立博物館
83	12月13日～17日	展示	筑紫地区中学校美術展	エントランス	―	主催:筑紫地区中学校美術教育研究会、九州国立博物館
84	12月18日	講座･セミナー	きゅーはく☆とっておき講座 「たねがしま入門」	ミュージアムホール	74	主催：九州国立博物館
85	1月3日	イベント	九州国立博物館 新春イベント 「きゅーはくニューイヤーコンサート ～幸福を呼ぶカルテット～」	ミュージアムホール	390	主催：九州国立博物館
86	1月3日	イベント	九州国立博物館 新春イベント 「きゅーはくで書き初め」	エントランス	443	主催：九州国立博物館
87	1月5日	イベント	新春は九博で博物館浴しよう！ －展示鑑賞と科学的データの測定－	研修室	37	主催：九州産業大学
88	1月7日	講演及びシンポジウム等	きゅーはく☆とっておき講座 「徳川美術館所蔵　国宝　初音の調度」	ミュージアムホール	80	主催：九州国立博物館
89	1月11日	イベント	第6回MOA美術館児童作品展 in 九州国立博物館	エントランス	1,068	「第6回MOA美術館児童作品展 in 九州国立博物館」実行委員会

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
90	1月15日	イベント	第6回MOA美術館児童作品展 in 九州国立博物館　表彰式	ミュージアムホール	290	「第6回 MOA 美術館児童作品展 in 九州国立博物館」実行委員会
91	1月15日～1月22日	イベント	種子島関連パネル展示	エントランス	―	主催：九州国立博物館
92	1月28日	イベント	特集展示「種子島 ― 風と波が育んだ歴史 ―」関連イベント 歴史と宇宙への入口「種子島」	ミュージアムホール	140	主催：九州国立博物館
93	2月11日	その他展示に関連するイベント	種子島観光物産展	エントランス	―	主催：九州国立博物館
94	2月14日～2月19日	イベント	九州女子大学　第55回卒業書作展	エントランス	―	主催：九州国立博物館
95	2月11日	イベント	令和4年度筑紫地区文化財写真展「ちくし再発見～見てみんね。中世の筑紫～」	エントランス	―	主催：九州国立博物館
96	2月18日	イベント	第8回みゅーじあむ寄席　人間国宝がやってきた	ミュージアムホール	268	主催：九州女子大学
97	2月25日、26日	イベント	大分県 耶馬渓の魅力をきゅーはくで発信！日本遺産「やばけい遊覧」PR	エントランス／研修室	―	主催:筑紫地区社会教育振興協議会
98	3月4日	イベント	手話通訳付きオンラインバックヤードツアー	バックヤード	18組	主催：九州国立博物館
99	3月4日	イベント	きゅーはくミュージアムコンサート 「アン・サリー 幻の王国“加耶”に思いを馳せて」	ミュージアムホール	480	主催：九州国立博物館
100	3月11日	イベント	外国人のための　やさしい日本語で　「博物館の見学」	研修室	15	主催:中津玖珠日本遺産推進協議会
101	3月12日	講演及びシンポジウム等	世界遺産沖ノ島講演会	ミュージアムホール	160	主催：九州国立博物館
102	3月17日、18日	イベント	京都国立博物館公式キャラクター 「トラりん」がきゅーはくにやってくる！	エントランス	―	主催：九州国立博物館
103	3月25日	イベント	きゅーはくさくらまつり ・さくらヨガ ・橘家文太 落語car ・NHK福岡児童合唱団 MIRAI ・太宰府天満宮巫女　扇の舞 ・さくら茶会	屋外／ミュージアムホール／エントランス／茶室	―	主催：九州国立博物館
104	3月26日	イベント	九博デー「九博さくら祭りもちつき大会・桜の講演会」	屋外／ミュージアムホール	―	主催：NPO法人九州国立博物館を愛する会
105	3月26日	イベント	西の都こども学校院「西の都」ってなに？	研修室	31	主催：福岡県教育委員会

1-(3)-② 有形文化財に関する情報の発信と広報の充実

1-(3)-②-1 収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数（収蔵品写真（フィルム）等のデジタル化件数）

（前述の資料に記載）1-(1)-③-2 収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数（収蔵品写真（フィルム）等のデジタル化件数）

1-(3)-②-2 収集した情報資料数（総数）

令和5年3月31日現在

		東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
		4年度新規	総数	4年度新規	総数	4年度新規	総数	4年度新規	総数
写真原板(フィルム)		44件	324,035件	0件	257,681件	0件	361,503件	0件	23,622件
デジタル撮影		19,829件	155,705件	6,645件	(*)66,229件	2,067件	64,596件	4,361件	37,039件
資料	模造	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
	模写	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
	その他	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
	計	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
図書	和書	3,877冊	224,164冊	1,209冊	156,280冊	1,929冊	96,807冊	3,633冊	206,430冊
	漢書	266冊	41,840冊	86冊	22,541冊	17冊	5,385冊	0冊	0冊
	洋書	215冊	15,286冊	10冊	4,801冊	24冊	2,113冊	49冊	3,087冊
	計	4,358冊	281,290冊	1,305冊	183,622冊	1,970冊	104,305冊	3,682冊	209,517冊
映画フィルム		0巻	0巻	0巻	0巻	0巻	30巻	0巻	0巻
スライド		0本	0本	0本	26本	0本	21本	0本	0本
		0コマ	0コマ	0コマ	2,779コマ	0コマ	2,192コマ	0コマ	12コマ
マイクロフィルム		0巻	3,601巻	0巻	643巻	0巻	68巻	0巻	515巻

(*)令和3年度以前のデジタル撮影にて新たに追加されたデータ(1,987件)を加えた。

東京国立博物館資料館の利用者数（過去5年間）

	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度
開館日数	229日	204日	177日	122日	173日
利用者数	4,616人	4,080人	1,219人	1,103人	2,172人
閉架図書（閲覧）	5,314件	4,649件	4,151件	3,112件	3,680件
マイクロフィルム（閲覧）	456件	398件	507件	189件	372件
レファレンスサービス	5,113件	5,152件	1,954件	1,934件	2,413件
コピーサービス	33,832枚	27,286枚	23,331枚	19,540枚	23,754枚

※新型コロナウイルス感染拡大防止のための緊急事態宣言発出に伴い元年度は2月7日～3月31日、2年度は4月1日～6月1日、3年度は4月25日～5月31日に臨時休館した。開館時間も前後1時間短縮し、10:30～16:00開館とした。

また、同じく感染拡大防止のため、2年度6月2日から予約制・人数制限の下で再開、2月15日からは開館日を週3日に減らして開館し、3年度も週3日開館を継続した。4年度は10月18日から週5日開館とし、1月4日から予約制を撤廃、開館時間も9:30～17:00に戻した。

1-(3)-②-3 特別観覧件数

申請件数

令和5年3月31日現在

区分	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
合計	312	5	307	101	3	98	70	2	68	76	0	76	65	0	65
写真撮影	88	1	87	1	0	1	22	1	21	33	0	33	32	0	32
映画撮影	5	3	2	3	3	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0
テレビ撮影							0	0	0		0	2	0	0	0
ビデオ撮影							0	0	0				0	0	0
模写	6	0	6	2	0	2	0	0	0	4	0	4	0	0	0
模造							0	0	0				0	0	0
熟覧	213	1	212	95	0	95	48	1	47	37	0	37	33	0	33

点数

令和5年3月31日現在

区分	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
合計	1,685	13	1,672	553	9	544	226	4	222	638	0	638	268	0	268
写真撮影	540	2	538	4	0	4	81	2	79	322	0	322	133	0	133
映画撮影	11	9	2	9	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
テレビ撮影							0	0	0	2	0	2	0	0	0
ビデオ撮影							0	0	0				0	0	0
模写	8	0	8	2	0	2	2	0	2	4	0	4	0	0	0
模造							0	0	0				0	0	0
熟覧	1,126	2	1,124	538	0	538	143	2	141	310	0	310	135	0	135

1-(3)-②-4 画像利用件数（フィルムを含む）

申請件数

令和5年3月31日現在

区分			国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
			合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
画像利用	フィルムでの提供	モノクロ	0	0	0	（画像提供業務を外部へ委託）									0	0	0
		カラー	0	0	0										0	0	0
	デジタルデータ提供	モノクロ	1,077	732	345				685	544	141	299	153	146	12	4	8
		カラー													81	31	50
	プリントでの提供	モノクロ	51	45	6				51	45	6	0	0	0			
		カラー	1	0	1				0	0	0	1	0	1			
画像再利用			140	107	33							130	101	29	10	6	4

点数

令和5年3月31日現在

区分			国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
			合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
画像利用	フィルムでの提供	モノクロ	0	0	0	（画像提供業務を外部へ委託）									0	0	0
		カラー	0	0	0										0	0	0
	デジタルデータ提供	モノクロ	5,125	1,843	3,282				2,275	1,423	852	1,385	289	1,096	108	4	104
		カラー													1,357	127	1,230
	プリントでの提供	モノクロ	110	81	29				110	81	29	0	0	0			
		カラー	1	0	1				0	0	0	1	0	1			
画像再利用			342	217	125							310	189	121	32	28	4

1-(3)-②-5 広報実績一覧
【本部文化財活用センター】

・東京国立博物館創立150年記念 踊る埴輪＆見返り美人 修理プロジェクト

会期	4月1日（金）～5年3月31日
ターゲット	一般の美術愛好者、若年層
重点項目	ライトユーザー
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	チラシ館内配布、ポスター掲示
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつウェブサイト特設ページでの紹介、ぶんかつSNSの情報発信(Twitter/Instagram)計10回、ぶんかつブログでの紹介計1回、東博Twitterの情報発信計14回
その他	アットPressによるプレスリリース配信
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	読売新聞計2回
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	LINE NEWS、livedoor、@nifty ニュース　ほか計55媒体
その他	―

・文化財活用センターが 『 あつまれ どうぶつの森 』 で 「ぶんかつ島」の夢番地を公開

会期	8月18日（木）～
ターゲット	ゲーム愛好者、子ども、一般の美術愛好者
重点項目	ゲーム愛好者、ライトユーザー
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつウェブページでの紹介、ぶんかつSNSの情報発信(Twitter/Instagram/YouTube)計8回、ぶんかつブログでの紹介計3回
その他	アットPressによるプレスリリース配信、広報用動画計3本制作
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	ファミ通.com 、ロイター.co.jp 、電ファミニコゲーマーほか、計110媒体
その他	―

・「初音ミク」とのコラボレーショングッズを販売

会期	6月24日（金）～
ターゲット	一般の美術愛好者、若年層
重点項目	ライトユーザー
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―

「東京国立博物館ニュース」掲載	1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつウェブサイト特設ページでの紹介、ぶんかつSNSの情報発信(Twitter/Instagram)計6回、ぶんかつブログでの紹介計1回、東博Twitterの情報発信計2回
その他	アットPressによるプレスリリース配信
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	Yahoo! ニュース、美術手帖、ニコニコニュース　ほか計74媒体
その他	―

・ひかり拓本プロジェクト

会期	10月5日（水）～12月2日（金）
ターゲット	美術・歴史・考古系愛好者・文化財防災関係者
重点項目	コアユーザー
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	チラシ館内（東京国立博物館、平城宮跡資料館、飛鳥資料館）配布、奈文研メーリングリスト1020件、寄附実績者への案内46件
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつウェブサイト特設ページ、奈文研ウェブサイトイベントページでの紹介、ぶんかつSNSの情報発信(Twitter/Instagram)計17回、ぶんかつブログでの紹介計1回、奈文研、飛鳥資料館Facebookでの情報発信計5回
その他	アットPressによるプレスリリース配信
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	読売新聞（全国版、奈良版）、毎日新聞（奈良版）、朝日新聞（奈良版）、産経新聞（奈良版）ほか計7媒体
テレビ、ラジオ	NHK、NHK関西、NHKならナビ、J-WAVE「JAM THE PLANET」
雑誌	―
インターネットメディア	NHK NEWS WEB、京都新聞、奈良新聞デジタル、ドワンゴ「ニコニコ美術館」 ほか134媒体
その他	クラウドファンディングサービス「READYFOR」の情報発信2回

・東京国立博物館創立150年記念 特別企画「未来の博物館」

会期	10月18日（火） ～ 12月11日（日）
ターゲット	若年層、美術愛好者
重点項目	ライトユーザー、映像技術系媒体
特記事項	
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	チラシ館内配布、ポスター掲示
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	9-11月号に掲載
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつウェブサイト特設ページでの紹介、ぶんかつSNSの情報発信(Twitter/Instagram)計14回、ぶんかつブログでの紹介計3回、共催・協賛会社によるSNS/YouTube動画の情報発信
その他	アットPressによるプレスリリース配信、報道・関係者内覧会の実施、SNS（Twitter／Instagram）広告出稿、広報用動画（約3分／約1分）制作
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	朝日新聞、電化新聞ほか
テレビ、ラジオ	NHK特番・開幕生中継、NHK World Japan、NHK「チコちゃんに叱られる！」、日本博広報番組、TBSラジオ「アフター6ジャンクション」ほか
雑誌	日経デザイン、月刊ニューメディア、サイン&ディスプレイほか　計4件

インターネットメディア	LINEニュース、Yahoo! ニュース 、読売新聞オンライン、ニコニコニュース ほか計90媒体
その他	―

・デジタル法隆寺宝物館

会期	5年1月31日（火） ～　以降は通年展示
ターゲット	一般の美術愛好者、外国人、国内外観光旅行者
重点項目	外国人日本美術愛好者、国内外観光客
特記事項	令和4年度「日本博」イノベーション型プロジェクト採択事業
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	チラシ館内配布、ポスター掲示
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	12-2月号に掲載
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつウェブ展示イベントページでの紹介、ぶんかつSNSの情報発信(Twitter/Instagram)、ぶんかつブログでの紹介計3回
その他	日本博公式ウェブサイトでの紹介、アットPressによるプレスリリース配信、報道・関係者内覧会の実施、SNS（Twitter／Instagram）広告出稿、広報用動画8種（約4分／約1分）制作
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	世界日報、朝日中高生新聞、下野新聞
テレビ、ラジオ	NHK「ゆう5時」
雑誌	新美術新聞、美術の窓、芸術新潮
インターネットメディア	livedoor ニュース、ニコニコニュース、NHKオンライン、美術展ナビ、Tokyo Weekender、新華網NEWS、NHK WORLD JAPAN、産経ニュース、All About Japan、JAPAN TODAY、ACCESSIBLE JAPAN、ほか計130媒体
その他	「旅をテーマとする日本博リーフレット」、ぶんかる、OAG（ドイツ東洋文化研究協会機関紙）

・東京国立博物館バーチャル展示「エウレカトーハク！◉８９」

会期	1月17日（火）　～　3月31日（金）
ターゲット	ライトユーザー、一般の美術愛好者
重点項目	ライトユーザー、インターネット媒体、映像技術系媒体
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつウェブサイトでの紹介、ぶんかつSNSの情報発信(Twitter/Instagram)
その他	アットPressによるプレスリリース配信
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	読売新聞オンライン、@nifty ニュース、livedoorほか計52媒体
その他	―

・4年度国立博物館収蔵品貸与促進事業実施について

会期	4月23日（土）～12月4日（日）（全国6施設にて開催）
ターゲット	各開催会場来場者、古美術愛好者、歴史愛好者、ファミリー層、小学生などの子どもとその親、観光客
重点項目	一般媒体、開催地域の地元向け媒体、インターネット媒体
特記事項	貸与促進事業全体の活動周知を目的とする広報
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	開催会場に貸与促進事業の説明及び年間の事業実施会場について掲載したパネルを掲出

交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつウェブサイトでの紹介、ぶんかつSNS(Twitter/Instagram)の情報発信、ぶんかつブログでの紹介
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	―
その他	―

・4年度貸与促進事業　鹿児島県歴史・美術センター黎明館　「茶の湯と薩摩」

会期	9月22日（木） ～ 11月6日（日）
ターゲット	古美術愛好者、近代美術愛好者、歴史愛好者、ファミリー層、小学生などの子どもとその親、観光客
重点項目	開催地域の地元向け媒体、インターネット媒体、一般の美術愛好者向け雑誌媒体
特記事項	（※）は、文化財活用センターから支出された広報費による掲出
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	ポスター・チラシ（※）、屋外看板（※）
交通広告	―
新聞・雑誌広告	南日本新聞社
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつウェブサイトでの紹介、ぶんかつSNSの情報発信(Twitter/Instagram)5回、ぶんかつブログでの紹介計1回
その他	MBC南日本放送スマホアプリトップスライダー広告（※）
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	南日本新聞社
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	―
その他	―

・令和6(2024)年度 国立博物館収蔵品貸与促進事業　実施対象館募集開始

会期	5年4月3日（月）～6月30日（金）
ターゲット	全国の博物館・美術館、各都道府県教育委員会・政令指定都市教育委員会
重点項目	一般媒体、開催地域の地元向け媒体、インターネット媒体
特記事項	貸与促進事業募集開始の周知を目的とする広報
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	チラシ及び申請要項の送付169件(公開承認施設、各都道府県教育委員会・政令指定都市教育委員会)
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつウェブサイトでの紹介、ぶんかつSNS(Twitter/Instagram)の情報発信
その他	アットPressによるプレスリリース配信
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	
テレビ、ラジオ	

雑誌	
インターネットメディア	朝日新聞デジタルマガジン&、読売新聞オンライン ほか計40媒体
その他	

・令和5(2023)年度 国立博物館収蔵品貸与促進事業　実施対象館が決定

会期	5年4月1日（土）～6年4月7日（日）（全国7施設にて開催）
ターゲット	各開催会場来場者、古美術愛好者、歴史愛好者、ファミリー層、小学生などの子どもとその親、観光客
重点項目	一般媒体、開催地域の地元向け媒体、インターネット媒体
特記事項	貸与促進事業全体の活動周知を目的とする広報
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつウェブサイトでの紹介、ぶんかつSNS(Twitter/Instagram)の情報発信
その他	アットPressによるプレスリリース配信
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	
テレビ、ラジオ	
雑誌	
インターネットメディア	
その他	

【東京国立博物館】
(1) 総合文化展（平常展）

・「博物館でお花見を」

会期	3月15日（火）～4月10日（日）（25日間）
ターゲット	比較的外出する傾向にあり、SNSを多用している日本20代前半から30代前半。一般の美術愛好家
重点項目	一般のマスコミ及びインターネット・SNSによる情報提供
特記事項	
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	新型コロナウイルス感染拡大による運営方法変更等に備え、広報ビジュアルデータを制作しデジタルメディアの広報をメインとしたため、館内掲示用のポスターのみ作成。
交通広告	デジタルサイネージ：JR上野駅（公園口）
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事1回、メールマガジン・SNSでの情報配信。
その他	SNS広告（Twitter、Instagram、Facebook）、アットプレスによるリリース発信
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	東京新聞、新美術新聞ほか
テレビ、ラジオ	J:COM11チャンネル台東区広報番組「ニュースたいとう」
雑誌	―
インターネットメディア	LINEニュース、SankeiBiz、FASCHON PRESS、ロイター、朝日新聞デジタルマガジン& など
その他	

・「博物館でアジアの旅」

会期	9月21日（水）～10月16日（日）　(23日間)
ターゲット	一般の東洋美術愛好家、小学生などの子どもとその親、若年層（学生など）
重点項目	一般のマスコミ及びインターネット・SNSによる情報提供
特記事項	
①広告・広報	

種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	館内掲示用にポスターのみ作成
交通広告	デジタルサイネージ：JR上野駅（公園口）
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事3回、メールマガジン・SNSでの情報配信など。
その他	SNS広告（Twitter、Instagram、Facebook、TikTok）、アットプレスによるリリース発信、PR用ステッカー配架
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	船橋よみうり新聞、毎日新聞
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	美術展ナビ、朝日新聞デジタルマガジン、ファッションプレス、レッツエンジョイ東京、ORICON NEWS、ロイター.co.jp、月刊うえのWEB版 ほか
その他	―

・「博物館に初もうで」

会期	5年1月2日（月・休）～1月29日（日）（25日間）
ターゲット	一般の美術愛好家、小学生などの子どもとその親、若年層（学生など）、在日外国人
重点項目	一般のマスコミ及びインターネット・SNSによる情報提供
特記事項	
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	館内掲示用にポスターのみ作成
交通広告	デジタルサイネージ：JR上野駅（公園口）
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジン・SNSでの情報配信など
その他	SNS広告（Twitter、Instagram、Facebook、TikTok）、アットプレスによるリリース発信
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	共同通信、読売こども新聞、しんぶん赤旗
テレビ、ラジオ	台東区ケーブルテレビ、J-WAVE
雑誌	ハルメク、男の隠れ家
インターネットメディア	ぶんかる、TimeOut、美術手帖WEB、美術展ナビ、婦人画報WEB、月刊うえのWEB版ほか
その他	―

・特別企画「大安寺の仏像」

会期	5年1月2日（月・休）～3月19日（日）（66日間）
ターゲット	一般の美術愛好家、仏像ファン、古美術ファン
重点項目	一般のマスコミ及びインターネット・SNSによる情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	B2…30部、A4…1万部（当館分）　※DMは実施なし
交通広告	デジタルサイネージ：JR上野駅（公園口）、JR東京駅丸の内地下通路
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事2回、メールマガジン・SNSでの情報配信など
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等

新聞	読売新聞「シティライフ」、毎日新聞・博物館ガイド、朝日新聞、東京新聞「メトロポリタン＋」、産経新聞「東京PLUS」、船橋よみうり新聞　など
テレビ、ラジオ	J-WAVE（TDK VOICES FROM NIHONMONO）
雑誌	遠州流茶道月刊誌月刊茶道誌「遠州」（3月号）『大人のおしゃれ手帖』（宝島社）、『ARIFT』2月10日号、『一個人』『月刊江戸楽』2月号、「きょうの歳時記・美術館」アートの旅　2023冬号（㈱エイブル）、
インターネットメディア	和楽WEB（小学館）、「美術展ナビ」（読売新聞社）、「ファッションプレス」、 WEB版『美術手帖』、「インターネットミュージアム」、「月刊うえの」、「スフマート」、産経リビング東京Web、月刊うえの、レッツエンジョイ東京、「ここより」、「アートアジェンダ」　など
その他	―

(2) 特別展、共催展等

・特別展「空也上人と六波羅蜜寺」

会期	3月1日（火）～5月8日（日）（62日間）
ターゲット	日本文化・美術愛好家全般
重点項目	マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供
特記事項	
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約3,000件(美術館・博物館、古美術骨董、各種教室等)に送付、館内配布
交通広告	JR山手線ボード8駅9面
新聞・雑誌広告	朝日新聞イベントガイド
テレビ広告	テレビ朝日CM
「東京国立博物館ニュース」掲載	告知2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、当館メールマガジンでの情報配信、公式サイト・共催者(朝日新聞社、テレビ朝日、BS朝日)ウェブサイトでの紹介 SNS:公式フェイスブック・ツイッター、当館ツイッター・フェイスブックでの情報発信　ほか
その他	SNS広告実施
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日小学生新聞、朝日新聞、毎日小学生新聞、宗教新聞　ほか
テレビ、ラジオ	NHK「日曜美術館アートシーン」、BS日テレ「ぶらぶら美術・博物館」、テレビ朝日「じゅん散歩」、テレビ朝日「中居正広のニュースな会」、テレビ東京「出没！アド街ック天国」、TBS「東大王」
雑誌	生活の友社「美術の窓2021年12月号」、新潮社「芸術新潮2021年12月号」、生活の友社「美術の窓3月号」、日経BPマーケティング「日経おとなのOFF別冊 2022年絶対見逃せない美術展」、JR東日本「大人の休日倶楽部」、時空旅人「大人が観たい美術展2022」、メディカルクオール「月刊メディカルクオール4月号」ほか
インターネットメディア	美術展ナビ、和楽WEB、シネフィル、寺社オンライン　ほか
その他	―
③報道発表会	
実施日	3年11月3日（平成館大講堂）
人数等	35名出席
④報道内覧会	
実施日	2月28日（月）
人数等	185名出席

・沖縄復帰50年記念　特別展「琉球」

会期	5月3日（火・祝）～6月26日(日)（48日間）
ターゲット	一般の美術愛好家、沖縄文化愛好家
重点項目	マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供
特記事項	
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約3,000件（美術館・博物館・マスコミ等)に送付、館内配布
交通広告	東京メトロ電飾看板（メトロコンコースビジョン）上野・池袋・明治神宮前駅、JR電飾看板（J-ADビジョン）上野駅・丸の内各所連絡通路、京王線・京成線・京急線（川崎・鶴見ほか）沿線駅にてポスター駅貼り（B1）、アトレ上野店・サクラテラス柱巻き　ほか
新聞・雑誌広告	読売新聞（全国版）朝刊にて特集（4月20日）、社会面面突き出し広告（5月15日・22日）、朝日新聞朝刊（東京版）テレビ欄広告（5月15日）ほか
テレビ広告	NHK展覧会紹介　スポット放映（5月中）　ほか
「東京国立博物館ニュース」掲載	告知3回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事8回、メールマガジンでの情報配信、公式サイト・共催者(読売新聞社、NHKG)ウェブサイトでの紹介 SNS:公式Twitter、当館Twitter・Facebook・Instagramでの情報発信

その他	・読売本社１階マルチビジョン　スポット放映 ・有楽町Bic Vision（有楽町ビックカメラ外壁）スポット放映　　ほか
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞、朝日新聞、公明新聞　ほか
テレビ、ラジオ	NHK日曜美術館（5/15放送）、NHKニュース（5/15）、日本テレビニュース(5/15)、台東ケーブルテレビ　ほか
雑誌	芸術新潮（新潮社、11月号）、女性のひろば（日本共産党中央委員会、3月号）、 和楽（小学館6・7月号）、サライ（小学館 4/10発売）、時空旅人（株式会社プラネットライツ、3/26発売）、美術の窓（生活の友社、5月号）、美しいキモノ（ハースト婦人画報社、5/20発売）ほか
インターネットメディア	ドワンゴ「ニコニコ美術館」（5/31生放送）、アートアジェンダ、ファッションプレス、WEB版『美術手帖』、「インターネットミュージアム」、スフマート、和楽web、共同通信　ほか
その他	―
③報道発表会	
実施日	3年11月26日（平成館大講堂）
人数等	33媒体　45名出席
④報道内覧会	
実施日	5月2日
人数等	124媒体　162名出席

・日中国交正常化50周年記念　特別デジタル展「故宮の世界」

会期	7月26日（火）～9月19日（月・祝）（56日間）
ターゲット	一般の美術愛好家
重点項目	マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、フェイスブック、ブログ関連記事3回、メールマガジンでの情報配信、展覧会公式サイト
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞
テレビ、ラジオ	ゴーちゃんLAB（テレ朝）
雑誌	―
インターネットメディア	インターネットミュージアム、美術展ナビ、朝日マリオン・コム、うえの、ほか
その他	―
③報道発表会	
実施日	―
人数等	―
④報道内覧会	
実施日	7月25日（月）
人数等	30人

・東京国立博物館創立150年記念　特別展「国宝　東京国立博物館のすべて」

会期	10月18日（火）～12月18日（日）（55日間）※12月5日臨時開館、12月13～18日会期延長
ターゲット	日本文化・美術愛好家全般、刀剣ファン
重点項目	マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供
特記事項	事前予約制による入場者数制限に対する多数の観覧希望を受けて会期延長
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約8,400件（美術館・博物館・マスコミ等)に送付、館内配布
交通広告	東京メトロ電飾ボード3駅（上野・渋谷・飯田橋）、JR駅NTボード24駅25面（上野・東京・品川・新宿・池袋・新横浜・大宮等）、アトレ上野（柱巻・コンコースフラッグ・パークアベニューフラッグ）、京王線沿線駅貼りポスター、上野商店街フラッグ　ほか

新聞・雑誌広告	毎日新聞朝刊にて開催社告（9月19日）、同社朝刊・夕刊にて1面題字下広告・記事下広告など9月以降随時掲載　ほか
テレビ広告	TBS・BS-TBS毎日新聞スポット枠にて放映、NHKスポット放映 ほか
「東京国立博物館ニュース」掲載	告知3回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事9回、メールマガジンでの情報配信、公式サイトでの紹介 SNS:公式Twitter・Facebook・Instagram、当館Twitter・Facebook・Instagramでの情報発信
その他	・渋谷DHCチャンネル、新宿フラッグスビジョン、TBSラジオ（10月1日～）でのスポット放映 ・国宝カード22万部作成・配付（上野商業施設とのコラボ企画の一環及び10月中の来場者特典として） ・SNS広告配信（Twitter、Facebook） ・Yahoo!・Google広告出稿　　ほか
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	毎日新聞、毎日小学生新聞、読売新聞、読売KODOMO新聞、朝日新聞、産経新聞　ほか
テレビ、ラジオ	NHK BS「生中継！8K特別内覧会」（10/16生中継）、NHK Eテレ「日曜美術館」（10/23）、NHK総合「チコちゃんに叱られる！」（10/28）、NHK総合「東京国立博物館150年 “推し”の国宝 大公開!」（11/3）、日本テレビ「1億3000万人のSHOWチャンネル」（11/12）、NHK総合「有吉のお金発見　突撃!カネオくん」（11/26）、BS日テレ「ぶらぶら美術館・博物館」（11/29）ほか
雑誌	「芸術新潮」（3年12月号）、「美術の窓」（3年12月号・4年10月号）、日経BP社「おとなのOFF美術展2022」、「ノジュール」（5月号・9月号）、「サライ」11月号別冊付録（10/9発売）、「ひととき」（9月号）、「和樂」（10・11月号）、「東京人」（11月号）、「文藝春秋」（12月号）、2022年版「刀剣画報・かたな旅」ほか
インターネットメディア	美術展ナビ、毎日新聞英文ニュースサイト「The Mainichi」、美術手帖オンライン、Businness Insider、Casa BRUTUSオンライン、インターネットミュージアム ほか
その他	―
③報道発表会	
実施日	5月20日（金）（平成館大講堂）　※後日、録画映像を期間限定でオンライン配信
人数等	会場出席者：75名、オンライン配信視聴申込：58名
④報道内覧会	
実施日	10月17日（月）
人数等	260名出席

【京都国立博物館】
(1)名品ギャラリー（平常展）

・特集展示「新発見！蕪村の「奥の細道図巻」」

会期	6月14日（火）～7月18日（月・祝）（31日間）
ターゲット	一般の日本美術ファン、古典文学ファン、与謝蕪村ファン
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「京都国立博物館だより」掲載	特集2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事1回、メールマガジンでの情報配信 SNS:当館Twitter、トラりんTwitter・Facebookでの情報発信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	毎日新聞、読売新聞、朝日新聞、京都新聞、共同通信
テレビ、ラジオ	―
雑誌	きょうの歳時記
インターネットメディア	婦人画報デジタル（アシェット婦人画報社）、沿線おでかけ情報（阪急電鉄）　ほか計6件
その他	―

・新春特集展示「卯づくし―干支を愛でる―」

会期	5年1月2日（月・休）～1月29日（日）（25日間）
ターゲット	一般の日本美術ファン、年末年始の観光客
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	

種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,590件（※博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、図書館、ギャラリー等）
交通広告	京都駅地下東口サイネージ、京都駅地下街サイネージ、駅貼り広告(京阪電車：京橋駅、天満橋駅、淀屋橋駅)
新聞・雑誌広告	産経新聞（北摂版、大阪市内版12/31全5段）
テレビ広告	―
「京都国立博物館だより」掲載	予告1回、特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事1回、メールマガジンでの情報配信 SNS:当館Twitter、トラりんTwitter・Facebookでの情報発信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	リビング京都、朝日新聞、読売新聞、しんぶん赤旗、産経新聞
テレビ、ラジオ	KBS京都ラジオ
雑誌	ひととき（ウェッジ）、目の眼（目の眼）、男の隠れ家（三栄）、サライ（小学館）、きょうの歳時記（エイブル）　ほか計3件
インターネットメディア	京都観光Navi（京都市）、DigiStyle京都（大平印刷）、京都で遊ぼうART（エグザム）　ほか計11件
その他	―

・特集展示「雛まつりと人形」

会期	5年2月4日（土）～3月5日（日）（26日間）
ターゲット	一般の日本美術ファン、人形ファン
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	京都駅地下街サイネージ
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「京都国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事1回、メールマガジンでの情報配信 SNS:当館Twitter、トラりんTwitter・Facebookでの情報発信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	Leaf（Leafパブリケーションズ）、機関紙編集者クラブ・編集室・編集サービス（くとうてん）
インターネットメディア	京都観光Navi（京都市）、婦人画報web、京都で遊ぼうART（エグザム）　ほか計2件
その他	―

(2)特別展覧会、共催展等

・伝教大師1200年大遠忌記念 特別展「最澄と天台宗のすべて」

会期	4月12日（火）～5月22日（日）（36日間）
ターゲット	一般の日本美術ファン、仏像ファン、歴史ファン
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,800件（※博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、図書館、ギャラリー等）
交通広告	車内吊り広告(JR京都線、京阪本線)、私鉄主要駅サイネージ（京阪、阪急）
新聞・雑誌広告	読売新聞
テレビ広告	読売テレビスポットCM
「京都国立博物館だより」掲載	予告1回、特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事3回、メールマガジン、展覧会公式ウェブサイトでの情報配信 SNS:当館Twitter、トラりんFacebook・Twitter、展覧会公式Twitterでの情報発信
その他	
②メディア掲載等	

種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞、朝日新聞　ほか計33件
テレビ、ラジオ	NHK京都、KBS京都、テレビ大阪　ほか4件
雑誌	美術展完全ガイド2022、美術の窓、大人が見たい美術展2022　ほか73件
インターネットメディア	ニコニコ美術館（ドワンゴ）、美術手帖Web版（BTCompany）、美術展ナビ（読売新聞社）　ほか計108件
その他	―
③報道発表会	
実施日	4年1月17日（月）
人数等	28媒体、38人出席
④報道内覧会	
実施日	4月11日（月）
人数等	42媒体、82人出席

・特別展「河内長野の霊地 観心寺と金剛寺―真言密教と南朝の遺産―」

会期	7月30日（土）～9月11日（日）（38日間）
ターゲット	仏教美術ファン、歴史ファン、日本美術ファン
重点項目	広く一般のマスコミ及びSNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,550件（※博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、図書館、ギャラリー等）
交通広告	JR京都駅地下街・阪急地下街サイネージ、駅貼り広告(京阪電車：七条駅、京橋駅、天満橋駅、淀屋橋)
新聞・雑誌広告	京都新聞、産経新聞
テレビ広告	―
「京都国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事3回、メールマガジン SNS:当館Twitter、トラりんFacebook・Twitterでの情報発信
その他	ニコニコ美術館（ドワンゴ）
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞、朝日新聞、京都新聞
テレビ、ラジオ	アートシーン（NHK）
雑誌	週刊文春（文藝春秋）、サライ（小学館）　ほか計17件
インターネットメディア	美術展ナビ（読売新聞社）、Yahoo！ニュース　ほか計12件
その他	チューオーツーリスト
④報道内覧会	
実施日	7月29日（金）
人数等	25媒体、31人出席

・特別展「京（みやこ）に生きる文化　茶の湯」

会期	10月8日（土）～12月4日（日）（50日間）
ターゲット	日本美術ファン、古美術ファン、中国絵画ファン、茶道を嗜む人
重点項目	広く一般のマスコミ及びSNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,800件（※博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、図書館、ギャラリー等）
交通広告	車内吊り広告(JR京都線、京阪本線)、JR大阪駅構内ビールオフ広告、私鉄主要駅サイネージ（京阪、阪急）
新聞・雑誌広告	読売新聞社
テレビ広告	読売テレビ
「京都国立博物館だより」掲載	予告1回、特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事3回、メールマガジン、展覧会公式ウェブサイトでの情報配信 SNS:当館Twitter、トラりんFacebook・Twitter、展覧会公式Twitterでの情報発信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、京都新聞　ほか計103件

テレビ、ラジオ	京いちにち（NHK）、NEWSZERO（読売テレビ）、さらピン！キョウト（KBS京都ラジオ）　ほか計5件
雑誌	芸術新潮（新潮社）、和楽（小学館）、茶道雑誌（河原書店）　ほか計88件
インターネットメディア	ファッションプレス（カーリン）、京都で遊ぼうART（エグザム）　ほか計39件
その他	クラブツーリズム、ホテルオークラ京都　ほか計3件
③報道発表会	
実施日	7月11日（月）
人数等	24媒体、29人出席
④報道内覧会	
実施日	10月7日（金）
人数等	66媒体、76人出席

・親鸞聖人生誕850年 特別展「親鸞-生涯と名宝」

会期	5年3月25日（土）～5月21日（日）（50日間）
ターゲット	歴史ファン、仏教美術ファン
重点項目	広く一般のマスコミ及びSNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,000件（※博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、図書館、ギャラリー等）
交通広告	車内吊り広告(京阪、阪急、市バス)、JR京都駅地下街、大阪駅・阪急梅田駅構内、京都市営地下鉄四条駅構内サイネージ
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	NHKスポット放映
「京都国立博物館だより」掲載	予告1回、特集2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事3回、メールマガジン、展覧会公式ウェブサイトでの情報配信 SNS:当館Twitter、トラりんFacebook・Twitterでの情報発信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞、読売新聞、京都新聞
テレビ、ラジオ	NHK京コトはじめ、NHKぐるっと関西おひるまえ
雑誌	美術展ぴあ（ぴあ）、てんとう虫（UCカード）、日経おとなのOFF（日経BP社）、別冊太陽別冊「親鸞」（平凡社）、時空旅人（三栄）　ほか計44件
インターネットメディア	そうだ京都、行こう（JR東海）、じゃらんnet　ほか計18件
その他	つばさ交通
③報道発表会	
実施日	9月7日（水）
人数等	16媒体、28人出席
④報道内覧会	
実施日	3月24日（金）
人数等	39媒体、58人出席

【奈良国立博物館】

(1)名品展(平常展)

・名品展　「珠玉の仏たち」

会期	4月5日（火）～常時開催
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術（仏像）ファン、外国人観光客、小・中・高・大学生
重点項目	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術（仏像）ファン、外国人観光客、小・中・高・大学生向けに、マスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	外国人向け音声ガイド（英・中・韓）、日本語音声ガイドは29年10月28日から導入
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「奈良国立博物館だより」掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、Twitter
その他	小西通り商店街アナウンス

②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	ウォーカープラス、じゃらんnet、るるぶ&more、奈良県公式なら旅ネット、奈良市観光協会公式サイト、関西文化.com、JAFなび、えらべる倶楽部、ベネフィット・ステーション、イオンカード公式サイト、近畿日本鉄道公式サイト　等
その他	―

・名品展　「中国古代青銅器」

会期	4月5日（火）～常時開催
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、青銅器ファン、外国人観光客、小・中・高・大学生
重点項目	一般の歴史及び美術ファン、青銅器ファン、外国人観光客、小・中・高・大学生向けに、マスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	外国人向け音声ガイド（英・中・韓）、日本語音声ガイドは29年10月28日から導入
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「奈良国立博物館だより」掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	ウォーカープラス、じゃらんnet、るるぶ&more、奈良県公式なら旅ネット、奈良市観光協会公式サイト、関西文化.com、JAFなび、えらべる倶楽部、ベネフィット・ステーション、イオンカード公式サイト、近畿日本鉄道公式サイト　等
その他	中国青銅器入門

・名品展　「珠玉の仏教美術」

会期	4年12月10日（土）～5年1月22日（日）、5年2月4日（土）～3月19日（日）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術（仏像）ファン、外国人観光客、小・中・高・大学生
重点項目	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術（仏像）ファン、外国人観光客、小・中・高・大学生向けに、マスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「奈良国立博物館だより」掲載	紹介2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	―
その他	―

・名品展　特別公開「金峯山寺仁王門　金剛力士立像」

会期	3年2月23日（火・祝）～10年度予定
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、小・中・高・大学生

重点項目	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、小・中・高・大学生向けに一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「奈良国立博物館だより」掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、Twitter
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	TBSテレビ「がっちりマンデー!□」
雑誌	―
インターネットメディア	―
その他	広報紙『あんしんlife』（一般社団法人あんしん財団）

・名品展　特別公開「奈良・不退寺本尊聖観音菩薩立像」

会期	5年3月21日（火）～5月14日（日）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、小・中・高・大学生
重点項目	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、小・中・高・大学生向けに一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「奈良国立博物館だより」掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	―
その他	『歴史の旅人』、『784 ならどっと FMpress 春夏号』

・特別陳列「お水取り」

会期	5年2月4日（土）～3月19日（日）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、「お水取り」（お松明）を見に来る観光客。
重点項目	広く一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,700件（博物館・美術館・学校（幼・小・中・高・大）・ギャラリー・図書館・近隣商店街・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「奈良国立博物館だより」掲載	紹介1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト
その他	―

②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	京都新聞、朝日新聞
テレビ、ラジオ	―
雑誌	『関西ウォーカー2023春』
インターネットメディア	『神戸観光コンシェルジュ』、『アートアジェンダ』、『太平洋DCフォルテ』、『ウォーカープラス』、『JR西日本』、『じゃらんnet』　ほか
その他	『アートの旅　2023冬号』、『yomiっこ』2月号、『近鉄ニュース』2月号、『日経REVIVE』２月号、『電車＆ウォーク』12月号　ほか

・特集展示「新たに修理された文化財」

会期	5年2月21日（火）～3月19日（日）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、歴史ファン、写真ファン
重点項目	広く一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「奈良国立博物館だより」掲載	紹介1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	毎日新聞
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	『神戸観光コンシェルジュ』
その他	―

(2)特別展、共催展等

特別展　大安寺のすべて―天平のみほとけと祈り―

会期	4月23日(土)～6月19日(日)（51日間）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、歴史ファン
重点項目	広く一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,700件　博物館、美術館、学校（幼・小・中・高・大）、ギャラリー、社寺、図書館、近隣商店街、文化施設、ホテル・旅館、報道・出版、旅行会社
交通広告	近鉄、Osaka Metro、奈良交通、阪急、JR
新聞・雑誌広告	読売テレビCM、NHKTVスポット
テレビ広告	―
「奈良国立博物館だより」掲載	紹介2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、Twitter
その他	展覧会公式Twitter、奈良県サイネージ、奈良市サイネージ、MBSラジオ「ありがとう浜村淳です」
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	中外日報、朝日新聞、大阪民主新報
テレビ、ラジオ	NHK奈良「ならナビ」（4/16）、日曜美術館アートシーン（5/25）
雑誌	春ウォーカー、サライ4月号、歴史の旅人、yomiっこ、近鉄ニュース、月刊大和路ならら、旅の手帖、アゴラ、ノジュール、アートの旅、エクラ、週間文春、芸術新潮　ほか
インターネットメディア	じゃらんnet、アートアジェンダ、ウォーカープラス、美術展ナビ、gooニュース、インターネットミュージアム、なら旅ネット、神戸観光コンシェルジュ、SPICE、Fashion Press　ほか
その他	―
③報道発表会	
実施日	リリース資料配信のみ（2月17日）
人数等	―

④報道内覧会	
実施日	4月22日
人数等	31媒体、48人出席

貞享本當麻曼荼羅修理完成記念　特別展「中将姫と當麻曼荼羅―祈りが紡ぐ物語―」

会期	7月16日（土）～8月28日（月）（39日間）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、歴史ファン
重点項目	広く一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,750件　博物館、美術館、学校（幼・小・中・高・大）、ギャラリー、関連社寺、関連施設、図書館、近隣商店街、文化施設、ホテル・旅館、報道・出版、旅行会社
交通広告	近鉄、奈良交通
新聞・雑誌広告	読売新聞広告
テレビ広告	―
「奈良国立博物館だより」掲載	紹介1回、特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、Twitter
その他	展覧会公式Twitter、奈良県サイネージ、奈良市サイネージ、MBSラジオ「ありがとう浜村淳です」
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞、浄土宗新聞、奈良新聞、毎日新聞
テレビ、ラジオ	ゆうドキ！（5/11）、ならナビ（7/22）、日曜美術館アートシーン（8/7）、NHK、奈良テレビ放送　ほか
雑誌	ノジュール、月刊アゴラ、歴史人、関西夏ウォーカー、歴史の旅人、美術の窓、yomiっこ、月刊大和路ならら、月刊奈良、そらみつやまと　ほか
インターネットメディア	アートアジェンダ、ウォーカープラス、インターネットミュージアム、神戸観光コンシェルジュ、ぱーぷる、NARABURA、JR西日本おでかけネット、美術展ナビ、ならナビ
その他	―
③報道発表会	
実施日	第1弾：2月21日（リリース資料配信のみ）、第2弾：5月11日
人数等	14媒体、16名出席（場所：当館講堂）
④報道内覧会	
実施日	7月15日
人数等	24媒体、34人出席

特別展「第74回正倉院展」

会期	10月29日（土）～11月14日（月）（17日間）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、正倉院展のリピーター客
重点項目	一般の歴史及び美術ファン、正倉院展のリピーター客向けにテレビや新聞など広く一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,700件　博物館、美術館、学校（幼・小・中・高・大）、ギャラリー、社寺、図書館、近隣商店街、文化施設、ホテル・旅館、報道・出版、旅行会社
交通広告	近鉄、JR、Osaka Metro、奈良交通、東京メトロ
新聞・雑誌広告	読売新聞広告
テレビ広告	―
「奈良国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、Twitter
その他	公式サイト、公式Twitter、奈良県サイネージ、奈良市サイネージ、MBSラジオ「ありがとう浜村淳です」
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞、朝日新聞、奈良新聞、報知新聞、京都新聞　ほか
テレビ、ラジオ	ゆうドキ！（8/24）、ならナビ（8/9）、日曜美術館（11/6）、報道ランナー（10/28）、かんさい情報ネットten.　ほか
雑誌	月刊大和路ならら、歴史の旅人、月刊「潮」、刀剣界、アートコレクターズ、関西ウォーカー2023、月刊旅行読売、典藏古美術（台湾）　ほか
インターネットメディア	アートアジェンダ、美術展ナビ、日本の旅、Fashion Press、奈良市観光協会ウェブサイト、MIRAI、婦人画報JP、ええ古都なら、美術展ナビ、voice、ならめがね、ウェブ版「美術手帖」　ほか
その他	奈良まほろば館　パネル展示、講演会チラシ・ポスター（帝塚山大学担当）
③報道発表会	

実施日	リリース資料配信のみ（8月9日）
人数等	―
④報道内覧会	
実施日	10月28日
人数等	28媒体、77人出席

式年造替記念特別展「春日大社 若宮国宝展―祈りの王朝文化―」

会期	12月10日（金）～5年1月22日（日）（34日間）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、歴史ファン
重点項目	広く一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,700件　博物館、美術館、学校（幼・小・中・高・大）、ギャラリー、関連社寺、関連施設、図書館、近隣商店街、文化施設、ホテル・旅館、報道・出版、旅行会社
交通広告	近鉄、Osaka Metro、阪急、阪神、JR
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「奈良国立博物館だより」掲載	特集1回、紹介1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、Twitter
その他	JR西日本「ちょこっと関西歴史たび」、奈良県サイネージ、奈良市サイネージ、MBSラジオ「ありがとう浜村淳です」
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	京都新聞、朝日新聞、読売新聞、産経新聞　ほか
テレビ、ラジオ	やさしいニュース（9/30）、NHKニュース（12/7）、ぐるっと関西おひるまえ（12/14）、abcニュース（12/25）　ほか
雑誌	『日経おとなのOFF』、月刊『目の眼』、『月刊大和路ならら』、月刊『潮』、『墨』、『美術展ぴあ』　ほか
インターネットメディア	『グノシー』、『美術展ナビ』、『アートアジェンダ』、『ニコニコニュース』、『朝日新聞デジタル』、『Yahoo!ニュース』、『神戸観光コンシェルジュ』　ほか
その他	『ザ・淀川』、『西Navi』、『アートの旅』、『リビング新聞』　ほか
③報道発表会	
実施日	9月30日
人数等	14媒体、18名出席（場所：春日大社）
④報道内覧会	
実施日	12月9日
人数等	30媒体、40人出席

【九州国立博物館】

(1)文化交流展（平常展）

・きゅーはく女子考古部プレゼンツ　かわいい考古学のススメ

会期	4月19日（火）～7月24日（日）（85日間）
ターゲット	一般の歴史・考古学ファン、文化財に関心のある一般市民等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	西鉄太宰府駅、JR二日市駅
交通広告	西鉄バス（車内サイネージ・バス停）
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、Twitterでの情報発信、当館刊行物のLINE配信での情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、参道フラッグ掲出、エントランスバナー設置
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	西日本新聞、朝日新聞、読売新聞、毎日新聞
テレビ、ラジオ	NHK福岡「はっけんTV」、ケーブルステーション福岡、LOVE FM、RKBラジオ

雑誌	九州王国、月刊はかた
インターネットメディア	Walkerplus、西日本新聞me、イベントバンク、よかとこパスポート、福岡おでかけナビ、ARTNE、ファンファン福岡
その他	

・新収品展

会期	5月31日（火）～7月18日（月・祝）（43日間）
ターゲット	一般の歴史・考古学ファン、文化財に関心のある一般市民等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、Twitterでの情報発信、当館刊行物のLINE配信での情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	西日本新聞、佐賀新聞
テレビ、ラジオ	TVQ九州放送「ふくサテ」
雑誌	―
インターネットメディア	西日本新聞me、ARTNE、ファンファン福岡
その他	

・ならべてわかる本物のひみつ～実物とレプリカ 2022～

会期	7月20日（水）～10月10日（月・祝）（70日間）※9月6日、18日、19日は台風の影響により臨時休館
ターゲット	一般の歴史ファン、文化財に関心のある一般市民、視覚に障がいのある人等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	西鉄太宰府駅、JR二日市駅
交通広告	西鉄バス（車内サイネージ）
新聞・雑誌広告	CROSSFM「わくわく課外授業」
テレビ広告	―
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、Twitterでの情報発信、当館刊行物のLINE配信での情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、WEBプレスリリース実施
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	ARTNE、西日本新聞me、イベントバンク、福岡おでかけナビ、よかとこパスポート、ファンファン福岡
その他	―

・沖ノ島祭祀を担った奉斎者たち

会期	9月21日（水）～12月4日（日）（66日間）※11月28日は臨時開館
ターゲット	一般の歴史・考古学ファン、文化財に関心のある一般市民等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―

交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、Twitterでの情報発信
その他	WEBプレスリリース実施
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	西日本新聞、朝日新聞、毎日新聞
テレビ、ラジオ	RKB毎日放送「よんなび」
雑誌	―
インターネットメディア	Walkerplus、西日本新聞me
その他	―

・御所の器―公家山科家伝来の古伊万里―

会期	9月27日（火）～11月20日（日）（48日間）
ターゲット	一般の歴史・美術ファン、文化財に関心のある一般市民等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	西鉄太宰府駅、JR二日市駅
交通広告	西鉄バス（車内サイネージ・バス停）
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、Twitterでの情報発信、当館刊行物のLINE配信での情報発信、YouTubeでの情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、参道フラッグ掲出、エントランスバナー設置
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	佐賀新聞
テレビ、ラジオ	TVQ九州放送「太宰府・九博　散歩道」
雑誌	九州王国、月刊はかた、ぐらんざ、広報だざいふ、陶説
インターネットメディア	ARTNE、西日本新聞me、イベントバンク、福岡おでかけナビ、よかとこパスポート、Walkerplus、ファンファン福岡
その他	―

・いつもそばにいた　人と動物のアジア

会期	10月25日（火）～12月11日（日）（43日間）※11月28日は臨時開館
ターゲット	一般の歴史ファン、文化財に関心のある一般市民等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	西鉄太宰府駅、JR二日市駅
交通広告	西鉄バス（車内サイネージ）
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、Twitterでの情報発信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	西日本新聞
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―

インターネットメディア	―
その他	―

・種子島―風と波が育んだ歴史―

会期	12月13日（火）～2月12日（日）（48日間）
ターゲット	一般の歴史・考古学ファン、文化財に関心のある一般市民等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	西鉄太宰府駅、JR二日市駅
交通広告	西鉄バス（車内サイネージ・バス停）
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、Twitterでの情報発信、当館刊行物のLINE配信での情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、参道フラッグ掲出、エントランスバナー設置
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	朝日新聞
テレビ、ラジオ	TVQ九州放送「太宰府・九博　散歩道」
雑誌	古代文化、九州王国、ぐらんざ、広報だざいふ、エスプレッソ
インターネットメディア	インフォメーションテクノロジー関西、イベントバンク、福岡おでかけナビ、ココシル福岡、ファンファン福岡
その他	―

・新春特別公開　徳川美術館所蔵 国宝 初音の調度

会期	令和5年1月1日（日・祝）～1月29日（日）（26日間）
ターゲット	一般の歴史ファン、漆工芸品ファン、太宰府天満宮参拝客等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	西鉄太宰府駅、JR二日市駅
交通広告	西鉄バス（車内サイネージ・バス停）、JR博多駅中央改札口マルチビジョン
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、Twitterでの情報発信、当館刊行物のLINE配信での情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、参道フラッグ掲出、エントランスバナー設置
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	TVQ九州放送「太宰府・九博　散歩道」
雑誌	九州王国、ぐらんざ、美術の窓、美術館ぴあ
インターネットメディア	ファンファン福岡
その他	サンデン旅行

(2)特別展、共催展等

・北斎

会期	4月16日（土）～6月12日（日）（51日間）
ターゲット	一般の歴史ファン、北斎ファン、日本美術ファン
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等

ポスター・チラシ・DM送付	約1,170件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・図書館・文化施設・太宰府市内公民館等） 西鉄太宰府駅、JR二日市駅
交通広告	西鉄バス（車内サイネージ）
新聞・雑誌広告	西日本新聞
テレビ広告	TVQ九州放送
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、Twitterでの情報発信、当館刊行物のLINE配信での情報発信、YouTubeでの情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、エントランスバナー設置、参道フラッグ掲出
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	西日本新聞、朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、美術新聞
テレビ、ラジオ	TVQ九州放送、TNCテレビ西日本、NHK、ケーブルステーション福岡、ニュースウォーカー、RKBラジオ、FM福岡
雑誌	九州王国、サンデー北九州、ぐらんざ、ミニコミまいんず、東経リビング、アートコレクターズ、美術の窓、99VIEW、クルメスタイル、muto、ゆうゆう、和楽、小さな蕾、地元新聞、ながさきプレス、日経トレンディ、芸術新潮、美術展ぴあ、ソラタネ、VOGUE JAPAN、muto、シティ情報ふくおか、FREE、月刊ぷらざほか
インターネットメディア	Walkerplus、ささっとー、JAFナビ、イベントバンク、よかとこパスポート、福岡おでかけナビ、even-f、W LIFE、ウェブ版美術手帖、VOGUE、紡ぐプロジェクト、アートニューズ、ARTNE、福岡観光連盟WEBサイト、美術展ナビ、アジアンビート、インフォメーションテクノロジー関西、シニアコム、ふくおかサポートネット　ほか
その他	大隅旅行、ナカノ商会
③報道発表会	
実施日	2月21日（月）
人数等	11媒体20名（場所：研修室）
④報道内覧会	
実施日	4月15日（金）
人数等	14媒体23名（場所：特別展示室）

・沖縄復帰50年記念　琉球

会期	7月16日（土）～9月4日（日）（45日間）
ターゲット	一般の歴史ファン、沖縄ファン、文化財に関心のある一般市民等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,130件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・図書館・文化施設・太宰府市内公民館等） 西鉄太宰府駅、JR二日市駅
交通広告	西鉄バス（車内サイネージ）
新聞・雑誌広告	読売新聞、西日本新聞
テレビ広告	NHK
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、Twitterでの情報発信、当館刊行物のLINE配信での情報発信、YouTubeでの情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、エントランスバナー設置、参道フラッグ掲出、WEBプレスリリース実施
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞、西日本新聞、朝日新聞、琉球新報、沖縄タイムス、美術新聞、新婦人しんぶん
テレビ、ラジオ	TVQ九州放送、NHK、ケーブルステーション福岡、NHKラジオ第一、RKBラジオ、FM福岡
雑誌	ホットペッパー、九州じゃらん、九州王国、ぐらんざ、東経リビング、ミニコミまいんず、七緒、月刊はかた、SKYWARD、off time、99VIEW、地元新聞、HOT PEPPER、遊人、刀剣春秋、小さな蕾、典蔵古美術、ファミ通、MOE、美術展ぴあ、日経トレンディ　ほか
インターネットメディア	ARTNE、アートアジェンダ、インターネットミュージアム、FASHION PRESS、JAFナビ、Walkerplus、九州サイト、ふくおかサポートねっと、インフォメーションテクノロジー関西、リロクラブ、西日本新聞me、にしてつnews、東京アートニュース、ウェブ版美術手帖、イベントバンク、よかとこパスポート、典蔵古美術、アートニューズ
その他	ナカノ商会
③報道発表会	
実施日	5月18日（水）
人数等	7媒体15名（場所：研修室）
④報道内覧会	
実施日	7月15日（金）
人数等	13媒体22名（場所：特別展示室）

・ポンペイ

会期	10月12日（水）～12月4日（日）（48日間)※11月28日は臨時開館
ターゲット	歴史及び美術ファン、考古学ファン、ポンペイファン
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,150件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・図書館・文化施設・太宰府市内公民館等） 西鉄太宰府駅、JR二日市駅
交通広告	西鉄バス（車内サイネージ）
新聞・雑誌広告	朝日新聞、西日本新聞
テレビ広告	NHK
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、Twitterでの情報発信、当館刊行物のLINE配信での情報発信、YouTubeでの情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、エントランスバナー設置、参道フラッグ掲出、WEBプレスリリース実施
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	西日本新聞、朝日新聞、毎日新聞、中外日報
テレビ、ラジオ	NHK、ケーブルステーション福岡、TVQ九州放送「太宰府・九博　散歩道」、NHKラジオ第一、RKBラジオ
雑誌	遊人、九州じゃらん、muto、九州王国、月刊はかた、FREE、ミニコミまいんず、ぐらんざ、クルム、地元新聞、ライフさせぼ、クルメスタイル、美術展ぴあ、日経トレンディ
インターネットメディア	アートアジェンダ、インフォメーションテクノロジー関西、Walkerplus、クロスロードふくおか、九州サイト、ふくおかサポートねっと、ARTNE、イベントバンク、よかとこパスポート、福岡おでかけナビ、週刊じゃらん、コミュニティ八女、太宰府市HP、アートニューズ
その他	ナカノ商会、第一観光
③報道発表会	
実施日	9月1日（木）
人数等	4媒体9名（場所：研修室）
④報道内覧会	
実施日	10月11日（火）
人数等	11媒体19名（場所：特別展示室）

・加耶

会期	5年1月24日（火）～3月19日（日）（48日間）
ターゲット	一般の歴史・考古学ファン、韓国ファン、文化財に関心のある一般市民等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,160件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・図書館・文化施設・太宰府市内公民館等） 西鉄太宰府駅、JR二日市駅
交通広告	西鉄バス（車内サイネージ）、JR博多駅中央改札口マルチビジョン
新聞・雑誌広告	西日本新聞
テレビ広告	TVQ九州放送
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、Twitterでの情報発信、当館刊行物のLINE配信での情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、エントランスバナー設置、参道フラッグ掲出
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	西日本新聞、読売新聞、芸術新聞社
テレビ、ラジオ	ケーブルステーション福岡、TVQ九州放送「太宰府・九博　散歩道」
雑誌	muto、off time、クルメスタイル、ぐらんざ、地元新聞、エスプレッソ、歴史人、月刊はかた、ライフさせぼ、ながさきプレス、アートコレクターズ、FREE、東経リビング
インターネットメディア	アートアジェンダ、FASHION PRESS、コミュニティ八女、インフォメーションテクノロジー関西
その他	サンデン旅行
③報道発表会	
実施日	10月25日（火）
人数等	9媒体15名（場所：研修室）
④報道内覧会	
実施日	5年1月23日（月）

人数等	12媒体27名（場所：特別展示室）

【平城宮跡資料館】

(1)平常展

会期	4月1日（木）～5年3月31日（木）（310日間）
ターゲット	平城宮跡訪問者、考古学愛好家
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
広報刊行物掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	読売新聞、産経新聞、毎日新聞、朝日新聞、奈良新聞
テレビ、ラジオ	NHK
雑誌	―
インターネットメディア	―
その他	―

(2)特別展等

・平城宮跡資料館 令和4年度 春期特別展
平城宮跡史跡指定100周年・奈良文化財研究所70周年記念 「未来につなぐ平城宮跡 －保存運動のあけぼの－」

会期	4月29日（金・祝）～ 6月12日（日）（40日間）※5月2日は臨時開館
ターゲット	平城宮跡訪問者、考古学愛好家
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	627件(博物館・研究機関・教育委員会・神社、寺・大学・旅行会社・観光、報道関係等)
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
広報刊行物掲載	奈文研ニュース告知1回ほか
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞、産経新聞、奈良新聞
テレビ、ラジオ	NHK、奈良テレビ
雑誌	―
インターネットメディア	―
その他	―
③報道発表会	
実施日	4月28日
人数等	6媒体（場所：平城宮跡資料館展示室）
④報道内覧会	
実施日	―
人数等	―

・平城宮跡資料館 令和4年度 夏期企画展 「大地鳴動 -大地の知らせる危機と私たちの生活-」

会期	7月16日（土）～8月28日（日）（38日間）
ターゲット	平城宮跡訪問者、考古学愛好家
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	379件(博物館・研究機関・教育委員会・神社、寺・大学・旅行会社・観光、報道関係等)ポスターのみ送付
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
広報刊行物掲載	奈文研ニュース告知1回ほか
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	毎日新聞、奈良新聞、朝日新聞、読売新聞、ならリビング
テレビ、ラジオ	NHK、奈良テレビ
雑誌	―
インターネットメディア	―
その他	―
③報道発表会	
実施日	7月15日
人数等	2媒体（場所：平城宮跡資料館展示室）
④報道内覧会	
実施日	―
人数等	―

・2022年度　秋期特別展 奈良文化財研究所70周年記念・平城宮跡史跡指定100周年記念
「地下の正倉院展 －平城木簡年代記〔クロニクル〕－」

会期	10月15日（土）～11月13日（日）（26日間）
ターゲット	木簡ファン、正倉院展愛好家
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	640件(博物館・研究機関・教育委員会・神社、寺・大学・旅行会社・観光、報道関係等)
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
広報刊行物掲載	奈文研ニュース告知1回ほか
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞、朝日新聞、奈良新聞、日本経済新聞、産経新聞、毎日新聞
テレビ、ラジオ	NHK、奈良テレビ
雑誌	―
インターネットメディア	―
その他	―
③報道発表会	
実施日	10月4日
人数等	4媒体（場所：平城宮跡資料館展示室）
④報道内覧会	
実施日	―
人数等	―

・奈良文化財研究所70周年・平城宮跡史跡指定100周年記念特別展
「のこった奇跡　のこした軌跡－未来につなぐ平城宮跡－」

会期	10月29日(土) ～ 12月11日(日)（43日間）
ターゲット	平城宮跡訪問者、考古学愛好家
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	640件(博物館・研究機関・教育委員会・神社、寺・大学・旅行会社・観光、報道関係等)
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
広報刊行物掲載	奈文研ニュース告知1回ほか
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	奈良新聞、朝日新聞、産経新聞
テレビ、ラジオ	NHK、奈良テレビ
雑誌	―
インターネットメディア	―
その他	―
③報道発表会	
実施日	10月28日
人数等	3媒体（場所：平城宮跡歴史公園平城宮いざない館企画展示室）
④報道内覧会	
実施日	―
人数等	―

【藤原宮跡資料室】

(1)平常展

会期	4月1日（金）～5年3月31日（金）（356日間）
ターゲット	特別史跡藤原宮跡等見学者、香具山等周辺遺跡への訪問者
重点項目	飛鳥・藤原地域での発掘・調査研究の成果と遺跡理解の促進
特記事項	新聞・インターネットメディア等で展示紹介記事掲載
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
広報刊行物掲載	旅行ガイドブック、奈良県ポータルサイト等に掲載
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	―
その他	橿原市観光案内所等にリーフレット配置
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	―
その他	―

・速報展

①石神遺跡南北溝SD1347･SD1476出土土器（石神遺跡第8次・第9次）石神遺跡出土土器66点
②藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第205次）大極殿院出土瓦17点
③石神遺跡南北溝SD1347A出土土器（石神遺跡第14次・第15次）石神遺跡出土土器41点
④藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第208次）大極殿院出土凝灰岩1点・瓦15点

【飛鳥資料館】

(1)平常展

会期	4月1日（木）～5年3月31日（木）（307日間）
ターゲット	飛鳥を訪れる観光客、歴史・考古学の愛好家など
重点項目	広く一般のマスコミ、SNS、ウェブを通じた情報提供
特記事項	
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
広報刊行物掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	るるぶ奈良、奈良散策情報、DOkka!おでかけ探検隊、まっぷる情報、おしごとはくぶつかん情報館、東海歴史散歩、ミュージアムカフェ　ほか
インターネットメディア	あをによしなら旅ネット、日本政府観光局グローバルサイト、るるぶウェブサイト、奈良のミュージアム
その他	―

(2)特別展等

・ミニ展示「飛鳥資料館に寄贈された瓦－瓦の花咲く飛鳥資料館－」

会期	4月22日（金）～5月22日（土）（28日間）
ターゲット	歴史・考古学愛好家など
重点項目	広く一般のマスコミ、SNS、ウェブを通じた情報提供
特記事項	
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	
交通広告	
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
広報刊行物掲載	奈文研ニュース告知1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ、SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	奈良新聞
テレビ、ラジオ	
雑誌	広報あすか
インターネットメディア	
その他	橿原ナビプラザ、ミグランス　橿原
③報道発表会	
実施日	
人数等	
④報道内覧会	
実施日	―
人数等	―

・夏期企画展「第13回 写真コンテスト作品展「高松塚古墳」」

会期	7月15日（金）～9月11日（日）（51日間）
ターゲット	歴史・考古学愛好家、写真愛好家、飛鳥を散策したい観光客、
重点項目	写真投稿サイト、写真雑誌、地域の写真サークル、高校・大学の写真部などへの情報提供
特記事項	高松塚古墳壁画発見50周年記念
①広告・広報	

種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,026件(47都道府県博物館・美術館・教育委員会・調査機関・寺社・図書館・大学、高校・中学･小学校(県内)・道の駅・ホテル・旅館、近隣観光施設等)
交通広告	近鉄沿線主要駅駅にチラシ配置
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	
広報刊行物掲載	奈文研ニュース告知1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ、SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞、奈良新聞、毎日新聞、読売新聞
テレビ、ラジオ	
雑誌	広報あすか
インターネットメディア	インターネットミュージアム、イベントバンク、チラシミュージアム、Dokka!おでかけ探検隊ほか
その他	橿原ナビプラザ、ミグランス 橿原
③報道発表会	
実施日	―
人数等	―
④報道内覧会	
実施日	―
人数等	―

・秋期特別展「飛鳥美人　高松塚古墳の魅力」

会期	10月21日（金）～12月18日（日）（51日間）
ターゲット	歴史・考古学愛好家など
重点項目	広く一般のマスコミ、SNS、ウェブを通じた情報提供
特記事項	高松塚古墳壁画発見50周年記念、奈良文化財研究所創立70周年
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,441件(47都道府県博物館・美術館・教育委員会・調査機関・寺社・図書館・大学、高校・中学･小学校(県内)・道の駅・ホテル・旅館、近隣観光施設等)
交通広告	近鉄沿線主要駅にチラシ配置
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
広報刊行物掲載	奈文研ニュース告知1回、文化庁広報誌ぶんかる「文化財のトビラ」
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ、SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、奈良新聞、産経新聞
テレビ、ラジオ	
雑誌	広報あすか　ほか
インターネットメディア	インターネットミュージアム、イベントバンク、チラシミュージアム、Dokka!おでかけ探検隊ほか
その他	橿原ナビプラザ、ミグランス　橿原
③報道発表会	
実施日	10月19日
人数等	7媒体（場所：飛鳥資料館特別展示室）
④報道内覧会	
実施日	―
人数等	―

・冬期企画展 「飛鳥の考古学2022」

会期	5年1月20日（金）～3月12日（日）（45日間）
ターゲット	歴史・考古学愛好家など
重点項目	広く一般のマスコミ、SNS、ウェブを通じた情報提供
特記事項	奈良県立橿原考古学研究所、明日香村と共催
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,374件(47都道府県博物館・美術館・教育委員会・調査機関・寺社・図書館・大学、高校・中学･小学校(県内)・道の駅・ホテル・旅館、近隣観光施設等)

交通広告	近鉄沿線主要駅駅にチラシ配置
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
広報刊行物掲載	
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ、SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞、毎日新聞、奈良新聞、産経新聞、朝日新聞
テレビ、ラジオ	NHK
雑誌	広報あすか　ほか
インターネットメディア	インターネットミュージアム、イベントバンク、チラシミュージアム、Dokka!おでかけ探検隊ほか
その他	橿原ナビプラザ、ミグランス　橿原
③報道発表会	
実施日	1月19日
人数等	7媒体（場所：飛鳥資料館特別展示室）
④報道内覧会	
実施日	―
人数等	―

1-(3)-②-6 広報刊行物一覧

【本部】

刊　行　物　名	発　行　部　数	配　　布　　先
文化財活用センター事業報告書2021年度	200部	・視察者、関係施設等に配布 ・関係省庁等に配布
2021年度ぶんかつアウトリーチプログラム報告書	300部	・文化庁、首都圏小中学校、都道府県教育委員会、都道府県教育センター、国内の美術館・博物館等に送付及び配布
2024年度　国立博物館収蔵品貸与促進事業実施対象館募集　チラシ	2,000部	・地方公共団体、国内の美術館・博物館等に送付及び配布
デジタル法隆寺宝物館リーフレット（日英中韓）	日本語25,000部／英語3,000部 中国語1,500部／韓国語1,000部	・館内で来館者に無償配布
2023年度ぶんかつアウトリーチプログラム募集　パンフレット	3,000部	・首都圏小中学校、都道府県教育委員会、都道府県の教育センター、国内の美術館・博物館等に送付及び配布
2023年度なぶんけん×ぶんかつアウトリーチプログラム募集　チラシ	1,000部	・近畿小中学校、都道府県教育委員会、都道府県の教育センター、国内の美術館・博物館等に送付及び配布
あなたのもとに国宝が!?ぶんかつ文化財複製のお貸出し　チラシ	1,000部	・一般向け（機構内施設での配架分含む）に配布
2021年度公開シンポジウム「ミュージアムをめぐるファンドレイジング」報告書	2,000部	・全国のミュージアム（（公財）日本博物館協会発行の『博物館研究』への同封、同協会主催の全国博物館大会での配布）、関係各施設に配布
文化財防災センターパンフレット2022年版（4月改訂）	2,200部	・国内の関係機関等に配布 ・奈良文化財研究所「全国遺跡報告総覧」を通じて、WEB上にて公開
文化財防災センターパンフレット英語版	500部	・文化財防災センターWEBサイトにて公開
文化財防災救援基金リーフレット	1,000部	・マスコミ媒体に配布

【東京国立博物館】

刊　行　物　名	発　行　部　数		配　　布　　先
東京国立博物館ニュース	6・7・8月号	60,000部	来館者、マスコミ媒体（新聞・雑誌・放送局各社）、定期郵送希望者、友の会・賛助会等会員、キャンパスメンバーズ会員校、国内外の美術館・博物館・大学・研究所等に送付
	9・10・11月号	60,000部	
	12月・5年1・2月号	60,000部	
	5年3・4・5月号	60,000部	
東京国立博物館総合案内パンフレット 5年3月改訂	日本語	50,000部	館内で来館者に無償配布、ウェブサイトにPDFを掲出
	英語	20,000部	
	中国語（簡体字）	6,000部	
	中国語（繁体字）	4,000部	
	韓国語	4,000部	
	フランス語	2,000部	
	スペイン語	2,000部	
	ドイツ語	2,000部	

【京都国立博物館】

刊　行　物　名	発　行　部　数		配　　布　　先
京都国立博物館だより	214号（4・5・6月）	12,000部	館内で来館者に無償配布 新聞・雑誌・放送局各社、学校・図書館・美術館・博物館ほか郵送希望者にも発送
	215号（7・8・9月）	10,000部	
	216号（10・11・12月）	10,000部　増刷10,000部	
	217号（5年1・2・3月）	10,000部	
Kyoto National Museum Newsletter	Vol.153（4・5・6月）	3,000部	館内で来館者に無償配布
	Vol.154（7・8・9月）	3,000部	
	Vol.155（10・11・12月）	3,000部	
	Vol.156（5年1・2・3月）	3,000部	
2023年度年間スケジュール		15,000部	館内で来館者に無償配布 新聞・雑誌・放送局各社、学校・図書館・美術館・博物館ほか郵送希望者にも発送
京都国立博物館パンフレット2022		5,000部	来訪者に無償配布

【奈良国立博物館】

刊　行　物　名	発 行 部 数		配　　布　　先
奈良国立博物館だより （年4回）	春号	20,000部	美術館・博物館・学校・研究所・寄託者・寄贈者・郵送希望者等　約1,500件に発送
	夏号	20,000部	
	秋号	20,000部	
	冬号	20,000部	

刊　行　物　名	発 行 部 数	配　　布　　先
奈良国立博物館展示案内	20,000部 内容一部変更　15,100部	館内で来館者に配布
奈良国立博物館リーフレット	3年度の残部を使用し新規印刷は無し	館内で来館者に配布

【九州国立博物館】

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
九州国立博物館案内リーフレット	日本語版　26,000部 中国語版（簡体字）　2,000部 中国語版（繁体字）　1,000部 韓国語版　2,000部 英語版　4,000部 ドイツ語版　1,000部 フランス語版　1,000部 スペイン語版　1,000部 合計　38,000部	・館内で来館者に配布 ・学校関係、視察者等へ配布
文化交流展示室案内マップ	日本語版　5,117部 合計　5,117部	・館内で来館者に配布 ・学校関係、視察者等へ配布
九州国立博物館概要	日本語版　1,800部 中国語版　200部 韓国語版　200部 英語版　300部 合計　2,500部	・視察者等に配布 ・学校関係へ郵送
季刊情報誌「アジアージュ」	春(64)号　50,000部 夏(65)号　45,000部 秋(66)号　45,000部 冬(67)号　45,000部 合計　185,000部	・館内で来館者に配布 ・美術館・博物館、近隣文化施設、県内市町村 近隣大学、太宰府市、友の会会員等へ郵送
九州国立博物館の展示並びにイベントのご案内	毎月発行　各号16,000部	・館内で来館者に配布 ・郵便局、学校、図書館、ホテル、公共施設、道の駅等に配布
九州国立博物館　2021年間スケジュール	10,000部	・館内で来館者に配布 ・近隣駅、観光案内所等で配布
学校利用ガイド	1,500部	・館内で来館した学校に配布 ・アウトリーチ活動（きゅーはくきゃらばん）で出向いた学校・イベント先で配布

1-(3)-②-7 ウェブサイトアクセス件数　　（後述の資料に記載）◎共通資料d

1-(5) 国内外の博物館活動への寄与

1-(5)-① 国内外の博物館等への有形文化財の貸与

1-(5)-①-1国内外の博物館等への収蔵品貸与件数

令和5年3月31日現在

		国立博物館計			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
		計	国内	海外	計	国内	海外	計	国内	海外	計	国内	海外	計	国内	海外
貸与先件数		236	232	4	116	112	4	70	70	0	26	26	0	24	24	0
合　　計		1,579	1,560	19	1,075	1,056	19	263	263	0	113	113	0	128	128	0
絵画		417	417	0	253	253	0	103	103	0	31	31	0	30	30	0
書跡		122	122	0	50	50	0	38	38	0	13	13	0	21	21	0
彫刻		127	122	5	105	100	5	14	14	0	8	8	0	0	0	0
建築		7	7	0	4	4	0	0	0	0	2	2	0	1	1	0
金工		69	69	0	43	43	0	18	18	0	7	7	0	1	1	0
刀剣		13	13	0	8	8	0				5	5	0	0	0	0
陶磁		91	91	0	57	57	0	29	29	0	0	0	0	5	5	0
漆工		131	131	0	104	104	0	12	12	0	12	12	0	3	3	0
染織		42	42	0	9	9	0	21	21	0	6	6	0	6	6	0
考古		341	331	10	248	238	10	25	25	0	29	29	0	39	39	0
民族資料		45	45	0	38	38	0	0	0	0	0	0	0	7	7	0
歴史資料		17	17	0	6	6	0	3	3	0	0	0	0	8	8	0
和書		37	37	0	30	30	0	0	0	0	0	0	0	7	7	0
写真資料		11	11	0	11	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋	絵画	9	9	0	9	9	0									
	書跡	9	9	0	9	9	0									
	彫刻	2	0	2	2	0	2									
	金工	0	0	0	0	0	0									
	陶磁	30	28	2	30	28	2									
	漆工	2	2	0	2	2	0									
	染織	0	0	0	0	0	0									
	考古	38	38	0	38	38	0									
	民族	0	0	0	0	0	0									
法隆寺献納宝物		0	0	0	0	0	0									
黒田記念館収蔵品		11	11	0	11	11	0									
その他		8	8	0	8	8	0									

＊巡回展等で複数館に貸与する場合は、それぞれ館数と文化財件数をカウント。

付表・貸与件数の推移

		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
貸与先件数		321	246	204	236	236
合　　計		1,858	1,488	1,235	1,688	1,579
絵画		586	416	278	405	417
書跡		83	46	67	74	122
彫刻		192	205	124	163	127
建築		13	13	16	9	7
金工		83	90	89	96	69
刀剣		97	35	26	30	13
陶磁		77	91	58	63	91
漆工		58	66	135	143	131
染織		89	66	105	142	42
考古		214	243	164	231	341
民族資料		36	0	0	60	45
歴史資料		26	39	33	24	17
和書		30	21	8	9	37
写真資料		0	28	0	0	11
東洋	絵画	20	20	30	23	9
	書跡	28	5	8	13	9
	彫刻	12	1	19	6	2
	金工	48	4	0	0	0
	陶磁	44	29	5	45	30
	漆工	2	2	2	4	2
	染織	3	0	0	0	0
	考古	94	28	22	55	38
	民族	10	0	0	0	0
法隆寺献納宝物		11	0	43	47	0
黒田記念館収蔵品		2	40	3	18	11
その他		0	0	0	0	8

＊東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。

1-(5)-①-2 国内外の博物館等への収蔵品貸与先別件数

○所蔵品

令和5年3月31日現在

	国立博物館計		東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数
合計（国内+海外）	191	1,309	111	1,011	38	123	19	76	23	99
国内	187	1,290	107	992	38	123	19	76	23	99
国・国立	39	299	27	244	8	39	2	4	2	12
地方・公立	107	808	56	608	20	54	13	64	18	82
私立団体	41	183	24	140	10	30	4	8	3	5
海外	4	19	4	19	0	0	0	0	0	0

○寄託品

令和5年3月31日現在

	国立博物館計		東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数
合計（国内+海外）	73	270	19	64	32	140	11	37	11	29
国内	73	270	19	64	32	140	11	37	11	29
国・国立	15	99	7	41	3	47	2	4	3	7
地方・公立	38	92	7	8	17	32	7	31	7	21
私立団体	20	79	5	15	12	61	2	2	1	1
海外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

1-(5)-①-3 海外への列品貸与

令和5年3月31日現在

【東京国立博物館】　海外貸与先　4件　　海外貸与文化財19件[うち寄託品0件]

	展覧会名称	申請者 【 会場 】	貸与期間	種別・員数
1	常設展示（長期貸与）	フランス国立ギメ美術館【フランス国立ギメ美術館（フランス共和国パリ市)】	平成 14 年 1 月 1 日～4 年 12 月 31 日	2 件 東洋彫刻 2
2	常設展示「日本 仏教彫刻の世界」（長期貸与）	国立中央博物館（大韓民国ソウル市）	4 年 3 月 13 日～6 年 10 月 29 日	5 件 彫刻 5
3	「東方吉金―中韓日古代青銅器展」	中国国家博物館（中華人民共和国北京市）	4 年 7 月 27 日～10 月 30 日	10 件 考古 10
4	「朝鮮白磁大展」	リウム美術館（大韓民国ソウル市）	5 年 2 月 8 日～6 月 16 日	2 件 東洋陶磁 2

【京都国立博物館】　海外貸与先 0件　　海外貸与文化財 0件[うち寄託品 0件]

【奈良国立博物館】　海外貸与先 0件　　海外貸与文化財 0件[うち寄託品 0件]

【九州国立博物館】　海外貸与先 0件　　海外貸与文化財 0件[うち寄託品 0件]

1-(5)-①-4 考古の相互貸借実績

【京都国立博物館】

	貸与先名	期間	貸与件数（件）	借用件数（件）
1	宮崎県立西都原考古博物館	6 月 7 日～5 年 3 月 31 日	2（186 点）	15
2	熊本県教育委員会	6 月 14 日～5 年 3 月 31 日	7（19 点）	11
3	京都大学総合博物館	6 月 10 日～5 年 3 月 31 日	6（10 点）	1

1-(5)-② 国内外の博物館等への援助・助言等

1-(5)-②-1 国内外の博物館への援助・助言等に関する取組状況
（専門的・技術的な援助・助言の件数、行政、公私立博物館等の各種委員会等の各種委員等への就任件数、依頼事項への対応件数等）

【東京国立博物館】122件

	機　関	内　容	期　間	担　当　者
1	公益財団法人三重県文化振興事業団	第72回みえ県展審査員	4月8日～6月15日	副館長　富田淳
2	福岡県立美術館	第77回福岡県美術展覧会審査員	8月1日～8月2日	副館長　富田淳
3	公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団	評議員	4月26日～5年3月31日	副館長　富田淳
4	公益財団法人日展	書部門審査員	10月13日～11月3日	副館長　富田淳
5	文化庁	第12回詩亭文化財企画・展示セミナー講師	6月6日	副館長　富田淳
6	公益財団法人日本博物館協会	棚橋賞・博物館活動奨励賞選考委員	7月20日	副館長　富田淳
7	文化庁	美術品補償制度部会専門調査会　委員	4月1日～5年3月31日	広報室長　鬼頭智美
8	福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館	新博物館の展示照明に関する指導監修	6月1日～10月30日	上席研究員　木下史青
9	宗教法人 平等院	平等院鳳凰堂のライトアップ器具の改修に関る対応・助言	9月1日～11月30日	上席研究員　木下史青
10	松戸市立博物館	改修工事設計･照明仕様に関わる助言	11月1日～5年3月31日	上席研究員　木下史青
11	一般社団法人アートパワーズジャパン	「“ACTIVATE” KOGEI(工芸)＋ART」展の企画に関わる助言	4月1日～11月30日	上席研究員　木下史青
12	一般社団法人 照明学会	2022年 照明デザイン賞 審査委員	4年1月1日～12月31日	上席研究員　木下史青
13	美術解剖学会	美術解剖学会 第28回美術解剖学会大会　大会実行委員長	7月16日	上席研究員　木下史青
14	大分県立歴史博物館	大分県立歴史博物館協議会委員	令和3年9月11日～令和5年9月10日	企画課長　原田あゆみ
15	茨城県立歴史館	茨城県立歴史館協議会委員	2022年4月1日～3月31日	企画課特別展室研究員　高橋真作
16	永青文庫	「永青文庫漆芸コレクション」展にかかる漆器の調査	2022年1月31日、2月18日、4月11日	企画課特別展室研究員　福島修
17	髙梨学術奨励基金	定時理事会出席	5年3月16日	企画課特別展室研究員　福島修
18	大阪市美術館	展示改修に関する助言	8月2日	企画課デザイン室長　矢野賀一
19	札幌市役所	展示改修に関する助言	11月8日	企画課デザイン室長　矢野賀一
20	町田市国際工芸美術館	展示改修に関する助言	5年1月5日	企画課デザイン室長　矢野賀一
21	三の丸尚蔵館	展示改修に関する助言	5年1月30日	企画課デザイン室長　矢野賀一
22	モンゴル科学アカデミー	展示改修に関する助言	5年2月28日	企画課デザイン室長　矢野賀一
23	国際中央アジア研究所	展示改修に関する助言	5年1月24日	企画課デザイン室長　矢野賀一
24	公益財団法人大倉文化財団	講演「唐三彩の魅力と鑑賞の歴史について」 （企画展「合縁奇縁　大倉集古館の多彩な工芸品」にかかる講演会）	8月27日	企画課出版企画室主任研究員　三笠景子
25	文化庁	文化遺産オンライン多言語化推進事業審査委員会委員	9月2日～9月9日	企画課国際交流室長　楊鋭
26	東京都立上野高校	学校運営連絡協議会委員	4月1日～5年3月31日	博物館教育課長　鈴木みどり
27	SOMPO美術館	ボランティア運営、非来館者対応についての助言	6月2日	博物館教育課長　鈴木みどり
28	独立行政法人国立美術館	センサリーマップ制作の助言	10月26日	博物館教育課長　鈴木みどり、博物館教育課教育普及室アソシエイトフェロー増田万里奈
29	国立公文書館	博物館教育事業の運営について	5年3月13日	博物館教育課長　鈴木みどり
30	文化庁	国宝奈良県藤ノ木古墳出土品保存修理事業協力者会議にて助言・協力	委嘱した日から令和5年3月31日	博物館教育課教育普及室長　品川欣也
31	国立アイヌ民族博物館	国立アイヌ博物館運営会議内ワーキング会議構成員として助言・協力	委嘱した日から令和5年3月31日	博物館教育課教育普及室長　品川欣也
32	NHK	「ものすごい図鑑 文化財編」のうち「遮光器土偶」の監修	5月12日～	博物館教育課教育普及室長　品川欣也
33	文化庁ほか	百田紙・杉原紙にかかる調査協力	9月5日	博物館教育課教育普及室長　品川欣也
34	筑前町議会議員	筑前町埋蔵文化財センター設置に伴う助言	9月22日	博物館教育課教育普及室長　品川欣也
35	沖縄県立博物館美術館	シンポジウム「守り継がれてきた琉球の文化」のパネリストとして協力	10月22日	博物館教育課教育普及室長　品川欣也
36	北谷町議会議員	「北谷町立博物館（仮称）」設置に伴う助言	11月7日	博物館教育課教育普及室長　品川欣也
37	明治大学博物館	考古資料の保存・収納にかかる助言	12月14日	博物館教育課教育普及室長　品川欣也
38	秋田県立近代美術館	「縄文　小川忠博写真展」の展示(展示具)にかかる助言	5年2月15日	博物館教育課教育普及室長　品川欣也
39	国立新美術館	特別展の運営に関する助言	5年2月27日	博物館教育課教育普及室長　品川欣也
40	阿寒アイヌコンサルン	アイヌ資料の展示や取り扱いに関する助言	5年3月11日	博物館教育課教育普及室長　品川欣也

41	大阪市博物館機構	トーハクなびの開発、運用管理	5月20日	博物館教育課教育普及室アソシエイトフェロー　増田万里奈
42	小平市役所	小平市文化財保護審議会委員	3年4月1日～5年3月31日	上席研究員　勝木言一郎
43	情報科学技術協会	ISO/TC46/SC4 国内委員会	3年7月20日～6年3月31日	博物館情報課長　村田良二
44	文化庁	第12回指定文化財(美術工芸品)企画・展示セミナー講師	6月6日、8月1日	博物館情報課長　村田良二
45	国立美術館	国立新美術館HPリニューアル業務企画競争審査委員会委員	4月19日	博物館情報課長　村田良二
46	文化庁	美術館・博物館DX事業について	6月21日	博物館情報課長　村田良二
47	韓国国立古宮博物館	所蔵品データベースについて	11月28日	博物館情報課長　村田良二
48	玉川大学教育博物館	博物館のDXについて	5年2月14日	博物館情報課長　村田良二
49	一般社団法人社会基盤情報流通推進協議会	アーバンデータチャレンジ実行委員	4年7月1日～5年3月末	博物館情報課情報管理室長　阿児雄之
50	文化庁	令和4年度博物館等の国際交流の促進事業選定委員会委員	4年4月12日～5年3月31日	博物館情報課情報管理室長　阿児雄之
51	文化庁	美術館DXによる管理適正化・市場活性化事業審査員	4年10月11日～5年3月31日	博物館情報課情報管理室長　阿児雄之
52	泉大津市立図書館	図書館協議会委員	4年3月1日～6年2月29日	博物館情報課情報管理室長　阿児雄之
53	東京大学史料編纂所	共同研究員	4月1日～5年3月31日	博物館情報課情報資料室主任研究員　遠藤楽子
54	図書館等公衆送信サービスに関する関係者協議会（文化庁、国立国会図書館、専門図書館協議会）	著作権法改正を受けて図書館資料の公衆送信サービスに関する実務者協議・調整（オブザーバー参加）	10月15日～	博物館情報課情報資料室長　山崎美和
55	公益財団法人日本博物館協会	著作権法改正による公衆送信サービスの導入に向けたアンケートについて	5年12月1日～12月8日	博物館情報課情報資料室長　山崎美和
56	愛知県教育委員会	愛知県文化財保護審議会委員	4月1日～5年3月31日	百五十年史編纂室長　惠美千鶴子
57	埼玉県歴史と民俗の博物館	埼玉県資料評価委員	4月1日～5年3月31日	百五十年史編纂室長　惠美千鶴子
58	文化庁	文化審議会専門委員（文化財分科会第六専門調査会）	4月1日～5年3月31日	百五十年史編纂室長　惠美千鶴子
59	文化庁	文化財買取評価員	11月25日、5年1月12日	百五十年史編纂室長　惠美千鶴子
60	文部科学省	教科用図書検定調査審議会臨時委員	4月1日～5年3月31日	百五十年史編纂室長　惠美千鶴子
61	新宿区	新宿区文化財保護審議会委員	3年12月1日～5年11月30日	特任研究員　田沢裕賀
62	文化庁	文化審議会専門委員（文化財分科会）	4月15日～5年3月31日	特任研究員　田沢裕賀
63	宮内庁三の丸尚蔵館	作品修理指導	6月30・7月1日、5年1月31日・2月1日	特任研究員　田沢裕賀
64	千葉市	千葉市美術品等収集審査会委員	3年1月7日～7年1月6日	特任研究員　田沢裕賀
65	東京都江戸東京博物館	資料収蔵委員会委員	3年9月1日～5年8月31日	特任研究員　田沢裕賀
66	名古屋市	金シャチ横丁博物館構想　有識者	4年3月22日～5年3月31日	特任研究員　田沢裕賀
67	文京区立森鷗外記念館	運営協議会委員	4月～5年3月	特任研究員　田良島哲
68	町田市立博物館	運営委員	～5年6月30日	特任研究員　今井敦
69	白鶴美術館	磁州窯のやきもの	5月5日	特任研究員　今井敦
70	石川県九谷焼美術館	日本陶磁のオリジナリティー―中国陶磁と比較して	11月19日	特任研究員　今井敦
71	国宝修理装潢師連盟	資格試験委員	3年4月1日～5年3月31日	列品管理課長　沖松健次郎
72	筑波大学	集中講座講師	9月1日～10月31日	列品管理課長　沖松健次郎
73	経団連	文化講座講師	5年1月18日	列品管理課長　沖松健次郎
74	刈谷市歴史博物館	文化財調査（甲冑）	7月11日	列品管理課登録室長　佐藤寛介
75	岡山県教育委員会	岡山県文化財保護審議会	10月6日、12月8日、5年2月1日	列品管理課登録室長　佐藤寛介
76	岡山城	文化財調査（刀剣）	1月27日	列品管理課登録室長　佐藤寛介
77	津山市教育委員会	文化財講座	2月25日	列品管理課登録室長　佐藤寛介
78	村上海賊ミュージアム	文化財講習（刀剣と甲冑）	5年3月9日～10日	列品管理課登録室長　佐藤寛介
79	JICA、パレスチナ観光遺跡庁	文化遺産と保全および観光利用に関する助言	7月28日	列品管理課平常展調整室主任研究員　小野塚拓造
80	石山寺	所蔵絵画作品調査	12月25日	列品管理課平常展調整室研究員　古川攝一
81	文化庁	重要文化財紙本著色歓喜天霊験記（伝天神縁起）保存修理事業における審査委員	4月1日～5年3月31日	調査研究課絵画・彫刻室長土屋貴裕
82	福岡市美術館	「国宝鳥獣戯画と愛らしき日本の美術」展にかかる展示指導	8月30日、9月12日	調査研究課絵画・彫刻室長土屋貴裕
83	さいたま市岩槻人形博物館	展示指導	11月7日	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　植松瑞希
84	さいたま市岩槻人形博物館	展示指導	9月21日	調査研究課絵画・彫刻室研究員 大橋美織

85	茨城県立博物館	特別展「華麗なる明治―宮廷文化のエッセンス―」にかかる展示指導	4月12日	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉
86	文化庁	文化審議会専門委員（文化財部会）	4年4月15日～5年3月31日	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉
87	静岡県庁	静岡県文化財保護審議委員	4年1月1日～5年12月31日	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉
88	長岡造形大学	令和4年度大学院修士課程特別研究審査委員会委員	6月22日	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉
89	公益財団法人　日本工芸会	第69回日本伝統工芸展第一次鑑査委員	7月26日、27日	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉
90	文化庁	無形文化財工芸技術資料買取評価委員	8月23日	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉
91	佐賀県立名護屋城博物館	「黄金の茶室」復元記念特別企画展「肥前名護屋の桃山文化－はじまりの地、名護屋－」展にかかる展示指導	10月11日	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉
92	飯能・長念寺	寺宝染織（袈裟・打敷）の調査およびその保管に関する助言	5年2月7日	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉
93	国立歴史民俗博物館	展示プロジェクト委員	4月1日～5年3月31日	調査研究課工芸室主任研究員　清水健
94	五條市	五條市史編集委員会専門部会員（美術工芸部会）	3年11月～5年3月	調査研究課工芸室主任研究員　清水健
95	公益財団法人大倉文化財団	「信仰の美展　みどころトーク～国宝〈普賢菩薩騎象像〉を中心に～」	12月23日	列品管理課貸与特別観覧室研究員　西木政統
96	沖縄県立博物館・美術館	民俗資料の修理に関する助言	11月2日	調査研究課考古室研究員　飯田茂雄
97	明治大学博物館	文化財の輸送・展示に関する助言	10月25日	調査研究課考古室研究員　飯田茂雄
98	東久留米市文化財保護審議委員	文化財の指定、助言	委嘱した日から、令和5年8月1日	調査研究課考古室研究員　飯田茂雄
99	東久留米市埋蔵文化財調査団	市内の発掘調査に関する指導・助言	4月1日～5年3月31日	調査研究課考古室研究員　飯田茂雄
100	文化庁	文化財買取にかかる文化財評価委員	12月14日	調査研究課東洋室主任研究員　児島大輔
101	足利市立美術館	特別展「「あしかがの歴史と文化再発見！－文化の力よ、つづけ、これからも－」開催にかかる作品撤収・梱包作業の立会・助言	10月12日	調査研究課東洋室主任研究員　児島大輔
102	サントリー美術館	特別展「美をつくし―大阪市立美術館コレクション」開催にかかる助言および図録執筆	9月14日～11月13日	調査研究課東洋室主任研究員　児島大輔
103	文化庁	文化財買取評価員	11月25日	調査研究課東洋室研究員　六人部克典
104	法隆寺	法隆寺金堂壁画保存活用委員会保存環境ワーキンググループ専門委員	4月1日～5年3月31日	保存修復課長　和田浩
105	国立民族学博物館	共同研究員(研究課題「博物館における持続可能な資料管理および環境整備--保存科学の視点から」)	4月1日～5年3月31日	保存修復課長　和田浩
106	日本包装学会	学会誌の査読	11月8日～11月17日	保存修復課長　和田浩
107	長崎歴史文化博物館	キリシタン関係遺品の修理および保管環境に関する協議	5年1月18日、5年3月17日	保存修復課長　和田浩
108	島根県教育委員会	世界遺産室客員研究員	3年5月6日～6年3月31日	保存修復課調査分析室長　鳥越俊行
109	国立民族学博物館	国立民族学博物館共同研究員	4月1日～5年3月31日	保存修復課調査分析室長　鳥越俊行
110	法隆寺	「法隆寺金堂壁画 保存活用委員会」壁画ワーキング･グループ(材料調査班)専門委員	4月1日～5年3月31日	保存修復課調査分析室長　鳥越俊行
111	国立アイヌ民族博物館	列品等修理請負候補者選定委員会委員	5年3月2日～5年3月10日	保存修復課調査分析室長　鳥越俊行
112	鎌倉市教育委員会	鎌倉市文化財専門委員会	2年6月1日～7年5月31日	保存修復課保存修復室長　瀬谷愛
113	法隆寺	法隆寺金堂壁画保存活用委員会・壁画ワーキンググループ・美術史班	4月1日～5年3月31日	保存修復課保存修復室長　瀬谷愛
114	日本学術会議	連携会員	2年10月1日～7年9月30日	保存修復課保存修復室長　瀬谷愛
115	鎌倉国宝館	鎌倉国宝館協議会委員	3年11月15日～5年11月14日	保存修復課保存修復室長　瀬谷愛
116	郡山市文化スポーツ部文化振興課	地域文化財の修理に関する相談	6月13日	保存修復課保存修復室研究員　野中昭美
117	NPO文化財保存支援機構	水損した複合材料資料（民俗）の安定化処置に関する相談	7月14～22日	保存修復課保存修復室研究員　野中昭美
118	東京芸術大学大学院　文化財保存学専攻保存修復工芸研究室	保存修復分野のキャリアパスに関する講義	11月24日	保存修復課保存修復室研究員　野中昭美
119	Museum of Fine Arts, Boston /Abby Hykin	日本彫刻修理に使用する材料や道具に関する意見交換	11月28日	保存修復課保存修復室研究員　野中昭美
120	長崎歴史文化博物館	キリシタン関係遺品の修理および輸送に関する協議	5年1月18日	保存修復課保存修復室研究員　野中昭美
121	公益財団法人大倉文化財団	大倉集古館所蔵品（中国染織）に関する調査	5月17日	保存修復課保存修復室研究員　沼沢ゆかり
122	佐賀県立名護屋城博物館	展示指導	11月9日	保存修復課保存修復室研究員　沼沢ゆかり

【京都国立博物館】131件

	機　関	内　容	期　間	担　当　者
1	京都国立近代美術館	評議員	4月～5年3月	館長　松本伸之
2	公益社団法人日本工芸会	運営委員	4月～5年3月	館長　松本伸之
3	公益社団法人日本工芸会	顧問	4月～5年3月	館長　松本伸之
4	奈良国立博物館	評議員	4月～5年3月	館長　松本伸之
5	日本イタリア会館	顧問	4月～5年3月	館長　松本伸之

6	公益財団法人京都文化交流コンベンションビューロー　古典の日推進委員会	特別委員	4月～5年3月	館長　松本伸之
7	国立大学法人奈良国立大学機構	経営協議会委員	4月～5年3月	館長　松本伸之
8	奈良県	文化財保護体系推進会議委員	4月～5年3月	館長　松本伸之
9	京都美術工芸大学	外部評価委員	令和4年10月18日	館長　松本伸之
10	花園大学	非常勤講師	4月～5年3月	副館長　栗原祐司
11	ICOM日本委員会	ICOM日本委員会理事就任	4月～5年3月	副館長　栗原祐司
12	田川市教育委員会	田川市石炭・歴史博物館等運営協議会委員	4月～5年3月	副館長　栗原祐司
13	国際基督教大学	非常勤講師	9月～11月	副館長　栗原祐司
14	日本博物館協会	理事	4月～5年3月	副館長　栗原祐司
15	大阪市経済戦略局	大阪市地方独立行政法人大阪市博物館機構評価委員会委員	4月～5年3月	副館長　栗原祐司
16	人権ネットを活用した地域活性化事業実行委員会	「人権ネットを活用した地域活性化事業」実行委員会実行委員	4月～5年3月	副館長　栗原祐司
17	兵庫県立考古博物館	兵庫県立考古博物館運営委員会委員	4月～5年3月	副館長　栗原祐司
18	文化庁	文化財修理センター(仮称)の在り方に関する検討会委員	7月11日～5年3月	副館長　栗原祐司
19	独立行政法人国際協力機構理事	エジプト国「大エジプト博物館開館支援合同保存修復プロジェクト」にかかる国内支援委員会委員	5年1月～5年3月	副館長　栗原祐司
20	日本公開天文台協会	日本公開天文台協会　第16回全国大会パネラー	令和4年6月28日	副館長　栗原祐司
21	文化庁文化財第一課	第12回指定文化財（美術工芸品）企画・展示セミナー講師	令和4年8月1日	副館長　栗原祐司 学芸部保存科学室長　降幡順子
22	文化庁文化財第一課	文化財修理センター（仮称）の検討に関する協力者会合（第2回）出席	令和4年8月24日	副館長　栗原祐司 学芸部長　尾野善裕
23	文化庁文化財第一課	文化財修理センター（仮称）の検討に関する協力者会合（第3回）出席	令和4年9月14日	副館長　栗原祐司 学芸部長　尾野善裕
24	文化庁文化財第一課	文化財修理センター（仮称）の検討に関する協力者会合（第4回）出席	令和4年11月22日	副館長　栗原祐司 学芸部長　尾野善裕
25	岡山県博物館協議会	令和4年度岡山県博物館協議会第2回研修会講師	5年3月10日	副館長　栗原祐司
26	野崎家塩業歴史館	評議員	4月～5年3月	学芸部長　尾野善裕
27	公益財団法人大和文華館	公益財団法人大和文華館評議員	4月～5年3月	学芸部長　尾野善裕
28	公益財団法人樂美術館	公益財団法人樂美術館作品購入委員会委員	4月～5年3月	学芸部長　尾野善裕
29	西尾市教育委員会	西尾市史特別執筆員	4月～5年3月	学芸部長　尾野善裕
30	大阪市教育委員会	大阪市文化財保護審議会委員	4月～5年3月	学芸部長　尾野善裕
31	奈良国立博物館	奈良国立博物館文化財保存修理所運営委員会委員	4月～5年3月	学芸部長　尾野善裕
32	九州国立博物館	九州国立博物館文化財保存修復施設運営委員会委員	4月～5年3月	学芸部長　尾野善裕
33	岐阜市	史跡岐阜城跡整備委員会委員	4月～5年3月	学芸部長　尾野善裕
34	京都大学大学院人間・環境学研究科	客員教授・客員准教授	4月～5年3月	学芸部長　尾野善裕 学芸部上席研究員　淺湫毅 学芸部企画室長　山川曉 学芸部教育室長　永島明子 学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
35	文化庁文化財第一課	文化財修理センター（仮称）の検討に関する協力者打合せ出席	5年3月13日	学芸部長　尾野善裕
36	京都美術工芸大学	非常勤講師	10月～5年3月	学芸部上席研究員　淺湫毅
37	日本学術振興会	特別研究員等審査会専門委員 国際事業委員会書面審査員・書面評価委員	4月～6月	学芸部上席研究員　淺湫毅
38	静岡市教育委員会	静岡市文化財保護審議会委員	4月～5年3月	学芸部上席研究員　淺湫毅
39	公益財団法人祇園祭山鉾連合会	「祇園祭山鉾装飾品等専門委員」	4月～5年3月	学芸部上席研究員　淺湫毅 学芸部企画室長　山川曉
40	三十三間堂本坊妙法院門跡	講演講師	令和4年10月16日	学芸部上席研究員　淺湫毅
41	智山専修学院	智山専修学院特別講義	令和4年7月15日	学芸部上席研究員　淺湫毅
42	静岡市	令和4年度第3回静岡市文化財保護審議会出席	5年3月24日	学芸部上席研究員　淺湫毅
43	京都府教育委員会	京都府文化財保護審議会委員	4月～5年3月	学芸部企画室長兼工芸室長 山川曉
44	滋賀県	滋賀県文化財保護審議会委員	4月～5年3月	学芸部企画室長兼工芸室長 山川曉
45	文化庁	文化審議会専門委員（文化財分科会）	4月～5年3月	学芸部企画室長兼工芸室長 山川曉
46	文化庁	「重要文化財　能装束　繍箔葭水禽文復元模造事業」における審査委員	7月～5年3月	学芸部企画室長兼工芸室長 山川曉
47	日本染織作家協会	第46回日本染織作家展審査委員	平成17年3月8日	学芸部企画室長兼工芸室長 山川曉
48	高向区長	御頭神事地域伝統行事等のための伝承事業への指導等	令和4年6月16日	学芸部企画室長　山川曉

49	刈谷市歴史博物館	「鉄錆地塗紺糸縅塗込仏胴具足・尉頭形兜　調査報告書」にかかる調査	令和4年7月15日	学芸部企画室長　山川曉
50	三重県伊勢市高向区	第2回御頭神事用具類製作指導委員会出席	5年1月13日	学芸部企画室長兼工芸室長 山川曉
51	園城寺	国宝智証大師関係文書典籍保存活用専門委員会委員	4月～5年3月	学芸部列品管理室長兼美術室長　羽田聡
52	真宗大谷派	宗宝宗史蹟保存会委員	4月～6月	学芸部列品管理室長兼美術室長　羽田聡
53	近畿大学	非常勤講師	4月～5年3月	学芸部列品管理室長兼美術室長　羽田聡
54	文化庁	福井崇蘭館本医学書43新編証類図註本草22冊及び121経史証類備急本草6冊保存修理事業における審査委員	4月～5年3月	学芸部列品管理室長兼美術室長　羽田聡
55	公益財団法人石水博物館	展覧会記念シンポジウム　講師	令和4年10月30日	学芸部列品管理室長兼美術室長　羽田聡
56	三重県教育委員会	三重県文化財保護審議会委員	4月～5年3月	学芸部教育室長　永島明子
57	同志社大学	嘱託講師	4月～9月	学芸部教育室長　永島明子
58	三十三間堂本坊妙法院門跡	講演講師	令和4年11月27日	学芸部教育室長兼工芸室 永島明子
59	国際基督教大学博物館湯浅八郎記念館	特別展「日本のうるし工芸」関連公開講座講師	5年1月28日	学芸部教育室長兼工芸室 永島明子
60	公益財団法人秋水美術館	評価選定委員	10月～5年3月	学芸部調査・国際連携室長 降矢哲男
61	三十三間堂本坊妙法院門跡	講演講師	平成17年3月19日	学芸部調査・国際連携室長 降矢哲男
62	公益財団法人歴史のみえるまちづくり協会	福井市愛宕坂茶道美術館講演講師	令和4年4月17日	学芸部調査・国際連携室長 降矢哲男
63	宗教法人護国院	紀三井寺地蔵菩薩立像修理委員会委員	4月～9月	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
64	宗教法人四天王寺	国宝扇面法華経冊子保存修理委員会専門委員	4月～5年3月	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
65	佛教大学	非常勤講師	4月～9月	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
66	文化庁	「延暦寺所有重要文化財　絹本著色山王本地仏像一幅復元模写模造事業」審査委員	8月～5年3月	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
67	阿波市教育委員会	聖幢寺所蔵仏画調査	8月2日～3日	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
68	三十三間堂本坊妙法院門跡	講演講師	令和4年9月18日	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
69	「西田天香・杉本哲郎顕彰事業」実行委員会	講演講師	令和4年11月19日	学芸部保存修理指導室長 大原義豊
70	智山専修学院	智山専修学院特別講義	令和5年8月14日	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
71	浄土宗芸術家協会京都支部	浄土宗芸術家協会京都支部研修会講師	令和4年7月26日	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
72	京都市立銅駝美術工芸高等学校	「文化財修理の最先端」出張講義	令和4年8月30日	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊 学芸部列品管理室研究員 森道彦
73	越前市教育委員会	令和4年度第1回越前市文化財保護委員会出席	令和4年11月17日	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
74	法隆寺	「法隆寺金堂壁画保存活用委員会」壁画ワーキング・グループ専門委員	令和4年12月14日	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
75	法隆寺	「法隆寺金堂壁画保存活用委員会」壁画ワーキング・グループ専門委員調査派遣	5年1月25日	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
76	越前市教育委員会	令和4年度第2回越前市文化財保護委員会出席	5年3月13日	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
77	法隆寺	「法隆寺金堂壁画保存活用委員会」ワーキンググループ全体会合専門委員の会議参加	5年3月18日	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
78	鳥取県地域づくり推進部	とっとり弥生の王国調査整備活用委員会委員	4月～5年3月	学芸部保存科学室長　降幡順子
79	同志社女子大学	嘱託講師	4月～5年3月	学芸部保存科学室長　降幡順子
80	公益財団法人長浜曳山文化協会	月宮殿見送幕飾房および鳳凰山見送幕飾房修理委員	4月～5年3月	学芸部保存科学室長　降幡順子
81	浄土宗総本山知恩院	浄土宗総本山「知恩院文化財保存委員」	4月～5年3月	学芸部保存科学室長　降幡順子
82	丸亀市教育委員会	丸亀市史跡快天山古墳保存整備委員会委員	4月～5年3月	学芸部保存科学室長　降幡順子
83	法隆寺	「法隆寺金堂壁画保存活用委員会」壁画ワーキンググループ（材料調査班）専門委員	4月～5年3月	学芸部保存科学室長　降幡順子
84	日本文化財科学会	日本文化財科学会評議員	4月～5年3月	学芸部保存科学室長　降幡順子
85	日本文化財科学会	日本文化財科学会会計監査	4月～5年3月	学芸部保存科学室長　降幡順子
86	神戸大学	非常勤講師	8月	学芸部保存科学室長　降幡順子
87	公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所	上庄田瓦窯出土鴟尾の胎土分析	8月3日	学芸部保存科学室長　降幡順子
88	立命館大学歴史都市防災研究所	立命館大学ユネスコ・チェア「文化遺産と危機管理」国際研修講師	9月22日	学芸部保存科学室長　降幡順子
89	鳥取県立青谷高等学校	ガラスづくり体験　講師	11月17日	学芸部保存科学室長　降幡順子
90	兵庫県立人と自然の博物館	兵庫県立人と自然の博物館協議会委員	4月～5年3月	学芸部教育室主任研究員 水谷亜希
91	大阪成蹊大学	非常勤教員	4月～9月	学芸部教育室主任研究員 水谷亜希
92	京都工芸繊維大学	非常勤講師	9月～5年3月	学芸部教育室主任研究員 水谷亜希

93	大阪府教育委員会	大阪府文化財保護審議委員会委員	4月～7月	学芸部工芸室主任研究員 末兼俊彦
94	四万十市教育委員会	四万十市指定文化財七星剣調査委員会委員	11月～5年3月	学芸部工芸室主任研究員 末兼俊彦
95	読売・日本テレビ文化センター	講義講演	4月～5年3月	学芸部工芸室主任研究員 末兼俊彦
96	京田辺市史編さん委員会	京田辺市史編さん専門部会会員	4月～5年3月	学芸部美術室主任研究員 福士雄也
97	京都橘大学	非常勤講師	9月～5年3月	学芸部美術室主任研究員 福士雄也
98	京都芸術大学	非常勤講師	4月～9月	学芸部美術室主任研究員 福士雄也
99	彦根市	旧井伊神社修復検討委員会委員	11月～5年3月	学芸部美術室主任研究員 福士雄也
100	文化庁	重文紙本著色歓喜天霊験記（伝天神縁起）保存修理事業審査委員	4月～5年3月	学芸部企画室研究員　井並林太郎
101	鳥取市教育委員会	大雲院資料調査委員会委員	4月～5年3月	学芸部美術室研究員　上杉智英
102	佛教大学	非常勤講師	4月～5年3月	学芸部調査・国際連携室研究員　上杉智英
103	龍谷大学世界仏教文化研究センター	2022年度客員研究員	4月～5年3月	学芸部調査・国際連携室研究員　上杉智英
104	京都美術工芸大学	非常勤講師	4月～9月	学芸部美術室研究員　森道彦
105	京都大学大学院	非常勤講師	10月～5年3月	特任研究員　宮川禎一
106	國學院大學	客員教授	4月～5年3月	研究員　古谷毅
107	國學院大學	非常勤講師	4月～5年3月	研究員　古谷毅
108	聖心女子大学	非常勤講師	4月～5年3月	研究員　古谷毅
109	野田市	野田市史編さん委員会専門委員	4月～5年3月	研究員　古谷毅
110	和歌山県教育委員会	和歌山県教育委員会書簡公募型プロポーザル方式等事業者選定委員会委員	9月～5年3月	研究員　古谷毅
111	法隆寺	「法隆寺金堂壁画保存活用委員会」アーカイブワーキンググループ専門委員	4月～5年3月	学芸部列品管理室専門職員 岡田愛
112	京都市立芸術大学	非常勤講師	9月～5年3月	学芸部調査・国際連携室主任専門職　リンネ マリサ
113	京都アメリカ大学コンソーシアム	非常勤講師	5年1月～3月	学芸部調査・国際連携室主任専門職　リンネ マリサ
114	奈良大学	科学研究費研究補助業務	4月～5年3月	学芸部企画室アソシエイトフェロー　青木麻佑花
115	大阪読売サービス株式会社	講演講師	5月22日、6月26日	学芸部企画室研究員　井並林太郎
116	大阪読売サービス株式会社 大阪よみうり文化センター	講演講師	10月26日	学芸部列品管理室主任研究員　末兼俊彦
117	読売・日本テレビ文化センター	講演講師	12月14日	学芸部列品管理室主任研究員　末兼俊彦
118	株式会社クリエイティブネクサス	番組出演	2月18日	学芸部列品管理室主任研究員　末兼俊彦
119	公益財団法人永青文庫	令和4年度永青文庫早春展講演会講師	2月18日	学芸部列品管理室主任研究員　末兼俊彦
120	後鳥羽院顕彰事業実行委員会	講演講師	3月12日	学芸部工芸室主任研究員 末兼俊彦
121	姫路市立美術館	令和4年度第1回姫路市立美術館美術品評価委員会出席	8月23日	学芸部工芸室主任研究員 末兼俊彦
122	文化庁文化財第一課	国宝・重要文化財の写真撮影	10月31日	学芸部列品管理室専門職員 岡田愛
123	京都女子大学	講義「教養科目C（英語で京都を学ぶ）」講師	11月10日	学芸部調査・国際連携室主任専門職　リンネ マリサ
124	京都府立嵯峨野高等学校	令和4年度京都府立嵯峨野高等学校課題研究発表に係る指導助言	11月18日	学芸部教育室主任研究員 水谷亜希
125	文化庁	文化財の買取評価員	12月2日	学芸部列品管理室研究員 森道彦
126	京都大学	日本文化研修「京都国立博物館見学」講師	5年1月11日	特任研究員　宮川禎一 研究員　古谷毅
127	京都国立近代美術館	京都国立近代美術館総合評価審査委員会書面審査	5年2月上旬～中旬	総務課長　阿部勝
128	姫路市立美術館	令和4年度第2回姫路市立美術館美術品評価委員会出席	5年2月27日	学芸部工芸室主任研究員 末兼俊彦
129	兵庫県立人と自然の博物館	令和4年度兵庫県立人と自然の博物館協議会出席	5年2月28日	学芸部教育室主任研究員 水谷亜希
130	滋賀県立美術館	「滋賀県立美術館学芸課向上プログラム」講師	5年3月7日	学芸部教育室主任研究員 水谷亜希
131	法隆寺	「法隆寺金堂壁画保存活用委員会」ワーキンググループ全体会合専門委員の会議参加	5年3月18日	学芸部列品管理室専門職員 岡田愛

【奈良国立博物館】67件

	機　関	内　容	期　間	担　当　者
1	奈良県文化・教育・くらし創造部	なら歴史芸術文化村コミッション委員	4月1日～5年3月31日	館長　井上洋一
2	文部科学省日本ユネスコ国内委員会	ユネスコ国内委員会委員	4月1日～5年3月31日	館長　井上洋一
3	ICOM日本委員会	ICOM日本委員会理事	4月1日～5年3月31日	館長　井上洋一

4	一般財団法人仏教美術協会	評議員	4月1日～5年3月31日	館長　井上洋一
5	奈良県	奈良県文化振興戦略懇話会委員	4月1日～5年3月31日	館長　井上洋一
6	公益財団法人松伯美術館	理事	4月1日～5年3月31日	館長　井上洋一
7	公益財団法人大和文華館	理事	4月1日～5年3月31日	館長　井上洋一
8	公益財団法人仏教美術研究上野記念財団	評議員	4月1日～5年3月31日	館長　井上洋一
9	公益財団法人平山郁夫シルクロード美術館	理事	4月1日～5年3月31日	館長　井上洋一
10	公益財団法人日本博物館協会	参与	4月1日～5年3月31日	館長　井上洋一
11	京都国立博物館	評議員会評議員	4月1日～5年3月31日	館長　井上洋一
12	宮内庁	正倉院懇談会会員	4月1日～5年3月31日	館長　井上洋一
13	島根県教育委員会	島根県文化財保護審議会委員	4月1日～5年3月31日	館長　井上洋一
14	奈良県立橿原考古学研究所	共同研究員	4月1日～5年3月31日	館長　井上洋一
15	一般財団法人東京国立博物館協力会	非常勤評議員	6月21日～5年3月31日	館長　井上洋一
16	公益社団法人新宿未来創造財団	講師	10月1日	館長　井上洋一
17	公益社団法人日本工芸会	日本伝統工芸展運営委員	4月1日～5年3月31日	館長　井上洋一
18	文部科学省	「世界の記憶」国内案件に関する審査委員会審査委員	4月1日～5年3月31日	館長　井上洋一
19	法隆寺	「法隆寺金堂壁画保存活用委員会委員	4月1日～5年3月31日	館長　井上洋一
20	公益社団法人日本工芸会	顧問	4月1日～5年3月31日	館長　井上洋一
21	文部科学省	文化審議会委員　文化功労者選考分科会	9月2日～5年3月31日	館長　井上洋一
22	國學院大學	非常勤講師	4月1日～5年3月31日	館長　井上洋一
23	奈良県	奈良公園観光地域活性化総合特区　地域協議会	4月1日～5年3月31日	副館長　園邊邦輝
24	奈良県文化・教育・くらし創造部	なら歴史芸術文化村修復工房使用者等選定委員会委員	4月1日～5年3月31日	学芸部長　吉澤悟
25	公益財団法人大和文華館	評議員	4月1日～5年3月31日	学芸部長　吉澤悟
26	京都国立博物館	文化財保存修理所運営委員会委員	4月1日～5年3月31日	学芸部長　吉澤悟
27	九州国立博物館	文化財保存修復施設運営委員会委員	4月1日～5年3月31日	学芸部長　吉澤悟
28	鳥取県	鳥取県文化財保護審議会委員	4月1日～5年3月31日	企画室長　中川あや
29	橋本市教育委員会	隅田八幡神社経塚遺跡出土品（銅鏡）の検討、発掘調査報告書作成に関する助言	9月1日、9月4日、12月1日	企画室長　中川あや
30	大分県教育委員会	文化財保護審議会臨時委員	11月7日、12月27日	企画室長　中川あや
31	松本市美術館	御大典記念特別展「よみがえる正倉院宝物―再現模造にみる天平の技―」展示・撤収作業に関する指導助言	4月16日～4月18日、6月13日～6月15日、6月20日～6月21日	企画室長　中川あや、研究員　三本周作
32	法隆寺	法隆寺金堂壁画保存活用委員会　アーカイブ・ワーキンググループ専門委員	4月1日～5年3月31日	情報サービス室長　宮崎幹子
33	京都府立大学	非常勤講師	10月1日～5年3月31日	情報サービス室長　宮崎幹子
34	天理市教育委員会	天理市文化財保護審議会委員	4月1日～5年3月31日	教育室長　谷口耕生
35	法隆寺	法隆寺金堂壁画保存活用委員会　壁画ワーキング・グループ（美術史班）専門委員	4月1日～5年3月31日	教育室長　谷口耕生
36	神戸大学	国立大学法人神戸大学大学院人文学研究科　教授	4月1日～5年3月31日	教育室長　谷口耕生
37	愛知県立芸術大学	非常勤講師	4月1日～5年3月31日	教育室長　谷口耕生
38	三重県	文化財保護審議会委員	9月24日～5年3月31日	教育室長　谷口耕生
39	東北歴史博物館	東日本大震災復興祈念　特別展「悠久の絆　奈良・東北のみほとけ展」開催にかかる指導助言	4月1日～5年3月31日	教育室長　谷口耕生、美術室長　岩井共二、資料室長　野尻忠
40	園城寺	国宝智証大師関係文書典籍保存活用専門委員会	4月1日～5年3月31日	資料室長　野尻忠
41	奈良女子大学	奈良女子大学大学院人間文化総合科学研究科客員教授	4月1日～5年3月31日	資料室長　野尻忠
42	国立大学法人　東京大学	東京大学史料編纂所特定共同研究研究員	4月1日～5年3月31日	資料室長　野尻忠
43	東京国立博物館	共同研究（特別調査会「書跡」）	11月1日～11月2日	資料室長　野尻忠、列品室長　斎木涼子
44	文化庁	仁和寺聖教調査	7月26日、7月28日、7月29日	資料室長　野尻忠、列品室長　斎木涼子
45	仁和寺	所蔵史料確認調査への協力	5年3月27日、3月28日	資料室長　野尻忠、列品室長　斎木涼子
46	富山市郷土博物館	収蔵予定資料の価格評価	6月7日～6月30日	列品室長　斎木涼子
47	山口市教育委員会	山口市文化財審議会委員	4月1日～5年3月31日	美術室長　岩井共二

48	神戸大学	国立大学法人神戸大学大学院人文学研究科　教授	4月1日～5年3月31日	美術室長　岩井共二
49	国立大学法人奈良女子大学	非常勤講師	4月1日～5年3月31日	美術室長　岩井共二
50	渋谷区立松濤美術館	特別展「SHIBUYAで仏教美術―奈良国立博物館コレクションより」彫刻作品の展示指導	4月6日、5月30日	美術室長　岩井共二
51	渋谷区立松濤美術館	特別展「SHIBUYAで仏教美術―奈良国立博物館コレクションより」記念講演会講師	4月24日	美術室長　岩井共二
52	北海道立近代美術館	「聖徳太子1400年御遠忌記念　国宝・法隆寺展」輸送・展示作業に関する指導助言	8月28日～9月4日、10月2日～10月4日、10月30日～11月3日、11月28日	美術室長　岩井共二、教育室長　谷口耕生、主任研究員　三田覚之
53	奈良大学	博物館実習講演会講師	6月11日	保存修理指導室長　荒木臣紀
54	特定非営利活動法人　文化財保存支援機構	会員	4月25日～5年3月31日	保存修理指導室長　荒木臣紀
55	国立大学法人奈良女子大学	非常勤講師	4月1日～5年3月31日	主任研究員　北澤菜月
56	文化庁	審査委員	8月31日～5年3月31日	主任研究員　北澤菜月
57	国立大学法人奈良女子大学	非常勤講師	4月1日～9月30日	主任研究員　山口隆介
58	高野山大学	非常勤講師	4月1日～5年3月31日	主任研究員　山口隆介
59	三重県総合博物館	第32回企画展「三重の円空」出品文化財の借用及び返却にかかる指導	9月28日、12月9日	主任研究員　山口隆介
60	東京国立博物館	寄贈品に関する調査研究	6月15日	主任研究員　三田覚之
61	奈良県立橿原考古学研究所	藤ノ木古墳出土品検討会	5年3月8日	主任研究員　三田覚之
62	東京国立博物館	修理監督	5年3月30日	主任研究員　三田覚之
63	栃木県立博物館	特別企画展にかかる展示撤収作業への助言・指導	9月12日～9月13日、10月30日～11月1日	教育室長　谷口耕生、研究員　内藤航
64	群馬県立歴史博物館	第107回企画展で展示する資料の展示・撤収指導	10月3日、11月28日	研究員　三本周作
65	法隆寺	法隆寺金堂壁画保存活用委員会　アーカイブ・ワーキンググループ専門委員	4月1日～5年3月31日	資料室員　西川夏永
66	宗教法人宝泰寺	講師	5月21日	アソシエイトフェロー　伊藤旭人
67	SBS学苑	講師	5月21日	アソシエイトフェロー　伊藤旭人

【九州国立博物館】97件

	機　関	内　容	期　間	担　当　者
1	公益財団法人陽明文庫	理事	4月1日～5年3月31日	館長　島谷弘幸
2	西南学院大学博物館	協議会委員	4月1日～5年3月31日	館長　島谷弘幸
3	九州ベトナム友好協会	特別顧問	4月1日～5年3月31日	館長　島谷弘幸
4	公益社団法人日本伝統工芸会	日本伝統工芸展運営委員	4月1日～5年3月31日	館長　島谷弘幸
5	外務省	日米文化教育交流会議(カルコン)パネル委員	4月1日～5年3月31日	館長　島谷弘幸
6	一般財団法人　公園財団	研究顧問	4月1日～5年3月31日	館長　島谷弘幸
7	学校法人九州学園	理事・評議員	4月1日～5年3月31日	館長　島谷弘幸
8	文化庁	文化庁「日本博」企画委員会委員	4月1日～5年3月31日	館長　島谷弘幸
9	福岡市博物館	協議会委員	4月1日～5年3月31日	館長　島谷弘幸
10	公益財団法人土佐山内記念財団	高知城歴史博物館　研究顧問	4月1日～5年3月31日	館長　島谷弘幸
11	光村図書出版	高校教科用図書「書道」編集委員	4月1日～5年3月31日	館長　島谷弘幸
12	独立行政法人日本芸術文化振興会	独立行政法人日本芸術文化振興会・日本博を契機とする文化資源コンテンツ創成事業に関する審査・評価委員会委員	4月1日～5年3月31日	館長　島谷弘幸
13	福岡文化財団	評議員選定委員	4月1日～5年3月31日	館長　島谷弘幸
14	福岡県	福岡県文化芸術振興審議会委員	4月1日～7月30日	館長　島谷弘幸
15	ICOM日本委員会	理事	4月1日～5年3月31日	館長　島谷弘幸
16	文化庁	文化観光拠点を中核とした地域における文化観光推進事業に係る協力者会議委員	4月1日～5年3月31日	館長　島谷弘幸
17	文化庁	文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光の推進に関する法律に係る計画認定委員会委員	4月1日～5年3月31日	館長　島谷弘幸
18	文化庁	文化庁「日本博」公募助成型事業の審査・評価委員会委員(文化資源活用推進事業及び国際的文化フェスティバル展開推進事業(長期開催型))	4月1日～5年3月31日	館長　島谷弘幸
19	文化庁	文化審議会委員	4月1日～5年3月31日	館長　島谷弘幸
20	公益社団法人日展	日展諮問委員会委員	4月1日～5年3月31日	館長　島谷弘幸

21	徳島県立文学書道館	書道資料収集委員会委員	4月1日～5年3月31日	館長　島谷弘幸
22	独立行政法人国立美術館	運営委員会委員	4月1日～5年3月31日	館長　島谷弘幸
23	公益財団法人日本博物館協会	評議員	4月1日～5年3月31日	館長　島谷弘幸
24	福岡県	古代日本の「西の都」文化観光推進協議会委員	4月1日～5年3月31日	館長　島谷弘幸
25	文部科学省	「世界の記憶」国内案件に関する審査委員会委員	4月1日～5年3月31日	館長　島谷弘幸
26	独立行政法人国立美術館	独立行政法人国立美術館における館長選考に係る選考委員	4月1日～4月30日	館長　島谷弘幸
27	独立行政法人日本芸術文化振興会	日本博を契機とする文化資源コンテンツ創生事業に関する審査・評価委員会委員	4月1日～5年3月31日	館長　島谷弘幸
28	文部科学省	ユネスコ「世界の記憶」に関する国内推進体制の構築事業（情報発信事業）審査委員会委員	6月23日～5年3月31日	館長　島谷弘幸
29	一般財団法人言語教育振興財団	理事	6月14日～6月30日	館長　島谷弘幸
30	九州日中文化協会	第25回日中青少年書画音楽交流大会・審査委員会審査委員長	9月21日～11月23日	館長　島谷弘幸
31	福岡県	福岡県総合計画審議会委員	11月9日～11月8日	館長　島谷弘幸
32	NPO法人福岡城市民の会	講師	7月19日	学芸部企画課文化交流展室 研究員 桑原有寿子
33	NPO法人福岡城市民の会	講師	10月24日	学芸部長 河野一隆
34	NPO法人福岡城市民の会	講師	10月31日	学芸部文化財課資料登録室 長 森實久美子
35	アート・ドキュメンテーション学会	役員（幹事）	4月1日～5年3月31日	本部文化財活用センターデジタル資源担当(併)九州国立博物館学芸部文化財課資料管理室　専門職 竹内俊貴
36	天野山金剛寺	講師	11月3日	学芸部文化財課資料登録室 長 森實久美子
37	宇佐市教育委員会	宇佐市平和ミュージアム（仮称）建設準備委員会委員	4月1日～5年3月31日	学芸部博物館科学課長（兼）環境保全室長 木川りか
38	菊池川流域古代文化研究会	講師	9月25日	学芸部長 河野一隆
39	九州歴史資料館	九州歴史資料館協議会委員	4月1日～5年3月31日	学芸部博物館科学課長（兼）環境保全室長 木川りか
40	熊本県立図書館	令和5年度（2023年度）開催展示会に係るくまもと文学・歴史館の視察及び展示等指導	7月23日	学芸部長 河野一隆
41	熊本市教育委員会	熊本博物館協議会委員	4月1日～5年3月31日	学芸部博物館科学課長（兼）環境保全室長 木川りか
42	公益財団法人文化財虫菌害研究所	文化財IPMコーディネータ委員会委員	4月1日～5年3月31日	学芸部博物館科学課長（兼）環境保全室長 木川りか
43	公益財団法人文化財虫菌害研究所	総合的防除対策検討委員会委員	4月1日～5年3月31日	学芸部博物館科学課長（兼）環境保全室長 木川りか
44	公益社団法人鹿児島県建築士会	講師	10月29日	学芸部博物館科学課長（兼）環境保全室長 木川りか
45	公益社団法人日本工芸会	委員	8月2日	学芸部企画課長 伊藤信二
46	考古学研究会	考古学研究会常任委員会委員	4月1日～8月31日	本部文化財活用センターデジタル資源担当(併)九州国立博物館学芸部文化財課資料管理室　専門職 竹内俊貴
47	考古学研究会	考古学研究会第68回総会・研究集会実行委員	4月1日～4月24日	本部文化財活用センターデジタル資源担当(併)九州国立博物館学芸部文化財課資料管理室　専門職 竹内俊貴
48	神戸市	講師	10月23日	学芸部博物館科学課保存修復室長 志賀智史
49	公立大学　静岡文化芸術大学	ゲスト講師	7月8日	本部文化財活用センターデジタル資源担当(併)九州国立博物館学芸部文化財課資料管理室　専門職 竹内俊貴
50	西南学院大学	非常勤講師	4月1日～7月30日	学芸部博物館科学課保存修復室主任研究員 鷲頭桂
51	西南学院大学	非常勤講師	4月1日～7月30日	学芸部企画課特別展室長 川村佳男
52	西南学院大学	非常勤講師	4月1日～7月30日	学芸部博物館科学課長（兼）環境保全室長 木川りか
53	西南学院大学	非常勤講師	4月1日～7月30日	学芸部博物館科学課保存修復室長 志賀智史
54	西南学院大学	非常勤講師	4月1日～9月30日	学芸部文化財課資料登録室 長 森實久美子
55	西南学院大学	非常勤講師	9月1日～5年2月28日	学芸部文化財課資料登録室 研究員 松浦晃佑
56	西南学院大学	講師	12月2日	学芸部企画課特別展室主任研究員 西島亜木子
57	第46回福岡県伝統的工芸品展振興協議会	審査委員	10月14日～12月9日	学芸部企画課長 伊藤信二
58	大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館	展示プロジェクト委員	4月1日～10月4日	学芸部文化財課長 白井克也
59	田川市教育委員会	講師	9月25日	学芸部博物館科学課保存修復室長 志賀智史
60	武雄市教育委員会	武雄鍋島家洋学関係資料保存活用策定委員会委員	4月1日～10月31日	学芸部博物館科学課保存修復室長 志賀智史
61	日田市教育委員会	講師	9月14日	学芸部長 河野一隆

62	福岡県教育庁教育総務部文化財保護課	福岡県銃砲等剣類登録審査会補助員	4月1日～5年3月31日	学芸部企画課特別展室主任研究員 望月規史
63	福岡県教育庁教育総務部文化財保護課	福岡県装飾古墳総合調査指導員会委員	7月13日～5年3月31日	学芸部長 河野一隆
64	福岡県豊前神楽保存連合会	豊前神楽民俗文化財伝承・活用等事業に係る委員	7月4日～5年3月31日	学芸部企画課特別展室研究員 桑原有寿子
65	福岡県立美術館	福岡県立美術館協議会委員	9月7日～5年3月31日	副館長 小泉惠英
66	福岡市美術館	福岡市美術館美術資料収集審査員	10月27日～5年3月31日	学芸部企画課文化交流展室長 川村佳男
67	文化庁	文化審議会専門委員（文化財部会）	4月15日～5年3月31日	学芸部企画課長 伊藤信二
68	文化庁	重要文化財紙本著色歓喜天霊記（伝天神縁起）保存修理事業における審査委員	5月13日～5年3月31日	学芸部文化財課資料登録室長 森實　久美子
69	文化庁	「水中遺跡調査検討委員会」委員	6月30日～5年3月31日	学芸部文化財課長 白井克也
70	文化庁	文化財修理センター（仮称）の在り方に関する実務者会議	7月6日	学芸部博物館科学課保存修復室長 志賀智史
71	文化庁	「延暦寺所有重要文化財　絹本著色山王本地仏像一幅復元模写模造事業」における審査委員	8月31日～5年3月31日	学芸部文化財課資料登録室長 森實久美子
72	文化庁	審査委員	10月4日～5年3月31日	学芸部博物館科学課保存修復室長 志賀智史
73	文化庁	買取評価員	12月2日	学芸部文化財課資料管理室主任研究員 畑靖紀
74	別府市教育委員会	講師	9月8日	学芸部博物館科学課保存修復室長 志賀智史
75	放送大学福岡学習センター	非常勤講師（面接授業担当）	10月1日～5年3月31日	学芸部長 河野一隆
76	放送大学福岡学習センター	非常勤講師（面接授業担当）	10月1日～5年3月31日	学芸部企画課特別展室長 川畑憲子
77	放送大学福岡学習センター	非常勤講師（面接授業担当）	10月1日～5年3月31日	学芸部博物館科学課長（兼）環境保全室長 木川りか
78	放送大学福岡学習センター	非常勤講師（面接授業担当）	10月1日～5年3月31日	学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史
79	放送大学福岡学習センター	非常勤講師（面接授業担当）	10月1日～5年3月31日	学芸部企画課特別展室主任研究員　西島亜木子
80	放送大学福岡学習センター	非常勤講師（面接授業担当）	10月1日～5年3月31日	学芸部文化財課資料登録室長　森實久美子
81	法隆寺	「法隆寺金堂壁画　保存活用委員会」保存環境ワーキング・グループ専門委員	4月1日～5年3月31日	学芸部博物館科学課長（兼）環境保全室長 木川りか
82	法隆寺	「法隆寺金堂壁画　保存活用委員会」 壁画ワーキング・グループ美術史班専門委員	4月1日～5年3月31日	学芸部文化財課資料登録室長　森實久美子
83	宮崎県都城市教育委員会都城島津邸	パネリスト	8月20日	学芸部博物館科学課保存修復室長 志賀智史
84	宗像大社	国宝福岡県宗像大社沖津宮祭祀遺跡出土品ならびに国宝伝福岡県宗像大社沖津宮祭祀遺跡出土品保存活用計画策定委員会委員	5月27日～5年3月31日	学芸部長 河野一隆
85	一般社団法人文化財保存修復学会	理事	4月1日～6月17日	学芸部博物館科学課長（兼）環境保全室長 木川りか
86	大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立民族学博物館	令和３年度国立民族学博物館共同研究員	4月1日～5年3月31日	学芸部博物館科学課長（兼）環境保全室長 木川りか
87	大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立民族学博物館	国立民族学博物館運営委員	4月1日～5年3月31日	学芸部博物館科学課長（兼）環境保全室長 木川りか
88	大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館	国立歴史民俗博物館運営会議委員	4月1日～5年3月31日	学芸部博物館科学課長（兼）環境保全室長 木川りか
89	長崎県松浦市教育委員会	松浦市鷹島海底遺跡調査指導委員会委員	4月1日～5年3月31日	副館長 小泉惠英
90	福岡県教育庁教育総務部文化財保護課	福岡県文化財保護審議会専門委員	4月1日～5年3月31日	学芸部企画課特別展室長 川畑憲子
91	比較文明学会九州支部	講師	12月17日	学芸部企画課文化交流展室研究員　酒井田千明
92	鹿児島県立埋蔵文化財センター	講師	5年1月19日	副館長 小泉惠英
93	文化庁	令和４年度「重要文化財（美術工芸品）文化財修理の伝統技術等継承事業」（紙資料調査）における審査委員	5年1月11日～1月18日	学芸部博物館科学課保存修復室長 志賀智史
94	公益社団法人福岡県建築士会	講師	5年1月21日	学芸部博物館科学課（兼）環境保全室長 木川りか
95	文化庁	文化財調査	5年2月9日～10日	学芸部文化財課資料登録室研究員 松浦晃佑
96	宮崎県	文化財調査	5年3月4日～6日	学芸部企画課特別展室研究員　大澤信
97	宮崎県	文化財調査	5年3月5日～6日	学芸部文化財課資料登録室長 森實久美子

1-(6) 文化財の積極的な活用による文化財の継承につながる新たな取組
1-(6)-① 文化財に親しむためのコンテンツの開発とモデル事業の推進
（レプリカや，VR・AR、8K映像など企画コンテンツの開発数）

【本部文化財活用センター】

令和5年3月31日現在

コンテンツ開発及び展開数　36件（うちコンテンツ開発数　29件）

	事業名称	内　容	期　間	担　当　者
1	コンテンツ開発	「車争図屏風」の高精細複製品制作（キヤノン株式会社との共同研究）	4月1日～10月28日	文化財活用センター企画担当 研究員 小島有紀子
2	コンテンツ開発	「焔」の高精細複製品制作（キヤノン株式会社との共同研究）	4月1日～5年9月28日	文化財活用センター企画担当 研究員 小島有紀子
3	コンテンツ開発	国宝「納涼図屏風」の高精細複製品制作（キヤノン株式会社との共同研究）	12月8日～5年9月29日	文化財活用センター企画担当 研究員 小島有紀子
4	コンテンツ開発	国宝「観楓図屏風」の高精細複製品制作（キヤノン株式会社との共同研究）	12月8日～5年9月29日	文化財活用センター企画担当 研究員 小島有紀子
5	コンテンツ開発	国宝「花下遊楽図屏風」の高精細複製品制作（キヤノン株式会社との共同研究）	11月25日～5年9月29日	文化財活用センター企画担当 研究員 小島有紀子
6	コンテンツ開発	重要文化財「風神雷神/夏秋草図屏風」の高精細複製品制作（キヤノン株式会社との共同研究）	5年1月25日～6年3月29日	文化財活用センター企画担当 研究員 小島有紀子
7	コンテンツ開発	重要文化財「遮光器土偶」のハンズオンレプリカ制作	4月1日～12月20日	文化財活用センター企画担当 研究員 飯田茂雄・小島有紀子
8	コンテンツ開発	国宝「袈裟襷文銅鐸（外縁付鈕２式銅鐸）」の複製追加加工	契約日～5年3月31日	文化財活用センター企画担当 研究員 飯田茂雄
9	コンテンツ開発	国宝「埴輪 挂甲の武人」の複製制作	契約日～5年3月31日	文化財活用センター企画担当 研究員 飯田茂雄・小島有紀子
10	コンテンツ開発	重要文化財「みみずく土偶（土製）」の複製制作	契約日～6年2月28日	文化財活用センター企画担当 研究員 飯田茂雄・小島有紀子
11	コンテンツ開発	「自在蛇置物」のハンズオンレプリカ（プロトタイプ）制作	4月1日～5年2月16日	文化財活用センター企画担当 専門職 松沼穂積
12	コンテンツ開発	「ウンスンカルタ」の複製制作（九州国立博物館と共同）	8月12日～5年3月31日	文化財活用センター企画担当 研究員 西木政統、九州国立博物館 松浦晃佑
13	コンテンツ開発	「四区袈裟襷文銅鐸」の複製制作（九州国立博物館と共同）	8月15日～5年3月31日	文化財活用センター企画担当 研究員 西木政統、九州国立博物館　小澤佳憲
14	コンテンツ開発	国宝「地獄草紙」の複製制作（奈良国立博物館との共同）	3年12月～6月1日	文化財活用センター企画担当 研究員 西木政統、奈良国立博物館 翁みほり
15	コンテンツ開発	国宝「辟邪絵」の複製制作（奈良国立博物館との共同）	3年12月～6月1日	文化財活用センター企画担当 研究員 西木政統、奈良国立博物館 翁みほり
16	コンテンツ開発	国宝「薬師如来坐像」のハンズオンレプリカ制作（奈良国立博物館との共同）	契約日～6年3月31日	文化財活用センター企画担当 研究員 西木政統、奈良国立博物館 翁みほり
17	コンテンツ開発	国宝「救世観音像」（法隆寺）の映像および8K文化財コンテンツの制作	4月1日～10月1日	文化財活用センター企画担当 室長 髙橋 美奈子、企画担当 研究員 飯田茂雄
18	コンテンツ開発	国宝「救世観音像」（法隆寺）の映像　手話CGの制作（実証実験）	10月21日～11月28日	文化財活用センター企画担当 室長 髙橋 美奈子、企画担当 研究員　飯田茂雄
19	コンテンツ開発	国宝「洛中洛外図屏風（舟木本）」の映像コンテンツの制作	4月1日～10月1日	文化財活用センター企画担当 室長 髙橋 美奈子、企画担当 研究員　飯田茂雄
20	コンテンツ開発	重要文化財「遮光器土偶」、重要文化財「樫鳥糸肩赤威胴丸」、重要文化財「能面　小面」の体験型コンテンツの制作	4月1日～10月1日	文化財活用センター企画担当 室長 髙橋 美奈子、企画担当 研究員　飯田茂雄
21	コンテンツ開発	国宝「納涼図屏風」の高精細複製とプロジェクションマッピングによる体験型コンテンツの制作	4月1日～9月23日	文化財活用センター企画担当 研究員 小島有紀子、アソシエイトフェロー 加納彩子
22	コンテンツ開発	国宝「観楓図屏風」の高精細複製とプロジェクションマッピングによる体験型コンテンツの制作	4月1日～9月23日	文化財活用センター企画担当 研究員 小島有紀子、アソシエイトフェロー 加納彩子
23	コンテンツ開発	懐中電灯型デバイスと8Kモニターを活用した体験型コンテンツ「8Kで文化財 みほとけ調査」の改良	4月1日～10月1日	企画担当研究員 西木政統、企画担当専門職 松沼穂積
24	コンテンツ開発	Nintendo Switch『あつまれ どうぶつの森』における「ぶんかつ島」夢番地の制作	8月18日～5年3月31日	文化財活用センターデジタル資源担当　有期雇用職員　川合加容子
25	コンテンツ開発	「なぶんけん×ぶんかつアウトリーチプログラム」としてキットを活用した教育プログラムの開発	4月1日～5年3月31日	文化財活用センター企画担当 研究員 小島有紀子、奈良文化財研究所　髙橋 知奈津、小田 裕樹

26	コンテンツ開発	Nintendo Switch『あつまれ どうぶつの森』における「ぶんかつ島」関連動画の制作（4件）	8月18日～5年3月31日	文化財活用センターデジタル資源担当　有期雇用職員　川合加容子、企画担当専門職　高木結美、松沼穂積、アソシエイトフェロー　加納彩子
27	コンテンツ開発	東京国立博物館創立150年記念特別企画「未来の博物館」関連動画の制作（3件）	8月1日～11月9日	文化財活用センター企画担当専門職 高木結美、アソシエイトフェロー　加納彩子
28	コンテンツ開発	複製・デジタルコンテンツを活用した常設の展示スペース「デジタル法隆寺宝物館」関連動画の制作（11件）	10月1日～5年1月27日	文化財活用センター企画担当室長 高橋美奈子、企画担当研究員 西木政統、企画担当専門職 高木結美、アソシエイトフェロー 加納彩子
29	コンテンツ開発	「ぶんかつアウトリーチプログラム」関連動画の制作（2件）	4月1日～5年2月13日	文化財活用センター研究員 小島有紀子、企画担当専門職 松沼穂積
30	コンテンツ展開	茶碗型ハンズオンコントローラーと8Kモニターを活用した体験型コンテンツ「8Kで文化財　ふれる・まわせる名茶碗」展開（愛知県陶磁美術館・東京国立博物館で公開）（文化庁「令和3年度地域ゆかりの文化資産地方展開促進事業　先端技術を活用した文化資産コンテンツ制作プロジェクト」受託により制作）	4月1日～5年3月31日	文化財活用センター企画担当専門職 松沼穂積
31	コンテンツ展開	複製・映像を使用した常設の体験型展示スペース「日本美術のとびら」でのコンテンツ展開（日本文化紹介映像、非接触体験展示「日本美術のデジタル年表」、高精細複製品を東京国立博物館で公開）	4月1日～5年3月31日（9月1日～12月26日、3月13日～26日は閉室）	文化財活用センター企画担当研究員 小島有紀子
32	コンテンツ展開	複製・映像を使用した常設の体験型展示スペース「日本美術のとびら　四季」でのコンテンツ展開（高精細複製屏風へのプロジェクションマッピングを東京国立博物館で公開）	5年1月2日～5年3月12日	文化財活用センター企画担当研究員 小島有紀子
33	コンテンツ展開	Nintendo Switch『あつまれ どうぶつの森』における「ぶんかつ島」夢番地のコンテンツ展開	8月18日～5年3月31日	文化財活用センターデジタル資源担当　有期雇用職員　川合加容子、企画担当専門職　高木結美、松沼穂積、アソシエイトフェロー　加納彩子
34	コンテンツ展開	複製・デジタルコンテンツを活用した常設の展示スペース「デジタル法隆寺宝物館」でのコンテンツ展開（東京国立博物館で公開）	1月31日～5年3月31日（以降も継続）	文化財活用センター企画担当室長 高橋美奈子、企画担当研究員 西木政統、企画担当専門職 高木結美、アソシエイトフェロー 加納彩子
35	コンテンツ展開	複製品・デジタルコンテンツの貸与（11件）	4月1日～5年3月31日	文化財活用センター研究員 西木政統、小島有紀子
36	コンテンツ展開	「ぶんかつアウトリーチプログラム」として複製品を活用した教育プログラムの提供（25件）	4月1日～5年3月31日	文化財活用センター研究員 小島有紀子、企画担当研究員 西木政統、企画担当研究員 飯田茂雄、企画担当専門職 松沼穂積

1-(6)-② 国立博物館収蔵品貸与促進事業

【本部文化財活用センター】　6件

令和5年3月31日現在

	貸与先名	展覧会名称	期間	収蔵館・貸与件数（件）
1	刈谷市歴史博物館	伊勢物語とかきつばた	4月23日～6月5日	東京国立博物館：2件 京都国立博物館：1件
2	島根県立古代出雲歴史博物館	ハニワの世界へようこそ	7月1日～8月28日	東京国立博物館：9件
3	足利市立美術館	あしかがの歴史と文化再発見！―鎌倉殿の義弟　足利義兼の祈り　大日如来坐像	7月30日～10月10日	東京国立博物館：16件
4	鹿児島県歴史・美術センター黎明館	茶の湯と薩摩	9月22日～11月6日	東京国立博物館：23件 九州国立博物館：7件
5	滋賀県立安土城考古博物館	里帰り！日本最大の銅鐸―太古の響きを安土の地で―	10月8日～11月20日	東京国立博物館：6件
6	沖縄県立博物館・美術館	復帰50年展　琉球―美とその背景―	10月14日～12月4日	東京国立博物館：28件 九州国立博物館：21件

1-(6)-③ 文化財情報のデジタル資源化の推進と国内外への情報発信（後述の資料に記載）◎共通資料d

1-(6)-④-1 文化財の保存等の相談・助言・支援に関わる取組状況（専門的・技術的な援助・助言の件数、行政、公私立博物館等の各種委員会等の各種委員等への就任件数、依頼事項への対応件数等）

【本部文化財活用センター】　191件

令和5年3月31日現在

※令和3年度まで2-(5)-②-1 専門的・技術的な援助・助言の取組状況へ掲載していた実績を、令和4年度より本表に集約する。

	機　関	内　容	期　間	担　当　者
1	学校法人学習院大学　学習院女子大学	非常勤講師	4月1日～9月18日	文化財活用センター企画担当室長　高橋美奈子
2	静岡県掛川市	三熊野神社大祭祢里行事民俗文化財調査 調査員	4月1日～5年3月31日	文化財活用センター企画担当専門職　高木結美
3	学校法人武蔵学園　武蔵大学	武蔵学園所蔵「朝田家染色関係資料」調査 調査員	8月1日～5年3月31日	文化財活用センター企画担当専門職　高木結美

4	沖縄県立博物館・美術館	令和4年度琉球王国文化遺産集積・再興事業による模造・模写復元資料の活用にかかる先行事例研究及び意見交換会　講師	令和5年2月3日	文化財活用センター企画担当専門職　髙木結美
5	沖縄県立博物館・美術館	民俗資料の修理に関する助言	11月2日	文化財活用センター・飯田茂雄
6	明治大学博物館	文化財の輸送・展示に関する助言	10月25日	文化財活用センター・飯田茂雄
7	東久留米市文化財保護審議委員	文化財の指定、助言	令和3年8月1日～令和5年8月1日	文化財活用センター・飯田茂雄
8	東久留米市埋蔵文化財調査団	市内の発掘調査に関する指導・助言	令和4年4月1日～令和5年3月31日	文化財活用センター・飯田茂雄
9	内閣府	デジタルアーカイブジャパン実務者検討委員会　構成員	4月1日～5年3月31日	文化財活用センターデジタル資源担当課長　村田良二、同室長　阿児雄之
10	内閣府	ジャパンサーチ公式YouTube　活用動画への協力	7月19日	文化財活用センターデジタル資源担当室長　阿児雄之
11	内閣府	デジタルアーカイブアセスメントツール解説書に係る助言・支援	10月14日	文化財活用センターデジタル資源担当課長　村田良二、同室長　阿児雄之
12	東京都生活文化スポーツ局文化振興部企画調整課	東京空襲関連資料のデジタル化に係る助言	12月13日	文化財活用センターデジタル資源担当課長　村田良二
13	内閣府	ジャパンサーチ公式YouTube　インタビュー動画への協力	2月17日	文化財活用センターデジタル資源担当室長　阿児雄之
14	学校法人大妻学院	大妻女子大学非常勤講師	4月1日～5年3月31日	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人
15	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会理事	4月1日～6月19日	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人
16	奈良県	なら歴史芸術文化村修復工房使用者等選定委員会委員	4月1日～5年3月31日	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人
17	文部科学省	文化審議会専門委員	4月1日～5年3月31日	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人
18	公益財団法人文化財虫菌害研究所	総合調整委員会委員	4月1日～5年3月31日	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人
19	一般社団法人文化財保存修復学会	学会誌投稿論文査読	10月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人
20	青山学院大学	非常勤講師	9月～令和5年3月31日	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
21	文化庁	第12回企画展示セミナー　講師	6月10日	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
22	文化庁	令和4年度公開承認施設担当者会議　講師	6月15日	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
23	（独）人間文化研究機構　国文学研究資料館	2022年度アーカイブズ・カレッジ（史料管理学研修会）　講師	9月6日	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
24	三重県総合博物館	三重県総合博物館研究協力者	4月～令和5年3月31日	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
25	（一社）文化財保存修復学会	理事	6月～令和6年6月	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
26	（一社）文化財保存修復学会	公開シンポジウム実行委員会　委員	8月～令和5年3月31日	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
27	（一社）文化財保存修復学会	第45回大会実行委員会　委員	10月～令和6年3月31日	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
28	（一社）文化財保存修復学会	第45回大会プログラム作成委員会　委員長	11月～令和5年3月31日	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
29	（公財）文化財虫菌害研究所	第42回文化財防虫防菌処理実務講習会　講師	10月3日	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
30	（公財）文化財虫菌害研究所	第11回文化財IPMコーディネータ資格取得のための講習会　講師	12月12日	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
31	東京文化財研究所	保存科学誌第62号編集委員会　委員	12月	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
32	文化財防災センター	令和4年度文化財防災センター研修　講師	12月	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
33	高松市歴史資料館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	4月	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
34	板橋区立美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	4月～6月	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
35	早稲田大学會津八一記念博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	4月～5月	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
36	あいち朝日遺跡ミュージアム	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	4月～5月	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
37	鎌倉国宝館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	4月～5月	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
38	埼玉県立嵐山史跡の博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	4月～7月	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
39	熊本博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	4月～5月	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
40	京都国立近代美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	4月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人
41	国立アイヌ民族博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	4月～5月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人
42	北海道立釧路芸術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	4月～7月	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創

43	泉屋博古館東京	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	4月～継続中	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
44	中津市歴史博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	5月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人
45	秋田県立近代美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	5月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人
46	京都市京セラ美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	5月～6月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人
47	姫路市立美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	5月～6月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人
48	兵庫陶芸美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	5月～7月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人
49	福島県立美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	5月～7月	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
50	久留米市美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	5月～6月	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
51	三重県立美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	5月～7月	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
52	高知県立高知城歴史博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	6月～7月	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
53	渋谷区立松涛美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	7月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人
54	北海道立近代美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	7月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人
55	京都産業大学ギャラリー	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	7月～9月	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
56	益田市立雪舟の郷記念館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	7月～8月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人
57	春日大社	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	7月～8月	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
58	茨城県近代美術館天心記念五浦分館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	7月～9月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人
59	鎌倉国宝館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	7月～8月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人
60	竹田市歴史文化館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	8月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人
61	対馬博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	7月～8月	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
62	大阪歴史博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	7月～8月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人
63	大分県立美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	8月～10月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人
64	長崎歴史文化博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	8月～9月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人
65	石巻市博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	8月～9月	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
66	高志の国文学館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	8月～10月	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
67	桑名市博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	8月	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
68	福知山市佐藤太清記念美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	9月～11月	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
69	郡山市立美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	6月～10月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人
70	独立行政法人国立美術館 東京国立近代美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	8月～継続中	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
71	大阪中之島美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	11月～継続中	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
72	明石市立文化博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	11月～継続中	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
73	福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	1月～2月	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
74	くまもと文学・歴史館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	1月～継続中	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
75	府中市美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	1月～継続中	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人
76	岐阜県美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	1月～継続中	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
77	国立工芸館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	2月～継続中	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
78	岐阜関ケ原古戦場記念館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	2月～3月	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
79	秋田県立近代美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	2月～継続中	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
80	あいち朝日遺跡ミュージアム	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	2月～継続中	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
81	静岡市美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	3月～継続中	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
82	なら歴史芸術文化村	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	3月～継続中	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創

83	すみだ北斎美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	3月～継続中	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
84	岡山県立博物館	公開承認施設申請に係る保存環境調査協力	4月～10月	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
85	石川県立歴史博物館	公開承認施設申請に係る保存環境調査協力	7月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人
86	山口県立山口博物館	5年度貸与促進事業内定施設への環境調査、改善協力	11月～継続中	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
87	糸島市立伊都国歴史博物館	5年度貸与促進事業内定施設への環境調査、改善協力	11月～継続中	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
88	広島県立歴史民俗資料館	5年度貸与促進事業内定施設への環境調査、改善協力	11月～継続中	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
89	市立岡谷美術考古館	5年度貸与促進事業内定施設への環境調査、改善協力	11月～継続中	文化財活用センター保存担当 研究員　間渕創
90	福岡市美術館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	4月～7月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人、同研究員 間渕創
91	刈谷市歴史博物館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	4月～6月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人、同研究員 間渕創
92	丸紅サービス株式会社	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	4月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人、同研究員 間渕創
93	野洲市歴史民俗博物館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	4月～9月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人、同研究員 間渕創
94	藤井達吉現代美術館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	5月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人、同研究員 間渕創
95	国立西洋美術館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	5月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人、同研究員 間渕創
96	千葉市立郷土博物館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	5月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人、同研究員 間渕創
97	綾川町立生涯学習センター	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	5月～8月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人、同研究員 間渕創
98	軽井沢町歴史民俗資料館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	5月～8月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人、同研究員 間渕創
99	公益財団法人 大川美術館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	5月～継続中	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人、同研究員 間渕創
100	佐野美術館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	5月～7月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人、同研究員 間渕創
101	宮城県美術館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	5月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人、同研究員 間渕創
102	土浦市立博物館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	5月～継続中	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人、同研究員 間渕創
103	株式会社 YAMAGIWA	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	5月～7月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人、同研究員 間渕創
104	中津市歴史博物館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	5月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人、同研究員 間渕創
105	大阪歴史博物館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	5月～7月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人、同研究員 間渕創
106	群馬県立歴史博物館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	6月～11月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人、同研究員 間渕創
107	福山城博物館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	6月～7月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人、同研究員 間渕創
108	国立ハンセン病資料館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	6月～継続中	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人、同研究員 間渕創
109	長浜市長浜城歴史博物館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	6月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人、同研究員 間渕創
110	豊橋市美術博物館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	6月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人、同研究員 間渕創
111	静岡県立美術館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	6月	文化財活用センター保存担当 課長　吉田直人、同研究員 間渕創

112	岩宿博物館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	6月～10月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
113	藤田美術館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	6月～7月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
114	対馬博物館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	6月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
115	大成建設株式会社	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	7月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
116	埼玉県立歴史と民俗の博物館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	7月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
117	塩野香料株式会社	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	7月～9月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
118	アーティゾン美術館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	7月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
119	国立民族学博物館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	7月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
120	十条ステン工業株式会社	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	7月～継続中	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
121	伊方町教育委員会事務局 町見郷土館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	7月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
122	北九州市立美術館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	7月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
123	伊賀市上野図書館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	7月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
124	茶道資料館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	7月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
125	徳川美術館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	8月～11月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
126	東芝未来科学館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	8月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
127	松阪市産業文化部文化課	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	8月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
128	大府市歴史民俗資料館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	8月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
129	秋田市立千秋美術館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	8月～11月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
130	国立西洋美術館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	8月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
131	三重県総合博物館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	8月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
132	宮島歴史民俗資料館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	9月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
133	貨幣博物館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	9月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
134	三重県総合博物館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	9月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
135	国立西洋美術館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	9月～10月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
136	青森県立郷土館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	9月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
137	大山祇神社 宝物館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	9月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
138	株式会社 クマヒラ	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	10月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創

139	茨城県立歴史館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	10月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
140	島根県海士町役場	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	10月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
141	環境文化創造研究所	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	10月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
142	しもだて美術館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	10月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
143	横浜美術館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	10月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
144	彦根城博物館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	10月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
145	富里市立図書館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	10月～11月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
146	丹青社	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	10月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
147	宇佐神宮	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	10月～11月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
148	貨幣博物館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	11月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
149	早稲田大学會津八一記念博物館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	11月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
150	松本市立博物館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	11月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
151	島根県立石見美術館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	11月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
152	名古屋刀剣ワールド	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	11月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
153	熊本県立美術館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	11月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
154	沖縄県立博物館・美術館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	11月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
155	鳥取市歴史博物館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	11月～12月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
156	藤田美術館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	12月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
157	広島県立美術館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	12月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
158	光明理化学工業	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	12月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
159	府中市美術館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	12月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
160	鎌倉彫資料館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	12月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
161	鳥取県立美術館整備局	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	1月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
162	愛知県美術館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	1月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
163	琵琶湖博物館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	1月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
164	横浜美術館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	1月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
165	新潟市美術館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	2月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創

166	埼玉県立歴史と民俗の博物館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	2月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
167	株式会社クマヒラ	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	2月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
168	国立西洋美術館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	2月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
169	刀剣博物館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	2月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
170	滋賀大学部経済学部付属史料館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	2月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
171	安土城考古博物館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	2月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
172	桶川市歴史民俗資料館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	3月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
173	一関市教育委員会	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	3月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
174	株式会社クマヒラ	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	3月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
175	愛媛県美術館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	3月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
176	岡崎市美術博物館	施設の文化財保存環境に係る相談対応・助言・改善協力	3月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
177	町田市立国際工芸美術館（仮称）	新築、増改築施設の環境に係る設計協議	4月～継続中	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
178	滋賀県立琵琶湖文化館	新築、増改築施設の環境に係る設計協議	5月～7月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
179	松戸市立博物館	新築、増改築施設の環境に係る設計協議	5月～継続中	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
180	阪急コンストラクション・マネジメント	新築、増改築施設の環境に係る設計協議	7月～8月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
181	青谷かみじち史跡公園展示ガイダンス施設	新築、増改築施設の環境に係る設計協議	7月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
182	東京家政大学博物館	新築、増改築施設の環境に係る設計協議	7月～10月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
183	株式会社日本設計	新築、増改築施設の環境に係る設計協議	8月～10月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
184	秋田市立佐竹史料館	新築、増改築施設の環境に係る設計協議	8月～9月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
185	高知県立歴史民俗資料館	新築、増改築施設の環境に係る設計協議	8月～12月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
186	特別史跡加曽利貝塚新博物館	新築、増改築施設の環境に係る設計協議	9月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
187	吉野石膏美術振興財団	新築、増改築施設の環境に係る設計協議	9月～10月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
188	専修寺宝物館	新築、増改築施設の環境に係る設計協議	10月～11月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
189	岩国徴古館	新築、増改築施設の環境に係る設計協議	11月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
190	宇和島市立伊達博物館	新築、増改築施設の環境に係る設計協議	11月～12月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創
191	和歌山県立紀伊風土記の丘	新築、増改築施設の環境に係る設計協議	12月	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創

2-(3) 文化遺産保護に関する国際協働

2-(3)-① 文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進

2-(3)-①-1 文化遺産保護の国際協働に関する取組状況
（文化遺産保護に関する国際情報の収集等事業の実施件数、諸外国における文化遺産の保存・修復に関する研修・ワークショップ等の満足度）

【東京文化財研究所】2件

	研修・ワークショップ	実施時期	対象者	日数（日）	回数（回）	満足度（%）	備考
1	国際研修『紙の保存と修復』評価セミナー	9月5日～7日、12日	過去の研修修了者及び講師	4	1	-	
2	メキシコ国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」	11月9日～22日	保存修復担当者（アルゼンチン、ブラジル、チリ、コロンビア、スペイン、メキシコ、ペルー、ウルグアイ）	10	1	-	

【奈良文化財研究所】2件

	研修・ワークショップ	実施時期	対象者	日数	回数	満足度（%）	備考
1	ACCUの実施する文化遺産の保護に資する研修2021（個別テーマ研修）「考古遺跡における三次元記録法」	11月10日～11月25日	ベトナムの専門家	16	1	ー	
2	ACCUの実施する文化遺産の保護に資する「文化遺産ワークショップ」（カザフスタン）	10月17日～10月28日	カザフスタンの専門家	12	1	ー	

2-(3)-①-2 文化遺産保護の国際協働に関する取組状況（諸外国の研究機関等との共同研究等の実施件数）

【東京文化財研究所】4件

	名称	機関名	備考
1	アンコール遺跡群の保存に関する共同協力事業に関する覚書	アンコール・シェムリアップ地域保存整備機構（APSARA）・東京文化財研究所・奈良文化財研究所	
2	伝統民家を含むブータンの歴史的建造物の共同調査研究に関する覚書	ブータン王国内務文化省文化局・東京文化財研究所	
3	アラビア湾岸考古学と文化遺産のためのバーレーンセンターに関する覚書	バーレーン文化古物局・東京文化財研究所・金沢大学古代文明文化資源学研究所	
4	ウルビーノ・カルロボー大学基礎応用科学部との協力合意書	ウルビーノ・カルロボー大学基礎応用科学部・東京文化財研究所	

【奈良文化財研究所】　1件

	名称	機関名	備考
1	学術交流及び協力に関する覚書	奈良文化財研究所、マルグラン考古学研究所（カザフスタン共和国）	

2-(3)-② アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究

2-(3)-②-1 アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する取組状況（刊行物件数）

（後述の資料に記載） ◎共通資料c-⑥

2-(3)-②-2 アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する取組状況（国際会議等開催件数）

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】7件

令和5年3月31日現在

	研修・ワークショップ	実施時期	対象者	日数（日間）	回数（回）	摘要
1	「無形文化遺産保護のための持続的研究情報収集：中央アジアと小島嶼開発途上国（SIDS）を中心に」事業 オンラインワークショップ（オンライン）	8月10日	ウズベキスタン、カザフスタン、キルギス、タジキスタン、モンゴルの専門家、研究者	1日	1	文化庁受託経費
2	「無形文化遺産保護と災害リスクマネジメントに関する調査研究」事業 地域ワークショップ（オンライン）	8月5日 9月7日	インドネシア、日本、バヌアツ、バングラディシュ、フィジー、フィリピン、ベトナム、モンゴルの専門家、研究者	2日	1	文化庁受託経費
3	第11回IRCI運営理事会　（オンライン）	10月28日	IRCI運営理事	1日	1	文化庁受託経費
4	アジア太平洋地域における無形文化遺産保護のためのオンラインセミナー（第1回） Community Involvement in ICH Research（オンライン）	12月13日	無形文化遺産の研究者及び一般	1日	1	文化庁受託経費
5	「無形文化遺産保護のための持続的研究情報収集：中央アジアと小島嶼開発途上国（SIDS）を中心に」事業 ワーキングセッション（オンライン）	5年2月21日	バヌアツ、パプアニューギニア、パラオ、東ティモール、フィジー、モルディブの専門家、研究者	1日	1	文化庁受託経費
6	アジア太平洋地域における無形文化遺産保護のためのオンラインセミナー（第2回） ICH in a Climate of Emergency（オンライン）	5年3月17日	無形文化遺産の研究者及び一般	1日	1	文化庁受託経費
7	アジア太平洋地域における無形文化遺産保護のためのオンラインセミナー（第3回） Learning from the initiatives of good safeguarding practices　in the 2003 Convention（オンライン）	5年3月23日	無形文化遺産の研究者及び一般	1日	1	文化庁受託経費

2-(3)-②-3　研究交流実績一覧　（後述の資料に記載） ◎共通資料c-①

2-(3)-②-4　調査研究テーマ一覧　（後述の資料に記載） ◎共通資料c-②

2-(3)-②-5　学会、研究会等発表実績一覧　（後述の資料に記載） ◎共通資料c-③

2-(3)-②-6　シンポジウム開催実績一覧　（後述の資料に記載） ◎共通資料c-④

2-(3)-②-7　論文等発表実績一覧　（後述の資料に記載） ◎共通資料c-⑤

2-(3)-②-8　調査研究刊行物一覧　（後述の資料に記載） ◎共通資料c-⑥

2-(3)-②-9　ウェブサイトアクセス件数　（後述の資料に記載） ◎共通資料d

2-(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用

2-(4)-① 文化財情報基盤の整備・充実

2-(4)-①-1 図書、雑誌等の公開に関する取組状況

令和5年3月31日

		東京文化財研究所			奈良文化財研究所		
資料閲覧室・図書資料室の開室日数（日）		129日			240日		
資料閲覧室・図書資料室の利用者数（人）		877人			254人		
		令和3年度末	4年度追加	4年度末	令和3年度末	4年度追加	4年度末
文化財に関する資料・図書の受入件総数（件）	図書	126,401件	1,143件	127,544件	392,820件	5,344件	398,164件
	雑誌	170,527件	2,903件	173,430件	109,068件	2,531件	111,599件
	その他（図録・報告書等）	48,544件	1,909件	50,453件	208,509件	571件	209,080件 *
	計	345,472件	5,955件	351,427件	501,888件	7,875件	509,763件

＊奈良文化財研究所においては、その他（図録・報告書等）は図書に含む。

2-(4)-①-2 文化財に関するデータベースの状況

令和5年3月31日

	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
文化財に関するデータベースの公開件数（件）	37件	35件
データベースのデータ件数（件）	1,801,110件	2,292,801件
データベース等へのアクセス件数（件）	2,486,307件	9,955,544件
（ホームページへのアクセス件数（件））	3,457,717件	1,065,119件

2-(4)-② 調査研究成果の発信

2-(4)-②-1 調査研究刊行物一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑥

2-(4)-②-2 講演会等の開催実績

【東京文化財研究所】　**2件**　**142人**　令和5年3月31日

No.	名称	開催日	開催場所	主催	事業内容	来場者数	備考
1	第56回オープンレクチャー「かたちを見る、かたちを読む」	11月8日	東京文化財研究所	東京文化財研究所	美術史研究の成果を一般に公表する講座を開催した。	50人	
2	第 17 回 無形民俗文化財研究協議会「文化財としての食文化―無形民俗文化財の新たな広がり」	5年2月1日	東京文化財研究所	東京文化財研究所	ユネスコ無形文化遺産に関する研究協議会を開催した。	92人	

【奈良文化財研究所】　**3件**　**1,766人**

No.	名称	開催日	開催場所	主催	事業内容	来場者数	備考
1	藤原宮大極殿院の発掘調査(飛鳥藤原第210次)現地見学会	8月6日	橿原市醍醐町	奈良文化財研究所	藤原宮大極殿院の発掘調査(飛鳥藤原第210次)現地見学会を開催した。	468人	
2	興福寺東金堂院の回廊の発掘調査(平城第649次調査)現地見学会	10月15日	奈良市登大路町	奈良文化財研究所	興福寺東金堂院の回廊の発掘調査(平城第649次調査)現地見学会を開催した。	1,120人	
3	第14回東京講演会	10月22日	有楽町朝日ホール	奈良文化財研究所	テーマ「高松塚古墳壁画を伝える－発見から石室解体、修理を経て」について、5人による講演び総合討論を開催した。	178人	

2-(4)-②-3 シンポジウム開催実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-④

2-(4)-②-4 ウェブサイトアクセス件数　（後述の資料に記載）◎共通資料d

2-(4)-②-5 学術情報リポジトリ等によるウェブサイトにおける論文等の公開件数

令和5年3月31日

	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
学術情報リポジトリ等によるウェブサイトにおける論文等の公開件数（件）	4,006件	7,577件

2-(4)-③ 展示公開施設の充実

2-(4)-③-1 来館者数推移（入館料別）（過去５か年）　（後述の資料に記載）◎共通資料a-①

2-(4)-③-2 来館者数推移（展覧会別）（過去５か年）　（後述の資料に記載）◎共通資料a-②

2-(4)-③-3 平常展・特別展・海外展　（後述の資料に記載）◎共通資料a-③

2-(5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
2-(5)-① 文化財に関する研修の実施
2-(5)-①-1 文化財に関する研修の実施実績

【東京文化財研究所】　1件　受講者 19人

No.	研修課程	研修期間	日数（日）	研修対象	研修内容	参加者数	満足度	研修成果の活用実績	備考
1	博物館・美術館等の保存担当学芸員研修	7月4日～8日	5	博物館・美術館等の文化財の保存担当者	文化財の保存科学の基礎と実践上の諸問題についての講義と実習	19人	100%	94%	

【奈良文化財研究所】　14件　受講者 312人

No.	研修課程	研修期間	日数（日）	研修対象※	研修内容	参加者数	満足度	研修成果の活用実績	備考
1	文化財担当者専門研修「建造物保存活用計画策定課程」	7月4日～8日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	文化財建造物の保存活用計画策定に関わる自治体担当者を対象に、法制度、保存管理、環境保全、活用等について、講義、実地研修及び演習を通じて、計画策定に必要な知識の習得を目指す。	15人	100%	91%	
2	文化財担当者専門研修「文化財デジタルアーカイブ課程」	7月25日～29日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	デジタル技術を用いて、調査記録類（画像含む）及び報告書のデジタル化や文化財コンテンツの公開活用を行うための必要な知識やスキルを習得するための研修。コンテンツのデータベース公開、オープンデータ化、著作権などの知的財産権も扱う。	68人	100%	88%	対面18人 オンライン50人（Zoom）
3	文化財担当者専門研修「遺跡調査技術課程」	9月12日～16日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	知っていれば発掘調査現場や調査成果の活用に役に立つ、実践的な知識と技術の習得や、調査に求められる多分野協業の視点について実習を交えながら学ぶ。	33人	100%	73%	
4	文化財担当者専門研修「層序学・堆積学・土壌学基礎課程」	9月26日～30日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	発掘調査に必要となる層序学・堆積学・土壌学の基礎的知識の習得を目指す研修。	23人	100%	95%	
5	文化財担当者専門研修「保存科学（材質・構造調査）課程」	10月11日～14日	4	地方公共団体の文化財担当職員※	無機質遺物の保存処理の際に実施する、主に非破壊的手法による材質・構造調査についての基礎的な研修。主にX線透過撮影による構造調査や蛍光X線分析による材質調査についての講義・実習を行う。	7人	100%	100%	
6	文化財担当者専門研修「保存科学（遺構・石造文化財）課程」	10月17日～21日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	本課程は土壌や石で構成される遺構を対象として、石の強化・撥水処理方法の実習を行うとともに、環境制御による遺構の保存法を習得することを目的として、遺構の劣化要因及び劣化の進行に対して環境が及ぼす影響について、環境調査の実習などを交えて学ぶ。	8人	100%	100%	
7	文化財担当者専門研修「中・近世瓦調査課程」	11月9日～11日	3	地方公共団体の文化財担当職員※	全国各地で実施されている中・近世の瓦研究の現状と最新成果を提供する。講義では実物を見ながらの講義を盛り込み、受講者の理解度を高めるよう努める。現代の瓦工房を見学し瓦の製作工程を理解してもらう。	19人	100%	86%	

8	文化財担当者専門研修「文化財写真課程」	11月21日 ～12月2日	9	地方公共団体の文化財担当職員※	文化財の記録保存と活用において中心的な役割を持つ写真記録について、必要不可欠な写真技術の基礎知識と、デジタル写真を中心とした実習による実技を習得する研修。	10人	100%	100%	
9	文化財担当者専門研修「報告書編集基礎課程」	12月5日 ～9日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	文化財調査記録に必要不可欠な報告書出版について、記述内容の意義や記述記録の基礎知識を習得する研修。	14人	100%	86%	
10	文化財担当者専門研修「報告書デジタル作成課程」	12月12日 ～16日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	報告書出版に必要な編集知識や図版制作について、デジタル技術を活用しながら出版物作成を行う実践的な技術を習得する研修。	10人	100%	100%	
11	文化財担当者専門研修「史跡等保存活用計画策定課程」	1月17日 ～23日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	史跡の保存活用計画書の策定演習を通して、計画書の事務局案作成を行う。ただし、目次建てのうち、「現状と課題」までは研修の事前課題として提出することを前提とする。	12人	100%	91%	
12	文化財担当者専門研修「文化的景観調査計画課程」	1月30日 ～2月3日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	文化的景観の保護にこれから取り組む担当者を対象に、文化的景観の概念、保護制度、調査手法及び保存計画立案等についての基礎知識を習得することを目的とする研修。	3人	100%	67%	
13	文化財担当者専門研修「文化財三次元計測入門課程」	1月17日 ～23日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	文化財の3次元計測の基礎と実技を習得する。具体的には主にフォトグラメトリを用いた3次元計測方法を知り、発掘調査現場や出土遺物の記録に応用できるようにする。また、開講地域が抱える3次元計測関係の課題があれば、これについて解決に向けた方法を検討する。	20人	100%	78%	
14	文化財担当者専門研修「（特別研修）文化財多言語化課程」	3月10日	1	地方公共団体の文化財担当職員※	英・中・韓を中心とした文化財多言語化の基本的な考え方や作業手順などについて学ぶオンライン研修	70人	－	－	オンライン 70人 （Zoom）

※地域の中核となる地方公共団体の文化財担当職員若しくはこれに準ずる者

2-(5)-② 文化財に関する協力・助言等

2-(5)-②-1 専門的・技術的な援助・助言の取組状況
（行政、公私立博物館等の各種委員等への就任件数、依頼事項への対応件数等）

令和5年3月31日現在

計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
488件	261件	227件

【東京文化財研究所】　261件

	プロジェクト名称	件数
1	文化財の収集、保管に関する指導助言	38件
2	無形文化遺産に関する助言	35件
3	文化財の虫菌害に関する調査・助言	47件
4	文化財の修復及び整備に関する調査・助言	64件
5	文化財の材質・構造に関する調査・助言	36件
6	美術館・博物館等の環境調査と援助・助言	41件

【奈良文化財研究所】　227件

	プロジェクト名称	件数
1	地方公共団体等が行う史跡の整備、復原事業等に関する技術的助言	187件
2	地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への援助・助言	13件
3	地方公共団体等が行う平城地区の発掘調査等への援助・助言	24件
4	地震・水害等により被災した文化財の復旧に関する調査研究	3件

※文化財活用センターの実績は、
令和4年度より1-(6)-④-1 文化財の保存等の相談・助言・支援に関わる取組状況へ集約する。

2-(5)-③　平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力

2-(5)-③-1　ボランティア受入実績　（後述の資料に記載）◎共通資料b

2-(5)-⑤　文化財等の防災・救援等への寄与

2-(5)-⑤-1　研究交流実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-①1）・3）

2-(5)-⑤-2　シンポジウム開催実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-④

2-(5)-⑤-3　ウェブサイトアクセス件数　（後述の資料に記載）◎共通資料d

2-(6) 文化財防災に関する取組

2-(6)-① 地域防災体制の構築

（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑥

2-(6)-①-1 防災・救援のための連携・協力体制構築への取組状況（都道府県内各種会議等参加数）

【本部文化財防災センター】53件

令和5年3月31日現在

	機関	内容	期間	担当者	備考
1	東松島市教育委員会	東松島市文化財保護審議会委員	4月1日～5年3月31日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	
2	東京大学大気海洋研究所	客員准教授	4月1日～5年3月31日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	
3	東北大学東北アジア研究センター	客員教授	4月1日～5年3月31日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	
4	東北工業大学	非常勤講師	4月1日～9月16日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	
5	八戸市教育委員会	八戸地方えんぶり調査委員会委員	4月28日～5年3月31日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	
6	大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立民族学博物館	人間文化研究機構基幹研究プロジェクト連携研究員（プロジェクト名:「横断的･融合的地域文化研究の領域展開:新たな社会の創発を目指して　国立民族学博物館ユニット」）	4月1日～5年3月31日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	
7	放送大学	「博物館資料保存論」教材作成協力	5年2月1日～5年3月31日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	
8	大学共同利用機関法人人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館	人間文化研究機構基幹研究プロジェクト連携研究員、国立歴史民俗博物館共同研究員（研究課題：ネットワーク型基幹研究プロジェクト「歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業」（代表者：三上喜孝））	6月1日～5年3月31日	文化財防災センター研究員　黄川田翔	
9	埼玉県教育局市町村支援部文化資源課	埼玉県立博物館等施設における収蔵資料防災マニュアル策定に係る指導	6月10日～5年3月31日	文化財防災センター研究員　黄川田翔	
10	山形県観光文化スポーツ部文化財活用課	文化財日常管理・防災ハンドブック（美術工芸品編）作成プロジェクトチーム	9月15日～5年3月31日	文化財防災センター研究員　後藤知美	
11	九州・山口ミュージアム連携事業	地域防災計画における文化財の位置づけに関する特徴と課題（佐賀県、熊本県）	6月1日	九州国立博物館学芸部文化財課長　白井克也、同学芸部博物館科学課研究員　渡邊祐基、文化財防災センター主任研究員　鷲頭桂	
12	京都文化財防災対策等連絡会（京都府内12機関）	京都文化財防災対策等連絡会出席	6月14日、11月15日、5年3月16日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介、同研究員　中島志保、京都国立博物館学芸部長　尾野善裕、同学芸部保存科学室長　降幡順子	
13	文化庁	「文化庁記念物保護行政担当者会議」講師	6月14日	文化財防災センター研究員　中島志保	
14	一般社団法人文化財保存修復学会	公開シンポジウム「これからの文化財防災を考える―熊本地震と令和2年7月豪雨の経験から」事例報告	6月17日	文化財防災センター長　高妻洋成、同文化財防災統括リーダー　小谷竜介	
15	天理大学	専門教育科目「民俗学と現代社会」講師	7月14日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	
16	文化庁	文化財修理センター（仮称）の在り方に関する実務者会議	7月22日	文化財防災センター長　高妻洋成	
17	福島県教育庁文化財課	令和4年度「文化財に係る災害時の相互応援に関する協定」連絡会議	7月26日	文化財防災センター研究員　後藤	
18	福岡県建築士会	歴史的建造物の被害調査に関するヒアリング	8月16日	文化財防災センター長　高妻洋成、同文化財防災統括リーダー　小谷竜介、同研究員　中島志保、同主任研究員　鷲頭桂、九州国立博物館副館長　小泉惠英、同学芸部博物館科学課長　木川りか	
19	立命館大学歴史都市防災研究所	立命館大学ユネスコ・チェア「文化遺産と危機管理」国際研修講師	9月19日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	
20	九州・山口ミュージアム連携事業	地域防災計画における文化財の位置づけに関する特徴と課題（大分県、宮崎県）	9月29日	九州国立博物館学芸部長　河野一隆、同博物館科学課長　木川りか、文化財防災センター主任研究員　鷲頭桂	

21	山形県観光文化スポーツ部文化財活用課	文化財日常管理・防災ハンドブック（美術工芸品編）作成プロジェクトチーム第1回編集会議	9月30日	文化財防災センター研究員　後藤知美	
22	文化庁	文化財建造物保存修理関係者等連絡協議会	10月17日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介、同アソシエイトフェロー　山野善紀	
23	福岡市美術館	被災美術工芸品の初期処置および災害発生時の被災情報収集についてのヒアリング	10月27日	文化財防災センター主任研究員　鷲頭桂	
24	文化庁	文化財行政講座講師	11月10日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	
25	埼玉県教育局文化資源課	非常災害に備えた県ならびに県内文化財防災体制の強化に向けた助言	11月24日	文化財防災センター研究員　黄川田翔	
26	公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所	文化遺産に関わる国際会議「アジア太平洋地域における文化財防災の現状と課題（Ⅱ）―災害後の復旧・復興の事例と課題―」	12月21日、22日	文化財防災センター長　高妻洋成、同文化財防災統括リーダー　小谷竜介、同研究員　中島志保	
27	文化庁	「令和4年度AIを利用した文化財建造物の見守りシステムの調査研究」委託に係る技術審査専門員	書面開催	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	
28	鹿児島県立埋蔵文化財センター	埋蔵文化財技術研修講座講師	5年1月19日	文化財防災センター長　高妻洋成、同研究員　中島志保、九州国立博物館副館長　小泉惠英	
29	奈良市消防局	「第22回文化財防災ゼミナール」講師	5年1月27日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	
30	岩手県立博物館	「文化遺産防災マップ運用講習会」講師	5年1月27日	文化財防災センター研究員　中島志保	
31	九州・山口ミュージアム連携事業	九州・山口ミュージアム連携事業第27回課長会議	5年1月31日	文化財防災センター主任研究員　鷲頭桂	
32	東南アジア教育大臣機構・考古学・美術センター	研修「第3回ワークショップ：東南アジア諸国における災害リスクと文化遺産への影響に関する意識向上」講師	5年2月20日～2月24日	文化財防災センター主任研究員　鷲頭桂	
33	岩手県立博物館、陸前高田市教育委員会	岩手県指定文化財「旧吉田家住宅」再建事業に係る指導、助言	5年2月8日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	
34	東北大学災害科学国際研究所	緊急時の文化遺産のファーストエイド日本語版発表記念シンポジウム「文化遺産とレジリエンス 災害後の文化遺産保全活動の世界的動向から学ぶ」コメンテーター	5年2月12日	文化財防災センター長　高妻洋成、同文化財防災統括リーダー　小谷竜介	
35	福岡市文化財活用課	文化財防災マニュアル策定にかかる助言	5年3月1日～3月31日	文化財防災センター主任研究員　鷲頭桂	
36	山形県観光文化スポーツ部文化財活用課	文化財日常管理・防災ハンドブック（美術工芸品編）作成プロジェクトチーム第2回編集会議	5年3月15日	文化財防災センター研究員　後藤知美	
37	群馬県文化財保護課	群馬県文化財防災ネットワーク連携協議会設立に係る打合せ会議	5年3月17日	文化財防災センター研究員　黄川田翔	
38	徳島県文化資源活用課	「令和4年度第2回埋蔵文化財担当専門職員等研修会」講師	5年3月24日	文化財防災センター研究員　中島志保	web開催
39	岡山史料ネット	「岡山史料ネットNewsletter Vol.9」への寄稿	5年3月31日	文化財防災センター研究員　中島志保	
40	新潟県佐渡市	被災文化財現地調査・助言(3年11月火災)	6月14日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介、文化財防災センター研究員　黄川田翔	
41	福島県南相馬市	被災文化財現地調査・助言（4年3月16日発生福島県沖を震源とする地震）	4月6日	文化財防災センター長　高妻洋成、同副センター長　建石徹、同研究員　後藤知美	
		被災文化財現地調査・助言（4年3月16日発生福島県沖を震源とする地震）	7月22日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介、同研究員　後藤知美	
42	福島県相馬市	被災文化財現地調査・助言（4年3月16日発生福島県沖を震源とする地震）	4月6日、4月7日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介、同研究員　水谷悦子	

43	福島県伊達市	被災文化財現地調査・助言（4年3月16日発生福島県沖を震源とする地震）	4月13日	文化財防災センター長　高妻洋成、同副センター長　建石徹、同研究員　後藤知美	
		被災文化財現地調査・助言（4年3月16日発生福島県沖を震源とする地震）	7月28日	文化財防災センター長　高妻洋成、同副センター長　建石徹、同研究員　後藤知美、東京文化財研究所保存科学研究センター収集福技術研究室研究員　芳賀文絵	
		被災文化財現地調査・助言（4年3月16日発生福島県沖を震源とする地震）	10月24日	文化財防災センター長　高妻洋成、同副センター長　建石徹	
		被災文化財現地調査・助言（4年3月16日発生福島県沖を震源とする地震）	5年2月13日	文化財防災センター研究員後藤知美、奈良文化財研究所埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長　脇谷草一郎	
44	福島県西白河郡矢吹町	被災文化財現地調査・助言（4年3月16日発生福島県沖を震源とする地震）	9月7日	文化財防災センター副センター長　建石徹、同研究員水谷悦子	
45	宮城県角田市	被災文化財現地調査・助言（4年3月16日発生福島県沖を震源とする地震）	5月14日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介、同研究員　後藤知美	
46	岩手県奥州市	被災文化財現地調査・助言（4年3月16日発生福島県沖を震源とする地震）	6月11日、12日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	
47	宮城県伊具郡丸森町	被災文化財現地調査・助言（4年3月16日発生福島県沖を震源とする地震）	6月21日	文化財防災センター長　高妻洋成、同研究員　水谷悦子	
48	石川県珠洲市・鳳珠郡能登町	被災文化財現地調査・助言（4年6月19日発生能登半島を震源とする地震）	6月21日、22日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介、同研究員　中屋菜緒	
49	石川県珠洲市	被災文化財現地調査・助言（4年6月19日発生能登半島を震源とする地震）	9月6日	文化財防災センター研究員後藤知美	
50	群馬県みどり市	博物館収蔵庫設備事故現地調査	6月28日	文化財防災センター副センター長　建石徹、同研究員黄川田翔、文化財活用センター保存担当研究員　間渕創	
51	新潟県東蒲原郡阿賀町	被災文化財現地調査・助言（8月大雨）	8月30日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	
52	香川県坂出市	被災文化財現地調査・助言（9月火災）	9月28日	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	
53	東京都青梅市	焼損資料処置（3年2月火災）	10月15日、16日	文化財防災センター研究員上椙 英之	

2-(6)-③ レスキュー及び収蔵・展示における技術開発

2-(6)-③-1 文化財防災に関する技術開発への取組状況（論文等数、報告書等の刊行数）

（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑤,⑥

2-(6)-④ 文化財防災を促進するための普及啓発

2-(6)-④-1 文化財防災に関するシンポジウムの開催件数

（後述の資料に記載）◎共通資料c-④

2-(6)-④-2 文化財防災に関する講演会・研修会等の開催件数

【文化財防災センター】3件

令和5年3月31日現在

	開催日	事業名称	開催場所	参加者数	備考
1	11月2日	研修「水損書画の初期処置ワークショップ」	奈良文化財研究所　研修用実験室	6人	
2	12月16日	研修「一時保管場所におけるゾーニングワークショップ」	東京文化財研究所　地下会議室	12人	共催：東京文化財研究所
3	5年1月19日	文化財防火デーイベント「京都における文化財防災ネットワークの構築を目指して」	京都国立博物館　講堂	（会場）40名 （YouTubeアーカイブ配信視聴数）298回	主催：文化財防災センター、京都国立博物館、京都府教育委員会、京都市

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 業務改善の取組

1-(5)一般管理費の削減

1-(5)-① 施設の有効利用件数

令和5年3月31日現在

○件数

（単位：件）

		国立文化財機構計	博物館					文化財研究所		
			計	東京国立博物館※1	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
合 計	総件数	1,147	836	591	172	54	19	311	196	115
	うち有償	786	765	589	150	22	4	21	1	20
	うち無償	361	71	2	22	32	15	290	195	95
茶室	総件数	66	66	35	24	5	2			
	うち有償	65	65	35	24	4	2			
	うち無償	1	1	0	0	1	0			
講堂等（講堂、会議室、研修室）	総件数	415	116	71	33	11	1	299	195	104
	うち有償	111	97	69	18	9	1	14	0	14
	うち無償	304	19	2	15	2	0	285	195	90
その他（左記以外の建物、敷地）	総件数	66	54	28	15	11	0	12	1	11
	うち有償	52	45	28	11	6	0	7	1	6
	うち無償	14	9	0	4	5	0	5	0	5
撮影利用	総件数	600	600	457	100	27	16	0	0	0
	うち有償	558	558	457	97	3	1	0	0	0
	うち無償	42	42	0	3	24	15	0	0	0

※1 東博の貸出し件数については3年度以前は施設ごと、利用日ごとにカウントしていたが、4年度より申込件数にカウント方法を変更した。

○有償利用の利用金額

（単位：千円）

	国立文化財機構計	博物館					文化財研究所		
		計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
合 計	149,404	145,937	118,089	26,594	1,212	42	3,467	3,047	420
茶室	5,227	5,227	4,150	1,056	12	9			
講堂等（講堂、会議室、研修室）	11,979	11,725	10,249	1,107	342	27	254	0	254
その他（左記以外の建物、敷地）	95,417	92,204	69,517	21,935	752	0	3,213	3,047	166
撮影利用	36,781	36,781	34,173	2,496	106	6	0	0	0

※アジア太平洋無形文化遺産研究センターは、堺市博物館の施設の一部を使用しているため、外部利用は行っていない。

◎共通資料
a 展示

a-① 来館者数推移（入館料別）（過去5か年）

令和5年3月31日現在

年度				30	元	2	3	4
国立文化財機構	総来館者数			3,977,125	4,358,044	858,177	1,483,715	2,367,419
	平常展	計		1,706,401	1,753,198	344,392	432,362	1,084,003
		有料	一般	747,422	713,037	132,915	148,848	421,461
			大学生	73,196	66,176	14,005	19,183	50,978
			小・中・高生	0	0	0	0	0
			友の会	192,482	189,313	53,579	59,980	105,391
		無料	一般(黒田含む)	116,321	78,584	33,306	36,650	61,944
			小・中・高・大生	204,691	193,984	24,623	43,070	153,707
		招待者等		372,289	512,104	85,964	124,631	290,522
	特別展	計		2,270,724	2,604,846	513,785	1,051,353	1,283,416
		有料	一般	1,510,156	1,721,359	362,251	744,781	883,370
			高・大生	112,381	91,077	25,289	69,675	78,434
			小・中生	22,558	26,793	2,715	7,641	15,348
			友の会	22,245	20,405	4,834	13,341	17,731
		無料	小・中生・一般	91,328	94,201	32,499	37,937	47,965
		招待者等		512,056	651,011	86,197	177,978	240,568
東京国立博物館	総来館者数			2,142,960	2,588,632	375,575	836,720	1,247,750
	平常展	計		989,508	1,030,652	166,639	211,052	625,235
		有料	一般	478,770	435,389	65,236	79,707	284,486
			大学生	43,486	37,542	7,137	10,788	35,338
			小・中・高生	—	—	—	—	—
			友の会	172,646	170,236	46,389	50,122	91,518
		無料	高校生	27,701	21,911	3,183	5,627	27,055
			小・中生	66,933	62,703	8,519	10,336	44,843
		招待者等		145,696	258,794	22,290	35,990	107,072
		黒田記念館(無料)		54,276	44,077	13,885	18,482	34,923
	特別展	計		1,153,452	1,557,980	208,936	625,668	622,515
		有料	一般	764,691	1,038,356	158,484	471,946	454,781
			高・大生	54,270	51,783	11,591	45,712	41,527
			小・中生	—	—	—	—	—
			友の会	1,988	1,642	760	949	1,073
		無料	小・中生	37,968	37,024	5,244	18,264	18,822
		招待者等		294,535	429,175	32,857	88,797	106,312
京都国立博物館	総来館者数			477,884	376,061	170,494	132,793	245,489
	平常展	計		146,314	158,664	18,941	35,440	56,369
		有料	一般	87,013	95,014	8,525	17,911	32,398
			大学生	13,028	12,370	779	1,965	3,463
			友の会	7,058	6,552	1,562	2,268	2,187
		無料	小・中・高生	14,608	14,943	862	2,548	3,630
		招待者等		24,607	29,785	7,213	10,748	14,691
	庭園開放	計		11,168	13,908	9,932	5,851	12,081
		有料	一般	6,114	7,688	5,383	2,468	5,952
			大学生	—	—	572	357	934
			友の会	196	256	505	73	126
		無料	大学生	362	689	—	—	—
			小・中・高生	1,638	1,815	588	624	1,663
		招待者等		2,858	3,460	2,884	2,329	3,406
	特別展	計		320,402	203,489	141,621	91,502	177,039
		有料	一般	227,508	130,145	105,811	59,367	119,115
			高・大生	29,472	10,227	7,327	7,530	12,107
			友の会	3,166	3,291	1,175	372	1,796
		無料	小・中生	10,023	6,240	1,547	2,517	5,469
		招待者等		50,233	53,586	25,761	21,716	38,552
奈良国立博物館	総来館者数			527,786	612,755	122,452	253,196	279,613
	平常展	計		140,829	160,869	43,262	52,178	116,116
		有料	一般	63,675	75,109	17,695	18,185	46,685
			大学生	6,534	7,981	1,251	1,213	3,824
			小・中・高生	0	0	0	0	0
			友の会	3,196	3,414	3,062	4,258	6,262
		無料	小・中・高生	28,492	34,407	5,876	11,722	29,321
		招待者等		38,932	39,958	15,378	16,800	30,024
	特別展	計		386,957	451,886	79,190	201,018	163,497
		有料	一般	284,723	342,015	57,939	143,001	115,389
			高・大生	15,684	14,385	4,199	11,537	9,261
			小・中生	13,443	11,045	1,497	4,718	4,404
			友の会	3,901	2,970	1,278	6,245	5,454
		無料	小・中生	269	0	595	762	0
		招待者等		68,937	81,471	13,682	34,755	28,989
九州国立博物館	総来館者数			700,391	674,277	131,662	213,153	523,200
	平常展	計		349,114	348,563	81,230	104,898	239,282
		有料	一般	109,272	97,786	33,727	28,407	48,537
			大学生	9,950	8,068	4,181	4,761	7,092
			小・中・高生	—	—	—	—	—
			友の会	9,386	8,855	2,061	3,259	5,298
		無料	高校生	28,868	24,056	1,441	5,416	20,998
			小・中生	34,730	32,905	3,537	6,187	24,912
		招待者等		156,908	176,893	36,283	56,868	132,445
	特別展	計		351,277	325,714	50,432	108,255	283,918
		有料	一般	226,615	205,067	35,721	66,458	187,329
			高・大生	12,369	14,180	1,883	4,596	15,040
			小・中生	9,115	15,748	1,218	2,923	10,944
			友の会	13,190	12,502	1,621	5,775	9,408
		招待者等		89,988	78,217	9,989	28,503	61,197
平城宮跡資料館	総来館者数			90,558	71,408	37,913	25,264	39,515
	平常展	無料	一般	53,775	26,562	15,004	12,942	19,888
	特別展	無料	一般	36,783	44,846	22,909	12,322	19,627
藤原宮跡資料館	総来館者数			8,270	7,945	4,417	5,226	7,133
	平常展	無料	一般	8,270	7,945	4,417	5,226	7,133
飛鳥資料館	総来館者数			29,276	26,966	15,664	17,363	24,719
	平常展	計		7,423	6,035	4,967	4,775	7,899
		有料	一般	2,578	2,051	2,349	2,170	3,403
			大学生	198	215	85	99	327
		無料	小・中・高生	1,359	555	617	610	1,285
		招待者等		3,288	3,214	1,916	1,896	2,884
	特別展	計		21,853	20,931	10,697	12,588	16,820
		有料	一般	6,619	5,776	4,296	4,009	6,756
			大学生	586	502	289	300	499
		無料	小・中・高生	6,285	6,091	2,204	4,072	4,047
		招待者等		8,363	8,562	3,908	4,207	5,518

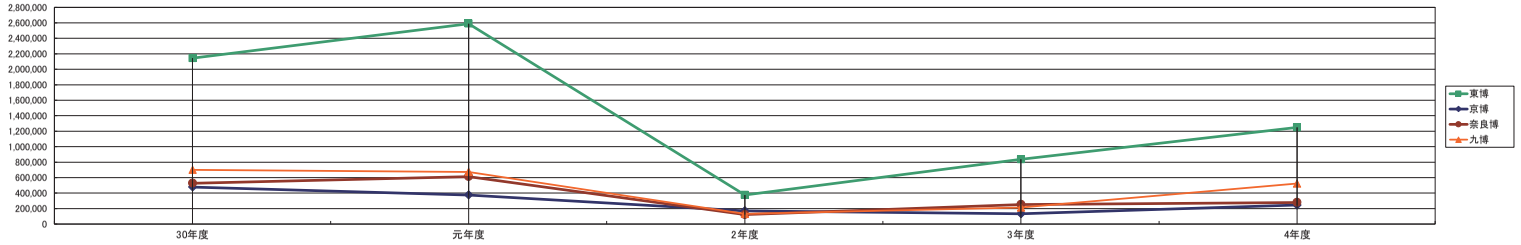
※飛鳥資料館特別展有料高校生入場者数は、ｷﾄﾗ公開(25)のみ有料(大学生)に含み、それ以外は無料(小・中・高生)に含む。
※京都国立博物館における平常展、庭園開放については高校生以下の区別せず。
※京都国立博物館における庭園開放は、平常展に含む。

来館者数推移(展覧会別)(過去5か年)

国立文化財機構　合計

	30年度		元年度		2年度		3年度		4年度	
合計	総　　計	3,977,125	総　　計	4,358,044	総　　計	658,177	総　　計	1,483,715	総　　計	2,367,419
	平常展のみの来館者	1,706,401	平常展のみの来館者	1,753,198	平常展のみの来館者	344,392	平常展のみの来館者	432,362	平常展のみの来館者	1,084,003
	特別(共催)展計	2,270,724	特別(共催)展計	2,604,846	特別(共催)展計	513,765	特別(共催)展計	1,051,353	特別(共催)展計	1,283,416

1) 国立博物館

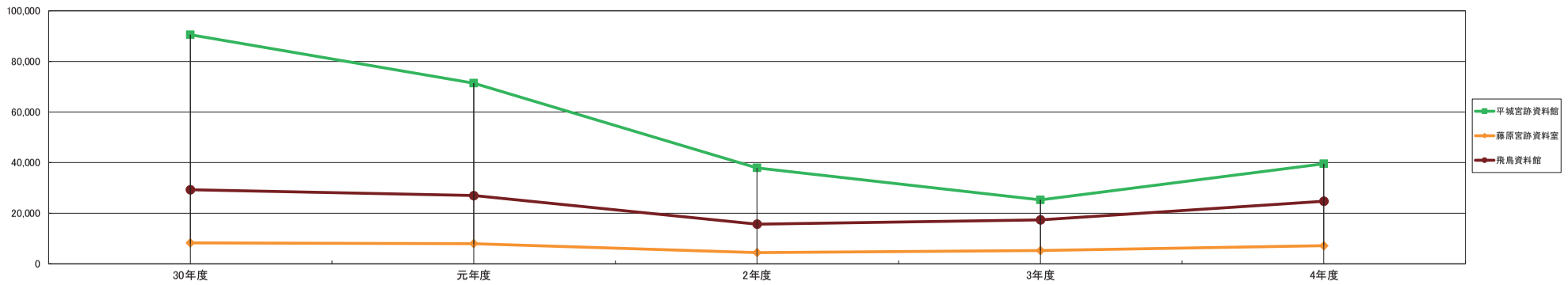


	30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
計	総　　計	3,849,021	総　　計	4,251,725	総　　計	800,183	総　　計	1,435,882	総　　計	2,296,052
	平常展のみの来館者	1,636,933	平常展のみの来館者	1,712,858	平常展のみの来館者	320,004	平常展のみの来館者	409,419	平常展のみの来館者	1,040,083
	特別（共催）展計	2,212,088	特別（共催）展計	2,539,069	特別（共催）展計	480,179	特別（共催）展計	1,026,443	特別（共催）展計	1,255,969
東博	総計(黒田記念館含む)	2,142,960	総計(黒田記念館含む)	2,588,632	総計(黒田記念館含む)	375,575	総計(黒田記念館含む)	836,720	総計(黒田記念館含む)	1,247,750
	平常展のみの来館者(黒田記念館含む)	989,508	平常展のみの来館者(黒田記念館含む)	1,030,652	平常展のみの来館者(黒田記念館含む)	166,639	平常展のみの来館者(黒田記念館含む)	211,052	平常展のみの来館者(黒田記念館含む)	625,235
	特別（共催）展計	1,153,452	特別（共催）展計	1,557,980	特別（共催）展計	208,936	特別（共催）展計	625,668	特別（共催）展計	622,515
	「アラビアの道―サウジアラビア王国の至宝」	67,263	特別展　御即位30年記念「両陛下と文化交流―日本美を伝える―」	74,424	ユネスコ無形文化遺産「体感！日本の伝統芸能―歌舞伎・文楽・能楽・雅楽・組踊の世界―」	中止	特別展「国宝　鳥獣戯画のすべて」	129,349	特別展「ポンペイ」	13,581
	創刊記念『国華』130周年・朝日新聞140周年　特別展「名作誕生―つながる日本美術」	173,995	特別展「国宝　東寺―空海と仏像曼荼羅」	430,511	特別展「法隆寺金堂壁画と百済観音」	中止	特別展「聖林寺十一面観音―三輪山信仰のみほとけ」	59,125	特別展「空也上人と六波羅蜜寺」	100,493
	特別展「縄文―1万年の美の鼓動」	354,259	特別展「美を紡ぐ　日本美術の名品－雪舟、永徳から光琳、北斎まで－」	106,593	特別展「きもの　KIMONO」	91,830	東京2020オリンピック・パラリンピック開催記念特別展「スポーツNippon」	※1(22,735)	沖縄復帰50年記念特別展「琉球」	90,395
	特別展「京都　大報恩寺　快慶・定慶のみほとけ」	197,004	特別企画「奈良大和四寺のみほとけ」	※1(330,598)	特別展「聖林寺十一面観音―三輪山信仰のみほとけ」	延期	日中韓国立博物館共同企画特別展「東アジアのうるし世界」	中止	日中国交正常化50周年記念　特別デジタル展「故宮の世界」	27,839
	東京国立博物館・フィラデルフィア美術館交流企画特別展「マルセル・デュシャンと日本美術」	80,191	日中文化交流協定締結40周年記念　特別展「三国志」	337,639	東京2020オリンピック・パラリンピック開催記念特別展「スポーツNippon」	延期	マレーシア・イスラーム美術館精選「イスラーム王朝とムスリムの世界」	※1(125,463)	東京国立博物館創立150年記念　特別展「国宝　東京国立博物館のすべて」	351,153
	日中平和友好条約締結40周年記念特別企画「中国近代絵画の巨匠　斉白石」	※1(62,405)	住友財団修復助成30周年記念「文化財よ、永遠に」	※1(138,502)	日中韓国立博物館共同企画特別展「東アジアのうるし世界」	延期	聖徳太子１４００年遠忌記念 特別展「聖徳太子と法隆寺」	69,640	東京国立博物館創立150年記念　特別企画「未来の博物館」	※1(150,296)
	顔真卿　王羲之を超えた名筆	198,920	御即位記念特別展「正倉院の世界－皇室がまもり伝えた美－」	362,076	特別展「国宝　鳥獣戯画のすべて」	延期	「春夏秋冬／フォーシーズンズ　乃木坂46」	58,461	特別企画「大安寺の仏像」	※1(177,515)
	特別展　御即位30年記念　両陛下と文化交流　―日本美を伝える―」	48,340	特別展「人、神、自然―アール・ザーニ コレクションの名品が語る古代世界―」	※1(139,737)	特別展「工藝2020―日本の工藝と自然―」	13,851	伝教大師１２００年大遠忌記念 特別展「最澄と天台宗のすべて」	63,977	「150年後の国宝展―ワタシの宝物、ミライの宝物」	※1(178,525)
	特別展「国宝 東寺―空海と仏像曼荼羅」	33,480	特別公開「高御座と御帳台」	110,484 ※2(204,801)	特別展「桃山―天下人の100年」	82,808	特別展「ポンペイ」	184,119	特別展「東福寺」	39,054
			日本書紀成立1300年　特別展「出雲と大和」	136,054	特別展「日本のたてもの―自然素材を伝統技術に活かす知恵」	20,447	ユネスコ無形文化遺産「体感！日本の伝統芸能―歌舞伎・文楽・能楽・雅楽・組踊の世界―」	15,405		
			特別展「法隆寺金堂壁画と百済観音」	199 （報道内覧会のみ）	特別展「ジパング　世界と出会った日本の美」	中止	特別企画「手わざ―琉球王国の文化」	※1(27,440)		
			ユネスコ無形文化遺産　特別展「体感！ 日本の伝統芸能―歌舞伎・文楽・能楽・雅楽・組踊の世界―」	中止	日本美術の魅力（在外古美術品保存修復協力事業による修復作品里帰り展）	延期	特別展「空也上人と六波羅蜜寺」	45,592		
京博	総　　計	477,884	総　　計	376,061	総　　計	170,494	総　　計	132,793	総　　計	245,489
	平常展のみの来館者	146,314	平常展のみの来館者	158,664	平常展のみの来館者	18,941	平常展のみの来館者	35,440	平常展のみの来館者	56,369
	庭園のみ（全館閉館期、庭園のみ開放）	11,168	庭園のみ（全館閉館期、庭園のみ開放）	13,908	庭園のみ（全館閉館期、庭園のみ開放）	9,932	庭園のみ（全館閉館期、庭園のみ開放）	5,851	庭園のみ（全館閉館期、庭園のみ開放）	12,081
	平常展のみ+庭園のみ	157,482	平常展のみ+庭園のみ	172,572	平常展のみ+庭園のみ	28,873	平常展のみ+庭園のみ	41,291	平常展のみ+庭園のみ	68,450
	特別（共催）展計	320,402	特別（共催）展計	203,489	特別（共催）展計	141,621	特別（共催）展計	91,502	特別（共催）展計	177,039
	特別展「池大雅―天衣無縫の旅の画家―」	67,399	特別展　時宗二祖上人七百年御遠忌記念「国宝－遍聖絵と時宗の名宝」	66,678	西国三十三所 草創1300年記念 特別展「聖地をたずねて―西国三十三所の信仰と至宝―」（※今夏に延期）	52,164	凝然国師没後七百年特別展「鑑真和上と戒律のあゆみ」	14,655	伝教大師1200年大遠忌記念特別展「最澄と天台宗のすべて」	43,235
	特別展「京のかたな―匠のわざと雅のこころ―」	253,003	特別展「流転100年　佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」	136,811	御即位記念　特別展「皇室の名宝」	85,315	特別展「京（みやこ）の国宝―守り伝える日本のたから―」	37,065	特別展「河内長野の霊地 観心寺と金剛寺―真言密教と南朝の遺産―」	28,211
					凝然国師没後七百年特別展「鑑真和上と戒律のあゆみ」	4,142	特別展「畠山記念館の名品－能楽から茶の湯、そして琳派－」	39,782	特別展「京（みやこ）に生きる文化　茶の湯」	91,675
									親鸞聖人生誕850年 特別展「親鸞　生涯と名宝」	13,918
奈良博	総　　計	527,786	総　　計	612,755	総　　計	122,452	総　　計	253,196	総　　計	279,613
	平常展のみの来館者	140,829	平常展のみの来館者	160,869	平常展のみの来館者	43,262	平常展のみの来館者	52,178	平常展のみの来館者	116,116
	特別（共催）展計	386,957	特別（共催）展計	451,886	特別（共催）展計	79,190	特別（共催）展計	201,018	特別（共催）展計	163,497
	創建1250年記念特別展「国宝 春日大社のすべて」	95,950	国宝の殿堂　藤田美術館展	158,078	御大典記念特別展「よみがえる正倉院宝物―再現模造にみる天平の技―」（※今夏に延期）	42,846	聖徳太子1400年遠忌記念 特別展「聖徳太子と法隆寺」	44,233	特別展「大安寺のすべて―天平のみほとけと祈り―」	32,971
	修理完成記念特別展「糸のみほとけ　―国宝 綴織當麻曼荼羅と繡仏」	45,175	特別展　御即位記念　第71回正倉院展	277,133	仏教美術名品展	延期	特別展「奈良博三昧―至高の仏教美術コレクション―」	34,659	貞享本當麻曼荼羅修理完成記念　特別展「中将姫と當麻曼荼羅―祈りが紡ぐ物語―」	19,966
	特別展 第70回正倉院展	245,832	特別展　毘沙門天―北方鎮護のカミ―	16,675	特別展 第72回正倉院展	36,344	特別展 第73回正倉院展	73,968	第74回正倉院展	87,672
					特別展「国宝　聖林寺十一面観音―三輪山信仰のみほとけ」	延期	特別展「名画の殿堂　藤田美術館展」	13,773	式年造替記念特別展「春日大社　若宮国宝展－祈りの王朝文化－」	22,888
							特別展「国宝　聖林寺十一面観音―三輪山信仰のみほとけ」	34,385		
九博	総　　計	700,391	総　　計	674,277	総　　計	131,662	総　　計	213,153	総　　計	523,200
	平常展のみの来館者	349,114	平常展のみの来館者	348,563	平常展のみの来館者	81,230	平常展のみの来館者	104,898	平常展のみの来館者	239,282
	特別（共催）展計	351,277	特別（共催）展計	325,714	特別（共催）展計	50,432	特別（共催）展計	108,255	特別（共催）展計	283,918
	特別展「王羲之と日本の書」	14,971	特別展「京都　大報恩寺　快慶・定慶のみほとけ」	53,524	特別展「ライデン国立古代博物館所蔵　古代エジプト展」	中止	御大典記念特別展「よみがえる正倉院宝物―再現模造にみる天平の技―」	18,157	特別展「北斎」	135,955
	特別展「至上の印象派展　ビュールレ・コレクション」	198,489	特別展「室町将軍―戦乱と美の足利十五代」	86,399	開館15周年記念特別展「海幸山幸―祈りと恵みの風景―」	延期	特別展「皇室の名宝―皇室と九州をむすぶ美―」	43,197	特別展「琉球」	41,054
	明治150年記念　特別展「オークラコレクション」	63,069	特別展「三国志」	140,155	開館15周年記念特別展「加耶」	中止	開館15周年記念特別展「海幸山幸―祈りと恵みの風景―」	17,383	特別展「ポンペイ」	79,919
	特別展「京都・醍醐寺―真言密教の宇宙―」	74,748	特別展「ルネ・ユイのまなざし　フランス絵画の精華　大様式の形成と変容」	45,636	特別展「奈良・中宮寺の国宝」	50,432	伝教大師1200年大遠忌記念 特別展「最澄と天台宗のすべて」	29,518	特別展「加耶」	26,990

※1　この特別展は、平常展料金のため、平常展のみの来館者に計上
※2　()内の数値は、総合文化展や同時期開催の特別展チケットによる来場者を含んだ数値。

来館者数推移(展覧会別)(過去5か年)

2) 研究成果公開施設



	30年度		元年度		2年度		3年度		4年度	
計	**総　合　計**	**128,104**	**総　合　計**	**106,319**	**総　合　計**	**57,994**	**総　合　計**	**47,853**	**総　合　計**	**71,367**
	平常展のみの来館者	**69,468**	**平常展のみの来館者**	**40,542**	**平常展のみの来館者**	**24,388**	**平常展のみの来館者**	**22,943**	**平常展のみの来館者**	**34,920**
	特別（共催）展計	**58,636**	**特別（共催）展計**	**65,777**	**特別（共催）展計**	**33,606**	**特別（共催）展計**	**24,910**	**特別（共催）展計**	**36,447**
平城宮跡資料館	総　計	90,558	総　計	71,408	総　計	37,913	総　計	25,264	総　計	39,515
	平常展のみの来館者	53,775	平常展のみの来館者	26,562	平常展のみの来館者	15,004	平常展のみの来館者	12,942	平常展のみの来館者	19,888
	特別（共催）展計	36,783	特別（共催）展計	44,846	特別（共催）展計	22,909	特別（共催）展計	12,322	特別（共催）展計	19,627
	ロビー展示「震災復興調査とその支援」（26.3.12より継続展示）	※1 －	ロビー展示「震災復興調査とその支援」（26.3.12より継続展示）	※1 －	ロビー展示「震災復興調査とその支援」（26.3.12より継続展示）	※1 －	ロビー展示「震災復興調査とその支援」（26.3.12より継続展示）	※1 －	春期特別企画展　平城宮跡史跡指定100周年記念・奈良文化財研究所70周年記念「未来につなぐ平城宮跡－保存運動のあけぼの－」	7,893
	夏のこども展示　「たいけん！なぶんけん —平城宮の考古学—」	9,205	平城宮跡資料館2019年度特別展「高御座」	14,456	ミニ展示「古代のいのり—疫病退散！」	2,846	春期特別企画展「平城宮跡保存運動のさきがけ -大極殿標木建設式一二〇周年-」/「大地鳴動 －大地の知らせる危機と私たちの生活－」展	688	夏期企画展「大地鳴動－大地の知らせる危機と私たちの生活－」展	4,106
	秋期特別展「地下の正倉院展－荷札木簡をひもとく－」	15,853	夏のこども展示「ならのみやこのしょくぶつえん」	9,162	夏期企画展「奈良の都の考古学—発掘された平城2019」「古代のいのり—疫病退散！」	3,968	夏期企画展「奈良を測る　—森羅の庭園研究と作庭—」	1,157	秋期特別展①奈良文化財研究所70周年 平城宮跡史跡指定100周年記念 平城宮跡資料館 令和4年度 秋期特別展「地下の正倉院展－平城木簡年代記〔クロニクル〕－」	7,628
	平城宮跡資料館　冬季企画展「発掘された平城2017・2018」	11,725	秋期特別展「地下の正倉院展-年号と木簡-」	13,257	秋季特別展「地下の正倉院展」	14,670	秋季特別展「地下の正倉院展」	6,310	秋期特別展②奈良文化財研究所70周年 平城宮跡史跡指定100周年記念　特別展「のこった奇跡 のこした軌跡－未来につなぐ平城宮跡－」	※2 (36,339)
			平城宮跡資料館新春ミニ展示「平城京の子」	4,456	平城宮跡資料館新春ミニ展示「平城宮の丑」	1,425	企画展「発掘された平城2020・2021」	4,167		
			平城宮跡資料館「発掘された平常2019」	3,515	平城宮跡歴史公園第一次大極殿院南門復元整備工事記念特別展「鬼神乱舞-護る・祓う・鬼瓦の世界-」	※2 31,530				
藤原宮跡資料室	総　計	8,270	総　計	7,945	総　計	4,417	総　計	5,226	総　計	7,133
	平常展のみの来館者	8,270	平常展のみの来館者	7,945	平常展のみの来館者	4,417	平常展のみの来館者	5,226	平常展のみの来館者	7,133
	特別（共催）展計	0	特別（共催）展計	0	特別（共催）展計	0	特別（共催）展計	0	特別（共催）展計	0
飛鳥資料館	総　計	29,276	総　計	26,966	総　計	15,664	総　計	17,363	総　計	24,719
	平常展のみの来館者	7,423	平常展のみの来館者	6,035	平常展のみの来館者	4,967	平常展のみの来館者	4,775	平常展のみの来館者	7,899
	特別（共催）展計	21,853	特別（共催）展計	20,931	特別（共催）展計	10,697	特別（共催）展計	12,588	特別（共催）展計	16,820
	春期特別展「あすかの原風景」	8,816	春期特別展「骨ものがたり—環境考古学研究室のお仕事」	10,024	奈良国立博物館・奈良文化財研究所 合同企画 夏期特別展「日本人と古代仏教—仏教徒文字文化の考古学」	中止	ミニ展示「新収蔵品紹介－呉と書かれた瓦－」	535	ミニ展示「飛鳥資料館に寄贈された瓦－瓦の花咲く飛鳥資料館－」	3,268
	夏期企画展　飛鳥資料館第9回写真コンテスト作品展「飛鳥のいきもの」	2,428	夏期企画展飛鳥資料館第10回写真コンテスト作品展「飛鳥の古墳」	3,070	特別展「飛鳥の石造文化と石工」	3,212	夏期企画展　飛鳥資料館第12回写真コンテスト「飛鳥の木」	2,112	夏期企画展　飛鳥資料館第13回写真コンテスト「高松塚古墳」	2,912
	秋期特別展「よみがえる飛鳥の工房－日韓の技術交流を探る」	7,492	秋期特別展「飛鳥－自然と人と－」	6,506	秋期企画展　飛鳥資料館第11回写真コンテスト作品展「飛鳥の祭」	5,114	秋期特別展「「屋根を彩る草花　－飛鳥の軒瓦とその文様」	7,353	秋期特別展「飛鳥美人　高松塚古墳の魅力 」	7,280
	冬期企画展「飛鳥の考古学2018」	3,117	冬期企画展「飛鳥の考古学2019」	1,331	冬期企画展「飛鳥の考古学2020」	2,371	冬期企画展「飛鳥の考古学2021」	2,588	冬期企画展「飛鳥の考古学２０２２」	3,360

※1　平常展の一部として実施
※2　平城宮跡資料館ではなく、平城宮跡内のいざない館にて開催のため、合計の数値には含まない。(参考値として記載。)

a-③ 平常展・特別展・海外展

【東京国立博物館】

(1) 総合文化展（平常展）

①開館日数　314 日間
②会　　場
(1)本　館　1階、2階
(2)東洋館　1階、2階、3階、4階、5階
(3)法隆寺宝物館　1階、2階
(4)平成館　1階
(5)黒田記念館
③展示総件数　10,032件（うち国宝170件、重要文化財878件）
(1)本館・平成館企画展示室　4,631件（うち国宝19件、重要文化財360件）
(2)東洋館　2,880件（うち国宝0件、重要文化財70件）
(3)法隆寺宝物館　329件（うち国宝 8件、重要文化財228件）
(4)平成館考古展示室　2,089件（うち国宝 143件、重要文化財220件）
(5)黒田記念館　103件（うち国宝　0件、重要文化財0件）
④展示替件数　6,272 件　・　展示替回数　延べ 412 回
⑤入場料金
黒田記念館以外　　一般1,000円、大学生410円
黒田記念館　無料
⑥特集　全26件（●国宝、◎重要文化財、〇重要美術品）

場所	名称	会期	陳列件数(うち指定品件数)
平成館 企画展示室	東京国立博物館コレクションの保存と修理	3月23日 ～ 4月17日	12件（重文2件）
＜主な作品＞ 雛雀図、雛雀図、鋏、河口慧海請来風俗資料			
当館が手がける保存と修理の成果を分かりやすく紹介するため、近年に修理を終えた絵画、考古、染織、陶磁など様々な分野から、形態、技法が異なる作品を取り上げた。また、作品とともに修理過程で得られた情報もパネルなどを用いて公開し、博物館が担う文化財修理の役割を広く紹介した。			
本館 14 室	東南アジアのやきもの―収集と研究の軌跡―	3 月 23 日 ～ 6 月 20 日	26 件（重美 1 件）
＜主な作品＞ 紅安南唐草文茶碗、褐釉双耳瓶、緑釉青海波文鉢、白磁刻花蓮花文鉢、青磁皿、粉彩人物文碗（ベンチャロン）			
東京国立博物館が収蔵する東南アジア陶磁のうち、明治から大正、昭和のはじめにかけて収蔵された作品に注目し、近代日本における陶磁器研究の歴史をたどりながら、その稀少な価値と造形的魅力を展観した。とくに、吉田作弥、岡野繁蔵、横河民輔といった収蔵にかかわった人物にも光をあて、作品と結びつけて紹介した。また、展示の機会が少ないベンチャロン（タイ向けの中国輸出陶磁）もまとめて出品した。			
本館 特別 1・2 室	東京国立博物館の近世仏画―伝統と変奏―	4 月 5 日 ～ 5 月 29 日	22 件
＜主な作品＞ 不動明王二童子像、当麻曼荼羅図、　　五百羅漢図			
本特集では当館所蔵の江戸時代に制作された仏画を展示した。当館には、木村徳応や神田宗庭といった江戸時代を代表する絵仏師の作品、従来知られている狩野一信筆「五百羅漢図」、さらには大津絵も所蔵される。普段まとまって紹介する機会が少ないそれらの江戸時代の仏画を選りすぐり、「絵仏師・画僧の仏画」「幕末の絵師・狩野一信筆「五百羅漢図」」「大津絵」をテーマに紹介した。			
本館 2 室	創立 150 年記念特集未来の国宝―東京国立博物館書画の逸品―	4 月 12 日 ～ 5 年 4 月 9 日	24 件
＜主な作品＞ 見返り美人図、焔、春日宮曼荼羅、金胎仏画帖、玄圃瑤華のうち未草・鶏頭、平家納経 厳王品 第二十七（模本）			
当館 150 年の歴史の中で収集された作品のなかには、国指定の国宝や重要文化財となっていなくとも素晴らしい作品が数多く収蔵されている。本特集では、創立 150 周年を記念し、当館の研究員が選び抜いた一押しの作品を「未来の国宝」と銘打って、年間を通じて紹介した。			
平成館 企画展示室	特集親と子のギャラリー　翼と羽	4 月 26 日 ～ 5 月 29 日	39 件
＜主な作品＞ 鷹に雁鷺図、自在鷹置物、刺繍孔雀図屏風			
東京恩賜上野動物園と国立科学博物館との三館園連携企画を受けて企画された特集陳列であり、今回が 15 回目となる。4 年度は動物の「翼と羽」をテーマとし、主に鳥類を中心としつつ、鳥類以外の羽をもつ動物や翼をもつ神、架空動物、羽をモチーフにした作品、羽そのものを素材とした作品などに着目し、人間に備わっていない翼や羽を、人間がどのように理解し、扱い、表現したか、わかりやすく紹介した。新型コロナウイルスの影響を勘案し、3 年度に引き続き、4 年度もオンラインで 3 館園の研究員によるウェビナーを開催した。			
本館 14 室	創立 150 年記念特集　収蔵品でたどる日本仏像史	5月17日 ～ 7月10日	16件（重文4件）
＜主な作品＞ ◎摩耶夫人および天人像、◎日光菩薩坐像、◎阿弥陀如来坐像（阿弥陀如来坐像及び両脇侍立像のうち）、如来立像			
創立 150 年を迎えた当館には、古代から近代までさまざまな仏像が所蔵・寄託されており、本特集では、そのうち飛鳥時代から近代にいたる各時代の典型的な作品を展示し、日本の仏像を通史的に紹介した。また作品にみられる時代ごとの造形的な特徴を示し、材質や制作技法を含めてその変遷をたどることで、日本の仏像の入門的な見方を提示した。			

場所	名称	会期	陳列件数(うち指定品件数)
平成館 企画展示室	創立 150 年記念特集　時代を語る洋画たち―東京国立博物館の隠れた洋画コレクション	6 月 7 日 ～ 7 月 18 日	22 件
＜主な作品＞ 夕日の港、スコットランド高地に潜むチャールズ・エドワード王子、富士山腹帰樵、二人の踊り、画室、世界大戦写生図、画家とその妻			
当館は、日本や東洋の古美術だけでなく、明治から昭和初期において制作とほぼ同時期に収蔵された洋画も多く収蔵する。本特集では、創立 150 年の機会に、現在の展示の枠組みの中では公開の機会がほとんどないそうした洋画コレクションの作品を展示し、それらを通して収蔵当時の時代背景や博物館活動における意義について紹介した。			
本館 14 室	創立 150 年記念特集　東博のガラスコレクション―明治期ガラス工芸の諸相	7 月 12 日 ～ 9 月 4 日	23 件
＜主な作品＞ ガラス七宝脚付杯、切子銅赤色被せガラス鉢、切子ガラス器、白色ガラス蛙蜻蛉刻文瓶			
当館が収蔵するガラス作品のなかから、主に明治期前後につくられ、博物館草創期にコレクションに加わったものを紹介した。江戸時代末からつくられ始めた切子ガラス、内国勧業博覧会に出品された品川硝子製造所のガラス製品、珍しい舶来のガラスなどを展示し、創立150年を迎えた当館ならではの、多様な来歴で、かつ貴重な国内外のガラスコレクションを紹介した。			
本館 特別2室	親と子のギャラリー　日本美術のつくり方　Ⅴ	7月20日 ～ 8月28日	13件
＜主な作品＞ 近江八景蒔絵料紙硯箱、小袖茶平絹地椿枝垂柳掛軸模様、色絵三壺文皿			
美術作品や制作技法に興味を持ってもらうことを目的とした、子どもから大人までを対象とする教育普及的展示である。漆工（蒔絵）、陶磁（色鍋島）、染織（友禅染）の3つのジャンルを取り上げ、文化財とともに専門家の制作した伝統的技法の工程見本を展示し、歴史の中で培われてきた日本美術の技術と美しさを伝えた。また画像やイラストを盛り込んだわかりやすい解説パネル類を掲示した。			
平成館 企画展示室	創立 150 年記念特集　チベット仏教の美術―皇帝も愛した神秘の美―	7 月 26 日 ～ 9 月 19 日	63 件
＜主な作品＞ 『秘密集会』阿閦金剛三十二尊曼荼羅（『ヴァジュラーヴァリー』曼荼羅集のうち 2 番）、ツォンカパ伝、シャンバラ王ラウドラ・チャクリン像、無量寿仏坐像、除蓋障菩薩坐像（八大菩薩のうち）、九鈷鈴、盤 白色如意宝珠マハーカーラ、チベット式仏塔、チャクラサンヴァラ父母仏立像、般若経、河口慧海請来風俗資料			
明治時代に日本人として初めてチベットを訪れた僧河口慧海の旅行記を契機に、日本でチベット仏教が注目されるようになり、当館でも創立以降さまざまな機会にチベット関連資料を収集してきた。本特集では、なかでも絵画・彫刻・工芸・書跡の各分野を代表する優品を、慧海のご遺族からの寄贈品の一部とともに紹介した。			
本館 特別 1 室	令和 3 年度新収品	8 月 2 日 ～ 8 月 26 日	22 件（重美 1 件）
＜主な作品＞ 〇道済集巻十九断簡（紙撚切）、鳥獣戯画（模本）、山水蒔絵硯箱、如来坐像、内裏雛、鞆形埴輪残欠、猿猴図軸			
3年度に新たに収蔵品に加わった文化財のうち、寄贈分、購入分より主だった作品を公開した。新収品を通じ、当館のもっとも重要な事業のひとつに位置づけられる「文化財の収集」について、その成果と意義を紹介した。			
本館館 特別 1・2 室	創立 150 年記念特集　東京国立博物館の模写・模造―草創期の展示と研究―	9 月 6 日 ～ 10 月 30 日	96 件
＜主な作品＞ 普賢延命像（模本）、鳥毛篆書屏風（模造）、吉祥天立像（模造）、物具着用図（藤原時代風俗画のうち）			
当館の草創期、展示品の足りない分野を補うため、また研究のため、多くの模写・模造が作られた。外部の専門家に制作を依頼し、館内で専属の職員を雇用したほか、積極的に購入を行っている。この時期に行なわれた模写・模造事業は、東京国立博物館の歩みを示すのみならず、近代日本における博物館行政や文化財保護理念の一端を知る手がかりとなる。本特集は、明治５年（1872）の博物館の創立以降、明治 22 年（1889）の帝国博物館設置、明治 33 年（1900）の帝室博物館設置を経て、昭和 22 年(1947)に国立博物館となるまでに制作された模写・模造作品を精選して展観した。創立 150 年を迎える年にあたり、草創期の博物館の活動の一端を紹介する機会とした。			
本館 11・14 室	創立 150 年記念特集　未来の国宝―東京国立博物館彫刻、工芸、考古の逸品―	9 月 6 日 ～ 12 月 25 日	3 件（重文 1 件）
＜主な作品＞ ◎白瑠璃埦、吉野宮蒔絵書棚、青磁盤			
創立 150 年の歴史のなかで収集された当館の文化財には、未来に受け継いでいきたい国民共通の宝というべき、多くの素晴らしい作品が含まれている。本特集は、そうした宝の中から選りすぐりの「逸品」を「未来の国宝」として展示するとともに、その魅力や作品に込められた物語を紹介した。			
東洋 8 室	日中国交正常化 50 周年　東京国立博物館 150 周年 中国書画精華―宋代書画とその広がり―	9 月 21 日 ～ 11 月 13 日	66 件(重文 21 件、重美 2 件)
＜主な作品＞ ◎寒江独釣図軸、◎洞山渡水図軸、◎竹虫図軸、行書三帖巻、行書王史二氏墓誌銘稿巻、行書遊天池詩巻			
開館 150 周年にあたる本年は、当館所蔵・寄託の中国書画コレクションの白眉といえる宋時代の作品に注目し、その重要性を物語る後世の関連作品とともに紹介した。現在日本に所蔵される宋代書画は、伝来が室町時代に遡る「古渡」と、清朝崩壊前後の近代に流入した「新渡」が混在する。日本における宋代書画の受容の変遷、価値の再発見にも配慮した展示を心がけた。			
東洋館 5 室	創立 150 年記念特集　再発見！大谷探検隊とたどる古代裂の旅	9 月 21 日～12 月 4 日	25 件
＜主な作品＞ 赤地渦輪違文入鳥獣人物文綾、赤茶地幾何花文錦、紺地菩薩立像描絵平絹、刺繍如来立像・唐草文断片			

場所	名称	会期	陳列件数(うち指定品件数)
当館所蔵、大谷探検隊招来の出土染織資料は、多くがガラス挟みで保管され、展示の機会も極めて少なかった。しかし作品の題記には、現在の中国甘粛省敦煌や新疆ウイグル自治区吐魯番などの出土地が記されており、中古中国・オアシス都市の染織文化をうかがい知れる貴重な資料群といえる。これらの資料は大谷探検隊の収集品を中心とする。本展示では、コレクションの意義を踏まえ、その魅力と価値を紹介した。			
平成館 企画展示室	創立 150 年記念特集　つたえる、つなぐ―博物館広報のあゆみ―	9 月 27 日 ～ 11 月 6 日	列品：3 件
＜主な作品＞ 博覧会図式、明治五年湯島聖堂博覧会広告、明治五年湯島聖堂博覧会観覧券			
当館がこれまで制作してきた広報用制作物の中から、展覧会のポスターや館案内パンフレット、 東京国立博物館ニュース、WEB サイトなどを紹介、広報用制作物をとおして、当館の博物館活動の歴史を紹介した。展示室にはフォトスポットを設置、来館者による SNS への投稿を促すとともに、出口に博物館ニュース配布ラックと公式 SNS の QR コードを告知し、当館のコンテンツへと誘導することで、当館と来館者をつなぐスペースとした。なお展示品のうち、列品登録されている作品は 3 件のみである。			
東洋館 5 室	創立 150 年記念特集　東京国立博物館のイスラーム陶器	10 月 4 日～ 5 年 1 月 22 日	47 件（重文 2 件、重美 1 件）
＜主な作品＞ ◎白磁鳳首瓶、◎三彩貼花龍耳瓶、ラスター彩動物文鉢、白釉色絵草花文皿、青緑釉ランプ			
イスラーム陶器とは、ここではおよそ９世紀から 17 世紀にかけて、現在のイラン、イラク、シリアを中心とした地域で焼かれたやきものを指す。日本では 1920～30 年代頃より収集がはじまり、当館にはその草創期を支えた作品をはじめ、貴重なコレクションが収蔵されている。本展はイスラーム陶器をまとめて展観する初めての試みで、その収蔵経緯とともにコレクションの意義を紹介した。			
法隆寺宝物館 6 室	特集古代染織の保存と修理―50 年にわたる取り組み―	10 月 18 日～ 12 月 11 日	13 件（重文 4 件）
＜主な作品＞ ◎蜀江錦綾幡、広東綾大幡、羅道場幡、古裂帖、淡縹地大唐花文錦			
2022 年は 1972 年に法隆寺献納宝物の染織品修理がはじまって 50 年の節目にあたる。これを記念して、過去の修理と現在の取り組みをご紹介する特集展示を企画した。本展では法隆寺における江戸時代の染織品保存にはじまり、博物館において戦後本格化した修理事業の変遷をたどった。			
本館 12 室	創立 150 念特集　根付　郷コレクション―	11 月 2 日～ 5 年 1 月 22 日	274 件
＜主な作品＞ 燭陰木彫根付、龍仙人木彫彩色根付、鬼鐘馗木彫彩色根付、蛤牙彫根付			
昭和 17 年（1942）11 月 20 日、帝室博物館に実業家・郷誠之助氏から根付を中心とするコレクションが一括寄贈された。同コレクションは江戸～明治期の有名根付師の作品をはじめとする優れた質を誇り、国内外の根付愛好者の間で評価が高い。日本の根付文化を学問的視点で保存した随一の個人コレクションと言える。本展は「郷コレクション」寄贈 80 周年を記念し、根付コレクションを一括公開した。			
平成館 企画展示室	創立 150 年記念特集　高円宮殿下二十年式年祭記念　根付　高円宮コレクション	11 月 15 日～12 月 25 日	500 件
＜主な作品＞ 九尾之狐、達磨、ほおずき、寒雀、うさぎ、花魁、幽霊、馬			
高円宮コレクションは、憲仁親王殿下が久子妃殿下とのご婚約以来約 18 年にわたって収集された、現代根付を中心とするコレクションである。殿下の収集品のうち、260 件が平成 27 年度までに当館に寄贈され、令和２年度から新たに 240 件が出品・寄贈され、計 500 件におよぶ根付コレクションが展示出来ることになった。本展は令和４年が殿下の二十年式年祭にあたることを記念し、現代根付の保存と公開を企図された殿下のご意思を顕彰するとともに「高円宮コレクション」の全てをご覧いただく機会とした。			
平成館 企画展示室	博物館に初もうで　兎にも角にもうさぎ年	5 年 1 月 2 日～1 月 29 日	44 件（重美 4 件）
＜主な作品＞ 博物館獣譜、染付水葵に兎図大皿、火事装束 紺麻地波兎雨龍模様、月宮八稜鏡、豆兎蒔絵螺鈿硯箱			
お正月の恒例展示。令和５年（2023）の干支「癸卯」の卯年（うどし）にちなみ、「兎」を主題とした特集展示を行った。５つのテーマ「兎に角うさぎ」「月のうさぎ」「波に乗るうさぎ」「うさぎはどこだ」「うさぎと人と」で構成し、兎を表す当館所蔵の美術工芸品、歴史資料、考古資料を展示した。			
本館館 14 室	創立 150 年記念特集　近世能狂言面名品選 ―「天下一」号を授かった面打―	5 年 1 月 2 日～2 月 26 日	25 件（重文 6 件）
＜主な作品＞ 能面 小面、狂言面 武悪、能面 平太、能面 増女、能面 景清			
能が大成した室町時代には新しい能面が創作された。安土桃山時代、江戸時代と次第に能面作家である面打も世襲されるようになり、名物面を写すことが盛んに行われる写しの時代となった。本展のテーマ「天下一」号は、文禄 2 年（1593）に豊臣秀吉が写しの名手として角坊に授けたのが最初である。本展では「天下一」の称号を授けられた近世の写しの名手 7 人の作品を展示し、名物面の写しが主になった時期にもそれぞれの個性がうかがえることを示した。			
本館 7 室	創立 150 年記念特集　戦後初のコレクション　国宝「松林図屏風」	5 年 1 月 2 日～1 月 15 日	1 件（国宝 1 件）
＜主な作品＞ ●松林図屏風			
当館が昭和 22 年に皇室から国に移管され、国立博物館として国民の博物館となったときに、戦後初の購入作品の一つとなったのが「松林図屏風」であった。昭和 27 年 11 月 22 日に国宝に指定されてから今日まで、正しく国民の「国宝」として広く知られるこの作品を、1 点展示して当館創立 150 周年を寿ぐことを意図した。			
平成館 企画展示室	創立 150 年記念特集　コレクションの探求　はにわ展から 50 年	5 年 2 月 28 日～4 月 9 日	26 件（国宝 2 件、重文 6 件）
＜主な作品＞ ◎猪形埴輪、◎家形埴輪、◎埴輪 短甲の武人、◎船形埴輪			

場所	名称	会期	陳列件数(うち指定品件数)
当館で開催された特別展観「はにわ」（昭和48年２月13日から３月18日）の50周年を記念して本特集を開催した。この50年間で進んだ研究成果を踏まえ、特別展観「はにわ」で陳列した埴輪を中心に紹介した。あわせて、この50年間で当館にて行われた修理事業、ＣＴや三次元計測による最新研究、美術史的な観点での埴輪の再評価、国宝・重要文化財に指定された作品など、多角的な展示を試みた。			
本館 14室	おひなさまと日本の人形	5年2月22日～3月21日	49件
＜主な作品＞ 古今雛、立雛（次郎左衛門頭）、御所人形、牙首雛、紫宸殿（雛用御殿）			
3月3日の桃の節供、雛祭にちなんで行った恒例企画。今回は三谷家伝来の牙首雛や山本家伝来の古今雛といった江戸の地における雛飾りの名品とともに、東博が所蔵する御所人形の代表作を一堂に展示した。一方、初期の雛人形もあわせて展示し、雛人形の成立から発展までも見通せるようにした。展示にあたっては、人形の名品を通じ、繊細で美しく、そしてかわいらしいものを尊び、高い技術を駆使して作品を作り上げてきた日本の美意識を、楽しく伝えることを心がけた。			
本館 14室	ニール号引き揚げ品- ウィーン万博をめぐる日欧の工芸文化交流-	5年3月21日～5月14日	21件
＜主な作品＞ 色絵金彩婦人図皿、鼈甲製鳥籠、錆絵葡萄図角皿、色絵花虫図陶板（タイル）			
ウィーン万国博覧会開催150年の節目として開催するもので、今に伝わるニール号引揚品の一部や博覧会開催のために全国から集められた工芸品、またこのニール号の事故を受けてあらためて海外から寄贈された作品などを通して、初期の博物館の海外交流の様子を紹介した。			

(2) 特別展、共催展等

展覧会名	特別展「空也上人と六波羅蜜寺」
会　　期	3月1日（火）～5月8日(日)
会　　場	東京国立博物館　本館特別5室
主　　催	東京国立博物館、六波羅蜜寺、朝日新聞社、テレビ朝日、BS朝日
協　　賛	DNP大日本印刷、小学館
作品件数	17件（うち、重文10件）
来館者数	146,085人(目標50,000人、達成率292.2%)
入場料金	一般 1,600円、大学生 900円、高校生 600円、中学生以下無料
アンケート結果　満足度	86.4%
担当研究員数	2人
展覧会の内容	空也上人は、平安前期に阿弥陀信仰をいち早くひろめた僧侶であり、市井の人々に救いの道を示したので、市の聖、阿弥陀聖と呼ばれた。空也上人が、京都東山に創建した六波羅蜜寺には、上人の像が伝わる。本年は空也上人没後1050年にあたり、空也上人立像を公開するほか、空也上人のもとで造られた四天王立像、定朝作とされる地蔵菩薩立像、運慶作の地蔵菩薩坐像など、平安から鎌倉時代の彫刻の名品を展示し、六波羅蜜寺の歴史と美術を通して、信仰の厚みにも思いをはせる機会とした。
講演会等	記念講演会を4月2日に開催した。

展覧会名	沖縄復帰50年記念特別展「琉球」
会　　期	5月3日(火・祝)～6月26日(日)
会　　場	東京国立博物館　平成館特別展会場
主　　催	東京国立博物館、ＮＨＫ、ＮＨＫプロモーション、読売新聞社、文化庁
共　　催	沖縄県立博物館・美術館
特別協賛	キヤノン、大和証券グループ、三井不動産、三菱地所、明治ホールディングス
協　　賛	ＪＲ東日本、清水建設、髙島屋、竹中工務店、三井住友銀行、三菱商事
協　　力	ＤＮＰ大日本印刷
輸送協力	日本航空
作品件数	289件（国宝60件、重文17件、県指定文化財25件、市指定文化財6件）
来館者数	90,395人(目標50,000人、達成率180.8%)
入場料金	一般2,100円、大学生1,300円、高校生900円、中学生以下無料
アンケート結果　満足度	85.3%
担当研究員数	4人
展覧会の内容	令和4年(2022)は沖縄県の復帰50年という節目の年に当たるため、これを記念して、強く輝き続ける琉球の歴史と文化を過去最大規模の展覧会を通じて紹介する。本展は、アジアにおける琉球王国の成立、および文化の形成と継承の意義について、第1章「万国津梁　アジアの架け橋」、第2章「王権の誇り　外交と文化」、第3章「琉球列島の先史文化」、第4章「しまの人びとと祈り」、第5章「未来へ」という構成で文化財を通じて紹介した。
講演会等	連続講座を6月10～11日までの2日間、開催した。

展覧会名	日中国交正常化50周年記念　特別デジタル展「故宮の世界」
会　　期	7月26日(火)～9月19日(月祝)
会　　場	東京国立博物館　平成館特別展会場（1～2室）
主　　催	東京国立博物館、故宮博物院、凸版印刷
特別協力	朝日新聞社
後　　援	日本アジア共同体文化協力機構
作品件数	23件（重文1件）

来館者数	27,839人(目標30,000人、達成率92.8%)
入場料金	一般 1,500円、大学生 900円、TNM&TOPPANミュージアムシアターセット券　1,800円
アンケート結果　満足度	63.7%
担当研究員数	3人
展覧会の内容	本年（2022年）が日中国交正常化50周年の節目に当たるのを記念して、故宮博物院と当館、そして両者と長年にわたり共同研究を行ってきた凸版印刷が共同で、紫禁城をテーマにした特別デジタル展を開催する。第1章は「デジタル故宮博物院」として、清時代の紫禁城の一部をデジタル空間で再現し、故宮が収蔵する名品をデジタルデータで紹介する。第2章は「紫禁城の書画工芸」として、当館が管理する清朝皇帝の愛蔵品や紫禁城で鑑賞され用いられていた書画工芸を紹介した。
講演会等	会期中にTNM & TOPPAN ミュージアムシアターにおいて「故宮VR 紫禁城・天子の宮殿」を上演した。

展覧会名	**東京国立博物館創立150年記念　特別展「国宝　東京国立博物館のすべて」**
会　　期	10月18日(火)～12月11日(日)
会　　場	東京国立博物館　平成館特別展会場
主　　催	東京国立博物館、読売新聞社、NHK、NHKプロモーション、独立行政法人日本芸術文化振興会、文化庁
協　　賛	JR東日本、大伸社、大和ハウス工業、三井住友銀行、横河電機、横河ブリッジホールディングス
作品件数	150件（うち国宝89件、重要文化財27件）
来館者数	351,153人（目標80,000人、達成率：438.9%）
入場料金	一般：2,000円、大学生：1,200円、高校生：900円
アンケート結果　満足度	91.9%
担当研究員数	4人
展覧会の内容	東京国立博物館は日本で最も長い歴史をもつ博物館である。令和4年（2022）は東京国立博物館の創立150年の節目に当たる年であり、これを記念して、約12万件という膨大な所蔵品の中から国宝89件すべてを含む名品と、東博の歴史を物語る関連資料を紹介する展覧会を開催する。展覧会は2部から構成され、第1部「東京国立博物館の国宝」では東博が所蔵するすべての国宝を公開し、第2部「東京国立博物館の150年」では明治から令和にいたる博物館150年の歩みを3期に分けて紹介した。
講演会等	記念講演会を11月24日に開催した。

展覧会名	**東京国立博物館創立150年記念　特別企画「未来の博物館」**
会　　期	10月18日(火)～12月11日(日)
会　　場	東京国立博物館　本館特別3室、本館特別5室、東洋館エントランス
主　　催	東京国立博物館、文化財活用センター、NHK
協　　賛	キヤノン株式会社、シャープ株式会社
作品件数	原品の展示なし。コンテンツ件数：6件
来館者数	150,296人
入場料金	一般 1,000円、大学生 500円　※総合文化展料金
アンケート結果　満足度	体験が楽しかった：97.5%　　日本美術作品への興味が高まった：95.0%
担当研究員数	5人
展覧会の内容	東京国立博物館の創立150年を記念し開催する特別企画。高精細複製品や8K映像、プロジェクションマッピングなどの最先端のデジタル技術と日本美術のコラボレーションによる体験型展示を行い、これまでの東京国立博物館の展示室では不可能だった鑑賞体験が実現した。
講演会等	10月23日、11月27日に子どもを対象としたガイドツアー「ぶつぞう調査隊」を計8回行った。

展覧会名	**特別企画「大安寺の仏像」**
会　　期	5年1月2日（月・祝）～3月19日（日）
会　　場	東京国立博物館　本館11室
主　　催	東京国立博物館、独立行政法人日本芸術文化振興会、文化庁
作品件数	15件（うち重要文化財7件）
来館者数	177,515人 ※本企画のみの入館者数は計測していないため、本企画期間の本館の入館者数を採用した。
入場料金	一般 1,000円、大学生 500円　※総合文化展料金
アンケート結果　満足度	―
担当研究員数	3人
展覧会の内容	奈良市にある大安寺は日本最初の国立寺院であり、国際色豊かな環境で多くの優秀な僧侶たちを育てた仏教研究の中心拠点として栄えた。大安寺に伝わる木彫の仏像群は、いずれも一木造で優れた身体表現や細やかな彫りに奈良時代の木彫像の特色が表われている。本展では、大安寺に伝わる仏像のほか、大安寺出土の瓦などもあわせて展示し、日本仏教の源流ともいうべき大安寺の歴史を紹介した。
講演会等	

展覧会名	**「150年後の国宝展―ワタシの宝物、ミライの宝物」**
会　　期	11月2日(水)～5年1月29日(日)(72日間)
会　　場	表慶館
主　　催	東京国立博物館
作品件数	一般公募67件、出展協力企業展示31件

来館者数	178,525人
入場料金	一般 1,000円、大学生 500円　※総合文化展料金
アンケート結果　満足度	満足度92.1%
担当研究員数	1人
展覧会の内容	今から150年後の西暦2172年に伝え残していきたい国宝候補を、その背景のストーリーと共に展示するものである。一般部門及び企業部門から構成される。一般部門は「ワタシの宝物、ミライの宝物」というテーマで一般公募を行い、その中から当館が選んだものを展示。企業部門については、展覧会に出展協力いただいた企業と、当館にてどのような国宝候補が適当かを協議の上、展示を行った。
講演会等	11月20日、吉本興業(株)と大講堂にて漫才に関するワークショップを実施。5年1月13日、大講堂にてキッコーマン(株)と醤油に関する講演会を実施。（株）BANDAI SPIRITSと5年1月21、22、28、29日、平成館ラウンジ等にて廃材を利用した環境に配慮したプラモデル製品に関するワークショップを実施した。

【京都国立博物館】

(1)平常展(名品ギャラリー)

①開館日数　213日(名品ギャラリー開館日数：129日、庭園のみ開館日数：84日)
②展示総件数　680件
③展示替件数　680件
④入場料金　一般700円、大学生350円　※庭園のみ開館時は一般300円
⑤特集展示等　全3件

	名称	会期	陳列件数（うち指定品件数）
特集展示	新発見！蕪村の「奥の細道図巻」	6月14日～7月18日	3件(重要文化財1件)
新春特集展示	卯づくし―干支を愛でる―	5年1月2日～2月29日	26件(重要文化財1件、重要美術品1件)
特集展示	雛まつりと人形	5年2月4日～3月5日	58件

(2) 特別展、共催展等

展覧会名	伝教大師1200年大遠忌記念　特別展「最澄と天台宗のすべて」
会　　期	4月12日(火)～5月22日(日)（36日間）
会　　場	平成知新館
主　　催	京都国立博物館、天台宗、比叡山延暦寺、読売新聞社、読売テレビ、文化庁
特別協力	キヤノン、JR東日本、日本たばこ産業、三井不動産、三菱地所、明治ホールディングス
協　　賛	清水建設、髙島屋、竹中工務店、三井住友銀行、 三菱商事
作品件数	130件(国宝23件、重要文化財72件)
来館者数	43,235人（目標来館者数50,000人、達成率：86.5%）
入場料金	一般1,800円、大学生1,200円、高校生700円
アンケート結果　満足度	75.8%
講演会等	・記念講演会（4回） 4月16日【対談】「伝教大師最澄を語る」登壇者：阿部 昌宏 氏（天台宗 宗務総長）、露の団姫氏（落語家、天台宗道心寺 住職）　【落語】「仏教落語」出演者：露の団姫 氏 4月23日【対談】「日吉大社山王祭と神輿」登壇者：須原 紀彦 氏（日吉大社 禰宜）、末兼 俊彦（当館 主任研究員） 5月7日「天台宗の信仰と仏画」講師：大原嘉豊（当館 保存修理指導室長） 5月14日「天台のみほとけたち」講師：淺湫毅（当館 上席研究員）

展覧会名	特別展「河内長野の霊地 観心寺と金剛寺―真言密教と南朝の遺産―」
会　　期	7月30日（土）～9月11日（日）（38日間）
会　　場	平成知新館
主　　催	京都国立博物館
特別協力	―
協　　賛	―
作品件数	130件（国宝4件、重要文化財31件、重要美術品3件）
来館者数	28,211人（目標来館者数30,000人、達成率：94.0%）
入場料金	一般1,200円、大学生600円、高校生300円
アンケート結果　満足度	83.9%
講演会等	・関連土曜講座（プレ講座）（1回） 7月23日（土）「観心寺と金剛寺での京博社寺調査　漆工編」講師：永島 明子（当館 教育室長） ・記念講演会（5回） 7月30日（土）「観心寺・金剛寺と南北朝動乱」講師：尾谷 雅彦 氏（元河内長野市教育委員会） 8月20日（土）「観心寺・金剛寺の歴史と文化財調査」講師：井並 林太郎（当館 研究員） 8月27日（土）「観心寺・金剛寺の金属工芸」講師：末兼 俊彦（当館 主任研究員） 9月3日（土）「観心寺・金剛寺の聖教」講師：上杉 智英（当館 研究員） 9月10日（土）「真言密教のみほとけたち―観心寺・金剛寺を中心に―」講師：淺湫 毅（当館 上席研究員）

展覧会名	特別展「京（みやこ）に生きる文化　茶の湯」
会　　期	10月8日（土）～12月4日（日）（50日間）
会　　場	平成知新館
主　　催	京都国立博物館、読売新聞社、文化庁

特別協力	キヤノン、大和証券グループ、三井不動産、三菱地所、明治ホールディングス
協　　賛	JR東日本、清水建設、髙島屋、竹中工務店、三井住友銀行、 三菱商事
作品件数	245件（国宝27件、重要文化財74件）
来館者数	91,675人（目標来館者数50,000人、達成率：183.4%）
入場料金	一般1,800円、大学生1,200円、高校生700円
アンケート結果　満足度	72.1%
講演会等	・記念講演会（7回） 10月15日（土）　「利休の懐石」講師：筒井 紘一 氏（京都府立大学 客員教授、茶道資料館 顧問） 10月22日（土）　「京に生きる文化 茶の湯―歴史とその背景―」講師：降矢 哲男（当館 調査・国際連携室長） 10月29日（土）　「日本の茶文化における中国絵画受容」講師：森橋 なつみ（当館 研究員） 11月5日（土）　「京都における数寄者と茶の湯」講師：谷 晃 氏（野村美術館 館長） 11月12日（土）　「天下人と茶の湯」講師：竹本 千鶴 氏（國學院大學 兼任講師） 11月19日（土）　「京都における公家と茶の湯―そのはじまりと展開―」講師：谷端 昭夫 氏（湯木美術館 理事） 12月3日（土）　「中世の文書と典籍にみる「茶」」講師：羽田 聡（当館 列品管理室長兼美術室長）

展覧会名	**親鸞聖人生誕850年特別展「親鸞―生涯と名宝」**
会　　期	5年3月25日（土）～5月21日（日）（58日間）
会　　場	平成知新館
主　　催	京都国立博物館、朝日新聞社、NHK京都放送局、NHKエンタープライズ近畿
特別協力	真宗教団連合
協　　賛	DNP大日本印刷、京都女子大学
作品件数	181件（国宝11件、重要文化財75件）
来館者数	13,918人（3月31日現在、目標来館者数50,000人）
入場料金	一般1,800円、大学生1,200円、高校生700円
講演会等	・記念講演会（1回） 3月25日（土）「親鸞聖人の生涯」講師：草野 顕之 氏（大谷大学 名誉教授）

【奈良国立博物館】

(1)名品展（平常展）

①開館日数：318日(名品展のみの開館日数：177日)
②展示総件数：393件
③展示替件数：188件
④入場料金：一般　700円　大学生　350円
⑤特別陳列等：全96件
名品展
　珠玉の仏たち（なら仏像館）135件
　珠玉の仏教美術（西新館）129件
　特集展示「新たに修理された文化財」（西新館）5件
　中国古代青銅器（青銅器館）124件

	名称	会期	陳列件数（うち指定品件数）
特別陳列	わくわくびじゅつギャラリー はっけん！ほとけさまのかたち	7月16日～8月28日	31件（うち重文16件）
特別陳列	お水取り	5年2月4日～3月19日	65件（うち重文19件）

(2)特別展、共催展等

展覧会名	**特別展「大安寺のすべて―天平のみほとけと祈り―」**
会　　期	4月23日(土)～6月19日(日)（51日間）
会　　場	奈良国立博物館　東新館・西新館
主　　催	奈良国立博物館、日本経済新聞社、NHK奈良放送局、NHKエンタープライズ近畿
後　　援	―
特別協力	大安寺
協　　賛	―
協　　力	中川政七商店、奈良 蔦屋書店、日本香堂、仏教美術協会
作品件数	124件（うち国宝10件、重文50件）
来館者数	32,971人(目標来館者数 50,000人・達成率 65.9%)
入場料金	一般1,800円、高校・大学生1,500円、小・中学生800円
アンケート結果　満足度	96.4%
担当研究員数	3名
展覧会の内容	南都七大寺の1つとして数えられた大安寺の歴史を、寺宝、関連作品、発掘調査成果など様々な角度から紹介した。
講演会等	○公開講座 3回　参加者数合計 212人 4月29日（金・祝）「大安寺伽藍縁起幷流記資財帳の考古学」上原眞人（京都大学名誉教授）/ 参加者数 76人 5月21日(土)「大安寺の祈りと営み－出土品を中心に－」中川あや（学芸部企画室長）/ 参加者数　65人 6月11日(土)「大安寺の仏像」稲本泰生（京都大学教授）/ 参加者数　71人

展覧会名	貞享本當麻曼荼羅修理完成記念　特別展「中将姫と當麻曼荼羅　―祈りが紡ぐ物語―」
会　　期	7月16日(土)～8月28日(日) (39日間)
会　　場	奈良国立博物館　西新館
主　　催	奈良国立博物館、當麻寺、読売新聞社、NHK奈良放送局
後　　援	―
特別協賛	―
協　　賛	清水建設、大和ハウス工業
協　　力	日本香堂、仏教美術協会
作品件数	77件（うち国宝5件、重文13件）
来館者数	19,966人(目標来館者数 38,000人・達成率 52.5%)
入場料金	一般1,600円、高校・大学生1,000円、小・中学生500円
アンケート結果　満足度	96.1%
担当研究員数	3名
展覧会の内容	貞享本當麻曼荼羅の修理過程で確認された資料を紹介しながら貞享本製作プロジェクトの全貌を示すとともに、周辺の當麻曼荼羅信仰や、連動する中将姫信仰についても紹介した。
講演会等	○公開講座 2回　参加者数合計 126人 8月6日(土)「貞享本當麻曼荼羅とその周辺」北澤菜月（学芸部主任研究員）/ 参加者数 66人 8月20日(土)「中将姫説話の展開」日沖敦子（文教大学文学部日本語日本文学科准教授）/ 参加者数 60人

展覧会名	第74回正倉院展
会　　期	10月29日（土）～11月14日（月）（17日間）
会　　場	奈良国立博物館　東新館・西新館
主　　催	奈良国立博物館
特別協賛	―
協　　賛	岩谷産業、SGC、NTT西日本、関西電気保安協会、京都美術工芸大学、近畿日本鉄道、JR東海、JR西日本、シオノギヘルスケア、ダイキン工業、ダイセル、大和ハウス工業、中西金属工業、丸一鋼管、大和農園
特別協力	読売新聞社
協　　力	NHK奈良放送局、Osaka Metro、奈良交通、奈良テレビ放送、日本香堂、仏教美術協会、読売テレビ
作品件数	59件
来館者数	87,672人(目標来館者数60,000人・達成率 146.1%)
入場料金	一般2,000円、高校・大学生1,500円、小・中学生500円
アンケート結果　満足度	83.9%
担当研究員数	3名
展覧会の内容	8世紀の東アジア文化の至宝である正倉院宝物59件を公開した。
講演会等	○公開講座 2回　参加者数合計 136人 10月29日(土)「正倉院宝物の保存―宝物を覆う―」髙畑誠（宮内庁正倉院事務所保存課保存科学室員）/参加者数 71人 11月12日(土)「正倉院の仏具―奈良時代の寺院と法会の世界―」三本周作（学芸部研究員）/ 参加者数 65人

展覧会名	式年造替記念特別展「春日大社　若宮国宝展―祈りの王朝文化―」
会　　期	12月10日(土)～5年1月22日(日) (34日間)
会　　場	奈良国立博物館　東新館・西新館
主　　催	奈良国立博物館、春日大社、朝日新聞社、NHK奈良放送局、NHKエンタープライズ近畿
後　　援	―
特別協力	―
特別協賛	―
協　　賛	尾田組、天理時報社
協　　力	日本香堂、仏教美術協会
作品件数	89件（うち国宝25件、重文10件）
来館者数	22,888人
入場料金	一般1,600円、高校・大学生1,400円、小・中学生700円
アンケート結果　満足度	94.1%
担当研究員数	3名
展覧会の内容	藤原摂関家をはじめ平安貴族が若宮神に奉納した、当時最高峰の技術を集めた工芸品を展示するとともに、古来の祭礼や神事芸能、現在の御造替にかかわる器物や歴史資料を通して支えた人々の熱意と努力の軌跡を紹介した。
講演会等	○公開講座 1回　参加者数合計 77人 5年1月7日(土)「王朝文化が蘇る　春日若宮古神宝とその復元」松村和歌子（春日大社国宝殿主任学芸員）/参加者数77人

【九州国立博物館】

(1)文化交流展（平常展）

①開館日数 307 日(うち平常展のみ開館日数 115 日)＊台風の影響により臨時休館(9 月 6、18、19 日)

②展示総件数：2,187 件（うち国宝 74 件、重要文化財 191 件）
③展示替件数：1,961件
④入場料金：一般 700 円、大学生 350 円
⑤特集展示・特別公開等：全 6 件

展示名称	特集展示「きゅーはく女子考古部プレゼンツ　かわいい考古学のススメ」				
開催期間	4 月 19 日(火)～ 7 月 24 日(日)	開催場所	文化交流展示室 第 3 室	陳列件数（うち指定品件数）	14 件
内容	「かわいい」という観点から女子考古部を中心に選んだ当館所蔵品の考古資料を公開した。				
展示名称	ならべてわかる本物のひみつ～実物とレプリカ 2022～				
開催期間	7 月 20 日(水)～ 10 月 10 日(月・祝)	開催場所	文化交流展示室 第 7 室	陳列件数（うち指定品件数）	22 件（うち重文 1 件）
内容	ユニバーサル・ミュージアムへの取り組みの一環として、実物展示に加えてレプリカや再現文化財を公開した。				
展示名称	特別公開「沖ノ島祭祀を担った奉斎者たち」				
開催期間	9 月 21 日(水)～ 12 月 4 日(日)	開催場所	文化交流展示室 基本展示室 2 テーマ	陳列件数（うち指定品件数）	25 件
内容	「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群の世界遺産登録 5 周年を記念し、沖ノ島祭祀を担った奉斎者たちにまつわる出土資料約 40 点を公開した。				
展示名称	特集展示「御所の器　公家山科家伝来の古伊万里」				
開催期間	9 月 27 日（火）～ 11 月 20 日（日）	開催場所	文化交流展示室 第 11 室	陳列件数（うち指定品件数）	61 件
内容	山科家に伝来した貴重な禁裏御用品と、それにまつわる歴史資料装束も併せて公開した。				
展示名称	特集展示「種子島　風と波が育んだ歴史」				
開催期間	12 月 13 日(火)～ 2 月 12 日(日)	開催場所	文化交流展示室 第 3 室	陳列件数（うち指定品件数）	53 件（うち重文 3 件）
内容	発掘調査で出土した資料や島の内外に伝わる文化財を通じて、種子島の知られざる交流の歴史を公開した。				
展示名称	新春特別公開　徳川美術館所蔵　国宝　初音の調度				
開催期間	5 年 1 月 1 日(日・祝)～ 29 日(日)	開催場所	文化交流展示室 第 9 室	陳列件数（うち指定品件数）	26 件（うち国宝 3 件）
内容	徳川美術館に所蔵される国宝「初音の調度」のうち、机、長文箱、色紙箱の 3 件と、大揃いの南部家婚礼調度も併せて公開した。				

(2) 特別展、共催展等

展覧会名	特別展「北斎」
会　　期	4 月 16 日(土)～6 月 12 日(日)（51 日間）
会　　場	九州国立博物館　特別展示室
主　　催	九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、TNC テレビ西日本、TVQ 九州放送
作品件数	130 件（うち国宝 0 件、重要文化財 2 件）
来館者数	135,955 人(目標来館者数 40,000 人・達成率 339.9%)
入場料金	一般 1,800 円、高大生 1,000 円、小中生 600 円
アンケート結果　満足度	88.4%
講演会等	・記念講演会「北斎とその画業 ―浮世絵風景画史の観点から―」大久保純一（本展監修者・国立歴史民俗博物館教授）/参加者140人 ・記念トークショー「おしえて、しりあがりサン！ ―北斎のすごさとは―」しりあがり寿（漫画家）・畑靖紀（学芸部文化財課主任研究員）/参加者97人 ・担当研究員による展示レクチャー　畑靖紀（学芸部文化財課主任研究員）/参加者96人

展覧会名	沖縄復帰50年記念 特別展「琉球」
会　　期	7 月 16 日(土)～9 月 4 日(日)（45 日間）
会　　場	九州国立博物館　特別展示室
主　　催	九州国立博物館・福岡県、NHK 福岡放送局、NHK エンタープライズ九州、読売新聞社、文化庁
作品件数	242 件（うち国宝 46 件、重要文化財 13 件）
来館者数	41,054 人(目標来館者数 30,000 人・達成率 136.8%)
入場料金	一般 1,900 円、高大生 1,200 円、小中生 800 円
アンケート結果　満足度	90.8%
講演会等	・記念講演会「万国津梁鐘と尚泰久」田名真之（沖縄県立博物館・美術館長）/参加者95人 ・講演会「琉球の美術と文化を深める」上江洲安亨（〈一財〉沖縄美ら島財団）・原田あゆみ（東京国立博物館企画課長）/参加者78人 ・リレー講座「琉球展ちゃんぷる一講座」 　歴史編：一瀬智（展示課主任研究員）、松浦晃佑（学芸部文化財課研究員）/参加者44人 　工芸編：川畑憲子（学芸部企画課特別展室長）、望月規史（学芸部企画課主任研究員）、桑原有寿子（学芸部企画課研究員）/参加者51人

展覧会名	特別展「ポンペイ」
会　　期	10 月 12 日(水)～12 月 4 日(日)（48 日間）※11 月 28 日は臨時開館
会　　場	九州国立博物館　特別展示室
主　　催	九州国立博物館・福岡県、ナポリ国立考古学博物館、朝日新聞社、NHK 福岡放送局、NHK エンタープライズ九州、西日本新聞社、西日本新聞イベントサービス
作品件数	125 件（うち国宝 0 件、重要文化財 0 件）
来館者数	79,919 人(目標来館者数 40,000 人・達成率 199.8%)
入場料金	一般 1,900 円、高大生 1,200 円、小中生 800 円

アンケート結果　満足度	90.8%
講演会等	・記念講演会「ポンペイに魅せられた50年」青柳正規（東京大学名誉教授）/参加者203人 ・リレー講座 齋部麻矢（展示課長）/参加者62人 小泉惠英（副館長）・白井克也（学芸部文化財課長）・折山桂子（学芸部文化財課アソシエイトフェロー）/参加者53人

展覧会名	特別展「加耶」
会　　期	5年1月24日(火)～3月19日(日)（48日間）
会　　場	九州国立博物館　特別展示室
主　　催	九州国立博物館・福岡県、韓国国立中央博物館、国立歴史民俗博物館、西日本新聞社、西日本新聞イベントサービス、TVQ九州放送
作品件数	273件（うち国宝0件、重要文化財11件）
来館者数	26,990人(目標来館者数20,000人・達成率135%)
入場料金	一般1,700円、高大生1,000円、小中生600円
アンケート結果　満足度	86.0%
講演会等	・記念講演会「五世紀・倭の技術革新と加耶」西谷正（海の道むなかた館館長・九州大学名誉教授/参加者224人 ・リレー講座　白井克也（学芸部文化財課長）、齋部麻矢（展示課長）、大澤信（学芸部企画課研究員）/参加者154人、岡寺良（展示課主任研究員）、大高広和（展示課研究員）、小嶋篤（九州歴史資料館学芸員）/参加者166人

【奈良文化財研究所】

【平城宮跡資料館】

(1)平常展

①開館日数：310日（平常展のみの開館日数：206日）
②展示総件数：561件
③展示替回数：0回
④入場料金：無料
⑤平常展のみの来館者数：19,888人

(2)特別展、企画展等：4件

展覧会名	平城宮跡資料館 令和4年度 春期特別展 平城宮跡史跡指定100周年・奈良文化財研究所70周年記念 「未来につなぐ平城宮跡 ー保存運動のあけぼのー」		
会　　期	4月29日（金・祝）～ 6月12日（日）（40日間）	会　場	平城宮跡資料館　企画展示室
主　　催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	55件（0件）
来館者数	7,893人	入場料金	無料
講演会等	なし		

展覧会名	平城宮跡資料館 令和4年度 夏期企画展 「大地鳴動 -大地の知らせる危機と私たちの生活-」		
会　　期	7月16日（土）～8月28日（日）（38日間）	会　場	平城宮跡資料館　企画展示室
主　　催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	14件（0件）
来館者数	4,106人	入場料金	無料
講演会等	なし		

展覧会名	2022年度　秋期特別展 奈良文化財研究所70周年記念・平城宮跡史跡指定100周年記念 「地下の正倉院展 ー平城木簡年代記〔クロニクル〕ー」		
会　　期	10月15日（土）～11月13日（日）（26日間）	会　場	平城宮跡資料館　企画展示室
主　　催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	56件（重要文化財6件、国宝8件）
来館者数	7,628人	入場料金	無料
講演会等	なし		

（参考：平城宮跡資料館の入館者数には含まない）

展覧会名	奈良文化財研究所70周年・平城宮跡史跡指定100周年記念特別展 「のこった奇跡　のこした軌跡ー未来につなぐ平城宮跡ー」		
会　　期	10月29日(土) ～ 12月11日(日)（43日間）	会　場	平城宮跡歴史公園平城宮いざない館　企画展示室
主　　催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	約158件（0件）
来館者数	36,339人	入場料金	無料
講演会等	なし		

【藤原宮跡資料室】

(1)平常展

①開館日数：357日
②展示総件数：534件
③展示替回数：1回
④入場料金：無料
⑤特集陳列等　：4件

⑥平常展来館者数　：7,133人

名称	会期	陳列件数（うち指定品件数）
【特集陳列】 石神遺跡南北溝SD1347･AD1476出土土器（石神遺跡第8次・第9次）	4月1日～10月31日	石神遺跡出土土器66点
藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第205次）	4月1日～10月31日	大極殿院出土瓦17点
石神遺跡南北溝SD1347A出土土器（石神遺跡第14次・第15次）	11月1日～3月31日	石神遺跡出土土器41点
藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第208次）	11月1日～3月31日	大極殿院出土凝灰岩1点・瓦15点

【飛鳥資料館】

(1)平常展

①開館日数：307日（平常展のみの開館日数：132日）
②展示総件数：143件
③展示替回数：0回
④入場料金：一般350円　大学生200円　高校生及び18歳未満、70歳以上は無料
⑤平常展のみの来館者数：7,899人

(2)特別展、企画展等：4件

展覧会名	ミニ展示「飛鳥資料館に寄贈された瓦ー瓦の咲く飛鳥資料館ー」		
会　　期	4月22日（金）～5月22日（土）(28日間)	会　場	飛鳥資料館　閲覧室
主　　催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	9点（0件）
来館者数	3,268人		
入場料金	一般350円　大学生200円　高校生及び18歳未満、70歳以上は無料		
講演会	ー		

展覧会名	夏期企画展「第13回写真コンテスト作品展「高松塚古墳」		
会　　期	7月15日（金）～9月11日（日）(51日間)	会　場	飛鳥資料館　特別展示室
主　　催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	76点（0件）
来館者数	2,912人		
入場料金	一般350円　大学生200円　高校生及び18歳未満、70歳以上は無料		
講演会	ー		

展覧会名	秋期特別展「飛鳥美人　高松塚古墳の魅力」		
会　　期	10月21日（金）～12月18日（日）(51日間)	会　場	飛鳥資料館　特別展示室
主　　催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	105点（0件）
来館者数	7,280人		
入場料金	一般350円　大学生200円　高校生及び18歳未満、70歳以上は無料		
講演会	ー		

展覧会名	冬期企画展「飛鳥の考古学2022」		
会　　期	5年1月20日（金）～3月12日（日）（45日間）	会　場	飛鳥資料館　特別展示室
主　　催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	82点（0件）
来館者数	3,360人		
入場料金	一般350円　大学生200円　高校生及び18歳未満、70歳以上は無料		
講演会等	2月11日(土)・3月4日(土)ギャラリートーク		

b ボランティア受入実績

1　受入人数

令和5年3月31日現在

国立文化財機構計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	奈良文化財研究所
699人	150人	40人	145人	243人	121人

2　活動内容

【東京国立博物館】　計150人

種別　（登録人数）	概　　要
生涯学習ボランティア （149人）	**1)各種教育普及事業の補助活動の充実を図る** 【教育普及事業の補助】 ・ワークショップの補助（6回）（キッズデーを除く） ・講演会のサポート（12回） ・本館特別4室「日本文化のひろば」対応（通年） ・東洋館6室オアシス「アジアの占い体験」実施（通年） ・本館19室みどりのライオン体験コーナー対応（通年） 【館内案内】 ・本館1階エントランス・2階1室前・17室での来館者対応（通年） 【資料印刷・作成】 ・点字パンフレットの印刷（16冊） ・WEB版たんけんマップの作成（2回） ・自主企画グループのウェブ新聞作成（1回） 【職場体験実施活動補助】 ・受入数：11校（中学校7校、高校4校）、生徒数31人（中学23人、高校8人） 【障がい者対応】 ・バリアフリー対応班の発足（46人） ・盲学校のためのスクールプログラムの実施（5回） ・バリアフリー班研修および受け入れ前打合せ（8回） 【各種連携事業】 ・「留学生の日」（10/1）内プログラム 英語ガイド（2回22人） ・「博物館でアジアの旅」（9/21-10/16）内プログラム 樹木ツアー（1回13人）、東洋館ツアー（ボランティア対象スライドトーク1回39人） ・「博物館でお花見を」 たてもの散歩ツアー（1回、20人） 樹木ツアー（1回、41人） 英語ガイド（1回、25人） 庭園茶室ツアー（1回、8人） 応挙館茶会（2回、23人） ・「トーハク月イチ！キッズデー」（12回実施） ワークショップ補助（129人） 4月10人、5月8人、6月10人、7月19人、8月9人、9月6人、10月10人、11月15人、12月12人 1月9人、2月11人、3月10人 イベントサポート（12回、計52人） キッズスペース運営サポート（12回、計41人） ボランティア企画子ども向けガイドツアー・イベント ・「アートスタジオ」（11回、90人） ・「こどもたてものさんぽツアー～たんけんマップをもって～」（16回、787人） ・「手遊び&ユリノキガイド」（7回、186人） ・「東洋館で探してみよう」（4回、489人） 【ボランティアデー開催】（12/3・4実施） ・ボランティア募集説明会（4回150人） ・ボランティアによる活動紹介ツアー（4回121人） ・たてもの散歩ツアー（2回88人） ・樹木ツアー（2回62人） ・応挙館茶会（2回30人） ・庭園茶室ツアー（2回23人） ・英語ガイド（2回47人） ・アートスタジオ（1回9人） ・自主企画グループのうち屋内ガイドツアーよるスライドトーク（各1回） 考古展示室ガイド（78人） 彫刻ガイド（89人） 陶磁ガイド（61人） 浮世絵ガイド（68人） 法隆寺宝物館ガイド（48人） 本館ハイライトツアー（95人）

種別 （登録人数）	概　　要
	近代の美術ガイド（58人） 東洋館ツアー（65人） 刀剣・武士の装いツアー（47人） **2)来館者向けガイドツアー** 新型コロナウイルス感染症の影響により一部中止していた屋外ガイドツアーとワークショップを再開。屋内ガイドツアーは、本館地下みどりのライオン教育普及スペースを使ってのスライドトークとして実施すべく、前段階としてボランティア向けの練習会兼研修を重ね、12月のボランティアデーと3月にはお客様向けスライドトークを実施。また、各自主企画グループの勉強会を実施した。 ＊数値は「留学生の日」「博物館でアジアの旅」「トーハク月イチ！キッズデー」「博物館でお花見を」を含む。 【ボランティア向けガイドツアー】4回のべ12人 ・庭園茶室ツアー（3回、9人） ・英語ガイド（1回、3人） 【ボランティア向けスライドトーク】38回のべ978人 ・考古展示室ガイド（2回、44人） ・彫刻ガイド（3回、72人） ・陶磁ガイド（4回、115人） ・浮世絵ガイド（6回、162人） ・法隆寺宝物館ガイド（3回、53人） ・本館ハイライトツアー（6回、158人） ・近代の美術ガイド（3回、89人） ・東洋館ツアー（8回、211人） ・刀剣・武士の装いツアー（3回、74人） 【来館者向けツアー】42回、793人 ・たてもの散歩ツアー（21回、532人） ・樹木ツアー（18回、390人） ・応挙館茶室（18回、169人） ・庭園茶室ツアー（11回、123人） ・英語ガイド（6回、27人） ・「アートスタジオ」（11回、90人） ・「こどもたてものさんぽツアー～たんけんマップをもって～」（16回、787人） ・「手遊び&ユリノキガイド」（7回、186人） ・「東洋館で探してみよう」（4回、489人） ・「近代の美術」（1回、45人） ・「浮世絵ガイド」（1回、63人） ・「彫刻ガイド」（1回、38人） 自主企画グループ勉強会（135回）
東京藝術大学大学院インターンシップ（1人）	新型コロナウイルスの影響を勘案し、事前練習などはオンラインで実施。また展示室でのトークを避け、本館地下教育普及スペースでのスライドトークとして実施した。 ・「技法と姿勢から読み解く『菩薩立像』」（3回186人） ※「東京藝術大学大学院インターンシップ」は、従前との比較のため、ボランティア数の内数として計上している。従前の「東京芸術大学学生ボランティア」を25年4月より名称変更し、現在は「1(3)① 3」大学との連携事業等の実施」の事業である。詳細は処理番号1313Aを参照。

【生涯学習ボランティアに対する研修の実施】　計57回
- 基本活動関連研修　6回（ボランティアデー活動紹介ツアー研修を含む）
- イベント班研修　2回
- バリアフリー班研修　8回
- ワークショップ班研修　3回
- スライドトーク研修　38回

【京都国立博物館】　　計40人

種　別 （登録人数）	概　　要
京博ナビゲーター（0人）	新型コロナウイルスの影響により活動を中止している。
調査・研究支援ボランティア(11人)	各研究員の指導のもと、調査・研究支援ボランティアが収蔵品調査及び社寺調査の補助を行った。
文化財ソムリエ(21人)	「文化財ソムリエ」として登録している大学生・大学院生が、当館研究員によるスクーリング（21回）を受けたのち、下記の活動で講師を務めた。 ・文化財に親しむ授業　7回・501人 ・記者体験in京都国立博物館　1回・60人
京都・らくご博物館学生ボランティア(8人)	当館主催で定期的に開催する「京都・らくご博物館」において、京都女子大学落語研究会の有志が運営に協力した。

【奈良国立博物館】　計145人

種　別　(登録人数)	概　　要
ならはくボランティア（145人）	【オンライン活動説明会の実施】 ・ボランティアを対象に活動説明会の実施　1回　※ウェブ会議アプリを利用しての実施 【学校プログラム「ならはく『世界遺産学習』」の活動】 ・奈良市世界遺産学習で来館する奈良市立小学校5年生の受け入れ　22校、1,432人 ・奈良市立小学校5年生以外の小・中学校・高校の受け入れ　8校、886人 【学校オンライン中継授業の実施】 ・奈良市世界遺産学習 小学校オンライン中継授業の実施　9回、298人 ・大分県連携事業 アバター（遠隔操作ロボット）を活用した中学校オンライン中継授業の実施　9回、276人 【オンライン交流学習の実施】 ・奈良市と大分県との連携事業　奈良市鼓阪北小学校5年生と大分県国東市立国見小学校5年生のオンライン交流学習の実施　2回、43人 【奈良市教育委員会共催事業　夏休み親子講座の活動】 ・夏休み親子講座「親子で学ぼう　奈良の仏像」　2回、110人 【わくわくびじゅつギャラリー「はっけん！ほとけさまのかたち」のワークショップ等の活動】 ・ワークショップ「ほとけさまに服を着せよう！」　78回、見学者数：2,709人、着つけ体験参加者数：502人 ・仏像をスケッチするワークショップ　おえかきギャラリーに掲示された絵の枚数：1,371枚 ・ワークシートの配布　39日、25,000部発行 ・ワークシートのクイズ答え合わせ対応　39日 【地下回廊ワークショップスペースにおける活動】 ・ワークショップ「ほとけさまに服を着せよう！」　12回、見学者数：1,045人、着つけ体験参加者数：284人 【庭園・茶室のガイド活動】 ・庭園改修お披露目式　6回、庭園入場者数：236人 ・11月定点ガイド　8回、庭園入場者数：2,111人 ・12月定点ガイド　4回、庭園入場者数：314人 ・3月定点ガイド　4回、庭園入場者数：637人 【講座のサポート活動】 ・サンデートーク　10回 ・公開講座　6回 ・夏季連続講座　4回 ・親子講座　2回 【その他サポート活動】 ・ワークショップの備品制作　1回 【各種練習の実施】 ・学校オンライン中継授業実施準備のための練習　9回 ・奈良市教育委員会共催事業　夏休み親子講座「親子で学ぼう　奈良の仏像」の練習　2回 ・わくわくびじゅつギャラリー「はっけん！ほとけさまのかたち」のワークショップ「ほとけさまに服を着せよう！」の練習　15回 ・庭園・茶室のガイド活動の練習　2回

【ボランティアに対する研修の実施】計30回
- ・活動に関する研修（Web会議アプリ利用形式・動画配信形式の2種の形式にて実施）計4回
- ・特別展等の研修（動画配信形式にて実施）計26回

【九州国立博物館】　計243人

種　別　(登録人数)	概　　要
展示解説ボランティア(54人)	文化交流展示室内及び展示室入口において来館者の質問や案内依頼等に対応。 予約団体(一般・学校)、当日受付(個人・グループ)に対応。
教育普及ボランティア(30人)	体験型展示室「あじっぱ」で来館者への対応。参加体験型のものづくり教室などを企画・実施。 来館者と展示物を介して交流し、体験を通してアジアの文化を伝える。
館内案内日本語ボランティア(30人)	館内の施設案内(ガイド)およびバックヤードツアーの案内。 予約団体(一般・学校)、及び当日来館者に対応。 バックヤードツアーは毎週火・金曜は予約団体のみ、日曜は当日受付で実施。
館内案内外国語ボランティア(44人)	英語・韓国語・中国語での施設案内(ガイド)及びバックヤードツアーの案内。
環境ボランティア(27人)	IPM(総合的有害生物管理)活動に関する支援。
資料整理ボランティア(8人)	郷土人形(土人形)の調書の作成・データ化。 体験型展示室「あじっぱ」内での郷土人形の展示。
イベント・サポートボランティア(7人)	ボランティア主催イベントや他館ボランティアとの交流の企画・立案・実施。 ボランティア広報紙の作成（年4回）。
学生ボランティア(6人)	高校生・大学生による子供向けイベントの企画・実施。 他館学生ボランティアとの連携。

種　別　（登録人数）	概　　要
フィールドボランティア（14人）	博物館周辺の自然環境（山林及び水辺、遊歩道）の保全。
手話ボランティアグループ（23人）	地域のボランティアグループにより構成。聴覚障がいのある来館者の対応。

【ボランティアに対する研修の実施】　計40回
- ・新規ボランティア研修　8回
- ・施設案内研修　15回
- ・展示案内研修　15回
- ・教育普及研修　2回

・この他博物館周辺の環境整備グループとして35人が活動（NPO法人「九州国立博物館を愛する会」所属のためボランティアには含まない）。

【奈良文化財研究所】　計121人

種　別　（登録人数）	概　　要
解説ボランティア（121人）	平城宮跡資料館、遺構展示館、復原建物等の案内・解説

・各種ボランティアに対する学習会等
平城宮跡資料館企画展・特別展の展示研修　5回
解説ボランティア向け現地説明会　0回
解説ボランティア勉強会　1回

c 調査研究

c-① 研究交流実績一覧

1) 海外研究者招聘・受入実績（延べ人数）

令和5年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
31 人	7 人	0 人	0 人	2 人	5 人
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	20 人	10 人		10 人	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	本部文化財活用センター		本部文化財防災センター	
	4 人	0 人		0 人	

【本部文化財活用センター】　0人

【本部文化財防災センター】　0人

【東京国立博物館】　0人

【京都国立博物館】　0人

【奈良国立博物館】　2人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	咸 舜燮	韓国	国立慶州博物館館長	第74回正倉院展視察並びに当館職員との意見交換のため	10月27日～10月29日
2	李 知原	韓国	国立慶州博物館学芸研究士	同上	同上

【九州国立博物館】　5人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	コ・ヨンミン	韓国	国立中央博物館　学芸研究士	特別展「加耶」に係る展示作業のため	5年1月16日～1月20日
2	李 秀美	韓国	国立中央博物館　学芸研究室長	特別展「加耶」に係る意見交換及び内覧会出席のため	5年1月23日
3	梁 成赫	韓国	国立中央博物館　学芸研究官	同上	同上
4	金 兌映	韓国	国立中央博物館　学芸研究士	特別展「加耶」に係る撤収作業及び輸送のため	5年3月19日～23日
5	金 鍾佑	韓国	国立中央博物館　学芸研究士	同上	同上

【東京文化財研究所】10人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	ウィリアム・メガリー	アイルランド	クィーンズ大学ベルファスト校・准教授	文化遺産国際協力コンソーシアム令和4年度シンポジウムの講演者・パネリストとして	10月21日～10月27日
2	サルマン・アル・マハリ	バーレーン	バーレーン国立博物館・館長	国際シンポジウム「考古学と国際貢献」および「バーレーン考古学をめぐって」の講演者として	12月9日～12月16日
3	ステファン・タップ・ラウルセン	デンマーク	モースゴー博物館・学芸員	同上	同上
4	ティモシー・インソール	英国	エクスター大学・教授	同上	同上
5	ピエール・ロンバル	フランス	バーレーン文化古物局・アドバイザー	同上	同上
6	ローラ・ヴィゴ	カナダ	モントリオール美術館東洋美術学芸員	在外日本古美術品保存修復協力事業による作品修理実施状況確認のため	5年1月24日～1月29日
7	崔淑慶	大韓民国	国立無形遺産院・学芸研究士	国立無形遺産院との研究交流事業に係る受入	11月24日～12月12日
8	レミー・ドレフュス＝デュセーニュ	フランス	紙本修復家/ワークショップ講師	「文化財修復処置に関するワークショップ -ナノセルロースの利用について-」での講師	10月3日～10月11日
9	プラヴァチラダムメディ・テッペンボディラック	タイ	ワット・ラーチャプラディットサティマハシマラム副住職	タイ所在日本製漆工品に関する調査研究	11月10日
10	富井玲子	米国	ポンジャ現懇主宰	アーカイブズの研究活用、情報発信に関する研究会	5年3月15日～3月16日

【奈良文化財研究所】10人

※部分について…各国の個人情報保護に関する法律等により氏名は非公開とする。

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	方国花	大韓民国	慶北大学校人文学術院・HK研究教授	日韓木簡共同研究のため	5月23日～5月24日
2	DEEPIKA PANDEY	インド	独立研究者	共同研究協議・共同分析実験	6月27日～7月12日
3	※	米国	カルフォルニア大学大学院生	研究協力の一環として、資料整理、現地調査及び研究会参加	7月11日～7月25日
4	※	英国	ケンブリッジ大学 4名	長期人間文化・生物動態の計算解析の研究のため	4月12日～5月18日
5	※	英国	ケンブリッジ大学	長期人間文化・生物動態の計算解析の研究のため	4月26日～5月27日
6	※	英国	セインズベリー日本藝術研究所	共同研究継続の打ち合わせ	7月25日
7	※	カザフスタン	IICAS	文化遺産国際協力拠点交流事業『ウズベキスタンにおける考古遺産の科学的調査に関する技術移転を目的とした拠点交流事業』第1回招へい研修	5年1月12日～24日
8	※	ウズベキスタン	国立サマルカンド考古学研究所　4名	令和4年度文化遺産国際協力拠点事業　考古遺物の科学的調査に関するセミナーに参加するため	5年1月18日～26日
9	※	英国	York大学　ほか1名	ENCOUNTERプロジェクトのため	5年3月26日～4月4日
10	※	英国	York大学	ENCOUNTERプロジェクトのため	5年3月26日～4月11日

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　4人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	Im Sokrithy	カンボジア	Director, Department of Research Training and Communication, APSARA National Authority (ANA)	SDGs事業専門家会議、及び国際シンポジウム「無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する調査研究 -持続可能なまちづくりと無形文化遺産」への出席	5年1月29日～2月5日
2	Ming Chee Ang	マレーシア	General Manager, George Town World Heritage Incorporated (GTWHI)	SDGs事業専門家会議、及び国際シンポジウム「無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する調査研究 -持続可能なまちづくりと無形文化遺産」への出席	5年1月29日～2月5日
3	Meredith Wilson	オーストラリア	Heritage consultant	国際シンポジウム「無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する調査研究 -持続可能なまちづくりと無形文化遺産」への出席	5年1月31日～2月6日
4	Dilshod Rahimi	タジキスタン	Head, the ICH Center, he Research Institute of Culture and Information of the Ministry of Culture (RICI)	国際シンポジウム「無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する調査研究 -持続可能なまちづくりと無形文化遺産」への出席	5年1月30日～2月4日

2）他機関の共同研究への参画実績

科学研究費助成事業の研究分担者等として参画（延べ人数）

令和5年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
176人	80 人	32人	17人	16人	15人
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	95 人	38人		57人	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター				
	1 人				

【東京国立博物館】延べ　32人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	大阪大学	光学的科学調査を軸とした初期洋風画とアジア太平洋海域美術交通に関する基盤的研究	教授　岡田 裕成	企画課特別展室研究員　福島　修
2	九州国立博物館	東南アジアにおける聖地誕生の諸相：古代から近世にいたる仏教文化交流網の研究（基盤研究B）	副館長　小泉 惠英	企画課長　原田あゆみ
3	九州国立博物館	公武の信仰を統合した足利将軍家の宗教政策からみる室町時代の宗教絵画の包括的研究	主任研究員　畑靖紀	列品管理課平常展調整室研究員　古川攝一
4	九州国立博物館	人類遺産としての先史壁画の保存と公開活用にむけた研究基盤の確立	学芸部長　河野一隆	調査研究課考古室研究員　山本亮
5	京都国立博物館	博物館史資料アーカイブズを活用したメタ文化財情報構築の検討	学芸部列品管理室長　羽田聡	特任研究員　田良島哲
6	京都国立博物館	高雄曼荼羅の復元と空海の造形観の研究	館長　松本伸之	列品管理課長　沖松健次郎
7	公益財団法人古代学協会	弥生時代高地性集落の列島的再検証	客員研究員　森岡秀人	調査研究課考古室研究員　山本亮
8	国立歴史民俗博物館	歴博共同研究「秦漢時期の文字使用をめぐる学際的研究」	東京学芸大学准教授　下田誠	客員研究員　谷豊信
9	筑波大学	「儒教美術史」構築のための発展的研究―東アジア文化圏の構造解釈と研究資源化	助教　水野裕史	上席研究員　勝木言一郎
10	筑波大学	「儒教美術史」構築のための発展的研究―東アジア文化圏の構造解釈と研究資源化	助教　水野裕史	列品管理課長　沖松健次郎
11	筑波大学	恒久的保存に向けた災害被災資料の特性解明と保存環境の構築	教授　松井敏也	保存修復課長　和田浩
12	天理大学	後期青銅器時代における地中海東岸地域の都市国家と地域社会の考古学的研究	教授　桑原久男	列品管理課平常展調整室主任研究員　小野塚拓造
13	天理大学	地中海東岸地域における青銅器・鉄器時代移行期の再検討	教授　桑原久男	列品管理課平常展調整室主任研究員　小野塚拓造
14	東京藝術大学	基盤研究(C)美術解剖学教育の交流と展開 ―独、UK、USA、NZの教育・研究の比較を通して	助教 宮永美知代	上席研究員　木下史青
15	東京大学史料編纂所	基盤研究（A）「コンテキストに応じた人文科学データパッケージ化に関する研究」	教授　山家浩樹	博物館情報課情報管理室長　阿児雄之
16	東京大学史料編纂所	東博所蔵写真史料（高精細データ）の解析	教授　箱石大	博物館情報課情報資料室主任研究員　遠藤楽子
17	東京文化財研究所	基盤研究（Ａ）アジア螺鈿文化交流史の構築―物質文化史の視点から	文化財情報資料部広領域研究室長・小林公治	企画課特別展室長・猪熊兼樹
18	名古屋大学	中世拠点寺院の蔵書と美術に基づく人と知のネットワーク解明	教授　近本謙介	保存修復課保存修復室長　瀬谷愛
19	奈良国立博物館	明治時代の文化財保護法制と帝国博物館の成立に関する総合的研究	情報サービス室長　宮崎幹子	特任研究員　田良島哲
20	奈良文化財研究所	埴輪の生産・流通体制の総合的検証にもとづく王権中枢部巨大古墳群造営過程の解明	都城発掘調査部考古第一研究室長　廣瀬覚	調査研究課考古室研究員　山本亮
21	奈良文化財研究所	南都の未整理文書聖教にもとづく寺社とその周辺社会の調査研究	歴史研究室長　吉川聡	調査研究課東洋室主任研究員　児島大輔
22	南山大学	芸術との対話を経た公共圏の形成過程に関する実証研究	講師　佐々木陽子	博物館教育課教育講座室研究員　山本　桃子
23	新潟国際情報大学	須恵器3D-RGBデータの深層学習クラスター解析による型式・年代分類基準の検証	教授　藤田晴啓	調査研究課考古室研究員　山本亮
24	慶應義塾大学	美術品輸送梱包試験への超軽量無線センサ適用の可能性検	教授　三次仁	保存修復課長　和田浩

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
		討		
25	国立歴史民俗博物館	研究プロジェクト日本歴史文化知の構築と歴史文化オープンサイエンス研究」	准教授　後藤真	博物館情報課情報管理室長　阿児雄之
26	成城大学	東アジア及び東南アジアにおける木彫像の樹種と用材観に関する調査研究	教授　岩佐光晴	貸与特別観覧室研究員　西木政統
27	中央大学	高精度年代体系による東アジア新石器文化過程－地域文化の成立と相互関係－	教授　小林謙一	保存修復課調査分析室長　鳥越俊行
28	中央大学	高精度年代体系による東アジア新石器文化過程－地域文化の成立と相互関係－	教授　小林謙一	保存修復課調査分析室専門職　宮田将寛
29	東京外国語大学	東南アジア「古代史」の下限としての14・15世紀に関する地域・分野横断的研究（基盤研究A）	副学長　青山 亨	企画課長　原田あゆみ
30	東京文化財研究所	アジア螺鈿文化交流史の構築―物質文化史の視点から	文化財情報資料部特任研究員 小林公治	保存修復課調査分析室長　鳥越俊行
31	奈良国立博物館	高雄曼荼羅の復元と空海の造形観の研究	館長　松本伸之	保存修復課長　和田浩
32	Hebrew University of Jerusalem	An Egyptian Outpost at Tel Zeror?	Professor　Naama Yahalom-Mack	列品管理課平常展調整室主任研究員　小野塚拓造

【京都国立博物館】延べ　17人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	東京国立博物館	失われた古代・中世絵巻の復元的研究-作品伝来情報の検討から-	学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室長　土屋貴裕	学芸部企画室研究員　井並林太郎
2	奈良文化財研究所	古代都城から出土する製塩土器の生産地推定	都城発掘調査部室長　神野恵	学芸部長　尾野善裕
3	奈良文化財研究所	蛍光Ｘ線分析と鉱物組成分析による大和の古代寺院・宮都出土瓦の生産・供給体制の研究	都城発掘調査部副部長 清野孝之	学芸部保存科学室長　降幡順子
4	国際仏教学大学院大学	「奈良朝勅定一切経」の総合的研究ー漢文仏教テクストの資料的基盤の再構築に向けて	仏教学研究科教授　落合俊典	学芸部美術室研究員　上杉智英
5	東京文化財研究所	アジア螺鈿文化交流史の構築―物質文化史の視点から	研究員　小林公治	学芸部工芸室主任研究員 末兼俊彦
6	国際仏教学大学院大学	日本現存宋版大蔵経の基礎的研究とその受容・展開に関する総合的な研究	日本古写経研究所研究員 牧野和夫	学芸部美術室研究員　上杉智英
7	東北学院大学	平泉仏教文化の諸相とその社会的基盤に関する資料学的研究	文学部教授　七海雅人	学芸部美術室研究員　上杉智英
8	国文学研究資料館	金剛寺摩尼院聖教の調査を基盤とした日本中世の宗教的知の流通と蔵書形成に関する研究	研究部教授　海野圭介	学芸部美術室研究員　上杉智英
9	東京文化財研究所	白鳳時代の壁画の構造と材料に関する研究	保存科学研究センター室長 犬塚将英	学芸部保存科学室長　降幡順子
10	京都大学	五台山仏教文化圏における文物の生成・継承・波及	人文科学研究所教授 稲本泰生	学芸部保存修理指導室長 大原　嘉豊
11	同上	同上	同上	学芸部企画室研究員　井並林太郎
12	奈良県立橿原考古学研究所	三次元デジタル・アーカイブを活用した青銅器製作技術解明の総合的研究	企画部資料課課長　水野敏典	研究員　古谷毅
13	東京国立博物館	仏教儀礼的観点に基づく明兆作品の総合的研究	学芸企画部企画課特別展室 研究員　高橋真作	学芸部美術室研究員　森道彦
14	山形大学	壬辰戦争期、豊臣秀吉＝日本国王冊封のために贈られた明朝箚付・冠服類の総合的研究	人文社会科学部教授　新宮学	学芸部企画室長　山川曉
15	三重大学	日本古代の都市造営をめぐる土木技術史的研究	人文学部教授　小澤毅	学芸部考古室長 石田由紀子
16	東京大学	中世絵師組織の社会的活動基盤と様式系統の相関―十四世紀の縁起・絵伝を結節点として	大学院人文社会系研究科教授 高岸輝	学芸部企画室研究員　井並林太郎
17	富山大学	承久の乱を中心とした史料原本の基礎研究による中世前期公武関係論の基盤構築	学術研究部人文科学系講師 長村祥知	学芸部工芸室主任研究員 末兼俊彦

【奈良国立博物館】延べ　16人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	九州大学	唐絵の中の朝鮮絵画－半島由来絵画の越境移動と受容史にかんする包括的研究－	教授　井手誠之輔	教育室長　谷口耕生
2	同上	同上	同上	情報サービス室主任研究員 北澤菜月
3	東京文化財研究所	アジア螺鈿文化交流史の構築-物質文化史の視点から-	研究員　小林公治	保存修理指導室　アソシエイトフェロー　安藤真理子
4	島根大学	器物の「伝世・長期保有」・「復古再生」の実証的研究と倭における王権の形成・維持	准教授　岩本崇	学芸部長　吉澤　悟

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
5	北九州市立自然史・歴史博物館	藕糸織の基礎的研究－非破壊調査による藕糸織の再検討を中心に－	学芸員　富岡優子	情報サービス室主任研究員 北澤菜月
6	京都大学	五台山仏教文化圏における文物の生成・継承・波及	教授　稲本泰生	教育室長　谷口　耕生
7	多摩美術大学	在米の仏像と仏具およびアーカイブ調査―寺宝流出と古美術商、収集家の関係とその実態	教授　木下京子	企画室主任研究員　山口隆介
8	同上	同上	同上	工芸考古室研究員　三本周作
9	京都国立博物館	高雄曼荼羅の復元と空海の造形観の研究	館長　松本伸之	列品室長　斎木　涼子
10	東京国立博物館	大谷探検隊将来品を中心とした西域美術の再評価に関する研究	学芸研究部上席研究員 勝木言一郎	保存修理指導室長　荒木臣紀
11	東京国立博物館	ユーラシア草原地帯と東アジアの青銅器鋳造技術の比較研究	客員研究員　高浜秀	保存修理指導室長　荒木臣紀
12	東京国立博物館	仏教儀礼的観点に基づく明兆作品の総合的研究	学芸企画部企画課特別展室 研究員　高橋真作	保存修理指導室長　荒木臣紀
13	東京国立博物館	能狂言面の制作年代および作者に関する総合的研究	学芸企画部長　浅見龍介	工芸考古室主任研究員　三田　覚之
14	東京国立博物館	ユーラシア草原地帯と東アジアの青銅器鋳造技術の比較研究	研究員　高浜秀	保存修理指導室長　荒木　臣紀
15	京都府立大学	古墳・副葬品の多角的検討にもとづく日本列島初期仏教受容史の再構築	准教授　諫早直人	工芸考古室主任研究員 三田　覚之
16	東京文化財研究所	シミ科未記載種の国内分布の実態調査と生態学的特徴に基づく防除方法の検討	保存科学研究センター　アソシエイトフェロー　島田潤	保存修理指導室　アソシエイトフェロー　小峰　幸夫

【九州国立博物館】　延べ　15人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	京都国立博物館	高雄曼荼羅の復元と空海の造形観の研究	館長　松本伸之	副館長　小泉惠英
2	同上	同上	同上	学芸部企画課長　伊藤信二
3	国立民族学博物館	博物館における持続可能な資料管理および環境整備－保存科学の視点から	人類基礎理論研究部教授 園田直子	学芸部博物館科学課長（兼）環境保全室長　木川りか
4	九州大学	唐絵の中の朝鮮絵画―半島由来絵画の越境移動と受容史にかんする包括的研究―	人文科学研究院教授 井手誠之輔	学芸部文化財課資料登録室長 森實久美子
5	同上	同上	同上	学芸部文化財課資料管理室主任研究員　畑靖紀
6	大阪大学	地方基幹寺院に於ける文献資料調査と経蔵ネットワークの研究	文学研究科招へい研究員 中山一麿	学芸部文化財課資料登録室長 森實久美子
7	東京国立博物館	失われた古代・中世絵巻の復原的研究－作品伝来情報の検討から－	学芸研究部調査研究課 絵画・彫刻室長　土屋貴裕	学芸部博物館科学課保存修復室 主任研究員　鷲頭桂
8	筑波大学	「儒教美術史」構築のための発展的研究―東アジア文化圏の構造解釈と研究資源化	芸術系助教　水野裕史	学芸部博物館科学課保存修復室 主任研究員　鷲頭桂
9	大阪大学	光学的科学調査を軸とした初期洋風画とアジア太平洋海域美術交通に関する基礎的研究	文学研究科教授　岡田裕成	学芸部博物館科学課保存修復室 主任研究員　鷲頭桂
10	同上	同上	同上	学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史
11	同上	同上	同上	学芸部企画課文化交流展室アソシエイトフェロー　杉田真菜
12	奈良県立橿原考古学研究所	日本における初期王陵の実態解明－「国産化という産業革命」の視点から－	副所長　岡林孝作	学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史
12	奈良大学	黄銅（鍮石・真鍮）の歴史とその伝来の道「Brass Road」の研究	名誉教授　西山要一	学芸部企画課特別展室主任研究員　望月規史
14	東京文化財研究所	シミ科未記載種の国内分布の実態調査と生態学的特徴に基づく防除方法の検討	保存科学研究センター　アソシエイトフェロー　島田潤	学芸部博物館科学課長（兼）環境保全室長　木川りか
15	同上	同上	同上	学芸部博物館科学課環境保全室研究員　渡辺祐基

【東京文化財研究所】延べ　38人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	奈良大学	黄銅（鍮石・真鍮）の歴史とその伝来の道「Brass Road」の研究	名誉教授　西山　要一	副所長　早川　泰弘
2	京都国立博物館	備前児島の野崎家に伝わる文化財の総合調査：塩田王の美術コレクション	学芸部教育室長　永島　明子	文化財情報資料部　室長　安永　拓世
3	九州国立博物館	在外日本美術の保存修復技法の比較調査と国際的な保存活用に向けて	館長　島谷　弘幸	保存科学研究センター　室長　早川典子
4	九州国立博物館	在外日本美術の保存修復技法の比較調査と国際的な保存活用に向けて	館長　島谷　弘幸	文化財情報資料部　室長　安永　拓世

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
5	九州国立博物館	在外日本美術の保存修復技法の比較調査と国際的な保存活用に向けて	館長　島谷　弘幸	保存科学研究センター　研究員　倉島　玲央
6	東京外国語大学	「コロナ状況」下で育まれる芸能―危機への応答・身体性をめぐる交渉・社会との関係	アジア・アフリカ言語文化研究所　准教授　吉田 ゆか子	無形文化遺産部　室長　前原　恵美
7	九州大学	中世の気候異常期におけるエルニーニョとリモートオセアニアへの人類拡散	理学研究院　助教　山崎　敦子	無形文化遺産部　室長　石村　智
8	龍谷大学	文化財建造物の伝統的塗装彩色材料・技術の系譜解明と修理施工・資料活用に関する研究	文学部　教授　北野　信彦	保存科学研究センター　保存環境研究室付　吉田　直人
9	和光大学	デジタルアーカイブ時代における１９６０ー７０年代の芸術表現の拡張に関する研究	表現学部　教授　松枝　到	文化財情報資料部　室長　橘川　英規
10	和光大学	デジタルアーカイブ時代における１９６０ー７０年代の芸術表現の拡張に関する研究	表現学部　教授　松枝　到	文化財情報資料部　客員研究員　三上　豊
11	東京国立博物館	失われた古代・中世絵巻の復原的研究―作品伝来情報の検討から―	学芸研究部調査研究課　室長　土屋　貴裕	文化財情報資料部　室長　安永　拓世
12	天理大学	後期青銅器時代における地中海東岸地域の都市国家と地域社会の考古学的研究	文学部　教授　桑原　久男	文化遺産国際協力センター　客員研究員　間舎　裕生
13	東北芸術工科大学	三内丸山遺跡の土遺構の保存に関する総合的研究	文化財保存修復研究センター　研究員　石崎　武志	保存科学研究センター　室長　佐藤　嘉則
14	大阪大学	美術市場とその国際化に関する制度論的、交流史的研究。西洋から日本・アジアへの展開	文学研究科　教授　圀府寺　司	文化財情報資料部　室長　安永　拓世
15	公益財団法人元興寺文化財研究所	地球温暖化による劇的環境変動に適応した石造文化遺産の調査・保存法の総合的研究	所長　田邉　征夫	保存科学研究センター　室長　朽津　信明
16	奈良県立橿原考古学研究所	文化遺産を構成する煉瓦の微生物による劣化機構に関する研究	企画学芸部資料課　主任研究員　河﨑　衣美	保存科学研究センター　客員研究員　片山　葉子
17	東海大学	「模する」技術の発展と伝統的習俗の変容についての学際的研究	工学部　助教　野口　直人	無形文化遺産部　主任研究員　今石　みぎわ
18	愛知県立芸術大学	膠を中心とする伝統的材料の持続性に関する調査研究および研究ネットワーク形成	美術学部　元教授　北田　克己	保存科学研究センター　室長　早川　典子
19	愛知県立芸術大学	膠を中心とする伝統的材料の持続性に関する調査研究および研究ネットワーク形成	美術学部　元教授　北田　克己	保存科学研究センター　客員研究員　宇高　健太郎
20	金沢大学	中東部族社会の起源：アラビア半島先原史遊牧文化の包括的研究	古代文明・文化資源学研究センター　特任教授　藤井 純夫	文化遺産国際協力センター　主任研究員　安倍　雅史
21	岡山大学	心・身体・社会をつなぐアート/技術	文明動態学研究所　教授　松本　直子	無形文化遺産部　室長　石村　智
22	早稲田大学	ネクロポリス・テーベにおける岩窟墓のライフ・ヒストリー	文学学術院　教授　近藤　二郎	文化遺産国際協力センター　主任研究員　前川　佳文
23	東海大学	天文学との連携にもとづく考古学・古代史学研究法の構築	文学部　教授　北條 芳隆	無形文化遺産部　室長　石村　智
24	京都大学	歴史的組積造建物及び遺跡の塩類風化メカニズム解明と予防的保存対策の開発	工学研究科　教授　小椋　大輔	保存科学研究センター　研究員　水谷　悦子
25	大谷大学	モンゴルの世界遺産ブルカン・カルドゥン山に関する歴史文献学及び文化遺産学的研究	社会学部　教授　松川　節	文化財情報資料部　室長　二神　葉子
26	学習院大学	平等院鳳凰堂空間の荘厳と機能に関する総合的研究	文学部　皿井　舞	文化財情報資料部　専門職員　城野　誠治
27	沖縄国際大学	葬墓制資料に基づく近世琉球社会史の学際的研究	総合文化学部　准教授　宮城 弘樹	文化遺産国際協力センター　主任研究員　前川　佳文
28	筑波大学	恒久的保存に向けた災害被災資料の特性解明と保存環境の構築	芸術系　教授　松井　敏也	保存科学研究センター　センター長　建石　徹
29	筑波大学	恒久的保存に向けた災害被災資料の特性解明と保存環境の構築	芸術系　教授　松井　敏也	保存科学研究センター　客員研究員　片山　葉子
30	筑波大学	アンコール遺跡群における石材烈火の新展開とその集学的研究	芸術系　教授　松井　敏也	保存科学研究センター　客員研究員　片山　葉子
31	東京学芸大学	デジタル・アーカイブの拡充と発展的活用に向けた最盛期義太夫節浄瑠璃作品の研究	教育学部　教授　黒石　陽子	無形文化遺産部　特任研究員　飯島　満
32	天理大学	地中海東岸地域における青銅器・鉄器時代移行期の再検討	文学部　教授　桑原　久男	文化遺産国際協力センター　客員研究員　間舎　裕生
33	東京藝術大学	絹本著色絵画の技法史的展開に関する研究	社会連携センター　専門研究員　京都　絵美	保存科学研究センター　室長　早川　典子
34	東京国立博物館	高精細Ｘ線ＣＴスキャナ活用を中心とする古代中国の封泥の作成方法に関する総合的研究	学芸研究部　客員研究員　谷　豊信	保存科学研究センター　室長　犬塚　将英
35	宮城学院女子大学	木質材料の循環による文化財保存環境システム構築	学芸学部　非常勤講師　及川　規	保存科学研究センター　研究員　芳賀　文絵
36	総合地球環境学研究所	オマーン南部海港都市の脆弱な社会環境下にあるリビングヘリテージの復興と継承	経営推進部　准教授　近藤　康久	無形文化遺産部　室長　石村　智

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
37	東京国立博物館	古代壁画物理モデル構築に向けての探索的研究	学芸研究部保存修復課　課長 和田　浩	保存科学研究センター　研究員　水谷　悦子
38	愛媛大学	セルロースナノファイバーを活用した放射線防護材料の開発	紙産業イノベーションセンター 教授　薮谷 智規	保存科学研究センター　アソシエイトフェロー　西田　典由

【奈良文化財研究所】延べ　57人

○科学研究費補助金　延べ　45人

	機関名	研究課題	代表者名	分担者名
1	帝京大学	シルクロードの国際交易都市スイヤブの成立と変遷－農耕都市空間と遊牧民世界の共存－	教授　山内　和也	都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区） 主任研究員 山藤　正敏
2	東京大学	統合史資料画像データの生成と駆動方式の確立による人文科学研究基盤の創出	准教授　山田　太造	都城発掘調査部（平城地区） 史料研究室長 馬場　基
3	東京大学	デジタル技術による金石文史料の研究資源化と学融合的歴史叙述への応用研究	准教授　菊地　大樹	埋蔵文化財センター 研究員 上椙　英之
4	国際仏教学大学院大学	「奈良朝勅定一切経」の総合的研究ー漢文仏教テクストの資料的基盤の再構築に向けて	教授　落合　俊典	都城発掘調査部（平城地区） 客員研究員 杉本　一樹
5	東京大学	コンテキストに応じた人文科学データパッケージ化に関する研究	教授　山家　浩樹	都城発掘調査部（平城地区） 史料研究室長 馬場　基
6	東北大学	石材構築文化財の保全のための３次元デジタルアーカイブの標準化の研究	教授　藤澤　敦	埋蔵文化財センター長 金田　明大
7	東京大学	筆跡・花押情報の高度利活用研究―収集スキームの錬成と関連歴史情報との統合による―	教授　末柄　豊	都城発掘調査部（平城地区） 主任研究員 桑田　訓也
8	東京医療保健大学	東ユーラシア東辺における古代食の多角的視点による解明とその栄養価からみた疾病	教授　三舟　隆之	都城発掘調査部（平城地区） 史料研究室長 馬場　基
9	同上	同上	同上	都城発掘調査部（平城地区） 主任研究員 小田　裕樹
10	同上	同上	同上	埋蔵文化財センター 環境考古学研究室長 山崎　健
11	同上	同上	同上	都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区） 考古第二研究室長 森川　実
12	同上	同上	同上	企画調整部 国際遺跡研究室長 庄田　慎矢
13	近畿大学	東アジア古代都城と都市網の宗教空間に関する総合的・比較史的研究	教授　網　伸也	都城発掘調査部（平城地区） 主任研究員 小田　裕樹
14	筑波大学	クメール王朝の都市構造と社会基盤の解明－高精度地形情報を利用した実査より	准教授　下田　一太	企画調整部 主任専門職 佐藤　由似
15	鹿児島大学	「ボカシの文化」にメスを入れる	教授　高宮 広土	企画調整部 国際遺跡研究室長 庄田　慎矢
16	立命館大学	実世界大規模構造物の形状理解のための，３次元計測ビッグデータの超高精細可視化	教授　田中　覚	埋蔵文化財センター 研究員 山口　欧志
17	埼玉大学	草原地帯における輸送動物出現とモニュメント築造からみた社会複雑化研究	准教授　中村　大介	都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区） 主任研究員 田村　朋美
18	東京大学	荘園絵図調査・解析方法に関する総括的研究と汎用的な歴史地理情報への応用研究	准教授　井上　聡	企画調整部 主任研究員 高田　祐一
19	立命館大学	簡牘の形態に関する新研究：三次元形態解析による古文書学・考古学・年輪年代学の融合	教授　鷹取　祐司	埋蔵文化財センター 研究員 山口　欧志
20	同上	同上	同上	埋蔵文化財センター 年代学研究室長 星野　安治
21	同上	同上	同上	都城発掘調査部（平城地区） 研究員 浦　蓉子
22	公益財団法人元興寺文化財研究所	地球温暖化による劇的環境変動に適応した石造文化遺産の調査・保存法の総合的研究	所長　田邉　征夫	埋蔵文化財センター長 金田　明大
23	沖縄国際大学	小規模島嶼群における文化適応と潜在性の考古学的研究	准教授　新里　貴之	企画調整部 国際遺跡研究室長 庄田　慎矢
24	島根大学	器物の「伝世・長期保有」・「復古再生」の実証的研究と倭における王権の形成・維持	准教授　岩本　崇	都城発掘調査部(平城地区) 主任研究員 川畑　純
25	三重大学	日本古代の都市造営をめぐる土木技術史的研究	教授　小澤　毅	都城発掘調査部（平城地区） 考古第三研究室長 今井　晃樹
26	京都橘大学	日本古代土器の複眼的編年検証に基づく通時代的特質の解明	准教授　中久保　辰夫	都城発掘調査部（平城地区） 主任研究員 小田　裕樹
27	東北大学	新たな長期年輪幅標準年輪曲線ネットワークの構築とそのオープンアクセス化	助教　大山　幹成	埋蔵文化財センター 年代学研究室長 星野　安治
28	東京文化財研究所	白鳳時代の壁画の構造と材料に関する研究	分析科学研究室長 犬塚　将英	副所長 高妻　洋成
29	東北大学	中世禅院を拠点に流通した建築の形態・空間・技法に関する学際的・対外交渉史的研究	准教授　野村　俊一	都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区） 主任研究員 鈴木　智大
30	明治大学	璽印・ガラス・鉄器からみた西暦１～３世紀日本列島～東アジアの広域交流の重層性	専任教授　石川　日出志	都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区） 主任研究員 田村　朋美
31	同上	同上	同上	都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区） 研究員 谷澤　亜里

	機関名	研究課題	代表者名	分担者名
32	早稲田大学	出土陶磁器と交易関連文書に基づく前近代日本＝カンボジア間交易・交流史の復元研究	教授　田畑　幸嗣	企画調整部 主任専門職 佐藤　由似
33	奈良県立橿原考古学研究所	古墳時代における甲冑製作および生産組織の実態解明	主査　吉村　和昭	企画調整部 客員研究員 小林　謙一
34	名古屋大学	三関周辺における古墳時代から古代の地域動態に関する総合的研究	教授　梶原　義実	都城発掘調査部（平城地区） 史料研究室長 馬場　基
35	京都大学	ＡＩ（人工知能）による縄文土器型式の識別システムの構築と未知の縄文土器系統の創造	准教授　千葉　豊	埋蔵文化財センター 客員研究員 髙野　紗奈江
36	京都府立大学	古墳・副葬品の多角的検討にもとづく日本列島初期仏教受容史の再構築	准教授　諫早　直人	都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区） 考古第一研究室長 廣瀬　覚
37	同上	同上	同上	飛鳥資料館 学芸室長 石橋　茂登
38	帝京大学	牛馬文化の系譜と変容 - 動物遺体分析の限界を克服する複合的アプローチ -	准教授　植月　学	企画調整部 国際遺跡研究室長 庄田　慎矢
39	北陸学院大学	和食の成立過程の解明:　湯取り法炊飯からウルチ米蒸しへの転換過程	教授　小林　正史	都城発掘調査部（平城地区） 主任研究員 小田　裕樹
40	立命館大学	初期国家形成期における山城地域の地域開発と地方政体の成長に関する包括的研究	教授　長友　朋子 （中村　朋子）	都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区） 考古第一研究室長 廣瀬　覚
41	同上	同上	同上	都城発掘調査部（平城地区） 主任研究員　川畑　純
42	国立歴史民俗博物館	航路・寄港地から見た倭と古代朝鮮の交渉史に関する日韓共同研究	教授　高田　貫太	都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区） 考古第一研究室長 廣瀬　覚
43	東北大学	古代の出土文化財が教えてくれる1000年超の腐食寿命予測モデル	教授　渡辺　豊	埋蔵文化財センター 研究員 柳田　明進
44	金沢大学	中国文明起源解明の新・考古学イニシアティブ	教授　中村　慎一	企画調整部 国際遺跡研究室長 庄田　慎矢
45	南山大学	三次元データベースと数理解析・モデル構築による分野統合的研究の促進	准教授　中尾　央	埋蔵文化財センター長 金田　明大

○学術研究助成基金助成金　延べ　12人

	機関名	研究課題	代表者名	分担者名
1	大阪大学	東部モンゴル新発見の突厥・ウイグル期の定住遺跡に関する歴史・考古学的調査研究	教授　大澤　孝	埋蔵文化財センター 研究員 山口　欧志
2	奈良大学	3Dデータを利用した東アジアにおける文化遺産の保存と活用	教授　今津　節生	副所長 高妻　洋成
3	島根大学	弥生・古墳時代併行期における日韓年代論の再構築と対外交渉の実証的研究	准教授　平郡達哉	都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区） 研究員 松永　悦枝
4	同上	同上	同上	都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区） 研究員 谷澤　亜里
5	鹿児島国際大学	超・高密度三次元発掘記録法（悉皆的3D発掘）の開拓と展開を目指す実践的研究	教授　中園　聡	埋蔵文化財センター 客員研究員 平川　ひろみ
6	京都国立博物館	御室仁清窯跡出土陶片の科学的特徴－野々村仁清が受容した生産技術と陶工必用－	学芸部保存科学室長 降幡　順子	文化遺産部 歴史研究室長 吉川　聡
7	身延山大学	旧石器時代の食料資源究明に関する基礎研究	講師　　保坂 康夫	企画調整部 国際遺跡研究室長 庄田　慎矢
8	早稲田大学	衛星画像のGIS分析に基づく唐代都城中枢部の構造比較と設計原理の考古学的研究	教授　城倉　正祥	都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区） 主任研究員 山藤　正敏
9	近畿大学	X線CTを用いた多孔質材料内部の歪の分布測定と熱＆水分移動・応力・歪連成解析	准教授　安福　勝	埋蔵文化財センター 保存修復科学研究室長 脇谷　草一郎
10	大阪市立自然史博物館	自然史系文化財を社会の中で維持・保全できるか？次世代ネットワーク管理の模索	課長代理　佐久間　大輔	埋蔵文化財センター 客員研究員 松崎　哲也
11	埼玉大学	深層学習を用いた画像診断による玉類の産地同定の簡易化研究	准教授　中村　大介	都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区） 主任研究員 田村　朋美
12	東京国立博物館	古代壁画物理モデル構築に向けての探索的研究	学芸研究部保存修復課長 和田　浩	埋蔵文化財センター 保存修復科学研究室長 脇谷　草一郎

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】延べ　1人

	機関名	研究課題	代表者名	分担者名
1	放送大学	人工的環境の構築と時空間認知の発達	准教授　鶴見　英成	研究担当室長　野嶋洋子

3）研究者海外派遣実績（延べ人数）

令和5年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
123人	25 人	7人	0人	6人	12人
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	81 人	48人		33人	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	本部文化財活用センター		本部文化財防災センター	
	13 人	0 人		4 人	

【本部文化財活用センター】延べ　0人

【本部文化財防災センター】延べ　4 人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	髙妻　洋成	チェコ	8月19日～8月25日	ICOMプラハ大会出席、Committees Meetings「DRMC Museum Techniques and Risk management」での発表	運営費交付金	
2	小谷　竜介	チェコ	8月19日～8月25日	ICOMプラハ大会出席、Committees Meetings「DRMC Museum Techniques and Risk management」での発表	運営費交付金	
3	建石　徹	韓国	11月10日～11月11日	韓国文化財保存科学会での発表、韓国国立現代美術館における文化財防災、保存修復研究等に関する視察	運営費交付金	
4	鷲頭　桂	タイ	5年2月20日～2月25日	東南アジア教育大臣機構・考古学・美術センターにおける「第3回ワークショップ：東南アジア諸国における災害リスクと文化遺産への影響に関する意識向上」での研修講師	先方負担	

【東京国立博物館】延べ　7人（科学研究費助成事業を除く）

（参考：科学研究費助成事業を含む合計人数は16人）

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	酒井　晶	チェコ	8月19日～8月30日	ICOMプラハ大会参加	文化庁補助金	
2	山本　亮	メキシコ	10月18日～10月27日	特別展「古代メキシコ」作品調査	先方負担	
3	小野塚　拓造	アメリカ	5年1月26日～1月30日	「ラムセス2世展」の視察及び打合せ	先方負担	
4	猪熊　兼樹	韓国	5年2月5日～2月11日	東洋民族に関する調査研究	自己収入 科学研究費	
5	原田　あゆみ	ギリシャ	5年2月19日～2月24日	海外展ギリシャ「日本の美の原点」にかかる事前調査及び打ち合わせ	寄附金	
6	品川　欣也	ギリシャ	5年2月19日～2月24日	海外展ギリシャ「日本の美の原点」にかかる事前調査及び打ち合わせ	寄附金	
7	矢野　賀一	ギリシャ	5年2月19日～2月24日	海外展ギリシャ「日本の美の原点」にかかる事前調査及び打ち合わせ	寄附金	

○科学研究費助成事業：延べ9人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	小野塚　拓造	イスラエル トルコ ヨルダン	5月23日～5年2月5日 5年3月12日～3月31日	オルブライト考古学研究所での共同研究	科学研究費	
2	原田　あゆみ	タイ	7月27日～8月4日	科学研究費に係る調査協力	先方負担	
3	原田　あゆみ	カンボジア	8月18日～8月29日	科学研究費に係る調査・研究	科学研究費	
4	山本　亮	フランス	8月11日～8月20日	ラスコー国際先史絵画センターでの調査	科学研究費	
5	菊池　望	韓国	10月16日～10月22日	科学研究費に係る朝鮮半島出土の青銅器・銅鏡の調査及び研究会発表における研究情報の交換	先方負担	
6	山本　桃子	フィンランド フランス	10月17日～11月1日	現地ミュージアムの教育展示のフィールドワーク、学芸員へのインタビュー調査のため	科学研究費	
7	原田　あゆみ	タイ	12月12日～12月18日	科学研究費に係る調査協力	先方負担	
8	猪熊　兼樹	台湾	5年1月19日～1月22日	科学研究費に係る調査・研究	科学研究費	
9	原田　あゆみ	イギリス	5年2月15日～2月18日	科学研究費に係る調査・研究	科学研究費	

【京都国立博物館】延べ　0人

【奈良国立博物館】延べ　6人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	北澤　菜月	アメリカ	5年1月30日～3月8日	令和４年度ミュージアム専門職員等在外派遣	補助金 運営費交付金	
2	北澤　菜月	アメリカ	5年3月14日～3月21日	研究会への参加（ハーバード大学）	運営費交付金	
3	山口　隆介	アメリカ	5年2月21日～2月28日	在外仏像およびアーカイブに関する調査研究	科研費補助金	
4	三本　周作	アメリカ	5年2月21日～2月28日	在外仏像およびアーカイブに関する調査研究	科研費補助金	
5	宮崎　幹子	アメリカ	5年2月21日～2月28日	在外仏像およびアーカイブに関する調査研究	科研費補助金	
6	谷口　耕生	フランス イギリス	5年3月4日～3月13日	科研「五台山仏教文化圏における文物の生成・継承・波及」に伴う視察・文化財調査	科研費補助金	

【九州国立博物館】延べ　12人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	小泉　惠英	タイ	7月26日～8月10日	「東南アジアにおける聖地誕生の諸相：古代から近世にいたる仏教文化交流網の研究」に係る調査	科学研究費	
2	河野　一隆	フランス	8月10日～8月21日	「人類遺産としての先史壁画の保存と公開活用にむけた研究基盤の確立」に係るフランス先史壁画調査、国際ワークショップ参加	科学研究費	
3	折山　桂子	ドイツ	8月23日～8月30日	二国間交流事業セミナー「美術史学・考古学から見た伝統東アジアにおける「見えない」ものの変容」における研究交流及び研究発表及びケルン東洋美術館における施設の視察及び文化調査	先方負担	
4	西島　亜木子	シンガポール	10月13日～10月20日	教育普及プログラム及びアクセシビリティに関する調査	運営費交付金	
5	小泉　惠英	タイ	12月12日～12月18日	「東南アジアにおける聖地誕生の諸相：古代から近世にいたる仏教文化交流網の研究」に係る調査	科学研究費	
6	島谷　弘幸	韓国	5年2月8日～2月11日	国立公州博物館及び韓国文化財関係機関との学術交流のための意見交換	運営費交付金	
7	大澤　信	韓国	5年2月8日～2月11日	国立公州博物館及び韓国文化財関係機関との学術交流のための意見交換	運営費交付金	
8	小泉　惠英	イギリス	5年2月15日～2月21日	「東南アジアにおける聖地誕生の諸相：古代から近世にいたる仏教文化交流網の研究」に係る調査	科学研究費	
9	鷲頭　桂	タイ	5年3月17日～3月18日	「儒教美術史構築のための発展的研究－東アジア文化圏の構造解釈と研究資源化」にかかる調査及び研究会出席	科学研究費	
10	川畑　憲子	アメリカ	5年3月21日	文化財調査	運営費交付金	
11	川畑　憲子	アメリカ	5年3月22日～3月28日	鹿島美術財団助成「対馬宗家文書に見る漆器」に係る調査	鹿島美術財団助成	
12	白井　克也	韓国	5年3月24日～3月29日	特別展「加耶」韓国側展示品の輸送	運営費交付金	

【東京文化財研究所】延べ　　48人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	早川　典子	アメリカ	5月4日～5月10日	国際シンポジウムにおける発表のため	先方負担（Bard Graduate Center）	
2	前川　佳文	トルコ共和国	6月26日～7月14日	トルコ共和国における壁画の保存修復に係る共同研究打合せ及び関連調査のため	運営費交付金	
3	ヴァル　エリフ　ベルナ	トルコ共和国	6月26日～7月14日	トルコ共和国における壁画の保存修復に係る共同研究打合せ及び関連調査のため	運営費交付金	
4	安倍　雅史	サウジアラビア	5月24日～6月13日	サウジアラビア王国先史遺跡の考古学調査	科学研究費	
5	友田　正彦	カンボジア	6月14日～6月25日	タネイ寺院遺跡における考古調査	運営費交付金	
6	淺田　なつみ	カンボジア	6月12日～7月3日	タネイ寺院遺跡における考古調査	運営費交付金	
7	間舎　裕生	カンボジア	6月12日～6月24日	タネイ寺院遺跡における考古調査	運営費交付金	
8	友田　正彦	バハレーン	7月21日～7月26日	協力事業開始に向けた現地関係者との打合せ等	運営費交付金	
9	金井　健	バハレーン	7月21日～7月26日	協力事業開始に向けた現地関係者との打合せ等	運営費交付金	
10	安倍　雅史	バハレーン	7月21日～7月26日	協力事業開始に向けた現地関係者との打合せ等	運営費交付金	
11	間舎　裕生	イスラエル	8月13日～9月2日	科学研究費による調査	先方負担 科学研究費	
12	久保田　裕道	ネパール	8月27日～9月2日	コカナ集落への民俗誌贈呈及び無形文化遺産保護に関する助言	運営費交付金	
13	淺田　なつみ	ネパール イラン	8月22日～9月28日	ネパール、パタン旧市街における科研調査協力およびコカナでの式典運営、イランでの科研調査	運営費交付金 科学研究費	

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
14	金井　健	ノルウェー	9月17日～9月25日	World Heritage Leadership Forum 2022 への出席、ノルウェーにおける近現代建造物の保存実態に関する調査	先方負担 科学研究費	
15	前川　佳文	イタリア	9月12日～9月23日	壁画の保存修復に係る研究	科学研究費	
16	邱　君妮	チェコ共和国	8月19日～8月28日	ICOMプラハ大会参加・登壇のため	先方負担（助成金）	
17	友田　正彦	ベトナム	9月6日～9月10日	「タンロン・ハノイ皇城世界遺産研究・保存・活用の20年」国際シンポジウムに出席	先方負担 運営費交付金	
18	島田　潤	カンボジア	10月9日～10月19日	遺跡石材表面の生物学的調査	科学研究費	
19	宇高　健太郎	アメリカ	10月16日～10月22日	膠関連研究成果に関する講演、発表	科学研究費	
20	安倍　雅史	イラン	9月26日～10月11日	カレ・クブ遺跡出土石器の整理・分析	科学研究費	
21	加藤　雅人	メキシコ	11月7日～11月16日	国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」の開催	運営費交付金	
22	大川　柚佳	メキシコ	11月7日～11月16日	国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」の開催	運営費交付金	
23	鎌田　紗弓	韓国	10月20日～10月24日	国際音楽学会東アジア協議会での発表	科学研究費	
24	小野　真由美	韓国	10月18日～10月20日	『美術研究』海外編集委員との面談・打ち合わせ	運営費交付金	
25	小林　公治	韓国	10月18日～10月21日	『美術研究』海外編集委員との面談・打ち合わせ 韓国所在螺鈿関係調査	運営費交付金 科学研究費	
26	山田　綾乃	カンボジア	11月1日～11月19日	タネイ寺院遺跡の発掘及び建築調査	運営費交付金	
27	友田　正彦	カンボジア ブータン	11月2日～11月19日	ブータンにおける民家保存活用調査 タネイ寺院遺跡の発掘及び建築調査	運営費交付金	
28	金井　健	カンボジア ブータン	11月4日～11月19日	ブータンにおける民家保存活用調査 タネイ寺院遺跡の発掘及び建築調査	運営費交付金	
29	淺田　なつみ	カンボジア ブータン	11月4日～11月19日	ブータンにおける民家保存活用調査 タネイ寺院遺跡の発掘及び建築調査	運営費交付金	
30	前田　康記	ベルギー エストニア ラトビア	11月13日～11月26日	欧州国際協力調査	受託費	
31	小林　公治	台湾	11月9日～11月13日	『美術研究』海外編集委員との面談・螺鈿漆器調査	運営費交付金 科学研究費	
32	小野　真由美	台湾	11月9日～11月10日	『美術研究』海外編集委員との面談	運営費交付金	
33	安倍　雅史	フランス	11月14日～11月19日	国際シンポジウム「バハレーンとその近隣」の講演のため	科学研究費	
34	建石　徹	韓国	11月10日～11月12日	韓国文化財保存科学会発表	先方負担	
35	千葉　毅	韓国	11月10日～11月13日	韓国文化財保存科学会発表	運営費交付金	
36	芳賀　文絵	韓国	11月10日～11月13日	韓国文化財保存科学会発表	科学研究費	
37	二神　葉子	モンゴル	11月23日～11月28日	日本モンゴル文化フォーラムへの参加	科学研究費	
38	小林　公治	ポルトガル	11月22日～12月2日	国際会議出席及び調査協議・作品調査	科学研究費	
39	前川　佳文	エジプト	12月12日～12月24日	壁画及び考古遺物の保存修復に係る調査	運営費交付金 科学研究費	
40	友田　正彦	カンボジア タイ	12月12日～12月18日	アンコール・タネイ寺院の調査及び世界登録30周年式典出席他	運営費交付金	
41	間舎　裕生	イスラエル	12月28日～5年1月9日	テル・レヘシュ遺跡出土遺物の整理・調査	科学研究費	
42	鎌田　紗弓	イギリス	5年1月9日～1月16日	「雅楽演奏における相互作用と同調」プロジェクト打合せ	先方負担（グレートブリテン・ササカワ財団研究助成金）	
43	水谷　悦子	トルコ共和国	12月25日～12月30日	Ayasofya Camiiにおける調査他	科学研究費	
44	山田　綾乃	エジプト バーレーン	5年1月13日～2月18日	エジプトの遺物記録、ワーディー・アッ＝サイル古墳群の発掘調査等	先方負担 科学研究費	
45	安倍　雅史	バーレーン	5年1月6日～2月18日	ワーディー・アッ＝サイル古墳群の発掘調査、水中考古学調査等	科学研究費 運営費交付金	
46	長尾　琢磨	バーレーン	5年1月26日～2月8日	ワーディー・アッ＝サイル古墳群の発掘調査等	科学研究費 運営費交付金	
47	小林　公治	ポルトガル スペイン	5年1月22日～2月1日	南蛮漆器の作品調査ほか	科学研究費	

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
48	片山　葉子	カンボジア	5年2月7日～2月15日	科学研究費による調査（打合せ・調査区域事前検分・石材着生微生物の調査）	科学研究費	

【奈良文化財研究所】延べ　33人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	庄田　慎矢	ウズベキスタン	5月10日～5月20日	文化庁からの受託による拠点交流事業	受託研究費	
2	扈　素妍	大韓民国	6月16日～6月24日	科研費による研究のため、資料調査及び収集	科学研究費	
3	庄田　慎矢	フランス イタリア	6月12日～6月21日	Centre national de la recherche scientifiqueによるワークショップ招へい、トリノ大学における研究打合せ	先方負担	
4	柳田　明進	フィンランド	9月3日～9月9日	ICOM-CC Metal２０２２ における学術発表および情報交換	運営費交付金	
5	山藤　正敏	キルギス	8月13日～8月26日	キルギス共和国チュー渓谷東部における考古学調査	科学研究費	
6	山藤　正敏	キルギス	9月8日～9月27日	キルギス共和国チュー渓谷東部における考古学調査	科学研究費	
7	西原　和代	カザフスタン	8月9日～8月17日	ナザルバエフ大学にて遺跡出土資料の考古学調査	科学研究費	
8	小田　裕樹	大韓民国	10月27日～10月29日	第18回新羅学国際学術大会での研究発表のため	先方負担	
9	庄田　慎矢	ウズベキスタン	9月22日～9月30日	現地研修の実施及び次回研修用の情報収集	受託研究費	
10	村上　夏希	ウズベキスタン	9月22日～9月30日	現地研修の実施及び次回研修用の情報収集	受託研究費	
11	西原　和代	ウズベキスタン	9月22日～9月30日	現地研修の実施予備次回研修用の情報収集	受託研究費	
12	庄田　慎矢	カザフスタン	10月9日～10月19日	①Eurasian steppe ciilization:;human and historical and cultural environment学会参加 ②マルクグラン考古学研究所でAkhan Ongaruly氏と打ち合わせ、試料調査	科学研究費	
13	庄田　慎矢	イギリス	11月6日～11月11日	大英博物館（ロンドン）にてEarly Pottery のワークショップ参加、ヨーク大学（ヨーク）にて研究打ち合わせ	先方負担 科学研究費	
14	村上　夏希	イギリス	11月5日～11月11日	大英博物館（ロンドン）にてEarly Pottery のワークショップ参加、ヨーク大学（ヨーク）にて研究打ち合わせ	科学研究費	
15	高妻　洋成	大韓民国	11月10日～11月13日	韓国文化財保存科学会出席と研究発表	科学研究費	
16	高田　祐一	イタリア	12月12日～12月18日	ARIADNE plusの総会出席	運営費交付金	
17	ヤナセ・ペーテル	イタリア	12月12日～12月18日	ARIADNE plusの総会出席	運営費交付金	
18	田村　朋美	タイ	10月31日～11月10日	東南アジア大陸部東西回廊の現地調査及び国際会議IPPAに出席し研究発表を行う	科学研究費	
19	福嶋　啓人	ブータン王国	11月4日～11月16日	文化遺産国際協力事業に伴う現地建造物調査	先方負担	
20	扈　素妍	大韓民国	12月9日～12月19日	科学研究費による研究のため、資料調査及び収集、学会参加	科学研究費	
21	加藤　真二	カンボジア	12月12日～12月17日	西トップ遺跡視察並びに各種会議・式典への参加	運営費交付金	
22	西原　和代	カンボジア	5年2月13日～2月25日	シェムリアップ周辺での民俗植物学的調査	科学研究費	
23	庄田　慎矢	ヴェトナム カンボジア	5年2月19日～2月24日	ヴェトナム考古学研究所での打合せ シェムリアップ周辺での民俗植物学的調査	科学研究費	
24	庄田　慎矢	ウズベキスタン	12月4日～12月9日	文化庁拠点交流事業　ウズベキスタン ①第２回現地研修「文化財の状態調査と環境調査の実施 ②招聘研修の打ち合わせ	受託研究費	
25	村上　夏希	ウズベキスタン	12月4日～12月9日	文化庁拠点交流事業　ウズベキスタン ①第２回現地研修「文化財の状態調査と環境調査の実施 ②招聘研修の打ち合わせ	受託研究費	
26	加藤　真二	フランス	5年2月15日～2月23日	人類・古生物研究所（IPH)ほかにおける出現期細石刃に関する調査	科学研究費	
27	山崎　有生	カンボジア	5年2月19日～2月24日	西トップ遺跡及びアンコール地域内遺跡の建築調査	科学研究費	
28	大林　潤	カンボジア	5年2月19日～2月24日	西トップ遺跡及びアンコール地域内遺跡の建築調査	科学研究費	
29	中村　一郎	ポルトガル共和国	5年1月22日～1月28日	南蛮漆器類の共同調査	先方負担	
30	庄田　慎矢	バーレーン	5年1月28日～2月3日	ワーディー・アッ＝サイルの発掘調査および出土遺物の調査研究	先方負担	

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
31	馬場　基	大韓民国	5年1月29日～1月31日	国際学会参加	先方負担・ 一部科学研究費	
32	庄田　慎矢	カザフスタン	5年3月14日～3月22日	科研費　学術変革領域研究（A） ①　SEMワークショップの開催 ②　現地での民族調査、資料調査	科学研究費	
33	村上　夏希	カザフスタン	5年3月14日～3月22日	科研費　学術変革領域研究（A） ①　SEMワークショップの開催 ②　現地での民族調査、資料調査	科学研究費	

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】延べ　13人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	岩本　渉	フランス	7月4日～7月10日	無形文化遺産条約締約国総会、C2C Annual meeting参加	文化庁受託	
2	野嶋　洋子	フランス	7月4日～7月10日	無形文化遺産条約締約国総会、C2C Annual meeting参加	文化庁受託	
3	岩本　渉	バングラデシュ カンボジア	11月13日～11月19日	新型コロナウイルスの無形文化遺産への影響、及び無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する調査	文化財保存活用基金	
4	野嶋　洋子	バングラデシュ カンボジア	11月13日～11月19日	新型コロナウイルスの無形文化遺産への影響、及び無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する調査	文化財保存活用基金	
5	野嶋　洋子	モロッコ	11月25日～12月5日	無形文化遺産保護条約政府間委員会(17.COM)への参加	文化庁受託	
6	井上　愛奈	モロッコ	11月25日～12月5日	無形文化遺産保護条約政府間委員会(17.COM)への参加	文化庁受託	
7	岡部　政美	インドネシア	5年1月4日～1月17日	「無形文化遺産保護と災害リスクマネジメントに関する調査研究」現地視察、および事業協力者訪問	文化庁受託	
8	野嶋　洋子	バヌアツ	5年1月7日～1月29日	科研費(新学術分担)によるバヌアツ、ウレパラパラ島調査、およびDRM事業におけるバヌアツ現地調査	科学研究費補助金、 文化庁受託	
9	野嶋　洋子	アメリカ合衆国	5年2月28日～3月5日	科研費、新学術領域研究の国際会議出席、資料調査	科学研究費補助金	
10	岩本　渉	モルディブ	5年3月6日～3月11日	「無形文化遺産保護のための持続的研究情報収集：中央アジアと小島嶼開発途上国(SIDS)を中心に」事業における現地情報収集	文化庁受託	
11	佐々木　一恵	モルディブ	5年3月6日～3月12日	「無形文化遺産保護のための持続的研究情報収集：中央アジアと小島嶼開発途上国(SIDS)を中心に」事業における現地情報収集	文化庁受託	
12	井上　愛奈	ウズベキスタン カザフスタン	5年3月12日～3月18日	事業協力機関、ユネスコ地域事務所、ユネスコ国内員会等訪問、事業についての意見交換および各国のICH研究の情報収集等	文化庁受託	
13	Dudko Anastasiia	ウズベキスタン カザフスタン	5年3月12日～3月18日	事業協力機関、ユネスコ地域事務所、ユネスコ国内員会等訪問、事業についての意見交換および各国のICH研究の情報収集等	文化庁受託	

c-② 調査研究テーマ一覧

令和5年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
147 件	72 件	32 件	16 件	14 件	10 件
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	72 件	22 件		50 件	
	本部文化財活用センター		アジア太平洋無形文化遺産研究センター		
	2 件		1 件		

【本部文化財活用センター】　2件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する研究　1件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	レプリカやVR等先端技術を使った、文化財の活用についての調査・研究	文化財活用センター	企画担当課長　藤田千織

○その他有形文化財に関連する調査研究　1件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	展示・収蔵環境の管理と改善に関する調査研究	文化財活用センター	保存担当課長　吉田直人

【東京国立博物館】　32件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する研究　29件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	a. 特別調査「法隆寺献納宝物」（第42次）	学芸研究部	列品管理課長　沖松健次郎 調査研究課長　松嶋雅人
2	b. 特別調査「書跡」（第18回）	学芸研究部	書跡・歴史室長　恵美千鶴子
3	d. 特別調査「絵画」第7回	学芸研究部	調査研究課絵画・彫刻室長　土屋貴裕
4	収蔵品等の有形文化財に関する調査研究	学芸研究部	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員（兼東洋室）　植松瑞希
5	美術工芸品に用いられた画絹及び染織品の組成にかかる共同研究	学芸研究部	列品管理課長　沖松健次郎
6	東洋民族に関する調査研究	学芸研究部	企画課特別展室長　猪熊兼樹
7	特集「東京国立博物館の近世仏画－伝統と変奏－」に関連する調査研究	学芸研究部	列品管理課平常展調整室研究員 古川攝一
8	創立150年記念特集「収蔵品でたどる日本仏像史」に関連する調査研究	学芸研究部	列品管理課平常展調整室研究員 増田政史
9	創立150年記念特集「チベット仏教の美術―皇帝も愛した神秘の美―」に関連する調査研究	学芸研究部	調査研究課主任研究員　西木政統
10	創立150年記念特集「東京国立博物館の模写・模造―草創期の展示と研究―」に関連する調査研究	学芸研究部	調査研究課絵画・彫刻室長　土屋貴裕
11	創立150年記念特集「再発見！大谷探検隊とたどる古代裂の旅」に関連する調査研究	学芸研究部	保存修復課保存修復室研究員 沼沢ゆかり
12	創立150年記念特集「東京国立博物館のイスラーム陶器」に関連する調査研究	学芸研究部	企画課出版企画室　三笠景子
13	創立150年記念特集「王羲之と蘭亭序」に関連する調査研究	学芸研究部	調査研究課東洋室研究員　六人部克典
14	創立150年記念特集「コレクションの探求　はにわ展から50年」に関連する調査研究	学芸研究部	企画課特別展室　河野正訓
15	館蔵の埴輪等資料に関する調査研究	学芸研究部	調査研究課考古室長　井出浩正
16	特別展「空也上人と六波羅蜜寺」に関連する調査研究	学芸企画部	学芸企画部長　浅見龍介
17	沖縄復帰50年記念特別展「琉球」に関する調査研究	学芸企画部	企画課出版企画室　三笠景子
18	日中国交正常化50周年記念　特別デジタル展「故宮の世界」に関連する調査研究	学芸企画部	企画課特別展室長　猪熊兼樹
19	東京国立博物館創立150年記念 特別展「国宝　東京国立博物館のすべて」に関連する調査研究	学芸企画部	列品管理課登録室長　佐藤寛介
20	特別企画「大安寺の仏像」に関連する調査研究	学芸研究部	列品管理課平常展調整室　増田政史
21	特別展「東福寺」に関連する調査研究	学芸企画部	特別展室研究員　高橋真作
22	浄瑠璃寺九体阿弥陀修理完成記念　特別展「京都・南山城の仏像」に関する調査研究	学芸研究部	調査研究課絵画・彫刻研究員 丸山士郎
23	特別展「やまと絵―受け継がれる王朝の美―」に関連する調査研究	学芸研究部	調査研究課絵画・彫刻室長　土屋貴裕
24	博物館環境デザインに関する調査研究	学芸企画部	企画課デザイン室長　矢野賀一
25	博物館教育に関する調査研究	学芸企画部	博物館教育課長　鈴木みどり
26	凸版印刷及び文化財活用センターと共同で実施するミュージアムシアターにおけるコンテンツの開発に関する調査研究	学芸企画部	博物館情報課長　村田良二
27	ＩＣＴを利用した博物館見学ガイドの開発に関する調査研究	学芸企画部	博物館教育課長　鈴木みどり
28	レプリカやVR等先端技術を使った、文化財の活用についての調査・研究	学芸研究部	調査研究課長　松嶋雅人
29	博物館広報・国際交流活動に関する調査研究	学芸企画部	上席研究員（兼）広報室長　鬼頭智美 国際交流室長　楊鋭

○その他有形文化財に関連する調査研究　3件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	博物館の環境保存に関する調査研究	学芸研究部	保存修復課長　和田浩
2	博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	学芸企画部	博物館情報課長　村田良二
3	創立150年へ向けた館史編纂のための基礎的な資料整理と調査研究	学芸企画部	百五十年史編纂室長　恵美千鶴子

【京都国立博物館】 16件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する研究　12件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	近畿地区を中心とする社寺文化財の調査研究	学芸部	調査・国際連携室長　降矢哲男
2	訓点資料としての典籍に関する調査研究	学芸部	美術室研究員　上杉智英
3	旧家伝来品・収蔵品などの有形文化財に関する調査研究	学芸部	工芸室長　山川曉
4	京都周辺出土の考古遺物に関する調査研究	学芸部	特任研究員　宮川禎一 研究員　古谷毅
5	特集展示・特別企画に関連する調査研究	学芸部	学芸部長　尾野善裕
6	日本近代における中国書画の受容に関する調査研究	学芸部	美術室研究員　森橋なつみ
7	書跡及び絵画の伝来と散逸に関する調査研究	学芸部	美術室長　羽田聡
8	特別展「河内長野の霊地　観心寺と金剛寺－真言密教と南朝の遺産－」に関する調査研究	学芸部	企画室研究員　井並林太郎
9	特別展「京に生きる文化－茶の湯－」に関する調査研究	学芸部	調査・国際連携室長　降矢哲男
10	特別展「親鸞　生涯と名宝」に関する調査研究	学芸部	美術室研究員　上杉智英
11	特別展「東福寺」に関する調査研究	学芸部	列品管理室研究員　森道彦
12	博物館教育及びボランティアに関する調査研究	学芸部	教育室主任研究員　水谷亜希

○その他有形文化財に関連する調査研究　4件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	修復文化財に関する資料収集及び調査研究	学芸部	保存修理指導室長　大原嘉豊
2	文化財の製作・技法等に関わる材質構造調査・研究	学芸部	保存科学室長　降幡順子
3	社寺等における保存環境に関する調査研究	学芸部	保存科学室長　降幡順子
4	データベースやアーカイブズ等、収蔵品等情報の整理・活用に関する調査研究	学芸部	列品管理室長　羽田聡

【奈良国立博物館】 14件

○有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究　11件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	復元模写制作に伴う仏教絵画の調査研究	学芸部	教育室長　谷口耕生
2	古代・中世の写経と聖教に関する基礎的研究	学芸部	資料室長　野尻忠
3	仏教工芸・上代工芸の総合的調査	学芸部	研究員　三本周作
4	寺院出土品の調査研究	学芸部	企画室長　中川あや
5	南都の古代・中世の彫刻に関する調査研究	学芸部	美術室長　岩井共二
6	東京文化財研究所との共同による仏教美術の光学的調査研究	学芸部	教育室長　谷口耕生
7	貞享本當麻曼荼羅修理完成記念　特別展「中将姫と當麻曼荼羅　―祈りが紡ぐ物語―」に関する調査研究	学芸部	主任研究員　北澤菜月
8	特別展「第74回正倉院展」に関する調査研究	学芸部	研究員　三本周作
9	式年造替記念特別展「春日大社　若宮国宝展―祈りの王朝文化―」	学芸部	学芸部長　吉澤悟
10	歴史、伝統文化の教育普及に資するための調査研究	学芸部	教育室長　谷口耕生
11	わくわくびじゅつギャラリー「はっけん！ほとけさまのかたち」における教育普及プログラムの実践	学芸部	研究員　翁みほり

○その他有形文化財に関連する調査研究　3件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	収蔵庫・展示室・ケース内部等における環境が文化財に与える影響などに関する調査研究	学芸部	保存修理指導室長　荒木臣紀
2	文化財修理の観点からの収蔵品等の調査研究	学芸部	保存修理指導室長　荒木臣紀
3	保存科学の観点からの収蔵品等の調査研究	学芸部	保存修理指導室長　荒木臣紀

【九州国立博物館】10件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する研究　6件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	X線CTスキャナ等による文化財の構造や製作技法に関する調査研究	学芸部博物館科学課	課長兼環境保全室長　木川りか
2	特集展示「御所の器ー公家山科家伝来の古伊万里」に関する調査研究	学芸部企画課	研究員　酒井田千明
3	水中遺跡の保存活用に関する調査研究	学芸部	部長　河野　一隆
4	特別展「加耶」に関連する調査研究	学芸部文化財課	文化財課長　白井克也
5	展示のテーマに則した解説パネル・冊子・ワークショップ等、 観覧者の理解促進のための教育普及プログラムに関する調査研究	学芸部企画課	主任研究員　西島亜希子
6	文化交流展示室における障がい者向け展示解説プログラムに 関する調査研究	展示課 学芸部企画課 交流課	課長　齋部麻矢 主任研究員　加藤小夜子 主任研究員　西島亜木子 主任研究員　今井涼子

○その他有形文化財に関連する調査研究　4件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化財の材質・構造等に関する共同研究	学芸部博物館科学課	研究員　渡辺祐基
2	博物館における国内・アジア地域の文化財保存修復に関する研究	学芸部博物館科学課	保存修復室長　志賀智史
3	博物館危機管理としての持続的IPMシステムの研究	学芸部博物館科学課	課長兼環境保全室長　木川りか
4	展示収蔵環境の空気質に関する調査研究	学芸部博物館科学課	課長兼環境保全室長　木川りか

【東京文化財研究所】　22件

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　7件

○有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究　4件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化財に関する調査研究成果及び研究情報の共有に関する総合的研究	文化財情報資料部	文化財アーカイブズ研究室長　橘川英規
2	日本東洋美術史の資料学的研究	文化財情報資料部	日本東洋美術史研究室長　小野真由美
3	近・現代美術に関する調査研究と資料集成	文化財情報資料部	近・現代視覚芸術研究室長　江村知子
4	美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開	文化財情報資料部	広領域研究室長　安永拓世

○無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査及び研究　3件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	重要無形文化財の保存・活用に資する調査研究等及び無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化	無形文化遺産部	無形文化財研究室長　前原恵美
2	重要無形民俗文化財の保存・活用に資する調査研究等	無形文化遺産部	無形民俗文化財研究室長　久保田裕道
3	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集等	無形文化遺産部	音声映像記録研究室長　石村智

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　8件

○文化財の調査手法に関する研究開発の推進　1件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究	文化財情報資料部	文化財情報研究室長　二神葉子

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　7件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化財生物劣化の分子生物学的手法による機構解明と環境調和型対策	保存科学研究センター	生物科学研究室長　佐藤嘉則
2	文化財の保存環境にかかる調査研究	保存科学研究センター	保存環境研究室長　秋山純子
3	文化財の材質・構造・状態調査に関する研究	保存科学研究センター	分析科学研究室長　犬塚将英
4	屋外文化財の保存修復計画に関する調査研究	保存科学研究センター	修復計画研究室長　朽津信明
5	文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究	保存科学研究センター	修復材料研究室長　早川典子
6	多様な文化財の修復技術に関する調査	保存科学研究センター	修復技術研究室長　建石徹
7	高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究	保存科学研究センター	保存科学研究センター長　建石徹

(3) 文化遺産保護に関する国際協働　5件

○文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進　5件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	文化遺産国際協力センター	国際情報研究室長　金井健

2	アジア諸国等文化遺産保存修復協力	文化遺産国際協力センター	保存計画研究室長　友田正彦
3	文化遺産の保存修復技術に係る国際的研究	文化遺産国際協力センター	技術支援研究室長　加藤雅人
4	国際研修	文化遺産国際協力センター	技術支援研究室長　加藤雅人
5	在外日本古美術品保存修復協力事業	文化遺産国際協力センター	技術支援研究室長　加藤雅人

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　2件

○文化財情報基盤の整備・充実　2件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化財情報基盤の整備・充実	文化財情報資料部	文化財情報研究室長　二神葉子
2	専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充	文化財情報資料部	文化財アーカイブズ研究室長 橘川英規

【奈良文化財研究所】　50件

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　17件

○有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究　2件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	歴史的建造物及び伝統的建造物群の保存・修復・活用の実践的研究	文化遺産部	建造物研究室長　大林　潤
2	近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究	文化遺産部	歴史研究室長　吉川　聡

○記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究　15件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	我が国の記念物に関する調査研究（遺跡等整備）	文化遺産部	遺跡整備研究室長　内田和伸
2	我が国の記念物に関する調査研究（庭園）	文化遺産部	遺跡整備研究室長　内田和伸
3	特別史跡平城宮跡の発掘調査(第648・652次)	都城発掘調査部 平城地区	都城発掘調査部長　箱崎和久
4	西大寺旧境内の発掘調査（第655次）	都城発掘調査部 平城地区	都城発掘調査部長　箱崎和久
5	藤原宮大極殿院地区の発掘調査	都城発掘調査部 飛鳥・藤原地区	都城発掘調査部副部長　清野孝之
6	飛鳥地域等の発掘調査	都城発掘調査部 飛鳥・藤原地区	都城発掘調査部副部長　清野孝之
7	平城宮・京跡出土遺物・遺構の調査・研究	都城発掘調査部 平城地区	都城発掘調査部長　箱崎和久
8	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	都城発掘調査部 飛鳥・藤原地区	都城発掘調査部副部長　清野孝之
9	東アジアにおける工芸技術及び飛鳥時代の建築遺物等の研究	飛鳥資料館	学芸室長　石橋茂登
10	中国・韓国との共同研究	都城発掘調査部	都城発掘調査部長　箱崎和久
11	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	文化遺産部	景観研究室長　中島義晴
12	全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究	埋蔵文化財センター	埋蔵文化財センター長　金田明大
13	古代官衙・集落遺跡に関する研究集会の開催及び報告書の刊行	都城発掘調査部	都城発掘調査部長　箱崎和久
14	古代瓦に関する研究集会の開催及び報告書刊行	都城発掘調査部	都城発掘調査部長　箱崎和久
15	水中文化遺産に関する調査研究	埋蔵文化財センター	埋蔵文化財センター長　金田明大

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　11件

○文化財の調査手法に関する研究開発の推進　5件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発	埋蔵文化財センター	埋蔵文化財センター長　金田明大
2	年輪年代学研究	埋蔵文化財センター	年代学研究室長　星野安治
3	動植物遺存体の分析方法の研究開発	埋蔵文化財センター	環境考古学研究室長　山崎健
4	文化財の調査・研究成果を社会・教育実装するためのICTを用いた普及・啓発手法の開発	埋蔵文化財センター	埋蔵文化財センター長　金田明大
5	物質文化・地質情報等を基とした防災・減災・復興・復旧の歴史的研究	埋蔵文化財センター	主任研究員　村田泰輔

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　6件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	考古遺物の保存処理法に関する調査研究	埋蔵文化財センター	保存修復科学研究室長　脇谷草一郎
2	遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究	埋蔵文化財センター	保存修復科学研究室長　脇谷草一郎
3	考古遺物を中心とした文化財の材質調査に関する調査研究	埋蔵文化財センター	保存修復科学研究室長　脇谷草一郎

4	高松塚古墳の壁画等の調査及び保存・活用に関する技術的な協力	埋蔵文化財センター	埋蔵文化財センター長　金田明大
5	キトラ古墳の壁画等の調査及び保存・活用に関する技術的な協力	埋蔵文化財センター	埋蔵文化財センター長　金田明大
6	遺跡現地における壁画の安定した保存と公開活用を行うための劣化状態調査、適切な石室内の熱水分環境に関する検討	埋蔵文化財センター	保存修復科学研究室長　脇谷草一郎

(3) 文化遺産保護に関する国際協働　4件

○文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進　4件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信（ユネスコ等）	企画調整部	国際遺跡研究室長　庄田慎矢
2	文化遺産に関する研究交流（イギリス等）	企画調整部	国際遺跡研究室長　庄田慎矢
3	アジア地域等の文化遺産に関する調査研究及び保護協力事業	企画調整部	国際遺跡研究室長　庄田慎矢
4	ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）等が行う研修への協力	企画調整部	国際遺跡研究室長　庄田慎矢

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　6件

○文化財情報基盤の整備・充実　　3件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化財に関するデータベースの充実	企画調整部	文化財情報研究室長　高妻洋成
2	文化財情報のデジタルアーカイブに関する実践研究	企画調整部	文化財情報研究室長　高妻洋成
3	図書の収集・整理・公開・提供	研究支援推進部	連携推進課長　井関信雄

○調査研究成果の発信　1件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	定期刊行物の刊行、公開講演会・現地説明会等の開催、ウェブサイトの充実	研究支援推進部	連携推進課長　井関信雄

○展示公開施設の充実　2件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	平城宮跡資料館・飛鳥資料館・藤原宮跡資料室における展示公開	企画調整部	企画調整部長　加藤　真二、 展示企画室長　岩戸　晶子、 飛鳥資料館学芸室長　石橋　茂登
2	平城宮跡解説ボランティアの研修内容の充実及び運用改善	研究支援推進部	連携推進課長　井関信雄

(5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等　12件

○文化財に関する研修の実施　1件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化財担当者研修	企画調整部 研究支援推進部	企画調整部長　加藤真二

○文化財に関する協力・助言等　5件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	地方公共団体等が行う平城地区の発掘調査等への援助・助言	都城発掘調査部　平城地区	都城発掘調査部長　箱崎和久
2	地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への指導・助言	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	都城発掘調査部副部長　清野孝之
3	地方公共団体等が行う文化財及びその保存・活用に関する技術的助言	奈良文化財研究所	所長　本中眞
4	他機関等との共同研究及び受託研究	奈良文化財研究所	所長　本中眞
5	地震・水害等により被災した文化財の復旧に関する地方公共団体等が行う文化財保護事業への支援・協力	埋蔵文化財センター	埋蔵文化財センター長　金田明大

○平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力　5件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡の整備・管理等への協力	研究支援推進部	研究支援課長　不藤忠義
2	国土交通省が行う平城宮跡第一次大極殿院を中心とする復原・整備・活用等への協力	都城発掘調査部　平城地区	都城発掘調査部長　箱崎和久
3	国土交通省が行う平城宮いざない館での公開・活用事業への協力	企画調整部	展示企画室長　岩戸晶子
4	文化庁が行うキトラ古墳壁画保存管理施設の管理・運営と古墳壁画の公開事業への協力	飛鳥資料館	学芸室長　石橋茂登
5	NPO法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動への協力	研究支援推進部	連携推進課長　井関信雄

○連携大学院との連携教育等の推進　1件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	京都大学・奈良女子大学との間での連携大学院教育の推進及び奈良大学への教育協力	奈良文化財研究所	所長　本中眞

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　1件

	調査研究テーマ名	担当部課
1	アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究	アジア太平洋無形文化遺産研究センター

（参考）受託研究一覧

合計	本部文化財防災センター	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	アジア太平洋無形文化遺産研究センター
41 件	2 件	6 件	31 件	2 件

【本部文化財防災センター】　2件

	調査研究テーマ名	担当部課
1	被災美術工芸資料等安定化処理及び修理業務	文化財防災センター
2	令和4年度文化財防災のための詳細資料保存に係る調査等業務	文化財防災センター

【東京文化財研究所】　6件

	調査研究テーマ名	担当部課
1	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務	保存科学研究センター
2	特別史跡キトラ古墳保存対策等調査業務	保存科学研究センター
3	美術工芸品保存修理用具・原材料調査事業	保存科学研究センター
4	エアロゾル消火薬剤が文化財に与える影響	保存科学研究センター
5	文化遺産国際協力コンソーシアム事業	文化遺産国際協力センター
6	令和3年度文化遺産国際協力拠点交流事業「ブータン王国の歴史的建造物保存活用に関する拠点交流事業」	文化遺産国際協力センター

【奈良文化財研究所】　31件

	調査研究テーマ名	担当部課
1	高野山地区建造物調査業務	文化遺産部
2	佐渡市小木町伝統的建造物群保存対策調査業務(令和3年度契約)	文化遺産部
3	佐渡市小木町伝統的建造物群保存対策調査業務委託(令和4年度契約)	文化遺産部
4	生駒市内歴史的建造物詳細調査業務	文化遺産部
5	松江市美保関伝統的建造物群保存対策調査業務委託	文化遺産部
6	平城京跡左京一条二坊十坪の発掘調査	都城発掘調査部（平城） 埋蔵文化財センター 企画調整部
7	興福寺東金堂院伽藍整備に伴う発掘調査	都城発掘調査部（平城） 埋蔵文化財センター 企画調整部
8	歴史体験学習館整備に係る埋蔵文化財発掘調査	都城発掘調査部（平城） 埋蔵文化財センター 企画調整部
9	名勝法華寺庭園保存整備事業に伴う発掘調査	都城発掘調査部（平城） 埋蔵文化財センター 企画調整部
10	法華寺旧境内の発掘調査	都城発掘調査部（平城） 埋蔵文化財センター 企画調整部
11	西大寺旧境内住宅新築に伴う発掘調査	都城発掘調査部（平城） 埋蔵文化財センター 企画調整部
12	特別史跡藤原宮跡(高殿町個人住宅建築)発掘調査	都城発掘調査部(飛鳥・藤原) 埋蔵文化財センター
13	生駒市内須恵器窯跡の調査業務	都城発掘調査部（平城） 埋蔵文化財センター
14	和束の茶業景観における報告書作成業務	文化遺産部
15	史跡断夫山古墳地中レーダー探査業務	埋蔵文化財センター
16	土器(ハソウ)内部の構造解析	埋蔵文化財センター
17	高知県定福寺所蔵仏像群の年輪年代調査	埋蔵文化財センター
18	森川如春庵田舎家構成部材の年輪年代調査	埋蔵文化財センター
19	輪王寺護法天堂及び二荒山神社神輿舎の年輪年代測定	埋蔵文化財センター
20	伊川津貝塚出土資料分析業務	埋蔵文化財センター
21	出土鉄製文化財から探る埋蔵環境が超長期腐食機構に及ぼす影響	埋蔵文化財センター
22	令和4年度　国史跡ガランドヤ古墳における運用手法の検討及び墳丘復元法検討業務	都城発掘調査部(飛鳥・藤原) 埋蔵文化財センター

23	令和4年度史跡闘鶏山古墳の調査保存に資する基礎的調査周防鋳銭司跡出土木簡の保存処理等を経ての総合的研究	埋蔵文化財センター
24	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する研究等業務	文化遺産部 都城発掘調査部(飛鳥・藤原) 埋蔵文化財センター 企画調整部・飛鳥資料館
25	特別史跡キトラ古墳の保存・活用にかかる研究等業務	文化遺産部 都城発掘調査部(飛鳥・藤原) 埋蔵文化財センター 企画調整部・飛鳥資料館
26	令和4年度文化遺産国際協力拠点交流事業(ウズベキスタンにおける考古遺産の科学的調査に関する技術移転を目的とした拠点交流事業)	企画調整部
27	明日香村西橘遺跡出土木製品の保存処理等を経ての総合的研究	都城発掘調査部(飛鳥・藤原地区) 埋蔵文化財センター
28	考古・文献史料からみた歴史災害情報の収集とデータベース構築・公開並びにその地質考古学的解析	埋蔵文化財センター
29	第一次大極殿院建造物復原整備他にかかる調査委託	都城発掘調査部(平城地区)
30	平城宮いざない館詳覧ゾーンにかかる学芸業務及び解説案内等業務	企画調整部
31	特別史跡平城宮跡及び藤原宮跡地内における歴史的環境維持業務	研究支援推進部

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　2件

	調査研究テーマ名	担当部課
1	令和4年度　無形文化遺産保護パートナーシッププログラム	アジア太平洋無形文化遺産研究センター
2	令和4(2022)年度　ユネスコ未来共創プラットフォーム事業(海外展開を行う草の根のユネスコ活動)「持続可能なまちづくりにおける無形文化遺産の役割に関する国際交流事業」事業	アジア太平洋無形文化遺産研究センター

c-③ 学会、研究会等発表実績一覧

令和5年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
439件	231件	91件	66件	53件	21件
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	167件	78件		89件	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	本部文化財活用センター		本部文化財防災センター	
	2件	10件		29件	

【本部文化財活用センター】　10件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　2件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究	「こどもと大人のためのミュージアム思考のススメ」	文化財活用センター企画担当課長　藤田　千織	5月5日	東京都美術館×東京藝術大学とびらプロジェクト オープンレクチャーvol.12
2	有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究	「文化財に親しむ ツールとしてのデジタルコンテンツ」	文化財活用センター企画担当課長　藤田　千織	9月28日	オンラインミュージアムプラットフォーム「MU」オンラインセッションvol.2

○その他有形文化財に関連する調査研究　8件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	展示・収蔵環境の管理と改善に関する調査研究	保存・展示環境の科学	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創	6月10日	文化庁 第12回指定文化財（美術工芸品）企画・展示セミナー
2	展示・収蔵環境の管理と改善に関する調査研究	公開承認施設における保存環境の把握と対策	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創	6月15日	文化庁　公開承認施設会議
3	展示・収蔵環境の管理と改善に関する調査研究	博物館等における新型コロナウイルス感染防止対策に関する相談窓口の開設からこれまで	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人、同研究員　間渕創　他8名	6月19日	文化財保存修復学会第44回大会
4	展示・収蔵環境の管理と改善に関する調査研究	新型コロナ感染症対策に用いられる消毒剤が文化財へ与える影響についての調査事例	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創、同保存担当課長　吉田直人	6月19日	文化財保存修復学会第44回大会
5	展示・収蔵環境の管理と改善に関する調査研究	保存科学　環境制御（保存環境管理）	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創	9月6日	国文学研究資料館令和4年度アーカイブズ・カレッジ長期コース
6	展示・収蔵環境の管理と改善に関する調査研究	博物館等における空気環境への対策とモニタリング	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創	10月3日～10月24日（オンライン配信）	文化財虫菌害研究所　第42回文化財防虫防菌処理実務講習会
7	展示・収蔵環境の管理と改善に関する調査研究	IPM からみた博物館等の施設管理	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創	12月12日～5年1月22日（オンライン配信）	文化財虫菌害研究所　第11回文化財IPM コーディネータ資格取得のための講習会
8	展示・収蔵環境の管理と改善に関する調査研究	平時の博物館におけるゾーニングと浮遊菌・付着菌	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創	12月16日	文化財防災センター　令和4年度国立文化財機構　文化財防災センター研修

【本部文化財防災センター】29件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財等の防災・救援等への寄与	大規模災害と文化財保存	文化財防災センター主任研究員　鷲頭桂	6月4日	西南学院大学博物館資料保存論（非常勤講師）
2	同上	文化財防災に関わる地域の連携体制構築	文化財防災センター研究員　中島志保	6月19日	文化財保存修復学会第44回大会
3	同上	シミュレーションを利用した立体文化財の転倒防止に関する研究－法蔵禅寺観音立像を例に－	京都国立博物館学芸部保存科学室長　降幡順子、文化財防災センターアソシエイトフェロー　中屋菜緒	6月19日	文化財保存修復学会第44回大会
4	同上	Commitments of the Cultural Heritage Risk Management Center to protect Intangible Cultural Heritage form Disaster	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	8月5日	アジア太平洋地域無形文化遺産研究センター国際ワークショップ

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
5	同上	被災した史跡の復旧に関しての課題	文化財防災センター長 高妻洋成	8月22日	ICOM(国際博物館会議)プラハ大会 Committees Meetings「DRMC Museum Techniques and Risk management」
6	同上	地震時における室内空間の機能維持のための研究 その 13 博物館・美術館の展示空間における設備什器類と展示物の被害	文化財防災センター研究員　黄川田翔	9月7日	2022年度日本建築学会大会（北海道）学術講演会
7	同上	文化財防災センター発足後の取り組み	文化財防災センター長 高妻洋成、同副センター長　建石徹、同文化財防災統括リーダー　小谷竜介、	9月11日	日本文化財科学会
8	同上	地震波を受けた博物館用独立展示ケースの振動解析	文化財防災センター研究員　黄川田翔	9月11日	日本文化財科学会第39回大会
9	同上	滋賀・浄土寺所蔵天部形立像の転倒防止に関する研究ーシミュレーション解析を利用してー	京都国立博物館学芸部保存科学室長　降幡順子、文化財防災センターアソシエイトフェロー　中屋菜緒	9月11日	日本文化財科学会第39回大会
10	同上	Cultural Heritage Disaster Risk Management System and Response in the Event of a Disaster in Japan	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	9月12日	INTERNATIONAL TRAINING COURSE (ITC) on DISASTER RISK MANAGEMENT of CULTURAL HERITAGE 2022, 16th year
11	同上	Air quality in the prefabricated temporary storage for the rescued cultural properties	文化財防災センター研究員　水谷悦子、東京文化財研究所　　保存環境研究室長　秋山純子	9月15日	5th International Conference Indoor Air Quality in Heritage and Historic Environments
12	同上	DRM system in Kyoto National Museum	京都国立博物館学芸部保存科学室長　降幡順子	9月22日	INTERNATIONAL TRAINING COURSE (ITC) on DISASTER RISK MANAGEMENT of CULTURAL HERITAGE 2022, 16th year
13	同上	文化財防災センターの活動	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	10月2日	日本建築学会文化財建造物防災体制検討特別委員会
14	同上	無形民俗文化財の災害リスクの可視化と防災―防災対策と災害対応の標準化に向けて―	文化財防災センター研究員　後藤知美	10月2日	日本災害復興学会大会
15	同上	美術品、動産文化財の調査とレスキュー	九州国立博物館学芸部博物館科学課長　木川りか、文化財防災センター主任研究員　鷲頭桂	10月29日	鹿児島県建築士会主催ヘリテージマネージャースキルアップ講習会
16	同上	Current Status of tha Cultural Heritage Disaster Risk Management Center establishment and activities in Japan	文化財防災センター長 高妻洋成、同副センター長　建石徹、同文化財防災統括リーダー　小谷竜介	11月11日	韓国文化財保存科学会
17	同上	文化財防災センターについて	文化財防災センター　研究員水谷悦子	11月11日	令和4年度文化財行政講座
18	同上	地域社会の災害復興と民俗芸能	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	11月12日	奈良県地域伝統文化保存協議会
19	同上	地域文化を災害から守るー文化財防災センターの役割	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	12月16日	国立民族学博物館、桃園市立大渓木藝生態博物館主催 国際シンポジウム「地域文化と博物館」
20	同上	平成28年熊本地震における文化財レスキュー	九州国立博物館副館長 小泉惠英	5年1月19日	鹿児島県立埋蔵文化財センター、文化財防災センター共催研修『文化財を災害から守るー現状と課題―』
21	同上	美術工芸品をはじめとする動産文化財の調査とレスキュー	九州国立博物館学芸部博物館科学課長　木川りか、文化財防災センター主任研究員　鷲頭桂	5年1月21日	福岡県建築士会主催ヘリテージマネージャー講習会
22	同上	文化財の防災を考える	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	5年1月27日	第22回文化財防火ゼミナール
23	同上	コメント「地域コミュニティと災害復興」	文化財防災センター長 高妻洋成	5年2月12日	「緊急時の文化遺産のファーストエイド」日本語版発表記念シンポジウム『文化遺産とレジリエンス -災害後の文化遺産保全活動の世界的動向から学ぶ-』

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
24	同上	コメント「無形文化遺産防災に対する文化財防災センターの取り組み」	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	5年2月12日	「緊急時の文化遺産のファーストエイド」日本語版発表記念シンポジウム『文化遺産とレジリエンス -災害後の文化遺産保全活動の世界的動向から学ぶ-』
25	同上	Salvaging Cultural Properties and Risk Mitigation at CH-DRMC Japan	文化財防災センター主任研究員　鷲頭桂	5年2月20日	The 3rd Training Workshop on Disaster Risk Management for Southeast Asian Cultural Heritage: Building Resilience for Urban Heritage in Time of Changes), SEAMEO SPAFA
26	同上	地域防災計画における文化財に関わる記述の変化	文化財防災センター研究員　中島志保	5年3月13日	令和4年度中国・四国地方の文化財防災に関わる研究協議会
27	同上	国立文化財機構文化財防災センターの活動	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	5年3月20日	全国美術館会議研修会
28	同上	美術品・動産文化財の調査と救援活動	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	5年3月25日	大阪府ヘリテージマネージャー協議会フォローアップ研修会
29	同上	東京都における文化財防災体制の現状と課題	文化財防災センター研究員　黄川田翔	5年3月26日	2022年度歴史文化資料保全首都圏大学協議会

【東京国立博物館】　91件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　73件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究	美の宝庫からの発信―書画に託された思い―	副館長　富田淳	4月27日	日本書芸院
2	同上	平治物語絵巻と合戦絵の系譜	調査研究課絵画・彫刻室長　土屋貴裕	4月29日	遠山記念館「源頼朝の時代「平治物語と源平合戦」展」特別講座
3	同上	北海道常呂郡置戸町置戸山2遺跡の第6次発掘調査報告	調査研究課考古室研究員　飯田茂雄	5月29日	第88回日本考古学協会
4	同上	踊る埴輪の修理プロジェクト	企画課特別展室主任研究員　河野正訓	6月4日	東京国立博物館月例講演会
5	同上	令和3年度の主要な成果	客員研究員　谷豊信	6月11日、6月23日、6月25日	封泥科研研究会（基盤研究Ｃ「高精細Ｘ線ＣＴスキャナの活用を中心とする古代中国の封泥の作成方法に関する総合的研究」）
6	同上	聖衆来迎寺所蔵「鋳銅三具足」の再現模造に向けた制作技法に関する研究	調査研究課工芸室主任研究員　清水 健、保存修復課調査分析室長　鳥越俊行	6月18日	第44回文化財保存修復学会ポスターセッション
7	同上	滋賀県甲賀市藤栄神社所蔵十字形洋剣(水口レイピア)のＣＴ調査と３Ｄプリンタによる造形について	保存修復課調査分析室長　鳥越俊行	6月18日	第44回文化財保存修復学会
8	同上	アイヌ民族の飾り矢筒における装飾金属の構成調査	保存修復課調査分析室長　鳥越俊行	6月18日	第44回文化財保存修復学会
9	同上	磁器・ガラスに使用される光学用エポキシ樹脂の剥離に関する実験	保存修復課保存修復室研究員　野中昭美	6月18日、6月19日	第44回文化財保存修復学会
10	同上	南レヴァントにおける青銅器・鉄器時代移行期の様相	列品管理課平常点調整室主任研究員　小野塚拓造	6月19日	アコリス考古学プロジェクト2022公開シンポジウム
11	同上	Classification of Sue ware types and dating by 3D-2D-CNN models	調査研究課考古室研究員　山本亮	6月30日	SEAA Conference 2022
12	同上	ハニワの世界へようこそ 関東の埴輪を中心に	企画課特別展室主任研究員　河野正訓	7月2日	古代出雲歴史博物館 特別展 ハニワの世界へようこそ関連講座
13	同上	東京国立博物館の旧植松家コレクション	調査研究課絵画・彫刻室研究員 大橋美織	8月11日	静岡県・沼津市教育委員会主催「東海道・原の文化誌」
14	同上	スコータイ刻文と仏塔建立：仏舎利安置と蓮蕾形仏塔	企画課長　原田あゆみ	8月24日	東南アジア古代史研究会
15	同上	模写から読み解けること―桜井香雲模「阿弥陀鉤召図」をめぐって―	列品管理課平常展調整室研究員　古川攝一	9月10日	月例講演会「東博150年の歴史と模写・模造」
16	同上	古代エジプト新王国時代におけるガラスの白濁技法の変遷の解明	列品管理課平常展調整室主任研究員　小野塚拓造	9月10日、９月11日	日本文化財科学会第39回大会
17	同上	東京国立博物館所蔵の古銀貨に関する調査	保存修復課調査分析室長　鳥越俊行、東京国立博物館客員研究員　西脇康、調査研究課考古室長　井出浩正、調査研究課工芸室　清水健	9月11日	日本文化財科学会第３９回大会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
18	同上	土器の圧痕および混入繊維の観察におけるX線CT画像の有効性	保存修復課調査分析室長 鳥越俊行、保存修復課調査分析室専門職　宮田将寛	9月11日	日本文化財科学会第39回大会
19	同上	土器圧痕同定のためのX線CT画像を用いた現生種実の形態把握	保存修復課調査分析室長 鳥越俊行、保存修復課調査分析室専門職　宮田将寛	9月11日	日本文化財科学会第39回大会
20	同上	布留遺跡に集まった人びと―外来系土器からみた地域間交流―	調査研究課考古室研究員 山本亮	9月17日	ここまで判った布留遺跡―物部氏以前とその後―
21	同上	博物館の仏像の展示照明における質感の再現	上席研究員　木下史青	9月22日	照明学会 視覚・色・光環境分科会、照明デザイン分科会 シンポジウム「照明デザインと質感の関わり」
22	同上	東京国立博物館が所蔵する古丁銀類の蛍光Ｘ線分析について	保存修復課調査分析室長 鳥越俊行	10月7日	島根県石見銀山遺跡科学調査指導会
23	同上	東京国立博物館が所蔵する古丁銀類の蛍光Ｘ線分析について	保存修復課調査分析室長 鳥越俊行	10月8日	島根県石見銀山遺跡客員研究員検討会
24	同上	第69回日本伝統工芸展染織解説	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉	10月18日	三越日本橋店・第69回日本伝統工芸展会場
25	同上	特別展「国宝　東京国立博物館のすべて」に見る日本の工芸	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉	10月18日	三越日本橋店・第69回日本伝統工芸展会場
26	同上	東京国立博物館 ―価値観・世界観を照明で見せる	上席研究員　木下史青	10月21日	照明学会東海支部 あかりの日記念講演 2022
27	同上	日本文化遗产的X射线CT系统的介绍和使用	保存修復課調査分析室長 鳥越俊行	10月28日	International Symposium on the Application of X-ray Imaging Technology for Cultural Relics（上海博物館）
28	同上	東京国立博物館におけるX線CT装置の導入と活用	保存修復課調査分析室専門職　宮田将寛	10月28日	2022日韓学術人的交流事業「日韓博物館における保存科学設備の活用及び展望」
29	同上	多様な文化財の診断および修理検討のためのCT活用事例	保存修復課保存修復室研究員　野中昭美	10月28日	2022日韓学術人的交流事業「日韓博物館における保存科学装備の活用及び展望」
30	同上	佐渡奉行所跡の発掘で見つかった炉跡の被熱温度推定	保存修復課調査分析室長 鳥越俊行	11月12日	日本鉱業史研究会佐渡金銀山現地研究発表会
31	同上	国立博物館における科学調査	保存修復課調査分析室長 鳥越俊行	11月3日	第7回文理融合シンポジウム(高エネルギー加速器研究機構)
32	同上	日本陶磁における金銀彩とその意義について	企画課出版企画室主任研究員　三笠景子	11月26日	美術史学会東支部例会
33	同上	インド更紗の製作地と絵画様式の関連性―人物文様を中心に―	保存修復課保存修復室研究員　沼沢ゆかり	11月26日	美術史学会東支部例会
34	同上	赤堀茶臼山古墳の埴輪ー東京国立博物館所蔵品の発掘から研究ー	企画課特別展室主任研究員　河野正訓	11月27日	「企画展 赤堀茶臼山古墳ー東国屈指のハニワたちー」関連講座
35	同上	「古九谷様式」再考	特任研究員　今井敦	12月17日	東洋陶磁学会令和4年度第3回研究会
36	同上	醍醐寺の中世仏画	列品管理課平常展調整室研究員　古川攝一	5年1月7日	科研費「公武の信仰を統合した足利将軍家の宗教政策からみる室町時代の宗教絵画の包括的研究」研究会
37	同上	多文化共生における博物館教育の役割	博物館教育課教育講座室アソシエイトフェロー 山本桃子	5年1月19日	カシオ計算機株式会社・武蔵野美術大学産学連携研究会
38	同上	きものの意匠にみる日本の伝統色・文様とその変遷	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉	5年2月12日	シルク博物館
39	同上	東京国立博物館が所蔵する古丁銀類の蛍光Ｘ線分析について	保存修復課調査分析室長 鳥越俊行	5年2月20日	日本銀行貨幣博物館勉強会
40	同上	Bronze Industry Remains at Tel Zeror, Israel Revisited	列品管理課平常点調整室主任研究員　小野塚拓造	5年2月28日	ISF-JSPS Joint Program "Urbanism and Technological Innovation in the Ancient Israel" The 2nd Workshop
41	同上	三次元データを活用した機械学習による土器分類の展望	調査研究課考古室研究員 山本亮	5年3月5日	2022 年度学変A「土器を掘る」研究成果報告会
42	同上	古丁銀類の科学調査と展望	保存修復課調査分析室長 鳥越俊行	5年3月16日	島根県石見銀山遺跡客員研究員検討会
43	同上	須恵器スキャンデータの3D-RGBA 1283解像度Voxelデータによる教師付き分類の試行	調査研究課考古室研究員 山本亮	5年3月25日	日本情報考古学会第47回大会
44	同上	東京国立博物館と飯岡車塚古墳出土品	調査研究課考古室研究室 山本亮	5年3月26日	綴喜古墳群国指定史跡記念シンポジウム
45	収蔵品等の有形文化財に関する調査研究	「木挽町狩野家伝来資料の課題と展望」	博物館教育課ボランティア室長　金井裕子	4月3日	美術史学会東支部大会シンポジウム
46	同上	伊万里焼吸坂手についての一考察 ： 東京国立博物館所蔵の作例を中心に	博物館教育課教育講座室研究員　横山梓	6月25日	東洋陶磁学会2022年度 第1回研究会 於青山学院大学

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
47	同上	髙木聖鶴の書とコレクション	百五十年史編纂室長　恵美千鶴子	6月25日	岡山県立美術館開催「生誕100年記念髙木聖鶴展」
48	同上	信州・佐久の縄文文化を考える	調査研究課考古室長　井出浩正	7月10日	佐久教育振興会講演会
49	同上	五馬図巻の研究史と修理報告	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　植松瑞希	7月18日	中国美術研究会（京都大学人文科学研究所）
50	同上	明代蘇州における王維憧憬	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　植松瑞希	12月3日	「輞川図と蘭亭曲水図」展記念シンポジウム「輞川図と蘭亭曲水図をめぐる諸問題」（静岡県立美術館）
51	同上	「『大小暦類聚』とデータベース公開の経緯」	特任研究員　田沢裕賀	5年1月21日	国際浮世絵学会　第123回研究会
52	創立150年記念特集「王羲之と蘭亭序」に関連する調査研究	王羲之書法と蘭亭序	学芸研究部調査研究課東洋室研究員・六人部克典	5年2月25日	東京国立博物館連携講演会「王羲之と蘭亭序」
53	沖縄復帰50年記念特別展「琉球」に関する調査研究	明治17、18年購入の東博琉球コレクション	博物館教育課教育普及室長　品川欣也	6月10日	東京国立博物館連続講座「未来へつなぐ琉球・沖縄文化」
54	同上	市河米庵コレクションの琉球関係資料	学芸研究部調査研究課東洋室研究員 六人部克典	6月10日	東京国立博物館連続講座「未来へつなぐ琉球・沖縄文化」
55	同上	琉球の染織	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉	6月11日	東京国立博物館連続講座「未来へつなぐ琉球・沖縄文化」
56	同上	琉球・沖縄文化へのまなざし -沖縄学をめぐる人びと-	企画課長　原田あゆみ	8月7日	九州国立博物館 講座 「琉球の美術と文化を深める」
57	同上	九州国立博物館の琉球コレクション　-九博の取り組み-	企画課長　原田あゆみ	10月22日	復帰50年展「琉球―美とその背景―」シンポジウム 「守り継がれてきた琉球の文化～琉球コレクションの成り立ちと意義について」
58	同上	東京国立博物館の琉球コレクション	博物館教育課教育普及室長　品川欣也	10月22日	沖縄県立博物館美術館「シンポジウム 守り継がれてきた琉球の文化」
59	同上	CT調査による御供飯の特徴の検討	保存修復課調査分析室長鳥越俊行、保存修復課調査分析室専門職　宮田将寛	10月25日	琉球漆器「御供飯」共同調査検討会
60	東京国立博物館創立150年記念　特別展「国宝　東京国立博物館のすべて」に関する調査研究	東京国立博物館の150年	百五十年史編纂室長　恵美千鶴子	10月21日	特別展「国宝　東京国立博物館のすべて」見どころを探る（於：江東区古石場文化センター）
61	同上	東京国立博物館創立150年記念　特別展「国宝　東京国立博物館のすべて」	列品管理課平常展調整室研究員　増田政史	10月28日	学校法人聖心女子学院 生涯学習センター
62	同上	特別展「国宝　東京国立博物館のすべて」見どころを探る 東京国立博物館の国宝②	列品管理課長　沖松健次郎	11月3日	江東区古石場文化センター講座
63	同上	東京国立博物館の国宝と150年	列品管理課平常展調整室研究員　増田政史	11月9日	東海東京証券株式会社 オルクドールコンシェルジュ部 アートセミナー
64	同上	特別展『国宝　東京国立博物館のすべて』見どころ解説	副館長　富田淳、列品管理課登録室長　佐藤寛介、列品管理課長　沖松健次郎、百五十年史編纂室長　恵美千鶴子、列品管理課平常展調整室研究員　増田政史	11月24日	東京国立博物館　記念講演会
65	特別企画「大安寺の仏像」に関する調査研究	大安寺の仏像の魅力	列品管理課平常展調整室研究員　増田政史	5年2月10日	東京国立博物館特別企画「大安寺の仏像」展開催記念 『大安寺特別講演』
66	同上	大安寺の歴史と仏像	列品管理課平常展調整室研究員　増田政史	5年2月16日	東京国立博物館　記念講演会
67	特別展「東福寺」に関する調査研究	東福寺の歴史と寺宝	企画課特別展室研究員 高橋真作	5年3月9日	鎌倉禅研究会
68	同上	特別展「東福寺」鑑賞の手引き	企画課特別展室研究員 高橋真作	5年3月19日	NHK文化講演会（新宿歴史博物館）
69	同上	伝説の絵仏師・明兆の画力	企画課特別展室研究員 高橋真作	5年3月25日	東京国立博物館月例講演会
70	博物館環境デザインに関する調査研究	東京帝室博物館 奉献美術館（表慶館）造営の石材調達の概要	企画課デザイン室長　矢野賀一	9月7日	日本建築学会
71	博物館教育に関する調査研究	上野の森で動物めぐり「翼と羽」	博物館教育課教育講座室研究員　横山梓	5月15日	上野動物園、国立科学博物館、東京国立博物館　三館園合同事業 オンライン講座
72	同上	教育普及の諸事例～東京国立博物館を例に	博物館教育課長　鈴木みどり	6月8日	第12回指定文化財（美術工芸品）企画・展示セミナー
73	同上	情報保障から新たな鑑賞体験のデザインへ（博物館での取り組み～東京国立博物館の事例）	博物館教育課長　鈴木みどり	7月4日	国際カンファレンスだれもが文化でつながる国際会議：Creative Well-being Tokyo 2022

○その他有形文化財に関連する調査研究　18件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	博物館の環境保存に関する調査研究	ハンドリフトを用いた文化財の施設内輸送時に生じる振動の原因と対策に関する研究	保存修復課長　和田浩	6月18日	文化財保存修復学会44回大会
2	同上	2022年度災害対策調査部会の活動報告	保存修復課長　和田浩	6月18日	文化財保存修復学会44回大会
3	同上	展示室における換気対策が与えるエネルギー消費への影響と持続可能な博物館環境の維持に関する考察	保存修復課環境保存室アソシエイトフェロー　相川悠、保存修復課長　和田浩	6月19日	文化財保存修復学会44回大会
4	同上	展示室における換気対策が与えるエネルギー消費への影響と持続可能な博物館環境の維持に関する考察	保存修復課環境保存室アソシエイトフェロー　相川悠、保存修復課長　和田浩	6月19日	文化財保存修復学会44回大会
5	同上	災害情報の統合と都市と文化財のデジタル化と防災	保存修復課長　和田浩	7月3日	震災遺構資料科研中四国九州保存修復研究会合同研究会
6	同上	綿の衝撃試験についての基礎的研究	保存修復課長　和田浩	7月20日	日本包装学会第31回年次大会
7	同上	博物館の隠れた地震対策～東京国立博物館の事例を中心に～	保存修復課研究員　黄川田翔	8月30日	東京消防庁主催「地震から身を守る室内安全セミナー」
8	同上	美術品輸送包装の課題と研究開発	保存修復課長　和田浩	9月1日	総務省電波資源拡大のための研究開発「同期・多数接続信号処理を可能とするバックスキャッタ通信技術の研究開発」令和4年度 第1回実利用推進検討会
9	同上	法隆寺金堂収蔵庫における壁画の保存・公開に関する研究 -2021年限定公開における収蔵庫内環境測定値の検討-	保存修復課長　和田浩	9月10日	日本文化財科学会第39回大会
10	同上	東京国立博物館資料館のカビ被害と対策事例報告	博物館情報課情報資料室長　山﨑美和	10月6日	日本図書館協会　全国図書館大会　第11分科会（資料保存）
11	同上	未来へつなぐ、保存と修理の現場	保存修復課長　和田浩	11月8日	令和４年度小金井市公民館東分館市民講座
12	同上	東京国立博物館資料館の現状と書架スペース問題　増架無しの中規模図書移動事例報告	博物館情報課情報資料室長　山﨑美和	11月17日	図書館総合展フォーラム
13	同上	博物館施設内輸送における振動計測	保存修復課長　和田浩	11月18日	第60回全日本包装技術研究大会
14	博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	つなぎ役としてのColBase	博物館情報管理室長　阿児雄之	10月12日	第4回情報知識学オンラインセミナー
15	同上	東京国立博物館のアーカイブズとデジタルアーカイブ	特任研究員　田良島哲	10月25日	韓国国立中央博物館　博物館アーカイブシンポジウム
16	創立150年へ向けた館史編纂のための基礎的な資料整理と調査研究	東京国立博物館百五十年史編纂に関わる資料の整理と活用	百五十年史編纂室長　惠美千鶴子	7月20日	専門図書館協議会全国研究集会「“活用”を通して組織アーカイブの価値を探る」
17	同上	蜷川式胤の眼	百五十年史編纂室長　惠美千鶴子	11月19日	明治美術学会特別研究会「なぜ明治・美術・学会なのか」（於：郡山市立美術館）
18	同上	東京国立博物館の150年	副館長　富田淳	11月25日	第351回毎日メトロポリタンアカデミー

【京都国立博物館】66件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　22件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	近畿地区を中心とする社寺文化財の調査研究	乱世の七朝帝師　夢窓疎石の頂相と袈裟	学芸部企画室長・工芸室長　山川　曉	8月6日	京都国立博物館　夏期講座
2	同上	The Role of Buddhist Surplices Kāṣāya in Rituals: with a focus on the Suiriku-e Rite	学芸部企画室長・工芸室長　山川　曉	8月22日	ICOM PRAGUE 2022
3	収蔵品・寄託品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究	祇園祭芦刈山 神体着用小袖の復元をめぐる諸問題	学芸部企画室長・工芸室長　山川　曉	6月18日	服飾美学会令和4年度大会 通算第105回研究発表会
4	同上	琉球王家と明清朝の下賜衣料	学芸部企画室長・工芸室長　山川　曉	7月31日	第Ⅱ期明服・笥付科研　第3回研究会
5	同上	人形玩具の今と未来～たもち、ならべる博物館～シンポジウム　パネルディスカッション　京都国立博物館事例報告	学芸部企画室長・工芸室長　山川　曉	10月22日	人形玩具学会 第34回研究発表大会
6	同上	書跡史から見た津八幡宮所蔵 三十六歌仙扁額について	学芸部列品管理室長　羽田聡	10月30日	石水博物館特別展「津八幡宮の名宝」記念シンポジウム「津のたからもの 三十六歌仙扁額の魅力にせまる」（三重県立美術館）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
7	同上	耳福 美麗なる中国陶磁－京都国立博物館松井コレクションより－	学芸部調査・国際連携室長 降矢哲男	4月17日	愛宕坂茶道美術館 特別展 眼福 美麗なる中国陶磁 講演会（アオッサ）
8	同上	屏風絵を楽しむために	学芸部保存修理指導室主任研究員　福士雄也	7月21日	くろちく百千足館
9	同上	画家たちの桃山時代	同上	11月13日	たつの市役所多目的ホール
10	同上	釈迦堂縁起絵巻（清涼寺蔵）の修理報告と研究	学芸部企画室研究員　井並林太郎	5年3月19日	「五台山仏教文化圏における文物の生成・継承・波及」第3回ワークショップ
11	同上	初期水墨画と中世海道	学芸部列品管理室研究員 森道彦	8月5日	京都国立博物館　夏期講座
12	同上	文化財修理と伝統材料	同上	10月30日	明日の京都フォーラム 第12回「日本の文化は自然の恵みから ～伝統材料・道具とそれを支える人々の未来～」
13	同上	亡国と美術―宋遺民の絵画をめぐって	学芸部調査・国際連携室研究員　森橋 なつみ	8月6日	京都国立博物館　夏期講座
14	特別展「河内長野の霊地　観心寺と金剛寺―真言密教と南朝の遺産―」に関する調査研究	展覧会見どころ・作品紹介	学芸部企画室研究員　井並林太郎	7月18日	京都新聞ニュースカフェ（京都新聞文化ホール）
15	同上	河内長野の霊地　観心寺と金剛寺	同上	8月6日	歴史・文化セミナー（近鉄文化サロン阿倍野）
16	同上	展覧会紹介	同上	9月4日	仏教芸術学会第3回研究発表会（オンライン開催）
17	特別展「京に生きる文化　茶の湯」に関する調査研究	茶の湯と京都 ～特別展 『京に生きる文化 茶の湯』の見どころ～	学芸部調査・国際連携室長　降矢哲男	10月10日	NHK文化センター京都講座
18	同上	京に生きる文化 茶の湯－歴史とその背景－	同上	10月22日	特別展 京に生きる文化 茶の湯 記念講演会（京都国立博物館）
19	特別公開「熊本・宮崎の古墳文化 -石人と貝輪-」に関する調査研究	古墳時代の人物像 - 石の“埴輪”と土の埴輪	学芸部研究員　古谷毅	5年1月19日	清水寺 北法相宗 仏教文化講座
20	教育活動に関する調査研究	文化財の複製・模写・模造とその活用	学芸部企画室研究員　井並林太郎	5月22日	大阪よみうり文化センター（メルパルク京都カルチャールーム）
21	同上	博物館と人を繋ぐ―文化財ソムリエと京博ナビゲーター	学芸部教育室主任研究員 水谷亜希	5年2月4日	京都国立博物館国際シンポジウム「アジアの博物館教育は、いま―国立博物館の事例から―」
22	同上	多様な人々に向けて開かれる博物館活動について	同上	5年3月7日	滋賀県立美術館学芸課向上プログラム

○その他有形文化財に関連する調査研究　44件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	国内外の博物館等への援助・助言等	シミュレーションを利用した立体文化財の転倒防止に関する研究－法蔵禅寺観音立像を例に -	学芸部保存科学室長　降幡順子、中屋菜緒（文化財防災センターアソシエイトフェロー）	6月11日	文化財保存修復学会第44回大会
2	同上	滋賀・浄土寺所蔵天部形立像の転倒防止に関する研究－シミュレーション解析を利用して－	同上	9月11日	日本文化財科学会第39回大会
3	同上	The Kyoto National Museum’s Facilities and Disaster Risk Countermeasures for Movable Cultural Properties	学芸部保存科学室長　降幡順子	9月22日	UNESCOチェアITC-DRMCH
4	博物館情報、文化財情報に関する調査研究	京都国立博物館における記録資料の整理と課題　メタ文化財情報アーカイブズ構築に向けて	学芸部列品管理室　研究補佐員　西村　由希子、同室長　羽田　聡、同研究員　近藤　無滴、学芸部　三島　貴雄、国立歴史民俗博物館　後藤　真	11月12日	デジタルアーカイブ学会　第7回研究大会一般研究発表（オンライン）
5	文化財の製作技法・材料等に関する調査研究	重要文化財「色絵釘隠（伝野々村仁清）の胎土・彩色材料に関する研究	学芸部保存科学室長　降幡順子	6月11日	文化財保存修復学会第44回大会
6	同上	若狭国鎮守神人絵系図の彩色材料調査－復元模写事業を踏まえて－	同上	9月11日	日本文化財科学会第39回大会
7	その他有形文化財に関連する調査研究	趣旨説明	副館長　栗原祐司	5月22日	国際博物館の日記念シンポジウム

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
8	同上	記念講演「博物館とSDGs」	同上	6月7日	岡山県博物館協議会総会
9	同上	外国公館の展示施設	同上	6月9日	日本展示学会第41回研究大会
10	同上	動向紹介「博物館法改正について」	同上	6月12日	アート・ドキュメンテーション学会2022年度年次大会
11	同上	セッション「新しい博物館法と公開天文台」パネリスト	同上	6月28日	日本公開天文台協会第16回全国大会
12	同上	博物館の現状と課題	同上	8月1日	文化庁第12回指定文化財（美術工芸品）企画・展示セミナー
13	同上	Cultural Heritage Disaster Risk Management Center in Japan	同上	8月23日	ICOMプラハ大会（チェコ）
14	同上	ICOMプラハ大会報告会	同上	9月16日（オンライン）	ICOMプラハ大会報告会
15	同上	KYOTO：World Heritage City－As a Field of Cultural Heritage Education	同上	11月14日	ASEAN Cultural Heritage Education International Workshop
16	同上	エコミュージアムと住民参加	同上	11月23日	軍事・戦争遺跡保存シンポジウム－近代遺跡保存の条件とエコミュージアムの可能性
17	同上	改正博物館法とICOMの博物館定義	同上	12月10日	日本展示学会展示学講座
18	同上	Panel discussion on roles of youth and tsunami museums for resilience	同上	12月15日	第4回世界津波博物館会議
19	同上	博物館法改正について2023	同上	5年2月19日（オンライン）	第113回アート・ドキュメンテーション学会研究会
20	同上	基調報告：博物館現場から読み解く改正法の概要とポイント	同上	5年3月4日（オンライン）	改正博物館施行間近！～現場の視点で改正法のポイントを考える～」フォーラム
21	同上	博物館法の改正への対応	同上	5年3月10日	令和4年度岡山県博物館協議会第2回研修会
22	同上	古代日本における施釉陶器生産技術の展開―奈良三彩その後―	学芸部長　尾野善裕	8月28日	中国古陶瓷学会「唐三彩学術研討会」
23	同上	八事裏山窯の瓦生産	同上	11月12日	第11回中世瓦研究会「永福寺式軒瓦の成立と展開～瓦から探る中世寺院造営の背景～」
24	同上	仏像入門	学芸部上席研究員　淺湫毅	7月15日	智積院研修会
25	同上	天台のみほとけ　―妙法院と三十三間堂を中心	同上	10月16日	妙法院仏教文化講座
26	同上	妙法院に伝わる秀吉ゆかりの漆椀　―高台寺蒔絵、大逆転	学芸部教育室長　永島明子	11月27日	第555回　妙法院仏教文化講座
27	同上	漆器のたのしみ	同上	5年1月28日	国際基督教大学博物館湯浅八郎記念館　特別展「日本のうるし工芸」関連第117回公開講座
28	同上	重要文化財 佐竹本三十六歌仙絵「源重之」収蔵紀年特別講演会パネルディスカッション	学芸部調査・国際連携室長　降矢哲男	4月9日	重要文化財 佐竹本三十六歌仙絵「源重之」収蔵紀年特別講演会（秋水美術館）
29	同上	茶の湯の歴史　奈良時代から鎌倉時代	同上	10月23日	清水寺 北法相宗仏教文化講座
30	同上	茶の湯の歴史　室町時代から近代	同上	11月27日	清水寺 北法相宗仏教文化講座
31	同上	茶の湯と仏教の関わり	同上	5年3月19日	第557回　妙法院仏教文化講座
32	同上	軒瓦の同笵・異笵に関する新視点ー変形忍冬唐草文軒平瓦6647Cの再検討からー	学芸部考古室長　石田由紀子	7月9日	第23回立命館大学考古学談話会
33	同上	寺社に奉納された絵馬	学芸部保存修理指導室主任研究員　福士雄也	5年3月26日	清水寺 北法相宗仏教文化講座
34	同上	佐竹本三十六歌仙絵「源重之」	学芸部企画室研究員　井並林太郎	4月30日	「重要文化財　佐竹本三十六歌仙絵「源重之」収蔵記念特別展　歌仙絵と太刀」記念講演会（秋水美術館）
35	同上	王朝歌人の表情―佐竹本三十六歌仙絵『小大君』から―	同上	8月28日	「一笑一顰　－日本美術に描かれた顔－」展　特別講演（大和文華館）
36	同上	京都・高山寺の名宝　鳥獣戯画―その魅力と謎―	同上	10月2日	「国宝　鳥獣戯画と愛らしき日本の美術」展　記念講演会（福岡市美術館）
37	同上	歌仙絵と似絵の創成―うた／絵／物語が交差する場としての歌林苑	同上	10月8日	和歌文学会第68回大会（立正大学）
38	同上	国宝・日月四季山水図屏風の美　天野山金剛寺の歴史とともに	同上	11月17日	「仏教美術と西陣織」展　講演会（西陣織あさぎ美術館）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
39	同上	The Protection and Conservation of Cultural Heritage During the Edo (1615-1868) and Meiji (1868-1912) Eras: The Foundation of Japan's Conservation of Cultural Properties	学芸部列品管理室研究員 森道彦	5月6日	国際シンポジウム「Conservation Thinking in Japan　バード大学院センター（米国ニューヨーク市）
40	同上	中国の美術と玄奘三蔵	調学芸部査・国際連携室研究員　森橋なつみ	12月25日	清水寺 北法相宗仏教文化講座
41	同上	三輪山と古墳時代の神マツリ	学芸部研究員　古谷毅	10月19日	山の辺文化会議 令和４年度シンポジウム「ヤマト王権誕生の地」ー纒向遺跡と三輪山ー」
42	同上	Conservation Thinking in Japan: Nobuyuki Kamba and Melissa M. Rinne in Conversation	学芸部調査・国際連携室主任専門職　リンネ マリサ	5月6日	国際シンポジウム「Conservation Thinking in Japan　バード大学院センター（米国ニューヨーク市）
43	同上	An Insider's Introduction to the Kyoto National Museum	同上	6月27日	アジア・ソサイエティ（東京 国際文化会館）「Art for Breakfast」シリーズ
44	同上	The Power of Collecting and Collections: Wallpaper and Interior Design (Moderator)	同上	6月27日	ICOM―ICDAD年次会議、ICOMプラハ大会 2022（チェコ共和国プラハ市）

【奈良国立博物館】　53件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　30件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	収蔵品等及び館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究	奈良国立博物館の仏教美術コレクション	美術室長　岩井共二	4月24日	「SHIBUYAで仏教美術―奈良国立博物館コレクションより」記念講演会
2	同上	東アジア世界のブッダの姿	美術室長　岩井共二	7月16日	夏季連続講座「仏像のかたち」
3	同上	如来像の着衣について	美術室長　岩井共二	12月18日	奈良国立博物館サンデートーク
4	同上	平安貴族と装飾経	列品室長　斎木涼子	7月17日	奈良国立博物館サンデートーク
5	同上	解脱房貞慶をめぐる五台山文殊信仰の造形	教育室長　谷口耕生	7月23日	「五台山文化圏における文物の生成・継承・波及」第2回ワークショップ
6	同上	明恵上人をめぐる仏教絵画	教育室長　谷口耕生	9月18日	奈良国立博物館サンデートーク
7	同上	美術からみた聖徳太子	工芸考古室主任研究員 三田覚之	8月20日	柏原市立歴史資料館講演会
8	同上	図像から彫像へ ―不動明王像の魅力	企画室主任研究員 山口隆介	7月30日	夏季連続講座「仏像のかたち」
9	同上	古写真と仏像研究―大阪・藤田美術館所蔵空也上人像の近代―	企画室主任研究員 山口隆介	11月20日	奈良国立博物館サンデートーク
10	同上	興福寺の仏像―日本仏教彫刻の精華	企画室主任研究員 山口隆介	10月7日	公立学校共済組合友の会「歴史教室・奈良」
11	同上	快慶研究最前線―阿弥陀如来像を中心に―	企画室主任研究員 山口隆介	12月4日	人文研アカデミー2022シンポジウム「日本古代中世の仏像彫刻―阿弥陀如来の変容をさぐる―」
12	同上	菩薩像のかたちと信仰―観音菩薩を中心に	教育室研究員　内藤航	7月23日	夏季連続講座「仏像のかたち」
13	同上	薬師如来像をめぐって	工芸考古室アソシエイトフェロー　伊藤旭人	4月17日	奈良国立博物館サンデートーク
14	同上	強く、こわい、ほとけたち	工芸考古室アソシエイトフェロー　伊藤旭人	5月21日	京都学講座
15	同上	シミュレーションを利用した立体文化財の転倒防止に関する研究―法蔵禅寺観音立像を例に―	工芸考古室アソシエイトフェロー　伊藤旭人	6月18日、19日	第44回文化財保存修復学会大会
16	同上	滋賀・浄土寺所蔵天部形立像の転倒防止に関する研究―シミュレーション解析を利用して―	工芸考古室アソシエイトフェロー　伊藤旭人	9月10日、11日	第39回日本文化財科学会大会
17	同上	奈良・如意輪寺所蔵　源慶作厨子入り蔵王権現立像について―13世紀興福寺との関係に注目して―	美術室アソシエイトフェロー　松井美樹	5月21日	第74回美術史学会研究大会
18	特別展「大安寺のすべて―天平のみほとけと祈り―」	大安寺の祈りと営み―出土品を中心に―	企画室長　中川あや	5月21日	「特別展　大安寺のすべて―天平のみほとけと祈り―」公開講座
19	貞享本當麻曼荼羅朱里完成記念　特別展「中将姫と當麻曼荼羅―祈りが紡ぐ物語―」に関する調査研究	貞享本當麻曼荼羅とその周辺	情報サービス室主任研究員　北澤菜月	8月6日	「貞享本當麻曼荼羅朱里完成記念特別展　中将姫と當麻曼荼羅―祈りが紡ぐ物語―」公開講座

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
20	わくわくびじゅつギャラリー「はっけん！ほとけさまのかたち」に関する調査研究	なぜなぜ？はっけん！ほとけさまのかたち	教育室研究員　翁みほり	8月21日	奈良国立博物館講堂
21	「第74回　正倉院展」に関する調査研究	正倉院宝物の魅力	館長　井上洋一	10月23日	大野城市心のふるさと館特別展記念講演会
22	同上	正倉院宝物の魅力―遙かな歴史と驚きの技術―	学芸部長　吉澤悟	10月7日	京都アスニー講座
23	同上	正倉院宝物と天平文化	学芸部長　吉澤悟	10月8日	企画展「上野三碑の時代　七・八世紀の都と東国」特別講演
24	同上	せいぶ正倉院講座	学芸部長　吉澤悟	11月2日	奈良市西部公民館
25	同上	古代の戸籍と正倉院文書について	資料室長　野尻忠	10月16日	奈良国立博物館サンデートーク
26	同上	今年の正倉院展のみどころ	工芸考古室研究員 三本周作	9月25日	読売新聞東京本社
27	同上	正倉院の仏具―奈良時代の寺院と法会の世界―	工芸考古室研究員 三本周作	11月12日	「第74回　正倉院展」公開講座
28	同上	仏像けんきゅー部（ゲスト出演）	工芸考古室アソシエイトフェロー　伊藤旭人	10月30日	奈良国立博物館講堂
29	同上	プレミアムカード会員特別鑑賞会　第74回正倉院展編	工芸考古室アソシエイトフェロー　伊藤旭人	11月4日	奈良国立博物館講堂
30	同上	賛助会会員特別鑑賞会　第74回正倉院展編	工芸考古室アソシエイトフェロー　伊藤旭人	11月4日	奈良国立博物館講堂

○その他有形文化財に関連する調査研究　23件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	その他有形文化財に関する調査研究	文化遺産と社会	館長　井上洋一	1月27日	奈良シニア大学
2	同上	弥生絵画にみる倭人の世界	館長　井上洋一	8月7日	奈良学セミナー
3	同上	仏教美術以前の日本美術	館長　井上洋一	8月7日	奈良国立博物館サンデートーク
4	同上	自らの文化がある限り、その国は生きながらえる	館長　井上洋一	8月27日	国立大学法人奈良国立大学機構 奈良カレッジズ学問祭
5	同上	青銅のまつり	館長　井上洋一	10月1日	新宿歴史博物館特別展記念講演会
6	同上	大岩山銅鐸と弥生時代の青銅祭祀	館長　井上洋一	10月15日	滋賀県立安土城考古博物館特別展記念講演会
7	同上	文化遺産と社会	館長　井上洋一	11月4日	國學院大學一四〇周年記念講演会
8	同上	銅鐸・その祈りと形	館長　井上洋一	5年1月14日	特別ワークショップ&レクチャー「未知っち、見ちっち Vol.Ⅲ　見立ての世界」（大分県立美術館）
9	同上	弥生時代の青銅器：形・模様を分けて見えてくるもの	館長　井上洋一	5年2月25日	新琵琶湖学セミナー（滋賀県立琵琶湖博物館）
10	同上	世界古代文明の聖地を巡る	館長　井上洋一	5年3月1日	芸術文化教養講座特別編（大分県立美術館）
11	同上	お雇い外国人エドアルド・キヨッソーネと日本美術	館長　井上洋一	5年3月26日	連続公開講座「図書館劇場」（奈良県立図書情報館）
12	同上	博物館情報・メディア論　資料のドキュメンテーションとデータベース	情報サービス室長　宮崎幹子	7月21日	同志社大学
13	同上	奈良博の教育普及	教育室研究員　翁みほり	12月11日	奈良学セミナー
14	同上	遠隔操作ロボット（アバター）を用いた遠隔地域間での文化財・交流学習について	教育室研究員　翁みほり、（共同発表者：東上佳佑（大分県商工観光労働部先端技術挑戦課））	5年2月4日	第13回世界遺産学習全国サミットinオンラインなら
15	同上	博物館の展示について	工芸考古室研究員 三本周作	6月7日	奈良国立博物館講堂
16	保存科学の観点からの収蔵品・寄託品等の調査研究	サステナブルな文化財保存	保存修理指導室長 荒木臣紀	3月20日	奈良国立博物館サンデートーク
17	同上	文化財の健康診断―X線CT調査でみる文化財―	保存修理指導室アソシエイトフェロー 安藤真理子	6月19日	奈良国立博物館サンデートーク
18	同上	文化財を加害するムシの話	保存修理指導室アソシエイトフェロー　小峰幸夫	5月15日	奈良国立博物館サンデートーク
19	同上	新種のシミの報告	保存修理指導室アソシエイトフェロー　小峰幸夫	6月19日	文化財保存修復学会第44回大会

20	同上	竹材のフラスから加害種を特定する分子生物学的手法の検討	保存修理指導室アソシエイトフェロー　小峰幸夫	6月18日	文化財保存修復学会第44回大会
21	同上	アフリカヒラタキクイムシを用いた高温処理（48℃及び50℃）の繰り返しによる効果判定の実験	保存修理指導室アソシエイトフェロー　小峰幸夫	6月19日	文化財保存修復学会第44回大会
22	同上	文化財害虫とその対処―最近のトピックを中心に―	保存修理指導室アソシエイトフェロー　小峰幸夫	11月15日	九州国立博物館IPMセミナー
23	同上	外国人観光客の影響による博物館の変化―奈良国立博物館を例として―	情報サービス室アソシエイトフェロー　張　小娟	11月18日	浙江省博物館主催国際シンポジウム「博物館と地域振興」

【九州国立博物館】　21件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　2件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究	開かれた博物館への取り組み	学芸部企画課特別展室主任研究員　西島亜木子	11月25日	放送大学面接授業、九州国立博物館
2	同上	考古学を楽しむ	学芸部企画課特別展室主任研究員　西島亜木子	12月2日	西南コミュニティカレッジ

○その他有形文化財に関連する調査研究　19件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	その他有形文化財に関連する調査研究	収蔵庫分類の観点から考える松浦家コレクション一煕の分類の意義―	学芸部文化財課研究員　松浦晃佑	6月4日	第44回松浦党研究連合大会　記念講演（平戸文化センター）
2	同上	展示ケース内VOC濃度低減のための内装材及び換気ファンの効果に関する検証	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー　和泉田絢子、同研究員　渡辺祐基、同研究補佐員　富松志帆、松尾実香、同課長　木川りか	6月19日	文化財保存修復学会第44回大会
3	同上	新種のシミの報告	東京文化財研究所　島田潤、佐藤嘉則、学芸部博物館科学課研究員　渡辺祐基、同課長　木川りか、奈良国立博物館　小峰幸夫	6月19日	文化財保存修復学会第44回大会
4	同上	法隆寺金堂収蔵庫における壁画の保存・公開に関する研究－2021年限定公開における収蔵庫内環境測定値の検討	京都大学　今岡知晃、小椋大輔、学芸部博物館科学課長　木川りか、東京国立博物館　和田浩、文化財保存活用センター　吉田直人、東京文化財研究所　建石徹、秋山純子、佐藤嘉則、京都大学　藤井義久、東京文化財研究所　北原博幸、文化庁文化財部　森井順之、京都大学　伊庭千恵美、高取伸光、石川和輝	9月10日～11日	日本文化財科学会第39回大会
5	同上	”Black Spots”の正体は何か？－還元性硫黄化合物が展示時の銅製遺物の劣化に及ぼす影響	奈良文化財研究所　柳田明進、脇谷草一郎、学芸部博物館科学課長　木川りか、東京文化財研究所　佐藤嘉則、学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史、副館長　小泉惠英、松浦市教育委員会　内野義、安木由美、奈良文化財研究所副所長　高妻洋成	9月10日～11日	日本文化財科学会第39回大会
6	同上	国宝「初音の調度」のうち刀掛、寄り掛り、掛硯箱（胡蝶蒔絵）の木地構造および制作技法のX線CT調査	学芸部博物館科学課研究員渡辺祐基、学芸部企画課特別展室長　川畑憲子、徳川美術館　板谷寿美、吉川美穂、学芸部博物館科学課研究補佐員田中麻美、同課長　木川りか	9月10日～11日	日本文化財科学会第39回大会
7	同上	美術品、動産文化財の調査とレスキュー	学芸部博物館科学課長木川りか、同上主任研究員　鷲頭桂	10月29日	鹿児島県建築士会主催ヘリテージマネージャースキルアップ講習会講師、鹿児島市国際交流センター
8	同上	美術工芸品をはじめとする動産文化財の調査とレスキュー	学芸部博物館科学課長木川りか、同上主任研究員　鷲頭桂	5年1月21日	福岡県建築士会主催ヘリテージマネージャースキルアップ講習会講師、福岡八重洲ビル

9	同上	博物館の環境管理	学芸部博物館科学課長 木川りか	11月24日	放送大学、九州国立博物館
10	同上	首里城跡出土の勾玉と玉材片の材質と技法について	学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史	6月18日～19日	文化財保存修復学会第44回大会〈ポスター発表〉
11	同上	弥生時代から古墳時代の赤色顔料	学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史	9月8日	別府市湯けむり歴史講座講師、別府市公会堂
12	同上	赤色顔料の分析内容と九州での使用状況について	学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史	9月25日	田川市石炭・歴史博物館講座「田川ゼミナール」講師、田川市民会館
13	同上	弥生時代から古墳時代の赤色顔料	学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史	10月23日	令和４年度神戸市埋蔵文化財センター秋季企画展『元素でたどる考古学』講演会講師、神戸市埋蔵文化財センター
14	同上	初音蒔絵婚礼調度・書棚のX線CT調査について	学芸部博物館科学課研究員　渡辺祐基	12月5日	漆工修理技術者研修会（試行第一回）
15	同上	染織品に対する赤外線画像の有効性の検討	東京文化財研究所　秋山純子、学芸部企画課研究員　桑原有寿子、学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー　和泉田絢子	9月10日～11日	日本文化財科学会第39回大会（ポスター発表）
16	同上	九州国立博物館　特集展示「御所の器―公家山科家伝来の古伊万里」について	学芸部企画課研究員　酒井田千明	10月30日	東洋陶磁学会第二回研究会（オンライン開催）
17	同上	近世の日本と欧州の上層階級の器―肥前磁器の様相について―	学芸部企画課研究員　酒井田千明	12月17日	比較文明学会九州支部研究会
18	同上	講評	学芸部企画課長　伊藤信二	12月9日	第46回福岡県伝統的工芸品表彰式
19	同上	日本近世の帝鑑図―狩野派と雲谷派	博物館科学課　主任研究員　鷲頭桂	5年3月18日	東亞儒教藝術研究學術工作坊、台湾・中央研究院

【東京文化財研究所】　78件

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　20件

○有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究　15件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	日本東洋美術史の資料学的研究	早稲田大学會津八一記念博物館所蔵「べしみ」面に関する一考察	文化財情報資料部研究補佐員　大谷優紀	4月27日	文化財情報資料部研究会
2	同上	『兼見卿記』にみる絵師・扇屋宗玖について	日本東洋美術史研究室長 小野真由美	4月27日	文化財情報資料部研究会
3	同上	螺鈿の位相―理智院蔵秀吉像厨子から見る高台寺蒔絵と南蛮漆器の関係―	文化財情報資料部特任研究員　小林公治	7月25日	文化財情報資料部研究会
4	同上	遊楽図のまなざし―徳川美術館蔵・相応寺屏風を中心に	文化財情報資料部長 江村知子	11月8日	第56回オープンレクチャー
5	同上	日本美術に関する資料学的研究―とくに16世紀公家日記にみる絵画関連記事について―	日本東洋美術史研究室長 小野真由美	12月6日	東京文化財研究所総合研究会
6	同上	漆工専門家 三木栄のタイでの活動ー同時代の資料を中心にー	文化財情報研究室長 二神葉子	3月2日	文化財情報資料部研究会
7	日本の近・現代美術に関する調査研究・情報整備・資料収集	岸田劉生の静物画―「見る」ことの主題化	近・現代視覚芸術研究室研究員　吉田暁子	11月8日	第56回オープンレクチャー
8	同上	中井宗太郎「国展を顧みて」を読む	文化財情報資料部上席研究員　塩谷純	12月23日	文化財情報資料部研究会
9	同上	「虚空間状況探知センターから「世界蜂起」へ：松澤宥アーカイブからみる1970年代の表現共同体の構築の試み」	文化財アーカイブズ研究室長　橘川英規	3月15日	文化財情報資料部研究会
10	美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開	桑山玉洲と岩瀬広隆の絵具・絵画作品の材料調査	副所長　早川泰弘	9月15日	文化財情報資料部研究会
11	同上	彩色材料分析から浮かび上がる桑山玉洲の絵画制作	文化財情報資料部広領域研究室長　安永拓世	9月15日	文化財情報資料部研究会
12	同上	彩色材料分析から浮かび上がる岩瀬広隆の絵画制作	共立女子大学文芸学部准教授　近藤壮	9月15日	文化財情報資料部研究会
13	同上	呉春筆「白梅図屏風」と絵画の特殊な基底材（「芭蕉布・葛布・絹の繊維の同定」）	文化財情報資料部広領域研究室長　安永拓世	10月19日	2022年度 第1回 文化ファッション研究機構講演会
14	同上	菩薩像における条帛の着用・非着用の問題について―薬師寺金堂薬師三尊像に関する考察の手がかりとして―	文化財情報資料部アソシエイトフェロー 黒﨑夏央	11月28日	文化財情報資料部研究会
15	同上	徳川頼宣の「初陣具足」と「江雪左文字」―家康が託した思いとともに―	文化財情報資料部広領域研究室長　安永拓世	2月5日	ふくやま美術館　特別展「名刀 江雪左文字―江雪斎、家康、頼宣が愛した刀の物語―」記念講演会

○無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査及び研究　5件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	重要無形民俗文化財の保存・活用に資する調査研究等	儀礼文化としての生活文化	無形文化遺産部無形民俗文化財研究室長 久保田裕道	5月8日	儀礼文化学会
2	重要無形文化財の保存・活用に資する調査研究等	東京文化財研究所における染織技術の記録	無形文化遺産部無形文化財研究室主任研究員 菊池理予	6月25日	丸紅ギャラリー開館記念展II「講演会「『美』の継承―きもの文化を未来に繋ぐ」
3	同上	工芸技術を支える人々	無形文化遺産部無形文化財研究室主任研究員 菊池理予	8月21日	全国・いしかわの工芸講演会（国立工芸館）
4	同上	芭蕉布・葛布・絹の繊維の同定	無形文化遺産部無形文化財研究室主任研究員 菊池理予	10月19日	2022年度第1回文化ファッション研究機構 講演会
5	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集等	気候変動と伝統的知識：オセアニアの事例から	無形文化遺産部音声映像記録研究室長　石村智	11月18日	文化遺産国際協力コンソーシアム令和4年度シンポジウム「気候変動と文化遺産―いま、何が起きているのか―」

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　36件

○文化財の調査手法に関する調査研究　2件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究	文化財の記録作成の意義	文化財情報研究室長 二神葉子	6月2日	研修会「文化財写真入門―文化財の記録としての写真撮影実践講座」
2	同上	文化財写真撮影の基本	文化財情報資料室 専門職員　城野誠治	6月2日	研修会「文化財写真入門―文化財の記録としての写真撮影実践講座」

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　34件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財生物劣化の分子生物学的手法による機構解明と環境調和型対策	竹材のフラスから加害種を特定する分子生物学的手法の検討	文化財防災センターアソシエイトフェロー　小峰幸夫、生物科学研究室長佐藤嘉則、生物科学研究室アソシエイトフェロー島田潤　他	6月18日	文化財保存修復学会第44回大会
2	同上	アフリカヒラタキクイムシを用いた高温処理（48℃及び50℃）の繰り返しによる効果判定の実験	文化財防災センターアソシエイトフェロー　小峰幸夫、生物科学研究室長佐藤嘉則　他	6月19日	文化財保存修復学会第44回大会
3	同上	新種のシミの報告	生物科学研究室アソシエイトフェロー　島田潤、生物科学研究室長　佐藤嘉則　他	6月19日	文化財保存修復学会第44回大会
4	同上	ATP測定法による保存環境の清浄度評価に向けた試み	生物科学研究室研究補佐員　岡部迪子、生物科学研究室長　佐藤嘉則	6月19日	文化財保存修復学会第44回大会
5	同上	博物館内における遺構生物劣化と保存対策に関する検討―遺構展示室における微生物調査―	生物科学研究室アソシエイトフェロー・島田潤、生物科学研究室長・佐藤嘉則他	9月10日	日本文化財科学会第39回大会
6	文化財の保存環境にかかる調査研究	放射光X線CTを用いた焼成レンガにおける硫酸ナトリウム塩の析出性状の定量化と飽和透水係数に対する影響	修復技術研究室　研究員 水谷悦子他2名	9月11日	2022年度日本建築学会大会（北海道）
7	同上	多孔質材料中の硫酸ナトリウムの塩析出の定量評価と飽和透水係数の推定におけるCTの利用可能性	修復技術研究室研究員 水谷悦子他2名	9月11日	日本文化財科学会第39回大会
8	同上	歴史的煉瓦造建築物の塩類風化対策に関する研究 塩を含む材料中の含水率、塩濃度の測定方法と電気的脱塩方法に関する基礎的検討	修復技術研究室研究員 水谷悦子他3名	9月11日	日本文化財科学会第39回大会
9	文化財の材質・構造・状態調査に関する研究	文化財の2次元的な分光分析を行うためのハイパースペクトルカメラの性能評価	分析科学研究室アソシエイトフェロー　紀芝蓮、分析科学研究室長　犬塚将英	6月19日	文化財保存修復学会第44回大会
10	同上	秋田蘭画に関連する画材資料の分析調査	分析科学研究室アソシエイトフェロー　紀芝蓮、分析科学研究室長　犬塚将英他1名	6月19日	文化財保存修復学会第44回大会
11	屋外文化財の保存修復計画に関する調査研究	天草市・祇園橋附石造記念碑の劣化と保存	修復計画研究室長 朽津信明、研究補佐員　白石明香	6月18日	文化財保存修復学会第44回大会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
12	同上	富岡市・オオツノシカの化石骨出土記念碑について	修復計画研究室長 朽津信明、研究補佐員　白石明香	9月10日	日本文化財科学会第39回大会
13	同上	福島県沖地震に伴う薬師堂石仏の劣化とその評価	修復計画研究室長 朽津信明、研究補佐員　白石明香、廣瀬浩司	10月13日～14日	日本応用地質学会2022年度研究発表会
14	文化財修復と伝統技法に関する調査研究	Identification of Sliced Shellfish Films	修復材料研究室　研究員 倉島玲央　他	9月5日～9日	IIC 2022 Wellington Congress
15	同上	環境要因が与える桐油彩色への影響	修復材料研究室　研究員 倉島玲央　他	6月19日	文化財保存修復学会第44回大会
16	同上	文化財修復に使用されるフノリの精製効果に関する評価	修復材料研究室長 早川典子　他	6月18日	文化財保存修復学会第44回大会
17	同上	和紙資料の緑青焼けに対する多層裏打紙の効果	同上	6月18日	文化財保存修復学会第44回大会
18	同上	フノリと膠を使用した鉄媒染染織品の処置方法の検討	同上	6月18日	文化財保存修復学会第44回大会
19	同上	Experimental Treatment for Black Dyed Textiles Using Japanese Traditional Adhesives Funori and Nikawa	同上	9月5日～9日	IIC 2022 Wellington Congress
20	同上	Influence of Silk Production Methods on East Asian Painting Expressionand Conservation: Fiber Shape and Durability	同上	9月5日～9日	IIC 2022 Wellington Congress
21	同上	The Relationship Between Traditional Painting Materials and Techniques in Japan from a Scientific Perspective	同上	5月6日	Symposium of “Conservation Thinking in Japan and India”
22	同上	日本画掛軸モデル試料における肌裏紙の打ち直し後の劣化挙動	客員研究員　稲葉政満　他	6月18日	文化財保存修復学会第44回大会
23	同上	墨材料としての煤の性状	客員研究員　宇高健太郎	6月18日	文化財保存修復学会第44回大会
24	同上	墨の構造と機能について	客員研究員　宇高健太郎	6月4日	膠文化研究会第14回公開研究会
25	同上	古梅園の歴史と伝統を守り続ける墨づくり（代理講演）	客員研究員　宇高健太郎	6月4日	膠文化研究会第14回公開研究会
26	同上	Science, Production, and Applications of Animal Glue (*Nikawa*): Painting, Inkstick (*Sumi*), and Conservation	客員研究員　宇高健太郎	10月18日	ハーバード大学 講演
27	同上	Production of Classical Deer Antler Animal Glue	客員研究員　宇高健太郎	10月19日	ボストン美術館 講演及びワークショップ
28	同上	Materials, Techniques, and Construction of Japanese Painting	客員研究員　宇高健太郎	10月19日	ボストン美術館 講演及びワークショップ
29	同上	膠 玄（くろ）と色 -古梅園所蔵の古墨と書籍資料-（企画展示及び解説）	客員研究員　宇高健太郎　他	6月5日	東京藝術大学大学美術館
30	同上	宇高健太郎、古典絵画における墨の研究 付論:伊藤若冲紙本墨画作品の復元模写による検証（展示及び解説）	客員研究員　宇高健太郎	6月4日	第5回 公益財団法人芳泉文化財団 文化財保存学日本画・彫刻研究発表展 於 東京藝術大学大学美術館
31	同上	紙文化財補修用材料としての高機能化楮繊維の調製方法の検討	客員研究員　稲葉政満　他	6月18日	文化財保存修復学会第44回大会
32	多様な文化財の修復技術に関する調査研究	Study on the Environmental Control and Material Condition for the Use of Closed schools as a Cultural Property Storage Room	修復技術研究室　研究員 芳賀　文絵　他	11月11日～12日	第56回　韓国文化財保存科学会
33	同上	Disaster Drill for Removing Museum Materials under the Assumrtion of Flooding	修復技術研究室　研究員 千葉毅　他	11月11日～12日	第56回　韓国文化財保存科学会
34	同上	Current status of the Cultural Heritage Disaster Risk Management Center establishment and activities in Japan	修復技術研究室長 建石徹　他	11月11日～12日	第56回　韓国文化財保存科学会

(3) 文化遺産保護に関する国際協働　10件

○文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進　10件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	Amendment of the ICOM Statutes	文化遺産国際協力センター アソシエイトフェロー 邱君妮	8月21日	ICOM 26th General Conference
2	同上	日本における木造建造物を守る制度 日本の文化遺産の保存と活用	文化遺産国際協力センター 国際情報研究室長 金井健	9月8日 9月22日	ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保存協力事務所　文化遺産の保護に資する研修2022
3	同上	Action on Priorities for Capacity Building of Heritage Management: in the case of Japan	文化遺産国際協力センター 国際情報研究室長 金井健	9月21日	ICCROM・IUCN World Heritage Leadership Forum 2022

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	Amendment of the ICOM Statutes	文化遺産国際協力センター アソシエイトフェロー 邱君妮	8月21日	ICOM 26th General Conference
2	同上	日本における木造建造物を守る制度 日本の文化遺産の保存と活用	文化遺産国際協力センター 国際情報研究室長 金井健	9月8日 9月22日	ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保存協力事務所　文化遺産の保護に資する研修2022
4	同上	景観としての世界遺産：範囲設定とその根拠法	文化遺産国際協力センター アソシエイトフェロー 松浦一之介	12月26日	令和4年度世界遺産研究協議会
5	アジア諸国等文化遺産保存修復協力	文化遺産国際協力における博物館の役割について	文化遺産国際協力センター長　友田正彦	5月22日	国際博物館の日記念2022シンポジウム「博物館の力：わたしたちを取り巻く世界を変革するもの」
6	同上	International Cooperation between Japan and Vietnam for the Conservation of Thang Long Imperial Citadel Site	文化遺産国際協力センター長　友田正彦	9月9日	INTERNATIONAL CONFERENCE “20 years of research, conservation and promotion of the values of Thang Long - Ha Noi Imperial Citadel Heritage Site”
7	同上	The history of Japanese expeditions to Bahrain	アソシエイトフェロー 山田綾乃	12月11日	International Symposium “Archaeology and International Cooperation: Japanese Contribution to Bahrain Archaeology and Cultural Heritage”
8	同上	ネパール2015年ゴルカ地震後の復興　歴史的建造物修理の体制と手法について	アソシエイトフェロー 淺田なつみ	5年1月10日	東京文化財研究所令和4年度第3回総合研究会
9	文化遺産の保存修復技術に係る国際的研究	明治時代の洋風建築にみられるスタッコ装飾の保存	文化遺産国際協力センター主任研究員　前川他	6月19日	文化財保存修復学会第44回大会
10	同上	ミャンマー・バガン遺跡における煉瓦造寺院の保存修復効果	文化遺産国際協力センター主任研究員　前川他	9月10日～11日	日本文化財科学会第39回大会

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　12件

○文化財情報基盤の整備・充実　6件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究	写真の整理、及びデータベースとしての目録の作成について	文化財情報研究室長 二神葉子	6月2日	研修会「文化財写真入門―文化財の記録としての写真撮影実践講座」
2	同上	東京文化財研究所所蔵伊藤延男資料の概要とその特徴	文化遺産国際協力センター国際情報研究室長　金井健	9月7日	日本建築学会大会学術講演会
3	同上	鎌倉芳太郎の遺したもの	専門職員　城野誠治	10月29日	「1972年開催「50年前の沖縄展」と鎌倉芳太郎写真の今」展記念講演会
4	文化財情報基盤の整備・充実	総合検索のリニューアルについて	主任研究員　小山田智寛	6月28日	文化財情報資料部研究会
5	同上	写真・映像資料の記録と活用	文化財情報研究室長 二神葉子	12月7日	令和４年度 青森県立郷土館博物館の仕事普及啓発事業 講演会
6	専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充	年史編纂資料の研究活用に向けた記述編成-東文研史資料を例に	研究補佐員　田村彩子	5年1月31日	文化財情報資料部研究会

○調査研究成果の発信　6件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財情報基盤の整備・充実	記録作成と情報発信	文化財情報研究室長 二神葉子	9月2日	文化財の記録作成に関するセミナー「記録作成と情報発信・画像圧縮の利用」
2	調査研究成果の発信	文化間の対話を促進する博物館の可能性―台湾の博物館事業を中心に	文化遺産国際協力センター アソシエイトフェロー 邱君妮	6月25日	全日本博物館学会第48回研究大会
3	同上	文化的権利の保障・保証を実践する場としてのミュージアム ―台湾の「文化平権」概念から考える―	文化遺産国際協力センター アソシエイトフェロー 邱君妮	7月3日	公益財団法人東京都歴史文化財団 だれもが文化でつながる国際会議2022
4	同上	Representing Silkroad as inclusive and shared cultural heritage: focusing on Maritime Silk Route	文化遺産国際協力センター アソシエイトフェロー 前田康記、藤井郁乃	12月2日	Architecture Media Politics Society : REPRESENTING PASTS - VISIONING FUTURES
5	同上	市民と協働する博物館の可能性－木博館の街角館の事例から	文化遺産国際協力センター アソシエイトフェロー 邱君妮	12月17日	国立民族学博物館国際シンポジウム　地域文化と博物館
6	同上	霧島ジオパークにおける重層的な地域資源の利活用に関する研究	文化遺産国際協力センター アソシエイトフェロー 藤井郁乃	5年3月18日	令和４年度 霧島ジオパーク学術研究支援補助金 研究成果発表会

【奈良文化財研究所】　89件

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　27件

○有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究　0件

○記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究　27件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	我が国の記念物に関する調査研究(遺跡等整備)	平城宮跡の史跡指定	文化遺産部長　内田和伸	6月25日	平城宮跡史跡指定百年・奈良文化財研究所創立70周年記念シンポジウム
2	同上	平城宮跡の史跡指定百年	文化遺産部長　内田和伸	12月10日	平城京歴史講座
3	同上	史跡保護制度の誕生と平城宮跡の史跡指定	文化遺産部長　内田和伸	5年3月11日	佐保川歴史講座　佐保川自治連合会
4	我が国の記念物に関する調査研究(庭園)	文化財庭園の特質とその継承	文化遺産部主任研究員　高橋知奈津	8月13日	山形県文化財保護協会
5	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	高松塚古墳とキトラ古墳－壁画古墳はなぜ築かれたか－	都城発掘調査部考古第一研究室長　廣瀬覚	7月1日	京都アスニーセミナー令和４年７月講座
6	同上	キトラ天文図を描く～描き間違いは故意か過失か～	都城発掘調査部主任研究員　若杉智宏	10月16日	四神の館「飛鳥星まつりギャラリートーク」
7	同上	石室解体事業と発掘調査－国宝壁画の救出－	都城発掘調査部考古第一研究室長　廣瀬覚	10月22日	奈良文化財研究所第14回東京講演会
8	同上	キトラ古墳と世界最古の天文図	都城発掘調査部主任研究員　若杉智宏	10月23日	くろまろ塾本部講座「古墳・壁画で見る古代」
9	同上	いつの星、どこの空～キトラ天文図に描かれた星空～	都城発掘調査部主任研究員　若杉智宏	12月23日	四神の館「キトラ古墳壁画天文図解説映像公開イベント」
10	同上	高松塚古墳と東アジアの交流－調査研究の最前線から－	都城発掘調査部考古第一研究室長　廣瀬覚	5年1月29日	ACCU文化遺産セミナー2022
11	同上	畿内終末期古墳と高松塚	都城発掘調査部考古第一研究室長　廣瀬覚	5年2月4日	歴史と文化を学ぶ会
12	同上	藤原宮大極殿院の調査	都城発掘調査部考古第三研究室研究員　岩永玲	5年3月1日	条里制・古代都市研究会
13	中国・韓国との共同研究	７～８世紀前半期日本出土唐代瓷器	客員研究員　巽淳一郎	8月28日	唐三彩学術研討会
14	同上	日中出土三彩の比較および唐三彩の設計と製作技術を考える	都城発掘調査部考古第二研究室長　神野恵	8月28日	唐三彩学術研討会
15	同上	奈良三彩の若干の問題について	都城発掘調査部主任研究員　丹羽崇史	8月28日	唐三彩学術研討会
16	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	日本における文化的景観保護の特質	文化遺産部主任研究員　惠谷浩子	12月26日	令和4年度世界遺産研究協議会
17	同上	宇治茶の生まれた土地―文化的景観の調査から	文化遺産部主任研究員　惠谷浩子	6月4日	日本民俗建築学会 第49回大会
18	同上	営みに根差した庭、その連なり	文化遺産部主任研究員　惠谷浩子	7月23日	庭園アーカイヴ・プロジェクト研究会
19	同上	風土と暮らしの関わり方	文化遺産部主任研究員 惠谷浩子	12月17日	能登里山里海SDGs マイスタープログラム
20	同上	伊奈冨神社の七島池の植生と景観	文化遺産部景観研究室長　中島義晴	10月2日	伊奈冨神社庭園島岸修復工事終了記念シンポジウム
21	同上	高松塚古墳の仮整備と公開活用	文化遺産部景観研究室長　中島義晴	10月22日	奈良文化財研究所第14回東京講演会
22	同上	琵琶湖疏水で結ばれた別邸群の庭	文化遺産部主任研究員　惠谷浩子	5年2月4日	日本イコモス研究会
23	同上	近代日本のスギ主産地と文化的景観	文化遺産部主任研究員　惠谷浩子	5年3月9日	文化的景観研究会（第2回）
24	古代官衙・集落遺跡に関する研究集会の開催及び報告書刊行	古代集落の構造把握にむけた中間まとめ	都城発掘調査部考古第三研究室研究員　道上祥武	12月16日	第26回　古代官衙・集落研究会
25	古代瓦に関する研究集会の開催及び報告書刊行	平城宮の瓦	都城発掘調査部考古第三研究室研究員　岩永玲	5年2月4日	第22回　シンポジウム「奈良末～平安初期の軒瓦」
26	同上	西大寺・薬師寺・法隆寺の瓦	都城発掘調査部考古第三研究室研究員　田中龍一	5年2月4日	第22回　シンポジウム「奈良末～平安初期の軒瓦」
27	水中文化遺産に関する調査研究	“Black Spots”の正体は何か？ −還元性硫黄化合物が展示時の銅製遺物の劣化に及ぼす影響	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員・柳田明進、同室長・脇谷草一郎、副所長・髙妻洋成ほか6名	9月10日	日本文化財科学会第39回大会

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　37件

○文化財の調査手法に関する研究開発の推進　9件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	年輪年代学研究	曲物の年輪年代測定からみた平城宮・京跡出土遺構の数値年代－土器の年代観との対応関係－	年代学研究室長　星野安治	9月10日	日本文化財科学会第39回大会
2	同上	古都奈良の植生と木材利用：趣旨説明	年代学研究室長　星野安治	10月1日	第37回日本植生史学会･日本花粉学会第63回大会合同大会公開シンポジウム「奈良の森と花粉と人のいま・むかし」
3	動植物遺存体の分析方法の研究開発	復興事業に伴う貝塚調査と縄文前・中期の動物資源利用	環境考古学研究室客員研究員　松崎哲也	5月14日	2022年度宮城県考古学会研究発表会『新たにわかった！宮城の縄文時代』
4	同上	愛知県保美貝塚の動物利用	環境考古学研究室長　山崎健	6月25日	日本動物考古学会第9回大会
5	同上	朝日遺跡とシカ	環境考古学研究室長　山崎健	8月6日	弥生人といきもの2022シカをねらえ！講演会
6	同上	遺跡の花粉分析データからみた奈良盆地の植生と木材利用の関わり	環境考古学研究室客員研究員　上中央子	10月1日	第37回日本植生史学会大会・日本花粉学会第63回大会合同大会公開シンポジウム『奈良の森と花粉と人のいま・むかし』
7	同上	動植物遺体の展示活用－奈良文化財研究所・環境考古学研究室の実践事例－	環境考古学研究室長　山崎健・環境考古学研究室客員研究員　上中央子	10月1日	第37回日本植生史学会大会・日本花粉学会第63回大会合同大会公開シンポジウム『奈良の森と花粉と人のいま・むかし』
8	同上	展示活用に関する議論の試み	環境考古学研究室長　山崎健	11月27日	近江貝塚研究会第348回例会
9	同上	遺跡出土の骨からみたカツオ	環境考古学研究室長　山崎健	5年2月24日	シンポジウム　カツオの古代学

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　28件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	考古遺物の保存処理法に関する調査研究	トレハロース処理法の寸法安定性に関する考察１　- 接触角から推定される結晶形態による検討 -	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長・脇谷草一郎、同研究員・松田和貴、同研究員・柳田明進、都城発掘調査部主任研究員・田村朋美、副所長・高妻洋成ほか4名	9月11日	日本文化財科学会第39回大会
2	同上	溶媒蒸発速度の制御による水浸出土木製遺物の保存処理における薬剤含浸の効率化（その３）	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員・松田和貴、同室長・脇谷草一郎、副所長・高妻洋成	9月11日	日本文化財科学会第39回大会
3	同上	出土銅製品に施された漆塗膜の剥離メカニズムの検討（その１）―カールした塗膜とその金属下地の状態把握―	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室アソシエイトフェロー・楊曼寧、同研究員・柳田明進、同室長・脇谷草一郎ほか1名	9月11日	日本文化財科学会第39回大会
4	遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究	Basic study on deterioration mechanism of wetting-drying cycles by comparing deterioration state and preservation environment of stone cultural properties	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長・脇谷草一郎ほか1名	6月12日	4th International Symposium on Architectural Heritage Conservation Technology
5	同上	歴史的煉瓦造建築物の塩類風化対策に関する研究 ―塩を含む材料中の含水率、塩濃度の測定方法と電気的脱塩方法に関する基礎的検討―	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長・脇谷草一郎、同保存修復科学研究室客員研究員・小椋大輔　ほか2名	6月25日	日本建築学会近畿支部研究発表会
6	同上	文化財資料の変形・損傷予測に基づいた保存環境の制御方法の検討 ―法隆寺金堂飛天壁画の下地材料を対象とした湿潤時のひずみの測定	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長・脇谷草一郎、同保存修復科学研究室客員研究員・小椋大輔　ほか3名	6月25日	日本建築学会近畿支部研究発表会
7	同上	特別名勝一乗谷朝倉氏庭園の景石保存に関する研究 ―周辺環境が景石の劣化におよぼす影響―	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長・脇谷草一郎、同研究員・柳田明進、副所長・高妻洋成ほか4名	9月11日	日本文化財科学会第39回大会
8	同上	博物館内における遺構の展示手法と周辺環境の最適化に関する研究 ―遺構展示室内の環境調査と遺構の埋戻し方法の検討―	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長・脇谷草一郎、同研究員・柳田明進、副所長・高妻洋成ほか4名	9月10日	日本文化財科学会第39回大会
9	同上	史跡名勝瑞泉寺庭園における庭石の風化状況に関する調査	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長･脇谷草一郎、同研究員･柳田明進、副所長・高妻洋成ほか1名	9月11日	日本文化財科学会第39回大会
10	同上	同一石材で造られた石棺の劣化状態および保存環境の比較による乾湿繰り返しによる石材劣化メカニズムの検討	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長・脇谷草一郎ほか1名	9月11日	日本文化財科学会第39回大会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
11	同上	蛍光X線を用いた多孔質材料表面近傍の塩濃度分析手法の検討	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長・脇谷草一郎 同保存修復科学研究室客員研究員・小椋大輔　ほか2名	9月11日	日本文化財科学会第39回大会
12	同上	法隆寺金堂飛天壁画の模擬下地材料を対象とした湿潤・乾燥時のひずみの測定	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長・脇谷草一郎 同保存修復科学研究室客員研究員・小椋大輔　ほか3名	9月11日	日本文化財科学会第39回大会
13	同上	全天空写真による日射が石造文化財に及ぼす影響の推定	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長・脇谷草一郎ほか2名	9月11日	日本文化財科学会第39回大会
14	考古遺物を中心とした文化財の材質調査に関する調査研究	ガラス製品の同位体比分析	都城発掘調査部主任研究員田村朋美	4月2日	キンカ京都科学者クラブ第382回例会
15	同上	COMPOSITIONAL AND ISOTOPIC INVESTIGATION OF PLANT-ASH GLASS BEADS IN JAPAN	都城発掘調査部主任研究員田村朋美ほか1名	4月30日	14th International Conference on Thai Studies
16	同上	喜界島のガラス―城久遺跡群出土のガラス玉―	都城発掘調査部主任研究員田村朋美	6月11日	日本ガラス工芸学会　第60回　オンライン研究会
17	同上	Glass beads trade of Xiongnu and Xianbei	都城発掘調査部主任研究員田村朋美	6月30日	The 9th Worldwide Conference of the SEAA in Daegu, Korea
18	同上	ブハラオアシス出土のガラス製遺物のSr同位体比分析	都城発掘調査部主任研究員田村朋美ほか6名	9月11日	日本文化財科学会第39回大会
19	同上	ウズベキスタン・ブハラオアシス内遺跡から出土した初期イスラームガラスの化学分析	都城発掘調査部主任研究員田村朋美ほか6名	9月11日	日本文化財科学会第39回大会
20	同上	猪ノ鼻(1)遺跡出土玉類等のXRF、ESR、XRDによる非破壊分析	都城発掘調査部主任研究員田村朋美ほか2名	9月11日	日本文化財科学会第39回大会
21	同上	Archaeological glass investigations	都城発掘調査部主任研究員田村朋美	9月27日	2022年 Be Archaeo 第2回サマースクール
22	同上	Scientific Analysis on the Myanmar Glazed Ceramics	都城発掘調査部主任研究員田村朋美ほか2名	11月9日	22nd Congress of the INDO-PACIFIC PREHISTORY ASSOCIATION
23	同上	ガラスのいま―科学分析でわかる古代ガラスの産地と流通―	都城発掘調査部主任研究員田村朋美	12月1日	第26回保存科学クラブ
24	同上	Archaeometrical Study on the Ancient Sandwich Glass Beads Found in Japan	都城発掘調査部主任研究員田村朋美	12月8日	International Year of Glass 2022 (IYOG2022) Closing Conference
25	同上	古代ガラスの色と技術	都城発掘調査部主任研究員田村朋美	5年3月4日	早川泰弘東京文化財研究所副所長・高妻洋成奈良文化財研究所副所長退任記念シンポジウム「分析化学の発展がもたらした文化財の新しい世界-色といろいろ-」
26	古墳壁画の恒久的保存に関する調査研究	高松塚古墳から出土した棺金具の付着物質に関する分析	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室客員研究員・中田愛乃、都城発掘調査部主任研究員・田村朋美、保存修復科学研究室長・脇谷草一郎、同研究員・柳田明進、都城発掘調査部飛鳥藤原地区考古第一研究室長・ 廣瀬覚, 飛鳥資料館学芸室長・石橋茂登ほか5名	9月11日	日本文化財科学会第39回大会
27	同上	ガランドヤ２号墳における緑色生物に関する報告	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室アソシエイトフェロー・松野美由樹、同保存修復科学研究室長・脇谷草一郎ほか1名	9月10日	日本文化財科学会第39回大会
28	同上	屋外文化財の保存ー環境調整による遺跡現地保存法の考察ー	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長・脇谷草一郎	7月3日	2022年度龍谷大学文化遺産学研究会講演会

(3) 文化遺産保護に関する国際協働　14件

○文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進　14件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化遺産保護に関する研究及び協力事業の推進	Archaeological practice and management in Japan - with a focus on field and laboratory collaborations	企画調整部国際遺跡研究室長　庄田慎矢	6月14日	Workshop ChemArch - Nice
2	同上	Beyond Fish Soup: Wider Application of Biomolecular Archaeology in Ancient Japanese Culinary Practices	企画調整部国際遺跡研究室長　庄田慎矢	6月17日	トリノ大学招待講演
3	同上	Intensification of starchy food cooking? Biomolecular and isotopic	企画調整部国際遺跡研究室長　庄田慎矢	7月3日	NINTH WORLDWIDE CONFERENCE OF THE SOCIETY FOR EAST ASIAN

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
		evidence from Majiabang culture pottery, Neolithic China			ARCHAEOLOGY
4	同上	Detecting cultural boundaries during the Jomon	企画調整部国際遺跡研究室長　庄田慎矢	7月3日	NINTH WORLDWIDE CONFERENCE OF THE SOCIETY FOR EAST ASIAN ARCHAEOLOGY
5	同上	New Evidence of Millet Consumption in the Early Iron Age of Kazakhstan by Pottery Lipid Residue Analysis	企画調整部国際遺跡研究室 アソシエイトフェロー 村上夏希	7月3日	NINTH WORLDWIDE CONFERENCE OF THE SOCIETY FOR EAST ASIAN ARCHAEOLOGY
6	同上	石神遺跡出土土器の残存有機物に対する試験的分析	企画調整部国際遺跡研究室 アソシエイトフェロー 村上夏希	9月10日	日本文化財科学会第39回大会
7	同上	ガスクロマトグラフィーを用いて食の過去を探る：近年の成果から	企画調整部国際遺跡研究室長　庄田慎矢	9月16日	日本分析科学会
8	同上	Organic Residue Analysis of Pottery: Principles and Applications in Central Asia	企画調整部国際遺跡研究室長　庄田慎矢	9月20日	9th International Archaeological School (IAS)
9	同上	カザフスタン南東部の青銅器時代土器を対象としたレプリカ法調査	企画調整部国際遺跡研究室長　庄田慎矢	10月2日	第37回日本植生史学会大会
10	同上	Reconstructing the Nomad Cuisine: Organic Residue Analysis of Early Iron Age Pottery in Kazakhstan	企画調整部国際遺跡研究室長　庄田慎矢	10月12日	5th International Congress of Archaeology of the Eurasian Steppes
11	同上	アンコール西トップ遺跡の研究・復元プロジェクトの最新成果	企画調整部国際遺跡研究室 主任専門職　佐藤由似	10月28日	2022 Asian Archaeology 国際学術シンポジウム
12	同上	Why aquatic oils in the Jōmon? Comparing lipid residues between pottery and furnace stones and from examination of isotopic mixing curves	企画調整部国際遺跡研究室長　庄田慎矢	11月8日	Early Pottery in the North: New Perspectives
13	同上	Visualizing the “invisible rice” in biomolecular archeology	企画調整部国際遺跡研究室長　庄田慎矢	11月26日	Exploring future avenues in Pan Asian rice domestication and agriculture studies
14	同上	日本の文化遺産調査および活用におけるデジタル技術	企画調整部国際遺跡研究室長　庄田慎矢	11月26日	4段階BK21文化遺産スマート技術融合教育研究チーム「文化遺産のデジタル活用」

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　11件

○文化財情報基盤の整備・充実　11件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財に関するデータベースの充実	文化財情報プラットフォームとしての全国遺跡報告総覧－デジタルアーカイブ・リファレンスツール・学術情報の流通－	企画調整部主任研究員 高田祐一	4月23日	日本図書館研究会第375回研究例会
2	同上	Integrating the Japanese Archaeological Dataset into the ARIADNEplus Data Infrastructure	企画調整部主任研究員高田祐一、企画調整部アソシエイトフェロー Peter Yanase Franco Niccolucci	7月28日	Digital Humanities 2022
3	同上	時空間情報とシソーラスで接続する文化財データベース	企画調整部主任研究員高田祐一	8月25日	第31回専門家招待講演北大学校人文学術院
4	同上	人文情報学時代の多言語化	企画調整部アソシエイトフェロー吴 修喆	9月12日	東京六本木ロータリークラブ例会
5	同上	일본 전국의 유적을 검색하다	企画調整部主任研究員高田祐一,、企画調整部アソシエイトフェロー扈 素妍	9月28日	고고학술정보 디지털 대전환 韓国文化財研究院
6	同上	Following the Thread: Integrating SORAN’s Dataset Into ARIADNEplus	企画調整部主任研究員高田祐一、企画調整部アソシエイトフェロー Peter Yanase	11月11日	27th Conference on Cultural Heritage and New Technologies (CHNT)
7	同上	How to Avoid Becoming Use(r)less: Tips on Ensuring the Longevity of Your Database	企画調整部主任研究員高田祐一、企画調整部アソシエイトフェロー Peter Yanase	5年2月23日	ICCROM Lecture Series: Information Data Management and Cultural Heritage
8	同上	文化財多言語化政策の沿革	企画調整部アソシエイトフェローPeter Yanase	5年3月10日	令和4年度文化財担当者特別研修「文化財多言語化課程」
9	同上	文化財多言語化事業における現状の問題点	企画調整部アソシエイトフェロー扈 素妍	5年3月10日	令和4年度文化財担当者特別研修「文化財多言語化課程」
10	同上	文化財多言語化担当者の役割	企画調整部アソシエイトフェロー吴 修喆	5年3月10日	令和4年度文化財担当者特別研修「文化財多言語化課程」
11	同上	文化財報告書データベースにおけるテキスト可視化と地理情報	企画調整部主任研究員高田祐一、企画調整部アソシエイトフェロー Peter Yanase、武内 樹治	5年3月16日	言語処理学会第29回年次大会

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　2件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究	無形文化遺産保護と研究の役割 IRCIの調査研究事業を中心に	研究担当室長　野嶋洋子	7月11日	日本学術会議地域研究委員会文化人類学分科会
2	アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究	インドネシア ジャワ島の伝統芸能と人々の暮らし―無形文化遺産の伝承を考える-	アソシエイトフェロー 岡部政美	8月28日	第34回無形文化遺産理解セミナー

c-④ シンポジウム開催実績一覧

令和5年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
21件	7件	0件	2件	0件	5件
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	9件	8件		1件	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	本部文化財活用センター		本部文化財防災センター	
	1件	0件		4件	

【本部文化財活用センター】　0件

【本部文化財防災センター】　4件

○令和4年度文化遺産国際協力コンソーシアムシンポジウム「気候変動と文化遺産－いま、何が起きているのか－」

開 催 日　10月23日
開催場所　東京大学弥生講堂一条ホール／オンライン
主　　催　文化遺産国際協力コンソーシアム、文化財防災センター、文化庁
参加者数　会場 64人、オンライン 140人
事業内容　気候変動が有形無形の文化遺産に与える影響を正しく理解するための情報を共有するとともに、この分野での今後の国際協力の方向性や課題を議論する国際シンポジウムを開催した。

○国際会議「アジア太平洋地域における文化財防災の現状と課題(Ⅱ)　―災害後の復旧・復興の事例と課題―」

開 催 日　資料配信：12月14日～22日、シンポジウム：12月21日～22日
開催場所　奈良県コンベンションセンター／オンライン
共　　催　文化庁、ICCROM、文化財防災センター、公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所
参加者数　会場 14人、オンライン 198人
事業内容　アジア太平洋地域における災害時の文化財対応の事例や課題を共有し、文化財への被害を最小限にとどめるためには平常時からどのような取り組みを進めればよいかを考える機会を提供するシンポジウムを開催した。

○シンポジウム「歴史が導く災害科学の新展開Ⅵ―文化遺産を守り伝える新たな技術―」

開 催 日　5年2月24日
開催場所　東北大学災害科学国際研究所多目的ホール／オンライン
主　　催　東北大学災害科学国際研究所、奈良文化財研究所、文化財防災センター
参加者数　会場 10人、オンライン 40人
事業内容　東北大学災害科学国際研究所、奈良文化財研究所、文化財防災センターで連携研究協定を締結することで、これまでの3者の連携研究活動をさらに促進し、さらなる研究の発展を目指す協定のキックオフシンポジウムを開催した。

○シンポジウム「無形文化遺産と防災―被災の経験から考える防災・減災―」

開 催 日　5年3月7日
開催場所　東京文化財研究所地下セミナー室
主　　催　文化財防災センター
共　　催　東京文化財研究所
参加人数　87人
事業内容　国立文化財機構内におけるこれまでの取り組みを整理した上で、災害による被害を経験した無形文化遺産の事例を参照し、今後、どのようなかたちでこれまでの成果を発展させることができるのかを議論することを目的とし開催した。

【東京国立博物館】　0件

【京都国立博物館】　2件

○研究発表と座談会　中世天台戒家の思想と文化

開 催 日　4月29日
開催場所　京都国立博物館
主　　催　公益財団法人仏教美術研究上野記念財団・京都国立博物館
参加人数　70人
事業内容　仏教美術研究上野記念財団と当館との共催で行ったシンポジウム。特別展「最澄と天台宗のすべて」（4月12日～5月22日）に合わせて開催したものである。「戒家」とは中世天台宗において戒律復興を唱導した学僧を指し、近年とみに研究が進んでいる分野である。仏教史、美術史の学際的な研究者3名の発表、それに基づき座談会を行った。

○国際シンポジウム　アジアの博物館教育は、いま－国立博物館の事例から－

開 催 日　5年2月4日
開催場所　ハイブリット式（Zoomウェビナーの利用）／京都国立博物館
主　　催　京都国立博物館
参加人数　258人（対面及びWeb当日参加者）
事業内容　日本における博物館教育（ミュージアム・エデュケーション）は、この分野の先進国である欧米の理念や手法を積極的に取り入れて進展してきた。近年、アジア地域の博物館においても、様々な教育プログラムが積極的に行われてきたが、これまで担当者同士の交流は限られており、このシンポジウムでは、アジア地域の博物館教育の担当者が互いのバック・グラウンドと現状を開かれた場で共有し、参加者とともにこれからの博物館教育のあり方について考える機会とした。

【奈良国立博物館】　0件

【九州国立博物館】　5件

○公開シンポジウム　全国高等学校歴史学フォーラム2022

開 催 日　8月7日
開催場所　ミュージアムホール
主　　催　九州国立博物館
参加者数　21人(参加校関係者数)

事業内容　　高校生が、歴史学研究に関する活動内容や成果をポスターセッションにて発表。
「江戸時代の農村地帯における庚申信仰の広がりについて」、（群馬県立高崎北高等学校）、「『鉾之記』にせまる！」（九州産業大学付属九州産業高等学校 史跡探索研究部）、「ダークツーリズムとしての熊谷空襲」（埼玉県立熊谷西高等学校）、「石錘FISHING!?～弥生のおもりで魚釣り～」（福岡県立糸島高等学校 歴史部）、「『甘木絞』の魅力　～失われかけた地域文化の再生に向けて～」（福岡県立朝倉高等学校 史学部）、「九州北部の『道』の歴史推移について」（福岡県立八幡高等学校）、「栃木県におけるサメ食文化に関する一考察」（栃木県立矢板東高等学校 リベラルアーツ同好会）

○公開シンポジウム　九州国立博物館「大宰府学研究」事業・特別史跡「大野城跡」史跡指定90年記念シンポジウム
大宰府四王院- 「西の都」に築かれた鎮護国家思想の寺 -
開 催 日　　9月3日
開催場所　　ミュージアムホール
主　　催　　九州国立博物館・福岡県
参加者数　　105人
事業内容　　大野城が置かれていた時にも既に創建され、大宰府のみならず日本列島規模においても重要な位置を占めた四王院について、その解明の光を当てるシンポジウムを開催した。

○国際シンポジウム　日米文化教育交流会議（カルコン）シンポジウム
開 催 日　　10月24日
開催場所　　ミュージアムホール、エントランス
主　　催　　国際交流基金カルコン事務局・九州国立博物館
参加者数　　105人
事業内容　　日米両国の官民学からなる学識者を一堂に集めて両国間の文化・教育交流・知的交流に関する諸問題を討議し、文化・教育・知的交流分野での交流の増進と相互理解の向上について勧告を行うことを目的とするシンポジウムを開催した。

○公開シンポジウム　令和4年度IPMセミナー
開 催 日　　11月15日
開催場所　　ミュージアムホール
主　　催　　九州国立博物館
共　　催　　文化庁、東京文化財研究所
参加者数　　132人
事業内容　　「月刊文化財」10月号、「文化財の保存科学(2)－文化財の生物被害とその対策－」の内容をわかりやすく解説し、普及するセミナーを開催。
現地での講演のほか、登録者約300名には、講演概要の動画をオンラインで配信。

○公開シンポジウム　「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群特別研究事業成果報告会
開 催 日　　3月12日
開催場所　　ミュージアムホール
主　　催　　「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群保存活用協議会
共　　催　　九州国立博物館、日本イコモス国内委員会
参加者数　　160人
事業内容　　古代東アジアにおける航海、交流、祭祀」について、能登・対馬への現地視察および各委託研究者による研究報告を踏まえた総括検討会を行い、現時点での到達点を示すとともに、課題を整理した成果報告会を開催した。

【東京文化財研究所】　8件

○第31回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会「技術から見た国際協力のかたち」
開 催 日　　8月28日
開催場所　　オンライン
主　　催　　文化遺産国際協力コンソーシアム、文化庁
参加者数　　88人
事業内容　　文化遺産分野における新技術の導入をめぐる課題について考えるとともに、技術移転をはじめとする今後の国際協力のあり方を議論する研究会を開催した。

○国際研修「紙の保存と修復」評価セミナー2022　シンポジウム
開 催 日　　9月12日
開催場所　　オンライン
主　　催　　東京文化財研究所、文化財保存修復研究国際センター（ICCROM）
参加者数　　50人
事業内容　　国際研修「紙の保存と修復」の評価を行うためのセミナーを開催し、最終日を公開シンポジウムとした。

○国際シンポジウム「メソポタミアの水と人―文化遺産から暮らしを見直す」
開 催 日　　10月22日
開催場所　　オンライン
主　　催　　東京文化財研究所、特定非営利活動法人メソポタミア考古学教育研究所
参加者数　　50人
事業内容　　イラクの水資源問題や古代の水利に関する調査成果などを通じ、水と人の関わりについて考える国際シンポジウムを開催した。

○令和4年度文化遺産国際協力コンソーシアムシンポジウム「気候変動と文化遺産－いま、何が起きているのか－」
開 催 日　　10月23日
開催場所　　東京大学弥生講堂一条ホール／オンライン
主　　催　　文化遺産国際協力コンソーシアム、文化財防災センター、文化庁
参加者数　　会場64人、オンライン140人
事業内容　　気候変動が有形無形の文化遺産に与える影響を正しく理解するための情報を共有するとともに、この分野での今後の国際協力の方向性や課題を議論する国際シンポジウムを開催した。

○国際シンポジウム「考古学と国際貢献：バーレーンの文化遺産保護に対する日本の貢献」
開 催 日　　12月11日
開催場所　　東京文化財研究所
主　　催　　東京文化財研究所、金沢大学古代文明・文化資源学研究所
参加者数　　30人
事業内容　　バーレーンの文化遺産と、日本を含む各国によるその調査の歴史と成果を紹介する国際シンポジウムを開催した。

○国際シンポジウム「バーレーン考古学をめぐって」
開 催 日　　12月14日
開催場所　　金沢大学サテライトプラザ
主　　催　　金沢大学古代文明・文化資源学研究所、東京文化財研究所
参加者数　　15人
事業内容　　日本を含む各国によるバーレーンにおける考古調査の最新成果を紹介する国際シンポジウムを開催した。

○世界遺産研究協議会「文化財としての『景観』を問いなおす」
開 催 日　　12月26日
開催場所　　東京文化財研究所
主　　催　　東京文化財研究所

参加者数　　48人
事業内容　　国内の世界遺産に関係する自治体担当者や研究者等とする研究会を開催した。

○第32回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会「中央ヨーロッパにおける文化遺産国際協力のこれまでとこれから」
開 催 日　　1月28日
開催場所　　オンライン
主　　催　　文化遺産国際協力コンソーシアム、文化庁
参加者数　　95人
事業内容　　中央ヨーロッパ地域の歴史と文化における特徴を概観し、同地域での日本による文化遺産国際協力活動を振り返るとともに、今後の協力のあり方について議論する研究会を開催した。

【奈良文化財研究所】　1件

○平城宮跡史跡指定100周年・奈良文化財研究所創立70周年記念シンポジウム「平城宮跡の過去・現在・未来」
開 催 日　　6月25日
開催場所　　なら100年会館大ホール
主　　催　　奈良文化財研究所
参加者数　　328人
事業内容　　テーマ「平城宮跡の過去・現在・未来」について、4名による講演及びパネル・ディスカッションを開催した。

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　1件

○無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する調査研究　持続可能なまちづくりと無形文化遺産　第一回 国際シンポジウム
開 催 日　　5年2月1日～2月2日
開催場所　　奈良文化財研究所、奈良国立博物館
主　　催　　アジア太平洋無形文化遺産研究センター(IRCI)
参加者数　　83人（うち現地参加16名、オンライン参加67名）
事業内容　　無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する調査研究のキックオフ・イベントとして、事業で連携する機関の研究者を含め、アジア太平洋地域から有形文化遺産や景観に注目しつつ、関連する無形文化遺産について調査研究を行う研究者を招き、様々な事例を共有しながら、持続可能なまちやコミュニティを実現するために無形文化遺産が果たす様々な役割や課題について議論した。また議論のなかでは、有形・無形の文化遺産の統合的な保護の可能性についても扱い、SDGsという文脈においてどのように議論を深めていくことができるのか、今後2024年度にかけて事業を展開していくなかで考慮すべき様々な課題や可能性を洗い出した。また、本シンポジウムをオンライン公開で開催することを通じて、本事業について広く一般に共有するとともに、無形文化遺産保護とSDGsについて学ぶ機会を提供した。

c-⑤ 論文等発表実績一覧

令和 5 年 3 月 31 日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
587 件	348 件	155 件	93 件	58 件	42 件
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	207 件	50 件		157 件	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	本部文化財活用センター		本部文化財防災センター	
	0 件	3 件		29 件	

【本部文化財活用センター】　3件

〇有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　0 件

〇その他有形文化財に関連する調査研究　3件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	展示・収蔵環境の管理と改善に関する調査研究	本部文化財活用センター保存担当研究員　間渕創	文化財活用センターによる保存環境に関する相談対応について	「文化財の虫菌害」No.83　令和 4 年 6 月号	（公財）文化財虫菌害研究所	6月26日	無
2	同上	文化財活用センター保存担当課長　吉田直人	文化財をまもり、いかす－文化財活用センター保存担当の来し方行く末－	文化財をしらべる・まもる・いかす－国立文化財機構 保存・修復の最前線－	アグネ技術センター	12月31日	無
3	同上	本部文化財活用センター保存担当研究員　間渕創	博物館・美術館の保存環境を整える－文化財活用センターの協力事業－	文化財をしらべる・まもる・いかす－国立文化財機構 保存・修復の最前線－	アグネ技術センター	12月31日	無

【本部文化財防災センター】　29件

〇文化財防災に関する調査研究　　29 件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	文化財防災に関する調査研究	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介、瀧川裕貴、李善姫	新型コロナ禍と民俗行事－東北三県での調査－	日本民俗学 310	日本民俗学会	5月20日	無
2	同上	文化財防災センター研究員　後藤知美	支援施策の変遷と民俗学のかかわり	日本民俗学 310	日本民俗学会	5月20日	有
3	同上	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	東日本大震災から 10 年の道程－民俗芸能の再開と再定位－	楽劇学（29）	楽劇学会	5月31日	無
4	同上	文化財防災センター長高妻洋成、同文化財防災統括リーダー　小谷竜介、同研究員　中島志保、同客員研究員　浜田拓志、	文化財防災に関わる地域の連携体制構築	文化財保存修復学会第 44 回研究発表要旨集	文化財保存修復学会	6月18日	有
5	同上	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	文化財防災センターの役割と今後の展望	文化財保存修復学会第 44 回研究発表要旨集	文化財保存修復学会	6月18日	無
6	同上	文化財防災センター長高妻洋成、同副センター長建石徹、同文化財防災統括リーダー　小谷竜介	文化財防災センター発足後の取り組	日本文化財科学会第 39 回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	9月10日	有
7	同上	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	文化財防災センターの活動状況と今後の課題	文化財の虫菌害 84	文化財虫菌害研究所	12月26日	無
8	同上	文化財防災センター長高妻洋成	文化財を災害からまもる―文化財防災における保存科学の使命―	文化財をしらべる・まもる・いかす－国立文化財機構　保存・修復の最前線－	アグネ技術センター	12月31日	無
9	同上	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	被災地のくらしを取り戻すために―民俗文化財防災の課題―	文化財をしらべる・まもる・いかす－国立文化財機構　保存・修復の最前線－	アグネ技術センター	12月31日	無
10	同上	文化財防災センター研究員　中島志保	ネットワークで文化財を災害からまもる―地域防災体制の構築―	文化財をしらべる・まもる・いかす－国立文化財機構　保存・修復の最前線－	アグネ技術センター	12月31日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
11	同上	奈良国立博物館学芸部保存修理指導室長　荒木臣紀	被災ガラス乾板を再生する―保存と活用に向けて―	文化財をしらべる・まもる・いかすー国立文化財機構　保存・修復の最前線ー	アグネ技術センター	12月31日	無
12	同上	文化財防災センター長　髙妻洋成	文化財防災スパイラル	入門　大災害時代の文化財防災	同成社	5年3月31日	無
13	同上	文化財防災センター長　髙妻洋成	救うのは「お宝」か―地域の文化財の救援―	入門　大災害時代の文化財防災	同成社	5年3月31日	無
14	同上	文化財防災センター副センター長　建石徹	文化財レスキューとその活動	入門　大災害時代の文化財防災	同成社	5年3月31日	無
15	同上	文化財防災センター副センター長　建石徹	大災害時代の文化財防災	入門　大災害時代の文化財防災	同成社	5年3月31日	無
16	同上	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	大災害の現場から―東日本大震災をケーススタディに―	入門　大災害時代の文化財防災	同成社	5年3月31日	無
17	同上	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	文化財がつなぐ地域のくらし	入門　大災害時代の文化財防災	同成社	5年3月31日	無
18	同上	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	総がかりでまもる文化財	入門　大災害時代の文化財防災	同成社	5年3月31日	無
19	同上	文化財防災センター主任研究員　鷲頭桂	被災書画の救援	入門　大災害時代の文化財防災	同成社	5年3月31日	無
20	同上	文化財防災センター研究員　黄川田翔	災害発生時における情報収集と伝達	入門　大災害時代の文化財防災	同成社	5年3月31日	無
21	同上	文化財防災センター研究員　水谷悦子	必ず必要になる一時保管場所	入門　大災害時代の文化財防災	同成社	5年3月31日	無
22	同上	文化財防災センターアソシエイトフェロー　小峰幸夫	後回しのツケは大きいムシとカビ	入門　大災害時代の文化財防災	同成社	5年3月31日	無
23	同上	文化財防災センター研究員　中島志保	まずはひとありき―現場に求められる人材とその育成―	入門　大災害時代の文化財防災	同成社	5年3月31日	無
24	同上	文化財防災センター研究員　後藤知美	活躍が期待される文化財専門職員	入門　大災害時代の文化財防災	同成社	5年3月31日	無
25	同上	文化財防災センター研究員　上椙英之	命を守る文化財―自然災害伝承碑―	入門　大災害時代の文化財防災	同成社	5年3月31日	無
26	同上	文化財防災センターアソシエイトフェロー　中屋菜緒	博物館における災害への備えー火災と地震から文化財をまもるー	入門　大災害時代の文化財防災	同成社	5年3月31日	無
27	同上	文化財防災センター文化財防災統括リーダー　小谷竜介	用具を通して伝える無形文化遺産の被災とその意味	東北宗教学（特集号）	東北大学大学院文学研究科宗教学研究室	5年3月31日	無
28	同上	文化財防災センター研究員　中島志保	文化財防災のための研修の検討	文化財論叢Ⅴ　奈良文化財研究所創立70周年記念論文集	奈良文化財研究所	5年3月31日	無
29	同上	文化財防災センター研究員　後藤知美	無形民俗文化財の災害リスクの可視化と防災 ―福岡県京都郡苅田町・等覚寺の松会の事例から―	無形文化遺産研究報告17	東京文化財研究所	5年3月31日	有

【東京国立博物館】155件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　139件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究	博物館教育課長　鈴木みどり、博物館教育課ボランティア室長　金井裕子、博物館教育課ボランティア室アソシエイトフェロー永田香織、博物館教育課ボランティア室有期雇用職員　渡邉瑛子、清水美幸	「紅型ができるまで」	教育特集展示リーフレット	東京国立博物館	4月1日	無
2	同上	列品管理課平常展調整室研究員　増田政史	特集展示『浅草寺のみほとけ』の展示作品	浅草寺	浅草寺教化部	4月1日	無
3	同上	企画課特別展室長　猪熊兼樹	平安後期における宋画受容 ―「鳥獣戯画」乙巻を対象として―	『鳥獣戯画研究の最前線』	東京美術	4月30日	無
4	同上	列品管理課平常展調整室研究員　古川攝一	白描画としての鳥獣戯画―線描の妙技	『鳥獣戯画研究の最前線』	東京美術	4月30日	無
5	同上	調査研究課絵画・彫刻室長　土屋貴裕	鳥獣戯画研究の展望	『鳥獣戯画研究の最前線』	東京美術	4月30日	無
6	同上	企画課特別展室研究員 高橋真作	五百羅漢図	『國華』1519	國華社	5月20日	有
7	同上	企画課特別展室研究員 高橋真作	山田道安筆 鍾馗図	『國華』1519	國華社	5月20日	有
8	同上	列品管理課平常展調整室研究員　古川攝一	回顧と展望―日本（古代）美術	『史学雑誌』第131編第5号	史学会	5月20日	無
9	同上	保存修復課保存修復室研究員　野中昭美ほか	磁器・ガラスに使用される光学用エポキシ樹脂の 剥離に関する実験	一般社団法人文化財保存修復学会第44回大会研究発表要旨集	一般社団法人文化財保存修復学会第44回大会実行委員会	6月18日	無
10	同上	調査研究課絵画・彫刻室長　土屋貴裕	―	絵巻　東京国立博物館セレクション	東京国立博物館	6月20日	無
11	同上	列品管理課平常展調整室長　市元塁	門田誠一著『魏志倭人伝と東アジア考古学』	『古代文化』74巻第1号	古代学協会	6月30日	無
12	同上	列品管理課平常展調整室主任研究員　小野塚拓造	「東地中海における青銅器・鉄器時代移行期」を理解するために	『古代文化』74巻第1号	古代学協会	6月30日	有
13	同上	調査研究課絵画・彫刻室研究員 大橋美織	杜秋艇「耶馬渓図巻」（東京国立博物館蔵）	『美術フォーラム21』第45号	醍醐書房	6月30日	無
14	同上	保存修復課調査分析室長 鳥越俊行	第2節第2項自然状態の銀、第3節第1項石見銀山の銀を用いた可能性のある銀製品	石見銀山学ことはじめVI銀	大田市教育委員会	6月30日	無
15	同上	企画課特別展室研究員 高橋真作	仏儒道三教一致思想の絵画 ：三聖図・三笑図・三酸図をめぐって	『アジア遊学271　儒教思想と絵画―東アジアの勧戒画』	勉誠出版	7月1日	無
16	同上	上席研究員　勝木言一郎	大英博物館所蔵の報恩経変相 Stein Painting 12の図像に関する一考察	『アジア遊学271　儒教思想と絵画―東アジアの勧戒画』	勉誠出版	7月1日	無
17	同上	百五十年史編纂室長　恵美千鶴子	女性と写経3　久能寺経	ビオ・シティ91号	株式会社ブックエンド	7月7日	無
18	同上	博物館教育課教育講座室研究員　横山梓	作品解説	創立150周年事業　特集「東博のガラスコレクション―明治期ガラス工芸の諸相」リーフレット	東京国立博物館	7月12日	無
19	同上	調査研究課考古室研究員 山本亮ほか	弥生後期社会の実像―集落構造と地域社会―	古代学研究第233号	古代学研究会	8月19日	無
20	同上	列品管理課平常展調整室長　市元塁	物故者記事「菅谷文則」	日本美術年鑑 令和2年版	東京文化財研究所	8月25日	無
21	同上	保存修復課保存修復室長 瀬谷愛	東京国立博物館における保存と修理「特集　古代染織の保存と修理――50年にわたる取り組み」によせて	『MUSEUM』第699号	東京国立博物館	8月	有
22	同上	客員研究員　谷豊信	X光影像下的中国古代封泥研究	孫慰祖主編『中国古代封泥全集』12	吉林美術出版社（中国）	9月1日	有
23	同上	客員研究員　谷豊信	X光影像下的楽浪封泥研究　－日本東京大学考古学研究室、東京国立博物館蔵品探討－	孫慰祖主編『中国古代封泥全集』15	吉林美術出版社（中国）	9月1日	有
24	同上	百五十年史編纂室長　恵美千鶴子	明治十五年・十七年、内国絵画共進会と「嚴島神社蔵経模本（平家納経装幀模本）」	創立150年記念特集『東京国立博物館の模写・模造―草創期の展示と研究―』	東京国立博物館	9月6日	無
25	同上	古川攝一（平常展調整室研究員）	白描図像の模写をめぐって	創立150年記念特集『東京国立博物館の模写・模造―草創期の展示と研究―』	東京国立博物館	9月6日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
26	同上	調査研究課東洋室主任研究員　児島大輔	断章・美をつくしの蔵　建造物としての大阪市立美術館	『美をつくし―大阪市立美術館コレクション』	毎日新聞社	9月14日	無
27	同上	上席研究員　勝木言一郎	「シルクロード探検」「大谷探検隊」	『博物館でアジアの旅　アジア大発見！』	東京国立博物館	9月21日	無
28	同上	列品管理課平常展調整室長　市元塁	高橋由一が触れたアジア	『博物館でアジアの旅　アジア大発見！』	東京国立博物館	9月21日	無
29	同上	列品管理課平常展調整室長　市元塁	周漢文化展覧会	『博物館でアジアの旅　アジア大発見！』	東京国立博物館	9月21日	無
30	同上	調査研究課東洋室研究員　六人部克典	日本と「宋代書画」の出会い	『博物館でアジアの旅　アジア大発見！』	東京国立博物館	9月21日	無
31	同上	企画課特別展室研究員　高橋真作	二つの牧谿伝承作 ： 円覚寺蔵「白衣観音図」と建長寺蔵「猿猴図」をめぐって	『アジア遊学』275	勉誠出版	10月1日	無
32	同上	企画課特別展室長　猪熊兼樹	「清　最後の王朝」「北京と紫禁城」「皇帝の儀式」「紫禁城の意匠」など	もっと知りたい中国美術	東京美術	10月5日	無
33	同上	東京国立博物館百五十年史編纂室長・惠美千鶴子	装飾料紙と書1　大字和漢朗詠集と法輪寺切	ビオ・シティ92号	株式会社ブックエンド	10月7日	無
34	同上	企画課特別展室研究員　福島修	永青文庫所蔵の唐物漆器	『季刊永青文庫』No. 118	公益財団法人永青文庫	10月8日	無
35	同上	副館長　富田淳	世界とともに歩む東京国立博物館	『東京国立博物館創立150年記念　特別展　国宝　東京国立博物館のすべて』	毎日新聞社、NHK、NHKプロモーション	10月18日	無
36	同上	列品管理課登録室長　佐藤寛介	キリンと天産資料	ミュージアムヒストリー　東京国立博物館150年のあゆみ	東京国立博物館	10月20日	無
37	同上	企画課特別展室研究員　福島修	作品解説	『西行 ： 語り継がれる漂泊の歌詠み』	公益財団法人五島美術館	10月21日	無
38	同上	列品管理課登録室長　佐藤寛介	戦国武将と刀剣	現代語訳　備前軍記	山陽新聞社	10月22日	無
39	同上	列品管理課登録室長　佐藤寛介	山中鹿介と兜	現代語訳　備中兵乱記	山陽新聞社	10月22日	無
40	同上	保存修復課調査分析室長　鳥越俊行	蛍光X線分析による「五馬図巻」の調査結果について	修理調査報告「五馬図巻」	東京国立博物館	10月24日	無
41	同上	特任研究員　今井敦	「古九谷様式」再考	古九谷の多様性とハレ	石川県九谷焼美術館	10月29日	無
42	同上	副館長　富田淳	「乾隆帝とはどのような人物か」「乾隆帝と歴代書画」ほか	もっと知りたい中国の美術	東京美術	10月30日	無
43	同上	列品管理課平常展調整室長　市元塁	「皇帝のコレクション 青銅器・玉器」ほか	もっと知りたい中国の美術	東京美術	10月30日	無
44	同上	調査研究課東洋室研究員　六人部克典	「乾隆帝の書画鑑蔵と編纂物」「皇帝のコレクション 書跡」ほか	もっと知りたい中国の美術	東京美術	10月30日	無
45	同上	列品管理課登録室アソシエイトフェロー　廣谷妃夏	法隆寺伝来〈赤地獅子鳳凰円文錦〉及び〈赤地格子連珠花文錦〉の制作年代再考―東部ユーラシア染織品との比較から―	『美術史』193冊	美術史学会	10月31日	有
46	同上	調査研究課考古室研究員　飯田茂雄ほか	北海道東部の北筒式期における石器群の構造と原料の獲得消費	『札幌学院大学　人文学会紀要』112号	札幌学院大学総合研究所	10月31日	無
47	同上	保存修復課保存修復室研究員・沼沢ゆかり	インドネシア伝世インド更紗の年代考察 人物模様と染織技法を視座として	高梨学術奨励基金年報　令和3年度　助成研究成果報告	公益財団法人高梨学術奨励基金	11月1日	無
48	同上	保存修復課調査分析室長　鳥越俊行	奈良国立博物館の展示環境-なら仏像館(旧本館)と東西新館の比較から	国立民族学博物館調査報告No.155	国立民族学博物館	11月7日	無
49	同上	企画課出版企画室主任研究員　三笠景子	「茶の湯を創った青磁茶碗」	『茶の湯の歴史を問い直す　創られた伝説から真実へ』	筑摩書房	11月20日	無
50	同上	特任研究員　今井敦	「和物茶陶」の発見と創造―「和漢の構図」の再検討	茶の湯の歴史を問い直す　創られた伝説から真実へ	筑摩書房	11月20日	無
51	同上	特任研究員　田沢裕賀	南蛮文化発祥以前、大分は禅宗文化の基地であった	「大本山相国寺と金閣・銀閣の名宝」図録	大分県立美術館	11月26日	無
52	同上	特任研究員　今井敦	唐物模倣の論理	中近世土器の基礎研究　第29号	中世土器研究会	12月4日	無
53	同上	企画課特別展室主任研究員　河野正訓	古墳時代の動向	日本考古学年報74	日本考古学協会	12月5日	無
54	同上	客員研究員　谷豊信	楽浪土城の遺構再考	黄暁芬編『古代東アジア都市の構造と変遷』	同成社	12月10日	無
55	同上	列品管理課登録室長　佐藤寛介	津山藩主松平家伝来「朱漆塗本小札啄木糸威胴丸具足」の歴史的意義	MUSEUM　701号	東京国立博物館	12月15日	有
56	同上	調査研究課考古室研究員　山本亮	土器から見た古墳時代前期の淀川流域	季刊考古学・別冊39　淀川流域の古墳時代	雄山閣	12月25日	無
57	同上	調査研究課長　松嶋雅人	150年後の国宝を考えることの意味	『150年後の国宝展』図録	東京国立博物館	12月28日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
58	同上	保存修復課保存修復室長 瀬谷愛	膨大な作品を伝えるために―所蔵品の保存と修理のマネジメント―	文化財をしらべる・まもる・いかす　―国立文化財機構 保存・修復の最前線―	アグネ技術センター	12月31日	無
59	同上	保存修復課調査分析室長 鳥越俊行	第5章3節 文化財の内部構造を知る-X線CTの導入と活用-	文化財をしらべる・まもる・いかす　―国立文化財機構 保存・修復の最前線―	アグネ技術センター	12月31日	無
60	同上	保存修復課保存修復室研究員　野中昭美	多様な文化財を公開するために―立体作品の保存と修理―	文化財をしらべる・まもる・いかす　―国立文化財機構 保存・修復の最前線―	アグネ技術センター	12月31日	無
61	同上	保存修復課保存修復室研究員　沼沢ゆかり	染と織を魅せる―染織文化財の保存と活用―	文化財をしらべる・まもる・いかす　―国立文化財機構 保存・修復の最前線―	アグネ技術センター	12月31日	無
62	同上	保存修復課調査分析室長 鳥越俊行	Introduction and utilization of X-ray CT systems for cultural properties in Japan	文物保护与考古科学 Vol.34	上海博物館	12月	有
63	同上	企画課特別展室主任研究員 河野正訓	山口県赤妻古墳出土品の来歴調査	古文化談叢88	九州古文化研究会	5年1月1日	有
64	同上	調査研究課工芸室主任研究員　清水健、調査研究課東洋室研究員　六人部克典	特集　博物館に初もうで――兎にも角にもうさぎ年	『特集　博物館に初もうで――兎にも角にもうさぎ年』	東京国立博物館	5年1月2日	無
65	同上	東京国立博物館百五十年史編纂室長・惠美千鶴子	装飾料紙と書2　竹生島経	ビオ・シティ93号	株式会社ブックエンド	5年1月11日	無
66	同上	副館長　富田淳	王羲之略伝-書聖のまなざし-	『連携企画20周年　王羲之と蘭亭序』	公益財団法人台東区芸術文化財団	5年1月31日	無
67	同上	副館長　富田淳	道真と貫之の曲水宴	『連携企画20周年　王羲之と蘭亭序』	公益財団法人台東区芸術文化財団	5年1月31日	無
68	同上	副館長　富田淳	王羲之から藤原行成へ	『連携企画20周年　王羲之と蘭亭序』	公益財団法人台東区芸術文化財団	5年1月31日	無
69	同上	副館長　富田淳	変革者としての王羲之	『連携企画20周年　王羲之と蘭亭序』	公益財団法人台東区芸術文化財団	5年1月31日	無
70	同上	列品管理課平常展調整室長 市元塁	楊泓著（市元塁訳）穹廬から殿堂へ―雲岡石窟における空間構造の変遷と諸問題―	美術研究438号	東京文化財研究所	5年2月28日	無
71	同上	調査研究課工芸室主任研究員　清水健	『聆涛閣集古帖』より明らかになった国宝・線刻釈迦三尊等鏡像（京都・泉屋博古館蔵）の伝来	『企画展示　いにしえが、好きっ！―近世好古図録の文化誌―』	国立歴史民俗博物館	5年3月7日	無
72	同上	調査研究課工芸室主任研究員　清水健	正倉院宝物の公開と模造の歴史	『企画展示　いにしえが、好きっ！―近世好古図録の文化誌―』	国立歴史民俗博物館	5年3月7日	無
73	同上	学芸企画部　博物館教育課教育講座室研究員　横山梓	作品紹介「重要文化財　巴文大壺　珠洲」	『國華』第1529号	國華社	5年3月20日	有
74	同上	保存修復課調査分析室長 鳥越俊行	広島県立美術館所蔵南蛮漆器書見台についての調査報告	広島県立美術館研究紀要第26号	広島県立美術館	5年3月24日	無
75	同上	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　植松瑞希	俯仰する竹と鳳凰―夏昶筆「朝陽舞鳳図」にみる「異形の竹」絵画化の系譜	松竹梅の美術史	中央公論美術出版	5年3月30日	無
76	同上	保存修復課調査分析室長 鳥越俊行	第三章 柄と鐺様金具(1),(3)、第四章 剣身(3)	伝世洋剣水口レイピアの謎に迫る	中央公論美術出版	5年3月31日	無
77	同上	博物館教育課教育講座室研究員　山本桃子	私立大学附属・系属高校生徒の学外活動に関する研究-学校外での学習と課外活動に着目して-	『早稲田教育評論』第37巻,第1号	早稲田大学教育総合研究所	5年3月31日	有
78	同上	博物館教育課ボランティア室長　金井裕子	東京国立博物館所蔵「木挽町狩野家伝来資料」について	『東京国立博物館紀要』	東京国立博物館	5年3月31日	無
79	同上	百五十年史編纂室長　惠美千鶴子	平清盛・頼盛両筆「紺紙金字経」および「厳島切」の整理と伝来	禁裏・公家文庫研究9輯	思文閣出版	5年3月31日	無
80	同上	調査研究課考古室長　井出浩正	縄文時代中期における地域間交流の研究―土器の容量計測を用いた比較―	東京国立博物館紀要58号（2022年度）	東京国立博物館	5年3月31日	無
81	同上	保存修復課調査分析室長 鳥越俊行	佐渡奉行所跡で出土した炉跡の被熱温度推定	日本鉱業史研究 No.73	日本鉱業史研究会	5年3月	無
82	同上	保存修復課保存修復室長 瀬谷愛	中世聖徳太子絵伝における南無仏太子説話の図像	ハーバード美術館蔵南無仏太子像の研究	中央公論美術出版	5年3月	無
83	同上	特任研究員　今井敦	「日本陶磁のオリジナリティー―中国陶磁と比較して」	石川県九谷焼美術館　紀要『九谷を拓く』第6号	石川県九谷焼美術館	5年3月31日	無
84	特別調査「法隆寺献納宝物」（第42次）	保存修復課調査分析室長 鳥越俊行	蛍光X線分析・X線CT調査報告	法隆寺献納宝物特別調査概報42竜首水瓶	東京国立博物館	4月15日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
85	同上	保存修復課調査分析室長 鳥越俊行、保存修復課調査分析室専門職　宮田将寛ほか	蛍光 X 線分析・X 線 CT 調査報告	法隆寺献納宝物特別調査概報 42 竜首水瓶	東京国立博物館	4 月 15 日	無
86	収蔵品等の有形文化財に関する調査研究	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　植松瑞希	発見！！「五龍図巻」の兄弟たち	博物館でアジアの旅 アジア大発見！	東京国立博物館	9 月 21 日	無
87	同上	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　植松瑞希	「五馬図巻」とその受容史	修理調査報告「五馬図巻」	東京国立博物館	10 月 24 日	無
88	同上	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　植松瑞希	「五馬図巻」の修理	修理調査報告「五馬図巻」	東京国立博物館	10 月 24 日	無
89	同上	調査研究課東洋室研究員 六人部克典	「五馬図巻」題跋の書法について	修理調査報告「五馬図巻」	東京国立博物館	10 月 24 日	無
90	同上	保存修復課保存修復室研究員　沼沢ゆかり	「五馬図巻」の表装裂について	修理調査報告「五馬図巻」	東京国立博物館	10 月 24 日	無
91	創立 150 年記念特集「再発見！大谷探検隊とたどる古代裂の旅」に関連する調査研究	列品管理課登録室アソシエイトフェロー　廣谷妃夏	作品解説等	博物館でアジアの旅　アジア大発見	東京国立博物館	9 月 12 日	無
92	同上	列品管理課登録室アソシエイトフェロー　廣谷妃夏	作品解説等	特集「再発見！大谷探検隊とたどる古代裂の旅」リーフレット	東京国立博物館	9 月 21 日	無
93	同上	保存修復課保存修復室研究員　沼沢ゆかり	作品解説等	特集「再発見！大谷探検隊とたどる古代裂の旅」リーフレット	東京国立博物館	9 月 12 日	無
94	同上	保存修復課保存修復室研究員　沼沢ゆかり	作品解説等	博物館でアジアの旅　アジア大発見	東京国立博物館	9 月 21 日	無
95	創立 150 年記念特集「東京国立博物館の模写・模造―草創期の展示と研究―」に関連する調査研究	東京国立博物館学芸企画部企画課特別展室長・猪熊兼樹	正倉院宝物の模造	創立 150 年記念特集『東京国立博物館の模写・模造―草創期の展示と研究―』	東京国立博物館	9 月 6 日	無
96	同上	企画課特別展室研究員　福島修	名品のどこを見たか　漆芸模造の世代と視点	創立 150 年記念特集『東京国立博物館の模写・模造―草創期の展示と研究―』	東京国立博物館	9 月 6 日	無
97	同上	学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室長・土屋貴裕	東京国立博物館の歴史と近代模写・模造	創立 150 年記念特集『東京国立博物館の模写・模造―草創期の展示と研究―』	東京国立博物館	9 月 6 日	無
98	同上	工芸室長・小山弓弦葉	高田義男の染織文化財調査と模造	創立 150 年記念特集『東京国立博物館の模写・模造―草創期の展示と研究―』	東京国立博物館	9 月 6 日	無
99	同上	調査研究課工芸室主任研究員　清水健	蜷川式胤模造の正倉院宝物	創立 150 年記念特集『東京国立博物館の模写・模造―草創期の展示と研究―』	東京国立博物館	9 月 6 日	無
100	創立 150 年記念特集「チベット仏教の美術―皇帝も愛した神秘の美―」に関連する調査研究	列品管理課貸与特別観覧室研究員　西木政統	創立 150 年記念特集　チベット仏教の美術―皇帝も愛した神秘の美―	リーフレット	東京国立博物館	7 月 26 日	無
101	同上	列品管理課貸与特別観覧室研究員　西木政統	「チベット仏教」他、作品解説 4 件	もっと知りたい中国の美術	東京美術	10 月 30 日	無
102	創立 150 年記念特集「王羲之と蘭亭序」に関連する調査研究	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　植松瑞希	描かれたさまざまな雅集	『連携企画 20 周年　王羲之と蘭亭序』	公益財団法人台東区芸術文化財団	5 年 1 月 31 日	無
103	同上	調査研究課東洋室研究員 六人部克典	宋元明清における王羲之書法の展開	『連携企画 20 周年 王羲之と蘭亭序』	公益財団法人台東区芸術文化財団	5 年 1 月 31 日	無
104	創立 150 年記念特集「コレクションの探求　はにわ展から 50 年」に関連する調査研究	企画課特別展室主任研究員 河野正訓・調査研究課考古室研究員　山本亮	―	創立 150 年記念特集 コレクションの探求　はにわ展から 50 年	東京国立博物館	5 年 2 月 28 日	無
105	沖縄復帰 50 年記念特別展「琉球」に関する調査研究	企画課長　原田あゆみ	鎌倉芳太郎が出会った人と沖縄	『沖縄復帰 50 年記念特別展　琉球』	NHK、NHK プロモーション、読売新聞社	5 月 3 日	無
106	同上	企画課特別展室長・猪熊兼樹	琉球の宮廷	『沖縄復帰 50 年記念特別展　琉球』	NHK、NHK プロモーション、読売新聞社	5 月 3 日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
107	同上	企画課出版企画室主任研究員　三笠景子	総論「琉球・沖縄の文化と歩み」	『沖縄復帰 50 年記念特別展　琉球』	NHK、NHK プロモーション、読売新聞社	5 月 3 日	無
108	同上	博物館教育課教育普及室長　品川欣也	東京国立博物館所蔵の琉球資料	『沖縄復帰 50 年記念特別展　琉球』	NHK、NHK プロモーション、読売新聞社	5 月 3 日	無
109	同上	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉	琉球の文様	『沖縄復帰 50 年記念特別展　琉球』	NHK、NHK プロモーション、読売新聞社	5 月 3 日	無
110	同上	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉	琉装のかたち	『沖縄復帰 50 年記念特別展　琉球』	NHK、NHK プロモーション、読売新聞社	5 月 3 日	無
111	同上	企画課出版企画室主任研究員　三笠景子	「沖縄復帰 50 年記念 特別展琉球」	『陶説』828 号	日本陶磁協会	6 月 1 日	無
112	同上	企画課長　原田あゆみ	沖縄復帰五〇年記念特別展「琉球」開催の意義	ICOMOSJapan information	（一社）日本イコモス国内委員会	9 月 7 日	無
113	日中国交正常化 50 周年記念　特別デジタル展「故宮の世界」に関する調査研究	絵画・彫刻室主任研究員・植松瑞希	乾隆帝の秘蔵絵画と近代日本	もっと知りたい　中国の美術	東京美術	10 月 30 日	無
114	東京国立博物館創立 150 年記念　特別展「国宝　東京国立博物館のすべて」に関する調査研究	企画課出版企画室主任研究員　三笠景子	「博物館のために―横河民輔の東洋陶磁コレクション」	『東京国立博物館創立 150 年記念　特別展　国宝　東京国立博物館のすべて』	東京国立博物館	10 月 18 日	無
115	同上	博物館教育課教育普及室長　品川欣也	東京国立博物館の考古コレクション	『東京国立博物館創立 150 年記念 特別展 国宝 東京国立博物館のすべて』	東京国立博物館	10 月 18 日	無
116	同上	東京国立博物館学芸企画部企画課特別展室長　猪熊兼樹	在りし日の鳳輦	『東京国立博物館創立 150 年記念 特別展 国宝 東京国立博物館のすべて』	東京国立博物館	10 月 18 日	無
117	同上	列品管理課登録室長　佐藤寛介	東京国立博物館 150 年の歩み	『東京国立博物館創立 150 年記念 特別展 国宝 東京国立博物館のすべて』	東京国立博物館	10 月 18 日	無
118	同上	調査研究課絵画・彫刻室長　土屋貴裕	帝室博物館から国立博物館へ―戦後における国宝絵画指定が意味すること	『東京国立博物館創立 150 年記念 特別展 国宝 東京国立博物館のすべて』	東京国立博物館	10 月 18 日	無
119	同上	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　植松瑞希	国宝中国絵画のお名前事情	『東京国立博物館創立 150 年記念 特別展 国宝 東京国立博物館のすべて』	毎日新聞社、NHK プロモーション	10 月 18 日	無
120	同上	調査研究課考古室研究員・飯田茂雄	作品解説	『東京国立博物館創立 150 年記念 特別展 国宝 東京国立博物館のすべて』	東京国立博物館	10 月 18 日	無
121	同上	調査研究課東洋室研究員　六人部克典	東京国立博物館の東洋書跡	『東京国立博物館創立 150 年記念 特別展 国宝 東京国立博物館のすべて』	東京国立博物館	10 月 18 日	無
122	同上	保存修復課長　和田浩	東京国立博物館の保存修復	『東京国立博物館創立 150 年記念 特別展 国宝 東京国立博物館のすべて』	東京国立博物館	10 月 18 日	無
123	同上	調査研究課絵画・彫刻室研究員 大橋美織	松方コレクションの浮世絵版画 - その流転と公開 -	『東京国立博物館創立 150 年記念 特別展 国宝 東京国立博物館のすべて』	東京国立博物館	10 月 18 日	無
124	同上	企画課特別展室研究員　福島修	東京国立博物館の漆工	『東京国立博物館創立 150 年記念 特別展 国宝 東京国立博物館のすべて』	東京国立博物館	10 月 18 日	無
125	同上	列品管理課平常展調整室研究員　増田政史	東京国立博物館の調査研究小史―彫刻分野を中心に	『東京国立博物館創立 150 年記念 特別展 国宝 東京国立博物館のすべて』	毎日新聞社、NHK、NHK プロモーション	10 月 18 日	無
126	同上	調査研究課考古室研究員・飯田茂雄	作品解説	ミュージアムヒストリー　東京国立博物館―150 年のあゆみ―	東京国立博物館	10 月 20 日	無
127	同上	特任研究員　田良島哲	森鴎外と正倉院	『正倉院宝物に学ぶ 4』	思文閣出版	10 月	無
128	同上	列品管理課長　沖松健次郎	蘇る百五十年前の展示風景―湯島聖堂博覧会	東京人	都市出版株式会社	11 月 3 日	無
129	特別企画「大安寺の仏像」に関する調査研究	列品管理課平常展調整室研究員　増田政史	大安寺の仏像	うえの　762 号	上野のれん会	5 年 1 月 1 日	無
130	同上	列品管理課平常展調整室研究員　増田政史	奈良の大寺　大安寺	大安寺の仏像	東京国立博物館	5 年 1 月 2 日	無
131	同上	列品管理課平常展調整室研究員　増田政史	コラム　大安寺の奈良時代の木彫群	大安寺の仏像	東京国立博物館	5 年 1 月 2 日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
132	特別展「東福寺」に関する調査研究	企画課特別展室研究員　高橋真作	明兆筆「五百羅漢図」の新知見	『特別展 東福寺』	読売新聞社、NHK、NHK プロモーション	5 年 3 月 7 日	無
133	同上	企画課特別展室研究員　高橋真作	明兆筆「五百羅漢図」の本絵と下絵	『特別展 東福寺』	読売新聞社、NHK、NHK プロモーション	5 年 3 月 7 日	無
134	同上	調査研究課東洋室研究員　六人部克典	遺偈―師資相承の書―	『特別展 東福寺』	読売新聞社、NHK、NHK プロモーション	5 年 3 月 7 日	無
135	博物館環境デザインに関する調査研究	木下史青(東京国立博物館上席研究員・デザイン)	Treasure×Pleasure ―東京国立博物館の展示デザイン	「博物館研究 57」特集〈博物館を支える人々〉	公益財団法人日本博物館協会	10 月 1 日	無
136	博物館教育に関する調査研究	博物館教育課教育講座室研究員　山本桃子ほか	分野横断型学習としてのオブジェクトベーストラーニングのさらなる機能拡張-人びとのウェルビーイングの向上への貢献を目指して-	The KeMCo Review 01	慶應義塾ミュージアム・コモンズ	5 年 3 月 31 日	有
137	博物館広報・国際交流活動に関する調査研究	上席研究員兼広報室長　鬼頭智美	欧米が見た鳥獣戯画―近代における海外出品をめぐって―	『鳥獣戯画研究の最前線』	東京美術	4 月 30 日	無
138	同上	上席研究員兼広報室長　鬼頭智美	つたえる、つなぐ―博物館広報のあゆみ―	特集リーフレット	東京国立博物館	9 月 27 日	無
139	同上	企画課国際交流室　ミオッシュ・ヴォズニ、上席研究員兼広報室長　鬼頭智美ほか	―	Japanese to English Translation at the Tokyo National Museum	東京国立博物館	12 月 20 日	無

〇その他有形文化財に関連する調査研究　16件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	博物館の環境保存に関する調査研究	学芸研究部保存修復課長・和田浩	屏風の振動応答特性を検証するための基礎的研究	日本包装学会誌 31(3)	日本包装学会	6月1日	有
2	同上	学芸研究部保存修復課長・和田浩	ハンドリフトを用いた文化財の施設内輸送時に生じる振動の原因と対策に関する研究	文化財保存修復学会 44 回大会	文化財保存修復学会	6月19日	無
3	同上	学芸研究部保存修復課環境保存室アソシエイトフェロー・相川悠、学芸研究部保存修復課長・和田浩	展示室における換気対策が与えるエネルギー消費への影響と持続可能な博物館環境の維持に関する考察	文化財保存修復学会 44 回大会	文化財保存修復学会	6月19日	無
4	同上	学芸研究部保存修復課長・和田浩	2022 年度災害対策調査部会の活動報告	文化財保存修復学会 44 回大会	文化財保存修復学会	6月19日	無
5	同上	学芸研究部保存修復課環境保存室アソシエイトフェロー・相川悠、学芸研究部保存修復課長　和田浩	展示室における換気対策が与えるエネルギー消費への影響と持続可能な博物館環境の維持に関する考察	文化財保存修復学会 44 回大会	文化財保存修復学会	6月19日	無
6	同上	保存修復課長　和田浩	綿の衝撃試験についての基礎的研究	日本包装学会第 31 回年次大会	日本包装学会	7月20日	無
7	同上	保存修復課長　和田浩	美術品輸送の安全対策に関する研究動向	日本包装学会誌 31(4)	日本包装学会	8月1日	無
8	同上	保存修復課長　和田浩	法隆寺金堂収蔵庫における壁画の保存・公開に関する研究 －2021 年限定公開における収蔵庫内環境測定値の検討-	日本文化財科学会第 39 回大会	日本文化財科学会	9月10日	無
9	同上	保存修復課長　和田浩	博物館施設内輸送における振動計測	第 60 回全日本包装技術研究大会	日本包装技術協会	11月18日	無
10	同上	保存修復課長　和田浩	都市と文化財のデジタル化で生まれる博物館の新たな展開	教職課程センター紀要 7	大東文化大学	12月	無
11	同上	保存修復課長　和田浩	文化財を安全に運ぶ-振動解析による施設内輸送の安全性評価-	文化財をしらべる・まもる・いかす　―国立文化財機構 保存・修復の最前線―	アグネ技術センター	5年3月	無
12	同上	保存修復課長　和田浩	入場者数の展示室内環境への影響の検証を目的とした特別展覧会における室内滞留者数傾向の解析	国立民族学博物館研究報告 47(4)	国立民族学博物館	5年3月	有
13	博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	特任研究員　田良島哲	文化政策としてのデジタルアーカイブ	『デジタルアーカイブ・ベーシックス 知識インフラの再設計』	勉誠出版	11月	無
14	創立 150 年へ向けた館史編纂のための基礎的な資料整理と調査研究	副館長　富田淳	東京国立博物館の 150 年	絲綢之路	公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団	10月25日	無
15	同上	百五十年史編纂室長　惠美千鶴子	東京国立博物館百五十年史編纂に関わる資料の整理と活用	専門図書館 2022 年 11 月号	専門図書館協議会	11月25日	有

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
16	同上	上席研究員兼広報室長 鬼頭智美	海外展開催：日本文化の世界への発信	ミュージアムヒストリー 東京国立博物館 150 年のあゆみ	東京国立博物館	10月20日	無

【京都国立博物館】 93件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　36件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	特別展「河内長野の霊地　観心寺と金剛寺」に関する調査研究	学芸部上席研究員　淺湫毅	伝宝生如来坐像　観心寺蔵	『なにわ』805 号	大阪府警察	6月29日	無
2	同上	同上	僧形神像として造立か（地蔵菩薩立像　観心寺蔵）	『京都新聞』8 月 4 日	京都新聞社	8月4日	無
3	同上	学芸部企画室研究員　井並林太郎	重要文化財　藍韋威腹巻	『なにわ』804 号	大阪府警察	5月	無
4	同上	同上	概説　観心寺・金剛寺の歴史と文化財	『特別展　河内長野の霊地　観心寺と金剛寺―真言密教と南朝の遺産―』図録	京都国立博物館	7月30日	無
5	同上	同上	中世の力強さ満ちた絵画（日月山水図屏風　天野山金剛寺蔵）	『京都新聞』8 月 9 日	京都新聞社	8月9日	無
6	同上	同上	甲冑 22 件、正成への愛着（藍韋威腹巻　天野山金剛寺蔵）	『京都新聞』8 月 10 日	同上	8月10日	無
7	同上	学芸部列品管理室主任研究員　末兼俊彦	「真言密教と密教法具―観心寺で発見された大壇具の謎―」	『特別展　河内長野の霊地　観心寺と金剛寺－真言密教と南朝の遺産－』図録	京都国立博物館	7月30日	無
8	同上	学芸部調査・国際連携室研究員　上杉智英	重要文化財　遊仙窟	『なにわ』806 号	大阪府警察	7月	無
9	同上	同上	概説　観心寺・金剛寺の歴史と文化財 金剛寺本『遊仙窟』断簡、発見の意義	『特別展　河内長野の霊地　観心寺と金剛寺―真言密教と南朝の遺産―』図録	京都国立博物館	7月30日	無
10	同上	学芸部特任研究員　宮川禎一	棟札・観心寺出土瓦[古代～中世]	『特別展　河内長野の霊地　観心寺と金剛寺－真言密教と南朝の遺産－』（図録）	京都国立博物館	7月30日	無
11	同上	学芸部研究員　古谷　毅	観心寺出土文字瓦[中世～近世・近世]	『特別展　河内長野の霊地　観心寺と金剛寺－真言密教と南朝の遺産－』（図録）	京都国立博物館	7月30日	無
12	特別展「京に生きる文化　茶の湯」に関する調査研究	学芸部列品管理室長　羽田聡	金地院所蔵　国宝「秋景冬景山水図」の附属書状について	『特別展　京に生きる文化　茶の湯』図録	読売新聞社・京都国立博物館	10月8日	無
13	同上	学芸部調査・国際連携室長　降矢哲男	国宝　大井戸茶碗　銘 喜左衛門	『なにわ』809 号	大阪府警察	9月29日	無
14	同上	同上	京に生きる文化 茶の湯	『茶道雑誌』第 86 巻 10 号	河原書店	10月1日	無
15	同上	同上	特別展「京に生きる文化 茶の湯」によせて	『淡交』№952	淡交社	10月1日	無
16	同上	同上	京に生きる文化　茶の湯	『特別展　京に生きる文化　茶の湯』図録	読売新聞社・京都国立博物館	10月8日	無
17	同上	同上	京に生きる文化　茶の湯	『陶説』№833	日本陶磁協会	11月1日	無
18	同上	同上	京に生きる文化 茶の湯上　国宝「大井戸茶碗　銘喜左衛門」	『読売新聞』11 月 12 日	読売新聞社	11月12日	無
19	同上	学芸部調査・国際連携室研究員　森橋なつみ	茶の美術としての中国絵画	『特別展　京に生きる文化　茶の湯』図録	読売新聞社・京都国立博物館	10月8日	無
20	同上	同上	重要文化財　遠浦帰帆図　伝牧谿筆	『なにわ』809 号	大阪府警察	9月5日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
21	同上	同上	重要文化財　玉澗筆・自賛「洞庭秋月図」（和魂漢才―書画のススメ）	『美術の窓』469 号	生活の友社	9月20日	無
22	同上	同上	牧谿の絵画と日本	『淡交』952 号	淡交社	10月1日	無
23	特別展「東福寺」に関する調査研究	学芸部列品管理室研究員　森道彦	「普門院常住什物目録」と初期の東福寺画壇	『特別展 東福寺』	読売新聞社、NHK、NHK プロモーション	5年3月7日	無
24	同上	学芸部保存修理指導室主任研究員　福士雄也	コラム、作品解説	『特別展 東福寺』	読売新聞社、NHK、NHK プロモーション	5年3月7日	無
25	特集展示に関する調査研究	同上	新出の与謝蕪村筆「奥の細道図巻」について	『新発見！蕪村の「奥の細道図巻」』	京都国立博物館	6月	無
26	同上	学芸部企画室長・工芸室長　山川曉	お迎え人形	『なにわ』813 号	大阪府警察	5年2月	無
27	収蔵品・寄託品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究	学芸部企画室長・工芸室長　山川曉	綾地蝶牡丹文片身替小袖（復元新調）	『綾地蝶牡丹文片身替小袖（復元新調）』パンフレット	芦刈山保存会	7月	無
28	同上	学芸部列品管理室長　羽田聡	博物館・美術館コレクション　クローズアップ 53　京都国立博物館Ⅱ	『大東書道』633 号	大東文化大学書道研究所	10月20日	無
29	同上	同上	博物館・美術館コレクション　クローズアップ 54　京都国立博物館Ⅲ	『大東書道』634 号	同上	11月20日	無
30	同上	同上	博物館・美術館コレクション　クローズアップ 55　京都国立博物館Ⅳ	『大東書道』635 号	同上	12月20日	無
31	同上	学芸部企画室研究員　井並林太郎	平安絵巻としての鳥獣戯画―場面展開の妙味―	『鳥獣戯画研究の最前線』	東京美術	4月	無
32	同上	学芸部企画室アソシエイトフェロー　青木 麻佑花	阿弥陀・不動・毘沙門像懸仏	『なにわ』810 号	大阪府警察	11月29日	無
33	特別公開展示に関する調査研究	学芸部研究員　古谷毅	展示概説、コラム	『特別公開　熊本・宮崎の古墳文化－石人と貝輪－』（展示解説リーフレット）	京都国立博物館	6月	無
34	同上	同上	美術館だより 367 石人･ゴホウラ製貝輪	『なにわ』2 月号（812 号）	大阪府警察本部	5年2月23日	無
35	その他有形文化財に関連する調査研究	学芸部企画室長・工芸室長　山川曉	人形の保存および展示における京都国立博物館の課題	『人形玩具研究』	日本人形玩具学会	5年3月	有
36	同上	学芸部教育室長　永島明子	妙法院に伝わる秀吉ゆかりの漆椀　―高台寺蒔絵、大逆転―	『蓮華』103 号　仏教文化講座たより	妙法院門跡	5年2月1日	無

○その他有形文化財に関連する調査研究　57件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	博物館情報、文化財情報に関する調査研究	学芸部列品管理室　研究補佐員　西村由希子、同室長　羽田聡、同研究員　近藤無滴、学芸部　三島貴雄、国立歴史民俗博物館　後藤真	京都国立博物館における記録資料の整理と課題　メタ文化財情報アーカイブズ構築に向けて	デジタルアーカイブ学会第 7 回研究大会一般研究発表（オンライン）予稿集	デジタルアーカイブ学会	11 月 2 日	無
2	文化財の製作技法・材料等に関する調査研究	学芸部保存科学室長　降幡順子	7・8 世紀出土瓦・施釉瓦胎土色と鉄イオンに関する研究	『SPring-8/SACLA 利用研究成果集 10』第 4 号	高輝度光科学研究センター	4 月	有
3	同上	同上	科学調査が文化財修理に役立つ	文化財をしらべる・まもる･いかす - 国立文化財機構　保存･修復の最前線－	アグネ技術センター	12 月	無
4	同上	同上	上庄田瓦窯跡出土鴟尾の胎土分析―鴟尾表面の色調に着目して―	洛北窯跡出土鴟尾指定準備業務報告書	京都市埋蔵文化財研究所	5 年 3 月	無
5	同上	保存科学室長　降幡順子、東京文化財研究所　犬塚将英、建石徹、早川泰弘、奈良文化財研究所　脇谷草一郎、田村朋美、中田愛乃、大迫美月、辻本与志一、文化庁　米村祥英	小型Ｘ線回折分析装置の開発と高松塚古墳壁画の彩色材料分析への適用	『保存科学』第６２号	東京文化財研究所	5 年 3 月	有
6	同上	学芸部保存科学室長　降幡順子	飛鳥地域出土の湖西窯産須恵器の胎土分析	『文化財論叢Ⅴ』	奈良文化財研究所	5 年 3 月 31 日	無
7	同上	学芸部保存科学室長　降幡順子、研究員　古谷毅	兵庫県西宮山古墳出土品の研究Ⅰ―非鉄金属製遺物 1―	『学叢』第 44 号	京都国立博物館	6 月	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
8	同上	学芸部研究員　古谷毅	三珠大塚古墳出土の鈴付銅釧 －貝輪形銅釧の系譜(覚書）－	『モノ・構造・社会の考古学-今福利恵博士追悼論文集-』	今福利恵博士追悼論文集刊行会	11月13日	無
9	その他有形文化財に関連する調査研究	副館長　栗原祐司	あれもこれもみんな博物館	『てんとう虫』5月号	UC カード会員誌	4月	無
10	同上	副館長　栗原祐司	見どころ充実、知の宝庫 国立博物館	『てんとう虫』5月号	UC カード会員誌	4月	無
11	同上	副館長　栗原祐司	“好き”を極める個性派博物館	『てんとう虫』5月号	UC カード会員誌	4月	無
12	同上	副館長　栗原祐司	慰霊と追悼の博物館	『会報』No.70	旧真田山陸軍墓地とその保存を考える会	4月	無
13	同上	副館長　栗原祐司	博物館法の一部を改正する法律が成立	『学会ニュース』No.140	全日本博物館学会	4月	無
14	同上	副館長　栗原祐司	戦禍に晒されるウクライナの博物館	『博物館研究』4年5月号	日本博物館協会	5月	無
15	同上	副館長　栗原祐司	最終段階の ICOM 博物館定義見直し	『博物館研究』4年6月号	日本博物館協会	6月	無
16	同上	副館長　栗原祐司	博物館で進むキャッシュレス化	『新美術新聞』1602 号	美術年鑑社	6月	無
17	同上	副館長　栗原祐司	コレクションをめぐる法制度と権利関係	金山喜昭編『博物館とコレクション管理』	雄山閣	6月	無
18	同上	副館長　栗原祐司	平和を考えるミュージアムーいま、私たちができること	月刊『海外子女教育』	海外子女教育振興財団	7月	無
19	同上	副館長　栗原祐司	2022 年国際博物館の日について	『博物館研究』4年7月号	日本博物館協会	7月	無
20	同上	副館長　栗原祐司	博物館定義の見直し	『新美術新聞』1604 号	美術年鑑社	7月	無
21	同上	副館長　栗原祐司	夏休みの美術館	『新美術新聞』1608 号	美術年鑑社	8月	無
22	同上	副館長　栗原祐司	教科書で見た“アレ”	「Discover Japan」2022 年 9 月号	株式会社ディスカバー・ジャパン	8月	無
23	同上	副館長　栗原祐司	スーパーマニアック	『Discover Japan』2022 年 9 月号	株式会社ディスカバー・ジャパン	8月	無
24	同上	副館長　栗原祐司	ICOM 博物館定義が改正	『新美術新聞』1613 号	美術年鑑社	9月	無
25	同上	副館長　栗原祐司	博物館法改正と ICOM プラハ大会報告	『展示学』64	日本展示学会	10月	無
26	同上	副館長　栗原祐司	ICOM プラハ大会で博物館の定義が改正	『学会ニュース』No.142	全日本博物館学会	10月	無
27	同上	副館長　栗原祐司	ICOM プラハ大会の概要	『博物館研究』4年11月号	日本博物館協会	11月	無
28	同上	副館長　栗原祐司	ICOM の新たな定義と DEAI	『新美術新聞』1615 号	美術年鑑社	11月	無
29	同上	副館長　栗原祐司	第 4 回世界津波博物館会議報告	『学会ニュース』No.143	全日本博物館学会	5年1月	無
30	同上	副館長　栗原祐司	平和な社会の実現に向けて	『博物館研究』5年2月号	日本博物館協会	5年2月	無
31	同上	副館長　栗原祐司	ICOM の最新の動向	『博物館研究』5年2月号	日本博物館協会	5年2月	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
32	同上	副館長　栗原祐司	第4回世界津波博物館会議開催される	『新美術新聞』1622 号	美術年鑑社	5年2月	無
33	同上	副館長　栗原祐司	ウェルビーイングの博物館へ	『聖教新聞』2023 年 2 月 10 日（京都版）	聖教新聞社	5年2月	無
34	同上	副館長　栗原祐司	ICOM プラハ大会が開催	全国美術館会議機関誌『ZENBI』Vol.23	全国美術館会議	5年2月	無
35	同上	副館長　栗原祐司	記憶を伝える場としてのミュージアム	清水万由子・林美帆・除本理史『公害の経験を未来につなぐ』	ナカニシヤ出版	5年2月	無
36	同上	副館長　栗原祐司	ウクライナ文化財　被害 1189 点	『産経新聞』5 年 2 月 18 日	株式会社産経新聞社	5年2月	無
37	同上	副館長　栗原祐司	戦時下におけるウクライナの博物館と文化遺産の保護	『ICOM 日本委員会ジャーナル』	ICOM 日本委員会	5年3月	無
38	同上	副館長　栗原祐司	ミュージアム列島東西南北	『週間教育 PRO』	株式会社 ERP	4月～5年3月（連載）	無
39	同上	学芸部長　尾野善裕	万灯山長圓寺伝来茶陶考	『中近世陶磁器の考古学第 16 巻』	雄山閣	5 月 25 日	無
40	同上	学芸部長　尾野善裕	飯が盛られた天目茶碗―万灯山長圓寺校割帳にみる「天目」―	『學叢』第 44 号	京都国立博物館	6 月 24 日	無
41	同上	学芸部長　尾野善裕（共著：奈良文化財研究所　森川実・文化庁　大澤正吾）	石神遺跡土坑 SK1150 出土の土器	『奈良文化財研究所紀要 2022』	奈良文化財研究所	6 月 30 日	無
42	同上	学芸部長　尾野善裕	「金琺瑯」の謎　琉球ヨリ来タル“和蘭陀ノ焼物”だが中国製	『なごみ』通巻 511 号	淡交社	7 月 1 日	無
43	同上	学芸部長　尾野善裕（共著：奈良文化財研究所　神野恵）	盂蘭盆会供養具　陶磁器	『元奈良町惣年寄清水家資料調査報告書』	奈良文化財研究所	5 年 3 月 31 日	無
44	同上	学芸部長　尾野善裕	古代尾張の窯業生産と天皇家産機構	『文化財論叢Ⅴ』	奈良文化財研究所	5 年 3 月 31 日	無
45	同上	学芸部保存科学室長　降幡順子、学芸部長　尾野善裕（共著：香川県立ミュージアム　野村美紀・古野徳久、香川県教育委員会　渡邊誠・竹内裕貴）	本堯時松平頼該霊廟の調査―高松藩主松平家墓所の系譜における位置―	『ミュージアム調査研究報告』第 14 号	香川県立ミュージアム	5 年 3 月 31 日	無
46	同上	学芸部上席研究員　浅湫毅	仏師運慶の東国下向について	『學叢』第 44 号	京都国立博物館	6 月 24 日	無
47	同上	同上	嘉多丸君と幕末の京都仏師康敬	『函谷鉾』41 号	函谷鉾保存会	7 月 1 日	無
48	同上	学芸部保存科学室長　降幡順子、企画室研究員　井並林太郎	佐竹本三十六歌仙絵「源重之」科学分析結果報告	『重要文化財　佐竹本三十六歌仙絵「源重之」収蔵記念特別展　歌仙絵と太刀』展覧会図録	秋水美術館	4 月	無
49	同上	学芸部調査・国際連携室長　降矢哲男	総論　高麗茶碗の種類と特徴、コラム、個別解説	『茶の湯の茶碗　第 2 巻　高麗茶碗』	淡交社	5 年 2 月 23 日	無
50	同上	学芸部考古室長　石田由紀子	第 4 章　牛込大教会信者詰所で採集された遺物　第 2 節　4 瓦	『布留遺跡布留（堂垣内）地区発掘調査報告書』考古学調査研究報告 31	埋蔵文化財天理教調査団	10 月	無
51	同上	同上	変形忍冬唐草文軒平瓦 6647 の再検討	『飛鳥の考古学 2022』	奈良文化財研究所　飛鳥資料館	5 年 1 月	無
52	同上	学芸部保存修理指導室主任研究員　福士雄也	所有者の想いに寄り添う―寄託品修理のマネジメント―	文化財をしらべる・まもる・いかす―国立文化財機構 保存・修復の最前線―	アグネ技術センター	12 月	無
53	同上	同上	作品解説	『西新井大師こよみ』令和 5 年版	西新井大師総持寺	12 月	無
54	同上	同上	狩野家による極書の発給	『仏師と絵師』	思文閣出版	5 年 3 月	無
55	同上	学芸部企画室研究員　井並林太郎	百萬遍知恩寺の歴代祖師・住持肖像画について	『學叢』第 44 号	京都国立博物館	6 月 24 日	無
56	同上	学芸部列品管理室研究員　森道彦	公益財団法人渡辺美術館調査報告書（第 9 回）	公益財団法人渡辺美術館調査報告書（第 9 回）	渡辺美術館	5 年 3 月	無
57	同上	学芸部調査・国際連携室研究員　森橋なつみ	女史箴図が語るもの	『アジア遊学』271	勉誠出版	7 月 1 日	無

【奈良国立博物館】 58件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　27件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	特別展「大安寺のすべて―天平のみほとけと祈り―」に関する調査研究	学芸部長　吉澤悟、美術室長　岩井共二、列品室長　斎木涼子、教育室長　谷口耕生、企画室長　中川あや、資料室長　野尻忠、情報サービス室主任研究員　北澤菜月、企画室主任研究員　山口隆介、教育室研究員　内藤航、工芸考古室研究員　三本周作、工芸考古室アソシエイトフェロー　伊藤旭人	作品解説	『特別展　大安寺のすべて―天平のみほとけと祈り―』展覧会図録	奈良国立博物館、日本経済新聞社、NHK エンタープライズ近畿	4月	無
2	同上	列品室長　斎木涼子	『日本霊異記』にみる大安寺と社会のつながり（コラム）	同上	同上	同上	無
3	同上	列品室長　斎木涼子	虚空蔵求聞持法とは（コラム）	同上	同上	同上	無
4	同上	教育室長　谷口耕生	各論　「霊山の実相」としての大安寺釈迦如来像	同上	同上	同上	無
5	同上	教育室長　谷口耕生	大安寺絵所（コラム）	同上	同上	同上	無
6	同上	企画室長　中川あや	総論　大安寺―美術、史料、考古が織りなす歴史	同上	同上	同上	無
7	同上	企画室長　中川あや	平安貴族が讃えた大安寺釈迦如来像（コラム）	同上	同上	同上	無
8	同上	企画室長　中川あや	奈良博の扉　大安寺「災害と復興の歴史」	『月刊大和路ならら』第283号	一般社団法人なら文化交流機構	同上	無
9	同上	教育室研究員　内藤航	各論　大安寺の木彫群に関する覚書	『特別展　大安寺のすべて―天平のみほとけと祈り―』展覧会図録	奈良国立博物館、日本経済新聞社、NHK エンタープライズ近畿	同上	無
10	同上	教育室研究員　内藤航	清凉寺釈迦如来像の請来と河原院釈迦如来像の造立（コラム）	同上	同上	同上	無
11	同上	工芸考古室研究員　三本周作	国宝・金銅透彫舎利容器の「かたち」を読む（コラム）	同上	同上	同上	無
12	「SHIBUYA で仏教美術」に関する調査研究	資料室長　野尻忠、情報サービス室主任研究員　北澤菜月、企画室主任研究員　山口隆介、工芸考古室アソシエイトフェロー　伊藤旭人	作品解説	『SHIBUYA で仏教美術』展覧会図録	渋谷区立松濤美術館	同上	無
13	名品展「珠玉の仏たち」に関する調査研究	企画室主任研究員　山口隆介	作品解説	『なら仏像館　名品図録2021 改訂版』	奈良国立博物館	5月	無
14	貞享本當麻曼荼羅修理完成記念　特別展「中将姫と當麻曼荼羅―祈りが紡ぐ物語―」に関する調査研究	美術室長　岩井共二、列品室長　斎木涼子、教育室長　谷口耕生、資料室長　野尻忠、情報サービス室主任研究員　北澤菜月、工芸考古室主任研究員　三田覚之、企画室主任研究員、山口隆介、教育室研究員　内藤航、工芸考古室研究員　三本周作、美術室アソシエイトフェロー　松井美樹	作品解説	『貞享本當麻曼荼羅修理完成記念　特別展　中将姫と當麻曼荼羅―祈りが紡ぐ物語』展覧会図録	奈良国立博物館、読売新聞社、NHK 奈良放送局	7月	無
15	同上	情報サービス室主任研究員　北澤菜月	総論　中将姫と當麻曼荼羅	同上	同上	同上	無
16	わくわくびじゅつギャラリー「はっけん！ほとけさまのかたち」に関する調査研究	教育室研究員　翁みほり	作品解説	『わくわくびじゅつギャラリー　はっけん！ほとけさまのかたち』展覧会図録	奈良国立博物館	同上	無
17	聖徳太子 1400 年御遠忌記念「国宝・法隆寺展」に関する調査研究	美術室長　岩井共二、列品室長　斎木涼子、教育室長　谷口耕生、企画室長　中川あや、資料室長　野尻忠、情報サービス室主任研究員　北澤菜月、企画室主任研究員　山口隆介、工芸考古室主任研究員　三田覚之、教育室研究員　内藤航、工芸考古室アソシエイトフェロー　伊藤旭人、美術室アソシエイトフェロー　松井美樹	作品解説	『聖徳太子 1400 年御遠忌記念　国宝・法隆寺展』展覧会図録	日本経済新聞社	9月	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
18	特別展「第 74 回正倉院展」に関する調査研究	学芸部長　吉澤悟、美術室長　岩井共二、列品室長　斎木涼子、教育室長　谷口耕生、企画室長　中川あや、資料室長　野尻忠、情報サービス室主任研究員　北澤菜月、工芸考古室主任研究員　三田覚之、企画室主任研究員　山口隆介、教育室研究員　内藤航、工芸考古室研究員　三本周作、工芸考古室アソシエイトフェロー　伊藤旭人、美術室アソシエイトフェロー　松井美樹	作品解説	『第 74 回 正倉院展』展覧会図録	奈良国立博物館	10 月	無
19	同上	学芸部長　吉澤悟	概説　正倉院展と正倉院宝物について	同上	同上	同上	無
20	同上	工芸考古室アソシエイトフェロー　伊藤旭人	宝物寸描　素木三鈷箱について復元的に考える	同上	同上	同上	無
21	同上	工芸考古室研究員 三本周作	奈良博の扉　正倉院宝物の魅力 第 74 回正倉院展から	『月刊大和路ならら』第 289 号	一般社団法人なら文化交流機構	同上	無
22	同上	工芸考古室研究員 三本周作	正倉院宝物と奈良時代の仏教―「第 74 回正倉院展」の出陳宝物を中心に―	『月刊アートコレクターズ』第 164 号	生活の友社	同上	無
23	東京国立博物館創立 150 年記念　特別展「国宝　東京国立博物館のすべて」に関する調査研究	工芸考古室主任研究員 三田覚之	法隆寺献納宝物	『東京国立博物館創立 150 年記念　特別展　国宝　東京国立博物館のすべて』	毎日新聞社、NHK、NHK プロモーション	同上	無
24	式年造替記念特別展「春日大社 若宮国宝展―祈りの王朝文化―」に関する調査研究	学芸部長　吉澤悟、列品室長　斎木涼子、教育室長　谷口耕生、企画室長　中川あや、資料室長　野尻忠、情報サービス室主任研究員　北澤菜月、工芸考古室主任研究員　三田覚之、企画室主任研究員　山口隆介、教育室研究員　内藤航、工芸考古室研究員　三本周作、工芸考古室アソシエイトフェロー　伊藤旭人、美術室アソシエイトフェロー　松井美樹	作品解説	『式年造替記念特別展 春日大社 若宮国宝展―祈りの王朝文化―』展覧会図録	奈良国立博物館、朝日新聞社、NHK 奈良放送局、NHK エンタープライズ近畿	12 月	無
25	同上	学芸部長　吉澤悟	概説　式年造替記念特別展「春日大社 若宮国宝展―祈りの王朝文化―」	同上	同上	同上	無
26	同上	学芸部長　吉澤悟	式年造替記念特別展　春日大社若宮国宝展―祈りの王朝文化―の見どころ	『月刊大和路ならら』第 291 号	一般社団法人なら文化交流機構	同上	無
27	同上	教育室研究員　内藤航	各論　獅子・狛犬（春日若宮撤下品）の調査報告	『式年造替記念特別展 春日大社 若宮国宝展―祈りの王朝文化―』展覧会図録	奈良国立博物館、朝日新聞社、NHK 奈良放送局、NHK エンタープライズ近畿	同上	無

○その他有形文化財に関連する調査研究　31件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	その他有形文化財に関連する調査研究	保存修理室長　荒木臣紀（共著：藤田励夫）	金峯山寺所有、新出の金峯山寺経塚出土紺紙金字経について	『鹿園雑集』第 25 号	奈良国立博物館	5 年 3 月 31 日	無
2	その他有形文化財に関連する調査研究	列品室長　斎木涼子	神仏習合―神と仏を結びつける思想はどのように展開されたのか	『論点・日本史学』	ミネルヴァ書房	8 月	無
3	同上	教育室長　谷口耕生	薬師寺に伝わる涅槃図～来歴とその特徴～	『薬師寺』第 214 号	薬師寺	12 月 1 日	無
4	同上	教育室長　谷口耕生	聖護院所蔵「熊野宮曼荼羅」―修理に伴う地検を中心に―	『鹿園雑集』第 25 号	奈良国立博物館	5 年 3 月	無
5	同上	情報サービス室長　宮崎幹子	「美術史学と博物館における「記述」と「写真」―研究の方法論とデジタル化との関連から―」	『洛北史学』	洛北史学会	6 月	有
6	同上	情報サービス室長　宮崎幹子、企画室主任研究員　山口隆介	作品解説	『仏師快慶の研究』（奈良国立博物館編）	思文閣出版	5 年 3 月	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
7	同上	企画室長　中川あや	隅田八幡神社経塚出土鏡について	隅田八幡神社経塚発掘調査報告書	橋本市教育委員会	5年3月	無
8	同上	情報サービス室主任研究員　北澤菜月	当麻曼荼羅九品往生図に認められる鑑戒画的図様	『アジア遊学 271　儒教思想と絵画　東アジアの勧戒画』	勉誠出版	6月	無
9	同上	情報サービス室主任研究員　北澤菜月	作品解説	『宗祖慈攝大師真盛上人不断念佛相続十九萬日大法会記念　西教寺の仏教美術』	天台真盛宗総本山　西教寺	11月1日	無
10	同上	工芸考古室主任研究員　三田覚之	竜首水瓶の修理について	『法隆寺献納宝物特別調査概報 42 竜首水瓶』	東京国立博物館	4月	無
11	同上	工芸考古室主任研究員　三田覚之	竜首水瓶関連史料	『法隆寺献納宝物特別調査概報 42 竜首水瓶』	同上	同上	無
12	同上	工芸考古室主任研究員　三田覚之	《報告》法隆寺献納宝物　裳と袍の本格修理と復元模造製作について第六九八号　東京国立博物館	『ＭＵＳＥＵＭ』第 698 号	同上	6月	有
13	同上	工芸考古室主任研究員　三田覚之	法隆寺探訪記〈2〉金堂という奇跡の空間	『聖徳』第 248 号	聖徳宗教学部	7月	無
14	同上	工芸考古室主任研究員　三田覚之	日本の刺繍美	『美術の窓』12 月号	株式会社生活の友社	11月	無
15	同上	工芸考古室主任研究員　三田覚之	法隆寺探訪記〈3〉失われた塵尾	『聖徳』第 249 号	聖徳宗教学部	5年1月26日	無
16	同上	工芸考古室主任研究員　三田覚之	法隆寺印仏の由来	『聖徳』第 249 号	聖徳宗教学部	5年1月26日	無
17	同上	工芸考古室主任研究員　三田覚之	宝瓶のきた道	『目の眼』第 559 号	株式会社目の眼	5年3月15日	無
18	同上	企画室主任研究員　山口隆介	古写真細見―所在不明大日如来像―	『鹿園雑集』第 25 号	奈良国立博物館	5年3月	無
19	同上	企画室主任研究員　山口隆介	快慶の生涯と「如法」の仏像	『仏師快慶の研究』(奈良国立博物館編)	思文閣出版	5年3月	無
20	同上	工芸考古室研究員　三本周作	快慶作品における金属製荘厳具について―仏師と金工をめぐる一試論―	『仏師快慶の研究』(奈良国立博物館編)	思文閣出版	5年3月	無
21	同上	保存修理指導室アソシエイトフェロー　安藤真理子(共著:福田浩子、岡地智子、小林公治、安藤真理子、鳥越俊行、宮田将寛)	広島県立美術館所蔵南蛮漆器書見台についての調査報告―東京国立博物館所蔵南蛮漆器書見台 CT 調査結果との比較を通じて―	広島県立美術館　研究紀要第 26 号	広島県立美術館	5年3月24日	無
22	同上	工芸考古室アソシエイトフェロー　伊藤旭人	グラビア解説　柄香炉（瓶鎮柄香炉）	『聖徳』第 248 号	聖徳宗教学部	同上	無
23	同上	工芸考古室アソシエイトフェロー　伊藤旭人	平安中期の「比叡山仏所」と南都仏師の関係」	『鹿島美術研究』年報第 38 号別冊	鹿島美術財団	9月	無
24	同上	工芸考古室アソシエイトフェロー　伊藤旭人	西大寺金銅透彫舎利容器の蓮華形銀器について	『鹿園雑集』第 25 号	奈良国立博物館	5年3月31日	無
25	同上	美術室アソシエイトフェロー　松井美樹	グラビア解説　役行者二鬼像	『聖徳』第 249 号	聖徳宗教学部	5年1月26日	無
26	保存科学の観点からの収蔵品・寄託品等の調査研究	保存修理指導室長　荒木臣紀	文化財をしらべる・まもる・いかす―国立文化財機構 保存・修復の最前線―	『文化財をしらべる・まもる・いかす―国立文化財機構 保存・修復の最前線―』	アグネ技術センター	12月31日	無
27	同上	保存修理指導室アソシエイトフェロー　小峰幸夫	竹材のフラスから加害種を特定する分子生物学的手法の検討	『文化財保存修復学会第四十四回大会研究発表要旨集』	文化財保存修復学会	6月18日	無
28	同上	保存修理指導室アソシエイトフェロー 小峰幸夫	アフリカヒラタキクイムシを用いた高温処理（48℃及び 50℃）の繰り返しによる効果判定の実験	『文化財保存修復学会第四十四回大会研究発表要旨集』	同上	同上	無
29	同上	保存修理指導室アソシエイトフェロー 小峰幸夫	文化財害虫とその対処―最近のトピックを中心に―	『月刊文化財』第 709 号	第一法規	10月	無
30	同上	保存修理指導室アソシエイトフェロー 小峰幸夫	New records of Ctenolepisma calvum (Ritter,1910) (Zygentoma, Lepismatidae) from Japan	『 Biodiversity Data Journal 10』	Pensoft	11月	有
31	同上	保存修理指導室アソシエイトフェロー　小峰幸夫	後回しのツケは大きい　ムシとカビ	『入門　大災害時代の文化財防災』	同成社	5年3月	無

【九州国立博物館】　42件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　9件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究	学芸部博物館科学課 主任研究員　鷲頭桂	「北斎の素顔―日新除魔図の世界―」	『特別展　北斎』（特別展図録）	講談社	4月14日	無
2	同上	学芸部企画課長 伊藤信二	作品解説	『特別展　河内長野の霊地観心寺と金剛寺―真言密教と南朝の遺産―』（展覧会図録）	京都国立博物館	7月	無
3	同上	学芸部企画課長 伊藤信二	作品解説	『東京国立博物館創立150周年記念特別展　国宝　東京国立博物館のすべて』	毎日新聞社、NHK、NHKプロモーション	10月	無
4	同上	学芸部企画課特別展室主任研究員　西島亜木子、文化交流展室長　川村佳男、交流課主任研究員　今井涼子、特別展室アソシエイトフェロー　齋藤徳子、石橋有実	「かわいい考古学のススメ」への道　ー市民と博物館の連携型展覧会の一例としてー	紀要『東風西声』18号	九州国立博物館	5年3月	無
5	同上	苅田町教育委員会　若杁善満、学芸部博物館科学課研究員　渡辺祐基、同研究補佐員　田中麻美、学芸部展示課主任研究員　岡寺良	土製地蔵菩坐像の製作過程の復元的考察―中世九州北部に出土する特徴的な一群について―	紀要『東風西声』18号	九州国立博物館	5年3月	無
6	同上	学芸部企画課特別展室長 川畑憲子	「琉球漆器の技法」	『沖縄復帰50年記念特別展　琉球』	NHK、NHKプロモーション、読売新聞社	5月3日	無
7	同上	学芸部企画課特別展室長 川畑憲子	作品解説	『沖縄復帰50年記念特別展　琉球』	NHK、NHKプロモーション、読売新聞社	5月3日	無
8	同上	学芸部企画課特別展室長 川畑憲子	立体感と漆芸の粋「黒漆首里那覇港図堆錦衝立」	『読売新聞』8月23日	読売新聞社	8月23日	無
9	同上	学芸部企画課特別展室長 川畑憲子	「国宝　初音の調度」	『九州王国』	九州国立博物館	12月	無

○その他有形文化財に関連する調査研究　33件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	その他有形文化財に関連する調査研究	学芸部企画課長 伊藤信二	「国宝　竜首水瓶（法隆寺献納宝物）について」	『法隆寺献納宝物特別調査概報42 竜首水瓶』	東京国立博物館	4月	無
2	同上	学芸部企画課文化交流展室長　川村佳男	第Ⅰ部　外国考古学研究の動向「中国」	『日本考古学年報』74	日本考古学協会	12月	無
3	同上	学芸部企画課文化交流展室長　川村佳男	響銅長頸瓶の形態と製作工程 ー内視鏡カメラによる内面の観察を踏まえてー	『FUSUS　アジア鋳造技術史学会誌』15号	アジア鋳造技術史学会	5年1月	有
4	同上	学芸部企画課アソシエイトフェロー　李梅	麦積山石窟壁画の重修――装飾文様　パルメット――	鹿島美術研究年報第38号別冊	公益財団法人鹿島美術財団	9月	無
5	同上	学芸部企画課アソシエイトフェロー　李梅	麦積山石窟の弥勒	みろくへの道 （東京藝術大学ユーラシア文化交流センター）	PAO	12月	無
6	同上	学芸部博物館科学課長 木川りか	「九州国立博物館における生物被害の予防について」	『月刊文化財』令和4年10月号	第一法規	9月	無
7	同上	学芸部博物館科学課研究員　渡辺祐基	X線CTなどによる文化財害虫の検出と診断	『月刊文化財』令和4年10月号	第一法規	9月	無
8	同上	学芸部博物館科学課長 木川りか	「九州国立博物館IPM研修ー資料保存のソフト面として」	『持続可能な博物館資料の保存を考える』園田直子編、国立民族学博物館調査報告　155	国立民族学博物館	11月	有
9	同上	学芸部博物館科学課研究員　渡辺祐基	X線イメージングによる木材穿孔性の文化財害虫の検出	『持続可能な博物館資料の保存を考える』園田直子編、国立民族学博物館調査報告　155	国立民族学博物館	11月	有
10	同上	東京文化財研究所アソシエイトフェロー　島田潤、学芸部博物館科学課研究員　渡辺祐基、奈良国立博物館アソシエイトフェロー　小峰幸夫、学芸部博物館科学課長　木川りか、東京文化財研究所室長　佐藤嘉則	New records of *Ctenolepisma calvum* (Ritter, 1910) (Zygentoma, Lepismatidae) from Japan.	Biodiversity Data Journal 10	Pensoft Publishers	11月	有

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
11	同上	学芸部博物館科学課長 木川りか	「変幻自在な菌類の世界：人知れず覇権を握る、すごい生き物」	『かびと生活』巻頭言、Vol. 15、no.2	NPO 法人カビ相談センター	12 月	無
12	同上	学芸部博物館科学課研究員　渡辺祐基	アコースティック・エミッションによる木材害虫の非破壊検出―ケブトヒラタキクイムシの食害を受けた木製民芸品における一事例―	『保存科学』62	東京文化財研究所	5 年 3 月	有
13	同上	京都大学　藤原裕子、（公財）日光社寺文化財保存会　原田正彦、東京文化財研究所　北原博之、佐藤嘉則、島田潤、学芸部博物館科学課長　木川りか、国立民族学博物館　日高真吾、京都大学　藤井義久	「湿度制御した温風処理による木造建造物加害甲虫類の殺虫(2) 殺虫効果の確認と建造物への影響の検討」	『保存科学』62	東京文化財研究所	5 年 3 月	有
14	同上	東京文化財研究所　小野寺裕子、島田潤、学芸部博物館科学課研究員　渡辺祐基、奈良国立博物館　小峰幸夫、学芸部博物館科学課長　木川りか、東京文化財研究所　佐藤嘉則	「マダラシミおよびニュウハクシミに対するベイト剤の殺虫効果」	『保存科学』62	東京文化財研究所	5 年 3 月	有
15	同上	学芸部博物館科学課 アソシエイトフェロー 和泉田絢子、研究員　渡辺祐基、課長　木川りか	「博物館の展示収蔵空間における空気環境の管理と対策事例について」	紀要『東風西声』18 号	九州国立博物館	5 年 3 月	無
16	同上	学芸部博物館科学課長 木川りか	文化財害虫の新たな殺虫法を模索する―臭化メチル代替法の取り組み―	文化財をしらべる・まもる・いかす―国立文化財機構　保存・修復の最前線－	アグネ技術センター	12 月	無
17	同上	学芸部博物館科学課研究員　渡辺祐基	木材中に潜む文化財害虫を見つけ出す―X 線 CT による検出と生態解析―	文化財をしらべる・まもる・いかす―国立文化財機構　保存・修復の最前線－	アグネ技術センター	12 月	無
18	同上	学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史	博物館で文化財をまもる―九州国立博物館博物館科学課保存修復室研究員の日常―	文化財をしらべる・まもる・いかす―国立文化財機構　保存・修復の最前線－	アグネ技術センター	12 月	無
19	同上	筑紫女学園大学　田村史子、日本大学　中川一人、学芸部博物館科学課研究員　渡辺祐基	東南アジアの金属楽器『ゴング』に関する体系的研究―その形と音	『筑紫女学園大学人間文化研究所年報』33 号	筑紫女学園大学人間文化研究所年報	8 月	無
20	同上	学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史	「首里城跡出土の勾玉と玉材片の材質と技法について」	『文化財保存修復学会第 44 回大会研究発表要旨集』	文化財保存修復学会	6 月	無
21	同上	学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史	「神領 10 号墳から出土した赤色顔料について」	『大隅大崎　神領 10 号墳の研究Ⅲ』	鹿児島大学総合研究博物館	5 年 3 月	無
22	同上	学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史	「首里城跡から出土した勾玉製作関係資料について」	紀要『東風西声』18 号	九州国立博物館	5 年 3 月	無
23	同上	大西漆芸修復スタジオ 大西智洋、学芸部博物館科学課研究員　渡辺祐基、浦添市美術館　金城聡子	黒漆孔雀牡丹唐草沈金食籠の修復実績と X 線 CT 調査報告	『浦添市美術館紀要』18 号	浦添市教育委員会　教育部浦添市美術館	5 年 3 月	無
24	同上	学芸部文化財課長 白井克也	加耶の広口壺	紀要『東風西声』18 号	九州国立博物館	5 年 3 月	無
25	同上	学芸部博物館科学課 主任研究員　鷲頭桂	「玄宗皇帝絵にみる勧戒性―長恨歌絵を中心に」	『アジア遊学 271　善を勧め、悪を戒める―勧戒画の世界』	勉誠社	6 月 30 日	無
26	同上	学芸部博物館科学課 主任研究員　鷲頭桂	「世界史のなかの南蛮美術」	『美術フォーラム 21』46 号	醍醐書房	12 月 15 日	有
27	同上	学芸部博物館科学課 アソシエイトフェロー 瓜生翠	「月江正印墨蹟 識語」	『日本歴史』888、口絵解説	日本歴史学会	5 月	無
28	同上	学芸部博物館科学課 アソシエイトフェロー 瓜生翠	「妙光寺所蔵 元版普寧寺蔵『大般若経』」	横内裕人編『対馬の渡来版経 護り伝える東アジアの至宝』	勉誠出版	8 月	無
29	同上	学芸部博物館科学課 アソシエイトフェロー 瓜生翠	「萬松院所蔵の朝鮮版経典」	横内裕人編『対馬の渡来版経 護り伝える東アジアの至宝』	勉誠出版	8 月	無
30	同上	学芸部博物館科学課 アソシエイトフェロー 瓜生翠	「多久頭魂神社所蔵高麗版大蔵経にみる対馬宗氏の蔵経改」	『歴史学研究』1030	歴史学研究会	12 月	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
31	同上	学芸部博物館科学課 アソシエイトフェロー 瓜生翠	「木版印刷文化財の付着物からみる製作痕の観察－重要文化財「多久頭魂神社高麗版一切経」を例として－」	紀要『東風西声』18 号	九州国立博物館	5 年 3 月	無
32	同上	学芸部企画課特別展室長 川畑憲子、学芸部博物館科学課研究員　渡辺祐基、同アソシエイトフェロー　和泉田絢子、同研究補佐員　田中麻美	叢梨地牡丹唐草向鶴絞散蒔絵調度の木地構造について（3）化粧道具（手箱）	紀要『東風西声』18 号	九州国立博物館	5 年 3 月	無
33	同上	学芸部企画課特別展室長 川畑憲子	作品解説、講評（漆芸、金工、人形、諸工芸）	第 56 回西部伝統工芸展図録	日本工芸会	6 月	無

【東京文化財研究所】　50件

（1）新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　17件

○有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究　6件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	日本東洋美術史の資料学的研究	文化財情報資料部研究補佐員　大谷優紀	早稲田大学會津八一記念博物館所蔵「べしみ」面に関する一考察	『美術研究』439 号	東京文化財研究所	5 年 3 月	無
2	同上	文化財情報資料部日本東洋美術史研究室長 小野真由美	作品紹介　狩野探幽筆　探幽縮図（梅竹菓子巻）	『MUSEUM』702 号	東京国立博物館	5 年 2 月	有
3	近・現代美術に関する調査研究と資料集成	文化財情報資料部　近・現代視覚芸術研究室研究員　吉田暁子	「壺」幻視―新収蔵の岸田劉生《壺》を契機として―	『視る』518 号	京都国立近代美術館	5 月	無
4	美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開	文化財情報資料部研究員米沢玲、広領域研究室長安永拓世	光明寺所蔵羅漢図について―重層的な作品理解を目指して―	『美術研究』437 号	東京文化財研究所	8 月	無
5	同上	文化財情報資料部広領域研究室長　安永拓世	徳川頼宣の「初陣具足」と「江雪左文字」―家康が託した思いとともに―	『福山城築城 400 年記念協賛事業 特別展 名刀 江雪左文字―江雪斎、家康、頼宣が愛した刀の物語―』	ふくやま美術館	5 年 2 月	無
6	同上	文化財情報資料部広領域研究室長　安永拓世	「与謝蕪村筆「寒山拾得図」（妙法寺蔵）再考」	『妙法寺蔵　与謝蕪村筆寒山拾得図　共同研究報告書』	東京文化財研究所	5 年 3 月	無

○無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査及び研究　　11件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	重要無形文化財の保存・活用に資する調査研究等	無形文化遺産部無形文化財研究室	「楽器を中心とした文化財保存技術調査報告 6」	無形文化遺産研究報告　第 17 号	東京文化財研究所	5 年 3 月 31 日	有
2	同上	無形文化遺産部無形文化財研究室	「富本節『山姥』考―東京文化財研究所所蔵「文化財保存レコード」を中心に―」	無形文化遺産研究報告　第 17 号	東京文化財研究所	5 年 3 月 31 日	有
3	同上	無形文化遺産部無形文化財研究室	「【資料紹介】近世染織技法書における糊の原材料」	無形文化遺産研究報告　第 17 号	東京文化財研究所	5 年 3 月 31 日	有
4	同上	無形文化遺産部無形文化財研究室研究員 鎌田紗弓・無形文化遺産部調査研究アシスタント 齋藤穂歌	「無形のわざを書き記す：浅田譜における「作譜」(1)」	無形文化遺産研究報告　第 17 号	東京文化財研究所	5 年 3 月 31 日	有
5	重要無形民俗文化財の保存・活用に資する調査研究等	無形文化遺産部無形民俗文化財研究室長 久保田裕道	新型コロナ禍の民俗芸能	日本民俗楽　第 310 号	民俗芸能刊行委員会	5 月	無
6	同上	無形文化遺産部無形民俗文化財研究室長 久保田裕道	岩村町獅子芝居	民俗芸能　第 100 号	民俗芸能刊行委員会	11 月	無
7	同上	無形文化遺産部主任研究員　今石みぎわ	南西諸島における製糖技術	無形文化遺産研究報告　第 17 号	東京文化財研究所	5 年 3 月 31 日	有
8	同上	無形文化遺産部研究員 後藤知美	無形文化遺産の災害リスクの可視化と防災―防災対策・災害対応の標準化に向けて―	無形文化遺産研究報告　第 17 号	東京文化財研究所	5 年 3 月 31 日	有
9	同上	無形文化遺産部研究員 後藤知美	相互作用を生み出す場としての民俗文化センター	まつりは守れるか	八千代出版	4 年 9 月 30 日	無
10	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集	文化財情報資料部文化財情報資料研究室長　二神葉子	無形文化遺産の保護に関する第 17 回政府間委員会における議論の概要と今後の課題	無形文化遺産研究報告　第 17 号	東京文化財研究所	5 年 3 月 31 日	有
11	同上	無形文化遺産部音声映像記録研究室長　石村智	気候変動と無形文化遺産	無形文化遺産研究報告　第 17 号	東京文化財研究所	5 年 3 月 31 日	有

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　27件

○文化財の調査手法に関する研究開発の推進　5件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究	副所長　早川泰弘他	春日権現験記絵の彩色材料調査（巻十三・巻十四）	宮内庁三の丸尚蔵館所蔵 国宝 絹本著色 春日権現験記絵 巻十三・巻十四 光学調査報告書	東京文化財研究所	5年3月31日	無
2	同上	文化財情報資料部客員研究員　山梨絵美子	「春日権現験記絵」の成立と受容の変遷	宮内庁三の丸尚蔵館所蔵 国宝 絹本著色 春日権現験記絵 巻十三・巻十四 光学調査報告書	東京文化財研究所	5年3月31日	無
3	同上	文化財情報資料部専門職員　城野誠治	写真によって捉えた情報の考察	扇面法華経―光学調査報告書 近紫外線写真・蛍光写真・近赤外線写真編	東京文化財研究所	5年3月31日	無
4	同上	文化財情報資料部客員研究員　田中潤	四天王寺蔵扇面法華経冊子にみる服飾表現	扇面法華経―光学調査報告書 カラー写真編	東京文化財研究所	5年3月31日	無
5	同上	副所長　早川泰弘他	国宝 法華経（久能寺経）の材料調査 従地涌出品第十五 随喜功徳品第十八 普賢菩薩勧発品第二十八	国宝 法華経（久能寺経） 光学調査報告書	東京文化財研究所	5年3月31日	無

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　22件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	文化財生物劣化の分子生物学的手法による機構解明と環境調和型対策	生物科学研究室長 佐藤嘉則、アソシエイトフェロー　島田潤	文化財害虫の新たな検出法 -DNAバーコーディングの応用-	文化財の虫菌害　第83号	文化財虫菌害研究所	6月26日	無
2	同上	生物科学研究室長 佐藤嘉則	分子生物学的手法による文化財害虫の特定	月刊文化財　第709号	第一法規株式会社	10月1日	無
3	同上	アソシエイトフェロー 島田潤　他	文化財害虫とその対処-最近のトピックを中心に-	月刊文化財　第709号	第一法規株式会社	10月1日	無
4	同上	アソシエイトフェロー 島田潤、生物科学研究室長　佐藤嘉則	New records of Ctenolepisma calvum (Ritter, 1910) (Zygentoma, Lepismatidae) from Japan	Biodiversity Data Journal vol.10	Pensoft Publishers	11月3日	有
5	同上	生物科学研究室長 佐藤嘉則	持続可能な資料保存における有害生物管理の諸課題	国立民族学博物館調査報告155	株式会社遊文社	11月7日	有
6	同上	生物科学研究室客員研究員　北原博幸、同室長 佐藤嘉則、同客員研究員 藤井義久　他	湿度制御した温風処理による木造建造物加害甲虫類の殺虫(1) 温湿度制御性能の評価	保存科学　第62号	東京文化財研究所	5年3月31日	有
7	同上	生物科学研究室客員研究員　北原博幸、同室長 佐藤嘉則、アソシエイトフェロー　島田潤、同客員研究員　藤井義久　他	湿度制御した温風処理による木造建造物加害甲虫類の殺虫（2） 殺虫効果の確認と建造物への影響の検討	保存科学　第62号	東京文化財研究所	5年3月31日	有
8	同上	生物科学研究室研究補佐員　小野寺裕子、アソシエイトフェロー島田潤、 同室長　佐藤嘉則　他	ベイト剤によるシミの殺虫効果	保存科学　第62号	東京文化財研究所	5年3月31日	有
9	同上	生物科学研究室客員研究員　片山葉子、同室長 佐藤嘉則、分析科学研究室長・犬塚将英　他	虎塚古墳壁画から落下した微小剥落片の微生物叢解析	文化財論叢5	奈良文化財研究所	5年3月31日	無
10	文化財の保存環境にかかる調査研究	研究員　水谷悦子，客員研究員　伊庭千恵美，研究補佐員　相馬静乃，保存環境研究室長　秋山純子	博物館・美術館の冬季の空調消費エネルギー量と間欠運転時の収蔵庫内環境	保存科学　第62号	東京文化財研究所	5年3月31日	有
11	同上	研究補佐員　相馬静乃，保存環境研究室長　秋山純子、佐野千絵	シャープカットフィルターで短波長側を遮光した光照射によるクルクミン染料の変退色挙動について	保存科学　第62号	東京文化財研究所	5年3月31日	有
12	文化財の材質・構造・状態調査に関する研究	分析科学研究室長 犬塚将英、同室アソシエイトフェロー　紀芝蓮他7名	高輪築堤から採取された目地資料の分析調査	保存科学　第62号	東京文化財研究所	5年3月31日	有
13	同上	分析科学研究室アソシエイトフェロー　紀芝蓮、 同室長　犬塚将英他4名	光明寺所蔵「羅漢図」に使われた彩色材料	保存科学　第62号	東京文化財研究所	5年3月31日	有
14	屋外文化財の保存修復計画に関する調査研究	修復計画研究室長 朽津信明他2名	富山市大山地域の恐竜の足跡化石の経年変化評価	保存科学　第62号	東京文化財研究所	5年3月31日	有

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
15	同上	修復計画研究室長 朽津信明	文化財としての自然史資料の修復について	保存科学　第 62 号	東京文化財研究所	5 年 3 月 31 日	有
16	文化財修復と伝統技法に関する調査研究	修復材料研究室長 早川典子　他	デンプン糊で裏打ちされる文化財へのα-アミラーゼ適用方法に関する検討	保存科学　第 62 号	東京文化財研究所	5 年 3 月 31 日	有
17	同上	修復材料研究室　研究員 倉島玲央　他	硬化乾燥初期における漆塗膜に水が与える影響	保存科学　第 62 号	東京文化財研究所	5 年 3 月 31 日	有
18	同上	アソシエイトフェロー 鳥海秀実	保存修復専門家(コンサヴァター)の職業の定義、倫理規程と実務指針	保存科学　第 62 号	東京文化財研究所	5 年 3 月 31 日	有
19	同上	修復材料研究室長 早川典子　他	デジタルマイクロスコープによる 3 次元計測値の補正方法について－繊維実測の精度向上のための事前検証－	保存科学　第 62 号	東京文化財研究所	5 年 3 月 31 日	有
20	多様な文化財の修復技術に関する調査研究	保存科学研究センター研究員　芳賀文絵、室長 建石徹	紙資料の真空凍結乾燥における乾燥温度と乾湿繰り返しによる状態の変化について	保存科学　第 62 号	東京文化財研究所	5 年 3 月 31 日	有
21	同上	保存科学研究センター研究員　芳賀文絵、千葉毅、室長　建石徹	文化財防災と保存科学の接点と相互作用　－修復技術研究室設置にあたって－	保存科学　第 62 号	東京文化財研究所	5 年 3 月 31 日	有
22	高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究	分析科学研究室長 犬塚将英　他 10 名	小型 X 線回折分析装置の開発と高松塚古墳壁画の彩色材料分析への適用	保存科学　第 62 号	東京文化財研究所	5 年 3 月 31 日	有

(3) 文化遺産保護に関する国際協働　1件

○文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進　1件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	アジア諸国等文化遺産保存修復協力	文化遺産国際協力センター客員研究員　山田大樹	Governance Challenges in Nepal After the Gorkha Earthquake, in Light of the World Heritage Convention	Post-trauma and the Recovery Governance of Cultural Heritage	Springer	12 月	無

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　5件

○調査研究成果の発信　5件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充	文化財情報資料部長 江村知子	失われた寒山拾得像をもとめて-文化財アーカイブの奇跡	『寒山拾得図襖絵共同研究報告書』	東京文化財研究所	5 年 3 月	無
2	同上	文化財情報資料部研究員 米沢玲	展覧会評　ブッダのお弟子さん　教えをつなぐ物語	『美術研究』438 号	東京文化財研究所	5 年 3 月	無
3	文化財情報基盤の整備・充実	文化遺産国際協力センター国際情報研究室長 金井健	東京文化財研究所所蔵伊藤延男資料の概要とその特徴	日本建築学会大会学術講演梗概集	日本建築学会	9 月	無
4	文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究	文化遺産国際協力センター　アソシエイトフェロー　藤井郁乃	霧島ジオパークにおける重層的な地域資源の利活用に関する研究	令和 4 年度 霧島ジオパーク学術研究支援補助金　実績報告書	霧島ジオパーク推進連絡協議会事務局	5 年 2 月	無
5	調査研究成果の発信	文化遺産国際協力センター　アソシエイトフェロー　藤井郁乃、前田康記	コラム　海域で捉え直す文化遺産：調査「海域交流ネットワークと文化遺産」から見えてきたこと	『文化遺産の世界 ウェブサイト　レポート』	NPO 法人文化遺産の世界	12 月 16 日	無

【奈良文化財研究所】157件

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　86件

○有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究　7件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	歴史的建造物および伝統的建造物群の保存・修復・活用の実践的研究	文化遺産部建造物研究室長　大林潤	松江市内社寺建築の特質―松江市内社寺建築悉皆調査より―	奈良文化財研究所紀要 2022	奈良文化財研究所	6 月 30 日	無
2	同上	都城発掘調査部主任研究員　鈴木智大	高野山の近世建築における古代・中世建築の継承	奈良文化財研究所紀要 2022	奈良文化財研究所	6 月 30 日	無
3	同上	都城発掘調査部研究員 福嶋啓人	地形と伝統的町割りの連関―佐渡市小木町を事例として―	奈良文化財研究所紀要 2022	奈良文化財研究所	6 月 30 日	無
4	同上	都城発掘調査部研究員 山崎有生	生駒市における歴史的建造物悉皆調査について	奈良文化財研究所紀要 2022	奈良文化財研究所	6 月 30 日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
5	同上	文化遺産部建造物研究室長　大林潤	松江神社の造営大工と松江藩御大工について	文化財論叢Ⅴ　奈良文化財研究所創立 70 周年記念論文集	奈良文化財研究所	5 年 3 月	無
6	近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究	文化遺産部歴史研究室アソシエイトフェロー　橘悠太	仁和寺御経蔵聖教の形成と展開	文化財論叢Ⅴ　奈良文化財研究所創立 70 周年記念論文集	奈良文化財研究所	5 年 3 月	無
7	同上	文化遺産部歴史研究室長　吉川聡	平城京・宮のあとの断章―奈良文化財研究所の敷地から―	文化財論叢Ⅴ　奈良文化財研究所創立 70 周年記念論文集	奈良文化財研究所	5 年 3 月	無

○記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究　79 件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	我が国の記念物に関する調査研究(遺跡等整備)	文化遺産部長　内田和伸	宮跡顕彰に対する国家的な動き―第 13 回貴族院議会「御歴世宮阯保表ノ建議」ほか	未来につなぐ平城宮跡―保存運動のあけぼの―　平城宮跡資料館図録	奈良文化財研究所	4 月	無
2	同上	文化遺産部長　内田和伸	史蹟名勝天然紀念物保存法と山田寺跡の史跡指定	『特別史跡山田寺　史跡指定一〇〇年』	奈良文化財研究所	6 月	無
3	同上	文化遺産部長　内田和伸	歴史的建造物の復元	造園大百科事典	朝倉書店	7 月 1 日	無
4	同上	文化遺産部長　内田和伸	建造物の修理・整備・防災	造園大百科事典	朝倉書店	7 月 1 日	無
5	同上	文化遺産部長　内田和伸	史跡等の整備・復旧・復元・防災	造園大百科事典	朝倉書店	7 月 1 日	無
6	同上	文化遺産部景観研究室長　中島義晴	登録紀念物	造園大百科事典	朝倉書店	7 月 1 日	無
7	同上	文化遺産部景観研究室長　中島義晴	近代の庭園・公園等に関する調査研究/名勝に関する全国的な調査	造園大百科事典	朝倉書店	7 月 1 日	無
8	同上	文化遺産部長　内田和伸	特別史跡平城宮跡の初期の整備	のこった奇跡のこした軌跡―未来につなぐ平城宮跡―平城宮跡資料館図録	奈良文化財研究所	10 月 1 日	無
9	同上	文化遺産部長　内田和伸	近世城跡から移築された城郭建築遺構の保存・活用について	移築された遺跡由来の遺構および石造物の現状と課題 令和３年度 遺跡整備・活用研究集会報告書	奈良文化財研究所	5 年 3 月 20 日	無
10	同上	文化遺産部長　内田和伸	奈良市内の近代庭園における古材利用	移築された遺跡由来の遺構および石造物の現状と課題 令和３年度 遺跡整備・活用研究集会報告書	奈良文化財研究所	5 年 3 月 20 日	無
11	同上	文化遺産部長　内田和伸	移築・移設された遺跡由来の遺構および石造物について	移築された遺跡由来の遺構および石造物の現状と課題 令和３年度 遺跡整備・活用研究集会報告書	奈良文化財研究所	5 年 3 月 20 日	無
12	平城宮・京の発掘調査	都城発掘調査部考古第三研究室長　今井晃樹ほか	平城宮東方官衙地区の調査　一第 621 次	奈良文化財研究所紀要 2022	奈良文化財研究所	6 月 30 日	無
13	同上	都城発掘調査部遺構研究室研究員　山崎有生ほか	平城宮東院地区の調査　一第 633 次	奈良文化財研究所紀要 2022	奈良文化財研究所	6 月 30 日	無
14	同上	都城発掘調査部史料研究室研究員　垣中健志ほか	平城宮西北部の調査　一第 642 次	奈良文化財研究所紀要 2022	奈良文化財研究所	6 月 30 日	無
15	同上	都城発掘調査部主任研究員　小田裕樹ほか	平城京左京三条一坊十五坪の調査 第 635 次	奈良文化財研究所紀要 2022	奈良文化財研究所	6 月 30 日	無
16	同上	都城発掘調査部主任研究員　山本祥隆ほか	平城京左京一条二坊十五坪の調査 第 638・639 次	奈良文化財研究所紀要 2022	奈良文化財研究所	6 月 30 日	無
17	同上	都城発掘調査部遺構研究室研究員　目黒新悟	興福寺東金堂院の調査　第 640 次	奈良文化財研究所紀要 2022	奈良文化財研究所	6 月 30 日	無
18	同上	都城発掘調査部考古第一研究室研究員　浦蓉子ほか	平城京左京三条四坊十坪の調査 第 641 次	奈良文化財研究所紀要 2022	奈良文化財研究所	6 月 30 日	無
19	同上	埋蔵文化財センター主任研究員　村田泰輔ほか	興福寺鐘楼出土白色薄片の材料分析　第 625 次	奈良文化財研究所紀要 2022	奈良文化財研究所	6 月 30 日	無
20	東大寺東塔復元案作成にかかる調査研究業務	都城発掘調査部遺構研究室研究員　目黒新悟	大仏殿の検討を踏まえた組物と軒の復元　一東大寺東塔の復元研究 5―	奈良文化財研究所紀要 2022	奈良文化財研究所	6 月 30 日	無
21	同上	都城発掘調査部遺構研究室アソシエイトフェロー　山本光良ほか	仏壇の検討　一東大寺東塔の復元研究 6―	奈良文化財研究所紀要 2022	奈良文化財研究所	6 月 30 日	無
22	平城宮・京跡出土遺物・遺構の調査・研究	都城発掘調査部考古第二研究室長　神野恵	平城京出土の唐の白磁	奈良文化財研究所紀要 2022	奈良文化財研究所	6 月 30 日	無
23	同上	国学院大学　青木敬（客員研究員）	押捺位置からみた「美濃国」「美濃」刻印須恵器	奈良文化財研究所紀要 2022	奈良文化財研究所	6 月 30 日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
24	同上	都城発掘調査部考古第三研究室長　今井晃樹・同考古第二研究室長　林正憲	平城京・藤原京出土軒瓦の新種について	奈良文化財研究所紀要 2022	奈良文化財研究所	6 月 30 日	無
25	同上	企画調整部展示企画室長　岩戸晶子	3 次元モデルを活用した法隆寺所用古代鬼瓦の復元	奈良文化財研究所紀要 2022	奈良文化財研究所	6 月 30 日	無
26	同上	都城発掘調査部主任研究員　小田裕樹ほか	平城宮東院築出土土器および土壌の残存脂質分析　一第 593・633 次	奈良文化財研究所紀要 2022	奈良文化財研究所	6 月 30 日	無
27	同上	都城発掘調査部考古第三研究室長　今井晃樹	昭和 38 年一条院調査出土の古代瓦第 17−1 次	奈良文化財研究所紀要 2022	奈良文化財研究所	6 月 30 日	無
28	同上	企画調整部展示企画室長　岩戸晶子	薬師寺出土資料から見る近代史の一側面　第 88−21・103-23・500 次	奈良文化財研究所紀要 2022	奈良文化財研究所	6 月 30 日	無
29	同上	都城発掘調査部考古第一研究室研究員　浦蓉子ほか	平城宮・京出土木質遺物の樹種　第 440・524 次	奈良文化財研究所紀要 2022	奈良文化財研究所	6 月 30 日	無
30	同上	都城発掘調査部主任研究員　小田裕樹	平城宮・京出土の遊戯具（２）	奈良文化財研究所紀要 2022	奈良文化財研究所	6 月 30 日	無
31	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	埋蔵文化財センター年代学研究室長　星野安治・都城発掘調査部考古第一研究室長　廣瀬覚・副所長　高妻洋成ほか	藤原京左京六条三坊出土曲物円板の年輪年代測定	奈良文化財研究所紀要 2022	奈良文化財研究所	6 月 30 日	無
32	同上	都城発掘調査部考古第三研究室研究員　岩永玲・同考古第一研究室長　廣瀬覚・同考古第一研究室研究員　谷澤亜里・埋蔵文化財センター主任研究員　村田泰輔・上中央子（客員研究員）	藤原宮大極殿院―第 208 次	奈良文化財研究所紀要 2022	奈良文化財研究所	6 月 30 日	無
33	同上	都城発掘調査部考古第三研究室長　林正憲・埋蔵文化財センター長　金田明大	日高山瓦窯の調査―第 207-3 次	奈良文化財研究所紀要 2022	奈良文化財研究所	6 月 30 日	無
34	同上	都城発掘調査部主任研究員　山藤正敏・同主任研究員　鈴木智大・同考古第三研究室研究員　道上祥武・埋蔵文化財センター主任研究員　村田泰輔・同センター長　金田明大ほか	大官大寺南方の調査―第 206 次	奈良文化財研究所紀要 2022	奈良文化財研究所	6 月 30 日	無
35	同上	都城発掘調査部考古第一研究室研究員　松永悦枝	石神遺跡東方の調査―第 209 次	奈良文化財研究所紀要 2022	奈良文化財研究所	6 月 30 日	無
36	同上	特任研究員　玉田芳英	飛鳥・藤原地域出土の墨書土器・刻書土器（１）	奈良文化財研究所紀要 2022	奈良文化財研究所	6 月 30 日	有
37	同上	片山健太郎（埼玉県立歴史と民族の博物館）・都城発掘調査部主任研究員　田村朋美	飛鳥・藤原地域出土の馬具・帯金具	奈良文化財研究所紀要 2022	奈良文化財研究所	6 月 30 日	無
38	同上	上中央子（客員研究員）	大官大寺南方 SD4590 の大型植物遺体群	奈良文化財研究所紀要 2022	奈良文化財研究所	6 月 30 日	無
39	同上	尾野善裕（京都国立博物館）・都城発掘調査部考古第二研究室長　森川実・大澤正吾（文化庁）	石神遺跡土坑 SK1150 出土の土器	奈良文化財研究所紀要 2022	奈良文化財研究所	6 月 30 日	無
40	同上	都城発掘調査部主任研究員　山藤正敏・同史料研究室長　山本崇	石神遺跡 SD1347A 出土の土器群・木簡―石神遺跡第 14・15 次	奈良文化財研究所紀要 2022	奈良文化財研究所	6 月 30 日	無
41	同上	藤間温子（客員研究員）・都城発掘調査部史料研究室長　山本崇	飛鳥池遺跡出土削屑の再釈読―第 84 次ほか	奈良文化財研究所紀要 2022	奈良文化財研究所	6 月 30 日	無
42	同上	都城発掘調査部副部長　清野孝之	川原寺式軒丸瓦 601 型式Ｃ種の同笵瓦の検討	奈良文化財研究所紀要 2022	奈良文化財研究所	6 月 30 日	無
43	同上	都城発掘調査部副部長　清野孝之	都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）のこの 10 年と展望	月刊文化財 705 号	第一法規出版	4 年 6 月	無
44	同上	都城発掘調査部副部長　清野孝之	山田寺の歴史と発掘調査	特別史跡山田寺跡　史跡指定 100 年	奈良文化財研究所	10 月	無
45	同上	都城発掘調査部考古第一研究室長　廣瀬覚	壁画古墳・高松塚古墳の調査成果とその意義	上野三碑の時代 令和４年度群馬県立歴史博物館第 107 回企画展	群馬県立歴史博物館	10 月	無
46	同上	都城発掘調査部考古第一研究室長　廣瀬覚	高松塚古墳の出土品（奈文研ギャラリー77）	奈文研ニュース No. 85	奈良文化財研究所	6 月	無
47	同上	都城発掘調査部考古第一研究室研究員　松永悦枝	石神遺跡東方の調査（飛鳥藤原第 209 次）	奈文研ニュース No. 85	奈良文化財研究所	6 月	無
48	同上	都城発掘調査部考古第三研究室研究員　道上祥武	藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第 210 次）	奈文研ニュース No. 86	奈良文化財研究所	9 月	無
49	同上	都城発掘調査部史料研究室長　山本崇	但馬出土文字資料集成の刊行	奈文研ニュース No. 87	奈良文化財研究所	12 月	無
50	同上	都城発掘調査部主任研究員　若杉智宏	奥山廃寺の調査（飛鳥藤原第 211-6 次）	奈文研ニュース No. 87	奈良文化財研究所	12 月	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
51	同上	都城発掘調査部考古第一研究室研究員　谷沢亜里	石神遺跡東方の調査（飛鳥藤原第 212 次）	奈文研ニュース No.88	奈良文化財研究所	5 年 3 月	無
52	同上	都城発掘調査部考古第三研究室研究員　岩永玲	藤原宮大極殿院　飛鳥藤原第 208 次調査	飛鳥の考古学 2022	奈良文化財研究所	5 年 1 月	無
53	同上	都城発掘調査部主任研究員　山藤正敏	大官大寺南方　第 206 次調査	飛鳥の考古学 2022	奈良文化財研究所	5 年 1 月	無
54	同上	都城発掘調査部主任研究員　山藤正敏	石神遺跡 SD1347 出土の土器群　石神遺跡（第 14 次）	飛鳥の考古学 2022	奈良文化財研究所	5 年 1 月	無
55	同上	都城発掘調査部考古三研究室研究員　岩永玲	藤原宮大極殿院の調査	条里制・古代都市研究 38	条里制・古代都市研究会	5 年 3 月	無
56	同上	都城発掘調査部考古第一研究室長　廣瀬覚	藤原宮中枢部の構造ー大極殿院を中心に	考古学ジャーナル 778 号	ニューサイエンス社	5 年 2 月	無
57	同上	都城発掘調査部考古第一研究室長　廣瀬覚	山田寺伽藍配置計画の再検討	文化財論叢Ⅴ	奈良文化財研究所	5 年 3 月	無
58	同上	都城発掘調査部考古第三研究室研究員　岩永玲	藤原宮大極殿院北部の造営過程に関するー検討	文化財論叢Ⅴ	奈良文化財研究所	5 年 3 月	無
59	同上	都城発掘調査部主任研究員　若杉智宏	甘樫丘東麓遺跡と乙巳の変	文化財論叢Ⅴ	奈良文化財研究所	5 年 3 月	無
60	同上	都城発掘調査部副部長　清野孝之	飛鳥・藤原地域の川原寺式軒丸瓦	文化財論叢Ⅴ	奈良文化財研究所	5 年 3 月	無
61	同上	都城発掘調査部長　箱崎和久	飛鳥池遺跡出土建築部材の建築史的意義	文化財論叢Ⅴ	奈良文化財研究所	5 年 3 月	無
62	同上	都城発掘調査部考古第一研究室研究員　浦蓉子	藤原宮・京出土の紡織具	文化財論叢Ⅴ	奈良文化財研究所	5 年 3 月	無
63	同上	特任研究員　玉田芳英	藤原宮造営に関する覚書	文化財論叢Ⅴ	奈良文化財研究所	5 年 3 月	無
64	同上	飛鳥資料館学芸室長　石橋茂登	キトラ古墳･高松塚古墳壁画についての覚書	文化財論叢Ⅴ	奈良文化財研究所	5 年 3 月	無
65	同上	都城発掘調査部考古第三研究室研究員　道上祥武	「藤原宮」後	文化財論叢Ⅴ	奈良文化財研究所	5 年 3 月	無
66	同上	都城発掘調査部史料研究室長　山本崇	日付のある木簡考ー木簡からみた古代の休日ー	文化財論叢Ⅴ	奈良文化財研究所	5 年 3 月	無
67	同上	都城発掘調査部考古第三研究室研究員　田中龍一	平安時代における川原寺の瓦生産―軒平瓦の分析を中心に―	文化財論叢Ⅴ	奈良文化財研究所	5 年 3 月	無
68	同上	企画調整部国際遺跡研究室アソシエイトフェロー村上夏希･都城発掘調査部考古第二研究室長　森川実･企画調整部国際遺跡研究室長　庄田慎矢	石神遺跡井戸 SE800 出土土器付着炭化物の残存脂質分析	文化財論叢Ⅴ	奈良文化財研究所	5 年 3 月	無
69	東アジアにおける工芸技術及び飛鳥時代の建築遺物等の研究	飛鳥資料館学芸室長　石橋茂登	キトラ古墳･高松塚古墳壁画についての覚書	文化財論叢Ⅴ	奈良文化財研究所	5 年 3 月	無
70	文化的景観及びその保存･活用に関する調査研究	文化遺産部景観研究室長　中島義晴他	『整備基本計画の策定から整備へ』に関するアンケートの集計結果	第 46 回全国遺跡環境整備会議資料集	第 46 回全国遺跡環境整備会議実行委員会	10 月 20 日	無
71	同上	文化遺産部景観研究室長　中島義晴	歴史的な庭園の修復事業の具体例	文化財論叢Ⅴ	奈良文化財研究所	5 年 3 月	無
72	同上	文化遺産部景観研究室長　中島義晴	阿佐家住宅･箸蔵寺本坊の庭園および徳島県域の類例	吉野川支流域名勝調査報告書	三好市教育委員会	5 年 3 月	無
73	同上	文化遺産部景観研究室長　中島義晴	高松塚古墳壁画男子女子群像「乾拓」体験イベント	奈文研ニュース No.87	奈良文化財研究所	5 年 1 月	無
74	同上	文化遺産部景観研究室長　中島義晴	高松塚古墳の仮整備と公開活用	第 14 回東京講演会講演資料集	奈良文化財研究所	10 月 22 日	無
75	同上	文化遺産部景観研究室長　中島義晴	歴史的庭園の修復	造園大百科事典	朝倉書店	7 月 1 日	無
76	全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究	埋蔵文化財センター主任研究員　村田泰輔	The Construction of the Historical Disaster Evidence Database and its Effectiveness.	JDR Vol.17	富士技術出版株式会社	4 月	有
77	同上	都城発掘調査部主任研究員　小田裕樹ほか	古代集落の構造と変遷	第 25 回古代官衙・集落研究会報告書	奈良文化財研究所	12 月 16 日	無
78	古代官衙･集落遺跡に関する研究集会の開催及び報告書刊行	都城発掘調査部史料研究室研究員　垣中健志	文献史料から見た古代集落	『第 25 回古代官衙・集落研究会報告書　古代集落の構造と変遷 2』（奈良文化財研究所研究報告 36 冊）	奈良文化財研究所	12 月 16 日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
79	水中文化遺産に関する調査研究	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員・柳田明進、同室長・脇谷草一郎、副所長・高妻洋成ほか6名	“Black Spots”の正体は何か？－還元性硫黄化合物が展示時の銅製遺物の劣化に及ぼす影響	日本文化財科学会第39回大会要旨集	日本文化財科学会	9月10日	無

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　39件

○文化財の調査手法に関する研究開発の推進　13件

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	年輪年代学研究	埋蔵文化財センター年代学研究室長 星野安治	旧森川家住宅古材の年輪年代調査	奈良文化財研究所紀要2022	奈良文化財研究所	6月30日	無
2	同上	埋蔵文化財センター年代学研究室長 星野安治ほか	藤原京左京六条三坊出土曲物円板の年輪年代測定	奈良文化財研究所紀要2022	奈良文化財研究所	6月30日	無
3	同上	埋蔵文化財センター年代学研究室長 星野安治ほか	平城宮・京出土木質遺物の樹種－第440・524次	奈良文化財研究所紀要2022	奈良文化財研究所	6月30日	無
4	同上	埋蔵文化財センター年代学研究室長 星野安治	正倉院聖語蔵（旧尊勝院経蔵）の年輪年代	正倉院紀要45	宮内庁正倉院事務所	5年3月31日	無
5	同上	埋蔵文化財センター年代学研究室長 星野安治ほか	靍尾遺跡出土木製品類の樹種同定・年輪年代測定	京都府遺跡調査報告集	京都府埋蔵文化財調査研究センター	5年3月31日	無
6	同上	埋蔵文化財センター年代学研究室長 星野安治ほか	木津川河床遺跡出土井戸枠部材・木製品類の樹種同定・年輪年代測定	京都府遺跡調査報告集	京都府埋蔵文化財調査研究センター	5年3月31日	無
7	同上	埋蔵文化財センター年代学研究室長 星野安治	仁和寺塔中蔵聖教箱の年輪年代学的検討	文化財論叢Ⅴ	奈良文化財研究所	5年3月31日	無
8	同上	埋蔵文化財センター年代学研究室長 星野安治	年輪年代調査	法隆寺金堂古材調査報告書	法隆寺	5年3月31日	無
9	動植物遺存体の分析方法の研究開発	埋蔵文化財センター環境考古学研究室長　山崎健	古代（飲食と考古学）	季刊考古学159	雄山閣	5月1日	無
10	同上	埋蔵文化財センター環境考古学研究室長　山崎健	モモ核に認められたネズミの食痕	奈良文化財研究所紀要2022	奈良文化財研究所	6月30日	有
11	同上	埋蔵文化財センター環境考古学研究室長　山崎健ほか	魚類遺存体からみた縄文海洋進出史（東北～東海地方）	季刊考古学161	雄山閣	11月1日	無
12	同上	埋蔵文化財センター環境考古学研究室長　山崎健	学際領域研究の動向	日本考古学年報74	日本考古学協会	12月5日	無
13	同上	埋蔵文化財センター環境考古学研究室長　山崎健	西大寺食堂院出土の動物遺体	再現古代寺院の食事	吉川弘文館	5年3月31日	無

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　26件

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	考古遺物の保存処理法に関する調査研究	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長・脇谷草一郎、同研究員・松田和貴、同研究員・柳田明進、都城発掘調査部主任研究員・田村朋美、副所長・高妻洋成ほか4名	トレハロース処理法の寸法安定性に関する考察１　-接触角から推定される結晶形態による検討-	日本文化財科学会第39回大会要旨集	日本文化財科学会	9月10日	無
2	同上	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室アソシエイトフェロー・楊曼寧、同研究員・柳田明進、同室長・脇谷草一郎ほか1名	出土銅製品に施された漆塗膜の剥離メカニズムの検討（その１）―カールした塗膜とその金属下地の状態把握―	日本文化財科学会第39回大会要旨集	日本文化財科学会	9月10日	無
3	同上	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員・松田和貴、同室長・脇谷草一郎、副所長・高妻洋成	溶媒蒸発速度の制御による水浸出土木製遺物の保存処理における薬剤含浸の効率化（その３）	日本文化財科学会第39回大会要旨集	日本文化財科学会	9月10日	無
4	同上	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員・柳田明進	鉄製遺物の腐食から考える展示・保管時の適切な環境条件	金属93号	アグネ技術センター	3年2月25日	無

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
5	同上	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員・柳田明進、都城発掘調査部（平城地区）・浦蓉子ほか 3 名	平城宮・京出土鉄製遺物の腐食に及ぼす埋蔵環境の影響― 埋蔵時における鉄製遺物内部への塩化物塩集積に関する検討 ―	文化財論叢Ⅴ	奈良文化財研究所	5 年 3 月	無
6	同上	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員・松田和貴	出土木製遺物の保存処理の効率化をめざした新たな薬剤含浸法の検討	文化財論叢Ⅴ	奈良文化財研究所	5 年 3 月	無
7	遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長・脇谷草一郎、同研究員・柳田明進、副所長・髙妻洋成ほか 4 名	「屋外文化財の保存－環境調整による遺跡現地保存法の一考察－」	『月刊文化財』（703 号）	第一法規	4 月	無
8	同上	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長・脇谷草一郎、同研究員・柳田明進、副所長・髙妻洋成ほか 4 名	特別名勝一乗谷朝倉氏庭園の景石保存に関する研究 ―周辺環境が景石の劣化におよぼす影響―	日本文化財科学会第 39 回大会要旨集	日本文化財科学会	9 月 10 日	無
9	同上	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長・脇谷草一郎、同研究員・柳田明進、副所長・髙妻洋成ほか 4 名	博物館内における遺構の展示手法と周辺環境の最適化に関する研究－遺構展示室内の環境調査と遺構の埋戻し方法の検討－	日本文化財科学会第 39 回大会要旨集	日本文化財科学会	9 月 10 日	無
10	同上	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長・脇谷草一郎、同研究員・柳田明進、副所長・髙妻洋成ほか 1 名	史跡名勝瑞泉寺庭園における庭石の風化状況に関する調査	日本文化財科学会第 39 回大会要旨集	日本文化財科学会	9 月 10 日	無
11	同上	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長・脇谷草一郎、同保存修復科学研究室客員研究員・小椋大輔　ほか 2 名	歴史的煉瓦造建築物の塩類風化対策に関する研究 ―塩を含む材料中の含水率、塩濃度の測定方法と電気的脱塩方法に関する基礎的検討―	日本建築学会近畿支部研究発表会梗概	日本建築学会近畿支部	6 月 25 日	無
12	同上	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長・脇谷草一郎、同保存修復科学研究室客員研究員・小椋大輔　ほか 3 名	文化財資料の変形・損傷予測に基づいた保存環境の制御方法の検討―法隆寺金堂飛天壁画の下地材料を対象とした湿潤時のひずみの測定	日本建築学会近畿支部研究発表会梗概	日本建築学会近畿支部	6 月 25 日	無
13	同上	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長・脇谷草一郎ほか 1 名	同一石材で造られた石棺の劣化状態および保存環境の比較による乾湿繰り返しによる石材劣化メカニズムの検討	日本文化財科学会第 39 回大会要旨集	日本文化財科学会	9 月 10 日	無
14	同上	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長・脇谷草一郎、同保存修復科学研究室客員研究員・小椋大輔　ほか 2 名	蛍光 X 線を用いた多孔質材料表面近傍の塩濃度分析手法の検討	日本文化財科学会第 39 回大会要旨集	日本文化財科学会	9 月 10 日	無
15	同上	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長・脇谷草一郎、同保存修復科学研究室客員研究員・小椋大輔　ほか 3 名	法隆寺金堂飛天壁画の模擬下地材料を対象とした湿潤・乾燥時のひずみの測定	日本文化財科学会第 39 回大会要旨集	日本文化財科学会	9 月 10 日	無
16	同上	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長・脇谷草一郎ほか 2 名	全天空写真による日射が石造文化財に及ぼす影響の推定	日本文化財科学会第 39 回大会要旨集	日本文化財科学会	9 月 10 日	無
17	同上	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長・脇谷草一郎、同研究員・柳田明進 ほか 2 名	博物館内における遺構の展示手法と周辺環境の最適化に関する研究－遺構展示室内における遺構の展示環境の調査－	一乗谷朝倉氏遺跡資料館紀要 2021	福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館	9 月 10 日	無
18	考古遺物を中心とした文化財の材質調査に関する調査研究	都城発掘調査部主任研究員田村朋美ほか 6 名	ブハラオアシス出土のガラス製遺物の Sr 同位体比分析	日本文化財科学会第 39 回大会要旨集	日本文化財科学会	9 月 10 日	無
19	同上	都城発掘調査部主任研究員田村朋美ほか 6 名	ウズベキスタン・ブハラオアシス内遺跡から出土した初期イスラームガラスの化学分析	日本文化財科学会第 39 回大会要旨集	日本文化財科学会	9 月 10 日	無
20	同上	都城発掘調査部主任研究員田村朋美ほか 2 名	猪ノ鼻(1)遺跡出土玉類等の XRF、ESR、XRD による非破壊分析	日本文化財科学会第 39 回大会要旨集	日本文化財科学会	9 月 10 日	無
21	同上	都城発掘調査部主任研究員田村朋美ほか 6 名	和泉・塔塚古墳出土遺物調査報告（３）―大阪市立美術館旧保管資料を中心として―	同志社大学歴史資料館館報第 25 号	同志社大学歴史資料館	5 年 2 月 20 日	無

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
22	同上	都城発掘調査部主任研究員田村朋美ほか 2 名	ミャンマー産陶器の化学分析	東南アジア考古学第 42 号	東南アジア考古学会	5 年 2 月 25 日	無
23	同上	都城発掘調査部主任研究員田村朋美	Sr 同位体比分析による日本列島出土ガラスの産地に関する考察	文化財論叢Ⅴ	奈良文化財研究所	5 年 3 月	無
24	古墳壁画の恒久的保存に関する調査研究	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員・柳田明進、同室長・脇谷草一郎、副所長・高妻洋成ほか 5 名	Deterioration Tests Using Simulated Tumulus to Evaluate In Situ Preservation of Metal Artifacts in a Stone Chamber	Metal2022 PROCEEDINGS OF THE INTERIM MEETING OF THE ICOM-CC METALS WORKING GROUP	ICOM—CC and the National museum of finland	9 月 10 日	無
25	同上	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室アソシエイトフェロー・松野美由樹、同保存修復科学研究室長・脇谷草一郎ほか 1 名	ガランドヤ２号墳における緑色生物に関する報告	日本文化財科学会第 39 回大会要旨集	日本文化財科学会	9 月 10 日	無
26	同上	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室客員研究員・中田愛乃、都城発掘調査部主任研究員・田村朋美、保存修復科学研究室長・脇谷草一郎、同研究員・柳田明進、都城発掘調査部飛鳥藤原地区考古第一研究室長・ 廣瀬覚, 飛鳥資料館学芸室長・石橋茂登ほか 5 名	高松塚古墳から出土した棺金具の付着物質に関する分析	日本文化財科学会第 39 回大会要旨集	日本文化財科学会	9 月 10 日	無

(3) 文化遺産保護に関する国際協働　7 件

○文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 7 件

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	文化遺産保護に関する国際協働	企画調整部国際遺跡研究室長　庄田慎矢　他	The importance of wild resources as a reflection of the resilience and changing nature of early agricultural systems in East Asia and Europe	Frontiers in Ecology and Evolution	Frontiers	10 月 26 日	有
2	同上	企画調整部国際遺跡研究室長　庄田慎矢　他	Bayesian analyses of direct radiocarbon dates reveal geographic variations in the rate of rice farming dispersal in prehistoric Japan	Science Advances	American Association for the Advancement of Science	4 月	有
3	同上	企画調整部国際遺跡研究室長　庄田慎矢　他	Отпечатки проса на керамике раннего железного века из кургана Тортоба в Западном Казахстане	Қазақстан археологиясы	Институт археологии им. А. Х. Маргулана	12 月 19 日	有
4	同上	企画調整部国際遺跡研究室長　庄田慎矢　他	平城宮東院地区出土土器および土壌の残存脂質分析	奈良文化財研究所紀要 2022	奈良文化財研究所	6 月	無
5	同上	企画調整部国際遺跡研究室長　庄田慎矢　他	古代遺跡出土の磨痕石に遺された残存脂質	奈良文化財研究所紀要 2022	奈良文化財研究所	6 月	無
6	同上	企画調整部国際遺跡研究室長　庄田慎矢　他	混合モデルを用いた土器残存脂質における植物質食料の寄与度の評価	中国新石器時代文明の探求	六一書房	5 年 3 月 20 日	無
7	同上	企画調整部国際遺跡研究室長　庄田慎矢　他	Lipid residues in ancient pastoralist pottery from Kazakhstan reveal regional differences in cooking practices	Frontiers in Ecology and Evolution	Frontiers	11 月 10 日	有

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　25件

○調査研究成果の発信　0件

○文化財情報基盤の整備・充実　25件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	同上	企画調整部主任研究員 高田 祐一	SNS 等を活用したオープンな情報発信	令和 3 年度小豆島大坂城石垣石丁場調査概報	小豆島石丁場調査団	5 月 31 日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
2	同上	企画調整部主任研究員 高田 祐一	小瀬原石丁場の文字刻印	令和3年度小豆島大坂城石垣石丁場調査概報	小豆島石丁場調査団	5月31日	無
3	同上	企画調整部主任研究員 高田 祐一	小瀬原石丁場における水中調査	令和3年度小豆島大坂城石垣石丁場調査概報	小豆島石丁場調査団	5月31日	無
4	同上	企画調整部主任研究員 高田 祐一	3Dデータを活用した石垣石材刻印の検出法	奈良文化財研究所紀要2022	奈良文化財研究所	6月30日	無
5	同上	企画調整部アソシエイトフェロー吳 修喆	科学技術社会論の視点からみる文化財多言語化ー多言語化木簡リーフレットのプロデュースを例にー	奈良文化財研究所紀要2022	奈良文化財研究所	6月30日	無
6	同上	企画調整部アソシエイトフェロー扈 素妍	韓国における文化財用語　醇化に関する断想概要	奈良文化財研究所紀要2022	奈良文化財研究所	6月30日	無
7	同上	企画調整部主任研究員 高田祐一、企画調整部アソシエイトフェロー Peter Yanase、 Franco Niccolucci	Integrating the Japanese Archaeological Dataset into the ARIADNEplus Data Infrastructure	Digital Humanities 2022: Conference Abstracts	DH2022 Local Organizing Committee	7月31日	有
8	同上	企画調整部主任研究員 高田 祐一	スマホLiDARによる文化財調査―ワークフロー確立に向けた基礎整理―	奈良文化財研究所研究報告 ： デジタル技術による文化財情報の記録と利活用5	奈良文化財研究所	5年1月31日	無
9	同上	企画調整部主任研究員 高田 祐一	文化財3Dモデルをインターネットで公開する―歴史系博物館・埋蔵文化財センター等のsketchfab 開設状況―	奈良文化財研究所研究報告 ： デジタル技術による文化財情報の記録と利活用5	奈良文化財研究所	5年1月31日	無
10	同上	企画調整部主任研究員 高田 祐一	3D技術を活用した石材刻印の可視化手法―CloudCompareで見えない線刻を鮮明化する	奈良文化財研究所研究報告 ： デジタル技術による文化財情報の記録と利活用5	奈良文化財研究所	5年1月31日	無
11	同上	企画調整部主任研究員 高田 祐一	SNS利用で効果的に情報発信力を強化する―歴史系博物館・埋蔵文化財センター等のTwitter 開設状況―	奈良文化財研究所研究報告 ： デジタル技術による文化財情報の記録と利活用5	奈良文化財研究所	5年1月31日	無
12	同上	企画調整部主任研究員 高田 祐一	学生座談会「コロナ禍は、学生の文献収集活動にどう影響を与えたか？ 次世代の調査研究環境のあり方を考える」	奈良文化財研究所研究報告 ： デジタル技術による文化財情報の記録と利活用5	奈良文化財研究所	5年1月31日	無
13	同上	企画調整部主任研究員 高田 祐一	2022年度数字で見る全国遺跡報告総覧	奈良文化財研究所研究報告 ： デジタル技術による文化財情報の記録と利活用5	奈良文化財研究所	5年1月31日	無
14	同上	企画調整部アソシエイトフェロー吳 修喆	文化財を「翻訳」する（三）：練習問題と参考資料	文化財多言語化研究報告3	奈良文化財研究所	5年3月17日	無
15	同上	企画調整部アソシエイトフェロー扈 素妍	「文化財」から「国家遺産」へ：韓国における文化遺産体制の変化	文化財多言語化研究報告3	奈良文化財研究所	5年3月17日	無
16	同上	企画調整部アソシエイトフェロー扈 素妍	韓国における「都城」の英訳考：UNESCO 世界文化遺産の ICOMOS 評価書を中心に	文化財多言語化研究報告3	奈良文化財研究所	5年3月17日	無
17	同上	企画調整部アソシエイトフェローPeter Yanase	文化財多言語化のためのPython入門：韓国語の形態素解析	文化財多言語化研究報告3	奈良文化財研究所	5年3月17日	無
18	同上	企画調整部アソシエイトフェロー吳 修喆	文化財中訳スタイル・マニュアル：約物編	文化財多言語化研究報告3	奈良文化財研究所	5年3月17日	無
19	同上	企画調整部アソシエイトフェロー扈 素妍	文化財韓訳スタイル・マニュアル：約物編	文化財多言語化研究報告3	奈良文化財研究所	5年3月17日	無
20	同上	企画調整部アソシエイトフェローPeter Yanase	文化財多言語化のための英文タイポグラフィ入門	文化財多言語化研究報告3	奈良文化財研究所	5年3月17日	無
21	同上	企画調整部アソシエイトフェローPeter Yanase、Rebekah Harmon	文化財英訳スタイル・マニュアル（英語版）	文化財多言語化研究報告3	奈良文化財研究所	5年3月17日	無
22	同上	企画調整部主任研究員 高田 祐一	日本の遺跡情報を国際連携する：ARIADNE と SEADDA	文化財多言語化研究報告3	奈良文化財研究所	5年3月17日	無
23	文化財情報のデジタルアーカイブに関する実践研究	企画調整部主任研究員 高田 祐一、武内 樹治	日本全国における文化財オープンデータの現状と課題	デジタルアーカイブ学会誌	デジタルアーカイブ学会	5月6日	有
24	同上	企画調整部主任研究員 高田 祐一	日本考古学協会セッションアフタートーク「考古学・埋蔵文化財情報のオープン化のなぜ？誰が？どうやって？」」－	奈良文化財研究所研究報告 ： デジタル技術による文化財情報の記録と利活用5	奈良文化財研究所	5年1月31日	無
25	同上	企画調整部主任研究員 高田 祐一	デジタル時代の発掘調査報告書のあり方―オンライン3D報告書を考える―	奈良文化財研究所研究報告 ： デジタル技術による文化財情報の記録と利活用5	奈良文化財研究所	5年1月31日	無

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　0件

c-⑥ 調査研究刊行物一覧

令和5年3月31日現在

【本部文化財活用センター】

○調査研究刊行物　1件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	2021年度ぶんかつアウトリーチプログラム報告書	300	文化庁、首都圏小中学校、都道府県教育委員会、都道府県教育センター、国内の美術館・博物館等

【本部文化財防災センター】

○調査研究刊行物　1件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	令和3年度文化財防災センター年次報告書	400	連携協力機関、関係者・協力者等 （奈良文化財研究所「全国遺跡報告総覧」を通じて、WEB上にて公開）

【東京国立博物館】

○調査研究刊行物　4件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	「MUSEUM」697～702号（6冊）	各1,800	美術館・博物館・大学・研究所等
2	「東京国立博物館紀要」58号	500	美術館・博物館・大学・研究所等
3	「東京国立博物館文化財修理報告」23	—	ウェブ公開
4	「法隆寺献納宝物特別調査概報」XLII(42)　竜首水瓶（令和3年度PDF制作、令和4年度刊行）	400	美術館・博物館・大学・研究所等

○展覧会図録等　20件

	刊　行　物　名		発行部数	配　　布　　先
1	特別展図録	特別展　沖縄復帰50年記念『琉球』	—	—
2		特別展　『国宝　東京国立博物館のすべて』	—	
3		特別企画『大安寺の仏像』	13,000	来館者無料配布、美術館・博物館・大学・研究所、関係者等
4		特別展　『東福寺』	—	—
5	特集展示 そのほか	150年特集「東京国立博物館の近世仏画―伝統と変奏―」リーフレット	3,000	来館者無料配布、ウェブ公開
6		150年特集「親と子のギャラリー 翼と羽」リーフレット	3,000	来館者無料配布、ウェブ公開
7		150年特集「時代を語る洋画たち」リーフレット	3,000	来館者無料配布、ウェブ公開
8		150年特集「東博のガラスコレクション」リーフレット	3,000	来館者無料配布、ウェブ公開
9		150年特集「チベット仏教の美術」リーフレット	3,000	来館者無料配布、ウェブ公開
10		150年特集「大谷探検隊と古代裂」リーフレット	3,000	来館者無料配布、ウェブ公開
11		150年特集「イスラーム陶器」リーフレット	3,000	来館者無料配布、ウェブ公開
12		150年特集「天下一号を授かった面打」リーフレット	3,000	来館者無料配布、ウェブ公開
13		150年特集「はにわ展から50年」リーフレット	3,000	来館者無料配布、ウェブ公開
14		「博物館で初もうで　兎にも角にもうさぎ年」リーフレット	3,000	来館者無料配布、ウェブ公開
15		『博物館でアジアの旅　アジア大発見！』	2,000	関係機関・協力先等
16		『東京国立博物館セレクション　絵巻』	2,000	関係機関・協力先等
17		修理記念報告書　『五馬図巻』	1,500	関係機関・協力先等
18		『続 根付　高円宮コレクション』	3,300	関係機関・協力先等
19		150年特集『東京国立博物館の模写・模造』	2,000	関係機関・協力先等
20		『東京国立博物館 考古展示室へいこう』（考古展示室ガイドブック）	2,000	関係機関・協力先等

【京都国立博物館】

○調査研究刊行物　3件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	研究紀要「学叢」第44号	800	美術館・博物館・大学等
2	文化財保存修理所　修理報告書20	450	美術館・博物館・図書館・大学・研究機関・教育委員会等
3	社寺調査報告32　観心寺〈彫刻編〉	500	美術館・博物館・図書館・大学・研究機関・教育委員会等

○展覧会図録等　　6件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	伝教大師1200年大遠忌記念　特別展　最澄と天台宗のすべて	—	美術館・博物館・大学等
2	特別展　河内長野の霊地 観心寺と金剛寺―真言密教と南朝の遺産―	3,000	同上
3	特別展　京に生きる文化　茶の湯	—	同上
4	親鸞聖人生誕850年特別展　親鸞―生涯と名宝	—	同上
5	特集展示　新発見！蕪村の「奥の細道図巻」　リーフレット	8,000	来館者無料配布、ウェブ公開
6	特別公開　特別公開　熊本・宮崎の古墳文化―石人と貝輪―　リーフレット	13,000	同上
7	特集展示　雛まつりと人形　リーフレット	4,500	同上

※博物館だより、Newsletterの発行数については「1-(3)-②-6 広報刊行物一覧」参照

【奈良国立博物館】

○調査研究刊行物　　2件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	奈良国立博物館研究紀要「鹿園雑集」第25号	700	美術館・博物館・大学・研究機関等
2	奈良国立博物館 文化財保存修理所 修理報告書 第5号	650	美術館・博物館・大学・研究機関等・教育委員会等

○展覧会図録等　　7件

	刊　行　物　名		発行部数	配　　布　　先
1	特別展	『特別展　大安寺のすべて―天平のみほとけと祈り―』	1,800	美術館・博物館・大学・研究機関等
2	特別展	『貞享本當麻曼荼羅修理完成記念　特別展　中将姫と當麻曼荼羅　―祈りが紡ぐものがたり―』	1,830	美術館・博物館・大学・研究機関等
3	特別陳列	『わくわくびじゅつギャラリー はっけん！ほとけさまのかたち』	1,300	美術館・博物館・大学・研究機関等
4	特別展	『第74回正倉院展』	2,350	美術館・博物館・大学・研究機関等
5	特別展	『The 74th Annual Exhibition of Shoso-in Treasures』	960	美術館・博物館・大学・研究機関等
6	特別展	『式年造替記念特別展　春日大社　若宮国宝展―祈りの王朝文化―』	1,940	美術館・博物館・大学・研究機関等
7	特別公開	特別公開　奈良・不退寺本尊　聖観音菩薩立像	5,000	来館者等無料配布

※博物館だよりの発行数については「1-(3)-②-6 広報刊行物一覧」参照

【九州国立博物館】

○調査研究刊行物　　2件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	九州国立博物館　研究紀要『東風西声』第18号	900	美術館・博物館・大学・研究機関等
2	九州国立博物館　文化財修復報告　第5号（平成25年度～平成27年度）	600	文化財所有者・博物館・行政機関・研究機関等

○展覧会図録等　　6件

	刊　行　物　名		発行部数	配　　布　　先
1	特別展	特別展『北斎』	5,000	博物館・美術館・大学・研究機関等
2	特別展	沖縄復帰50年記念特別展『琉球』	1,400	博物館・美術館・大学・研究機関等
3	特別展	特別展『ポンペイ』	1,200	博物館・美術館・大学・研究機関等
4	特別展	特別展『加耶』	1,100	博物館・美術館・大学・研究機関等
5	特集展示等	特集展示『御所の器　公家山科家伝来の古伊万里』	1,500	博物館・美術館・大学・研究機関等
6	特集展示等	特集展示『種子島　風と波が育んだ歴史』	1,400	博物館・美術館・大学・研究機関等

※アジアージュの発行数については「1-(3)-②-6 広報刊行物一覧」参照

【東京文化財研究所】

○調査研究刊行物

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　　6件

・有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究　1件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	『妙法寺蔵 与謝蕪村筆寒山拾得図襖　共同研究報告書』	700	大学・研究機関・教育委員会・博物館・美術館・図書館等

・無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査及び研究　5件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	第15回東京文化財研究所 無形文化遺産部 公開学術講座「樹木利用の文化　桜をつかう、桜を奏でる」	250	大学・研究機関・教育委員会・図書館等、ウェブ公開

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
2	【シリーズ】無形文化遺産と新型コロナウイルス　フォーラム4「伝統芸能と新型コロナウイルス―これからの普及・継承―」報告書	100	大学・研究機関・教育委員会・図書館等、ウェブ公開
3	「肥後琵琶の伝承および関連資料の現状調査」報告書	200	大学・研究機関・教育委員会・図書館等、ウェブ公開
4	Techniques that support Japanse Performing Arts 1:Biwa（琵琶パンフ英語版）	200	大学・研究機関・教育委員会・図書館等、ウェブ公開
5	無形文化遺産（伝統技術）の伝承に関する研究会Ⅳ「型紙と型染」報告書	300	大学・研究機関・教育委員会・図書館等

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　　8 件

・文化財の調査手法に関する研究開発の推進　5件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	『宮内庁三の丸尚蔵館所蔵 国宝 絹本著色 春日権現験記絵 巻十三・巻十四 光学調査報告書』	500	大学・研究機関、図書館等
2	『扇面法華経―光学調査報告書 カラー写真編』	600	大学・研究機関、図書館等
3	『扇面法華経―光学調査報告書 近紫外線写真・蛍光写真・近赤外線写真編』	600	大学・研究機関、図書館等
4	『国宝 法華経（久能寺経） 光学調査報告書』	600	大学・研究機関、図書館等
5	『ものの記憶―読み解き・伝え・遺す― 色彩編』	600	大学・研究機関、図書館等

・文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　3件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	『国宝久能寺経　光学調査報告書』	600	大学・研究機関・教育委員会・博物館・美術館・図書館等
2	『国宝扇面法華経冊子　光学調査報告書　―蛍光Ｘ線分析編―』	600	大学・研究機関・教育委員会・博物館・美術館・図書館等
3	『Conservation and Restoration of Internal Features』	200	大学・研究機関・博物館・研究者等

(3) 文化遺産保護に関する国際協働　　15 件

・文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進　15件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	令和4年度世界遺産研究協議会　文化財としての「景観」を問いなおす	PDF	官公庁、自治体、国際機関等
2	各国の文化財保護法令シリーズ［27］ドイツ	100	官公庁、図書館等
3	ブータンの伝統的石造民家建築保存のための予備調査　概報	PDF	ブータン内務文化省、事業関係者等
4	アジア諸国等文化遺産保存修復協力　令和４年度事業成果報告書	50	外部評価委員会、事業関係者等
5	Research Project on Stucco Decoration and Clay Statues	60	外部評価委員会、研究機関、関係団体等
6	トルコ共和国における事前調査報告書－文化財保存修復に係る共同研究の確立を目指して－	40	外部評価委員会、研究機関、関係団体等
7	International Course on Conservation of Japanese Paper: Evaluation 2022 /国際研修「紙の保存と修復」評価2022	150	関係者・関係機関等
8	第31回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会「技術から見た国際協力のかたち」（日本語版）	200	大学・研究機関・図書館等
9	第31回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会「技術から見た国際協力のかたち」（英語版）	200	大学・研究機関・図書館等
10	第32回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会「中央ヨーロッパにおける文化遺産国際協力のこれまでとこれから」（日本語版）	200	大学・研究機関・図書館等
11	文化遺産国際協力コンソーシアム令和4年度国際協力調査　欧州における複数国協力体制およびウクライナ支援動向に関する調査報告書（日本語版）	200	大学・研究機関・図書館等
12	令和4年度文化遺産国際協力コンソーシアムシンポジウム　気候変動と文化遺産－いま、何が起きているのか－（日本語版）	200	大学・研究機関・図書館等
13	令和3年度文化遺産国際協力コンソーシアムシンポジウム　海と文化遺産ー海が繋ぐヒトとモノ（英語版）	200	大学・研究機関・図書館等
14	第30回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会　文化遺産×市民参画=マルチアクターによる国際協力の可能性（英語版）	200	大学・研究機関・図書館等
15	文化遺産国際協力コンソーシアム　パンフレット	1000	関係機関・一般

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　　12 件

・調査研究成果の発信 12件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	『東京文化財研究所年報』2021年度版	400	博物館・美術館・大学・研究機関等
2	『東京文化財研究所概要』2022年度版	2,700	博物館・美術館・大学・研究機関等
3	『東文研ニュース』78号	1,400	博物館・美術館・大学・研究機関等
4	『東文研ニュース』79号	1,400	博物館・美術館・大学・研究機関等
5	『令和2年版　日本美術年鑑』	600	大学・研究機関、図書館等
6	『美術研究』437号	400	大学・研究機関、図書館等
7	『美術研究』438号	400	大学・研究機関、図書館等
8	『美術研究』439号	400	大学・研究機関、図書館等
9	『無形文化遺産研究報告』第17号	300	博物館・美術館・大学・研究機関等

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
10	『第17回無形民俗文化財研究協議会報告書』	600	博物館・美術館・大学・研究機関等
11	『保存科学』62号	600	博物館・美術館・図書館・大学・研究機関等
12	『タイ・バンコク所在王室第一級寺院　ワット・ラーチャプラディットの漆扉』	1,000	博物館・美術館・大学・研究機関等

【奈良文化財研究所】

○調査研究刊行物

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　　8件

・有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究　1件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	『松江市内社寺建築詳細調査報告書』	600	大学・研究機関・教育委員会・図書館等

・記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究　7件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	『移築された遺跡由来の遺構および石造物の現状と課題　令和３年度 遺跡整備・活用研究集会報告書』	500	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
2	藤原宮大極殿院の調査　飛鳥藤原第 210 次調査　現地見学会資料	2,000	現地見学者来場者・一般
3	平城宮発掘調査出土木簡概報（四十六）	600	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
4	第 25 回古代官衙・集落研究会報告書　古代集落の構造と変遷 2（奈良文化財研究所研究報告 36 冊）	600	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
5	第 26 回古代官衙・集落研究集会 古代集落の構造と変遷 3 研究報告資料	180	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
6	古代但馬国関係出土文字資料集成（本文編）（図版編）	700	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
7	『第 22 回シンポジウム「奈良末～平安初期の軒瓦」』発表要旨	400	大学・研究機関・教育委員会・図書館等

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　　1 件

・文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　1件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	文化財をしらべる・まもる・いかす　ー国立文化財機構　保存・修復の最前線ー	―	一般書籍

(3) 文化遺産保護に関する国際協働　　0 件

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　　15件

・文化財情報基盤の整備・充実　6件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	奈良文化財研究所研究報告 : デジタル技術による 文化財情報の記録と利活用 5	50	電子公開
2	文化財多言語化研究報告3	650	研究機関・教育委員会・図書館等
3	NABUNKEN : A Walk Around the Institute（巡訪研究室―奈文研へのご招待―）	110	電子公開
4	巡访研究室 ―来自奈文研的邀请― (NABUNKEN: A Walk Around the Institute / 巡訪研究室―奈文研へのご招待―)	110	電子公開
5	巡訪研究室 ―來自奈文研的邀請― (NABUNKEN: A Walk Around the Institute / 巡訪研究室―奈文研へのご招待)	110	電子公開
6	순방연구실 ―나라문화재연구소로부터의 초대― (NABUNKEN: A Walk Around the Institute / 巡訪研究室―奈文研へのご招待―)	110	電子公開

・調査研究成果の発信　4件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	奈良文化財研究所紀要2022	2,600	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
2	奈良文化財研究所概要2022	2,000	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
3	『奈文研ニュース』No.85～No.88	各2,200	大学・研究機関
4	文化財論叢Ⅴ　奈良文化財研究所創立70周年記念論文集　奈良文化財研究所学報第102冊	550	大学・研究機関・教育委員会・図書館等

・展示公開施設の充実　5件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	春期特別展『未来につなぐ平城宮跡 ー保存運動のあけぼのー』図録	3,000	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
2	秋期特別展『地下の正倉院展ー平城木簡年代記〔クロニクル〕ー』図録	3,000	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
3	秋期特別展『のこった奇跡のこした軌跡ー未来につなぐ平城宮跡ー』	3,000	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
4	飛鳥資料館図録第75冊『飛鳥美人　高松塚古墳の魅力』	1,800	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
5	飛鳥資料館カタログ第39冊『飛鳥の考古学2022』	1,800	大学・研究機関・教育委員会・図書館等

(5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等　　0件

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】

○調査研究刊行物　　5件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	『IRCI概要2022(日本語版)』	600 データ版でも公開	ユネスコ関係、研究協力依頼機関等
2	『IRCI概要2022(英語版)』	600 データ版でも公開	ユネスコ関係、研究協力依頼機関等
3	Research on ICH Affected by the COVID-19 Pandemic: 'A Preliminary Report of the Questionnaire-Based Survey Conducted in FY 2021'	－ データ版のみ公開	※ウェブ公開
4	『IRCIリーフレット（英語版）』	1,000 データ版でも公開	ユネスコ関係、研究協力依頼機関等
5	『IRCIリーフレット（日本語版）』	1,000 データ版でも公開	ユネスコ関係、研究協力依頼機関等

c-⑦ 科学研究費助成事業による調査研究

令和5年3月31日現在

件数	国立文化財機構計	博物館					文化財研究所			アジア太平洋無形文化遺産研究センター
		計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	
合計	176	67	41	10	5	11	109	36	72	1
科学研究費補助金のみ	52	21	11	4	2	4	31	10	21	0
学術研究助成基金助成金のみ	124	46	30	6	3	7	78	26	51	1
科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※各施設に所属する研究員が研究代表者として交付された研究課題のみ記載している。（日本学術振興会特別研究員を除く）
※科学研究費助成事業の研究分担者等として参画しているものについてはc①2）他機関の共同研究への参画実績参照
※科学研究費の交付決定額には間接経費を含む。

【東京国立博物館】

1）科学研究費補助金のみ　11件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額（千円）
1	近世狩野派を中心とした図様継承と絵画制作システムに関する研究	田沢裕賀	研究員	基盤研究(A)【令和3年度繰越】	1,150
2	能狂言面の制作年代および作者に関する総合的研究	浅見龍介	学芸企画部長	基盤研究(B)【令和3年度繰越】	885
3	能狂言面の制作年代および作者に関する総合的研究	浅見龍介	学芸企画部長	基盤研究(B)	2,080
4	失われた古代・中世絵巻の復原的研究―作品伝来情報の検討から―	土屋貴裕	学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室長	基盤研究(B)	3,120
5	中国書画における題跋等の付属資料に関する総合的研究	富田　淳	副館長	基盤研究(B)	3,250
6	ユーラシア草原地帯と東アジアの青銅器と鋳造技術の比較研究	高浜　秀	客員研究員	基盤研究(B)【令和3年度繰越】	3,346
7	ユーラシア草原地帯と東アジアの青銅器と鋳造技術の比較研究	高浜　秀	客員研究員	基盤研究(B)	4,160
8	輸送中の振動を受ける美術品の蓄積疲労予測システムの理論構築	和田　浩	学芸研究部保存修復課長	基盤研究(B)【令和3年度繰越】	900
9	輸送中の振動を受ける美術品の蓄積疲労予測システムの理論構築	和田　浩	学芸研究部保存修復課長	基盤研究(B)	2,470
10	3Dマルチ入力・マルチ出力土器分類DLモデルの開発研究	山本　亮	学芸研究部調査研究課考古室研究員	学術変革領域研究(A)	2,600
11	茶の湯の歴史を問い直す－創られた伝説から真実へ	三笠 景子	学芸企画部企画課出版企画室主任研究員	研究成果公開促進費（学術図書）	2,400

2）学術研究助成基金助成金のみ　30件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	中世律宗絵画に関する基礎的研究	瀬谷　愛	学芸研究部保存修復課保存修復室長	基盤研究(C)	0	4,420〈平成30～5年度〉
2	礼拝像・祭具制作における素材選択の心性史：材質とその聖性の喧伝に関する調査・研究	児島大輔	学芸研究部調査研究課東洋室主任研究員	基盤研究(C)	0	4,420〈平成30～5年度〉
3	文書・典籍料紙における繊維の再利用に関する基礎的研究	高橋 裕次	客員研究員	基盤研究(C)	650	2,210〈元～5年度〉
4	縄文時代の地域間交流の研究－CADを用いた土器容量の比較－	井出 浩正	学芸研究部調査研究課考古室長	基盤研究(C)	0	4,160〈元～5年度〉
5	白描図像の分析から帰納する仏画研究―玄証本を起点に―	古川　攝一	学芸研究部列品管理課平常展調整室研究員	基盤研究(C)	780	4,290〈元～4年度〉
6	藤原定家の和歌に基づく「定家詠十二ヶ月和歌花鳥図」の歴史的展開の解明	遠藤　楽子	学芸企画部博物館情報課情報資料室主任研究員	基盤研究(C)	390	4,420〈2～6年度〉
7	仏教儀礼的観点に基づく明兆作品の総合的研究	高橋　真作	学芸企画部企画課特別展室研究員	基盤研究(C)	780	4,420〈2～6年度〉
8	高精細複製絵画による屏風絵を中心とする実験的展示照明による基盤的理論の構築	松嶋　雅人	学芸研究部調査研究課長	基盤研究(C)	1,170	4,160〈2～5年度〉

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
9	東アジアの宮廷工芸に関する物質文化研究－相対的文化史観に基づいて－	猪熊　兼樹	学芸企画部企画課特別展室長	基盤研究(C)	910	4,160 〈2～4年度〉
10	海外博物館の日本美術展示にみる現代「日本」観の研究	鬼頭　智美	学芸企画部上席研究員	基盤研究(C)	1,170	4,290 〈2～5年度〉
11	中国と日本の書画における表装文化の総合的研究	鍋島　稲子	客員研究員	基盤研究(C)	1,560	4,160 〈3～5年度〉
12	明治初期宝物調査資料の収集整理による書の鑑賞・受容の歴史に関する研究	恵美　千鶴子	学芸企画部百五十年史編纂室長	基盤研究(C)	1,170	3,900 〈3～5年度〉
13	高精細スキャナー画像を活用した日本刀の研究	佐藤　寛介	学芸研究部列品管理課登録室長	基盤研究(C)	260	2,600 〈3～7年度〉
14	X線断層写真(CT)を用いた乾漆技法の研究	丸山　士郎	学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室研究員	基盤研究(C)	910	4,160 〈3～7年度〉
15	大谷探検隊将来品を中心とした西域美術の再評価に関する研究	勝木　言一郎	学芸研究部上席研究員	基盤研究(C)	1,300	4,160 〈3～5年度〉
16	高精細X線CTスキャナ活用を中心とする古代中国の封泥の作成方法に関する総合的研究	谷　豊信	客員研究員	基盤研究(C)	1,170	4,160 〈3～5年度〉
17	パレスチナ沿岸地域に展開した古代の覇権主義勢力と在地社会に関する考古学的研究	小野塚　拓造	学芸研究部列品管理課平常展調整室主任研究員	基盤研究(C)	1,560	4,030 〈3～5年度〉
18	中世の神仏習合における仏教彫刻に関する研究	増田　政史	学芸研究部列品管理課平常展調整室研究員	基盤研（C）	1,170	2,470 〈4～6年度〉
19	保存環境と鑑賞環境が調和した次世代型の展示照明の構築に向けた基礎的研究	黄川田　翔	学芸研究部保存修復課環境保存室研究員	基盤研（C）	1,950	3,770 〈4～6年度〉
20	16・17世紀中国江南地域における旅行と絵画の関係についての事例研究	植松　瑞希	学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室主任研究員	若手研究(B)	0	3,250 〈平成29～5年度〉
21	江戸時代後期における風景表現に関する研究	大橋　美織	学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室研究員	若手研究	0	4,030 〈平成30～5年度〉
22	農工具からみた古代東アジアにおける技術交流の研究	河野　正訓	学芸企画部企画課特別展室主任研究員	若手研究	0	2,080 〈平成30～5年度〉
23	黒染め染織文化財に対する脱酸化・抗酸化・強化処置法の開発	佐藤 萌	学芸研究部保存修復課保存修復室研究員	若手研究	0	3,900 〈平成30～5年度〉
24	日本陶磁における金銀彩の特殊性について	三笠 景子	学芸企画部企画課出版企画室主任研究員	若手研究	0	2,080 〈元～4年度〉
25	ICT技術を用いた個人的コンテキストに応じた展示解説の研究	中村 麻友美	学芸企画部博物館教育課教育普及室研究員	若手研究	0	3,900 〈元～5年度〉
26	天台宗における仏像の模刻と信仰上の意義	西木　政統	学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室研究員	若手研究	910	4,290 〈2～5年度〉
27	瀟湘八景の受容研究　絵画・建築・庭園	武　瀟瀟	学芸企画部企画課アソシエイトフェロー	若手研究	780	3,250 〈3～6年度〉
28	フィンランドを事例とした多文化共生のためのミュージアムの教育機能	山本　桃子	学芸企画部博物館教育課アソシエイトフェロー	若手研究	0	4,290 〈元～5年度〉
29	地中海世界の大転換期（前12世紀～前10世紀）と「フェニキア人」の出現	小野塚　拓造	学芸研究部列品管理課平常展調整室主任研究員	国際共同研究強化(A)	0	15,210 〈2～5年度〉
30	古代壁画物理モデル構築に向けての探索的研究	和田　浩	学芸研究部保存修復課長	挑戦的研究（萌芽）	1,690	6,240 〈4～6年度〉

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　0件

【京都国立博物館】

1）科学研究費補助金のみ　4件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	高雄曼荼羅の復元と空海の造形観の研究	松本　伸之	館長	基盤研究（A）	4,030
2	備前児島の野崎家に伝わる文化財の総合調査：塩田王の美術コレクション	永島　明子	学芸部教育室長	基盤研究（A）	12,480
3	埴輪生産組織の構造分析と古代手工業論による古墳時代日韓交渉史再構築の基礎的研究	古谷　毅	研究員	基盤研究（B）	2,730
4	博物館史資料アーカイブズを活用したメタ文化財情報構築の検討	羽田　聡	学芸部美術室長	基盤研究（B）	4,680

2）学術研究助成基金助成金のみ　6件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	近世期に作成された、書画の「極書」に関する基礎的研究	福士　雄也	学芸部保存修理指導室主任研究員	若手研究（B）	0	3,770 〈平成28～4年度〉

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
2	思渓版大蔵経刊行実態の解明－目録と遣例による実証的研究－	上杉　智英	学芸部美術室研究員	若手研究（B）	0	3,900（平成28～4年度）
3	中国の王朝交替期における絵画動向をめぐって―宋代以後の遺民画家の作例を中心に	森橋　なつみ	学芸部連携協力室研究員	若手研究（B）	0	4,030（平成28～4年度）
4	藤原宮造営に伴う造瓦の新技術とその導入経路に関する総合的研究	石田　由紀子	学芸部考古室長	基盤研究（C）	0	9,100（平成30～4年度）
5	御室仁清窯跡出土陶片の科学的特徴―野々村仁清が受容した生産技術と陶工必用―	降幡　順子	学芸部保存科学室長	基盤研究（C）	910	4,290（令和2～5年度）
6	仏教における伝法衣一染織史および心性史の視座からの考察ー	山川　暁	学芸部企画室長	基盤研究（C）	650	1,560（令和4～6年度）

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　0件

【奈良国立博物館】

1）科学研究費補助金のみ　2件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	明治時代の文化財保護法制と帝国博物館の成立に関する総合的研究	宮崎　幹子	学芸部情報サービス室長	基盤研究（B）	3,120
2	古写真・絵はがき・売立目録をもちいた仏像彫刻の研究―奈良地方の作品を中心に―	山口　隆介	学芸部企画室主任研究員	若手研究	3,400

2）学術研究助成基金助成金のみ　3件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	叡尊・忍性による中世的救済ネットワークの研究	吉澤　悟	学芸部長	基盤研究（C）	0	2,990〈平成29～4年度〉（補助事業期間延長）
2	密教聖教に基づく護国修法の基礎的研究	斎木　涼子	学芸部列品室長	若手研究（B）	0	1,560〈平成29～4年度〉（補助事業期間延長）
3	仏師快慶の工房制作と分業体制に関する基礎的研究-三尺阿弥陀を中心に-	山口　隆介	学芸部企画室主任研究員	若手研究	0	4,030〈平成30～4年度〉（補助事業期間延長）

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　0件

【九州国立博物館】

1）科学研究費補助金のみ　4件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	東南アジアにおける聖地誕生の諸相：古代から近世にいたる仏教文化交流網の研究	小泉　惠英	副館長	基盤研究（B）	4,160
2	博物館等の展示収蔵環境の有機酸等VOCs低減に向けた現場システムの構築	木川　りか	学芸部博物館科学課長	基盤研究（B）	5,850
3	在外日本美術の保存修復技法の比較調査と国際的な保存活用に向けて	島谷　弘幸	館長	基盤研究（B）	4,030
4	統計的画像処理と機械学習を併用した文化財のデジタル復元技術の基盤創出	河野　一隆	学芸部長	基盤研究（B）	9,490

2）学術研究助成基金助成金のみ　7件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	名物裂を中心とした日本伝世古渡裂の歴史的・技法的成立過程を探る研究	桑原　有寿子	学芸部企画課・研究員	若手研究	650	4,160〈2～5年度〉
2	中国製鎗金器の基盤的研究-東アジアにおける漆器の相互的影響-	川畑　憲子	学芸部企画課特別展室長	基盤研究（C）	780	4,030〈3～7年度〉
3	近世大名家伝来コレクションの基礎的研究-松浦家コレクションの分析を通じて-	松浦　晃佑	学芸部文化財課資料登録室研究員	基盤研究（C）	520	2,860〈3～7年度〉
4	九州の古墳出土ベンガラの流通に関する実証的研究	志賀　智史	学芸部博物館課保存修復室長	基盤研究（C）	910	2,860〈3～5年度〉
5	人類遺産としての先史壁画の保存と公開活用にむけた研究基盤の確立	河野　一隆	学芸部長	国際共同研究強化(B)	3,835	18,330〈元～5年度〉

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額 （千円）〈研究期間〉
6	数理モデルと非破壊評価法に基づく文化財害虫の検出精度の向上	渡辺　祐基	博物館科学課・研究員	若手研究	1,430	4,550〈4～6年度〉
7	文化財デジタル復元のための統計的画像処理および機械学習技術の創出	河野　一隆	学芸部長	挑戦的研究（萌芽）	1,430	6,240〈4～6年度〉

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　0件

【東京文化財研究所】

1）科学研究費補助金のみ　10件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	アジア螺鈿文化交流史の構築―物質文化史の視点から	小林　公治	文化財情報資料部　研究員	基盤研究(A)	8,320
2	酒呑童子絵巻の研究	江村　知子	文化財情報資料部長	基盤研究(B)	10,920
3	絵画に使用された絹・自然布の非破壊分析方法の開発と製法・修復に関する総合的調査	早川　典子	保存科学研究センター修復材料研究室長	基盤研究(B)	1,690
4	ポンペイ遺跡壁画における無機物を主体とした保存修復材料による補強技法の確立	前川　佳文	文化遺産国際協力センター主任研究員	基盤研究(B)	2,990
5	白鳳時代の壁画の構造と材料に関する研究	犬塚　将英	保存科学研究センター分析化学研究室長	基盤研究(B)	1,820
6	紙文化財補修用材料としての高機能化楮繊維の開発	稲葉　政満	無形文化遺産部　客員研究員	基盤研究(B)	9,100
7	イラン東部へのウルク文化の拡大に関する考古学的研究	安倍　雅史	文化遺産国際協力センター主任研究員	新学術領域研究(研究領域提案型)	2,600
8	日本の無形文化遺産保護におけるジェンダーに関する研究	久保田　裕道	無形文化遺産部　無形民俗文化財研究室長	特別研究員奨励費(外国人)	300
9	旅館おかみの誕生	後藤　知美	無形文化遺産部　研究員	研究成果公開促進費（学術図書）	0
10	沖縄久高島イザイホー映像記録データベース	石村　智	無形文化遺産部　音声映像記録研究室長	研究成果公開促進費（データベース）	1,900

2）学術研究助成基金助成金のみ　26件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額 （千円）〈研究期間〉
1	常磐津節の音楽分析のための基盤研究	前原　恵美	無形文化遺産部　室長	基盤研究(C)	0	4,290（平成30～4年度）
2	ポスト１９６８年表現共同体の研究：松澤宥アーカイブズを基軸として	橘川　英規	文化財情報資料部　室長	基盤研究(C)	0	4,420（平成30～4年度）
3	鍾乳洞における照明植生を軽減する光環境に関する実験的研究	朽津　信明	保存科学研究センター　室長	基盤研究(C)	0	4,290（元～4年度）
4	様々な文化財に使用された彩色材料への赤外線画像による画的調査の検討	秋山　純子	保存科学研究センター　室長	基盤研究(C)	780	4,290（元～5年度）
5	地域文化の表象としての「箕」の形態に関する学際的研究	今石　みぎわ	無形文化遺産部　主任研究員	基盤研究(C)	650	4,290（2～4年度）
6	従属栄養性微生物の硫黄酸化と腐食性ガスの生成について	片山　葉子	保存科学研究センター　客員研究員	基盤研究(C)	1,300	4,420（2～4年度）
7	イランの乾燥地帯における農業施設の建築構法および建築技術者の存在形態に関する研究	淺田　なつみ	文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー	基盤研究(C)	780	1,950（3～5年度）
8	近現代建造物の価値評価における同時代性に着目した文化財の現状変更概念の再考	金井　健	文化遺産国際協力センター室長	基盤研究(C)	780	3,510（3～6年度）
9	ブータンにおける祭礼芸能の変容実態とその保護に関する研究	久保田　裕道	無形文化遺産部　室長	基盤研究(C)	1,560	3,770（4～6年度）
10	博物館で用いるためのサンプリングバッグによる放散試験方法の開発	古田嶋　智子	保存科学研究センター　客員研究員	基盤研究(C)	1,820	4,160（4～6年度）
11	占領期の文化財保護に関する研究－GHQの博物館概念と博物施策の展開－	境野 飛鳥	文化遺産国際協力センター客員研究員	基盤研究(C)	1,040	3,510（4～7年度）
12	シミ科未記載種の国内分布の実態調査と生態学的特徴に基づく防除方法の検討	島田　潤	保存科学研究センター　アソシエイトフェロー	基盤研究(C)	1,820	4,160（4～6年度）
13	マヤ地域の博物館における文化遺産保全と地域発展に向けた文化資源マネジメントの研究	五木田　まきは	客員研究員	若手研究	0	4,160（平成30～4年度）
14	中世日本における中国美術の受容と羅漢の作例に関する調査研究	米沢　玲	文化財情報資料部　研究員	若手研究	0	1,560（元～4年度）

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額 （千円）〈研究期間〉
15	木材からの化学物質放散挙動の解明と博物館における選定指標の提案	古田嶋　智子	保存科学研究センター　客員研究員	若手研究	0	4,160（元～4年度）
16	古典的膠の製造方法と各用途適性の体系化	宇高　健太郎	保存科学研究センター　客員研究員	若手研究	260	4,160（元～4年度）
17	南西諸島における風葬の定着過程に関する研究	牛窪　彩絢	文化遺産国際協力センター　アソシエイトフェロー	若手研究	1,430	3,770（2～4年度）
18	組積造建造物の通電による脱塩の適応可能性に関する検討	水谷　悦子	保存科学研究センター　研究員	若手研究	1,170	4,160（2～4年度）
19	初期合成染料の染色堅牢性評価と変退色挙動の検討	片渕　奈美香	文化遺産国際協力センター　アソシエイトフェロー	若手研究	1,430	3,380（3～5年度）
20	日本音楽合奏における「間」：多様な拍の伸縮をめぐって	鎌田　紗弓	無形文化遺産部　研究員	若手研究	1,820	4,550（4～6年度）
21	洪水常襲地における水害経験の地域史と災害文化形成プロセスの解明	後藤　知美	無形文化遺産部　研究員	若手研究	1,560	4,680（4～7年度）
22	近代の河川工事絵馬にみる河川管理のあり方と地域社会の接点：利根川中流域を中心に	後藤　知美	無形文化遺産部　研究員	研究活動スタート支援	1,560	3,120（3～4年度）
23	被災文化財保全のための一時保管と処置方法の最適化に向けた研究	芳賀　文絵	保存科学研究センター　研究員	研究活動スタート支援	1,430	2,860（3～4年度）
24	カジリムシ目昆虫における外部寄生性の進化に伴う形態変化の解明	島田　潤	保存科学研究センター　アソシエイトフェロー	研究活動スタート支援	1,560	3,120（3～4年度）
25	ポストコンフリクト国における文化多様性と平和構築実現のための文化遺産研究	石村　智	無形文化遺産部　室長	挑戦的研究（萌芽）	2,860	6,600（4～7年度）
26	言説分析を用いた保存修復家の職業像の研究：修復と医療の比喩をてがかりに	大川　柚佳	文化遺産国際協力センター　アソシエイトフェロー	研究活動スタート支援	780	1,430（4～5年度）

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　0件

【奈良文化財研究所】

1）科学研究費補助金のみ　21件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	植物考古学から探るイネ、雑穀、ムギ食文化の交流と変容	庄田　慎矢	企画調整部　国際遺跡研究室長	学術変革領域研究(A) 計画研究	18,460
2	木簡等の研究資源オープンデータ化を通じた参加誘発型研究スキーム確立による知の展開	馬場　基	都城発掘調査部（平城地区）史料研究室長	基盤研究（S）	22,880
3	災害で埋没した建物による民家建築史の研究	箱崎　和久	都城発掘調査部長	基盤研究（A）	8,580
4	東北アジアの農耕化過程における食と調理の変化への考古生化学的アプローチ	庄田　慎矢	企画調整部　国際遺跡研究室長	基盤研究（A）	8,320
5	南都の未整理文書聖教にもとづく寺社とその周辺社会の調査研究	吉川　聡	文化遺産部　歴史研究室長	基盤研究（B）	3,900
6	松帆銅鐸発見を契機とする銅鐸論の再構築	難波　洋三	都城発掘調査部（平城地区）　客員研究員	基盤研究（B）	2,990
7	中央アジア 天山ーパミール地域における後期旧石器文化成立過程の研究	国武　貞克	主任研究員	基盤研究（B）	3,380
8	ユーラシア東部における細石刃石器群の出現と拡散：中国北部クロスロード仮説の検証	加藤　真二	企画調整部長	基盤研究（B）	3,640
9	蛍光Ｘ線分析と鉱物組成分析による大和の古代寺院・宮都出土瓦の生産・供給体制の研究	清野　孝之	都城発掘調査部副部長	基盤研究（B）	1,300
10	埴輪の生産・流通体制の総合的検証にもとづく王権中枢部巨大古墳群造営過程の解明	廣瀬　覚	都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）　考古第一研究室長	基盤研究（B）	2,470
11	古代都城から出土する製塩土器の生産地推定	神野　恵	都城発掘調査部（平城地区）　考古第二研究室長	基盤研究（B）	3,380
12	土製鋳型を中心とした冶金関連資料による東アジア冶金史学の構築	丹羽　崇史	都城発掘調査部（平城地区）　主任研究員	基盤研究（B）	3,250
13	古建築用語の相互訳及び英訳を通した系統的把握による東アジア木造建築史の基盤構築	鈴木　智大	都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）　主任研究員	基盤研究（B）	2,990
14	古代官衙における空間構造の変遷と展開に関する実証的研究	小田　裕樹	都城発掘調査部（平城地区）　主任研究員	基盤研究（B）	1,040
15	古代における年輪年代学的木材産地推定を可能にする標準年輪曲線ネットワークの整備	星野　安治	埋蔵文化財センター　年代学研究室長	基盤研究（B）	3,120
16	平城宮跡・藤原宮跡・飛鳥宮跡における風景の再現・創造・継承に関する計画論的研究	本中　眞	所長	基盤研究（B）	7,280
17	中央アジアの雑穀をめぐる料理と物質文化の考古生化学的研究	庄田　慎矢	企画調整部　国際遺跡研究室長	特別研究員奨励費	1,200

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
18	燈謎――漢字文化圏文字遊戯の諸相	呉　修喆	企画調整部　アソシエイトフェエロー	研究成果公開促進費(学術図書)	1,200
19	全国遺跡報告総覧	高田　祐一	企画調整部　主任研究員	研究成果公開促進費（データベース）	2,000
20	歴史災害痕跡データベース	村田　泰輔	埋蔵文化財センター　主任研究員	研究成果公開促進費（データベース）	6,800
21	奈良の都の木簡に会いに行こう！２０２２	馬場　基	都城発掘調査部（平城地区）　史料研究室長	ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI	490

2）学術研究助成基金助成金のみ　51 件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	カザフスタンにおける現生人類北回り拡散ルートの解明に関する国際共同研究の基盤強化	国武　貞克	主任研究員	国際共同研究強化（B）	3,640	18,200 〈平成30～4年度〉
2	展示施設を拠点とする地域住民参加型の歴史的建造物の調査	西田　紀子	都城発掘調査部（平城地区）　主任研究員	基盤研究（C）	－	4,550 〈平成29～4年度〉
3	呪符木簡の時代的地域的特質からみた「木に文字を記す文化」の史的考究	山本　崇	都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）　史料研究室長	基盤研究（C）	－	4,550 〈平成29～4年度〉
4	近世における北前船と東北産木材の流通に関する年輪年代学的研究	光谷　拓実	埋蔵文化財センター　客員研究員	基盤研究（C）	－	4,420 〈平成30～4年度〉
5	近世末期から近代に生じた日本庭園の意匠の地域性と現代への継承―出雲地方を中心に	中島　義晴	文化遺産部　景観研究室長	基盤研究（C）	－	3,250 〈平成30～4年度〉
6	鎖国期日本のマジョリカ陶器色絵フォグリー文アルバレルロとカトリック修道院	松本　啓子	都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）　客員研究員	基盤研究（C）	910	3,640 〈元～4年度〉
7	塩類風化が進行する遺跡構成材料からの効果的な脱塩方法の開発	脇谷　草一郎	埋蔵文化財センター　保存修復科学研究室長	基盤研究（C）	－	3,250 〈元～4年度〉
8	ポスト・バイヨン期のクメール建築の建築的特徴に関する研究	大林　潤	文化遺産部　建造物研究室長	基盤研究（C）	－	3,510 〈元～4年度〉
9	日本と中国における大工道具の比較による東アジア木造建築技術史の基盤構築	李　暉	都城発掘調査部（平城地区）　アソシエイトフェロー	基盤研究（C）	650	4,420 〈元～5年度〉
10	山口県域の銅生産・銅銭鋳造関係古代出土文字資料を用いた政治・社会的地域特質の解明	竹内　亮	都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）　客員研究員	基盤研究（C）	910	4,290 〈2～5年度〉
11	絵画表現の多様性を生みだす彩色材料のナノ構造	杉岡　奈穂子	埋蔵文化財センター　客員研究員	基盤研究（C）	1,300	4,420 〈2～4年度〉
12	東アジア出土の植物灰ガラスは西アジア産か？－ガラス交易路解明に向けての基礎研究－	田村　朋美	都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）　主任研究員	基盤研究（C）	1,170	4,290 〈2～4年度〉
13	古墳に埋葬された鉄製文化財の腐食は予測可能か？－数値解析による現地保存評価の確立	柳田　明進	埋蔵文化財センター　研究員	基盤研究（C）	910	4,030 〈3～5年度〉
14	古代における食文化の実態解明に関する環境考古学的研究	山崎　健	埋蔵文化財センター　環境考古学研究室長	基盤研究（C）	780	4,160 〈3～7年度〉
15	三次元データで拓く木簡研究の新地平	山本　祥隆	都城発掘調査部（平城地区）　主任研究員	基盤研究（C）	1,040	4,160 （4～7年度）
16	３次元デジタル技術を活用した古代瓦葺技術の系譜と展開に関する考古学的検討	岩戸　晶子	企画等西部　展示企画室長	基盤研究（C）	780	4,160 （4～8年度）
17	植物遺体群からみた古代都城における草本植物相に関する基礎的研究	上中　央子	埋蔵文化財センター　客員研究員	基盤研究（C）	1,300	4,160 （4～6年度）
18	出土漆塗膜の模擬試料作成の試み―より安定的な保存処理法の開発のために	楊　曼寧	埋蔵文化財センター　アソシエイトフェロー	基盤研究（C）	1,820	4,160 （4～6年度）
19	大嘗宮にみる宮中祭祀施設の配置・造営計画に関する研究	福嶋　啓人	都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）　研究員	基盤研究（C）	1,430	3,900 （4～8年度）
20	近代庭園における遺跡由来石造物の取り扱いとインタープリテーションに関する研究	内田　和伸	文化遺産部長	基盤研究（C）	1,560	4,030 （4～6年度）
21	歴史災害の実像解明への考古・歴史・地質学的複合解析による災害履歴検索地図の開発	村田　泰輔	埋蔵文化財センター　主任研究員	挑戦的研究（開拓）	2,470	22,880 〈平成30～5年度〉
22	XR技術を活用した発掘・被災文化財保護現場のデジタルトランスフォーメーション	金田　明大	埋蔵文化財センター長	挑戦的研究（開拓）	3,250	24,700 （4～8年度）

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
23	埴輪ハケメの年輪年代学：年輪年代学的同一材推定を応用した埴輪同工品の認定	星野　安治	埋蔵文化財センター　年代学研究室長	挑戦的研究（萌芽）	2,210	6,370 〈3～5年度〉
24	後期旧石器時代開始期の日本列島における新人到来研究の革新	国武　貞克	主任研究員	挑戦的研究（萌芽）	2,860	6,500 〈3～5年度〉
25	新しい遺跡を発見する：機械学習による自動地形判読手法の開発	高田　祐一	企画調整部　主任研究員	挑戦的研究（萌芽）	2,990	5,850 〈3～4年度〉
26	出土カンボジア漆分析に関する学際的研究	佐藤　由似	企画調整部　主任専門職	挑戦的研究（萌芽）	2,340	6,240 （4～6年度）
27	X線CTを用いた非破壊観察による固着資料の文字復元	上椙　英之	埋蔵文化財センター　研究員	挑戦的研究（萌芽）	2,600	6,500 （4～6年度）
28	シルクロード天山北路の形成過程に関する考古学的研究	山藤　正敏	都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）　主任研究員	若手研究	－	4,160 〈平成30～4年度〉
29	アンコール王朝の終焉と陶磁器需要の変容に関する考古学的研究	佐藤　由似	企画調整部　主任専門職	若手研究	－	3,770 〈平成30～4年度〉
30	墨書木製品の分類を手がかりとした日本における木簡利用全史の解明	藤間　温子	都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）　客員研究員	若手研究	520	2,860 〈元～4年度〉
31	古代壁画の制作技法の伝習に関する研究-シルクロード近隣地域と日本の壁画を中心に	中田　愛乃	埋蔵文化財センター　客員研究員	若手研究	780	2,600 〈元～4年度〉
32	文化的景観における棚田集落の相対的価値の解明にむけた比較研究	恵谷　浩子	文化遺産部　主任研究員	若手研究	－	3,900 〈元～4年度〉
33	石造物からみるブリテン島における古代と初期中世の境界	岩永　玲	都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）　研究員	若手研究	390	1,560 〈2～4年度〉
34	玉類の流通からみた弥生・古墳時代併行期の日韓交渉	谷澤　亜里	都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）　研究員	若手研究	1,300	4,290 〈2～4年度〉
35	西日本集落遺跡の分析に基づく古代地域社会の実証的研究	道上　祥武	都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）研究員	若手研究	910	4,290 〈2～5年度〉
36	飲食物表現からみた古代東アジアにおける古墳葬送儀礼の考古学的研究	松永　悦枝	都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）研究員	若手研究	520	2,210 〈2～5年度〉
37	文化財修理に用いられる和紙の膨潤収縮挙動	金　旻貞	埋蔵文化財センター　客員研究員	若手研究	1,040	3,900 〈2～4年度〉
38	出土木製遺物の保存処理の飛躍的効率化を実現する溶媒蒸発を用いた薬剤含浸技術の確立	松田　和貴	埋蔵文化財センター　研究員	若手研究	650	4,160 〈2～4年度〉
39	考古系展示施設における観覧行動分析とそれに基づく多様な「学び」の構築と実践	廣瀬　智子	企画調整部　アソシエイトフェロー	若手研究	1,300	4,030 〈2～4年度〉
40	越後大工・小黒杢右衛門一族の作風―近世在方大工の作家論的研究	目黒　新悟	都城発掘調査部（平城地区）　研究員	若手研究	910	4,160 〈2～5年度〉
41	『築山庭造伝』前編・後編にみる作庭技術とその流布に関する基礎的研究	高橋　知奈津	文化遺産部　主任研究員	若手研究	520	2,340 〈2～5年度〉
42	日本に伝存する漢字文義謎資料のデータベース化による文化史的研究	呉　修喆	企画調整部　アソシエイトフェロー	若手研究	1,040	4,420 〈3～5年度〉
43	大破した寺院聖教の保存・活用にむけた調査方法に関する研究	橘　悠太	文化遺産部　アソシエイトフェロー	若手研究	650	3,250 〈3～5年度〉
44	3Dデジタル技術等の多角的応用による土器製作者の動的身体技法復元のための基礎研究	平川　ひろみ	埋蔵文化財センター　客員研究員	若手研究	1,950	4,680 〈3～5年度〉
45	残材と周辺植生に基づく古墳時代集落における木材調達とその利用に関する研究	浦　蓉子	都城発掘調査部（平城地区）　研究員	若手研究	1,170	3,900 〈3～6年度〉
46	考古生化学から探る古代日本の土器利用	村上　夏希	企画調整部　アソシエイトフェロー	若手研究	1,300	4,680 （4～6年度）
47	人工知能（ＡＩ）による深層学習を活用した縄文原体の素材同定	髙野　紗奈江	埋蔵文化財センター　客員研究員	研究活動スタート支援	1,170	2,080 〈3～4年度〉
48	近代における日本人産婆の越境実態の検証―渡韓産婆の事例を通じて―	扈　素妍	企画調整部　アソシエイトフェロー	研究活動スタート支援	780	1,820 〈3～4年度〉
49	平安京・大和国における瓦生産・流通構造―９～12世紀を中心に―	田中　龍一	都城発掘調査部（平城地区）　研究員	研究活動スタート支援	910	2,340 〈3～4年度〉
50	顕在化した遺跡である古墳が持つ顕著な文化財的価値とその現在的な利活用に関する研究	川畑　純	都城発掘調査部（平城地区）　主任研究員	研究活動スタート支援	1,430	2,860 （4～5年度）
51	戦後文化財修理としての桂離宮御殿整備工事の研究―合成樹脂を始めとした新技術の導入	髙野　麗	都城発掘調査部（平城地区）　研究員	研究活動スタート支援	1,430	2,860 （4～5年度）

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　0件

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】

1）科学研究費補助金のみ　0件

2）学術研究助成基金助成金のみ　1件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額　（千円）〈研究期間〉
1	無形文化遺産の継承・変容と自然災害による影響の動態的把握：バヌアツ北部事例研究	野嶋　洋子	研究担当室長	基盤研究（C）	0	4,160 〈平成30～5年度〉 （補助事業期間延長）

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　0件

c-⑧ 客員研究員一覧

令和5年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
154人	51 人	31人	11人	8人	1人
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	96 人	37人		59人	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	本部文化財防災センター			
	0 人	7 人			

【東京国立博物館】　31人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	松原　茂（公益財団法人根津美術館理事・副館長）	絵画に関する研究
2	宮永 美知代（東京藝術大学美術学部助教）	解剖学・美術解剖学及び医学関係の館史資料に関する調査研究
3	東野　治之（公益財団法人武田科学振興財団杏雨書屋館長）	法隆寺献納宝物の資料の研究
4	田辺　龍太（一般財団法人水原フィラテリー財団主任）	切手に関する調査研究
5	金子　浩昌（日本考古学協会員）	日本考古・民族資料の骨角牙製品に関する調査研究
6	湊　信幸（元東京国立博物館副館長）	絵画に関する研究
7	鍋島　稲子（台東区立書道博物館主任研究員）	中国書跡の調査研究
8	西岡　康宏（元東京国立博物館副館長）	東洋漆工に関する研究
9	田中　淑江（共立女子大学家政学部教授）	江戸時代を中心とする小袖に関する研究
10	佐々木　利和	アイヌ・琉球民族資料に関する調査研究
11	望月　幹夫（松戸市立博物館長）	日本考古資料に関する調査研究
12	澤田　むつ代（名誉館員）	法隆寺献納宝物のうち法隆寺裂などの上代裂の保存と修理に関する調査研究
13	佐藤　サアラ（公益財団法人常盤山文庫主任学芸員）	東洋陶磁（宋・元代）に関する研究
14	高濱　秀	中央ユーラシア青銅器に関する研究
15	加藤　雅久（居住技術研究所主宰）	帝室博物館・復興本館建設における技術史的考察
16	池田　宏（元東京国立博物館上席研究員）	工芸品、歴史資料に関する調査研究
17	田中　公明（公益財団法人中村元東方研究所専任研究員）	チベット・ネパール仏教美術の調査研究
18	日高　慎(東京学芸大学教育学部文化財科学分野(考古学)教授)	埴輪 挂甲の武人 についての調査と修理における助言
19	石松 日奈子 (文化庁文化審議会専門委員(文化財分科会))	日本所在の中国彫刻に関する調査研究
20	赤沼　多佳	茶陶の調査
21	西脇　康（東京大学史料編纂所学術支援専門職員）	貨幣の鑑別・完全非破壊品位測定
22	高橋　裕次（公益財団法人大倉文化財団大倉集古館学芸部長）	東京国立博物館百五十年史に関わる研究
23	石川　岳彦（東京大学大学院人文社会系研究科研究員）	漢代土器の調査研究
24	藤田　晴啓（新潟国際情報大学経営情報学部経営学科教授）	考古資料デジタルデータの活用研究
25	村上　佳代（文化学園服飾博物館学芸員）	アジア遊牧民染織コレクションに関する調査研究
26	谷　豊信（元東京国立博物館学芸研究部長）	館蔵及び構内出土品の調査研究
27	中川原 育子（名古屋大学人文学研究科助教）	大谷探検隊収集品の価値の再評価に向けての基礎的調査研究
28	丸山 猶計（大東文化大学文学部書道学科准教授）	特別展「本阿弥光悦の大宇宙」ワーキング書跡担当
29	堀内　秀樹（東京大学埋蔵文化財調査室准教授）	館蔵陶片の調査研究
30	皿井　舞（学習院大学文学部哲学科教授）	新規購入の仁王像に関する調査研究・活用
31	小林　牧	複製やデジタル技術を使った新しい鑑賞コンテンツ、地域の博物館や学校と協働した文化財鑑賞プログラム

【京都国立博物館】　11人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	井上　一稔（同志社大学文学部教授）	彫刻に関する調査研究
2	宇都宮　啓吾（大阪大谷大学文学部教授）	訓点資料としての典籍に関する調査研究
3	後藤　真（国立歴史民俗博物館准教授）	文化財情報に関する調査研究
4	守屋　雅史（大阪市立東洋陶磁美術館長）	陶磁器に関する調査研究
5	赤尾　栄慶（京都国立博物館名誉館員）	古写経に関する調査研究
6	増記　隆介（東京大学大学院准教授）	仏画に関する調査研究
7	山本　英男（嵯峨美術短期大学教授）	中世絵画に関する調査研究
8	久保　智康（京都国立博物館名誉館員）	金工品に関する調査研究
9	呉　孟晋（京都大学准教授）	漆工及び染織に関する調査研究
10	池田　宏（京都国立博物館名誉館員）	中国絵画に関する調査研究
11	難波　洋三（京都国立博物館名誉館員）	甲冑に関する調査研究

【奈良国立博物館】　8人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	井出誠之輔（九州大学大学院人文科学研究院教授）	仏教絵画の調査及び整理
2	清水昭博（帝塚山大学文学部教授）	飛鳥・奈良時代の仏教考古、斑鳩地区出土瓦の調査及び整理
3	根立研介（前 京都大学大学院文学研究科教授）	仏教彫刻の調査と整理
4	板倉聖哲（東京大学東洋文化研究所教授）	中国・朝鮮絵画の調査及び整理
5	橋詰　文之（和泉市久保惣記念美術館副館長）	金工品の調査及び研究
6	澤田　むつ代（東京国立博物館名誉館員）	染織品の調査及び研究
7	藤田　譲（大阪大学大学院文学研究科教授）	仏教彫刻の調査と整理
8	高橋　悠介（慶応義塾大学斯道文庫准教授）	書跡の調査及び研究

【九州国立博物館】　1人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	伊藤嘉章（愛知県陶磁美術館総長/町田市立博物館館長）	アジアの文化財の伝統的制作・修理技法に関する調査研究

【東京文化財研究所】　37人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	三上　豊（和光大学非常勤講師）	近現代美術資料の収集・整理・公開に関する調査研究
2	丸川雄三（国立民族学博物館先端人類科学研究部准教授）	近現代美術資料の収集・整理・公開に関する調査研究
3	山梨絵美子(千葉市美術館長)	文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究
4	田中　淳（大川美術館長）	近現代美術資料の収集・整理・公開に関する調査研究
5	片山まび（東京藝術大学美術学部教授）	『売立目録』工芸部門の調査研究
6	永崎研宣（一般財団法人人文情報学研究所主席研究員）	刊行物アーカイブズシステムの運用・評価に関する調査研究
7	津田徹英（青山学院大学文学部比較芸術学科　教授）	日本東洋古美術に関する資料整理とウェブ公開
8	田中　潤（学習院大学非常勤講師）	古文書の解読や絵画等に見られる服飾の解析
9	川瀬由照（早稲田大学教授）	仏教美術作品の専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充
10	山崎　剛（金沢美術工芸大学教授）	無形文化財の保存・継承に関する調査研究
11	俵木　悟（成城大学文芸学部教授）	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究
12	大西秀紀（京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター客員研究員）	音声映像記録に関する調査研究
13	菊池健策（都留文科大学非常勤講師）	無形民俗文化財の調査
14	森下愛子（公益財団法人泉屋博古館分館学芸課学芸員）	工芸技術（主に陶芸分野）に関する調査研究
15	宮田繁幸（東京福祉大学大学院特任准教授）	ユネスコ無形文化遺産条約に関わる調査研究及び情報収集
16	神野知恵（国立民族学博物館機関研究員）	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集
17	谷垣内和子（日本芸能実演家団体協議会常勤職員）	伝統芸能に関わる選定保存技術の調査研究及び情報収集
18	伊藤　純（川村学園女子大学講師）	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究
19	川野邊渉	文化財修復材料と伝統技術に関する研究
20	伊庭千恵美（京都大学大学院工学研究科准教授）	文化財の保存環境と維持管理に関する調査研究
21	藤井義久（京都大学大学院農学研究科教授）	木造建造物の生物被害対策の研究
22	稲葉政満（東京藝術大学名誉教授）	近代文化遺産の保存修復に関する調査研究
23	本多貴之（明治大学理工学部准教授）	伝統的修復材料に関する分析調査研究
24	北原博幸（トータルシステム研究所代表）	湿度制御温風殺虫処理の処理システムに関するプロジェクト研究を進める上での工学技術的な指導・助言及び基礎研究
25	山本記子（一般社団法人国宝修理装潢師連盟代表理事）	日本画修復に使用される材料及び技法の研究
26	貴田啓子（東京藝術大学准教授）	日本における絵画の劣化要因に関する研究
27	岡田　健（奈良大学教授）	法隆寺金堂壁画をはじめとする文化財の化学分析調査
28	片山葉子（東京農工大学名誉教授）	高松塚・キトラ古墳壁画及び他の装飾古墳等における微生物生態学的調査研究
29	苅田重賀（日本航空協会専任課長）	近代文化遺産（特に航空関連）の保存修復に関する調査・研究
30	古田嶋智子（国立アイヌ民族博物館ｱｿｼｴｲﾄﾌｪﾛｰ）	文化財を取り巻く空気環境の成分分析
31	宇髙健太郎	文化財構成材料としての墨，煤，膠並びに修理材料としての膠の研究と，修理用膠の製造あるいは関連技術供与等
32	大河原典子（鎌倉女子大学児童学部児童学科准教授）	在外日本古美術品保存修復協力事業の修復研究及び技術移転の手法研究
33	杉山恵助（東北芸術工科大学芸術学部文化財保存修復学科准教授）	在外日本古美術品保存修復協力事業における修復手法研究、国際研修での技術移転方法に関する研究
34	山田大樹（帝京大学文化財研究所講師）	南アジア・西アジア地域等における歴史的都市・集落保存に関する研究
35	境野飛鳥（国際日本文化研究センター特任専門職員）	文化財保護制度に関する研究
36	間舎裕生（慶応義塾大学非常勤講師）	西アジアをはじめとする考古学に関する研究
37	五木田まきは（金沢大学古代文明・文化資源学研究所客員研究員）	文化遺産保全と地域発展に向けた文化資源マネジメントの研究

【奈良文化財研究所】　59人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	髙野　紗奈江（京都大学大学院文学研究科非常勤講師）	山内清男縄文原体関係資料の整理と調査
2	羽生　淳子（総合地球環境学研究所研究部客員教授）	考古学をはじめとする日米間の文化財分野での学術交流への協力
3	小林　謙一	遺物及びその調査技術、文化財情報の蓄積に関する指導助言
4	Shaun Ian Mackey	東南アジアの文化財や多言語化に関する専門的な助言
5	杉山　　洋（龍谷大学文学部歴史学科教授）	カンボジアプロジェクトを中心とした国際遺跡研究室事業への助言
6	廣瀬　智子	考古系展示施設に関わる調査研究、教育普及事業及び展示活動等に対する助言
7	綾村　　宏	歴史研究室所蔵の調書・写真類の調査
8	前川　　歩（畿央大学健康科学部人間環境デザイン学科講師）	近現代建築に関する調査・研究
9	小野　健吉	庭園史研究・遺跡整備研究についての指導・助言
10	Emmanuel MARES（京都産業大学文化学部文化学科准教授）	森蘊旧蔵資料・村岡正旧蔵資料の整理に関する助言
11	岩永　省三	古代都城制および都城出土遺物の調査・研究
12	難波　洋三	都城及び寺院出土の金属器等の調査・研究
13	小池　伸彦	平城宮・京跡等出土冶金関連遺物・遺構の調査・研究
14	青木　　敬（國學院大學文学部教授）	官衙・集落に関するデータベース拡充に関する指導・助言
15	深澤　芳樹	学報の編集作業における弥生土器の整理に関する学術的な助言
16	黒田　洋子（奈良女子大学古代学学術センター協力研究員）	文字画像データベース構築における研究協力及び助言
17	杉本　一樹（宮内庁正倉院事務所調査員）	都城発掘調査部史料研究室における正倉院文書関連研究などに対する指導・助言
18	舘野　和己（奈良女子大学名誉教授 大阪府立近つ飛鳥博物館長）	木簡の整理・釈読等に関する指導・助言

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
19	方　　国花（韓国慶北大学人文学術院HK研究教授）	主として木簡に見える古代日本の漢字の字形に関する研究
20	渡邉　晃宏（奈良大学文学部教授）	主として木簡に見える古代日本の漢字の字形に関する研究
21	諫早　直人（京都府立大学文学部歴史学科准教授）	中国遼寧省文物考古研究所と行う共同研究「３－６世紀日中古代遺跡出土遺物の比較研究」に参加
22	上原　眞人（公益財団法人辰馬考古資料館長）	都城発掘調査部考古第一研究室の出土木器整理、研究及び出土木器の資料集作成にむけた指導、助言
23	松村　恵司	都城発掘調査部考古第一研究室の出土木器整理、研究及び出土木器・金属器整理、研究に関する指導、助言
24	巽　　淳一郎	中国河南省文物考古研究所との共同研究「東アジアにおける生産遺跡の調査研究協力」に参加
25	松本　啓子	奈良・大阪両地域の宮殿・京域の情報をもとに類似点・相違点を比較するうえでの専門的知識の供与及び助言
26	竹内　　亮（奈良県立万葉文化館主任研究員）	連携研究において、古代但馬地域出土文字資料集成作成のための専門的知識を供与
27	藤間　温子	墨書木製品等の調査研究
28	大賀　克彦（奈良女子大学古代学学術研究センター特任講師）	古代における玉類の生産と流通に関する調査研究
29	荻山　琴美（大分県立歴史博物館学芸員）	彩色文化財や埋蔵文化財の科学調査・分析等
30	小椋　大輔（京都大学大学院工学研究科教授）	文化財の保存環境の研究
31	北田　正弘	考古遺物等の調査分析
32	金　　旻貞（株式会社修美　社員）	彩色文化財の材料調査業務
33	肥塚　隆保	古墳壁画の保存修理業務
34	杉岡　奈穂子	壁画等の材料調査業務
35	辻本　與志一（株式会社文化財保存）	古墳壁画の保存修理業務
36	中村　力也（宮内庁正倉院事務所保存整理室長）	奈良時代の遺物及び古代壁画等の材料調査業務
37	福永　　香（国立研究開発法人情報通信研究機構電磁波研究所電磁波先進研究センター長）	文化財の非破壊診断調査
38	三村　　衛（京都大学大学院工学研究科教授）	文化財の保存環境の研究
39	村上　　隆(京都美術工芸大学工芸学部美術工芸学科特任教授）	考古遺物の保存科学
40	柳　　成煜（日本学術振興会特別研究員）	彩色文化財の材料調査業務
41	中田　愛乃	彩色文化財の材質分析など
42	青木　政幸（公益財団法人辰馬考古資料館学芸員）	考古遺物の調査
43	上中　央子（日本学術振興会特別研究員）	微化石の調査研究、花粉分析
44	大江　文雄	遺跡出土資料の指導助言や調査研究
45	茂原　信生（京都大学名誉教授）	遺跡出土人骨の指導助言と調査分析
46	中橋　孝博（九州大学名誉教授）	遺跡出土人骨の指導助言
47	松崎　哲也	現生標本の整理・管理
48	伊東　隆夫（京都大学名誉教授）	木造文化財の木材組織学的研究
49	児島　大輔（大阪市立美術館学芸課学芸員）	美術工芸品の年輪年代学的研究
50	光谷　拓実	木造文化財の年輪年代学的研究
51	小澤　　毅（三重大学人文学部教授）	遺跡及びその調査技術に関する研究
52	岸田　徹（同志社大学文化遺産情報科学調査研究センター）	遺跡探査法の開発および遺跡探査の知見からの考古学研究の推進
53	狭川　真一（大阪大谷大学文学部歴史文化学科教授）	遺跡及びその調査技術に関する研究
54	西口　和彦	遺跡探査の研究
55	西山　昭仁（京都大学防災研究所地震・火山研究グループ非常勤研究員）	「考古・文献資料からみた歴史災害情報の収集とデータベース構築・公開並びにその他地質考古学的解析」事業への協力
56	平川ひろみ（鹿児島国際大学非常勤講師・同志社大学文化遺産情報科学調査研究センター研究員）	三次元計測手法の開発及び民族学的知見からの考古学研究の推進
57	野下　浩司（九州大学理学研究院　助教）	考古資料への形態測定学・三次元計測手法の開発研究の促進
58	中川　朋美（南山大学人類学研究所博士研究員）	出土古人骨への形態測定学・三次元計測手法の開発研究の促進
59	山中　敏史	遺跡及びその調査技術に関する研究

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　0人

【本部文化財防災センター】7人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	天野真志（大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館准教授）	地域防災体制の構築、災害時ガイドライン等の整備
2	岡田健（奈良大学文学部教授）	災害時ガイドライン等の整備
3	鶴岡典慶（京都女子大学家政学部教授）	災害時ガイドライン等の整備、レスキュー及び収蔵・展示における技術開発
4	浜田拓志（元和歌山県立近代美術館副館長）	災害時ガイドライン等の整備
5	日髙真吾（大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立民族学博物館人類基礎理論研究部教授）	災害時ガイドライン等の整備、レスキュー及び収蔵・展示における技術開発
6	前川歩（畿央大学健康科学部専任講師）	災害時ガイドライン等の整備、レスキュー及び収蔵・展示における技術開発
7	松下正和（国立大学法人神戸大学地域連携推進室特命准教授）	地域防災体制の構築、レスキュー及び収蔵・展示における技術開発

d ウェブサイトアクセス件数

令和5年3月31日現在

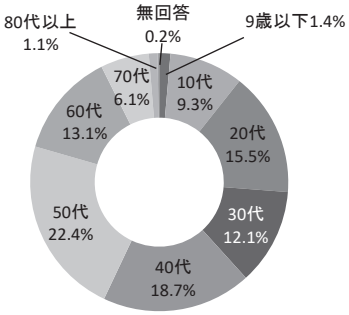
	H30	R1	R2	R3	R4
国立文化財機構	336,016	362,356	302,279	409,102	379,623
文化財活用センター	29,320	42,733	124,300	114,951	166,535
e国宝	3,471,727	4,247,236	1,952,296	650,197	818,665
国立文化財機構所蔵品統合検索システム（ColBase）	54,338	76,875	140,553	142,970	250,005
国立文化財機構寄附ポータルサイト※1	―	―	3,998	6,166	11,698
文化財防災センター※2	93,817	182,485	219,544	52,561	18,111
東京国立博物館	7,679,851	8,235,810	7,021,923	11,382,143	10,569,749
京都国立博物館※3	4,382,078	4,948,829	3,480,100	3,514,043	1,948,061
奈良国立博物館	1,316,654	1,704,901	1,082,864	1,236,917	1,129,746
九州国立博物館	1,752,803	2,047,955	824,819	977,605	1,430,301
東京文化財研究所	4,494,214	2,989,314	5,094,252	3,865,899	3,457,717
奈良文化財研究所	13,931,633	17,604,865	15,138,198	10,467,301	11,020,663
アジア太平洋無形文化遺産研究センター	10,779	13,261	13,284	15,472	17,146

・アクセス件数の単位は、ユーザーセッション数。
・「文化財活用センター」及び「文化財防災センター」以外の施設は、データベースのアクセス件数を含む。
※1「国立文化財機構寄附ポータルサイト」は2年8月7日に開設。
※2 2年度までは、文化財防災ネットワークのウェブサイトアクセス件数。（3年度のウェブサイトリニューアルにより統合）
※3 ウェブサイトの解析システム変更のため、4年度のウェブサイトアクセス件数は、旧解析システム期間（4/1～5/17）及び新解析システム期間（5/18～3/31）のアクセス数を合算し実績値とした。

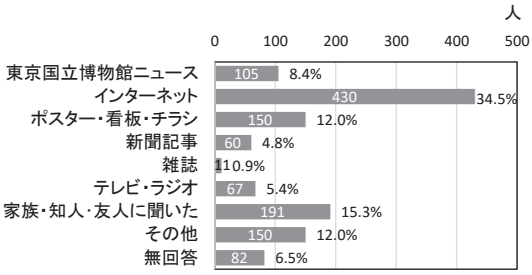
平常展（総合文化展）
アンケート集計結果

開催期間：令和4年4月1日（金）～令和5年3月31日（金） 開館日数：310日間
アンケート実施日：4月30日、6月11日、8月13日、10月8日、11月3日、12月10日、令和5年2月11日（計7回）
回答者数： 1001人
アンケート実施日総合文化展来館者数： 23040人
アンケート回収率：4.3%

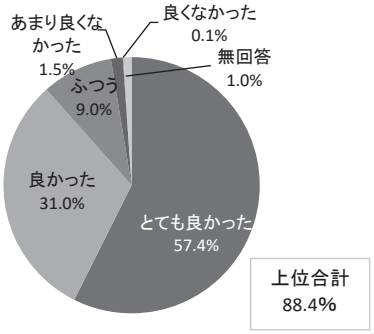
①アンケート回答年齢層



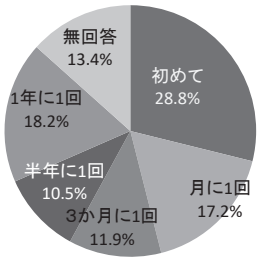
②認知経路 （複数回答）



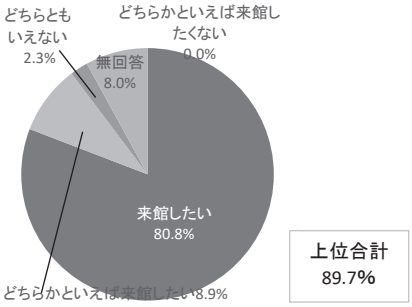
③展示に関する満足度



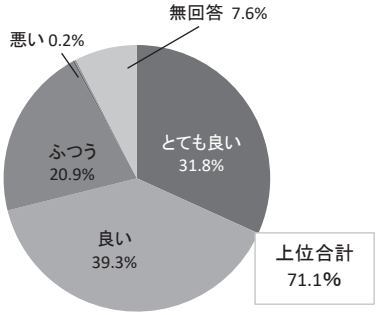
④来館頻度



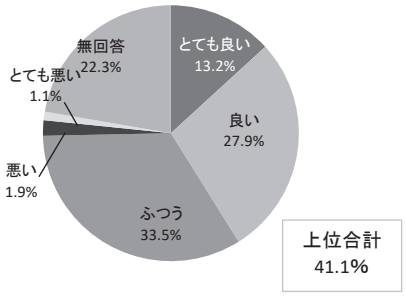
⑤再来館希望率



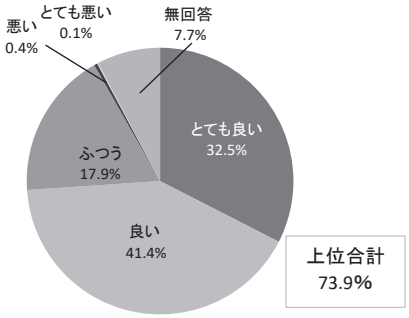
⑥ミュージアムショップに対する満足度



⑦レストランに対する満足度



⑧館内スタッフの対応について



主な意見・感想

・予想以上にボリュームが多く、満足感があった。
・その日にどの作品が展示されているか、わかりやすく告知してほしい。
・キャプションの文字が小さくて見づらい。
・書には書き下し文や現代語訳をつけてほしい。
・夜間開館を再開してほしい。
・休憩場所を増やしてほしい。

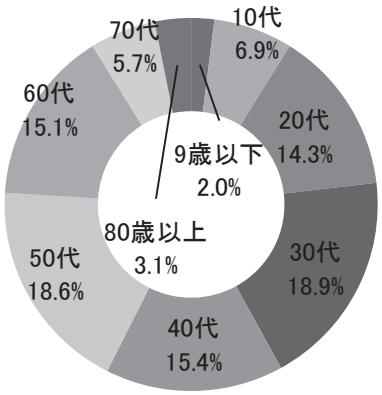
《外国人アンケート集計結果》

※新型コロナウイルス感染症の影響で、外国人の来館を見込めないため、実施していない。

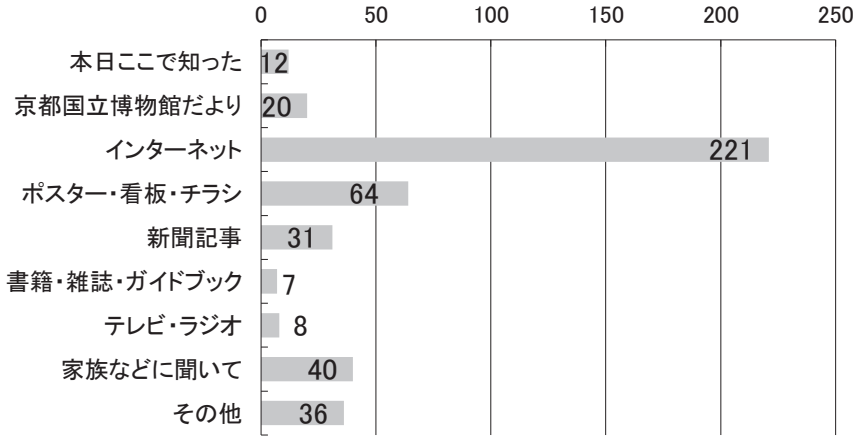
平常展（名品ギャラリー）
アンケート集計結果

開催期間：令和4年6月14日（火）～令和4年7月24日（日）　開館日数：36日間
　　令和5年1月2日（月・休）～令和5年3月5日（日）　開館日数：55日間
回答者数：378人
来館者数：56,341人（平常展開催期間のみ）
アンケート回収率：0.6%

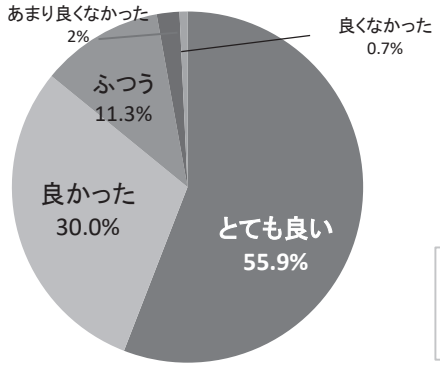
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）

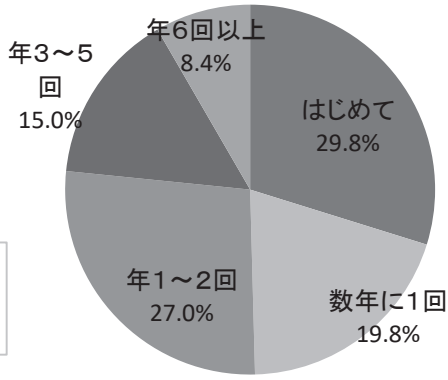


③展示に関する満足度



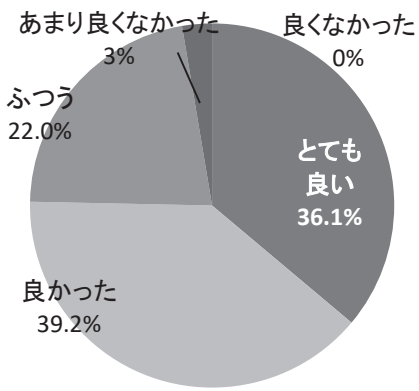
上位合計
85.9%

④来館頻度



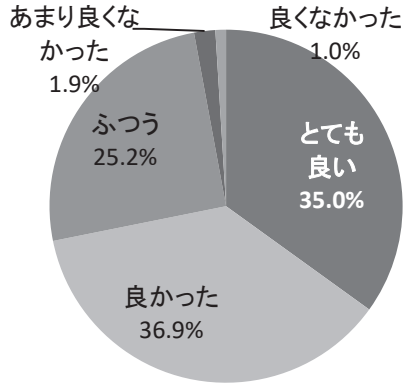
上位合計
56.8%

⑤ミュージアムショップに対する満足度



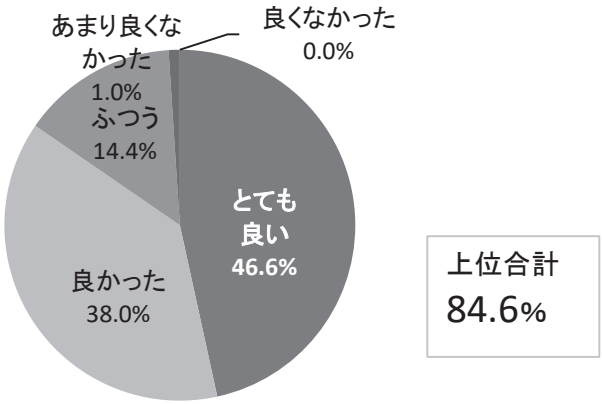
上位合計
75.3%

⑥レストランに対する満足度



上位合計
71.9%

⑦館内スタッフの対応について



上位合計
84.6%

主な意見・感想

・名品ギャラリーの素晴らしさを知った
・写真撮影できるところを設けてほしい
・解説が難しくても博物館dictionary で理解できた
・特別展期間中も平常展を見たい
・屋外含め全面禁煙にすべき
・置き題箋ではなくガラス貼付の方が読みやすい

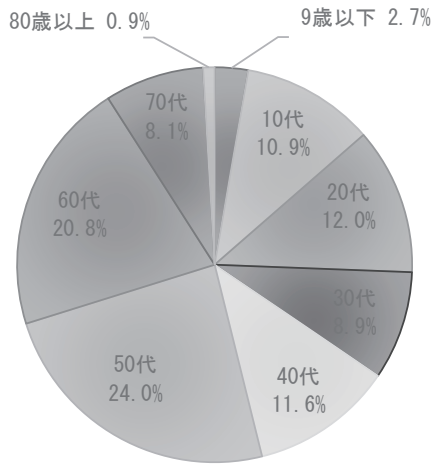
平常展（名品展）アンケート集計結果

開催期間：令和4年4月1日（金）～令和5年3月31日（金）　開館日数：318日間

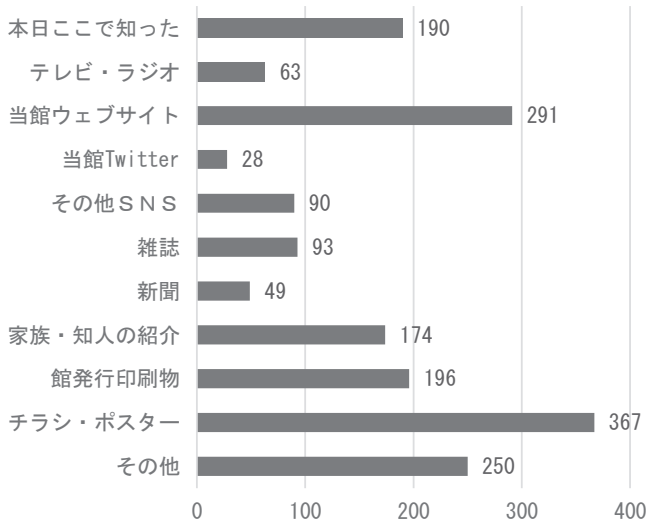
（回答者数：1,292人　入館者数：116,116人　アンケート回収率：1.11%）

（日本語：1,197人／英語：95人）

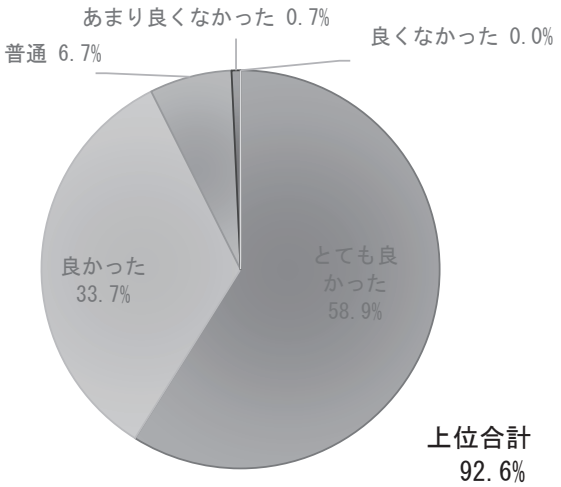
①年齢層



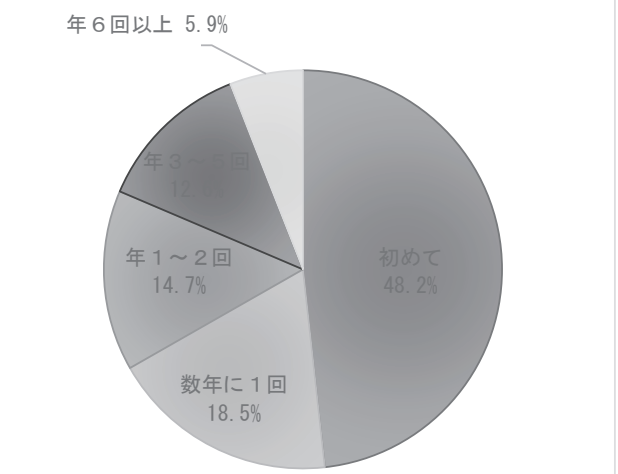
②認知経路（複数回答）



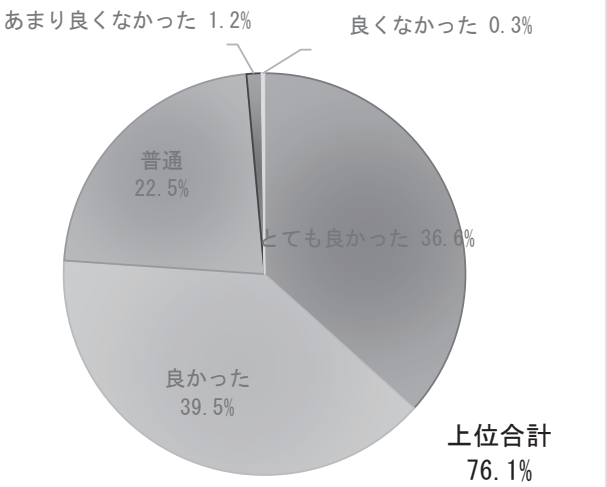
③展示に関する満足度



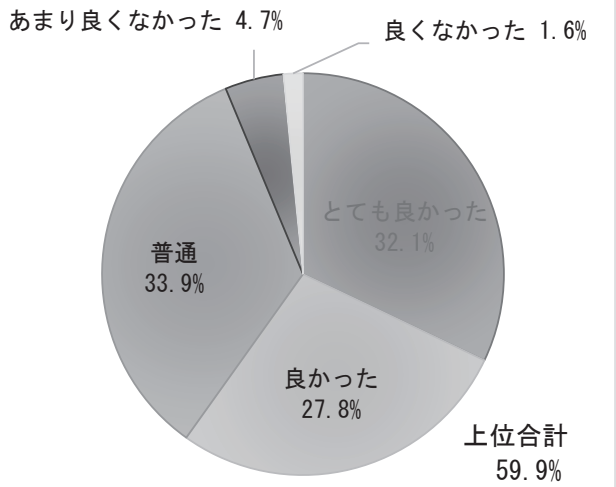
④来館頻度



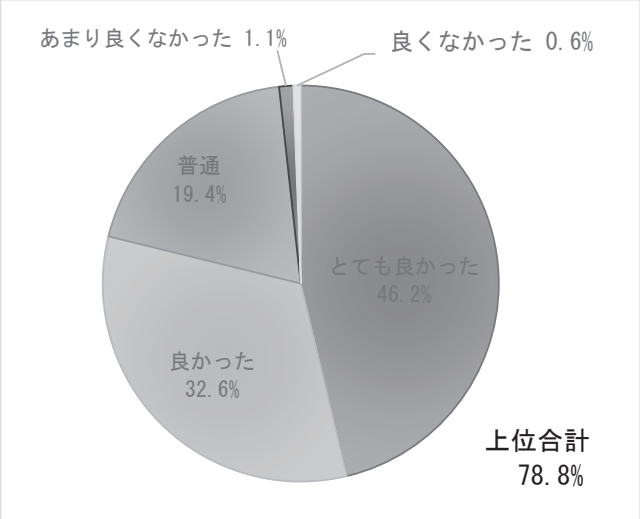
⑤ミュージアムショップに対する満足度



⑥レストランに対する満足度



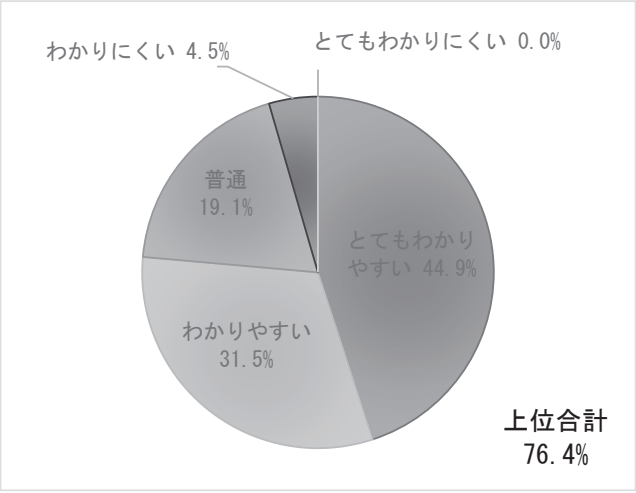
⑦スタッフ対応に関する満足度



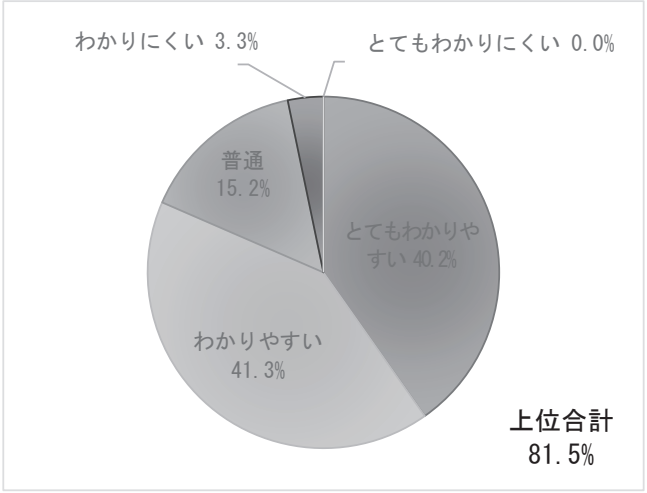
⑧主な意見・感想
・迫力ある仏像をたくさん見ることができた。
・普段触れない分野を見ることができてよかった。
・中国青銅器も良い。
・ざんまいずがかわいいかった。
・仏像館の説明が不足している物もある。
・一部暗いと感じる所があった。

《外国人アンケート集計結果》
回答者数：95人

１．（外国人アンケート）
施設の案内・説明・看板について



２．（外国人アンケート）
展示のパネル・キャプションについて

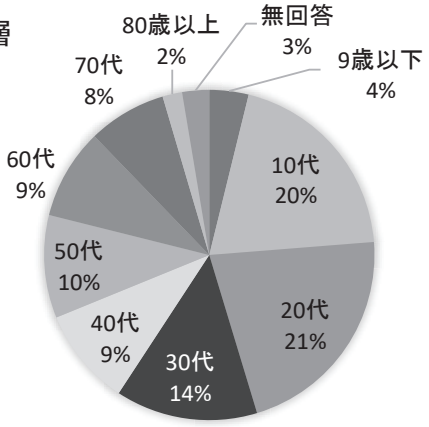


⑧主な意見・感想
・もう少し彫刻の写真が撮れればよかったです。
・展示品は素晴らしいが、それぞれの背景や情報、説明が不足している。

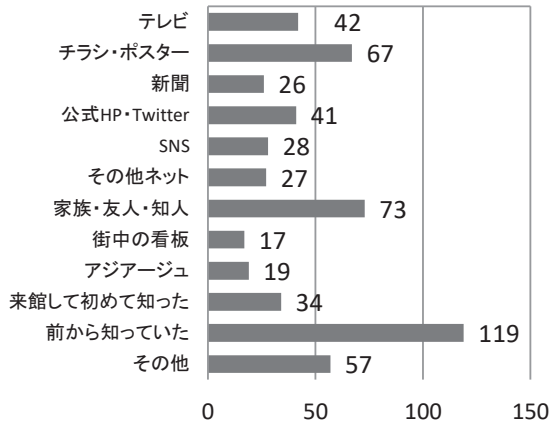
文化交流展　アンケート集計結果

開催期間：令和4年4月1日(金)～令和5年3月31日(金)　開館日数:307日間
回答者数：417人　来館者数：239,282人　アンケート回収率：0.2%

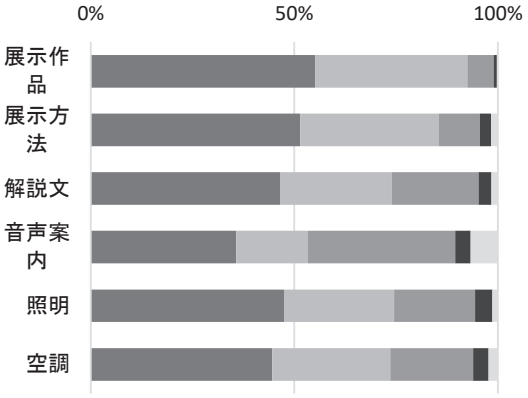
①年齢層



②認知経路（複数回答）

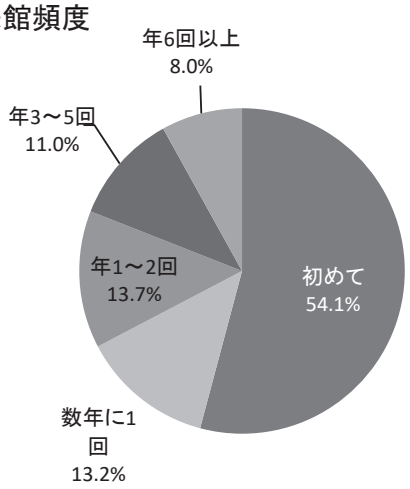


③展示に関する満足度

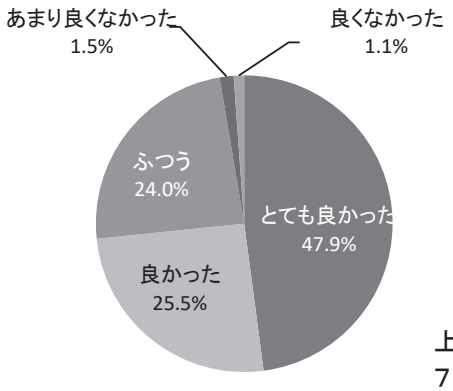


上位合計の平均
77．0%

④来館頻度

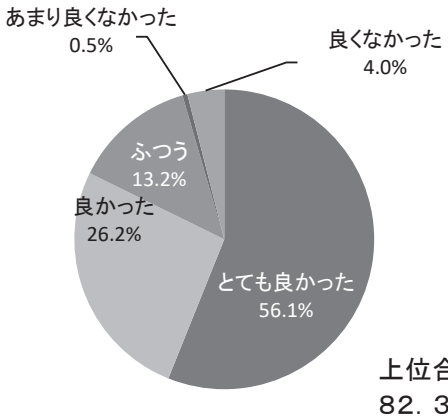


⑤ミュージアムショップに対する満足度



上位合計
73．4%

⑥館内スタッフの対応について



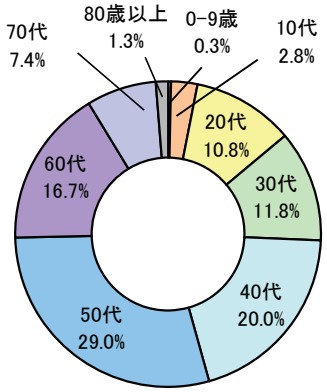
上位合計
82．3%

主な意見・感想
かわいい展良かったです。本当にどれも可愛いです。
展示室内に椅子や休憩スペースをもう少し増やしてほしいと感じた。ゆっくり見て回ったため、途中で水分補給しづらく感じた。
レプリカに触ることが出来たので良かったです。
音声ガイドがわかりやすくて良かったです。ですが、スマホを持って聞きながら歩いていると別の物を読み取ってしまい、少しわずらわしかった。

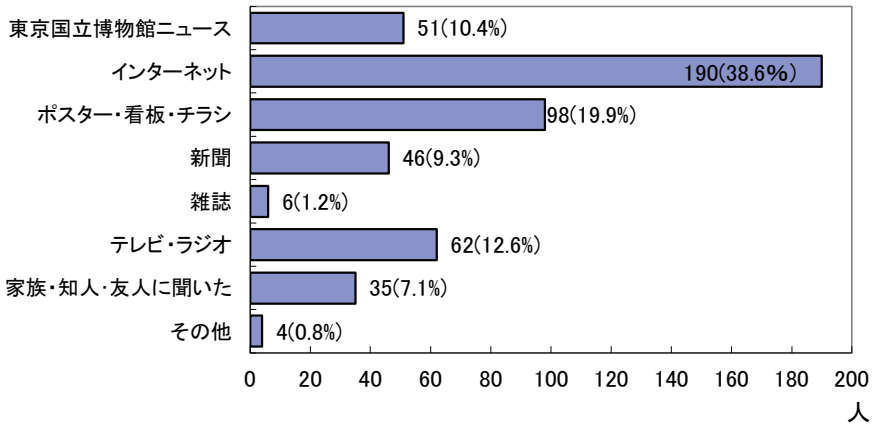
特別展「空也上人と六波羅蜜寺」
アンケート集計結果

開催期間：令和４年３月１日（火）～５月８日（日）（６２日）
総入館者数：１４６，０８５人
回答者数：３９０人

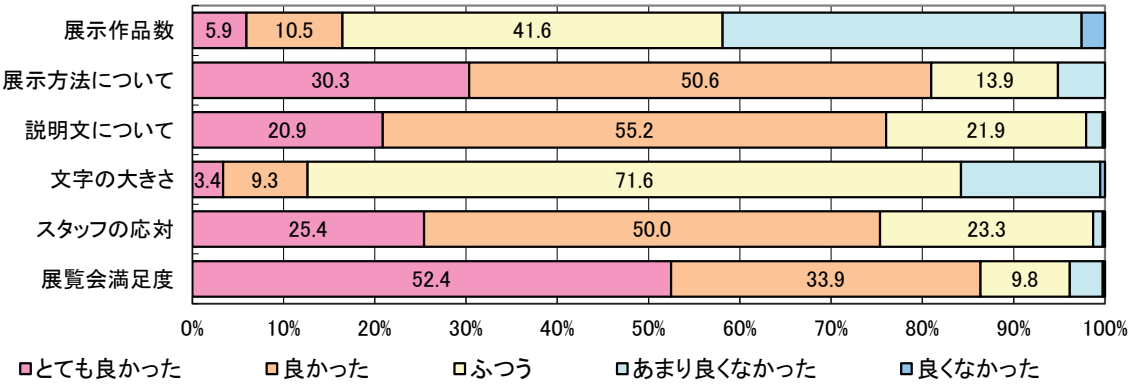
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・貴重な仏像を実際に見られてよかった。
・空也上人立像を全方向から見られたのがよかった。
・作品数としては多くなく、時間をかけてゆっくり見ることができた。
・照明がケースに反射して作品が見えにくかった。
・事前予約制のわりに混んでいた。

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展示作品	39.3	2.6
展示方法	5.1	0.0
説明文	1.8	0.3
文字サイズ	15.2	0.5
スタッフの応対	1.0	0.3
展覧会の満足度	3.6	0.3

（%）

2022年は、空也上人の没後1050年にあたります。空也上人は、疫病がおさまり世の中が穏やかになるように祈り、京都東山の地に西光寺（現在の六波羅蜜寺）を創建しました。本展では、市井の人々から絶大な信仰を得た空也上人の足跡をたどりながら、六波羅蜜寺の歴史をたどり、古くからの埋葬の地であった鳥辺野という独特の立地がもたらした信仰の蓄積をご紹介しました。東京では半世紀ぶりの公開となった空也上人立像をはじめ、創建時につくられた四天王立像、定朝作と伝えられる地蔵菩薩立像、運慶作の地蔵菩薩坐像、伝平清盛坐像など、平安・鎌倉彫刻の名品が一同に会する貴重な機会となりました。

本展を観覧しアンケートに答えた86.4%の方から「とても良かった」「良かった」との好意的なご意見が寄せられました。それぞれの作品を間近にじっくりと観覧できるような展示方法や、空也上人立像を360度鑑賞できることなどが、満足度を高める結果になったと考えられます。

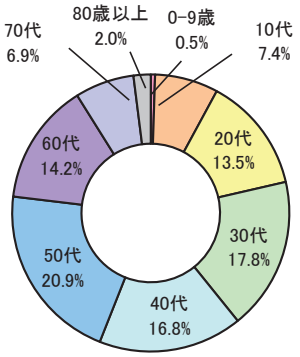
一方で、照明による作品の見づらさや、会場の混雑についてのご意見もいただきました。今後も来館者の皆様よりお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

沖縄復帰50年記念 特別展「琉球」

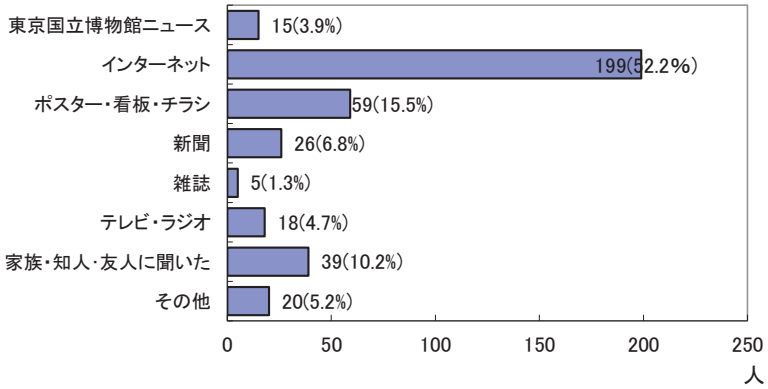
アンケート集計結果

開催期間：令和４年５月３日（火祝）～６月２６日（日）（４８日）
総入館者数 ： ９０，３９５人
回答者数：３９５人

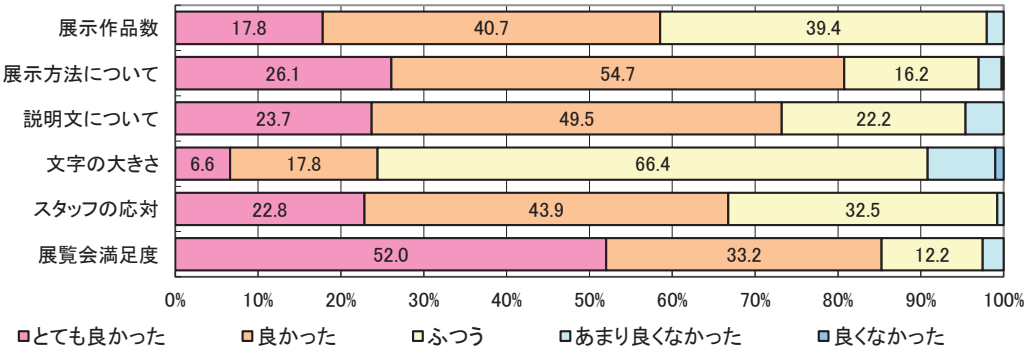
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・展示内容が充実しており見応えがあった。
・琉球独特の文化を知ることができて勉強になった。
・コロナ禍で沖縄に行けないため、東京で作品を見ることが出来て良かった。
・黄色地に赤文字のキャプションが読みにくかった。
・展示替えで、王冠を見ることができず残念だった。
・撮影可の刀剣の周辺に人が多く、ゆっくり見ることができなかった。

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展示作品	2.0	0.0
展示方法	2.8	0.3
説明文	4.6	0.0
文字サイズ	8.1	1.0
スタッフの応対	0.8	0.0
展覧会の満足度	2.5	0.0

（%）

令和4年（2022）、沖縄県は復帰50年を迎えました。かつて琉球王国として独自の歴史と文化を有した沖縄は、明治以降の近代化や先の戦争という困難を乗り越え、現在もその歴史、文化を未来につなぐ努力を続けています。本展では、王国時代の歴史資料・工芸作品、国王尚家に伝わる宝物に加え、考古遺物や民族作品などのさまざまな文化財が一堂に会しました。

また、沖縄県では、平成27年度より琉球王国文化遺産集積・再興事業として、失われた文化遺産の復元に取り組んできました。この事業によって制作された復元作品も多数展示し、琉球・沖縄の歴史や文化を総合的にご覧いただきました。

本展を観覧しアンケートに答えた85.3%の方から「とても良かった」「良かった」との好意的なご意見が寄せられました。コロナ禍で沖縄に行くことが難しい状況の中、幅広い分野の資料を通して琉球の歴史や文化に触れられたことが、このような評価につながったと考えられます。

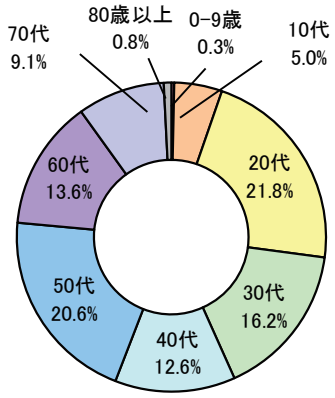
展示室内の写真撮影可エリアについては好意的なご意見をいただく一方で、「撮影する人が滞留してゆっくり見る事ができなかった」等のご意見も寄せられました。また、「キャプションが黄色地に赤文字で読みにくかった」等のご意見もいただきました。

今後も来館者の皆様よりお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

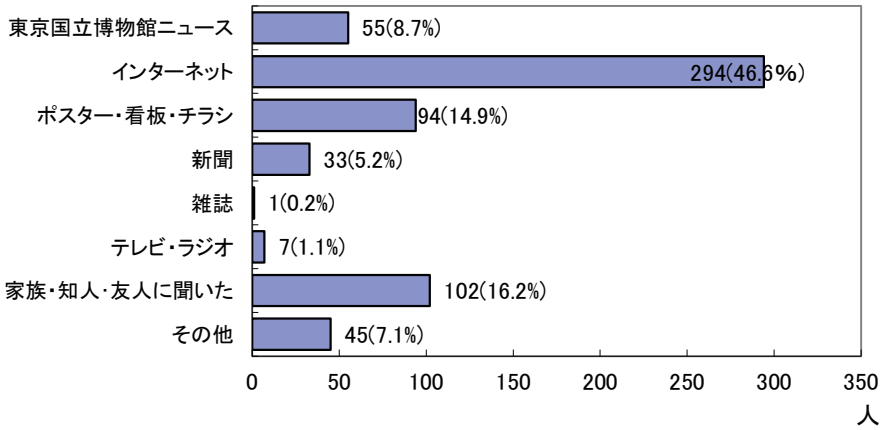
日中国交正常化50周年記念 特別デジタル展「故宮の世界」
アンケート集計結果

開催期間：令和４年７月２６日（火）～９月１９日（月祝）（５０日）
総入館者数 ： ２７，８３９人
回答者数：６２５人

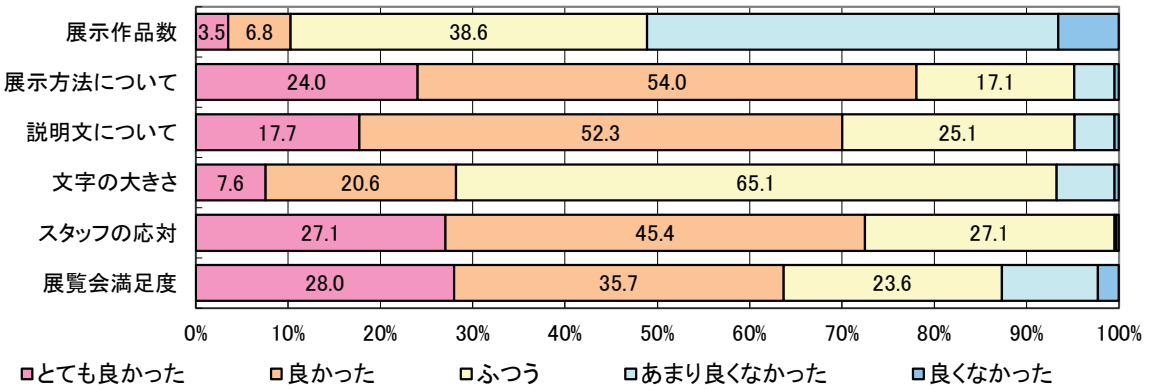
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・デジタルで作品の細部まで見ることができてよかった。
・映像が綺麗だった。
・新しい試みで興味深かった。他にもデジタル展示をやってほしい。
・展示作品数が少ないので、物足りなく感じた。
・もっと実物展示を充実させてほしい。
・展示室が暗く、足元が見えない。

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展示作品	44.5	6.6
展示方法	4.4	0.5
説明文	4.3	0.5
文字サイズ	6.3	0.5
スタッフの応対	0.2	0.3
展覧会の満足度	10.5	2.3

（%）

中国の首都北京の中心に位置する故宮博物院は、往時の姿を伝える壮麗な建築群を有し、186万件以上のすぐれた美術品を所蔵する博物館です。かつては紫禁城と呼ばれ、明・清の両王朝で、歴代皇帝が国を治める拠点として造営された壮麗な宮殿でもありました。日中国交正常化50周年の節目の年となる2022年、東京国立博物館と故宮博物院が、両者と10年以上にわたり文化資産のデジタル化に関する研究を行ってきた凸版印刷と、紫禁城をテーマにした特別デジタル展を共同で開催いたしました。

本展では、VR（バーチャル・リアリティ）によって再現された清王朝最盛期の紫禁城、高精細3D（三次元）データを用いた工芸品のデジタル鑑賞、超大画面シアターに投影された青緑山水の傑作「千里江山図巻」の画中への旅行体験など、最先端のデジタル技術による展示を通じて、中国美術の奥深さを紹介しました。さらに、東京国立博物館が所蔵・管理するコレクションの中から、歴代皇帝や宮廷にゆかりのある文化財を展示しました。

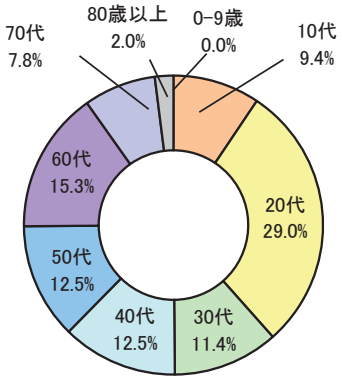
本展を観覧しアンケートに答えた63.7%のお客様から、「とても良かった」「良かった」との好意的なご意見が寄せられました。映像の美しさや、デジタル技術により、作品の細部までじっくりと鑑賞できた点に対して、好意的な評価をいただきました。また、本展では、特別展としては比較的多くの20代のお客様にご来場いただきました。

一方で、「展示作品数が少ない」「もっと実物展示を充実させてほしい」等のご意見も寄せられました。また、「展示室が暗く、足元が見えない」等のご意見もいただきました。今後も来館者の皆様よりお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

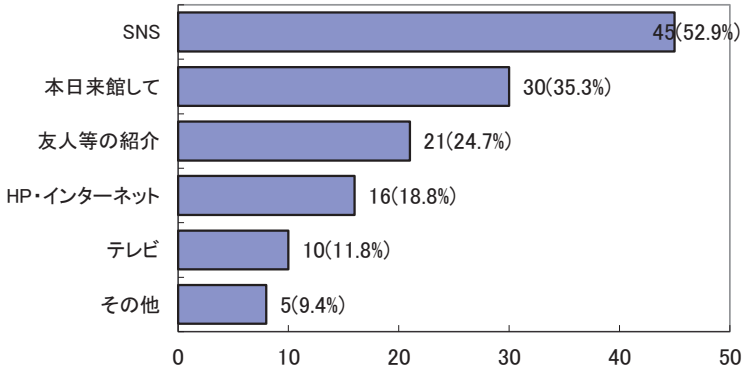
150年後の国宝展―ワタシの宝物、ミライの宝物
アンケート集計結果

開催期間：令和４年１１月２日（火）～１月２９日（日）（７２日）
総入館者数 ： １７８，５２５人
回答者数：２５５人

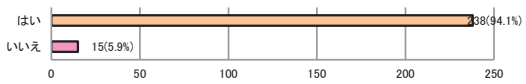
①アンケート回答年齢層



②認知経路（自由回答）



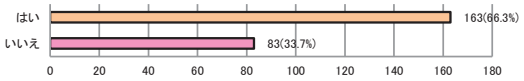
③150年後の国宝候補の背景やストーリーは伝わったか



④具体的にどのような点から伝わったか（抜粋）

・150年前、今、150年後のイメージが分かった。
・今、あたりまえにあるものが、いつか貴重なものになることもあるのだとしみじみ感じた。

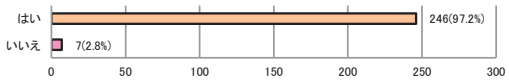
⑤本展を通じて未来の国宝候補を考えることはできたか



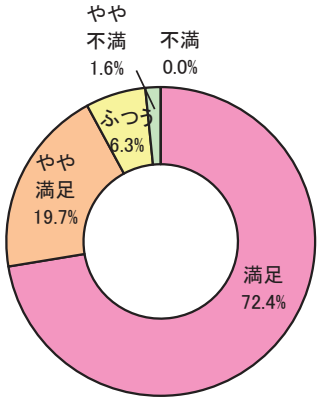
⑥具体的にどのような点から考えることができたか（抜粋）

・一般の方々から募集された品々の展示で、自分たちの思い出が国宝につながることもあるのかなと思えた。
・身近で大切なものが国宝になるのかもと考えられた。

⑦本展を通じて国宝や文化財を身近に感じられたか



⑧本展全体の満足度



⑨展示全体に対する意見・感想（抜粋）

・写真撮影可能な点が良かった。
・博物館の原点を感じた。
・様々な取り組みに挑戦していて良かった。
・椅子の設置など休憩できる場所が欲しい。
・デジタル展示が多いこともあり、まぶしく感じた。

本展は、今から150年後の西暦2172年に伝え残していきたい国宝候補を、その背景のストーリーと共に展示するものです。一般部門及び企業部門で構成されています。まず、一般部門は「ワタシの宝物、ミライの宝物」というテーマで一般公募を行い、その中から当館が選んだものを展示しました。そして、企業部門については、展覧会に出展協力いただいた企業と、当館にてどのような国宝候補が適当かを協議の上、展示を行いました。

本展は、過去を保存する装置である博物館が未来をみつめることを意図したプロジェクトとして計画したものです。

本展を観覧しアンケートに答えた92%の方から「とても良かった」「良かった」との好意的なご意見が寄せられました。150年後の未来はどのような物が国宝になっているかを皆で考えることを意図した展示や、写真撮影を可能としたことなどから、このような評価につながったと考えられます。

また、アンケートの回答者年齢層についてはほかの特別展に比べ、若年層が多く、認知経路としての手段がSNS、インターネットが多いことからも、普段当館に来館しない層が比較的多く来館したことが想定されます。本展によって、新たな来館者を開拓することができたと考えられます。

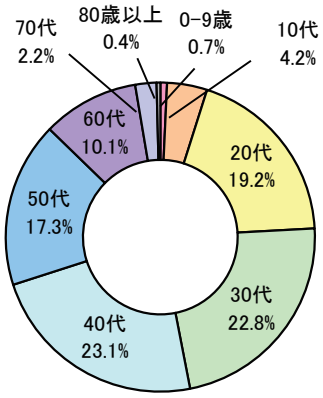
なお、当館で通常展示する文化財とは異なった作品を展示していた関係により、映像が多く、まぶしいと感じさせてしまう展示室があったことや、休憩場所として椅子を設置できなかったことなどの意見を参考に、今後の観覧環境の向上に努めて参ります。

東京国立博物館創立150年記念 特別展「国宝 東京国立博物館のすべて」

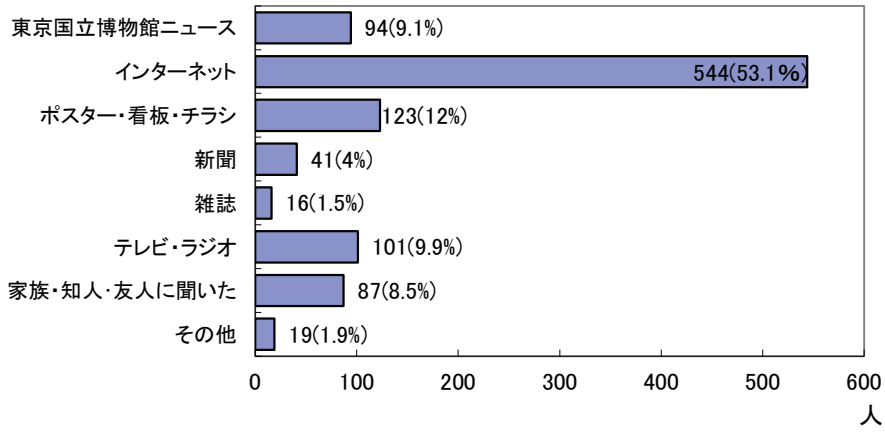
アンケート集計結果

開催期間：令和４年１０月１８日（火）～１２月１８日（日）（５５日）
総入館者数 ： ３５１，１５３人
回答者数：９１７人

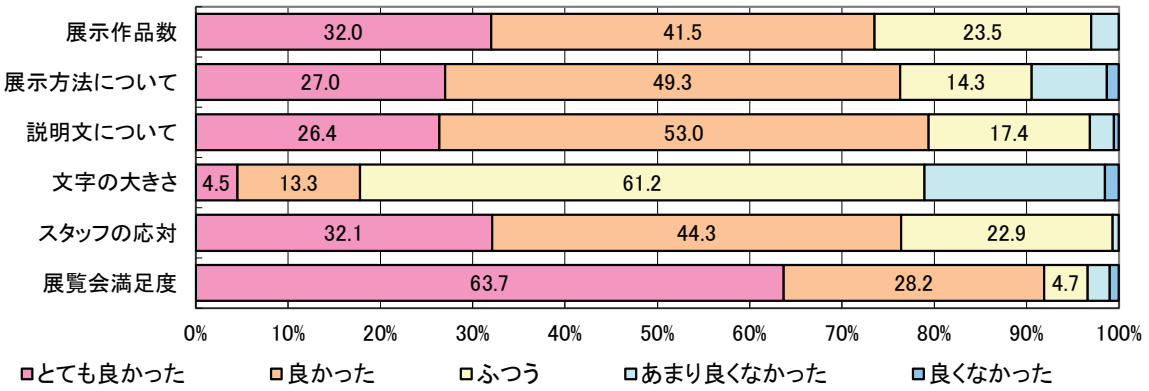
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想
・教科書で見た作品が生で見られて感動した。
・ボリュームがあり、とても見ごたえがあった。
・刀剣の展示が見やすかった。
・チケットの入手が難しかった。
・人が多くて見にくかった。
・グッズが売り切れていて残念だった。

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展示作品	3.0	0.0
展示方法	8.1	1.3
説明文	2.6	0.6
文字サイズ	19.5	1.5
スタッフの応対	0.7	0.0
展覧会の満足度	2.4	1.0

（%）

東京国立博物館（東博）は、令和4年（2022）、創立150年を迎えました。明治5年（1872）の発足以来、日本でもっとも長い歴史をもつ博物館として、かけがえのない文化財の保存と公開という命題を両立させながら、日本の文化を未来へ、そして世界へ伝えていく役割を果たしてきました。

本展は、この大きな節目を記念して開催され、150年の間に積み重ねられた約12万件という膨大な所蔵品の中から、国宝89件すべてを含む名品と、明治から令和にいたる150年の歩みを物語る関連資料を通して、東京国立博物館の全貌を紹介いたしました。

本展は、事前予約制による入館者数を制限した運営を行ってきましたが、多くのお客様より観覧を希望される声をいただき、開館時間の延長 、休館日の臨時開館など、更なる観覧機会の提供に努めてまいりました。さらに、文化財保護の観点から展示作品の状態等を考慮したうえで、1週間に限って会期を延長いたしました。

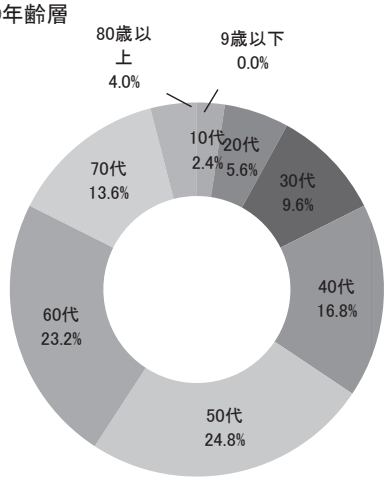
本展を観覧しアンケートに回答した91.9%の方から、「とても良かった」「良かった」との好意的なご意見が寄せられました。一方で、事前予約制の中で連日チケットが完売となった状況へのご意見や、会場内の混雑対策へのご意見が寄せられました。

今後も来館者の皆様よりお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

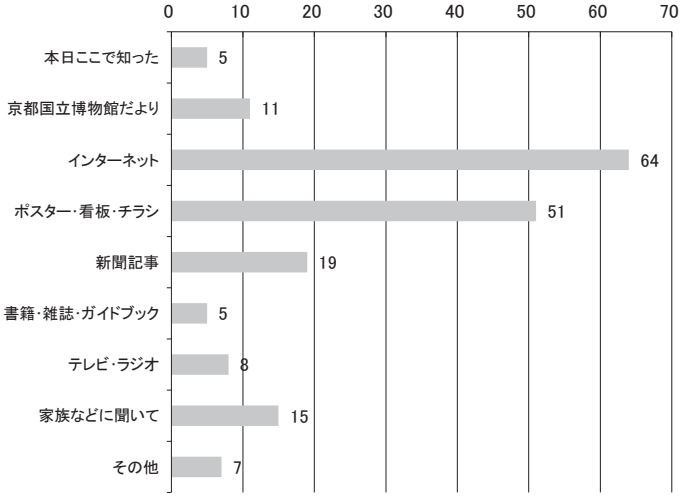
特別展覧会「最澄と天台宗のすべて」
アンケート集計結果

開催期間：令和 4年 4月 12日（火）～ 5月22日（日）（36日間）
回答者数： 136人（総来館者数 42,642人 アンケート回収 0.3%）

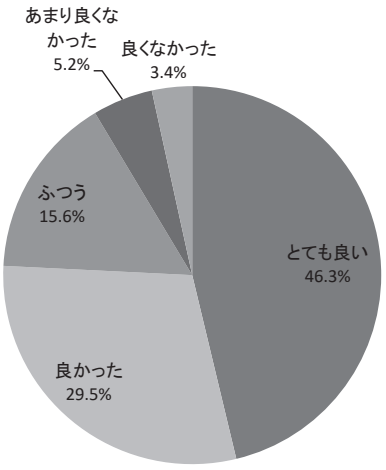
①年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



アンケート結果の上位合計
（とても良かった+良かった）
75.8%

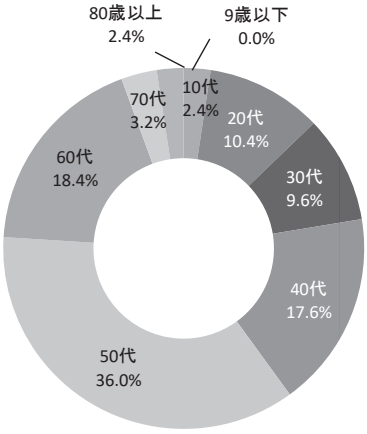
④主な意見・感想

・”天台宗のすべて”と銘打つのにふさわしい内容だった
・おもしろく仏教をもっと知りたいと思った
・映像コーナーが多く楽しめた
・内容が盛りだくさんだった
・写真撮影を自由にしてほしい

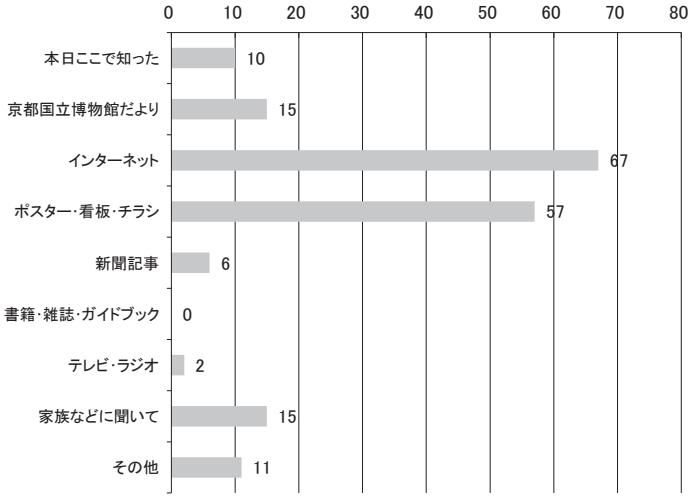
特別展覧会「河内長野の霊地 観心寺と金剛寺」
アンケート集計結果

開催期間：令和 4年 7月 30日（土）～ 9月 11日（日）（38日間）
回答者数：142人（総来館者数 28,211人　アンケート回収率 0.5%）

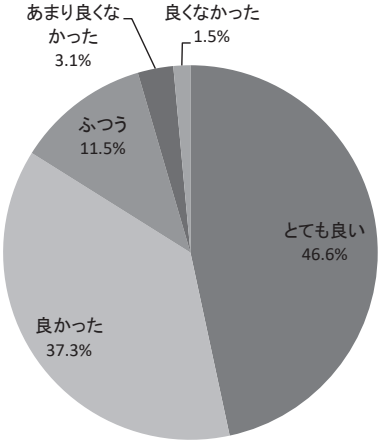
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



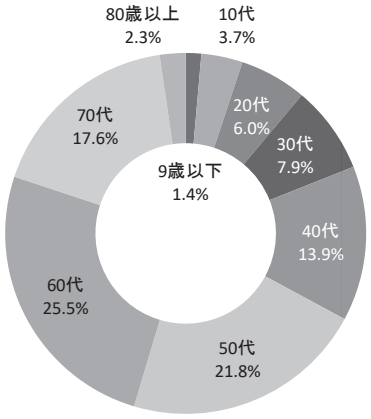
アンケート結果の上位合計
（とても良かった+良かった）
83.9%

④主な意見・感想
・照明が截金や彩色が分かりやすいよう当てられている
・一部だけでも子供にも分かるないようにしてほしい
・調査や報告の大切さも伝わってくる展覧会だった
・今後も新たな知見を得られる展示をしてほしい
・図録の字を大きくしてほしい

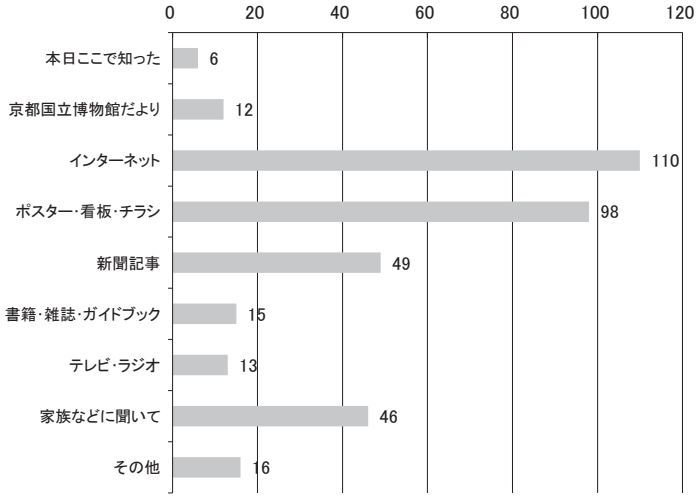
特別展覧会「京に生きる文化　茶の湯」
アンケート集計結果

開催期間：令和 4年 10月 8日（土）～ 12月 4日（日）（50日間）
回答者数：255人（総来館者数 89,495人　アンケート回収率 0.3%）

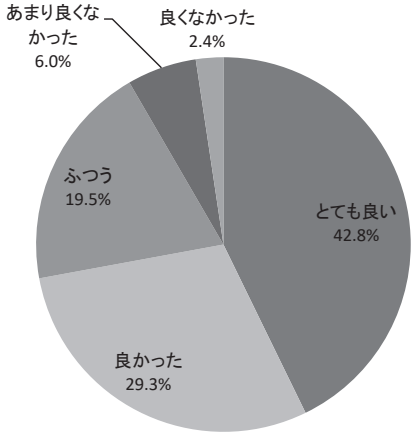
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



アンケート結果の上位合計
（とても良かった+良かった）
72.1%

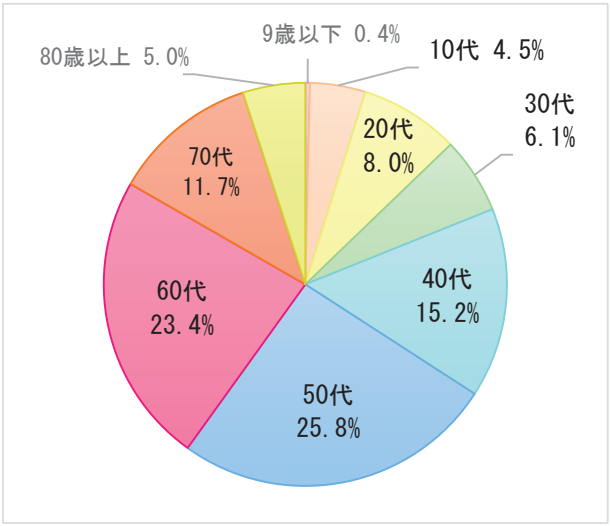
④主な意見・感想
・遠方でなかなか行けない畠山記念館の作品を見ることができた
・素晴らしい展示品ばかりで正に名品展だった
・茶道のことも分からなくても凄さが分かる展示だった
・道具を実際に使うことを想像することができた
・能装束の能舞台風の背景に学芸員のこだわりを感じた

特別展「大安寺のすべて－天平のみほとけと祈り－」

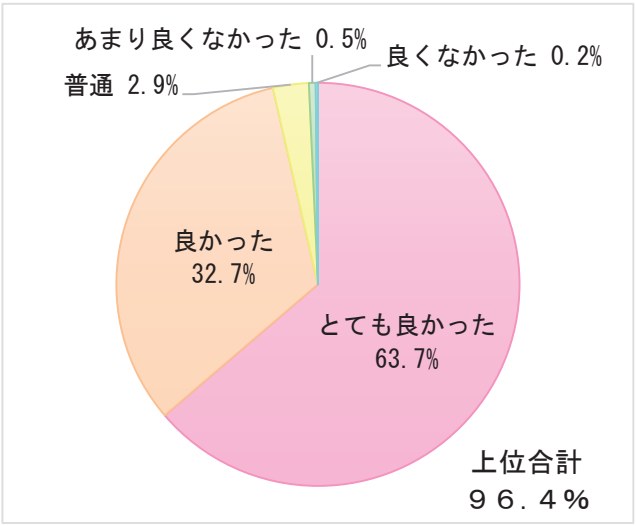
アンケート集計結果

開催期間：令和4年4月23日（土）～令和4年6月19日（日）（51日間）
回答者数：561人　　入場者数：32,971人　　回収率：1.70%

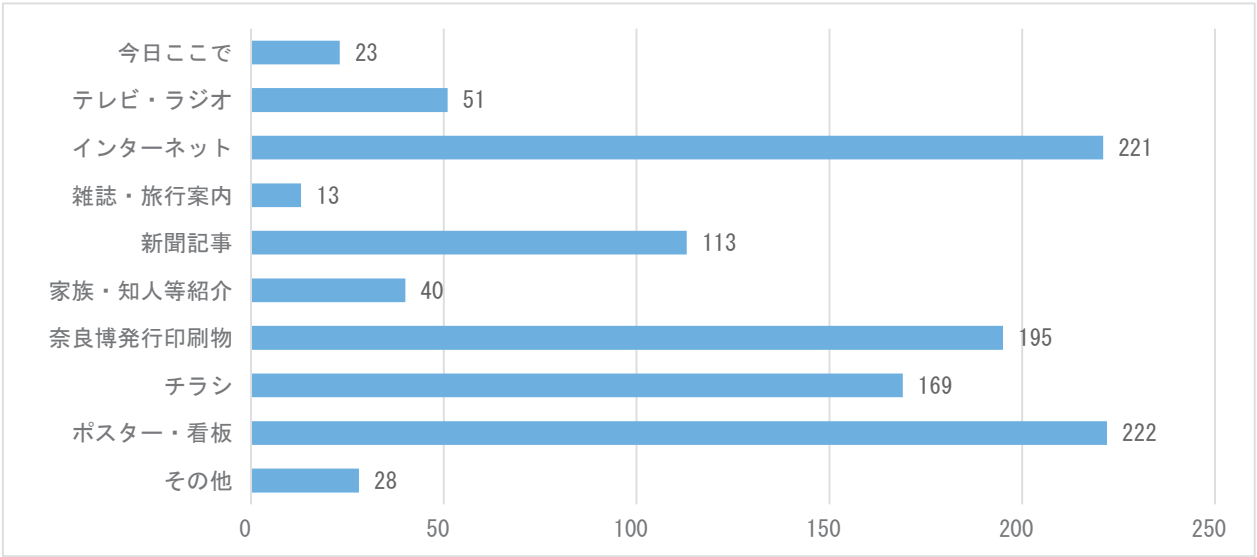
①年齢層



②展示に関する満足度



③認知経路（複数回答あり）



④主な意見・感想

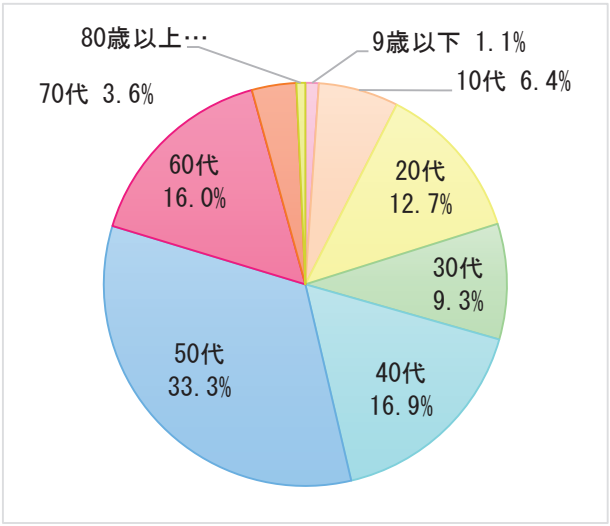
・奈良に来た甲斐があったと思わせてくれる、本格的な展覧会でした。
・大安寺の姿を知るうえで貴重な資料や仏像を拝見することができ、ありがとうございました。
・十一面観音像が印象に残りました。
・宝誌和尚立像が見れてよかった。
・四天王像の見比べができたのは、良かったと思います。
・休憩用のイスがいつもより多かったようで、助かりました。
・馬頭観音像も通期で展示してほしかった。
・空調が少し寒かった。
・少し照明が暗く文字が見にくかった。
・1時間毎にコロナに対する注意の音声が流れるのが少し邪魔です。

貞享本當麻曼荼羅修理完成記念　特別展「中将姫と當麻曼荼羅－祈りが紡ぐ物語－」

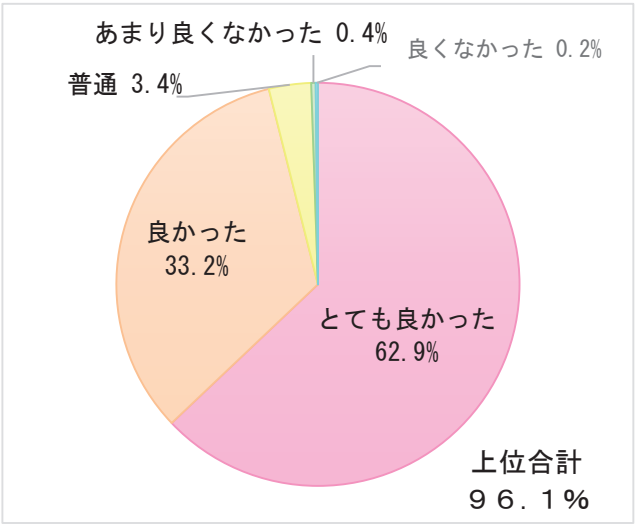
アンケート集計結果

開催期間：令和4年7月16日（土）～令和4年8月28日（日）（39日間）
回答者数：562人　　入場者数：19,966人　　回収率：2.81%

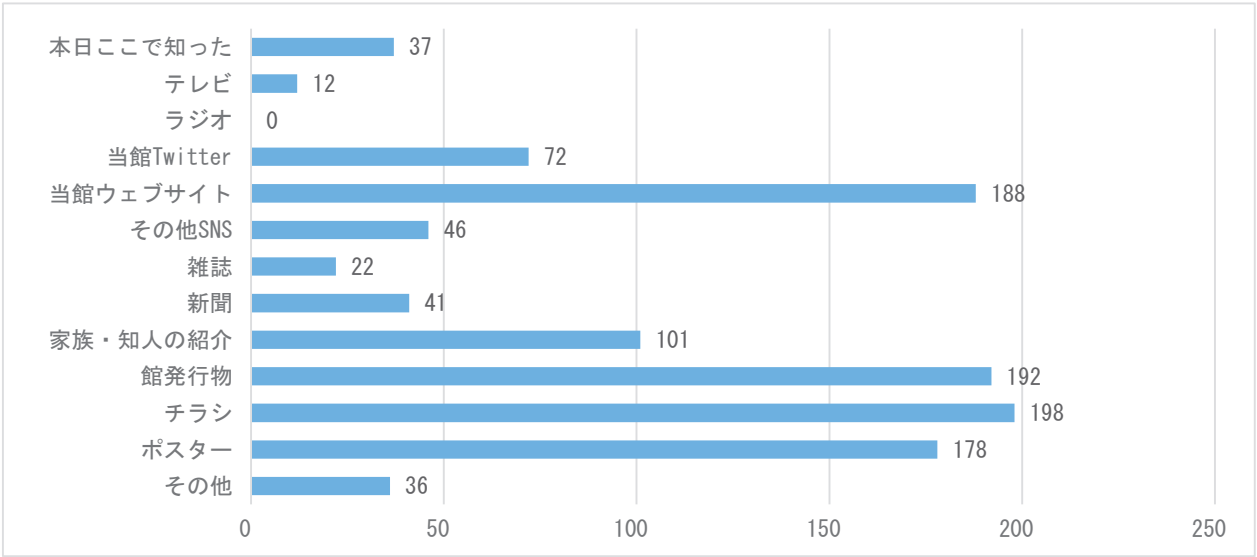
①年齢層



②展示に関する満足度



③認知経路（複数回答あり）



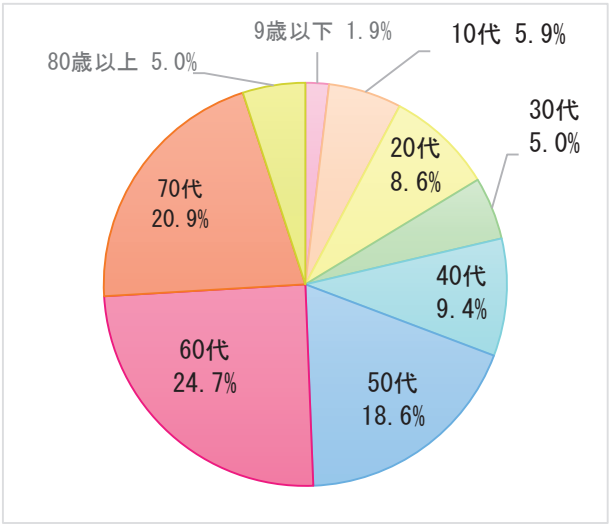
④主な意見・感想

・當麻曼荼羅がすばらしかった。
・芸能との関わりまで紹介されていて奥行きのある展示構成でした。
・ツムラと中将姫の関係が興味深かった。
・曼荼羅がとてもたくさん展示されており、違いや共通点をさがすのがおもしろかったです。
・曼荼羅の細部がみれるデジタルビューアーがとてもよかったです。
・とても丁寧に説明がかかれていて分かりやすかったです。
・音声ガイドと一緒に楽しめてすごく良かった。
・練供養の映像があったらよかった。
・自由に見られて良い反面、順路としてはわかり難くかった。
・少し冷房がききすぎてて寒かった。

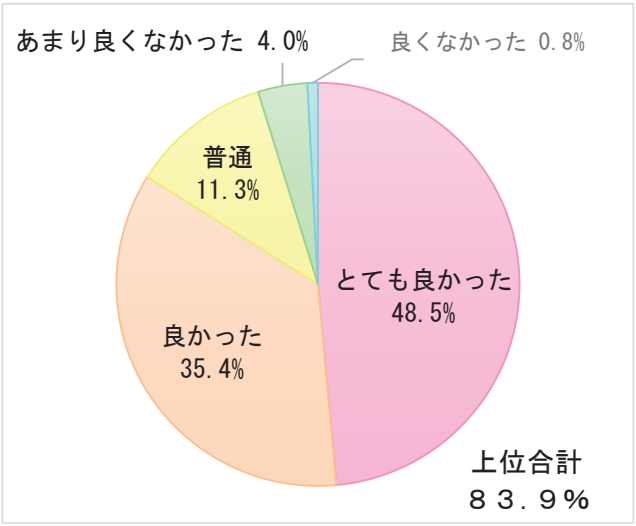
「第74回正倉院展」
アンケート集計結果

開催期間：令和4年10月29日（土）～令和4年11月14日（月）（17日間）
回答者数：484人　　入場者数：87,672人　　回収率：0.55%

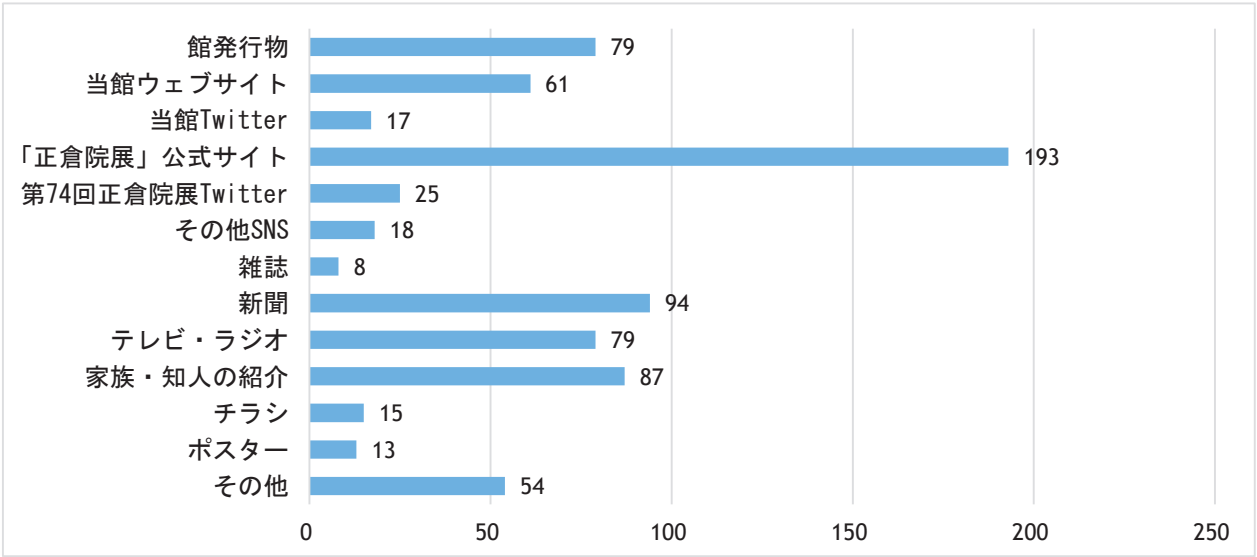
①年齢層



②展示に関する満足度



③認知経路（複数回答あり）



④主な意見・感想

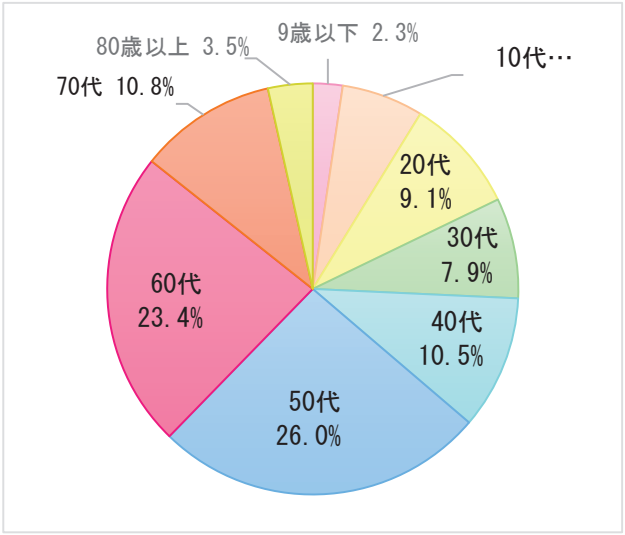
・展示の仕方が拡大図などもあって見やすかった。
・混雑と混乱を避けるためこれからも日付指定は続けてほしい。
・来年も又は毎年来たいと思えるものでありました。
・初めての正倉院展感動した。
・貴重な宝物を実際に見ることができた。
・目玉になるようなものがなく、地味だった。
・今年は入場者が多かったです。
・予約制になりゆっくりと見れるのはいいのだが予約のキャンセルや変更が出来ないのが少しこまる。
・グッズ売り場のレジが少ないと思います。
・出口付近でのイス・ベンチなどが少ない。

式年造替記念特別展「春日大社 若宮国宝展－祈りの王朝文化－」

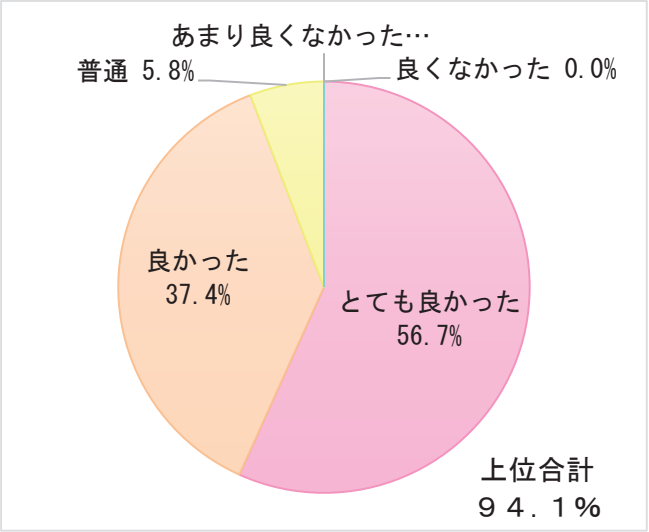
アンケート集計結果

開催期間：令和4年12月10日（土）～令和5年1月22日（日）（34日間）
回答者数：344人　　入場者数：22,888人　　回収率：1.50%

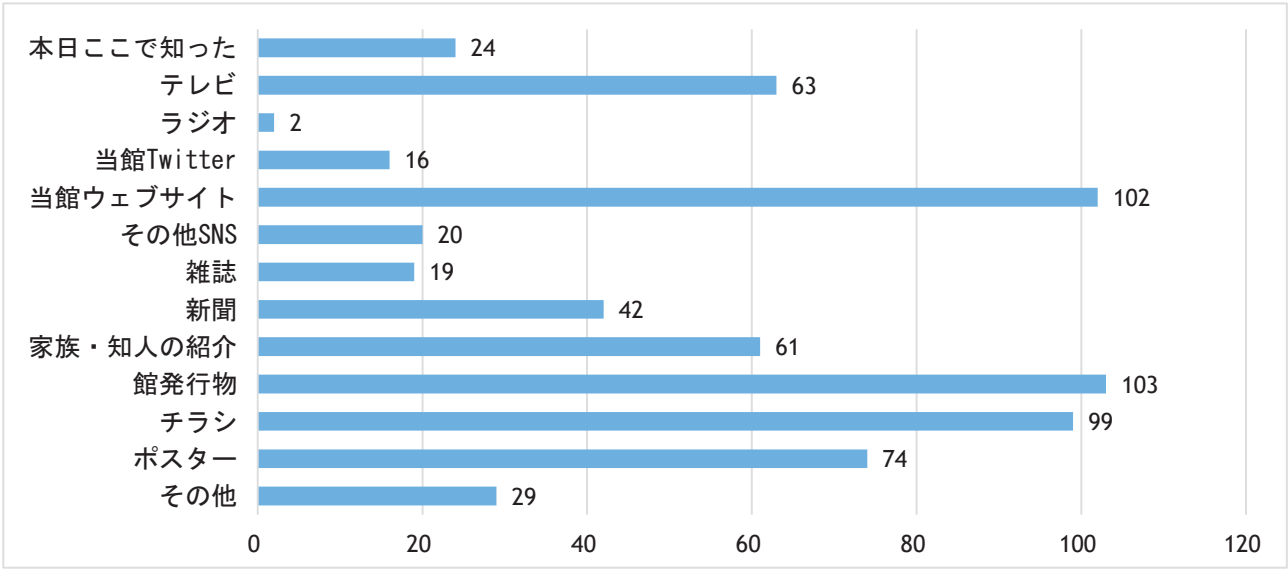
①年齢層



②展示に関する満足度



③認知経路（複数回答あり）



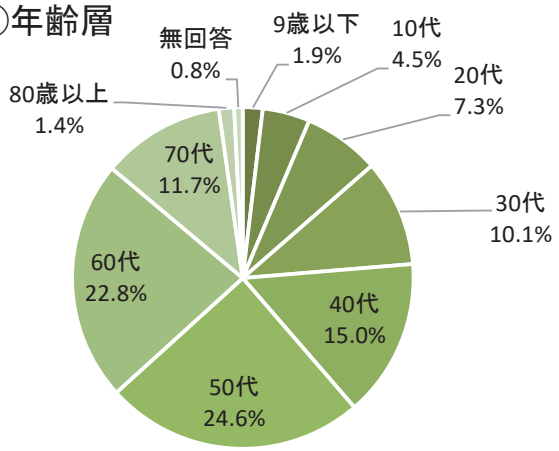
④主な意見・感想

・複製されたものと本物があって比較できた。当時こんなに美しかったと想像できた。
・春日大社の宝物の由来等勉強できた。
・貴重な品々を間近に見ることが出来、良かったです。
・なかなか見られない国宝を見ることができたから。
・ゆっくり観ることができ、解説もわかりやすかった。
・車イスで特別展を毎回観ているが、車イスでは見えぬ展示がある。
・鎧、兜の重量を知りたい。
・お庭が素晴らしい。
・館内がとても寒いです。

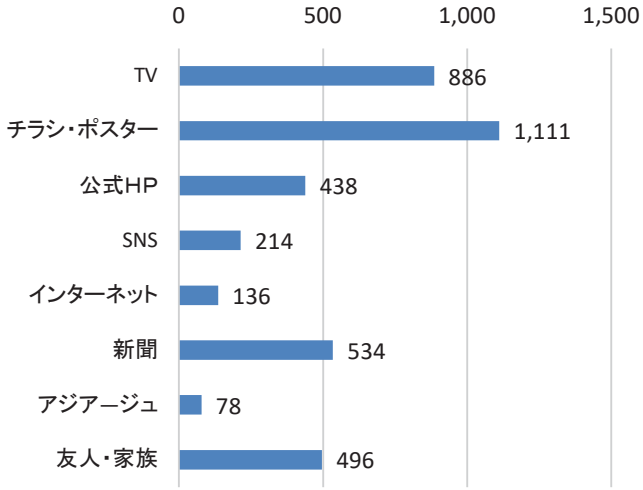
特別展「北斎」
アンケート集計結果

開催期間：4年4月16日(土)～6月12日(日)（51日間）
総回答者数：2,565人（総来館者数：135,955人　アンケート回収率：1.89%）

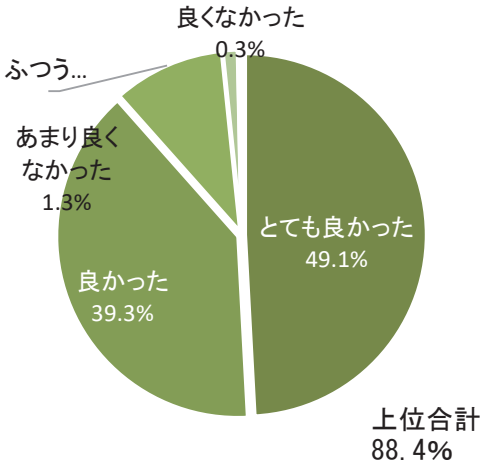
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



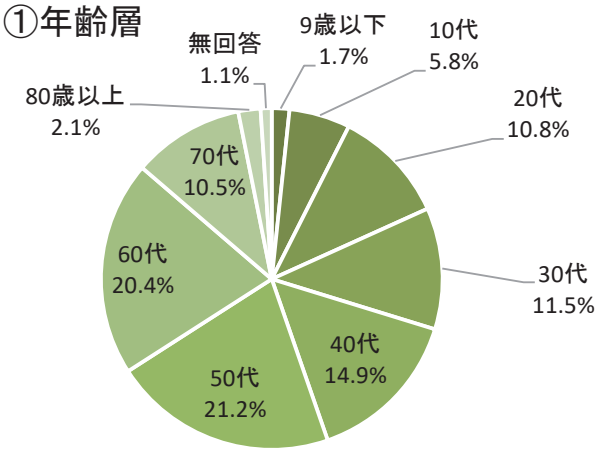
④主な意見・感想

・多くの作品が見れて大満足です。北斎の生涯について改めて学べました。
・日新除魔図の展示に圧倒されました。とても見やすくて一日一日のコメントも全て楽しみました。
・会場内を自由に動けた事と、写真が撮れるコーナーがあったのが楽しかった。スタッフの方も親切でした。
・凱風快晴の刷りの工程説明は面白かったです。富士越龍図が印象に残りました。
・人が多くじっくりと北斎の絵を見ることができなかった。もう少し近くで細部までじっくりと見れる工夫が欲しかった。
・今回は画そのものが小さいので、かなり近づいて鑑賞する必要があり、暗いので大変だった。平日なのに人が多い。

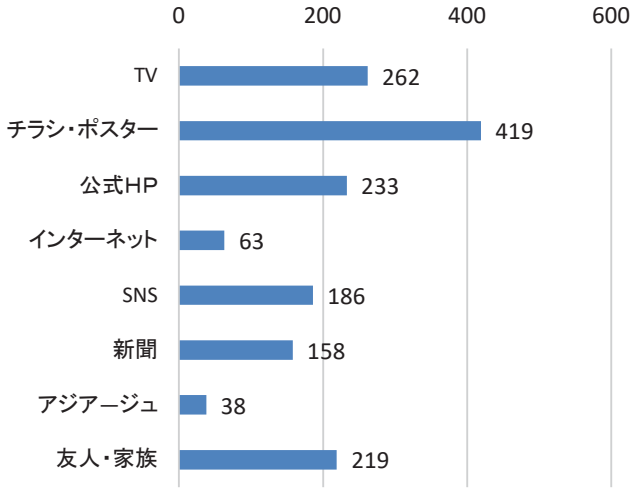
特別展「琉球」
アンケート集計結果

開催期間：4年7月16日(土)～9月4日(日)（45日間）
総回答者数：1,139人（総来館者数：41,054人　アンケート回収率：2.77%）

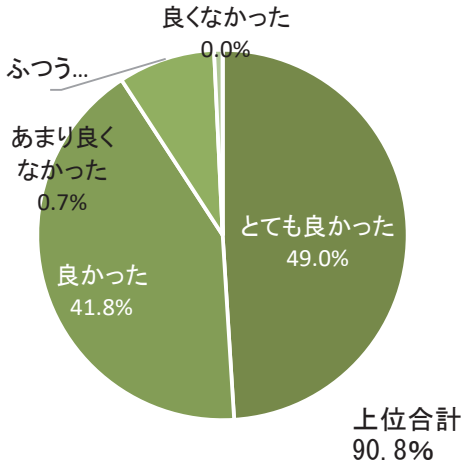
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



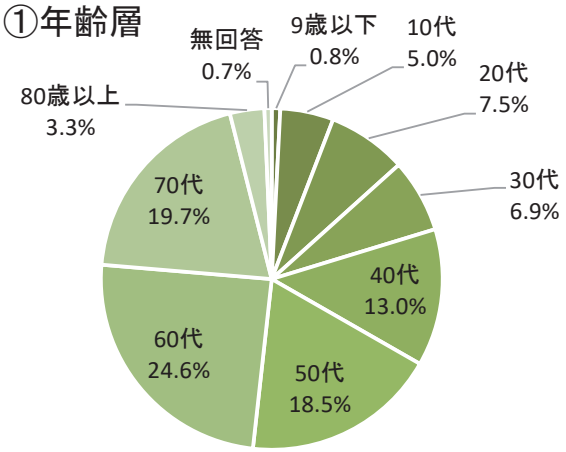
④主な意見・感想

・順路が非常に分かりやすいです。動線が分かりやすいと見落としがなく助かります。撮影可のエリアがあって楽しかったです。
・琉球に関する知識はほとんどなかったが、展示・解説共にとても楽しめた。音声ガイドを購入しなかったことを少し後悔するくらいでした。
・沖縄の魔除けとか、所々に配してあるちょっとした仕掛けが楽しく良かったです。
・ゲームとのコラボ目当てで来たものですが、琉球独特の工芸品等の美しさに驚きました。
・最後の首里城の説明には、大変感動しました。
・ほんの少し明るさが欲しいと思いました。目が悪いのであまりよく見えなかったです。

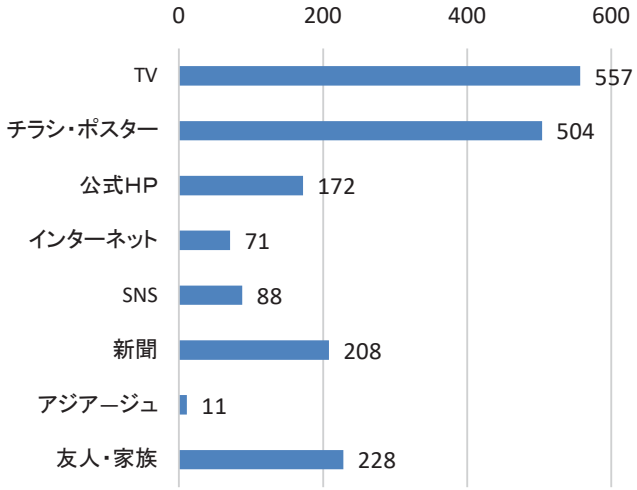
特別展「ポンペイ」
アンケート集計結果

開催期間：4年10月12日(水)～12月4日(日)（48日間）
総回答者数：1,746人（総来館者数：79,919人　アンケート回収率：2.18%）

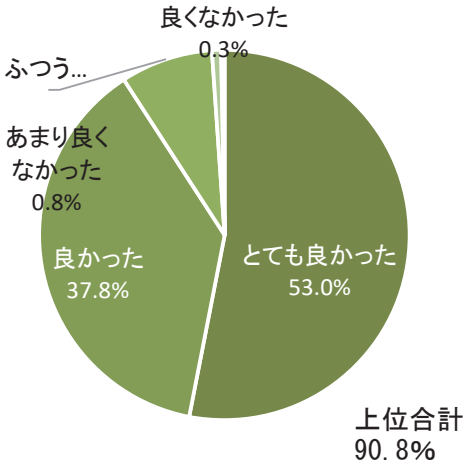
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



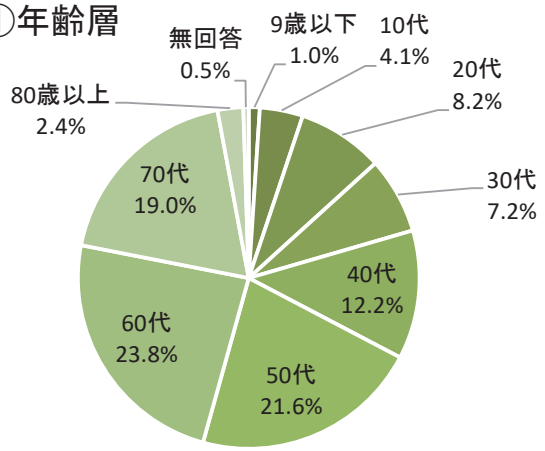
④主な意見・感想

・展示空間自体が実際の遺跡の様で没入感があり、楽しく観覧出来ました。床に猫の足跡があったのも可愛かったです。
・2000年も前にここまでの文明が発達していたということに大変驚きました。
・写真撮影OKなのが新鮮でした。2000年前の人々の息吹を感じられ、タイムスリップしたような気持ちになれました。
・解説文が小さく読みづらい。音声ガイドが少々分かりづらかった。
・疲れやすいのでもう少し椅子が欲しかった。特に画像の所に。全体的に見やすくて良かったです。

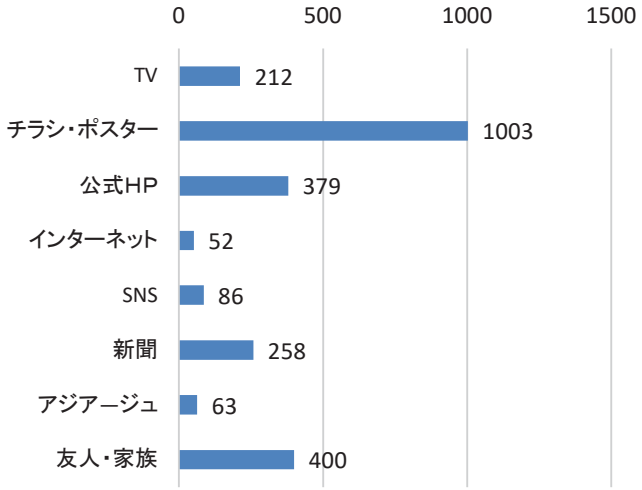
特別展「加耶」
アンケート集計結果

開催期間：5年1月24日(火)～3月19(日)（48日間）
総回答者数：2,681人（総来館者数：26,990人　アンケート回収率：9.93%）

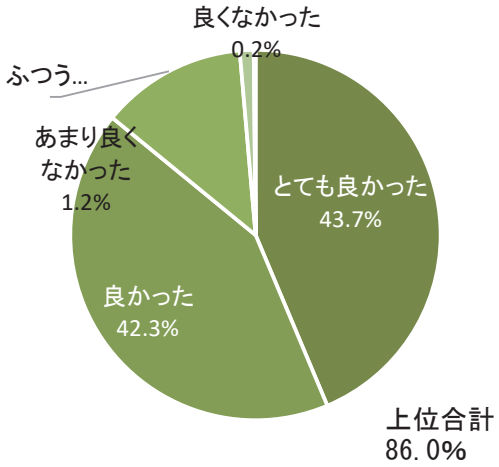
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・渡来人と倭人との交流。加耶の鉄文化とそれが当時の日本と、どの様につながっていったのか、興味深く拝見しました。
・日本と朝鮮半島の交流の深さについては九州の地だからこそ今後も発信していただきたい。
・牛や馬のはにわの展示を牧場風にしていたので面白かったです。
・作品の説明文等、以前に比べ文字も大きくなり分かりやすい。
・鉄がよく保存良く残っていたと思いました。加耶と倭の交流が存在していたと知れてよかった。現在ももっと交流してほしいですね。

令和 4 年度　独立行政法人国立文化財機構年報
令和 5 年 12 月 15 日発行
編集・発行　独立行政法人国立文化財機構
〒110-8712　東京都台東区上野公園 13 番 9 号
電話　(03)3822-1196
Fax　(03)3822-1113
印刷　株式会社長谷工システムズ
©2023. National Institutes for Cultural Heritage, printed in Japan